

2023年度

星槎道都大学

授業計画（シラバス）



# 目次

1101000	こころの科学	吉澤 英里	前期	・ ・ ・	1
1304001	数学入門	横山 哲也	前期	・ ・ ・	3
2101001	情報基礎演習	(M-1) 薦田 勇智	前期	・ ・ ・	5
2101002	情報基礎演習	(M-2) 薦田 勇智	前期	・ ・ ・	7
2101003	情報基礎演習	(M-3) 薦田 勇智	前期	・ ・ ・	9
2101004	情報基礎演習	(S) 薦田 勇智	前期	・ ・ ・	11
2101005	情報基礎演習	(S-2) 薦田 勇智	前期	・ ・ ・	13
2101006	情報基礎演習	(D) 薦田 勇智	前期	・ ・ ・	15
2101007	情報基礎演習	(D-2) 薦田 勇智	前期	・ ・ ・	17
2101008	情報基礎演習	(A) 薦田 勇智	前期	・ ・ ・	19
3101101	基礎英語	(M) 信濃 吉彦	前期	・ ・ ・	21
3101102	基礎英語	(M) 岡島 徳昭	前期	・ ・ ・	23
3101103	基礎英語	(M) 石田 暁子	前期	・ ・ ・	25
3101104	基礎英語	(M) 井坂 肇	前期	・ ・ ・	27
3101105	基礎英語	(S・D・A) 西崎 毅	前期	・ ・ ・	29
3101106	基礎英語	(S・D・A) 宮嶋 達也	前期	・ ・ ・	31
3101107	基礎英語	(S・D・A) 横田 肇	前期	・ ・ ・	33
3101108	基礎英語	(S・D・A) 井坂 肇	前期	・ ・ ・	35
3201101	トイ語入門	(M) 河田 一郎	前期	・ ・ ・	37
3201102	トイ語入門	(S・D・A) 河田 一郎	前期	・ ・ ・	39
4101001	ｽｰﾂ総合	(M-A) 中川 純二	前期	・ ・ ・	41
4101002	ｽｰﾂ総合	(M-B) 石井 祐治	前期	・ ・ ・	43
4101003	ｽｰﾂ総合	(M-C) 佐藤 和裕	前期	・ ・ ・	45
4101004	ｽｰﾂ総合	(S-A) 三嶋 康嗣	前期	・ ・ ・	47
4101005	ｽｰﾂ総合	(D) 三嶋 康嗣	前期	・ ・ ・	49
4101006	ｽｰﾂ総合	(A) 小山 尋明	前期	・ ・ ・	51
4101044	ｽｰﾂ総合	(S-B) 三嶋 康嗣	前期	・ ・ ・	53
5203001	平面構成	赤木 良子	前期	・ ・ ・	55
5301001	基本製図	安藤 淳一	前期	・ ・ ・	57
5401000	経営学総論	信濃 吉彦	前期	・ ・ ・	59
6200501	ｽﾀｰﾄｱｯﾌﾟ演習	(M) 河野 善文	前期	・ ・ ・	61
6200502	ｽﾀｰﾄｱｯﾌﾟ演習	(S) 松下 守邦	前期	・ ・ ・	63
6200503	ｽﾀｰﾄｱｯﾌﾟ演習	(D) 北嶋 洋一	前期	・ ・ ・	65
6200504	ｽﾀｰﾄｱｯﾌﾟ演習	(A) 伊藤 裕康	前期	・ ・ ・	67
6209101	ｷﾞｬﾘｱ支援演習	(M) 遠藤 均	前期	・ ・ ・	69
6209102	ｷﾞｬﾘｱ支援演習	(S) 横田 肇	前期	・ ・ ・	71
6209103	ｷﾞｬﾘｱ支援演習	(D) 北嶋 洋一	前期	・ ・ ・	73
6209104	ｷﾞｬﾘｱ支援演習	(A) 横山 哲也	前期	・ ・ ・	75
7210001	専門演習	A 由水 伸	前期	・ ・ ・	77
7210002	専門演習	A 信濃 吉彦	前期	・ ・ ・	79
7210003	専門演習	A 河野 善文	前期	・ ・ ・	81
7210004	専門演習	A 遠藤 均	前期	・ ・ ・	83
7210005	専門演習	A 鈴木 重政	前期	・ ・ ・	85
7210006	専門演習	A 岡島 徳昭	前期	・ ・ ・	87
7210008	専門演習	A 青山 浩之	前期	・ ・ ・	89
7210009	専門演習	A 石山 玄幸	前期	・ ・ ・	91
7210010	専門演習	A 天野 雅斗	前期	・ ・ ・	93
7210011	専門演習	A 石井 祐治	前期	・ ・ ・	95
7210012	専門演習	A 篠原 諒介	前期	・ ・ ・	97
7210013	専門演習	A 川津 大樹	前期	・ ・ ・	99
7210014	専門演習	A 小林 大州介	前期	・ ・ ・	101
7210062	専門演習	A 小早川 俊哉	前期	・ ・ ・	103
7210064	専門演習	A 藤根 収	前期	・ ・ ・	105
7210065	専門演習	A 松下 守邦	前期	・ ・ ・	107
7210068	専門演習	A 大島 康雄	前期	・ ・ ・	109
7210069	専門演習	A 吉江 幸子	前期	・ ・ ・	111
7210070	専門演習	A 西野 克俊	前期	・ ・ ・	113
7210071	専門演習	A 畠山 明子	前期	・ ・ ・	115
7210073	専門演習	A 吉澤 英里	前期	・ ・ ・	117
7210074	専門演習	A 堀川 厚志	前期	・ ・ ・	119
7210075	専門演習	A 宮崎 剛司	前期	・ ・ ・	121
7210076	専門演習	A 蝦名 美穂	前期	・ ・ ・	123
7531100	図学(建築図学を含む)	長森 正	前期	・ ・ ・	125
7708000	ビジネス創造論	阿部 裕樹	前期	・ ・ ・	127
9101100	教職論	木村 浩紀	前期	・ ・ ・	129
1103100	人間と哲学	遠藤 均	前期	・ ・ ・	131
6101061	基礎ゼミナル	A 竹内 美帆	前期	・ ・ ・	133
6101062	基礎ゼミナル	A 後藤 啓倫	前期	・ ・ ・	135
6101063	基礎ゼミナル	A 戸佐 晃一	前期	・ ・ ・	137
6101064	基礎ゼミナル	A 米野 宏	前期	・ ・ ・	139
6101065	基礎ゼミナル	A 佐藤 和裕	前期	・ ・ ・	141
6101067	基礎ゼミナル	A 中川 純二	前期	・ ・ ・	143
6101068	基礎ゼミナル	A 三嶋 康嗣	前期	・ ・ ・	145
6101069	基礎ゼミナル	A 井坂 肇	前期	・ ・ ・	147
6101071	基礎ゼミナル	A 田畑 圭悟	前期	・ ・ ・	149

6101072	基礎ゼミナル A	篠原 諒介	前期	151
6101074	基礎ゼミナル A	杉本 大輔	前期	153
6101075	基礎ゼミナル A	横田 肇	前期	155
6101076	基礎ゼミナル A	櫻井 美帆子	前期	157
6101077	基礎ゼミナル A	湯浅 頼佳	前期	159
6101078	基礎ゼミナル A	尾西 則昭	前期	161
6101079	基礎ゼミナル A	西崎 毅	前期	163
6101081	基礎ゼミナル A	小山 尋明	前期	165
6101082	基礎ゼミナル A	宮嶋 達也	前期	167
6101083	基礎ゼミナル A	横山 哲也	前期	169
6101084	基礎ゼミナル A	長森 正	前期	171
6101085	基礎ゼミナル A	向井 正伸	前期	173
6101086	基礎ゼミナル A	佐藤 恵利	前期	175
6101087	基礎ゼミナル A	千葉 聡美	前期	177
6101089	基礎ゼミナル A	河田 一郎	前期	179
6101090	基礎ゼミナル A	大島 康雄	前期	181
6101092	基礎ゼミナル A	山本 一彦	前期	183
6101093	基礎ゼミナル A	木村 浩紀	前期	185
6101094	基礎ゼミナル A	薦田 勇智	前期	187
6101095	基礎ゼミナル A (再)	河田 一郎	前期	189
7503000	建築設計演習	佐藤 善太郎	前期	191
1113100	芸術へのアプローチ	梅田 力	前期	193
3103101	英語入門 (M)	石田 暁子	前期	195
3103102	英語入門 (S)	横田 肇	前期	197
3103103	英語入門 (D・A)	宮嶋 達也	前期	199
3203101	中国語入門	孫 暢	前期	201
7096000	自然地理学	鈴木 正章	前期	203
7116000	精神保健福祉援助演習	西野 克俊	前期	205
7212077	専門演習 A		前期	207
7541000	建築表現	安藤 淳一	前期	209
7572000	北国の建築と住まい	安藤 淳一	前期	211
7718000	心-ツ心理学	佐藤 和裕	前期	213
1201000	法学入門	青山 浩之	前期	215
2103500	デザイン・プロトタイプ	薦田 勇智	前期	217
5207101	デザイン	西田 陽二	前期	219
6203001	キャリアデザイン (M)	山本 一彦	前期	221
6203002	キャリアデザイン (S・D・A)	山本 一彦	前期	223
7118001	精神保健福祉援助演習 (3年)	西野 克俊	前期	225
7118002	精神保健福祉援助演習 (4年)	西野 克俊	前期	227
7305300	デザイン	上坂 恒章	前期	229
7702000	マーケティング論	鈴木 重政	前期	231
1206100	日本国憲法	青山 浩之	前期	233
1206101	日本国憲法 (S・D・A)	後藤 啓倫	前期	235
3401000	日本語	佐藤 恵利	前期	237
6103063	基礎ゼミナル A	戸佐 晃一	前期	239
6103064	基礎ゼミナル A	米野 宏	前期	241
6103065	基礎ゼミナル A	佐藤 和裕	前期	243
6103067	基礎ゼミナル A	中川 純二	前期	245
6103068	基礎ゼミナル A	三嶋 康嗣	前期	247
6103069	基礎ゼミナル A	井坂 肇	前期	249
6103071	基礎ゼミナル A	田畑 圭悟	前期	251
6103072	基礎ゼミナル A	篠原 諒介	前期	253
6103073	基礎ゼミナル A	後藤 啓倫	前期	255
6103074	基礎ゼミナル A	杉本 大輔	前期	257
6103075	基礎ゼミナル A	横田 肇	前期	259
6103076	基礎ゼミナル A	櫻井 美帆子	前期	261
6103077	基礎ゼミナル A	湯浅 頼佳	前期	263
6103078	基礎ゼミナル A	尾西 則昭	前期	265
6103079	基礎ゼミナル A	西崎 毅	前期	267
6103081	基礎ゼミナル A	小山 尋明	前期	269
6103082	基礎ゼミナル A	宮嶋 達也	前期	271
6103083	基礎ゼミナル A	横山 哲也	前期	273
6103084	基礎ゼミナル A	長森 正	前期	275
6103085	基礎ゼミナル A	向井 正伸	前期	277
6103086	基礎ゼミナル A	佐藤 恵利	前期	279
6103089	基礎ゼミナル A	大島 康雄	前期	281
6103095	基礎ゼミナル A	竹内 美帆	前期	283
6103096	基礎ゼミナル A	千葉 聡美	前期	285
6103097	基礎ゼミナル A	山本 一彦	前期	287
6103098	基礎ゼミナル A	薦田 勇智	前期	289
6103099	基礎ゼミナル A (再)	河田 一郎	前期	291
7305101	基礎デザイン	林 春生	前期	293
7557500	建築士のための基礎数学	横山 哲也	前期	295
7723000	商法	青山 浩之	前期	297
5205002	色彩環境論 (A)	北嶋 洋一	前期	299
5303100	建築材料	小笠原 健	前期	301
7305500	イラストレーション基礎	佐藤 正人	前期	303
7331000	ビジュアルデザイン	田中 靖之	前期	305
1204000	政治学入門	後藤 啓倫	前期	307
3403000	日本語	佐藤 恵利	前期	309

7166000	精神保健福祉援助実習指導	西野 克俊 前期	311
7542000	アクション・ゲーム	伊藤 裕康 前期	313
7706000	コミュニケーション論	山本 一彦 前期	315
5205001	色彩環境論(D)	北嶋 洋一 前期	317
5406001	社会福祉学論	信濃 吉彦 前期	319
5406002	社会福祉学論(SP)	信濃 吉彦 前期	321
7330000	漫画	三上 いずみ 前期	323
7336000	イラストレーション	浩而 魅諭 前期	325
7600000	建築設計演習	佐藤 善太郎 前期	327
7752000	社会福祉学	佐藤 和裕 前期	329
5201000	美術学概論	竹内 美帆 前期	331
5208000	西洋美術史	竹内 美帆 前期	333
5407001	社会福祉学管理論	天野 雅斗 前期	335
5407002	社会福祉学管理論(SP)	天野 雅斗 前期	337
7037000	発達心理学	蝦名 美穂 前期	339
7516000	建築計画	安藤 淳一 前期	341
7719000	トレーニング科学	篠原 諒介 前期	343
5206001	デザイン	西田 陽二 前期	345
7337100	イラストレーション	佐藤 正人 前期	347
1208000	日本事情	佐藤 恵利 前期	349
5311000	建築設備	君 興治 前期	351
7041000	保育原理	吉江 幸子 前期	353
7305000	デザイン概論	赤木 良子 前期	355
7722000	原価計算論	鈴木 重政 前期	357
7786001	社会福祉学文化論	細川 光法 前期	359
7786002	社会福祉学文化論(SP)	細川 光法 前期	361
1205000	日本の歴史	及川 琢英 前期	363
5309000	建築法規	佐藤 善太郎 前期	365
7027100	精神障害リハビリテーション論	畠山 明子 前期	367
7043000	保育者論	吉江 幸子 前期	369
7055000	特別支援教育総論	堀川 厚志 前期	371
7307000	デザイン概論	赤木 良子 前期	373
7331100	キャラクターデザイン	三上 いずみ 前期	375
7727000	ミクロ経済学	河野 善文 前期	377
7787001	社会福祉学文化論	鈴木 重政 前期	379
7787002	社会福祉学文化論(SP)	鈴木 重政 前期	381
5307000	建築構造力学	長森 正 前期	383
7143002	人文地理学	塩崎 大輔 前期	385
7520100	建築材料実験	長森 正 前期	387
7353000	映像表現	北嶋 洋一 前期	389
7593001	職業指導(M)	川津 大樹 前期	391
7052001	生涯学習概論(M)	藤根 収 前期	393
7052002	生涯学習概論(S・D・A)	藤根 収 前期	395
7288000	身体表現	尾西 則昭 前期	397
7320000	図学	赤木 良子 前期	399
7590000	CAD演習(2年)	佐藤 善太郎 前期	401
7590001	CAD演習(3年)	佐藤 善太郎 前期	403
7146000	病弱教育	千葉 聡美 前期	405
7175000	精神疾患とその治療	伊東 隆雄 前期	407
7355000	コンテンツデザイン	上坂 恒章 前期	409
7566000	建築表現	安藤 淳一 前期	411
5306100	建築環境	佐々木 哲之 前期	413
7062000	視覚障害教育総論	木村 浩紀 前期	415
7186001	日本文化史(M)	及川 琢英 前期	417
7186002	日本文化史(S)	及川 琢英 前期	419
7325000	洋画	安田 祐造 前期	421
7744000	経営分析論	石山 玄幸 前期	423
7744001	経営分析論(SP)	石山 玄幸 前期	425
9126000	保健体育科教育法	高井 雅一 前期	427
3401300	上級日本語	竜野 征一郎 前期	429
7158000	発達障害等教育総論	堀川 厚志 前期	431
7184001	社会思想史(M)	後藤 啓倫 前期	433
7184002	社会思想史(S)	後藤 啓倫 前期	435
7560000	デザイン概論(A)	赤木 良子 前期	437
7580000	鉄筋コンクリート構造	長森 正 前期	439
7721001	経営情報論	薦田 勇智 前期	441
7721002	経営情報論(SP)	薦田 勇智 前期	443
7339000	デザイン製図	松岡 龍介 前期	445
7340000	インテリアデザイン	松岡 龍介 前期	447
5118000	就労支援サービス	畠山 明子 前期	449
7525001	都市計画	安藤 淳一 前期	451
9102001	教育原理(M・D・A)	西崎 毅 前期	453
9102002	教育原理(S)	西崎 毅 前期	455
9107000	社会科・地理歴史科教育法	塩崎 大輔 前期	457
5119000	更生保護制度	西野 克俊 前期	459
7122000	臨床心理学	蝦名 美穂 前期	461
7569000	アクション・ゲーム	長森 正 前期	463
7754000	国際経営論	岡島 徳昭 前期	465
9137000	特別な教育的ニーズの理解とその支援	藤根 収 前期	467
7148002	特別支援教育実習(事前指導)(4年)	木村 浩紀 前期	469

9110000	社会科・公民科教育法	松下 守邦 前期	471
7510000	建築設計演習	君 興治 前期	473
7733400	観光デザイン論	五ノ井 壽一 前期	475
9121001	教育方法論 (M)	藤根 収 前期	477
9121002	教育方法論 (S)	藤根 収 前期	479
9121003	教育方法論 (D・A)	藤根 収 前期	481
7361000	技法・材料研究	安田 祐造 前期	483
7367001	漫画	鴨 修平 前期	485
7364000	彫刻	梅田 力 前期	487
7712001	日本経済史 (M)	小林 大州介 前期	489
7712002	日本経済史 (S)	小林 大州介 前期	491
7731000	ビジネスプランニング論	猪尾 紀幸 前期	493
7348000	日本画	岡 恵子 前期	495
7809000	ビジネス倫理	遠藤 均 前期	497
7004300	社会福祉の原理と政策	小早川 俊哉 前期	499
7366001	工芸実習 (ガラス工芸)	楠本 祐弘 前期	501
7366002	工芸実習 (陶芸)	中島 知之 前期	503
7366003	工芸実習 (版表現)	森迫 暁夫 前期	505
7366004	工芸実習 (木工芸)	島田 晶夫 前期	507
7603000	建築設備	君 興治 前期	509
7733200	まちづくり論	松本 懿 前期	511
7004400	社会福祉の原理と政策	小早川 俊哉 前期	513
7746000	ユースレポートファイナル論	川津 大樹 前期	515
7371000	造形論	松岡 龍介 前期	517
7575000	建築構造力学	小笠原 健 前期	519
5115100	社会福祉調査の基礎	杉本 大輔 前期	521
5103100	社会保障	星野 秀治 前期	523
7586000	建築法規	佐藤 善太郎 前期	525
7812000	アクリル樹脂論	石山 玄幸 前期	527
5104100	社会保障	星野 秀治 前期	529
7733500	観光デザイン論	五ノ井 壽一 前期	531
7775100	ビジネス英語	石田 暁子 前期	533
7379001	彫刻 (3年)	国松 明日香 前期	535
7379002	彫刻 (4年)	国松 明日香 前期	537
7589001	建築の職能と倫理 (3年)	安藤 淳一 前期	539
7735000	情報システム論	由水 伸 前期	541
5114100	障害者福祉	畠山 明子 前期	543
7137000	障害児保育	坂上 俊樹 前期	545
7597000	建築表現	安藤 淳一 前期	547
7023100	精神保健福祉の原理	西野 克俊 前期	549
7607000	測量学	長森 正 前期	551
7782200	地域情報論	猪尾 紀幸 前期	553
7521000	施工管理技士演習	小笠原 健 前期	555
5111100	高齢者福祉	櫻井 美帆子 前期	557
7556000	応用物理	伊藤 裕康 前期	559
9105000	教育課程論	西崎 毅 前期	561
7010100	地域福祉と包括的支援体制	上原 正希 前期	563
9109000	工業科教育法	横山 哲也 前期	565
9111000	美術科教育法	竹内 美帆 前期	567
5106100	心理学と心理的支援	吉澤 英里 前期	569
7341000	インテリアサイン	安藤 淳一 前期	571
7761000	産業社会論	山本 一彦 前期	573
7811000	社会学概論	松下 守邦 前期	575
7598000	アクションデザイン	君 興治 前期	577
9115000	工芸科教育法	三上 いずみ 前期	579
7373000	東洋・日本美術史	苦名 真 前期	581
5109100	医学概論	宮崎 剛司 前期	583
7152001	加納リク論 (M)	蝦名 美穂 前期	585
7152002	加納リク論 (S)	蝦名 美穂 前期	587
5101101	ソーシャルワークの基盤と専門職 (M)	櫻井 美帆子 前期	589
5101102	ソーシャルワークの基盤と専門職 (S)	櫻井 美帆子 前期	591
5117000	福祉サービスの組織と経営	大島 康雄 前期	593
7714001	中小企業論	石山 玄幸 前期	595
7302000	立体構成	梅田 力 前期	597
7318100	グラフィックデザイン	北嶋 洋一 前期	599
7786100	赤ツ原理	高井 雅一 前期	601
7823000	プレゼンテーション	佐藤 善太郎 前期	603
7522200	二級建築士演習	佐藤 善太郎 前期	605
7797000	生理学	黒川 泰任 前期	607
7318200	プロダクトデザイン	林 春生 前期	609
7799000	衛生学及び公衆衛生学	宮崎 剛司 前期	611
7522400	二級建築士演習	佐藤 善太郎 前期	613
7733300	体育史	尾西 則昭 前期	615
7322200	プロダクトデザイン	林 春生 前期	617
7792000	学校保健	天野 雅斗 前期	619
7604000	建築積算	佐々木 哲之 前期	621
7819000	行状漫画概論	竹内 美帆 前期	623
7521100	施工管理技士演習	小笠原 健 前期	625
7800100	器械運動	廣田 修平 前期	627
7789100	体づくり運動	廣田 修平 前期	629

7612000	アソシエーション	佐藤 善太郎	前期	...	631
7762001	北海道産業史 (M)	石山 玄幸	前期	...	633
7762002	北海道産業史 (S)	石山 玄幸	前期	...	635
7319800	CG技法研究 (3年)	北嶋 洋一	前期	...	637
7319801	CG技法研究 (4年)	北嶋 洋一	前期	...	639
7319900	CG技法研究 (3年)	北嶋 洋一	前期	...	641
7319901	CG技法研究 (4年)	北嶋 洋一	前期	...	643
7767000	外国書講読	岡島 徳昭	前期	...	645
7795100	球技 (バスケットボール)	天野 雅斗	前期	...	647
7322600	インテリアデザイン	梅田 真紀	前期	...	649
7796100	球技 (バレーボール)	天野 雅斗	前期	...	651
7322700	インテリアデザイン	梅田 真紀	前期	...	653
7802101	球技 (ソフトボール)	米野 宏	前期	...	655
7804100	球技 (サッカー)	木島 敦	前期	...	657
7768001	人的資源管理論	信濃 吉彦	前期	...	659
7768002	人的資源管理論 (SP)	信濃 吉彦	前期	...	661
7279000	社会的養護	杉本 大輔	前期	...	663
7132000	子どもの食と栄養	湯浅 頼佳	前期	...	665
7278000	子ども家庭支援論	杉本 大輔	前期	...	667
7309000	工芸実習 (オムニバス)	三上 いずみ	前期	...	669
7056000	肢体不自由者の心理・生理・病理	坂上 俊樹	前期	...	671
7481000	子どもの保健	宮崎 剛司	前期	...	673
7298000	子育て支援	杉本 大輔	前期	...	675
7483000	保育内容演習 (健康)	宮崎 剛司	前期	...	677
7485000	保育内容演習 (環境)	佐藤 慶知	前期	...	679
7486000	保育内容演習 (言葉)	吉江 幸子	前期	...	681
7487000	保育内容演習 (表現)	吉江 幸子	前期	...	683
5116001	福祉行財政と福祉計画 (M)	小早川 俊哉	前期	...	685
5116002	福祉行財政と福祉計画 (S)	小早川 俊哉	前期	...	687
7290000	音楽表現	小黒 万里子	前期	...	689
7294000	乳児保育	吉江 幸子	前期	...	691
7008100	ソーシャルワークの理論と方法(専門)	大島 康雄	前期	...	693
7009100	ソーシャルワークの理論と方法(専門)	大島 康雄	前期	...	695
7013100	ソーシャルワーク演習(専門)	杉本 大輔	前期	...	697
7017100	ソーシャルワーク実習指導	杉本 大輔	前期	...	699
7195000	社会福祉特講	櫻井 美帆子	前期	...	701

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	こころの科学 (科目ナンバリング: PSG021016)				
授業担当者(所属・職名)	吉澤 英里(社会福祉学科・教授)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 吉澤 英里)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照				

概要

履修目標

心理学は、心とは何かという問いに対して科学的な手法を用いて明らかにすることを試みる学問領域である。研究例を手がかりとしながら、どのようなことが明らかになっているのかを知り、自他の心の理解を深めることを目指す。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP(2)に対応する。  
 経営学科のDP(2)に対応する。  
 デザイン学科のDP(2)に対応する。  
 建築学科のDP(2)に対応する。

到達目標

人の行動の解釈の多様性を理解し、その中から自分なりの解を示すことができる。さらに、そうした解を学術レポートの様式に準じた形で文章表現できる。

授業全体の内容と概要

心理学が成立した過程を学び、その中でどのような研究がなされてきたのかを理解する。さらに、研究の結果としてどのようなことがわかっているのか、あるいはわかっていないのかを、自分の経験や体験と照らし合わせながら考えていく。これらの学びを通して、こころの多様性や自他への理解を深めることを目指す。  
 「SDG3.すべての人に健康と福祉を」の関連授業

授業の方法

パワーポイント、板書、映像等を使用しながら講義形式で行う。毎回の最後に、質疑応答を求める。受け取った質問やコメント、要望については、次回に全体へフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	○ その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

「読む、考える、書く」ことを重視する。関連図書を読み、理解を深めること。特に、学術レポートの執筆が不慣れな者は、レポート執筆前に「レポートの書き方」などの文献を一読することを強く勧める。  
 提出物の締め切りは厳守すること。締め切りを超過したレポートも受理するが、それへの評価は相当低くなることを覚悟すること。  
 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	100%	0%	0%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
基礎知識の理解	授業で扱った専門知識について、非常に理解ができた。	授業で扱った専門知識について、よく理解ができた。	授業で扱った専門知識について、やや理解ができた。	授業で扱った専門知識について、最低限の理解ができた。	授業で扱った専門知識について、最低限の理解ができていなかった。
解とその根拠の提示	問いに対して、自分なりの解とその根拠を非常に示せた。	問いに対して、自分なりの解とその根拠をかなり示せた。	問いに対して、自分なりの解とその根拠をやや示せた。	問いに対して、自分なりの解を示せた。	問いに対して、自分なりの解を示せなかった。
アカデミック・ライティング	学術レポートのルールを非常に理解し、レポートを執筆できた。	学術レポートのルールをよく理解し、レポートを執筆できた。	学術レポートのルールをやや理解し、レポートを執筆できた。	学術レポートの最低限のルールを理解し、レポートを執筆できた。	学術レポートのルールに沿って、レポートが執筆できなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	こころの科学 (科目ナンバリング: PSG021016)				
授業担当者(所属・職名)	吉澤 英里 (社会福祉学科・教授)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 吉澤 英里)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間			
回	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明: オリエンテーション(心とは何か)	関連図書を事前に読んでおくこと。(90分)	授業の内容をノートにまとめて復習すること。(90分)
2	心理学の歴史について	指定したキーワードを事前に調べておくこと。(90分)	授業の内容をノートにまとめて復習すること。(90分)
3	心を支える脳のメカニズム(神経細胞の構造と働き)	指定したキーワードを事前に調べておくこと。(90分)	授業の内容をノートにまとめて復習すること。(90分)
4	感覚と知覚(視覚系の構造と働き)	指定したキーワードを事前に調べておくこと。(90分)	授業の内容をノートにまとめて復習すること。(90分)
5	感覚と知覚(視覚の不思議)	指定したキーワードを事前に調べておくこと。(90分)	授業の内容をノートにまとめて復習すること。(90分)
6	感覚と知覚(聴覚系の構造と働き)	指定したキーワードを事前に調べておくこと。(90分)	授業の内容をノートにまとめて復習すること。(90分)
7	感覚と知覚(日常世界の事物の認知)	指定したキーワードを事前に調べておくこと。(90分)	授業の内容をノートにまとめて復習すること。(90分)
8	記憶のメカニズム(短期記憶、長期記憶)	指定したキーワードを事前に調べておくこと。(90分)	授業の内容をノートにまとめて復習すること。(90分)
9	記憶のメカニズム(日常世界における記憶)	指定したキーワードを事前に調べておくこと。(90分)	授業の内容をノートにまとめて復習すること。(90分)
10	言語(文の理解)	指定したキーワードを事前に調べておくこと。(90分)	授業の内容をノートにまとめて復習すること。(90分)
11	言語(イメージ)	指定したキーワードを事前に調べておくこと。(90分)	授業の内容をノートにまとめて復習すること。(90分)
12	思考(問題解決)	指定したキーワードを事前に調べておくこと。(90分)	授業の内容をノートにまとめて復習すること。(90分)
13	思考(創造的思考)	指定したキーワードを事前に調べておくこと。(90分)	授業の内容をノートにまとめて復習すること。(90分)
14	情動(情動とは何か)	指定したキーワードを事前に調べておくこと。(90分)	授業の内容をノートにまとめて復習すること。(90分)
15	人間と社会(社会的認知)	指定したキーワードを事前に調べておくこと。(90分)	授業の内容をノートにまとめて復習すること。(90分)
16	これまでの振り返りと授業改善アンケートの実施	今までの授業内容を復習しておくこと。(90分)	振り返りを行うこと(90分)。

各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間			
回	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	数学入門 (科目ナンバリング: MAT071046)				
授業担当者(所属・職名)	横山 哲也(建築学科・准教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 横山 哲也)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

学生が教養力を身につけるために、「自然と環境」を幅広く学ぶための科目で、大学で必要となる数学の基礎知識をしっかりと身に付け、次に、高校の数学から大学の数学への橋渡しができる力を身につける。

授業の位置づけ

経営学科のDP(2)に対応する。  
 社会福祉学科のDP(2)に対応する。  
 デザイン学科のDP(2)に対応する。  
 建築学科のDP(2)に対応する。

到達目標

様々な分野で活躍する人材に求められる課題探求能力のうちの、基本的な数学知識の修得と思考能力の向上を図ることができる。さらに、それらのことを通して、数学において重要なのは、答えではなく、計算過程(思考過程の説明)であることを理解し、習慣づけることができる。

授業全体の内容と概要

数理・データサイエンス教育の関連授業科目  
 数の計算から始まり、分数・因数分解・平方根・無理数・一次方程式・連立方程式・二次方程式・高次方程式・一次関数・二次関数・三角関数・集合・順列と組み合わせ・確率などについて、豊富な練習問題をこなすことによって、数学を解くことの実感と意味をつかむ。「SDG9.産業と技術革新の基盤をつくろう」の関連科目。

授業の方法

最近では、学生が積極的に参加する形での授業が要望されている。そこで、本講義では、教科書に沿って板書により授業を進める中で、学生自らが習熟度の向上を実現させるために、積極的に質問や要望を述べる事が求められる。また、学生が課題を提出した後に板書にて解説を行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

- ・課題等の提出方法については授業中に支持するので、授業を欠席することのないよう留意すること。
- ・講義に対して積極的に取り組むこと。
- ・解らないところは積極的に質問すること。
- ・授業で求めている以上の習熟度の向上を望む場合には、申し出ること。適切に対応します。
- ・不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

成績は、11回以上の出席、レポート課題の提出と定期試験の結果を総合し絶対評価及び相対評価を併用して判定する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
50%	40%	0%	0%	10%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
基礎知識の修得	数学の基礎知識が完全に修得できた。	数学の基礎知識が修得できた。	数学の基礎知識がほぼ修得できた。	数学の基礎知識が大体修得できた。	数学の基礎知識が修得できなかった。
思考能力の向上	数学の思考能力が完全に向上した。	数学の思考能力が向上した。	数学の思考能力がほぼ向上した。	数学の思考能力が大体向上した。	数学の思考能力が向上しなかった。
計算過程(思考過程の説明)の習慣化	授業中に不明な点を全て解決し思考過程の習慣化ができた。	授業中に不明な点を質問等で全て解決し思考過程の習慣化ができた。	授業中に不明な点を質問等で解決し思考過程の習慣化ができた。	授業中に不明な点を解決し思考過程の習慣化ができた。	思考過程の習慣化ができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	数学入門 (科目ナンバリング: MAT071046)				
授業担当者(所属・職名)	横山 哲也(建築学科・准教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 横山 哲也)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『大学新入生のための数学入門(増補版)』	石村 園子	共立出版			
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス、シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明及び基礎学力試験	基礎学力試験のための準備をする(90分)	基礎学力試験問題を再度解く(90分)
2	整数と計算	数の分類・性質と四則計算の基本を理解する(90分)	教科書の問題を再度解く(90分)
3	分数・小数・繁分数	教科書の問題を丁寧に解く練習をする(90分)	教科書の問題を再度解く(90分)
4	展開・因数分解	展開と因数分解における公式を覚え、教科書の問題を丁寧に解く(90分)	教科書の問題を再度解く(90分)
5	平方根	平方根の性質と計算方法を理解し、教科書の問題を丁寧に解く(90分)	教科書の問題を再度解く(90分)
6	分数式・無理式の計算	教科書の問題を丁寧に解く(90分)	教科書の問題を再度解く(90分)
7	一次方程式	一次方程式の解き方とその利用について理解する(90分)	教科書の問題を再度解く(90分)
8	連立方程式	連立方程式の解き方とその利用について理解する(90分)	教科書の問題を再度解く(90分)
9	二次方程式・高次方程式	二次方程式と高次方程式の解き方およびその利用について理解する(90分)	教科書の問題を再度解く(90分)
10	一次関数とグラフ	一次関数の性質を理解し、教科書の問題を丁寧に解く(90分)	教科書の問題を再度解く(90分)
11	二次関数	二次関数の性質を理解し、教科書の問題を丁寧に解く(90分)	教科書の問題を再度解く(90分)
12	三角関数	三角関数の性質を理解し、教科書の問題を丁寧に解く(90分)	教科書の問題を再度解く(90分)
13	集合	集合の性質を理解し、教科書の問題を丁寧に解く(90分)	教科書の問題を再度解く(90分)
14	順列と組み合わせ	順列と組み合わせの違いを理解し、教科書の問題を丁寧に解く(90分)	教科書の問題を再度解く(90分)
15	確率及び授業改善アンケートの実施	確率の意味を理解し、教科書の問題を丁寧に解く(90分)	教科書の問題を再度解く(90分)
16	60分の試験終了後、残りの30分で解説を行います。	全内容の再確認及び理解を行う。(90分)	総理解(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目		対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	前期		授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	情報基礎演習 (M-1) (科目ナンバリング: SOF061042)					
授業担当者(所属・職名)	薦田 勇智(経営学科・専任講師)、由水 伸(経営学科・教授)		研究室等所在	1号館2階(薦田)・1号館2階(由水)		
単位数	1	(単位認定責任者: 薦田 勇智)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容					
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標

- ・インターネットを利用する際のセキュリティやマナーに配慮した利用法を学ぶ。
- ・Microsoft Teamsを利用したオンライン授業の受け方と、課題の回答方法について学ぶ。
- ・PCによる文書とデータの処理について理解し、適切なかたちで利用する方法を学ぶ。
- ・「数理・データサイエンス」を理解する上で必要な基本的な素養を身につける。

授業の位置づけ

経営学科のDP(2)(3)に対応する。

到達目標

- ・ネット上のセキュリティやマナーを理解し、他の利用者に配慮しながら、安心安全に利用できる。
- ・Microsoft Teamsを利用したオンラインまたは対面の受講ができる。
- ・Microsoft Wordを使った文書作成を学び、他の講義や、レポート、卒業論文に活用できる。
- ・Microsoft Excelを使ったデータ処理を学び、他の講義や、レポート、卒業論文に活用できる。

授業全体の内容と概要

- ・本学のネットワークの利用法とマナーについて説明する。
- ・実習前半では、Microsoft Wordを使った、文書処理(定型文書やレポートの作成等)を学ぶ。
- ・実習後半では、Microsoft Excelを使った、計算やデータの処理について学ぶ。
- ・本科目は、情報リテラシー教育の関連授業科目である。
- ・本科目は、以下のSDGs関連授業科目である。
- ・「SDGs4:質の高い教育をみんなに」
- ・「SDGs9:産業と技術革新の基盤をつくろう」

授業の方法

- ・ICTを活用した講義体制となる。
- ・解説・演習時は、大型モニターに教材(スライド資料等)を提示しながら行う。
- ・Microsoft Teamsを利用して課題提示、提出を求めらる。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

- ・実習時は、大学に備え付けのPCの他、自己所有のノートPC(Windows/Mac)を使用してもよい。
  - ・自己所有のノートPCを使用する場合は、Microsoft Officeを使えるように準備すること。(大学から無償で提供)。
  - ・課題作成については著作権等の盗用(剽窃)無きよう、十分配慮すること。
- 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(全教科)必須科目

評価方法・基準

評価前提条件

- ・単位認定に必要な最低出席回数は13回以上。
- ・遅刻及び早退は20分までを限度とし、それ以上の場合は欠席とみなす。
- ・課題提出期限を過ぎて提出した場合は、当該課題の採点結果から減点する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
50%	-	50%	-	-	-

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ネット上のセキュリティとマナーの理解	ネット上のセキュリティとマナーの決まりの意図を理解し、自分が守るだけでなく周囲にも働きかけている。	ネット上のセキュリティとマナーの決まりの意図を理解し、より広い範囲で守っている。	ネット上のセキュリティとマナーの決まりを理解し、正しく守っている。	ネット上のセキュリティとマナーの決まりを理解し守っている。	ネット上のセキュリティとマナーを守ろうとする意識が無い。
Microsoft Teamsを利用した受講法	ログインをして、必要なことはすべてできる。また、積極的に活用する姿勢がある。あわせて、周囲の利用者に説明・指導することができる。	ログインをして、必要なことはすべてできる。また、積極的に活用する姿勢がある。	ログインをして、必要なことはすべてできる。	ログインをして基本的な部分は利用できる。	利用する方法側からない。
Microsoft Wordを使った文書作成	文字入力速度が速く、Wordの機能を利用して、様々な文書やレポートの作成を時間に余裕を持って作成できる。あわせて、周囲の利用者に説明・指導することができる。	文字入力速度が速く、Wordの機能を利用して、様々な文書やレポートの作成を時間に余裕を持って作成できる。	文字入力速度が十分で、Wordの機能を利用して、定型文書作成を制限時間内に作成できる。また、レポートなども作成できる。	文字入力速度が遅いが、Wordの機能を利用して、定型文書作成を時間がかかりながらも作成できる。	文字入力速度が遅く、Wordの機能活用まで至らない。
Microsoft Excelを使ったデータ処理	Excelの様々な操作を自主的に学習し、工夫して効率よく課題を完成させることができる。あわせて、周囲の利用者に説明・指導することができる。	Excelの様々な操作を自主的に学習し、工夫して効率よく課題を完成させることができる。	Excelの基本操作がそつなくできて、時間内に、課題を完成させることができる。	Excelの基本操作ができて、時間がかかりながらも、課題を完成させることができる。	Excelの基本が理解できていないため、課題を完成できない。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	情報基礎演習 (M-1) (科目ナンバリング: S0F061042)				
授業担当者(所属・職名)	薦田 勇智(経営学科・専任講師)、由水 伸(経営学科・教授)	研究室等所在	1号館2階(薦田)・1号館2階(由水)		
単位数	1 (単位認定責任者: 薦田 勇智)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『情報リテラシー教科書 Windows 11/Office+Access 2021対応版』	矢野 文彦	オーム社	2022	9784274229664	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション ・シラバスの確認、授業改善アンケートから ・本学のネットワークの利用法	シラバスを読む(45分)	メモやノートを整理する(45分)
2	大学生に必要なネットワーク上のマナー 大学生に必要なネットワークセキュリティ	ネットワーク上のマナーについて調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
3	Microsoft Officeの全般的な設定 Wordの基本操作・書式設定(基本編) ・ファイルの新規作成、保存、文字入力と編集	Microsoft Officeについて調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
4	Wordの基本操作・書式設定(基本編) ・レイアウトとフォーマット、マージンの設定 段落のインデント、テキストの配置	Wordの書式設定について調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
5	Wordによる文書作成 ・ビジネス定型文書の作成1 単純な例文の作成練習	Wordの書式設定について復習する(45分)	操作方法を復習する(45分)
6	Wordによる文書作成 ・ビジネス定型文書の作成2 複雑な例文の作成練習	ビジネス定型文書の作成1について復習する(45分)	操作方法を復習する(45分)
7	Wordによる文書作成 ・レポート作成の基本 表紙、図形、写真、などの画像の挿入方法	ビジネス定型文書の作成2について復習する(45分)	操作方法を復習する(45分)
8	Wordによる文書作成 ・複雑な表紙 ・ページ番号、ヘッダーとフッターの設定	ヘッダーとフッターについて調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
9	Excelの基本的な機能1 ・ファイルの新規作成、保存、文字入力と編集 ・データの入力、編集、削除、セルと書式	Excelの特徴について調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
10	Excelの基本的な機能2 ・罫線の描画、 ・セルのサイズ変更、セルの結合	Excelの計算式と関数について調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
11	Excelの基本的な機能3 ・グラフの作成 ・データ系列、グラフの種類とデザイン	Excelのグラフ作成について調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
12	課題学習1 ・関数(様々な関数) ・様々な作表例(デザイン含む)	Excelでよく使われる関数について調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
13	課題学習2 ・データの並び替え ・重複の削除	ソートについて調べる(45分)	操作方法を復習する(45分)
14	課題学習3(数値データサイエンス向け) ・様々なデータの入出力(CSV、SYLK他) ・データの加工	Excelの扱えるデータについて調べる(45分)	操作方法を復習する(45分)
15	定期試験に向けてのふりかえり	授業の全般について復習する(45分)	操作方法を復習する(45分)
16	授業改善アンケートの実施 定期試験(60分) 実技試験(Word、Excel)	全授業内容を確認する(45分)	試験で回答できなかった・自信がない項目について復習する(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目		対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	前期		授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	情報基礎演習 (M-2) (科目ナンバリング: SOF061042)					
授業担当者(所属・職名)	薦田 勇智(経営学科・専任講師)、由水 伸(経営学科・教授)		研究室等所在	1号館2階(薦田)・1号館2階(由水)		
単位数	1 (単位認定責任者: 薦田 勇智)		CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容					
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標

- ・インターネットを利用する際のセキュリティやマナーに配慮した利用方法を学ぶ。
- ・Microsoft Teamsを利用したオンライン授業の受け方と、課題の回答方法について学ぶ。
- ・PCによる文書とデータの処理について理解し、適切なかたちで利用する方法を学ぶ。
- ・「数理・データサイエンス」を理解する上で必要な基本的な素養を身につける。

授業の位置づけ

経営学科のDP(2)(3)に対応する。

到達目標

- ・ネット上のセキュリティやマナーを理解し、他の利用者に配慮しながら、安心安全に利用できる。
- ・Microsoft Teamsを利用したオンラインまたは対面の受講ができる。
- ・Microsoft Wordを使った文書作成を学び、他の講義や、レポート、卒業論文に活用できる。
- ・Microsoft Excelを使ったデータ処理を学び、他の講義や、レポート、卒業論文に活用できる。

授業全体の内容と概要

- ・本学のネットワークの利用法とマナーについて説明する。
- ・実習前半では、Microsoft Wordを使った、文書処理(定型文書やレポートの作成等)を学ぶ。
- ・実習後半では、Microsoft Excelを使った、計算やデータの処理について学ぶ。
- ・本科目は、情報リテラシー教育の関連授業科目である。
- ・本科目は、以下のSDGs関連授業科目である。
- ・「SDGs4:質の高い教育をみんなに」
- ・「SDGs9:産業と技術革新の基盤をつくろう」

授業の方法

- ・ICTを活用した講義体制となる。
- ・解説・演習時は、大型モニターに教材(スライド資料等)を提示しながら行う。
- ・Microsoft Teamsを利用して課題提示、提出を求めらる。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

- ・実習時は、大学に備え付けのPCの他、自己所有のノートPC(Windows/Mac)を使用してもよい。
  - ・自己所有のノートPCを使用する場合は、Microsoft Officeを使えるように準備すること。(大学から無償で提供)。
  - ・課題作成については著作物等の盗用(剽窃)無きよう、十分配慮すること。
- 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(全教科)必須科目

評価方法・基準

評価前提条件

- ・単位認定に必要な最低出席回数は13回以上。
- ・遅刻及び早退は20分までを限度とし、それ以上の場合は欠席とみなす。
- ・課題提出期限を過ぎて提出した場合は、当該課題の採点結果から減点する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
50%	0%	50%	0%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ネット上のセキュリティとマナーの理解	ネット上のセキュリティとマナーの決まりの意図を理解し、自分が守るだけでなく周囲にも働きかけている。	ネット上のセキュリティとマナーの決まりの意図を理解し、より広い範囲で守っている。	ネット上のセキュリティとマナーの決まりを理解し、正しく守っている。	ネット上のセキュリティとマナーの決まりを理解し守っている。	ネット上のセキュリティとマナーを守ろうとする意識が無い。
Microsoft Teamsを利用した受講法	ログインをして、必要なことはすべてできる。また、積極的に活用する姿勢がある。あわせて、周囲の利用者に説明・指導することができる。	ログインをして、必要なことはすべてできる。また、積極的に活用する姿勢がある。	ログインをして、必要なことはすべてできる。	ログインをして基本的な部分は利用できる。	利用する方法側からない。
Microsoft Wordを使った文書作成	文字入力速度が速く、Wordの機能を利用して、様々な文書やレポートの作成を時間に余裕を持って作成できる。あわせて、周囲の利用者に説明・指導することができる。	文字入力速度が速く、Wordの機能を利用して、様々な文書やレポートの作成を時間に余裕を持って作成できる。	文字入力速度が十分で、Wordの機能を利用して、定型文書作成を制限時間内に作成できる。また、レポートなども作成できる。	文字入力速度が遅いが、Wordの機能を利用して、定型文書作成を時間がかかりながらも作成できる。	文字入力速度が遅く、Wordの機能活用まで至らない。
Microsoft Excelを使ったデータ処理	Excelの様々な操作を自主的に学習し、工夫して効率よく課題を完成させることができる。あわせて、周囲の利用者に説明・指導することができる。	Excelの様々な操作を自主的に学習し、工夫して効率よく課題を完成させることができる。	Excelの基本操作がそつなくできて、時間内に、課題を完成させることができる。	Excelの基本操作ができて、時間がかかりながらも、課題を完成させることができる。	Excelの基本が理解できていないため、課題を完成できない。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	情報基礎演習 (M-2) (科目ナンバリング: S0F061042)				
授業担当者(所属・職名)	薦田 勇智(経営学科・専任講師)、由水 伸(経営学科・教授)	研究室等所在	1号館2階(薦田)・1号館2階(由水)		
単位数	1 (単位認定責任者: 薦田 勇智)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『情報リテラシー教科書 Windows 11/Office+Access 2021対応版』	矢野 文彦	オーム社	2022	9784274229664	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション ・シラバスの確認、授業改善アンケートから ・本学のネットワークの利用法	シラバスを読む(45分)	メモやノートを整理する(45分)
2	大学生に必要なネットワーク上のマナー 大学生に必要なネットワークセキュリティ	ネットワーク上のマナーについて調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
3	Microsoft Officeの全般的な設定 Wordの基本操作・書式設定(基本編) ・ファイルの新規作成、保存、文字入力と編集	Microsoft Officeについて調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
4	Wordの基本操作・書式設定(基本編) ・レイアウトとフォーマット、マージンの設定 段落のインデント、テキストの配置	Wordの書式設定について調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
5	Wordによる文書作成 ・ビジネス定型文書の作成1 単純な例文の作成練習	Wordの書式設定について復習する(45分)	操作方法を復習する(45分)
6	Wordによる文書作成 ・ビジネス定型文書の作成2 複雑な例文の作成練習	ビジネス定型文書の作成1について復習する(45分)	操作方法を復習する(45分)
7	Wordによる文書作成 ・レポート作成の基本 表紙、図形、写真、などの画像の挿入方法	ビジネス定型文書の作成2について復習する(45分)	操作方法を復習する(45分)
8	Wordによる文書作成 ・複雑な表紙 ・ページ番号、ヘッダーとフッターの設定	ヘッダーとフッターについて調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
9	Excelの基本的な機能1 ・ファイルの新規作成、保存、文字入力と編集 ・データの入力、編集、削除、セルと書式	Excelの特徴について調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
10	Excelの基本的な機能2 ・罫線の描画、 ・セルのサイズ変更、セルの結合	Excelの計算式と関数について調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
11	Excelの基本的な機能3 ・グラフの作成 ・データ系列、グラフの種類とデザイン	Excelのグラフ作成について調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
12	課題学習1 ・関数(様々な関数) ・様々な作表例(デザイン含む)	Excelでよく使われる関数について調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
13	課題学習2 ・データの並び替え ・重複の削除	ソートについて調べる(45分)	操作方法を復習する(45分)
14	課題学習3(数値データサイエンス向け) ・様々なデータの入出力(CSV、SYLK他) ・データの加工	Excelの扱えるデータについて調べる(45分)	操作方法を復習する(45分)
15	定期試験に向けてのふりかえり	授業の全般について復習する(45分)	操作方法を復習する(45分)
16	授業改善アンケートの実施 定期試験(60分) 実技試験(Word、Excel)	全授業内容を確認する(45分)	試験で回答できなかった・自信がない項目について復習する(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	共通教育科目		対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	前期		授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	情報基礎演習 (M-3) (科目ナンバリング: SOF061042)					
授業担当者(所属・職名)	薦田 勇智(経営学科・専任講師)、由水 伸(経営学科・教授)		研究室等所在	1号館2階(薦田)・1号館2階(由水)		
単位数	1 (単位認定責任者: 薦田 勇智)		CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容					
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標

- ・インターネットを利用する際のセキュリティやマナーに配慮した利用法を学ぶ。
- ・Microsoft Teamsを利用したオンライン授業の受け方と、課題の回答方法について学ぶ。
- ・PCによる文書とデータの処理について理解し、適切なかたちで利用する方法を学ぶ。
- ・「数値・データサイエンス」を理解する上で必要な基本的な素養を身につける。

授業の位置づけ

経営学科のDP(2)(3)に対応する。

到達目標

- ・ネット上のセキュリティやマナーを理解し、他の利用者に配慮しながら、安心安全に利用できる。
- ・Microsoft Teamsを利用したオンラインまたは対面の受講ができる。
- ・Microsoft Wordを使った文書作成を学び、他の講義や、レポート、卒業論文に活用できる。
- ・Microsoft Excelを使ったデータ処理を学び、他の講義や、レポート、卒業論文に活用できる。

授業全体の内容と概要

- ・本学のネットワークの利用法とマナーについて説明する。
- ・実習前半では、Microsoft Wordを使った、文書処理(定型文書やレポートの作成等)を学ぶ。
- ・実習後半では、Microsoft Excelを使った、計算やデータの処理について学ぶ。
- ・本科目は、情報リテラシー教育の関連授業科目である。
- ・本科目は、以下のSDGs関連授業科目である。
- ・「SDGs4:質の高い教育をみんなに」
- ・「SDGs9:産業と技術革新の基盤をつくろう」

授業の方法

- ・ICTを活用した講義体制となる。
- ・解説・演習時は、大型モニターに教材(スライド資料等)を提示しながら行う。
- ・Microsoft Teamsを利用して課題提示、提出を求めらる。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

- ・実習時は、大学に備え付けのPCの他、自己所有のノートPC(Windows/Mac)を使用してもよい。
  - ・自己所有のノートPCを使用する場合は、Microsoft Officeを使えるように準備すること。(大学から無償で提供)。
  - ・課題作成については著作権等の盗用(剽窃)無きよう、十分配慮すること。
- 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(全教科)必須科目

評価方法・基準

評価前提条件

- ・単位認定に必要な最低出席回数は13回以上。
- ・遅刻及び早退は20分までを限度とし、それ以上の場合は欠席とみなす。
- ・課題提出期限を過ぎて提出した場合は、当該課題の採点結果から減点する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
50%	0%	50%	0%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ネット上のセキュリティとマナーの理解	ネット上のセキュリティとマナーの決まりの意図を理解し、自分が守るだけでなく周囲にも働きかけている。	ネット上のセキュリティとマナーの決まりの意図を理解し、より広い範囲で守っている。	ネット上のセキュリティとマナーの決まりを理解し、正しく守っている。	ネット上のセキュリティとマナーの決まりを理解し守っている。	ネット上のセキュリティとマナーを守ろうとする意識が無い。
Microsoft Teamsを利用した受講法	ログインをして、必要なことはすべてできる。また、積極的に活用する姿勢がある。あわせて、周囲の利用者に説明・指導することができる。	ログインをして、必要なことはすべてできる。また、積極的に活用する姿勢がある。	ログインをして、必要なことはすべてできる。	ログインをして基本的な部分は利用できる。	利用する方法側からない。
Microsoft Wordを使った文書作成	文字入力速度が速く、Wordの機能を利用して、様々な文書やレポートの作成を時間に余裕を持って作成できる。あわせて、周囲の利用者に説明・指導することができる。	文字入力速度が速く、Wordの機能を利用して、様々な文書やレポートの作成を時間に余裕を持って作成できる。	文字入力速度が十分で、Wordの機能を利用して、定型文書作成を制限時間内に作成できる。また、レポートなども作成できる。	文字入力速度が遅いが、Wordの機能を利用して、定型文書作成を時間がかかりながらも作成できる。	文字入力速度が遅く、Wordの機能活用まで至らない。
Microsoft Excelを使ったデータ処理	Excelの様々な操作を自主的に学習し、工夫して効率よく課題を完成させることができる。あわせて、周囲の利用者に説明・指導することができる。	Excelの様々な操作を自主的に学習し、工夫して効率よく課題を完成させることができる。	Excelの基本操作がそつなくできて、時間内に、課題を完成させることができる。	Excelの基本操作ができて、時間がかかりながらも、課題を完成させることができる。	Excelの基本が理解できていないため、課題を完成できない。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	情報基礎演習 (M-3) (科目ナンバリング: S0F061042)				
授業担当者(所属・職名)	薦田 勇智(経営学科・専任講師)、由水 伸(経営学科・教授)	研究室等所在	1号館2階(薦田)・1号館2階(由水)		
単位数	1 (単位認定責任者: 薦田 勇智)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『情報リテラシー教科書 Windows 11/Office+Access 2021対応版』	矢野 文彦	オーム社	2022	9784274229664	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション ・シラバスの確認、授業改善アンケートから ・本学のネットワークの利用法	シラバスを読む(45分)	メモやノートを整理する(45分)
2	大学生に必要なネットワーク上のマナー 大学生に必要なネットワークセキュリティ	ネットワーク上のマナーについて調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
3	Microsoft Officeの全般的な設定 Wordの基本操作・書式設定(基本編) ・ファイルの新規作成、保存、文字入力と編集	Microsoft Officeについて調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
4	Wordの基本操作・書式設定(基本編) ・レイアウトとフォーマット、マージンの設定 段落のインデント、テキストの配置	Wordの書式設定について調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
5	Wordによる文書作成 ・ビジネス定型文書の作成1 単純な例文の作成練習	Wordの書式設定について復習する(45分)	操作方法を復習する(45分)
6	Wordによる文書作成 ・ビジネス定型文書の作成2 複雑な例文の作成練習	ビジネス定型文書の作成1について復習する(45分)	操作方法を復習する(45分)
7	Wordによる文書作成 ・レポート作成の基本 表紙、図形、写真、などの画像の挿入方法	ビジネス定型文書の作成2について復習する(45分)	操作方法を復習する(45分)
8	Wordによる文書作成 ・複雑な表紙 ・ページ番号、ヘッダーとフッターの設定	ヘッダーとフッターについて調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
9	Excelの基本的な機能1 ・ファイルの新規作成、保存、文字入力と編集 ・データの入力、編集、削除、セルと書式	Excelの特徴について調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
10	Excelの基本的な機能2 ・罫線の描画、 ・セルのサイズ変更、セルの結合	Excelの計算式と関数について調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
11	Excelの基本的な機能3 ・グラフの作成 ・データ系列、グラフの種類とデザイン	Excelのグラフ作成について調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
12	課題学習1 ・関数(様々な関数) ・様々な作表例(デザイン含む)	Excelでよく使われる関数について調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
13	課題学習2 ・データの並び替え ・重複の削除	ソートについて調べる(45分)	操作方法を復習する(45分)
14	課題学習3(数値データサイエンス向け) ・様々なデータの入出力(CSV、SYLK他) ・データの加工	Excelの扱えるデータについて調べる(45分)	操作方法を復習する(45分)
15	定期試験に向けてのふりかえり	授業の全般について復習する(45分)	操作方法を復習する(45分)
16	授業改善アンケートの実施 定期試験(60分) 実技試験(Word、Excel)	全授業内容を確認する(45分)	試験で回答できなかった・自信がない項目について復習する(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	情報基礎演習 (S) (科目ナンバリング: SOF061042)				
授業担当者(所属・職名)	薦田 勇智(経営学科・専任講師)、宮崎 剛司(社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	1号館2階(薦田)・1号館2階(宮崎)		
単位数	1 (単位認定責任者: 薦田 勇智)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

- ・インターネットを利用する際のセキュリティやマナーに配慮した利用方法を学ぶ。
- ・Microsoft Teamsを利用したオンライン授業の受け方と、課題の回答方法について学ぶ。
- ・PCによる文書とデータの処理について理解し、適切なかたちで利用する方法を学ぶ。
- ・「数値・データサイエンス」を理解する上で必要な基本的な素養を身につける。

授業の位置づけ

福祉学科のDP(3)に対応する。

到達目標

- ・ネット上のセキュリティやマナーを理解し、他の利用者に配慮しながら、安心安全に利用できる。
- ・Microsoft Teamsを利用したオンラインまたは対面の受講ができる。
- ・Microsoft Wordを使った文書作成を学び、他の講義や、レポート、卒業論文に活用できる。
- ・Microsoft Excelを使ったデータ処理を学び、他の講義や、レポート、卒業論文に活用できる。

授業全体の内容と概要

- ・本学のネットワークの利用法とマナーについて説明する。
- ・実習前半では、Microsoft Wordを使った、文書処理(定型文書やレポートの作成等)を学ぶ。
- ・実習後半では、Microsoft Excelを使った、計算やデータの処理について学ぶ。
- ・本科目は、情報リテラシー教育の関連授業科目である。
- ・本科目は、以下のSDGs関連授業科目である。  
「SDG4:質の高い教育をみんなに」  
「SDG9:産業と技術革新の基盤をつくろう」

授業の方法

- ・ICTを活用した講義体制となる。
- ・解説・演習時は、大型モニターに教材(スライド資料等)を提示しながら行う。
- ・Microsoft Teamsを利用して課題提示、提出を求めらる。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

- ・実習時は、大学に備え付けのPCの他、自己所有のノートPC(Windows/Mac)を使用してもよい。
  - ・自己所有のノートPCを使用する場合は、Microsoft Officeを使えるように準備すること。(大学から無償で提供)。
  - ・課題作成については著作権等の盗用(剽窃)無きよう、十分配慮すること。
- 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(全教科)必須科目

評価方法・基準

評価前提条件

- ・単位認定に必要な最低出席回数は13回以上。
- ・遅刻及び早退は20分までを限度とし、それ以上の場合は欠席とみなす。
- ・課題提出期限を過ぎて提出した場合は、当該課題の採点結果から減点する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
50%	0%	50%	0%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ネット上のセキュリティとマナーの理解	ネット上のセキュリティとマナーの決まりの意図を理解し、自分が守るだけでなく周囲にも働きかけている。	ネット上のセキュリティとマナーの決まりの意図を理解し、より広い範囲で守っている。	ネット上のセキュリティとマナーの決まりを理解し、正しく守っている。	ネット上のセキュリティとマナーの決まりを理解し守っている。	ネット上のセキュリティとマナーを守ろうとする意識が無い。
Microsoft Teamsを利用した受講法	ログインをして、必要なことはすべてできる。また、積極的に活用する姿勢がある。あわせて、周囲の利用者に説明・指導することができる。	ログインをして、必要なことはすべてできる。また、積極的に活用する姿勢がある。	ログインをして、必要なことはすべてできる。	ログインをして基本的な部分は利用できる。	利用する方法がわからない。
Microsoft Wordを使った文書作成	文字入力速度が速く、Wordの機能を利用して、様々な文書やレポートの作成を時間に余裕を持って作成できる。あわせて、周囲の利用者に説明・指導することができる。	文字入力速度が速く、Wordの機能を利用して、様々な文書やレポートの作成を時間に余裕を持って作成できる。	文字入力速度が十分で、Wordの機能を利用して、定型文書作成を制限時間内に作成できる。また、レポートなども作成できる。	文字入力速度が遅いが、Wordの機能を利用して、定型文書作成を時間がかかりながらも作成できる。	文字入力速度が遅く、Wordの機能活用まで至らない。
Microsoft Excelを使ったデータ処理	Excelの様々な操作を自主的に学習し、工夫して効率よく課題を完成させることができる。あわせて、周囲の利用者に説明・指導することができる。	Excelの様々な操作を自主的に学習し、工夫して効率よく課題を完成させることができる。	Excelの基本操作がそつなくできて、時間内に、課題を完成させることができる。	Excelの基本操作ができて、時間がかかりながらも、課題を完成させることができる。	Excelの基本が理解できていないため、課題を完成できない。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	情報基礎演習 (S) (科目ナンバリング: S0F061042)				
授業担当者(所属・職名)	薦田 勇智(経営学科・専任講師)、宮崎 剛司(社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	1号館2階(薦田)・1号館2階(宮崎)		
単位数	1 (単位認定責任者: 薦田 勇智)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『情報リテラシー教科書 Windows 11/Office+Access 2021対応版』	矢野 文彦	オーム社	2022	9784274229664	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション ・シラバスの確認、授業改善アンケートから ・本学のネットワークの利用法	シラバスを読む(45分)	メモやノートを整理する(45分)
2	大学生に必要なネットワーク上のマナー 大学生に必要なネットワークセキュリティ	ネットワーク上のマナーについて調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
3	Microsoft Officeの全般的な設定 Wordの基本操作・書式設定(基本編) ・ファイルの新規作成、保存、文字入力と編集	Microsoft Officeについて調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
4	Wordの基本操作・書式設定(基本編) ・レイアウトとフォーマット、マージンの設定 段落のインデント、テキストの配置	Wordの書式設定について調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
5	Wordによる文書作成 ・ビジネス定型文書の作成1 単純な例文の作成練習	Wordの書式設定について復習する(45分)	操作方法を復習する(45分)
6	Wordによる文書作成 ・ビジネス定型文書の作成2 複雑な例文の作成練習	ビジネス定型文書の作成1について復習する(45分)	操作方法を復習する(45分)
7	Wordによる文書作成 ・レポート作成の基本 表紙、図形、写真、などの画像の挿入方法	ビジネス定型文書の作成2について復習する(45分)	操作方法を復習する(45分)
8	Wordによる文書作成 ・複雑な表紙 ・ページ番号、ヘッダーとフッターの設定	ヘッダーとフッターについて調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
9	Excelの基本的な機能1 ・ファイルの新規作成、保存、文字入力と編集 ・データの入力、編集、削除、セルと書式	Excelの特徴について調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
10	Excelの基本的な機能2 ・罫線の描画、 ・セルのサイズ変更、セルの結合	Excelの計算式と関数について調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
11	Excelの基本的な機能3 ・グラフの作成 ・データ系列、グラフの種類とデザイン	Excelのグラフ作成について調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
12	課題学習1 ・関数(様々な関数) ・様々な作表例(デザイン含む)	Excelでよく使われる関数について調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
13	課題学習2 ・データの並び替え ・重複の削除	ソートについて調べる(45分)	操作方法を復習する(45分)
14	課題学習3(数値データサイエンス向け) ・様々なデータの入出力(CSV、SYLK他) ・データの加工	Excelの扱えるデータについて調べる(45分)	操作方法を復習する(45分)
15	定期試験に向けてのふりかえり	授業の全般について復習する(45分)	操作方法を復習する(45分)
16	授業改善アンケートの実施 定期試験(60分) 実技試験(Word、Excel)	全授業内容を確認する(45分)	試験で回答できなかった・自信がない項目について復習する(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	前期	授業形態	演習 必修・選択
科目名称	情報基礎演習 (S-2) (科目ナンバリング: SOF061042)		
授業担当者(所属・職名)		研究室等所在	
単位数	1 (単位認定責任者: )	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		
オフィスアワー			

概要

履修目標

--

授業の位置づけ

--

到達目標

--

授業全体の内容と概要

--

授業の方法

--

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	P B L
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

--

修学サポート(合理的配慮)

--

資格指定科目

--

評価方法・基準

評価前提条件

--

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	前期	授業形態	演習 必修・選択
科目名称	情報基礎演習 (S-2) (科目ナンバリング: SOF061042)		
授業担当者(所属・職名)		研究室等所在	
単位数	1 (単位認定責任者: )	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	情報基礎演習 (D) (科目ナンバリング: SOF061042)				
授業担当者(所属・職名)	薦田 勇智(経営学科・専任講師)、北嶋 洋一(デザイン学科・教授)	研究室等所在	1号館2階(薦田)・2号館5階(北嶋)		
単位数	1 (単位認定責任者: 薦田 勇智)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

- ・インターネットを利用する際のセキュリティやマナーに配慮した利用法を学ぶ。
- ・Microsoft Teamsを利用したオンライン授業の受け方と、課題の回答方法について学ぶ。
- ・PCによる文書とデータの処理について理解し、適切なかたちで利用する方法を学ぶ。
- ・「数値・データサイエンス」を理解する上で必要な基本的な素養を身につける。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP(2)に対応する。

到達目標

- ・ネット上のセキュリティやマナーを理解し、他の利用者に配慮しながら、安心安全に利用できる。
- ・Microsoft Teamsを利用したオンラインまたは対面の受講ができる。
- ・Microsoft Wordを使った文書作成を学び、他の講義や、レポート、卒業論文に活用できる。
- ・Microsoft Excelを使ったデータ処理を学び、他の講義や、レポート、卒業論文に活用できる。

授業全体の内容と概要

- ・本学のネットワークの利用法とマナーについて説明する。
- ・実習前半では、Microsoft Wordを使った、文書処理(定型文書やレポートの作成等)を学ぶ。
- ・実習後半では、Microsoft Excelを使った、計算やデータの処理について学ぶ。
- ・本科目は、情報リテラシー教育の関連授業科目である。
- ・本科目は、以下のSDGs関連授業科目である。  
「SDGs4:質の高い教育をみんなに」  
「SDGs9:産業と技術革新の基盤をつくろう」

授業の方法

- ・ICTを活用した講義体制となる。
- ・解説・演習時は、大型モニターに教材(スライド資料等)を提示しながら行う。
- ・Microsoft Teamsを利用して課題提示、提出を求めらる。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

- ・実習時は、大学に備え付けのPCの他、自己所有のノートPC(Windows/Mac)を使用してもよい。
  - ・自己所有のノートPCを使用する場合は、Microsoft Officeを使えるように準備すること。(大学から無償で提供)。
  - ・課題作成については著作権等の盗用(剽窃)無きよう、十分配慮すること。
- 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(全教科)必須科目

評価方法・基準

評価前提条件

- ・単位認定に必要な最低出席回数は13回以上。
- ・遅刻及び早退は20分までを限度とし、それ以上の場合は欠席とみなす。
- ・課題提出期限を過ぎて提出した場合は、当該課題の採点結果から減点する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
50%	-	50%	-	-	-

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ネット上のセキュリティとマナーの理解	ネット上のセキュリティとマナーの決まりの意図を理解し、自分が守るだけでなく周囲にも働きかけている。	ネット上のセキュリティとマナーの決まりの意図を理解し、より広い範囲で守っている。	ネット上のセキュリティとマナーの決まりを理解し、正しく守っている。	ネット上のセキュリティとマナーの決まりを理解し守っている。	ネット上のセキュリティとマナーを守ろうとする意識が無い。
Microsoft Teamsを利用した受講法	ログインをして、必要なことはすべてできる。また、積極的に活用する姿勢がある。あわせて、周囲の利用者に説明・指導することができる。	ログインをして、必要なことはすべてできる。また、積極的に活用する姿勢がある。	ログインをして、必要なことはすべてできる。	ログインをして基本的な部分は利用できる。	利用する方法がわからない。
Microsoft Wordを使った文書作成	文字入力速度が速く、Wordの機能を利用して、様々な文書やレポートの作成を時間に余裕を持って作成できる。あわせて、周囲の利用者に説明・指導することができる。	文字入力速度が速く、Wordの機能を利用して、様々な文書やレポートの作成を時間に余裕を持って作成できる。	文字入力速度が十分で、Wordの機能を利用して、定型文書作成を制限時間内に作成できる。また、レポートなども作成できる。	文字入力速度が遅いが、Wordの機能を利用して、定型文書作成を時間がかかりながらも作成できる。	文字入力速度が遅く、Wordの機能活用まで至らない。
Microsoft Excelを使ったデータ処理	Excelの様々な操作を自主的に学習し、工夫して効率よく課題を完成させることができる。あわせて、周囲の利用者に説明・指導することができる。	Excelの様々な操作を自主的に学習し、工夫して効率よく課題を完成させることができる。	Excelの基本操作がそつなくできて、時間内に、課題を完成させることができる。	Excelの基本操作ができて、時間がかかりながらも、課題を完成させることができる。	Excelの基本が理解できていないため、課題を完成できない。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	情報基礎演習 (D) (科目ナンバリング: S0F061042)				
授業担当者(所属・職名)	薦田 勇智(経営学科・専任講師)、北嶋 洋一(デザイン学科・教授)	研究室等所在	1号館2階(薦田)・2号館5階(北嶋)		
単位数	1 (単位認定責任者: 薦田 勇智)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『情報リテラシー教科書 Windows 11/Office+Access 2021対応版』	矢野 文彦	オーム社	2022	9784274229664	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション ・シラバスの確認、授業改善アンケートから ・本学のネットワークの利用法	シラバスを読む(45分)	メモやノートを整理する(45分)
2	大学生に必要なネットワーク上のマナー 大学生に必要なネットワークセキュリティ	ネットワーク上のマナーについて調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
3	Microsoft Officeの全般的な設定 Wordの基本操作・書式設定(基本編) ・ファイルの新規作成、保存、文字入力と編集	Microsoft Officeについて調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
4	Wordの基本操作・書式設定(基本編) ・レイアウトとフォーマット、マージンの設定 段落のインデント、テキストの配置	Wordの書式設定について調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
5	Wordによる文書作成 ・ビジネス定型文書の作成1 単純な例文の作成練習	Wordの書式設定について復習する(45分)	操作方法を復習する(45分)
6	Wordによる文書作成 ・ビジネス定型文書の作成2 複雑な例文の作成練習	ビジネス定型文書の作成1について復習する(45分)	操作方法を復習する(45分)
7	Wordによる文書作成 ・レポート作成の基本 表紙、図形、写真、などの画像の挿入方法	ビジネス定型文書の作成2について復習する(45分)	操作方法を復習する(45分)
8	Wordによる文書作成 ・複雑な表紙 ・ページ番号、ヘッダーとフッターの設定	ヘッダーとフッターについて調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
9	Excelの基本的な機能1 ・ファイルの新規作成、保存、文字入力と編集 ・データの入力、編集、削除、セルと書式	Excelの特徴について調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
10	Excelの基本的な機能2 ・罫線の描画、 ・セルのサイズ変更、セルの結合	Excelの計算式と関数について調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
11	Excelの基本的な機能3 ・グラフの作成 ・データ系列、グラフの種類とデザイン	Excelのグラフ作成について調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
12	課題学習1 ・関数(様々な関数) ・様々な表例(デザイン含む)	Excelでよく使われる関数について調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
13	課題学習2 ・データの並び替え ・重複の削除	ソートについて調べる(45分)	操作方法を復習する(45分)
14	課題学習3(数値データサイエンス向け) ・様々なデータの入出力(CSV、SYLK他) ・データの加工	Excelの扱えるデータについて調べる(45分)	操作方法を復習する(45分)
15	定期試験に向けてのふりかえり	授業の全般について復習する(45分)	操作方法を復習する(45分)
16	授業改善アンケートの実施 定期試験(60分) 実技試験(Word、Excel)	全授業内容を確認する(45分)	試験で回答できなかった・自信がない項目について復習する(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	前期	授業形態	演習 必修・選択
科目名称	情報基礎演習 (D-2) (科目ナンバリング: SOF061042)		
授業担当者(所属・職名)		研究室等所在	
単位数	1 (単位認定責任者: )	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		
オフィスアワー			

概要

履修目標

--

授業の位置づけ

--

到達目標

--

授業全体の内容と概要

--

授業の方法

--

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	P B L
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

--

修学サポート(合理的配慮)

--

資格指定科目

--

評価方法・基準

評価前提条件

--

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	前期	授業形態	演習 必修・選択
科目名称	情報基礎演習 (D-2) (科目ナンバリング: SOF061042)		
授業担当者(所属・職名)		研究室等所在	
単位数	1 (単位認定責任者: )	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	建築学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	情報基礎演習 (A) (科目ナンバリング: SOF061042)				
授業担当者(所属・職名)	薦田 勇智(経営学科・専任講師)、伊藤 裕康(建築学科・教授)	研究室等所在	1号館2階(薦田)・2号館8階(伊藤)		
単位数	1 (単位認定責任者: 薦田 勇智)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

- ・インターネットを利用する際のセキュリティやマナーに配慮した利用方法を学ぶ。
- ・Microsoft Teamsを利用したオンライン授業の受け方と、課題の回答方法について学ぶ。
- ・PCによる文書とデータの処理について理解し、適切なかたちで利用する方法を学ぶ。
- ・「数値・データサイエンス」を理解する上で必要な基本的な素養を身につける。

授業の位置づけ

建築学科のDP(2)に対応する。

到達目標

- ・ネット上のセキュリティやマナーを理解し、他の利用者に配慮しながら、安心安全に利用できる。
- ・Microsoft Teamsを利用したオンラインまたは対面の受講ができる。
- ・Microsoft Wordを使った文書作成を学び、他の講義や、レポート、卒業論文に活用できる。
- ・Microsoft Excelを使ったデータ処理を学び、他の講義や、レポート、卒業論文に活用できる。

授業全体の内容と概要

- ・本学のネットワークの利用法とマナーについて説明する。
- ・実習前半では、Microsoft Wordを使った、文書処理(定型文書やレポートの作成等)を学ぶ。
- ・実習後半では、Microsoft Excelを使った、計算やデータの処理について学ぶ。
- ・本科目は、情報リテラシー教育の関連授業科目である。
- ・本科目は、以下のSDGs関連授業科目である。  
「SDGs4:質の高い教育をみんなに」  
「SDGs9:産業と技術革新の基盤をつくろう」

授業の方法

- ・ICTを活用した講義体制となる。
- ・解説・演習時は、大型モニターに教材(スライド資料等)を提示しながら行う。
- ・Microsoft Teamsを利用して課題提示、提出を求めらる。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

- ・実習時は、大学に備え付けのPCの他、自己所有のノートPC(Windows/Mac)を使用してもよい。
- ・自己所有のノートPCを使用する場合は、Microsoft Officeを使えるように準備すること。(大学から無償で提供)。
- ・課題作成については著作権等の盗用(剽窃)無きよう、十分配慮すること。
- ・不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(全教科)必須科目

評価方法・基準

評価前提条件

- ・単位認定に必要な最低出席回数は13回以上。
- ・遅刻及び早退は20分までを限度とし、それ以上の場合は欠席とみなす。
- ・課題提出期限を過ぎて提出した場合は、当該課題の採点結果から減点する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
50%	-	50%	-	-	-

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ネット上のセキュリティとマナーの理解	ネット上のセキュリティとマナーの決まりの意図を理解し、自分が守るだけでなく周囲にも働きかけている。	ネット上のセキュリティとマナーの決まりの意図を理解し、より広い範囲で守っている。	ネット上のセキュリティとマナーの決まりを理解し、正しく守っている。	ネット上のセキュリティとマナーの決まりを理解し守っている。	ネット上のセキュリティとマナーを守ろうとする意識が無い。
Microsoft Teamsを利用した受講法	ログインをして、必要なことはすべてできる。また、積極的に活用する姿勢がある。あわせて、周囲の利用者に説明・指導することができる。	ログインをして、必要なことはすべてできる。また、積極的に活用する姿勢がある。	ログインをして、必要なことはすべてできる。	ログインをして、基本的な部分は利用できる。	利用する方法がわからない。
Microsoft Wordを使った文書作成	文字入力速度が速く、Wordの機能を利用して、様々な文書やレポートの作成を時間に余裕を持って作成できる。あわせて、周囲の利用者に説明・指導することができる。	文字入力速度が速く、Wordの機能を利用して、様々な文書やレポートの作成を時間に余裕を持って作成できる。	文字入力速度が十分で、Wordの機能を利用して、定型文書作成を制限時間内に作成できる。また、レポートなども作成できる。	文字入力速度が遅いが、Wordの機能を利用して、定型文書作成を時間がかかりながらも作成できる。	文字入力速度が遅く、Wordの機能活用まで至らない。
Microsoft Excelを使ったデータ処理	Excelの様々な操作を自主的に学習し、工夫して効率よく課題を完成させることができる。あわせて、周囲の利用者に説明・指導することができる。	Excelの様々な操作を自主的に学習し、工夫して効率よく課題を完成させることができる。	Excelの基本操作がそつなくできて、時間内に、課題を完成させることができる。	Excelの基本操作ができて、時間がかかりながらも、課題を完成させることができる。	Excelの基本が理解できていないため、課題を完成できない。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	建築学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	情報基礎演習 (A) (科目ナンバリング: S0F061042)				
授業担当者(所属・職名)	薦田 勇智(経営学科・専任講師)、伊藤 裕康(建築学科・教授)	研究室等所在	1号館2階(薦田)・2号館8階(伊藤)		
単位数	1 (単位認定責任者: 薦田 勇智)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『情報リテラシー教科書 Windows 11/Office+Access 2021対応版』	矢野 文彦	オーム社	2022	9784274229664	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション ・シラバスの確認、授業改善アンケートから ・本学のネットワークの利用法	シラバスを読む(45分)	メモやノートを整理する(45分)
2	大学生に必要なネットワーク上のマナー 大学生に必要なネットワークセキュリティ	ネットワーク上のマナーについて調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
3	Microsoft Officeの全般的な設定 Wordの基本操作・書式設定(基本編) ・ファイルの新規作成、保存、文字入力と編集	Microsoft Officeについて調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
4	Wordの基本操作・書式設定(基本編) ・レイアウトとフォーマット、マージンの設定 段落のインデント、テキストの配置	Wordの書式設定について調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
5	Wordによる文書作成 ・ビジネス定型文書の作成1 単純な例文の作成練習	Wordの書式設定について復習する(45分)	操作方法を復習する(45分)
6	Wordによる文書作成 ・ビジネス定型文書の作成2 複雑な例文の作成練習	ビジネス定型文書の作成1について復習する(45分)	操作方法を復習する(45分)
7	Wordによる文書作成 ・レポート作成の基本 表紙、図形、写真、などの画像の挿入方法	ビジネス定型文書の作成2について復習する(45分)	操作方法を復習する(45分)
8	Wordによる文書作成 ・複雑な表組 ・ページ番号、ヘッダーとフッターの設定	ヘッダーとフッターについて調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
9	Excelの基本的な機能1 ・ファイルの新規作成、保存、文字入力と編集 ・データの入力、編集、削除、セルと書式	Excelの特徴について調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
10	Excelの基本的な機能2 ・罫線の描画、 ・セルのサイズ変更、セルの結合	Excelの計算式と関数について調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
11	Excelの基本的な機能3 ・グラフの作成 ・データ系列、グラフの種類とデザイン	Excelのグラフ作成について調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
12	課題学習1 ・関数(様々な関数) ・様々な作表例(デザイン含む)	Excelでよく使われる関数について調べる(45分)	メモやノートを整理する(45分)
13	課題学習2 ・データの並び替え ・重複の削除	ソートについて調べる(45分)	操作方法を復習する(45分)
14	課題学習3(数値データサイエンス向け) ・様々なデータの入出力(CSV、SYLK他) ・データの加工	Excelの扱えるデータについて調べる(45分)	操作方法を復習する(45分)
15	定期試験に向けてのふりかえり	授業の全般について復習する(45分)	操作方法を復習する(45分)
16	授業改善アンケートの実施 定期試験(60分) 実技試験(Word、Excel)	全授業内容を確認する(45分)	試験で回答できなかった・自信がない項目について復習する(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	基礎英語 (M) (科目ナンバリング: ENL041029)				
授業担当者(所属・職名)	信濃 吉彦(経営学科・教授)	研究室等所在	2号館6階		
単位数	2 (単位認定責任者: 信濃 吉彦)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前のケーボードまたは連絡用ホワイトボードにて確認すること。				

概要

履修目標

国際化が高度に進行した現代において、国際共通言語としての英語の基礎を構造的に理解することを目指す。具体的には翻訳アプリが身近にない状態でも基本的なコミュニケーションを行うことができる土台(基礎的文法理解)の構築を目指す。

授業の位置づけ

経営学科のDP(2)(4)に対応する。

到達目標

「辞書さえあれば英語は大丈夫!」といった自信を持つことができる。

授業全体の内容と概要

動詞(特に動詞と名詞)を中心とした言語構造(5文型)と様々な場面における基礎表現を身につける。  
\*Sdc 4. 質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

講義形式で授業を行い教科書やハンドアウトを利用して英語の構造について学習しながら指定アプリを活用して単語数や日常表現を増やす活動を行う。  
指定翻訳アプリ: VoiceTra  
<VoiceTra(ボイストラ)はNICT(エヌアイシーティ: 国立研究開発法人情報通信研究機構)が、言葉の壁の克服を目指して開発したスマートフォン用の無料多言語音声翻訳アプリです。>

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模範授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

平常点を重視する。平常点とは出席・授業参加度・授業記録のことを指す。遅刻は20分までとし2回の遅刻を以って欠席1回とする。特別な理由のない20分以上の遅刻は欠席扱いとする。また中間試験の代わりに英語に関するレポート課題を複数回実施し採用する。不測の事態の際にオンライン授業を実施する可能性がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。特に、1回目の授業(科目オリエンテーション)終了後に必ず研究室を訪問し相談すること。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

講義による授業形態を採る。教科書・ノート・筆記具を持ってこない学生は欠席とする。また、教科書のない学生は評価の対象としない。12回以上の出席を基準とし10回の出席を確保できないものは再履修とする。平常点にはノートチェックと授業参加度を含む。前向きな課題の提出には、加点する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	0%	20%	0%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	定期試験で90点以上の得点を挙げた。	定期試験で80点以上の得点を挙げた。	定期試験で70点以上の得点を挙げた。	定期試験で60点以上の得点を挙げた。	定期試験で60点をクリアすることができなかった。
思考力・判断力・表現力	積極的に課題に取り組み、実際の場面で必要となる語彙・表現に取り組み、十分なコミュニケーション能力を獲得するための土台がほぼ完成を見た。	与えられた課題に取り組み、自分が出会う場面を想定し、コミュニケーションをとる土台が出来つつあった。	与えられた課題に取り組み、日々の生活で使用頻度の高い語彙を調べたし、辞書を有効に活用してコミュニケーションの土台づくりの努力が見られた。	与えられた課題に取り組み、語彙力をつける努力は認められるがなかなか定着していない。	課題への取り組みが不十分で、語彙力の進歩が見られず、翻訳アプリがないと何もしない。
主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら課題解決に取り組み、余った時間をさらなる語彙力・表現力の充実に振り分けていた。	授業中の質問が多く、学習方法や調査結果などの相談も常であり国際言語獲得に関して前向きで、努力が見られた。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がつかがわれた。	何とか課題はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、ノートも板書の範囲を超えない。	自分から進んで国際言語を身につけようとする姿勢が見られない。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	基礎英語 (M) (科目ナンバリング: ENL041029)				
授業担当者(所属・職名)	信濃 吉彦(経営学科・教授)	研究室等所在	2号館6階		
単位数	2 (単位認定責任者: 信濃 吉彦)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『カラー改訂版 世界一わかりやすい英文法の授業』	関 正生	株式会社KADOKAWA	2021	9784046022882	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『よくわかる英語の基本』基本文型・文と文の結びつき	澤井 康佑 著	株式会社 開拓社	2015	9784758915304	
2						
3						
4						
5						

授業計画

各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間			
回	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション: シラバスの説明 英語の構造に関する基本的な考え方 授業改善アンケート結果に関する説明	専用のノートを準備する(90分)	自分の弱点確認(90分)
2	英語と日本語の違い&英語の基本文型	テキストの指定範囲を読む(90分)	ノートの作成。課題・宿題(90分)
3	英語の基本文型	テキストの指定範囲を読む(90分)	ノートの作成。課題・宿題(90分)
4	英語の基本文型	テキストの指定範囲を読む(90分)	ノートの作成。課題・宿題(90分)
5	英語の動詞とその使い方	テキストの指定範囲を読む(90分)	ノートの作成。課題・宿題(90分)
6	英語の動詞とその使い方	テキストの指定範囲を読む(90分)	ノートの作成。課題・宿題(90分)
7	品詞に関するイメージ	テキストの指定範囲を読む(90分)	ノートの作成。課題・宿題(90分)
8	品詞に関するイメージ	テキストの指定範囲を読む(90分)	ノートの作成。課題・宿題(90分)
9	英文の構造を理解する	テキストの指定範囲を読む(90分)	ノートの作成。課題・宿題(90分)
10	英文の構造を理解する	テキストの指定範囲を読む(90分)	ノートの作成。課題・宿題(90分)
11	英文の構造を理解する	テキストの指定範囲を読む(90分)	ノートの作成。課題・宿題(90分)
12	時制	テキストの指定範囲を読む(90分)	ノートの作成。課題・宿題(90分)
13	時制	テキストの指定範囲を読む(90分)	ノートの作成。課題・宿題(90分)
14	不定詞・動名詞・分詞のイメージ	テキストの指定範囲を読む(90分)	ノートの作成。課題・宿題(90分)
15	不定詞・動名詞・分詞のイメージ テストリビュー 授業改善アンケートの実施	テキストの指定範囲を読む(90分)	期末試験に備える(90分)
16	試験(60分)及び授業総評(30分)	試験準備(150分)	授業内容の振り返り(90分)

各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間			
回	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	基礎英語 (M) (科目ナンバリング: ENL041029)				
授業担当者(所属・職名)	岡島 徳昭(経営学科・特任教授)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 岡島 徳昭)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

文法、読解、作文などの演習をとおし英語の運用能力を向上させるとともに、異文化理解を深め、総合的なコミュニケーション能力を身につける。

授業の位置づけ

経営学科のDP(2)(4)に対応する。

到達目標

基礎的文法や構文を復習し、英文読解、作文力を身につけ、同時に英語によるコミュニケーション能力を高める。

授業全体の内容と概要

英文を読み読解力、語彙力を培う。文法、構文の復習を通し、英語運用能力の向上を図る。  
「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

板書、CDを用い、「聞く」「書く」「話す」「読む」の4技能向上を目指し、学生参加型授業を展開する。中間テスト、定期試験に対する答え合わせ等のフィードバックを実施する。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

出席重視。テキスト・辞書持参  
不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

成績評価には10回以上の出席が必要。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
40%	0%	0%	40%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能(発音・語彙・文法・読解等)	定期試験・中間試験で9割以上、文法・語彙に誤りがなく正確に理解していた。	定期試験・中間試験で8割以上、文法・語彙に誤りがほとんどなく大体理解できた。	定期試験・中間試験で7割以上、文法・語彙に若干誤りがあるが理解していた。	定期試験・中間試験で6割以上、文法・語彙に誤りがあり理解できない部分があった。	定期試験・中間試験で6割以下、文法・語彙に誤りが多く理解に問題があった。
思考力・判断力・表現力	表現方法が適切であり誤りがほとんどなかった。	表現方法はほぼ適切で、小さな誤りが若干ある程度だった。	誤りがあるが、表現方法において誤解を生じるほどの大きな誤りはなかった。	表現方法に誤りがあり、自分の意思を伝えることに支障をきたす点があった。	表現方法に誤りが目立ち、自分の意思が伝わらなかった。
参加型授業への取り組み姿勢	大いに意欲・関心・興味を持って授業に参加していた。クラスでの発表も多く積極的だった。	意欲・関心・興味を持って授業に参加していた。クラスでの発表に努め積極的だった。	ある程度意欲・関心・興味を持って授業に参加していた。やや積極的だった。	あまり意欲・関心・興味を感じられなかった。無難に授業を消化していた。やや積極性に欠けていた。	全く意欲・関心・興味を感じられなかった。遅刻・欠席が目立った。積極性に欠けていた。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	基礎英語 (M) (科目ナンバリング: ENL041029)				
授業担当者(所属・職名)	岡島 徳昭(経営学科・特任教授)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 岡島 徳昭)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『英検準2級 合格への道』	坂部俊行, 岡島徳昭 他	南雲堂	2011	9784523176763	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	授業の進め方, 採点に関すること, その他授業に関するガイダンス。(シラバスの説明) Practice Test	シラバスを読むこと。(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
2	Lesson 1 語句空所補充 読解の基礎練習 E-mail	指示されたリーディングアサシメントと単語学習。(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
3	Lesson 1 語句空所補充 読解の基礎練習 E-mail	指示されたリーディングアサシメントと単語学習。(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
4	Lesson 2 語句空所補充 読解の基礎練習 A Large Family	指示されたリーディングアサシメントと単語学習。(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
5	Lesson 2 語句空所補充 読解の基礎練習 A Large Family	指示されたリーディングアサシメントと単語学習。(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
6	Lesson 3 語句空所補充 読解の基礎練習 Robots that Appear	指示されたリーディングアサシメントと単語学習。(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
7	Lesson 3 語句空所補充 読解の基礎練習 Robots that Appear	指示されたリーディングアサシメントと単語学習。(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
8	中間テスト	試験の準備学習。(90分)	試験の復習。(90分)
9	Lesson 4 語句空所補充 読解の基礎練習 Lighthouse Homes	指示されたリーディングアサシメントと単語学習。(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
10	Lesson 4 語句空所補充 読解の基礎練習 Lighthouse Homes	指示されたリーディングアサシメントと単語学習。(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
11	Lesson 5 語句空所補充 読解の基礎練習 E-mail	指示されたリーディングアサシメントと単語学習。(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
12	Lesson 5 語句空所補充 読解の基礎練習 E-mail	指示されたリーディングアサシメントと単語学習。(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
13	Lesson 6 語句空所補充 読解の基礎練習 Virtual Reality	指示されたリーディングアサシメントと単語学習。(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
14	Lesson 6 語句空所補充 読解の基礎練習 Virtual Reality	指示されたリーディングアサシメントと単語学習。(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
15	全体復習 Simulation Test (P74-5)	指示されたリーディングアサシメントと単語学習。(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
16	総合評価 定期試験60分、解説30分 授業改善アンケートの実施	指示されたリーディングアサシメントと単語学習。(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	基礎英語 (M) (科目ナンバリング: ENL041029)				
授業担当者(所属・職名)	石田 暁子(非常勤講師)	研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 石田 暁子)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。				

概要

履修目標
------

英文法の基本を理解し、練習問題による練習を通して発音と共に身につける。自ら英語で発信できるようになる。

授業の位置づけ

経営学科のD P ( 2 ) に対応する。

到達目標

8 身近な英語の語彙を覚え、文法の基礎を理解する。英文を読むことができる。

授業全体の内容と概要

英文法の解説、練習問題、リーディングの構成で、簡単な事柄からより高度な内容へと段階的に学んでいく。  
「Sbc 4. 質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

講義形式で、最重要事項を板書することによって注意を促し、じっくりと確実に反復学習を進める。発音練習にも力を入れる。各自の理解度を高めるため、授業では毎回できるだけ多くの学生を指名し、解答を聞く。テキストのリーディングパートについては必ず予習で翻訳していただくことを課題とする。学生は授業で自分の訳に間違いがないかどうかを確認し、最後にまとめたものを教員が最終チェックして返却する。これも評価の対象となる。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	P B L
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

教科書を必ず用意すること。同じ名称のクラスが複数あるので、自分のクラスを間違えないよう、確認の上、履修登録すること。教科書も異なるので購入時に注意が必要。  
・不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる出席回数は、10回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
40%	0%	30%	0%	30%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
英文法の理解度	授業の範囲を超え、関連事項への興味があった。また、自分から発信する意欲が見られる。	授業内容をほぼ理解している。	基本的な文法事項の理解はできていたが、より複雑な事項になると不安がある。	基本的な事項のみ理解できている。	基本的な事項が身につけていない。
練習問題や発音練習の参加度	積極的に参加し、授業の進行に貢献していた。	説明をよく聞き、発音練習や練習問題にも真剣に取り組んだ。ミス指摘された際、自分で訂正することができ、向上が認められた。	発音練習や練習問題に真剣に取り組んだ。	自分の力で問題を解くことをあきらめてしまっていたが、解答を聞いた後に理解しようとする努力がみられた。	授業中の活動に集中できなかった。
課題(英文和訳)への取り組み	予め語や語句の意味を調べ、英文の訳を試みた。疑問点を自覚した上で授業に臨み、解決することができた。	予習にきめ細かさはないが、ほぼ満足な訳ができた。	毎回予習をせず、復習によって挽回を図ることもあった。	復習だけのことが多く、課題は提出したが、期限を守ることができなかった。	課題を提出しなかった。



基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	基礎英語 (M) (科目ナンバリング: ENL041029)				
授業担当者(所属・職名)	石田 暁子(非常勤講師)		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室	
単位数	2 (単位認定責任者: 石田 暁子)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『英文法の基礎理解』	高橋 哲徳 他	朝日出版社	2017	9784255155975	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『英和辞典』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスの説明 be動詞の種類・意味・否定文・疑問文	テキストp.2-5予習(90分)	授業内容復習(90分)
2	Reading Practice 英文の日本語訳	テキストp.6 予習(90分)	授業内容復習(90分)
3	一般動詞の種類・語形変化・否定文・疑問文	テキストp.8-11 予習(90分)	授業内容復習(90分)
4	Reading Practice 英文の日本語訳	テキストp.12 予習(90分)	授業内容復習(90分)
5	疑問詞を用いた疑問文の作り方	テキストp.14-16 予習(90分)	授業内容復習(90分)
6	Reading Practice 英文の日本語訳	テキストp.17予習(90分)	授業内容復習(90分)
7	進行形の基本・否定文・疑問文	テキストp.19-21 予習(90分)	授業内容復習(90分)
8	Reading Practice 英文の日本語訳	テキストp.22 予習(90分)	授業内容復習(90分)
9	未来形の表現・否定文・疑問文	テキストp.24-26 予習(90分)	授業内容復習(90分)
10	Reading Practice 英文の日本語訳	テキストp.27 予習(90分)	授業内容復習(90分)
11	完了形の種類・基本・用法・否定文・疑問文	テキストp.29-34 予習(90分)	授業内容復習(90分)
12	Reading Practice 英文の日本語訳	テキストp.35 予習(90分)	授業内容復習(90分)
13	基本的な前置詞と代名詞の格変化	テキストp.36-39 予習(90分)	授業内容復習(90分)
14	Reading Practice 英文の日本語訳	テキストp.40 予習(90分)	授業内容復習(90分)
15	総復習・要点整理	期末試験準備(90分)	期末試験準備(90分)
16	授業改善アンケートの実施 期末試験(60分)・解説(30分)	期末試験準備(90分)	期末試験内容復習(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	基礎英語 (M) (科目ナンバリング: ENL041029)				
授業担当者(所属・職名)	井坂 肇(経営学科・助教)		研究室等所在	1号館3階	
単位数	2 (単位認定責任者: 井坂 肇)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標
------

英文法の基本を理解し、練習問題による練習を通して英語の運用・使い方の基礎を身につける。自ら英語で発信できるようになる。

授業の位置づけ

経営学科のDP(1)(2)(4)に対応する。

到達目標

身近な英語の語彙・イディオムを習得し、英文法の基礎を理解できる。また、平素な英文の読解ができ、簡単な英文の作成ができるようになる。

授業全体の内容と概要

所定のテキストに基づき、文法事項の解説を加えながら、各項目の練習問題を解き文法事項の定着を図る。  
「SDG4・質の高い教育をみんなに」の関連科目。世界市民としての意識、さまざまな文化があることなどを理解できる教育をすすめる。

授業の方法

講義形式で授業を行い、教科書やパワーポイントを使用しながら、じっくりと確実に反復学習を進める。英文の暗記によって英語で発信する力の向上を狙う。文法事項の定着を図るため、講義中に演習課題を行い双方向システムを活用する。さらにはMicrosoft Formsの小テストから学生全体の理解度を把握し、指導する。学生の不明点・質問は、チャット形式などの支援システムで迅速に回答する。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業	○	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

- ・15分以上の遅刻は欠席とみなす
- ・遅刻2回で欠席1回とする
- ・授業には必ずテキストを持参すること。
- ・不足の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。参考資料の配布方法や事前提供などについて配慮する。講義中の録音・録画・撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
50%	0%	40%	0%	10%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
定期試験	定期試験で90点以上の得点を上げた。	定期試験で75点以上の得点を上げた。	定期試験で60点以上の得点を上げた。	定期試験で50点以上の得点を上げた。	定期試験で50点をクリアすることができなかった。
英文法の理解度	基礎的な英文をしっかりと書くことができた。	基礎的な英文をほぼ正確に書くことができた。	基礎的な短い英文を大体書けた。	指示によって、基礎的な短い英文を書けた。	指示によって、基礎的な短い英文を書くことができなかった。
授業に対する取り組み	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協同性に関しては期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協同性に関しては期待されるレベルを十分に達成することができた。	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協同性に関しては期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協同性に関しては最低限で達成できるレベルにとどまった。	与えられた課題に取り組まなかった。積極性や協同性に関しては最低限のレベルに到達することができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	基礎英語 (M) (科目ナンバリング: ENL041029)				
授業担当者(所属・職名)	井坂 肇(経営学科・助教)		研究室等所在	1号館3階	
単位数	2 (単位認定責任者: 井坂 肇)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『English Day! やさしい英語でまるごと1日過ごしてみる』	Robert Hickling	金星堂	2023	9784764741690	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明	事前にシラバスを読んでおく (90分)	シラバスの内容を確認し、授業準備を行う (90分)
2	Unit 1 現在時制 (be動詞) 単語テスト	Unit 1の予習 (90分)	授業内容復習 (90分)
3	Unit 1 現在時制 (be動詞) 文法テスト	Unit 1の予習 (90分)	授業内容復習 (90分)
4	Unit 2 現在時制 (一般動詞) 単語テスト	Unit 2の予習 (90分)	授業内容復習 (90分)
5	Unit 2 現在時制 (一般動詞) 文法テスト	Unit 2の予習 (90分)	授業内容復習 (90分)
6	Unit 3 名詞 単語テスト	Unit 3の予習 (90分)	授業内容復習 (90分)
7	Unit 3 名詞 文法テスト	Unit 3の予習 (90分)	授業内容復習 (90分)
8	Unit 4 代名詞 単語テスト	Unit 4の予習 (90分)	授業内容復習 (90分)
9	Unit 4 代名詞 文法テスト	Unit 4の予習 (90分)	授業内容復習 (90分)
10	Unit 5 前置詞 単語テスト	Unit 5の予習 (90分)	授業内容復習 (90分)
11	Unit 5 前置詞 文法テスト	Unit 5の予習 (90分)	授業内容復習 (90分)
12	Unit 6 WH疑問文 単語テスト	Unit 6の予習 (90分)	授業内容復習 (90分)
13	Unit 6 WH疑問文 文法テスト	Unit 6の予習 (90分)	授業内容復習 (90分)
14	Unit 7 過去時制 (be動詞と一般動詞) 単語テスト	Unit 7の予習 (90分)	授業内容復習 (90分)
15	Unit 7 過去時制 (be動詞と一般動詞) 文法テスト	Unit 7の予習 (90分)	授業内容復習 (90分)
16	期末試験(60分)・解説(30分) 授業改善アンケートの実施	期末試験準備 (90分)	期末試験内容復習 (90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目		対象学科・配当	社会福祉学科・1年、デザイン学科・1年、建		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修	
科目名称	基礎英語 (S・D・A) (科目ナンバリング: ENL041029)					
授業担当者(所属・職名)	西崎 毅(社会福祉学科・特任教授)		研究室等所在	2号館6階		
単位数	2 (単位認定責任者: 西崎 毅)	CAP制				
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	高等学校の英語科教員、英語教育改革に係る指導行政担当者としての経験及び国際交流に関する実務経験を活用し、英語の基礎事項を講義する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標	英語の統語構造を理解するとともに、実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付ける。目的や場面、状況などに応じて情報や考えなどを理解し、表現し、伝えあうことができる力を身に付ける。主体的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付ける。
------	--

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP(2)(4)に対応する。  
デザイン学科のDP(2)(4)に対応する。  
建築学科のDP(2)(4)に対応する。

到達目標

英語の5つの文型についてその概要を理解できる。  
修飾語・句・前についてその概要を理解できる。  
英語で簡単な説明を行うことができる。英語を読んだり聞いたりしてその概要を理解することができる。

授業全体の内容と概要

英語がどのような構造で成立しているのか、その法則性はどのようになっているのかについて理解し、相手が発する英語を理解したり、自分の考えを英語で表現したりすることができる能力を育成するために必要な事項を説明するとともに、知識や技能の定着のための演習を行う。英語の四技能をバランスよく育成するため、リスニングの演習や発表活動等を行う。学修集団の英語への興味・関心・習熟度等により、シラバスに記載した学修内容を再構成する場合がある。「SO6.4 高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業は原則として英語で行うほか、毎回リスニング演習を行う。一方的な講義とならないよう、学生による発表やグループ活動を行う。学生の理解に資するよう、プリントや教材提示装置を活用して説明を行う。学修内容の確実な定着を図るため、毎時間質問の時間を設定する。課題や発表に対しては口頭及びコメントにて評価のフィードバックを行う。要望については口頭及びメール等で対応する。Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、小テスト、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

○講義の前後に行う学修課題を課すので真剣に取り組むこと。  
プリント類は、ファイル等に綴って適切に管理し、学修に役立てること。  
欠席した場合は、Microsoft Teams上に格納したファイルを活用しプリント等を入手すること。  
講義中の私語・居眠り等は厳に慎むこと。  
講義中のスマートフォンの使用は英単語の検索など英語学習に関わるものに限定する。  
講義開始のチャイム後、教員入室以降の入室は、すべて「遅刻」の扱いとする。  
講義開始時刻までに用度を済ませておくこと。  
30分以上の「遅刻」は、「欠席」扱いとする。  
受講姿勢及び課題の実施状況はすべて点数化・集積し、評価に活用する。  
S評価は全体の10%、S評価とA評価を合わせて40%以内が目安となっている。  
私語、スマートフォンの目的外使用、居眠り等の授業妨害については、別途評価点を減じる。

修学サポート(合理的配慮)	事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目	

評価方法・基準

評価前提条件	単位認定に必要な最低出席回数は11回。					
評価方法	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
	60%	0%	0%	0%	40%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあたるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	定期試験で9割以上の得点を上げた。	定期試験で8割以上の得点を上げた。	定期試験で7割以上の得点を上げた。	定期試験で6割以上の得点を上げた。	定期試験で得点が6割に満たなかった。
思考力・判断力・表現力等	与えられた課題に積極的に取り組んだ。英語を使用したコミュニケーションに関して期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。英語を使用したコミュニケーションに関して期待されるレベルを十分に達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。英語を使用したコミュニケーションに関して期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。英語を使用したコミュニケーションに関して期待されるレベルにとどまった。	与えられた課題に取り組まなかった。英語を使用したコミュニケーションに関して期待される最低限のレベルに到達することができなかった。
主体性・協働性	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協働性に関しては期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては期待されるレベルを十分に達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に取り組まなかった。積極性や協働性に関しては期待される最低限のレベルに到達することができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年、デザイン学科・1年、建		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	基礎英語 (S・D・A) (科目ナンバリング: ENL041029)				
授業担当者(所属・職名)	西崎 毅(社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	2号館6階		
単位数	2 (単位認定責任者: 西崎 毅)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	高等学校の英語科教員、英語教育改革に係る指導行政担当者としての経験及び国際交流に関する実務経験を活用し、英語の基礎事項を講義する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『英文法から学ぶ基本英語 Polish Up Your English』	登美 博之 / Bill Benfield	成美堂	2015	9784791900701	
2	『リスニング教材は別途購入案内する。』					
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション(シラバスの説明を含む) 文の構造(動詞と5文型) 授業改善アンケート結果反映の説明	英語についての自己の課題を考えておくこと。(90分)	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。(90分)
2	文型(S+V)、文型(S+V+C)、文型(S+V+O) リスニング演習	前時に課された事前課題を行い提出すること。(90分)	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。(90分)
3	文型と修飾語句(形容詞、副詞) リスニング演習	前時に課された事前課題を行い提出すること。(90分)	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。(90分)
4	文型(S+V+O)、文型(S+V+O+C) リスニング演習	前時に課された事前課題を行い提出すること。(90分)	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。(90分)
5	5文型の総復習 リスニング演習	前時に課された事前課題を行い提出すること。(90分)	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。(90分)
6	文の要素と名詞相当語・句・節 リスニング演習	前時に課された事前課題を行い提出すること。(90分)	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。(90分)
7	文の要素と名詞相当語・句・節 リスニング演習	前時に課された事前課題を行い提出すること。(90分)	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。(90分)
8	文の要素と名詞相当語・句・節 リスニング演習・英語による発表	前時に課された事前課題を行い提出すること。(90分)	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。(90分)
9	文の要素と形容詞相当語・句・節 リスニング演習・英語による発表	前時に課された事前課題を行い提出すること。(90分)	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。(90分)
10	文の要素と形容詞相当語・句・節 リスニング演習・英語による発表	前時に課された事前課題を行い提出すること。(90分)	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。(90分)
11	文の要素と形容詞相当語・句・節 リスニング演習・英語による発表	前時に課された事前課題を行い提出すること。(90分)	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。(90分)
12	文の要素と副詞相当語・句・節 リスニング演習・英語による発表	前時に課された事前課題を行い提出すること。(90分)	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。(90分)
13	文の要素と副詞相当語・句・節 リスニング演習・英語による発表	前時に課された事前課題を行い提出すること。(90分)	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。(90分)
14	文の要素と副詞相当語・句・節 リスニング演習・英語による発表	前時に課された事前課題を行い提出すること。(90分)	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。(90分)
15	文の構造の総復習 リスニング演習・英語による発表 授業改善アンケートの実施	前時に課された事前課題を行い提出すること。(90分)	前回までの学修内容を復習すること。(90分)
16	60分の試験終了後、残りの30分で解説を行う。	前回までの学修内容を復習すること。(90分)	試験結果を参考に自らの学修姿勢を評価する。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年、デザイン学科・1年、建		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	基礎英語 (S・D・A) (科目ナンバリング: ENL041029)				
授業担当者(所属・職名)	宮嶋 達也(デザイン学科・教授)	研究室等所在	2号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者: 宮嶋 達也)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

グローバル化に対応し、多様な人と協働するための表現力やコミュニケーション力を学ぶための英語科目であり、講義と演習(ペアワークとグループワーク)を通じて英語コミュニケーションを学ぶ。文法ベースで初級から徐々に積み上げることで、最終的にはコミュニケーションに生かせる力を身につける。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP(2)に対応する。  
社会福祉学科のDP(2)に対応する。  
建築学科のDP(2)に対応する。

到達目標

文法やリスニングを中心にやさしい英語で書かれた文での練習を通じて、英文がどのような構成要素から成り立っているのかを明確に把握する。英会話に最低限必要な語彙力、文法力を身につけて、スピーキング、ライティングなどのアウトプットへの発展を意図する。英語で5分間またはそれ以上、身近なトピックや関心事について、自分の考えや意見を詳しく述べるができる。

授業全体の内容と概要

既存の英語知識を活用させ、スピーキング能力およびスキルを身につけることに焦点を当てるが、4技能を結びつけて総合的に英語力を向上させる授業を行う。最低限必要な語彙力や文法力を身につけながら、テキスト中の表現を利用し、様々なコミュニケーションの構造(挨拶、スモール・トーク、質問する、意見を述べる)を理解し、表現することを目標とする。

授業の方法

授業では英語によるコミュニケーションへ接続するための運用能力を身に付けることを目的とする。テキストの練習問題を解き、疑問点などは個々に対応、或いはクラス全体への解答を解説し学生へのフィードバックを行う。授業中の発表、ペアやグループワーク、ロールプレイでの活動を取り入れ、コミュニケーション能力向上のために、積極的かつ協力的に行う。テキストの音声ファイルを無料でダウンロードし自習音声として活用する。NAU'UN-DO(http://nanun-do.com)提供

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

15分以上の遅刻は欠席とみなします。遅刻2回で欠席1回とします。授業には必ずテキスト、辞書を持参すること。テキストを忘れ、授業前に申し出ない場合は欠席扱いとする。授業計画に基づき、事前に各回の授業範囲の単語などの意味を調べておくこと。授業を休んだ場合は、次の授業までに、休んだ回の授業内容を担当教員又はクラスメートに確認し、課題など必要な情報を入手してください。不測の事が起きた際にオンライン授業を実施する場合があります。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定の必要となる最低出席回数は10回以上とする。授業の参加姿勢も評価の対象になります。授業活動に積極的に参加することで、授業外での学習成果を実感できます。予習と復習は授業の内容を理解し、学習効果を上げるために必要です。積極的に授業に参加するようにしてください。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
50%	0%	0%	20%	20%	10%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあたるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
授業の理解度	授業内容を超えた学修が認められる	授業内容を十分に理解している	授業内容を理解している	授業内容の理解に不足がある	授業内容を理解していない
英語表現能力(スピーキング)	優れた創造的表現を行うことができる	文献等を参考としながら、創造的表現を行うことができる	自在に定型的表現を行うことができる	与えられた条件を満たした最低限度の表現を行うことができる	与えられた条件を満たした最低限度の表現を行うことができない
授業の積極的参加	授業全体の流れを理解し、質問・問題提起により授業展開に貢献する	授業全体の流れを理解し、発問に対して積極的に応じる	発問に対して、指名されれば正しく応じることができる	授業に集中して理解しようとする態度が見られる	授業に集中できず、授業放棄の態度が見られる
事前・事後学修	自ら進んで学修範囲を超えて調べている	学修範囲を十分に調べて、授業内容を他人に説明できる	学修範囲の理解に曖昧な点がある	指示された範囲の事前・事後学修はするが、理解が不十分である	指示された範囲の事前・事後学修をほとんどせず理解が不十分である。
リスニング技能	授業内で取り扱った単語・表現を完璧に習得し、リスニング技能を問題なく正確に運用できる	授業内で取り扱った単語・表現の大部分を習得し、リスニング技能を正確に運用できる。	授業内で取り扱った単語・表現の大部分を習得し、リスニング技能をほぼ正確に運用できる。	授業内で取り扱った単語・表現を部分的に習得しているが、リスニング技能の運用に不適切な部分が見受けられる。	授業内で取り扱った単語・表現の習得が不十分であり、リスニング技能の運用に不正確さが目立つ。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年、デザイン学科・1年、建		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	基礎英語 (S・D・A) (科目ナンバリング: ENL041029)				
授業担当者(所属・職名)	宮嶋 達也(デザイン学科・教授)	研究室等所在	2号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者: 宮嶋 達也)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	*Speaking of People	Peter Vincent	南雲堂	2020	9784523179092	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション 英語で自己紹介文作成 シラバスの説明/授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを参照しながらテキスト内容を理解する。 (90分)	授業各回のテーマを理解しておくこと。(90分)
2	Grammar 5sentence patterns (5文型)	今回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておくこと。(90分)	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 (90分)
3	Grammar 5sentence patterns (5文型)	今回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておくこと。(90分)	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 (90分)
4	Unit 1 Speaking About Yourself	今回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておくこと。(90分)	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 (90分)
5	Unit 2 What Do You Do?	今回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておくこと。(90分)	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 (90分)
6	Unit 3 What Does He Look Like?	今回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておくこと。(90分)	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 (90分)
7	Review Units 1-3	今回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておくこと。(90分)	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 (90分)
8	Unit 4 Where Are You From?	今回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておくこと。(90分)	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 (90分)
9	Grammar Gerunds and Infinitives (動名詞&不定詞)	今回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておくこと。(90分)	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 (90分)
10	Grammar Gerunds and Infinitives (動名詞&不定詞)	今回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておくこと。(90分)	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 (90分)
11	中間テスト	今回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておくこと。(90分)	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 (90分)
12	Unit 5 Likes and Dislikes	今回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておくこと。(90分)	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 (90分)
13	Unit6 What 's She Like?	今回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておくこと。(90分)	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 (90分)
14	Review Units 4-6	今回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておくこと。(90分)	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 (90分)
15	Review 1	今回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておくこと。(90分)	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 (90分)
16	Final Exam. 試験終了後、授業改善アンケートの実施	試験範囲の復習。(90分)	授業で説明を受けた解説を復習。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年、デザイン学科・1年、建築		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	基礎英語 (S・D・A) (科目ナンバリング: ENL041029)				
授業担当者(所属・職名)	横田 肇 (社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 横田 肇)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

<b>履修目標</b>
学生が英語の基本的な文法・語法を習得し、英語の運用・使い方の基礎を身につける。合わせて、グローバル化の中でのコミュニケーションの基礎を学ぶ。

<b>授業の位置づけ</b>
社会福祉学科のDP(2)に対応する。 デザイン学科のDP(2)に対応する。 建築学科のDP(2)に対応する。

<b>到達目標</b>
学生が英語の基本的な語彙・イディオムの習得、英文法・運用の基礎的理解と習得ができている。また、平易な英文の読解ができ、簡単な英文の作成ができるようになる。さらに、平易な英会話ができるようになる。

<b>授業全体の内容と概要</b>
毎回、所定のテキストに基づき、英文法の各項目の練習問題を解き、合わせて、関連する読解、作文、会話の練習問題を解く。同時に、必要最小限の説明を加えていく。

<b>授業の方法</b>
毎回、所定のテキストに即し、パワーポイントと板書等により各項目の全体的な説明(一斉)を行う。その後、個人・グループワークによる練習問題の解答を行う。解答の終了後にグループごと、個人ごとに課題の提出を求める。授業の最後にその回と前回の課題へのフィードバック(コメント)と課外学習(宿題)についての指示を行う。

<b>アクティブラーニングの実施方法</b>																					
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>○</td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模範授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>○</td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業	○	ディスカッション	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL															
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業															
○	ディスカッション	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)															

<b>履修上の注意事項</b>
欠席、遅刻をしないように留意する。 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。事情に応じ、口頭、スライド、板書、資料による説明に配慮する。写真、録音・録音を認める。
--

<b>資格指定科目</b>

評価方法・基準

<b>評価前提条件</b>
単位認定に必要な最低出席回数は11回以上。

<b>評価方法</b>												
<table border="1"> <thead> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>60%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>20%</td> <td>20%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	60%	0%	0%	20%	20%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
60%	0%	0%	20%	20%	0%							

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
英文法の基礎力	英文法の基礎的な理解が完全にでき、十分な応用力が身についた。	英文法の基礎的な理解がほぼできであり、いくらか応用できる力が身についた。	英文法の基礎的な理解が大体できた。	英文法の必要最小限の基礎的な理解ができた。	英文法の必要最小限の基礎的な理解ができなかった。
英文読解の能力	テキスト内の英文が正確・完全に読解でき、十分に活用することができた。	テキストの英文がほぼ理解でき、いくらか活用できた。	テキストの英文の基礎的な部分が大体理解できた。	指示によって、テキストの英文の基礎的な部分が大体理解できた。	指示によって、テキストの英文の基礎的な部分の理解ができなかった。
英作文の能力	基礎的な英文を正確にしっかりと書くことができた。	基礎的な英文をほぼ正確に書くことができた。	基礎的な短い英文を大体書けた。	指示によって、基礎的な短い英文を書けた。	指示によって、基礎的な短い英文を書くことができなかった。



基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年、デザイン学科・1年、建築		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	基礎英語 (S・D・A) (科目ナンバリング: ENL041029)				
授業担当者(所属・職名)	横田 肇 (社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 横田 肇)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『Simply Grammar 改訂版』	K.Saito	南雲堂	2017	978-4-523-17831-6	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						適宜指示
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	授業改善アンケート結果反映の説明、シラバスの説明、ガイダンス。	シラバスを読んでおく。(90分)	アルファベットの基礎について調べる。(90分)
2	英文法と英語の運用について(1)発音の基礎、単語の成り立ち、アルファベットの基礎	アルファベットの基礎について調べる(90分)	アルファベットの基礎について調べる(90分)
3	英文法と英語の運用について(2)be動詞の使い方	教科書Unit1説明文の予習(90分)	授業内容の復習(90分)
4	英文法と英語の運用について(3)be動詞の使い方	Unit1練習問題の予習(90分)	Unit1練習問題の復習(90分)
5	英文法と英語の運用について(4)be動詞の使い方	Unit1練習問題の予習(90分)	Unit1練習問題の復習(90分)
6	英文法と英語の運用について(5)一般動詞の使い方	Unit2説明文の予習(90分)	Unit2説明文の復習(90分)
7	英文法と英語の運用について(6)一般動詞の使い方	Unit2練習問題の予習(90分)	Unit2練習問題の復習(90分)
8	英文法と英語の運用について(7)一般動詞の使い方	Unit2練習問題の予習(90分)	Unit2練習問題の復習(90分)
9	英文法と英語の運用について(8)一般動詞の使い方	Unit2練習問題の予習(90分)	Unit2練習問題の復習(90分)
10	英文法と英語の運用について(9)動詞の使い方の注意すべき点	Unit1・2全体の確認(90分)	Unit1・2全体の確認(90分)
11	英文法と英語の運用について(10)動詞の使い方の注意すべき点	Unit1・2全体の確認(90分)	Unit1・2全体の確認(90分)
12	英文法と英語の運用について(11)英文の構造の注意すべき点	Unit1・2全体の確認(90分)	Unit1・2全体の確認(90分)
13	英文法と英語の運用について(12)英文の構造の注意すべき点	配布資料の予習(90分)	配布資料の復習(90分)
14	英文法と英語の運用について(13)英文の構造の注意すべき点	配布資料の予習(90分)	配布資料の復習(90分)
15	総復習(既習事項の復習)	配布資料の予習(90分)	配布資料の復習(90分)
16	定期試験。60分の試験終了後、30分で解説を行う。授業改善アンケートの実施。	Unit1・2全体、配布資料の確認(90分)	Unit1・2全体、配布資料の確認(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年、デザイン学科・1年、建		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	基礎英語 (S・D・A) (科目ナンバリング: ENL041029)				
授業担当者(所属・職名)	井坂 肇(経営学科・助教)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 井坂 肇)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

英文法の基本を理解し、練習問題による練習を通して英語の運用・使い方の基礎を身につける。自ら英語で発信できるようになる。

授業の位置づけ

社会福祉学科のD P ( 2 ) ( 4 ) ( 5 ) に対応する。  
デザイン学科のD P ( 2 ) ( 4 ) に対応する。  
建築学科のD P ( 2 ) ( 4 ) に対応する。

到達目標

身近な英語の語彙・イディオムを習得し、英文法の基礎を理解できる。また、平素な英文の読解ができ、簡単な英文の作成ができるようになる。

授業全体の内容と概要

所定のテキストに基づき、文法事項の解説を加えながら、各項目の練習問題を解き文法事項の定着を図る。  
「SDG4・質の高い教育をみんなに」の関連科目。世界市民としての意識、さまざまな文化があることなどを理解できる教育をすすめる。

授業の方法

講義形式で授業を行い、教科書やパワーポイントを使用しながら、じっくりと確実に反復学習を進める。英文の暗記によって英語で発信する力の向上を狙う。文法事項の定着を図るため、講義中に演習課題を行い双方向システムを活用する。さらにはMicrosoft Formsの小テストから学生全体の理解度を把握し、指導する。学生不明点・質問は、チャット形式などの支援システムで迅速に回答する。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業	○	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

- ・15分以上の遅刻は欠席とみなす
- ・遅刻2回で欠席1回とする
- ・授業には必ずテキストを持参すること。
- ・不足の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。参考資料の配布方法や事前提供などについて配慮する。講義中の録音・録画・撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
50%	0%	40%	0%	10%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
定期試験	定期試験で90点以上の得点を上げた。	定期試験で75点以上の得点を上げた。	定期試験で60点以上の得点を上げた。	定期試験で50点以上の得点を上げた。	定期試験で50点をクリアすることができなかった。
英文法の理解度	基礎的な英文をしっかりと書くことができた。	基礎的な英文をほぼ正確に書くことができた。	基礎的な短い英文を大体書けた。	指示によって、基礎的な短い英文を書けた。	指示によって、基礎的な短い英文を書くことができなかった。
授業に対する取り組み	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協同性に関しては期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協同性に関しては期待されるレベルを十分に達成することができた。	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協同性に関しては期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協同性に関しては最低限のレベルにとどまった。	与えられた課題に取り組まなかった。積極性や協同性に関しては最低限のレベルに到達することができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年、デザイン学科・1年、建		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	基礎英語 (S・D・A) (科目ナンバリング: ENL041029)				
授業担当者(所属・職名)	井坂 肇(経営学科・助教)		研究室等所在	1号館3階	
単位数	2 (単位認定責任者: 井坂 肇)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『English Day! やさしい英語でまるごと1日過ごしてみる』	Robert Hickling	金星堂	2023	9784764741690	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明	事前にシラバスを読んでおく (90分)	シラバスの内容を確認し、授業準備を行う (90分)
2	Unit 1 現在時制 (be動詞) 単語テスト	Unit 1の予習 (90分)	授業内容復習 (90分)
3	Unit 1 現在時制 (be動詞) 文法テスト	Unit 1の予習 (90分)	授業内容復習 (90分)
4	Unit 2 現在時制 (一般動詞) 単語テスト	Unit 2の予習 (90分)	授業内容復習 (90分)
5	Unit 2 現在時制 (一般動詞) 文法テスト	Unit 2の予習 (90分)	授業内容復習 (90分)
6	Unit 3 名詞 単語テスト	Unit 3の予習 (90分)	授業内容復習 (90分)
7	Unit 3 名詞 文法テスト	Unit 3の予習 (90分)	授業内容復習 (90分)
8	Unit 4 代名詞 単語テスト	Unit 4の予習 (90分)	授業内容復習 (90分)
9	Unit 4 代名詞 文法テスト	Unit 4の予習 (90分)	授業内容復習 (90分)
10	Unit 5 前置詞 単語テスト	Unit 5の予習 (90分)	授業内容復習 (90分)
11	Unit 5 前置詞 文法テスト	Unit 5の予習 (90分)	授業内容復習 (90分)
12	Unit 6 WH疑問文 単語テスト	Unit 6の予習 (90分)	授業内容復習 (90分)
13	Unit 6 WH疑問文 文法テスト	Unit 6の予習 (90分)	授業内容復習 (90分)
14	Unit 7 過去時制 (be動詞と一般動詞) 単語テスト	Unit 7の予習 (90分)	授業内容復習 (90分)
15	Unit 7 過去時制 (be動詞と一般動詞) 文法テスト	Unit 7の予習 (90分)	授業内容復習 (90分)
16	期末試験 (60分)・解説 (30分) 授業改善アンケートの実施	期末試験準備 (90分)	期末試験内容復習 (90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目		対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	前期		授業形態	講義	必修・選択	選択必修
科目名称	ドイツ語入門 (M) (科目ナンバリング: GER051034)					
授業担当者(所属・職名)	河田 一郎(経営学科・特任教授)		研究室等所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者: 河田 一郎)		CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	大学入試センターの問題作成委員としての経験を活かして、ドイツ語教育にかかわる指導を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標

ドイツ語の初級文法と簡単な会話をマスターする。グローバル化に対応するため、コミュニケーションの手段としてドイツ語を学び、自らの世界を広げることを目標とする。

授業の位置づけ

経営学科のDP(2)に対応する。

到達目標

ドイツ語検定試験5級合格のための基礎を固める。ドイツ語圏への観光・留学をした際に困らない程度の日常会話を身につける。

授業全体の内容と概要

授業ではドイツ語初級文法を基礎から指導を行う。一年後には辞書を使えば、簡単な文章を理解できるようになることを目標とする。ドイツに関連することで、学生が興味を持ちそうなこと、また教養として知ってほしいことについて紹介および解説を行う。  
\*SDS 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業では板書をしながら、ドイツ語の文法・文化を紹介する。ドイツのDVD等も見て講義形式で行う。また、適宜確認テストを実施し、フィードバックとして解説を丁寧に行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
模範授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

新しいことばかりなので、とにかく授業に参加すること。ドイツ語検定試験受験希望者には特別講義を行なう。再試験の評価は内容の理解度を重視する。不測の事態の際にオンライン授業を実施する可能性がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	0%	0%	0%	40%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ドイツ語の初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる。	学修した知識を確実に修得し、求められるレベルを大きく超えた。	学修した知識を確実に修得した。	学修した知識をほぼ修得した。	学修した知識を修得したが、最低限容認できるレベルにとどまった。	学修した知識を修得できなかった。
基礎的な文法を用いて、平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる。	与えられた課題に積極的に取り組み、求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組み、求められるレベルを達成した。	与えられた課題に取り組み、求められるレベルをほぼ達成した。	与えられた課題に取り組みしたが、最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まなかった。
ドイツ語の基本的な語彙を修得し、発音が正確にできる。	学修した知識を確実に修得し、求められるレベルを大きく超えた。	学修した知識を確実に修得した。	学修した知識をほぼ修得した。	学修した知識を修得したが、最低限容認できるレベルにとどまった。	学修した知識を修得できなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択必修
科目名称	ドイツ語入門 (M) (科目ナンバリング: GER051034)				
授業担当者(所属・職名)	河田 一郎(経営学科・特任教授)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者: 河田 一郎)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	大学入試センターの問題作成委員としての経験を活かして、ドイツ語教育にかかわる指導を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『気分はドイツ(改訂版)』	渡辺・黒瀬ほか	三修社	2021	9784384123012	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	【ガイダンス】 授業の進め方・シラバスの説明。授業改善アンケート結果反映の説明。	シラバスの内容を確認すること。(90分)	授業の内容を復習しておくこと。(90分)
2	【ドイツ語の発音について】 発音問題の基本的な発音、ドイツ語特有な発音について学習する。	前回の授業内容を確認すること。(90分)	授業の内容を復習しておくこと。(90分)
3	【ドイツ語の動詞について】 動詞の変化について学び、人称変化させることができる。	前回の授業内容を確認すること。(90分)	授業の内容を復習しておくこと。(90分)
4	【不規則変化動詞について】 不規則変化動詞の変化について学び、人称変化させることができる。	前回の授業内容を確認すること。(90分)	授業の内容を復習しておくこと。(90分)
5	【seinとhabenについて】 seinとhabenについて学び、人称変化させることができる。	前回の授業内容を確認すること。(90分)	授業の内容を復習しておくこと。(90分)
6	【名詞と冠詞について】 名詞と冠詞について学び、格変化させることができる。	前回の授業内容を確認すること。(90分)	授業の内容を復習しておくこと。(90分)
7	【名詞の複数形について】 ドイツ語の名詞の複数形について学び、格変化させることができる。	前回の授業内容を確認すること。(90分)	授業の内容を復習しておくこと。(90分)
8	【人称代名詞について】 人称代名詞の変化について学び、人称変化させることができる。	前回の授業内容を確認すること。(90分)	授業の内容を復習しておくこと。(90分)
9	【定冠詞について】 ドイツ語の定冠詞類とはどのような変化をするのかを学び、変化させることができる。	前回の授業内容を確認すること。(90分)	授業の内容を復習しておくこと。(90分)
10	【不定冠詞について】 ドイツ語の不定冠詞類とはどのような変化をするのかを学び、変化させることができる。	前回の授業内容を確認すること。(90分)	授業の内容を復習しておくこと。(90分)
11	【前置詞について】 ドイツ語の前置詞について学び、英語との違いを理解する。	前回の授業内容を確認すること。(90分)	授業の内容を復習しておくこと。(90分)
12	【3・4格支配の前置詞について】 3・4格支配の前置詞について学び、3格と4格の違いを理解する。	前回の授業内容を確認すること。(90分)	授業の内容を復習しておくこと。(90分)
13	【接続詞について】 ドイツ語の接続詞の特徴を学び、文章を書き換えることができる。	前回の授業内容を確認すること。(90分)	授業の内容を復習しておくこと。(90分)
14	【ヒアリング練習】 ヒアリングに関するポイントを学ぶ。	前回の授業内容を確認すること。(90分)	授業の内容を復習しておくこと。(90分)
15	【前期学修内容の復習】 前期で学んだ文法項目をチェックする。	前回の授業内容を確認すること。(90分)	授業の内容を復習しておくこと。(90分)
16	【定期試験および解説】 60分の試験終了後、残りの30分で解説を行う。授業改善アンケートの実施	試験に向け全体を復習すること。(90分)	試験および解説を受けて講義全体を復習すること。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年、デザイン学科・3年、建		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ドイツ語入門 (科目ナンバリング: GER051034)				
授業担当者(所属・職名)	河田 一郎(経営学科・特任教授)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者: 河田 一郎)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	大学入試センターの問題作成委員としての経験を活かして、ドイツ語教育にかかわる指導を行う。		
オフィスアワー					

概要

履修目標

ドイツ語の初級文法と簡単な会話をマスターする。グローバル化に対応するため、コミュニケーションの手段としてドイツ語を学び、自らの世界を広げることを目標とする。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP(2)に対応する。  
デザイン学科のDP(2)に対応する。  
建築学科のDP(2)に対応する。

到達目標

ドイツ語検定試験5級合格のための基礎を固める。ドイツ語圏への観光、留学をした際に困らない程度の日常会話を身につける。

授業全体の内容と概要

授業ではドイツ語初級文法を基礎から指導を行う。一年後には辞書を使えば、簡単な文章を理解できるようになることを目標とする。ドイツに関連することで、学生が興味を持ちそうなこと、また教養として知っていてほしいことについて紹介および解説を行う。

授業の方法

授業では板書をしながら、ドイツ語の文法・文化を紹介する。ドイツのDVD等も見て講義形式で行う。また、適宜確認テストを実施し、フィードバックとして解説を丁寧に行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
模範授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

新しいことばかりなので、とにかく授業に参加すること。ドイツ語検定試験受験希望者には特別講義を行なう。再試験の評価は内容の理解度を重視する。

修学サポート(合理的配慮)

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	0%	0%	0%	40%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ドイツ語の初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる。	学修した知識を確実に修得し、求められるレベルを大きく超えた。	学修した知識を確実に修得した。	学修した知識をほぼ修得した。	学修した知識を修得したが、最低限容認できるレベルにとどまった。	学修した知識を修得できなかった。
基礎的な文法を用いて、平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる。	与えられた課題に積極的に取り組み、求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組み、求められるレベルを達成した。	与えられた課題に取り組み、求められるレベルをほぼ達成した。	与えられた課題に取り組みしたが、最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組みなかった。
ドイツ語の基本的な語彙を修得し、発音が正確にできる。	学修した知識を確実に修得し、求められるレベルを大きく超えた。	学修した知識を確実に修得した。	学修した知識をほぼ修得した。	学修した知識を修得したが、最低限容認できるレベルにとどまった。	学修した知識を修得できなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年、デザイン学科・3年、建		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	トイ語入門 (科目ナンバリング: GER051034)				
授業担当者(所属・職名)	河田 一郎(経営学科・特任教授)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者: 河田 一郎)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	大学入試センターの問題作成委員としての経験を活かして、ドイツ語教育にかかわる指導を行う。		

教科書・参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『気分はドイツ(改訂版)』	渡辺・黒瀬ほか	三修社	2021	9784384123012	
2						
3						
4						
5						

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	【ガイダンス】 授業の進め方・シラバスの説明。授業改善アンケート結果反映の説明。	シラバスの内容を確認すること。(90分)	授業の内容を復習しておくこと。(90分)
2	【ドイツ語の発音について】 発音問題の基本的な発音、ドイツ語特有な発音について学習する。	前回の授業内容を確認すること。(90分)	授業の内容を復習しておくこと。(90分)
3	【ドイツ語の動詞について】 動詞の変化について学び、人称変化させることができる。	前回の授業内容を確認すること。(90分)	授業の内容を復習しておくこと。(90分)
4	【不規則変化動詞について】 不規則変化動詞の変化について学び、人称変化させることができる。	前回の授業内容を確認すること。(90分)	授業の内容を復習しておくこと。(90分)
5	【seinとhabenについて】 seinとhabenについて学び、人称変化させることができる。	前回の授業内容を確認すること。(90分)	授業の内容を復習しておくこと。(90分)
6	【名詞と冠詞について】 名詞と冠詞について学び、格変化させることができる。	前回の授業内容を確認すること。(90分)	授業の内容を復習しておくこと。(90分)
7	【名詞の複数形について】 ドイツ語の名詞の複数形について学び、格変化させることができる。	前回の授業内容を確認すること。(90分)	授業の内容を復習しておくこと。(90分)
8	【人称代名詞について】 人称代名詞の変化について学び、人称変化させることができる。	前回の授業内容を確認すること。(90分)	授業の内容を復習しておくこと。(90分)
9	【定冠詞について】 ドイツ語の定冠詞類とはどのような変化をするのかを学び、変化させることができる。	前回の授業内容を確認すること。(90分)	授業の内容を復習しておくこと。(90分)
10	【不定冠詞について】 ドイツ語の不定冠詞類とはどのような変化をするのかを学び、変化させることができる。	前回の授業内容を確認すること。(90分)	授業の内容を復習しておくこと。(90分)
11	【前置詞について】 ドイツ語の前置詞について学び、英語との違いを理解する。	前回の授業内容を確認すること。(90分)	授業の内容を復習しておくこと。(90分)
12	【3・4格支配の前置詞について】 3・4格支配の前置詞について学び、3格と4格の違いを理解する。	前回の授業内容を確認すること。(90分)	授業の内容を復習しておくこと。(90分)
13	【接続詞について】 ドイツ語の接続詞の特徴を学び、文章を書き換えることができる。	前回の授業内容を確認すること。(90分)	授業の内容を復習しておくこと。(90分)
14	【ヒアリング練習】 ヒアリングに関するポイントを学ぶ。	前回の授業内容を確認すること。(90分)	授業の内容を復習しておくこと。(90分)
15	【前期学修内容の復習】 前期で学んだ文法項目をチェックする。	前回の授業内容を確認すること。(90分)	授業の内容を復習しておくこと。(90分)
16	【定期試験および解説】 60分の試験終了後、残りの30分で解説を行う。授業改善アンケートの実施	試験に向け全体を復習すること。(90分)	試験および解説を受けて講義全体を復習すること。(90分)

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目		対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	前期		授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	スポーツ総合(M-A) (科目ナンバリング:HSS031027)					
授業担当者(所属・職名)	中川 純二(経営学科・准教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1	(単位認定責任者: 中川 純二)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、高齢化社会を迎えた現在、将来に向け健康で豊かな生活を営んでいくための生涯スポーツの基礎を指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。					

概要

履修目標
生涯を健康で有意義に過ごすため、健康と体力を保持増進するとともに、身体活動を通して社会性や協調性を養い、高齢化社会を迎えた現在、将来に向け健康で豊かな生活を営んでいくための生涯スポーツの基礎を養い必要な知識を身につける。

授業の位置づけ
経営学科のDP(4)(5)に対応する。

到達目標
地域や職場に於けるスポーツ・レクリエーション活動を実践し、競技の特性やルールを学び理解することができる。

授業全体の内容及び概要
各種目の基本技術の習得及びルールを学び、ゲーム中心に授業を進める。「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法
授業形態は実技であり、各種目の特性を考慮し基礎的な動作やルールを理解させ怪我に注意を払いながらゲーム運営ができるように配慮していく。また授業の中で種目ごとに理解されているか確認の実技試験を実施する。

アクティブラーニングの実施方法																					
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>○</td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL															
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業															
ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)															

履修上の注意事項
シャワー・屋内運動靴を必ず用意する。アクセサリ(時計、指輪、ピアス等)は全て外す。携帯電話の電源は必ず切る。貴重品・多額の現金は持参しない。爪・髪は清潔にその他注意事項の詳細は授業ガイダンスで指示する。 健康上の理由で医師から運動を停止されている者は、申し出の上指示を受けること。 不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
教職課程(全教科)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件												
単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上。 男女差、年齢差によって評価を考慮していく。												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>40%</td> <td>50%</td> <td>10%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	0%	0%	40%	50%	10%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	0%	0%	40%	50%	10%							

ルーブリック																																			
<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> <tr> <td>関心・意欲・態度・判断</td> <td>自ら進んで行動や役割を果たすことができ、とても意欲的に取り組み、且つ安全に細心の注意を払うことができた。</td> <td>積極的に行動や役割を果たすことができ、意欲的に取り組み、安全に注意を払うことができた。</td> <td>行動の仕方を守り役割を果たすことができ、普通に取り組み安全に注意を払うことができた。</td> <td>行動の仕方を守らず役割を果たしていないときがあったが安全に注意を払うことができた。</td> <td>行動の仕方を守らず役割を果たさなく意欲も全くなく安全に注意を払うことができなかった。</td> </tr> <tr> <td>各運動技能</td> <td>各種目の運動技能に優れ十分にできた。</td> <td>各種目の運動技能が7割程度できた。</td> <td>各種目の運動技能が5割程度できた。</td> <td>各種目の運動技能が3割程度できた。</td> <td>各種目の運動技能が全くできなかった。</td> </tr> <tr> <td>知識・理解(ルール、審判、運営の仕方)</td> <td>ルールを完全にマスターし審判やゲーム運営の仕方について状況や場面に応じて理解することができた。</td> <td>ルールをある程度マスターし審判やゲーム運営の仕方について応用的に理解することができた。</td> <td>ルールを最低限マスターし審判やゲーム運営の仕方について理解することができた。</td> <td>ルールを最低限マスターし審判やゲーム運営の仕方について部分的に理解することができた。</td> <td>ルールを全くマスターしてあらず審判やゲーム運営の仕方について理解ができなかった。</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>各学部、学科や男女差、年齢差によって評価を考慮していく。</td> <td>各学部、学科や男女差、年齢差によって評価を考慮していく。</td> <td>各学部、学科や男女差、年齢差によって評価を考慮していく。</td> <td>各学部、学科や男女差、年齢差によって評価を考慮していく。</td> <td>各学部、学科や男女差、年齢差によって評価を考慮していく。</td> </tr> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	関心・意欲・態度・判断	自ら進んで行動や役割を果たすことができ、とても意欲的に取り組み、且つ安全に細心の注意を払うことができた。	積極的に行動や役割を果たすことができ、意欲的に取り組み、安全に注意を払うことができた。	行動の仕方を守り役割を果たすことができ、普通に取り組み安全に注意を払うことができた。	行動の仕方を守らず役割を果たしていないときがあったが安全に注意を払うことができた。	行動の仕方を守らず役割を果たさなく意欲も全くなく安全に注意を払うことができなかった。	各運動技能	各種目の運動技能に優れ十分にできた。	各種目の運動技能が7割程度できた。	各種目の運動技能が5割程度できた。	各種目の運動技能が3割程度できた。	各種目の運動技能が全くできなかった。	知識・理解(ルール、審判、運営の仕方)	ルールを完全にマスターし審判やゲーム運営の仕方について状況や場面に応じて理解することができた。	ルールをある程度マスターし審判やゲーム運営の仕方について応用的に理解することができた。	ルールを最低限マスターし審判やゲーム運営の仕方について理解することができた。	ルールを最低限マスターし審判やゲーム運営の仕方について部分的に理解することができた。	ルールを全くマスターしてあらず審判やゲーム運営の仕方について理解ができなかった。	その他	各学部、学科や男女差、年齢差によって評価を考慮していく。	各学部、学科や男女差、年齢差によって評価を考慮していく。	各学部、学科や男女差、年齢差によって評価を考慮していく。	各学部、学科や男女差、年齢差によって評価を考慮していく。	各学部、学科や男女差、年齢差によって評価を考慮していく。
評価項目		評価基準																																	
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																														
関心・意欲・態度・判断	自ら進んで行動や役割を果たすことができ、とても意欲的に取り組み、且つ安全に細心の注意を払うことができた。	積極的に行動や役割を果たすことができ、意欲的に取り組み、安全に注意を払うことができた。	行動の仕方を守り役割を果たすことができ、普通に取り組み安全に注意を払うことができた。	行動の仕方を守らず役割を果たしていないときがあったが安全に注意を払うことができた。	行動の仕方を守らず役割を果たさなく意欲も全くなく安全に注意を払うことができなかった。																														
各運動技能	各種目の運動技能に優れ十分にできた。	各種目の運動技能が7割程度できた。	各種目の運動技能が5割程度できた。	各種目の運動技能が3割程度できた。	各種目の運動技能が全くできなかった。																														
知識・理解(ルール、審判、運営の仕方)	ルールを完全にマスターし審判やゲーム運営の仕方について状況や場面に応じて理解することができた。	ルールをある程度マスターし審判やゲーム運営の仕方について応用的に理解することができた。	ルールを最低限マスターし審判やゲーム運営の仕方について理解することができた。	ルールを最低限マスターし審判やゲーム運営の仕方について部分的に理解することができた。	ルールを全くマスターしてあらず審判やゲーム運営の仕方について理解ができなかった。																														
その他	各学部、学科や男女差、年齢差によって評価を考慮していく。	各学部、学科や男女差、年齢差によって評価を考慮していく。	各学部、学科や男女差、年齢差によって評価を考慮していく。	各学部、学科や男女差、年齢差によって評価を考慮していく。	各学部、学科や男女差、年齢差によって評価を考慮していく。																														



基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	ｽﾎﾟｰﾂ総合(M-A) (科目ナンバリング:HSS031027)				
授業担当者(所属・職名)	中川 純二(経営学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 中川 純二)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、高齢化社会を迎えた現在、将来に向け健康で豊かな生活を営んでいくための生涯スポーツの基礎を指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『アクティブスポーツ総合版』	文部科学省	大修館書店	2019	4469365603	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス(シラバスの説明) 授業改善アンケート結果反映の説明	事前にシラバスを読んで確認しておく(45分)	ガイダンスの内容を理解しておく(45分)
2	体力測定	健康に留意し体調を整えておく(45分)	身体のケアを怠らない(45分)
3	体力測定	健康に留意し体調を整えておく(45分)	身体のケアを怠らない(45分)
4	ボールゲーム/ネット型(卓球、バドミントン、バレーボール、ミニバレー)基礎動作と審判法、ゲーム運営	種目の特性について理解しておく(45分)	次回の授業の為にルールを理解しておく(45分)
5	ボールゲーム/ネット型(卓球、バドミントン、バレーボール、ミニバレー)ゲーム	ゲーム運営について確認しておく(45分)	ゲーム運営について理解しておく(45分)
6	ボールゲーム/ネット型(卓球、バドミントン、バレーボール、ミニバレー)ゲーム	ゲーム運営について確認しておく(45分)	ゲーム運営について理解しておく(45分)
7	ボールゲーム/ネット型(卓球、バドミントン、バレーボール、ミニバレー)ゲーム	ゲーム運営について確認しておく(45分)	ゲーム運営について理解しておく(45分)
8	ボールゲーム/ネット型(卓球、バドミントン、バレーボール、ミニバレー)ゲーム	ゲーム運営について確認しておく(45分)	ゲーム運営について理解しておく(45分)
9	ボールゲーム/ネット型(卓球、バドミントン、バレーボール、ミニバレー)ゲーム	ゲーム運営について確認しておく(45分)	ゲーム運営について理解しておく(45分)
10	ボールゲーム/ゴール型(バスケットボール、フットサル、アルティメット)基礎動作と審判法、ゲーム運営	種目の特性について理解しておく(45分)	次回の授業の為にルールを理解しておく(45分)
11	ボールゲーム/ゴール型(バスケットボール、フットサル、アルティメット)ゲーム	ゲーム運営について確認しておく(45分)	ゲーム運営について理解しておく(45分)
12	ボールゲーム/ゴール型(バスケットボール、フットサル、アルティメット)ゲーム	ゲーム運営について確認しておく(45分)	ゲーム運営について理解しておく(45分)
13	ボールゲーム/ゴール型(バスケットボール、フットサル、アルティメット)ゲーム	ゲーム運営について確認しておく(45分)	ゲーム運営について理解しておく(45分)
14	ボールゲーム/ゴール型(バスケットボール、フットサル、アルティメット)ゲーム	ゲーム運営について確認しておく(45分)	ゲーム運営について理解しておく(45分)
15	ボールゲーム/ゴール型(バスケットボール、フットサル、アルティメット)ゲーム 授業改善アンケートの実施	ゲーム運営について確認しておく(45分)	ゲーム運営について理解しておく(45分)
16	まとめ(授業改善アンケートの実施)	種目の特性やルールについて理解しておく(45分)	生涯スポーツとしての基礎を理解する(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	スポーツ総合(M-B) (科目ナンバリング:HSS031027)				
授業担当者(所属・職名)	石井 祐治(経営学科・特任講師)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 石井 祐治)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、高齢化社会を迎えた現在、将来に向け健康で豊かな生活を営んでいくための生涯スポーツの基礎を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標
生活を健康で有意義に過ごすため、健康と体力を保持増進するとともに、身体活動を通して社会性や協調性を養い、高齢化社会を迎えた現在、将来に向け健康で豊かな生活を営んでいくための生涯スポーツの基礎を養い必要な知識を身につける。

授業の位置づけ
経営学科のD P (4) (5)に対応する。

到達目標
地域や職場に於けるスポーツ・レクリエーション活動を実践し、競技の特性やルールを学び理解することができる。

授業全体の内容と概要
各種目の基本技術の習得及びルールを学び、ゲーム中心に授業を進める。

授業の方法
授業形態は実技であり、各種目の特性を考慮し基礎的な動作やルールを理解させ怪我に注意を払いながらゲーム運営ができるように配慮していく。また授業の中で種目ごとに理解されているか確認の実技試験を実施する。

アクティブラーニングの実施方法					
	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク		P B L
	模擬授業	ロールプレイ	調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
シャワー・屋内運動靴を必ず用意する。アクセサリ(時計、指輪、ピアス等)は全て外す。携帯電話の電源は必ず切る。貴重品・多額の現金は持参しない。爪・髪の毛等は清潔にその他注意事項の詳細は授業ガイダンスで指示する。不測の事態の際にはオンライン授業を実施する場合がある。健康上の理由で医師から運動を停止されている者は、申し出の上指示を受けること。

修学サポート(合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
教職課程(全教科)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件
単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上。男女差、年齢差によって評価を考慮していく。

評価方法												
<table border="1"> <thead> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>40%</td> <td>50%</td> <td>10%</td> </tr> </tbody> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	0%	0%	40%	50%	10%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	0%	0%	40%	50%	10%							

ルーブリック																																			
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>関心・意欲・態度・判断</td> <td>自ら進んで行動や役割を果たすことができ、とても意欲的に取り組み、且つ安全に細心の注意を払うことができた。</td> <td>積極的に行動や役割を果たすことができ、意欲的に取り組み、安全に注意を払うことができた。</td> <td>行動の仕方を守り役割を果たすことができ、普通に取組み安全に注意を払うことができた。</td> <td>行動の仕方を守らず役割を果たしていないときがあったが安全に注意を払うことができた。</td> <td>行動の仕方を守らず役割を果たさなく意欲も全くなく安全に注意を払うことができなかった。</td> </tr> <tr> <td>各運動技能</td> <td>各種目の運動技能に優れ十分にできた。</td> <td>各種目の運動技能が7割程度できた。</td> <td>各種目の運動技能が5割程度できた。</td> <td>各種目の運動技能が3割程度できた。</td> <td>各種目の運動技能が全くできなかった。</td> </tr> <tr> <td>知識・理解(ルール、審判、運営の仕方)</td> <td>ルールを完全にマスターし審判やゲーム運営の仕方について状況や場面に応じて理解することができた。</td> <td>ルールをある程度マスターし審判やゲーム運営の仕方について応用的に理解することができた。</td> <td>ルールを最低限マスターし審判やゲーム運営の仕方について理解することができた。</td> <td>ルールを最低限マスターし審判やゲーム運営の仕方について部分的に理解することができた。</td> <td>ルールを全くマスターしておらず審判やゲーム運営の仕方について理解ができなかった。</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>各学部、学科や男女差、年齢差によって評価を考慮していく。</td> <td>各学部、学科や男女差、年齢差によって評価を考慮していく。</td> <td>各学部、学科や男女差、年齢差によって評価を考慮していく。</td> <td>各学部、学科や男女差、年齢差によって評価を考慮していく。</td> <td>各学部、学科や男女差、年齢差によって評価を考慮していく。</td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	関心・意欲・態度・判断	自ら進んで行動や役割を果たすことができ、とても意欲的に取り組み、且つ安全に細心の注意を払うことができた。	積極的に行動や役割を果たすことができ、意欲的に取り組み、安全に注意を払うことができた。	行動の仕方を守り役割を果たすことができ、普通に取組み安全に注意を払うことができた。	行動の仕方を守らず役割を果たしていないときがあったが安全に注意を払うことができた。	行動の仕方を守らず役割を果たさなく意欲も全くなく安全に注意を払うことができなかった。	各運動技能	各種目の運動技能に優れ十分にできた。	各種目の運動技能が7割程度できた。	各種目の運動技能が5割程度できた。	各種目の運動技能が3割程度できた。	各種目の運動技能が全くできなかった。	知識・理解(ルール、審判、運営の仕方)	ルールを完全にマスターし審判やゲーム運営の仕方について状況や場面に応じて理解することができた。	ルールをある程度マスターし審判やゲーム運営の仕方について応用的に理解することができた。	ルールを最低限マスターし審判やゲーム運営の仕方について理解することができた。	ルールを最低限マスターし審判やゲーム運営の仕方について部分的に理解することができた。	ルールを全くマスターしておらず審判やゲーム運営の仕方について理解ができなかった。	その他	各学部、学科や男女差、年齢差によって評価を考慮していく。	各学部、学科や男女差、年齢差によって評価を考慮していく。	各学部、学科や男女差、年齢差によって評価を考慮していく。	各学部、学科や男女差、年齢差によって評価を考慮していく。	各学部、学科や男女差、年齢差によって評価を考慮していく。
評価項目		評価基準																																	
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																														
関心・意欲・態度・判断	自ら進んで行動や役割を果たすことができ、とても意欲的に取り組み、且つ安全に細心の注意を払うことができた。	積極的に行動や役割を果たすことができ、意欲的に取り組み、安全に注意を払うことができた。	行動の仕方を守り役割を果たすことができ、普通に取組み安全に注意を払うことができた。	行動の仕方を守らず役割を果たしていないときがあったが安全に注意を払うことができた。	行動の仕方を守らず役割を果たさなく意欲も全くなく安全に注意を払うことができなかった。																														
各運動技能	各種目の運動技能に優れ十分にできた。	各種目の運動技能が7割程度できた。	各種目の運動技能が5割程度できた。	各種目の運動技能が3割程度できた。	各種目の運動技能が全くできなかった。																														
知識・理解(ルール、審判、運営の仕方)	ルールを完全にマスターし審判やゲーム運営の仕方について状況や場面に応じて理解することができた。	ルールをある程度マスターし審判やゲーム運営の仕方について応用的に理解することができた。	ルールを最低限マスターし審判やゲーム運営の仕方について理解することができた。	ルールを最低限マスターし審判やゲーム運営の仕方について部分的に理解することができた。	ルールを全くマスターしておらず審判やゲーム運営の仕方について理解ができなかった。																														
その他	各学部、学科や男女差、年齢差によって評価を考慮していく。	各学部、学科や男女差、年齢差によって評価を考慮していく。	各学部、学科や男女差、年齢差によって評価を考慮していく。	各学部、学科や男女差、年齢差によって評価を考慮していく。	各学部、学科や男女差、年齢差によって評価を考慮していく。																														

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	ｽｯｰ総合(M-B) (科目ナンバリング:HSS031027)				
授業担当者(所属・職名)	石井 祐治(経営学科・特任講師)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 石井 祐治)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、高齢化社会を迎えた現在、将来に向け健康で豊かな生活を営んでいくための生涯スポーツの基礎を指導する。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『アクティブスポーツ総合版』	文部科学省	大修館書店	2019	4469365603	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス(シラバスの説明) 授業改善アンケート結果反映の説明	事前にシラバスを読んで確認しておく(45分)	ガイダンスの内容を理解しておく(45分)
2	体力測定	健康に留意し体調を整えておく(45分)	身体のケアを怠らない(45分)
3	体力測定	健康に留意し体調を整えておく(45分)	身体のケアを怠らない(45分)
4	ボールゲーム/ネット型(卓球、バドミントン、バレーボール、ミニバレー)基礎動作と審判法、ゲーム運営	種目の特性について理解しておく(45分)	次回の授業の為にルールを理解しておく(45分)
5	ボールゲーム/ネット型(卓球、バドミントン、バレーボール、ミニバレー)ゲーム	ゲーム運営について確認しておく(45分)	ゲーム運営について理解しておく(45分)
6	ボールゲーム/ネット型(卓球、バドミントン、バレーボール、ミニバレー)ゲーム	ゲーム運営について確認しておく(45分)	ゲーム運営について理解しておく(45分)
7	ボールゲーム/ネット型(卓球、バドミントン、バレーボール、ミニバレー)ゲーム	ゲーム運営について確認しておく(45分)	ゲーム運営について理解しておく(45分)
8	ボールゲーム/ネット型(卓球、バドミントン、バレーボール、ミニバレー)ゲーム	ゲーム運営について確認しておく(45分)	ゲーム運営について理解しておく(45分)
9	ボールゲーム/ネット型(卓球、バドミントン、バレーボール、ミニバレー)ゲーム	ゲーム運営について確認しておく(45分)	ゲーム運営について理解しておく(45分)
10	ボールゲーム/ゴール型(バスケットボール、フットサル、アルティメット)基礎動作と審判法、ゲーム運営	種目の特性について理解しておく(45分)	次回の授業の為にルールを理解しておく(45分)
11	ボールゲーム/ゴール型(バスケットボール、フットサル、アルティメット)ゲーム	ゲーム運営について確認しておく(45分)	ゲーム運営について理解しておく(45分)
12	ボールゲーム/ゴール型(バスケットボール、フットサル、アルティメット)ゲーム	ゲーム運営について確認しておく(45分)	ゲーム運営について理解しておく(45分)
13	ボールゲーム/ゴール型(バスケットボール、フットサル、アルティメット)ゲーム	ゲーム運営について確認しておく(45分)	ゲーム運営について理解しておく(45分)
14	ボールゲーム/ゴール型(バスケットボール、フットサル、アルティメット)ゲーム	ゲーム運営について確認しておく(45分)	ゲーム運営について理解しておく(45分)
15	ボールゲーム/ゴール型(バスケットボール、フットサル、アルティメット)ゲーム 授業改善アンケートの実施	ゲーム運営について確認しておく(45分)	ゲーム運営について理解しておく(45分)
16	まとめ(授業改善アンケートの実施)	種目の特性やルールについて理解しておく(45分)	生涯スポーツとしての基礎を理解する(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目		対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	前期		授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	スポーツ総合(M-C) (科目ナンバリング:HSS031027)					
授業担当者(所属・職名)	佐藤 和裕(経営学科・准教授)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1	(単位認定責任者: 佐藤 和裕)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、高齢化社会を迎えた現在、将来に向け健康で豊かな生活を営んでいくための生涯スポーツの基礎を指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。					

概要

履修目標
生活を健康で有意義に過ごすため、健康と体力を保持増進するとともに、身体活動を通して社会性や協調性を養い、高齢化社会を迎えた現在、将来に向け健康で豊かな生活を営んでいくための生涯スポーツの基礎を養い必要な知識を身につける。

授業の位置づけ
経営学科のDP(4)(5)に対応する。

到達目標
地域や職場に於けるスポーツ・レクリエーション活動を実践し、競技の特性やルールを学び理解することができる。

授業全体の内容及び概要
各種目の基本技術の習得及びルールを学び、ゲーム中心に授業を進める。「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法
授業形態は実技であり、各種目の特性を考慮し基礎的な動作やルールを理解させ怪我に注意を払いながらゲーム運営ができるように配慮していく。また授業の中で種目ごとに理解されているか確認の実技試験を実施する。

アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
シャワー・屋内運動靴を必ず用意する。アクセサリ(時計、指輪、ピアス等)は全て外す。携帯電話の電源は必ず切る。貴重品・多額の現金は持参しない。爪・髪の毛等は清潔にその他注意事項の詳細は授業ガイダンスで指示する。 健康上の理由で医師から運動を停止されている者は、申し出の上指示を受けること。 不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
教職課程(全教科)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件												
単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上。 男女差、年齢差によって評価を考慮していく。												
評価方法												
<table border="1"> <thead> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>40%</td> <td>50%</td> <td>10%</td> </tr> </tbody> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	0%	0%	40%	50%	10%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	0%	0%	40%	50%	10%							

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
関心・意欲・態度・判断	自ら進んで行動や役割を果たすことができ、とても意欲的に取り組み、且つ安全に細心の注意を払うことができた。	積極的に行動や役割を果たすことができ、意欲的に取り組み、安全に注意を払うことができた。	行動の仕方を守り役割を果たすことができ、普通に取り組み安全に注意を払うことができた。	行動の仕方を守らず役割を果たしていないときがあったが安全に注意を払うことができた。	行動の仕方を守らず役割を果たさなく意欲も全くなく安全に注意を払うことができなかった。
各運動技能	各種目の運動技能に優れ十分にできた。	各種目の運動技能が7割程度できた。	各種目の運動技能が5割程度できた。	各種目の運動技能が3割程度できた。	各種目の運動技能が全くできなかった。
知識・理解(ルール、審判、運営の仕方)	ルールを完全にマスターし審判やゲーム運営の仕方について状況や場面に応じて理解することができた。	ルールをある程度マスターし審判やゲーム運営の仕方について応用的に理解することができた。	ルールを最低限マスターし審判やゲーム運営の仕方について理解することができた。	ルールを最低限マスターし審判やゲーム運営の仕方について部分的に理解することができた。	ルールを全くマスターしてあらず審判やゲーム運営の仕方について理解ができなかった。
その他	各学部、学科や男女差、年齢差によって評価を考慮していく。	各学部、学科や男女差、年齢差によって評価を考慮していく。	各学部、学科や男女差、年齢差によって評価を考慮していく。	各学部、学科や男女差、年齢差によって評価を考慮していく。	各学部、学科や男女差、年齢差によって評価を考慮していく。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	ｽﾎﾟｰﾂ総合(M-C) (科目ナンバリング:HSS031027)				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 和裕(経営学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 佐藤 和裕)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、高齢化社会を迎えた現在、将来に向け健康で豊かな生活を営んでいくための生涯スポーツの基礎を指導する。		

教科書・参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『アクティブスポーツ総合版』	文部科学省	大修館書店	2019	4469365603	
2						
3						
4						
5						

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス(シラバスの説明) 授業改善アンケート結果反映の説明	事前にシラバスを読んで確認しておく(45分)	ガイダンスの内容を理解しておく(45分)
2	体力測定	健康に留意し体調を整えておく(45分)	身体のケアを怠らない(45分)
3	体力測定	健康に留意し体調を整えておく(45分)	身体のケアを怠らない(45分)
4	ボールゲーム/ネット型(卓球、バドミントン、バレーボール、ミニバレー)基礎動作と審判法、ゲーム運営	種目の特性について理解しておく(45分)	次回の授業の為にルールを理解しておく(45分)
5	ボールゲーム/ネット型(卓球、バドミントン、バレーボール、ミニバレー)ゲーム	ゲーム運営について確認しておく(45分)	ゲーム運営について理解しておく(45分)
6	ボールゲーム/ネット型(卓球、バドミントン、バレーボール、ミニバレー)ゲーム	ゲーム運営について確認しておく(45分)	ゲーム運営について理解しておく(45分)
7	ボールゲーム/ネット型(卓球、バドミントン、バレーボール、ミニバレー)ゲーム	ゲーム運営について確認しておく(45分)	ゲーム運営について理解しておく(45分)
8	ボールゲーム/ネット型(卓球、バドミントン、バレーボール、ミニバレー)ゲーム	ゲーム運営について確認しておく(45分)	ゲーム運営について理解しておく(45分)
9	ボールゲーム/ネット型(卓球、バドミントン、バレーボール、ミニバレー)ゲーム	ゲーム運営について確認しておく(45分)	ゲーム運営について理解しておく(45分)
10	ボールゲーム/ゴール型(バスケットボール、フットサル、アルティメット)基礎動作と審判法、ゲーム運営	種目の特性について理解しておく(45分)	次回の授業の為にルールを理解しておく(45分)
11	ボールゲーム/ゴール型(バスケットボール、フットサル、アルティメット)ゲーム	ゲーム運営について確認しておく(45分)	ゲーム運営について理解しておく(45分)
12	ボールゲーム/ゴール型(バスケットボール、フットサル、アルティメット)ゲーム	ゲーム運営について確認しておく(45分)	ゲーム運営について理解しておく(45分)
13	ボールゲーム/ゴール型(バスケットボール、フットサル、アルティメット)ゲーム	ゲーム運営について確認しておく(45分)	ゲーム運営について理解しておく(45分)
14	ボールゲーム/ゴール型(バスケットボール、フットサル、アルティメット)ゲーム	ゲーム運営について確認しておく(45分)	ゲーム運営について理解しておく(45分)
15	ボールゲーム/ゴール型(バスケットボール、フットサル、アルティメット)ゲーム 授業改善アンケートの実施	ゲーム運営について確認しておく(45分)	ゲーム運営について理解しておく(45分)
16	まとめ(授業改善アンケートの実施)	種目の特性やルールについて理解しておく(45分)	生涯スポーツとしての基礎を理解する(45分)

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目		対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	前期		授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	スポーツ総合(S-A) (科目ナンバリング: HSS031027)					
授業担当者(所属・職名)	三嶋 康嗣(経営学科・専任講師)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1	(単位認定責任者: 三嶋 康嗣)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、生涯スポーツの基礎を指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標
生涯を健康で有意義に過ごすため、健康と体力を保持増進するとともに、身体活動をとあして社会性や協調性を養い、高齢化社会を迎えた現在、将来に向け健康で豊かな生活を営んでいくための生涯スポーツの基礎を学ぶ。
授業の位置づけ
社会福祉学科のDP(4)(5)に対応する。
到達目標
地域や職場に於けるスポーツ・レクリエーション活動を実践し、競技の特性やルールを学び理解することができる。

到達目標
地域や職場に於けるスポーツ・レクリエーション活動を実践し、競技の特性やルールを学び理解することができる。

到達目標
地域や職場に於けるスポーツ・レクリエーション活動を実践し、競技の特性やルールを学び理解することができる。

授業全体の内容と概要
各種目の基本技術を考慮し基礎的な動作やルールを学び、ゲーム中心に授業を進める。

授業の方法
各種目の特性を考慮し基礎的な動作やルールを理解させ怪我に注意を払いながらゲーム運営ができるように配慮していく。また授業の中で種目ごとに理解されているのか確認の実技試験を実施する。

アクティブラーニングの実施方法					
プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
模擬授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
1 ジャージ・屋内運動靴を必ず用意する。 2 アクセサリー(時計、指輪、ピアス等)は全て外す。 3 携帯電話の電源は必ず切る。 4 貴重品・多額の現金は持参しない。 5 爪・髪の手等は清潔にその他注意事項の詳細は授業ガイダンスで支持する。 * 健康上の理由で医師から運動を停止されている者は、申し出の上指示を受けること。 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件												
単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上。 男女差、年齢差によって評価を考慮していく。												
評価方法												
<table border="1"> <thead> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>40%</td> <td>50%</td> <td>10%</td> </tr> </tbody> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	0%	0%	40%	50%	10%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	0%	0%	40%	50%	10%							

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
スポーツに関する関心・意欲・態度・判断	自ら進んで行動や役割を果たすことができ、とても意欲的に取り組み、且つ安全に細心の注意を払うことができた。	積極的に行動や役割を果たすことができ、意欲的に取り組み、安全に注意を払うことができた。	行動の仕方を守り役割をおおむね果たすことができ、普通に取り組み安全に注意を払っていた。	行動の仕方を守り役割を果たすことができ、普通に取り組み安全に注意を払っていた。	行動の仕方を守らず役割を果たさず意欲も全くなく安全に注意を配っていないかった。
各運動技能	各種目の運動技能に優れ十分にできた。	各種目の運動技能が7割程度できた。	各種目の運動技能が5割程度できた。	各種目の運動技能が3割程度できた。	各種目の運動技能が全くできなくやる気がなかった。
知識・理解(ルール、審判、運営の仕方)	ルールを完全にマスターし審判やゲーム運営のしかたについて状況や場面に応じて理解することができた。	ルールをおおむねマスターし審判やゲーム運営のしかたについて応用的に理解することができた。	ルールを一定のマスターし審判やゲーム運営のしかたについて理解することができた。	ルールを一定のマスターし審判やゲーム運営のしかたについて理解することができた。	ルールを全くマスターしておらず審判やゲーム運営のしかたについて理解できていなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	ｽﾎﾟｰﾂ総合(S-A) (科目ナンバリング:HSS031027)				
授業担当者(所属・職名)	三嶋 康嗣(経営学科・専任講師)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 三嶋 康嗣)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、生涯スポーツの基礎を指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『アクティブスポーツ総合版』	大修館書店編集部	大修館書店	2019	97844693603	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 ガイダンス 授業改善アンケート結果反映の説明	事前にシラバスを読んで認識しておく(45分)	ガイダンスの内容を理解しておく(45分)
2	体力測定	健康に留意し体調を整えておく(45分)	身体のケアを怠らない(45分)
3	体力測定	健康に留意し体調を整えておく(45分)	身体のケアを怠らない(45分)
4	ボールゲーム/ネット型(卓球,バドミントン,バレーボール,ミニバレー)基礎動作と審判法,ゲーム運営	種目の特性について理解しておく(45分)	次回の授業の為にルールを理解しておく(45分)
5	ボールゲーム/ネット型(卓球,バドミントン,バレーボール,ミニバレー)ゲーム	ゲーム運営について確認しておく(45分)	ゲーム運営について理解しておく(45分)
6	ボールゲーム/ネット型(卓球,バドミントン,バレーボール,ミニバレー)ゲーム	ゲーム運営について確認しておく(45分)	ゲーム運営について理解しておく(45分)
7	ボールゲーム/ネット型(卓球,バドミントン,バレーボール,ミニバレー)ゲーム	ゲーム運営について確認しておく(45分)	ゲーム運営について理解しておく(45分)
8	ボールゲーム/ネット型(卓球,バドミントン,バレーボール,ミニバレー)ゲーム	ゲーム運営について確認しておく(45分)	ゲーム運営について理解しておく(45分)
9	ボールゲーム/ネット型(卓球,バドミントン,バレーボール,ミニバレー)ゲーム	ゲーム運営について確認しておく(45分)	ゲーム運営について理解しておく(45分)
10	ボールゲーム/ゴール型(バスケットボール,フットサル,アルティメット)基礎動作と審判法,ゲーム運営	種目の特性について理解しておく(45分)	次回の授業の為にルールを理解しておく(45分)
11	ボールゲーム/ゴール型(バスケットボール,フットサル,アルティメット)ゲーム	ゲーム運営について確認しておく(45分)	ゲーム運営について理解しておく(45分)
12	ボールゲーム/ゴール型(バスケットボール,フットサル,アルティメット)ゲーム	ゲーム運営について確認しておく(45分)	ゲーム運営について理解しておく(45分)
13	ボールゲーム/ゴール型(バスケットボール,フットサル,アルティメット)ゲーム	ゲーム運営について確認しておく(45分)	ゲーム運営について理解しておく(45分)
14	ボールゲーム/ゴール型(バスケットボール,フットサル,アルティメット)ゲーム	ゲーム運営について確認しておく(45分)	ゲーム運営について理解しておく(45分)
15	ボールゲーム/ゴール型(バスケットボール,フットサル,アルティメット)ゲーム	ゲーム運営について確認しておく(45分)	ゲーム運営について理解しておく(45分)
16	まとめ 授業改善アンケートの実施	種目の特性やルールについて理解しておく(45分)	生涯スポーツとしての基礎を理解する(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目		対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	前期		授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	スポーツ総合(D) (科目ナンバリング：HSS031027)					
授業担当者(所属・職名)	三嶋 康嗣(経営学科・専任講師)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1	(単位認定責任者：三嶋 康嗣)	CAP制	×		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かし、高齢化社会を迎えた現在、将来に向け健康で豊かな生活を営んでいくための生涯スポーツの基礎を指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示板等を参照					

概要

履修目標

生活を健康で有意義に過ごすため、健康と体力を保持増進するとともに、身体活動を通して社会性や協調性を養い、高齢化社会を迎えた現在、将来に向け健康で豊かな生活を営んでいくための生涯スポーツの基礎を養い必要な知識を身につける。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP(2)(4)に対応する。

到達目標

地域や職域におけるスポーツ・レクリエーション活動に実践できるよう、競技の特性やルールを学び理解できる。

授業全体の内容と概要

各種目の基本技術の習得及びルールを学び、ゲーム中心に授業を進める。

授業の方法

種目の特性を考慮し基礎的な動作やルールを理解させ怪我に注意を払いながらゲーム運営ができるように配慮していく。また授業の中で種目ごとに理解されているか確認の実技試験を実施する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

- 1 ジャージ・屋内運動靴を必ず用意する。
  - 2 アクセサリー(時計、指輪、ピアス等)は全て外す。
  - 3 携帯電話の電源は必ず切る。
  - 4 貴重品・多額の現金は持参しない。
  - 5 爪・髪の毛等は清潔にその他注意事項の詳細は授業ガイダンスで指示する。
- 健康上の理由で医師から運動を停止されている者は、申し出の上指示を受けること。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	40%	50%	10%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
関心・意欲・態度・判断	自ら進んで行動や役割を果たすことができ、とても意欲的に取り組み、かつ安全に細心の注意を払うことができた。	積極的に行動や役割を果たすことができ、意欲的に取り組み、安全に注意を払うことができた。	行動の仕方を守り役割を果たすことができ、普通に取り組み安全に注意を払っていた。	行動の仕方を守らず役割を果たさそうとしない時があり、意欲もない時があり安全に注意を配っていないかった。	行動の仕方を守らず役割を果たさなく意欲も全くなく、安全に注意を配っていないかった。
各運動技能	各種目の運動技能に優れ十分にできていた。	各種目の運動技能が7割程度できた。	各種目の運動技能が5割程度できた。	各種目の運動技能が3割程度できた。	各種目の運動技能が全くできなくやる気がなかった。
知識・理解(ルール、審判、運営の仕方)	ルールを完全にマスターし審判やゲーム運営の仕方について状況や場面に応じて理解することができた。	ルールをある程度マスターし審判やゲーム運営の仕方について応用的に理解することができた。	ルールを最低限マスターし審判やゲーム運営の仕方について理解することができた。	ルールほとんどにマスターしておらず審判やゲーム運営の仕方について部分的な理解に留まっていた。	ルールをまったくマスターしておらず審判やゲーム運営の仕方について理解できていなかった。



基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	ｽﾎｰﾂ総合(D) (科目ナンバリング:HSS031027)				
授業担当者(所属・職名)	三嶋 康嗣(経営学科・専任講師)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 三嶋 康嗣)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かし、高齢化社会を迎えた現在、将来に向け健康で豊かな生活を営んでいくための生涯スポーツの基礎を指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『アクティブスポーツ総合版』	大修館書店編集部	大修館書店	2019	97844693603	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス(シラバス説明)、授業改善アンケート結果反映の説明	事前にシラバスを読んで確認しておく(45分)	ガイダンスの内容を理解しておく(45分)
2	体力測定	健康に留意し体調を整えておく(45分)	身体のケアを怠らない(45分)
3	体力測定	健康に留意し体調を整えておく(45分)	身体のケアを怠らない(45分)
4	ボールゲーム/ネット型(卓球・バドミントン・バレーボール・ミニバレー)基礎動作と審判法、ゲーム運営	種目の特性について理解しておく(45分)	次回の授業の為にルールを理解しておく(45分)
5	ボールゲーム/ネット型(卓球・バドミントン・バレーボール・ミニバレー)	ゲーム運営について確認しておく(45分)	ゲーム運営について理解しておく(45分)
6	ボールゲーム/ネット型(卓球・バドミントン・バレーボール・ミニバレー)	ゲーム運営について確認しておく(45分)	ゲーム運営について理解しておく(45分)
7	ボールゲーム/ネット型(卓球・バドミントン・バレーボール・ミニバレー)	ゲーム運営について確認しておく(45分)	ゲーム運営について理解しておく(45分)
8	ボールゲーム/ネット型(卓球・バドミントン・バレーボール・ミニバレー)基礎動作と審判法、ゲーム運営	ゲーム運営について確認しておく(45分)	ゲーム運営について理解しておく(45分)
9	ボールゲーム/ネット型(卓球・バドミントン・バレーボール・ミニバレー)	ゲーム運営について確認しておく(45分)	ゲーム運営について理解しておく(45分)
10	ボールゲーム/ゴール型(バスケットボール・フットサル・アルティメット)基礎動作と審判法、ゲーム運営	種目の特性について理解しておく(45分)	次回の授業の為にルールを理解しておく(45分)
11	ボールゲーム/ゴール型(バスケットボール・フットサル・アルティメット)	ゲーム運営について確認しておく(45分)	ゲーム運営について理解しておく(45分)
12	ボールゲーム/ゴール型(バスケットボール・フットサル・アルティメット)	ゲーム運営について確認しておく(45分)	ゲーム運営について理解しておく(45分)
13	ボールゲーム/ゴール型(バスケットボール・フットサル・アルティメット)	ゲーム運営について確認しておく(45分)	ゲーム運営について理解しておく(45分)
14	ボールゲーム/ゴール型(バスケットボール・フットサル・アルティメット)	ゲーム運営について確認しておく(45分)	ゲーム運営について理解しておく(45分)
15	ボールゲーム/ゴール型(バスケットボール・フットサル・アルティメット)	ゲーム運営について確認しておく(45分)	ゲーム運営について理解しておく(45分)
16	まとめ 授業改善アンケートの実施	種目の特性やルールについて理解しておく(45分)	生涯スポーツとしての基礎を理解する(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	建築学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	スポーツ総合(A) (科目ナンバリング:HSS031027)				
授業担当者(所属・職名)	小山 尋明(建築学科・准教授)・三嶋 康嗣(経営学科・専任講師)	研究室等所在	1号館4階		
単位数	1 (単位認定責任者: 小山 尋明)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、高齢化社会を迎えた現在、将来に向け健康で豊かな生活を営んでいくための生涯スポーツの基礎を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標
生活を健康で有意義に過ごすため、健康と体力を保持増進するとともに、身体活動を通して社会性や協調性を養い、高齢化社会を迎えた現在、将来に向け健康で豊かな生活を営んでいくための生涯スポーツの基礎を養い必要な知識を身につける。

授業の位置づけ
デザイン学科のDP(4)に対応する。

到達目標
地域や職場におけるスポーツ・レクリエーション活動に実践できるよう、競技の特性やルールを学び理解できる。

授業全体の内容と概要
各種目の基本技術の習得及びルールを学び、ゲーム中心に授業を進める。

授業の方法
種目の特性を考慮し基礎的な動作やルールを理解させ怪我に注意を払いながらゲーム運営ができるように配慮していく。また授業の中で種目ごとに理解されているか確認の実技試験を実施する。

アクティブラーニングの実施方法					
プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
模擬授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
1 ジャージ・屋内運動靴を必ず用意する。2 アクセサリー(時計、指輪、ピアス等)は全て外す。3 携帯電話の電源は必ず切る。4 貴重品・多額の現金は持参しない。5 爪・髪の手等は清潔にその他注意事項の詳細は授業ガイダンスで指示する。 健康上の理由で医師から運動を停止されている者は、申し出の上指示を受けること。 不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準												
評価前提条件												
単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上。												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>40%</td> <td>50%</td> <td>10%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	0%	0%	40%	50%	10%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	0%	0%	40%	50%	10%							

ルーブリック																													
<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> <tr> <td>関心・意欲・態度・判断</td> <td>自ら進んで行動や役割を果たすことができ、とても意欲的に取り組み、かつ安全に細心の注意を払うことができた。</td> <td>積極的に行動や役割を果たすことができ、意欲的に取り組み、安全に注意を払うことができた。</td> <td>行動の仕方を守り役割を果たすことができ、普通に取り組み安全に注意を払っていた。</td> <td>行動の仕方を守らず役割を果たそうとしない時があり、意欲もない時があり安全に注意を配っていないかった。</td> <td>行動の仕方を守らず役割を果たさなく意欲も全くなく、安全に注意を配っていないかった。</td> </tr> <tr> <td>各運動技能</td> <td>各種目の運動技能に優れ十分にできていた。</td> <td>各種目の運動技能が7割程度できた。</td> <td>各種目の運動技能が5割程度できた。</td> <td>各種目の運動技能が3割程度できた。</td> <td>各種目の運動技能が全くできなくやる気がなかった。</td> </tr> <tr> <td>知識・理解(ルール、審判、運営の仕方)</td> <td>ルールを完全にマスターし審判やゲーム運営の仕方について状況や場面に応じて理解することができた。</td> <td>ルールをある程度マスターし審判やゲーム運営の仕方について応用的に理解することができた。</td> <td>ルールを最低限マスターし審判やゲーム運営の仕方について理解することができた。</td> <td>ルールほとんどにマスターしておらず審判やゲーム運営の仕方について部分的な理解に留まっていた。</td> <td>ルールをまったくマスターしておらず審判やゲーム運営の仕方について理解できていなかった。</td> </tr> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	関心・意欲・態度・判断	自ら進んで行動や役割を果たすことができ、とても意欲的に取り組み、かつ安全に細心の注意を払うことができた。	積極的に行動や役割を果たすことができ、意欲的に取り組み、安全に注意を払うことができた。	行動の仕方を守り役割を果たすことができ、普通に取り組み安全に注意を払っていた。	行動の仕方を守らず役割を果たそうとしない時があり、意欲もない時があり安全に注意を配っていないかった。	行動の仕方を守らず役割を果たさなく意欲も全くなく、安全に注意を配っていないかった。	各運動技能	各種目の運動技能に優れ十分にできていた。	各種目の運動技能が7割程度できた。	各種目の運動技能が5割程度できた。	各種目の運動技能が3割程度できた。	各種目の運動技能が全くできなくやる気がなかった。	知識・理解(ルール、審判、運営の仕方)	ルールを完全にマスターし審判やゲーム運営の仕方について状況や場面に応じて理解することができた。	ルールをある程度マスターし審判やゲーム運営の仕方について応用的に理解することができた。	ルールを最低限マスターし審判やゲーム運営の仕方について理解することができた。	ルールほとんどにマスターしておらず審判やゲーム運営の仕方について部分的な理解に留まっていた。	ルールをまったくマスターしておらず審判やゲーム運営の仕方について理解できていなかった。
評価項目		評価基準																											
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
関心・意欲・態度・判断	自ら進んで行動や役割を果たすことができ、とても意欲的に取り組み、かつ安全に細心の注意を払うことができた。	積極的に行動や役割を果たすことができ、意欲的に取り組み、安全に注意を払うことができた。	行動の仕方を守り役割を果たすことができ、普通に取り組み安全に注意を払っていた。	行動の仕方を守らず役割を果たそうとしない時があり、意欲もない時があり安全に注意を配っていないかった。	行動の仕方を守らず役割を果たさなく意欲も全くなく、安全に注意を配っていないかった。																								
各運動技能	各種目の運動技能に優れ十分にできていた。	各種目の運動技能が7割程度できた。	各種目の運動技能が5割程度できた。	各種目の運動技能が3割程度できた。	各種目の運動技能が全くできなくやる気がなかった。																								
知識・理解(ルール、審判、運営の仕方)	ルールを完全にマスターし審判やゲーム運営の仕方について状況や場面に応じて理解することができた。	ルールをある程度マスターし審判やゲーム運営の仕方について応用的に理解することができた。	ルールを最低限マスターし審判やゲーム運営の仕方について理解することができた。	ルールほとんどにマスターしておらず審判やゲーム運営の仕方について部分的な理解に留まっていた。	ルールをまったくマスターしておらず審判やゲーム運営の仕方について理解できていなかった。																								

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	建築学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	スポーツ総合(A) (科目ナンバリング：HSS031027)				
授業担当者(所属・職名)	小山 尋明(建築学科・准教授)・三嶋 康嗣(経営学科・専任講師)	研究室等所在	1号館4階		
単位数	1 (単位認定責任者：小山 尋明)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、高齢化社会を迎えた現在、将来に向け健康で豊かな生活を営んでいくための生涯スポーツの基礎を指導する。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	授業改善アンケート結果反映の説明ガイダンス(シラバス説明)(小山・三嶋)	事前にシラバスを読んで確認しておく(45分)	ガイダンスの内容を理解しておく(45分)
2	体力測定(小山・三嶋)	健康に留意し体調を整えておく(45分)	身体のケアを怠らない(45分)
3	体力測定(小山・三嶋)	健康に留意し体調を整えておく(45分)	身体のケアを怠らない(45分)
4	ボールゲーム/ネット型(卓球・バドミントン・バレーボール・ミニバレー)基礎動作と審判法、ゲーム運営(小山・三嶋)	種目の特性について理解しておく(45分)	次回の授業の為にルールを理解しておく(45分)
5	ボールゲーム/ネット型(卓球・バドミントン・バレーボール・ミニバレー)(小山・三嶋)	ゲーム運営について確認しておく(45分)	ゲーム運営について理解しておく(45分)
6	ボールゲーム/ネット型(卓球・バドミントン・バレーボール・ミニバレー)(小山・三嶋)	ゲーム運営について確認しておく(45分)	ゲーム運営について理解しておく(45分)
7	ボールゲーム/ネット型(卓球・バドミントン・バレーボール・ミニバレー)(小山・三嶋)	ゲーム運営について確認しておく(45分)	ゲーム運営について理解しておく(45分)
8	ボールゲーム/ネット型(卓球・バドミントン・バレーボール・ミニバレー)基礎動作と審判法、ゲーム運営(小山・三嶋)	ゲーム運営について確認しておく(45分)	ゲーム運営について理解しておく(45分)
9	ボールゲーム/ネット型(卓球・バドミントン・バレーボール・ミニバレー)(小山・三嶋)	ゲーム運営について確認しておく(45分)	ゲーム運営について理解しておく(45分)
10	ボールゲーム/ゴール型(バスケットボール・フットサル・アルティメット)基礎動作と審判法、ゲーム運営(小山・三嶋)	種目の特性について理解しておく(45分)	次回の授業の為にルールを理解しておく(45分)
11	ボールゲーム/ゴール型(バスケットボール・フットサル・アルティメット)(小山・三嶋)	ゲーム運営について確認しておく(45分)	ゲーム運営について理解しておく(45分)
12	ボールゲーム/ゴール型(バスケットボール・フットサル・アルティメット)(小山・三嶋)	ゲーム運営について確認しておく(45分)	ゲーム運営について理解しておく(45分)
13	ボールゲーム/ゴール型(バスケットボール・フットサル・アルティメット)(小山・三嶋)	ゲーム運営について確認しておく(45分)	ゲーム運営について理解しておく(45分)
14	ボールゲーム/ゴール型(バスケットボール・フットサル・アルティメット)(小山・三嶋)	ゲーム運営について確認しておく(45分)	ゲーム運営について理解しておく(45分)
15	ボールゲーム/ゴール型(バスケットボール・フットサル・アルティメット)(小山・三嶋)	ゲーム運営について確認しておく(45分)	ゲーム運営について理解しておく(45分)
16	まとめ 授業改善アンケートの実施(小山)	種目の特性やルールについて理解しておく(45分)	生涯スポーツとしての基礎を理解する(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目		対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	前期		授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	ｽﾎｰﾂ総合(S-B) (科目ナンバリング: HSS031027)					
授業担当者(所属・職名)	三嶋 康嗣(経営学科・専任講師)		研究室等所在	1号館2階		
単位数	1	(単位認定責任者: 三嶋 康嗣)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、生涯スポーツの基礎を指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標

生涯を健康で有意義に過ごすため、健康と体力を保持増進するとともに、身体活動をとあして社会性や協調性を養い、高齢化社会を迎えた現在、将来に向け健康で豊かな生活を営んでいくための生涯スポーツの基礎を学ぶ。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP(4)(5)に対応する。

到達目標

地域や職場に於けるスポーツ・レクリエーション活動を実践し、競技の特性やルールを学び理解することができる。

授業全体の内容と概要

各種目の基本技術を考慮し基礎的な動作やルールを学び、ゲーム中心に授業を進める。

授業の方法

各種目の特性を考慮し基礎的な動作やルールを理解させ怪我に注意を払いながらゲーム運営ができるように配慮していく。また授業の中で種目ごとに理解されているのか確認の実技試験を実施する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

- 1 ジャージ・屋内運動靴を必ず用意する。
  - 2 アクセサリー(時計、指輪、ピアス等)は全て外す。
  - 3 携帯電話の電源は必ず切る。
  - 4 貴重品・多額の現金は持参しない。
  - 5 爪・髪の手等は清潔にその他注意事項の詳細は授業ガイダンスで支持する。
- \*健康上の理由で医師から運動を停止されている者は、申し出の上指示を受けること。  
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上。  
男女差、年齢差によって評価を考慮していく。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	40%	50%	10%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
スポーツに関する関心・意欲・態度・判断	自ら進んで行動や役割を果たすことができ、とても意欲的に取り組み、且つ安全に細心の注意を払うことができた。	積極的に行動や役割を果たすことができ、意欲的に取り組み、安全に注意を払うことができた。	行動の仕方を守り役割をおおむね果たすことができ、普通に取り組み安全に注意を払っていた。	行動の仕方を守り役割を果たすことができ、普通に取り組み安全に注意を払っていた。	行動の仕方を守らず役割を果たさず意欲も全くなく安全に注意を配っていないかった。
各運動技能	各種目の運動技能に優れ十分にできた。	各種目の運動技能が7割程度できた。	各種目の運動技能が5割程度できた。	各種目の運動技能が3割程度できた。	各種目の運動技能が全くできなくやる気がなかった。
知識・理解(ルール、審判、運営の仕方)	ルールを完全にマスターし審判やゲーム運営のしかたについて状況や場面に応じて理解することができた。	ルールをおおむねマスターし審判やゲーム運営のしかたについて応用的に理解することができた。	ルールを一定のマスターし審判やゲーム運営のしかたについて理解することができた。	ルールを一定のマスターし審判やゲーム運営のしかたについて理解することができた。	ルールを全くマスターしておらず審判やゲーム運営のしかたについて理解できていなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	ｽﾎﾟｰﾂ総合(S-B) (科目ナンバリング:HSS031027)				
授業担当者(所属・職名)	三嶋 康嗣(経営学科・専任講師)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 三嶋 康嗣)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、生涯スポーツの基礎を指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『アクティブスポーツ総合版』	大修館書店編集部	大修館書店	2019	97844693603	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 ガイダンス 授業改善アンケート結果反映の説明	事前にシラバスを読んで認識しておく(45分)	ガイダンスの内容を理解しておく(45分)
2	体力測定	健康に留意し体調を整えておく(45分)	身体のケアを怠らない(45分)
3	体力測定	健康に留意し体調を整えておく(45分)	身体のケアを怠らない(45分)
4	ボールゲーム/ネット型(卓球,バドミントン,バレーボール,ミニバレー)基礎動作と審判法,ゲーム運営	種目の特性について理解しておく(45分)	次回の授業の為にルールを理解しておく(45分)
5	ボールゲーム/ネット型(卓球,バドミントン,バレーボール,ミニバレー)ゲーム	ゲーム運営について確認しておく(45分)	ゲーム運営について理解しておく(45分)
6	ボールゲーム/ネット型(卓球,バドミントン,バレーボール,ミニバレー)ゲーム	ゲーム運営について確認しておく(45分)	ゲーム運営について理解しておく(45分)
7	ボールゲーム/ネット型(卓球,バドミントン,バレーボール,ミニバレー)ゲーム	ゲーム運営について確認しておく(45分)	ゲーム運営について理解しておく(45分)
8	ボールゲーム/ネット型(卓球,バドミントン,バレーボール,ミニバレー)ゲーム	ゲーム運営について確認しておく(45分)	ゲーム運営について理解しておく(45分)
9	ボールゲーム/ネット型(卓球,バドミントン,バレーボール,ミニバレー)ゲーム	ゲーム運営について確認しておく(45分)	ゲーム運営について理解しておく(45分)
10	ボールゲーム/ゴール型(バスケットボール,フットサル,アルティメット)基礎動作と審判法,ゲーム運営	種目の特性について理解しておく(45分)	次回の授業の為にルールを理解しておく(45分)
11	ボールゲーム/ゴール型(バスケットボール,フットサル,アルティメット)ゲーム	ゲーム運営について確認しておく(45分)	ゲーム運営について理解しておく(45分)
12	ボールゲーム/ゴール型(バスケットボール,フットサル,アルティメット)ゲーム	ゲーム運営について確認しておく(45分)	ゲーム運営について理解しておく(45分)
13	ボールゲーム/ゴール型(バスケットボール,フットサル,アルティメット)ゲーム	ゲーム運営について確認しておく(45分)	ゲーム運営について理解しておく(45分)
14	ボールゲーム/ゴール型(バスケットボール,フットサル,アルティメット)ゲーム	ゲーム運営について確認しておく(45分)	ゲーム運営について理解しておく(45分)
15	ボールゲーム/ゴール型(バスケットボール,フットサル,アルティメット)ゲーム	ゲーム運営について確認しておく(45分)	ゲーム運営について理解しておく(45分)
16	まとめ 授業改善アンケートの実施	種目の特性やルールについて理解しておく(45分)	生涯スポーツとしての基礎を理解する(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	平面構成 (科目ナンバリング: AEA211003)				
授業担当者(所属・職名)	赤木 良子(建築学科・准教授)		研究室等所在	未定	
単位数	2 (単位認定責任者: 赤木 良子)	CAP制	×		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	商業インテリアデザイン・建築意匠設計経験。一級建築士。建築設計では平面の計画が全体の根幹となり、意匠設計では、配置、色彩等の平面構成が応用されて成るものであるため、平面構成は建築設計の基礎的な部分であるとも言える。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。もしくは、Teamsなどにより事前に連絡。				

概要

<b>履修目標</b>																					
デザインにおいて、基礎的な造形力である、2次元上における造形すなわち平面における造形力を様々な作業を通して養う。																					
<b>授業の位置づけ</b>																					
デザイン学科のDP (1) (2) (5) に対応する。																					
<b>到達目標</b>																					
作業を通して道具や材料の使い方に慣れる。 抽象的な思考について基礎的な理解ができる。 課題の要求に沿った表現ができる。																					
<b>授業全体の内容と概要</b>																					
課題を通して、デザインの基礎となる描画、着色、配置、カッティング等々の基礎的な作業を行いながら手作業での平面作品を制作する。これらの作業を通して発想力、構成力、想像力を養い、テーマや抽象的な事象についての基礎的な理解を促す。																					
<b>授業の方法</b>																					
各課題作品のテーマや補助的な知識について適宜講義し、制作を進めて行く。 制作には、アクリルガッシュ、筆、パレット、芯の柔らかい鉛筆、定規、コンパス等の筆記具、カッターナイフ、スケッチブックまたはクロッキー帳などの画材・道具を用いる。 なお、全体の課題の進行程度によって、課題数の増減等、内容の調整・変更を行うことがある。																					
<b>アクティブラーニングの実施方法</b>																					
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>P B L</td> </tr> <tr> <td>模範授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L															
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業															
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)															
<b>履修上の注意事項</b>																					
制作には、アクリルガッシュ、筆、パレット、芯の柔らかい鉛筆、定規、コンパス等の筆記具、カッターナイフ、スケッチブックまたはクロッキー帳を必要とする。 最初の授業では、アクリルガッシュによる着色を予定しているため、着色の道具、鉛筆などの筆記具、上記のノートを持参のこと。 課題に用いる道具や材料等は、上記の他にも必要になる場合があるので、授業の中で指示します。毎回各自忘れず用意すること。 不足の事態の際にオンライン授業を実施する場合があります。																					

<b>修学サポート(合理的配慮)</b>
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
<b>資格指定科目</b>
教職課程(美術・工芸)必修科目

評価方法・基準

<b>評価前提条件</b>												
12回以上の出席と全課題作の完成・提出を必須とする。 正当な理由なき10分以上の遅刻に関して、遅刻5回を1回欠席とみなす。												
<b>評価方法</b>												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>80%</td> <td>0%</td> <td>20%</td> <td>0%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	0%	80%	0%	20%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	0%	80%	0%	20%	0%							

<b>ルーブリック</b>					
	<b>評価基準</b>				
<b>評価項目</b>	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
手作業を通して道具や材料の使い方に慣れる。	十分に使いこなしていた。	概ね使いこなしていた。	不十分ではあるが使えていた。	最低限使えていた。	全く使いこなせていなかった。
抽象的な思考について基礎的な理解ができる。	十分に理解していた。	概ね理解していた。	不十分ではあるが、理解している部分があった。	あまり理解できていなかった。	全く理解できていなかった。
要求された課題の内容を的確に表現できる。	十分に出来ていた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが、出来ていた。	最低限出来ていた。	全く出来ていなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	平面構成 (科目ナンバリング: AEA211003)				
授業担当者(所属・職名)	赤木 良子(建築学科・准教授)		研究室等所在	未定	
単位数	2 (単位認定責任者: 赤木 良子)		CAP制	x	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	商業インテリアデザイン・建築意匠設計経験。一級建築士。建築設計では平面の計画が全体の根幹となり、意匠設計では、配置、色彩等の平面構成が応用されて成るものであるため、平面構成は建築設計の基礎的な部分であるとも言える。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『芸術・デザインの平面構成』	朝倉直巳	朝倉直巳	1984	ISBN4-89737-034-5	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明・授業改善アンケート結果反映の説明 課題1 自己紹介 写真連続課題の説明	シラバスを読んでおくこと(90分)	課題の制作(90分)
2	課題2 色の働き・色彩演習(色相環)	課題の制作(90分)	課題の制作(90分)
3	課題3 テーマとコラージュ	課題の制作(90分)	課題の制作(90分)
4	課題4 模写と彩色 下書き	課題の制作(90分)	課題の制作(90分)
5	課題4 模写と彩色 仕上げ	課題の制作(90分)	課題の制作(90分)
6	課題5 抽象基礎課題(1) 下書き	課題の制作(90分)	課題の制作(90分)
7	課題5 抽象基礎課題(1) 仕上げ	課題の制作(90分)	課題の制作(90分)
8	中間講評会 課題6 準備	課題の制作(90分)	課題の制作(90分)
9	課題6 場所の記憶 フロッタージュ 構想、下見	課題の制作(90分)	課題の制作(90分)
10	課題6 場所の記憶 フロッタージュ 採取	課題の制作(90分)	課題の制作(90分)
11	課題6 ステンシル制作	課題の制作(90分)	課題の制作(90分)
12	課題6 フロッタージュとステンシルによるレイアウト・仕上げ	課題の制作(90分)	課題の制作(90分)
13	課題7 テーマとカットティング 構想	課題の制作(90分)	課題の制作(90分)
14	課題7 テーマとカットティング レイアウト	課題の制作(90分)	課題の制作(90分)
15	課題7 テーマとカットティング 仕上げ 連続課題の確認	課題の制作(90分)	課題の制作(90分)
16	総評 授業改善アンケートの実施	課題の制作(90分)	振り返り(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	基本製図 (科目ナンバリング: APT311001)				
授業担当者(所属・職名)	安藤 淳一(建築学科・教授)	向井正 伸(建築学科・助教)	研究室等所在	2号館3階 2号館7階	
単位数	2 (単位認定責任者: 安藤 淳一)		CAP制	x	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

**履修目標**  
 実技形式の授業であり、建築製図に必要な道具とその使い方、手書きによる製図法の基本から木造建築の基図面作成の手順や表現内容を理解する。

**授業の位置づけ**  
 建築学科のDP(1)に対応する。

**到達目標**  
 図面作成の基礎的能力、木造建築の基本図面の理解と作図方法ならびに期限内課題提出のための基本的自己管理能力を習得する。

**授業全体の内容と概要**  
 課題内容は、毎回授業時間内に完成できる程度のものでしている。ただし時間内に完成できない場合は、演習室で引き続き作業を進めるか自宅での作業とし、次回授業開始時までに完成させること。  
 「SDGs11・住み続けられるまちづくりを」の関連授業

**授業の方法**  
 建築製図の基礎能力を身につけるためのカリキュラムであるため、毎回課題のテーマがありその内容に従って授業が進められる。課題内容は配布資料と、当日板書した情報をもとに詳細な説明をおこなう。作成した図面については、提出時にチェックをし、不備・誤りの部分についての指摘をおこない、手直し後に再提出する。なお、指導教員がSAの学生とともに、一人ひとりの理解度や進捗状況を確認しながら授業を進める。

**アクティブラーニングの実施方法**

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

**履修上の注意事項**  
 実技科目であること、建築製図能力養成の最も根幹となる授業であるため、欠席せず毎回課題の説明を聞き期限内に課題提出ができるよう努めなければならない。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

「建築士試験受験資格科目」必修科目、教職課程(工業)必修科目

評価方法・基準

**評価前提条件**  
 原則毎回出席すること(最低出席回数2回以上)、積極的に基礎技術習得に取り組むこと。

**評価方法**

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	80%	0%	0%	20%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
製図道具を自己で事前に準備し、それを十分に使いこなせる。	道具をすべて事前に準備し、十分に使いこなすことができた。	道具をすべて準備し、十分に使いこなすことができた。	道具をすべて準備し、使いこなすことができた。	道具をすべて準備し、おおむね使いこなすことができた。	道具を準備できない、使いこなすことができなかった。
木造建築を理解した上で正確な図面を作成する。	すべての点で正確な図面作成ができ、自分で誤りを見つけることができた。	すべての点で正確な図面作成ができた。	正確な図面を作成できた。	おおむね図面は作成できた。	理解不足のため、図面を作成することができなかった。
製図課題をスケジュールに則り提出期限内に作成・完了する。	すべての課題を余裕をもって期限内に作成・完了することができた。	すべての課題を期限内に作成・完了することができた。	ほとんどの課題を期限内に作成・完了することができた。	おおむね期限内に課題を作成・完了することができた。	すべての課題が期限内に作成・完了することができなかった。



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	基本製図 (科目ナンバリング: APT311001)				
授業担当者(所属・職名)	安藤 淳一(建築学科・教授)	向井正 伸(建築学科・助教)	研究室等所在	2号館3階 2号館7階	
単位数	2 (単位認定責任者: 安藤 淳一)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『コンパクト設計資料集 住居』	日本建築学会	丸善	2006	4621076884	なし
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス シラバスの説明, 授業改善アンケート結果反映の説明, 授業の進め方, 授業スケジュールの解説	シラバスの事前確認(90分)	授業を受ける際の注意事項と製図道具の確認(90分)
2	ガイダンス(製図道具及び製図台の解説)	シラバスの確認(90分)	際の注意事項と製図道具の確認(90分)
3	線の練習 1 - 1 実線・破線の種類	教科書の確認(90分)	課題内容と作業内容の再確認(90分)
4	線の練習 1 - 2 実線・破線の描き分け	教科書の確認(90分)	課題内容と作業内容の再確認(90分)
5	線の練習 2 - 1 線の太さと強さの意味	教科書の確認(90分)	課題内容と作業内容の再確認(90分)
6	線の練習 2 - 2 線の太さと強さの描き分け	教科書の確認(90分)	課題内容と作業内容の再確認(90分)
7	建築記号 1 - 1 (文字・数字の表記方法)	教科書の確認(90分)	課題内容と作業内容の再確認(90分)
8	建築記号 1 - 2 (階段の表現)	教科書の確認(90分)	課題内容と作業内容の再確認(90分)
9	建築記号 2 - 1 (壁・開口部の表現)	教科書の確認(90分)	課題内容と作業内容の再確認(90分)
10	建築記号 2 - 2 (平面図の表現)	教科書の確認(90分)	課題内容と作業内容の再確認(90分)
11	木造住宅模写 1 - 1 (配置図)	教科書の確認(90分)	課題内容と作業内容の再確認(90分)
12	木造住宅模写 1 - 2 (配置図)	教科書の確認(90分)	課題内容と作業内容の再確認(90分)
13	木造住宅模写 2 - 1 (平面図)	教科書の確認(90分)	課題内容と作業内容の再確認(90分)
14	木造住宅模写 2 - 2 (平面図)	教科書の確認(90分)	課題内容と作業内容の再確認(90分)
15	木造住宅模写 3 - 1 (断面図)	教科書の確認(90分)	課題内容と作業内容の再確認(90分)
16	木造住宅模写 3 - 2 (断面図)	教科書の確認(90分)	課題内容と作業内容の再確認(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17	木造住宅模写 4 - 1 (立面図)	教科書の確認(90分)	課題内容と作業内容の再確認(90分)
18	木造住宅模写 4 - 2 (立面図)	教科書の確認(90分)	課題内容と作業内容の再確認(90分)
19	木造住宅模写 5 - 1 (1階平面図 柱の割り付け)	教科書の確認(90分)	課題内容と作業内容の再確認(90分)
20	木造住宅模写 5 - 2 (1階平面図 詳細表現)	教科書の確認(90分)	課題内容と作業内容の再確認(90分)
21	木造住宅模写 5 - 3 (1階平面図 外構の表現)	教科書の確認(90分)	課題内容と作業内容の再確認(90分)
22	木造住宅模写 6 - 1 (2階平面図 柱の割り付け)	教科書の確認(90分)	課題内容と作業内容の再確認(90分)
23	木造住宅模写 6 - 2 (2階平面図 詳細表現)	教科書の確認(90分)	課題内容と作業内容の再確認(90分)
24	木造住宅模写 7 - 1 (エスキース図面の解説)	教科書の確認(90分)	課題内容と作業内容の再確認(90分)
25	木造住宅模写 7 - 2 (柱の割付の考え方)	教科書の確認(90分)	課題内容と作業内容の再確認(90分)
26	木造住宅模写 7 - 3 (建具の表記)	教科書の確認(90分)	課題内容と作業内容の再確認(90分)
27	木造住宅模写 7 - 4 (設備の表記)	教科書の確認(90分)	課題内容と作業内容の再確認(90分)
28	木造住宅模写 7 - 5 (家具の表記)	教科書の確認(90分)	課題内容と作業内容の再確認(90分)
29	木造住宅模写 7 - 6 (外構の表記)	教科書の確認(90分)	課題内容と作業内容の再確認(90分)
30	木造住宅模写 7 - 7 (図面の確認)	教科書の確認(90分)	課題内容と作業内容の再確認(90分)
31	講評会 1 (提出課題の講評と解説)	制作課題の提出状況の確認(90分)	建築図面の理解の再確認(90分)
32	講評会 2 (提出課題の講評と解説) 授業アンケートの実施	制作課題の提出状況の確認(90分)	建築図面の理解の再確認と振り返り(90分)



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	経営学総論 (科目ナンバリング: MAN411001, MAN511001)				
授業担当者(所属・職名)	信濃 吉彦(経営学科・教授)	研究室等所在	2号館6階		
単位数	2 (単位認定責任者: 信濃 吉彦)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

経営学の全体的な流れを中心に、本学科の各分野で必要となる基礎的な内容を理解し、伝統的な理論から現在一般化している理論等を身につける。

授業の位置づけ

経営学科DPの(1)、(3)、(4)に対応する。

到達目標

実社会で必要となる考え方(意思決定等)に必要とされる基本的な理論・事柄を身につけることができる。

授業全体の内容と概要

板書された内容や配布物の要点はもろんのこと、専門用語とその定義、重要人物名とその功績等は必ずノート(または専用データベース)にまとめることを日々のルーティンとする。積極的な質問や相談は大いに歓迎する。また、興味を持った内容についてはどんどん掘り下げて自分のものとしていくことを励行する。  
『SDG 4.質の高い教育をみんなに』の関連科目。

授業の方法

講義形式で授業を行い、教科書やハンドアウトを利用し経営学の全体的な内容を俯瞰的に学習する。ノートの作り方や課題、予習復習の内容ややり方についてはその都度授業中に指示を出す。座席は全席指定としスマホの使用は支持があるとき以外はこれを認めない。板書の写真撮影は認めるが次回の授業までに必ずノートに転記すること。課題や不明点に関してはネットや経営学辞典等で調べたものを必ずノートに筆記保存すること。与えられた課題については個別対応は行わず、授業内でディスカッション形式で確認を行うものとする。日々の連絡等にはMSチームズを有効的に活用すること。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模範授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

出席および授業参加度を重視する。出席とは、テキスト・ノート・筆記用具の3点セットを持参することを意味する。授業参加度とは、発言や質問等の積極性を意味し私語・居眠り・スマホゲーム・LINE等の授業妨害行為およびテキストを持参しない学生・手ぶらで着席している学生に關しては欠席扱いとする。中間試験は実施しない。課題提出を複数回行う。ノート提出を1回課し、最終評価の対象とする。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(商業)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な出席回数は、試験実施回を含めて11回以上とする。遅刻は20分までとし2回の遅刻を1回の欠席として扱う。予習復習を心がけ、知らない事柄は調べて書き残し癖をつけること。ノート提出は平常点の最大75%に換算する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	0%	20%	0%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	定期試験で90点以上の得点を挙げた。	定期試験で80点以上の得点を挙げた。	定期試験で70点以上の得点を挙げた。	定期試験で60点以上の得点を挙げた。	定期試験で60点をクリアすることができなかった。
思考力・判断力・表現力	積極的に授業や課題に取り組み、意思決定において必要となる理論の運用を学び、経営学における実践力を獲得するための努力をしている。	授業や課題に取り組み、マネジメントの真髄や各種理論への理解が深まりつつある。	授業や課題に取り組み、意思決定に至る考え方や各種理論の理解に対する努力が見られる。	授業や課題に取り組み、終極バランスを理解するための努力は認められるがなかなか定着していない。	学習活動への取り組みが不十分で、意思決定につながる過程とバランスへの理解に対する進歩が見られず、自分なりのデータベースができていない。
主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら課題解決に取り組み、余った時間をさらなる定義や理論の研究・理解に振り分けている。	授業中の質問が多く、学習方法や調査結果などの相談も常であり経営学における専門用語や理論の習得に關して前向きで、努力が窺える。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がつかがわれる。	何とか課題はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、ノートも板書に對する範囲を超えない。	自分から進んでマネジメント力を身につけようとする姿勢およびデータベース化に對する努力が見受けられない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	経営学総論 (科目ナンバリング: MAN411001, MAN511001)				
授業担当者(所属・職名)	信濃 吉彦(経営学科・教授)	研究室等所在	2号館 6階		
単位数	2 (単位認定責任者: 信濃 吉彦)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『初学者のための経営学概論』	前田 卓雄 他	株式会社 同友館	2021	9784496055515	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション: シラバスの説明 授業評価アンケートの結果に対する説明 企業論	専用のノートを準備する(90分)	ノートをまとめ過不足を 補い予習に備える(90分)
2	経営学の重鎮	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を 補い予習に備える(90分)
3	経営学の重鎮	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を 補い予習に備える(90分)
4	経営学の重鎮	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を 補い予習に備える(90分)
5	経営組織	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を 補い予習に備える(90分)
6	人的資源管理	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を 補い予習に備える(90分)
7	モチベーション論	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を 補い予習に備える(90分)
8	リーダーシップ論	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を 補い予習に備える(90分)
9	経営戦略	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を 補い予習に備える(90分)
10	経営戦略	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を 補い予習に備える(90分)
11	種々の分析手法	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を 補い予習に備える(90分)
12	種々の分析手法	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を 補い予習に備える(90分)
13	種々の分析手法	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を 補い予習に備える(90分)
14	種々の分析手法	ノート提出に備える(90分)	ノートをまとめ過不足を 補い予習に備える(90分)
15	テストレビュー&ノートチェック 企業の社会的責任 授業評価アンケートの実施	ノート提出に備える(90分)	試験に備える(90分)
16	試験(60分)及び総括(30分)	試験に備える(150分)	本科目の総復習(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	スタートアップ 演習(M) (科目ナンバリング: BAS001001)				
授業担当者(所属・職名)	信濃(経営学科・教授)・河野(経営学科・教授)・青山(経営学科・教授)	研究室等所在	2号館6階・1号館2階・1号館4階		
単位数	1 (単位認定責任者: 信濃 吉彦)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	各教員の研究室前掲示板等を参照				

概要

履修目標	大学生活における基本中の基本、日々の学習の仕方について学ぶ。
授業の位置づけ	経営学部DPの(2)、(4)に対応する科目である。
到達目標	日々の学習において未来につながるエビデンスやデータベースを構築し、知的根幹を築いてもらう。

授業の内容と概要	授業内容は、日々のノートテイキング、授業のポイント作成、調べ方講座、各種文型等の読み方・書き方、レポートに関してなど「聞く」「調べる」「読む」「書く」「まとめる」を学習し自分のものとしてもらう。特にレポートの書き方を通して客観表現の重要性を理解し大学生としての自覚を持ってもらう。
授業の方法	3名の教員が担当分野に関してオムニバス形式で授業を進める。本科目は出席を重視する。欠席可能回数は三回までとし、これを超えた場合は単位認定の対象としない。

アクティブラーニングの実施方法	<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td>○</td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>P B L</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td>○</td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>○ ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション		グループワーク	○	フィールドワーク		P B L	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業	○ ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション		グループワーク	○	フィールドワーク		P B L																
模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業																
○ ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																
履修上の注意事項	13回以上の出席を以ってグレーディングの対象とする。不合格になった学生は1年生に間に必ず再履修すること。原則2年次以降の再履修を認めない。また、不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。																					

修学サポート(合理的配慮)	事前相談を受け、大学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目	

評価方法・基準	
評価前提条件	最低13回の出席を必要とする。各授業で必ず重要ポイントを提出してもらおう。また、レポート提出を1回課し評価の対象とする。
評価方法	

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	40%	0%	0%	60%	0%

ルーブリック	評価基準				
評価項目	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	レポートで90点以上の得点を挙げた。	レポートで80点以上の得点を挙げた。	レポートで70点以上の得点を挙げた。	レポートで60点以上の得点を挙げた。	レポートで60点をクリアすることができなかった。
思考力・判断力・表現力	積極的に授業・レポートに取り組み、必要となる理論・情報を学び、本学経営学部学生としての実力を確立するための努力をしている。	授業・レポートに取り組み、必要となる理論・情報を学び、本学経営学部学生としての理解が深まりつつある。	授業・レポートに取り組み、必要となる理論・情報を学び、本学経営学部学生としての努力が見られる。	授業・レポートに取り組み、必要となる理論・情報を学び、本学経営学部学生としての努力は認められるがなかなか定着していない。	日々の授業・レポートへの取り組みが不十分で、必要となる理論・情報を学び、本学経営学部学生としての進歩が見られず、前向きな成長が見受けられない。
主体性	自己の目標をしっかりと設定し、データベース化への取り組みが確認できた。	質問が多く、学習方法や調査結果などの相談も常であり学習への取り組みが前向きで、努力が窺える。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がうかがわれる。	何とか日々の学習はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、知識の獲得が必要最小限度を超えない。データベースも脆弱である。	自分から進んで実力を身につけようとする姿勢およびデータベースに対する前向きな姿勢が見受けられない。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	スタートアップ演習(M) (科目ナンバリング: BAS001001)				
授業担当者(所属・職名)	信濃(経営学科・教授)・河野(経営学科・教授)・青山(経営学科・教授)	研究室等所在	2号館6階・1号館2階・1号館4階		
単位数	1 (単位認定責任者: 信濃 吉彦)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	本学経営学部生としての心構えと探求心に関して解説。授業改善アンケート結果反映の説明。(信濃他全担当教員)	シラバスの確認(45分)	振り返り課題(45分)
2	担当教員による授業(河野)	予習課題(45分)	振り返り課題(45分)
3	担当教員による授業(河野)	予習課題(45分)	振り返り課題(45分)
4	担当教員による授業(河野)	予習課題(45分)	振り返り課題(45分)
5	担当教員による授業(青山)	予習課題(45分)	振り返り課題(45分)
6	担当教員による授業(青山)	予習課題(45分)	振り返り課題(45分)
7	担当教員による授業(青山)	予習課題(45分)	振り返り課題(45分)
8	担当教員による授業(河田)	予習課題(45分)	振り返り課題(45分)
9	担当教員による授業(河田)	予習課題(45分)	振り返り課題(45分)
10	担当教員による授業(河田)	予習課題(45分)	振り返り課題(45分)
11	担当教員による授業(信濃・三嶋)	予習課題(45分)	振り返り課題(45分)
12	担当教員による授業(信濃・三嶋)	予習課題(45分)	振り返り課題(45分)
13	担当教員による授業(信濃・三嶋)	予習課題(45分)	振り返り課題(45分)
14	担当教員による授業(信濃・三嶋)	予習課題(45分)	振り返り課題(45分)
15	最終レポート課題の確認(信濃他全担当教員)	予習課題(45分)	振り返り課題(45分)
16	授業総括と今後に関する指授業改善アンケートの実施講(信濃他全担当教員)	予習課題(45分)	科目振り返り(45分)

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	スタートアップ 演習(S) (科目ナンバリング: BAS001001)				
授業担当者(所属・職名)	後藤 啓倫(社会福祉学科・専任講師) ・松下 守邦(社会福祉学科・教授)		研究室等所在	1号館4階・1号館2階	
単位数	1 (単位認定責任者: 松下 守邦)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。 Teamsチーム(本科目)に、履修学生と授業者の履修相談方法、連絡方法を情報提供する。				

概要

<b>履修目標</b>																					
<p>本科目は、学生生活をスタートするための「基礎演習」である。社会福祉学科における「大学の学び方」「アカデミックレポート基礎」を学ぶことが授業目的となる。</p> <p>学生としての身分は、高校までの生徒から学生へ変わる。高校までの学びは、教科書、正解の用意される学びが主であった。さらに、大学の学びは、知識の理解、覚えることのほかに、自らが「学術の方法」を使い、疑問を明らかにするスタイルが必要になる。</p> <p>この授業を通して、大学での学び、学問するために必要になる、学修経験を習得化するスキルを獲得する。</p>																					
<b>授業の位置づけ</b>																					
社会福祉学科のDP(2)(4)(5)に対応する。																					
<b>到達目標</b>																					
<p>主体的学修をおこなうこと、 大学で「学問をする」ことを到達基準とする。</p> <p>A 自ら進んで学修し、事実と意見をわけて思考すること B 学問対象について専門用語を使い考察し、客観的な意思決定ができること C よりよい意見を提示しあう建設的批判ができること 以上の三つが本科目の実践目標になる。</p>																					
<b>授業全体の内容と概要</b>																					
<p>「SDG4・質の高い教育をみんなに」の関連科目。</p> <p>大学で学ぶための学術倫理 (研究倫理とコンプライアンス) 対人援助を行う職業倫理 (社会福祉士、精神保健福祉士、保育士、特別支援学校教諭等の各種倫理綱領)を理解する。</p> <p>つぎの二つを主に学修する。 大学での学び方(履修登録・学修、ノートづくり) アカデミックレポート基礎(学術レポート作成)</p>																					
<b>授業の方法</b>																					
<p>授業は、講義形式によりテキスト、資料を解説する。マイクロソフト社Team s チーム「2023スタートアップ演習」のなかに授業資料をファイル提供する。 課題提出は、アンケートアプリFormsを利用する。【テキスト、ICT機器、オフィス365】</p> <p>学修は、教室の授業時間内と、授業外の事前・事後学習(予習、復習、自宅、図書情報館など)の構成になる。 各授業日教室の学びと授業外の学びをつみあげていくように能動的に参加する。【授業+授業外学修。基礎学修、応用的学修】</p> <p>テキスト(全10課)各課題などを提出すること。 授業中の能動的な学修(アクティブ・ラーニング)活動に参加すること。 最終授業では、本演習のまとめを教員がおこなう。 課題等については、教員コメントなどのフィードバックをうける機会がある。【授業教室前後、研究室オフィスアワーでの質問相談、歓迎】</p>																					
<b>アクティブラーニングの実施方法</b>																					
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>○</td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>P B L</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td>○</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		P B L	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		P B L															
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業															
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他(授業の方法参照)															
<b>履修上の注意事項</b>																					
<p>授業では、「誰もが自分自身の気持ちを表現し、尊重する権利をもつこと(assertion)」を大切にす。 遅刻、欠席、事務手続き等の対応ルール、授業中の私語、入退室、スマホ操作、水分補給等のマナーについて、初回授業にて確認する。 大学から交付される学生メールアドレスを使い、マイクロソフト社Teams科目チャネル、Formsを学修利用すること。 コンプライアンスにもとづき、授業のなかで提供する資料、配信データ等は「授業中の学習者に限り配布、送信される」(著作権法第35条の運用指針)ので、授業時間内の情報収集に留意すること。 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。</p>																					

<b>修学サポート(合理的配慮)</b>
<p>事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。</p> <p>高校教育までの支援をふまえ、本人とメニュー調整をおこないながら科目サポートを進めるので、授業開始前に授業者へ相談してほしい。</p>
<b>資格指定科目</b>

評価方法・基準

<b>評価前提条件</b>												
<p>単位認定のためには、授業第1回から第15回までに計10回以上の出席が必要になる。 この基準は、評価に必要な基準であるが、評価の十分条件にはならない。 全授業16回終了まで継続して学修につとめてほしい。</p>												
<b>評価方法</b>												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>70%</td> <td>0%</td> <td>30%</td> <td>0%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	0%	70%	0%	30%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	0%	70%	0%	30%	0%							

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
修得した知識を使い、収集した情報を分析し、理解することができる、情報分析力としての知識・技能	大学生として、知識・技能を積極的に修得しており、これまでの学修とつなげて類似点や相違点を考え、深く理解できた。	大学生として、知識・技能を積極的に修得しようとしており、おおむね理解できた。	大学生として、修得する知識・技能について基本的な理解ができた。	大学生として、知識・技能の修得に欠ける部分はあるが、理解できた。	大学生として、知識・技能の修得には著しい欠落があり、理解ができなかった。
収集した情報を分析して課題を発見し、客観的立場から成果を論理的に表現することができる、思考力・判断力・表現力	大学生として、客観的に状況を把握し、思考ができた。自己表現は共感的であり、特定の課題についてオリジナルの提案をすることができた。	大学生として、おおむね状況を理解しながら思考ができた。自己表現を一人称で説明したり、積極的に表現することができた。	大学生として、基本的な思考と自己表現ができた。	大学生として、改善の余地があるが、基本的な思考や自己表現ができた。	大学生として、思考や表現をすることができなかった。
大学の学修環境を創造するメンバーとして自覚し、自分の意見と異なる意見を統合させながら学修経験を高めようとする、関心・意欲・態度	大学生として役割と責任を自覚して、積極的・協同的に行動することができた。	大学生として役割を、おおむね理解して、自ら行動することができた。	大学生としての自分の役割を、基本的な行動をすることができた。	大学生として自分の役割を、改善の余地はあるが、行動することができた。	大学生として自分の役割を、自ら理解して行動することができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	スタートアップ演習(S) (科目ナンバリング: BAS001001)				
授業担当者(所属・職名)	後藤 啓倫(社会福祉学科・専任講師) ・松下 守邦(社会福祉学科・教授)		研究室等所在	1号館4階・1号館2階	
単位数	1 (単位認定責任者: 松下 守邦)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『失敗から学ぶ大学生のレポート作成法』	近藤裕子ほか	ひつじ書房	2019	9784894769700	
2	『星槎道都大学 学生便覧 2023年度版』	星槎道都大学学務部編		2023		
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション、シラバスの説明 前年度本科目、授業改善アンケート結果反映の説明、Teamsチームメンバー登録(後藤・松下)	シラバスの内容をよく読んでおく。(45分)	今回、学習をしたシラバス、学生便覧、テキストについて復習する。(45分)
2	大学での学び方(大学の学び、ノートテイキング)(後藤・松下)	授業前に、テキストと資料の学習範囲について予習する。(45分)	今回のテキスト、資料を復習する。(45分)
3	大学での学び方(アサーション、ネットリテラシー、Wikipedia)(後藤・松下)	授業前に、テキストと資料の学習範囲について予習する。(45分)	今回のテキスト、資料を復習する。(45分)
4	大学での学び方 学術倫理、コンプライアンス、職業倫理(後藤・松下)	授業前に、テキストと資料の学習範囲について予習する。(45分)	今回のテキスト、資料を復習する。(45分)
5	アカデミックレポート基礎(学術レポート、小論文の比較)(松下)	授業前に、テキストと資料の学習範囲について予習する。(45分)	今回のテキスト、資料を復習する。(45分)
6	アカデミックレポート基礎(表現方法)(松下)	授業前に、テキストと資料の学習範囲について予習する。(45分)	今回のテキスト、資料を復習する。(45分)
7	アカデミックレポート基礎(引用方法)(松下)	授業前に、テキストと資料の学習範囲について予習する。(45分)	今回のテキスト、資料を復習する。(45分)
8	アカデミックレポート基礎(図表作成)(松下)	授業前に、テキストと資料の学習範囲について予習する。(45分)	今回のテキスト、資料を復習する。(45分)
9	アカデミックレポート基礎(パラグラフライティング)(松下)	授業前に、テキストと資料の学習範囲について予習する。(45分)	今回のテキスト、資料を復習する。(45分)
10	アカデミックレポート基礎(情報と信頼性)(後藤)	授業前に、テキストと資料の学習範囲について予習する。(45分)	今回のテキスト、資料を復習する。(45分)
11	アカデミックレポート基礎(調査報告型レポート)(後藤)	授業前に、テキストと資料の学習範囲について予習する。(45分)	今回のテキスト、資料を復習する。(45分)
12	アカデミックレポート基礎(論証型レポート)(後藤)	授業前に、テキストと資料の学習範囲について予習する。(45分)	今回のテキスト、資料を復習する。(45分)
13	アカデミックレポート基礎(推敲と校正)(後藤)	授業前に、テキストと資料の学習範囲について予習する。(45分)	今回のテキスト、資料を復習する。(45分)
14	アカデミックレポート基礎(プレゼンテーション)(後藤)	授業前に、テキストと資料の学習範囲について予習する。(45分)	今回のテキスト、資料を復習する。(45分)
15	アカデミックレポート基礎(レポート作成のまとめ)(後藤・松下)	授業前に、テキストと資料の学習範囲について予習する。(45分)	今回のテキスト、資料を復習する。(45分)
16	本科目のまとめ(授業総括と学修の教員講評) 授業改善アンケートの実施(後藤・松下)	本科目のまとめの準備をする。(45分)	本科目全体の学習振り返りをする。(45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『社会福祉士の倫理綱領』		日本社会福祉士会	2020		
2	『精神保健福祉士の倫理綱領』		日本精神保健福祉士協会	2018		
3	『全国保育士会倫理綱領』		全国保育士会	2003		
4	『教職員の服務規律の保持について』		北海道教育委員会	2021		
5	『科学の健全な発展のために-誠実な科学者の心得-』		日本学術振興会	2015		

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	スタートアップ 演習(D) (科目ナンバリング: BAS001001)				
授業担当者(所属・職名)	北嶋 洋一(デザイン学科・教授)	研究室等所在	2号館5階		
単位数	1 (単位認定責任者: 北嶋 洋一)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

美術学部デザイン学科で学ぶ4年間のための基本的な常識を身につけ、心構えを養うと共に自らの将来を考えて取り組むべき志向を明確にする。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP(1)、(2)、(5)に対応する。

到達目標

美術分野の社会における立ち位置を認識し、自らの志向と照らし合わせることで適性を測る。そして、「各分野の学びにおいて自身が成長するために必要な要素は何か?」「今後どのように学ばなければならないのか?」を考え、創作活動の動機を確固たるものにする事ができる。

授業全体の内容と概要

アートとデザインの違いを認識させるための課題制作により、其々における情報の視覚化手段を伝える。その後、視覚表現活動の前段階となる「制作の動機」と「企画立案」の重要性を認識させ、曖昧な姿勢による創作に陥ることなく、意図的で有意義な作品制作を行うことができるようになるための指導を行う。研究倫理およびコンプライアンスについても学ぶ。

授業の方法

各課題の導入においては題材の内容に関連したPowerPointを作成し講義形式で行う。それを踏まえて、与えられた課題の題材を各自で調査し、要点を整理。その後、実技として制作を行う。制作に於いては手描き画材を主体としたアナログ作業となる。質問には随時対応する。完成作品は各自プレゼンテーションを行った後に提出。その後、学生全員へ回覧させることによって自分以外の様々な考えや手段を認識させ、意見を持たせる。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模範授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

課題制作のための用紙は配布。必要な画材は学生各自で準備する。提出期限は各課題授業の最終日から1週間以内とする。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。講義中の録音・録画・撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は10回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	20%	60%	0%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能 「デザインとアートの分野的な違いや特性を正しく理解している」	デザインやアートを学ぶ上での基本的な常識を理解し、意識して対応できるレベルで身につけることができた。	デザインやアートを学ぶ上での基本的な常識を理解し、指示があれば対応できるレベルで身につけることができた。	デザインやアートを学ぶ上での基本的な常識をある程度理解したが、その対応に関しては曖昧さを残している。	デザインやアートを学ぶ上での基本的な常識の理解が曖昧で、適切に対応できない場合もある。	デザインやアートを学ぶ上での基本的な常識を理解できなかった。
思考力・判断力・表現力 「デザインとアートの分野的な違いや特性を踏まえて課題の制作に取り組むことができる」	デザインやアートを学ぶ上での基本的な常識に準じた姿勢で、全ての制作に望むことができた。	デザインやアートを学ぶ上での基本的な常識に準じた姿勢で、80%以上の制作に望むことができた。	デザインやアートを学ぶ上での基本的な常識に準じた姿勢で、70%以上の制作に望むことができた。	デザインやアートを学ぶ上での基本的な常識に準じた姿勢で60%以上の制作に望むことができた。	デザインやアートを学ぶ上での基本的な常識に準じた姿勢で60%未満の制作に望むことができなかった。
主体性・多様性・協働性 「デザインとアートの分野の異なる課題に対して、其々の主題を理解し適切に対応し、充実したプレゼンテーションが行える」	分野の異なる課題に対して、其々の主題を理解し適切に対応し、評価できるレベルでのプレゼンテーションを行うことができた。	分野の異なる課題に対して、其々の主題を理解して対応し、評価できるレベルでのプレゼンテーションを行うことができた。	分野の異なる課題に対して、其々の主題をある程度理解することができていたが、求められるレベルでのプレゼンテーションには至らなかった。	分野の異なる課題に対して、其々の主題を理解しきれず、プレゼンテーションが不完全だった。	分野の異なる課題に対して、其々の主題を理解することができず、プレゼンテーションが行えなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	スタートアップ 演習(D) (科目ナンバリング: BAS001001)				
授業担当者(所属・職名)	北嶋 洋一(デザイン学科・教授)	研究室等所在	2号館5階		
単位数	1 (単位認定責任者: 北嶋 洋一)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明	授業全体のシラバスの流れを確認(45分)	志向調査レポートの作成を次授業開始時までまでに終える(45分)
2	プレゼンテーション「自己紹介用フリップの作成」 ・構想-ラフスケッチ	資料収集などの事前準備(45分)	ラフスケッチなど課題の継続作業(45分)
3	プレゼンテーション「自己紹介用フリップの作成」 ・A4画用紙にて作成	ラフ案の決定と仕様画材の準備(45分)	完成に向けての継続作業(45分)
4	プレゼンテーション「自己紹介用フリップの作成」 ・完成-提出	完成提出のための作業進捗確認(45分)	課題を次授業開始時までまでに完成提出する(45分)
5	「アートとデザイン」 ・作品鑑賞	アートとデザインについて、現状での認識の整理(45分)	鑑賞作品の再確認と同種の分野研究(45分)
6	プレゼンテーション 「影響を受けた作家を紹介するプリップ作成」 ・構想-ラフスケッチ	資料収集などの事前準備(45分)	ラフスケッチなど課題の継続作業(45分)
7	プレゼンテーション 「影響を受けた作家を紹介するプリップ作成」 ・A4画用紙にて作成	ラフ案の決定と仕様画材の準備(45分)	完成に向けての継続作業(45分)
8	プレゼンテーション 「影響を受けた作家を紹介するプリップ作成」 ・完成-提出	完成に向けての継続作業(45分)	課題を次授業開始時までまでに完成提出する。(45分)
9	「具象表現と抽象表現」 ・視覚情報伝達の手段と過程を知る作品鑑賞と比較	具象と抽象の言葉の意味を理解し、表現に対する現状認識の整理(45分)	鑑賞作品の再確認と同種の分野研究(45分)
10	プレゼンテーション 「視覚による情報伝達ツールの作成」 ・構想-ラフスケッチ	資料収集などの事前準備(45分)	ラフスケッチなど課題の継続作業(45分)
11	プレゼンテーション 「視覚による情報伝達ツールの作成」 ・A4画用紙にて作成	ラフ案の決定と仕様画材の準備(45分)	完成に向けての継続作業(45分)
12	プレゼンテーション 「視覚による情報伝達ツールの作成」 ・完成-提出	完成提出のための作業進捗確認(45分)	課題を次授業開始時までまでに完成提出する(45分)
13	「フローチャートによる情報伝達」 ・情報の整理と順列化	これまでに作成したフリップの修正点を確認(45分)	ラフスケッチなど課題の継続作業(45分)
14	「フローチャートによる情報伝達」 ・情報の取捨選択と簡略化	資料収集などの事前準備(45分)	完成に向けての継続作業(45分)
15	「フローチャートによる情報伝達」 ・情報の視覚化	完成提出のための作業進捗確認(45分)	課題を次授業開始時までまでに完成提出する(45分)
16	「講評」視覚伝達情報の活用について 授業改善アンケートの実施	全課題の整理と授業内容の再確認(45分)	今後の創作活動のため全授業内容の復習(45分)

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	建築学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	スタートアップ 演習(A) (科目ナンバリング: BAS001001)				
授業担当者(所属・職名)	赤木 良子(建築学科・准教授)、安藤 淳一(建築学科・教授)、伊藤 裕康		研究室等所在	各教員研究室	
単位数	1 (単位認定責任者: 伊藤 裕康)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	各研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

学生は大学卒業後、「自分で考え、調べ、自分の意見を表現する力」を社会から求められる。自分のアイデアを思いつきで終わらず、大学レベルの知識・教養を活用して、より多くの人が理解しやすい「ことば」に変えて論理的に表現する力を身につける。

授業の位置づけ

建築学科のDP(1)(4)に対応する。

到達目標

授業で学んだ知識を理解でき、自らの考えを論理的に表現(レポート、議論など)することができる。

授業全体の内容と概要

建築学科教員がオムニバス形式で授業を担当する。授業では、大学生活の概観、研究倫理およびコンプライアンス、授業理解のためのスキル、実験や調査を進めるスキル、考えをまとめるスキル、考えたことを表現するスキル、レポート作成のスキルなどについて身につける。人に伝えるための授業のため、予習・復習時間を利用して教員と時間外に積極的なコミュニケーションを心がけてほしい。  
\*S06 11. 住み続けられるまちづくりを」の関連科目。

授業の方法

各教員によって異なり、板書・パワーポイント・視聴覚メディア等による多様な授業形態により展開する。場合によってはグループによるフィールドワークも行い、プレゼンテーションの作成と発表も行う。提出課題や発表に対しては講評を行い、フィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

- ・授業中は口頭説明にも注意を向けノートを取る。授業で発表した内容、授業で活動した内容も含めて評価の対象となる。
- ・提出物は必ず期限までに提出すること。また、インターネットや文献からのコピーや書き写したものは採点の対象としない(0点とする)。
- ・不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は12回以上とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	40%	30%	0%	30%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
建築に関わる知識の修得	授業で学んだ知識や内容について、ノートに分かりやすくまとめることができたほか、他人に簡潔に説明することができた。	授業で学んだ知識や内容について、他人に説明することができた。	授業で学んだ知識や内容について、ノートにまとめることができた。	授業で学んだ知識について理解できた。	授業で学んだ知識について理解できなかった。
プレゼンテーション能力の育成	パワーポイント等のプレゼンテーションツールを用いて自分の考えを論理的かつ簡潔に表現することができ、画面のスライドを用いて分かりやすく説明できた。	パワーポイント等のプレゼンテーションツールを使って自分の考えを論理的に表現することができた。	パワーポイント等のプレゼンテーションツールを用いて自分の考えを論理的に表現することができた。	レポートや議論において、自分の考えを論理的に表現できた。	レポートや議論において、自分の考えを論理的に表現できなかった。
主体性を持ったグループワーク活動	グループワークにおいて、行動計画の立案や実際の学習活動を積極的にを行い、グループ全体の行動に主体的に関わることができた。	自分の分担する役割を十分に果たすだけでなく、他のメンバーをサポートし合うことができた。	グループのメンバー同士と円滑にコミュニケーションをとることができた。	自分の分担する役割を果たすことができた。	自分の分担する役割を果たすことができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	建築学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	スタートアップ演習(A) (科目ナンバリング: BAS001001)				
授業担当者(所属・職名)	赤木 良子(建築学科・准教授)、安藤 淳一(建築学科・教授)、伊藤 裕康		研究室等所在	各教員研究室	
単位数	1 (単位認定責任者: 伊藤 裕康)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	*BRUTUS特別編集 合本 建築を楽しむ教科書	マガジンハウス【編】	マガジンハウス	2022	9784838755707	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明/大学の学びとは/研究倫理およびコンプライアンスについて(伊藤 裕康・向井 正伸)	入学時に配布された履修関係の資料と学生便覧の熟読(45分)	授業内容をまとめる(45分)
2	建築の学びについて1 建築学生の大学生活の迷い方(君 興治)	指定した事項を調査する(45分)	授業内容をまとめる(45分)
3	建築の学びについて2 建築の仕事について(君 興治)	指定した事項を調査する(45分)	授業内容をまとめる(45分)
4	実験・実習の進め方 実験の意義と方法、手順(長森 正)	指定した事項を調査する(45分)	授業内容をまとめる(45分)
5	ひとかじり建築史 - 北海道の近代建築 - (赤木 良子)	指定した事項を調査する(45分)	授業内容をまとめる(45分)
6	都市を豊かにする建築空間(向井 正伸)	指定した事項を調査する(45分)	授業内容をまとめる(45分)
7	建築士資格取得に向けて(小笠原 健)	指定した事項を調査する(45分)	授業内容をまとめる(45分)
8	建築の基礎知識と技能1 建築用語の理解(佐々木 哲之)	指定した事項を調査する(45分)	授業内容をまとめる(45分)
9	建築の基礎知識と技能2 間取りを考える(佐々木 哲之)	指定した事項を調査する(45分)	授業内容をまとめる(45分)
10	プレゼンテーション練習 出身地の紹介(横山 哲也)	指定した事項を調査する(45分)	授業内容をまとめる(45分)
11	建築を学ぶ先にある進路について(安藤 淳一)	指定した事項を調査する(45分)	授業内容をまとめる(45分)
12	まちウォッチング1 まちの景観デザインについて(佐藤 善太郎・伊藤 裕康)	指定した事項を調査する(45分)	授業内容をまとめる(45分)
13	まちウォッチング2 北広島駅周辺を実際に見てみよう(佐藤 善太郎・伊藤 裕康)	指定した事項を調査する(45分)	授業内容をまとめる(45分)
14	グループワーク1 撮影した景観写真の整理と発表準備(佐藤 善太郎・伊藤 裕康)	指定した事項を調査する(45分)	授業内容をまとめる(45分)
15	グループワーク2 景観調査結果の発表(佐藤 善太郎・伊藤 裕康)	指定した事項を調査する(45分)	授業内容をまとめる(45分)
16	前期の学びのふりかえりと確認(小山 尋明)	指定した事項を調査する(45分)	授業内容をまとめる(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	キャリア支援演習 (M) (科目ナンバリング: SOE081053)				
授業担当者(所属・職名)	遠藤 均(経営学科・教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者: 遠藤 均)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

社会人の常識を身につけ学び、さらには卒業年度に始まる就職活動に必要な心構えを早期に身につける。

授業の位置づけ

経営学部経営学科のDP(1)、(2)、(3)に対応する。

到達目標

ビジネス能力検定(B検)ジョブパス3級相当の知識を身につけ、インターンシップや就職活動の際に生かすことができる。さらに、自ら率先し、周囲の状況に流されることなく就職活動に臨む姿勢を形作ることができる。

授業全体の内容と概要

ビジネス能力検定ジョブパス3級公式テキストを基にして、働くことの必然性を学び、社会人になることについての興味を引き出す。あらゆる業種において共通する一般常識を伝える講義内容とする。

授業の方法

教科書(ビジネス能力検定ジョブパス3級公式テキスト)の各章を順に追って解説し、その中で最も重視すべき点と、業種においての実例も上げながら、一般常識に加えて実践的な知識を伝えながら授業を進行する。調査学習として就職活動や業界に対する取材を適時行わせ、それらについての質問は随時対応する。授業で用いた教材は全てTeamsのファイル又はクラウドストレージへアップロードし、学生が任意で閲覧できる資料として蓄積する。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模範授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

2023年度版ビジネス能力検定ジョブパス3級公式テキストの購入と、蛍光マーカーなどチェック用の筆記用具は毎授業時、必ず用意しておくこと。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。講義中の録音・録画・撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は12回以上  
ビジネス能力検定3級を受験すること(既に取得済みの者を除く)

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
26%	0%	0%	26%	48%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能「ビジネス能力検定3級相当の知識を身につけている」	ビジネス能力検定3級に合格。中間テストと定期試験を平均した正答率が90%以上である。	ビジネス能力検定3級に合格。中間テストと定期試験を平均した正答率が80%以上である。	ビジネス能力検定3級に合格。中間テストと定期試験を平均した正答率が70%以上である。	ビジネス能力検定3級に合格。中間テストと定期試験を平均した正答率が50%以上である。	ビジネス能力検定3級に不合格。中間テストと定期試験を平均した正答率が50%以下である。
思考力・判断力・表現力「社会人に必要とされる一般常識を基にして、就職活動に望むことができる応用力を身につけている」	社会人に必要な一般常識を理解し、就職活動に於いては規範的な実践ができるレベルに到達した。	社会人に必要な一般常識を理解し、就職活動に於いては実践できるレベルに到達した。	社会人に必要な一般常識を理解しているが、就職活動に於いては実践できるレベルには未だ到達していない。	社会人に必要な一般常識の理解が不十分であり、実践できるレベルには到達していない。	社会人に必要な一般常識の理解できておらず、就職活動が行える段階にない。
主体性・多様性・協働性「就職活動を前提とし、デザイン学科の特性に合わせ、各種課題に対し、適切に対応することができる」	与えられた種々の課題に対し、臨機応変に適切に対応し、適切に対応するよう努力しており、取り組みも積極的であった。	与えられた種々の課題に対し、適切に対応するよう努力しており、取り組みも積極的であった。	与えられた種々の課題に対し、取り組みは積極的であったが、適切に対応しきれていなかった。	与えられた種々の課題に対し、適切に対応しきれていなかった。	与えられた種々の課題に対し、取り組みも積極的であったが、適切に対応しきれていなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	キャリア支援演習 (M) (科目ナンバリング: SOE081053)				
授業担当者(所属・職名)	遠藤 均(経営学科・教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者: 遠藤 均)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『2023年版 ビジネス能力検定ジョブパス3級公式テキスト』	一般財団法人職業教育・キャリア教育財団	日本能率協会マネジメントセンター	2023		
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス・シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを一読しておくこと(45分)	デザイン学科の主要な就職活動分野を研究(45分)
2	第1編 第1章 キャリアと仕事へのアプローチ	当該範囲の確認(45分)	当該範囲におけるチェック項目の確認(45分)
3	第1編 第2章 仕事の基本となる8つの意識	当該範囲の確認(45分)	当該範囲におけるチェック項目の確認(45分)
4	第1編 第3章 コミュニケーションとビジネスマナーの基本	当該範囲の確認(45分)	当該範囲におけるチェック項目の確認(45分)
5	第1編 第4章 指示の受け方と報告、連絡、相談	当該範囲の確認(45分)	当該範囲におけるチェック項目の確認(45分)
6	第1編 第5章 話し方と聞き方のポイント	当該範囲の確認(45分)	当該範囲におけるチェック項目の確認(45分)
7	第1編 第6章 来客応対と訪問の基本マナー	当該範囲の確認(45分)	当該範囲におけるチェック項目の確認(45分)
8	第1編 第7章 会社関係でのつき合い	当該範囲の確認(45分)	当該範囲におけるチェック項目の確認(45分)
9	中間テスト「第1編」	第1編の全内容についてテキストを再読(45分)	当該範囲及び第1編におけるチェック項目の確認(45分)
10	第2編 第1章 仕事への取り組み方	当該範囲の確認(45分)	当該範囲におけるチェック項目の確認(45分)
11	第2編 第2章 ビジネス文書の基本	当該範囲の確認(45分)	当該範囲におけるチェック項目の確認(45分)
12	第2編 第3章 電話応対	当該範囲の確認(45分)	当該範囲におけるチェック項目の確認(45分)
13	第2編 第4章 統計・データの読み方・まとめ方	当該範囲の確認(45分)	当該範囲におけるチェック項目の確認(45分)
14	第2編 第5章 情報収集とメディアの活用 第6章 会社を取り巻く環境と経営の基本	当該範囲の確認(45分)	当該範囲におけるチェック項目の確認(45分)
15	テキスト全編全章の復習 授業改善アンケートの実施	全範囲の確認(45分)	定期試験に向けての学習(45分)
16	定期試験(ビジネス能力検定3級受験)	全範囲についてテキストを再読(45分)	試験結果の確認と誤答力所の訂正(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	キャリア支援演習 (S) (科目ナンバリング: SOE081053)				
授業担当者(所属・職名)	横田 肇 (社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者: 横田 肇)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

学生が、インターンシップ・キャリア形成の事前学習として、ビジネスに必要な基本スキルを習得する。自らの職業観や勤労観といった概念の形成を前提に、学生がビジネス常識および、基礎的なコミュニケーション・情報の利活用など、将来、職業人として適応するために身につけておくべき知識を習得する。学生が、実社会で活躍するための基礎となる「キャリア形成」を学ぶための科目である。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP(2)に対応する。

到達目標

受講者がビジネス能力検定(B検)ジョブパス3級に合格する実力を身に付けている。テキストの内容がひととおり理解できている。情報収集、コミュニケーション能力の基礎が身に付いており、応用できる。

授業全体の内容と概要

毎回、テキストに基づく講義(テキストの内容、関連事項の説明)、関連する事項についての演習、を行い、適宜、グループワーク、プレゼンテーションを取り入れる。

授業の方法

講義では、毎回、パワーポイントと板書を併用しつつ、テキストの該当箇所を説明していく。演習では、所定の問題を解いてもらい、その後に解説を加える。については、特定の日を決め、所定の課題について、グループを編成し、グループ毎にプレゼンテーションを行う。毎回、授業の最後にミニッツペーパーを書いてもらい、回収し、次の授業の冒頭でふりかえりを行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

遅刻しないように留意し、理由のある欠席は申し出ること。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。状況に応じ、板書、スライド、口頭、資料による説明に配慮する。写真、録音・録画を認める。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。ビジネス能力検定(B検定)を受験しないものには単位認定できない。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	0%	0%	10%	30%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
テキスト(説明)の理解度	テキストの内容が完全に理解され、自分で説明ができ、十分応用する力があった。	テキストの内容がほぼ理解され、説明ができ、ある程度応用できた。	テキストの内容がおおよそ理解され、説明でき、ある程度応用できた。	テキストの内容が、おおよそわかり、説明可能で、多少応用できた。	テキストの内容があまり理解されず、説明できなかった。
情報収集能力・スキル	多面的、正確に情報が収集でき、自分で編集、整理が的確にでき、正確に表現、発信できた。	正確に情報が収集でき、的確に整理ができ、正確に発信できた。	正確に情報が収集でき、的確に整理ができた。	情報収集、整理の基本が身に付いていた。	情報収集、整理の基本が身に付いていなかった。
コミュニケーション能力・スキル	積極的、的確な会話と議論ができ、的確な提案・主張ができた。	的確な会話と議論ができ、的確な提案ができた。	的確な会話ができ、的確な提示ができた。	会話の基本が身に付いていた。	会話の基本が身に付いていなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	キャリア支援演習 (S) (科目ナンバリング: SOE081053)				
授業担当者(所属・職名)	横田 肇(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者: 横田 肇)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『2023年版B検ビジネス能力検定ジョブパス3級公式テキスト』	日本能率協会マネジメントセンター	日本能率協会マネジメントセンター	2021	978-4-8207-2855-9	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	授業改善アンケート結果反映の説明、シラバスの説明、ガイダンス、キャリアと仕事へのアプローチ	シラバスを読む(90分)	第1編第1章の復習をする(90分)
2	仕事の基本となる8つの意識、コミュニケーションとビジネスマナーの基本	第1編第2、3章の予習をする(90分)	第1編第2、3章の復習をする(90分)
3	指示の受け方と報告、連絡・相談、話し方と聞き方のポイント	第4、5章の予習をする(90分)	第4、5章の復習をする(90分)
4	来客対応と訪問の基本マナー、小テスト(1)[最終回に解説しフィードバックします]	第6章の予習をする(90分)	第6章の復習をする(90分)
5	会社関係でのつきあい	第7章の予習をする(90分)	第7章の復習をする(90分)
6	仕事への取り組み方	第2編第1章の予習をする(90分)	第2編第1章の復習をする(90分)
7	ビジネス文章の基本	第2章の予習をする(90分)	第2章の復習をする(90分)
8	電話対応	第3章の予習をする(90分)	第3章の復習をする(90分)
9	統計・データの読み方・まとめ方、小テスト(2)[最終回に解説しフィードバックします]	第4章の予習をする(90分)	第4章の復習をする(90分)
10	情報収集とメディアの活用	第5章の予習をする(90分)	第5章の復習をする(90分)
11	会社を取り巻く環境と経済の基本、まとめ確認	第6章の予習をする(90分)	第6章の復習をする(90分)
12	グループ学習とプレゼンテーション	授業中に指示(90分)	授業中に指示(90分)
13	グループ学習とプレゼンテーション	授業中に指示(90分)	授業中に指示(90分)
14	グループ学習とプレゼンテーション	授業中に指示(90分)	授業中に指示(90分)
15	テキストの補足、まとめ。	テキスト全体の確認をする(90分)	テキスト全体の復習をする(90分)
16	定期試験 [60分の試験終了後、残りの30分で解説を行います] 授業改善アンケートの実施。	授業中に指示(90分)	授業中に指示(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	キャリア支援演習 (D) (科目ナンバリング: SOE081053)				
授業担当者(所属・職名)	北嶋 洋一(デザイン学科・准教授)	研究室等所在	2号館5階		
単位数	1 (単位認定責任者: 北嶋 洋一)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

社会人の常識を身につけ学び、さらには卒業年度に始まる就職活動に必要な心構えを早期に身につける。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP(1)、(2)に対応する。

到達目標

ビジネス能力検定(B検)ジョブパス3級相当の知識を身につけ、インターンシップや就職活動の際に生かすことができる。さらに、自ら率先し、周囲の状況に流されることなく就職活動に臨む姿勢を形作ることができる。

授業全体の内容と概要

ビジネス能力検定ジョブパス3級公式テキストを基にして、働くことの必然性を学び、社会人になることについての興味を引き出す。あらゆる業種において共通する一般常識を伝える講義内容とする。

授業の方法

教科書(ビジネス能力検定ジョブパス3級公式テキスト)の各章を順に追って解説し、その中で最も重視すべき点と、業種においての実例も上げながら、一般常識に加えて実践的な知識を伝えながら授業を進行する。調査学習として就職活動や業界に対する取材を適時行わせ、それらについての質問は随時対応する。授業で用いた教材は全てTeamsのファイル又はクラウドストレージへアップロードし、学生が任意で閲覧できる資料として蓄積する。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模範授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

2021年度版ビジネス能力検定ジョブパス3級公式テキストの購入と、蛍光マーカーなどチェック用の筆記用具は毎授業時、必ず用意しておくこと。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。講義中の録音・録画・撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は10回以上  
ビジネス能力検定3級を受験すること(既に取得済みの者を除く)

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
40%	0%	0%	40%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能「ビジネス能力検定3級相当の知識を身につけている」	ビジネス能力検定3級に合格。中間テストと定期試験を平均した正答率が90%以上である。	ビジネス能力検定3級に合格。中間テストと定期試験を平均した正答率が80%以上である。	ビジネス能力検定3級に合格。中間テストと定期試験を平均した正答率が70%以上である。	ビジネス能力検定3級に合格。中間テストと定期試験を平均した正答率が50%以上である。	ビジネス能力検定3級に不合格。中間テストと定期試験を平均した正答率が50%以下である。
思考力・判断力・表現力「社会人に必要とされる一般常識を基にして、就職活動に望むことができる応用力を身につけている」	社会人に必要な一般常識を理解し、就職活動に於いては根拠的な実践ができるレベルに到達した。	社会人に必要な一般常識を理解し、就職活動に於いては実践できるレベルに到達した。	社会人に必要な一般常識を理解しているが、就職活動に於いては実践できるレベルには未だ到達していない。	社会人に必要な一般常識を理解が不十分であり、実践できるレベルには到達していない。	社会人に必要な一般常識を理解できておらず、就職活動が行える段階にない。
主体性・多様性・協働性「就職活動を前提とし、デザイン学科の特性に合わせた各種課題に対し、適切に対応することができる」	与えられた種々の課題に対し、臨機応変に適切に対応し、適切に対応するよう努力しており、取り組みも積極的であった。	与えられた種々の課題に対し、適切に対応するよう努力しており、取り組みも積極的であった。	与えられた種々の課題に対し、取り組みは積極的であったが、適切に対応しきれなかった。	与えられた種々の課題に対し、適切に対応しきれなかった。	与えられた種々の課題に対し、取り組みも積極的であったが、適切に対応しきれなかった。



基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	キャリア支援演習 (D) (科目ナンバリング: SOE081053)				
授業担当者(所属・職名)	北嶋 洋一(デザイン学科・准教授)	研究室等所在	2号館5階		
単位数	1 (単位認定責任者: 北嶋 洋一)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『2023年版 ビジネス能力検定3級公式テキスト』	一般財団法人職業教育・キャリア教育財団	日本能率協会マネジメントセンター	2022		
2						
3						
4						
5						

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス-シラバスの説明	シラバスを一読しておくこと(45分)	デザイン学科の主要な就職活動分野を研究(45分)
2	第1編 第1章 キャリアと仕事へのアプローチ	当該範囲の確認(45分)	当該範囲におけるチェック項目の確認(45分)
3	第1編 第2章 仕事の基本となる8つの意識	当該範囲の確認(45分)	当該範囲におけるチェック項目の確認(45分)
4	第1編 第3章 コミュニケーションとビジネスマナーの基本	当該範囲の確認(45分)	当該範囲におけるチェック項目の確認(45分)
5	第1編 第4章 指示の受け方と報告、連絡、相談	当該範囲の確認(45分)	当該範囲におけるチェック項目の確認(45分)
6	第1編 第5章 話し方と聞き方のポイント	当該範囲の確認(45分)	当該範囲におけるチェック項目の確認(45分)
7	第1編 第6章 来客応対と訪問の基本マナー	当該範囲の確認(45分)	当該範囲におけるチェック項目の確認(45分)
8	第1編 第7章 会社関係でのつき合い	当該範囲の確認(45分)	当該範囲におけるチェック項目の確認(45分)
9	中間テスト「第1編」	第1編の全内容についてテキストを再読(45分)	当該範囲及び第1編におけるチェック項目の確認(45分)
10	第2編 第1章 仕事への取り組み方	当該範囲の確認(45分)	当該範囲におけるチェック項目の確認(45分)
11	第2編 第2章 ビジネス文書の基本	当該範囲の確認(45分)	当該範囲におけるチェック項目の確認(45分)
12	第2編 第3章 電話応対	当該範囲の確認(45分)	当該範囲におけるチェック項目の確認(45分)
13	第2編 第4章 統計・データの読み方・まとめ方	当該範囲の確認(45分)	当該範囲におけるチェック項目の確認(45分)
14	第2編 第5章 情報収集とメディアの活用 第6章 会社を取り巻く環境と経営の基本	当該範囲の確認(45分)	当該範囲におけるチェック項目の確認(45分)
15	テキスト全編全章の復習 授業改善アンケートの実施	全範囲の確認(45分)	定期試験に向けての学習(45分)
16	定期試験(ビジネス能力検定3級受験)	全範囲についてテキストを再読(45分)	試験結果の確認と誤答力所の訂正(45分)

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	建築学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	キャリア支援演習 (A) (科目ナンバリング: SOE081053)				
授業担当者(所属・職名)	横山 哲也(建築学科・准教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者: 横山 哲也)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

学生が教養力を身に付けるために「キャリア形成」を幅広く学ぶための科目である。インターンシップの事前学習として、ビジネスに必要な基本スキルを習得する。自らの職業観や勤労観といった概念の形成を前提にビジネス常識および、基礎的なコミュニケーション、情報の利活用など、将来、職業人として適応するために身につけておくべき知識を習得する。

授業の位置づけ

建築学科のD P ( 2 ) に対応する。

到達目標

ビジネス能力検定 ( B 検 ) ジョブパス 3 級相当の知識を身につけ、インターンシップや就職活動の際に生かすことができる。

授業全体の内容と概要

すべての人々が共生する社会で必要となる教養を身につけるために次のことを行う。 講義、演習、グループワーク、プレゼンテーション、最終的にはジョブパス 3 級取得を達成する。

授業の方法

授業は、板書及び配布資料で実施し、グループワークにてグループ発表、レポート提出 ( 全 2 回 ) も行う。また、学生が考える時間を取った後課題は解説する。

アクティブラーニングの実施方法

<input type="radio"/>	プレゼンテーション	<input type="radio"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	P B L
<input type="checkbox"/>	模範授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業
<input type="radio"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他 ( 授業の方法参照 )

履修上の注意事項

授業時間の半分以上の遅刻は欠席とみなします。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート ( 合理的配慮 )

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員 ( 大学 ) が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

11 回以上の出席及びビジネス能力検定 3 級受験することが単位認定の必須事項となる。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
80%	0%	0%	0%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ビジネス能力の向上	課題の内容を正確に理解し、丁寧な提出物 ( レポート ) になった。また、ジョブパス 3 級試験に合格した場合は 10 点加点する。	課題の内容を正確に理解した提出物 ( レポート ) になった。また、ジョブパス 3 級試験に合格した場合は 10 点加点する。	課題の内容を理解し、丁寧な提出物 ( レポート ) になった。また、ジョブパス 3 級試験に合格した場合は 10 点加点する。	課題の内容を理解した提出物 ( レポート ) になった。また、ジョブパス 3 級試験に合格した場合は 10 点加点する。	課題の内容を理解した提出物 ( レポート ) にならなかった。
ジョブパス 3 級合格力の修得	授業で修得してきた内容に関心を持ち、意欲的に問題の解決に努めた。さらに、自分で問題も作成した。	授業で修得してきた内容に関心を持ち、意欲的に問題の解決に努めた。	授業で修得してきた内容に関心を持ち、問題の解決に努めた。	授業で修得してきた内容に関心を持ち、問題の解決に努めようとした。	問題の解決力を授業で修得できなかった。
キャリア形成の修得	自己分析及びその長所・短所が学校生活及び社会にどんな影響を与えるか完璧に言えた。	自己分析及びその長所・短所が学校生活及び社会にどんな影響を与えるか言えた。	自己分析及びその長所・短所が学校生活及び社会にどんな影響を与えるかほぼ言えた。	自己分析及びその長所・短所が学校生活及び社会にどんな影響を与えるか大体言えた。	自己分析及び長所・短所が学校生活及び社会にどんな影響を与えるか言えなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	建築学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	キャリア支援演習 (A) (科目ナンバリング: SOE081053)				
授業担当者(所属・職名)	横山 哲也(建築学科・准教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者: 横山 哲也)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『2022年版ビジネス能力検定ジョブパス 3級公式テキスト』		日本能率協会マネジメントセンター			
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『適宜指示』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション、シラバスの説明及び授業改善アンケート結果反映の説明 キャリアと仕事へのアプローチ	教科書の学習内容の箇所を事前に読んでおくこと(45分)	今日の授業の再確認(45分)
2	仕事の基本となる8つの意識	教科書の学習内容の箇所を事前に読んでおくこと(45分)	今日の授業の再確認(45分)
3	コミュニケーションとビジネスマナーの基本	教科書の学習内容の箇所を事前に読んでおくこと(45分)	今日の授業の再確認(45分)
4	指示の受け方と報告、連絡・相談	教科書の学習内容の箇所を事前に読んでおくこと(45分)	今日の授業の再確認(45分)
5	話し方と聞き方のポイント	教科書の学習内容の箇所を事前に読んでおくこと(45分)	今日の授業の再確認(45分)
6	来客対応と訪問の基本マナー	教科書の学習内容の箇所を事前に読んでおくこと(45分)	今日の授業の再確認(45分)
7	会社関係でのつき合い	教科書の学習内容の箇所を事前に読んでおくこと(45分)	今日の授業の再確認(45分)
8	仕事への取り組み方	教科書の学習内容の箇所を事前に読んでおくこと(45分)	今日の授業の再確認(45分)
9	仕事への取り組み方	教科書の学習内容の箇所を事前に読んでおくこと(45分)	今日の授業の再確認(45分)
10	ビジネス文章の基本	教科書の学習内容の箇所を事前に読んでおくこと(45分)	今日の授業の再確認(45分)
11	ビジネス文章の基本	教科書の学習内容の箇所を事前に読んでおくこと(45分)	今日の授業の再確認(45分)
12	電話対応	教科書の学習内容の箇所を事前に読んでおくこと(45分)	今日の授業の再確認(45分)
13	統計・データの読み方・まとめ方	教科書の学習内容の箇所を事前に読んでおくこと(45分)	今日の授業の再確認(45分)
14	情報収集とメディアの活用	教科書の学習内容の箇所を事前に読んでおくこと(45分)	今日の授業の再確認(45分)
15	会社を取り巻く環境と経済の基本及び授業改善アンケートの実施	教科書の学習内容の箇所を事前に読んでおくこと(45分)	今日の授業の再確認(45分)
16	全学生の受験をめざすため16回目の授業にて定期試験として実施する	総復習(45分)	総理解(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM133145, SEM433086, SEM533093)				
授業担当者(所属・職名)	由水 伸(経営学科・教授)		研究室等所在	1号館2階	
単位数	1 (単位認定責任者: 由水 伸)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	企業での情報システム開発の経験を持つ教員が、その実務経験を活かして情報システムの理解に必要な知識について講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

情報通信技術の専門領域を通して、経営学部生として主体的な学ぶ姿勢、学問的(客観的・論理的)な思考・研究方法の基礎を磨く。そして、それを基礎として、自ら課題設定を行い、学問的に問題解決する力をつけ、就職活動や卒業論文へ活かす専門的な知識領域を磨く。

授業の位置づけ

経営学科のDP全てに対応する。

到達目標

多岐にわたる情報分野と経営学の知識を総合的に理解し、各自が修める専門テーマを明確にする。また、そのために必要な知識と考え方を修得するよう努力する。

授業全体の内容と概要

IoT(Internet of Things)の理解に必要な基礎知識に向けた知識(電気工学、電子工学、その他)の獲得の方向で演習が進められる。

授業の方法

講義、ゼミナール、実験、制作等、さまざまな授業形態がとられる。したがって、大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。与えられたテーマに沿ってプレゼンテーションを行う。テーマ別にティラスカッションやティベートを行う。グループに分かれて討議や調査を行うなど実社会において使える技能に磨きをかけることを目的とした様々な活動を行うこととなる。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

30分以上の遅刻・早退は欠席とみなす。授業内容は前後の相関関係があるため、欠席するとそれ以降の理解が難しくなる。全ての授業に出席することが望ましい。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

授業16回のうち出席13回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。毎回の授業における課題の過程と結果が得点として積算される。最終評価はルーブリックに従い、総合的に判断し決定する。原則としてS評価は全回出席者に限る。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
40%	20%	40%	%	%	%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	真摯に取り組み、高いレベルで知識・技能を獲得する事ができた。また、独自の発想で課題に取り組み、高い結果を出していた。	真摯に取り組み、高いレベルで知識・技能を獲得する事ができた。	まじめに取り組み、知識・技能の獲得につなげていた。	知識・技能を得るための最低限の活動は行った。	知識・技能を得るための最低限の活動が見られなかった。
思考力・判断力・表現力	真摯に取り組み、深いレベルで思考力・判断力・表現力を獲得する姿勢が感じられた。また、独自の発想で課題に取り組み、高い結果を出していた。	真摯に取り組み、深いレベルで思考力・判断力・表現力を獲得する姿勢が感じられた。	まじめに取り組み、思考力・判断力・表現力の獲得につなげていた。	概ね、まじめに取り組んだが、思考力・判断力・表現力の獲得は不十分であった。	取り組みが不十分で、思考力・判断力・表現力の獲得に対する姿勢が全く見られなかった。
主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら授業に取り組んできた。また、課題解決後もさらなる研究・改善に努めた。	与えられた問題解決に前向きで、努力して取り組むが疎忽した。	不明点を質問するなど前向きな姿勢がつかわれた。	何とか授業はこなすものの、集中力が欠けていて理解する姿勢が不十分であった。	内容を身につけようとする姿勢が全く見られなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM133145, SEM433086, SEM533093)				
授業担当者(所属・職名)	由水 伸(経営学科・教授)		研究室等所在	1号館2階	
単位数	1 (単位認定責任者: 由水 伸)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	企業での情報システム開発の経験を持つ教員が、その実務経験を活かして情報システムの理解に必要な知識について講義を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスの確認(45分)	配布資料の確認(45分)
2	IoTとAIが築く世界 Society5.0、近未来社会	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
3	電気と電流、電子、電磁波について 電子、陽子、中性子 磁界、電磁波、他	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
4	導体、不導体、半導体	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
5	電子デバイス 抵抗、コンデンサー、ダイオード、トランジスタ等	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
6	各種センサー 赤外線(人感)センサー、光センサー 温度センサー、他	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
7	中間まとめ	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
8	実習1 配線の基礎、LEDの取り扱い	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
9	実習2 MOSFETスイッチング素子	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
10	実習3(1) 人感センサーライトの設計	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
11	実習3(2) 人感センサーライトの作成	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
12	実習3(3) 人感センサーライトの完成	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
13	テーマ別研究(グループ)	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
14	テーマ別研究の発表(グループ)	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
15	全体まとめ 授業改善アンケートの実施	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
16	定期試験(学科:1-7回目の内容) 定期試験と解答解説	授業振り返り作成(45分)	全体振り返り(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM133145, SEM433086, SEM533093)				
授業担当者(所属・職名)	信濃 吉彦(経営学科・教授)	研究室等所在	2号館6階		
単位数	1 (単位認定責任者: 信濃 吉彦)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

担当各教員の専門領域を通して、経営学部生として主体的な学ぶ姿勢、学問的(客観的・論理的)な思考、研究方法の基礎を磨く。そして、それを基礎として、自ら課題設定を行い、学問的に問題解決する力をつけ、就職活動や卒業論文へ活かし専門的な知識領域を磨く。

授業の位置づけ

経営学科のDP全てに対応する。

到達目標

多岐にわたる経営学の分野を理解し、各自が修める専門テーマを明確にする。また、そのために必要な知識と考え方を修得するよう努力する。

授業全体の内容と概要

それぞれのゼミナル担当教員が提示している「専門テーマ」に沿った形で演習が進められる。最終的な成果を形にすることを旨として、研究を着実に進めることが一層求められる。

授業の方法

各教員の指導方針の下に行われるので、講義、ゼミナル、実験、制作、見学、調査等、さまざまな授業形態がとられる。したがって、大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。与えられたテーマに沿ってプレゼンテーションを行う。テーマ別にディスカッションやディベートを行う。グループに分かれて討議や調査を行うなど、実社会において使える技能に磨きをかけることを目的とした様々な活動を行うこととなる。

アクティブラーニングの実施方法

<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL
<input type="checkbox"/>	模擬授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業
<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

各担当教員が授業時にアナウンスするので、その指示に従うこと。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

授業16回のうち13回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。最終評価は各教員が判断し決定する。出席および日々の活動はすべて平常点扱いとしゼミ担任が判断する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	0%	100%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	知識・技能を得るために十分積極的に活動した。	知識・技能を得るための活動は、やや積極性を欠くものの十分な姿勢を見せた。	知識・技能を得るための通常の活動は、ある程度こなすことができた。	知識・技能を得るための最低限の活動を行った。	知識・技能を得るための最低限の活動が見られなかった。
思考力・判断力・表現力	積極的にゼミに取り組み、経営学部生として実社会で対応し得る様々なスキルを学び、経営学部において学んだ内容を以って社会に貢献するための努力をした。	各回のゼミに真摯に取り組み、経営学部生として十分な理解力を獲得へ向けた理解を深めることができた。	各回のゼミに取り組み、考え方や問題解決に対する努力が見られた。	ゼミにまじめに取り組み、経営学部生としての日常生活を実社会につなげるための努力は認められるがなかなか定着していない。	ゼミへの取り組みが不十分で、本学経営学部生としての知識の獲得に対する前向きな姿勢が見られなかった。
主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら授業に取り組み、余った時間をさらなる研究・理解に振り分け本学経営学部生としての自覚のもと、日本における社会人たる資質が向上した。	授業中の質問が多く、与えられた問題解決への相談も積極的であり経営学部生としての活動を実社会で生かすことに関して前向きで、努力が見える。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がつかかわれる。	何とか授業はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、日々の活動も受動的な範囲を超えなかった。	自分から進んで経営学部生としての内容を身につけようとする姿勢が見られなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM133145, SEM433086, SEM533093)				
授業担当者(所属・職名)	信濃 吉彦(経営学科・教授)	研究室等所在	2号館6階		
単位数	1 (単位認定責任者: 信濃 吉彦)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション: シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の	所属研究室選択資料の確認(45分)	配布資料の確認(45分)
2	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
3	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
4	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
5	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
6	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
7	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
8	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
9	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
10	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
11	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
12	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
13	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
14	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
15	担当教員による授業 授業改善アンケートの実施	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
16	担当教員による授業 およびまとめと評価について	授業振り返り作成(45分)	全体振り返り(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM133145, SEM433086, SEM533093)				
授業担当者(所属・職名)	河野 善文(経営学科・教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 河野 善文)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示板等を参照				

概要

履修目標

日常のさまざまな疑問を経済学的観点からとらえるための知識を身につける。また、経済学の基礎知識を活用して、日常の問題を経済学的に考察する能力を身につける。さらには、演習内での議論を通して、人と協働して課題解決にあたるコミュニケーション能力を身につける。

授業の位置づけ

経営学科のDPの(1)(3)(4)に対応する。

到達目標

日常のさまざまな事象を経済学的観点でとらえる取組みができる。  
課題の解決にむけて経済学の考え方の活用に取りくめる。  
経済学の考えのもとついたコミュニケーションに取りくめる。

授業全体の内容と概要

まず経済学の重要な概念を学ぶ。学んだことを知識としてた理解するだけでなく、経済学の考えの日常生活の事象への応用について、グループワークをおりまぜて演習する。演習では、日常のさまざまな不思議・疑問から出発して、具体的な問題・課題を見出し、その解決にむけて経済学の考え方の活用を議論する。

授業の方法

各回の計画にそって、まず経済学の重要概念からテーマを選んで解説する。次に、その学んだ考え方を、日常生活の身近な疑問や不思議にあてはめて考察することを演習する。演習では、個人的考察にくわえてグループ討議による考察も行う。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

グループワークやディスカッションを基本とした少人数に授業であるため、受講人数を10人から12人程度までに制限する。ただし、具体的な人数は、当該年度の対象学年の学生数等を考慮して年度ごとに決める。  
また、不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、13回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	10%	0%	90%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
疑問への経済学的観点の適用	日常生活の疑問に経済学的観点を用いて経済学的問題としてとらえることができた。	日常生活の疑問に経済学的観点を用いて経済学的問題としてとらえることができた。	日常生活の疑問に経済学的観点を用いて経済学的問題としてとらえることができた。	日常生活の疑問への経済学的観点の適用に取り組めた。	日常生活の疑問に経済学的観点を用いてとらえられなかった。
問題の経済学的考察	日常生活の問題の経済学的考察を導くことができた。	日常生活の問いを経済学的に考察できた。	日常生活の問いについてある程度経済学的に考察できた。	日常生活の問いに関する経済学的考察に取りくめた。	日常生活の問いに関する経済学的考察ができなかった。
経済学的な議論の実践	経済学的思考にもとづいて意見をまとめることができた。	経済学的思考にもとづいて討議できた。	経済学的思考にもとづいてある程度討議できた。	経済学的思考にもとづいた討議に取りくめた。	経済学的思考にもとづいた討議ができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM133145, SEM433086, SEM533093)				
授業担当者(所属・職名)	河野 善文(経営学科・教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 河野 善文)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読む(45分)	シラバス等の確認とまとめ(45分)
2	経済的厚生について	前回の演習で指示した内容について調べる(45分)	演習内容をノートにまとめる(45分)
3	経済的厚生に関する事例演習(1) 集団討論	前回の演習で指示した内容について調べる(45分)	演習内容をノートにまとめる(45分)
4	経済的厚生に関する事例演習(2) 個別演習	前回の演習で指示した内容について調べる(45分)	演習内容をノートにまとめる(45分)
5	経済的厚生に関する発表とまとめ	前回の演習で指示した内容について調べる(45分)	演習内容をノートにまとめる(45分)
6	経済学的費用について	前回の演習で指示した内容について調べる(45分)	演習内容をノートにまとめる(45分)
7	経済学的費用の事例演習(1) 集団討論	前回の演習で指示した内容について調べる(45分)	演習内容をノートにまとめる(45分)
8	経済学的費用の事例演習(2) 個別演習	前回の演習で指示した内容について調べる(45分)	演習内容をノートにまとめる(45分)
9	経済学的費用に関するまとめ・発表	前回の演習で指示した内容について調べる(45分)	演習内容をノートにまとめる(45分)
10	合理性の問題について	前回の演習で指示した内容について調べる(45分)	演習内容をノートにまとめる(45分)
11	合理性の問題の事例演習(1) 集団討論	前回の演習で指示した内容について調べる(45分)	演習内容をノートにまとめる(45分)
12	合理性の問題の事例演習(2) 個別演習	前回の演習で指示した内容について調べる(45分)	演習内容をノートにまとめる(45分)
13	合理性の問題に関するまとめ・発表	前回の演習で指示した内容について調べる(45分)	演習内容をノートにまとめる(45分)
14	前期演習のまとめ	これまでの演習について振り返る(45分)	演習内容をノートにまとめる(45分)
15	前期学生生活の振り返り	半期の学生生活について振り返る(45分)	半期の学生生活について振り返りをまとめる(45分)
16	補講・課題等 授業改善アンケートの実施	これまでの演習課題等を再確認・整理してたりないものを補う(45分)	演習ノートの整理(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM133145, SEM433086, SEM533093)				
授業担当者(所属・職名)	遠藤 均(経営学科・教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者: 遠藤 均)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	担当教員の研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

担当教員の専門領域を通して、経営学部生として主体的な学び姿勢、学問的(客観的・論理的)な思考・研究方法の基礎を磨く。そして、それを基礎として、自ら課題設定を行い、学問的に問題解決する力をつけ、就職活動や卒業論文へ活かし専門的な知識領域を磨く。

授業の位置づけ

経営学科のDP全てに対応する。

到達目標

多岐にわたる経営学の分野を理解し、各自が修める専門テーマを明確にする。また、そのために必要な知識と考え方を修得するよう努力する。

授業全体の内容と概要

ゼミナール担当教員が提示している「専門テーマ」に沿った形で演習が進められる。最終的な成果を形にすることを旨として、研究を着実に進めることが一層求められる。

授業の方法

担当教員の指導方針の下に行われるので、講義、ゼミナール、実験、制作、見学、調査等、さまざまな授業形態がとられる。したがって、大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。与えられたテーマに沿ってプレゼンテーションを行う。テーマ別にディスカッションやディベートを行う。グループに分かれて討議や調査を行うなど、実社会において使える技能に磨きをかけることを目的とした様々な活動を行うこととなる。

アクティブラーニングの実施方法

<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL
<input type="checkbox"/>	模擬授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業
<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

担当教員が授業時にアナウンスするので、その指示に従うこと。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

授業16回のうち13回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。最終評価は各教員が判断し決定する。出席および日々の活動はすべて平常点扱いとしゼミ担任が判断する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	0%	100%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	知識・技能を得るために十分積極的に活動した。	知識・技能を得るための活動は、やや積極性を欠くものの十分な姿勢を見せた。	知識・技能を得るための通常の活動は、ある程度こなすことができた。	知識・技能を得るための最低限の活動を行った。	知識・技能を得るための最低限の活動が見られなかった。
思考力・判断力・表現力	積極的にゼミに取り組み、経営学部生として実社会で対応し得る様々なスキルを学び、経営学部において学んだ内容を以って社会に貢献するための努力をした。	各回のゼミに真摯に取り組み、経営学部生として十分な実証力の獲得へ向けた理解を深めることができた。	各回のゼミに取り組み、考え方や問題解決に対する努力が見られた。	ゼミにまじめに取り組み、経営学部生としての日常生活を実社会につなげるための努力は認められるがなかなか定着していない。	ゼミへの取り組みが不十分で、本学経営学部生としての知識の獲得に対する前向きな姿勢が見られなかった。
主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら授業に取り組み、余った時間をさらなる研究・理解に振り分け本学経営学部生としての自覚のもと、日本における社会人たる資質が出来上がった。	授業中の質問が多く、与えられた問題解決への相談も積極的であり経営学部生としての活動を実社会で生かすことに関して前向きで、努力が窺える。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がつかがわれる。	何とか授業はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、日々の活動も受動的な範囲を超えなかった。	自分から進んで経営学部生としての内容を身につけようとする姿勢が見られなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM133145, SEM433086, SEM533093)				
授業担当者(所属・職名)	遠藤 均(経営学科・教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者: 遠藤 均)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション: シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の	所属研究室選択資料の確認(45分)	配布資料の確認(45分)
2	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
3	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
4	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
5	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
6	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
7	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
8	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
9	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
10	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
11	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
12	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
13	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
14	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
15	担当教員による授業 授業改善アンケートの実施	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
16	担当教員による授業 およびまとめと評価について	授業振り返り作成(45分)	全体振り返り(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM133145, SEM433086, SEM533093)				
授業担当者(所属・職名)	鈴木 重政(経営学科・教授)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	1 (単位認定責任者: 鈴木 重政)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照 Teamsによるチャットは平日午前9時から午後5時まで対応				

概要

履修目標

目標は『未来を見通しビジネスを創造する力をつける』である。コロナ禍や強権国家の台頭など世界の環境の変化は目まぐるしく、未来を見通すには高度な分析力と総合力として実行力が必要となる。分析力、総合力、実行力を涵養することを目標とする。

授業の位置づけ

経営学科のDP(1)(3)に対応する。

到達目標

経営学の視点に立つ分析力、総合力、実行力を身につける。

授業全体の内容と概要

北海道の北広島市、由仁町、神恵内村でのフィールドワークを中心に、実用的な活動を行う。SDGsでは「4. 質の高い教育をみんなに」「8. 働きがいも経済成長も」「9. 産業と技術革新の基盤をつくろう」「11. 住み続けられるまちづくりを」「12. つくる責任 つかう責任」「14. 海の豊かさを守ろう」「15. 陸の豊かさを守ろう」に関連する。

授業の方法

授業はフィールドワーク(北広島市、由仁町、神恵内村)が中心となる。研究室にて企画を立て、対象地域の人々とともに行動する。したがってコミュニケーション力も必要となる。フィールドワーク終了後はレポートを作成する。

アクティブラーニングの実施方法

<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL
<input type="checkbox"/>	模範授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業
<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

分析力、総合力、実行力、改善力を存分に発揮すること。積極的な発言を望む。不測の事態の際はオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要とされる最低出席回数は13回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	50%	0%	0%	50%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
経営学の視点に立つ分析力	経営学の視点に立つ分析力が極めて高い	経営学の視点に立つ分析力がやや高い	経営学の視点に立つ分析力が高い	経営学の視点に立つ分析力がある	経営学の視点に立つ分析力が不足している
経営学の視点に立つ立案力	経営学の視点に立つ立案力が極めて高い	経営学の視点に立つ立案力がやや高い	経営学の視点に立つ立案力が高い	経営学の視点に立つ立案力がある	経営学の視点に立つ立案力が不足している
運営能力	経営学の視点に立つ運営能力が極めて高い	経営学の視点に立つ運営能力がやや高い	経営学の視点に立つ運営能力が高い	経営学の視点に立つ運営能力がある	経営学の視点に立つ運営能力が不足している
評価能力	経営学の視点に立つ評価能力が極めて高い	経営学の視点に立つ評価能力がやや高い	経営学の視点に立つ評価力が高い	経営学の視点に立つ評価力がある	経営学の視点に立つ評価力が不足している
改善能力	経営学の視点に立つ改善力が極めて高い	経営学の視点に立つ改善力がやや高い	経営学の視点に立つ改善力が高い	経営学の視点に立つ改善力がある	経営学の視点に立つ改善力が不足している

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM133145, SEM433086, SEM533093)				
授業担当者(所属・職名)	鈴木 重政(経営学科・教授)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	1 (単位認定責任者: 鈴木 重政)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 地域活性化の定義	地域活性化の定義を考える	地域の分析を行う
2	フィールドワーク(北広島市 エスコンフィールド)	フィールドワークの準備	フィールドワークのレポート作成
3	フィールドワーク(北広島市)の振り返り 由仁町での事業計画	フィールドワークの準備	フィールドワークのレポート作成
4	フィールドワーク(由仁町)	フィールドワークの準備	フィールドワークのレポート作成
5	フィールドワーク(由仁町)	フィールドワークの準備	フィールドワークのレポート作成
6	フィールドワーク(由仁町)の振り返り	フィールドワークの準備	フィールドワークのレポート作成
7	フィールドワーク(神恵内村)計画	フィールドワークの準備	フィールドワークのレポート作成
8	フィールドワーク(神恵内村)	フィールドワークの準備	フィールドワークのレポート作成
9	フィールドワーク(神恵内村)振り返り	フィールドワークの準備	フィールドワークのレポート作成
10	フィールドワーク(由仁町)	フィールドワークの準備	フィールドワークのレポート作成
11	フィールドワーク(由仁町)	フィールドワークの準備	フィールドワークのレポート作成
12	フィールドワーク(北広島市)	フィールドワークの準備	フィールドワークのレポート作成
13	フィールドワーク(北広島市)	フィールドワークの準備	フィールドワークのレポート作成
14	フィールドワーク(北広島市)	フィールドワークの準備	フィールドワークのレポート作成
15	フィールドワーク(北広島市)	フィールドワークの準備	フィールドワークのレポート作成
16	フィールドワーク(北広島市)	フィールドワークの準備	フィールドワークのレポート作成

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM133145, SEM433086, SEM533093)				
授業担当者(所属・職名)	岡島 徳昭(経営学科・特任教授)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	1 (単位認定責任者: 岡島 徳昭)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

国際言語としての英語理解を基本とし様々な国際関係の時事問題を通して、経営学部生として主体的な学芸姿勢、学問的(客観的・論理的)な思考・研究方法の基礎を磨く。さらにそれらを発展させ、自ら課題設定を行い、学問的に問題解決する力を身につけ、就職活動や卒業論文へ活かす専門的な知識領域を磨く。

授業の位置づけ

経営学科のDP全てに対応する。

到達目標

多岐にわたる経営学の分野を理解し、各自が修める専門テーマを明確にする。また、そのために必要な知識と考え方を修得するよう努力する。

授業全体の内容及概要

「異文化コミュニケーション」の学びに沿った形で演習が進められる。最終的な成果を形にすることを旨として、研究を着実に進めることが一層求められる。

授業の方法

講義、ゼミナール、実験、制作、見学、調査等、さまざまな授業形態をとる。したがって、大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。与えられたテーマに沿ってプレゼンテーションを行う・テーマ別にディスカッションやディベートを行う・グループに分かれて討議や調査を行うなど、実社会において使える技能に磨きをかけることを目的とした様々な活動を行うこととなる。

アクティブラーニングの実施方法

<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習		反転授業
<input type="checkbox"/>	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

10名を上限とする。各回授業時にアナウンスするので、その指示に従うこと。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

授業16回のうち13回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。最終評価はすべての活動を通して加味し決定する。出席および日々の活動はすべて平常点扱いとしゼミ担任が判断する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	0%	100%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	知識・技能を得るために十分積極的に活動した。	知識・技能を得るための活動は、やや積極性を欠くものの十分な姿勢を見せた。	知識・技能を得るための通常の活動は、ある程度こなすことができた。	知識・技能を得るための最低限の活動を行った。	知識・技能を得るための最低限の活動が見られなかった。
思考力・判断力・表現力	積極的にゼミに取り組み、経営学部生として実社会で対応し得る様々なスキルを学び、経営学部において学んだ内容を以って社会に貢献するための努力をした。	各回のゼミに真摯に取り組み、経営学部生として十分な理解力の獲得へ向けた理解を深めることができた。	各回のゼミに取り組み、考え方や問題解決に対する努力が見られた。	ゼミにまじめに取り組み、経営学部生としての日常生活の知識の獲得に対する前向きな姿勢が見られなかった。	ゼミへの取り組みが不十分で、本学経営学部生としての知識の獲得に対する前向きな姿勢が見られなかった。
主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら授業に取り組み、余った時間をさらなる研究・理解に振り分け本学経営学部生としての自覚のもと、日本における社会人たる資質が出来上がった。	授業中の質問が多く、与えられた問題解決への相談も積極的であり経営学部生としての活動を実社会で生かすことに前向きで、努力が見える。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がつかがわれる。	何とか授業はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、日々の活動も受動的な範囲を超えなかった。	自分から進んで経営学部生としての内容を身につけようとする姿勢が見られなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM133145, SEM433086, SEM533093)				
授業担当者(所属・職名)	岡島 徳昭(経営学科・特任教授)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	1 (単位認定責任者: 岡島 徳昭)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション: シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の	所属研究室選択資料の確認(45分)	配布資料の確認(45分)
2	授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
3	授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
4	授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
5	授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
6	授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
7	授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
8	授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
9	授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
10	授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
11	授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
12	授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
13	授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
14	授業	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
15	授業 授業改善アンケートの実施	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
16	担当教員による授業 およびまとめと評価について	授業振り返り作成(45分)	全体振り返り(45分)

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM133145, SEM433086, SEM533093)				
授業担当者(所属・職名)	青山 浩之(経営学科・教授)	研究室等所在	1号館4階		
単位数	1 (単位認定責任者: 青山 浩之)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

企業を巡る法律関係を規定する会社法およびその関連法規について、基本となる知識を修得する。法的なものの考え方を身につけ、ビジネスマンとして理解しておくべき基本的法律知識を修得することとする。さらにビジネス活動で生じる法的問題の発見能力とコンプライアンス能力を修得することを目的とする。

授業の位置づけ

経営学科のDP(1)(2)(3)(4)に対応する。

到達目標

会社を巡る法律関係を規定する会社法およびその関連法規について、基本となる知識を修得することにより、条文を理解し、適用・解釈できる。法的な側面から会社とは何かを考えることができる。

授業全体の内容と概要

企業を巡る法律関係を規定する会社法およびその関連法規について、基本となる知識を修得する。

- 「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。
- 「SDG 8.働きがいも経済成長も」の関連科目。
- 「SDG 10.人や国の不平等をなくそう」の関連科目。

授業の方法

専門演習を進める上で、「商法」「会社法」(講義)を受講することが前提条件になります。専門演習は基本的に講義・発表(報告者はあらかじめ決めて順次報告)・討論する方法をとります。確認テストなどはプリント配布で実施のほか、Microsoft Formsの小テストから学生全体の理解度を把握し、指導する

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

- ・演習科目なので、積極的な出席が必要
- ・私語などの迷惑行為は厳禁
- ・講義中スマホの操作は厳禁
- ・不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。  
 ・参考資料の配布方法や事前提供などについて配慮する。  
 ・講義中の録音・録画・撮影などについて配慮する。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、13回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	30%	0%	70%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	知識・技能を得るために十分積極的に活動した。	知識・技能を得るための活動は、やや積極性を欠くものの十分な姿勢を見せた。	知識・技能を得るための通常の活動は、ある程度こなすことができた。	知識・技能を得るための最低限の活動を行った。	知識・技能を得るための最低限の活動が見られなかった。
思考力・判断力・表現力	積極的に授業に取り組み、実社会で対応し得る様々なスキルを学び、社会に貢献するための努力をしている。	各回の授業に真摯に取り組み、十分な実践力の獲得へ向けた理解が深まりつつある。	各回の授業に取り組み、考え方や問題解決に対する努力が見られる。	授業にまじめに取り組み、日常生活を実社会につなげるための努力は認められるがなかなか定着していない。	授業への取り組みが不十分で、知識の獲得に対する前向きな姿勢が見られない。
主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら授業に取り組み、余った時間をさらなる研究・理解に振り分け、主体的に活動を行っている。	授業中の質問が多く、与えられた問題解決への相談も常であり、活動を実社会で生かすことに前向きで、努力が窺える。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がつかがわれる。	何とか授業はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、日々の活動も受動的である。	自分から進んで経営学部生としての内容を身につけようとする姿勢が見られない。
事例を理解し、法律の条文を適用できる	事例を理解し、法律の条文を適用し、さらに自分の意見を述べる	事例を理解し、法律の条文を適用し、自分なりの説明ができる	事例を理解し、法律の条文を適用できる	事例を理解し、法律の条文を理解できる	事例を読み取れず、法律の条文を理解できない
課題に対し、問題可決ができる	解答が的確で、過不足なく網羅して答えている	解答は答えているが、一部に解答と関係ないことを答えている	解答が一通り答えているが、改善すべき点がある	解答を部分的には答えているが、的確ではない	解答が論点にズレがあり、テーマに対して十分ではない



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM133145, SEM433086, SEM533093)				
授業担当者(所属・職名)	青山 浩之(経営学科・教授)	研究室等所在	1号館4階		
単位数	1 (単位認定責任者: 青山 浩之)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション 個別面談・履修登録チェック 授業改善アンケート結果反映の説明	授業への参加の心構えを考える。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
2	オリエンテーション・アセスメントテスト 株式会社(1)・設立・株式 キャリアデザイン(1)キャリアデザインとは	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
3	株式会社(2)・設立・株式 キャリアデザイン(2)キャリアデザインとは	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
4	株式会社の機関設計(1) キャリアデザイン(3)大学で何を学び身につけなければならないか	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
5	株式会社の機関設計(2) キャリアデザイン(4)大学で何を学び身につけなければならないか	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
6	株式会社の機関設計(3) キャリアデザイン(5)大学で何を学び身につけなければならないか	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
7	株式会社の機関設計(4)事例研究 キャリアデザイン(6)キャリアイメージ	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
8	株式会社の機関設計(5)事例研究 キャリアデザイン(7)キャリアイメージ	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
9	株式会社の機関設計(6)事例研究 キャリアデザイン(8)自分を知る	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
10	株式会社の経営体制・骨格と役割(1)株主総会 キャリアデザイン(9)自分を知る	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
11	株式会社の経営体制・骨格と役割(2)株主総会・取締役・取締役会 キャリアデザイン(10)キャリアゴール	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
12	株式会社の経営体制・骨格と役割(3)取締役・取締役会 キャリアデザイン(11)キャリアゴール	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
13	株式会社の経営体制・骨格と役割(4)取締役・取締役会 キャリアデザイン(12)大学とキャリア	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
14	株式会社の経営体制・骨格と役割(5)事例研究 キャリアデザイン(13)大学とキャリア	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
15	株式会社の経営体制・骨格と役割(6)事例研究 キャリアデザイン(14)大学とキャリア 個別面談・履修指導	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	授業の振り返りを行う。(45分)
16	株式会社の経営体制・骨格と役割(7)事例研究 個別面談・履修指導 授業改善アンケートの実施	指定された内容の準備完了を確認する。(45分)	前期全体の振り返りを行う。(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM133145, SEM433086, SEM533093)				
授業担当者(所属・職名)	石山 玄幸(経営学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 石山 玄幸)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照のこと。				

概要

履修目標

当ゼミナールは、グループディスカッションを基本として、ゼミナールで実施するテーマの決定から実行、検証までを学生主体で進めることで、将来的に社会人として活躍できる人材に成ることを目的としている。

授業の位置づけ

経営学科のDP全てに対応する。

到達目標

当ゼミナールの到達目標は、グループワークでの基本ルールを身に付け、他人の意見を尊重しながらも、自分の意見もきちりと発言できること。そして、他人の意見から、多面的かつより深い議論ができるようになること。

授業全体の内容と概要

当ゼミナールは、グループディスカッションの基本を学ぶことから始める。基本を学んだ後は、ゼミナールでの研究テーマの決定、実行、検証、つまりPDCAサイクルを活用しながら、組織で行動しながら、成果を出すという方法を学んでいきます。

授業の方法

当ゼミナールは、毎回、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションを基本として、研究テーマを決定した後は、フィールドワーク、PBL、調査学習を中心に進める。

アクティブラーニングの実施方法

<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL
<input type="checkbox"/>	模擬授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業
<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

当ゼミナールは、提出物等の期限が守れること、無断欠席はしないこと、ゼミで積極的に発言・参加すること。この3つを重視する。この3つを守れない場合は減点対象とする。尚、不測の事態の際はオンラインで実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、13回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	0%	100%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	知識・技能を得るために十分積極的に活動した。	知識・技能を得るための活動は、やや積極性を欠くものの十分な姿勢を見せた。	知識・技能を得るための通常の活動は、ある程度こなすことができた。	知識・技能を得るための最低限の活動を行った。	知識・技能を得るための最低限の活動が見られなかった。
思考力・判断力・表現力	積極的にゼミに取り組み、経営学部生として実社会で対応し得る様々なスキルを学び、経営学部において学んだ内容を以って社会に貢献するための努力をした。	各回のゼミに真摯に取り組み、経営学部生として十分な実践力の獲得へ向けた理解を深めることができた。	各回のゼミに取り組み、考え方や問題解決に対する努力が見られた。	ゼミにまじめに取り組み、経営学部生としての日常生活の知識の獲得に対する前向きな姿勢が見られなかった。	ゼミへの取り組みが不十分で、本学経営学部生としての知識の獲得に対する前向きな姿勢が見られなかった。
主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら授業に取り組み、余った時間をさらなる研究・理解に振り分け本学経営学部生としての自覚のもと、日本における社会人たる資質が出来上がった。	授業中の質問が多く、与えられた問題解決への相談も積極的であり経営学部生としての活動を実社会で生かすことに前向きで、努力が窺える。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がつかがわれる。	何とか授業はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、日々の活動も受動的な範囲を超えなかった。	自分から進んで経営学部生としての内容を身につけようとする姿勢が見られなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM133145, SEM433086, SEM533093)				
授業担当者(所属・職名)	石山 玄幸(経営学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 石山 玄幸)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション:シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の	所属研究室選択資料の確認(45分)	配布資料の確認(45分)
2	グループディスカッションの基本	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
3	グループディスカッションによる研究テーマ選定 (研究テーマの候補をいくつか挙げる)	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
4	研究テーマの決定	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
5	研究テーマの実施計画の策定	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
6	研究テーマの実施計画の策定	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
7	研究の実行(フィールドワーク、調査学習、PBL)	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
8	研究の実行(フィールドワーク、調査学習、PBL)	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
9	研究の実行(フィールドワーク、調査学習、PBL)	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
10	調査のまとめ(報告書の作成)	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
11	調査のまとめ(報告書の作成)	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
12	調査のまとめ(報告書の作成)	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
13	プレゼンテーション(研究成果の発表)と質疑応答	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
14	本研究の検証(振り返り)	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
15	本研究の検証(後期に向けた改善点) 授業改善アンケートの実施	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
16	担当教員による講評と評価についての説明	授業振り返り作成(45分)	全体振り返り(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM133145, SEM433086, SEM533093)				
授業担当者(所属・職名)	天野 雅斗(経営学科・専任講師)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者: 天野 雅斗)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

専門領域を通して、経営学部生として主体的な学ぶ姿勢、学問的(客観的・論理的)な思考、研究方法の基礎を磨く。そして、それを基礎として、自ら課題設定を行い、学問的に問題解決する力をつけ、就職活動や卒業論文へ活かし専門的な知識領域を磨く。

授業の位置づけ

経営学科のDP全てに対応する。

到達目標

スポーツパフォーマンスを感覚だけでなく客観的事実(データ)からも評価できるようにする。その過程を通して、保健体育・スポーツ分野の専門家としての基礎的な知識の定着、様々な人々と一緒に仕事をしていくための人間力の育成、プロジェクトを遂行するためのマネジメント力、学んだ知識を現場に適用し有効に活用していくための社会人基礎力を向上させることを目標とする。

授業全体の内容と概要

スポーツパフォーマンス研究の現状を知る。調査から提案までのプロセスについて、実践を通して理解する。データの収集・統計分析・結果報告・改善方法の立案(Excel, Word, Power Pointなどを使用)について学ぶ。グループ毎にプロジェクト内容を決め計画・実行する。

授業の方法

大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。与えられたテーマに沿ってプレゼンテーションを行う。テーマ別にディスカッションやディベートを行う。グループに分かれて討議や調査を行うなど、実社会において使える技能に磨きをかけることを目的とした様々な活動を行う。

アクティブラーニングの実施方法

<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL
<input type="checkbox"/>	模擬授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業
<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

実践経験(体験活動)に重点を置いているため、好奇心を持って積極的に取り組むこと。また、パソコンを使用してデータ分析も行うのでパソコンを用意すること。そのほか授業時にアナウンスするので、その指示に従うこと。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

授業16回のうち出席13回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。出席および日々の活動はすべて平常点扱いとし判断する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	0%	100%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
自然科学における基本的な思考やスポーツ科学の基礎知識・技能を身に付けている	知識・技能を得るために十分積極的に活動した。	知識・技能を得るための活動は、やや積極性を欠くものの十分な姿勢を見せた。	知識・技能を得るための通常の活動は、ある程度こなすことができた。	知識・技能を得るための最低限の活動を行った。	知識・技能を得るための最低限の活動が見られなかった。
思考力・判断力・表現力	積極的にゼミに取り組み、経営学部生として実社会で対応し得る様々なスキルを学び、経営学部において学んだ内容を以って社会に貢献するための努力をした。	各回のゼミに真摯に取り組み、経営学部生として十分な理解を深めることができた。	各回のゼミに取り組み、考え方や問題解決に対する努力が見られた。	ゼミにまじめに取り組み、経営学部生としての日常活動を実社会につなげるための努力は認められるがなかなか定着していない。	ゼミへの取り組みが不十分で、本学経営学部生としての内容を身につけようとする姿勢が見られなかった。
主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら授業に取り組み、余った時間をさらなる研究・理解に振り分け本学経営学部生としての自覚のもと、日本における社会人たる資質が向上した。	授業中の質問が多く、与えられた問題解決への相談も積極的であり経営学部生としての活動を実社会で生かすことに前向きで、努力が見える。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がつかかわれる。	何とか授業はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、日々の活動も受動的な範囲を超えなかった。	自分から進んで経営学部生としての内容を身につけようとする姿勢が見られなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM133145, SEM433086, SEM533093)				
授業担当者(所属・職名)	天野 雅斗(経営学科・専任講師)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者: 天野 雅斗)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション: シラバスの説明	所属研究室選択資料の確認(45分)	配布資料の確認(45分)
2	スポーツ科学のスポーツ現場への応用	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
3	研究法の基礎(実験系)	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
4	研究法の基礎(調査系)	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
5	研究法の基礎(文献系)	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
6	実験・調査・分析法の基礎 柔軟性	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
7	実験・調査・分析法の基礎 筋力	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
8	実験・調査・分析法の基礎 瞬発力、アジリティ、クイックネス、反応速度	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
9	実験・調査・分析法の基礎 持久力(30-151FT、YOYOIRT、他)	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
10	研究計画の立案	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
11	研究計画の立案	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
12	実地調査	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
13	実地調査	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
14	調査データの分析	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
15	調査結果のまとめ、プレゼンテーション資料作成	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
16	調査結果発表まとめと評価について	授業振り返り作成(45分)	全体振り返り(45分)

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM133145, SEM433086, SEM533093)				
授業担当者(所属・職名)	石井 祐治(経営学科・特任講師)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 石井 祐治)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

- ・自分自身で行っているトレーニングの効果を実験などを踏まえて検証する。
- ・トレーニング内容の改善および実践。

授業の位置づけ

経営学科のDP(4)(5)に対応する。

到達目標

データ分析、パワーポイント、ワードでのまとめ方を覚える。  
統計処理まで行い、より詳しい分析方法やデータ処理を身につける。

授業全体の内容と概要

主にデータ収集、テーマを各自で決めて、その実験などに必要な被検者などはゼミ内でまかなう。データ収集と平行して、論文の書き方などの指導を行う。  
・トレーニング  
・各部活における新たな指導法  
・ゲーム分析  
・簡単な動作分析 など

授業の方法

自分が行いたいテーマを決め、スケジュールを組みトレーニングの実践。  
トレーニング経過を発表し、意見交換を行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

状態に応じてトレーニング内容を変更するなど、日程調整などもあるため継続することが大事となってくる。トレーニング結果をもとに試合など評価する。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	25%	25%	0%	50%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
論文の内容を理解したか	十分に理解した	理解した	おおむね理解した	理解できていない力所がある	全く理解できていない
データ分析やパワーポイントの操作を理解したか	十分に理解した	理解した	おおむね理解した	理解できていない力所がある	全く理解できていない
発表の際の工夫は行われたか	十分に行われた	行われた	おおむね行われた	行われていない力所がある	全く行われていない

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM133145, SEM433086, SEM533093)				
授業担当者(所属・職名)	石井 祐治(経営学科・特任講師)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 石井 祐治)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス シラバスの説明	ガイダンス (45分)	学習内容の復習(45分)
2	各テーマの論文検索	論文読解 (45分)	学習内容の復習(45分)
3	各テーマの論文検索	論文読解 (45分)	学習内容の復習(45分)
4	各テーマの論文検索	論文読解 (45分)	学習内容の復習(45分)
5	各テーマの論文検索	論文読解 (45分)	学習内容の復習(45分)
6	論文発表	論文読解 (45分)	学習内容の復習(45分)
7	論文発表	論文読解 (45分)	学習内容の復習(45分)
8	論文発表	論文読解 (45分)	学習内容の復習(45分)
9	論文発表	論文読解 (45分)	学習内容の復習(45分)
10	トレーニング実践	論文読解 (45分)	学習内容の復習(45分)
11	トレーニング実践	論文読解 (45分)	学習内容の復習(45分)
12	トレーニング実践	論文読解 (45分)	学習内容の復習(45分)
13	トレーニング実践	論文読解 (45分)	学習内容の復習(45分)
14	トレーニング実践	論文読解 (45分)	学習内容の復習(45分)
15	トレーニング実践	論文読解 (45分)	学習内容の復習(45分)
16	まとめ・発表	パワーポイントでの作成 (45分)	学習内容の復習(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM133145, SEM433086, SEM533093)				
授業担当者(所属・職名)	篠原 諒介(経営学科・専任講師)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 篠原 諒介)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

・自分自身で行っているトレーニングの効果を実験などを踏まえて検証する。  
 ・新たな指導法を確立する。

授業の位置づけ

経営学科のDP(1)、(4)、(5)に対応する。

到達目標

データ分析、パワーポイント、ワードでのまとめ方を覚える。  
 統計処理まで行い、より詳しい分析方法やデータ処理を身につける。

授業全体の内容と概要

主にデータ収集、テーマを各自で決めて、その実験などに必要な被検者などはゼミ内でまかなう。データ収集と平行して、論文の書き方などの指導を行う。  
 ・トレーニング  
 ・各部活における新たな指導法  
 ・ゲーム分析  
 ・簡単な動作分析 など

授業の方法

自分が行いたいテーマを決め、スケジュールを組み、測定を行う。  
 途中経過をパワーポイントで発表し、意見交換を行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

データをとるなどの細かい作業もあり、日程調整などもあるため継続することが大事となる。データをもとに発表などから評価する。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	25%	25%	0%	50%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
論文の内容を理解したか	十分に理解した	理解した	おおむね理解した	理解できていない力所がある	全く理解できていない
データ分析やパワーポイントの操作を理解したか	十分に理解した	理解した	おおむね理解した	理解できていない力所がある	全く理解できていない
発表の際の工夫は行われたか	十分に行われた	行われた	おおむね行われた	行われていない力所がある	全く行われていない

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM133145, SEM433086, SEM533093)				
授業担当者(所属・職名)	篠原 諒介(経営学科・専任講師)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 篠原 諒介)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス シラバスの説明及び授業改善アンケート結果反映の説明		学習内容の復習(90分)
2	各テーマの論文検索	論文読解	学習内容の復習(90分)
3	各テーマの論文検索	論文読解	学習内容の復習(90分)
4	各テーマの論文検索	論文読解	学習内容の復習(90分)
5	各テーマの論文検索	論文読解	学習内容の復習(90分)
6	論文発表	論文読解	学習内容の復習(90分)
7	論文発表	論文読解	学習内容の復習(90分)
8	論文発表	論文読解	学習内容の復習(90分)
9	論文発表	論文読解	学習内容の復習(90分)
10	ブレ測定	論文読解	学習内容の復習(90分)
11	ブレ測定	論文読解	学習内容の復習(90分)
12	ブレ測定	論文読解	学習内容の復習(90分)
13	ブレ測定	論文読解	学習内容の復習(90分)
14	ブレ測定	論文読解	学習内容の復習(90分)
15	ブレ測定	論文読解	学習内容の復習(90分)
16	まとめ・発表 授業改善アンケートの実施	パワーポイントでの作成	学習内容の復習(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM133145, SEM433086, SEM533093)				
授業担当者(所属・職名)	川津 大樹(経営学科・専任講師)	研究室等所在	未定		
単位数	1 (単位認定責任者: 川津 大樹)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	大分県内の経済団体(商工会)に勤務し、地域の中小企業に対して金融・税務指導を行った経験に基づき、財務会計に関する理論、制度および実務を総合的に取り上げる。		
オフィスアワー	研究室前の掲示等を参照				

概要

履修目標

財務会計に関する知識を習得するとともに、経営分析等を通じてそれを活用する力を身につける。  
また、4年次の卒業論文の執筆に向けて、その論点(財務会計の問題点)を自ら発見するため、自発的に考える力を身につける。

授業の位置づけ

経営学部のDP(1)(2)(3)(4)に対応する。

到達目標

- ・財務会計の理論、国内外の会計基準およびそれらに基づく実務にまつわる知識を身につける。
- ・有価証券報告書の公表資料を用いて、実際の企業を分析する力を身につける。
- ・卒業論文の書き方や参考文献等の資料収集を体得するとともに、卒業論文のテーマ・論点を見つける。

授業全体の内容と概要

3年次では、財務会計にまつわる文献を精読し、近年における財務会計の動向を把握する。その中で、自分なりに財務会計における論点(問題点)を見つけ、卒業論文の執筆に備える。授業最終回では、半年間のまとめとして、財務会計の動向または実際の企業に関する経営分析をテーマとしたプレゼンテーション回を行う予定である(具体的なテーマや実施形式は、受講生との話し合いによって決定する)。このほか、卒業論文の書き方や文献収集について随時指導していく。

授業の方法

テキスト等の指定された文献の箇所・テーマを各自レポート形式で事前にまとめ、当日はそれに基づいてディスカッションを深めていく。ディスカッションにおいては、積極的な発言を期待する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

財務会計を専門とするため、「財務会計論」を履修していることが望ましい。  
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、13回以上。  
自主的・積極的な演習内での発言を評価する一方、無断欠席は大きな減点要因となるので要注意。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	20%	0%	0%	80%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
財務会計にまつわる知識の習得	財務会計の知識を踏まえ、経営分析等、授業以外の場でもそれを活用することができた。	財務会計の知識を踏まえ、経営分析等、授業以外の場でもそれをある程度活用することができた。	財務会計の知識を踏まえ、経営分析等、授業以外の場でもそれを活用しようとした。	授業で取り上げた財務会計の知識を最低限習得できた。	授業で取り上げた財務会計の知識を習得できなかった。
財務会計に対する問題意識の醸成と論点の発見	財務会計の論点・問題点を見つけ、その解決に向けた考察を行っている。	財務会計の論点・問題点を見つけた。	財務会計に対する問題意識を抱き、その論点となる問題を探している。	財務会計に対する問題意識を抱き始めた。	財務会計に対する問題意識を全く抱かなかった。
主体的・意欲的な授業への参加	自分だけでなく、他の受講者も巻き込んだ形で授業に参加し、授業全体の活発化に取り組んだ。	積極的に質問やディスカッションを行い、能動的に授業に参加した。	積極性は乏しいものの、質問やディスカッションに一部参加した。	授業には参加したものの、質問やディスカッションについて、受動的に姿勢に終始した。	授業に意欲的に参加しなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM133145, SEM433086, SEM533093)				
授業担当者(所属・職名)	川津 大樹(経営学科・専任講師)	研究室等所在	未定		
単位数	1 (単位認定責任者: 川津 大樹)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	大分県内の経済団体(商工会)に勤務し、地域の中小企業に対して金融・税務指導を行った経験に基づき、財務会計に関する理論、制度および実務を総合的に取り上げる。		

教科書・参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション:自己紹介・講義の方針確認 授業改善アンケート結果反映の説明	所属研究室選択資料の確認(45分)	配布資料の確認(45分)
2	現代会計のフレームワーク	テキストの指定範囲のレポート作成(45分)	ディスカッションでの論点を再確認する(45分)
3	現代会計のフレームワーク	テキストの指定範囲のレポート作成(45分)	ディスカッションでの論点を再確認する(45分)
4	財務会計制度の概観 企業会計原則	テキストの指定範囲のレポート作成(45分)	ディスカッションでの論点を再確認する(45分)
5	財務会計制度の概観 概念フレームワーク	テキストの指定範囲のレポート作成(45分)	ディスカッションでの論点を再確認する(45分)
6	損益計算書 総論	テキストの指定範囲のレポート作成(45分)	ディスカッションでの論点を再確認する(45分)
7	損益計算書 収益	テキストの指定範囲のレポート作成(45分)	ディスカッションでの論点を再確認する(45分)
8	損益計算書 費用	テキストの指定範囲のレポート作成(45分)	ディスカッションでの論点を再確認する(45分)
9	損益計算書 個別論点	テキストの指定範囲のレポート作成(45分)	ディスカッションでの論点を再確認する(45分)
10	キャッシュフロー計算書	テキストの指定範囲のレポート作成(45分)	ディスカッションでの論点を再確認する(45分)
11	貸借対照表 総論	テキストの指定範囲のレポート作成(45分)	ディスカッションでの論点を再確認する(45分)
12	貸借対照表 資産	テキストの指定範囲のレポート作成(45分)	ディスカッションでの論点を再確認する(45分)
13	貸借対照表 負債	テキストの指定範囲のレポート作成(45分)	ディスカッションでの論点を再確認する(45分)
14	貸借対照表 純資産(資本)	テキストの指定範囲のレポート作成(45分)	ディスカッションでの論点を再確認する(45分)
15	プレゼンテーション報告会の準備	プレゼンテーションの準備(45分)	ディスカッションでの論点を再確認する(45分)
16	プレゼンテーション報告会(本番)と総評 授業改善アンケートの実施	プレゼンテーションの準備(45分)	報告会での指摘事項を再確認(45分)

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM133145, SEM433086, SEM533093)				
授業担当者(所属・職名)	小林 大州介(経営学科・専任講師)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	1 (単位認定責任者: 小林 大州介)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	初回に周知する。また各教員の研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標
担当各教員の専門領域を通して、経営学部生として主体的な学ぶ姿勢、学問的(客観的・論理的)な思考、研究方法の基礎を磨く。そして、それを基礎として、自ら課題設定を行い、学問的に問題解決する力をつけ、就職活動や卒業論文へ活かし専門的な知識領域を磨く。

授業の位置づけ
経営学科のDP全てに対応する。

到達目標
多岐にわたる経営学の分野を理解し、各自が修める専門テーマを明確にする。また、そのために必要な知識と考え方を修得するよう努力する。

授業全体の内容と概要
それぞれのゼミナル担当教員が提示している「専門テーマ」に沿った形で演習が進められる。最終的な成果を形にすることを旨として、研究を着実に進めることが一層求められる。 「SDS 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法
各教員の指導方針の下に行われるので、講義、ゼミナル、実験、制作、見学、調査等、さまざまな授業形態がとられる。したがって、大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。与えられたテーマに沿ってプレゼンテーションを行う。テーマ別にディスカッションやディベートを行う。グループに分かれて討議や調査を行うなど、実社会において使える技能に磨きをかけることを目的とした様々な活動を行うこととなる。

アクティブラーニングの実施方法							
<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL
<input type="checkbox"/>	模擬授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業
<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
各担当教員が授業時にアナウンスする。授業中に指定された課題は必ず行うこと。 ・不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件												
授業16回のうち13回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。最終評価は各教員が判断し決定する。出席および日々の活動はすべて平常点扱いとしゼミ担任が判断する。												
評価方法												
<table border="1"> <thead> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>100%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	0%	0%	0%	100%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	0%	0%	0%	100%	0%							

ルーブリック																																															
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>知識・技能</td> <td>知識・技能を得るために十分積極的に活動した。</td> <td>知識・技能を得るための活動は、やや積極性を欠くものの十分な姿勢を見せた。</td> <td>知識・技能を得るための通常の活動は、ある程度こなすことができた。</td> <td>知識・技能を得るための最低限の活動を行った。</td> <td>知識・技能を得るための最低限の活動が見られなかった。</td> </tr> <tr> <td>思考力・判断力・表現力</td> <td>積極的にゼミに取り組み、経営学部生として実社会で対応し得る様々なスキルを学び、経営学部において学んだ内容を以って社会に貢献するための努力をした。</td> <td>各回のゼミに真摯に取り組み、経営学部生として十分な実践力の獲得へ向けた理解を深めることができた。</td> <td>各回のゼミに取り組み、考え方や問題解決に対する努力が見られた。</td> <td>ゼミにまじめに取り組み、経営学部生としての日常生活の知識の獲得に対する前向きの努力は認められるがなかなか定着していない。</td> <td>ゼミへの取り組みが不十分で、本学経営学部生としての知識の獲得に対する前向きな姿勢が見られなかった。</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	知識・技能	知識・技能を得るために十分積極的に活動した。	知識・技能を得るための活動は、やや積極性を欠くものの十分な姿勢を見せた。	知識・技能を得るための通常の活動は、ある程度こなすことができた。	知識・技能を得るための最低限の活動を行った。	知識・技能を得るための最低限の活動が見られなかった。	思考力・判断力・表現力	積極的にゼミに取り組み、経営学部生として実社会で対応し得る様々なスキルを学び、経営学部において学んだ内容を以って社会に貢献するための努力をした。	各回のゼミに真摯に取り組み、経営学部生として十分な実践力の獲得へ向けた理解を深めることができた。	各回のゼミに取り組み、考え方や問題解決に対する努力が見られた。	ゼミにまじめに取り組み、経営学部生としての日常生活の知識の獲得に対する前向きの努力は認められるがなかなか定着していない。	ゼミへの取り組みが不十分で、本学経営学部生としての知識の獲得に対する前向きな姿勢が見られなかった。																								
評価項目		評価基準																																													
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																																										
知識・技能	知識・技能を得るために十分積極的に活動した。	知識・技能を得るための活動は、やや積極性を欠くものの十分な姿勢を見せた。	知識・技能を得るための通常の活動は、ある程度こなすことができた。	知識・技能を得るための最低限の活動を行った。	知識・技能を得るための最低限の活動が見られなかった。																																										
思考力・判断力・表現力	積極的にゼミに取り組み、経営学部生として実社会で対応し得る様々なスキルを学び、経営学部において学んだ内容を以って社会に貢献するための努力をした。	各回のゼミに真摯に取り組み、経営学部生として十分な実践力の獲得へ向けた理解を深めることができた。	各回のゼミに取り組み、考え方や問題解決に対する努力が見られた。	ゼミにまじめに取り組み、経営学部生としての日常生活の知識の獲得に対する前向きの努力は認められるがなかなか定着していない。	ゼミへの取り組みが不十分で、本学経営学部生としての知識の獲得に対する前向きな姿勢が見られなかった。																																										

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM133145, SEM433086, SEM533093)				
授業担当者(所属・職名)	小林 大州介(経営学科・専任講師)	研究室等所在	2号館 8階		
単位数	1 (単位認定責任者: 小林 大州介)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	初回オリエンテーション 授業内容の説明 授業改善アンケート結果反映の説明	所属研究室選択資料の確認(45分)	配布資料の確認(45分)
2	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業の復習(45分)
3	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業の復習(45分)
4	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業の復習(45分)
5	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業の復習(45分)
6	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業の復習(45分)
7	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業の復習(45分)
8	前半授業の振り返り	前半授業の復習(45分)	授業の復習(45分)
9	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業の復習(45分)
10	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業の復習(45分)
11	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業の復習(45分)
12	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業の復習(45分)
13	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業の復習(45分)
14	担当教員による授業	予習課題(45分)	授業の復習(45分)
15	担当教員による授業 授業改善アンケートの実施	予習課題(45分)	授業の復習(45分)
16	前期授業の総括について	前期授業の復習(45分)	全体の復習(45分)

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM133145, SEM433086, SEM533093)				
授業担当者(所属・職名)	小早川俊哉(社会福祉学科・教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 小早川俊哉)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

<b>履修目標</b>
社会の変化から社会政策(福祉政策)の変化を理解できるようになる。文献研究、フィールドワーク、ディスカッションなどを通して、社会システム理解を目指す。

<b>授業の位置づけ</b>
社会福祉学科のDP(1)(2)(3)(4)(5)に対応する。

<b>到達目標</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の方向性を見つけ、自ら学び考えて解決できる能力を身につける。</li> <li>個々の学生がそれぞれの「勉学のテーマ」の糸口をつかんでいる。</li> <li>上記研究テーマを構築するために必要な文献・資料・データを活用するスキルを身につける。</li> <li>研究テーマに沿った論文執筆に必要なスキルを身につける。</li> <li>自分の研究テーマをプレゼン形式で発表するスキルと学友の発表を傾聴し、的確な質問をするスキルを身につける。</li> </ul>

<b>授業全体の内容と概要</b>
大学生として理解すべき社会システム、特に政治経済の基礎、並びに、社会福祉学部の学生として福祉制度変革の背景の理解を主目的に議論中心の授業を展開する。「SDG4. 質の高い教育をみんなに」の関連科目。

<b>授業の方法</b>
各教員の指導方針のもとに行われるので、講義・ゼミナール・実験・製作・見学・調査等様々は授業形態がとられる。したがって、大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。レポートの場合はコメント等によりフィードバックを行う。質問は随時対応し、レポートの場合はコメント等によりフィードバックを行う。Microsoft Teams/Formsの諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。

<b>アクティブラーニングの実施方法</b>					
プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
模範授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	その他(授業の方法参照)

<b>履修上の注意事項</b>
オリエンテーション時に配布される担当教員のゼミナール紹介を熟読の上、自分の所属を決定すること。「専門演習 A」に所属した教員が後期の「専門演習 B」を担当する。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

<b>修学サポート(合理的配慮)</b>
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
<b>資格指定科目</b>

評価方法・基準

<b>評価前提条件</b>												
単位認定に必要な最低出席回数10回以上。												
<b>評価方法</b>												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>100%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	0%	0%	0%	0%	100%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	0%	0%	0%	0%	100%							

<b>ルーブリック</b>					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
担当教員が提示した課題についての情報獲得ツールを駆使できる	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができ、さらに、自分の学習課題として昇華できる。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができる。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示できる。	提示された課題についてネット検索を行い、資料を具体的に検索できる。	左記の内容が何一つできていない。
論文・レポート執筆のためのスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見でき、それを論文に構成できるスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見できる。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆できる。	具体的なレポート執筆ができる。	左記の内容が何一つできていない。
自分の研究テーマを明確に発表でき、他者の研究を尊重できる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができ、且つ、他者の意見と研究を尊重しながら、双方向の向上ができるような議論ができる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができる。	自分の研究テーマを明確に説明できる。	左記の内容が何一つできていない。



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM133145, SEM433086, SEM533093)				
授業担当者(所属・職名)	小早川俊哉(社会福祉学科・教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 小早川俊哉)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 担当教員によるガイダンス	所属研究室選択資料の確認(45分)	配布資料の確認(45分)
2	担当教員による授業1	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
3	担当教員による授業2	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
4	担当教員による授業3	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
5	担当教員による授業4	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
6	担当教員による授業5	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
7	担当教員による授業6	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
8	担当教員による授業7	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
9	担当教員による授業8	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
10	担当教員による授業9	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
11	担当教員による授業10	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
12	担当教員による授業11	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
13	担当教員による授業12	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
14	担当教員による授業13	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
15	担当教員による授業14	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
16	総括	予習課題(45分)	全体振り返り(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM133145, SEM433086, SEM533093)				
授業担当者(所属・職名)	藤根 収(社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	2号館7階研究室		
単位数	1 (単位認定責任者: 藤根 収)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	各教員がそれぞれの専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。		
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標
専門演習担当各教員の専門分野を中心に、社会福祉学をはじめとする社会科学の方法論を、文献研究、フィールドワーク、ディスカッションなどの教授方法を使用し獲得する。

授業の位置づけ
社会福祉学科のDP(1)(2)(3)(4)(5)に対応する。

到達目標
<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の方向性を見つけ、自ら学び考えて解決できる能力を身につける。</li> <li>個々の学生がそれぞれの「勉学のテーマ」の糸口をつかんでいる。</li> <li>上記研究テーマを構築するために必要な文献・資料・データを活用するスキルを身につける。</li> <li>研究テーマに沿った論文執筆に必要なスキルを身につける。</li> <li>自分の研究テーマをプレゼン形式で発表するスキルと学友の発表を傾聴し、的確な質問をするスキルを身につける。</li> </ul>

授業全体の内容と概要
それぞれのゼミナール担当教員が提示する「専門テーマ」に沿った形で進められる。 「SDG4. 質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法
各教員の指導方針のもとに行われるので、講義・ゼミナール・実験・製作・見学・調査等様々な授業形態がとられる。したがって、大学生として真摯に学ぶ姿勢と自習が求められる。レポートの場合はコメント等によりフィードバックを行う。質問は随時対応し、Microsoft Teams/Formsの諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法												
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL									
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業									
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)									

履修上の注意事項
オリエンテーション時に配布される担当教員のゼミナール紹介を熟読の上、自分の所属を決定すること。「専門演習 A」に所属した教員が後期の「専門演習 B」を担当する。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件												
単位認定に必要な最低出席回数10回以上。												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>100%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	0%	0%	0%	0%	100%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	0%	0%	0%	0%	100%							

ルーブリック																													
<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> <tr> <td>担当教員が提示した課題についての情報獲得ツールを駆使できる</td> <td>ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができ、さらに、自分の学習課題として昇華できる。</td> <td>ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができる。</td> <td>ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示できる。</td> <td>提示された課題についてネット検索を行い、資料を具体的に検索できる。</td> <td>左記の内容が何一つできていない。</td> </tr> <tr> <td>論文・レポート執筆のためのスキルを獲得する。</td> <td>論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見でき、それを論文に構成できるスキルを獲得する。</td> <td>論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見できる。</td> <td>論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆できる。</td> <td>具体的なレポート執筆ができる。</td> <td>左記の内容が何一つできていない。</td> </tr> <tr> <td>自分の研究テーマを明確に発表でき、他者の研究を尊重できる。</td> <td>自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができ、且つ、他者の意見と研究を尊重しながら、双方向の向上ができるような議論ができる。</td> <td>自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができる。</td> <td>自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができる。</td> <td>自分の研究テーマを明確に説明できる。</td> <td>左記の内容が何一つできていない。</td> </tr> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	担当教員が提示した課題についての情報獲得ツールを駆使できる	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができ、さらに、自分の学習課題として昇華できる。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができる。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示できる。	提示された課題についてネット検索を行い、資料を具体的に検索できる。	左記の内容が何一つできていない。	論文・レポート執筆のためのスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見でき、それを論文に構成できるスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見できる。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆できる。	具体的なレポート執筆ができる。	左記の内容が何一つできていない。	自分の研究テーマを明確に発表でき、他者の研究を尊重できる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができ、且つ、他者の意見と研究を尊重しながら、双方向の向上ができるような議論ができる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができる。	自分の研究テーマを明確に説明できる。	左記の内容が何一つできていない。
評価項目		評価基準																											
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
担当教員が提示した課題についての情報獲得ツールを駆使できる	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができ、さらに、自分の学習課題として昇華できる。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができる。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示できる。	提示された課題についてネット検索を行い、資料を具体的に検索できる。	左記の内容が何一つできていない。																								
論文・レポート執筆のためのスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見でき、それを論文に構成できるスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見できる。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆できる。	具体的なレポート執筆ができる。	左記の内容が何一つできていない。																								
自分の研究テーマを明確に発表でき、他者の研究を尊重できる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができ、且つ、他者の意見と研究を尊重しながら、双方向の向上ができるような議論ができる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができる。	自分の研究テーマを明確に説明できる。	左記の内容が何一つできていない。																								

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM133145, SEM433086, SEM533093)				
授業担当者(所属・職名)	藤根 収(社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	2号館7階研究室		
単位数	1 (単位認定責任者: 藤根 収)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	各教員がそれぞれの専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『生徒指導提要 改訂版』	文部科学省	東洋館出版社	2023	978-4491051758	
2	『特別支援教育の基礎・基本2020』	国立特別支援教育総合研究所	ジヤース教育新社	2020	978-4-86371-548-6	
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 「担当教員によるガイダンス」	所属研究室選択資料の確認(45分)	配布資料の確認(45分)
2	担当教員による授業1 「課題演習の進め方について」	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
3	担当教員による授業2 「演習等の役割分担、ディスカッション」	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
4	担当教員による授業3 「教育の今日的課題演習」	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
5	担当教員による授業4 「教育の今日的課題演習」	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
6	担当教員による授業5 「教育の今日的課題演習」	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
7	担当教員による授業6 「教育の今日的課題演習」	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
8	担当教員による授業7 「教育の今日的課題演習」	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
9	担当教員による授業8 「教育の今日的課題演習」	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
10	担当教員による授業9 「教育の今日的課題演習」	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
11	担当教員による授業10 「教育の今日的課題演習」	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
12	担当教員による授業11 「教育の今日的課題演習」	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
13	担当教員による授業12 「特別支援教育の今日的課題演習」	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
14	担当教員による授業13 「特別支援教育の今日的課題演習」	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
15	担当教員による授業14 「特別支援教育の今日的課題演習」	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
16	総括 専門ゼミ Aのまとめ・発表	予習課題(45分)	全体振り返り(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM133145, SEM433086, SEM533093)				
授業担当者(所属・職名)	社会福祉学科・教授		研究室等所在	1号館2階	
単位数	1 (単位認定責任者: 松下 守邦)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。Teamsチーム(演習科目)には、履修学生と授業者の履修相談について説明案内、連絡ツールを掲載する。				

概要

履修目標

卒論準備(アカデミック・シンキング)の基礎理解をおこなう。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP(1)(3)(5)に対応する。

到達目標

卒論執筆準備のため、学術レポート作成の基礎を理解する。学術作法にもとづいて、社会科学の疑問をあきらかにする方法を習得する。

授業全体の内容と概要

専門演習 ABでは、アカデミック・シンキングを学修する。3064 頁の高い教育をみなし」の関連科目。次の から について段階的理解をすすめる。学術論文のスタイルを確認する。(書く作業のなかで思考を深める、先行研究理解、引用など、学術研究ルールを学ぶ) 大学教員や研究者が執筆した学術論文を自分の関心にあわせて図書館情報レファレンスサービスを見つけ取る。学術論文、文献を読み、要旨をまとめる。視点、考察方法の違い等を報告する。社会的現象について、複数文献を精読し、視点、考察方法の違い等を報告する。学術論文、文献の読解作業をふまえ、先行研究の批評的思考をおこなう。(定義を確認する、比較する、相違点や類似点を見つける)

授業の方法

社会福祉学科Teams「2023年度 専門演習 履修方法」(2023年1月開示)には、「専門ゼミテーマ、内容一覧」(PDF)がある。アカデミック・シンキングのための文献講読は、ゼミメンバー確定後、演習にて選書、決定する。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

・授業科目Teamsを利用する。履修学生はチームメンバーになり、以下のコースパケット利用が可能になる。コースパケットは、履修学生に必要なと思われる教材資料をまとめたものである。  
準備学習に必要な教材(論文コピー、報告書など)課題(練習問題、レポートの指示と執筆のための参考資料)授業のなかでは扱いきれなかった、関連文献、補足情報授業者への相談質問のための案内・不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。高校教育までにつけた支援をふまえ、本人とメニュー調整をおこないながら、科目サポートを進める。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数10回以上をクリアすること。これは、必要とされる量の基準であるけれども、十分条件ではない。学修は最後まで継続しベストを尽くすことを期待する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	70%	0%	0%	30%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
関心のある主題について、信頼性のある情報を整理し、論点を抽出する。	信頼性の高い情報を網羅して調べ、多様な見解を整理している。専攻とそれに関連する領域の先行研究を統合させて、問題背景を的確に説明している。	信頼性を保ちながら情報を調べ、見解を適切に整理している。専攻領域の代表的な先行研究をふまえながら、問題背景を説明している。	信頼性のある情報を調べ、いくつかの見解を整理している。自らの専攻についていくつかの先行研究を確認し、問題背景を設定している。	インターネット情報の信頼性を理解して文献収集してまとめる。大学、研究機関などの資料を収集するが、自らの専攻と先行研究に関する絞込みは十分ではなかった。	インターネット情報の信頼性の理解が十分ではない。Wikipediaなど、「いきなり検索」の情報収集にとまった。
学術論文スタイルを理解し、学術レポートを作成する。	主題、内容、方法はキーワード、学術概念による適切な筋立の構成である。学術論文の引用が明確に示されていた。	キーワード、学術概念をもとにして適切な論点を見出している。引用形式は適切であり、その解釈は文脈をふまえていた。	キーワード、学術概念を用いており、論理的説明の裏本はおこなわれている。文献リストの作成、本文の注、引用形式は適切であった。	学術概念に利用、引用、参照文献リストの作成が試みられているが、本文と文献の照合は十分ではなかった。	文章は個人的経験、感想もとづく「素朴理論」である。引用、参照文献のリストが示されていない。
ゼミメンバーとして、学術環境を創造していく役割を自覚し、自分と異なる意見を統合させて、学修経験を高めようとする。関心・意欲・態度	ゼミメンバーとして、役割と責任を自覚して、積極的に協同的に行動することができた。	ゼミメンバーとしての役割はおおむね理解しており、他のメンバーに配慮する行動をおこなうことができた。	ゼミメンバーとしての役割は、基本的な行動についておこなうことができた。	ゼミメンバーとして自分の役割は、改善の余地はあるが、行動することができた。	ゼミメンバーとして自分の役割を理解すること、主体的な行動はできなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM133145, SEM433086, SEM533093)				
授業担当者(所属・職名)	社会福祉学科・教授		研究室等所在	1号館2階	
単位数	1 (単位認定責任者: 松下 守邦)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						テキストは初回ゼミにて相談決定する。
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『思考を鍛えるレポート・論文作成法 第3版』	井下千以子	慶応義塾大学出版会	2019		
2	『レポート・論文をさらによくする「書き直し」ガイド』	佐渡島沙織ほか	大修館	2015		
3	『コピペと言われないレポートの書き方教室』	山口裕之	新曜社	2013		
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明、演習ガイダンス	シラバス、科目Teamsの確認(45分)	スケジュールと準備学習の整理(45分)
2	アカデミック・シンキング基礎1(学術文献の種類)	テキスト資料の読解(45分)	テキスト、資料の整理(45分)
3	アカデミック・シンキング基礎2(調べ学習、自由研究、学術研究)	テキスト資料の読解(45分)	テキスト、資料の整理(45分)
4	アカデミック・シンキング基礎3(研究不正;捏造、剽窃、ほう助、自己剽窃)	テキスト資料の読解(45分)	テキスト、資料の整理(45分)
5	アカデミック・シンキング基礎4(学術倫理;ハラスメント、研究協力者への配慮)	テキスト資料の読解(45分)	テキスト、資料の整理(45分)
6	アカデミック・シンキング基礎5	テキスト資料の読解(45分)	テキスト、資料の整理(45分)
7	アカデミック・シンキング基礎6	テキスト資料の読解(45分)	テキスト、資料の整理(45分)
8	アカデミック・シンキング基礎7	テキスト資料の読解(45分)	テキスト、資料の整理(45分)
9	アカデミック・シンキング基礎8	テキスト資料の読解(45分)	テキスト、資料の整理(45分)
10	文献講読1(文献の選書、報告割当、レジュメ作成、準備学習)	テキスト資料の読解(45分)	テキスト、資料の整理(45分)
11	文献講読2(分担報告)	テキスト資料の読解(45分)	テキスト文献精読(45分)
12	文献講読3(分担報告)	テキスト資料の読解(45分)	テキスト文献精読(45分)
13	文献講読4(分担報告)	テキスト資料の読解(45分)	テキスト文献精読(45分)
14	文献講読5(分担報告)	テキスト資料の読解(45分)	テキスト文献精読(45分)
15	文献講読6(分担報告)	テキスト資料の読解(45分)	テキスト文献精読(45分)
16	まとめ	テキスト資料の読解(45分)	次学期への課題設定(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM133145, SEM433086, SEM533093)				
授業担当者(所属・職名)	大島康雄(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 大島康雄)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。		
オフィスアワー	研究室前のボードなどを参照。				

概要

履修目標

卒業論文執筆を通じて、社会福祉学研究に必要なスキルを習得する。具体的には、社会福祉に関係する様々な事象のうち、自分が関心を持つ事象を探究するためのスキル(問題発見・分析能力の養成・情報文献収集・調査等)を身に付ける。また、ゼミナールごとにキャリア支援教育が組み込まれており、身に習得したスキルを将来に生かす方法を探求する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP「1」(2)(3)(4)(5)に対応する。

到達目標

ソーシャルスキル、グループ方式による作業方法、データの収集や分析・解釈、プレゼン能力の向上、論文作成など、一連の方法を身に付けることが基本となるが、さらに、下記のことについて達成できるようにする。  
 ・各自の関心に基づき社会福祉関連の研究テーマを見つけることができる。  
 ・関連資料の収集・整理を共同作業で行うことができる。  
 ・研究報告及び研究成果のまとめを行うことができる。

授業全体の内容と概要

学生が学びたいテーマに沿った形で進められる。  
 「SDG4. 質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

講義・ゼミナール・実験・制作・見学・調査など、様々な授業形態がとられる。資料等の提示については、板書、資料配布、プレゼンテーションソフトウェア等により行われる。課題等に関するフィードバックはコメントにてフィードバックされる。  
 Microsoft Teams/Formsの諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

担当教員の指示に従い、主体的・積極的な参加に務めること。  
 大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。  
 後期の「専門演習 B」も、この演習の担当教員が継続して担当する。  
 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位取得の最低出席条件10回以上をクリアすること。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	0%	0%	100%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
卒業論文執筆のテーマが明確になっている。	卒業論文執筆のテーマが明確になっており、そのテーマに至るまでの文献・ネット検索のプロセスを説明できる。	卒業論文執筆のテーマが明確になっており、そのテーマの今後の執筆予定を説明できる。	卒業論文執筆のテーマに沿って単立ができ、執筆を開始している。	卒業論文執筆のテーマが明確になっている。	左記の内容が何一つできていない。
研究テーマに関するディスカッションができる。	ディスカッションにおいて、自分の執筆テーマの意義と展望、現在の進捗状況を報告でき、尚且つ、他者の発表に的確な助言ができる。	ディスカッションにおいて、自分の執筆テーマの意義と展望、現在の進捗状況を報告できる。	ディスカッションにおいて、自分の執筆テーマの意義と展望を報告できる。	ディスカッションにおいて、自分の研究テーマを報告できる。	左記の内容が何一つできていない。
自分の研究テーマについてプレゼンテーションができる。	自分の研究テーマについてのプレゼンにおいて、明確な参考資料を提示でき、報告でき、且つ、周囲を納得させることができ、さらに、他者のプレゼンに対して的確な助言ができる。	自分の研究テーマについてのプレゼンにおいて、明確な参考資料を提示でき、報告でき、且つ、周囲を納得させることができる。	自分の研究テーマについてのプレゼンにおいて、明確な参考資料を提示でき、報告できる。	自分の研究テーマのプレゼンテーションが一応できる。	左記の内容が何一つできていない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM133145, SEM433086, SEM533093)				
授業担当者(所属・職名)	大島康雄(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 大島康雄)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	担当教員によるガイダンス(シラバスの説明を含む)	所属研究室選択資料の確認(45分)	配布資料の確認(45分)
2	担当教員による授業2	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
3	担当教員による授業3	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
4	担当教員による授業1	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
5	担当教員による授業4	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
6	担当教員による授業5	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
7	担当教員による授業6	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
8	担当教員による授業7	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
9	担当教員による授業8	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
10	担当教員による授業9	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
11	担当教員による授業10	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
12	担当教員による授業11	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
13	担当教員による授業12	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
14	担当教員による授業13	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
15	担当教員による授業14	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
16	総括	予習課題(45分)	全体振り返り(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM133145, SEM433086, SEM533093)				
授業担当者(所属・職名)	吉江 幸子(社会福祉学科・教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 吉江 幸子)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

子ども・高齢・障害分野に興味関心をもち、文献を調べる方法を理解する。  
積極的に意見を出し合い、周囲とのコミュニケーションを図る。  
主体的に研究テーマを決め、討論などを通して専門的な知識を深める。  
討論、発表を繰り返すことで周囲との意見の違いにも気づき、チームワークの大切さや自分の強みに気付く。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP(1)(2)(3)(4)(5)に対応する。

到達目標

- 自分の方向性を見つけ、自ら学び考えて解決できる能力を身につける。
- 個々の学生がそれぞれの「勉学のテーマ」の糸口をつかんでいる。
- 研究テーマを構築するために必要な文献・資料・データを活用するスキルを身につける。
- 自分の研究テーマをプレゼン形式で発表するスキルと学友の発表を傾聴し、的確な質問をするスキルを身につける。

授業全体の内容と概要

「専門テーマ：自分発見」に沿った形で資料を活用し、要約の方法などを考察する。  
「SDG4. 質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

講義・ゼミナール・実験・製作・見学・調査等様々な授業形態で実施する。  
大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。  
質問は随時対応し、レポートの場合はコメント等によりフィードバックを行う。  
Microsoft Teams/Formsの諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

- 受講者数は8～9名程度。
- 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。
- 吉江ゼミでは、大学祭への参加を基本条件とするので、ゼミ生で企画立案、実践、事後評価の流れを汲んで積極的参加を求める。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数10回以上とするが全回出席が望ましい。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	0%	0%	100%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
提示した課題についての情報獲得ツールを駆使できる	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができ、さらに、自分の学習課題として昇華できる。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができる。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示できる。	提示された課題についてのネット検索を行い、資料を体系的に検索できる。	左記の内容が何一つできていない。
論文・レポート執筆のためのスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆できそこから、さらに研究課題を発見でき、それを論文に構成できるスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆できそこから、さらに研究課題を発見できる。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆できる。	具体的なレポート執筆ができる。	左記の内容が何一つできていない。
自分の研究テーマを明確に発表でき、他者の研究を尊重できる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができ、且つ、他者の意見と研究を尊重しながら、双方向の向上ができるような議論ができる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができる。	自分の研究テーマを明確に説明できる。	左記の内容が何一つできていない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM133145, SEM433086, SEM533093)				
授業担当者(所属・職名)	吉江 幸子(社会福祉学科・教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 吉江 幸子)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 ゼミ内容のガイダンスと今後実践したい内容の意見 収集	所属研究室選択資料の確認(45分)	配布資料の確認(45分)
2	ゼミ内の役割分担の話し合い	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
3	希望テーマに沿った文献収集と発表準備	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
4	希望テーマに沿った文献収集と発表準備	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
5	希望テーマに沿った文献収集と発表準備	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
6	希望テーマに沿った文献収集と発表	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
7	発表と討論・ディスカッション	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
8	希望テーマに沿った文献収集と発表	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
9	発表と討論・ディスカッション	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
10	希望テーマに沿った文献収集と発表	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
11	発表と討論・ディスカッション	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
12	希望テーマに沿った文献収集と発表	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
13	発表と討論・ディスカッション	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
14	希望テーマに沿った文献収集と発表	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
15	発表と討論・ディスカッション	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
16	総括としての評価・ディスカッション	予習課題(45分)	全体振り返り(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM133145, SEM433086, SEM533093)				
授業担当者(所属・職名)	西野 克俊(社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 西野 克俊)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	各教員がそれぞれの専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。		
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標
------

ソーシャルワークの基礎知識・基礎技術の習得を図り、自身の考えるテーマを深める。

授業の位置づけ
---------

社会福祉学科のDP(2)(4)(5)に対応する。

到達目標
------

福祉の現場や働いている専門職役割を知識として学習する。専門職になるために、学ぶ・考える・関わるの基礎を学習する。自ら目標達成のために、計画性・実行性を習得する。コミュニケーション能力などの向上を図る。

授業全体の内容と概要
------------

現場の話を聞き、現場の様子や現状を知り、それをもとにゼミ内でディスカッションをしながら知識を広げる。状況に応じて、現場交流や技術習得を目指すためのボランティア活動への参加。個人だけでなくゼミとして専門職として必要と考えられる知識や経験などを検討し、必要な計画を立て実行する。最終には知り得た知識の中で、何か一つテーマを見つけそのテーマに沿った内容を深く掘り下げる。「SDG4、質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法
-------

講義・ゼミナール・実験・制作・見学等様々な授業形態を行う。質問は随時対応し、レポートの場合はコメント等によりフィードバックを行う。Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法
-----------------

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
----------

20分以上の遅刻・早退は欠席とみなす。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)
---------------

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目
--------

評価方法・基準

評価前提条件
--------

単位認定に必要な最低出席回数10回以上。

評価方法
------

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	0%	0%	100%

ルーブリック
--------

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
担当教員が提示した課題についての情報獲得ツールを駆使できる	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができ、さらに、自分の学習課題として昇算できる。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができる。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示できる。	提示された課題についてネット検索を行い、資料を具体的に検索できる。	左記の内容が何一つできていない。
論文・レポート執筆のためのスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見でき、それを論文に構成できるスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見できる。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆できる。	具体的なレポート執筆ができる。	左記の内容が何一つできていない。
自分の研究テーマを明確に発表でき、他者の研究を尊重できる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができ、且つ、他者の意見と研究を尊重しながら、双方向の向上ができるような議論ができる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができる。	自分の研究テーマを明確に説明できる。	左記の内容が何一つできていない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM133145, SEM433086, SEM533093)				
授業担当者(所属・職名)	西野 克俊(社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 西野 克俊)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	各教員がそれぞれの専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 担当教員によるガイダンス	所属研究室選択資料の確認(45分)	配布資料の確認(45分)
2	グループワーク 準備	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
3	グループワーク 実施	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
4	グループワーク 準備	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
5	グループワーク 実施	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
6	グループワーク 準備	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
7	グループワーク 実施	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
8	グループワーク 準備	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
9	グループワーク 実施	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
10	グループワーク 準備	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
11	グループワーク 実施	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
12	グループホーム振り返り	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
13	グループワーク振り返り	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
14	まとめ	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
15	まとめ	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
16	総括	予習課題(45分)	全体振り返り(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM133145, SEM433086, SEM533093)				
授業担当者(所属・職名)	畠山 明子(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 畠山 明子)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

専門演習担当各教員の専門分野を中心に、社会福祉学をはじめとする社会科学の方法論を、文献研究、フィールドワーク、ディスカッションなどの教授方法を使用し獲得する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP(1)(2)(3)(4)(5)に対応する。

到達目標

- ・自分の方向性を見つけ、自ら学び考えて解決できる能力を身につける。
- ・個々の学生がそれぞれの「勉学のテーマ」の糸口をつかんでいる。
- ・上記研究テーマを構築するために必要な文献・資料・データを活用するスキルを身につける。
- ・研究テーマに沿った論文執筆に必要なスキルを身につける。
- ・自分の研究テーマをプレゼン形式で発表するスキルと学友の発表を傾聴し、的確な質問をするスキルを身につける。

授業全体の内容と概要

それぞれのゼミナール担当教員が提示する「専門テーマ」に沿った形で進められる。  
「SDG4. 質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

各教員の指導方針のもとに行われるので、講義・ゼミナール・実験・製作・見学・調査等様々な授業形態がとられる。したがって、大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。質問は随時対応し、レポートの場合はコメント等によりフィードバックを行う。Microsoft Teams/Formsの諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

オリエンテーション時に配布される担当教員のゼミナール紹介を熟読の上、自分の所属を決定すること。「専門演習 A」に所属した教員が後期の「専門演習 B」を担当する。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数10回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	0%	0%	100%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
担当教員が提示した課題についての情報獲得ツールを駆使できる。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができ、さらに、自分の学習課題として昇華できた。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができた。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示できた。	提示された課題についてネット検索を行い、資料を具体的に検索できた。	左記の内容が何一つできなかった。
論文・レポート執筆のためのスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆できそこから、さらに研究課題を発見でき、それを論文に構成できるスキルを獲得できた。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆できそこから、さらに研究課題を発見できた。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆できた。	具体的なレポートを執筆できた。	左記の内容が何一つできなかった。
自分の研究テーマを明確に発表でき、他者の研究を尊重できる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができ、且つ、他者の意見と研究を尊重しながら、双方向の向上ができるような議論ができた。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができた。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができた。	自分の研究テーマを明確に説明できた。	左記の内容が何一つできなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM133145, SEM433086, SEM533093)				
授業担当者(所属・職名)	畠山 明子(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 畠山 明子)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 担当教員によるガイダンス	所属研究室選択資料の確認(45分)	配布資料の確認(45分)
2	テキスト購読・ディスカッション	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
3	テキスト購読・ディスカッション	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
4	テキスト購読・ディスカッション	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
5	テキスト購読・ディスカッション	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
6	テキスト購読・ディスカッション	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
7	テキスト購読・ディスカッション	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
8	テキスト購読・ディスカッション	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
9	テキスト購読・ディスカッション	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
10	テキスト購読・ディスカッション	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
11	調査活動準備	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
12	調査活動準備	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
13	調査活動準備	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
14	調査活動準備	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
15	調査活動準備	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
16	総括	予習課題(45分)	全体振り返り(45分)

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM133145, SEM433086, SEM533093)				
授業担当者(所属・職名)	吉澤 英里(社会福祉学科・教授)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	1 (単位認定責任者: 吉澤 英里)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照				

概要

履修目標
------

心理学の視点から、社会福祉学をはじめとする社会科学の方法論を、文献研究、調査、実験、ディスカッションなどを通して獲得する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP(1)(2)(3)(4)(5)に対応する。

到達目標

- ・自分の方向性を見つけ、自ら学び考えて解決できる能力を身につける。
- ・個々の学生がそれぞれの「勉学のテーマ」の糸口をつかんでいる。
- ・上記研究テーマを構築するために必要な文献・資料・データを活用するスキルを身につける。
- ・研究テーマに沿った論文執筆に必要なスキルを身につける。
- ・自分の研究テーマをプレゼン形式で発表するスキルと学友の発表を傾聴し、的確な質問をするスキルを身につける。

授業全体の内容と概要

それぞれのゼミナール担当教員が提示する「専門テーマ」に沿った形で進められる。  
「SDG4. 質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

心理学の文献を講読し、ディスカッションをする。  
質問は随時対応し、レポートの場合はコメント等によりフィードバックを行う。  
Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

オリエンテーション時に配布される担当教員のゼミナール紹介を熟読の上、自分の所属を決定すること。「専門演習 A」に所属した教員が後期の「専門演習 B」を担当する。  
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	0%	0%	100%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
担当教員が提示した課題についての情報獲得ツールを駆使できた	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができ、さらに、自分の学習課題として昇華できた。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができた。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示できた。	提示された課題についてネット検索を行い、資料を具体的に検索できた。	左記の内容がいずれもできなかった。
論文・レポート執筆のためのスキルを獲得した。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆できそこから、さらに研究課題を発見でき、それを論文に構成できるスキルを獲得した。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆できそこから、さらに研究課題を発見できた。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆できた。	具体的なレポート執筆できた。	左記の内容がいずれもできなかった。
自分の研究テーマを明確に発表でき、他者の研究を尊重できた。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができ、且つ、他者の意見と研究を尊重しながら、双方向の向上ができるような議論ができた。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができた。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができた。	自分の研究テーマを明確に説明できた。	左記の内容がいずれもできなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM133145, SEM433086, SEM533093)				
授業担当者(所属・職名)	吉澤 英里(社会福祉学科・教授)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	1 (単位認定責任者: 吉澤 英里)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 担当教員によるガイダンス ゼミの運営方針(役割分担)の決定	所属研究室選択資料の確認(45分)	配布資料の確認(45分)
2	担当教員による授業1(文献講読)	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
3	担当教員による授業2(文献講読)	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
4	担当教員による授業3(文献講読)	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
5	担当教員による授業4(文献講読)	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
6	担当教員による授業5(文献講読)	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
7	担当教員による授業6(文献講読)	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
8	担当教員による授業7(文献講読)	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
9	担当教員による授業8(文献講読)	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
10	担当教員による授業9(文献講読)	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
11	担当教員による授業10(文献講読)	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
12	担当教員による授業11(文献講読)	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
13	担当教員による授業12(文献講読)	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
14	担当教員による授業13(文献講読)	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
15	担当教員による授業14(文献講読)	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
16	これまでの総括	予習課題(45分)	全体振り返り(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM133145, SEM433086, SEM533093)				
授業担当者(所属・職名)	社会福祉学科・堀川厚志		研究室等所在	堀川研究室(2号館・8階)	
単位数	1 (単位認定責任者: 堀川厚志)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	各教員がそれぞれの専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。		
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

専門演習担当各教員の専門分野を中心に、社会福祉学をはじめとする社会科学の方法論を、文献研究、フィールドワーク、ディスカッションなどの教授方法を使用し獲得する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP(2)と(4)と(5)に対応する。

到達目標

自分の方向性を見つけ、自ら学び考えて解決できる能力を身につける。  
 個々の研究テーマをもち、研究方法に関するノウハウを理解する。  
 上記研究テーマを構築するために必要な文献・資料・データを活用するスキルを身につける。  
 研究テーマに沿った論文執筆に必要なスキルを身につける。  
 自分の研究テーマをプレゼン形式で発表するスキルと学友の発表を傾聴し、的確な質問をするスキルを身につける。

授業全体の内容と概要

特別支援教育、障害のある子に対する教育に関連する内容や今日的な課題について、各自が関心をもち追究したい内容の焦点化を図るとともに、調査研究や文献研究の方法、情報の整理やまとめ方について検討し整理する。  
 「SDG4. 質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

プレゼンテーション資料等によるテーマの焦点化、調査方法、文献研究の方法について説明する。  
 フレームワーク等の試行により関心事、文献研究・調査研究内容を焦点化し整理し、随時グループワークを実施する。  
 全体発表を通して、調査研究等の成果報告、全体への情報共有を行う。  
 質問には随時対応し、各自の調査・収集・整理した内容については、コメント等によりフィードバックを行う。  
 Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

オリエンテーション時に配布される担当教員のゼミナール紹介を熟読の上、自分の所属を決定すること。  
 「専門演習 A」に所属した教員が後期の「専門演習 B」を担当する教員になることを目指し、特別支援教育、障害のある子に対する教育に関連する内容や今日的な課題について、各自が関心をもっている者とする。  
 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数11回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	0%	0%	100%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
担当教員が提示した課題についての情報獲得ツールを駆使できる	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができ、さらに、自分の学習課題として昇華できる。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができる。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示できる。	提示された課題についてのネット検索を行い、資料を具体的に検索できる。	左記の内容が何一つできていない。
論文・レポート執筆のためのスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見でき、それを論文に構成できるスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見できる。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆できる。	具体的なレポート執筆ができる。	左記の内容が何一つできていない。
自分の研究テーマを明確に発表でき、他者の研究を尊重できる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができ、且つ、他者の意見と研究を尊重しながら、双方向の向上ができるような議論ができる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができる。	自分の研究テーマを明確に説明できる。	左記の内容が何一つできていない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM133145, SEM433086, SEM533093)				
授業担当者(所属・職名)	社会福祉学科・堀川厚志	研究室等所在	堀川研究室(2号館・8階)		
単位数	1 (単位認定責任者: 堀川厚志)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	各教員がそれぞれの専門分野の資格、実務経験をともに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『特別支援教育の基礎・基本2020』	独立行政法人国立特別支援教育総合研究所	ジアース教育新社	2020	978-4-86371-548-6	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明(活動の目的、方法、年間の活動計画等)	所属研究室選択資料の確認(4.5分)	配布資料の確認(4.5分)
2	特別支援教育、障害のある子に対する教育の今日的課題等の確認1	予習課題(4.5分)	配布資料の確認(4.5分)
3	特別支援教育、障害のある子に対する教育の今日的課題等の確認2 関連する各自の関心事、課題等の提起	予習課題(4.5分)	配布資料の確認(4.5分)
4	特別支援教育、障害のある子に対する教育に関連する各自の関心事、課題等の提起と確認1	予習課題(4.5分)	配布資料の確認(4.5分)
5	特別支援教育、障害のある子に対する教育に関連する各自の関心事、課題等の提起と確認2	予習課題(4.5分)	配布資料の確認(4.5分)
6	特別支援教育、障害のある子に対する教育に関連する各自の関心事、課題等の確認と全体共有	予習課題(4.5分)	配布資料の確認(4.5分)
7	特別支援教育、障害のある子に対する教育に関連する各自の関心事、課題等の焦点化	予習課題(4.5分)	配布資料の確認(4.5分)
8	全体発表会(中間報告) (各自の関心事、課題等の検討状況、経過、その後の方針)	前半の振り返り(4.5分)	振り返りの確認(4.5分)
9	その後の推進方法の説明 特別支援教育、障害のある子に対する教育に関連する各自の関心事、課題等の焦点化	予習課題(4.5分)	配布資料の確認(4.5分)
10	特別支援教育、障害のある子に対する教育に関連する各自の関心事、課題等の焦点化 各自の追究する内容等(概要)の設定と説明	予習課題(4.5分)	配布資料の確認(4.5分)
11	各自の追究する内容等(概要)の設定と説明	予習課題(4.5分)	配布資料の確認(4.5分)
12	各自の追究する内容等(概要)の設定と説明 一般的な調査研究、文献研究の方法等の説明	予習課題(4.5分)	配布資料の確認(4.5分)
13	一般的な調査研究、文献研究の方法等の説明 各自の追究する内容等に基づく文献研究、調査研究等の計画(時期、内容、方法)の立案	予習課題(4.5分)	配布資料の確認(4.5分)
14	各自の追究する内容等に基づく文献研究、調査研究等の計画(時期、内容、方法)の立案 全体発表資料の作成	予習課題(4.5分)	配布資料の確認(4.5分)
15	全体発表会1(各自の追究する内容等に基づく文献研究、調査研究等の計画発表、全体の振り返りとその後の取組方針)	全体の振り返り(4.5分)	全体の振り返りと次年度方針の確認(4.5分)
16	全体発表会2(各自の追究する内容等に基づく文献研究、調査研究等の計画発表、全体の振り返りとその後の取組方針)	全体の振り返り(4.5分)	全体の振り返りと次年度方針の確認(4.5分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM133145, SEM433086, SEM533093)				
授業担当者(所属・職名)	宮崎 剛司(社会福祉学科・講師)	研究室等所在	1号館2階専任講師室		
単位数	1 (単位認定責任者: 宮崎 剛司)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	各教員がそれぞれの専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。		
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

専門演習担当各教員の専門分野を中心に、社会福祉学をはじめとする社会科学の方法論を、文献研究、フィールドワーク、ディスカッションなどの教授方法を使用し獲得する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP(1)と(2)と(3)と(4)と(5)に対応する。

到達目標

- ・自分の方向性を見つけ、自ら学び考えて解決できる能力を身につける。
- ・個々の学生がそれぞれの「勉学のテーマ」の糸口をつかんでいる。
- ・上記研究テーマを構築するために必要な文献・資料・データを活用するスキルを身につける。
- ・研究テーマに沿った論文執筆に必要なスキルを身につける。
- ・自分の研究テーマをプレゼン形式で発表するスキルと学友の発表を傾聴し、的確な質問をするスキルを身につける。

授業全体の内容と概要

それぞれのゼミナール担当教員が提示する「専門テーマ」に沿った形で進められる。  
「SDG4. 質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

各教員の指導方針のもとに行われるので、講義・ゼミナール・実験・製作・見学・調査等様々な授業形態がとられる。したがって、大学生として真摯に学ぶ姿勢と自習が求められる。レポートの場合はコメント等によりフィードバックを行う。質問は随時対応し、Microsoft Teams/Formsの諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

オリエンテーション時に配布される担当教員のゼミナール紹介を熟読の上、自分の所属を決定すること。「専門演習 A」に所属した教員が後期の「専門演習 B」を担当する。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数11回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	0%	0%	100%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
担当教員が提示した課題についての情報獲得ツールを駆使できる	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができ、さらに、自分の学習課題として昇算できる。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができる。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示できる。	提示された課題についてネット検索を行い、資料を具体的に検索できる。	左記の内容が何一つできていない。
論文・レポート執筆のためのスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見でき、それを論文に構成できるスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見できる。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆できる。	具体的なレポート執筆ができる。	左記の内容が何一つできていない。
自分の研究テーマを明確に発表でき、他者の研究を尊重できる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができ、且つ、他者の意見と研究を尊重しながら、双方向の向上ができるような議論ができる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができる。	自分の研究テーマを明確に説明できる。	左記の内容が何一つできていない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM133145, SEM433086, SEM533093)				
授業担当者(所属・職名)	宮崎 剛司(社会福祉学科・講師)	研究室等所在	1号館2階専任講師室		
単位数	1 (単位認定責任者: 宮崎 剛司)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	各教員がそれぞれの専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 担当教員によるガイダンス	所属研究室選択資料の確認(45分)	配布資料の確認(45分)
2	担当教員による授業1	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
3	担当教員による授業2	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
4	担当教員による授業3	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
5	担当教員による授業4	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
6	担当教員による授業5	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
7	担当教員による授業6	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
8	担当教員による授業7	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
9	担当教員による授業8	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
10	担当教員による授業9	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
11	担当教員による授業10	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
12	担当教員による授業11	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
13	担当教員による授業12	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
14	担当教員による授業13	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
15	担当教員による授業14	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
16	総括	予習課題(45分)	全体振り返り(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM133145, SEM433086, SEM533093)				
授業担当者(所属・職名)	蝦名 美穂(社会福祉学科・専任講師)		研究室等所在	未定	
単位数	1	(単位認定責任者: 蝦名 美穂)	CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	臨床心理士・公認心理師の資格を持ち、教育領域、福祉領域、司法・矯正領域、産業領域での臨床経験を踏まえて講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標
------

臨床心理学を中心に、社会科学の方法論を、文献研究、フィールドワーク、ディスカッションなどの教授方法を使用し獲得する。

授業の位置づけ
---------

社会福祉学部のDP(1)、(2)、(3)、(4)、(5)に対応する。

到達目標
------

・自分の方向性をみつけ、自ら解決できる能力を身につける。  
 ・自分の方向性をみつけ、自ら解決できる能力を身につける。  
 ・研究テーマに沿った論文執筆に必要なスキルを身につける。  
 ・研究テーマに沿った論文執筆に必要なスキルを身につける。  
 ・自分の研究テーマをプレゼン形式で発表するスキルと学友の発表を傾聴し、的確な質問をするスキルを身につける。  
 ・自分の研究テーマをプレゼン形式で発表するスキル

授業全体の内容と概要
------------

それぞれのゼミナール担当教員が提示する「専門テーマ」に沿った形で進められる。「SDG4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法
-------

講義・ゼミナール・見学・調査・発表等さまざまな形態が取られる。したがって、大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。質問は随時対応し、レポートの場合はコメント等によりフィードバックを行う。Microsoft Teams/Formsの議機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法
-----------------

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
----------

オリエンテーション次に配布される担当教員のゼミナール紹介を熟読の上、自分の所属を決定すること。「専門演習 A」に所属した教員が後期の「専門演習 B」を担当する。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)
---------------

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目
--------

評価方法・基準

評価前提条件
--------

単位認定に必要な出席回数10回以上。

評価方法
------

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	0%	0%	100%

ルーブリック
--------

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
提示した課題について情報獲得ツールを駆使できる	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができ、さらに自分の学習課題として昇華できる。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができる。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示できる。	提示された課題についてネット検索を行い、資料を具体的に検索できる。	左記の内容が何一つできていない。
論文・レポート執筆のためのスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこからさらに研究課題を発見でき、それを論文に構成できるスキルを獲得する。	論文・レポート執筆スキルを獲得し、その方法に沿って、レポート執筆でき、さらに研キョ課題を発見できる。	論文・レポート執筆スキルを獲得し、その方法に沿って、レポート執筆できる。	具体木なレポートを執筆できる。	左記の内容が何一つできていない。
自分の研究テーマを明確に発表でき、他者の研究を尊重できる。	自分の研究テーマについてプレゼンを行い、他の学生を納得させることができ、それについてディスカッションができ、且つ、他者の意見と研究を尊重しながら、双方向の向上ができるような議論ができる。	自分の研究テーマについてプレゼンを行い、他の学生を納得させることができ、それについてディスカッションができる。	自分の研究テーマについてプレゼンを行い、他の学生を納得させることができる。	自分の研究テーマを明確に説明できる。	左記の内容が何一つできていない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM133145, SEM433086, SEM533093)				
授業担当者(所属・職名)	蝦名 美穂(社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	未定		
単位数	1 (単位認定責任者: 蝦名 美穂)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	臨床心理士・公認心理師の資格を持ち、教育領域、福祉領域、司法・矯正領域、産業領域での臨床経験を踏まえて講義を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 担当教員によるガイ	所属研究室選択資料の確認(45分)	配布資料の確認(45分)
2	担当教員による授業1	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
3	担当教員による授業2	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
4	担当教員による授業3	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
5	担当教員による授業4	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
6	担当教員による授業5	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
7	担当教員による授業6	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
8	担当教員による授業7	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
9	担当教員による授業8	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
10	担当教員による授業9	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
11	担当教員による授業10	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
12	担当教員による授業11	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
13	担当教員による授業12	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
14	担当教員による授業13	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
15	担当教員による授業14	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
16	総括	予習課題(45分)	全体振り返り(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	図学(建築図学を含む) (科目ナンバリング: APT321033)				
授業担当者(所属・職名)	長森 正(建築学科・教授)	研究室等所在	アトリエ棟 1階		
単位数	2 (単位認定責任者: 長森 正)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	1級土木施工管理技士・測量士・コンクリート技士として建設会社に勤務。実務経験をもとに講義します。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

今はコンピュータグラフィクスで立体を簡単に表現できるが、歴史的には、次元を 次元平面に如何に工夫して科学的に表現するかに苦心してきた。専門の建築に関する製図につながる図学の基本理解を、理論のみならず作図作業を経験することでより良く理解することができる。

授業の位置づけ

建築学科のDP(1)、(2)に対応する。

到達目標

図学を学習することで、2次元の図から3次元をイメージすることができる。

授業全体の内容と概要

毎回教室で作図し提出する。講義が進むにつれて平面から立体化する方法も取り入れて講義する。

授業の方法

教科書の作図例に沿って解説しながら講義する。授業はプロジェクター等を利用して作図を説明しながら実施する。積み重ねが重要な科目であるので出席を特に重視し、授業毎に簡単な作図作業を課す。フィードバックとして作図の解説を行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

講義中に簡単な作図作業があるので、必要な製図器具持参のこと。不足の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

建築士試験受験資格課程選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は11回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	70%	0%	0%	0%	30%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
図形幾何学の基礎	空間の点・線・平面図形の位置関係が理解でき、三角定規・コンパスを用いて応用的な作図ができた。	空間の点・線・平面図形の位置関係が理解でき、三角定規・コンパスを用いて作図ができた。	空間の点・線・平面図形の位置関係が理解でき、基本的な作図ができた。	空間の点・線・平面図形の位置関係が理解できた。	空間の点・線・平面図形の位置関係が理解できなかった。
投象法の基礎	図形の投象法を十分理解し、応用的な作図ができ、他の人に説明できた。	図形の投象法を十分理解し、応用的な作図ができた。	基本的な図形の投象法を理解でき、他人に説明ができた。	基本的な図形の投象法を理解できた。	基本的な図形の投象法を理解できなかった。
透視図の基礎	立体の透視投象の種類を十分理解し、応用的な作図ができ、他の人に説明できた。	立体の透視投象の種類を十分理解して作図ができた。	立体の基本的な透視投象を理解して作図ができ、他人に説明できた。	立体の基本的な透視投象を理解して作図ができた。	立体の基本的な透視投象を理解して作図できなかった。



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	図学(建築図学を含む) (科目ナンバリング: APT321033)				
授業担当者(所属・職名)	長森 正(建築学科・教授)	研究室等所在	アトリエ棟1階		
単位数	2 (単位認定責任者: 長森 正)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	1級土木施工管理技士・測量士・コンクリート技士として建設会社に勤務。実務経験をもとに講義します。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『規準課程 図学』	井上 智・井畑孝夫他	共立出版			
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスの説明 図学の基本	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する(90分)	シラバス内容を理解し復習する(90分)
2	平面幾何演習・作図基礎	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	演習問題を理解し復習する(90分)
3	正投影 (1)点	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	演習問題を理解し復習する(90分)
4	正投影 (2)線	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	演習問題を理解し復習する(90分)
5	正投影 (3)跡点	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	演習問題を理解し復習する(90分)
6	立体の相貫	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	演習問題を理解し復習する(90分)
7	三角錐と三角柱の相貫	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	演習問題を理解し復習する(90分)
8	陰影(1)	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	演習問題を理解し復習する(90分)
9	陰影(2)	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	演習問題を理解し復習する(90分)
10	標高投影	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	演習問題を理解し復習する(90分)
11	軸測投影	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	演習問題を理解し復習する(90分)
12	斜投影	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	演習問題を理解し復習する(90分)
13	透視図 その1	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	演習問題を理解し復習する(90分)
14	透視図 その2	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	演習問題を理解し復習する(90分)
15	透視図 その3	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	演習問題を理解し復習する(90分)
16	授業改善アンケートの実施 まとめ 最終回において解説しフィードバックします。	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容全体について資料を整理して、復習する(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ビジネス創造論 (科目ナンバリング: MAN422015, MAN522017)				
授業担当者(所属・職名)	阿部 裕樹(経営学科・非常勤講師)		研究室等所在	1号館1階 非常勤講師室	
単位数	2 (単位認定責任者: 阿部 裕樹)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	現役の経営コンサルタントとしての実務経験を活かし、起業・創業において、ビジネスに成功するための事業計画の策定方法について実例を挙げて解説する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。				

概要

履修目標
本講義では社会にとっての起業・創業の意義、並びにアントレプレナーシップ(起業家精神)について理解する。起業して成功することは簡単ではないが、アイデアとビジネスモデルがあり、それを適切にマネジメントすることで、飛躍的に成長できる可能性があることを理解する。

授業の位置づけ
経営学科のDP(1)(2)に対応する。

到達目標
授業を通して「起業・創業の面白さ」を感じ取るとともに、アントレプレナーシップとはどのようなことをイメージし、合わせて実際の事業化にあたって必要な経営スキル等の要素について理解する。

授業全体の内容と概要
アントレプレナーシップ(起業家精神)とは何かということ、起業・創業で成功した事例を紹介することで理解する。また、スタートアップから企業が成長する段階で超えなければいけないハードル、資金調達、チームづくり、リスクマネジメント、知的財産の管理等の理論を学ぶことで起業・創業に必要な知識を習得する。また、起業時のビジネスプランのつくり方にも触れていきたい。

授業の方法
授業はパワーポイント及び配布資料で実施し、資料にて説明をして基礎理論を習得したあと、事例を動画で視聴することで、より具体的な理解を深めることができるようにする。レポートを課すことで本授業のなかで感じたこと、考えたことを改めて認識する機会とし、気づきを得てもらいたい。

アクティブラーニングの実施方法																					
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模範授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL															
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業															
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)															

履修上の注意事項
本講座は出席および授業参加度を重視する。出席とは、ノート・筆記用具を持参し講義に臨むことを意味する。授業参加度とは、発言や質問等の積極性を意味し私語、居眠り等の授業妨害行為に関しては欠席扱いとする。レポート提出を1回課し、試験と合わせて最終評価の対象とする。尚、不測の事態の際はオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件												
単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。												
評価方法												
<table border="1"> <thead> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>70%</td> <td>20%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>10%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	70%	20%	0%	0%	10%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
70%	20%	0%	0%	10%	0%							

ルーブリック																													
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>アントレプレナーシップの意義についての理解</td> <td>アントレプレナーシップの社会的意義を様々な側面から説明できた。</td> <td>アントレプレナーシップとは何か、そして成功するために必要な要素について説明できた。</td> <td>アントレプレナーシップとは何かを説明できた。</td> <td>アントレプレナーシップとは何かを理解していた。</td> <td>アントレプレナーシップについて全く理解していなかった。</td> </tr> <tr> <td>事業化に必要な経営スキルの理解</td> <td>事業化に必要な経営スキルについてのあるべき姿をイメージできた。</td> <td>事業化に必要な経営スキルについて、完全に説明することができた。</td> <td>事業化に必要な経営スキルについて、完全に理解していた。</td> <td>事業化に必要な経営スキルについて、部分的に理解していた。</td> <td>事業化に必要な経営スキルについて全く理解していなかった。</td> </tr> <tr> <td>事業計画策定に必要な知識の習得</td> <td>事業計画策定の様々な局面においての有効性を具体的に理解し、策定手順について完全に説明することができた。</td> <td>事業計画の意義について理解し、策定手順について完全に説明することができた。</td> <td>事業計画の意義について理解し、策定手順について完全に理解していた。</td> <td>事業計画の意義について理解し、策定手順について部分的に理解していた。</td> <td>事業計画策定について全く理解していなかった。</td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	アントレプレナーシップの意義についての理解	アントレプレナーシップの社会的意義を様々な側面から説明できた。	アントレプレナーシップとは何か、そして成功するために必要な要素について説明できた。	アントレプレナーシップとは何かを説明できた。	アントレプレナーシップとは何かを理解していた。	アントレプレナーシップについて全く理解していなかった。	事業化に必要な経営スキルの理解	事業化に必要な経営スキルについてのあるべき姿をイメージできた。	事業化に必要な経営スキルについて、完全に説明することができた。	事業化に必要な経営スキルについて、完全に理解していた。	事業化に必要な経営スキルについて、部分的に理解していた。	事業化に必要な経営スキルについて全く理解していなかった。	事業計画策定に必要な知識の習得	事業計画策定の様々な局面においての有効性を具体的に理解し、策定手順について完全に説明することができた。	事業計画の意義について理解し、策定手順について完全に説明することができた。	事業計画の意義について理解し、策定手順について完全に理解していた。	事業計画の意義について理解し、策定手順について部分的に理解していた。	事業計画策定について全く理解していなかった。
評価項目		評価基準																											
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
アントレプレナーシップの意義についての理解	アントレプレナーシップの社会的意義を様々な側面から説明できた。	アントレプレナーシップとは何か、そして成功するために必要な要素について説明できた。	アントレプレナーシップとは何かを説明できた。	アントレプレナーシップとは何かを理解していた。	アントレプレナーシップについて全く理解していなかった。																								
事業化に必要な経営スキルの理解	事業化に必要な経営スキルについてのあるべき姿をイメージできた。	事業化に必要な経営スキルについて、完全に説明することができた。	事業化に必要な経営スキルについて、完全に理解していた。	事業化に必要な経営スキルについて、部分的に理解していた。	事業化に必要な経営スキルについて全く理解していなかった。																								
事業計画策定に必要な知識の習得	事業計画策定の様々な局面においての有効性を具体的に理解し、策定手順について完全に説明することができた。	事業計画の意義について理解し、策定手順について完全に説明することができた。	事業計画の意義について理解し、策定手順について完全に理解していた。	事業計画の意義について理解し、策定手順について部分的に理解していた。	事業計画策定について全く理解していなかった。																								

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ビジネス創造論 (科目ナンバリング: MAN422015, MAN522017)				
授業担当者(所属・職名)	阿部 裕樹 (経営学科・非常勤講師)	研究室等所在	1号館1階 非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 阿部 裕樹)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 現役の経営コンサルタントとしての実務経験を活かし、起業・創業において、ビジネスに成功するための事業計画の策定方法について実例を挙げて解説する。			

教科書・参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバスの説明 本授業における概要とガイダンス 授業改善アンケート結果反映の説明	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(60分)	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。(30分)
2	アントレプレナーシップとは	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(60分)	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。(30分)
3	新しいビジネスの創造	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(60分)	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。(30分)
4	企業の役割と社会的責任	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(60分)	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。(30分)
5	マーケティングと販路開拓	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(60分)	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。(30分)
6	組織づくりと人材育成	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(60分)	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。(30分)
7	資金の調達について	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(60分)	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。(30分)
8	お金の流れを管理する	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(60分)	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。(30分)
9	スタートアップから企業成長段階へ	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(60分)	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。(30分)
10	ソーシャルビジネスの起業	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(60分)	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。(30分)
11	知的財産とベンチャー	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(60分)	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。(30分)
12	起業のリスクマネジメント	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(60分)	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。(30分)
13	ビジネスプランのつくり方	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(60分)	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。(30分)
14	ビジネスモデルについて	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(60分)	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。(30分)
15	本授業におけるまとめ	これまでの授業を振り返り総まとめの復習を行う。(90分)	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。(30分)
16	60分の試験終了後、残りの30分で解説 授業改善アンケートの実施	「本授業におけるまとめ」を活かして試験対策(90分)	試験の出題テーマを振り返り、理解が不足していた箇所を完全に理解しておくこと。(30分)

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	課程必修
科目名称	教職論 (科目ナンバリング: EDU141150, EDU241093, EDU341089, E DU441091, EDU541098)				
授業担当者(所属・職名)	木村 浩紀(社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	未定		
単位数	2 (単位認定責任者: 木村 浩紀)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場や教育行政の経験のある教員がその経験を活かして、学校教育における今日的な課題への対応を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標
教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む)について理解する。

授業の位置づけ
経営学科のDP(2)(4)に対応する。 社会福祉学科のDP(2)(4)(5)に対応する。 デザイン学科のDP(2)(4)に対応する。 建築学科のDP(2)(4)に対応する。

到達目標
教師の役割や責務について、歴史・関係法規・保護者等の視点から考察し、教師の使命と責任並びに求められる教師像を把握するとともに、これから求められる役割について理解することができる。

授業全体の内容と概要
毎回設定するテーマに関して、理論的・体系的に講義するとともに、そのテーマに関する内容について、レポートを作成することで、主体的に学ぶ活動を実施する。 *SDG4「質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法
授業は、パワーポイント等の配布資料で実施し、資料にて説明した後、レポートを作成して提出する。 各回のテーマごとに意見や感想を発表する。

アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td>プレゼンテーション</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>グループワーク</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>フィールドワーク</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td>模範授業</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>ロールプレイ</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>調査学習</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td>ディスカッション</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>実験・実習・実技</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>双方向授業</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL	<input type="checkbox"/>	模範授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業	<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)
<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL																	
<input type="checkbox"/>	模範授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業																	
<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)																	

履修上の注意事項
教職科目であることから、遅刻や欠席をしないように努めること。 不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
---

資格指定科目
教職課程(全教科)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件
単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上。

評価方法												
<table border="1"> <thead> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>50%</td> <td>40%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>10%</td> </tr> </tbody> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	50%	40%	0%	0%	0%	10%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
50%	40%	0%	0%	0%	10%							

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
教職の意義・関連法規と求められる教師像	教職の意義並びに教師の責務に係る知識・技能を積極的に習得し、その内容を的確に説明できた。	教職の意義並びに教師の責務に係る知識・技能を習得し、その内容を説明できた。	教職の意義並びに教師の責務に係る基礎的な知識・技能を習得し、その内容を説明できた。	教職の意義並びに教師の責務に係る基礎的な知識・技能を習得し、その内容を説明できた。	教職の意義並びに教師の責務に係る基礎的な知識・技能を習得し、その内容を説明できなかった。
授業テーマに関するレポートの説明	テーマに基づき、的確な思考力・判断力のもと、論理的な内容で、時間内に記述できた。	テーマに基づき、思考力・判断力を活かした内容で、時間内に記述できた。	テーマに基づき、資料を参考にして、思考力・判断力のもと、時間内に記述できた。	テーマに基づき、資料を参考にして、自分なりの考えで、ほぼ時間内に記述できた。	テーマに基づき、資料を参考にして、自分なりの考えで、時間内に記述できなかった。
授業への参加態度・姿勢	授業に主体的・積極的に参加することができた。	授業に積極的に参加することができた。	授業に関心を持って参加することができた。	授業にほぼ関心を持って参加することができた。	授業に関心を持って参加することができなかった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	課程必修
科目名称	教職論 (科目ナンバリング: EDU141150, EDU241093, EDU341089, E DU441091, EDU541098)				
授業担当者(所属・職名)	木村 浩紀(社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	未定		
単位数	2 (単位認定責任者: 木村 浩紀)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場や教育行政の経験のある教員がその経験を活かして、学校教育における今日の課題への対応を指導する。		

教科書・参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『教職概論』	佐藤晴雄	学陽書房	2022	978-4-313-61146-7	
2						
3						
4						
5						

No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 なぜ教師を目指すのか	授業範囲を予習し、関連する資料の収集に努めること。(90分)	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。(90分)
2	教職の意義	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。(90分)	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。(90分)
3	教職観と理想の教師像	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。(90分)	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。(90分)
4	教師と教員養成の歴史	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。(90分)	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。(90分)
5	教員の任用と勤務(1)	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。(90分)	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。(90分)
6	教員の任用と勤務(2)	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。(90分)	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。(90分)
7	教師の役割と仕事(1)	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。(90分)	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。(90分)
8	教師の役割と仕事(2)	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。(90分)	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。(90分)
9	管理職・主任の役割	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。(90分)	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。(90分)
10	教師の職場環境	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。(90分)	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。(90分)
11	教師の資質向上と研修	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。(90分)	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。(90分)
12	教育実習の意義と心得	次回授業範囲を予習し、関連する資料の収集に努めること。(90分)	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。(90分)
13	教職への進路選択と教員採用選考	次回授業範囲を予習し、関連する資料の収集に努めること。(90分)	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。(90分)
14	面接・模擬授業にどう臨むか	次回授業範囲を予習し、関連する資料の収集に努めること。(90分)	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。(90分)
15	教職概論のまとめ 授業改善アンケートの実施	次回授業範囲を予習し、関連する資料の収集に努めること。(90分)	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。(90分)
16	定期試験(60分)	講義資料等で講義内容を整理する。(90分)	試験の結果を見直す。(90分)

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	人間と哲学 (科目ナンバリング: PHE021017)				
授業担当者(所属・職名)	遠藤 均(経営学科・教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 遠藤 均)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示板などを参照				

概要

履修目標

過去の哲学や具体例を踏まえながら、間接体験(感動)や創造的思索を通して、自他の心の支えとなりうるような確固とした価値観や人生観を形成することができる。また、AIの時代に必要ならたな哲学を探究する。

授業の位置づけ

経営学科のDP(2)、(4)、(5)に対応する。  
 社会福祉学科のDP(2)、(4)、(5)に対応する。  
 デザイン学科のDP(2)、(4)に対応する。  
 建築学科のDP(2)、(3)、(4)に対応する。

到達目標

目標や夢を実現するための人生観を涵養する。  
 自分自身の確固とした価値観や人生観を構築する。

授業全体の内容と概要

過去の哲学や教師自身の考えを紹介するとともに、質疑応答やディベートなどを通して、学生自身がみずからの価値観や人生観を形成していく。そのためには、学生自身がみずから主体的に考え、積極的に授業に参加し、発言することが不可欠である。

授業の方法

講義。対話発表、ディベート、などによるアクティブラーニング。適宜、平常点を付与する。

アクティブラーニングの実施方法

<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL
<input type="checkbox"/>	模擬授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業
<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

講義中はスマホ等の電源を必ずOFFにし、机の上に置かないこと。置いている場合は、講義終了まで預かる。授業に関係のない私語禁止。座席を指定することもありうる。遅刻は一回につき一点減点。居眠り厳禁。レポートの採点基準は、「どれだけ講義の内容を理解し、自分のものになっているか」ということ。自分自身との対話を通し、自分のことばで語る事が重要。講義で扱っていない内容や自分の考えばかりを書いても合格点に達することはできない。コピーは10%単位認定されない。最後に、全体的感想や自分の意見を付け加えるとよりよい。レポートは、原稿用紙換算5枚以上(2千字以上)、文字数を明記する。書式は問わない。公欠や特別な事由で欠席した場合、課題を提出しなければ、授業回数に反映されないことに留意。最終レポートの提出期限は、第13回の講義当日。一日遅れるごとに1点減点となる。学務課に成績票を提出した後は受領できない。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、12回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	42%	0%	0%	10%	48%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
レポート	講義の内容を十分に理解し、みずからの人生観や生き方に十分役立った。	講義の内容をかなり理解し、みずからの人生観や生き方にかなり役立った。	講義の内容を理解し、みずからの人生観や生き方に役立った。	講義の内容をほぼ理解し、みずからの人生観や生き方にほぼ役立った。	講義の内容を理解しておらず、みずからの人生観や生き方に役立っていなかった。
発表	10回以上発表した。	7回以上発表した。	5回以上発表した。	3回以上発表した。	0-2回しか発表していなかった。
ディベートとグループワーク	デーベとグループワークで活発に発言した。	デーベとグループワークでかなり発言した。	デーベとグループワークでそれなりに発言した。	デーベとグループワークであまり発言していなかった。	デーベとグループワークで発言していなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	人間と哲学 (科目ナンバリング: PHE021017)				
授業担当者(所属・職名)	遠藤 均(経営学科・教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 遠藤 均)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス, シラバスの説明 授業改善アンケート結果を反映の説明 夢をかなえ目標を達成する考え方 1 序論	シラバスを読む(90分)	第1回講義の復習(90分)
2	夢をかなえ目標を達成する考え方 2 目標力, 目標の優先順位	第1回講義の復習と第2回講義の予習(90分)	第2回講義の復習(90分)
3	夢をかなえ目標を達成する考え方 3 動機が肝心, 三つの動機づけ理論	第2回講義の復習と第3回講義の予習(90分)	第3回講義の復習(90分)
4	夢をかなえ目標を達成する考え方 4 二重構造の目標をもつ, 人生という名の山頂を目指す	第3回講義の復習と第4回講義の予習(90分)	第4回講義の復習(90分)
5	夢をかなえ目標を達成する考え方 5 自信は夢や目標達成の必要条件, 可能性を大きく左右するマインドセット	第4回講義の復習と第5回講義の予習(90分)	第5回講義の復習(90分)
6	夢をかなえ目標を達成する考え方 6 可能性に対する無条件の信頼, 不安力, 心の頭蓋をふりはらう	第5回講義の復習と第6回講義の予習(90分)	第6回講義の復習(90分)
7	夢をかなえ目標を達成する考え方 7 勇気は夢を実現させるための要件, フラットという名の高い壁	第6回講義の復習と第7回講義の予習(90分)	第7回講義の復習(90分)
8	夢をかなえ目標を達成する考え方 8 なぜ山に登るのか 苦しみは子ね自身のうちに救いをもっている	第7回講義の復習と第8回講義の予習(90分)	第8回講義の復習(90分)
9	夢をかなえ目標を達成する考え方 9 愛は苦しみを喜びに変える, 気分コントロール, 挫折の条件	第8回講義の復習と第9回講義の予習(90分)	第9回講義の復習(90分)
10	夢をかなえ目標を達成する考え方 10 痛みや悔しさを飛躍のバネにする, 結果がプロセスか	第9回講義の復習と第10回講義の予習(90分)	第10回講義の復習(90分)
11	夢をかなえ目標を達成する考え方 11 人生はすべてプロセス 「勝つことよりも大事なことがある」	第10回講義の復習と第11回講義の予習(90分)	第11回講義の復習(90分)
12	夢をかなえ目標を達成する考え方 12 人生を輝かせるために 「満足した豚」と「不満足な人間」	第11回講義の復習と第12回講義の予習(90分)	第12回講義の復習(90分)
13	夢をかなえ目標を達成する考え方 13 初心忘るべからず 「楽なことはよいことだ」という価値観の落とし穴	第12回講義の復習と第13回講義の予習(90分)	第13回講義の復習(90分)
14	夢をかなえ目標を達成する考え方 14 今に生きる, 大舞台で輝くために, サボるわけ, 進歩のヒント	第13回講義の復習と第14回講義の予習(90分)	第14回講義の復習(90分)
15	夢をかなえ目標を達成する考え方 15 コツはひとつ, 楽しくやること 「やるべきこと」から「やりたいこと」へ	第14回講義の復習と第15回講義の予習(90分)	第15回講義の復習(90分)
16	課題(レポート)に対するフィードバック 授業改善アンケートの実施	第15回講義の復習と第16回講義の予習(90分)	第16回講義の復習(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学年・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: BAS001003)				
授業担当者(所属・職名)	竹内 美帆(デザイン学科・専任講師)	研究室等所在	未定		
単位数	1 (単位認定責任者: 竹内 美帆)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示板等を参照				

概要

履修目標

マンガ、アニメを中心としたポピュラーカルチャーに関する様々な現象、表現、歴史を考えることを通じて、大学での学修に必要な基礎的な知識や表現技術・方法を実践的な演習によって学ぶ。

授業の位置づけ

経営学科のD Pの(1)(2)(4)に対応する。  
 社会福祉学科のD Pの(1)(2)(3)(4)に対応する。  
 デザイン学科のD Pの(1)(2)(5)に対応する。  
 建築学科のD Pの(1)(3)(5)に対応する。

到達目標

マンガを中心とした表現の特性や、専門用語などの知識を身に付け理解する。  
 文献や資料を考察するための基礎能力を身につける。  
 ディスカッションや発表などを通して、大学で学ぶための基礎的な学力(プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力など)を身につける。

授業全体の内容と概要

マンガを中心としたトピックについての講義やグループワーク、ディスカッションを行い、作品の読解の仕方、文献調査の方法や発表資料の作り方などを学ぶ。後半では、各自でマンガやアニメ、ゲームなどのポピュラーカルチャーについて調査分析を行い、発表・ディスカッションを行う。

授業の方法

授業ではパワーポイントや配布資料のほか、DVDなどの視聴覚メディアなどを用い、講義形式だけでなく、グループワークやディスカッション、プレゼンテーションなどを行う。  
 授業で使用する資料はTeams等の学習支援システムを活用して配布、回収するほか、学生の不明点・質問は、チャット形式などの支援システムで迅速に回答する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模範授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

自ら行う資料調査では、図書館などの機関を積極的に利用すること、個人発表では、自ら行った調査について短い時間でプレゼンテーションを行う。授業内でグループワークやディスカッションなどを行うので、積極的に参加すること。  
 授業の内容は、集まった参加者の興味・関心等に合わせ適宜変更する可能性がある。  
 不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	30%	30%	0%	40%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
授業内容の理解	授業で得た用語や概念の理解を通して、社会や文化に対する深い洞察力をもって自分独自のテーマを考察できた。	授業で得た用語や概念の理解を通して、自分独自のテーマを考察できた。	授業で得た用語や概念の理解を通して、授業で示された範囲のテーマを考察できた。	授業で得た用語や概念が理解できた。	授業内で使われた用語や概念の理解が不十分だった。
文献や資料の調査・活用	授業で取り上げた資料を越えて、独自性のある調査ができた。	授業で取り上げた資料を越えて、必要な調査ができた。	授業で取り上げた資料を理解し活用できた。	授業で取り上げた資料を理解できた。	授業で取り上げた資料の理解・活用が不十分だった。
表現力(プレゼンテーション能力とコミュニケーション能力)	授業で学んだことを超えて、自分の視点について他者に伝わりやすく述べ、他者と積極的にコミュニケーションをとることができた。	授業で学んだことを生かして、自分の視点について述べて、積極的にコミュニケーションをとることができた。	授業で学んだことを生かして、自分の意見を述べることができた。	促されれば自分の意見や考えを述べることができた。	授業内で自分の意見を述べられなかった。



基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学年・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: BAS001003)				
授業担当者(所属・職名)	竹内 美帆(デザイン学科・専任講師)	研究室等所在	未定		
単位数	1 (単位認定責任者: 竹内 美帆)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 オリエンテーション 自己紹介など	シラバスを読んでおく(45分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(45分)
2	学内施設・システムの活用方法(1) 文献調査の方法	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく(45分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(45分)
3	学内施設・システムの活用方法(2) 図書館の活用方法	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく(45分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(45分)
4	マンガの特徴について考える(1)メディア	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく(45分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(45分)
5	マンガの特徴について考える(2) 表現 ジャンル	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく(45分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(45分)
6	マンガの特徴について考える(3) アニメーションとの比較	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく(45分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(45分)
7	読解の仕方、調査・発表資料の作り方を学ぶ(1) マンガ作品の分析	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく(45分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(45分)
8	読解の仕方、調査・発表資料の作り方を学ぶ(2) プレゼンテーションの方法	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく(45分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(45分)
9	読解の仕方、調査・発表資料の作り方を学ぶ(1) 資料のまとめ方	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく(45分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(45分)
10	個人発表(1)	個人発表の準備をする(45分)	個人発表の振り返りをする(45分)
11	個人発表(2)	個人発表の準備をする(45分)	個人発表の振り返りをする(45分)
12	個人発表(3)	個人発表の準備をする(45分)	個人発表の振り返りをする(45分)
13	個人発表(4)	個人発表の準備をする(45分)	個人発表の振り返りをする(45分)
14	レポートの書き方について	レポート作成の準備をする(45分)	レポートを作成する(45分)
15	まとめ	これまでの授業を振り返り、疑問点等を挙げておく(45分)	授業内容を復習する(45分)
16	期末レポートの解説 フィードバック 授業改善アンケート実施	これまでの授業を振り返り、疑問点等を挙げておく(45分)	授業内容を復習する(45分)

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナル A (科目ナンバリング: BAS001003)				
授業担当者(所属・職名)	後藤 啓倫 (社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	1号館4階		
単位数	1 (単位認定責任者: 後藤 啓倫)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示板などを参照				

概要

<b>履修目標</b>
大学での学習の基礎になる、文献の読み方、発表の仕方、議論の仕方、レポートの書き方等の技能を修得する。

<b>授業の位置づけ</b>
経営学科のDP(2)(3)(4)に対応する。 社会福祉学科のDP(2)(3)(4)(5)に対応する。 デザイン学科のDP(2)(3)(4)に対応する。 建築学科のDP(2)(3)(4)に対応する。

<b>到達目標</b>
自主的に学び、情報収集・分析し、課題解決のための方策を他者と協力しつつ考える能力を身につける。 自分で調べ構想したことを、レジュメやパワーポイントを使用して効果的に発表できる。 学習の基礎となる読解力や要約力、文章構成力や論理的思考力を身につける。

<b>授業全体の内容と概要</b>
講義の受け方・レポート作成方法といった学習のためのスキル、自発的に問題を発見し解決する力といった、大学生としてふさわしい能力や姿勢を修得するために、このゼミナルでは、学生自身によるテキストの読解、内容の報告、参加者による討論、レポートの作成を行う。

<b>授業の方法</b>
授業は次のように進める。 報告者はテキストの内容要約と議論すべきポイントに関するプレゼンテーションを行う。 司会役の進行の下、報告者のプレゼン内容について参加者全員で討論をする。 担当教員による講評を行う。 レポート作成に向けた準備を進める。 レポート作成に向けた準備を進める。 輪読するテキストは、社会福祉と政治・行政に関する文献のなかから受講生と相談の上で決める。 Teamsを活用し授業資料の配布、質問の受付・回答を行う。

<b>アクティブラーニングの実施方法</b>																					
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模範授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL															
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業															
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)															

<b>履修上の注意事項</b>
毎回出席することが前提となるが、やむを得ず欠席する場合には、担当教員に必ず事前連絡すること。無断欠席は厳禁。 自主的な参加が求められるので、テキストは必ず事前に読んでおくこと。 不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する可能性がある。

<b>修学サポート(合理的配慮)</b>
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

<b>資格指定科目</b>

評価方法・基準

<b>評価前提条件</b>
単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。

<b>評価方法</b>												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>50%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>50%</td> <td>0%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	50%	0%	0%	50%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	50%	0%	0%	50%	0%							

<b>ルーブリック</b>					
	<b>評価基準</b>				
<b>評価項目</b>	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
自分で調べ構想したことをレジュメやパワーポイントを使用して効果的に発表したりできた。	プレゼンテーション等において、問題の核心をよく理解し、的確にまとめたり発表したりできた。	プレゼンテーション等において、問題の核心をよく理解し、まとめたり発表したりできた。	プレゼンテーション等において、問題の核心を理解し、まとめたり発表したりできた。	プレゼンテーション等において、部分的に問題の核心を理解し、まとめたり発表したりできた。	プレゼンテーション等において、問題の核心を理解し、まとめたり発表したりできなかった。
学習の基礎となる読解力や要約力、文章構成力や論理的思考力を身につける。	独自の着眼点で設定されたテーマに基づいてレポートが作成された。	工夫を凝らして設定されたテーマに基づいてレポートが作成された。	テーマ設定ができたレポートが作成された。	テーマ設定が概ねできたレポートが作成された。	レポートの提出がなされなかった。
自主的に学び、情報収集・分析し、課題解決のための方策を他者と協力しつつ考える能力を身につける。	積極的に討論に参加し、リダクションを発揮できた。	他者に協力しながら積極的に討論に参加することができた。	積極的に討論に参加することができた。	討論に参加することができた。	討論に参加することができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナル A (科目ナンバリング: BAS001003)				
授業担当者(所属・職名)	後藤 啓倫 (社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	1号館4階		
単位数	1 (単位認定責任者: 後藤 啓倫)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						相談の上決定。
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						適宜指示する。
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明、自己紹介、テキストの決定	シラバスを読む。(45分)	議論内容の整理(45分)
2	テキストの内容報告と討論(1)	テキストの熟読(45分)	議論内容の整理(45分)
3	テキストの内容報告と討論(2)	テキストの熟読(45分)	議論内容の整理(45分)
4	テキストの内容報告と討論(3)	テキストの熟読(45分)	議論内容の整理(45分)
5	テキストの内容報告と討論(4)	テキストの熟読(45分)	議論内容の整理(45分)
6	テキストの内容報告と討論(5)	テキストの熟読(45分)	議論内容の整理(45分)
7	テキストの内容報告と討論(6)	テキストの熟読(45分)	議論内容の整理(45分)
8	テキストの内容報告と討論(7)	テキストの熟読(45分)	議論内容の整理(45分)
9	テキストの内容報告と討論(8)	テキストの熟読(45分)	議論内容の整理(45分)
10	テキストの内容報告と討論(9)	テキストの熟読(45分)	議論内容の整理(45分)
11	テキストの内容報告と討論(10)	テキストの熟読(45分)	議論内容の整理(45分)
12	テキストの内容報告と討論(11)	テキストの熟読(45分)	議論内容の整理(45分)
13	レポートの進捗状況の報告(1)	関連資料の収集(45分)	議論内容の整理(45分)
14	レポートの進捗状況の報告(2)	関連資料の収集(45分)	議論内容の整理(45分)
15	レポート作成(1)	レポート(課題)の準備(45分)	レポート(課題)の準備(45分)
16	レポート作成(2)	レポート(課題)の準備(45分)	レポート(課題)の仕上げ(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: BAS001003)				
授業担当者(所属・職名)	戸佐 晃一(経営学科・特任教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 戸佐 晃一)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照				

概要

履修目標

本授業では、人体のしくみや働きについて理解を深め、体力・形態測定を実施することで自己の体力を把握し足りない体力の強化に向けて、様々なトレーニング方法の基本的な理論と実践方法について学習する。また、生涯にわたって運動習慣を継続することで高齢になっても健康で長寿であることを目的とする。

授業の位置づけ

経営学科のDP(2)(4)(5)に対応する。  
 社会福祉学科のDP(2)(4)(5)に対応する。  
 デザイン学科のDP(2)(3)(4)に対応する。  
 建築学科のDP(2)(3)(4)に対応する。

到達目標

各自、無理のない体力目標を設定し、様々なトレーニング方法の基本を理解し実践できることを目標とする。  
 生涯を通じて定期的に運動する習慣を養う。

授業全体の内容と概要

体力測定、形態測定により自分の体の状態を知る。  
 様々な種類のトレーニングに関する基本理論を学び、正しいトレーニングの方法を学習する。

授業の方法

教室、体育館を中心に授業を行う。DVDなど動画を参考に基本的なトレーニングを実践することで、互いが課題の発見や指摘をし合い、ディスカッションを通して正しい技術を習得できるように進めていく。レポートなどの解説のフィードバックを実施する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

競技経験があり体力があること。遅刻は2回につき1回欠席とする。運動着、飲料水、上靴、タオルの用意。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、大学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、13回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	30%	30%	0%	40%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
人体のしくみや働きの理解	人体のしくみや働きを良く理解している	人体のしくみや働きをほぼ理解している	人体のしくみや働きをある程度理解している	人体のしくみや働きを理解している	人体のしくみや働きを理解していない
トレーニングの理解	トレーニングの原理、原則を良く理解している	トレーニングの原理、原則をほぼ理解している	トレーニングの原理、原則をある程度理解している	トレーニングの原理、原則を理解している	トレーニングの原理、原則を理解していない
トレーニングの種類	トレーニングの種類を良く理解している	トレーニングの種類をほぼ理解している	トレーニングの種類をある程度理解している	トレーニングの種類を理解している	トレーニングの種類を理解していない

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナル A (科目ナンバリング: BAS001003)				
授業担当者(所属・職名)	戸佐 晃一(経営学科・特任教授)		研究室等所在	1号館2階	
単位数	1 (単位認定責任者: 戸佐 晃一)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明	事前にシラバスを読んで確認しておく(45分)	ガイダンス内容を理解しておく(45分)
2	人体のしくみと働きを理解	人体のしくみと働きを確認しておく(45分)	人体のしくみと働きを理解しておく(45分)
3	人体のしくみと働きを理解	人体のしくみと働きを確認しておく(45分)	人体のしくみと働きを理解しておく(45分)
4	人体のしくみと働きを理解	人体のしくみと働きを確認しておく(45分)	人体のしくみと働きを理解しておく(45分)
5	人体のしくみと働きを理解	人体のしくみと働きを確認しておく(45分)	人体のしくみと働きを理解しておく(45分)
6	人体のしくみと働きを理解	人体のしくみと働きを確認しておく(45分)	人体のしくみと働きを理解しておく(45分)
7	体力測定	体力測定種目の確認をしておく(45分)	体力測定の結果を理解しておく(45分)
8	形態測定	形態測定種目の確認をしておく(45分)	形態測定の結果を理解しておく(45分)
9	トレーニングの理解	トレーニングの原理・原則を確認しておく(45分)	トレーニングの原理・原則を理解しておく(45分)
10	トレーニングの理解	トレーニングの原理・原則を確認しておく(45分)	トレーニングの原理・原則を理解しておく(45分)
11	トレーニングの理解	トレーニングの原理・原則を確認しておく(45分)	トレーニングの原理・原則を理解しておく(45分)
12	トレーニングの種類	トレーニングの種類を確認しておく(45分)	トレーニングの種類を理解しておく(45分)
13	トレーニングの種類	トレーニングの種類を確認しておく(45分)	トレーニングの種類を理解しておく(45分)
14	トレーニングの種類	トレーニングの種類を確認しておく(45分)	トレーニングの種類を理解しておく(45分)
15	まとめ 授業改善アンケート結果反映の説明	基本的なトレーニングを確認しておく(45分)	学習内容を復習し理解しておく(45分)
16	フィードバック	授業内容を振り返り確認しておく(45分)	学習内容を復習し理解しておく(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: BAS001003)				
授業担当者(所属・職名)	米野 宏(経営学科・准教授)		研究室等所在	1号館3階	
単位数	1	(単位認定責任者: 米野 宏)	CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	教育機関における体育・健康・スポーツ関係の授業経験を活かし、学生の教養の基礎を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標
------

大学での勉強を進めるにあたり、必要となる文章読解力のほか、コミュニケーション能力、ディスカッション能力、プレゼンテーション能力の向上をはかる。

授業の位置づけ

経営学科のDP(2)(4)(5)に対応する。  
 社会福祉学科のDP(2)(4)(5)に対応する。  
 デザイン学科のDP(2)(4)に対応する。  
 建築学科のDP(2)(4)に対応する。

到達目標

自分でテーマを設定し、文章にまとめることができる。  
 グループ内でのコミュニケーションを図ることができ、リーダーシップを発揮できる。  
 テーマに基づきプレゼンテーションをすることができる。

授業全体の内容と概要

授業の前半は、小論文・レポートを作成し発表する。また、発表に対して討議したり、ディスカッションを行う。  
 後半は、特定のテーマでプレゼンテーションを行い、質疑応答やディスカッションも行う。  
 入前で話すための準備をし、解り易く、興味深い内容を考える。

授業の方法

小論文、レポートの書き方については、板書または資料にて説明する。提出されたレポートについては、添削及び内容の評価とともにフィードバックする。  
 グループディスカッションやプレゼンテーションの題材として、新聞やインターネットによるニュース等を提供しながら実施する。プレゼンテーションの方法については、授業のなかで学びとともに説明する。

アクティブラーニングの実施方法

<input type="radio"/>	プレゼンテーション	<input type="radio"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL
<input type="checkbox"/>	模範授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業
<input type="radio"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

20分以上の遅刻は、欠席扱いとする。  
 対話する機会が多いので、積極的な発言や能動的な授業態度で臨むこと。  
 不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、13回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	10%	10%	0%	70%	10%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
コミュニケーション能力	仲間とのコミュニケーションを図る方法がととても巧みにおこなえた。	仲間とコミュニケーションを図ることが比較的巧みできた。	仲間とコミュニケーションを図ることが普通にできた。	仲間とコミュニケーションを図ることが上手ではないが努力した。	仲間とコミュニケーションを図ることがとても苦手であった。
ディスカッション能力	討議の中で、対話を巧みにでき、リーダーシップも取られた。	討議の中で、対話を巧みにでき、リーダーシップも取れず取れた。	討議の中で、対話を巧みにできたが、リーダーシップをとるまではいかなかった。	討議の中で、対話をするのが普通にできた。	討議の中で、対話することが苦手で、ほとんど受け身であった。
プレゼンテーション能力	パワーポイント等を巧みに使い、解り易く、興味深い内容でプレゼンテーションを行った。	パワーポイント等を使い、比較的解り易く、興味深い内容でプレゼンテーションを行った。	パワーポイント等を使い、解り易くプレゼンテーションを行った。	パワーポイント等を使い、プレゼンテーションを行ったが、多少伝わらなかった。	プレゼンテーションの準備がほとんどできていなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: BAS001003)				
授業担当者(所属・職名)	米野 宏 (経営学科・准教授)		研究室等所在	1号館3階	
単位数	1 (単位認定責任者: 米野 宏)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	教育機関における体育・健康・スポーツ関係の授業経験を活かし、学生の教養の基礎を指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス(シラバスの説明)	事前にシラバスを読んで確認する。(45分)	注意事項を確認する。(45分)
2	レポートの作成(スポーツと私)	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
3	発表と意見交換 1	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
4	発表と意見交換 2	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
5	発表と意見交換 3	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
6	ニューススポーツを考える(屋外競技)	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
7	ニューススポーツを考える(屋内競技)	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
8	プレゼンテーションの準備 1(グループに分かれて)	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
9	プレゼンテーションの準備 2(グループに分かれて)	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
10	プレゼンテーション(屋外競技) 1	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
11	プレゼンテーション(屋外競技) 2	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
12	プレゼンテーション(屋外競技) 3	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
13	プレゼンテーション(屋内競技) 1	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
14	プレゼンテーション(屋内競技) 2	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
15	プレゼンテーション(屋内競技) 3	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
16	ふりかえり	ノートに記載された内容を再度確認する。(45分)	評価等の内容を確認する。(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: BAS001003)				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 和裕 (経営学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 佐藤 和裕)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、将来に向け健康で豊かな生活を営んでいくための基礎を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標	競技スポーツ及び、健康のための基礎的トレーニングを学び、個人に必要なトレーニングを自ら実践出来るようにする。また、学生と教員双方の人間関係を構築しコミュニケーション能力を高め、併せて快適な学生生活及び基本的な生活習慣を身につける。
授業の位置づけ	経営学科のDP(2)(4)(5)に対応する。 社会福祉学科のDP(2)(4)(5)に対応する。 デザイン学科のDP(2)(4)に対応する。 建築学科のDP(2)(4)に対応する。
到達目標	競技及び個人の特性を理解し、自らの競技スポーツや健康に一層深い関心を持って、安全にトレーニングすることができる。

到達目標	競技及び個人の特性を理解し、自らの競技スポーツや健康に一層深い関心を持って、安全にトレーニングすることができる。
------	--

到達目標	競技及び個人の特性を理解し、自らの競技スポーツや健康に一層深い関心を持って、安全にトレーニングすることができる。
------	--

授業全体の内容と概要	競技スポーツ又は、健康のために必要な基礎的トレーニングを実践し、自らの競技力向上と健康の保持増進のために必要なトレーニングを見つけ出し実践する。 「SDG4:質の高い教育をみんなに」
授業の方法	授業は配布資料で実施し、トレーニングなどのDVDも活用しながら講義形式で行う。授業によってはグループワークで思考・考察・発表を行い学習していく。レポートにはコメントにてフィードバックする。さらに、実技に関しては基礎的なトレーニングの特性を理解し学習したことを実際に怪我に注意を払いながら実施していく。

アクティブラーニングの実施方法	<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>○</td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>○</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>○</td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL																
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																
ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)																

履修上の注意事項	ラグビー部に所属の学生を対象とする。基本的にジャージや屋内運動靴を必ず用意する。注意事項の詳細はガイダンスで指示する。健康上の理由で医師から運動を停止されている者は、申し出の上指示を受けること。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。
----------	--

修学サポート(合理的配慮)	事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
---------------	---

資格指定科目	
--------	--

評価方法・基準

評価前提条件	単位認定に必要な最低出席回数は、13回以上。												
評価方法	<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>30%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>50%</td> <td>20%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	30%	0%	0%	50%	20%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他								
0%	30%	0%	0%	50%	20%								

ルーブリック	<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を越えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> <tr> <td>関心・意欲・態度</td> <td>自ら進んで行動や役割を果たすことができ、とても意欲的に取り組み、且つ安全に細心の注意を払うことができた。</td> <td>積極的に行動や役割を果たすことができ、意欲的に取り組み、安全に注意を払うことができた。</td> <td>行動の仕方を守り役割を果たすことができ、普通に取組み安全に注意を払うことができた。</td> <td>行動の仕方を守らず役割を果たしていないときがあったが、安全に注意を払うことができた。</td> <td>行動の仕方を守らず役割を果たさず意欲もまったくなく、安全に注意を払うことができなかった。</td> </tr> <tr> <td>知識・理解</td> <td>トレーニングの基礎的知識を持ち、それぞれの領域が持つ見方について説明することができ、実践的に活用できた。</td> <td>トレーニングの基礎的知識を持ち、多様な領域からの見解を深く理解できていて適切に活用できた。</td> <td>トレーニングの基礎的知識の見解を一定程度理解できていて、活用できた。</td> <td>トレーニングの基礎的知識の見解をあまり深く理解できていないが、活用できた。</td> <td>トレーニングの基礎的知識の見解をまったく理解できていなく、その獲得・修得に取り組むことができなかった。</td> </tr> <tr> <td>計画・実行</td> <td>達成目標を設定し、創造的思考を持って目標の計画を立て、その計画に沿って実行できた。</td> <td>達成目標を設定した計画を立てることができ、計画に沿って7割程度できた。</td> <td>達成目標を設定し、計画を立てて5割程度できた。</td> <td>達成目標が曖昧ではあったが、計画を立てて3割程度できた。</td> <td>計画を立てることができなく、達成目標もなく、まったくできなかった。</td> </tr> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	関心・意欲・態度	自ら進んで行動や役割を果たすことができ、とても意欲的に取り組み、且つ安全に細心の注意を払うことができた。	積極的に行動や役割を果たすことができ、意欲的に取り組み、安全に注意を払うことができた。	行動の仕方を守り役割を果たすことができ、普通に取組み安全に注意を払うことができた。	行動の仕方を守らず役割を果たしていないときがあったが、安全に注意を払うことができた。	行動の仕方を守らず役割を果たさず意欲もまったくなく、安全に注意を払うことができなかった。	知識・理解	トレーニングの基礎的知識を持ち、それぞれの領域が持つ見方について説明することができ、実践的に活用できた。	トレーニングの基礎的知識を持ち、多様な領域からの見解を深く理解できていて適切に活用できた。	トレーニングの基礎的知識の見解を一定程度理解できていて、活用できた。	トレーニングの基礎的知識の見解をあまり深く理解できていないが、活用できた。	トレーニングの基礎的知識の見解をまったく理解できていなく、その獲得・修得に取り組むことができなかった。	計画・実行	達成目標を設定し、創造的思考を持って目標の計画を立て、その計画に沿って実行できた。	達成目標を設定した計画を立てることができ、計画に沿って7割程度できた。	達成目標を設定し、計画を立てて5割程度できた。	達成目標が曖昧ではあったが、計画を立てて3割程度できた。	計画を立てることができなく、達成目標もなく、まったくできなかった。
評価項目	評価基準																													
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																									
関心・意欲・態度	自ら進んで行動や役割を果たすことができ、とても意欲的に取り組み、且つ安全に細心の注意を払うことができた。	積極的に行動や役割を果たすことができ、意欲的に取り組み、安全に注意を払うことができた。	行動の仕方を守り役割を果たすことができ、普通に取組み安全に注意を払うことができた。	行動の仕方を守らず役割を果たしていないときがあったが、安全に注意を払うことができた。	行動の仕方を守らず役割を果たさず意欲もまったくなく、安全に注意を払うことができなかった。																									
知識・理解	トレーニングの基礎的知識を持ち、それぞれの領域が持つ見方について説明することができ、実践的に活用できた。	トレーニングの基礎的知識を持ち、多様な領域からの見解を深く理解できていて適切に活用できた。	トレーニングの基礎的知識の見解を一定程度理解できていて、活用できた。	トレーニングの基礎的知識の見解をあまり深く理解できていないが、活用できた。	トレーニングの基礎的知識の見解をまったく理解できていなく、その獲得・修得に取り組むことができなかった。																									
計画・実行	達成目標を設定し、創造的思考を持って目標の計画を立て、その計画に沿って実行できた。	達成目標を設定した計画を立てることができ、計画に沿って7割程度できた。	達成目標を設定し、計画を立てて5割程度できた。	達成目標が曖昧ではあったが、計画を立てて3割程度できた。	計画を立てることができなく、達成目標もなく、まったくできなかった。																									



基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: BAS001003)				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 和裕(経営学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 佐藤 和裕)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験を当該授業に関連内容として活用する。学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、将来に向け健康で豊かな生活を営んでいくための基礎を指導する。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス(シラバスの説明) 授業改善アンケート結果反映の説明	事前にシラバスを読んで確認しておく(45分)	ガイダンスの内容を理解しておく(45分)
2	基礎トレーニングの理解と習得	基礎トレーニングについて確認しておく(45分)	基礎トレーニングを理解しておく(45分)
3	基礎トレーニングの理解と習得	基礎トレーニングについて確認しておく(45分)	基礎トレーニングを理解しておく(45分)
4	基礎トレーニングの理解と習得	基礎トレーニングについて確認しておく(45分)	基礎トレーニングを理解しておく(45分)
5	基礎トレーニングの理解と習得	基礎トレーニングについて確認しておく(45分)	基礎トレーニングを理解しておく(45分)
6	基礎トレーニングの理解と習得	基礎トレーニングについて確認しておく(45分)	基礎トレーニングを理解しておく(45分)
7	基礎トレーニングの理解と習得	基礎トレーニングについて確認しておく(45分)	基礎トレーニングを理解しておく(45分)
8	基礎トレーニングの理解と習得	基礎トレーニングについて確認しておく(45分)	基礎トレーニングを理解しておく(45分)
9	基礎トレーニングの実践	健康に留意し体調を整えておく(45分)	身体のケアを怠らない(45分)
10	基礎トレーニングの実践	健康に留意し体調を整えておく(45分)	身体のケアを怠らない(45分)
11	基礎トレーニングの実践	健康に留意し体調を整えておく(45分)	身体のケアを怠らない(45分)
12	基礎トレーニングの実践	健康に留意し体調を整えておく(45分)	身体のケアを怠らない(45分)
13	基礎トレーニングの実践	健康に留意し体調を整えておく(45分)	身体のケアを怠らない(45分)
14	基礎トレーニングの実践	健康に留意し体調を整えておく(45分)	身体のケアを怠らない(45分)
15	基礎トレーニングの実践 授業改善アンケートの実施	健康に留意し体調を整えておく(45分)	身体のケアを怠らない(45分)
16	まとめ(授業改善アンケートの実施)	生涯スポーツとしての特性を理解しておく(45分)	生涯スポーツとしての基礎を理解する(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎セミナー A (科目ナンバリング: BAS001003)				
授業担当者(所属・職名)	中川 純二(経営学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 中川 純二)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、将来に向け健康で豊かな生活を営んでいくための基礎を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

余暇時間の増大や高齢化が進む中で、自分自身の人生をより豊かで充実したものにするために、スポーツは非常に重要な役割を果たすと考えられる。本授業では、トレーニングの理論と実践を通じ、生涯にわたって定期的に体を動かす習慣を養うことを目的とする。

授業の位置づけ

経営学科のDP(2)(4)(5)に対応する。  
 社会福祉学科のDP(2)(4)(5)に対応する。  
 デザイン学科のDP(2)(4)に対応する。  
 建築学科のDP(2)(4)に対応する。

到達目標

栄養、運動、休養に関する基礎的知識を身につける。  
 自らの体力・目標に応じたトレーニングプログラムを組み立てる。  
 生涯を通じて定期的に運動する習慣を養う。

授業全体の内容と概要

体力測定、形態測定により自分の体の状態を知る。  
 正しいトレーニング理論を学び、体を動かす重要性、楽しさを学ぶ。

授業の方法

授業はトレーニングの実技が中心となるが、トレーニング方法についてグループで研究を行い、各自に適しているトレーニング方法を継続的に実践できるよう実施していく。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

柔道部に所属の学生を対象とする。体育館・ウエイトトレーニング場を中心に授業を行うので、ジャージ・屋内用トレーニングシューズを用意すること。  
 怪我や健康上の理由がある者は、事前に申し出ること。  
 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、13回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	10%	0%	0%	60%	30%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
関心・意欲・態度	自ら進んで行動や役割を果たすことができ、何事にも意欲的に取り組み、かつ安全に細心の注意を払うことができた。	積極的に行動や役割を果たすことができ、意欲的に取り組み、安全に注意を払うことができた。	行動の仕方を守り、役割を果たすことができ、指示通り取り組み安全に注意を払っていた。	行動の仕方を守らず役割を果たそうとしない時があり、意欲もなく安全に注意を払っていない状態であった。	行動の仕方を守らず役割も果たせず、意欲もまったくなく、安全に配慮できなかった。
知識・理解	トレーニングの基礎知識を十分持ち、それぞれの領域においても十分理解し、実践的に活用できた。	トレーニングの基礎知識を持ち、各領域においても深く理解し、適切に活用できた。	トレーニングの基礎知識がある程度理解し、活用することができた。	トレーニングの基礎知識が少なく、活用することができなかった。	トレーニングの基礎知識が全くなく、取り組みが全くみられなかった。
計画・実行	達成目標を設定することができ、達成目標以上のトレーニングを実施することができた。	達成目標を設定し、達成目標が達成できるよう努力することができた。	達成目標を設定し、5割程度達成することができた。	達成目標の設定が明確でなく3割程度しか達成することができなかった。	達成目標を設定出来ず、なんとなくトレーニングを行っていないかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: BAS001003)				
授業担当者(所属・職名)	中川 純二(経営学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 中川 純二)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、将来に向け健康で豊かな生活を営んでいくための基礎を指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション(シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明)	事前にシラバスを読んで確認しておく(45分)	ガイダンスの内容を理解しておく(45分)
2	施設及び用具の使用法・形態測定	用具の使用法を確認しておく(45分)	今日の内容を理解する(45分)
3	体力測定	体力測定の方法を確認しておく(45分)	体力測定の方法を理解しておく(45分)
4	体力測定	体力測定の方法を確認しておく(45分)	体力測定の方法を理解しておく(45分)
5	トレーニングの基本原則	トレーニングの基本原則を確認しておく(45分)	トレーニングの基本原則を理解しておく(45分)
6	最大学上重量測定1	最大学上重量測定の方法を確認しておく(45分)	最大学上重量測定の方法を確認しておく(45分)
7	最大学上重量測定2	最大学上重量測定の方法を確認しておく(45分)	最大学上重量測定の方法を理解しておく(45分)
8	トレーニングプログラムの組み方及び各自の能力に合わせたトレーニング1	トレーニングプログラムの組み方を確認しておく(45分)	トレーニングプログラムの組み方を理解しておく(45分)
9	トレーニングプログラムの組み方及び各自の能力に合わせたトレーニング2	トレーニングプログラムの組み方を確認しておく(45分)	トレーニングプログラムの組み方を理解しておく(45分)
10	トレーニングプログラムの組み方及び各自の能力に合わせたトレーニング3	トレーニングプログラムの組み方を確認しておく(45分)	トレーニングプログラムの組み方を理解しておく(45分)
11	トレーニングプログラムの組み方及び各自の能力に合わせたトレーニング4	各自の能力に合わせたプログラムを研究すること(45分)	各自の能力に合わせたプログラムを実践できるよう考えること(45分)
12	トレーニングプログラムの組み方及び各自の能力に合わせたトレーニング5	各自の能力に合わせたプログラムを研究すること(45分)	各自の能力に合わせたプログラムを実践できるよう考えること(45分)
13	バランスボール・自重・徒手抵抗(パートナー)などを用いたトレーニング1	バランスボール・自重・徒手抵抗の方法を確認しておく(45分)	バランスボール・自重・徒手抵抗の方法を理解しておく(45分)
14	バランスボール・自重・徒手抵抗(パートナー)などを用いたトレーニング2	バランスボール・自重・徒手抵抗の方法を確認しておく(45分)	バランスボール・自重・徒手抵抗の方法を理解しておく(45分)
15	最大学上重量測定3	最大学上重量測定の方法を確認しておく(45分)	最大学上重量測定の方法を理解しておく(45分)
16	まとめ 授業改善アンケートの実施	生涯トレーニングの特性を理解しておく(45分)	生涯トレーニングの特性を理解する(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: BAS001003)				
授業担当者(所属・職名)	三嶋 康嗣(経営学科・専任講師)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 三嶋 康嗣)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験のある教員がその経験を活かして、目的に応じた運動の特性、楽しさを学ぶ。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

現代社会における健康の位置づけを考え、運動が生産にわたりそれへどう寄与するかを学ぶ。からだの構造の基礎的知識を身につけることによって、合理的にパフォーマンスの向上をはかる。

授業の位置づけ

経営学科のDP(2)(4)(5)に対応する。  
 社会福祉学科のDP(2)(4)(5)に対応する。  
 デザイン学科のDP(2)(4)に対応する。  
 建築学科のDP(2)(4)に対応する。

到達目標

骨・筋を中心にからだの構造に関する基礎知識を身につけることができる。  
 トレーニングの目的を理解することができる。

授業全体の内容と概要

目的に応じた運動の特性、楽しさを学ぶ。

授業の方法

骨・筋を中心にからだの構造に関する基礎知識を身につけ、トレーニングルームにてトレーニングを実践しながらその目的を理解していく。トレーニングの経過を観察記録し、各自記録結果をパワーポイント等にまとめ、グループワーク等で思考・考察、意見交換、討論、発表等一連の活動を行い学習する。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

研究室、体育館、トレーニング場で授業を行う。  
 からだを動かすのに適した服装とする。(ジャージ等)  
 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、大学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数、13回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	30%	0%	0%	0%	70%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
関心・意欲・態度	自ら進んで行動や役割を果すことができ、とても意欲的に取り組み、且つ安全に細心の注意を払うことができた。	積極的に行動や役割を果すことができ、意欲的に取り組み、安全に注意を払うことができた。	行動の仕方を守り役割を果すことができ、普通に取り組み安全に注意を払っていた。	行動の仕方を守らず役割を果そうとしないときがあり、意欲もなく安全に注意を払っていなかった。	行動の仕方を守らず役割を果さなく意欲もまったくなく、安全に注意を払っていなかった。
知識・理解	からだの構造を理解し、運動との結びつきに及んでいた。	からだの構造を理解していた。	からだの構造を概ね理解していた。	からだの構造をある程度理解していた。	からだの構造を理解していなかった。
計画・実行	計画を立てることができた。その計画に沿って実行でき、達成目標がほぼ全てクリアされていた。	計画を立てることができた。達成目標は7割程度であった。	計画を立てることができた。達成目標は5割程度であった。	計画を立てることができた。達成目標は3割程度であった。	計画を立てることができなかつた。達成目標が設定されていないため行動がみられなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: BAS001003)				
授業担当者(所属・職名)	三嶋 康嗣(経営学科・専任講師)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 三嶋 康嗣)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 学校現場における教員経験のある教員がその経験を活かして、目的に応じた運動の特性、楽しさを学ぶ。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション(シラバスの説明)	事前にシラバスを読んで確認しておく(45分)	オリエンテーションの内容を理解しておく(45分)
2	からだの構造(総論)	からだの構造について調べておく(45分)	からだの構造について理解しておく(45分)
3	からだの構造(骨・上肢)	からだの構造(骨・上肢)について調べておく(45分)	からだの構造(骨・上肢)について理解しておく(45分)
4	からだの構造(骨・頭部及び体幹)	からだの構造(骨・頭部及び体幹)について調べておく(45分)	からだの構造(骨・頭部及び体幹)について理解しておく(45分)
5	からだの構造(骨・下肢)	からだの構造(骨・下肢)について調べておく(45分)	からだの構造(骨・下肢)について理解しておく(45分)
6	からだの構造(筋・上肢)	からだの構造(筋・上肢)について調べておく(45分)	からだの構造(筋・上肢)について理解しておく(45分)
7	からだの構造(筋・頭部及び体幹)	からだの構造(筋・頭部及び体幹)について調べておく(45分)	からだの構造(筋・頭部及び体幹)について理解しておく(45分)
8	からだの構造(筋・下肢)	からだの構造(筋・下肢)について調べておく(45分)	からだの構造(筋・下肢)について理解しておく(45分)
9	からだの構造(まとめ)	からだの構造(まとめ)について調べておく(45分)	からだの構造(まとめ)について理解しておく(45分)
10	トレーニング実技(ウエイトトレーニング・上肢)	体調を整えておく(45分)	トレーニング後の変化を観察しておく(45分)
11	トレーニング実技(ウエイトトレーニング・頭部及び体幹)	体調を整えておく(45分)	トレーニング後の変化を観察しておく(45分)
12	トレーニング実技(ウエイトトレーニング・下肢)	体調を整えておく(45分)	トレーニング後の変化を観察しておく(45分)
13	トレーニング実技(ウエイトトレーニング・上肢)	体調を整えておく(45分)	トレーニング後の変化を観察しておく(45分)
14	トレーニング実技(ウエイトトレーニング・頭部及び体幹)	体調を整えておく(45分)	トレーニング後の変化を観察しておく(45分)
15	トレーニング実技(ウエイトトレーニング・下肢)	体調を整えておく(45分)	トレーニング後の変化を観察しておく(45分)
16	まとめ	トレーニングの実施内容と効果をまとめておく(45分)	トレーニングの効果を確認しておく(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: BAS001003)				
授業担当者(所属・職名)	井坂 肇(経営学科・助教)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	1 (単位認定責任者: 井坂 肇)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

トレーニング理論を理解し、実践する。

授業の位置づけ

経営学科のDP(2)(4)(5)に対応する。  
 社会福祉学科のDP(2)(4)(5)に対応する。  
 デザイン学科のDP(2)(4)に対応する。  
 建築学科のDP(2)(4)に対応する。

到達目標

トレーニング理論について理解できる。  
 課題解決のために他者と討議することができる。  
 トレーニングを実践することができる。

授業全体の内容と概要

試合で最高のパフォーマンスを発揮するために、科学的なエビデンスに基づいた情報を理解する。トレーニング計画を立て実行しパフォーマンスの向上を確認する。

授業の方法

講義はパワーポイント及び配布資料で実施し、資料にて説明した後、グループワークにてトレーニングを行う。既存のトレーニング方法について考察し、他者と共有する機会を設ける。  
 学生の不明点・疑問は、チャット形式などの支援システムで迅速に回答する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

硬式野球部優先。  
 不足の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、13回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	40%	0%	60%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
トレーニング理論の理解	トレーニング理論を説明できると共に、トレーニングを構成する様々な要素について調べ、まとめている。また様々なケースにおいて採用されたトレーニングの方法について意見を持っている。	トレーニング理論を説明できると共に、トレーニングを構成する様々な要素について調べ、まとめている。	トレーニング理論を説明できる。トレーニングを構成する様々な要素について調べている。	トレーニング理論を説明できる。	トレーニング理論を説明できない。
他者との討議	他者と討議しながら解決のための具体策を提示的ると共に、意見を集約してまとめることができる。さらには新たな課題を自ら発見し、他者との討議の場を生み出すことができる。	他者と討議しながら解決のための具体策を提示的ると共に、意見を集約してまとめることができる。	他者と討議しながら解決のための具体策を提示できる。	他者と討議できる。	他者と討議できない。
トレーニングの実践	トレーニングを実践し、成果と原因を把握し、改善のための新たな計画を立てられている。さらには周りに対してアドバイスができる。	トレーニングを実践し、成果と原因を把握でき、改善のための新たな計画を立てられている。	トレーニングを実践し、成果と原因を把握できている。	トレーニングを実践している。	トレーニングを実践していない。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: BAS001003)				
授業担当者(所属・職名)	井坂 肇(経営学科・助教)		研究室等所在	1号館3階	
単位数	1 (単位認定責任者: 井坂 肇)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 目標設定シートの記入	事前にシラバスを読んで確認しておく(45分)	シラバスの内容を理解しておく(45分)
2	下半身のトレーニング	学習内容に関連する事柄について調べておく(45分)	学習内容について振り返りまとめておく(45分)
3	下半身のトレーニング	学習内容に関連する事柄について調べておく(45分)	学習内容について振り返りまとめておく(45分)
4	上半身のトレーニング	学習内容に関連する事柄について調べておく(45分)	学習内容について振り返りまとめておく(45分)
5	上半身のトレーニング	学習内容に関連する事柄について調べておく(45分)	学習内容について振り返りまとめておく(45分)
6	体幹のトレーニング	学習内容に関連する事柄について調べておく(45分)	学習内容について振り返りまとめておく(45分)
7	体幹のトレーニング	学習内容に関連する事柄について調べておく(45分)	学習内容について振り返りまとめておく(45分)
8	前半の復習、目標設定シートの記入	学習内容に関連する事柄について調べておく(45分)	学習内容について振り返りまとめておく(45分)
9	上半身のモビリティ、障害予防	学習内容に関連する事柄について調べておく(45分)	学習内容について振り返りまとめておく(45分)
10	上半身のモビリティ、障害予防	学習内容に関連する事柄について調べておく(45分)	学習内容について振り返りまとめておく(45分)
11	下半身のモビリティ、障害予防	学習内容に関連する事柄について調べておく(45分)	学習内容について振り返りまとめておく(45分)
12	下半身のモビリティ、障害予防	学習内容に関連する事柄について調べておく(45分)	学習内容について振り返りまとめておく(45分)
13	投球動作についての理解	学習内容に関連する事柄について調べておく(45分)	学習内容について振り返りまとめておく(45分)
14	投球動作についての理解	学習内容に関連する事柄について調べておく(45分)	学習内容について振り返りまとめておく(45分)
15	投球動作についての理解	学習内容に関連する事柄について調べておく(45分)	学習内容について振り返りまとめておく(45分)
16	後半の復習、目標設定シートの記入 授業改善アンケートの実施	講義全体を振り返り質問事項をまとめておく(45分)	学習内容について振り返りまとめておく(45分)

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: BAS001003)				
授業担当者(所属・職名)	田畑 圭悟 (経営学科・助教)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 田畑 圭悟)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

競技スポーツ及び、健康のための基礎的トレーニングを学び、個人に必要なトレーニングを自ら実践出来るようにする。また、学生と教員双方の人間関係を構築しコミュニケーション能力を高め、併せて快適な学生生活及び基本的な生活習慣を身につける為である。

授業の位置づけ

経営学科のDP(4)(5)に対応する。  
 社会福祉学科のDP(4)(5)に対応する。  
 デザイン学科のDP(4)に対応する。  
 建築学科DP(4)に対応する。

到達目標

競技及び個人の特性を理解し、自らの競技スポーツや健康に一層深い関心を持って、安全にトレーニングすることができるのである。

授業全体の内容と概要

競技スポーツ又は、健康のために必要な基礎的トレーニングを実践し、自らの競技力向上と健康の保持増進のために必要なトレーニングを見つけて実践する

授業の方法

業は配布資料で実施し、トレーニングなどのDVDも活用しながら講義形式で行う。授業によってはグループワークで思考・考察・発表を行い学習していく。レポートにはコメントにてフィードバックする。さらに、実技に関しては基礎的なトレーニングの特性を理解し学習したことを実際に怪我に注意を払いながら実施していく。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

上部に所属の学生を対象とする。基本的にジャージや屋内運動靴を必ず用意する。注意事項の詳細はガイダンスで指示する。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある  
 健康上の理由で医師から運動を停止されている者は、申し出

修学サポート(合理的配慮)

陸上競技部員のコミュニケーションをとり、単位取得等の修学サポートをする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、13回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	30%	0%	0%	50%	20%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
自ら進んでどれだけ競技に取り組めたか	自ら進んで行動や役割を果たすことができ、とても意欲的に取り組み、且つ安全に細心の注意を払うことができる。	積極的に行動や役割を果たすことができ、意欲的に取り組み、安全に注意を払うことができる。	行動の仕方を守り役割を果たすことができ、普通に取り組み安全に注意を払っている。	行動の仕方を守らず役割を果たさそうとしないときがあり、意欲もなく安全に注意を配っていない。	行動の仕方を守らず役割を果たさなく意欲もまったくなく、安全に注意を配っていない。
自ら考えトレーニングメニューを出来たか	トレーニングの基礎的知識を持ち、それぞれの領域が持つ見方について説明することができ、実践的に活用できる	トレーニングの基礎的知識を持ち、多様な領域からの見解を深く理解できていて、適切に活用できる。	トレーニングの基礎的知識の見解を一定程度理解できていて、活用できる。	トレーニングの基礎的知識の見解をあまり深く理解できていなく、活用できるレベルにない。	トレーニングの基礎的知識の見解をまったく理解できていなく、その獲得、修得に取り組んでいない。
自ら立てた目標にどれだけ近づいたか	達成目標を設定し、創造的思考を持って目標の計画を立て、その計画に沿って実行できる。	達成目標を設定した計画を立てることができ、計画に沿って7割程度できる。	達成目標を設定し、計画を立てて5割程度できる。	計画を立てることができなが、達成目標が曖昧であり3割程度しかできない。	計画を立てることができなく、達成目標もなく、まったくできない



基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: BAS001003)				
授業担当者(所属・職名)	田畑 圭悟 (経営学科・助教)		研究室等所在	1号館2階	
単位数	1 (単位認定責任者: 田畑 圭悟)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『月刊陸上競技』					
2	『月刊陸上競技マガジン』					
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス(シラバスの説明) 授業改善アンケート結果反映の説明	事前にシラバスを読んで確認しておく(45分)	ガイダンスの内容を理解しておく(45分)
2	基礎トレーニングの理解 1	基礎トレーニングについて確認しておく(45分)	基礎トレーニングを理解しておく(45分)
3	基礎トレーニングの理解 2	基礎トレーニングについて確認しておく(45分)	基礎トレーニングを理解しておく(45分)
4	基礎トレーニングの理解 3	基礎トレーニングについて確認しておく(45分)	基礎トレーニングを理解しておく(45分)
5	基礎トレーニングの理解 4	基礎トレーニングについて確認しておく(45分)	基礎トレーニングを理解しておく(45分)
6	基礎トレーニングの理解 5	基礎トレーニングについて確認しておく(45分)	基礎トレーニングを理解しておく(45分)
7	基礎トレーニングの理解 6	基礎トレーニングについて確認しておく(45分)	基礎トレーニングを理解しておく(45分)
8	基礎トレーニングの習得 1	健康に留意し体調を整えておく(45分)	基礎トレーニングを理解しておく(45分)
9	基礎トレーニングの習得 2	健康に留意し体調を整えておく(45分)	身体のケアを怠らない(45分)
10	基礎トレーニングの習得 3	健康に留意し体調を整えておく(45分)	身体のケアを怠らない(45分)
11	基礎トレーニングの習得 4	健康に留意し体調を整えておく(45分)	身体のケアを怠らない(45分)
12	基礎トレーニングの習得 5	健康に留意し体調を整えておく(45分)	身体のケアを怠らない(45分)
13	基礎トレーニングの習得 6	健康に留意し体調を整えておく(45分)	身体のケアを怠らない(45分)
14	基礎トレーニングの習得 7	健康に留意し体調を整えておく(45分)	身体のケアを怠らない(45分)
15	基礎トレーニングの習得 8	健康に留意し体調を整えておく(45分)	身体のケアを怠らない(45分)
16	まとめ 授業改善アンケートの実施	生涯スポーツとしての特性を理解しておく(45分)	生涯スポーツとしての基礎を理解する(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: BAS001003)				
授業担当者(所属・職名)	篠原 諒介(経営学科・専任講師)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 篠原 諒介)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

<b>履修目標</b>
国際的に活躍するエリートアスリートとともに働く世界の著名なスポーツ科学者達のリカバリーに関する最新の科学的データを理解する。

<b>授業の位置づけ</b>
経営学科のDP(1)、(4)、(5)に対応する。 社会福祉学科のDP(4)、(5)に対応する。 デザイン学科のDP(4)に対応する。 建築学科のDP(4)に対応する。

<b>到達目標</b>
「パフォーマンスを向上させたい」、「オーバーテイングや怪我を予防したい」と考えているすべてのアスリートやコーチを目指している学生のために、科学的なエビデンスに基づいた情報、また、エリートスポーツに携わるコーチやスポーツ科学者が、成功へと導いた競技現場でのリカバリーの応用例を実践する。

<b>授業全体の内容と概要</b>
すべてのアスリートやコーチを目指している学生がトレーニングや試合などの競技活動におけるオーバーロードや怪我のリスクを低下させ、最終的にはそれぞれのパフォーマンスを改善するリカバリープロセスを学ぶ。

<b>授業の方法</b>
授業はパワーポイントを使用し、DVDの視聴、レポートなどの講義形式で実施する。

<b>アクティブラーニングの実施方法</b>					
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク		PBL	
模擬授業	ロールプレイ	調査学習		反転授業	
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業		その他(授業の方法参照)	

<b>履修上の注意事項</b>
20分以上の遅刻は欠席とみなします。遅刻3回で1回の欠席とみなします。 不測の事態の際はオンライン授業を実施する場合があります。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
---

<b>資格指定科目</b>

評価方法・基準

<b>評価前提条件</b>
単位認定に必要な最低出席回数は、13回以上

<b>評価方法</b>					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	20%	30%	0%	50%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	学修した知識・技能を確実に修得するとともに、それらに関連した知識・技能についても獲得した	学修した知識・技能を確実に修得した	学修した知識・技能のすべてを修得することはできなかった	学修した知識・技能を修得したが最低限容認できるレベルにとどまった	学修に真面目に取り組まなかった
思考力・判断力・表現力	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては求められるレベルを大きく超えた	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては、求められるレベルを達成した	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては、求められるレベルには達しなかった	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては最低限容認できるレベルにとどまった	与えられた課題に真面目に取り組まなかった
主体性・多様性・協働性	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協働性に関しては、求められるレベルを大きく超えた	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては、求められるレベルを達成した	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては達しなかった	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては最低限容認できるレベルにとどまった	与えられた課題に真面目に取り組まなかった

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: BAS001003)				
授業担当者(所属・職名)	篠原 諒介(経営学科・専任講師)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 篠原 諒介)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス シラバスの説明及び授業改善アンケート結果反映の説明	測定準備及び論文の読み込み(45分)	本時の学習内容をまとめて提出する(45分)
2	リカバリーの理解と修得 スクリーニングとアセスメントの概要	測定準備及び論文の読み込み(45分)	本時の学習内容をまとめて提出する(45分)
3	リカバリーの理解と修得 スクリーニングとアセスメントの概要	測定準備及び論文の読み込み(45分)	本時の学習内容をまとめて提出する(45分)
4	リカバリーの理解と修得 スクリーニングとアセスメントの概要	測定準備及び論文の読み込み(45分)	本時の学習内容をまとめて提出する(45分)
5	リカバリーの理解と修得 解剖学的科学と機能の科学	測定準備及び論文の読み込み(45分)	本時の学習内容をまとめて提出する(45分)
6	リカバリーの理解と修得 解剖学的科学と機能の科学	測定準備及び論文の読み込み(45分)	本時の学習内容をまとめて提出する(45分)
7	リカバリーの理解と修得 解剖学的科学と機能の科学	測定準備及び論文の読み込み(45分)	本時の学習内容をまとめて提出する(45分)
8	リカバリーの確認	測定準備及び論文の読み込み(45分)	本時の学習内容をまとめて提出する(45分)
9	リカバリーの実践 スクリーニングとアセスメント	測定準備及び論文の読み込み(45分)	本時の学習内容をまとめて提出する(45分)
10	リカバリーの実践 スクリーニングとアセスメント	測定準備及び論文の読み込み(45分)	本時の学習内容をまとめて提出する(45分)
11	リカバリーの実践 スクリーニングとアセスメント	測定準備及び論文の読み込み(45分)	本時の学習内容をまとめて提出する(45分)
12	リカバリーの実践 スクリーニングとアセスメント	測定準備及び論文の読み込み(45分)	本時の学習内容をまとめて提出する(45分)
13	リカバリーの実践 筋機能・動作と感覚	測定準備及び論文の読み込み(45分)	本時の学習内容をまとめて提出する(45分)
14	リカバリーの実践 筋機能・動作と感覚	測定準備及び論文の読み込み(45分)	本時の学習内容をまとめて提出する(45分)
15	リカバリーの実践 筋機能・動作と感覚	測定準備及び論文の読み込み(45分)	本時の学習内容をまとめて提出する(45分)
16	まとめ 授業改善アンケートの実施	測定準備及び論文の読み込み(45分)	本時の学習内容をまとめて提出する(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: BAS001003)				
授業担当者(所属・職名)	杉本 大輔(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 杉本 大輔)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照すること				

概要

履修目標

本基礎ゼミナールでは社会科学に関する専門書を全員で音読し、現代社会における処々の課題を歴史的・グローバルに俯瞰し、現代社会の諸問題を解析するための基本的視座を獲得する。基礎ゼミナール Aでは「憲法」をテーマにし、その歴史的意義と現代日本における諸課題を検討する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP(1)(2)(3)(4)(5)に対応する。  
 経営学科のDP(1)(2)(3)(4)(5)に対応する。  
 デザイン学科のDP(1)(2)(3)(4)(5)に対応する。  
 建築学科のDP(1)(2)(3)(4)(5)に対応する。

到達目標

- ・社会科学に対する興味を喚起し、自発的に文献を読み込む技術を習得できる。
- ・現代社会が抱える諸課題について、各媒体を検索する技術を習得できる。
- ・社会科学全体に共通する諸課題を検討することによって、2年時以降の社会福祉学の学習の基盤となる視座を構築できる。

授業全体の内容と概要

小室直樹著『日本人のための憲法原論』(集英社インターナショナル)を主要参考文献とし(各講義ごとに購読パートを教員がコピーする)、その他『NEWS W E E K』等の記事を適宜配布し、国際社会を視野に入れたグローバルな社会分析ができる。

授業の方法

- ・各講義ごとに教員が資料を配布し、個々に音読してもらい、内容を解説・議論する。
- ・講義プリントは講義の前の週に配布するので熟読しておくこと。
- ・学生からの要望には可能な限り答えるが、教育上不適切と思える要望には応じない。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。  
 主体的・積極的な参加を望む。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、大学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な出席日数10回以上をクリアすること。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	0%	30%	70%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
「憲法」に関する参考文献・資料の内容を理解する	ディスカッションの中で、その日のゼミの内容についての確に説明でき、且つ、自分の意見を述べる事ができた。	ディスカッションの中で、その日のゼミの内容について明確に説明できた。	高校のテキストの政治・憲法についての基本的知識を習得できた。	高校のテキストの「世界史」の基本的知識を習得できた。	左記の内容が何一つできなかった。
中世の欧米社会史から近世日本社会史までの外観を理解する	ディスカッションの中で、その日のゼミの内容についての確に説明でき、且つ、自分の意見を述べる事ができた。	ディスカッションの中で、その日のゼミの内容について明確に説明できた。	高校のテキストの「社会史」「近世日本史」の基本的知識を習得できた。	高校のテキストの「世界史」の基本的知識を習得できた。	左記の内容が何一つできなかった。
憲法が効果的に機能するための要因を理解する。	ディスカッションの中で、その日のゼミの内容についての確に説明でき、且つ、自分の意見を述べる事ができた。	ディスカッションの中で、その日のゼミの内容について明確に説明できた。	日本国憲法と大日本帝国憲法の違いと各々の課題を理解できた。	高校のテキスト「日本の政治」の基本的知識を習得できた。	左記の内容が何一つできていなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: BAS001003)				
授業担当者(所属・職名)	杉本 大輔(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 杉本 大輔)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明	高校のテキストの読み直し(45分)	配布資料の読み込み(45分)
2	日本国憲法は生きているか	前回資料の読み込み(45分)	配布資料の読み込み(45分)
3	誰のために憲法はあるか	前回資料の読み込み(45分)	配布資料の読み込み(45分)
4	全ては議会から始まった	前回資料の読み込み(45分)	配布資料の読み込み(45分)
5	民主主義は神様が作った	前回資料の読み込み(45分)	配布資料の読み込み(45分)
6	かくして議会は誕生した—イギリス憲法小史	前回資料の読み込み(45分)	配布資料の読み込み(45分)
7	民主主義と資本主義は双子だった	前回資料の読み込み(45分)	配布資料の読み込み(45分)
8	初めに契約ありき	前回資料の読み込み(45分)	配布資料の読み込み(45分)
9	「民主主義のルール」とは	前回資料の読み込み(45分)	配布資料の読み込み(45分)
10	憲法の敵は何か	前回資料の読み込み(45分)	配布資料の読み込み(45分)
11	平和主義者が戦争を作る	前回資料の読み込み(45分)	配布資料の読み込み(45分)
12	20世紀を変えたヒトラーとケインズ	前回資料の読み込み(45分)	配布資料の読み込み(45分)
13	天皇教の原理	前回資料の読み込み(45分)	配布資料の読み込み(45分)
14	田中角栄の遺産	前回資料の読み込み(45分)	配布資料の読み込み(45分)
15	憲法は甦るか	前回資料の読み込み(45分)	配布資料の読み込み(45分)
16	総括	前回資料の読み込み(45分)	配布資料の読み込み(45分)

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: BAS001003)				
授業担当者(所属・職名)	横田 肇 (社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者: 横田 肇)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

学生が世界と日本の歴史と文化について、基礎的な知識と考え方を身につける。初歩的なプレゼンテーション、文章作成の技術を身につける。

授業の位置づけ

経営学科のDP(2)に対応する。  
社会福祉学科のDP(2)に対応する。  
デザイン学科のDP(2)に対応する。  
建築学科のDP(2)に対応する。

到達目標

受講者において、初歩的なプレゼンテーションとコミュニケーションの技術が身につけていること。基礎的な文章作成ができること。  
受講者において、北海道を中心に世界と日本の歴史と文化についての基礎的な知識が習得され、説明できること。

授業全体の内容と概要

毎回、受講者が北海道を中心に日本内外の歴史と文化に関する事項の調査・学習を行い、その結果を発表する。合わせて、毎回、討論を実施し、教員よりのコメントとアドバイスを加える。レポートとプレゼンテーションの基礎の学習も折り返す。

授業の方法

- 1) 毎回、発表者を決め、短いプレゼンテーションを行なう。
  - 2) 1) に対する質疑応答を行なう。
  - 3) 出席者全員で討論をする。
  - 4) 教員の講評によるフィードバック。
- 1) ~ 4) を毎時間くり返す。合わせて、適宜、レポート作成の練習を行なう。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

欠席、遅刻はしないように留意する。  
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。事情に応じ、口頭、スライド、板書、資料による説明に配慮する。写真、録音・録画を認める。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	50%	0%	0%	0%	50%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
調査・情報収集能力	多様で正確な調査・情報収集ができ、的確に編集と整理ができた。	正確な情報収集ができ、的確な整理ができた。	情報収集と整理の基礎が身に付いていた。	指示によって情報収集と整理が遂行できた。	指示による情報収集と整理ができなかった。
コミュニケーション能力	積極的な議論と明確な主張・提案ができ、しっかりと情報発信ができた。	的確な議論と提案ができ、情報発信がある程度できた。	議論と提案、情報発信の基礎が身に付いていた。	指示によって議論と情報発信が遂行できた。	指示による議論と情報発信ができなかった。
好奇心・態度	文化を理解し、知ろうとする意欲と好奇心に富み、発展的な学習が遂行できた。	文化に関する好奇心があり、自発的な学習ができた。	文化に関する知識を意欲的に学んでいた。	指示する内容の学習を遂行することができた。	指示する内容の学習を遂行できなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: BAS001003)				
授業担当者(所属・職名)	横田 肇 (社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	2号館 7階		
単位数	1 (単位認定責任者: 横田 肇)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						なし。
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						適宜指示する。
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	授業改善アンケート結果反映の説明、シラバスの説明、ガイダンス、諸注意。	シラバスを読む。(45分)	歴史と文化の基礎事項の復習(45分)
2	歴史と文化一般に関する講義	歴史と文化の基礎事項の予習(45分)	歴史と文化の基礎事項の復習(45分)
3	北海道の歴史と文化に関する講義	北海道史の基礎事項の予習(45分)	北海道史の基礎事項の復習(45分)
4	北海道の歴史と文化に関する調査と発表(1)	北海道史の基礎事項、プレゼンの予習(45分)	北海道史の基礎事項の復習(45分)
5	北海道の歴史と文化に関する調査と発表(2)	北海道史の基礎事項、プレゼンの予習(45分)	北海道史の基礎事項の復習(45分)
6	北海道の歴史と文化に関する調査と発表(3)	北海道史の基礎事項、プレゼンの予習(45分)	北海道史の基礎事項の復習(45分)
7	北海道の歴史と文化に関する調査と発表(4)	北海道史の基礎事項、プレゼンの予習(45分)	北海道史の基礎事項の復習(45分)
8	北海道の歴史と文化に関する調査と発表(5)	北海道史の基礎事項、プレゼンの予習(45分)	北海道史の基礎事項の復習(45分)
9	北海道の歴史と文化に関する調査と発表(6)	北海道史の基礎事項、プレゼンの予習(45分)	北海道史の基礎事項の復習(45分)
10	北海道の歴史と文化に関する調査と発表(7)	北海道史の基礎事項、プレゼンの予習(45分)	北海道史の基礎事項の復習(45分)
11	北海道の歴史と文化に関する調査と発表(8)	北海道史の基礎事項、プレゼンの予習(45分)	北海道史の基礎事項の復習(45分)
12	北海道の歴史と文化に関する調査と発表(9)	北海道史の基礎事項、プレゼンの予習(45分)	北海道史の基礎事項の復習(45分)
13	北海道の歴史と文化に関する調査と発表(10)	北海道史の基礎事項、プレゼンの予習(45分)	北海道史の基礎事項の復習(45分)
14	北海道の歴史と文化に関する調査と発表(11)	北海道史の基礎事項、プレゼンの予習(45分)	北海道史の基礎事項の復習(45分)
15	レポート作成(1)	レポート(課題)の準備(45分)	レポート(課題)の準備(45分)
16	レポート作成(2)、授業改善アンケートの実施。	レポート(課題)の準備(45分)	レポート(課題)の仕上げ(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: BAS001003)				
授業担当者(所属・職名)	櫻井 美帆子(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	1号館4階		
単位数	1 (単位認定責任者: 櫻井 美帆子)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	現場の実務経験から得た事例等を用いて、福祉に対する理解を深めていく。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標
社会福祉に対する視野を広げるとともに、福祉従事者としての基本的な態度を涵養する。

授業の位置づけ
経営学科のDP(2)(4)(5)に対応する科目。 社会福祉学科のDP(2)(4)(5)に対応する科目。 デザイン学科のDP(2)(4)に対応する科目。 建築学科のDP(2)(4)に対応する科目。

到達目標
職業の一つとして社会福祉を捉えたいうえで、チームワークについて理解できる。

授業全体の内容と概要
様々な福祉実践の場を知るとともに、そこで求められる社会福祉の知識や技術の概要について学ぶ。 「SDG3:すべての人に健康と福祉を」の関連授業

授業の方法
基本は、テーマの内容についてグループで議論をした内容をまとめ、代表者が発表をする展開とする。 一部、講義形式で展開をする。講義の際には随時質問を行うので答えること。 2回以降は授業毎に記録を提出する。記録物はコメントを添えて返却する。 授業に関する資料を毎回配布する。

アクティブラーニングの実施方法												
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL									
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業									
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)									

履修上の注意事項
30分以上の遅刻は欠席とする。 出席を重視するので、欠席や遅刻をする際には事前に連絡をすること。 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
---

資格指定科目
--------

評価方法・基準

評価前提条件
10回以上の出席があること。

評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>50%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>50%</td> <td>0%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	50%	0%	0%	50%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	50%	0%	0%	50%	0%							

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
クラスのメンバーと協働できる。	リーダーシップを発揮し、他者へのサポートができた。	他者を尊重するとともに、自分の役割を責任を持ち果たせた。	助言があればできた。	助言があれば一部できた。	助言があってもできなかった。
第三者が理解できる記録を作成できる。	記録をもとに考察ができた。	SWIHIに沿って記述できた。	助言があればできた。	助言があれば一部できた。	助言があってもできなかった。
社会福祉の視点を持つことができる。	他の職業と比較し、福祉の仕事の独自性を述べることができた。	福祉の仕事の独自性を述べることができた。	助言があればできた。	助言があれば一部できた。	助言があってもできなかった。



基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: BAS001003)				
授業担当者(所属・職名)	櫻井 美帆子(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	1号館4階		
単位数	1 (単位認定責任者: 櫻井 美帆子)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 現場の実務経験から得た事例等を用いて、福祉に対する理解を深めていく。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『使用しない』					
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『使用しない』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 アイスブレイキング	自己紹介を行うので、内容を整理しておく(45分)	アイスブレイキングの効果を考察する。(45分)
2	記録の書き方	今回の内容について、書籍やインターネットで調べる。(45分)	記録のポイントを配布資料ノートで確認する。(45分)
3	福祉の仕事のイメージ	今回の内容の発表内容を整理する。(45分)	クラスのメンバーの意見と自身の意見を比較し考察する。(45分)
4	福祉の仕事を目指す理由	今回の内容の発表内容を整理する。(45分)	クラスのメンバーの意見と自身の意見を比較し考察する。(45分)
5	福祉の仕事を目指す理由	今回の内容の発表内容を整理する。(45分)	クラスのメンバーの意見と自身の意見を比較し考察する。(45分)
6	福祉の職場	今回の内容について、書籍やインターネットで調べる。(45分)	役割分担した内容について調べて整理する。(45分)
7	福祉の職場	今回の内容について、書籍やインターネットで調べる。(45分)	役割分担した内容について調べて整理する。(45分)
8	中間まとめ	1回から7回の内容を振り返り、疑問点や議論したい点を整理する。(45分)	クラスのメンバーの意見と自身の意見を比較し考察する。(45分)
9	福祉に関する資格	今回の内容について、書籍やインターネットで調べる。(45分)	役割分担した内容について調べて整理する。(45分)
10	福祉に関する資格	今回の内容について、書籍やインターネットで調べる。(45分)	役割分担した内容について調べて整理する。(45分)
11	福祉従事者の手記から福祉の仕事を考える。	福祉従事者が著した書籍を図書館で借りる。(45分)	クラスのメンバーの意見と自身の意見を比較し考察する。(45分)
12	福祉従事者の手記から福祉の仕事を考える。	福祉従事者が著した書籍を読む。(45分)	クラスのメンバーの意見と自身の意見を比較し考察する。(45分)
13	福祉サービス利用者の手記から福祉の仕事を考える。	福祉サービス利用者が著した書籍を図書館で借りる。(45分)	クラスのメンバーの意見と自身の意見を比較し考察する。(45分)
14	福祉サービス利用者の手記から福祉の仕事を考える。	福祉サービス利用者が著した書籍を読む。(45分)	クラスのメンバーの意見と自身の意見を比較し考察する。(45分)
15	福祉従事者に求められる資質を考える。	発表内容を整理する。(45分)	クラスのメンバーの意見と自身の意見を比較し考察する。(45分)
16	まとめ 授業改善アンケートの実施	15回までの授業内容を振り返り、疑問点や議論したい点を整理する。(45分)	全体を振り返り、今後の課題を考察する。(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: BAS001003)				
授業担当者(所属・職名)	湯浅 頼佳 (社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	1 (単位認定責任者: 湯浅 頼佳)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

「食生活の重要性を考える」というテーマを基に、学生と教員双方の人間関係を築き、「課題探求能力」養成を軸とした学習活動やその意義を理解する。提示されたテーマの他様々な事柄への好奇心・探求心・向学心を刺激しながら学習能力が高まり、また、「学びの方法」を修得する。

授業の位置づけ

社会福祉学科の DP (2) (5) に対応する。  
 経営学科の DP (2) (5) に対応する。  
 デザイン学科の DP (2) (5) に対応する。  
 建築学科の DP (2) (5) に対応する。

到達目標

上記の授業内容や目的・ねらいを理解し、自分に必要な課題探求の道筋を明らかにすることができる。

授業全体の内容と概要

人間は食べることのみによって栄養を取り入れ、様々な活動を可能としている。乳幼児から高齢者まで各々の目的や問題の違いはあれ、それぞれ生活リズムの確立や健康、QOL、疾病防止などを目的として望ましい食生活をする事が必要となる。学生それぞれが自分自身の食生活だけでなく職業的(保育士、社会福祉士、スポーツトレーナー、教員等)に必要な問題意識を持ち知識を身につけることを目標とする。  
 SDG3「すべての人に健康と福祉を」の関連科目。

授業の方法

食生活や栄養に関する問題の中からそれぞれが研究テーマを見つけ、プレゼンテーションやディスカッション、グループワーク、フィールドワーク、実習等を実施する。また必要に応じて教員がテーマに関する講義も行い、カレントトピックスについても解説する。質疑応答には随時対応する。

アクティブラーニングの実施方法

<input type="radio"/>	プレゼンテーション	<input type="radio"/>	グループワーク	<input type="radio"/>	フィールドワーク	<input type="radio"/>	PBL
<input type="radio"/>	模擬授業	<input type="radio"/>	ロールプレイ	<input type="radio"/>	調査学習	<input type="radio"/>	反転授業
<input type="radio"/>	ディスカッション	<input type="radio"/>	実験・実習・実技	<input type="radio"/>	双方向授業	<input type="radio"/>	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

- 出席を重視する。欠席をする場合は必ず事前に連絡をすること。出席数を満たしていてもゼミの運営を乱す行為があった場合は評価をしない場合がある。また同じくゼミの運営に支障を来す行為があった場合は途中でゼミ異動を宣告する場合がある。
- 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

出席状況(3分の2以上)。ゼミ内での活動(プレゼンテーションやディスカッション、グループワーク、フィールドワーク、実習等)とゼミ内での役割の認識と行動により総合評価する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	20%	0%	0%	30%	50%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解(協調性、傾聴力)	ゼミ内でのプレゼンテーションに積極的に耳を傾け、タイミングよく質問することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションに耳を傾け、タイミングよく質問することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションに耳を傾け質問することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションに耳を傾け何回か質問することができなかった。	ゼミ内でのプレゼンテーションに耳を傾けることは出ることができなかった。
知識・理解(興味、関心)	新聞、ニュース、トピックス等に関心を持ち積極的に食生活や栄養についてのテーマを発見することができた。	新聞、ニュース、トピックス等に関心を持ち食生活や栄養についてのテーマを概ね発見することができた。	新聞、ニュース、トピックス等に関心を持ち食生活や栄養についてのテーマを発見することができた。	新聞、ニュース、トピックス等に関心を持ち努力をしながら食生活や栄養についてのテーマを発見することができた。	新聞、ニュース、トピックス等に関心を持ち食生活や栄養についてのテーマを発見することができなかった。
汎用的機能(トークスキル、表現力)	ゼミ内でのプレゼンテーションにおいて聞き手が理解しやすいよう資料を十分揃えわかりやすく発表することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションにおいて聞き手が理解しやすいようわかりやすく発表することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションにおいて聞き手が理解しやすいよう発表することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションにおいて聞き手が理解しやすいよう発表することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションにおいて聞き手が理解しやすいよう発表することができなかった。
態度・志向性(リーダーシップ、態度)	ゼミ内での自分の役割を十分に認識し、積極的にゼミ運営に関わることができた。	ゼミ内での自分の役割を十分に認識し、ゼミ運営に関わることができた。	ゼミ内での自分の役割を認識し、ゼミ運営に関わることができた。	ゼミ内での自分の役割を認識し、ゼミ運営に多少関わることができた。	ゼミ内での自分の役割を認識できなかった。
態度・志向性(意欲)	休まずゼミに出席できた。(出席16回)	概ねゼミに出席できた。(出席15~14回)	休みがちではあるが出席できた。(出席13~12回)	欠席が目立つが出席できた。(出席11~10回)	評価前提条件を満たす事ができなかった。(出席9~0回)

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: BAS001003)				
授業担当者(所属・職名)	湯浅 頼佳 (社会福祉学科・専任講師)		研究室等所在	1号館3階	
単位数	1 (単位認定責任者: 湯浅 頼佳)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション及びシラバスの説明	ゼミ初回に必要な事項について考える。(45分)	シラバスについて確認する。ゼミ内での自分の役割について考える(45分)
2	「食生活の重要性を考える A」	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
3	「食生活の重要性を考える A」	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
4	「食生活の重要性を考える A」	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
5	「食生活の重要性を考える A」	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
6	「食生活の重要性を考える A」	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
7	「食生活の重要性を考える A」	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
8	「食生活の重要性を考える A」	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
9	「食生活の重要性を考える A」	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
10	「食生活の重要性を考える A」	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
11	「食生活の重要性を考える A」	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
12	「食生活の重要性を考える A」	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
13	「食生活の重要性を考える A」	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
14	「食生活の重要性を考える A」	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
15	「食生活の重要性を考える A」	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
16	まとめ	まとめの準備を行う。(45分)	まとめの振り返りを行う。(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: BAS001003)				
授業担当者(所属・職名)	尾西則昭(社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 尾西 則昭)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標
------

生活多様な側面から人間の生活と健康を理解し、より健康な生活を創りだして行くための必要な知識を身につける。

授業の位置づけ

経営学科のDP(1)(2)(4)に対応する。  
 社会福祉学科のDP(1)(2)(4)(5)に対応する。  
 デザイン学科KDP(1)(2)(4)に対応する。  
 建築学科のDP(1)(2)(4)に対応する。

到達目標

家族、個人という様々なレベルにおける健康的な生活について理解し、知識を身につけ、健康について一層関心を持つことができる。

授業全体の内容と概要

生活の多様な側面に焦点を当て、個人、家族、地域社会という様々なレベルにおける人間の健康的な生活について詳しく解説する。

授業の方法

資料を通読し、その内容にかかわった説明や質疑応答及びディスカッションを行います。板書や教材提示装置を活用します。健康に関するキーワードについての調べ学習及びその発表を行います。課題や発表等に対応するフィードバックや要望等への対応は、小人数集団の利点を生かし、口頭で行います。

アクティブラーニングの実施方法

<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL
<input type="checkbox"/>	模擬授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業
<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

積極的に取り組むことを期待しています。  
 20分以上の遅刻は欠席とみなします。  
 受講者数は10~12名程度。  
 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合があります。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数13回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	100%	0%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	健康についての基礎的な知識を深く理解できた。	健康についての基礎的な知識をおおむね理解できた。	健康についての基礎的な知識を比較的理解できた。	健康についての基礎的な知識を多少理解できた。	健康についての基礎的な知識を理解できなかった。
思考力・判断力・表現力	健康の基本を踏まえた健康内容の展開について十分に考察できた。	健康の基本を踏まえた健康内容の展開についておおむね考察できた。	健康の基本を踏まえた健康内容の展開について比較的考察できた。	健康の基本を踏まえた健康内容の展開について多少考察できた。	健康の基本を踏まえた健康内容の展開について考察できなかった。
主体的に取り組む態度	健康の多様な展開について理解したことをわかりやすく説明できた。	健康の多様な展開について理解したことをおおむねわかりやすく説明できた。	健康の多様な展開について理解したことを比較的理解しやすそう説明できた。	健康の多様な展開について理解したことを多少わかりやすく説明できた。	健康の多様な展開について理解したことをわかりやすく説明できなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: BAS001003)				
授業担当者(所属・職名)	尾西則昭(社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 尾西 則昭)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『資料配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス「シラバス説明」「授業改善アンケート結果反映の説明」	事前にシラバスを読んで確認にする。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(45分)
2	人間の生活と健康の調査	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(45分)
3	人間の生活と健康の調査	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(45分)
4	人間の生活と健康の調査	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(45分)
5	人間の生活と健康の調査	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(45分)
6	人間の生活と健康の調査	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(45分)
7	人間の生活と健康の調査	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(45分)
8	人間の生活と健康の調査発表	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(45分)
9	健康プログラムを素材に発表・討議	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(45分)
10	健康プログラムを素材に発表・討議	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(45分)
11	健康プログラムを素材に発表・討議	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(45分)
12	健康プログラムを素材に発表・討議	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(45分)
13	健康プログラムを素材に発表・討議	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(45分)
14	健康プログラムを素材に発表・討議	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(45分)
15	調査発表・講評「授業改善アンケート実施」	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(45分)
16	まとめ	ノートに記載された内容を再復習し、理解する。(45分)	解説の内容を確認する。(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目		対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	前期		授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: BAS001003)					
授業担当者(所属・職名)	西崎 毅 (社会福祉学科・特任教授)		研究室等所在	2号館 6階		
単位数	1 (単位認定責任者: 西崎 毅)		CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	高等学校教員及び教育行政職員としての経験を活かして教職に関連する指導を行う。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標
------

教員になるために必要な知識・技能、思考力・判断力・表現力等の能力及び意欲を身に付ける。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP(2)(4)(5)に対応する。  
デザイン学科のDP(2)(4)に対応する。  
建築学科のDP(2)(4)に対応する。

到達目標

教育制度や内容についてその概要を理解することができる。  
教育の諸問題についてその概要を理解することができる。  
教員になるために必要な事項についてその概要を理解することができる。

授業全体の内容と概要

各回の授業テーマについて考える  
教育にかかわる法令、中央教育審議会答申、学習指導要領などの通読  
教育に関する基本的事項についての調べ学習  
教員として求められる一般教職及び教職教養の学習  
学校視察やボランティア活動等への参加  
漢字検定等への参加  
「SDG4.質の高い教育をみんなに」の関連科目

授業の方法

教育にかかわる法令、中央教育審議会答申、学習指導要領などを通読し、その内容にかかわって説明や質疑応答及びディスカッションを行います。板書や教材提示装置を活用する。教育に関するキーワードについての調べ学習及びその発表を行う。  
教員として求められる一般教職及び教職教養について演習を行う。課題や発表等に対する評価のフィードバックや要望等への対応は口頭で行う。  
Microsoft Teams/Formsの諸機能を活用し、意見交換、質問、小テスト、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

教職課程を履修し、大学卒業後に必ず教職に就く強い希望と意思を持った学生を対象とする。  
サブメジャープログラムの「教育採用試験対策プログラム」の履修を条件とする。  
漢字検定取得に真剣に取り組むことを履修の条件とする。(目標2級)  
○授業内で紹介する体験活動に積極的に取り組むことを履修の条件とする。  
各自、ノートを用意すること。(ルーズリーフは不可)  
プリント類はプラットフォームに格納し、毎回授業に持参すること。  
○不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は11回。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	20%	0%	80%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	学修した知識・技能を確実に修得するとともに、それらに関連した知識・技能についても習得することができた。	学修した知識・技能を十分に修得することができた。	学修した知識・技能を修得することができた。	学修した知識・技能を修得したが、最低限容認できるレベルにとどまった。	学修に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。
思考力・判断力・表現力等	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルに達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。
主体性・多様性・協働性	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルに達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: BAS001003)				
授業担当者(所属・職名)	西崎 毅(社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	2号館6階		
単位数	1 (単位認定責任者: 西崎 毅)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	高等学校教員及び教育行政職員としての経験を活かして教職に関連する指導を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	別途購入案内する。a					
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	別途購入案内する。a					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション(シラバスの説明含む)自己紹介(教員になるための抱負を含む)	教職志望の理由をまとめること。(45分)	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
2	教員になるために必要なことを考える 個人の考えのまとめ ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
3	教員になるために必要なことを考える 意見交流 ディスカッション 学修計画の作成	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
4	教員という仕事について考える 体験から考える ディスカッション 一般教養及び教職教養の演習	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
5	教員という仕事について考える 意見交流 ディスカッション 一般教養及び教職教養の演習	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
6	教員に求められる資質能力について考える 各自の考えのまとめ 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
7	教員に求められる資質能力について考える 意見交流 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
8	子供たちを取り巻く状況を知る 各自の考えのまとめ 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
9	子供たちを取り巻く状況を知る 意見交流 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション 一般教養及び教職教養の演習	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
10	子どもたちに身に付けさせるべき資質・能力について考える 各自の考えのまとめ 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
11	子どもたちに身に付けさせるべき資質・能力について考える 意見交流 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
12	子どもたちに身に付けさせるべき資質・能力について考える 意見の整理 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
13	学習指導要領について考える 学習指導要領とは何か 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
14	学習指導要領について考える 学習指導要領の歴史 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
15	学習指導要領について考える 現在の学習指導要領 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
16	前期の学修の総括及び反省	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	1年間の学修を振り返り、自己評価を行うこと。(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: BAS001003)				
授業担当者(所属・職名)	小山 尋明(建築学科・准教授)	研究室等所在	1号館4階		
単位数	1 (単位認定責任者: 小山 尋明)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

競技スポーツの基礎的トレーニングを理解し、必要なトレーニングを自ら実践できるよう知識を身につける。

授業の位置づけ

営学科のDP(4)(5)に対応する。  
 社会福祉学科のDP(4)(5)に対応する。  
 デザイン学科のDP(4)に対応する。  
 建築学科のDP(4)に対応する。

到達目標

競技及び個人の特性を理解し、安全にトレーニングできる。

授業全体の内容と概要

競技スポーツに必要な基礎的トレーニングを実践し、自らの競技力向上のために必要なトレーニングを見つけ出し実践する。

授業の方法

プリントなど資料にて説明したのち、トレーニング室及び体育館などで実際にトレーニング(フィジカルとメンタル)をする。なお、今回の授業において前回の反省と確認を行う。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

男子バスケットボール部に所属の学生を対象とする。注意事項等の詳細についてはガイダンスにて説明する。  
 不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	0%	60%	40%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
関心・意欲・態度・判断	積極的に行動し、意欲的に取り組み、安全に細心の注意を払うことができた。	積極的に行動し、意欲的に取り組み、安全に細心の注意を払うことが7割程度できた。	積極的に行動し、意欲的に取り組み、安全に細心の注意を払うことが5割程度できた。	積極的に行動し、意欲的に取り組み、安全に細心の注意を払うことが3割程度できた。	積極的に行動し、意欲的に取り組み、安全に細心の注意を払うことができなかった。
競技及び個人の特性を理解し、安全にトレーニングできる	目標設定の原理、原則、種類とその方法を理解し安全にトレーニングができた。	目標設定の原理、原則、種類とその方法を理解し安全にトレーニングが7割程度できた。	目標設定の原理、原則、種類とその方法を理解し安全にトレーニングが5割程度できた。	目標設定の原理、原則、種類とその方法を理解し安全にトレーニングが3割程度できた。	目標設定の原理、原則、種類とその方法を理解し安全にトレーニングができなかった。
知識・理解	フィジカルとメンタルトレーニングの知識、理解があり、正しく活用ができた。	フィジカルとメンタルトレーニングの知識、理解があり、正しく活用が7割程度できた。	フィジカルとメンタルトレーニングの知識、理解があり、正しく活用が5割程度できた。	フィジカルとメンタルトレーニングの知識、理解があり、正しく活用が3割程度できた。	フィジカルとメンタルトレーニングの知識、理解があり、正しく活用ができなかった。



基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: BAS001003)				
授業担当者(所属・職名)	小山 尋明(建築学科・准教授)	研究室等所在	1号館4階		
単位数	1 (単位認定責任者: 小山 尋明)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス(シラバス説明)。	事前にシラバスを読んで確認しておく(45分)	ガイダンスの内容を理解しておく(45分)
2	トレーニング実践 1 (フィジカルとメンタル)	トレーニングの基礎と原則を確認しておく(45分)	トレーニングの基礎と原則を理解しておく(45分)
3	トレーニング実践 2 (フィジカルとメンタル)	トレーニングの基礎と原則を確認しておく(45分)	トレーニングの基礎と原則を理解しておく(45分)
4	トレーニング実践 3 (フィジカルとメンタル)	トレーニングの基礎と原則を確認しておく(45分)	トレーニングの基礎と原則を理解しておく(45分)
5	トレーニング実践 4 (フィジカルとメンタル)	トレーニングの基礎と原則を確認しておく(45分)	トレーニングの基礎と原則を理解しておく(45分)
6	トレーニング実践 5 (フィジカルとメンタル)	トレーニングの基礎と原則を確認しておく(45分)	トレーニングの基礎と原則を理解しておく(45分)
7	トレーニング実践 6 (フィジカルとメンタル)	トレーニングの基礎と原則を確認しておく(45分)	トレーニングの基礎と原則を理解しておく(45分)
8	トレーニング実践 7 (フィジカルとメンタル)	トレーニングの基礎と原則を確認しておく(45分)	トレーニングの基礎と原則を理解しておく(45分)
9	トレーニング実践 8 (フィジカルとメンタル)	トレーニングの基礎と原則を確認しておく(45分)	トレーニングの基礎と原則を理解しておく(45分)
10	トレーニング実践 9 (フィジカルとメンタル)	トレーニングの基礎と原則を確認しておく(45分)	トレーニングの基礎と原則を理解しておく(45分)
11	トレーニング実践 1.0 (フィジカルとメンタル)	トレーニングの基礎と原則を確認しておく(45分)	トレーニングの基礎と原則を理解しておく(45分)
12	トレーニング実践 1.1 (フィジカルとメンタル)	トレーニングの基礎と原則を確認しておく(45分)	トレーニングの基礎と原則を理解しておく(45分)
13	トレーニング実践 1.2 (フィジカルとメンタル)	トレーニングの基礎と原則を確認しておく(45分)	トレーニングの基礎と原則を理解しておく(45分)
14	トレーニング実践 1.3 (フィジカルとメンタル)	トレーニングの基礎と原則を確認しておく(45分)	トレーニングの基礎と原則を理解しておく(45分)
15	トレーニング実践 1.4 (フィジカルとメンタル)	トレーニングの基礎と原則を確認しておく(45分)	トレーニングの基礎と原則を理解しておく(45分)
16	振り返りと確認	内容を確認し理解を深めておくこと(45分)	専門用語の意味を理解しておくこと(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: BAS001003)				
授業担当者(所属・職名)	宮嶋 達也(デザイン学科・教授)	研究室等所在	2号館4階		
単位数	1 (単位認定責任者: 宮嶋 達也)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示板などを参照				

概要

履修目標

デザインを通し自由な発想でプランニングからデザイン制作まで地域で必要とされることをゼミ活動で、できる限り一貫して実践することを目標とする。自らデザインした形を地域社会の中に残し貢献する。地域との取り組みに自分の創作意欲を掻き立てながらどんなことができるのか、地域イベントやワークショップなどに企画参加し、自ら学び、考え、そして楽しく活動する。(昨年度の主活動: 食品パッケージデザイン、イベントポスター、くるるの杜イベント企画、企業のピクトグラム作成、農産物直売所のPOP、企業ロゴマーク、各イベントや幼稚園施設などでのデザインワークショップなど)

授業の位置づけ

経営学科のDP(2)、(5)に対応する。  
福祉学科のDP(2)、(4)に対応する。  
デザイン学科のDP(2)、(3)、(4)に対応する。  
建築学科のDP(2)、(4)に対応する。

到達目標

- (1) 制作活動を通して何を学ぶのか、各自の問題意識を明確にすることができる。
- (2) 適切なコミュニケーションを取りながら、他者との関わりをもつことができる。
- (3) 活動経験を振り返り、今後進めていく上での自己の課題を設定することができる。

授業全体の内容と概要

授業では、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等のアクティビティを多く取り入れる。各自が問題意識を持ち、考察結果などをグループ全体で共有しながら、目標達成に向けて活動をする。地域との取り組みに自分の好きなデザインを交えながら、どんなことができるのか考え楽しく活動する

授業の方法

グループワークを中心とした活動が多いため、一人ひとりが自主性を持ち、他人任せになるようなことがないように、常に問題意識を持ち、議論しながら問題解決し、積極的に活動に励む。授業では、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等のアクティビティを多く取り入れる。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	○	PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

受講定員15名  
受講条件  
本ゼミを希望する学生は必ず活動内容の説明を聞きに選択志望する前に研究室へ来ること。  
受講に関して以下の心構えがある学生を条件といたします。  
社会に役立って達成感を得たり、自分に自信をつけたい人  
やる気があり、最後まで活動をやり通す気力を持ち合わせている人  
協力し合いながら目標に向かい活動を成功させる意気込みがある人  
不満の事が起きた際にオンライン授業を実施する場合があります。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	50%	30%	0%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
積極性、社会理解	積極的にアイデアを出し、採用された。他人の発言を聞き、積極的に意見した。	積極的にアイデアを出した。他人の発言を聞き、十分な理解に努めた意見した。	それなりにアイデアを出した。他人の発言を聞き、十分な程度意見した。	アイデアを殆ど出せなかった。他人の意見をあまり理解できなかった。	アイデアを出せなかった。他人の意見を殆ど理解できなかった。
課題解決能力と創造性	仕事を的確に発見し、進め方を共有しあいながら適切に検討し、実行できた。	仕事を進んで発見し、進め方を適切に検討し、実行できた。	仕事を発見し、進め方を検討し、ある程度実行できた。	仕事をあまり発見できず、依頼されたことだけ実行できた。	仕事を発見できず、依頼されたことも、ほとんど実行できなかった。
コミュニケーション能力と行動力	他者をリードする態度で積極的に活動に取り組み、高いコミュニケーション能力と行動力があった。	自主的・協働的に活動に取り組み、コミュニケーション能力や行動力があった。	自らの考えでアクションを起すことはあまりないが、必要なコミュニケーション能力や行動力はあった。	自らの考えでアクションを起すことは最低限度のコミュニケーション能力や行動力はあった。	自らの考えでアクションを起すことができない。最低限度のコミュニケーション能力や行動力もほとんどなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: BAS001003)				
授業担当者(所属・職名)	宮嶋 達也(デザイン学科・教授)	研究室等所在	2号館4階		
単位数	1 (単位認定責任者: 宮嶋 達也)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション シラバスの説明	演習の準備 シラバスの熟読(45分)	演習内容を確認して理解を深める(45分)
2	Planning1	事前に作業しておくなどの準備(45分)	演習内容を確認して理解を深める(45分)
3	Planning2	事前に作業しておくなどの準備(45分)	演習内容を確認して理解を深める(45分)
4	Planning3	事前に作業しておくなどの準備(45分)	演習内容を確認して理解を深める(45分)
5	Research activities 1	事前に作業しておくなどの準備(45分)	演習内容を確認して理解を深める(45分)
6	Research activities 2	事前に作業しておくなどの準備(45分)	演習内容を確認して理解を深める(45分)
7	Research activities 3	事前に作業しておくなどの準備をすること(45分)	演習内容を確認して理解を深める(45分)
8	Creative activities 1	事前に作業しておくなどの準備(45分)	演習内容を確認して理解を深める(45分)
9	Creative activities 2	事前に作業しておくなどの準備をすること(45分)	演習内容を確認して理解を深める(45分)
10	Creative activities 3	事前に作業しておくなどの準備(45分)	演習内容を確認して理解を深める(45分)
11	Creative activities 4	事前に作業しておくなどの準備(45分)	演習内容を確認して理解を深める(45分)
12	Creative activities 5	事前に作業しておくなどの準備(45分)	演習内容を確認して理解を深める(45分)
13	presentation	事前に作業しておくなどの準備(45分)	演習内容を確認して理解を深める(45分)
14	presentation	事前に作業しておくなどの準備をすること(45分)	演習内容を確認して理解を深める(45分)
15	レポート・前期活動のまとめ	事前に作業しておくなどの準備(45分)	演習内容を確認して理解を深める(45分)
16	前期活動における総括と振り返り	事前に作業しておくなどの準備(45分)	演習内容を確認して理解を深める(45分)

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナル A (科目ナンバリング: BAS001003)				
授業担当者(所属・職名)	横山 哲也(建築学科・准教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者: 横山 哲也)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示板等を参照				

概要

<b>履修目標</b>
学生が大学で必要となる数学の基礎知識及び2年のゼミナルで行うSPIに必要な知識及び思考過程をしっかりと身につける。

<b>授業の位置づけ</b>
経営学科のDP(2)に対応する。 社会福祉学科のDP(2)に対応する。 デザイン学科のDP(2)に対応する。 建築学科のDP(2)に対応する。

<b>到達目標</b>
大学で必要となる数学の基礎知識及び2年のゼミナルで行うSPIに必要な知識及び思考過程を修得できる。

<b>授業全体の内容と概要</b>
数から始まり数の計算及び式の計算等を練習問題を計算することによって、数学の問題を解く実感及びSPIに必要な数学の知識をつかませる。

<b>授業の方法</b>
授業は、板書で実施し、板書にて説明しながら、演習を行う。課題は学生が提出後、解説を行う。

<b>アクティブラーニングの実施方法</b>																								
<table border="1"> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td>プレゼンテーション</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>グループワーク</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>フィールドワーク</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td>模範授業</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>ロールプレイ</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>調査学習</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td>ディスカッション</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>実験・実習・実技</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>双方向授業</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL	<input type="checkbox"/>	模範授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業	<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)
<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL																	
<input type="checkbox"/>	模範授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業																	
<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)																	

<b>履修上の注意事項</b>
ゼミナルの内容を十分に理解するために予習・復習を怠らず、また講義や演習に対して積極的に取り組むこと。レポート等の提出方法についてはゼミナル時間中に指示するので、ゼミナルを欠席することのないよう留意すること。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
---

<b>資格指定科目</b>

評価方法・基準

<b>評価前提条件</b>
単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上

<b>評価方法</b>												
<table border="1"> <thead> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0%</td> <td>50%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>30%</td> <td>20%</td> </tr> </tbody> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	50%	0%	0%	30%	20%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	50%	0%	0%	30%	20%							

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
数学及びSPIに必要な基礎知識の修得	数学及びSPIに必要な基礎知識及び計算過程(思考過程)が100%理解できた。	数学及びSPIに必要な基礎知識及び計算過程(思考過程)が90%理解できた。	数学及びSPIに必要な基礎知識及び計算過程(思考過程)が80%理解できた。	数学及びSPIに必要な基礎知識及び計算過程(思考過程)が70%理解できた。	数学及びSPIに必要な基礎知識及び計算過程(思考過程)が70%も理解できなかった。
計算過程において必要な記述内容の修得	演習問題は計算過程を100%記述したレポートになった。	演習問題は計算過程を90%記述したレポートになった。	演習問題は計算過程を80%記述したレポートになった。	演習問題は計算過程を70%記述したレポートになった。	演習問題は計算過程を70%も記述したレポートにならなかった。
思考過程のプレゼンテーション	筋道の立った思考過程がプレゼンテーションを通して明確に出来た。また、質問にも正確に対応した。	筋道の立った思考過程がプレゼンテーションを通して明確に出来た。	筋道の立った思考過程がプレゼンテーションを通して出来た。	一部筋道の立った思考過程がプレゼンテーションを通して出来た。	筋道の立った思考過程のプレゼンテーションが出来なかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: BAS001003)				
授業担当者(所属・職名)	横山 哲也(建築学科・准教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者: 横山 哲也)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス及びシラバスの説明	シラバスを読んでおくこと(45分)	今日のゼミナールの再確認(45分)
2	数	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(45分)	今日のゼミナールの再確認(45分)
3	整数	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(45分)	今日のゼミナールの再確認(45分)
4	分数	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(45分)	今日のゼミナールの再確認(45分)
5	小数	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(45分)	今日のゼミナールの再確認(45分)
6	展開(1)	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(45分)	今日のゼミナールの再確認(45分)
7	展開(2)	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(45分)	今日のゼミナールの再確認(45分)
8	因数分解(1)	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(45分)	今日のゼミナールの再確認(45分)
9	因数分解(2)	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(45分)	今日のゼミナールの再確認(45分)
10	因数分解(3)	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(45分)	今日のゼミナールの再確認(45分)
11	平方根(1)	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(45分)	今日のゼミナールの再確認(45分)
12	平方根(2)	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(45分)	今日のゼミナールの再確認(45分)
13	複素数	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(45分)	今日のゼミナールの再確認(45分)
14	分数式(1)	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(45分)	今日のゼミナールの再確認(45分)
15	分数式(2)	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(45分)	今日のゼミナールの再確認(45分)
16	まとめ及び要点のフィードバック	総復習(45分)	総理解(45分)

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナル A (科目ナンバリング: BAS001003)				
授業担当者(所属・職名)	長森 正(建築学科・教授)	研究室等所在	アトリエ棟 1階		
単位数	1 (単位認定責任者: 長森 正)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

建築にはいろいろな分野で数学が深く関わっており、建築の専門的な内容に入る前に、基本的な数学の知識の確認が必要になります。建築に関連する数学の基礎知識を確認し、建築分野にとどのように関係するのかを理解する。

授業の位置づけ

経営学科のDP(1)、(2)、に対応する。  
 社会福祉学科のDDPP(1)、(2)に対応する。  
 デザイン学科のDDPP(1)、(2)に対応する。  
 建築学科のDDPP(1)、(2)に対応する。

到達目標

数学を学習しながら建築の基礎知識を身につけることができ、専門的な内容にスムーズに入ることができる。

授業全体の内容と概要

建築に關係する面積・三角関数・ベクトル・力などについて学習、演習問題を解きながら理解する。

授業の方法

授業は板書やプロジェクターを利用して講義形式で行う。また、練習問題を時間内に実施し、フィードバックとして回答の解説を行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	○ 双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

配布資料により授業を進めるので、休まず出席すること。適宜、演習問題を課す。  
 不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は10回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	50%	0%	0%	50%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
単位・面積・体積及び数式に関する基礎知識	単位・面積・体積及び数式などの内容がほぼ理解でき、他の人に説明できた。	単位・面積・体積及び数式に関する内容が80%理解できた。	単位・面積・体積及び数式に関する内容が70%理解できた。	単位・面積・体積及び数式に関する内容が60%理解できた。	単位・面積・体積及び数式に関する内容が理解できなかった。
三角関数・ベクトルに関する基礎知識	三角関数・ベクトルに関する内容がほぼ理解でき、他の人に説明できた。	三角関数・ベクトルに関する内容が80%理解できた。	三角関数・ベクトルに関する内容が70%理解できた。	三角関数・ベクトルに関する内容が60%理解できた。	三角関数・ベクトルに関する内容が理解できなかった。
演習問題の理解	演習問題がほぼ解答できた。	演習問題の80%を解答できた。	演習問題の70%を解答できた。	演習問題の60%を解答できた。	演習問題の解答ができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: BAS001003)				
授業担当者(所属・職名)	長森 正(建築学科・教授)	研究室等所在	アトリエ棟1階		
単位数	1 (単位認定責任者: 長森 正)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『図説やさしい建築数学』	今村仁美・大谷 翔	学芸出版社			
2	『スタディスキルズ・トレーニング』	吉原恵子他	実教出版			
3						
4						
5						

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス及びシラバスの説明	シラバスを確認する(45分)	ガイダンス及びシラバスの理解(45分)
2	ウォーミングアップ(1)自己紹介	配布資料を予習する(45分)	配布資料を確認し復習する(45分)
3	ウォーミングアップ(2)大学とは?	配布資料を予習する(45分)	配布資料を確認し復習する(45分)
4	ウォーミングアップ(3)キャリアとは?	配布資料を予習する(45分)	配布資料を確認し復習する(45分)
5	単位・大きさの基礎知識 量・長さ・広さ	配布資料を予習する(45分)	配布資料を確認し復習する(45分)
6	割合・平均値・単位	配布資料を予習する(45分)	配布資料を確認し復習する(45分)
7	演習問題(1)	配布資料を予習する(45分)	配布資料を確認し復習する(45分)
8	面積と体積、不等式と大小、比と比例式	配布資料を予習する(45分)	配布資料を確認し復習する(45分)
9	基本的な数式	配布資料を予習する(45分)	配布資料を確認し復習する(45分)
10	練習問題(2)	配布資料を予習する(45分)	配布資料を確認し復習する(45分)
11	三角関数(1)	配布資料を予習する(45分)	配布資料を確認し復習する(45分)
12	三角関数(2)	配布資料を予習する(45分)	配布資料を確認し復習する(45分)
13	練習問題(3)	配布資料を予習する(45分)	配布資料を確認し復習する(45分)
14	ベクトル	配布資料を予習する(45分)	配布資料を確認し復習する(45分)
15	練習問題(4)	配布資料を予習する(45分)	配布資料を確認し復習する(45分)
16	まとめ及び要点のフィードバック	総復習(45分)	総復習及び配布資料の整理(45分)

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: BAS001003)				
授業担当者(所属・職名)	向井 正伸(建築学科・専任講師)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者: 向井 正伸)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	計画設計等の実務経験を活かし、課題解決法や様々な事例を紹介する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

都市や建築を構想することは、行政や都市計画家、建築家だけの仕事ではない。住民や地域に係る皆が、より良い暮らしを考え実践した積み重ねが都市を形作る。ゼミでは、より良い未来を提案するための基礎を身につけることを目標とする。ゼミでは都市や建築を空間的な問題として扱う。

授業の位置づけ

「経営学科」のDP(2)(4)に対応する。  
 「社会福祉学科」のDP(2)(4)に対応する。  
 「デザイン学科」のDP(2)(4)に対応する。  
 「建築学科」のDP(1)(2)(3)(4)(5)に対応する。

到達目標

都市や建築の変遷やその社会的背景を理解し、都市や建築について自分なりの意見をもつことができる。

授業全体の内容と概要

前半では都市や建築が時代とともにどのように変化し今に至ったかを学ぶ。特に現代都市や建築の骨格とも言える機能主義に至るまでの過程を学び、都市や建築が抱える課題を理解する。適宜中間テスト又はレポートを実施し、理解度を確認する。後半では主に北広島市及び近隣都市を中心に都市や建築について調査分析を行い、都市空間をアップデートする提案を構想し、表現・発表を行う。  
 SDGs 3.すべての人に健康と福祉を SDGs 11.住み続けられるまちづくりを SDGs 12.つくる責任 つかう責任

授業の方法

前半ではパワーポイントを用いた講義を行う。資料として適宜プリントを配布する。重要だと思われるキーワードは必ずメモし、示された図式等はノートにスケッチをすることが望まれる。参考となる書籍・建築等を授業中に適宜紹介する。後半では各自調査分析等を行う。パソコンを使う場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

能動的な学習姿勢を望む。授業中に引用された建築、書籍に積極的に触れること。20分以上の遅刻は欠席とする。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	20%	40%	20%	10%	10%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
理解度	授業内容を越えた自主的な学習を行なった。	授業内容を理解し、自主的な学習を行なった。	授業内容をほぼ理解し、自主的な学習を行なった。	授業内容をほぼ理解し、自分なりの意見をもつことができた。	授業内容を理解しなかった。
調査・課題解決能力	独自の視点で調査し、独自の手法で課題を解決することができた。	独自の視点で調査し、独自の手法で課題を解決することができた。	独力で調査し、課題を解決することができた。	アドバイスをもち、調査・課題を解決することができた。	アドバイスがあっても自発的に課題を解決することができなかった。
表現力	構想したものを、独自性のある手法で表現し、考えを第三者に共感させることができた。	構想したものを、独自性のある手法で表現し、考えを第三者に理解させることができた。	構想したものを、独自の工夫で表現することができた。	構想したものを表現することができた。	構想したものを表現できなかった。



基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: BAS001003)				
授業担当者(所属・職名)	向井 正伸(建築学科・専任講師)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者: 向井 正伸)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 計画設計等の実務経験を活かし、課題解決法や様々な事例を紹介する。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを事前に把握する(45分)	紹介した書籍・建築事例等について調べる(45分)
2	さまざまな都市・建築空間	参考書籍等を用いて予習する(45分)	講義内容を復習し紹介した書籍・建築事例等について調べる(45分)
3	建築都市の歴史1(古代)	参考書籍等を用いて予習する(45分)	講義内容を復習し紹介した書籍・建築事例等について調べる(45分)
4	建築都市の歴史2(古代・中世)	参考書籍等を用いて予習する(45分)	講義内容を復習し紹介した書籍・建築事例等について調べる(45分)
5	建築都市の歴史3(近世)	参考書籍等を用いて予習する(45分)	講義内容を復習し紹介した書籍・建築事例等について調べる(45分)
6	建築都市の歴史4(近代 パリ大改造)	参考書籍等を用いて予習する(45分)	講義内容を復習し紹介した書籍・建築事例等について調べる(45分)
7	建築都市の歴史4(近代 田園都市)	参考書籍等を用いて予習する(45分)	講義内容を復習し紹介した書籍・建築事例等について調べる(45分)
8	建築都市の歴史5(近代 モダニズム)	参考書籍等を用いて予習する(45分)	講義内容を復習し紹介した書籍・建築事例等について調べる(45分)
9	建築都市の歴史6(現代)	参考書籍等を用いて予習する(45分)	講義内容を復習し紹介した書籍・建築事例等について調べる(45分)
10	現代のまちを考える	参考書籍等を用いて予習する(45分)	講義内容を復習し紹介した書籍・建築事例等について調べる(45分)
11	グループワーク 説明	対象を事前に調べる(45分)	エスキスを反映する(45分)
12	グループワーク 調査	対象を事前に調べる(45分)	エスキスを反映する(45分)
13	グループワーク 作業	対象を事前に調べる(45分)	エスキスを反映する(45分)
14	グループワーク 作業	対象を事前に調べる(45分)	エスキスを反映する(45分)
15	グループワーク 発表	プレゼンテーションをまとめる(45分)	発表を自己評価する(45分)
16	まとめ及び振り返りテストの実施 授業改善アンケートの実施	今までの授業を振り返る(45分)	学習を振り返り、自己評価を行う(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目		対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	前期		授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: BAS001003)					
授業担当者(所属・職名)	高橋 真弥(国際交流センター・センター員)・佐藤 恵利(国際交流センター)		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	1 (単位認定責任者: 高橋 真弥・佐藤 恵利)		CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		基礎ゼミ A		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、国際交流センターで対応。					

概要

履修目標

日本語でのレポートやレジュメの書き方、PPTの作成、授業内発表など、学生が大学生活を送るうえで必要なスキルを身につける。また、授業内容は日本に関するにとらえず日本国外の文化・歴史も例にあげ、幅広いジャンルで学ぶ。

授業の位置づけ

経営学科のDP(2)(4)に対応する。  
 社会福祉学科のDP(2)(4)(5)に対応する。  
 デザイン学科のDP(2)(4)に対応する。  
 建築学科のDP(2)(4)に対応する。

到達目標

レポート等の課題を通して文章作成の基礎を習得し、授業内の発表を通して説明や質疑応答といったプレゼンテーション能力を身につける。

授業全体の内容と概要

担当教員が様々なテーマのもと、各発表形式(レポート、レジュメ、PPT)を使用して講義を行う。それを参考に、学生自身が指定されたテーマに沿って情報収集し、発表を行う。授業内容は時事問題やエンタメ、サブカル、日本や日本以外の国の文化比較など、様々なジャンルに渡る。

授業の方法

教科書の購入はなく、授業内で使用する教材は担当教員が準備する。基本的には教員による各テーマに合わせた講義後、翌週から学生の発表を行うものとし、学生には情報収集や課題作成の時間をしっかり与える。受講人数にもよるが、1回の授業で3人程度発表し、担当教員や学生からの質疑応答の時間を取る。なお、授業内容は学生の興味に合わせて柔軟に対応するものとし、学生から要望があった場合には応えるようにする。レポートなどの課題提出時には日本語のチェックも行い、修正したものを学生にフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

遅刻、欠席をしないこと。30分の遅刻は欠席とみなす。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

全授業回数16回のうち、単位認定に必要な最低出席回数は13回以上とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	40%	40%	0%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	学修した知識・技能を確実に修得するとともに、それらに関連した知識・技能についても獲得した。	学修した知識・技能を確実に修得した。	学修した知識・技能のすべてを修得することはできなかった。	学修した知識・技能を修得したが最低限容認できるレベルにとどまった。	学修した真面目に取り組まなかった。
思考力・判断力・表現力等	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては、求められるレベルを達成した。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては、求められるレベルには達しなかった。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まなかった。
主体性・多様性・協働性	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協働性に関しては求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては、求められるレベルを達成した。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては達しなかった。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: BAS001003)				
授業担当者(所属・職名)	高橋 真弥(国際交流センター・センター員)・佐藤 恵利(国際交流センター)	研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	1 (単位認定責任者: 高橋 真弥・佐藤 恵利)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 基礎ゼミ A			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション(シラバス、授業、評価の説明)、自己紹介・授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読む・自己紹介の練習(45分)	授業内容復習(45分)
2	教員による講義 日本の時事問題をレジュメ形式で紹介、レジュメの書き方を指導	資料の確認(45分)	授業内容復習(45分)
3	学生による発表・質疑応答 レジュメを作成し、自分で選んだニュース(国内外に限らない)を紹介	事前にレジュメを作成し、発表の準備を行う(45分)	授業内容復習(45分)
4	学生による発表・質疑応答 レジュメを作成し、自分で選んだニュース(国内外に限らない)を紹介	事前にレジュメを作成し、発表の準備を行う(45分)	授業内容復習(45分)
5	学生による発表・質疑応答 レジュメを作成し、自分で選んだニュース(国内外に限らない)を紹介	事前にレジュメを作成し、発表の準備を行う(45分)	授業内容復習(45分)
6	教員による講義 旅行をテーマにPPTを使用したプレゼンの指導	資料の確認(45分)	授業内容復習(45分)
7	学生による発表・質疑応答 PPTを作成し、発表	事前にPPTを作成し、発表の準備を行う(45分)	授業内容復習(45分)
8	学生による発表・質疑応答 PPTを作成し、発表	事前にPPTを作成し、発表の準備を行う(45分)	授業内容復習(45分)
9	学生による発表・質疑応答 PPTを作成し、発表	事前にPPTを作成し、発表の準備を行う(45分)	授業内容復習(45分)
10	教員による講義 テーマを決め、実際に書いたレポートを参考に、レポートの書き方を指導	資料の確認(45分)	授業内容復習(45分)
11	学生による発表・質疑応答 レポートを作成し、発表	事前にレポートを作成し、発表の準備を行う(45分)	授業内容復習(45分)
12	学生による発表・質疑応答 レポートを作成し、発表	事前にレポートを作成し、発表の準備を行う(45分)	授業内容復習(45分)
13	学生による発表・質疑応答 レポートを作成し、発表	事前にレポートを作成し、発表の準備を行う(45分)	授業内容復習(45分)
14	教員による講義(時事問題、文化紹介、文化比較等)	資料の確認(45分)	授業内容復習(45分)
15	教員による講義(時事問題、文化紹介、文化比較等)・授業改善アンケートの実施	資料の確認(45分)	授業内容復習(45分)
16	前期学習範囲の総括および反省・最終レポートの提出	最終レポート提出の準備(45分)	授業内容復習(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: BAS001003)				
授業担当者(所属・職名)	千葉 聡美(社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者: 千葉 聡美)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場や教育行政職員としての経験を活かして教職に関連する指導を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標
教員になるために必要な知識・技能、思考力・判断力・表現力等の能力及び意欲を身に付ける。

授業の位置づけ

経営学科のDP(2)(4)に対応する。  
 社会福祉学科のDP(2)(4)(5)に対応する。  
 デザイン学科のDP(2)(4)に対応する。  
 建築学科のDP(2)(4)に対応する。

到達目標

教育制度や内容についてその概要を理解することができる。  
 教育の諸問題についてその概要を理解することができる。  
 教員になるために必要な事項についてその概要を理解することができる。

授業全体の内容と概要

各回の授業テーマについて考える  
 教育にかかわる法令、中央教育審議会答申、学習指導要領などの通読  
 教育に関する基本的事項についての調べ学習  
 教員として求められる一般教養及び教職教養の学習  
 学校視察やボランティア活動等への参加  
 漢字検定等への参加  
 「SDG4.質の高い教育をみんなに」の関連科目

授業の方法

教育にかかわる法令、中央教育審議会答申、学習指導要領などを通読し、その内容にかかわって説明や質疑応答及びディスカッションを行います。板書や教材提示装置を活用する。教育に関するキーワードについての調べ学習及びその発表を行う。  
 教員として求められる一般教養及び教職教養について演習を行う。課題や発表等に対する評価のフィードバックや要望等への対応は口頭で行う。  
 Microsoft Teams/Formsの諸機能を活用し、意見交換、質問、小テスト、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

教職課程を履修し、大学卒業後に必ず教職に就く強い希望と意思を持った学生を対象とする。  
 サブメジャープログラムの「教育採用試験対策プログラム」の履修を条件とする。  
 漢字検定取得に真剣に取り組むこと。  
 各自、ノートを用意すること。(ルースリーフは不可)  
 プリント類はプラットフォームに格納し、毎回授業に持参すること。  
 ○不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は11回。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	20%	0%	80%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	学修した知識・技能を確実に修得するとともに、それらに関連した知識・技能についても習得することができた。	学修した知識・技能を十分に修得することができた。	学修した知識・技能を修得することができた。	学修した知識・技能を修得したが、最低限容認できるレベルにとどまった。	学修に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。
思考力・判断力・表現力等	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを十分に達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。
主体性・多様性・協働性	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを十分に達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: BAS001003)				
授業担当者(所属・職名)	千葉 聡美(社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者: 千葉 聡美)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 学校現場や教育行政職員としての経験を活かして教職に関連する指導を行う。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	※別途購入案内する。a					
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	※別途購入案内する。a					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション(シラバスの説明含む) 自己紹介(教員になるための抱負を含む)	教職志望の理由をまとめること。(45分)	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
2	教員になるために必要なことを考える 自分の出合った先生 ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
3	教員になるために必要なことを考える 意見交流 ディスカッション 学修計画の作成	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
4	教員という仕事について考える 体験から考える ディスカッション 一般教養及び教職教養の演習	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
5	教員という仕事について考える 意見交流 ディスカッション 一般教養及び教職教養の演習	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
6	教員に求められる資質能力について考える 各自の考えのまとめ 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
7	教員に求められる資質能力について考える 意見交流 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
8	子供たちを取り巻く状況を知る 各自の考えのまとめ 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
9	子供たちを取り巻く状況を知る 意見交流 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション 一般教養及び教職教養の演習	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
10	子どもたちに身に付けさせるべき資質・能力について考える 各自の考えのまとめ 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
11	子どもたちに身に付けさせるべき資質・能力について考える 意見交流 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
12	子どもたちに身に付けさせるべき資質・能力について考える 意見の整理 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
13	学習指導要領について考える 学習指導要領とは何か 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
14	学習指導要領について考える 学習指導要領の歴史 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
15	学習指導要領について考える 現在の学習指導要領 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
16	前期の学修の総括及び反省	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	1年間の学修を振り返り、自己評価を行うこと。(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: BAS001003)				
授業担当者(所属・職名)	河田 一郎(経営学科・特任教授)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	1 (単位認定責任者: 河田 一郎)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	大学入試センターの問題作成委員としての経験を活かしてドイツ語教育にかかわる指導を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示板などを参照				

概要

履修目標
建築・絵画・音楽などウィーン文化を考察し、ウィーンでの研修(希望者のみ)の準備を行う。また、このゼミナールでは就職活動時に必要になるスキルの修得を早い段階から始める。キャンパス・ライブを楽しみながら、自由な発想の展開、自己実現などをテーマに学びを広げる。

授業の位置づけ
経営学科のDP(2)(4)(5)に対応する。 社会福祉学科のDP(2)(4)(5)に対応する。 デザイン学科のDP(2)(4)(5)に対応する。 建築学科のDP(2)(4)(5)に対応する。

到達目標
ドイツ語圏への旅行、留学の際に、困らない程度の日常会話を身につける。

授業全体の内容と概要
ウィーンといえば、クラシック音楽である。毎回、クラシック音楽をBGMに、ゆったりとしたペースで授業を行う。ウィーン文化・見どころについてプリントを配布し、説明を行う。各自のテーマが決まった時点で、少しずつテーマについて調べ、ゼミ終了時にレポートを提出してもらう。

授業の方法
授業では板書をしながら、ドイツ語の文法・文化を紹介する。ドイツのDVD等も見て講義形式で行う。また、適宜確認テストを実施し、フィードバックとして解説を丁寧に行う。

アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td>プレゼンテーション</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>グループワーク</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>フィールドワーク</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td>模範授業</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>ロールプレイ</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>調査学習</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td>ディスカッション</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>実験・実習・実技</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>双方向授業</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL	<input type="checkbox"/>	模範授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業	<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)
<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL																	
<input type="checkbox"/>	模範授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業																	
<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)																	

履修上の注意事項
不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準												
評価前提条件												
単位認定に必要な出席回数は、13回以上。												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>20%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>80%</td> <td>0%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	20%	0%	0%	80%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	20%	0%	0%	80%	0%							

ルーブリック																													
<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> <tr> <td>知識・技能</td> <td>学修した知識・技能を確実に修得し、求められるレベルを大きく超えた。</td> <td>学修した知識・技能を確実に修得した。</td> <td>学修した知識・技能をほぼ修得した。</td> <td>学修した知識・技能を修得したが、最低限確認できるレベルにとどまった。</td> <td>学修した知識を修得できなかった。</td> </tr> <tr> <td>思考力・判断力・表現力</td> <td>与えられた課題に積極的に取り組み、求められるレベルを大きく超えた。</td> <td>与えられた課題に取り組み、求められるレベルを達成した。</td> <td>与えられた課題に取り組み、求められるレベルをほぼ達成した。</td> <td>与えられた課題に取り組みしたが、最低限確認できるレベルにとどまった。</td> <td>与えられた課題に真面目に取り組みなかった。</td> </tr> <tr> <td>主体性・多様性・協働性</td> <td>与えられた課題には積極的に取り組んだ。理解力やプレゼンテーション能力は求められるレベルを大きく超えた。</td> <td>与えられた課題に取り組み、理解力やプレゼンテーション能力は求められるレベルを達成した。</td> <td>与えられた課題に取り組み、求められるレベルをほぼ達成した。</td> <td>与えられた課題に取り組みしたが、最低限確認できるレベルにとどまった。</td> <td>与えられた課題に真面目に取り組みなかった。</td> </tr> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	知識・技能	学修した知識・技能を確実に修得し、求められるレベルを大きく超えた。	学修した知識・技能を確実に修得した。	学修した知識・技能をほぼ修得した。	学修した知識・技能を修得したが、最低限確認できるレベルにとどまった。	学修した知識を修得できなかった。	思考力・判断力・表現力	与えられた課題に積極的に取り組み、求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組み、求められるレベルを達成した。	与えられた課題に取り組み、求められるレベルをほぼ達成した。	与えられた課題に取り組みしたが、最低限確認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組みなかった。	主体性・多様性・協働性	与えられた課題には積極的に取り組んだ。理解力やプレゼンテーション能力は求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組み、理解力やプレゼンテーション能力は求められるレベルを達成した。	与えられた課題に取り組み、求められるレベルをほぼ達成した。	与えられた課題に取り組みしたが、最低限確認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組みなかった。
評価項目		評価基準																											
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
知識・技能	学修した知識・技能を確実に修得し、求められるレベルを大きく超えた。	学修した知識・技能を確実に修得した。	学修した知識・技能をほぼ修得した。	学修した知識・技能を修得したが、最低限確認できるレベルにとどまった。	学修した知識を修得できなかった。																								
思考力・判断力・表現力	与えられた課題に積極的に取り組み、求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組み、求められるレベルを達成した。	与えられた課題に取り組み、求められるレベルをほぼ達成した。	与えられた課題に取り組みしたが、最低限確認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組みなかった。																								
主体性・多様性・協働性	与えられた課題には積極的に取り組んだ。理解力やプレゼンテーション能力は求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組み、理解力やプレゼンテーション能力は求められるレベルを達成した。	与えられた課題に取り組み、求められるレベルをほぼ達成した。	与えられた課題に取り組みしたが、最低限確認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組みなかった。																								

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: BAS001003)				
授業担当者(所属・職名)	河田 一郎(経営学科・特任教授)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	1 (単位認定責任者: 河田 一郎)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	大学入試センターの問題作成委員としての経験を活かしてドイツ語教育にかかわる指導を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	[ガイダンス] 授業の進め方・シラバスの説明。授業改善アンケート結果反映の説明。	シラバスの内容を確認すること。(45分)	授業の内容を復習しておくこと。(45分)
2	[ウィーンの文化・生活について]	前回の授業内容を確認すること。(45分)	授業の内容を復習しておくこと。(45分)
3	[シェーンブルン宮殿について]	前回の授業内容を確認すること。(45分)	授業の内容を復習しておくこと。(45分)
4	[美術史美術館について]	前回の授業内容を確認すること。(45分)	授業の内容を復習しておくこと。(45分)
5	[ベルヴェデーレ宮殿について]	前回の授業内容を確認すること。(45分)	授業の内容を復習しておくこと。(45分)
6	[シュテファン寺院について]	前回の授業内容を確認すること。(45分)	授業の内容を復習しておくこと。(45分)
7	[ウィーン大学について]	前回の授業内容を確認すること。(45分)	授業の内容を復習しておくこと。(45分)
8	[楽友協会について]	前回の授業内容を確認すること。(45分)	授業の内容を復習しておくこと。(45分)
9	[ウィーンの音楽について]	前回の授業内容を確認すること。(45分)	授業の内容を復習しておくこと。(45分)
10	[モーツァルトについて]	前回の授業内容を確認すること。(45分)	授業の内容を復習しておくこと。(45分)
11	[ベートーヴェンについて]	前回の授業内容を確認すること。(45分)	授業の内容を復習しておくこと。(45分)
12	[シューベルトについて]	前回の授業内容を確認すること。(45分)	授業の内容を復習しておくこと。(45分)
13	[ウィーンの建築について]	前回の授業内容を確認すること。(45分)	授業の内容を復習しておくこと。(45分)
14	[セセッションについて]	前回の授業内容を確認すること。(45分)	授業の内容を復習しておくこと。(45分)
15	[ユークラントシュティールについて]	前回の授業内容を確認すること。(45分)	授業の内容を復習しておくこと。(45分)
16	[フンデルトバッサーについて] 授業改善アンケートの実施。	前回の授業内容を確認すること。(45分)	授業の内容を復習しておくこと。(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: BAS001003)				
授業担当者(所属・職名)	大島 康雄(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 大島 康雄)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	各教員がそれぞれの専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。		
オフィスアワー	各教員の研究室前のボードなどを参照。				

概要

履修目標

社会福祉学研究に必要なスキルを習得する。具体的には、社会福祉に関係する様々な事象のうち、自分が関心を持つ事象を探究するためのスキル(問題発見・分析能力の養成・情報文献収集・調査等)を身に付ける。また、ゼミナールことにキャリア支援教育が組まれており、身に付けたスキルを将来に生かす方法を探究する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP(1)(2)(3)(4)(5)に対応する。

到達目標

ソーシャルスキル、グループ方式による作業方法、データの収集や分析・解釈、プレゼン能力の向上、論文作成など、一連の方法を身に付けることが基本となるが、さらに、下記のことについて達成できるようにする。  
 ・各自の関心に基づき社会福祉関連の研究テーマを見つけることができる。  
 ・関連資料の収集・整理を共同作業で行うことができる。  
 ・研究報告及び研究成果のまとめを行うことができる。

授業全体の内容と概要

それぞれのゼミナール担当教員が学生に提示する「基礎テーマ」に沿った形で進められる。  
 「SDG4、質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

各教員の指導方針のもとに行われるので、講義・ゼミナール・実験・制作・見学・調査など、様々な授業形態がとられる。資料等の提示については、板書、資料配布、プレゼンテーションソフトウェア等により行われる。課題等に関するフィードバックはコメントにてフィードバックされる。  
 Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

各担当教員の指示に従い、主体的・積極的な参加に務めること。  
 大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。  
 後期の「基礎ゼミナール B」も、この演習の担当教員が継続して担当する。  
 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位取得の最低出席条件 10 回以上をクリアすること。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	0%	0%	100%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ゼミ研究のテーマを明確になっている。	ゼミ研究のテーマが明確になっている。	ゼミ研究のテーマが明確になっており、そのテーマの今後の研究予定を説明できる。	ゼミ研究のテーマに沿って着手してきている。	ゼミ研究のテーマが明確になっている。	左記の内容が何一つできていない。
研究テーマに関するディスカッションができる。	ディスカッションにおいて、自分の研究テーマの意義と展望、現在の進捗状況を報告でき、尚且つ、他者の発表に的確な助言ができる。	ディスカッションにおいて、自分の研究テーマの意義と展望、現在の進捗状況を報告できる。	ディスカッションにおいて、自分の研究テーマの意義と展望を報告できる。	ディスカッションにおいて、自分の研究テーマを報告できる。	左記の内容が何一つできていない。
自分の研究テーマについてのプレゼンテーションができる。	自分の研究テーマについてのプレゼンにおいて、明確な参考資料を提示でき、報告でき、且つ、周囲を納得させることができ、さらに、他者のプレゼンに対して的確な助言ができる。	自分の研究テーマについてのプレゼンにおいて、明確な参考資料を提示でき、報告でき、且つ、周囲を納得させることができる。	自分の研究テーマについてのプレゼンにおいて、明確な参考資料を提示でき、報告できる。	自分の研究テーマのプレゼンテーションが一応できる。	左記の内容が何一つできていない。



基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: BAS001003)				
授業担当者(所属・職名)	大島 康雄(社会福祉学科・准教授)		研究室等所在	1号館2階	
単位数	1 (単位認定責任者: 大島 康雄)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 各教員がそれぞれの専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	担当教員によるガイダンス(シラバスの説明を含む)	所属研究室選択資料の確認(45分)	配布資料の確認(45分)
2	担当教員による授業2	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
3	担当教員による授業3	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
4	担当教員による授業4	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
5	担当教員による授業5	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
6	担当教員による授業6	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
7	担当教員による授業7	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
8	担当教員による授業8	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
9	担当教員による授業9	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
10	担当教員による授業10	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
11	担当教員による授業11	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
12	担当教員による授業12	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
13	担当教員による授業13	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
14	担当教員による授業14	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
15	担当教員による授業15	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
16	総括	予習課題(45分)	全体振り返り(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: BAS001003)				
授業担当者(所属・職名)	山本 一彦(経営学科・特任教授)	研究室等所在	2号館 8F		
単位数	1 (単位認定責任者: 山本 一彦)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

現代社会での大学生生活の意義や「青年期」の意味、そして「自分が何者なのか」を考えていく「アイデンティティ形成」の重要性を、広い視点での「キャリア形成」としてとらえて、理解を目指す。

授業の位置づけ

経営学科のDP(2)(4)(5)に対応する。  
 社会福祉学科のDP(2)(4)(5)に対応する。  
 テザイン学科のDP(2)(4)(5)に対応する。  
 建築学科のDP(2)(4)(5)に対応する。

到達目標

学生生活や青年期問題、またアイデンティティ形成について、単に知識を習得するだけでなく、自らの問題としてそれらを考える姿勢をもつ。

授業全体の内容と概要

まず、受講者が何を目標として大学生生活を送ろうとしているのか考えることを促し、学生生活が青年期の一時期、さらに、アイデンティティ形成を求められる中で習得されるものであることを考察する。  
 「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業は対話形式と板書筆記を併用して行ない、必要な場合には資料を配布する。テーマによっては小文を提出してもらい、概要を発表する。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	○	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習		反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	○	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

さまざまなテーマについて自らが考える「主体的・能動的」な姿勢での参加が必要である。  
 ・不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針および規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は12回。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	20%	0%	0%	80%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識	学修した知識を確実に修得し、求められる水準を大きく超えた。	学修した知識を確実に修得した。	学修した知識をほぼ修得した。	学修した知識を修得したが、最低限容認できる水準にとどまった。	学修した知識を修得できなかった。
思考力・判断力等	ゼミナール・テーマに積極的に取り組み、求められる水準を大きく超えて考察できていた。	ゼミナール・テーマに積極的に取り組み、求められる水準で考察できていた。	ゼミナール・テーマに取り組み、広く一般的な水準の考察に達していた。	ゼミナール・テーマに取り組み、考察が最低限の水準に留まっていた。	ゼミナール・テーマへの取り組みが不十分で、内容が理解できていなかった。
テーマへの分析力・主体性	ゼミナール・テーマについて、現代社会の中の自己の問題として十分に主体的な分析ができていた。	左記事項について、主体的な分析が概ねできていた。	左記事項について、広く一般的な水準の分析には達していた。	左記事項について分析が最低限の水準に留まっていた。	分析が最低限の水準に届かず、ゼミナール・テーマが理解できていなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: BAS001003)				
授業担当者(所属・職名)	山本 一彦(経営学科・特任教授)	研究室等所在	2号館 8F		
単位数	1 (単位認定責任者: 山本 一彦)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	科目ガイダンス ゼミナール内容等シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスの事前確認(45分)	ガイダンス内容および履修登録結果確認(45分)
2	・大学生活への導き 1. 大学での学びの留意点	学生便覧の確認(45分)	不明点などの確認(45分)
3	・(続き) 2. 4年間で何をを目指すのか?	自分の目的を明確にする(45分)	目的の再確認(45分)
4	・大学生生活と青年期 1. 青年期とは何だろうか?	児童期・成人期とは異なる青年期のイメージ化(45分)	ゼミ内容の復習(45分)
5	・(続き) 1. (続き)	前回のゼミ内容の確認(45分)	ゼミ内容の復習(45分)
6	・(続き) 1. (続き)	前回のゼミ内容の確認(45分)	ゼミ内容の復習(45分)
7	・(続き) 1. (続き)	前回のゼミ内容の確認(45分)	ゼミ内容の復習(45分)
8	・(続き) 2. 現代青年期の問題点	前回のゼミ内容の確認(45分)	ゼミ内容の復習(45分)
9	・(続き) 2. (続き)	前回のゼミ内容の確認(45分)	ゼミ内容の復習(45分)
10	・青年期とアイデンティティ形成	前回のゼミ内容の確認(45分)	ゼミ内容の復習(45分)
11	・(続き)	前回のゼミ内容の確認(45分)	ゼミ内容の復習(45分)
12	・(続き)	前回のゼミ内容の確認(45分)	ゼミ内容の復習(45分)
13	・(続き)	前回のゼミ内容の確認(45分)	ゼミ内容の復習(45分)
14	・(続き)	前回のゼミ内容の確認(45分)	ゼミ内容の復習(45分)
15	・1年次前期学生生活の振り返り 授業改善アンケートの実施	前期すべての学生生活の振り返り(45分)	振り返り内容の再確認(45分)
16	総まとめ	15回分の内容の振り返り(45分)	総まとめの再確認(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: BAS001003)				
授業担当者(所属・職名)	木村 浩紀(社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	未定		
単位数	1 (単位認定責任者: 木村 浩紀)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	特別支援学校や教育行政における勤務経験を活かして、教職に関連する指導を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

教師に求められる能力、使命感や責任感、教育的愛情、教科や教職に関する専門的な知識、実践的指導力、総合的人間力、コミュニケーション能力、ファシリテーション能力等を身に付ける。

授業の位置づけ

経営学科のDP(2)(4)に対応する。  
社会福祉学科のDP(2)(4)(5)に対応する。  
デザイン学科のDP(2)(4)に対応する。  
建築学科のDP(2)(4)に対応する。

到達目標

教育の諸課題についてその概要を理解することができる。  
教師に必要な知識・技能等について、理解を深めることができる。

授業全体の内容と概要

教育の諸課題について、各回のテーマごとに考える。  
教育にかかわる法令、答申などの通読  
教育に関する諸課題についての調べ学習  
教師に求められる教職教育等の学修  
「SDG4・質の高い教育をみんなに」の関連授業

授業の方法

教育にかかわる法令、答申などを通読し、その内容にかかわって説明や質疑応答及びディスカッション等を行う。  
教育課題に関するキーワードについての調べ学習及びその発表を行う。  
教師に求められる教職教育等について演習を行う。  
課題や発表等に対する評価のフィードバックや要望等への対応は口頭で行う。  
板書や教材提示装置を活用する。  
Microsoft Teams/Formsの諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

教職課程を履修し、大学卒業後に必ず教職に就く強い希望と意思を持った学生を対象とする。  
サブメジャープログラムの「教育採用試験対策プログラム」の履修を条件とする。  
各自、ノートを用意すること。(ルーズリーフは不可)  
プリント類はフラットファイルに格納し、毎回授業に持参すること。  
不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、1回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	20%	0%	80%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	学修した知識・技能を確実に修得するとともに、それらに関連した知識・技能についても習得することができた。	学修した知識・技能を十分に修得することができた。	学修した知識・技能を修得することができた。	学修した知識・技能を修得したが、最低限容認できるレベルにとどまった。	学修に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。
思考力・判断力・表現力等	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関するレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを十分に達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。
課題に取り組む意欲・態度	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを十分に達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: BAS001003)				
授業担当者(所属・職名)	木村 浩紀 (社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	未定		
単位数	1 (単位認定責任者: 木村 浩紀)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	特別支援学校や教育行政における勤務経験を活かして、教職に関連する指導を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『別途案内する』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション(シラバスの説明含む) 自己紹介 教育の諸課題について	教育の諸問題についてまとめること。(45分)	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
2	教育の諸課題について考える 個人の考えのまとめ ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
3	教育の諸課題について考える 意見交換 ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
4	教育の諸課題について考える 学修発表 ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
5	教育の諸課題の解決策を考える 1 ・教師の仕事について考える 個人の考えのまとめ	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
6	教育の諸問題の解決策を考える 2 ・教師の仕事について考える 意見交換	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
7	教育の諸課題の解決策を考える 3 ・教師の仕事について考える 学修発表	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
8	教育の諸課題の解決策を考える 1 ・特別な教育的支援を必要とする生徒について (通常の学級・通級指導教室)	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
9	教育の諸課題の解決策を考える 2 ・特別な教育的支援を必要とする生徒について (通常の学級・通級指導教室)	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
10	教育の諸課題の解決策を考える 3 ・特別な教育的支援を必要とする生徒について (特別支援学校)	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
11	教育の諸課題の解決策を考える 4 ・特別な教育的支援を必要とする生徒について (特別支援学校)	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
12	教育の諸課題の解決策を考える 5 ・特別な教育的支援を必要とする生徒について (通常の学級・通級指導教室、特別支援学校)	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
13	教育の諸課題の解決策を考える 1 ・不登校について 個人の考えのまとめ	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
14	教育の諸課題の解決策を考える 2 ・不登校について意見交換 ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
15	教育の諸課題の解決策を考える 3 ・不登校について 学修発表	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
16	前期の学修の総括及び反省	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	1年間の学修を振り返り、自己評価を行うこと。(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: BAS001003)				
授業担当者(所属・職名)	薦田 勇智(経営学科・専任講師)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 薦田 勇智)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー					

概要

履修目標
グループワークを基本とした様々な演習課題や事例研究、学内外のプロジェクト活動を通して「前に踏み出す力」(主体性・働きかけ力・実行力)・「考え抜く力」(課題発見力・計画力・創造力)・「チームで働く力」(発信力・傾聴力・柔軟性・状況把握力・規律性・ストレスコントロール力)を修得する。

授業の位置づけ
・経営学科のDP(3)(4)(5)に対応する。 ・社会福祉学科のDP(3)(4)(5)に対応する。 ・デザイン学科のDP(3)(4)(5)に対応する。 ・建築学科のDP(3)(4)(5)に対応する。

到達目標
・失敗を恐れず、自分にとって困難な場面においても打開することを諦めず、最後まで前向きに取り組むことができる。 ・物事を多角的に分析し、発見した課題に対してどのように解決するかを考え抜くことができる。 ・グループの一員であることの自覚を踏まえ、多様な価値観を持つ人たちの意見を拒絶せず、柔軟な視点で物事を把握、適切な意見の発信を行うことで、グループメンバーとの良好な関係性を構築できる。

授業全体の内容と概要
グループワークを基本とし、様々な演習課題や事例研究、学内外のプロジェクト活動を通して「チームで働く意義」「チームで働く難しさ」「円滑なコミュニケーションの重要性」について体感してもらう。グループワークの成果物として「レポート」、「プレゼンテーション」、「Webサイトデザイン・ムービー」などのいずれかを、グループ単位で制作・発表する。 本科目は、以下のSDGs目標の関連授業である。 ・「SDGs 8.働きがいも経済成長も」 ・「SDGs 9.産業と技術革新の基盤をつくろう」 ・「SDGs 16.平和と公正をすべての人に」 ・「SDGs 17.パートナーシップで目標を達成しよう」 その他、プロジェクト活動のテーマによって、追加されることがある。

授業の方法
グループで取り組む演習課題や事例研究、学内外のプロジェクト活動開始時点では、その目的や最終目標、背景などについて資料等を提示しながら説明する。その後は、各グループでディスカッション等を行いながら、企画・計画の立案、目標設定、予算作成、調査、制作、発表、自己評価、改善、発表といったPDCAサイクルを軸とする一連の工程を行う。都度アドバイスやフィードバックを行い、各グループが円滑に進むようサポートする。 ゼミナール活動において円滑なコミュニケーションを図れるよう、次の学修支援を実施する。 ・授業時間外において質問及び相談があれば、Teamsチャットまたは音声通話にて受け付ける。 ・提示した教材は、全てTeamsにて公開・配信する。 ・グループワークにおいて、適切かつ円滑なコミュニケーションが図れるよう、適宜介入しサポートする。 ・本科目内で最低1回は個人面談を行い、取り組み状況について確認する。

アクティブラーニングの実施方法					
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL		
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業		
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)		

履修上の注意事項
・所属学科の制限は設けない。 ・課題制作(デザイン制作)を行う場合は、全学科対応できるよう考慮した内容とする。 ・評価については、チームでの取り組みの姿勢や態度を重視する。 ・取り組んだ結果、「失敗した」としても減点しない。あくまでも、取り組みの「プロセス(過程)」を評価対象とするので、失敗を恐れず積極的に挑戦すること。 ・不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
・単位認定に必要な最低出席回数は、12回以上とする。 ・遅刻及び早退は20分までを限度とし、それ以上の場合は欠席とみなす。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	30%	0%	70%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
前に踏み出す力	一定の行動について、主体的に取り組み、周囲に働きかけて巻き込むことができた。	一定の行動について、主体的に取り組み、周囲に働きかけて巻き込むことができた。	一定の行動について、主体的に取り組み、少ないながらも周囲に働きかけて巻き込むことができた。	一定の行動について主体的に取り組みることができた。	ほぼ全ての行動について主体的に取り組むことができなかった。
考え抜く力	課題を発見し、見出した解決策の実行に向けた具体的なプロセスを考えることができた。	課題を発見し、見出した解決策の実行に向けた具体的なプロセスを考えることができた。	課題を発見し、解決策を見出すことができた。	課題を発見することができた。	課題を発見することができなかった。
チームで働く力	他の学生の意見をしっかりと傾聴でき、お互いの立場や考え方を尊重して意見集約ができ、反対意見に対しても柔軟に対応することができた。	他の学生の意見をしっかりと傾聴でき、お互いの立場や考え方を尊重して意見集約することができた。	他の学生の意見をしっかりと傾聴することができた。	他の学生の意見を最低限傾聴することができた。	他の学生の意見を傾聴することができなかった。
成果物の完成度と関与(学意欲)	成果物(レポート・プレゼンテーション・デザイン制作)を、チームの一員として十分に関与し、主体的に行動し、完成させることができた。	成果物(レポート・プレゼンテーション・デザイン制作)を、チームの一員として十分に関与し、完成させることができた。	成果物(レポート・プレゼンテーション・デザイン制作)を、チームの一員としてある程度関与し、完成させることができた。	成果物(レポート・プレゼンテーション・デザイン制作)を、チームの一員として関与することができた。	成果物(レポート・プレゼンテーション・デザイン制作)を、チームの一員として関与することができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: BAS001003)				
授業担当者(所属・職名)	薦田 勇智(経営学科・専任講師)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 薦田 勇智)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	【オリエンテーション】 シラバスの説明等	シラバスを確認する(45分)	履修登録結果を確認する(45分)
2	【ビギナーズセミナー】 大学生としての心構え、大学における単位制と学修の考え方について説明する。	学生便覧を読む(45分)	不明な点をまとめ、調べる(45分)
3	【ビギナーズセミナー】 大学生としての心構え、大学における単位制と学修の考え方について説明する。	学生便覧を読む(45分)	不明な点をまとめ、調べる(45分)
4	【コンセンサスゲーム・ディスカッション基礎】 グループディスカッションへの取り組み方について解説する。	グループディスカッションのコツについて調べる(45分)	授業内容をまとめる(45分)
5	【コンセンサスゲーム・演習課題】 グループディスカッションの練習を行う。	前回の授業内容を確認する(45分)	グループディスカッションの反省点を整理する(45分)
6	【コンセンサスゲーム・演習課題】 グループディスカッションの練習を行う。	前回のグループディスカッションの反省点を確認する(45分)	グループディスカッションの反省点を整理する(45分)
7	【コンセンサスゲーム・プレゼンテーション基礎】 プレゼンテーションの目的や構成などについて解説する。	プレゼンテーションのコツについて調べる(45分)	授業内容をまとめる(45分)
8	【コンセンサスゲーム・事例研究】 提示された企業活動の事例について、グループごとに調査・分析を行い、プレゼンテーションを行う。	前回の授業内容を確認する(45分)	プレゼンテーションの反省点をまとめる(45分)
9	【コンセンサスゲーム・事例研究】 提示された企業活動の事例について、グループごとに調査・分析を行い、プレゼンテーションを行う。	前回のプレゼンテーションの反省点を確認する(45分)	プレゼンテーションの反省点をまとめる(45分)
10	【総合演習】 提示された内容について、グループごとに取り組み	これまでの授業内容を確認する(45分)	提示された内容について調べる(45分)
11	【総合演習】 提示された内容について、グループごとに取り組み	前回までの授業内容を確認する(45分)	これまでの授業内容を整理する(45分)
12	【総合演習】 提示された内容について、グループごとに取り組み	前回までの授業内容を確認する(45分)	これまでの授業内容を整理する(45分)
13	【総合演習】 提示された内容について、グループごとに取り組み	前回までの授業内容を確認する(45分)	これまでの授業内容を整理する(45分)
14	【総合演習】 提示された内容について、グループごとに取り組み	前回までの授業内容を確認する(45分)	これまでの授業内容を整理する(45分)
15	【総合演習(成果発表会)】 提示された内容について、グループごとに取り組み た内容について、プレゼンテーションを行う。	前回までの授業内容を確認する(45分)	フィードバックの内容を整理する(45分)
16	【まとめ・総評】	前回までの授業内容を確認する(45分)	フィードバックの内容を整理する(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年（再履修）		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A（再）（科目ナンバリング：BAS001003）				
授業担当者（所属・職名）	河田 一郎（経営学科・特任教授）	研究室等所在	2号館8階		
単位数	1（単位認定責任者：河田 一郎）	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー					

概要

履修目標

各自の興味のあるものをテーマに選び、自由に発想を展開し、レポートにまとめる。就職活動を見据え、常に社会に目を向ける習慣を身につける。

授業の位置づけ

経営学科のDP(2)(4)(5)に対応する。  
 社会福祉学科のDP(2)(4)(5)に対応する。  
 デザイン学科のDP(2)(4)(5)に対応する。  
 建築学科のDP(2)(4)(5)に対応する。

到達目標

社会のさまざまな出来事に対して、自分なりの意見を述べるができる。

授業全体の内容と概要

就職面談を想定し、話題のニュースについて、ディスカッションを行う。各自のテーマが決まった時点で、少しずつテーマについて調べ、ゼミ終了時にレポートを提出してもらう。「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業では各自のテーマにかかわる資料を配布し、板書をしながら講義形式で行う。また、適宜確認テストを実施し、フィードバックとして解説を丁寧に行う。

アクティブラーニングの実施方法

<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL
<input type="checkbox"/>	模範授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業
<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

基礎ゼミナールIA再履修者。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な出席回数は、13回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	20%	0%	0%	80%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	学修した知識・技能を確実に修得し、求められるレベルを大きく超えた。	学修した知識・技能を確実に修得した。	学修した知識・技能をほぼ修得した。	学修した知識・技能を修得したが、最低限確認できるレベルにとどまった。	学修した知識を修得できなかった。
思考力・判断力・表現力	与えられた課題に積極的に取り組み、求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組み、求められるレベルを達成した。	与えられた課題に取り組み、求められるレベルをほぼ達成した。	与えられた課題に取り組み、最低限確認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組みなかった。
主体性・多様性・協働性	与えられた課題に積極的に取り組んだ。理解力やプレゼンテーション能力は求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組んだ。理解力やプレゼンテーション能力は求められるレベルを達成した。	与えられた課題に取り組んだ。求められるレベルをほぼ達成した。	与えられた課題に取り組んだが、最低限確認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組みなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年（再履修）		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A（再）（科目ナンバリング：BAS001003）				
授業担当者（所属・職名）	河田 一郎（経営学科・特任教授）	研究室等所在	2号館8階		
単位数	1（単位認定責任者：河田 一郎）	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	【ガイダンス】 授業の進め方・シラバスの説明。授業改善アンケート結果反映の説明。	シラバスの内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
2	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（レベルチェック6級）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
3	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（レベルチェック5級）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
4	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（レベルチェック4級）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
5	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（レベルチェック3級）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
6	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（レベルチェック準2級）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
7	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（レベルチェック2級）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
8	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（レベルチェック1級）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
9	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（レベルチェック1級）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
10	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（各自に合わせたレベルの問題）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
11	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（各自に合わせたレベルの問題）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
12	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（各自に合わせたレベルの問題）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
13	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（各自に合わせたレベルの問題）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
14	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（各自に合わせたレベルの問題）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
15	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（各自に合わせたレベルの問題）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
16	レポートの内容についてのプレゼンテーションを行う。授業改善アンケートの実施。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	建築設計演習 (科目ナンバリング: APT312003)				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 善太郎(建築学科・教授)・向井 正伸(建築学科・専任講師)・矢部か	研究室等所在	2号館 6階		
単位数	2 (単位認定責任者: 佐藤 善太郎)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	向井・矢部 実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	設計事務所等における勤務経験を活かして、実践的な指導を展開する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示板等を参照				

概要

履修目標	店舗併用住宅の設計では、業務空間と居住空間およびその結合部の平面計画が基本となる。店舗部分の計画はその業種・職種によって多岐にわたり、その規模や家族構成、そして設定された計画地の地域状況によってそのパターンは無限の広がりを見せる。本講で、店舗併用住宅(兼用住宅)という一つのジャンルともいえる課題パターンに対するアプローチの手法をプランニング・エスキスからひもとき、計画内容を的確に図面表現する能力を身につける。
------	--

授業の位置づけ	建築学科のDP(1)、(2)に対応する。
---------	----------------------

到達目標	木造の設計図面の描写や技法が製図規約に従って表現され、それぞれの建築を創造・設計する意図が正しく、明確に伝えることができる。
------	--

授業全体の内容と概要	設計における基本計画、配置計画、規模計画、動線計画をふまえ、設計条件を満足するようにエスキスから設計図を完成させる。「SDG11.住み続けられるまちづくりを」の関連授業
------------	--

授業の方法	授業は授業初めに板書と配布資料により解説をおこない、エスキス・作図については基本的に個別にチェックをしていく。最後の講評会は全員による発表会形式で行う。
-------	--

アクティブラーニングの実施方法					
プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
模範授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項	毎回、中間指導やエスキス作成があるので、製図道具は必ず携帯すること。また、課題制作のためには、自宅に製図版、製図道具を備えておくことが不可欠である。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。
----------	--

修学サポート(合理的配慮)	事前相談を受け、大学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。講義中の録音・録画・撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。
資格指定科目	「建築士試験受験資格科目」必修科目、教職課程(工業)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件	原則毎回出席すること(単位認定に必要な最低出席回数は11回以上)												
評価方法	<table border="1"> <thead> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>80%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>20%</td> </tr> </tbody> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	0%	80%	0%	0%	20%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他								
0%	0%	80%	0%	0%	20%								

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
多角的な視点から住宅の機能、空間を検討する創造力が習得できたか。	多角的な視点から住宅の機能、空間を検討する創造的に構築することができた。	多角的な視点から住宅の機能、空間を検討する創造的に構築することがほぼできた。	多角的な視点から住宅の機能、空間を検討する創造的に構築することがある程度以上できた。	多角的な視点から住宅の機能、空間を検討する創造的に構築することがある程度できた。	多角的な視点から住宅の機能、空間を検討する創造的に構築することができなかった。
木造住宅を設計するにあたり、各図面を正しく描画することができるか。	木造住宅の平・立・断面図を正確に描くことができた。	木造住宅の平・立・断面図を正確に描くことがほぼできた。	木造住宅の平・立・断面図を正確に描くことがある程度以上できた。	木造住宅の平・立・断面図を正確に描くことがある程度できた。	木造住宅の平・立・断面図を正確に描くことができなかった。
明確なプレゼンテーションと説明によって自身の計画内容を他者に伝えることができるか。	明快で美しいプレゼンテーションと説明により、計画内容を相手に的確に伝えることができた。	明快で美しいプレゼンテーションと説明により、計画内容を相手に的確に伝えることがほぼできた。	明快で美しいプレゼンテーションと説明により、計画内容を相手に的確に伝えることがある程度以上できた。	明快で美しいプレゼンテーションと説明により、計画内容を相手に的確に伝えることがある程度できた。	明快で美しいプレゼンテーションと説明により、計画内容を相手に的確に伝えることができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	建築設計演習 (科目ナンバリング: APT312003)				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 善太郎(建築学科・教授)・向井 正伸(建築学科・専任講師)・矢部か		研究室等所在	2号館 6階	
単位数	2 (単位認定責任者: 佐藤 善太郎)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	向井・矢部 実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 設計事務所等における勤務経験を活かして、実践的な指導を展開する。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明。ガイダンス 授業の進め方と課題提出までのスケジュール 授業改善アンケート結果反映の説明	オリエンテーション時に配布された資料の熟読(90分)	自宅の間取りの調査(90分)
2	店舗併用住宅の設計 課題解説(設計条件等)	ガイダンス時に配布された資料の熟読(90分)	自宅間取りをフリーハンドで作図(90分)
3	配置計画・ゾーニング	指定した資料を事前に熟読する(90分)	授業終了時に提示の課題を処理する(90分)
4	規模計画・平面計画	指定した資料を事前に熟読する(90分)	授業終了時に提示の課題を処理する(90分)
5	平面計画 エスキスチェック 1	指定した資料を事前に熟読する(90分)	授業終了時に提示の課題を処理する(90分)
6	断面・立面計画 エスキスチェック 2	指定した資料を事前に熟読する(90分)	授業終了時に提示の課題を処理する(90分)
7	矩計計画 エスキスチェック 3	指定した資料を事前に熟読する(90分)	授業終了時に提示の課題を処理する(90分)
8	最終指導 エスキスチェック 4	指定した資料を事前に熟読する(90分)	授業終了時に提示の課題を処理する(90分)
9	平面図作図	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
10	立面図作図	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
11	断面図作図	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
12	矩計図作図	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
13	矩計図作図	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
14	面積表・仕上げ表	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
15	提出・プレゼンテーション・講評会 授業改善アンケートの実施	プレゼンテーション準備(90分)	感想レポート提出(90分)
16	提出・プレゼンテーション・講評会(予備)	プレゼンテーション準備(90分)	感想レポート提出(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	芸術へのアプローチ (科目ナンバリング: ARL021018)				
授業担当者(所属・職名)	梅田 力(デザイン学科・准教授)	研究室等所在	アトリエ棟2F		
単位数	2 (単位認定責任者: 梅田 力)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示板などを参照				

概要

履修目標

アート思考の特性を理解し、活用する素地を備えている

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP(2)に対応する。  
経営学科のDP(2)に対応する。  
デザイン学科のDP(2)に対応する。  
建築学科のDP(2)に対応する。

到達目標

アート思考の特性を理解している

授業全体の内容と概要

芸術へのアプローチとして、「アート思考」と呼ばれる芸術家の創造的な思考法やものの見方・捉え方を、画像や映像を多く使いながら紹介していく。また、現代アートを中心とした芸術作品の鑑賞法も紹介する。様々な作品や思考法から新たな視点や感覚を感じ取る力を養うことを目指す。ビジネスイノベーションから、人生をより豊かにするためのヒントまで、芸術(特に現代アート)をキーワードに考える教養講座である。

授業の方法

パワーポイント等を用いて作品画像や映像を多く取り入れた講義形式で行う。学生は各自スケッチブックを1冊準備し、そこに講義で得た知識や感覚を『描く』事。最終的には、講義で紹介した「アート思考」を元に、イベント等を企画しプレゼンテーションボードにまとめて発表する。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

各自スケッチブックを1冊(大きさは任意)と、最終課題用のプレゼンテーションボード(A3)を必ず用意する事。  
11回以上出席をしないと評価の対象としない。  
第16回目の講義までにプレゼンテーションボードを提出しない場合は評価の対象としない。  
不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

毎回提出するスケッチブックによる点数(課題点30点+平常点30点の計60点)、最終課題であるプレゼンテーションボード(40点)の計100点で評価する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	40%	30%	0%	30%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
アート思考の特性を理解している(知識・理解)	アート思考の特性を理解し、なぜ現代社会の中で必要なのか、またデザイン思考や論理的思考との違いを説明する事ができる。	アート思考の特性を理解し、なぜ現代社会の中で必要なのかを説明する事ができる。	アート思考の特性を理解している	アート思考の特性を概ね理解している	アート思考の特性を理解していない
アート思考の活用(思考力・表現力・判断力等)	様々な視点からアート作品を批判的に考察し、作家の思考法を参考に自らも思考する事ができる	様々な視点からアート作品を考察し、作家の思考法を参考に思考する事ができる	自分なりにアート作品を楽しみ、それを伝える事が出来る	自分なりにアート作品を味わう事が出来る	アート作品を鑑賞する事が出来ない
アートへの関心と探求(主体的に学びに向かう力)	講義内で取り上げた作家だけでなく、様々な作品や作家に興味・関心を持ち、実際に展覧会等へ鑑賞しに行っている	講義内で取り上げたアート作品だけでなく、作品や作家に興味を持ち、書籍等でさらに探求をしている	講義内で取り上げたアート作品や作家に興味・関心を持ち、理解しようと努力している	講義内で取り上げたアート作品や作家を味わった。	アート作品や作家に関心がない

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	芸術へのアプローチ (科目ナンバリング: ARL021018)				
授業担当者(所属・職名)	梅田 力(デザイン学科・准教授)	研究室等所在	アトリエ棟2F		
単位数	2 (単位認定責任者: 梅田 力)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション (講座の概要・シラバス説明) 授業改善アンケートの意義と目的について	シラバスをよく読んでおく事	プレゼンテーションボード作成準備(90分)
2	アートの分類と定義	指定したキーワードや作家・作品について事前に調べておくこと(90分)	プレゼンテーションボード作成準備(90分)
3	現代アート 概観	指定したキーワードや作家・作品について事前に調べておくこと(90分)	プレゼンテーションボード作成準備(90分)
4	アート思考	指定したキーワードや作家・作品について事前に調べておくこと(90分)	プレゼンテーションボード作成準備(90分)
5	制作による研究	指定したキーワードや作家・作品について事前に調べておくこと(90分)	プレゼンテーションボード作成準備(90分)
6	素材	指定したキーワードや作家・作品について事前に調べておくこと(90分)	プレゼンテーションボード作成準備(90分)
7	概念	指定したキーワードや作家・作品について事前に調べておくこと(90分)	プレゼンテーションボード作成準備(90分)
8	表現	指定したキーワードや作家・作品について事前に調べておくこと(90分)	プレゼンテーションボード作成準備(90分)
9	物語	指定したキーワードや作家・作品について事前に調べておくこと(90分)	プレゼンテーションボード作成準備(90分)
10	空間	指定したキーワードや作家・作品について事前に調べておくこと(90分)	プレゼンテーションボード作成準備(90分)
11	社会への介入	指定したキーワードや作家・作品について事前に調べておくこと(90分)	プレゼンテーションボード作成準備(90分)
12	実践紹介1 アート実践と国際協力	指定したキーワードや作家・作品について事前に調べておくこと(90分)	プレゼンテーションボード作成準備(90分)
13	実践紹介2 アート実践と地域創生	指定したキーワードや作家・作品について事前に調べておくこと(90分)	プレゼンテーションボード作成準備(90分)
14	アーティスト取り扱い説明書	指定したキーワードや作家・作品について事前に調べておくこと(90分)	プレゼンテーションボード作成準備(90分)
15	芸術産業創出へ向けて		プレゼンテーションボード作成(90分)
16	プレゼンテーション・講評 授業改善アンケートの結果を今後の授業に反映させる		プレゼンテーションボード作成(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	英語入門 (M) (科目ナンバリング: ENL042031)				
授業担当者(所属・職名)	石田 暁子(非常勤講師)		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室	
単位数	2 (単位認定責任者: 石田 暁子)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。				

概要

<b>履修目標</b>
英文法の基本を身に付けし、ビジネスでも使われるものを含め、理解できる語彙を増やす。音声変化に慣れることにより、リスニングの能力をつける。

<b>授業の位置づけ</b>
経営学科のDP(2)に対応する。

<b>到達目標</b>
今後の英語学習の土台となるよう、語彙、文法、発音面での英語の基本を身に付ける。

<b>授業全体の内容と概要</b>
各ユニットはリーディング、文法、リスニングの3つのセクションで構成されている。ビジネスに関する内容を取り上げているため、「ビジネス英語」への橋渡しにもなっている。 「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

<b>授業の方法</b>
講義形式で、重要事項は板書によって注意を促し、じっくりと確実に反復学習を進める。発音練習にも力を入れる。各自の理解度を知るため、授業では毎回できるだけ多くの学生を指名し、解答を聞く。テキストのリーディングパートについては、必ず予習で翻訳しておくことを課題とする。学生は授業で自分の訳に間違いがないかどうかを確認し、最後にまとめたものを教員が最終チェックして返却する。これも評価の対象となる。

<b>アクティブラーニングの実施方法</b>					
プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
模範授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	その他(授業の方法参照)

<b>履修上の注意事項</b>
教科書を必ず用意し、予習をしておくこと。 ・不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

<b>修学サポート(合理的配慮)</b>
----------------------

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

<b>資格指定科目</b>

評価方法・基準

<b>評価前提条件</b>
単位認定に必要な出席回数は、10回以上。

<b>評価方法</b>					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
40%	0%	30%	0%	30%	0%

<b>ルーブリック</b>					
---------------	--	--	--	--	--

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
授業内容(語彙・文法・音声変化等)の理解度	授業の範囲を超え、関連事項への興味があった。また、自分から発信する意欲が見られる。	授業内容をほぼ理解している。	基本的な語彙や文法事項の理解はできているが、長文の理解にやや不安がある。音声変化を理解し、発音できる。	基本的な事項のみ理解できている。音声変化については、注意をすることで訂正できる。	基本的な事項が身についていない。
練習問題や発音練習の参加度	積極的に参加し、授業の進行に貢献していた。	説明をよく聞き、発音練習や練習問題にも真剣に取り組んだ。ミスを指摘された際、自分で訂正することができ、意欲が認められた。	発音練習や練習問題に真剣に取り組んだ。	自分の力で問題を解くことをあきらめてしまっていたが、解答を聞いた後に理解しようとする努力がみられた。	授業中の活動に集中できなかった。
課題(英文翻訳)への取り組み	予め語や語句の意味を調べ、場面にふさわしい英文の訳ができる。疑問点を自覚した上で授業に臨み、解決することができた。	予習にきめ細かさはないが、ほぼ満足な訳ができた。	毎回予習をせず、復習によって挽回を図ることもあった。	復習だけのことが多く、課題は提出したが、期限を守ることができなかった。	課題を提出しなかった。



基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	英語入門 (M) (科目ナンバリング: ENL042031)				
授業担当者(所属・職名)	石田 暁子(非常勤講師)		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室	
単位数	2 (単位認定責任者: 石田 暁子)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『Good Choice!新入社員ショウタと学ぶ大学基礎英語』	津村 修志 他	金星堂	2017	9784764740372	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『英和辞典』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスの説明 be 動詞の変化・役割	テキストp.9-12 予習(90分)	授業内容復習 (90分)
2	つながる音	テキストp.13-14 予習(90分)	授業内容復習 (90分)
3	be 動詞 否定・疑問文	テキストp.15-18 予習(90分)	授業内容復習 (90分)
4	聞こえなくなる[t]の音	テキストp.19-20 予習(90分)	授業内容復習 (90分)
5	一般動詞現在形	テキストp.21-24 予習(90分)	授業内容復習 (90分)
6	聞こえなくなる[k]の音	テキストp.25-26 予習(90分)	授業内容復習 (90分)
7	一般動詞 否定・疑問文	テキストp.27-30 予習(90分)	授業内容復習 (90分)
8	聞こえなくなる[d]の音	テキストp.31-32 予習(90分)	授業内容復習 (90分)
9	3人称単数現在	テキストp.33-36 予習(90分)	授業内容復習 (90分)
10	つながる音	テキストp.37-38 予習(90分)	授業内容復習 (90分)
11	3人称単数現在 否定・疑問文	テキストp.39-42 予習(90分)	授業内容復習 (90分)
12	[sh]や[s]の音	テキストp.43-44 予習(90分)	授業内容復習 (90分)
13	代名詞	テキストp.45-48 予習(90分)	授業内容復習 (90分)
14	主語+be動詞の短縮形の音	テキストp.49-50 予習(90分)	授業内容復習 (90分)
15	総復習・要点整理	期末試験準備 (90分)	期末試験準備 (90分)
16	授業改善アンケートの実施 期末試験(60分)・解説(30分)	期末試験準備 (90分)	期末試験内容復習 (90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	英語入門 (S) (科目ナンバリング: ENL042031)				
授業担当者(所属・職名)	横田 肇 (社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 横田 肇)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

学生が英文法、読解、作文、会話の基礎的な知識と運用方法を身に付ける。合わせて、平易な英文の読解と作文の能力を身に付ける。なお、この科目はグローバル化に対応するための一助として「外国語」を学ぶための科目である。

授業の位置づけ

社会福祉学科のD P (2)に対応する。

到達目標

受講者において、英文法、読解、作文、会話の基礎的な知識と運用能力の習得ができていること。特に、基礎的な英文法の知識が身に付いていること、基礎的な英文の読解力が身に付いていること。

授業全体の内容と概要

毎回、基礎的な英文法、読解、作文、会話の練習問題を解いてもらう。合わせて、適宜、必要最小限の補足説明を行なう。授業の最後にその回の内容についてのまとめと質問への回答(フィードバック)を行う。

授業の方法

毎回、所定のテキストに沿って、1)その回の説明を行ない、2)英文法、読解、作文、会話の練習問題を解いてもらい、3)その後解答と説明を行なう。必要に応じて、補足教材(コピー)を配布、使用する。解答と説明は、適宜、口頭と板書、パワーポイントを使って行う。授業の最後にまとめと質問の時間(フィードバック)を設ける。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

欠席と遅刻をしないように留意する。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。事情に応じ、口頭、スライド、板書、資料による説明に配慮する。写真、録音・録画を認める。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は11回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	0%	0%	0%	40%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
英文法の基礎的事項の理解	テキストの説明が完全に理解されており、テキストの問題がほぼ完全に解けた。	テキストの説明がほぼ理解されており、テキストの問題がほぼ解けた。	テキストの説明の主要な部分が理解されており、テキストの問題が大体解けた。	英文法の初歩がほぼ理解されており、テキストの問題の基本的な部分が解けた。	英文法の初歩が理解されておらず、テキストの問題が全く解けなかった。
英文読解・作文の理解	テキストの英文が完全に読解でき、基本的な英文がしっかり書けた。	テキストの英文がほぼ読解でき、基本的な英文が大体書けた。	テキストの英文が大体読解でき、簡単な英文が書けた。	テキストの英文の主要な部分が理解でき、単純な英文が書けた。	テキストの英文が全く理解できず、単純な英文が書けなかった。
英会話の能力	テキストの英会話文が完全に理解でき、応用的な展開がしっかりできた。	テキストの英会話文がほぼ理解でき、応用ができた。	テキストの英会話文が大体理解でき、若干応用ができた。	テキストの英会話文の主要な部分が理解できた。	テキストの英会話文が全く理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	英語入門 (S) (科目ナンバリング: ENL042031)				
授業担当者(所属・職名)	横田 肇 (社会福祉学科・准教授)		研究室等所在	2号館7階	
単位数	2 (単位認定責任者: 横田 肇)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	"English! Once More!"	Y.Aiko, 他	朝日出版社	2018	978-4-255-15547-0	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						適宜指示。
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	授業改善アンケート結果反映の説明、シラバスの説明、ガイダンス。	シラバスを読む。(90分)	Unit1の予習(90分)
2	Unit1: be動詞の使い方(1)	Unit1の予習(90分)	Unit1の復習(90分)
3	Unit1: be動詞の使い方(2)	Unit1の予習(90分)	Unit1の復習(90分)
4	Unit2: 一般動詞現在形の使い方(1)	Unit2の予習(90分)	Unit2の復習(90分)
5	Unit2: 一般動詞現在形の使い方(2)	Unit2の予習(90分)	Unit2の復習(90分)
6	Unit3: 過去形の使い方(1)	Unit3の予習(90分)	Unit3の復習(90分)
7	Unit3: 過去形の使い方(2)	Unit3の予習(90分)	Unit3の復習(90分)
8	Unit4: 現在進行形の使い方(1)	Unit4の予習(90分)	Unit4の復習(90分)
9	Unit4: 現在進行形の使い方(2)	Unit4の予習(90分)	Unit4の復習(90分)
10	Unit5: 未来形の使い方(1)	Unit5の予習(90分)	Unit5の復習(90分)
11	Unit5: 未来形の使い方(2)	Unit5の予習(90分)	Unit5の復習(90分)
12	Unit6: 助動詞の使い方(1)	Unit6の予習(90分)	Unit6の復習(90分)
13	Unit6: 助動詞の使い方(2)	Unit6の予習(90分)	Unit6の復習(90分)
14	Unit6: 助動詞の使い方(3)	Unit6の予習(90分)	Unit6の復習(90分)
15	既習事項のまとめ	Unit1から6を通読する。(90分)	Unit1から6を通読する。(90分)
16	60分の試験終了後、残りの30分で解説を行う。授業改善アンケートの実施。	Unit1から6を通読する。(90分)	Unit1から6を通読する。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年、建築学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	英語入門 (D・A) (科目ナンバリング: ENL042031)				
授業担当者(所属・職名)	宮嶋 達也(デザイン学科・教授)	研究室等所在	2号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者: 宮嶋 達也)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示板などを参照				

概要

履修目標
グローバル化に対応し、多様な人と協働するための表現力やコミュニケーション力を学ぶ。講義と演習(ペアワークとグループワーク)を通じて英語コミュニケーションを学ぶ。将来のキャリアと継続教育に役立つ語彙や表現を修得し英語コミュニケーション能力の向上につなげる。

授業の位置づけ
デザイン学科のDP(2)に対応する。 建築学科のDP(2)に対応する。

到達目標
英会話の自信を裏付けるためのスピーキング、リスニング能力のスキルアップを目的とする。相手と快適にコミュニケーションを取るための応答やリアクション等、コミュニケーションの技法も修得する。ペアワークを通して、パターンプラクティス等により定型表現を習得し、相手とのコミュニケーションを円滑にするようにする。

授業全体の内容と概要
リーディングや様々なアクティビティを中心に、既存の英語知識を活用させ、スピーキングのスキルを身につけることにフォーカスする。最低限必要な語彙力や文法力を身につけながら、テキスト中のクリティカルシンキングを学び、様々なコミュニケーションの構造を理解し、表現する。

授業の方法
授業では英語によるコミュニケーションへ接続するための運用能力を身に付けることを目的とする。テキストの練習問題を解き、疑問点などは個々に対応、或いはクラス全体への解答を解説し学生へのフィードバックを行う。授業中の発表、ペアワーク、ロールプレイでの活動を取り入れ、コミュニケーション能力向上のために、積極的かつ協力的に行う。テキストの音声ファイルを無料でダウンロードし自習用音声として活用する。NAU'UN-DO(http://nanun-do.com)提供

アクティブラーニングの実施方法					
プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	PBL
模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習	反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
15分以上の遅刻は欠席とみなします。遅刻2回で欠席1回とします。授業には必ずテキスト、辞書を持参すること。テキストを忘れ、授業前に申し出ない場合は欠席扱いとする。授業計画に基づき、事前に各回の授業範囲のリスニングと意味調べをしておくこと。授業を休んだ場合は、次の授業までに、休んだ回の授業内容を担当教員又はクラスメートに確認し、課題など必要な情報を入手してください。不測の事が起きた際にオンライン授業を実施する場合があります。

修学サポート(合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定の必要となる最低出席回数は10回以上とする。授業の参加姿勢も評価の対象になります。授業活動に積極的に参加することで、授業外での学習成果を実感できます。予習と復習は授業の内容を理解し、学習効果を上げるために必要です。積極的に授業に参加するようにしてください。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
50%	0%	0%	20%	20%	10%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあたるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
授業の理解度	授業内容を超えた学修が認められる	授業内容を十分に理解している	授業内容を理解している	授業内容の理解に不足がある	授業内容を理解していない
英語表現能力(スピーキング)	優れた創造的表現を行うことができる	文献等を参考としながら、創造的表現を行うことができる	自在に定型的表現を行うことができる	与えられた条件を満たした最低限度の表現を行うことができる	与えられた条件を満たした最低限度の表現を行うことができない
授業の積極的参加	授業全体の流れを理解し、疑問・問題提起により授業展開に貢献する	授業全体の流れを理解し、発問に対して積極的に応じる	発問に対して、指名されれば正しく応じることができる	授業に集中して理解しようとする態度が見られる	授業に集中できず、授業放棄の態度が見られる
事前・事後学修	自ら進んで学修範囲を超えて調べている	学修範囲を十分に調べて、授業内容を他人に説明できる	学修範囲の理解に曖昧な点がある	指示された範囲の事前・事後学修はするが、理解が不十分である	指示された範囲の事前・事後学修をほとんどせず理解が不十分である。
リーディング技能	授業内で取り扱った単語・文章を完璧に理解し、問題なく正確に運用できる	授業内で取り扱った単語・文章の大部分を理解し、問題なく正確に運用できる	授業内で取り扱った単語・文章の大部分を習得し、ほぼ正確に運用できる。	授業内で取り扱った単語・文章を部分的に習得しているが、運用に不適切な部分が見受けられる。	授業内で取り扱った単語・文章の習得が不十分であり、運用に不正確さが目立つ。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年、建築学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	英語入門 (D・A) (科目ナンバリング: ENL042031)				
授業担当者(所属・職名)	宮嶋 達也(デザイン学科・教授)	研究室等所在	2号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者: 宮嶋 達也)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	*Project English <sub>a</sub>	Vivian Morooka	南雲堂	2021	978452317936-8	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション 英語で自己紹介文作成 シラバスの説明/授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを参照しながらテキスト内容を理解する。 (90分)	授業各回のテーマを理解しておくこと。(90分)
2	Grammar 5sentence patterns (5文型)	今回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておくこと。(90分)	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 (90分)
3	Pre-Unit from A to D	今回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておくこと。(90分)	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 (90分)
4	Unit 1 Where are you from?	今回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておくこと。(90分)	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 (90分)
5	Unit 2 How are you?	今回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておくこと。(90分)	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 (90分)
6	Unit 3 How many classes do you have?	今回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておくこと。(90分)	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 (90分)
7	Review Units 1-3	今回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておくこと。(90分)	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 (90分)
8	Unit4 How much food do you need for your party?	今回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておくこと。(90分)	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 (90分)
9	Grammar Gerunds and Infinitive (動名詞&不定詞)	今回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておくこと。(90分)	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 (90分)
10	Grammar Gerunds and Infinitive (動名詞&不定詞)	今回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておくこと。(90分)	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 (90分)
11	Mid-term Exam.	今回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておくこと。(90分)	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 (90分)
12	Unit 5 How many people are there in your family?	今回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておくこと。(90分)	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 (90分)
13	Unit 6 When is your report due?	今回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておくこと。(90分)	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 (90分)
14	Review Units 4-6	今回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておくこと。(90分)	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 (90分)
15	Review 1	今回の授業範囲を予習し、単語の意味を調べておくこと。(90分)	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。 (90分)
16	Final Exam. 試験終了後、授業改善アンケートの実施	試験範囲の復習。(90分)	授業で説明を受けた解説を復習。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	中国語入門 (科目ナンバリング: CHI051036)				
授業担当者(所属・職名)	孫 暢(経営学科・非常勤講師)	研究室等所在	1号館1階 非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 孫 暢)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。				

概要

履修目標

中国人と簡単な会話を交わすことが出来るようになる。中検準4級程度のレベルに到達する。  
 (中国語検定試験(「中検」)は、主に日本語を母語とする中国語学習者を対象とします。「中検」と「HSK」は同じ中国語の検定試験ですが性格を異にする試験です。  
 「中検」は、中国語読解及び聴解能力のほか翻訳能力を問うものです。  
 「HSK」は、中国語による設問に中国語で答えることを求め、中国語の運用能力のみを問うものであり翻訳能力は問われておりません。  
 したがって、中検は日本の企業での活躍を目指す方、HSKは中国の大学本科への留学や中国企業で活躍を目指す方に適していると言えるでしょう。)

授業の位置づけ

経営学科のDP(2)(4)に対応する。  
 社会福祉学科のDP(2)(4)(5)に対応する。  
 デザイン学科のDP(2)(4)に対応する。  
 建築学科のDP(2)(4)に対応する。

到達目標

中国語の発音・文法とあいさつ・簡単な会話をマスターする。中国語を通して、中国人の礼節・習慣なども理解できる。

授業全体の内容と概要

初めて中国語を学習する学生のために、日常会話と文法を結び付けて学習することで、コミュニケーション能力を身につけられるようにする。  
 「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

板書により、「発音」・「挨拶」・「基本文」・「会話文」・「入れ替え練習と応用」・「新出単語」・「文法」・「練習」と段階的に講義形式で授業を進める。中国語の学習を通して、中国の文化や歴史なども理解しやすいように講義する。また、復習を重視し、適宜簡単な確認テストを実施する。課題に対して解説を加えてフィードバックをする。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模範授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

通算GPAが2.0未満の学生は履修できません。  
 発音が特に難しいので、必ず授業に参加し、正確な発音と聴力を身につけるように努力し、ピンインと簡体字を覚え書きするようにしなければならない。  
 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	10%	10%	0%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能(発音・文字読解・文法・読解等)	定期試験で9割以上、語彙・文法の誤りがなく正確に理解していた。	定期試験で8割以上、語彙・文法の誤りがほとんどなく大體理解していた。	定期試験で7割以上、語彙・文法の誤りが若干あるが問題なく理解していた。	定期試験で6割以上、語彙・文法の誤りが若干あった。	定期試験で6割未満、理解を妨げる語彙・文法の誤りがあった。
思考力・判断力・表現力(聴解・会話・プレゼン等)	表現方法が適切であり、誤りがなかった。	表現方法が適切であり、誤りがほとんどなかった。	表現方法が適切であり、誤りが少しあった。	表現方法に誤りがあり、自分の意見を伝えるのに支障をきたす点があった。	表現方法に誤りがあり、自分の意見が伝わらなかった。
主体性・多様性・協働性	与えられた課題に積極的に取り組み、多様な表現や協働性に関して求められるレベルに達した。	与えられた課題に取り組み、多様な表現や協働性に関して一定のレベルに達した。	与えられた課題に取り組み、多様な表現や協働性に関して求められるレベルに達しなかった。	与えられた課題に取り組み、多様な表現や協働性に関して最低限確認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に取り組みなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	中国語入門 (科目ナンバリング: CHI051036)				
授業担当者(所属・職名)	孫 暢(経営学科・非常勤講師)	研究室等所在	1号館1階 非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 孫 暢)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『本気で学ぶ中国語』	趙玲華	ベレ出版	2009	9784860642471	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	講義ガイダンス:中国語について(シラバスの説明) 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスの内容確認(90分)	授業の内容確認(90分)
2	第1課 発声:「拼音字母とは」、「拼音字母の構成および数」、「4つの声調の特徴」	前回の授業内容確認(90分)	授業の内容確認・練習問題(90分)
3	第2課 発声:「声母表とその発音」、「韻母表とその発音」	前回の授業内容確認(90分)	授業の内容確認・練習問題(90分)
4	第3課 発声:「中国語と日本語の音節対照表」	前回の授業内容確認(90分)	授業の内容確認・練習問題(90分)
5	第4課 あいさつ「你好(こんにちは)」、情景会話「你叫什么名字(あなたの名前は何か)とおっしゃいます」	前回の授業内容確認(90分)	授業の内容確認・練習問題(90分)
6	第5課 「请(どうぞ)」の使い方、情景会話「早安(おはようございます)」	前回の授業内容確認(90分)	授業の内容確認・練習問題(90分)
7	復習一 会話・発音・声調の聞き取り練習	前回の授業内容確認(90分)	授業の内容確認・練習問題(90分)
8	第6課 謝る「对不起(すみません)」、情景会話「你几岁了(あなたは何歳ですか?)」、中国の単位	前回の授業内容確認(90分)	授業の内容確認・練習問題(90分)
9	第7課 そり舌音「zh, ch, sh」の復習、副詞「也(も)」、「都」の意味と使い方、情景会話「你忙吗?(お忙しいか)」	前回の授業内容確認(90分)	授業の内容確認・練習問題(90分)
10	第8課 声母「r」の復習、軽声について、「您(あなたの尊敬語)」の使い方	前回の授業内容確認(90分)	授業の内容確認・練習問題(90分)
11	第9課 語気助詞「呢」の使い方、情景会話「你干什么呢?(あなたは何をしていますか)」	前回の授業内容確認(90分)	授業の内容確認・練習問題(90分)
12	第10課 家庭構成の中国語説明方、情景会話「你有宠物吗?(ペットを飼っていますか?)」	前回の授業内容確認(90分)	授業の内容確認・練習問題(90分)
13	復習二 会話の聞き取り練習と短文の読み方練習	前回の授業内容確認(90分)	授業の内容確認・練習問題(90分)
14	総復習 発音の復習と中国語で自己紹介をして、質問に答える	前回の授業内容確認(90分)	授業の内容確認・練習問題(90分)
15	総復習 会話・読み方の復習と中国語で自分の家族のことを話す	前回の授業内容確認(90分)	授業の内容確認・練習問題(90分)
16	定期試験、解説(60分+30分) 授業改善アンケート実施。	定期試験の準備をする(90分)	試験内容の復習をする(90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『基礎からレッスンはじめての中国語』	南雲大悟	ナツメ社	2018	9784816364679	
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	自然地理学 (科目ナンバリング: GGR122127, )				
授業担当者(所属・職名)	鈴木 正章 (社会福祉学科・非常勤講師)	研究室等所在	1号館1階	非常勤講師室	
単位数	2 (単位認定責任者: 鈴木 正章)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。				

概要

履修目標

自然地理学の地理学における位置とその対象が地球の地表面の岩石圏・水圏・大気圏である。本講義では、地形学を中心に自然地理学の理解を深める。また、地表面を把握するためのツールとしての地形図を使った作業を通して地表面空間の地形の理解、すなわち地表面の凹凸がどのような成因で形成されるのか、その結果としてどのような地形が形成されるのかを理解することができる。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP(3)(5)に対応する。

到達目標

地表面空間にはどのような地形が観られるのか、国土地理院発行の1:25,000の地形図の等高線から地形が判読できるようになる。また、その地形がどのような営力できているのか理解できるようになる。

授業全体の内容と概要

自然地理学の地理学における位置、その系譜を講述し、地形図の作業を通して地表面空間を理解する。また、地形の形成要因からどの結果としてどのような地形がつけられるのかを講述する。

授業の方法

授業の具体的な形態：講義形式、 進行方法：おもにパワーポイントと板書、使用する教材：配布資料及びビデオ、 課題に対する説明：地図作業を課題として予定しているため、赤色と青色の色鉛筆の用意、 要望への対応等：集中講義期間中随時対応します。 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合があります。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

受講者数の制限：なし、 受講条件：なし、 履修上必要な知識・学力等：本学の学生であれば全て可、 遅刻・欠席等のルール等：クラブ等でやむ負えなく欠席する場合には、届けを出して承認を得ること、 受講の心構え：受講を集中講義であるため、毎日に出される課題を復習として着実に取り組むこと、 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合があります。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(社会・地理歴史)必須科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	15%	15%	40%	30%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
地形図の作業(谷・尾根線及び断面図の作成)を通して地表面空間に展開する地形の理解	地形図の等高線のコンターワークから谷線や尾根線を正確に記入ができ、地形断面図を作成することができた。さらに、等高線から地形が読み取ることができた。	地形図の等高線のコンターワークから谷線や尾根線を正確に記入ができ、地形断面図を作成することができた。	地形図の等高線のコンターワークから谷線や尾根線を正確に記入できた。	地形図の等高線のコンターワークから谷線や尾根線を記入できた。	地形図の等高線のコンターワークから谷線や尾根線を記入できなかった。
現在の地表面空間に広がる地形がどのような営力で形成されてきたのか、その理解	地形を形成する営力について説明でき、さらにそれらの営力がどのような地形を形成するのか説明できた。なおかつそれぞれ地形が地表面空間において理解でき、地図上で読図できた。	地形を形成する営力について説明でき、さらにそれらの営力がどのような地形を形成するのか説明できた。なおかつそれぞれ地形が地表面空間において理解できた。	地形を形成する営力について説明でき、さらにそれらの営力がどのような地形を形成するのか説明できた。	地形を形成する営力について説明できた。	地形の形成する営力について説明できなかった。
人々の生活や生産活動の基盤となる地表面空間にはどのような地形が分布し、それらの地形の形成過程や形成要因の理解	人々の生活や生産活動の基盤となっている地表面空間がどのような地形や地盤でできているのか、それらの地形の空間的配置、形成過程及び形成要因を説明できた。	人々の生活や生産活動の基盤となっている地表面空間がどのような地形や地盤でできているのか、それらの地形の空間的配置及び形成過程を説明できた。	人々の生活や生産活動の基盤となっている地表面空間がどのような地形や地盤でできているのか、さらにそれらの地形の空間的配置が説明できた。	人々の生活や生産活動の基盤となっている地表面空間がどのような地形や地盤でできているのかを説明できた。	人々の生活や生産活動の基盤となっている地表面空間がどのような地形や地盤でできているのかを説明できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	自然地理学 (科目ナンバリング: GGR122127, )				
授業担当者(所属・職名)	鈴木 正章 (社会福祉学科・非常勤講師)		研究室等所在	1号館1階 非常勤講師室	
単位数	2 (単位認定責任者: 鈴木 正章)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『配布資料』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明、講義内容及び授業計画のガイダンス 授業改善アンケート結果反映の説明	本授業のシラバスの熟読しておくこと。(90分)	地理学とはどのような学問なのかインターネットで調べてまとめる。(90分)
2	地理学とその方法	地理学の系譜についてインターネットなどで調べておくこと。(90分)	地理学と地図の歴史をまとめる。(90分)
3	地形図の理解 (道具としての地図の種類と用途)	身の回りにどのような地図があるのか調べてみる。	地理調査に使用する地図にどのようなものがあるのかまとめる。(90分)
4	地形図の理解 (等高線から地形を読む)	国土地理院発行の地形図に盛り込まれている情報にどのようなものがあらかじめ確認しておくこと。(90分)	地形図に盛り込まれている等高線からどのような地形を読み取れるか習熟すること。(90分)
5	地形図の理解 (谷尾根線や地形断面図の書き方)	地形図に含まれる高さ(標高)を表す地図記号を探しておくこと。(90分)	地形図の等高線や高低差を表わす地図記号を読み断面図や谷尾根線が描けるよう練習しておくこと。(90分)
6	地形を形成する営力	地形形成営力について調べておくこと。(90分)	地形形成営力にはどのようなものがあるのか整理しておくこと。(90分)
7	地形を形成する営力	マスマーブメントについて調べておくこと。(90分)	マスマーブメントにはどのようなものがあるのか整理しておくこと。(90分)
8	地形を形成する営力	河成作用について調べておくこと。(90分)	河成作用について整理をしてまとめておくこと。(90分)
9	地形を形成する営力IV (第1回テスト)	浸食輪廻とは何か調べておくこと。(90分)	浸食輪廻のプロセスについて整理しておくこと。(90分)
10	氷河地形	氷河の作用について調べておくこと。(90分)	氷河の作用について調べておくこと。(90分)
11	平野の地形 (構造平野・ケスタ地形)	浸食平野の成り立ちについて調べておくこと。(90分)	浸食平野についてまとめておくこと。(90分)
12	平野の地形 (丘陵・台地)	堆積平野の成り立ちについて調べておくこと。(90分)	浸食平野と堆積平野の違いについて整理しておくこと。(90分)
13	平野の地形 (扇状地・氾濫原平野)	河川が形成する平野の地形について調べておくこと。(90分)	河川が作る地形についてまとめておくこと。(90分)
14	平野の地形 (三角州・海岸地形)	海岸線で観られる平野の地形について調べておくこと。(90分)	河口付近や海岸付近で観られる地形について調べておくこと。(90分)
15	沖積平野の形成過程	氷河性海面変動と河岸段丘について調べておくこと。(90分)	沖積平野の形成と過去の海面変化の関係について調べておくこと。(90分)
16	まとめ及び講評 (第2回テスト) 授業改善アンケートの実施	これまで授業のまとめをしていくこと。(90分)	これまで授業のまとめをして整理しておくこと。(90分)

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	精神保健福祉援助演習 (科目ナンバリング: SWS122044)				
授業担当者(所属・職名)	西野 克俊(社会福祉学科・専任講師)、 畠山 明子(社会福祉学科・准教)		研究室等所在	1号館2階	
単位数	1 (単位認定責任者: 畠山 明子)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神保健福祉士として相談援助に従事していた教員が現場で求められる役割や基礎的な知識、技術、倫理などを伝達する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示板などを参照				

概要

<p><b>履修目標</b></p> <p>精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人の状況や困難、また希望を的確に聞き取り、とりまく状況や環境を含めて理解してソーシャルワークを展開するための精神保健福祉士の専門性(知識、技術、価値)の基礎を獲得する。</p> <p>精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための諸制度、サービスについて、その概念と利用要件や手続きを知り、援助に活用できるようにする。</p> <p>精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための関係機関や職種の役割を理解し、本人を中心とした援助を展開するチームが連携する際のコーディネーター役を担えるようになる。</p> <p>精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人を取り巻く環境や社会を見渡し、こうした人々への差別や偏見を除去し共生社会を実現するための活動を精神保健福祉士の役割として認識し、政策や制度、関係行政や地域住民にはたらきかける方法をイメージできるようにする。</p> <p>精神保健福祉士として考え、行動するための基盤を獲得し、職業アイデンティティを構築する意義を理解できる。</p>
--

<p><b>授業の位置づけ</b></p> <p>社会福祉学科のDP(1)(2)(3)(4)(5)に対応する。</p>
---

<p><b>到達目標</b></p> <p>ソーシャルワークを展開するための精神保健福祉士の専門性(知識、技術、価値)の基礎を獲得する。</p> <p>精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人を取り巻く環境や社会を見渡し、こうした人々への差別や偏見を除去し共生社会を実現するための活動を精神保健福祉士の役割として認識し、政策や制度、関係行政や地域住民にはたらきかける方法をイメージできるようにする。</p>
--

<p><b>授業全体の内容及び概要</b></p> <p>1、2年次のソーシャルワーク演習で学んできた、自己覚知(自己理解と他者理解)、基本的なコミュニケーション技術(言語的技術(質問、促し、言い換え、感情の反映、繰り返し、要約等)、非言語的技術(表情、態度、身振り、位置取り等))、基本的な面接技術(面接の構造化、場の設定(面接室、生活場面、自宅等))、ソールの活用(電話、e-mail等)、ソーシャルワークの展開過程(ケースの発見、インタビュー、アセスメント、プランニング、支援の実施、モニタリング、支援の終結と事後評価、アフターケア)、ソーシャルワークの記録(支援経過の把握と整理)、グループダイナミクスの活用(グループワークの構成(グループリーダー・コリダー・グループメンバー)、グループワークの展開過程(準備期・開始期・作業期・終結期)、プレゼンテーション技術(個人プレゼンテーション、グループプレゼンテーション)について、精神保健福祉分野の教材を活用して復習する。</p> <p>※SDG3「すべての人に健康と福祉を」の関連授業。</p>
---

<p><b>授業の方法</b></p> <p>個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導(ロールプレイング等)を中心とする演習形態により行う。</p> <p>教科書および配布資料を使用し、ポイントとなるべき箇所は説明、板書を行う。</p> <p>質問等に対しては都度口頭にて説明を行い、必要に応じて資料を配布する。</p> <p>Microsoft Teams/Formsの諸機能を活用し、質問を受け付け、適宜教材配布等を行う。</p>
--

<b>アクティブラーニングの実施方法</b>					
	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	
	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	
○	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)	

<p><b>履修上の注意事項</b></p> <p>教科書は毎回持参すること。</p> <p>演習は、自分で考え実践すること。また、仲間と協同して取り組むことが重要であることから、積極的な発言や参加を求める。</p> <p>講義、演習を含めた形態とするが、施設見学や外部講師等による講義等も実施予定である。学生である前提に社会人としてのマナーを意識し、日頃の自らの言動に気を付けて行動すること。</p> <p>不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。</p>
---

<p><b>修学サポート(合理的配慮)</b></p> <p>事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。</p>
<p><b>資格指定科目</b></p> <p>精神保健福祉士国家試験受験資格課程</p>

<p><b>評価方法・基準</b></p> <p><b>評価前提条件</b></p> <p>単位認定に必要な最低出席回数は11回以上。成績は、レポート(50点)、平常点(50点)で総合して評価する。</p>
---

<b>評価方法</b>					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	50%	0%	0%	50%	0%

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあたるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人の状況や困難、また希望を的確に聞き取り、とりまく状況や環境を含めて理解してソーシャルワークを展開するための精神保健福祉士の専門性(知識、技術、価値)の基礎について具体的な	関係するキーワードを用いて精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人の状況や困難、また希望を的確に聞き取り、とりまく状況や環境を含めて理解してソーシャルワークを展開するための精神保健福祉士の専門性(知識、技術、価値)の基礎について具体的な	関係するキーワードを用いて精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人の状況や困難、また希望を的確に聞き取り、とりまく状況や環境を含めて理解してソーシャルワークを展開するための精神保健福祉士の専門性(知識、技術、価値)の基礎について具体的な	関係するキーワードを提示することにより精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人の状況や困難、また希望を的確に聞き取り、とりまく状況や環境を含めて理解してソーシャルワークを展開するための精神保健福祉士の専門性(知識、技術、価値)の基礎について具体的な	関係するキーワードを提示することにより精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人の状況や困難、また希望を的確に聞き取り、とりまく状況や環境を含めて理解してソーシャルワークを展開するための精神保健福祉士の専門性(知識、技術、価値)の基礎について具体的な	精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人の状況や困難、また希望を的確に聞き取り、とりまく状況や環境を含めて理解してソーシャルワークを展開するための精神保健福祉士の専門性(知識、技術、価値)の基礎について具体的な
精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための諸制度、サービスについて、その概念と利用要件や手続きを知り、援助に活用できるようにする。	関係するキーワードを用いて精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための諸制度、サービスについて、その概念と利用要件や手続きを知り、援助に活用できるようにする。	関係するキーワードを用いて精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための諸制度、サービスについて、その概念と利用要件や手続きを知り、援助に活用できるようにする。	関係するキーワードを提示することにより精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための諸制度、サービスについて、その概念と利用要件や手続きを知り、援助に活用できるようにする。	関係するキーワードを提示することにより精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための諸制度、サービスについて、その概念と利用要件や手続きを知り、援助に活用できるようにする。	精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための諸制度、サービスについて、その概念と利用要件や手続きを知り、援助に活用できるようにする。
精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための関係機関や職種の役割を理解し、本人を中心とした援助を展開するチームが連携する際のコーディネーター役を担えるようになる。	関係するキーワードを用いて精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための関係機関や職種の役割を理解し、本人を中心とした援助を展開するチームが連携する際のコーディネーター役を担えるようになる。	関係するキーワードを用いて精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための関係機関や職種の役割を理解し、本人を中心とした援助を展開するチームが連携する際のコーディネーター役を担えるようになる。	関係するキーワードを提示することにより精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための関係機関や職種の役割を理解し、本人を中心とした援助を展開するチームが連携する際のコーディネーター役を担えるようになる。	関係するキーワードを提示することにより精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための関係機関や職種の役割を理解し、本人を中心とした援助を展開するチームが連携する際のコーディネーター役を担えるようになる。	精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための関係機関や職種の役割を理解し、本人を中心とした援助を展開する際のコーディネーター役を担えることについて関係するキーワードを理解して、説明・記述が不十分だった。
精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人を取り巻く環境や社会を見渡し、こうした人々への差別や偏見を除去し共生社会を実現するための活動を精神保健福祉士の役割として認識し、政策や制度、関係行政や地域住民にはたらきかける方法をイメージできるようにする。	関係するキーワードを用いて精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人を取り巻く環境や社会を見渡し、こうした人々への差別や偏見を除去し共生社会を実現するための活動を精神保健福祉士の役割として認識し、政策や制度、関係行政や地域住民にはたらきかける方法をイメージできるようにする。	関係するキーワードを用いて精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人を取り巻く環境や社会を見渡し、こうした人々への差別や偏見を除去し共生社会を実現するための活動を精神保健福祉士の役割として認識し、政策や制度、関係行政や地域住民にはたらきかける方法をイメージできるようにする。	関係するキーワードを提示することにより精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人を取り巻く環境や社会を見渡し、こうした人々への差別や偏見を除去し共生社会を実現するための活動を精神保健福祉士の役割として認識し、政策や制度、関係行政や地域住民にはたらきかける方法をイメージできるようにする。	関係するキーワードを提示することにより精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人を取り巻く環境や社会を見渡し、こうした人々への差別や偏見を除去し共生社会を実現するための活動を精神保健福祉士の役割として認識し、政策や制度、関係行政や地域住民にはたらきかける方法をイメージできるようにする。	精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人を取り巻く環境や社会を見渡し、こうした人々への差別や偏見を除去し共生社会を実現するための活動を精神保健福祉士の役割として認識し、政策や制度、関係行政や地域住民にはたらきかける方法をイメージできるようにすることに
精神保健福祉士として考え、行動するための基盤を獲得し、職業アイデンティティを構築する意義を理解できる。	関係するキーワードを用いて精神保健福祉士として考え、行動するための基盤を獲得し、職業アイデンティティを構築する意義を理解できる。	関係するキーワードを用いて精神保健福祉士として考え、行動するための基盤を獲得し、職業アイデンティティを構築する意義を理解できる。	関係するキーワードを提示することにより精神保健福祉士として考え、行動するための基盤を獲得し、職業アイデンティティを構築する意義について具体的な説明・記述が不十分だった。	関係するキーワードを提示することにより精神保健福祉士として考え、行動するための基盤を獲得し、職業アイデンティティを構築する意義について具体的な説明・記述が不十分だった。	精神保健福祉士として考え、行動するための基盤を獲得し、職業アイデンティティを構築する意義について具体的な説明・記述が不十分だった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	精神保健福祉援助演習 (科目ナンバリング: SWS122044)				
授業担当者(所属・職名)	西野 克俊(社会福祉学科・専任講師) 、 畠山 明子(社会福祉学科・准教)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 畠山 明子)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 精神保健福祉士として相談援助に従事していた教員が現場で求められる役割や基礎的な知識、技術、倫理などを伝達する。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『ソーシャルワーク演習【精神専門】』	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規出版	2021	978-4-8058-8258-0	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション、シラバスの説明(畠山・西野)	本演習で学ぶ概要についてシラバスや教科書の内容を確認する。(45分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(45分)
2	自己覚知(自己理解と他者理解)(畠山)	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等から復習する。(45分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(45分)
3	基本的なコミュニケーション技術(言語的技術)質問、促し、言い換え、感情の反映、繰り返し、要約等)(畠山)	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等から復習する。(45分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(45分)
4	基本的なコミュニケーション技術(非言語技術)表情、態度、身振り、位置取り等)(畠山)	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等から復習する。(45分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(45分)
5	基本的な面接技術(面接の構造化)(畠山)	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等から復習する。(45分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(45分)
6	基本的な面接技術(場の設定(面接室、生活場面、自宅等))(畠山)	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等から復習する。(45分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(45分)
7	基本的な面接技術(ツールの活用(電話、e-mail等))(畠山)	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等から復習する。(45分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(45分)
8	ソーシャルワークの展開過程(講義)(畠山)	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等から復習する。(45分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(45分)
9	ソーシャルワークの展開過程(事例検討:医療)(畠山)	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等から復習する。(45分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(45分)
10	ソーシャルワークの展開過程(事例検討:地域)(畠山)	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等から復習する。(45分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(45分)
11	ソーシャルワークの記録(講義)(畠山)	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等から復習する。(45分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(45分)
12	ソーシャルワークの記録(実習日誌の作成)(畠山)	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等から復習する。(45分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(45分)
13	グループダイナミクスの活用(グループワークの構成(グループリーダー・コリダー・グルーメンバナー))(畠山)	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等から復習する。(45分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(45分)
14	グループダイナミクスの活用(グループワークの展開過程(準備期・開始期・作業期・終結期))(畠山)	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等から復習する。(45分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(45分)
15	プレゼンテーション技術(個人プレゼンテーション、グループプレゼンテーション)(畠山)	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等から復習する。(45分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(45分)
16	まとめ(畠山・西野)	15回分の内容を復習する。(45分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM134147, SEM434088, SEM534095)				
授業担当者(所属・職名)	星野 秀治(社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	各教員研修室		
単位数	1 (単位認定責任者: 星野 秀治)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	各教員がそれぞれの専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。		
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

専門演習担当各教員の専門分野を中心に、社会福祉学をはじめとする社会科学の方法論を、文献研究、フィールドワーク、ディスカッションなどの教授方法を使用し獲得する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP(1)(2)(3)(4)(5)に対応する。

到達目標

- ・自分の方向性を見つけ、自ら学び考えて解決できる能力を身につける。
- ・個々の学生がそれぞれの「勉学のテーマ」の糸口をつかんでいる。
- ・上記研究テーマを構築するために必要な文献・資料・データを活用するスキルを身につける。
- ・研究テーマに沿った論文執筆に必要なスキルを身につける。
- ・自分の研究テーマをプレゼン形式で発表するスキルと学友の発表を傾聴し、的確な質問をするスキルを身につける。

授業全体の内容と概要

それぞれのゼミナール担当教員が提示する「専門テーマ」に沿った形で進められる。  
「SDGs4. 質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

各教員の指導方針のもとに行われるので、講義・ゼミナール・実験・製作・見学・調査等様々な授業形態がとられる。したがって、大学生として真摯に学ぶ姿勢と自習が求められる。  
質問は随時対応し、レポートの場合はコメント等によりフィードバックを行う。  
Microsoft Teams/Formsの諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

オリエンテーション時に配布される担当教員のゼミナール紹介を熟読の上、自分の所属を決定すること。「専門演習 A」に所属した教員が後期の「専門演習 B」を担当する。  
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数10回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	0%	0%	100%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
担当教員が提示した課題についての情報獲得ツールを駆使できる	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができ、さらに、自分の学習課題として昇華できる。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができる。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示できる。	提示された課題についてネット検索を行い、資料を具体的に検索できる。	左記の内容が何一つできていない。
論文・レポート執筆のためのスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見でき、それを論文に構成できるスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見できる。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆できる。	具体的なレポート執筆ができる。	左記の内容が何一つできていない。
自分の研究テーマを明確に発表でき、他者の研究を尊重できる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができ、且つ、他者の意見と研究を尊重しながら、双方向の向上ができるような議論ができる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができる。	自分の研究テーマを明確に説明できる。	左記の内容が何一つできていない。



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習 A (科目ナンバリング: SEM134147, SEM434088, SEM534095)				
授業担当者(所属・職名)	星野 秀治(社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	各教員研修室		
単位数	1 (単位認定責任者: 星野 秀治)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	各教員がそれぞれの専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 担当教員によるガイダンス	所属研究室選択資料の確認(45分)	配布資料の確認(45分)
2	担当教員による授業1	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
3	担当教員による授業2	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
4	担当教員による授業3	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
5	担当教員による授業4	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
6	担当教員による授業5	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
7	担当教員による授業6	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
8	担当教員による授業7	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
9	担当教員による授業8	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
10	担当教員による授業9	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
11	担当教員による授業10	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
12	担当教員による授業11	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
13	担当教員による授業12	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
14	担当教員による授業13	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
15	担当教員による授業14	予習課題(45分)	配布資料の確認(45分)
16	総括	予習課題(45分)	全体振り返り(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	建築表現 (科目ナンバリング: AHD321039)				
授業担当者(所属・職名)	安藤 淳一(建築学科・教授)	君 興 治(建築学科・准教授)	研究室等所在	2号館3階 2号館4階	
単位数	1 (単位認定責任者: 安藤 淳一)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

建築は、図面や模型に表現されたものによってその内容を理解してもらえ、そのためには、考え出された建築をどのように表現するかということがとても重要となる。「建築表現」では、空間表現や建築図面表現に必要な平面系の基礎力を修得する。

授業の位置づけ

建築学科のDP(1)(5)に対応する。

到達目標

平面系の建築表現に必要な道具の基本的使い方を習得する。また時間内に課題を製作するための時間配分、期限内に課題を提出するという自己管理及び基本姿勢を身に付けることができる。

授業全体の内容と概要

毎回、課題の制作を主とした実技形式の授業をおこなう。基礎的練習課題とその作品の講評会を2週ごとにおこなう。課題製作は、原則として授業時間内におこない即日提出とする。やむを得ず授業時間内に完成させられなかった場合は、次週授業開始時まで完成させ提出する。

授業の方法

シリーズごとに課題の目的・到達目標等について説明をし、課題制作に取り組む。ひとつの課題シリーズ終了ごとに講評会を開催し、各自作品のプレゼンテーションをおこない、その後指導教員が講評・評価をおこなう。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

実技科目であるため、全授業に出席し期限内に課題を製作し提出すること。また作品講評会に出席し自分の作品の解説(プレゼンテーション)することも評価する。原則授業にはすべて出席し、授業時間内に課題制作をおこなうこととする。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(工業)選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

原則毎回出席すること(ただし最低出席回数10回以上)とし、積極的に課題に取り組むこと。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	85%	0%	15%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
平面系の建築表現に必要な道具の基本的使い方を理解し習得した上で実践する。	基本的使い方に追加応用的な使い方ができた。	基本的使い方が十分にできた。	基本的な使い方を理解し実践できた。	基本的な使い方を理解しおぼわねできた。	必要な道具が準備されず実践できなかった。
期限内に課題を制作し提出するというスケジュール管理及び基本姿勢を身に付ける。	すべての課題を期限内に余裕をもって作成完成することができた。	すべての課題を期限内に作成完成することができた。	課題を期限内に作成完成することができた。	おおむね課題を期限内に作成完成することができた。	期限内に課題を提出できなかった。
平面系の建築空間の発想・発想力を作品にすることそれを表現するための技術を修得する。	技術を身につけ非常に優れた発想力と表現力による作品が制作できた。	技術を身につけ発想力と表現力による作品が制作できた。	技術を身につけおおむね発想力と表現力による作品が制作できた。	技術を身につけ作品をすべて制作できた。	技術を身につけることができず、作品を制作することができなかった。



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	建築表現 (科目ナンバリング: AHD321039)				
授業担当者(所属・職名)	安藤 淳一(建築学科・教授) 君 興 治(建築学科・准教授)		研究室等所在	2号館3階 2号館4階	
単位数	1 (単位認定責任者: 安藤 淳一)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス シラバスの説明, 授業改善アンケート結果反映の説明, 授業計画の説明	シラバスの事前確認(45分)	授業内容の確認(45分)
2	使用する道具と材料の種類と使い方の説明	授業資料の確認(45分)	使用道具の確認(45分)
3	点景1(空の表現)	使用道具の確認と準備(45分)	追加作業(45分)
4	点景2(樹木の表現 立面図)	使用道具の確認と準備(45分)	追加作業(45分)
5	点景3(樹木・植栽等の表現 配置図)	使用道具の確認と準備(45分)	追加作業(45分)
6	講評会(点景)	使用道具の確認と準備(45分)	講評内容の振り返り(45分)
7	レタリング1(漢字 明朝体・ゴシック体)	使用道具の確認と準備(45分)	講評内容の振り返り(45分)
8	レタリング2(アルファベット)	使用道具の確認と準備(45分)	講評内容の振り返り(45分)
9	講評会(レタリング)	提出作品の確認(45分)	講評内容の振り返り(45分)
10	色彩1(建具)	使用道具の確認と準備(45分)	追加作業(45分)
11	色彩2(建築外観)	使用道具の確認と準備(45分)	追加作業(45分)
12	講評会(色彩)	提出作品の確認(45分)	講評内容の振り返り(45分)
13	トレードマークの製作	使用道具の確認と準備(45分)	追加作業(45分)
14	表札の製作	使用道具の確認と準備(45分)	追加作業(45分)
15	講評会(トレードマークと表札)	提出作品の確認(45分)	講評内容の振り返り(45分)
16	総評(全作品の講評) 授業改善アンケートの実施	提出作品の最終確認(45分)	総評の振り返り(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	北国の建築と住まい (科目ナンバリング: APT311009)				
授業担当者(所属・職名)	安藤 淳一(建築学科・教授)	研究室等所在	2号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 安藤 淳一)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示板等を参照				

概要

履修目標

北国の建築と住まいは、積雪寒冷という気候条件から多くの制約を受けるため、それに対応すべく工夫と技術を生み出してきた。その一方で、美しい四季の変化と恵みを取り入れることも忘れられることはなかった。この授業では、先達の恩恵をどのように受け継ぎ発展させてきたのか、これからの住まいと住宅地に求められるものは何かを理解し、北国の住宅設計の基本と応用に係る知識を修得する。

授業の位置づけ

建築学科のDP(1)(3)に対応する。

到達目標

北国の住宅の多様さを知り、設計・デザインする手法と技術を学び、これからの住まいのあり方と設計手法を修得できる。また、北国の建築や住宅の見学と観察から現状と問題点を探ることができる。

授業全体の内容と概要

毎回配布する授業資料に沿って授業を進めるが、授業のポイントが演習問題として課せられるので、集中して聴くことが求められる。板書すべき事項は授業資料に記載され、プロジェクターで事例の画像や図表を投影して解説する。  
「SDGs11.住み続けられるまちづくりを」の関連授業

授業の方法

毎回配布する授業資料に沿って授業を進めるが、授業のポイントが演習問題として課せられるので、集中して聴くこと、メモを取ることが求められる。演習2は、提出後に講評を記述し返却する。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

授業開始時に配布する着席票に氏名を記入した後に回収するので、遅刻者は欠席扱いとなる。また、着席票をもとに意見発表を求め、受講態度もチェックされるので留意すること。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

「建築士試験受験資格課程」選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

毎回の授業で行われる演習を小テストと位置付け、その評価点(平常点)と見学レポート(20点満点)、および研究成果発表(20点満点)によって単位認定を行う。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	20%	20%	0%	60%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
北国の建築と住まいが積雪寒冷という気候条件からどのような制約を受けているのかを理解する。	積雪寒冷地の気候条件によって住まいや建築への制約を理解できた。	積雪寒冷地の気候条件によって住まいへの制約を理解できた。	積雪寒冷地の気候条件による制約を理解できた。	積雪寒冷地の気候条件による制約をおおむね理解できた。	気候条件の制約を理解することができなかった。
北国の住宅が自然環境に対してどのように対応しているかを設計・デザインの手法と技術の面から理解する。	北国の住宅建築の設計・デザインが自然環境に対して画され、その過程に多くの手法と技術の面から理解できた。	北国の住宅建築の設計・デザインが自然環境に対して画されていることを理解できた。	北国の住宅建築の設計・デザインを理解できた。	北国の住宅建築の設計・デザインをおおむね理解できた。	北国の住宅建築の設計・デザインを理解することができなかった。
北国の建築や住宅を見学し、観察することから環境に対する工夫や対処方法を理解し、問題点を見つけ出す。	北国の建築に対するさまざまな工夫を理解することができた。実物の観察から再確認し問題点を指摘することができた。	北国の建築の工夫や対処方法を理解し、実物の建築の観察から再確認することができた。	実物の建築から、北国の建築の工夫していることを理解できた。	建築や住宅の見学に参加することができた。	建築や住宅の見学に参加することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	北国の建築と住まい (科目ナンバリング: APT311009)				
授業担当者(所属・職名)	安藤 淳一(建築学科・教授)	研究室等所在	2号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 安藤 淳一)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス シラバスの説明, 授業改善アンケート結果反映の説明, 「北国の建築と住まい」で学ぶこと, 北国の定義, 北海道の歴史のあらまし	シラバスの事前確認(90分)	配布資料の見直し(90分)
2	北国の建築(1) 開拓使の建築-1 北海道庁旧本庁舎, 豊平館他	資料確認(90分)	演習2作成(90分)
3	北国の建築(2) 開拓使の建築-2 北大第2農場, 時計台他	資料確認(90分)	演習2作成(90分)
4	北国の建築(3) 現代の建築-1 サッポロファクトリー, 札幌ドーム他	資料確認(90分)	演習2作成(90分)
5	北国の建築の見学 北国の建築の名作をみる	見学資料の予習(90分)	見学レポート作成(90分)
6	総合演習#1 「北国の建築を観て」発表会	見学資料の確認(90分)	演習2作成(90分)
7	北海道の住まいの歴史 先住民の住まい, 開拓者の住まい, 洋風意匠, 炭坑住宅, 駅通	資料確認(90分)	演習2作成(90分)
8	北海道の住宅建築を拓いた建築家 マックス・ヒンデルと田上義也	資料確認(90分)	演習2作成(90分)
9	北海道の住宅が生み出した住様式 母村文化の継承・定着・変化, 防寒住宅, 暖房機器の変遷	資料確認(90分)	演習2作成(90分)
10	北国の住まいの計画(1) 暖かく住む 寒冷地の居住環境条件, 暖房・気密・断熱	資料確認(90分)	演習2作成(90分)
11	北国の住まいの計画(2) 雪と共に暮らす 除・排雪, 屋根のかたちと積雪, 雪と周縁空間	資料確認(90分)	演習2作成(90分)
12	北国の住まいの計画(3) 寒冷地住宅の間取り 暖房室と非暖房室, 開放性と閉鎖性	資料確認(90分)	演習2作成(90分)
13	北国の住まいの計画(4) 北国の集合住宅 コンバクトシティ 集まって住む北国のみッド	資料確認(90分)	演習2作成(90分)
14	北国の住まいの見学 北国の住宅の見学	見学資料の予習(90分)	見学レポート作成(90分)
15	総合演習#2 「北国の住まいを観て」発表会	見学資料の確認(90分)	演習2作成(90分)
16	総評(小テストの結果と課題・発表の講評と解説) 授業改善アンケートの実施	提出課題再確認(90分)	最終振り返り(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	スポーツ心理学 (科目ナンバリング: SPS422063, SPS522053)				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 和裕 (経営学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 佐藤 和裕)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、スポーツ心理学についての基礎的な科学的知識を深め指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標
スポーツの実践や指導に関わる様々な問題を心理学の側面からとらえることを目的とする。また、競技者や指導者がスポーツを実践する上で必要となる心理学的諸理論を知り、各自の問題解決の一助として活用していくための視点を養う。

授業の位置づけ
経営学科のDP(2)(4)(5)に対応する。

到達目標
スポーツを見つめる科学的な視点を養う。スポーツにおける心理学の基礎理論を理解する。スポーツにおける心理学の実践的応用について理解する。

授業全体の内容と概要
スポーツに対する科学としての心理学的視点(認知モデルの紹介)。スポーツにおける人間の行動特徴(モチベーション、行動の個人差)。スポーツにおける人間の行動マナジスト(メンタルトレーニング)スポーツにおける関係としての個人と集団(個人者集団と指導者集団との関係)。スポーツにおける心理学の活用事例(事例から自分自身への適用)。「SDG 4・質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法
授業はパワーポイント及び配布資料で実施しスポーツ心理学の事例を紹介しメンタルトレーニングの実践などのDVDも活用しながら講義形式で行う。また、授業の終わりに確認の小テストを実施し、フィードバックとして回収後、回答の解説を行う。

アクティブラーニングの実施方法																					
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模範授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td>○</td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL															
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業															
ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)															

履修上の注意事項
ノートやプリントは毎回必ず持参すること。授業中は口頭説明にも注意を向けノートやプリント等にメモしながらノート作成を行うこと。口頭で説明したことにも重要な事柄が含まれる。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する可能性がある。

修学サポート(合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目
教職課程(保健体育)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件												
単位認定に必要な出席回数は、11回以上。												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>30%</td> <td>60%</td> <td>10%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	0%	0%	30%	60%	10%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	0%	0%	30%	60%	10%							

ルーブリック																													
<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> <tr> <td>授業に対する積極性</td> <td>準備学習、事後学習はもとより積極的に授業に参加するなど、他の学生の模範となる授業態度であり、板書や課題提出ができた。</td> <td>準備学習、事後学習がなされ理解を深めるために受講し板書や課題提出ができた。</td> <td>準備学習、事後学習がなされ普通に受講し、板書や課題提出ができた。</td> <td>準備学習、事後学習がなされていないが、板書や課題提出ができた。</td> <td>準備学習、事後学習がなかった。</td> </tr> <tr> <td>スポーツ心理学についての基礎知識と領域理解</td> <td>幅広い領域について基礎的な知識を持ち、それぞれの領域について理解し説明できた。</td> <td>多様な領域からの見解を深く理解できた。</td> <td>多様な領域からの見解を一定程度理解できた。</td> <td>多様な領域からの見解をある程度理解できた。</td> <td>多様な領域からの見解をまったく理解できなかった。</td> </tr> <tr> <td>スポーツ心理学の知識に基づいた多様な思考力・判断力</td> <td>幅広い分野の知識・理解をもとにして、問題に対して多角的な思考力・判断力を行うことができた。</td> <td>多様な思考力・判断力が身についた。</td> <td>多様な思考力・判断力が一定程度身についた。</td> <td>多様な思考力・判断力があある程度身についた。</td> <td>多様な思考力・判断力がまったく身につけられなかった。</td> </tr> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	授業に対する積極性	準備学習、事後学習はもとより積極的に授業に参加するなど、他の学生の模範となる授業態度であり、板書や課題提出ができた。	準備学習、事後学習がなされ理解を深めるために受講し板書や課題提出ができた。	準備学習、事後学習がなされ普通に受講し、板書や課題提出ができた。	準備学習、事後学習がなされていないが、板書や課題提出ができた。	準備学習、事後学習がなかった。	スポーツ心理学についての基礎知識と領域理解	幅広い領域について基礎的な知識を持ち、それぞれの領域について理解し説明できた。	多様な領域からの見解を深く理解できた。	多様な領域からの見解を一定程度理解できた。	多様な領域からの見解をある程度理解できた。	多様な領域からの見解をまったく理解できなかった。	スポーツ心理学の知識に基づいた多様な思考力・判断力	幅広い分野の知識・理解をもとにして、問題に対して多角的な思考力・判断力を行うことができた。	多様な思考力・判断力が身についた。	多様な思考力・判断力が一定程度身についた。	多様な思考力・判断力があある程度身についた。	多様な思考力・判断力がまったく身につけられなかった。
評価項目		評価基準																											
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
授業に対する積極性	準備学習、事後学習はもとより積極的に授業に参加するなど、他の学生の模範となる授業態度であり、板書や課題提出ができた。	準備学習、事後学習がなされ理解を深めるために受講し板書や課題提出ができた。	準備学習、事後学習がなされ普通に受講し、板書や課題提出ができた。	準備学習、事後学習がなされていないが、板書や課題提出ができた。	準備学習、事後学習がなかった。																								
スポーツ心理学についての基礎知識と領域理解	幅広い領域について基礎的な知識を持ち、それぞれの領域について理解し説明できた。	多様な領域からの見解を深く理解できた。	多様な領域からの見解を一定程度理解できた。	多様な領域からの見解をある程度理解できた。	多様な領域からの見解をまったく理解できなかった。																								
スポーツ心理学の知識に基づいた多様な思考力・判断力	幅広い分野の知識・理解をもとにして、問題に対して多角的な思考力・判断力を行うことができた。	多様な思考力・判断力が身についた。	多様な思考力・判断力が一定程度身についた。	多様な思考力・判断力があある程度身についた。	多様な思考力・判断力がまったく身につけられなかった。																								

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	スポーツ心理学 (科目ナンバリング: SPS422063, SPS522053)				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 和裕(経営学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 佐藤 和裕)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、スポーツ心理学についての基礎的な科学的知識を深め指導する。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『養成講習会用テキストReference Book』	JSPQ	公益財団法人日本スポーツ協会			
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス(シラバスの説明) 授業改善アンケート結果反映の説明	事前にシラバスを読んで確認しておく(90分)	ガイダンスの内容を理解しておく(90分)
2	スポーツと心(スポーツにおけるこころの問題)	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく(90分)	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく(90分)
3	スポーツと心(スポーツにおける個人差と集団の理解)	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく(90分)	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく(90分)
4	スポーツと心(チームビルディング)	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく(90分)	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく(90分)
5	スポーツにおける動機づけ(動機づけ概念の理解)	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく(90分)	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく(90分)
6	スポーツにおける動機づけ(適切な動機づけ水準)	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく(90分)	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく(90分)
7	コーチングの心理(コーチングの手法)	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく(90分)	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく(90分)
8	コーチングの心理(コーチング評価)	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく(90分)	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく(90分)
9	メンタルマネジメント(メンタルトレーニング)	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく(90分)	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく(90分)
10	メンタルマネジメント(あがりの対処法)	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく(90分)	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく(90分)
11	メンタルマネジメント(プレッシャーの対処法)	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく(90分)	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく(90分)
12	メンタルマネジメント(スランプの対処法)	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく(90分)	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく(90分)
13	指導者のメンタルマネジメント(リーダーシップ)	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく(90分)	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく(90分)
14	指導者のメンタルマネジメント(感情コントロール)	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく(90分)	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく(90分)
15	指導者のメンタルマネジメント(指導者の自己管理)	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく(90分)	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく(90分)
16	まとめ(授業改善アンケートの実施)	ノート・プリントで講義内容を確認しておく(90分)	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	法学入門 (科目ナンバリング: LAW021019)				
授業担当者(所属・職名)	青山 浩之(経営学科・教授)	研究室等所在	1号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者: 青山 浩之)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

法律は、市民生活や経済活動を送るうえで欠かせないものである。法的な問題が生じたとき、迅速かつ的確に対応できる人材を育成することを目指す。法の基本となる知識を修得し、実際に即し講義を行う。具体的には、日本において法律の基礎となる六つの法律、憲法、民法、商法、刑法、民事訴訟法、刑事訴訟法について、条文をベースに解説する。

授業の位置づけ

経営学科のDP(1)(2)(3)に対応する。  
 社会福祉学科のDP(2)に対応する。  
 デザイン学科のDP(2)に対応する。  
 建築学科のDP(2)に対応する。

到達目標

法律に対して感じるむずかしさや抵抗感を取り除き、法律の基本知識を修得する。法律の基本知識を修得することにより、条文を理解し、適用・解釈できる。

授業全体の内容と概要

法律の基本となる知識を修得することを目的とし、条文を理解し、適用・解釈できるようになることを目標とする。さらには、法的な問題が生じたとき、迅速かつ的確に対応できる人材を育成することを目指す。法の基本となる知識を修得し、実際に即し講義を行う。具体的には、日本において法律の基礎となる六つの法律、憲法、民法、商法、刑法、民事訴訟法、刑事訴訟法について、条文をベースに解説する。

授業の方法

授業は、資料をパワーポイントで投影し、資料(第3回から第14回の計12回)を配布して実施する(調査学習含む)。授業の進行は、前回の復習から始まり、本日の講義の内容を講義形式で解説を行う。確認テストは、講義の理解を深めるために3回(前年実績)実施する。ビデオ視聴は、課題解決力を養うために2回(前年実績)(受講人数・使用教室などによっては実施しない)実施する。についてのフィードバックは、講義内で解説を行う。補講が必要な場合は実施する(欠欠などの学生に対しては補講を実施する)。確認テストなどはプリント配布で実施のほか、Microsoft Formsの小テストから学生全体の理解度を把握し、指導する。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	○	PBL
模範授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

- ・私語などの迷惑行為は厳禁。
- ・講義中スマホの操作は厳禁、マナーモードで受講してください。
- ・六法を持参することを推奨。
- ・確認テストやビデオ視聴を実施するので遅刻は慎むこと。開始後、プリント配布はしません。
- ・不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合があります。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。  
 ・参考資料の配布方法や事前提供などについて配慮する。  
 ・講義中の録音・録画・撮影などについて配慮する。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。  
 課題の提出等の定期試験以外の割合が単位認定基準の4割を占めるので、12回以上の出席を推奨。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	0%	0%	0%	40%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
法律の条文を読み取り、理解できる	法律の条文を読み取り、理解でき、さらに自分の意見を述べる	法律の条文を読み取り、理解でき、自分なりの説明ができる	法律の条文を読み取り、理解できる	法律の条文を読み取れる	法律の条文を読み取れない
事例を理解し、法律の条文を適用できる	事例を理解し、法律の条文を適用し、さらに自分の意見を述べる	事例を理解し、法律の条文を適用し、自分なりの説明ができる	事例を理解し、法律の条文を適用できる	事例を理解し、法律の条文を理解できる	事例を読み取れず、法律の条文を理解できない
課題に対し、問題解決ができる	解答が的確で、過不足なく網羅して答えている	一部に解答と関係ないことを答えているが、解答は答えている	改善すべき点があるが、解答は一通り答えている	的確ではないが、解答を部分的に答えている	解答が論点にズレがあり、テーマに対して十分ではない

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	法学入門 (科目ナンバリング: LAW021019)				
授業担当者(所属・職名)	青山 浩之(経営学科・教授)	研究室等所在	1号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者: 青山 浩之)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『法学入門』	穴戸常寿・石川博康	有斐閣	2021年	9784641126183	
2	『ポケット六法 令和5年版』	佐伯仁志, 大村敦志 / 編集代表	有斐閣	2022年	9784641009233	
3	『条文ガイド六法 憲法 第2版』	尾崎哲夫	自由国民社	2014年	9784426118730	
4	『大学生活と法学』	江藤祥平・大塚智見・遠藤聡太・豊谷しのぶ・辰野嘉則・田原	有斐閣	2022年	9784641126312	
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 ガイダンス 法とは何か	シラバスの確認(90分)	復習(90分)
2	シラバスの説明 ガイダンス 法とは何か・法と道徳, 法の目的・種類	シラバスの確認 法とは何かを考える調べ学習(90分)	復習(90分)
3	法の適用と解釈・法と裁判 確認テスト1(前年実績)	法と裁判についての調べ学習(90分)	配布資料の復習(90分), 確認テストの復習
4	日本国憲法の基本原理・基本的人権	基本的人権についての調べ学習(90分)	配布資料の復習(90分)
5	日本国憲法の基本原理・権力分立	権力分立二についての調べ学習(90分)	配布資料の復習(90分)
6	日本国憲法の基本原理・国民権と国会	国民権と国会についての調べ学習(90分)	配布資料の復習(90分)
7	民法・全体像と基本原理 確認テスト2(前年実績)	民法と基本原理についての調べ学習(90分)	配布資料の復習(90分), 確認テストの復習
8	民法・契約	契約についての調べ学習(90分)	配布資料の復習(90分)
9	民法・権利主体と法律行為	権利主体と法律行為についての調べ学習(90分)	配布資料の復習(90分)
10	民法・物権 民事訴訟法・全体像と目的	物権と民事訴訟法についての調べ学習(90分)	配布資料の復習(90分)
11	会社法・全体像と株式会社のしくみ	会社法と株式会社のしくみについての調べ学習(90分)	配布資料の復習(90分)
12	刑法・法益保護機能と自由保障機能, 罪刑法定主義	法益保護機能と自由保障機能, 罪刑法定主義についての調べ学習(90分)	配布資料の復習(90分)
13	刑法・犯罪が成立するためのプロセス, 行為無価値論と結果無価値論 確認テスト3(前年実績)	犯罪が成立するためのプロセス, 行為無価値論と結果無価値論についての調べ学習(90分)	配布資料の復習(90分), 確認テストの復習
14	刑法・犯罪の構成要件, 犯罪の保護法益 刑事訴訟法・全体像と目的	犯罪の構成要件, 犯罪の保護法益と刑事訴訟法についての調べ学習(90分)	配布資料の復習(90分)
15	まとめ 定期試験の説明 授業改善アンケートの実施	第3回から第14回まで復習(90分)。	試験範囲の確認, 第3回から第14回まで復習(90分)
16	定期試験(60分) 定期試験の解説, 採点方法の説明 授業改善アンケートの実施	試験範囲の確認, 第3回から第14回まで復習(90分)	復習(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	データサイエンス・プログラム (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	薦田 勇智(経営学科・専任講師)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 薦田 勇智)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照のこと。				

概要

<p><b>履修目標</b></p> <p>・ 数理・データサイエンス・AIの基礎的素養を深めることを目的とし、地域社会が抱える課題に対して、データサイエンスの知識・技術を活用して解決する方策を導き出す実践力を習得する。</p> <p>・ 学生間のコミュニケーションを通して、分析・考察をより深く、プロジェクトを完遂する。</p> <p>・ PBL (Project Based Learning / プロジェクト型学習)を通して、プロジェクト管理能力、ディスカッションスキル、プレゼンテーションスキル、ドキュメント作成スキル、設計力、計画力、コミュニケーションの向上を図り、複合・応用的なスキルを習得する。</p>
--

<p><b>授業の位置づけ</b></p> <p>経営学科のDP(2)(4)に対応する。          社会福祉学科のDP(2)(4)に対応する。          デザイン学科のDP(2)(4)に対応する。          建築学科のDP(2)(4)に対応する。</p>
---

<p><b>到達目標</b></p> <p>・ 数理・データサイエンス・AIに関する基礎知識・技術を活用した課題解決への取り組みについて体感する。</p> <p>・ 地域社会が抱える課題に関心を持ち、多角的に分析し、解決する方策を考え抜く力を習得する。</p> <p>・ グループの一員であることを自覚し、多様な価値観を認め合い、柔軟な視点で適切な意見を発信する。</p>
--

<p><b>授業全体の内容と概要</b></p> <p>Society5.0や、データ駆動型社会などと称される現在において、文理問わず、幅広い分野においてデータサイエンス・AIやICTの活用できる基礎的素養を習得し、課題の発見・解決のために活用できる能力が必要となる。本科目では、将来、幅広い分野でデータサイエンスやICTを実際に活用できるよう、これまで習得した知識・技術を活用して、実際に地域社会が抱える課題の解決に取り組む。</p> <p>本科目は、数理・AI・データサイエンス教育の関連授業科目である。</p> <p>本科目は、以下のSDGs関連授業である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ SDG 8.働きがいも経済成長も</li> <li>・ SDG 9.産業と技術革新の基盤をつくろう</li> <li>・ SDG 11.住み続けられるまちづくりを</li> <li>・ SDG 17.パートナーシップで目標を達成しよう</li> </ul>
--

<p><b>授業の方法</b></p> <p>本科目は、プロジェクト形式で行うため、学生間のコミュニケーションやディスカッション、グループワークなど主体的に取り組む姿勢が重要となる。プロジェクトの開始にあたり、地域社会が抱える課題やその背景、最終目標などについて資料等を、プロジェクト及び大型モニターに提示しながら、外部協力者により解説する。その後、ディスカッションなどを行いながら課題解決に向け、企画・計画の立案、目標設定、予算作成、調査、分析、制作、発表、自己評価・改善といったPDCAサイクルを軸とした一連の工程を行う。担当教員は、都度アドバイスやフィードバックを行い、プロジェクトが円滑に進むようサポートする。</p> <p>円滑なコミュニケーションが図れるよう、次の学習支援を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業時間外において質問及び相談があれば、Teamsチャットまたは音声通話にて受け付ける。</li> <li>・ 提示した教材は、全Teamsにて公開・配信する。</li> <li>・ 一連の活動において、適切かつ円滑なコミュニケーションが図れるよう、適宜介入しサポートする。</li> </ul>
--

<b>アクティブラーニングの実施方法</b>							
○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	PBL
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)

<p><b>履修上の注意事項</b></p> <p>受講条件あり</p> <p>・ 本科目は「情報基礎演習」「情報基礎演習」で習得した知識を踏まえた高度な技術が求められ、かつデータサイエンスに関して高い関心を持ち主体的な取り組みが必要であることから、両科目の成績評価が「S(秀)・A(優)・B(良)」のいずれかであることを条件とする。</p> <p>・ 本科目受講を希望する場合は、必ず第1回授業に出席すること。</p> <p>・ 本科目はプロジェクト形式で行うため、積極的に他の学生とのコミュニケーションを図ること。</p> <p>・ 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。</p>
---

<p><b>修学サポート(合理的配慮)</b></p> <p>事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。</p>
<p><b>資格指定科目</b></p>

<p><b>評価方法・基準</b></p> <p><b>評価前提条件</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 単位認定に必要な最低出席回数は、13回以上とする。</li> <li>・ 遅刻及び早退は20分までを限度とし、それ以上の場合は欠席とみなす。</li> <li>・ 評価については、プロジェクトでの取り組みの姿勢や態度、貢献度を重視する。</li> <li>・ 取り組みの中で「失敗した」としても減点しない。あくまでも、「プロセス(過程)」を評価対象とするので、失敗を恐れず積極的に挑戦すること。</li> </ul>
--

<b>評価方法</b>					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	20%	0%	0%	80%	0%

<b>ルーブリック</b>					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあたるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
数理・データサイエンス・AIの知識・技術を活用した課題解決	課題解決に向け、数理・データサイエンス・AIの知識・技術を活用して課題解決	課題解決に向け、数理・データサイエンス・AIの知識・技術を活用して課題解決	課題解決に向け、数理・データサイエンス・AIの知識・技術を活用して課題解決	課題解決に向け、数理・データサイエンス・AIの知識・技術を活用して課題解決	数理・データサイエンス・AIの知識・技術を活用できなかった。
地域社会への関心・課題への主体的な取り組み	地域社会に非常に高い関心を持ち、リーダシップを発揮して、課題に主体的に取り組むことができた。	地域社会に非常に高い関心を持ち、他の学生と関わり合いながら、課題に主体的に取り組むことができた。	地域社会に高い関心を持ち、課題に主体的に取り組むことができた。	地域社会に関心を持ち、課題に主体的に取り組むことができた。	地域社会に関心を持てず、課題に主体的に取り組むことができなかった。
課題解決のために考え抜く姿勢	課題解決に向け、分析結果やディスカッションをもとに、他の学生の価値観を尊重しながら、論理立てて考え抜くことができた。	課題解決に向け、分析結果やディスカッションをもとに、他の学生の価値観を尊重しながら、論理立てて考え抜くことができた。	課題解決に向け、分析結果やディスカッションをもとに、考え抜くことができた。	課題解決に向け、考え抜くことができた。	途中で考えることを諦めてしまった。
柔軟な視点と発信力	グループの一員であることを自覚し、多様な価値観を認め合い、他の学生が意見をしやすい工夫を講じた上で、柔軟かつ独自の視点で適切な意見を発信できた。	グループの一員であることを自覚し、多様な価値観を認め合い、他の学生が意見をしやすい工夫を講じた上で、柔軟かつ独自の視点で適切な意見を発信できた。	グループの一員であることを自覚し、多様な価値観を認め合い、柔軟かつ独自の視点で適切な意見を発信できた。	グループの一員であることを自覚し、多様な価値観を認め合い、柔軟な視点で適切な意見を発信できた。	グループの一員であることを自覚できず、意見を発信できなかった。
プロジェクト活動への理解とスキルの習得	プロジェクトとは何かを十分に理解し、チームのために自分に必要なスキルは何かを主体的に考え、習得できた。また、そのスキルを他の学生に共有できた。	プロジェクトとは何かを十分に理解し、チームのために自分に必要なスキルは何かを主体的に考え、習得できた。	プロジェクトとは何かを十分に理解し、必要スキルを概ね習得できた。	プロジェクトとは何かを理解できず、必要なスキルの習得を目指して取り組むことができた。	プロジェクトとは何かを理解できず、必要なスキルの習得を目指して取り組むことができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	データサイエンス・プログラム (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	薦田 勇智(経営学科・専任講師)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 薦田 勇智)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『教養としてのデータサイエンス』	北川 源四郎・竹村 彰通	講談社	2021	9784065238097	
2	『データサイエンスの基礎』	瀧田 悦生	講談社	2019	9784065170007	
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	【オリエンテーション】 シラバス・授業改善アンケート結果反映の説明、本 科目の受講条件の確認。	シラバスを読む(90分)	プロジェクトについて調べる(90分)
2	【プロジェクトマネジメント入門】 プロジェクトとは何か、求められるスキルと姿勢に ついて解説する。	プロジェクトの進め方について調べる(90分)	メモ・ノートを整理する(90分)
3	【プロジェクトテーマの説明】 外部協力者により、地域社会の課題について説明す る。その後、理解を深めるためにディスカッション	北広島市について調べる(90分)	説明の内容について理解できなかった点について調 べる(90分)
4	【リサーチ・データ分析】 課題解決に向けて、情報収集(文献検索・データベ ース活用法等)を行い、データを分析する。	前回のディスカッションの内容を復習する(90分)	データの分析結果の改善点を見つける(90分)
5	【企画立案】 課題解決に向けて、データ分析の結果をもとに企画 を立案し、提案に向けて準備を行う。	データ分析結果を復習する(90分)	文書作成・プレゼンテーションについて復習する (90分)
6	【提案練習】 プレゼンテーション資料を作成し、外部協力者に対 して行う提案の練習をする。	プレゼンテーションのコツについて復習する(90 分)	自分の役割を全うできるよう練習する(90分)
7	【提案】 外部協力者に対して、プレゼンテーションを行う。	自分の役割を全うできるよう練習する(90分)	外部協力者・脅威員からのフィードバックを整理す る(90分)
8	【企画実行】 承認を受けた内容について取り組む。	外部協力者・脅威員からのフィードバックを整理す る(90分)	取り組んだ内容についてメンバー間で共有する (90分)
9	【企画実行】 承認を受けた内容について取り組む。	自分の分担業務について進める(90分)	取り組んだ内容についてメンバー間で共有する (90分)
10	【企画実行】 承認を受けた内容について取り組む。	自分の分担業務について進める(90分)	取り組んだ内容についてメンバー間で共有する (90分)
11	【企画実行】 承認を受けた内容について取り組む。	自分の分担業務について進める(90分)	取り組んだ内容についてメンバー間で共有する (90分)
12	【企画実行】 承認を受けた内容について取り組む。	自分の分担業務について進める(90分)	取り組んだ内容についてメンバー間で共有する (90分)
13	【企画実行】 承認を受けた内容について取り組む。	自分の分担業務について進める(90分)	取り組んだ内容についてメンバー間で共有する (90分)
14	【企画実行】 承認を受けた内容について取り組む。	自分の分担業務について進める(90分)	取り組んだ内容についてメンバー間で共有する (90分)
15	【取り組みの自己評価・まとめ】 自分たちの取り組みについて、評価・反省点をまと める。	実行した結果についてまとめる(90分)	反省点をどのように改善したらよいかを考えまと める(90分)
16	【講評・まとめ】 外部協力者・教員より講評を行う。授業改善アンケ ートを実施する。	自己評価について確認する(90分)	講評の内容について、今後活用できるかたちに整理 する(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	デッサン (科目ナンバリング: AEA222008)				
授業担当者(所属・職名)	西田 陽二 (デザイン学科・特任教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 西田 陽二)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	画家として活動経験を有する教員が、その経験を活かし実践に即してデッサンについて教授する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

デザイナーとして、アーティストとして、美術の教員として「デッサン」が全ての基礎基本であることを十分に認識させ、単に技能や知識の向上にとどまらず、美術を愛好し積極的に、学生がそれぞれの専門分野に活かそうとする態度を養うこと。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP(1) (2)に対応する。

到達目標

モチーフのかたちを客観的に把握できるようにすること。素描の楽しさや重要性について理解できる。卒業後の社会での生活を想定した専門性に関する意識の高揚と実践的態度を養成する。

授業全体の内容と概要

デッサンの材料・用具・その要素としてのプロポーション・明暗・質感・空間表現などについての実習。

授業の方法

プレゼンテーションは板書にて行う。授業形態は実技を行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

知性と感性を十分に発揮し、根気強くたゆまなく努力すること。作品の質・課題に取り組む姿勢・鑑賞力などを重視する。不測の事が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、20回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	80%	0%	0%	20%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
適正な構図、形のバランス(比例)が正しく捉えられたことを基準とする	バランスよく配置や大きさが捉えられていた	ほぼバランスよく配置されていた	大きさ等が大体捉えられていた	左右上下にバランスよく配置されていた	左右により過ぎや、極端に大きい、小さい等
光の方向や陰影の濃淡等が分かりやすく表現できているかを基準とする	自然な光の流れが表現出来ていた	ほぼ光の方向が表現出来ていた	明るい、暗いの描き分けが出来ていた	明暗で表現しているた	輪郭線等で囲って色を付けていた
陰影法を正しく理解できているかを基準とする	陰と投影を正しく理解し描き分けられている。質感の表現も出来ていた	陰で立体表現が出来ていた	光の流れで立体表現をしていた	色の濃淡で表現していた	輪郭の中に単色の調子を塗り込んでいた

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	デッサン (科目ナンバリング: AEA222008)				
授業担当者(所属・職名)	西田 陽二 (デザイン学科・特任教授)	研究室等所在	2号館 7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 西田 陽二)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容を。画家として活動経験を有する教員が、その経験を活かし実践に即してデッサンについて教授する。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	オリエンテーション シラバスの説明 デッサンのための用具野説明、授業の流れと目的などについて。	シラバスを読んでおくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
2	石膏像 (胸像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
3	石膏像 (胸像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
4	石膏像 (胸像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
5	石膏像 (胸像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
6	石膏像 (胸像) のデッサン 作品画像保存	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
7	石膏像 (胸像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
8	石膏像 (胸像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
9	石膏像 (胸像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
10	石膏像 (胸像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
11	石膏像 (胸像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
12	石膏像 (胸像) のデッサン 作品画像保存	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
13	石膏像 (胸像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
14	石膏像 (胸像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
15	石膏像 (胸像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
16	石膏像 (胸像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17	石膏像 (胸像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
18	石膏像 (胸像) のデッサン 作品画像保存	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
19	石膏像 (胸像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
20	石膏像 (胸像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
21	石膏像 (胸像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
22	石膏像 (胸像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
23	石膏像 (胸像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
24	石膏像 (胸像) のデッサン 作品画像保存	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
25	石膏像 (胸像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
26	石膏像 (胸像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
27	石膏像 (胸像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
28	石膏像 (胸像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
29	石膏像 (胸像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
30	石膏像 (胸像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
31	石膏像 (胸像) のデッサン 作品画像の保存	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
32	採点及び講評会 (解説・フィードバック) 授業改善アンケート実施	講評会の準備を行うこと (45分)	解説・フィードバックを受けて講義内容のふりかえりを行うこと (45分)

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	キャリアデザイン (M) (科目ナンバリング: SOE011012)				
授業担当者(所属・職名)	山本 一彦(経営学科・特任教授)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者: 山本 一彦)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

変化する現代産業社会の特質を知り、その中で働くとはどのようなことか、職業とは何か、また、それらをめぐる諸問題に目を向け、「学生」が「職業人」になっていくことの意味の理解し、学ぶ。

授業の位置づけ

経営学科のDP(2)(3)に対応する。

到達目標

産業社会や労働・職業の実態について単に知識を習得するだけでなく、「学生」から「職業人」へ移行していく自分自身の問題としてとらえ、批判的に考察する姿勢をもてることができる。

授業全体の内容と概要

まず、自らの生涯における「キャリア」とは何かを知り、続いて、文化や社会、時代の違いによって「労働」に対する考え方が異なること、また、「働くこと」や「労働」の発達した社会における「職業」・「専門職」の意味について理解する。そして、どのように「学生」が「職業人」へと移行していかを理解し、「労働」・「職業」をめぐりさまざまな問題を考察する。

授業の方法

授業は現代のさまざまな事例を素材としながら講義形式で行ない(PBL含む)、必要な場合には資料を配布する。単元・項目によっては受講者の見解を知るための小文を提出してもらい、授業で概要を発表してフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	○	PBL
模範授業	ロールプレイ	調査学習		反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	○	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

さまざまなテーマについて自ら考える「主体的・能動的」な姿勢での受講を求める。本試験・追試験結果が保留となった場合、レポート課題の提出が必要。保留後の合格の場合は、評価はCとする。尚、不測の事態の際はオンラインで実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は10回

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
90%	0%	0%	0%	0%	10%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
キャリアデザインに係る知識	定期試験におけるキャリアデザインに係る基礎事項該当部分で90%以上の正答があった。	左記の同部分が80%以上90%未満の正答であった。	左記の同部分が70%以上80%未満の正答であった。	左記の同部分が60%以上80%未満の正答であった。	左記の同部分の正答が60%に届かなかった。
思考力・判断力等	キャリア概念を軸にして、自らの将来の労働生活・職業活動に関する展望・考察が充分にできていた。	左記事項についての展望・考察が概ねできていた。	左記事項についての展望・考察が広く一般的水準でできていた。	左記事項についての展望・考察が最低限の水準に留まっていた。	考察・展望が最低限の水準に届かず、授業内容が理解できていなかった。
実社会における労働活動・職業生活への分析力・主体性	実際の労働生活・職業活動をめぐるさまざまな社会的問題について十分に主体的分析ができていた。	左記の事項について概ねできていた。	左記の事項について一般的水準でできていた。	分析や主体性が最低限の水準に留まっていた。	分析や主体性が最低限の水準に届かず、授業内容が理解できていなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	キャリアデザイン (M) (科目ナンバリング: SOE011012)				
授業担当者(所属・職名)	山本 一彦(経営学科・特任教授)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者: 山本 一彦)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	科目ガイダンス…全体概要,目的とねらい,履修上の注意,評価方法説明(シラバス説明を含む),授業アンケート結果説明	シラバス内容を事前確認(90分)	目的とねらいについての復習と確認(90分)
2	ライフデザインとキャリア 1.「キャリア」とは何か	自らの生活に関する展望のイメージ化・意識化(90分)	「キャリア」とは何であったかの復習・理解(90分)
3	ライフデザインとキャリア 2..若者世代と「ライフデザイン」	現代の若者世代を取り巻く社会環境についての意識化(90分)	現代の若者世代のキャリア形成の特質についての復習・理解(90分)
4	働くことと職業生活 1.「労働」をどうとらえるか? 2..その歴史と比較	自らが「働くこと」をどう見ているかについての意識化(90分)	さまざまな「労働」観についての復習・理解(90分)
5	働くことと職業生活 2.社会的分業と「職業」 …社会と個人の結び目	自らは「職業」活動をどう見ているかについての意識化(90分)	社会的分業と個人の職業生活との関係についての復習・理解(90分)
6	産業社会の変化と職業 1.現代の産業構造・職業構造	日本の産業・職業の構造的特徴を事前確認(90分)	特に日本の職業構造についての復習・理解(90分)
7	産業社会の変化と職業 2.職業の専門化と現代の「専門職」	「専門職」の職業的性質についての事前考察(90分)	「専門職」の社会的意味についての復習・理解(90分)
8	「学生」から「職業人」へ 1.何が「職業人」に必要か? …エンプロイアビリティの向上	「職業人」には何が求められるかについてのイメージ化・意識化(90分)	「エンプロイアビリティ」とは何であったかの復習・理解(90分)
9	「学生」から「職業人」へ 2.ライフコースの変化と現代のキャリア形成	現代人の人生経路についてのイメージ化・意識化(90分)	過去と現代のキャリア形成の違いについての復習・理解(90分)
10	職業をめぐる現代社会の諸問題 1.現代の雇用環境と若者 …就職をめぐる問題	現代日本の「雇用問題」についての事前考察(90分)	若者世代をめぐる雇用状況についての復習・理解(90分)
11	職業をめぐる現代社会の諸問題 2.就労形態の変化 …多様な働き方とは?	「働き方」をめぐる問題点についての事前考察(90分)	働き方の「多様化」をめぐる二面性についての復習・理解(90分)
12	職業をめぐる現代社会の諸問題 3.男女共同参画社会へ …ワークライフバランスの確立	男女の働き方の違いと問題点についての事前考察(90分)	男女共同参画の重要性についての復習・理解(90分)
13	職業をめぐる現代社会の諸問題 3.男女共同参画社会へ …ワークライフバランスの確立	生活の中の仕事の位置づけに関する事前考察(90分)	ワークライフバランス確立の重要性についての復習・理解(90分)
14	現代社会の新しい働き方 …ディセントワークを目指して	より良い「働き方」のイメージ化・意識化(90分)	ワークライフバランス確立の重要性についての復習・理解(90分)
15	総括と試験概要説明,授業アンケート実施	ノートの整理と重要項目のチェック(90分)	評価に関する確認と理解 試験対応のための復習・理解(90分)
16	試験および解説 60分の試験終了後,残りの30分で解説	試験対応準備(90分)	解説内容の確認・理解(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年、デザイン学科・1年、建		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	キャリアデザイン (科目ナンバリング: SOE011012)				
授業担当者(所属・職名)	山本 一彦(経営学科・特任教授)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者: 山本 一彦)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー					

概要

履修目標

変化する現代産業社会の特質を知り、その中で働くとはどのようなことか、職業とは何か、また、それらをめぐる諸問題に目を向け、「学生」が「職業人」になっていくことの意味の理解し、学ぶ。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP(2)(4)に対応する。  
デザイン学科のDP(2)(4)に対応する。  
建築学科のDP(2)(4)に対応する。

到達目標

産業社会や労働・職業の実態について単に知識を習得するだけでなく、「学生」から「職業人」へ移行していく自分自身の問題としてとらえ、批判的に考察する姿勢をもてることが出来る。

授業全体の内容と概要

まず、自らの生涯における「キャリア」とは何かを知り、続いて、文化や社会、時代の違いによって「労働」に対する考え方が異なること、また、「働くこと」や「労働」の発達した社会における「職業」・「専門職」の意味について理解する。そして、どのように「学生」が「職業人」へと移行していかればよいのかを理解し、「労働」・「職業」をめぐるさまざまな問題を考察する。

授業の方法

授業は現代のさまざまな事例を素材としながら講義形式で行ない(PBL含む)、必要な場合には資料を配布する。単元・項目によっては受講者の見解を知るための小文を提出してもらい、授業で概要を発表してフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	○	PBL
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

さまざまなテーマについて自ら考える「主体的・能動的」な姿勢での受講を求める。本試験・追試験結果が保留となった場合、レポート課題の提出が必要。保留後の合格の場合は、評価はCとする。尚、不測の事態の際はオンラインで実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は10回

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
90%	0%	0%	0%	0%	10%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
キャリアデザインに係る知識	定期試験におけるキャリアデザインに係る基礎事項該当部分で90%以上の正答があった。	左記の同部分が80%以上90%未満の正答であった。	左記の同部分が70%以上80%未満の正答であった。	左記の同部分が60%以上80%未満の正答であった。	左記の同部分の正答が60%に届かなかった。
思考力・判断力等	キャリア概念を軸にして、自らの将来の労働生活・職業活動に関する展望・考察が十分にできていた。	左記事項についての展望・考察が概ねできていた。	左記事項についての展望・考察が広く一般的水準でできていた。	左記事項についての展望・考察が最低限の水準に留まっていた。	考察・展望が最低限の水準に届かず、授業内容が理解できていなかった。
実社会における労働活動・職業生活への分析力・主体性	実際の労働生活・職業活動をめぐるさまざまな社会的問題について十分に主体的分析ができていた。	左記の事項について概ねできていた。	左記の事項について一般的な水準でできていた。	分析や主体性が最低限の水準に留まっていた。	分析や主体性が最低限の水準に届かず、授業内容が理解できていなかった。



基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年、デザイン学科・1年、建		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	キャリアデザイン (科目ナンバリング: SOE011012)				
授業担当者(所属・職名)	山本 一彦(経営学科・特任教授)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者: 山本 一彦)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	科目ガイダンス…全体概要、目的とねらい、履修上の注意、評価方法説明(シラバス説明を含む)、前年度授業アンケート結果概要説明	シラバス内容を事前確認(90分)	目的とねらいについての復習と確認(90分)
2	・ライフデザインとキャリア 1.「キャリア」とは何か	自らの生活に関する展望のイメージ化・意識化(90分)	「キャリア」とは何であったかの復習・理解(90分)
3	・ライフデザインとキャリア 2..若者世代と「ライフデザイン」	現代の若者世代を取り巻く社会環境についての意識化(90分)	現代の若者世代のキャリア形成の特質についての復習・理解(90分)
4	・働くことと職業生活 1.「労働」をどうとらえるか? 2..その歴史と比較	自らが「働くこと」をどう見ているかについての意識化(90分)	さまざまな「労働」観についての復習・理解(90分)
5	・働くことと職業生活 2.社会的分業と「職業」 …社会と個人の結び目	自らは「職業」活動をどう見ているかについての意識化(90分)	社会的分業と個人の職業生活との関係についての復習・理解(90分)
6	・産業社会の変化と職業 1.現代の産業構造・職業構造	日本の産業・職業の構造的特徴を事前確認(90分)	特に日本の職業構造についての復習・理解(90分)
7	・産業社会の変化と職業 2.職業の専門化と現代の「専門職」	「専門職」の職業的特質についての事前考察(90分)	「専門職」の社会的意味についての復習・理解(90分)
8	・「学生」から「職業人」へ 1.何が「職業人」に必要か? …エンプロイアビリティの向上	「職業人」には何が求められるかについてのイメージ化・意識化(90分)	「エンプロイアビリティ」とは何であったかの復習・理解(90分)
9	・「学生」から「職業人」へ 2.ライフコースの変化と現代のキャリア形成	現代人の人生経路についてのイメージ化・意識化(90分)	過去と現代のキャリア形成の違いについての復習・理解(90分)
10	・職業をめぐる現代社会の諸問題 1.現代の雇用環境と若者 …就職をめぐる問題	現代日本の「雇用問題」についての事前考察(90分)	若者世代をめぐる雇用状況についての復習・理解(90分)
11	・職業をめぐる現代社会の諸問題 2.就労形態の変化 …多様な働き方とは?	「働き方」をめぐる問題点についての事前考察(90分)	働き方の「多様化」をめぐる二面性についての復習・理解(90分)
12	・職業をめぐる現代社会の諸問題 3.男女共同参画社会へ …ワークライフバランスの確立	男女の働き方の違いと問題点についての事前考察(90分)	男女共同参画の重要性についての復習・理解(90分)
13	・職業をめぐる現代社会の諸問題 3.男女共同参画社会へ …ワークライフバランスの確立	生活の中の仕事の位置づけに関する事前考察(90分)	ワークライフバランス確立の重要性についての復習・理解(90分)
14	・現代社会の新しい働き方 …ディセントワークを目指して	より良い「働き方」のイメージ化・意識化(90分)	ワークライフバランス確立の重要性についての復習・理解(90分)
15	総括と試験概要説明、授業アンケート実施	ノートの整理と重要項目のチェック(90分)	評価に関する確認と理解 試験対応のための復習・理解(90分)
16	試験および解説 60分の試験終了後、残りの30分で解説	試験対応準備(90分)	解説内容の確認・理解(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	精神保健福祉援助演習 (科目ナンバリング: SWS122045)				
授業担当者(所属・職名)	西野 克俊(社会福祉学科・専任講師) 、 畠山 明子(社会福祉学科・准教)		研究室等所在	1号館2階	
単位数	1 (単位認定責任者: 畠山 明子)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神保健福祉士として相談援助に従事していた教員が現場で求められる役割や基礎的な知識、技術、倫理などを伝達する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示板などを参照				

概要

<p><b>履修目標</b></p> <p>精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人の状況や困難、また希望を的確に聞き取り、とりまく状況や環境を含めて理解してソーシャルワークを展開するための精神保健福祉士の専門性(知識、技術、価値)の基礎を獲得する。</p> <p>精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための諸制度、サービスについて、その概念と利用要件や手続きを知り、援助に活用できるようにする。</p> <p>精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための関係機関や職種の役割を理解し、本人を中心とした援助を展開するチームが連携する際のコーディネーター役を担えるようになる。</p> <p>精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人を取り巻く環境や社会を見渡し、こうした人々への差別や偏見を除去し共生社会を実現するための活動を精神保健福祉士の役割として認識し、政策や制度、関係行政や地域住民にはたらきかける方法をイメージできるようにする。</p> <p>精神保健福祉士として考え、行動するための基盤を獲得し、職業アイデンティティを構築する意義を理解できる。</p>
--

<p><b>授業の位置づけ</b></p> <p>社会福祉学科のDP(1)(2)(3)(4)(5)に対応する。</p>
---

<p><b>到達目標</b></p> <p>ソーシャルワークを展開するための精神保健福祉士の専門性(知識、技術、価値)の基礎を獲得する。</p> <p>精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人を取り巻く環境や社会を見渡し、こうした人々への差別や偏見を除去し共生社会を実現するための活動を精神保健福祉士の役割として認識し、政策や制度、関係行政や地域住民にはたらきかける方法をイメージできるようにする。</p>
--

<p><b>授業全体の内容と概要</b></p> <p>ソーシャルワーク演習を踏まえ、精神保健福祉士による実践の専門性を習得するために、事例検討を中心に進める。具体的には、事例に登場する精神保健福祉士が勤める職場と支援対象となるクライアントを理解したうえで、問題の発生経過や支援経過をたどりながら、自分が精神保健福祉士として支援する立場になった時の状況をどう捉え、どのような社会資源を活用しながら支援を展開していくのが、個人ワークやグループワークを通して検討を行う。</p> <p>「SOC3. すべての人に健康と福祉を」の関連授業。</p>
---

<p><b>授業の方法</b></p> <p>個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導(ロールプレイング等)を中心とする演習形態により行う。</p> <p>教科書および配布資料を使用し、ポイントとなるべき箇所は説明、板書を行う。</p> <p>質問等に対しては都度口頭にて説明を行い、必要に応じて資料を配布する。</p> <p>Microsoft Teams/Formsの諸機能を活用し、質問を受け付け、適宜教材配布等を行う。</p>
--

<b>アクティブラーニングの実施方法</b>					
	プレゼンテーション	グループワーク	○	フィールドワーク	PBL
	模擬授業	○	ロールプレイ	調査学習	反転授業
○	ディスカッション	実験・実習・実技	○	双方向授業	その他(授業の方法参照)

<p><b>履修上の注意事項</b></p> <p>教科書は毎回持参すること。</p> <p>演習は、自分で考え実践すること。また、仲間と協同して取り組むことが重要であることから、積極的な発言や参加を求める。</p> <p>講義、演習を含めた形態とするが、施設見学や外部講師等による講義等も実施予定である。学生である前提に社会人としてのマナーを意識し、日頃の自らの言動に気を付けて行動すること。</p> <p>不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。</p>
---

<p><b>修学サポート(合理的配慮)</b></p> <p>事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。</p>
<p><b>資格指定科目</b></p> <p>精神保健福祉士国家試験受験資格課程</p>

評価方法・基準

<p><b>評価前提条件</b></p> <p>単位認定に必要な最低出席回数は11回以上。成績は、レポート(50点)、平常点(50点)で総合して評価する。</p>
---

<b>評価方法</b>					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	50%	0%	0%	50%	0%

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人の状況や困難、また希望を的確に聞き取り、とりまく状況や環境を含めて理解してソーシャルワークを展開するための精神保健福祉士の専門性(知識、技術、価値)の基礎を獲得する。	関係するキーワードを用いて精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人の状況や困難、また希望を的確に聞き取り、とりまく状況や環境を含めて理解してソーシャルワークを展開するための精神保健福祉士の専門性(知識、技術、価値)の基礎について具体的な	関係するキーワードを用いて精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人の状況や困難、また希望を的確に聞き取り、とりまく状況や環境を含めて理解してソーシャルワークを展開するための精神保健福祉士の専門性(知識、技術、価値)の基礎について具体的な	関係するキーワードを提示することにより精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人の状況や困難、また希望を的確に聞き取り、とりまく状況や環境を含めて理解してソーシャルワークを展開するための精神保健福祉士の専門性(知識、技術、価値)の基礎について具体的な	関係するキーワードを提示することにより精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人の状況や困難、また希望を的確に聞き取り、とりまく状況や環境を含めて理解してソーシャルワークを展開するための精神保健福祉士の専門性(知識、技術、価値)の基礎について具体的な	精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人の状況や困難、また希望を的確に聞き取り、とりまく状況や環境を含めて理解してソーシャルワークを展開するための精神保健福祉士の専門性(知識、技術、価値)の基礎について具体的な
精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための諸制度、サービスについて、その概念と利用要件や手続きを知り、援助に活用できるようにする。	関係するキーワードを用いて精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための諸制度、サービスについて、その概念と利用要件や手続きを知り、援助に活用できるように具体的な説明・記述できた。	関係するキーワードを用いて精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための諸制度、サービスについて、その概念と利用要件や手続きを知り、援助に活用できるように具体的な説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための諸制度、サービスについて、その概念と利用要件や手続きを知り、援助に活用できるように具体的な説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための諸制度、サービスについて、その概念と利用要件や手続きを知り、援助に活用できるように具体的な説明・記述できた。	精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための諸制度、サービスについて、その概念と利用要件や手続きを知り、援助に活用できるように具体的な説明・記述が不十分だった。
精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための関係機関や職種の役割を理解し、本人を中心とした援助を展開するチームが連携する際のコーディネーター役を担えるようになる。	関係するキーワードを用いて精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための関係機関や職種の役割を理解し、本人を中心とした援助を展開するチームが連携する際のコーディネーター役を担えるように具体的な説明・記述できた。	関係するキーワードを用いて精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための関係機関や職種の役割を理解し、本人を中心とした援助を展開するチームが連携する際のコーディネーター役を担えるように具体的な説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための関係機関や職種の役割を理解し、本人を中心とした援助を展開するチームが連携する際のコーディネーター役を担えるように具体的な説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための関係機関や職種の役割を理解し、本人を中心とした援助を展開するチームが連携する際のコーディネーター役を担えるように具体的な説明・記述が不十分だった。	精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための関係機関や職種の役割を理解し、本人を中心とした援助を展開する際のコーディネーター役を担えることについて関係するキーワードを理解できず、説明・記述が不十分だった。
精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人を取り巻く環境や社会を見渡し、こうした人々への差別や偏見を除去し共生社会を実現するための活動を精神保健福祉士の役割として認識し、政策や制度、関係行政や地域住民にはたらきかける方法をイメージできるようにする。	関係するキーワードを用いて精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人を取り巻く環境や社会を見渡し、こうした人々への差別や偏見を除去し共生社会を実現するための活動を精神保健福祉士の役割として認識し、政策や制度、関係行政や地域住民にはたらきかける方法をイメージできるように具体的な説明・記述できた。	関係するキーワードを用いて精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人を取り巻く環境や社会を見渡し、こうした人々への差別や偏見を除去し共生社会を実現するための活動を精神保健福祉士の役割として認識し、政策や制度、関係行政や地域住民にはたらきかける方法をイメージできるように具体的な説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人を取り巻く環境や社会を見渡し、こうした人々への差別や偏見を除去し共生社会を実現するための活動を精神保健福祉士の役割として認識し、政策や制度、関係行政や地域住民にはたらきかける方法をイメージできるように具体的な説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人を取り巻く環境や社会を見渡し、こうした人々への差別や偏見を除去し共生社会を実現するための活動を精神保健福祉士の役割として認識し、政策や制度、関係行政や地域住民にはたらきかける方法をイメージできるように具体的な説明・記述が不十分だった。	精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人を取り巻く環境や社会を見渡し、こうした人々への差別や偏見を除去し共生社会を実現するための活動を精神保健福祉士の役割として認識し、政策や制度、関係行政や地域住民にはたらきかける方法をイメージできるように具体的な説明・記述が不十分だった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	精神保健福祉援助演習 (科目ナンバリング: SWS122045)				
授業担当者(所属・職名)	西野 克俊(社会福祉学科・専任講師) 、 畠山 明子(社会福祉学科・准教)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 畠山 明子)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 精神保健福祉士として相談援助に従事していた教員が現場で求められる役割や基礎的な知識、技術、倫理などを伝達する。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『ソーシャルワーク演習【精神専門】』	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規出版	2021	978-4-8058-8258-0	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション、シラバスの説明(畠山・西野)	本演習で学ぶ概要についてシラバスや教科書の内容を確認する。(45分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(45分)
2	ソーシャルワークの課題を通じた演習(個人に対する相談援助の理解)(畠山)	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等から復習する。(45分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(45分)
3	ソーシャルワークの課題を通じた演習(グループにおける相談援助の理解)(畠山)	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等から復習する。(45分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(45分)
4	ソーシャルワークの課題を通じた演習(コミュニティソーシャルワークの理解)(畠山)	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等から復習する。(45分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(45分)
5	支援の場に応じた相談援助の理解(精神科医療機関)(畠山)	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等から復習する。(45分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(45分)
6	支援の場に応じた相談援助の理解(精神科医療機関)(畠山)	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等から復習する。(45分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(45分)
7	支援の場に応じた相談援助の理解(精神科医療機関)(畠山)	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等から復習する。(45分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(45分)
8	支援の場に応じた相談援助の理解(障害福祉サービス事業所)(畠山)	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等から復習する。(45分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(45分)
9	支援の場に応じた相談援助の理解(障害福祉サービス事業所)(畠山)	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等から復習する。(45分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(45分)
10	支援の場に応じた相談援助の理解(障害福祉サービス事業所)(畠山)	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等から復習する。(45分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(45分)
11	支援の場に応じた相談援助の理解(行政機関)(畠山)	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等から復習する。(45分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(45分)
12	支援の場に応じた相談援助の理解(行政機関)(畠山)	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等から復習する。(45分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(45分)
13	支援の場に応じた相談援助の理解(教育機関)(畠山)	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等から復習する。(45分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(45分)
14	支援の場に応じた相談援助の理解(司法)(畠山)	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等から復習する。(45分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(45分)
15	支援の場に応じた相談援助の理解(産業・労働)(畠山)	該当学習内容を他の講義や演習の教科書・資料等から復習する。(45分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(45分)
16	まとめ(畠山・西野)	15回分の内容を復習する。(45分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	精神保健福祉援助演習 (科目ナンバリング：SWS122045)				
授業担当者(所属・職名)	畠山 明子(社会福祉学科・准教授)、 西野 克俊(社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者：西野 克俊)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり 左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神科医療機関における実践経験がある教員がその経験を活かして、基礎能力・技術等を実践的に指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示板等を参照				

概要

履修目標

精神保健福祉援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、精神障害者の生活や生活上の困難について把握し、精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP(1)(2)(3)(4)(5)に対応する。

到達目標

精神保健福祉士に必要な専門的知識・技術・実践ができる。  
記録や報告書等の作成能力を高め、実践現場で適用する社会性・主体性を身につけて実践できる。  
福祉実践者として自己覚知を深め、対象者理解と地域での生活支援について理解できる。

授業全体の内容と概要

総合的かつ包括的な相談援助、医療と協働・連携する相談援助に係る具体的な相談援助事例を体系的に学ぶ。  
個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導(ロールプレイング等)を中心とする演習形態により学ぶ。

授業の方法

教科書に記載されている事例を活用した、検討を行い相談援助の展開について学ぶ。  
具体的な相談援助場面を想定したロールプレイを行い相談援助の実践力を涵養する。  
「SDG3.すべての人に健康と福祉を」の関連科目

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

教科書は必ず持参すること。  
必要な資料等は適宜配布する。  
20分以上の遅刻・早退は欠席とみなす。  
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

精神保健福祉士国家試験受験資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、12回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	0%	0%	100%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を深く理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を概ね理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を多少理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を理解できなかった。
思考力・考察力	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について十分に考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について概ね考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について多少考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について考察できなかった。
主体性・情意	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを適切に説明・表現できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを概ね説明・表現できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを説明・表現できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを多少説明・表現できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを説明・表現できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	精神保健福祉援助演習 (科目ナンバリング: SWS122045)				
授業担当者(所属・職名)	畠山 明子(社会福祉学科・准教授)、 西野 克俊(社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 西野 克俊)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 精神科医療機関における実践経験がある教員がその経験を活かして、基礎能力・技術等を実践的に指導する。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『新・精神保健福祉士養成講座8 精神保健福祉援助演習(基礎・専門)第2版』	一般社団法人日本精神保健福祉士養成校協会	中央法規	2016	978-4-8058-5313-9	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション(授業内容・シラバスの説明) 授業改善アンケート結果反映の説明	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	復習・資料整理を行うこと(90分)
2	退院支援・地域移行・定着支援に関する考察	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	復習・資料整理を行うこと(90分)
3	退院支援・地域移行・定着支援に関するロールプレイ	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	復習・資料整理を行うこと(90分)
4	地域精神保健に関する考察	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	復習・資料整理を行うこと(90分)
5	地域精神保健に関するロールプレイ	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	復習・資料整理を行うこと(90分)
6	精神科リハビリテーションに関する考察	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	復習・資料整理を行うこと(90分)
7	精神科リハビリテーションに関するロールプレイ	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	復習・資料整理を行うこと(90分)
8	インテーク・アセスメント・プランニングに関する考察	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	復習・資料整理を行うこと(90分)
9	インテーク・アセスメント・プランニングに関するロールプレイ	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	復習・資料整理を行うこと(90分)
10	インターベンション・モニタリング・エバリュエーションに関する考察	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	復習・資料整理を行うこと(90分)
11	インターベンション・モニタリング・エバリュエーションに関するロールプレイ	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	復習・資料整理を行うこと(90分)
12	ケアマネジメントに関する考察	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	復習・資料整理を行うこと(90分)
13	ケアマネジメントに関するロールプレイ	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	復習・資料整理を行うこと(90分)
14	チームアプローチに関する考察	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	復習・資料整理を行うこと(90分)
15	チームアプローチに関するロールプレイ	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	復習・資料整理を行うこと(90分)
16	まとめ(具体的習得知識・技術)	授業を振り返り学習内容をまとめておくこと(90分)	復習・資料整理を行うこと(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	デザイン (科目ナンバリング: DES222020)				
授業担当者(所属・職名)	上坂 恒章(デザイン学科・特任教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 上坂 恒章)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	企業におけるコンピュータスキルの実務経験を活かし、実践的な授業に取り組む。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

コンピュータを用いてデザインの基礎の学び、表現手法を修得する。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP(1)(3)(5)に対応する。

到達目標

Adobe社Illustratorを使用し、学生が作品制作のスキルを修得できる。

授業全体の内容と概要

基本機能からレイヤー、グラデーション、テキスト処理など、演習を通して学ぶ。

授業の方法

授業では、各ステップに渡った内容のプリントを配布し、PCの操作によりプロジェクターに投影し解説する。ステップごとの課題に対してそれぞれを解決しながら学習する。提出された課題をプレゼンテーションを通して評価しフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
	模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

デザイン学科デザイン専攻は推奨し、アート専攻のみ選択履修可能である。積み重ねの学習となるため、欠席しないようにすること。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(美術)選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は11回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	50%	30%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
PCの基本的操作スキル	パーソナルコンピュータ(PC)を、十分適切に使うことができ、更に学習を深めることができた。	パーソナルコンピュータ(PC)を、適切に使うことができた。	パーソナルコンピュータ(PC)を概ね使うことができた。	パーソナルコンピュータ(PC)を最低限使うことができた。	パーソナルコンピュータ(PC)を使うことができなかった。
ソフトウェアの操作スキル	学習したコンピュータソフトを十分使うことができ、応用することができる。	学習したコンピュータソフトを適切に使うことができた。	学習したコンピュータソフトを概ね使うことができた。	学習したコンピュータソフトを最低限使うことができた。	学習したコンピュータソフトを使うことができなかった。
学習したソフトを利用した作品の制作と表現	自分が表現したい作品を満足に制作でき、他者に十分伝えることができる作品となっている。	自分が表現したい作品を制作でき、他者に伝えることができる作品となっている。	自分が表現したい作品を概ね制作でき、他者に伝えることができる作品となっている。	自分が表現したい作品を最低限制作でき、他者に伝えるための最低限の作品となっている。	自分が表現したい作品を制作できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	デジタルデザイン (科目ナンバリング: DES222020)				
授業担当者(所属・職名)	上坂 恒章(デザイン学科・特任教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 上坂 恒章)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 企業におけるコンピュータスキルの実務経験を活かし、実践的な授業に取り組む。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『オリジナルプリントを配布』					
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『入門CGデザイン』					
2	『Adobe Illustrator CC解説書』					
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 PC (Macintosh) の基本操作及画面の基本 授業改善アンケート結果反映の説明	PCについての語句を調べておくこと(90分)	授業の内容を復習すること(90分)
2	アートボード及び図形、線の基本	プリントを予習すること(90分)	授業の内容を復習すること(90分)
3	ペンツールの修得	プリントを予習すること(90分)	授業の内容を復習すること(90分)
4	色彩基本、イラストレータの基本	プリントを予習すること(90分)	授業の内容を復習すること(90分)
5	パスファインダ、ブレンドについて	プリントを予習すること(90分)	授業の内容を復習すること(90分)
6	テキスト処理	プリントを予習すること(90分)	授業の内容を復習すること(90分)
7	テキスト処理	プリントを予習すること(90分)	授業の内容を復習すること(90分)
8	トリムマーク、紙面のデザイン	プリントを予習すること(90分)	授業の内容を復習すること(90分)
9	マップの作成	プリントを予習すること(90分)	授業の内容を復習すること(90分)
10	グラデーションの作成	下絵を完成させること(90分)	デジタル作品の制作を行うこと(90分)
11	デジタル作品の制作1	デジタル作品の制作を行うこと(90分)	デジタル作品の制作を行うこと(90分)
12	デジタル作品の制作2	デジタル作品の制作を行うこと(90分)	デジタル作品の制作を行うこと(90分)
13	デジタル作品の制作3	デジタル作品の制作を行うこと(90分)	デジタル作品の制作を行うこと(90分)
14	デジタル作品の制作4	デジタル作品の制作を行うこと(90分)	デジタル作品の制作を行うこと(90分)
15	プレゼンテーション	レジュメの準備をすること(90分)	フィードバックするので、自己評価をすること(90分)
16	作品返却 講評 まとめ 授業改善アンケートの実施	全授業の振り返りを行う(90分)	作品講評の内容を振り返り自己評価を行う(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	マーケティング論 (科目ナンバリング: CME412008, CME512005)				
授業担当者(所属・職名)	鈴木重政(経営学科・教授)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 鈴木重政)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照 Teamsによるチャットは平日午前9時から午後5時まで対応				

概要

履修目標

マーケティング論の基本を習得すると共に、実践に活用できるマーケティング的な思考・発想が身につく。

授業の位置づけ

経営学科のDP(3)に対応する。

到達目標

マーケティング論の基本を習得すると共に、実践に活用できるマーケティング的な思考・発想が身につく。

授業全体の内容と概要

マーケティングのプロセス、マーケティングミックス4P(製品、価格、チャネル、販売促進の各領域)の体系的理解を重点とする。また、身近な事例を学ぶことでより実践的なマーケティングを理解する。

授業の方法

パワーポイントによるプロジェクター投影と配布レジメによる講義とディスカッションをまじえた授業を行い理解度を高める。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

出席を重視し、15分以上の遅刻・途中退席は欠席扱いとする。不測の事態の際はオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(商業)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は11回

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70%	0%	0%	0%	30%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
マーケティングの戦略プロセスの基本的な理解。	戦略プロセスの基本を完全に理解し、事例に対し自らの革新的な戦略プロセスを策定できる。	戦略プロセスの基本を十分に理解し、事例に対し自らの戦略プロセスを策定できる。	戦略プロセスの基本的な理解を達成し、事例に対し戦略プロセスを当てはめることができる。	戦略プロセスの基本を理解できる。	戦略プロセスの基本を理解していない。
マーケティング環境分析及びUS・T・Pの理解。	環境分析、STPの基本を完全に理解し、事例に対し自らの環境分析による革新的なSTP戦略を策定できる。	環境分析、STPの基本を十分に理解し、事例に対し自らの環境分析、STP戦略を策定できる。	環境分析、STPの基本を理解し、事例に対し現状の環境分析、STPを当てはめることができる。	環境分析、STPの基本を理解できる。	環境分析、STPの基本を理解していない。
マーケティングのブランド戦略、ブルーオーシャン戦略等の理解。	ブランド等の戦略の基本を完全に理解し、事例に対し自らの革新的な戦略を策定できる。	ブランド等の戦略の基本を十分に理解し、事例に対し自らの戦略を策定できる。	ブランド等の戦略の基本を理解し、事例に対し戦略を当てはめることができる。	ブランド等の戦略の基本を理解できる。	ブランド等の戦略の基本を理解していない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	マーケティング論 (科目ナンバリング: CME412008, CME512005)				
授業担当者(所属・職名)	鈴木重政(経営学科・教授)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 鈴木重政)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	アフターコロナのマーケティング ケース1 USJとディズニーリゾート 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読んでおくこと(90分)	授業内容の復習として事後学習を行う。(90分)
2	4つのコンセプト ケース2 アップル	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	授業内容の復習として事後学習を行う。(90分)
3	マーケティング戦略 ケース3 スターバックス	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	授業内容の復習として事後学習を行う。(90分)
4	SWOT分析 ケース4 JR北海道	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	授業内容の復習として事後学習を行う。(90分)
5	市場需要 ケース5 藤丸	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	授業内容の復習として事後学習を行う。(90分)
6	顧客ロイヤリティ ケース6 スバル	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	授業内容の復習として事後学習を行う。(90分)
7	消費者市場 ケース7 ナイキ	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	授業内容の復習として事後学習を行う。(90分)
8	ビジネス市場 ケース8 SAP	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	授業内容の復習として事後学習を行う。(90分)
9	市場セグメントとターゲティング ケース9 セコマ	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	授業内容の復習として事後学習を行う。(90分)
10	ブランド・エクイティ ケース10 グーグル	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	授業内容の復習として事後学習を行う。(90分)
11	ポジショニング ケース11 P&G	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	授業内容の復習として事後学習を行う。(90分)
12	ライフサイクル ケース12 スタインウェイ	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	授業内容の復習として事後学習を行う。(90分)
13	サービス設計	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	授業内容の復習として事後学習を行う。(90分)
14	価格戦略 ケース14 プレステーション	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	授業内容の復習として事後学習を行う。(90分)
15	バリューネットワーク ケース15 ユニクロ	今回の授業に必要な準備学習を行う。(90分)	授業内容の復習として事後学習を行う。(90分)
16	試験 授業改善アンケート実施	試験に向け全体を復習する。(90分)	試験及び解説を受けて講義全体を復習する。(90分)

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年、デザイン学科・3年、建		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	日本国憲法 (科目ナンバリング: LAW021020)				
授業担当者(所属・職名)	後藤 啓倫 (社会福祉学科・専任講師)		研究室等所在	1号館4階	
単位数	2 (単位認定責任者: 後藤 啓倫)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示板等を参照				

概要

履修目標
------

憲法の由来と立憲主義、権力分立などの基本原理を把握し、日本国憲法における人権保障の内容を、現在の社会問題を踏まえて、理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP(2)(5)に対応する。  
デザイン学科のDP(2)に対応する。  
建築学科のDP(2)に対応する。

到達目標

憲法の歴史的背景と基本原理について概念を用いて説明することができる。  
日本国憲法の人権保障について概念を用いて説明することができる。  
憲法の基本原理と日本国憲法の人権保障に基づいて現代の社会問題を考察できる。

授業全体の内容と概要

憲法の内容は、総論、人権論、統治機構論に分類される。本講義では人権論を中心に具体的な事例を取り上げながら解説し、市民・労働者・教育者として必要な人権の内容について学ぶ。  
「SDG 5:ジェンダー平等を実現しよう」、「SDG 10:人や国の不平等をなくそう」の関連科目。

授業の方法

授業は講義形式で行う。書き込み式のレジュメを配布して補足の説明を行う。  
書き込む内容は板書またはパワーポイントで示す。  
教科書を使用しないので講義をしっかりと聴いてメモをとること。  
毎回の感想・質問等を記入するリアクションペーパーを配布し、次回授業時にフィードバックを行う。  
Teamsを活用し授業資料の配布、質問の受付・回答を行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

授業中の私語、スマホの使用は厳禁。受講マナーを守ること。  
正当な理由のない20分以上の遅刻は欠席とみなす。遅刻3回で欠席1回とみなす。  
不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課(全教科)の必修科目、教職課程(社会・公民)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70%	0%	0%	30%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
憲法の歴史的背景と基本原理について概念を用いて説明することができる。	憲法の歴史的背景と基本原理について概念を正確に理解し、具体例とともに、発展的に説明することができる。	憲法の歴史的背景と基本原理について概念を正確に理解し、具体例とともに、説明することができる。	憲法の歴史的背景と基本原理について概念を理解し、説明することができる。	憲法の歴史的背景と基本原理について部分的に概念を理解し、説明することができる。	憲法の歴史的背景と基本原理について概念を理解し、説明することができなかった。
日本国憲法の人権保障について概念を用いて説明することができる。	日本国憲法の人権保障について正確に概念を理解し、具体例とともに、発展的に説明することができる。	日本国憲法の人権保障について正確に概念を理解し、具体例とともに、説明することができる。	日本国憲法の人権保障について概念を理解し、説明することができる。	日本国憲法の人権保障について部分的に概念を理解し、説明することができる。	日本国憲法の人権保障について概念を理解し、説明することができなかった。
憲法の基本原理と日本国憲法の人権保障に基づいて現代の社会問題を考察できる。	憲法の基本原理と日本国憲法の人権保障に基づいて、具体例とともに現代の社会問題を十分に考察できた。	憲法の基本原理と日本国憲法の人権保障に基づいて、具体例とともに現代の社会問題を考察できた。	憲法の基本原理と日本国憲法の人権保障に基づいて現代の社会問題を考察できた。	憲法の基本原理と日本国憲法の人権保障に基づいて現代の社会問題を部分的に考察できた。	憲法の基本原理と日本国憲法の人権保障に基づいて現代の社会問題を考察できなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年、デザイン学科・3年、建		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	日本国憲法 (科目ナンバリング: LAW021020)				
授業担当者(所属・職名)	後藤 啓倫 (社会福祉学科・専任講師)		研究室等所在	1号館4階	
単位数	2	(単位認定責任者: 後藤 啓倫)	CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						なし。
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						適宜紹介する。
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスの確認(90分)	配布プリントの整理・再読(90分)
2	憲法と生活	授業で示したキーワードを調べる(90分)	配布プリントの整理・再読(90分)
3	憲法とは何か	授業で示したキーワードを調べる(90分)	配布プリントの整理・再読(90分)
4	人権の享有主体・公共の福祉・私人間効力	授業で示したキーワードを調べる(90分)	配布プリントの整理・再読(90分)
5	象徴天皇制	授業で示したキーワードを調べる(90分)	配布プリントの整理・再読(90分)
6	平和主義	授業で示したキーワードを調べる(90分)	配布プリントの整理・再読(90分)
7	平等権	授業で示したキーワードを調べる(90分)	配布プリントの整理・再読(90分)
8	幸福追求権・自己決定権	授業で示したキーワードを調べる(90分)	配布プリントの整理・再読(90分)
9	自由権	授業で示したキーワードを調べる(90分)	配布プリントの整理・再読(90分)
10	中間テスト	中間テスト範囲のプリントの熟読(90分)	中間テストの復習(90分)
11	信教の自由・表現の自由	授業で示したキーワードを調べる(90分)	配布プリントの整理・再読(90分)
12	経済的自由権	授業で示したキーワードを調べる(90分)	配布プリントの整理・再読(90分)
13	身体的自由権	授業で示したキーワードを調べる(90分)	配布プリントの整理・再読(90分)
14	社会権	授業で示したキーワードを調べる(90分)	配布プリントの整理・再読(90分)
15	授業のまとめ 授業改善アンケートの実施	授業で示したキーワードを調べる(90分)	配布プリントの整理・再読(90分)
16	定期試験(試験60分+解説30分)	試験の準備(90分)	試験のふり返り(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年、デザイン学科・3年、建		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	日本国憲法（S・D・A）（科目ナンバリング：LAW021020）				
授業担当者（所属・職名）	後藤 啓倫（社会福祉学科・専任講師）	研究室等所在	1号館4階		
単位数	2（単位認定責任者：後藤 啓倫）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標
------

憲法の由来と立憲主義、権力分立などの基本原理を把握し、日本国憲法における人権保障の内容を、現在の社会問題を踏まえて、理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP(2)(5)に対応する。  
デザイン学科のDP(2)に対応する。  
建築学科のDP(2)に対応する。

到達目標

憲法の歴史的背景と基本原理について概念を用いて説明することができる。  
日本国憲法の人権保障について概念を用いて説明することができる。  
憲法の基本原理と日本国憲法の人権保障に基づいて現代の社会問題を考察できる。

授業全体の内容と概要

憲法の内容は、総論、人権論、統治機構論に分類される。本講義では人権論を中心に具体的な事例を取り上げながら解説し、市民・労働者・教育者として必要な人権の内容について学ぶ。  
「SDG 5：ジェンダー平等を実現しよう」、「SDG 10：人や国の不平等をなくそう」の関連科目。

授業の方法

授業は講義形式で行う。書き込み式のレジュメを配布して補足の説明を行う。  
書き込む内容は板書またはパワーポイントで示す。  
教科書を使用しないので講義をしっかりと聴いてメモをとること。  
毎回の感想・質問等を記入するリアクションペーパーを配布し、次回授業時にフィードバックを行う。  
Teamsを活用し授業資料の配布、質問の受付・回答を行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

授業中の私語、スマホの使用は厳禁。受講マナーを守ること。  
正当な理由のない20分以上の遅刻は欠席とみなす。遅刻3回で欠席1回とみなす。  
不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（全教科）の必修科目、教職課程（社会・公民）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は10回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70%	0%	0%	30%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
憲法の歴史的背景と基本原理について概念を用いて説明することができる。	憲法の歴史的背景と基本原理について概念を正確に理解し、具体例とともに、発展的に説明することができる。	憲法の歴史的背景と基本原理について概念を正確に理解し、具体例とともに、説明することができる。	憲法の歴史的背景と基本原理について概念を理解し、説明することができる。	憲法の歴史的背景と基本原理について部分的に概念を理解し、説明することができる。	憲法の歴史的背景と基本原理について概念を理解し、説明することができなかった。
日本国憲法の人権保障について概念を用いて説明することができる。	日本国憲法の人権保障について正確に概念を理解し、具体例とともに、発展的に説明することができる。	日本国憲法の人権保障について正確に概念を理解し、具体例とともに、説明することができる。	日本国憲法の人権保障について概念を理解し、説明することができる。	日本国憲法の人権保障について部分的に概念を理解し、説明することができる。	日本国憲法の人権保障について概念を理解し、説明することができなかった。
憲法の基本原理と日本国憲法の人権保障に基づいて現代の社会問題を考察できる。	憲法の基本原理と日本国憲法の人権保障に基づいて、具体例とともに現代の社会問題を十分に考察できた。	憲法の基本原理と日本国憲法の人権保障に基づいて、具体例とともに現代の社会問題を考察できた。	憲法の基本原理と日本国憲法の人権保障に基づいて現代の社会問題を考察できた。	憲法の基本原理と日本国憲法の人権保障に基づいて現代の社会問題を部分的に考察できた。	憲法の基本原理と日本国憲法の人権保障に基づいて現代の社会問題を考察できなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年、デザイン学科・3年、建		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	日本国憲法（S・D・A）（科目ナンバリング：LAW021020）				
授業担当者（所属・職名）	後藤 啓倫（社会福祉学科・専任講師）		研究室等所在	1号館4階	
単位数	2	（単位認定責任者：後藤 啓倫）	CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						なし。
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						適宜紹介する。
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスの確認（90分）	配布プリントの整理・再読（90分）
2	憲法と生活	授業で示したキーワードを調べる（90分）	配布プリントの整理・再読（90分）
3	憲法とは何か	授業で示したキーワードを調べる（90分）	配布プリントの整理・再読（90分）
4	人権の享有主体・公共の福祉・私人間効力	授業で示したキーワードを調べる（90分）	配布プリントの整理・再読（90分）
5	象徴天皇制	授業で示したキーワードを調べる（90分）	配布プリントの整理・再読（90分）
6	平和主義	授業で示したキーワードを調べる（90分）	配布プリントの整理・再読（90分）
7	平等権	授業で示したキーワードを調べる（90分）	配布プリントの整理・再読（90分）
8	幸福追求権・自己決定権	授業で示したキーワードを調べる（90分）	配布プリントの整理・再読（90分）
9	自由権	授業で示したキーワードを調べる（90分）	配布プリントの整理・再読（90分）
10	中間テスト	中間テスト出題テーマに関する配布プリントの熟読（90分）	中間テストの復習（90分）
11	信教の自由・表現の自由	授業で示したキーワードを調べる（90分）	配布プリントの整理・再読（90分）
12	経済的自由権	授業で示したキーワードを調べる（90分）	配布プリントの整理・再読（90分）
13	身体的自由権	授業で示したキーワードを調べる（90分）	配布プリントの整理・再読（90分）
14	社会権	授業で示したキーワードを調べる（90分）	配布プリントの整理・再読（90分）
15	授業のまとめ 授業改善アンケートの実施	授業で示したキーワードを調べる（90分）	配布プリントの整理・再読（90分）
16	定期試験（試験60分＋解説30分）	試験の準備（90分）	試験のふり返り（90分）

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年（留学生対象）		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	日本語（科目ナンバリング：JLN051038）				
授業担当者（所属・職名）	高橋 真弥（国際交流センター・センター員）・佐藤 恵利（国際交流センター）	研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2（単位認定責任者：高橋 真弥・佐藤 恵利）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、国際交流センターで対応。				

概要

履修目標

日常生活はもちろん、大学の授業が理解できる日本語能力や就職活動時に必要となる日本語レベルの習得を目指す。本講義は留学生の日本語能力の定着や大学入前の知識の復習を中心とするものとし、授業内容のレベルはN3～N2に相当する。

授業の位置づけ

経営学科のDP(2)(4)に対応する。  
 社会福祉学科のDP(2)(4)(5)に対応する。  
 デザイン学科のDP(2)(4)に対応する。  
 建築学科のDP(2)(4)に対応する。

到達目標

テーマやシチュエーションに沿った語彙・重要表現を習得し、正しく使うことができる。作文や発表などを通して、自分の意見を述べるができる。

授業全体の内容と概要

参考文献を使用して授業を行うが、日本語教材以外ではニュースや新聞、チラシ、掲示物など、日本で実際に目にするものを参考資料として使用し、実際に使われている言葉の中から語彙力を身につけていく。

授業の方法

教科書の購入はなく、授業内で使用する教材は担当教員が準備する。講義形式で授業を行い、参考資料の読解や練習問題を解きながら日本語能力を上げていく。問題解答時やシチュエーションに合わせたロールプレイ、テーマに沿ったディスカッションでは、積極的に学生に発言させ、学生主体の授業進行とする。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模範授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

遅刻、欠席をしないこと。30分の遅刻は欠席とみなす。  
 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、大学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

全授業回数16回のうち、単位認定に必要な最低出席回数は11回以上とする。授業最終日（16回目）に期末試験を行う。また、授業中にも小テストを行う。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
50%	0%	0%	0%	20%	30%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
日本語の知識・技能	学修した知識・技能を確実に修得するとともに、それらに関連した知識・技能についても獲得した。	学修した知識・技能を確実に修得した。	学修した知識・技能のすべてを修得することはできなかった。	学修した知識・技能を修得したが最低限容認できるレベルにとどまった。	学修した真面目に取り組まなかった。
思考力・判断力・日本語の表現力等	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては、求められるレベルを達成した。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては、求められるレベルには達しなかった。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まなかった。
主体性・多様性・協働性	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協働性に関しては求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては、求められるレベルを達成した。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては達しなかった。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まなかった。



基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年(留学生対象)		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	日本語 (科目ナンバリング: JLN051038)				
授業担当者(所属・職名)	高橋 真弥(国際交流センター・センター員)・佐藤 恵利(国際交流センター)	研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 高橋 真弥・佐藤 恵利)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験なし	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『日本語総まとめ N3 語彙』	佐々木仁子・松本紀子	株式会社アスク出版	2010年	9784872177312	購入の必要なし
2	『日本語総まとめ N3 読解』	佐々木仁子・松本紀子	株式会社アスク出版	2010年	9784872177664	購入の必要なし
3	『日本語総まとめ N3 文法』	佐々木仁子・松本紀子	株式会社アスク出版	2010年	9784872177329	購入の必要なし
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション(シラバスの説明)・プレテスト・授業改善アンケート結果反映の説明(担当:高橋)	シラバスを読む(90分)	授業内容復習(90分)
2	プレテストの解答・レベルチェック(担当:高橋)	資料の確認(90分)	授業内容復習(90分)
3	語彙(類似語)(担当:高橋)	資料の確認(90分)	授業内容復習(90分)
4	語彙(オノマトペ)(担当:高橋)	資料の確認(90分)	授業内容復習(90分)
5	語彙(様子)(担当:高橋)	資料の確認(90分)	授業内容復習(90分)
6	語彙(表現)(担当:高橋)	資料の確認(90分)	授業内容復習(90分)
7	実践(レストラン)(担当:佐藤)	資料の確認(90分)	授業内容復習(90分)
8	実践(銀行)(担当:佐藤)	資料の確認(90分)	授業内容復習(90分)
9	実践(支払い)(担当:佐藤)	資料の確認(90分)	授業内容復習(90分)
10	読解(エッセイ・チラシ・ニュース・掲示物など)(担当:佐藤)	資料の確認(90分)	授業内容復習(90分)
11	読解(エッセイ・チラシ・ニュース・掲示物など)(担当:佐藤)	資料の確認(90分)	授業内容復習(90分)
12	読解(エッセイ・チラシ・ニュース・掲示物など)(担当:佐藤)	資料の確認(90分)	授業内容復習(90分)
13	読解(エッセイ・チラシ・ニュース・掲示物など)(担当:佐藤)	資料の確認(90分)	授業内容復習(90分)
14	読解(エッセイ・チラシ・ニュース・掲示物など)(担当:佐藤)	資料の確認(90分)	授業内容復習(90分)
15	総括・授業改善アンケートの実施(担当:佐藤)	資料の確認(90分)	授業内容復習(90分)
16	期末試験(60分)・解説(30分)(担当:佐藤)	期末試験準備(90分)	講義全体の復習(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: BAS002005)				
授業担当者(所属・職名)	戸佐 晃一(経営学科・特任教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 戸佐 晃一)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

本授業では、1年時に実施したトレーニングの成果を体力・形態測定を実施することで確認し足りない体力の強化に向けて、様々なトレーニングを実践する。また、生涯にわたって運動習慣を継続することで高齢になっても体力の維持、健康で長寿であることを目的とする。

授業の位置づけ

経営学科のDP(2)(4)(5)に対応する。  
 社会福祉学科のDP(2)(4)(5)に対応する。  
 デザイン学科のDP(2)(3)(4)に対応する。  
 建築学科のDP(2)(3)(4)に対応する。

到達目標

各自、1年時からの体力向上を参考に到達目標を設定し、様々なトレーニング方法を理解し実践できることを目標とする。  
 生涯を通じて定期的に運動する習慣を養う。

授業全体の内容と概要

体力測定、形態測定により自分の体力の変化や状態を知る。  
 様々な種類のトレーニングに関する1年時に学んだ基礎から応用理論を学び、正しいトレーニングの方法を学習する。

授業の方法

教室、体育館を中心に授業を行う。様々なトレーニング方法をグループワークによる実践を通して、課題の発見や指摘をし合い、ディスカッションではタブレット、スマートフォンの活用をすることで正しい技術を習得できるように進めていく。レポートなどの解説のフィードバックを実施する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

競技経験があり体力があること。  
 遅刻は2回につき1回欠席とする。  
 運動着、飲料水、上靴、タオルの用意。  
 潮の事象が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

不

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、13回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	30%	30%	0%	40%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ウエイトトレーニングの基本	ウエイトトレーニングの基本を良く理解している	ウエイトトレーニングの基本をほぼ理解している	ウエイトトレーニングの基本をある程度理解している	ウエイトトレーニングの基本を理解している	ウエイトトレーニングの基本を理解していない
体幹トレーニングの基本	体幹トレーニングの基本を良く理解している	体幹トレーニングの基本をほぼ理解している	体幹トレーニングの基本をある程度理解している	体幹トレーニングの基本を理解している	体幹トレーニングの基本を理解していない
ラダートレーニングの基本	ラダートレーニングの基本を良く理解している	ラダートレーニングの基本をほぼ理解している	ラダートレーニングの基本をある程度理解している	ラダートレーニングの基本を理解している	ラダートレーニングの基本を理解していない

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: BAS002005)				
授業担当者(所属・職名)	戸佐 晃一(経営学科・特任教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 戸佐 晃一)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明	事前にシラバスを読んで確認しておく(45分)	ガイダンスの内容を理解しておく(45分)
2	ウエイトトレーニングの基本	ウエイトトレーニングの基本を確認しておく(45分)	学習内容を復習し理解しておく(45分)
3	ウエイトトレーニングの基本	ウエイトトレーニングの基本を確認しておく(45分)	学習内容を復習し理解しておく(45分)
4	ウエイトトレーニングの基本	ウエイトトレーニングの基本を確認しておく(45分)	学習内容を復習し理解しておく(45分)
5	ウエイトトレーニングの基本	ウエイトトレーニングの基本を確認しておく(45分)	学習内容を復習し理解しておく(45分)
6	体幹トレーニング	体幹トレーニングの基本を確認しておく(45分)	学習内容を復習し理解しておく(45分)
7	体幹トレーニング	体幹トレーニングの基本を確認しておく(45分)	学習内容を復習し理解しておく(45分)
8	体幹トレーニング	体幹トレーニングの基本を確認しておく(45分)	学習内容を復習し理解しておく(45分)
9	ラダートレーニング	ラダートレーニングの基本を確認しておく(45分)	学習内容を復習し理解しておく(45分)
10	職業レディネステスト	職業レディネステストについて調べる(45分)	職業レディネステストの感想を書く(45分)
11	ラダートレーニング	ラダートレーニングの基本を確認しておく(45分)	学習内容を復習し理解しておく(45分)
12	ラダートレーニング	ラダートレーニングの基本を確認しておく(45分)	学習内容を復習し理解しておく(45分)
13	体力測定	体力測定種目の確認をしておく(45分)	学習内容を復習し理解しておく(45分)
14	形態測定	形態測定種目の確認をしておく(45分)	学習内容を復習し理解しておく(45分)
15	まとめ 授業改善アンケートの実施	授業内容を振り返り確認しておく(45分)	学習内容を復習し理解しておく(45分)
16	フィードバック	体力・形態測定結果を確認しておく(45分)	学習内容を復習し理解しておく(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: BAS002005)				
授業担当者(所属・職名)	米野 宏(経営学科・准教授)		研究室等所在	1号館3階	
単位数	1	(単位認定責任者: 米野 宏)	CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	教育機関における体育・健康・スポーツ関係の授業経験を活かし、学生の教養の基礎を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標
------

大学での勉強を進めるにあたり、必要となる文章読解力のほか、コミュニケーション能力、ディスカッション能力、プレゼンテーション能力の向上をはかる。

授業の位置づけ

経営学科の(2)(4)(5)に対応する。  
 社会福祉学科の(2)(4)(5)に対応する。  
 デザイン学科の(2)(4)に対応する。  
 建築学科の(2)(4)に対応する。

到達目標

自分でテーマを設定し、文章にまとめることができる。  
 グループ内でのコミュニケーションを図ることができ、リーダーシップを発揮できる。  
 テーマに基づきプレゼンテーションをすることができる。

授業全体の内容と概要

授業の前半は、小論文・レポートを作成し発表する。また、発表に対して討議したり、ディスカッションを行う。  
 後半は、特定のテーマでプレゼンテーションを行い、質疑応答やディスカッションも行う。  
 入前で話すための準備をし、解り易く、興味深い内容を考える。

授業の方法

小論文、レポートの書き方については、板書または資料にて説明する。提出されたレポートについては、添削及び内容の評価とともにフィードバックする。  
 グループディスカッションやプレゼンテーションの題材として、新聞やインターネットによるニュース等を提供しながら実施する。プレゼンテーションの方法については、授業のなかで学びとともに説明する。

アクティブラーニングの実施方法

<input type="radio"/>	プレゼンテーション	<input type="radio"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL
<input type="checkbox"/>	模擬授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業
<input type="radio"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

20分以上の遅刻は、欠席扱いとする。  
 対話する機会が多いので、積極的な発言や能動的な授業態度で臨むこと。  
 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、13回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	10%	10%	0%	70%	10%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
コミュニケーション能力	仲間とのコミュニケーションを図る方法がとてみ巧みにおこなえた。	仲間とコミュニケーションを図ることが比較的巧みできた。	仲間とコミュニケーションを図ることが普通にできた。	仲間とコミュニケーションを図ることが上手ではないが努力した。	仲間とコミュニケーションを図ることがとても苦手であった。
ディスカッション能力	討議の中で、対話を巧みにでき、リーダーシップも取れた。	討議の中で、対話を巧みにでき、リーダーシップもまらず取れた。	討議の中で、対話を巧みにできたが、リーダーシップをとるまではいかなかった。	討議の中で、対話をするのが普通にできた。	討議の中で、対話することが苦手で、ほとんど受け身であった。
プレゼンテーション能力	パワーポイント等を巧みに使い、解り易く、興味深い内容でプレゼンテーションを行った。	パワーポイント等を使い、比較的解り易く、興味深い内容でプレゼンテーションを行った。	パワーポイント等を使い、解り易くプレゼンテーションを行った。	パワーポイント等を使い、プレゼンテーションを行ったが、多少伝わらなかった。	プレゼンテーションの準備がほとんどできていなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: BAS002005)				
授業担当者(所属・職名)	米野 宏(経営学科・准教授)		研究室等所在	1号館3階	
単位数	1 (単位認定責任者: 米野 宏)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 教育機関における体育・健康・スポーツ関係の授業経験を活かし、学生の教養の基礎を指導する。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス(シラバスの説明) 授業改善アンケート結果反映の説明	事前にシラバスを読んで確認する。(45分)	注意事項を確認する。(45分)
2	レポートの作成 (アダプテッドスポーツの創造)	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
3	発表と意見交換 1	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
4	発表と意見交換 2	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
5	アダプテッドスポーツを考える(屋外競技)	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
6	アダプテッドスポーツを考える(屋内競技)	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
7	プレゼンテーションの準備 1 (グループに分かれて)	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
8	プレゼンテーションの準備 2 (グループに分かれて)	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
9	プレゼンテーション (屋外競技) 1	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
10	職業レディネステスト実施	職業レディネステストについて調べる(45分)	職業レディネステストの感想を書く(45分)
11	プレゼンテーション (屋外競技) 2	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
12	プレゼンテーション (屋外競技) 3	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
13	プレゼンテーション (屋内競技) 1	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
14	プレゼンテーション (屋内競技) 2	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
15	プレゼンテーション (屋内競技) 3	シラバスを読んで確認と準備をする。(45分)	ノートに記載された内容を復習する。(45分)
16	ふりかえり 授業改善アンケートの実施	ノートに記載された内容を再度確認する。(45分)	評価等の内容を確認する。(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: BAS002005)				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 和裕 (経営学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 佐藤 和裕)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、将来に向け健康で豊かな生活を営んでいくための基礎を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標
競技スポーツ及び、健康のための基礎的トレーニングを基礎ゼミナール A、Bより更に深く学び、個人に必要なトレーニングを自ら実践出来るように、メンタルトレーニングを取り入れながら実践していく。また、学生と教員双方の人間関係を構築しコミュニケーション能力を高め、併せて快適な学生生活及び基本的な生活習慣を身につける。

授業の位置づけ

経営学科のDP(2)(4)(5)に対応する。  
 社会福祉学科のDP(2)(4)(5)に対応する。  
 デザイン学科のDP(2)(4)に対応する。  
 建築学科のDP(2)(4)に対応する。

到達目標

競技及び個人の特性を理解し、自らの競技スポーツや健康の保持増進に一層深い関心を持ってメンタルな強化も含め、安全にトレーニングすることができる。

授業全体の内容と概要

基礎ゼミナール A、Bを基に、メンタルトレーニングをどのように取り入れていくかなど、自らの競技力向上と健康の保持増進のために必要なトレーニングを見つけ出し実践する。  
 「SDG4:質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業は配布資料で実施し、トレーニングなどのDVDも活用しながら講義形式で行う。授業によってはグループワークで思考・考察・発表を行い学習していく。レポートにはコメントにてフィードバックする。さらに、実技に関しては基礎的なトレーニングの特性を理解し学習したことを実際に怪我に注意を払いながら実施していく。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

ラグビー部に所属の学生を対象とする。基本的にジャージや屋内運動靴を必ず用意する。注意事項の詳細はガイダンスで指示する。  
 健康上の理由で医師から運動を停止されている者は、申し出の上指示を受けること。  
 不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、13回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	30%	0%	0%	50%	20%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
関心・意欲・態度	自ら進んで行動や役割を果たすことができ、とても意欲的に取り組み、且つ安全に細心の注意を払うことができた。	積極的に行動や役割を果たすことができ、意欲的に取り組み、安全に注意を払うことができた。	行動の仕方を守り役割を果たすことができ、普通に取組み安全に注意を払うことができた。	行動の仕方を守らず役割を果たしていないときがあったが、安全に注意を払うことができた。	行動の仕方を守らず役割を果たさなく意欲もまったくなく、安全に注意を払うことができなかった。
知識・理解	トレーニングとメンタルトレーニングの基礎的な知識を持ち、それぞれの領域の持つ見方について説明することができ、実践的に活用できた。	トレーニングとメンタルトレーニングの基礎的な知識を持ち、多様な領域からの見解を深く理解できていて、適切に活用できた。	トレーニングとメンタルトレーニングの基礎的な知識の見解を一定程度理解できていて、活用できた。	トレーニングとメンタルトレーニングの基礎的な知識の見解をあまり深く理解できていないが、活用できた。	トレーニングとメンタルトレーニングの基礎的な知識の見解をまったく理解できていない、その獲得、修得に取り組むことができなかった。
計画・実行力	達成目標を設定し、創造的思考を持って最善の計画を立て、その計画に沿って実行できた。	達成目標を設定した計画を立てることができ、計画に沿って7割程度できた。	達成目標を設定し、計画を立てて5割程度できた。	達成目標が曖昧ではあったが、計画を立てて3割程度できた。	計画を立てることができなく、達成目標もなく、まったくできなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: BAS002005)				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 和裕(経営学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 佐藤 和裕)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験を踏まえて、将来に向け健康で豊かな生活を営んでいくための基礎を指導する。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス(シラバスの説明) 授業改善アンケート結果反映の説明	事前にシラバスを読んで確認しておく(45分)	ガイダンスの内容を理解しておく(45分)
2	基礎トレーニングとメンタルトレーニングの理解と習得	基礎トレーニングとメンタルトレーニングについて確認しておく(45分)	基礎トレーニングとメンタルトレーニングについて理解しておく(45分)
3	基礎トレーニングとメンタルトレーニングの理解と習得	基礎トレーニングとメンタルトレーニングについて確認しておく(45分)	基礎トレーニングとメンタルトレーニングについて理解しておく(45分)
4	基礎トレーニングとメンタルトレーニングの理解と習得	基礎トレーニングとメンタルトレーニングについて確認しておく(45分)	基礎トレーニングとメンタルトレーニングについて理解しておく(45分)
5	基礎トレーニングとメンタルトレーニングの理解と習得	基礎トレーニングとメンタルトレーニングについて確認しておく(45分)	基礎トレーニングとメンタルトレーニングについて理解しておく(45分)
6	基礎トレーニングとメンタルトレーニングの理解と習得	基礎トレーニングとメンタルトレーニングについて確認しておく(45分)	基礎トレーニングとメンタルトレーニングについて理解しておく(45分)
7	基礎トレーニングとメンタルトレーニングの理解と習得	基礎トレーニングとメンタルトレーニングについて確認しておく(45分)	基礎トレーニングとメンタルトレーニングについて理解しておく(45分)
8	トレーニングの実践	健康に留意し体調を整えておく(45分)	身体のケアを怠らない(45分)
9	トレーニングの実践	健康に留意し体調を整えておく(45分)	身体のケアを怠らない(45分)
10	職業レディネステスト実施	職業レディネステストについて調べる(45分)	職業レディネステストの感想を書く(45分)
11	トレーニングの実践	健康に留意し体調を整えておく(45分)	身体のケアを怠らない(45分)
12	トレーニングの実践	健康に留意し体調を整えておく(45分)	身体のケアを怠らない(45分)
13	トレーニングの実践	健康に留意し体調を整えておく(45分)	身体のケアを怠らない(45分)
14	トレーニングの実践	健康に留意し体調を整えておく(45分)	身体のケアを怠らない(45分)
15	トレーニングの実践 授業改善アンケートの実施	健康に留意し体調を整えておく(45分)	身体のケアを怠らない(45分)
16	まとめ(授業改善アンケートの実施)	生涯スポーツとしての特性を理解しておく(45分)	生涯スポーツとしての基礎を理解する(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: BAS002005)				
授業担当者(所属・職名)	中川 純二(経営学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 中川 純二)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、将来に向け健康で豊かな生活を営んでいくための基礎を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ポ・ド等を参照				

概要

**履修目標**  
 余暇時間の増大や高齢化が進む中で、自分自身の人生をより豊かで充実したものにするために、スポーツは非常に重要な役割を果たすと考えられる。本授業では、トレーニングの理論と実践を通じ、生涯にわたって定期的に体を動かす習慣を養うことを目的とする。

授業の位置づけ

経営学科のDP(2)(4)(5)に対応する。  
 社会福祉学科のDP(2)(4)(5)に対応する。  
 デザイン学科のDP(2)(4)に対応する。  
 建築学科のDP(2)(4)に対応する。

到達目標

栄養、運動、休養に関する基礎的知識を身につける。  
 自らの体力・目標に応じたトレーニングプログラムを組み立てる。  
 生涯を通じて定期的に運動する習慣を養う。

授業全体の内容と概要

体力測定、形態測定により自分の体の状態を知る。  
 正しいトレーニング理論を学び、体を動かす重要性、楽しさを学ぶ。

授業の方法

授業はトレーニングの実技が中心となるが、トレーニング方法についてグループで研究を行い、各自に適しているトレーニング方法を継続的に実践できるよう実施していく。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

柔道部に所属の学生を対象とする。体育館・ウエイトトレーニング場を中心に授業を行うので、ジャージ・屋内用トレーニングシューズを用意すること。  
 怪我や健康上の理由がある者は、事前に申し出ること。  
 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、13回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	10%	0%	0%	60%	30%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
関心・意欲・態度	自ら進んで行動や役割を果たすことができ、何事にも意欲的に取り組み、かつ安全に細心の注意を払うことができた。	積極的に行動や役割を果たすことができ、意欲的に取り組み、安全に注意を払うことができた。	行動の仕方を守り、役割を果たすことができ、指示通り取り組み安全に注意を払っていた。	行動の仕方を守らず役割を果たそうとしない時があり、意欲もなく安全に注意を払っていない状態であった。	行動の仕方を守らず役割も果たせず、意欲もまったくなく、安全に配慮できなかった。
知識・理解	トレーニングの基礎知識を十分持ち、それぞれの領域においても十分理解し、実践的に活用できた。	トレーニングの基礎知識を持ち、各領域においても深く理解し、適切に活用できた。	トレーニングの基礎知識がある程度理解し、活用することができた。	トレーニングの基礎知識が少なく、活用することができなかった。	トレーニングの基礎知識が全くなく、取り組みが全くみられなかった。
計画・実行	達成目標を設定することができ、達成目標以上のトレーニングを実施することができた。	達成目標を設定し、達成目標が達成できるよう努力することができた。	達成目標を設定し、5割程度達成することができた。	達成目標の設定が明確でなく3割程度しか達成することができなかった。	達成目標を設定出来ず、ほとんどトレーニングを行っていないかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: BAS002005)				
授業担当者(所属・職名)	中川 純二(経営学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 中川 純二)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験を授業関連内容として活用し、将来に向け健康で豊かな生活を営んでいくための基礎を指導する。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション(シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明)	事前にシラバスを読んで確認しておく(45分)	ガイダンスの内容を理解する(45分)
2	体力測定、形態測定	事前にシラバスを読んで確認しておく(45分)	事前にシラバスを読んで理解する(45分)
3	最大学上重量測定1	最大学上重量測定の方法を確認しておく(45分)	最大学上重量測定の方法を理解する(45分)
4	最大学上重量測定2	最大学上重量測定の方法を確認しておく(45分)	最大学上重量測定の方法を理解する(45分)
5	栄養学1	栄養学の基礎を確認しておく(45分)	栄養学の基礎を理解する(45分)
6	栄養学2	栄養学の基礎を確認しておく(45分)	栄養学の基礎を理解する(45分)
7	栄養学3	栄養学の基礎を確認しておく(45分)	栄養学の基礎を理解する(45分)
8	トレーニングプログラムの組み方及び各自の能力に合わせたトレーニング1	トレーニングプログラムの組み方を確認しておく(45分)	トレーニングプログラムの組み方を理解する(45分)
9	トレーニングプログラムの組み方及び各自の能力に合わせたトレーニング2	トレーニングプログラムの組み方を確認しておく(45分)	トレーニングプログラムの組み方を理解する(45分)
10	トレーニングプログラムの組み方及び各自の能力に合わせたトレーニング3 職業レディネステスト実施	トレーニングプログラムの組み方を確認しておく(45分)	トレーニングプログラムの組み方を理解する(45分)
11	ウォーミングアップとクールダウン1	ウォーミングアップとクールダウンの方法を確認しておく(45分)	ウォーミングアップとクールダウンの方法を理解する(45分)
12	ウォーミングアップとクールダウン2	ウォーミングアップとクールダウンの方法を確認しておく(45分)	ウォーミングアップとクールダウンの方法を理解する(45分)
13	トレーニングプログラムの組み方及び各自の能力に合わせたトレーニング4	トレーニングプログラムの組み方を確認しておく(45分)	トレーニングプログラムの組み方を理解する(45分)
14	トレーニングプログラムの組み方及び各自の能力に合わせたトレーニング5	トレーニングプログラムの組み方を確認しておく(45分)	トレーニングプログラムの組み方を理解する(45分)
15	最大学上重量測定3	最大学上重量測定の方法を確認しておく(45分)	最大学上重量測定の方法を理解する(45分)
16	まとめ 授業改善アンケートの実施	生涯トレーニングの特性を理解しておく(45分)	生涯トレーニングの特性を理解する(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: BAS002005)				
授業担当者(所属・職名)	三嶋 康嗣(経営学科・専任講師)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 三嶋 康嗣)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験のある教員がその経験を活かして、目的に応じた運動の特性、楽しさを学ぶ。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

現代社会における健康の位置づけを考え、運動が生産にわたりそれへどう寄与するかを学ぶ。からだの構造の基礎的知識を身につけることによって、合理的にパフォーマンスの向上をはかる。

授業の位置づけ

経営学科のDP(2)(4)(5)に対応する。  
 社会福祉学科のDP(2)(4)(5)に対応する。  
 デザイン学科のDP(2)(4)に対応する。  
 建築学科のDP(2)(4)に対応する。

到達目標

骨・筋を中心にしたからだの構造に関する基礎知識を理解し、トレーニングとケアを実践することができる。

授業全体の内容と概要

目的に応じた運動の特性、楽しさを学ぶ。

授業の方法

からだの構造に関する知識を踏まえ、体育館及びトレーニングルームにてトレーニングを実践しながらケア方法を取り入れトレーニングと回復について理解していく。トレーニングの経過を観察記録し、各自記録結果をパワーポイント等にまとめ、グループワーク等で思考・考察、意見交換、討論、発表等一連の活動を行い学習する。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

研究室、体育館、トレーニング場で授業を行う。からだを動かすのに適した服装とする。(ジャージ等)不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、大学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数、13回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	30%	0%	0%	0%	70%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
関心・意欲・態度	自ら進んで行動や役割を果すことができ、とても意欲的に取り組み、且つ安全に細心の注意を払うことができた。	積極的に行動や役割を果すことができ、意欲的に取り組み、安全に注意を払うことができた。	行動の仕方を守り役割を果すことができ、普通に取り組み安全に注意を払っていた。	行動の仕方を守らず役割を果そうとしないときがあり、意欲もなく安全に注意を払っていなかった。	行動の仕方を守らず役割を果さなく意欲もまったくなく、安全に注意を払っていなかった。
知識・理解	からだの構造を理解し、運動との結びつきに及んでいた。	からだの構造を理解していた。	からだの構造を概ね理解していた。	からだの構造をある程度理解していた。	からだの構造を理解していなかった。
計画・実行	計画を立てることができた。その計画に沿って実行でき、達成目標がほぼ全てクリアされていた。	計画を立てることができた。達成目標は7割程度であった。	計画を立てることができた。達成目標は5割程度であった。	計画を立てることができた。達成目標は3割程度であった。	計画を立てることができなかった。達成目標が設定されていないため行動がみられなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: BAS002005)				
授業担当者(所属・職名)	三嶋 康嗣(経営学科・専任講師)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 三嶋 康嗣)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験のある教員がその経験を活かして、目的に応じた運動の特性、楽しさを学ぶ。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション(シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明)	事前にシラバスを読んでおく(45分)	オリエンテーションの内容を確認しておく(45分)
2	からだの構造(概論)	からだの構造について調べておく(45分)	からだの構造について確認しておく(45分)
3	からだの構造(概論)	からだの構造について調べておく(45分)	からだの構造について確認しておく(45分)
4	トレーニング実技(ウエイトトレーニング・上肢)	体調を整えておく(45分)	トレーニング後の変化を観察しておく(45分)
5	トレーニング実技(ウエイトトレーニング・頭部及び体幹)	体調を整えておく(45分)	トレーニング後の変化を観察しておく(45分)
6	トレーニング実技(ウエイトトレーニング・下肢)	体調を整えておく(45分)	トレーニング後の変化を観察しておく(45分)
7	トレーニング実技(ウエイトトレーニング・上肢)	体調を整えておく(90分)	トレーニング後の変化を観察しておく(45分)
8	トレーニング実技(ウエイトトレーニング・頭部及び体幹)	体調を整えておく(45分)	トレーニング後の変化を観察しておく(45分)
9	トレーニング実技(ウエイトトレーニング・下肢)	体調を整えておく(45分)	トレーニング後の変化を観察しておく(90分)
10	ケア方法(ストレッチ)職業ライネステスト実施	ストレッチ方法を調べておく(45分)	ストレッチ方法を確認しておく(90分)
11	ケア方法(ストレッチ)	ストレッチ方法を調べておく(45分)	ストレッチ方法を確認しておく(45分)
12	ケア方法(マッサージ)	マッサージ方法を調べておく(45分)	マッサージ方法を確認しておく(45分)
13	ケア方法(マッサージ)	マッサージ方法を調べておく(45分)	マッサージ方法を確認しておく(45分)
14	トレーニングとセルフケア	体調を整えておく(45分)	トレーニング後の変化を観察しておく(45分)
15	トレーニングとセルフケア	体調を整えておく(45分)	トレーニング後の変化を観察しておく(45分)
16	まとめ授業改善アンケートの実施	トレーニングの実施内容と効果をまとめておく(45分)	トレーニングの効果を確認しておく(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: BAS002005)				
授業担当者(所属・職名)	井坂 肇(経営学科・助教)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	1 (単位認定責任者: 井坂 肇)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

トレーニング理論を理解し、実践する。

授業の位置づけ

経営学科のDP(2)(4)(5)に対応する。  
 社会福祉学科のDP(2)(4)(5)に対応する。  
 デザイン学科のDP(2)(4)に対応する。  
 建築学科のDP(2)(4)に対応する。

到達目標

トレーニング理論について理解できる。  
 課題解決のために他者と討議することができる。  
 トレーニングを実践することができる。

授業全体の内容と概要

試合で最高のパフォーマンスを発揮するために、科学的なエビデンスに基づいた情報を理解する。トレーニング計画を立て実行しパフォーマンスの向上を確認する。

授業の方法

講義はパワーポイント及び配布資料で実施し、資料にて説明した後、グループワークにてトレーニングを行う。既存のトレーニング方法について考察し、他者と共有する機会を設ける。  
 学生の不明点・疑問は、チャット形式などの支援システムで迅速に回答する。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○ ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

硬式野球部優先。  
 不足の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、13回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	40%	0%	60%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
トレーニング理論の理解	トレーニング理論を説明できると共に、トレーニングを構成する様々な要素について調べ、まとめた。また様々なケースにおいて採用されたトレーニングの方法について意見を持っていた。	トレーニング理論を説明できると共に、トレーニングを構成する様々な要素について調べ、まとめた。	トレーニング理論を説明できる。トレーニングを構成する様々な要素について調べた。	トレーニング理論を説明できた。	トレーニング理論を説明できなかった。
他者との討議	他者と討議しながら解決のための具体策を提示的ると共に、意見を集約してまとめることができた。さらには新たな課題を自ら発見し、他者との討議の場を生み出すことができた。	他者と討議しながら解決のための具体策を提示的ると共に、意見を集約してまとめることができた。	他者と討議しながら解決のための具体策を提示できた。	他者と討議できた。	他者と討議できなかった。
トレーニングの実践	トレーニングを実践し、成果と原因を把握し、改善のための新たな計画を立てていくことができた。	トレーニングを実践し、成果と原因を把握でき、改善のための新たな計画を立てていくことができた。	トレーニングを実践し、成果と原因を把握できた。	トレーニングを実践していた。	トレーニングを実践していなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: BAS002005)				
授業担当者(所属・職名)	井坂 肇(経営学科・助教)		研究室等所在	1号館3階	
単位数	1 (単位認定責任者: 井坂 肇)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 目標設定シートの記入	事前にシラバスを読んで確認しておく(45分)	シラバスの内容を理解しておく(45分)
2	下半身のトレーニング	学習内容に関連する事柄について調べておく(45分)	学習内容について振り返りまとめておく(45分)
3	下半身のトレーニング	学習内容に関連する事柄について調べておく(45分)	学習内容について振り返りまとめておく(45分)
4	上半身のトレーニング	学習内容に関連する事柄について調べておく(45分)	学習内容について振り返りまとめておく(45分)
5	上半身のトレーニング	学習内容に関連する事柄について調べておく(45分)	学習内容について振り返りまとめておく(45分)
6	体幹のトレーニング	学習内容に関連する事柄について調べておく(45分)	学習内容について振り返りまとめておく(45分)
7	体幹のトレーニング	学習内容に関連する事柄について調べておく(45分)	学習内容について振り返りまとめておく(45分)
8	前半の復習、目標設定シートの記入	学習内容に関連する事柄について調べておく(45分)	学習内容について振り返りまとめておく(45分)
9	上半身のモビリティ、障害予防	学習内容に関連する事柄について調べておく(45分)	学習内容について振り返りまとめておく(45分)
10	上半身のモビリティ、障害予防 職業レイタネステスト実施	学習内容に関連する事柄について調べておく(45分)	学習内容について振り返りまとめておく(45分)
11	下半身のモビリティ、障害予防	学習内容に関連する事柄について調べておく(45分)	学習内容について振り返りまとめておく(45分)
12	下半身のモビリティ、障害予防	学習内容に関連する事柄について調べておく(45分)	学習内容について振り返りまとめておく(45分)
13	投球動作についての理解	学習内容に関連する事柄について調べておく(45分)	学習内容について振り返りまとめておく(45分)
14	投球動作についての理解	学習内容に関連する事柄について調べておく(45分)	学習内容について振り返りまとめておく(45分)
15	投球動作についての理解	学習内容に関連する事柄について調べておく(45分)	学習内容について振り返りまとめておく(45分)
16	後半の復習、目標設定シートの記入 授業改善アンケートの実施	講義全体を振り返り質問事項をまとめておく(45分)	学習内容について振り返りまとめておく(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: BAS002005)				
授業担当者(所属・職名)	田畑 圭悟(経営学科・助教)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 田畑 圭悟)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標
<p>技スポーツ及び健康のための基礎的トレーニングを基礎ゼミナール A、Bより更に深く学び、個人に必要なトレーニングを自ら実践出来るように、メンタルトレーニングを取り入れながら実践していく。また、学生と教員双方の人間関係を構築しコミュニケーション能力を高め、併せて快適な学生生活及び基本的な生活習慣を身につける。</p>

授業の位置づけ
<p>経営学科のDP(4)(5)に対応する。          社会福祉学科のDP(4)(5)に対応する。          デザイン学科のDP(4)に対応する。          建築学科DP(4)に対応する。</p>

到達目標
<p>競技及び個人の特性を理解し、自らの競技スポーツや健康の保持増進に一層深い関心を持ってメンタルな強化も含め、安全にトレーニングすることができる。</p>

授業全体の内容と概要
<p>基礎ゼミナール A、Bを基に、メンタルトレーニングをどのように取り入れていくかなど、自らの競技力向上と健康の保持増進のために必要なトレーニングを見つけて実践する</p>

授業の方法
<p>授業は配布資料で実施し、トレーニングなどのDVDも活用しながら講義形式で行う。授業によってはグループワークで思考・考察・発表を行い学習していく。レポートにはコメントにてフィードバックする。さらに、実技に関しては基礎的なトレーニングの特性を理解し学習したことを実際に怪我に注意を払いながら実施していく。</p>

アクティブラーニングの実施方法												
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL									
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業									
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)									

履修上の注意事項
<p>陸上部に所属の学生を対象とする。基本的にジャージや屋内運動靴を必ず用意する。注意事項の詳細はガイダンスで指示する。不測の事態の際にオンライン授業を実施する可能性がある。健康上の理由で医師から運動を停止されている者は、申し出の上指示を受けること。</p>

修学サポート(合理的配慮)
<p>事前相談を受け、大学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。</p>

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件												
<p>単位確定に必要な最低出席回数は、13回以上</p>												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>30%</td> <td>20%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>50%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	30%	20%	0%	0%	50%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	30%	20%	0%	0%	50%							

ルーブリック																													
<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を越えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> <tr> <td>自ら進んでどれだけ競技に取り組めたか</td> <td>自ら進んで行動や役割を果たすことができ、とても意欲的に取り組み、且つ安全に細心の注意を払うことができる。</td> <td>積極的に行動や役割を果たすことができ、意欲的に取り組み、安全に注意を払うことができる。</td> <td>行動の仕方を守り役割を果たすことができ、普通に取り組み安全に注意を払っている。</td> <td>行動の仕方を守らず役割を果たさそうとしないときがあり、意欲もなく安全に注意を配っていない。</td> <td>行動の仕方を守らず役割を果たさなく意欲もまったくなく、安全に注意を配っていない。</td> </tr> <tr> <td>自ら考えトレーニングを消化できたか</td> <td>トレーニングの基礎的知識を持ち、それぞれの領域が持つ見方について説明することができる。実践的に活用できる。</td> <td>トレーニングの基礎的知識を持ち、多様な領域からの見解を深く理解できている。適切に活用できる。</td> <td>トレーニングの基礎的知識の見解を一定程度理解できている。活用できる。</td> <td>トレーニングの基礎的知識の見解をあまり深く理解できていない。活用できるレベルにない。</td> <td>トレーニングの基礎的知識の見解をまったく理解できていない。その獲得、修得に取り組んでいない。</td> </tr> <tr> <td>自ら立てた目標にどれだけ近づけたか</td> <td>達成目標を設定し、創造的思考を持って目標の計画を立て、その計画に沿って実行できる。</td> <td>達成目標を設定した計画を立てることができ、計画に沿って7割程度できる。</td> <td>達成目標を設定し、計画を立てて5割程度できる。</td> <td>計画を立てることができるが、達成目標が曖昧であり3割程度しかできない。</td> <td>計画を立てることができなく、達成目標もなく、まったくできない。</td> </tr> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	自ら進んでどれだけ競技に取り組めたか	自ら進んで行動や役割を果たすことができ、とても意欲的に取り組み、且つ安全に細心の注意を払うことができる。	積極的に行動や役割を果たすことができ、意欲的に取り組み、安全に注意を払うことができる。	行動の仕方を守り役割を果たすことができ、普通に取り組み安全に注意を払っている。	行動の仕方を守らず役割を果たさそうとしないときがあり、意欲もなく安全に注意を配っていない。	行動の仕方を守らず役割を果たさなく意欲もまったくなく、安全に注意を配っていない。	自ら考えトレーニングを消化できたか	トレーニングの基礎的知識を持ち、それぞれの領域が持つ見方について説明することができる。実践的に活用できる。	トレーニングの基礎的知識を持ち、多様な領域からの見解を深く理解できている。適切に活用できる。	トレーニングの基礎的知識の見解を一定程度理解できている。活用できる。	トレーニングの基礎的知識の見解をあまり深く理解できていない。活用できるレベルにない。	トレーニングの基礎的知識の見解をまったく理解できていない。その獲得、修得に取り組んでいない。	自ら立てた目標にどれだけ近づけたか	達成目標を設定し、創造的思考を持って目標の計画を立て、その計画に沿って実行できる。	達成目標を設定した計画を立てることができ、計画に沿って7割程度できる。	達成目標を設定し、計画を立てて5割程度できる。	計画を立てることができるが、達成目標が曖昧であり3割程度しかできない。	計画を立てることができなく、達成目標もなく、まったくできない。
評価項目		評価基準																											
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
自ら進んでどれだけ競技に取り組めたか	自ら進んで行動や役割を果たすことができ、とても意欲的に取り組み、且つ安全に細心の注意を払うことができる。	積極的に行動や役割を果たすことができ、意欲的に取り組み、安全に注意を払うことができる。	行動の仕方を守り役割を果たすことができ、普通に取り組み安全に注意を払っている。	行動の仕方を守らず役割を果たさそうとしないときがあり、意欲もなく安全に注意を配っていない。	行動の仕方を守らず役割を果たさなく意欲もまったくなく、安全に注意を配っていない。																								
自ら考えトレーニングを消化できたか	トレーニングの基礎的知識を持ち、それぞれの領域が持つ見方について説明することができる。実践的に活用できる。	トレーニングの基礎的知識を持ち、多様な領域からの見解を深く理解できている。適切に活用できる。	トレーニングの基礎的知識の見解を一定程度理解できている。活用できる。	トレーニングの基礎的知識の見解をあまり深く理解できていない。活用できるレベルにない。	トレーニングの基礎的知識の見解をまったく理解できていない。その獲得、修得に取り組んでいない。																								
自ら立てた目標にどれだけ近づけたか	達成目標を設定し、創造的思考を持って目標の計画を立て、その計画に沿って実行できる。	達成目標を設定した計画を立てることができ、計画に沿って7割程度できる。	達成目標を設定し、計画を立てて5割程度できる。	計画を立てることができるが、達成目標が曖昧であり3割程度しかできない。	計画を立てることができなく、達成目標もなく、まったくできない。																								



基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: BAS002005)				
授業担当者(所属・職名)	田畑 圭悟(経営学科・助教)		研究室等所在	1号館2階	
単位数	1 (単位認定責任者: 田畑 圭悟)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『月刊陸上競技』					
2	『月刊陸上競技マガジン』					
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス(シラバスの説明) 授業改善アンケート結果反映の説明	事前にシラバスを読んで確認しておく(45分)	ガイダンスの内容を理解しておく(45分)
2	基礎トレーニングとメンタルトレーニングの理解と習得 職業レディネステスト実施	基礎トレーニングとメンタルトレーニングについて確認しておく(45分)	基礎トレーニングとメンタルトレーニングについて理解しておく(45分)
3	基礎トレーニングとメンタルトレーニングの理解と習得	基礎トレーニングとメンタルトレーニングについて確認しておく(45分)	基礎トレーニングとメンタルトレーニングについて理解しておく(45分)
4	基礎トレーニングとメンタルトレーニングの理解と習得	基礎トレーニングとメンタルトレーニングについて確認しておく(45分)	基礎トレーニングとメンタルトレーニングについて理解しておく(45分)
5	基礎トレーニングとメンタルトレーニングの理解と習得	基礎トレーニングとメンタルトレーニングについて確認しておく(45分)	基礎トレーニングとメンタルトレーニングについて理解しておく(45分)
6	基礎トレーニングとメンタルトレーニングの理解と習得	基礎トレーニングとメンタルトレーニングについて確認しておく(45分)	基礎トレーニングとメンタルトレーニングについて理解しておく(45分)
7	基礎トレーニングとメンタルトレーニングの理解と習得	基礎トレーニングとメンタルトレーニングについて確認しておく(45分)	基礎トレーニングとメンタルトレーニングについて理解しておく(45分)
8	基礎トレーニングとメンタルトレーニングの理解と習得	基礎トレーニングとメンタルトレーニングについて確認しておく(45分)	基礎トレーニングとメンタルトレーニングについて理解しておく(45分)
9	トレーニングの実践	健康に留意し体調を整えておく(45分)	身体のケアを怠らない(45分)
10	トレーニングの実践	健康に留意し体調を整えておく(45分)	身体のケアを怠らない(45分)
11	トレーニングの実践	健康に留意し体調を整えておく(45分)	身体のケアを怠らない(45分)
12	トレーニングの実践	健康に留意し体調を整えておく(45分)	身体のケアを怠らない(45分)
13	トレーニングの実践	健康に留意し体調を整えておく(45分)	身体のケアを怠らない(45分)
14	トレーニングの実践	健康に留意し体調を整えておく(45分)	身体のケアを怠らない(45分)
15	トレーニングの実践	健康に留意し体調を整えておく(45分)	身体のケアを怠らない(45分)
16	まとめ 授業改善アンケートの実施	生涯スポーツとしての特性を理解しておく(45分)	生涯スポーツとしての基礎を理解する(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: BAS002005)				
授業担当者(所属・職名)	篠原 諒介(経営学科・専任講師)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 篠原 諒介)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

動作の質的測定を行うためのシステム「ファンクショナルムーブメントスクリーン:FMA」と「セレクトティブ・ファンクショナルムーブメントアセスメント:SFMA」を理解する。

授業の位置づけ

経営学科のDP(1)、(4)、(5)に対応する。  
 社会福祉学科のDP(4)、(5)に対応する。  
 デザイン学科のDP(4)に対応する。  
 建築学科のDP(4)に対応する

到達目標

様々な対象者の動作パターンを調べ、一貫性のある基準を用いて問題の有無を判断する方法と、その問題を修正するために適切なエクササイズを見つける。

授業全体の内容と概要

日本においてもファンクショナルムーブメントスクリーンは、プロのアスリートだけでなく一般のスポーツ愛好家にも行われるようになってきているが、医療の専門家の中ではまだ十分に認識されていないのが現状である。スポーツやフィットネス、リハビリテーションには様々な専門分野の人が関わっているが、ファンクショナルムーブメントスクリーンとセレクトティブ・ファンクショナルムーブメントアセスメントはこのような専門分野の溝を埋めるツールとなりうることを理解し、自身の競技力向上に繋げる。

授業の方法

各回のテーマについてテキストを使用しながら講義をし、さらに、理解を深めるために医学的ビデオも視聴させる。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

20分以上の遅刻は欠席とみなします。遅刻3回で1回の欠席とみなします。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合があります。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、13回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	20%	30%	0%	50%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	学修した知識・技能を確実に修得するとともに、それらに関連した知識・技能についても獲得した	学修した知識・技能を確実に修得した	学修した知識・技能のすべてを修得することはできなかった	学修した知識・技能を修得したが最低限容認できるレベルにとどまった	学修に真面目に取り組まなかった
思考力・判断力・表現力	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては求められるレベルを大きく超えた	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては、求められるレベルを達成した	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては、求められるレベルには達しなかった	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては最低限容認できるレベルにとどまった	与えられた課題に真面目に取り組まなかった
主体性・多様性・協働性	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協働性に関しては求められるレベルを大きく超えた	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては、求められるレベルを達成した	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては、求められるレベルには達しなかった	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては最低限容認できるレベルにとどまった	与えられた課題に真面目に取り組まなかった

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: BAS002005)				
授業担当者(所属・職名)	篠原 諒介(経営学科・専任講師)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 篠原 諒介)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス シラバスの説明及び授業改善アンケート結果反映の説明	測定準備と論文の読み込み(45分)	本時の学習内容をまとめて提出する(45分)
2	FMSとSFMAの理解と習得 FMSのデザイン	測定準備と論文の読み込み(45分)	本時の学習内容をまとめて提出する(45分)
3	FMSとSFMAの理解と習得 FMSのデザイン	測定準備と論文の読み込み(45分)	本時の学習内容をまとめて提出する(45分)
4	FMSとSFMAの理解と習得 FMSのデザイン	測定準備と論文の読み込み(45分)	本時の学習内容をまとめて提出する(45分)
5	FMSとSFMAの理解と習得 4つの基本的なフィルター	測定準備と論文の読み込み(45分)	本時の学習内容をまとめて提出する(45分)
6	FMSとSFMAの理解と習得 4つの基本的なフィルター	測定準備と論文の読み込み(45分)	本時の学習内容をまとめて提出する(45分)
7	FMSとSFMAの理解と習得 4つの基本的なフィルター	測定準備と論文の読み込み(45分)	本時の学習内容をまとめて提出する(45分)
8	FMSとSFMAの確認	測定準備と論文の読み込み(45分)	本時の学習内容をまとめて提出する(45分)
9	FMSとSFMAの実践 実施中の疼痛や違和感	測定準備と論文の読み込み(45分)	本時の学習内容をまとめて提出する(45分)
10	FMSとSFMAの実践 実施中の疼痛や違和感 職業レディネステスト実施	測定準備と論文の読み込み(45分)	本時の学習内容をまとめて提出する(45分)
11	FMSとSFMAの実践 実施中の疼痛や違和感	測定準備と論文の読み込み(45分)	本時の学習内容をまとめて提出する(45分)
12	FMSとSFMAの実践 採点方法・結果の序列化	測定準備と論文の読み込み(45分)	本時の学習内容をまとめて提出する(45分)
13	FMSとSFMAの実践 採点方法・結果の序列化	測定準備と論文の読み込み(45分)	本時の学習内容をまとめて提出する(45分)
14	FMSとSFMAの実践 採点方法・結果の序列化	測定準備と論文の読み込み(45分)	本時の学習内容をまとめて提出する(45分)
15	FMSとSFMAの実践 採点方法・結果の序列化	測定準備と論文の読み込み(45分)	本時の学習内容をまとめて提出する(45分)
16	まとめ 授業改善アンケートの実施	測定準備と論文の読み込み(45分)	本時の学習内容をまとめて提出する(45分)

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: BAS002005)				
授業担当者(所属・職名)	後藤 啓倫 (社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	1号館4階		
単位数	1 (単位認定責任者: 後藤 啓倫)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示板などを参照				

概要

<b>履修目標</b>
大学での学習の基礎になる、文献の読み方、発表の仕方、議論の仕方、レポートの書き方等の技能を修得する。

<b>授業の位置づけ</b>
経営学科のDP(2)(3)(4)に対応する。 社会福祉学科のDP(2)(3)(4)(5)に対応する。 デザイン学科のDP(2)(3)(4)に対応する。 建築学科のDP(2)(3)(4)に対応する。

<b>到達目標</b>
自主的に学び、情報収集・分析し、課題解決のための方策を他者と協力しつつ考える能力を身につける。 自分で調べ構想したことを、レジュメやパワーポイントを使用して効果的に発表できる。 学習の基礎となる読解力や要約力、文章構成力や論理的思考力を身につける。

<b>授業全体の内容と概要</b>
講義の受け方・レポート作成方法といった学習のためのスキル、自発的に問題を発見し解決する力といった、大学生としてふさわしい能力や姿勢を修得するために、このゼミナールでは、学生自身によるテキストの読解、内容の報告、参加者による討論、レポートの作成を行う。

<b>授業の方法</b>
授業は次のように進める。 報告者はテキストの内容要約と議論すべきポイントに関するプレゼンテーションを行う。 司会役の進行の下、報告者のプレゼン内容について参加者全員で討論をする。 担当教員による講評を行う。 レポート作成に向けた準備を進める。 レポート作成に向けた準備を進める。 輪読するテキストは、社会福祉と政治・行政に関する文脈のなかから受講生と相談の上で決める。 Teamsを活用し授業資料の配布、質問の受付・回答を行う。

<b>アクティブラーニングの実施方法</b>																					
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模範授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL															
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業															
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)															

<b>履修上の注意事項</b>
毎回出席することが前提となるが、やむを得ず欠席する場合には、担当教員に必ず事前連絡すること。無断欠席は厳禁。 自主的な参加が求められるので、テキストは必ず事前に読んでおくこと。 不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する可能性がある。

<b>修学サポート(合理的配慮)</b>
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

<b>資格指定科目</b>

評価方法・基準

<b>評価前提条件</b>
単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。

<b>評価方法</b>												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>50%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>50%</td> <td>0%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	50%	0%	0%	50%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	50%	0%	0%	50%	0%							

<b>ルーブリック</b>																													
<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> <tr> <td>自分で調べ構想したことをレジュメやパワーポイントを使用して効果的に発表したりできた。</td> <td>プレゼンテーション等において、問題の核心をよく理解し、的確にまとめたり発表したりできた。</td> <td>プレゼンテーション等において、問題の核心をよく理解し、まとめたり発表したりできた。</td> <td>プレゼンテーション等において、問題の核心を理解し、まとめたり発表したりできた。</td> <td>プレゼンテーション等において、部分的に問題の核心を理解し、まとめたり発表したりできた。</td> <td>プレゼンテーション等において、問題の核心を理解し、まとめたり発表したりできなかった。</td> </tr> <tr> <td>学習の基礎となる読解力や要約力、文章構成力や論理的思考力を身につける。</td> <td>独自の着眼点で設定されたテーマに基づいてレポートが作成された。</td> <td>工夫を凝らして設定されたテーマに基づいてレポートが作成された。</td> <td>テーマ設定ができたレポートが作成された。</td> <td>テーマ設定が概ねできたレポートが作成された。</td> <td>レポートの提出がなされなかった。</td> </tr> <tr> <td>自主的に学び、情報収集・分析し、課題解決のための方策を他者と協力しつつ考える能力を身につける。</td> <td>積極的に討論に参加し、リダクションを発揮できた。</td> <td>他者に協力しながら積極的に討論に参加することができた。</td> <td>積極的に討論に参加することができた。</td> <td>討論に参加することができた。</td> <td>討論に参加することができなかった。</td> </tr> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	自分で調べ構想したことをレジュメやパワーポイントを使用して効果的に発表したりできた。	プレゼンテーション等において、問題の核心をよく理解し、的確にまとめたり発表したりできた。	プレゼンテーション等において、問題の核心をよく理解し、まとめたり発表したりできた。	プレゼンテーション等において、問題の核心を理解し、まとめたり発表したりできた。	プレゼンテーション等において、部分的に問題の核心を理解し、まとめたり発表したりできた。	プレゼンテーション等において、問題の核心を理解し、まとめたり発表したりできなかった。	学習の基礎となる読解力や要約力、文章構成力や論理的思考力を身につける。	独自の着眼点で設定されたテーマに基づいてレポートが作成された。	工夫を凝らして設定されたテーマに基づいてレポートが作成された。	テーマ設定ができたレポートが作成された。	テーマ設定が概ねできたレポートが作成された。	レポートの提出がなされなかった。	自主的に学び、情報収集・分析し、課題解決のための方策を他者と協力しつつ考える能力を身につける。	積極的に討論に参加し、リダクションを発揮できた。	他者に協力しながら積極的に討論に参加することができた。	積極的に討論に参加することができた。	討論に参加することができた。	討論に参加することができなかった。
評価項目		評価基準																											
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
自分で調べ構想したことをレジュメやパワーポイントを使用して効果的に発表したりできた。	プレゼンテーション等において、問題の核心をよく理解し、的確にまとめたり発表したりできた。	プレゼンテーション等において、問題の核心をよく理解し、まとめたり発表したりできた。	プレゼンテーション等において、問題の核心を理解し、まとめたり発表したりできた。	プレゼンテーション等において、部分的に問題の核心を理解し、まとめたり発表したりできた。	プレゼンテーション等において、問題の核心を理解し、まとめたり発表したりできなかった。																								
学習の基礎となる読解力や要約力、文章構成力や論理的思考力を身につける。	独自の着眼点で設定されたテーマに基づいてレポートが作成された。	工夫を凝らして設定されたテーマに基づいてレポートが作成された。	テーマ設定ができたレポートが作成された。	テーマ設定が概ねできたレポートが作成された。	レポートの提出がなされなかった。																								
自主的に学び、情報収集・分析し、課題解決のための方策を他者と協力しつつ考える能力を身につける。	積極的に討論に参加し、リダクションを発揮できた。	他者に協力しながら積極的に討論に参加することができた。	積極的に討論に参加することができた。	討論に参加することができた。	討論に参加することができなかった。																								

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナル A (科目ナンバリング: BAS002005)				
授業担当者(所属・職名)	後藤 啓倫 (社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	1号館4階		
単位数	1 (単位認定責任者: 後藤 啓倫)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						相談の上決定。
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						適宜指示する。
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明、自己紹介、テキストの決定	シラバスを読む。(45分)	議論内容の整理(45分)
2	テキストの内容報告と討論(1)	テキストの熟読(45分)	議論内容の整理(45分)
3	テキストの内容報告と討論(2)	テキストの熟読(45分)	議論内容の整理(45分)
4	テキストの内容報告と討論(3)	テキストの熟読(45分)	議論内容の整理(45分)
5	テキストの内容報告と討論(4)	テキストの熟読(45分)	議論内容の整理(45分)
6	テキストの内容報告と討論(5)	テキストの熟読(45分)	議論内容の整理(45分)
7	テキストの内容報告と討論(6)	テキストの熟読(45分)	議論内容の整理(45分)
8	テキストの内容報告と討論(7)	テキストの熟読(45分)	議論内容の整理(45分)
9	テキストの内容報告と討論(8)	テキストの熟読(45分)	議論内容の整理(45分)
10	職業レディネステスト実施	テスト実施要領の確認(45分)	テストのふり返り(45分)
11	テキストの内容報告と討論(9)	テキストの熟読(45分)	議論内容の整理(45分)
12	テキストの内容報告と討論(10)	テキストの熟読(45分)	議論内容の整理(45分)
13	レポートの進捗状況の報告(1)	関連資料の収集(45分)	議論内容の整理(45分)
14	レポートの進捗状況の報告(2)	関連資料の収集(45分)	議論内容の整理(45分)
15	レポート作成(1)	レポート(課題)の準備(45分)	レポート(課題)の準備(45分)
16	レポート作成(2)	レポート(課題)の準備(45分)	レポート(課題)の仕上げ(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: BAS002005)				
授業担当者(所属・職名)	杉本 大輔(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 杉本 大輔)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照すること				

概要

履修目標

本ゼミナールでは「天皇」を取り上げ、明治時代以降「天皇」が日本の近代化にいかに関与したか、を社会的に考察する。イデオロギーに染まることなく、「天皇」という存在を社会的・構造神学的に考察する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP(1)(2)(3)(4)(5)に対応する。  
 経営学科のDP(1)(2)(3)(4)(5)に対応する。  
 デザイン学科のDP(1)(2)(3)(4)(5)に対応する。  
 建築学科のDP(1)(2)(3)(4)(5)に対応する。

到達目標

・明治時代以降の近代日本社会において、天皇が果たした順機能、潜在機能を理解できる。  
 ・仏教、キリスト教、儒教、イスラム教との比較から、天皇が持つ神性を考察し、理解できる。  
 ・平安時代末期の保元の乱が示した根本的規範の崩壊と、そこから派生する急性アノミー(無運帯・無規範)の恐怖と、現代日本社会に共通する要因を理解できる。

授業全体の内容と概要

小室直樹『天皇畏るべし—日本の夜明け、天皇は神であった—』(ビジネス社)を基本参考文献とし(ゼミごとに教員が購読パートをコピーし配布する)、併せて、山本七平、橘川大三郎、大澤真幸、宮台真司の文献を参照し、ゼミを進める。

授業の方法

・購読パートを音読してもらい、必要に応じて教員が説明を加え、併せてディスカッションを行う。  
 ・ゼミで使用するプリントは前の回に配布する。熟読することが望ましい。  
 ・学生の要望には可能な限り応えるが、教育上問題のある要望には応えられない。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

主体的・積極的参加を望む  
 不測の事態の際にオンライン授業を実施する可能性がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定の最低出席回数10回以上をクリアすること。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	0%	30%	70%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
明治時代における天皇が果たした機能を理解する。	ディスカッションにおいて、「自分の意見を明確に言えるだけでなく、他者の意見について明確で理屈の通った指摘ができた。	ディスカッションにおいて自分の意見を明確に表現できた。	「明治維新」「明治時代」についての基本的知識を習得できた。	ゼミで購読したパートを説明できた。	左記の内容が何一つできなかった。
仏教、キリスト教、イスラム教、儒教と比較した天皇の神性を理解する。	ディスカッションにおいて、「自分の意見を明確に言えるだけでなく、他者の意見について明確で理屈の通った指摘ができた。	ディスカッションにおいて自分の意見を明確に表現できた。	高校のテキスト「宗教」の基本的知識を習得できた。	ゼミで購読したパートを説明できた。	左記の内容が何一つできなかった。
保元の乱における根本的規範の崩壊と、そこから派生する急性アノミーの恐怖を理解する。	ゼミで購読したパートを説明できる。ディスカッションにおいて、「自分の意見を明確に言えるだけでなく、他者の意見について明確で理屈の通った指摘ができた。	ディスカッションにおいて自分の意見を明確に表現できた。	保元の乱以降の日本史の基本的知識を習得できた。	ゼミで購読したパートを説明できた。	左記の内容が何一つできなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: BAS002005)				
授業担当者(所属・職名)	杉本 大輔(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 杉本 大輔)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明	高校のテキストの読み込み(45分)	配布資料の読み込み(45分)
2	明治維新における天皇1	前回資料の読み込み(45分)	配布資料の読み込み(45分)
3	明治維新における天皇2	前回資料の読み込み(45分)	配布資料の読み込み(45分)
4	神の機能(正統性の付与)1	前回資料の読み込み(45分)	配布資料の読み込み(45分)
5	神の機能(正統性の付与)2	前回資料の読み込み(45分)	配布資料の読み込み(45分)
6	教育勅語に込められた革新	前回資料の読み込み(45分)	配布資料の読み込み(45分)
7	キリスト教の論理	前回資料の読み込み(45分)	配布資料の読み込み(45分)
8	儒教の論理	前回資料の読み込み(45分)	配布資料の読み込み(45分)
9	天皇の神性1	前回資料の読み込み(45分)	配布資料の読み込み(45分)
10	天皇の神性2 職業・ダイナステス実施	前回資料の読み込み(45分)	配布資料の読み込み(45分)
11	天下大乱はなぜ起きたか	前回資料の読み込み(45分)	配布資料の読み込み(45分)
12	日本皇道の失墜	前回資料の読み込み(45分)	配布資料の読み込み(45分)
13	摩訶不思議なるもの	前回資料の読み込み(45分)	配布資料の読み込み(45分)
14	天皇が秘める深淵1	前回資料の読み込み(45分)	配布資料の読み込み(45分)
15	天皇が秘める深淵2	前回資料の読み込み(45分)	配布資料の読み込み(45分)
16	天皇が秘める深淵3	前回資料の読み込み(45分)	配布資料の読み込み(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: BAS002005)				
授業担当者(所属・職名)	横田 肇 (社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者: 横田 肇)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

学生が世界と日本の歴史と文化について、資料と文献によって基礎的な知識を身につける。合わせて、プレゼンテーションと文章作成の基礎的な能力を身につける。

授業の位置づけ

経営学科のDP(2)に対応する。  
社会福祉学科のDP(2)に対応する。  
デザイン学科のDP(2)に対応する。  
建築学科のDP(2)に対応する。

到達目標

受講者において、日本と世界の歴史・文化についての基本的な理解ができており、プレゼンテーションと文章作成の基礎的な能力が身についている。

授業全体の内容と概要

毎回、受講者が日本と世界の歴史と文化に関する学習(文献調査)とプレゼンテーションを行い、合わせて、教員による説明を加える。適宜、文章作成の練習も取り入れる。

授業の方法

毎回、1)受講者による文献調査、2)プレゼンテーション・質疑応答、3)教員による補足・講評(フィードバック)を行う。合わせて、文章作成の練習も加える。プレゼンテーション、講評では板書、ボード、スライドを使用。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

欠席、遅刻をしないように留意する。  
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。事情に応じ、口頭、スライド、板書、資料による説明に配慮する。写真、録画・録音を認める。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は10回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	20%	0%	0%	20%	60%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
情報収集・分析能力	多様で正確な情報の収集と分析ができ、的確な発信ができた。	正確な情報収集と整理ができ、適切な発信ができた。	情報収集と整理の基本が身に付いており、発信の基本ができた。	指示によって情報収集と整理が実行でき、指示によって発信ができた。	指示による情報収集と整理が実行できなかった。
コミュニケーション・プレゼンテーション能力	的確な議論と明確なプレゼンテーションができ、適切な質疑応答ができた。	適切な議論とプレゼンテーションができた。	議論とプレゼンテーションの基本が身に付いた。	指示によって議論とプレゼンテーションが実行できた。	指示による議論とプレゼンテーションが実行できなかった。
歴史と文化に関する理解・認識	ヨーロッパの歴史と文化に関する深く深い理解ができており、発展的な学習ができた。	ヨーロッパの歴史と文化に関する理解ができており、発展的な学習が期待できた。	ヨーロッパの歴史と文化に関する基本的な理解ができた。	指示によってヨーロッパの歴史と文化に関する理解ができた。	指示によるヨーロッパの歴史と文化に関する理解ができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: BAS002005)				
授業担当者(所属・職名)	横田 肇 (社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者: 横田 肇)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						教科書なし
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						適宜指示
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明、教員によるヨーロッパの歴史と文化の基礎に関する講義	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の予習(45分)	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の復習(45分)
2	受講者による調査とプレゼンテーション(1)	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の予習(45分)	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の復習(45分)
3	受講者による調査とプレゼンテーション(2)	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の予習(45分)	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の復習(45分)
4	受講者による調査とプレゼンテーション(3)	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の予習(45分)	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の復習(45分)
5	受講者による調査とプレゼンテーション(4)	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の予習(45分)	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の復習(45分)
6	受講者による調査とプレゼンテーション(5)	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の予習(45分)	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の復習(45分)
7	受講者による調査とプレゼンテーション(6)	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の予習(45分)	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の復習(45分)
8	受講者による調査とプレゼンテーション(7)	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の予習(45分)	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の復習(45分)
9	受講者による調査とプレゼンテーション(8)	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の予習(45分)	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の復習(45分)
10	職業レディネステスト実施	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の予習(45分)	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の復習(45分)
11	受講者による調査とプレゼンテーション(9)	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の予習(45分)	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の復習(45分)
12	受講者による調査とプレゼンテーション(10)	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の予習(45分)	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の復習(45分)
13	受講者による調査とプレゼンテーション(11)	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の予習(45分)	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の復習(45分)
14	受講者によるレポート作成(1)	レポート作成の準備(45分)	レポート作成の準備(45分)
15	受講者によるレポート作成(2)	レポート作成の準備(45分)	レポート作成の準備(45分)
16	受講者によるレポート作成(3)	レポート作成の準備(45分)	レポート作成の準備(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: BAS002005)				
授業担当者(所属・職名)	櫻井 美帆子(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	1号館4階		
単位数	1 (単位認定責任者: 櫻井 美帆子)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	現場での実務経験から得た事例等を用いて福祉に対する理解を深めていく。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

社会福祉実践に用いられることが多い用語と意味を覚える。  
チームワーク力を涵養する。

授業の位置づけ

経営学科のDP(2)(4)(5)に対応する科目。  
社会福祉学科のDP(2)(4)(5)に対応する科目。  
デザイン学科のDP(2)(4)に対応する科目。  
建築学科のDP(2)(4)に対応する科目。

到達目標

福祉に関する専門用語を覚える。  
自分に適した暗記方法を身につける。  
協調性を身につける。

授業全体の内容と概要

福祉現場で使われることが多い専門用語と、その意味を暗記する。  
暗記方法の工夫ができるようになる。  
他者を尊重しながら自己主張できるようになる。  
「SDG3:すべての人に健康と福祉を」の関連授業

授業の方法

基本は、テーマに沿ったグループワークでの展開とする。グループで課題に取り組み、代表者が発表をする展開とする。  
一部、講義形式で授業を展開する。講義の際は随時質問をするので答える事。  
随時記録物を提出する。記録物はコメントを添え返却する。  
内容により、使用する資料を配布する。

アクティブラーニングの実施方法

<input type="radio"/>	プレゼンテーション	<input type="radio"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL
<input type="checkbox"/>	模擬授業	<input type="radio"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業
<input type="radio"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

30分以上の遅刻は欠席とする。  
出席を重視するので、遅刻や欠席をする場合は事前に連絡をすること。授業を妨害したり他者の学ぶ権利を侵害する場合は、注意をするが、改善がない場合には単位を認定しない。  
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、大学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

10回以上の出席があること。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	50%	0%	50%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
福祉の仕事の場で用いられることが多い用語と意味を理解できる。	用語の意味を自分の言葉で言い換えながら、解説ができた。	用語の意味を自分の言葉で言い換えることができた。	助言があればできた。	助言があれば一部できた。	助言があってもできなかった。
暗記ができる。	自分に適した方法を用いて、暗記ができた。	指導方法に従って暗記ができた。	助言があればできた。	助言があれば一部出来た。	助言があってもできなかった。
チームで目標を達成できる。	状況に応じてリーダーシップをとったら、他のメンバーへのサポートができた。	他のメンバーを尊重できた。	自分の役割を責任を持ち果たせた。	助言があればできた。	助言があってもできなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: BAS002005)				
授業担当者(所属・職名)	櫻井 美帆子(社会福祉学科・准教授)		研究室等所在	1号館4階	
単位数	1 (単位認定責任者: 櫻井 美帆子)		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 現場での実務経験から得た事例等を用いて福祉に対する理解を深めていく。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						『使用しない』
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						『使用しない』
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 福祉の現場で用いられることが多い用語	福祉の授業の中で知った「あ」の単語を書き出す。(4.5分)	単語カードを作る。(4.5分)
2	福祉の現場で用いられることが多い用語	単語カードを見直す。福祉の授業の中で知った「か」の単語を書き出す。(4.5分)	単語カードを作る。(4.5分)
3	福祉の現場で用いられることが多い用語	単語カードを見直す。福祉の授業の中で知った「き」の単語を書き出す。(4.5分)	単語カードを作る。(4.5分)
4	福祉の現場で用いられることが多い用語	単語カードを見直す。福祉の授業の中で知った「さ」の単語を書き出す。(4.5分)	単語カードを作る。(4.5分)
5	福祉の現場で用いられることが多い用語	単語カードを見直す。福祉の授業の中で知った「し」の単語を書き出す。(4.5分)	単語カードを作る。(4.5分)
6	福祉の現場で用いられることが多い用語	単語カードを見直す。福祉の授業の中で知った「た」の単語を書き出す。(4.5分)	単語カードを作る。(4.5分)
7	中間まとめ	単語カードを見直す。福祉の授業の中で知った「た」の単語を書き出す。(4.5分)	単語カードを作る。クラスのメンバーの暗記方法を参考にし、暗記方法の工夫を試みる。
8	福祉の現場で用いられることが多い用語	単語カードを見直す。福祉の中で知った「な」の単語を書き出す。(4.5分)	単語カードを作る。(4.5分)
9	福祉の現場で用いられることが多い用語	単語カードを見直す。福祉の授業の中で知った「は」の単語を書き出す。(4.5分)	単語カードを作る。(4.5分)
10	職業レディネステスト	卒業後の進路について考える。(4.5分)	卒業後の進路について考える。(4.5分)
11	福祉の現場で用いられることが多い用語	単語カードを見直す。福祉の授業の中で知った「は」の単語を書き出す。(4.5分)	単語カードを作る。(4.5分)
12	福祉の現場で用いられることが多い用語	単語カードを見直す。福祉の授業の中で知った「ま」の単語を書き出す。(4.5分)	単語カードを作る。(4.5分)
13	福祉の現場で用いられることが多い用語	単語カードを見直す。福祉の授業の中で知った「ま」の単語を書き出す。(4.5分)	単語カードを作る。(4.5分)
14	福祉の現場で用いられることが多い用語	単語カードを見直す。福祉の授業の中で知った「や」の単語を書き出す。(4.5分)	単語カードを作る。(4.5分)
15	福祉の現場で用いられることが多い用語	単語カードを見直す。福祉の授業の中で知った「ら」「わ」の単語を書き出す。(4.5分)	単語カードを作る。(4.5分)
16	まとめ	単語カードを見直す。(4.5分)	自分の暗記の方法を考察する。(4.5分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: BAS002005)				
授業担当者(所属・職名)	湯浅 頼佳 (社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	1 (単位認定責任者: 湯浅 頼佳)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標
------

基礎ゼミナールの目的を踏襲しながら無理なく専門課程へ移行できる様「学びの方法」を修得する。

授業の位置づけ

社会福祉学科の DP (2) (5) に対応する。  
 経営学科の DP (2) (5) に対応する。  
 デザイン学科の DP (2) (5) に対応する。  
 建築学科の DP (2) (5) に対応する。

到達目標

基礎ゼミナール から継続して考えていながら、学生それぞれが1つのテーマを上げレポートを作成し発表する事を目標とする。

授業全体の内容と概要

人間は食べることのみによって栄養を取り入れ、様々な活動を可能としている。乳幼児から高齢者まで各々の目的や問題の違いはあれ、それぞれ生活リズムの確立や健康、QOL、疾病防止などを目的として望ましい食生活をする事が必要となる。学生それぞれが自分自身の食生活だけでなく職業的(保育士、社会福祉士、スポーツトレーナー、教員等)に必要な問題意識を持ち知識を身につけることを目標とする。

授業の方法

食生活や栄養に関する問題の中からそれぞれが研究テーマを見つけ、プレゼンテーションやディスカッション、グループワーク、フィールドワーク、実習等を実施する。また必要に応じて教員がテーマに関する講義も行い、カレントトピックスについても解説する。質疑応答には随時対応する。

アクティブラーニングの実施方法

<input type="radio"/>	プレゼンテーション	<input type="radio"/>	グループワーク	<input type="radio"/>	フィールドワーク	<input type="radio"/>	PBL
<input type="radio"/>	模擬授業	<input type="radio"/>	ロールプレイ	<input type="radio"/>	調査学習	<input type="radio"/>	反転授業
<input type="radio"/>	ディスカッション	<input type="radio"/>	実験・実習・実技	<input type="radio"/>	双方向授業	<input type="radio"/>	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

・出席を重視する。欠席をする場合は必ず事前に連絡をすること。出席数を満たしていてもゼミの運営を乱す行為があった場合は評価をしない場合がある。また同じくゼミの運営に支障を来す行為があった場合は途中でゼミ異動を宣告する場合がある。  
 ・不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

出席状況(3分の2以上)。ゼミ内での活動(プレゼンテーションやディスカッション、グループワーク、フィールドワーク、実習等)とゼミ内での役割の認識と行動により総合評価する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	20%	0%	0%	30%	50%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解(協調性、傾聴力)	ゼミ内でのプレゼンテーションに積極的に耳を傾け、タイミングよく質問することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションに耳を傾け、タイミングよく質問することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションに耳を傾け質問することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションに耳を傾け何回か質問することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションに耳を傾けることは出来るが質問できなかった。
知識・理解(興味、関心)	新聞、ニュース、トピックス等に関心を持ち積極的に食生活や栄養についてのテーマを発見することができた。	新聞、ニュース、トピックス等に関心を持ち食生活や栄養についてのテーマを概ね発見することができた。	新聞、ニュース、トピックス等に関心を持ち食生活や栄養についてのテーマを発見することができた。	新聞、ニュース、トピックス等に関心を持ち努力をしながら食生活や栄養についてのテーマを発見することができた。	新聞、ニュース、トピックス等に関心を持ち食生活や栄養についてのテーマを発見することができなかった。
汎用的機能(トークスキル、表現力)	ゼミ内でのプレゼンテーションにおいて聞き手が理解しやすいよう資料を十分揃えわかりやすく発表することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションにおいて聞き手が理解しやすいよう発表することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションにおいて聞き手が理解しやすいよう発表することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションにおいて聞き手が理解しやすいよう発表することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションにおいて聞き手が理解しやすいよう発表することができなかった。
態度・志向性(リーダーシップ、態度)	ゼミ内での自分の役割を十分に認識し、積極的にゼミ運営に関わることができた。	ゼミ内での自分の役割を十分に認識し、ゼミ運営に関わることができた。	ゼミ内での自分の役割を認識し、ゼミ運営に関わることができた。	ゼミ内での自分の役割を認識し、ゼミ運営に多少関わることができた。	ゼミ内での自分の役割を認識できなかった。
態度・志向性(意欲)	休まずゼミに出席できた。(出席16回)	概ねゼミに出席できた。(出席15-14回)	休みがちではあるが出席できた。(出席13-12回)	欠席が目立つが出席できた。(出席11-10回)	評価前提条件を満たす事ができなかった。(出席9-0回)

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: BAS002005)				
授業担当者(所属・職名)	湯浅 頼佳 (社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	1 (単位認定責任者: 湯浅 頼佳)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション及びシラバスの説明	ゼミ初回に必要な事項について考える。(45分)	シラバスについて確認する。ゼミ内での自分の役割について考える(45分)
2	「食生活の重要性を考える A」	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
3	「食生活の重要性を考える A」	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
4	「食生活の重要性を考える A」	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
5	「食生活の重要性を考える A」	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
6	「食生活の重要性を考える A」	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
7	「食生活の重要性を考える A」	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
8	「食生活の重要性を考える A」	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
9	「食生活の重要性を考える A」	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
10	「職業レディネステスト」実施	「職業レディネステスト」についてポイントを整理する。(45分)	本日の「職業レディネステスト」について振り返りを行う。(45分)
11	「食生活の重要性を考える A」	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
12	「食生活の重要性を考える A」	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
13	「食生活の重要性を考える A」	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
14	「食生活の重要性を考える A」	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
15	「食生活の重要性を考える A」	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。(45分)	本日のゼミ内容について振り返りを行う。(45分)
16	まとめ	まとめの準備を行う。(45分)	まとめの振り返りを行う。(45分)

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・・・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: BAS002005)				
授業担当者(所属・職名)	尾西 則昭(社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 尾西 則昭)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

人間の基本である健康・体力身体運動に関する知識を深め、現在不規則になりがちな生活習慣の改善になる。学生生活における健康維持のための運動の大切さについての基礎知識を理解する。

授業の位置づけ

経営学科のDP(1)(2)(4)に対応する。  
 社会福祉学科のDP(1)(2)(4)(5)に対応する。  
 デザイン学科のDP(1)(2)(4)に対応する。  
 建築学科のDP(1)(2)(4)に対応する。

到達目標

生涯にわたり有意義な人生を送るために、健康なライフスタイルを確立する方法を身につける。不規則になりがちな生活習慣で留意しなければならない点について、いくつかのテーマを通じて、基本的な知識を学習する。現在だけのことだけでなく、卒業後に訪れるであろう社会人生活における健康づくりについて述べることができる。

授業全体の内容と概要

現代社会における健康問題について解説し、健康づくりの必要性について理解する。

授業の方法

資料を通読し、その内容がかかわって、説明や質疑応答及びディスカッションを行います。健康に関するキーワードについて調べ、学修したものを発表します。

アクティブラーニングの実施方法

<input type="radio"/>	プレゼンテーション	<input type="radio"/>	グループワーク	<input type="radio"/>	フィールドワーク	<input type="radio"/>	PBL
<input type="radio"/>	模範授業	<input type="radio"/>	ロールプレイ	<input type="radio"/>	調査学習	<input type="radio"/>	反転授業
<input type="radio"/>	ディスカッション	<input type="radio"/>	実験・実習・実技	<input type="radio"/>	双方向授業	<input type="radio"/>	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

積極的に取り組むことを期待します。  
 20分以上の遅刻は欠席とみなします。  
 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合があります。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数13回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	100%	0%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	健康についての基礎的な知識を深く理解できた。	健康についての基礎的な知識を理解できた。	健康についての基礎的な知識をおおむね理解できた。	健康についての基礎的な知識を多少理解できた。	健康についての基礎的な知識を。理解できなかった。
思考力・判断力・表現力	健康の基本を踏まえた健康内容の展開について十分に考察できた。	健康の基本を踏まえた健康内容の展開について考察できた。	健康の基本を踏まえた健康内容の展開についておおむね考察できた。	健康の基本を踏まえた健康内容の展開について多少考察できた。	健康の基本を踏まえた健康内容の展開について考察できなかった。
主体的に取り組む態度	健康の多様な展開について理解したことをわかりやすく説明できた。	健康の多様な展開について理解したことを説明できた。	健康の多様な展開について理解したことをおおむねわかりやすく説明できた。	健康の多様な展開について理解したことを多少わかりやすく説明できた。	健康の多様な展開について理解したことを説明できなかった。



基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: BAS002005)				
授業担当者(所属・職名)	尾西 則昭(社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 尾西 則昭)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『資料配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス 『シラバス説明』	事前にシラバスを読んで確認する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(45分)
2	健康プログラムが見つかる	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(45分)
3	健康プログラムが見つかる	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(45分)
4	健康プログラムが見つかる	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(45分)
5	健康プログラムが見つかる	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(45分)
6	健康プログラムが見つかる	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(45分)
7	健康プログラムが見つかる	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(45分)
8	健康プログラムが見つかる	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(45分)
9	健康プログラムが見つかる	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(45分)
10	職業レディネステスト実施	事前にシラバスを読んで確認する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(45分)
11	健康プログラムが見つかる	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(45分)
12	健康プログラムが見つかる	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(45分)
13	健康プログラムが見つかる	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(45分)
14	健康プログラムが見つかる	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(45分)
15	健康についての発表会・討議	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(45分)
16	まとめ	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(45分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: BAS002005)				
授業担当者(所属・職名)	西崎 毅(社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	2号館6階		
単位数	1 (単位認定責任者: 西崎 毅)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	高等学校教員及び教育行政職員としての経験を活かして教職に関連する指導を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照				

概要

履修目標

教員になるために必要な知識・技能、思考力・判断力・表現力等の能力及び意欲を身に付ける。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP(2)(4)(5)に対応する。  
デザイン学科のDP(2)(4)に対応する。  
建築学科のDP(2)(4)に対応する。

到達目標

教育制度についてその概要を理解することができる。  
教育にかかわる諸問題についてその概要を理解することができる。  
教員になるために必要な事項についてその概要を理解することができる。

授業全体の内容と概要

各回の授業テーマについて考える。  
教育にかかわる法令、中央教育審議会答申、学習指導要領などの通読  
教育に関する基本的事項についての調べ学習  
教員として求められる一般教養及び教職教養の学習  
学校視察やボランティア活動等への参加  
漢字検定等への参加  
「SDG4・質の高い教育をみんなに」の関連科目

授業の方法

教育にかかわる法令、中央教育審議会答申、学習指導要領などを通読し、その内容にかかわって説明や質疑応答及びディスカッションを行います。板書や教材提示装置を活用する。教育に関するキーワードについての調べ学習及びその発表を行う。教員として求められる一般教養及び教職教養について演習を行う。課題や発表等に対する評価のフィードバックや要望等への対応は口頭で行う。Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、小テスト、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

教職課程を履修し、大学卒業後に教職に就く強い希望と意思を持った学生を原則対象とする。  
サブメジャープログラムの「教育採用試験対策プログラム」の履修を条件とする。  
漢字検定取得に真剣に取り組むことを履修の条件とする。(目標2級)  
○授業内で紹介する体験活動に積極的に取り組むことを履修の条件とする。  
プリント類はフラットファイルに格納し、毎回授業に持参すること。  
○不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は11回。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	20%	0%	80%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	学修した知識・技能を確実に修得するとともに、それらに関連した知識・技能についても習得することができた。	学修した知識・技能を十分に修得することができた。	学修した知識・技能を修得することができた。	学修した知識・技能を修得したが、最低限容認できるレベルにとどまった。	学修に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。
思考力・判断力・表現力等	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを十分に達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。
主体性・多様性・協働性	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを十分に達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: BAS002005)				
授業担当者(所属・職名)	西崎 毅(社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	2号館6階		
単位数	1 (単位認定責任者: 西崎 毅)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 高等学校教員及び教育行政職員としての経験を活かして教職に関連する指導を行う。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	*授業内で別途指示する。*					
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション(シラバスの説明含む) 学習計画の作成	教職志望の理由をまとめること。(45分)	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
2	中学校学習指導要領総則についての学修 教育課程の編成 実施 評価 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)
3	中学校学習指導要領総則についての学修 生徒の発達の支援 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
4	中学校学習指導要領総則についての学修 学校運営上の留意事項 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
5	中学校学習指導要領総則についての学修 目標・一般教養及び教職教養の演習	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
6	中学校学習指導要領総則についての学修 内容 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション 一般教養及び教職教養の演習	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
7	中学校学習指導要領総則についての学修 指導計画の作成 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
8	中学校学習指導要領総則についての学修 内容の取扱い 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
9	中学校学習指導要領についての学修 専門教科の目標 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
10	職業レディネステスト実施	職業レディネステストについて調べる(45分)	職業レディネステストの感想を書く(45分)
11	中学校学習指導要領についての学修 専門教科各科目の目標と内容 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
12	中学校学習指導要領についての学修 専門教科各科目の目標と内容 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
13	中学校学習指導要領についての学修 専門教科各科目の目標と内容 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
14	中学校学習指導要領についての学修 専門教科の指導計画の作成 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
15	中学校学習指導要領についての学修 専門教科の内容の取扱い 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	事後課題を行い次時に提出すること。(45分)
16	前期の学修の総括及び反省	前時に課された課題を行い提出すること。(45分)	1年間の自らの学修姿勢を評価すること。(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: BAS002005)				
授業担当者(所属・職名)	小山 尋明(建築学科・准教授)	研究室等所在	1号館4階		
単位数	1 (単位認定責任者: 小山 尋明)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

<p><b>履修目標</b></p> <p>競技スポーツの基礎的トレーニングを基礎ゼミナール A・Bより更に深く学び、個人に必要なトレーニングを自ら実践できるよう知識を身につける。携っている競技の試合分析をする知識と理解力を身につける。</p>
--

<p><b>授業の位置づけ</b></p> <p>営学科のDP(4)(5)に対応する。          社会福祉学科のDP(4)(5)に対応する。          デザイン学科のDP(4)に対応する。          建築学科のDP(4)に対応する。</p>
--

<p><b>到達目標</b></p> <p>競技及び個人の特性を理解し、安全にトレーニングできるようにする。また、試合の分析・考察(心理的)も出来る。</p>
---

<p><b>授業全体の内容と概要</b></p> <p>基礎ゼミナール A・Bを基に個人に必要なフィジカルとメンタルトレーニングを実践し、自分の競技の試合をどのように分析・考察(心理的)すればよいのかを考える。</p>
---

<p><b>授業の方法</b></p> <p>プリントなど資料にて説明したのち、トレーニング室及び体育館などで実際にトレーニング(フィジカルとメンタル)をする。また、コンディショニングの方法・心理的などについての分析を行い、次の大会などに活かせるようにする。なお、今回の授業において前回の反省と確認を行う。</p>
---

<b>アクティブラーニングの実施方法</b>					
プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
模範授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業	その他(授業の方法参照)

<p><b>履修上の注意事項</b></p> <p>男子バスケットボール部に所属の学生を対象とする。注意事項等の詳細については、ガイダンスにて説明する。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。</p>
---

<p><b>修学サポート(合理的配慮)</b></p> <p>事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。</p>
--

<p><b>資格指定科目</b></p>
----------------------

評価方法・基準

<p><b>評価前提条件</b></p> <p>単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。</p>												
<p><b>評価方法</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>60%</td> <td>40%</td> </tr> </tbody> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	0%	0%	0%	60%	40%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	0%	0%	0%	60%	40%							

<b>ルーブリック</b>					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
関心・意欲・態度・判断	積極的に行動し、意欲的に取り組み、安全に細心の注意を払うことができた。	積極的に行動し、意欲的に取り組み、安全に細心の注意を払うことが7割程度できた。	積極的に行動し、意欲的に取り組み、安全に細心の注意を払うことが5割程度できた。	積極的に行動し、意欲的に取り組み、安全に細心の注意を払うことが3割程度できた。	積極的に行動し、意欲的に取り組み、安全に細心の注意を払うことができなかった。
競技及び個人の特性を理解し、安全にトレーニングができる	目標設定の原理、原則、種類とその方法を理解し安全に細心の注意を払うことができた。	目標設定の原理、原則、種類とその方法を理解し安全に細心の注意を払うことが7割程度できた。	目標設定の原理、原則、種類とその方法を理解し安全に細心の注意を払うことが5割程度できた。	目標設定の原理、原則、種類とその方法を理解し安全に細心の注意を払うことが3割程度できた。	目標設定の原理、原則、種類とその方法を理解し安全に細心の注意を払うことができなかった。
知識・理解	フィジカルとメンタルトレーニングの知識、理解があり、心理的スキルも含め分析・考察ができた。	フィジカルとメンタルトレーニングの知識、理解があり、心理的スキルも含め分析・考察が7割程度できた。	フィジカルとメンタルトレーニングの知識、理解があり、心理的スキルも含め分析・考察が5割程度できた。	フィジカルとメンタルトレーニングの知識、理解があり、心理的スキルも含め分析・考察が3割程度できた。	フィジカルとメンタルトレーニングの知識、理解があり、心理的スキルも含め分析・考察ができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: BAS002005)				
授業担当者(所属・職名)	小山 尋明(建築学科・准教授)	研究室等所在	1号館4階		
単位数	1 (単位認定責任者: 小山 尋明)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス(シラバス説明)。	事前にシラバスを読んで確認しておく(45分)	ガイダンスの内容を理解しておく(45分)
2	トレーニング実践 1 (フィジカルとメンタル)	トレーニングの基礎と原則を確認しておく(45分)	トレーニングの基礎と原則を理解しておく(45分)
3	トレーニング実践 2 (フィジカルとメンタル)	トレーニングの基礎と原則を確認しておく(45分)	トレーニングの基礎と原則を理解しておく(45分)
4	トレーニング実践 3 (フィジカルとメンタル)	トレーニングの基礎と原則を確認しておく(45分)	トレーニングの基礎と原則を理解しておく(45分)
5	トレーニング実践 4 (フィジカルとメンタル)	トレーニングの基礎と原則を確認しておく(45分)	トレーニングの基礎と原則を理解しておく(45分)
6	トレーニング実践 5 (フィジカルとメンタル)	トレーニングの基礎と原則を確認しておく(45分)	トレーニングの基礎と原則を理解しておく(45分)
7	トレーニング実践 6 (フィジカルとメンタル)	トレーニングの基礎と原則を確認しておく(45分)	トレーニングの基礎と原則を理解しておく(45分)
8	試合分析 1 (心理的・コンディショニングの方法)	コンディショニングの方法を確認しておく(45分)	コンディショニングの方法を理解しておく(45分)
9	試合分析 2 (心理的・コンディショニングの方法)	コンディショニングの方法を確認しておく(45分)	コンディショニングの方法を理解しておく(45分)
10	試合分析 3 (心理的・コンディショニングの方法) 職業アスリート実証	コンディショニングの方法を確認しておく(45分)	コンディショニングの方法を理解しておく(45分)
11	試合分析 4 (心理的・コンディショニングの方法)	コンディショニングの方法を確認しておく(45分)	コンディショニングの方法を理解しておく(45分)
12	試合分析 5 (心理的・コンディショニングの方法)	コンディショニングの方法を確認しておく(45分)	コンディショニングの方法を理解しておく(45分)
13	試合分析 6 (心理的・コンディショニングの方法)	コンディショニングの方法を確認しておく(45分)	コンディショニングの方法を理解しておく(45分)
14	試合分析 7 (心理的・コンディショニングの方法)	コンディショニングの方法を確認しておく(45分)	コンディショニングの方法を理解しておく(45分)
15	試合分析 8 (心理的・コンディショニングの方法)	コンディショニングの方法を確認しておく(45分)	コンディショニングの方法を理解しておく(45分)
16	振り返りと確認	内容を確認し理解を深めておくこと(45分)	専門用語の意味を理解しておくこと(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: BAS002005)				
授業担当者(所属・職名)	宮嶋 達也(デザイン学科・教授)	研究室等所在	2号館4階		
単位数	1 (単位認定責任者: 宮嶋 達也)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示板等を参照				

概要

履修目標

学生時代に創作し、制作した作品で地域に貢献するには、その地域や社会(企業)の理解や課題認識が必要であり、また、自らの学習成果を地域社会の中で試し検証する絶好の機会となる。更に、本学の教育理念に「必要とする人々のために新たな道を創造し、人々が共生しえる社会の実現をめざし、それを成し遂げる」を具現する活動でもある。そうした位置付けで、リサーチ・プランニング・クリエイション・プレゼン・制作活動まで一貫して実践する。

授業の位置づけ

経営学科のDP(2)、(5)に対応する。  
 福祉学科のDP(2)、(4)に対応する。  
 デザイン学科のDP(2)、(3)、(4)に対応する。  
 建築学科のDP(2)、(4)に対応する。

到達目標

- (1) 制作活動を通して何を学ぶのか、各自の問題意識を明確にする。
- (2) 様々な活動場面に応じて、適切なコミュニケーションを取りながら、他者との関わりをもつ。
- (3) 各自の活動経験を振り返り、今後進めていく上での自己の学習課題を設定する。

授業全体の内容と概要

授業では、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等のアクティビティを多く取り入れる。各自が問題意識を持ち、考察結果などをグループ全体で共有しながら、目標達成に向けて活動をする。地域との取り組みに自分のデザインを交えながら、どんなことができるのか考え楽しく活動する。

授業の方法

グループワークを中心とした活動が多いため、一人ひとりが自主性を持ち、他人任せになるようなことがないように、常に問題意識を持ち、議論しながら問題解決し、積極的に活動に励む。授業では、グループワーク、討論、ワークショップ等のアクティビティを多く取り入れる。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	○	PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

受講に関して以下の心構えがある学生を条件といたします。  
 社会に役立って達成感を得たり、自分に自信をつけたい人  
 やる気があり、最後まで活動をやり通す気力を持ち合わせている人  
 協力し合いながら目標に向かい活動を成功させることができる人  
 不測の事が起きた際にオンライン授業を実施する場合があります。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	50%	30%	0%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
積極性、社会理解	積極的にアイデアを出し、採用された。他人の発言を聞き、積極的に意見した。	積極的にアイデアを出した。他人の発言を聞き、十分な理解に努めた意見した。	それなりにアイデアを出した。他人の発言を聞き、十分な程度意見した。	アイデアを殆ど出せなかった。他人の意見をあまり理解できなかった。	アイデアを出せなかった。他人の意見を殆ど理解できなかった。
課題解決能力と創造性	仕事を的確に発見し、進め方を共有しあいながら適切に検討し、実行できた。	仕事を進んで発見し、進め方を適切に検討し、実行できた。	仕事を発見し、進め方を検討し、ある程度実行できた。	仕事をあまり発見できず、依頼されたことだけ実行できた。	仕事を発見できず、依頼されたことも、ほとんど実行できなかった。
コミュニケーション能力と行動力	他者をリードする態度で積極的に活動に取り組み、高いコミュニケーション能力と行動力がある。	自主的・協働的に活動に取り組み、コミュニケーション能力や行動力がある。	自らの考えでアクションを起すことはあまりないが必要なコミュニケーション能力や行動力はある。	自らの考えでアクションを起すことは最低限度のコミュニケーション能力や行動力はある。	自らの考えでアクションを起すことができない。最低限度のコミュニケーション能力や行動力もほとんどない。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: BAS002005)				
授業担当者(所属・職名)	宮嶋 達也(デザイン学科・教授)	研究室等所在	2号館4階		
単位数	1 (単位認定責任者: 宮嶋 達也)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション シラバスの説明	演習の準備 シラバスの熟読(45分)	演習内容を確認して理解を深める(45分)
2	Planning1	事前に作業しておくなどの準備(45分)	演習内容を確認して理解を深める(45分)
3	Planning2	事前に作業しておくなどの準備(45分)	演習内容を確認して理解を深める(45分)
4	Planning3	事前に作業しておくなどの準備(45分)	演習内容を確認して理解を深める(45分)
5	Research activities 1	事前に作業しておくなどの準備(45分)	演習内容を確認して理解を深める(45分)
6	Research activities 2	事前に作業しておくなどの準備(45分)	演習内容を確認して理解を深める(45分)
7	Research activities 3	事前に作業しておくなどの準備をすること(45分)	演習内容を確認して理解を深める(45分)
8	Creative activities 1	事前に作業しておくなどの準備(45分)	演習内容を確認して理解を深める(45分)
9	Creative activities 2	事前に作業しておくなどの準備をすること(45分)	演習内容を確認して理解を深める(45分)
10	Creative activities 3・職業レディネステスト実施	事前に作業しておくなどの準備(45分)	演習内容を確認して理解を深める(45分)
11	Creative activities 4	事前に作業しておくなどの準備(45分)	演習内容を確認して理解を深める(45分)
12	Creative activities 5	事前に作業しておくなどの準備(45分)	演習内容を確認して理解を深める(45分)
13	presentation	事前に作業しておくなどの準備(45分)	演習内容を確認して理解を深める(45分)
14	presentation	事前に作業しておくなどの準備をすること(45分)	演習内容を確認して理解を深める(45分)
15	レポート・前期活動のまとめ	事前に作業しておくなどの準備(45分)	演習内容を確認して理解を深める(45分)
16	前期活動における総括と振り返り	事前に作業しておくなどの準備(45分)	演習内容を確認して理解を深める(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: BAS002005)				
授業担当者(所属・職名)	横山 哲也(建築学科・准教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者: 横山 哲也)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標
------

学生が就職活動を行う時に必要なSPIの基礎知識(非言語分野)及び解き方(思考過程)の基本をしっかり身につける。

授業の位置づけ

経営学科のDP(2)に対応する。  
 社会福祉学科のDP(2)に対応する。  
 デザイン学科のDP(2)に対応する。  
 建築学科のDP(2)に対応する。

到達目標

SPIの基礎知識(非言語分野)と解き方(思考過程)の基本を修得できる。

授業全体の内容と概要

金銭に関する問題、速さ・時間・距離、確率、推論、集合、論証、グラフの領域等を豊富な練習問題を解くことによって、SPIの基礎知識(非言語分野)と解き方の基本について実感をつかませる。

授業の方法

授業は、板書で実施し、板書にて説明しながら、演習を行う。課題は学生が提出後、解説を行う。

アクティブラーニングの実施方法

<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL
<input type="checkbox"/>	模範授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業
<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

ゼミナールの内容を十分に理解するために予習・復習を怠らず、また講義や演習に対して積極的に取り組むこと。  
 レポート等の提出方法についてはゼミナール時間中に指示するので、ゼミナールを欠席することのないよう留意すること。  
 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	50%	0%	0%	30%	20%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
SPIに必要な基礎知識の修得	SPIの基礎知識(非言語分野)及び解き方(思考過程)が100%理解できた。	SPIの基礎知識(非言語分野)及び解き方(思考過程)が90%理解できた。	SPIの基礎知識(非言語分野)及び解き方(思考過程)が80%理解できた。	SPIの基礎知識(非言語分野)及び解き方(思考過程)が70%理解できた。	SPIの基礎知識(非言語分野)及び解き方(思考過程)が70%も理解できなかった。
計算過程において必要な記述内容の修得	演習問題は解き方(思考過程)を100%記述したレポートになった。	演習問題は解き方(思考過程)を90%記述したレポートになった。	演習問題は解き方(思考過程)を80%記述したレポートになった。	演習問題は解き方(思考過程)を70%記述したレポートになった。	演習問題は解き方(思考過程)を70%も記述したレポートにならなかった。
思考過程のプレゼンテーション	筋道の立った思考過程がプレゼンテーションを通して明確に出来た。また、質問にも正確に対応した。	筋道の立った思考過程がプレゼンテーションを通して明確に出来た。	筋道の立った思考過程がプレゼンテーションを通して出来た。	一部筋道の立った思考過程がプレゼンテーションを通して出来た。	筋道の立った思考過程のプレゼンテーションが出来なかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: BAS002005)				
授業担当者(所属・職名)	横山 哲也(建築学科・准教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者: 横山 哲也)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス及びシラバスの説明	シラバスを読んでおくこと(45分)	今日のゼミナールの再確認(45分)
2	濃度(1)	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(45分)	今日のゼミナールの再確認(45分)
3	濃度(2)	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(45分)	今日のゼミナールの再確認(45分)
4	濃度(3)	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(45分)	今日のゼミナールの再確認(45分)
5	速さ・距離・時間(1)	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(45分)	今日のゼミナールの再確認(45分)
6	速さ・距離・時間(2)	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(45分)	今日のゼミナールの再確認(45分)
7	速さ・距離・時間(3)	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(45分)	今日のゼミナールの再確認(45分)
8	速さ・距離・時間(4)	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(45分)	今日のゼミナールの再確認(45分)
9	ものの値段と個数	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(45分)	今日のゼミナールの再確認(45分)
10	職業レディネステスト実施	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(45分)	今日のゼミナールの再確認(45分)
11	定価・原価・利益	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(45分)	今日のゼミナールの再確認(45分)
12	割合と値段(1)	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(45分)	今日のゼミナールの再確認(45分)
13	割合と値段(2)	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(45分)	今日のゼミナールの再確認(45分)
14	仕事算	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(45分)	今日のゼミナールの再確認(45分)
15	表の読み取り	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(45分)	今日のゼミナールの再確認(45分)
16	まとめ及び要点のフィードバック	総復習(45分)	総理解(45分)

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	建築学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: BAS002005)				
授業担当者(所属・職名)	長森 正 (建築学科・教授)	研究室等所在	アトリエ棟 1階		
単位数	1 (単位認定責任者: 長森 正)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	1級土木施工管理技士・測量士・コンクリート技士として建設会社に勤務。実務経験をもとに講義をします。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

測量は建築物を施工する上で欠かせない技術である。建築技術者として必要な測量技術を修得する。主に長さ・高さ・角度を測る測量機器の基本的な操作と測定結果の整理方法を学習する。

授業の位置づけ

建築学科のDP(1)、(2)、(4)に対応する。

到達目標

測量機器の構造、取り扱いおよび使用方法を修得する。測量学講義と並行して測量機器実習を体験することで、建築測量学の理解をより深める。測量したデータの整理方法およびその評価技術の習得のための計算演習についても併せて行う。

授業全体の内容と概要

アトリエ棟・駐車場周辺で測量実習を行い、レポート(測量成果及び図面)提出をすることによって、測量学の理解を深め、合わせて建築工事測量の基礎を修得する。

授業の方法

グループワークによる測量機器の取り扱いを実習形式で行う。周辺の測量を実施して成果をレポートにまとめる。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業	○	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

数学が不得意の学生は基礎となる三角関数の復習に努めること。  
実習中に簡単な計算が伴うので、関数電卓を持参すること。  
野外実習できる履物・服装をすること。(サンダル禁止)。  
不足の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、大学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は11回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	50%	0%	0%	0%	50%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
水準測量の理解	水準測量の原理を理解し、野帳を正確に記入することができ、他の人に説明することができた。	水準測量の原理を理解し、野帳を正確に記入することができ、2地点間の高低差を求めることができた。	水準測量の原理を理解し、野帳を正確に記入することができた。	水準測量の原理を理解し、野帳を記入することができた。	水準測量の原理を理解し、野帳を記入することができなかった。
角測量の理解	角測量の原理を理解し、セオドライトを用いて倍角法で水平角の測定ができ、他の人に説明することができた。	角測量の原理を理解し、セオドライトを用いて倍角法で水平角の測定ができた。	角測量の原理を理解し、セオドライトを用いた水平角と鉛直角の測定ができた。	角測量の原理を理解し、セオドライトを用いた水平角の測定ができた。	角測量の原理を理解し、セオドライトを用いた水平角の測定ができなかった。
距離測量の理解	距離測量における誤差の取り扱いについて理解し、誤差の補正を計算でき、他の人に説明できた。	距離測量における誤差の取り扱いについて理解し、誤差の補正を計算ができた。	距離測量について理解し、誤差の取り扱いについて理解できた。	距離測量について理解できなかった。	距離測量について理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	建築学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: BAS002005)				
授業担当者(所属・職名)	長森 正(建築学科・教授)	研究室等所在	アトリエ棟1階		
単位数	1 (単位認定責任者: 長森 正)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 <small>1級土木施工管理技士・測量士・コンクリート技士として建設会社に勤務。実務経験をもとに講義をします。</small>				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『配布資料』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 測量実習の概要説明	シラバスを確認する(45分)	ガイダンス及びシラバスの理解(45分)
2	角測量実習(1)機器説明・据付	資料の予習する(45分)	実習内容を確認し復習する(45分)
3	角測量実習(2)単角法	資料の予習する(45分)	実習内容を確認し復習する(45分)
4	角測量実習(3)倍角法	資料の予習する(45分)	実習内容を確認し復習する(45分)
5	トラバース測量(1)	資料の予習する(45分)	実習内容を確認し復習する(45分)
6	トラバース測量(2)	資料の予習する(45分)	実習内容を確認し復習する(45分)
7	トラバース測量(3)	資料の予習する(45分)	実習内容を確認し復習する(45分)
8	トラバース測量(4)トラバース計算	資料の予習する(45分)	実習内容を確認し復習する(45分)
9	水準測量(1)	資料の予習する(45分)	実習内容を確認し復習する(45分)
10	職業レディネステスト実施	資料の予習する(45分)	実習内容を確認し復習する(45分)
11	水準測量(2)	資料の予習する(45分)	実習内容を確認し復習する(45分)
12	水準測量(3)	資料の予習する(45分)	実習内容を確認し復習する(45分)
13	距離測量実習(1)	資料の予習する(45分)	実習内容を確認し復習する(45分)
14	距離測量実習(2)	資料の予習する(45分)	実習内容を確認し復習する(45分)
15	距離補正	資料の予習する(45分)	実習内容を確認し復習する(45分)
16	まとめ及び要点のフィードバック	総復習する(45分)	総復習及び配布資料の整理(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: BAS002005)				
授業担当者(所属・職名)	向井 正伸(建築学科・専任講師)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者: 向井 正伸)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	計画設計等の実務経験を活かし、課題解決法や様々な事例を紹介する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス シラバスの説明	シラバスを事前に把握する(45分)	紹介した書籍・建築事例等について調べる(45分)
2	課題1(空間を楽しむ) 説明・調査	対象を事前に調べる(45分)	エスキスを反映しまとめる(45分)
3	課題1(空間を楽しむ) 作業	課題の関連事項を調べる(45分)	エスキスを反映する(45分)
4	課題1(空間を楽しむ) 作業	課題の関連事項を調べる(45分)	プレゼンをまとめる(45分)
5	課題1(空間を楽しむ) 発表	プレゼンをまとめる(45分)	発表を自己評価すること(45分)
6	課題2(模型) 課題説明	対象を事前に調べる(45分)	課題の関連事項を調べる。(45分)
7	課題2(模型) 作業	課題の関連事項を調べる(45分)	エスキスを反映する(45分)
8	課題2(模型) 作業	課題の関連事項を調べる(45分)	作品を仕上げる(45分)
9	課題2(模型) 発表	プレゼンをまとめる(45分)	発表を自己評価する(45分)
10	職業レディネステスト実施	職業レディネステストについて調べる(45分)	職業レディネステストの感想を書く(45分)
11	課題3(設計提案) 説明・調査	対象を事前に調べる(45分)	講義内容を復習し紹介した書籍・建築事例等について調べる(45分)
12	課題3(設計提案) 作業	提案を事前に考える(45分)	エスキスを反映する(45分)
13	課題3(設計提案) 作業	提案を事前に考える(45分)	エスキスを反映する(45分)
14	課題3(設計提案) 作業	提案を事前に考える(45分)	エスキスを反映する(45分)
15	課題3 発表	プレゼンテーションをまとめる(45分)	発表を自己評価する(45分)
16	課題3 発表・まとめ	今までの授業を振り返る(45分)	学習を振り返り、自己評価を行う(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年（留学生対象）		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A （科目ナンバリング：BAS002005）				
授業担当者（所属・職名）	佐藤 恵利（国際交流センター・センター員）	研究室等所在	本部棟3階国際交流センター		
単位数	1（単位認定責任者：佐藤 恵利）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	基礎ゼミナール A・B		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等対応				

概要

履修目標

授業を通して日本事情、日本文化をより詳しく理解する。日本事情、日本文化を学びながら、「聞く・話す・読む・書く」の4技能の向上を目指し、より高度な日本語能力を身に付ける。

授業の位置づけ

経営学科のDP（1）（2）（4）に対応する。  
 社会福祉学科のDP（2）（3）（4）（5）に対応する。  
 デザイン学科のDP（2）（4）（5）に対応する。  
 建築学科のDP（2）（4）（5）に対応する。

到達目標

日本の習慣、文化、現代日本の問題をよりよく理解するとともに自身の日本語能力を向上させる。日本語での表現力を身に付け、自分の意見を正しい日本語で伝えることができる。他者の意見を聞き、そこから自分の意見を生み出し相手に伝えることができる。

授業全体の内容と概要

日本の時事問題や日本文化、日本の習慣などをトピックに挙げながら日本語の4技能を育成する。トピックを題材に、ディスカッションやグループワークなどの活動をし、自身の専門分野でも自分のことが十分に表現できる能力を身に付ける。日本文化や日本事情を通して「SDG3：すべての人に健康と福祉を」「SDG7：エネルギーをみんなにそしてクリーンに」「SDG10：人や国の不平等をなくそう」について考え、知識を深める。

授業の方法

教材は教師が用意する。教材は紙媒体だけでなく、プロジェクターやパソコン、レリアアなども使用する。学生は教師が提示するトピックを題材に、日本語能力の向上を目指す。授業内では決まった人々とのコミュニケーションに終わらず、様々なクラスメートとグループワークやディスカッションをし、自分を表現できる能力を養う。その成果をプレゼンテーションやレポートで表す。レポートはテーマ、内容、正確さ、長さ、表現力の5項目で評価する。「内容」の項目は特に重要で、自分の言葉でわかりやすく表現できているかを評価する。「正確さ」では文法や文字表記の誤りを提示するので、各自でフィードバックすること。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	PBL
	模範授業	○	ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

授業中は母語の使用は原則禁止とする。母語話者同士の会話もすべて日本語で行うこと。授業中は携帯電話や辞書の使用は原則禁止とする。わからないことがあったら教師に聞くこととする。平常点が評価に大きく影響する。授業中は真面目に取り組み、「日本語で表現できない」と思わずなんでもチャレンジすることが求められる。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

位認定に必要な最低出席回数は、13回である。出席、授業態度、レポート、プレゼンテーションで評価を行う。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	30%	30%	0%	40%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
日本語、日本文化、時事問題の知識・技能	日本の時事問題や文化、習慣に興味・関心を持ち、積極的に知識や技能を習得しようとしている。授業外でも日本のニュースなどに関心を持って終ってしまった。	日本の時事問題や文化、習慣に興味・関心を持ち、積極的に知識・技能を習得しようとしているが、授業内での関心だけで終わってしまった。	日本の時事問題や文化、習慣に興味・関心を持っているが、知識・技能を習得しようという姿勢があまり見られなかった。	日本の時事問題や文化、習慣に興味・関心をあまり持たない。授業内の活動には参加するが、知識・技能があまり見られなかった。	日本の時事問題や文化、習慣に興味・関心を持たず、知識・技能を習得しようという姿勢が見られない。授業内の活動にもあまり参加しなかった。
思考力、判断力、日本語での表現力	自身で考え、自分の言葉で表現できる。表現の内容が分かりやすく、文法の問題意識がほとんどない。声の大きさ、発音もよかった。	自身で考え、自分の言葉で表現できる。表現の内容が分かりやすいが、文法の問題意識が自立つ。声の大きさ、発音がよかった。	自身で考え、自分の言葉で表現できる。表現の内容が分かりやすいが、文法、発音に問題があり、聞き取りにくかった。	自身で考えているが、他者の協力がないと自分の言葉で表現することができない。文法、発音に問題があった。	他者任せで、自身で考え、自分の言葉で表現しようという姿勢が見られない。文法、発音に問題があった。
主体的に日本語学習に取り組む態度	毎回の授業に参加し授業に意欲的で、活動にも積極的に参加している。発言も多かった。	毎回の授業に参加し、授業に対する意欲的で真面目に取り組んでいる。積極性は弱かった。	最低出席日数分授業に参加しており、授業に対し真面目に取り組んでいるが、積極的に活動に参加していた。	最低出席日数分授業に参加しており、授業に対し真面目に取り組んでいるが、授業内の活動に対し消極的であった。	最低出席日数分授業に参加してあらず、授業態度も問題があった。



基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年(留学生対象)		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナル A (科目ナンバリング: BAS002005)				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 恵利(国際交流センター・センター員)	研究室等所在	本部棟3階国際交流センター		
単位数	1 (単位認定責任者: 佐藤 恵利)		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						必要に応じ適宜配布
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション(自己紹介・シラバス、授業の進め方についての説明など) プレズメントテスト・アンケート	シラバスを熟読し、本講義についてりかいしておくこと(45分)	講義内容の理解を深め、指定された課題を作成すること(45分)
2	ニュース・トピック: 日本文化(文学)	新聞やニュースに興味を持つとともに、自主的にレポート作成等をおこなうこと(45分)	講義内容の理解を深め、指定された課題を作成すること(45分)
3	ニュース・トピック: 時事問題(安全管理)	新聞やニュースに興味を持つとともに、自主的にレポート作成等をおこなうこと(45分)	講義内容の理解を深め、指定された課題を作成すること(45分)
4	ニュース・トピック: 日本文化(スポーツ)	新聞やニュースに興味を持つとともに、自主的にレポート作成等をおこなうこと(45分)	講義内容の理解を深め、指定された課題を作成すること(45分)
5	ニュース・トピック: 時事問題	新聞やニュースに興味を持つとともに、自主的にレポート作成等をおこなうこと(45分)	講義内容の理解を深め、指定された課題を作成すること(45分)
6	ニュース・トピック: 日本文化(日本語、オノマトペ)	新聞やニュースに興味を持つとともに、自主的にレポート作成等をおこなうこと(45分)	講義内容の理解を深め、指定された課題を作成すること(45分)
7	ニュース・トピック: 日本文化(キャラクター、ファッション)	新聞やニュースに興味を持つとともに、自主的にレポート作成等をおこなうこと(45分)	講義内容の理解を深め、指定された課題を作成すること(45分)
8	ニュース・トピック: 日本文化(日本の祭り)	新聞やニュースに興味を持つとともに、自主的にレポート作成等をおこなうこと(45分)	講義内容の理解を深め、指定された課題を作成すること(45分)
9	ニュース・トピック: 時事問題	新聞やニュースに興味を持つとともに、自主的にレポート作成等をおこなうこと(45分)	講義内容の理解を深め、指定された課題を作成すること(45分)
10	ニュース・トピック: 時事問題・日本文化(観光) 職業レディネステスト実施	新聞やニュースに興味を持つとともに、自主的にレポート作成等をおこなうこと(45分)	講義内容の理解を深め、指定された課題を作成すること(45分)
11	ニュース・トピック: 時事問題	新聞やニュースに興味を持つとともに、自主的にレポート作成等をおこなうこと(45分)	講義内容の理解を深め、指定された課題を作成すること(45分)
12	ニュース・トピック: 日本文化(食)	新聞やニュースに興味を持つとともに、自主的にレポート作成等をおこなうこと(45分)	講義内容の理解を深め、指定された課題を作成すること(45分)
13	プレゼンテーション レポートテーマ発表	プレゼンの準備をする。レポート制作に取り組む(45分)	課題作成に取り組むこと(45分)
14	プレゼンテーション	プレゼンの準備をする。レポート制作に取り組む(45分)	課題作成に取り組むこと(45分)
15	プレゼンテーション	プレゼンの準備をする。レポート制作に取り組む(45分)	発表を振り返り、各自においてプレゼンテーションの反省を行うこと(45分)
16	レポート提出 総括	レポートの再確認(45分)	講義全体を振り返り、理解をふかめること(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: BAS002005)				
授業担当者(所属・職名)	大島康雄(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	1 (単位認定責任者: 大島康雄)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	現場での実務経験から得た事例等を用いて福祉に対する理解を深めていく。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

福祉現場で使われることが多い技術などを学ぶ。  
フィールドワークや参加を体験を通して、福祉の現場を学ぶ。  
チームワーク力を涵養する。

授業の位置づけ

経営学科のDP(2)(4)(5)に対応する科目。  
社会福祉学科のDP(2)(4)(5)に対応する科目。  
デザイン学科のDP(2)(4)に対応する科目。  
建築学科のDP(2)(4)に対応する科目。

到達目標

福祉に関する専門用語を覚える。  
自分に適した暗記方法を身につける。  
協調性を身につける。

授業全体の内容と概要

福祉現場で使われることが多い技術などを学ぶ。  
フィールドワークや参加を体験を通して、福祉の現場を学ぶ。  
他者を尊重しながら自己主張できるようになる。  
「SDG3:すべての人に健康と福祉を」の関連授業

授業の方法

基本は、テーマに沿ったグループワークでの展開とする。グループで課題に取り組み、代表者が発表をする展開とする。  
一部、講義形式で授業を展開する。講義の際は随時質問をするので答える事。  
随時記録物を提出する。記録物はコメントを添え返却する。  
内容により、使用する資料を配布する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

30分以上の遅刻は欠席とする。  
出席を重視するので遅刻や欠席をする場合は事前に連絡をすること。授業を妨害したり他者の学ぶ権利を侵害する場合は、注意をする注意をする注意をするが、改善がない場合には単位を認定しない。  
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

10回以上の出席があること。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	50%	0%	50%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
福祉の仕事の場で用いられることが多い技術を使うことができる。	相談援助技術を適切に使用できる。	相談援助技術を使用できる。	相談援助技術を助言の中、使用することができる。	助言があれば一部できた。	助言があってもできなかった。
フィールドワーク、参加、体験を通じて、福祉現場を学ぶことができる。	フィールドワークなどに積極的に参加した。	フィールドワークなどに参加した。	フィールドワークなどを見学した。	見守りの中、フィールドワークなどを見学できた。	フィールドワークなどができなかった。
チームで目標を達成できる。	状況に応じてリーダーシップをとったら、他のメンバーへのサポートができた。	他のメンバーを尊重できた。	自分の役割を責任を持ち果たせた。	助言があればできた。	助言があってもできなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: BAS002005)				
授業担当者(所属・職名)	大島康雄(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	1 (単位認定責任者: 大島康雄)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 現場での実務経験から得た事例等を用いて福祉に対する理解を深めていく。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						※使用しない。
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						※使用しない。
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 福祉の現場で用いられることが多い相談援助技術	相談援助技術を調べる。(45分)	相談援助技術をロールプレイする。(45分)
2	福祉の現場で用いられることが多い相談援助技術	相談援助技術を調べる。(45分)	相談援助技術をロールプレイする。(45分)
3	福祉の現場で用いられることが多い相談援助技術	相談援助技術を調べる。(45分)	相談援助技術をロールプレイする。(45分)
4	福祉の現場で用いられることが多い相談援助技術	相談援助技術を調べる。(45分)	相談援助技術をロールプレイする。(45分)
5	福祉の現場で用いられることが多い相談援助技術	相談援助技術を調べる。(45分)	相談援助技術をロールプレイする。(45分)
6	福祉の現場で用いられることが多い相談援助技術	相談援助技術を調べる。(45分)	相談援助技術をロールプレイする。(45分)
7	中間まとめ	相談援助技術を調べる。(45分)	相談援助技術をロールプレイする。(45分)
8	福祉現場のフィールドワーク、参加、体験	福祉制度を調べ、社会資源の内容を整理する。(45分)	Word・Excelなどで学んだことをまとめる。(45分)
9	福祉現場のフィールドワーク、参加、体験	福祉制度を調べ、社会資源の内容を整理する。(45分)	Word・Excelなどで学んだことをまとめる。(45分)
10	「職業レディネステスト実施」	職業レディネステストの準備を行う。(45分)	職業レディネステストの振り返りを行う。(45分)
11	福祉現場のフィールドワーク、参加、体験	福祉制度を調べ、社会資源の内容を整理する。(45分)	Word・Excelなどで学んだことをまとめる。(45分)
12	福祉現場のフィールドワーク、参加、体験	福祉制度を調べ、社会資源の内容を整理する。(45分)	Word・Excelなどで学んだことをまとめる。(45分)
13	福祉現場のフィールドワーク、参加、体験	福祉制度を調べ、社会資源の内容を整理する。(45分)	Word・Excelなどで学んだことをまとめる。(45分)
14	福祉現場のフィールドワーク、参加、体験	福祉制度を調べ、社会資源の内容を整理する。(45分)	Word・Excelなどで学んだことをまとめる。(45分)
15	福祉現場のフィールドワーク、参加、体験	福祉制度を調べ、社会資源の内容を整理する。(45分)	Word・Excelなどで学んだことをまとめる。(45分)
16	まとめ	福祉制度を調べ、社会資源の内容を整理する。(45分)	Word・Excelなどで学んだことをまとめる。(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学年・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: BAS002005)				
授業担当者(所属・職名)	竹内 美帆(デザイン学科・専任講師)	研究室等所在	未定		
単位数	1 (単位認定責任者: 竹内 美帆)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

マンガ、アニメを中心としたポピュラーカルチャーに関するさまざまな現象、表現、歴史を考えるを通して、大学での学修に必要な基礎的な知識や表現技術・方法を実践的な演習によって学ぶ。

授業の位置づけ

経営学科のDPの(1)(2)(4)に対応する。  
 社会福祉学科のDPの(1)(2)(3)(4)に対応する。  
 デザイン学科のDPの(1)(2)(5)に対応する。  
 建築学科のDPの(1)(3)(5)に対応する。

到達目標

マンガ、アニメを中心としたポピュラーカルチャーに関する様々な事象、表現の特性、歴史などを考えるを通して、大学での学修に必要な基礎的な知識や表現技術・方法を実践的な演習によって学び、自身の大学における活動と連動させながら新たな視点を獲得する。

授業全体の内容と概要

マンガ、アニメを中心としたポピュラーカルチャーに関する講義やグループワーク、ディスカッションを行い、作品の読解の仕方、文献調査の方法や発表資料の作り方などを学ぶ。後半では、各自で自身の活動と関連する作品について調査分析を行い、発表・ディスカッションを行う。

授業の方法

授業ではパワーポイントや配布資料のほか、DVDなどの視聴覚メディアなどを用い、講義形式だけでなく、グループワークやディスカッション、プレゼンテーションなどを行う。  
 授業で使用する資料はTeams等の学習支援システムを活用して配布、回収するほか、学生の不明点・質問は、チャット形式などの支援システムで迅速に回答する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模範授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

自ら行う資料調査では、図書館などの機関を積極的に利用すること、個人発表では、自ら行った調査について短い時間でプレゼンテーションを行う。授業内でグループワークやディスカッションなどを行うので、積極的に参加すること。  
 授業の内容は、集まった参加者の興味・関心等に合わせ適宜変更する可能性がある。  
 不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	30%	30%	0%	40%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
授業内容の理解	授業で得た用語や概念の理解を通して、社会や文化に対する深い洞察力をもって自分独自のテーマを考察できた。	授業で得た用語や概念の理解を通して、自分独自のテーマを考察できた。	授業で得た用語や概念の理解を通して、授業で示された範囲のテーマを考察できた。	授業で得た用語や概念が理解できた。	授業内で使われた用語や概念の理解が不十分だった。
文献や資料の調査・活用	授業で取り上げた資料を越えて、独自性のある調査ができた。	授業で取り上げた資料を越えて、必要な調査ができた。	授業で取り上げた資料を理解し活用できた。	授業で取り上げた資料を理解できた。	授業で取り上げた資料の理解・活用が不十分だった。
表現力(プレゼンテーション能力とコミュニケーション能力)	授業で学んだことを超えて、自分の視点について他者に伝わりやすく述べ、他者と積極的にコミュニケーションをとることができた。	授業で学んだことを生かして、自分の視点について述べて、積極的にコミュニケーションをとることができた。	授業で学んだことを生かして、自分の意見を述べることができた。	促されれば自分の意見や考えを述べることができた。	授業内で自分の意見を述べられなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学年・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: BAS002005)				
授業担当者(所属・職名)	竹内 美帆(デザイン学科・専任講師)	研究室等所在	未定		
単位数	1 (単位認定責任者: 竹内 美帆)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『文学・芸術は何のためにあるのか?』	吉岡洋、岡田映生編	東信堂	2009	978-4-88713-894-0	
2	『マンガ産業論』	中野晴行	筑摩書房	2004	978-4480873460	
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 オリエンテーション 自己紹介など	シラバスを読んでおく(45分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(45分)
2	学内施設・システムの活用方法(1) 文献調査の方法	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく(45分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(45分)
3	資料を読む(1) 文献の読解	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく(45分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(45分)
4	資料を読む(2) 文献についての調査	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく(45分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(45分)
5	資料を読む(3) 文献についてのディスカッション	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく(45分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(45分)
6	読解の仕方、調査・発表資料のつくり方などを学ぶ(1) 作品分析: 近藤聡乃のマンガ作品を例に	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく(45分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(45分)
7	読解の仕方、調査・発表資料のつくり方などを学ぶ(2) 作品分析: 近藤聡乃のアニメーション作品を例に	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく(45分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(45分)
8	読解の仕方、調査・発表資料のつくり方などを学ぶ(3) プレゼンテーションの方法とレポートの書き方	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく(45分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(45分)
9	個人発表(1)	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく(45分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(45分)
10	職業レディネステスト実施	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく(45分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(45分)
11	個人発表(2)	個人発表の準備をする(45分)	個人発表の振り返りをする(45分)
12	個人発表(3)	個人発表の準備をする(45分)	個人発表の振り返りをする(45分)
13	個人発表(4)	個人発表の準備をする(45分)	個人発表の振り返りをする(45分)
14	個人発表(5)	レポート作成の準備をする(45分)	レポートを作成する(45分)
15	まとめ	これまでの授業を振り返り、疑問点等を挙げておく(45分)	授業内容を復習する(45分)
16	期末レポートの解説 フィードバック	これまでの授業を振り返り、疑問点等を挙げておく(45分)	授業内容を復習する(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: BAS002005)				
授業担当者(所属・職名)	千葉 聡美(社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者: 千葉 聡美)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校教育現場及び教育行政機関に勤務経験のある教員が、特別支援教育に必要な今日的課題等について指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

特別支援教育における個に応じた指導、配慮等の基盤となる内容である一般的な発達論等の知見をとおして、認知機能、遊びと対人関係等の定型発達、発達の遅れや偏り等の非定型発達について理解し、特別支援教育への関心を高める。

授業の位置づけ

経営学科のDP(2)と(4)に対応する。  
 社会福祉学科のDP(2)と(4)に対応する。  
 デザイン学科のDP(2)と(4)に対応する。  
 建築学科のDP(2)と(4)に対応する。

到達目標

ワロンの身体論について理解し、人間が身体を通じて外界を知っていく様相がわかる。

授業全体の内容と概要

ピアジェの発達論、ワロンの発達論を調べ、その論の違いを理解する。ワロンの身体論を基盤に、乳幼児の運動発達と情動の関係、肢体不自由児に残存しがちな原始反射や筋緊張の異常について関連を知る。人が身体を基盤に外界へと思考や関心を広げ、言語の世界に至る道筋を理解する。

授業の方法

各自の任意のテーマを選択し、計画、調査、探究、整理、資料作成等の一連の活動を行う。全体への報告資料作成(2回)、パワーポイント等の視覚メディアによる全体発表をとおして、情報を共有する。資料内容、発表内容等に対する振り返りや、自己評価を下にしたフィードバックを行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

障害のある子に対する教育的な対応、または特別支援教育に強い関心がある者とする。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	20%	50%	0%	20%	10%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ピアジェとワロンの発達論、身体と認知の関係性等の知識・理解	発達論、身体と認知の関係性等、十分に理解し、自ら深化させ発展的な探究活動ができた。	発達論、身体と認知の関係性等、十分に理解できた。	発達論、身体と認知の関係性等について理解できた。	発達論、身体と認知の関係性等について部分的には理解できた。	発達論、身体と認知の関係性等について、まったく理解できなかった。
テーマに基づく内容の整理、資料作成、報告、発表等による説明等の思考力、判断力、表現力の向上	内容を的確かつ発展的に整理し、理解しやすい報告、発表等をおして、思考力、判断力、表現力を十分に高めることができた。	内容を的確に整理し、理解しやすい報告、発表等をおして、思考力、判断力、表現力を高めることができた。	内容を整理し、報告、発表等をおして、思考力、判断力、表現力を高めることができた。	内容を整理し、報告、発表等をおして、部分的に思考力、判断力、表現力を高めることができた。	内容を整理できず、報告、発表等をする事がなかったため、思考力、判断力、表現力を高めることができなかった。
授業への参加意欲や学修に向かう姿勢・態度	授業には意欲的に参加し、グループワークや報告会等についても、常に自ら積極的に取り組むことができた。	授業には意欲的に参加し、グループワークや報告会等についても、部分的に積極的に取り組むことができた。	授業に関心をもって参加し、グループワークや報告会等にも関心をもって取り組むことができた。	授業に対して部分的に積極的に取り組み、グループワークや報告会等にもある程度関心をもって取り組むことができた。	授業に対して消極的であり、グループワークや報告会等にも積極的に取り組むことができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: BAS002005)				
授業担当者(所属・職名)	千葉 聡美(社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者: 千葉 聡美)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校教育現場及び教育行政機関に勤務経験のある教員が、特別支援教育に必要な今日的課題等について指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『ピアジェとワロン』	浜田寿美男	ミネルヴァ書房			
2	『子どもの生活世界のはじまり』	浜田寿美男/山口俊郎	ミネルヴァ書房			
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション(取組の概要、シラバスの説明等)一般的な発達論の考え方等について	シラバスを読む(4.5分)	説明内容を整理する(4.5分)
2	発達論の現在、ピアジェについて、今後の進め方、テーマの概要等のガイダンス	ピアジェの発達論の概要を調べる(4.5分)	発達について確かめる(4.5分)
3	ピアジェの発達論について概要の確認 活動計画、役割分担等、情報収集内容の確認	ピアジェの発達論について調べる(4.5分)	発達論を確かめる(4.5分)
4	ピアジェの発達論に関する情報収集と整理 収集した情報の確認	ピアジェの発達論について調べる(4.5分)	内容を整理する(4.5分)
5	ピアジェの発達論に関する情報収集と整理 収集した情報の確認	ピアジェの発達論について調べる(4.5分)	内容を整理する(4.5分)
6	ピアジェの発達論に関する情報収集と整理 発表資料の作成	ピアジェの発達論について調べる(4.5分)	内容を整理する(4.5分)
7	ピアジェの発達論に関する情報収集と整理 発表資料の作成と確認	ピアジェの発達論について調べる(4.5分)	内容を整理する(4.5分)
8	ピアジェの発達論に関する全体発表 全体発表の振り返り、振り返り内容の確認 ピアジェの発達論のまとめ	作成資料、発表について確認する(4.5分)	発表を振り返る(4.5分)
9	全体発表の振り返り内容の確認 ワロンについて基本情報ガイダンス	振り返り内容を確認する(4.5分)	内容を整理する(4.5分)
10	ワロンの身体論の概要 活動計画、役割分担等、情報収集内容の確認 職業レディネステスト実施	ワロンの身体論の概要について調べる(4.5分)	ピアジェの発達論との差異について整理する(4.5分)
11	ワロンの身体論に関する情報収集内容の概要 概要の確認	ワロンの身体論について調べる(4.5分)	ピアジェの発達論との差異について整理する(4.5分)
12	ワロンの身体論に関する情報収集と整理 情報の収集内容の確認	ワロンの身体論について調べる(4.5分)	内容を整理する(4.5分)
13	ワロンの身体論に関する情報収集と整理 発表資料の作成	ワロンの身体論について調べる(4.5分)	内容を整理する(4.5分)
14	ワロンの身体論に関する情報収集と整理 発表資料の作成と確認	作成資料、発表について確認する(4.5分)	内容を整理する(4.5分)
15	ワロンの身体論に関する全体発表 全体発表の振り返り、振り返り内容の確認 ワロンの身体論のまとめ	作成資料について考える(4.5分)	内容を整理する(4.5分)
16	ワロンの身体論と肢体不自由児の状態についてディスカッション	これまでの授業を振り返り考察する(4.5分)	全内容を振り返る(4.5分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: BAS002005)				
授業担当者(所属・職名)	山本 一彦(経営学科・特任教授)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	1 (単位認定責任者: 山本 一彦)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標
------

基礎ゼミナール A・Bを土台とし、ライフコースが多様化した現代社会でのキャリア形成に向けて「働くこと」や「職業活動」の意義を考察し、理解を目指す。

授業の位置づけ

経営学科のDP(2)(4)(5)に対応する。  
 社会福祉学科のDP(2)(4)(5)に対応する。  
 デザイン学科のDP(2)(4)に対応する。  
 建築学科のDP(2)(4)に対応する。

到達目標

ライフコースの多様化、労働および職業について単に知識を習得するだけでなく、自らの問題として考える姿勢をもつ。

授業全体の内容と概要

まず、受講者がどのようなキャリア形成.....働くこと、仕事、職業、活動分野.....を目指すのか意識することを促し、現代社会の中での可能性を考察する。  
 「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業は対話形式と板書筆記を併用して行ない、必要な場合には資料を配布する。テーマによっては小文を提出してもらい、概要を発表する。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	○	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習		反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	○	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

さまざまなテーマについて自らが考える「主体的・能動的」な姿勢での参加が必要である。  
 ・不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な出席回数は13回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	20%	0%	0%	80%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識	学修した知識を確実に修得し、求められるレベルを大きく超えた。	学修した知識を確実に修得した。	学修した知識をほぼ修得した。	学修した知識を修得したが、最低限容認できるレベルにとどまった。	学修した知識を修得できなかった。
思考力・判断力等	ゼミナールテーマに積極的に取り組み、求められるレベルを大きく超えて考察できていた。	ゼミナールテーマに積極的に取り組み、求められるレベルで考察できていた。	ゼミナールテーマに取り組み、広く一般的水準の考察に達していた。	ゼミナールテーマに取り組み、考察が最低限の水準にとどまっていた。	ゼミナールテーマへの取り組みが不十分で、内容が理解できていなかった。
テーマへの分析力・主体性	ゼミナールテーマについて、現代社会の中の自己の問題として十分に主体的分析ができていた。	左記事項について、主体的分析が概ねできていた。	左記事項について、広く一般的水準の分析には達していた。	左記事項の分析が最低限の水準にとどまっていた。	分析が最低限の水準に届かず、ゼミナールテーマが理解できていなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: BAS002005)				
授業担当者(所属・職名)	山本 一彦(経営学科・特任教授)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	1 (単位認定責任者: 山本 一彦)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	科目ガイダンス ゼミ内容等シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスの事前確認(45分)	ガイダンス内容および履修登録結果確認(45分)
2	現代社会の「労働」 1. 「労働」観の移り変わり	「働くこと」に対する自分の価値観の意識化(45分)	ゼミ内容の復習(45分)
3	. 1. (続き)	前回のゼミ内容の確認(45分)	ゼミ内容の復習(45分)
4	. 1. (続き)	前回のゼミ内容の確認(45分)	ゼミ内容の復習(45分)
5	. 2. 現代の「労働」の特質	前回のゼミ内容の確認(45分)	ゼミ内容の復習(45分)
6	. 2. (続き)	前回のゼミ内容の確認(45分)	ゼミ内容の復習(45分)
7	. 2. (続き)	前回のゼミ内容の確認(45分)	ゼミ内容の復習(45分)
8	現代社会の「職業」 1. 「職業」活動の意味	「職業」とはどのような活動であるかの意識化(45分)	ゼミ内容の復習(45分)
9	. 1. (続き)	前回のゼミ内容の確認(45分)	ゼミ内容の復習(45分)
10	職業レディネステスト実施	レディネステストの意義確認(45分)	レディネステストの振り返り(45分)
11	. 1. (続き)	前回のゼミ内容の確認(45分)	ゼミ内容の復習(45分)
12	. 2. 「職業」の選択に向けて	前回のゼミ内容の確認(45分)	ゼミ内容の復習(45分)
13	. 2. (続き)	前回のゼミ内容の確認(45分)	ゼミ内容の復習(45分)
14	. 2. (続き)	前回のゼミ内容の確認(45分)	ゼミ内容の復習(45分)
15	前期学生生活の振り返り 授業改善アンケートの実施	前期のすべての活動の振り返り(45分)	振り返り内容の再確認(45分)
16	総括・振り返り	15回分の内容の振り返り(45分)	総括の再確認(45分)

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A (科目ナンバリング: BAS002005)				
授業担当者(所属・職名)	薦田 勇智(経営学科・専任講師)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 薦田 勇智)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー					

概要

履修目標
グループワークを基本とした様々な演習課題や事例研究、学内外のプロジェクト活動を通して「前に踏み出す力」(主体性・働きかけ力・実行力)・「考え抜く力」(課題発見力・計画力・創造力)・「チームで働く力」(発信力・傾聴力・柔軟性・状況把握力・規律性・ストレスコントロール力)を修得する。

授業の位置づけ
・経営学科のDP(3)(4)(5)に対応する。 ・社会福祉学科のDP(3)(4)(5)に対応する。 ・デザイン学科のDP(3)(4)(5)に対応する。 ・建築学科のDP(3)(4)(5)に対応する。

到達目標
・失敗を恐れず、自分にとって困難な場面においても打開することを諦めず、最後まで前向きに取り組むことができる。 ・物事を多角的に分析し、発見した課題に対してどのように解決するかを考え抜くことができる。 ・グループの一員であることの自覚を踏まえ、多様な価値観を持つ人たちの意見を拒絶せず、柔軟な視点で物事を把握、適切な意見の発信を行うことで、グループメンバーとの良好な関係性を構築できる。

授業全体の内容と概要
グループワークを基本とし、様々な演習課題や事例研究、学内外のプロジェクト活動を通して「チームで働く意義」「チームで働く難しさ」「円滑なコミュニケーションの重要性」について体感してもらう。グループワークの成果物として「レポート」・「プレゼンテーション」・「デザイン制作物(ポスター・チラシ・Webサイトデザイン・ムービー)」などのいずれかを、グループ単位で制作・発表する。 本科目は、以下のSDGs関連授業である。 ・「SDGs 8.働きがいも経済成長も」 ・「SDGs 9.産業と技術革新の基盤をつくろう」 ・「SDGs 16.平和と公正をすべての人に」 ・「SDGs 17.パートナーシップで目標を達成しよう」 その他、プロジェクト活動のテーマによって、追加されることがある。

授業の方法
グループで取り組む演習課題や事例研究、学内外のプロジェクト活動開始時点では、その目的や最終目標、背景などについて資料等を提示しながら説明する。その後は、各グループでディスカッション等を行いながら、企画・計画の立案、目標設定、予算作成、調査、制作、発表、自己評価、改善、発表といったPDCAサイクルを軸とする一連の工程を行う。都度アドバイスやフィードバックを行い、各グループが円滑に進むようサポートする。 ゼミナール活動において円滑なコミュニケーションを図れるよう、次の学修支援を実施する。 ・授業時間外において質問及び相談があれば、Teamsチャットまたは音声通話にて受け付ける。 ・提示した教材は、全てTeamsにて公開・配信する。 ・グループワークにおいて、適切かつ円滑なコミュニケーションが図れるよう、適宜介入しサポートする。 ・本科目内で最低1回は個人面談を行い、取り組み状況について確認する。

アクティブラーニングの実施方法												
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL									
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業									
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)									

履修上の注意事項
・所属学科の制限は設けない。 ・課題制作(デザイン制作)を行う場合は、全学科対応できるよう考慮した内容とする。 ・評価については、チームでの取り組みの姿勢や態度を重視する。 ・取り組んだ結果、「失敗した」としても減点しない。あくまでも、取り組みの「プロセス(過程)」を評価対象とするので、失敗を恐れず積極的に挑戦すること。 ・不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件												
・単位認定に必要な最低出席回数は、12回以上とする。 ・遅刻及び早退は20分までを限度とし、それ以上の場合は欠席とみなす。												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>30%</td> <td>0%</td> <td>70%</td> <td>0%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	0%	30%	0%	70%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	0%	30%	0%	70%	0%							

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
前に踏み出す力	一定の行動について、主体的に取り組み、周囲に働きかけて巻き込むことができた。	一定の行動について、主体的に取り組み、周囲に働きかけて巻き込むことができた。	一定の行動について、主体的に取り組み、少ないながらも周囲に働きかけて巻き込むことができた。	一定の行動について主体的に取り組みることができた。	ほぼ全ての行動について主体的に取り組むことができなかった。
考え抜く力	課題を発見し、見出した解決策の実行に向けた具体的なプロセスを考えることができた。	課題を発見し、見出した解決策の実行に向けた具体的なプロセスを考えることができた。	課題を発見し、解決策を見出すことができた。	課題を発見することができた。	課題を発見することができなかった。
チームで働く力	他の学生の意見をしっかりと傾聴でき、お互いの立場や考え方を尊重して意見集約ができ、反対意見に対しても柔軟に対応することができた。	他の学生の意見をしっかりと傾聴でき、お互いの立場や考え方を尊重して意見集約することができた。	他の学生の意見をしっかりと傾聴することができた。	他の学生の意見を最低限傾聴することができた。	他の学生の意見を傾聴することができなかった。
成果物の完成度と関与(学意欲)	成果物(レポート・プレゼンテーション・デザイン制作)を、チームの一員として十分に関与し、主体的に行動し、完成させることができた。	成果物(レポート・プレゼンテーション・デザイン制作)を、チームの一員として十分に関与し、完成させることができた。	成果物(レポート・プレゼンテーション・デザイン制作)を、チームの一員としてある程度関与し、完成させることができた。	成果物(レポート・プレゼンテーション・デザイン制作)を、チームの一員として関与し、完成させることができた。	成果物(レポート・プレゼンテーション・デザイン制作)を、チームの一員として関与せず、完成させることができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナル A (科目ナンバリング: BAS002005)				
授業担当者(所属・職名)	薦田 勇智(経営学科・専任講師)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 薦田 勇智)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	【オリエンテーション】 シラバスの説明等	シラバスを確認する(45分)	履修登録結果を確認する(45分)
2	【ビギナーズセミナー】 1年間の単位修得状況や学修成績から、今後の学修への取り組み方について説明する。	学生便覧を読む(45分)	不明な点をまとめ、調べる(45分)
3	【ビギナーズセミナー】 1年間の単位修得状況や学修成績から、今後の学修への取り組み方について説明する。	学生便覧を読む(45分)	不明な点をまとめ、調べる(45分)
4	【学内プロジェクト活動】 学内においてプロジェクト活動を行う。	前回までの授業内容を確認する(45分)	ここまでの授業内容を整理する(45分)
5	【学内プロジェクト活動】 学内においてプロジェクト活動を行う。	前回までの授業内容を確認する(45分)	ここまでの授業内容を整理する(45分)
6	【学内プロジェクト活動(成果発表会)】 提示された内容について、グループごとに取り組み、プレゼンテーションを行う。	前回までの授業内容を確認する(45分)	フィードバックの内容を整理する(45分)
7	【プロジェクト活動】 学内外においてプロジェクト活動を行う。	前回までの授業内容を確認する(45分)	ここまでの授業内容を整理する(45分)
8	【プロジェクト活動】 学内外においてプロジェクト活動を行う。	前回までの授業内容を確認する(45分)	ここまでの授業内容を整理する(45分)
9	【プロジェクト活動】 学内外においてプロジェクト活動を行う。	前回までの授業内容を確認する(45分)	ここまでの授業内容を整理する(45分)
10	職業レディネス・テスト	前回までの授業内容を確認する(45分)	ここまでの授業内容を整理する(45分)
11	【プロジェクト活動】 学内外においてプロジェクト活動を行う。	前回までの授業内容を確認する(45分)	ここまでの授業内容を整理する(45分)
12	【プロジェクト活動】 学内外においてプロジェクト活動を行う。	前回までの授業内容を確認する(45分)	ここまでの授業内容を整理する(45分)
13	【プロジェクト活動】 学内外においてプロジェクト活動を行う。	前回までの授業内容を確認する(45分)	ここまでの授業内容を整理する(45分)
14	【プロジェクト活動】 学内外においてプロジェクト活動を行う。	前回までの授業内容を確認する(45分)	ここまでの授業内容を整理する(45分)
15	【プロジェクト活動】 学内外においてプロジェクト活動を行う。	前回までの授業内容を確認する(45分)	ここまでの授業内容を整理する(45分)
16	【まとめ・総評】	前回までの授業内容を確認する(45分)	フィードバックの内容を整理する(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・3年（再履修）		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A（再）（科目ナンバリング：BAS002005）				
授業担当者（所属・職名）	河田 一郎（経営学科・特任教授）	研究室等所在	2号館8階		
単位数	1（単位認定責任者：河田 一郎）	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー					

概要

履修目標

各自の興味のあるものをテーマに選び、自由に発想を展開し、レポートにまとめる。就職活動を見据え、常に社会に目を向ける習慣を身につける。

授業の位置づけ

経営学科のDP(2)(4)(5)に対応する。  
 社会福祉学科のDP(2)(4)(5)に対応する。  
 デザイン学科のDP(2)(4)(5)に対応する。  
 建築学科のDP(2)(4)(5)に対応する。

到達目標

社会のさまざまな出来事に対して、自分なりの意見を述べるができる。

授業全体の内容と概要

就職面談を想定し、話題のニュースについて、ディスカッションを行う。各自のテーマが決まった時点で、少しずつテーマについて調べ、ゼミ終了時にレポートを提出してもらう。「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業では各自のテーマにかかわる資料を配布し、板書をしながら講義形式で行う。また、適宜確認テストを実施し、フィードバックとして解説を丁寧に行う。

アクティブラーニングの実施方法

<input type="radio"/>	プレゼンテーション	<input type="radio"/>	グループワーク	<input type="radio"/>	フィールドワーク	<input type="radio"/>	PBL
<input type="radio"/>	模範授業	<input type="radio"/>	ロールプレイ	<input type="radio"/>	調査学習	<input type="radio"/>	反転授業
<input type="radio"/>	ディスカッション	<input type="radio"/>	実験・実習・実技	<input type="radio"/>	双方向授業	<input type="radio"/>	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

基礎ゼミナールIA再履修者。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な出席回数は、13回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	20%	0%	0%	80%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	学修した知識・技能を確実に修得し、求められるレベルを大きく超えた。	学修した知識・技能を確実に修得した。	学修した知識・技能をほぼ修得した。	学修した知識・技能を修得したが、最低限確認できるレベルにとどまった。	学修した知識を修得できなかった。
思考力・判断力・表現力	与えられた課題に積極的に取り組み、求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組み、求められるレベルを達成した。	与えられた課題に取り組み、求められるレベルをほぼ達成した。	与えられた課題に取り組み、最低限確認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組みなかった。
主体性・多様性・協働性	与えられた課題に積極的に取り組んだ。理解力やプレゼンテーション能力は求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組んだ。理解力やプレゼンテーション能力は求められるレベルを達成した。	与えられた課題に取り組んだ。理解力やプレゼンテーション能力は求められるレベルをほぼ達成した。	与えられた課題に取り組んだが、最低限確認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組みなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・3年（再履修）		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ゼミナール A（再）（科目ナンバリング：BAS002005）				
授業担当者（所属・職名）	河田 一郎（経営学科・特任教授）	研究室等所在	2号館8階		
単位数	1（単位認定責任者：河田 一郎）	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	【ガイダンス】 授業の進め方・シラバスの説明。授業改善アンケート結果反映の説明。	シラバスの内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
2	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（レベルチェック6級）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
3	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（レベルチェック5級）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
4	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（レベルチェック4級）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
5	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（レベルチェック3級）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
6	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（レベルチェック準2級）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
7	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（レベルチェック2級）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
8	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（レベルチェック1級）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
9	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（レベルチェック1級）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
10	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（各自に合わせたレベルの問題）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
11	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（各自に合わせたレベルの問題）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
12	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（各自に合わせたレベルの問題）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
13	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（各自に合わせたレベルの問題）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
14	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（各自に合わせたレベルの問題）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
15	その週の気になったニュースについて発表を行う。漢字検定受験準備（各自に合わせたレベルの問題）。各自のテーマについて調べたことを発表する。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）
16	レポートの内容についてのプレゼンテーションを行う。授業改善アンケートの実施。	前回の授業内容を確認すること。（45分）	授業の内容を復習しておくこと。（45分）

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	基礎デザイン (科目ナンバリング: DES211016)				
授業担当者(所属・職名)	林 春生(デザイン学科・教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 林 春生)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	企業でデザイン実務40年間の実績を活かした基礎デザイン講義です。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

デザイナーになる為に必要な基礎デザインの技術を習得する。頭の中に形を形成出来るようにして、そのイメージを第三者へ伝達、表現出来るようにする。また、自己レベル認識を持てるようにする。

授業の位置づけ

デザイン学科のD P (1) (3) (5) に対応する。

到達目標

モノの形を正確に認識出来、脳内に形を形成出来るようにして、自分のイメージや意図を第三者に伝えられる事ができる。

授業全体の内容と概要

学生の脳内に形が形成出来るように、色々な製品の鉛筆スケッチを行う。既製品をモチーフにスケッチするが、後半は自分の想像(脳内のイメージ)スケッチを行う。完成した作品は自分の意図したポイントを発表して第三者と意見交流をする。SDG 12, つくる責任、つかう責任に準じる。

授業の方法

身の回りにある製品やイメージしたものを鉛筆を使ってデザインスケッチする。自分の作品の意図したところをプレゼンテーションして第三者の意見を考察する。課題に対するフィードバックを得る。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

授業は積み重ねの学習となる為、欠席しないようにすること。三菱鉛筆のハイユニのA4-B4を使って、A3ケント紙に鉛筆スケッチする。A3サイズの課題を持ち帰る為にカルトンが必要。鉛筆と消しゴム、カルトンを用意してください。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(美術・工芸)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は10回以上  
課題提出は全点必ず。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	80%	0%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
形を正確に捉え、頭の中に形成出来る。それを紙に表現する事を学ぶ。	モノの形を正確に捉えられ、完全に頭の中に描くことができる。それを絵として完璧に表現できる。	モノの形を正確に捉えられ、完全に頭の中に描くことができる。それを絵として上手に表現できる。	モノの形を正確に捉えられ、頭の中に描くことができる。	モノの形を捉えられ、頭の中に描くことができる。それを絵として辛うじて表現できる。	モノの形を捉えられない。頭の中に描くことが出来ない。それを絵として表現出来ない。
材質を正確に捉え、頭の中に形成出来る。それを紙に表現する事を学ぶ。	材質感を正確に捉えられ、完全に頭の中に描くことができる。それを絵として完璧に表現できる。	材質感を正確に捉えられ、完全に頭の中に描くことができる。それを絵として上手に表現できる。	材質感を正確に捉えられ、頭の中に描くことができる。	材質感を捉えられ、頭の中に描くことができる。それを絵として辛うじて表現できる。	材質感を捉えられない。頭の中に描くことが出来ない。それを絵として表現出来ない。
架空のモノを頭の中に塗り上げ、手を通して紙に表現する事を学ぶ。	想像物を正確に捉えられ、完全に頭の中に描くことができる。それを絵として完璧に表現できる。	想像物を正確に捉えられ、完全に頭の中に描くことができる。それを絵として上手に表現できる。	想像物を正確に捉えられ、頭の中に描くことができる。	想像物を捉えられ、頭の中に描くことができる。それを絵として辛うじて表現できる。	想像物を捉えられない。頭の中に描くことが出来ない。それを絵として表現出来ない。



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	基礎デザイン (科目ナンバリング: DES211016)				
授業担当者(所属・職名)	林 春生(デザイン学科・教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 林 春生)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	企業でデザイン実務40年間の実績を活かした基礎デザイン講義です。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明、デザインとは？ 授業改善アンケート結果反映の説明 基本形1 鉛筆デザインスケッチ	シラバスを読んでおく。(90分)	要求された課題を作成する。(90分)
2	基本形1 鉛筆デザインスケッチ	要求された課題を作成する。(90分)	要求された課題を作成する。(90分)
3	想像形1 鉛筆デザインスケッチ	要求された課題を作成する。(90分)	要求された課題を作成する。(90分)
4	想像形1 鉛筆デザインスケッチ	要求された課題を作成する。(90分)	要求された課題を作成する。(90分)
5	基本形2 鉛筆デザインスケッチ	要求された課題を作成する。(90分)	要求された課題を作成する。(90分)
6	基本形2 鉛筆デザインスケッチ	要求された課題を作成する。(90分)	要求された課題を作成する。(90分)
7	想像形2 鉛筆デザインスケッチ	要求された課題を作成する。(90分)	要求された課題を作成する。(90分)
8	想像形2 鉛筆デザインスケッチプレゼンテーション	要求された課題を作成する。(90分)	要求された課題を作成する。(90分)
9	基本形3 鉛筆デザインスケッチ	要求された課題を作成する。(90分)	要求された課題を作成する。(90分)
10	基本形3 鉛筆デザインスケッチ、想像形3 鉛筆デザインスケッチ	要求された課題を作成する。(90分)	要求された課題を作成する。(90分)
11	想像形3 鉛筆デザインスケッチ、プレゼンテーション	要求された課題を作成する。(90分)	要求された課題を作成する。(90分)
12	基本形4 鉛筆デザインスケッチ	要求された課題を作成する。(90分)	要求された課題を作成する。(90分)
13	基本形4 鉛筆デザインスケッチ、想像形4 鉛筆デザインスケッチ	要求された課題を作成する。(90分)	要求された課題を作成する。(90分)
14	想像形4 鉛筆デザインスケッチ	要求された課題を作成する。(90分)	要求された課題を作成する。(90分)
15	想像形4 鉛筆デザインスケッチ、プレゼンテーション	要求された課題を作成する。(90分)	要求された課題を作成する。(90分)
16	デザイン概念 総評 授業改善アンケート	要求された課題を作成する。(90分)	全授業を俯瞰して、今後の行動計画を建てる。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	建築士のための基礎数 (科目ナンバリング: MAT321044)				
授業担当者(所属・職名)	横山 哲也(建築学科・准教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 横山 哲也)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

学生が建築士受験に必要な数学の基礎知識をしっかりと身につける。

授業の位置づけ

建築学科のDP(2)に対応する。

到達目標

建築士試験に必要な数学の基礎知識である計算力、単位、方程式、三角関数、因数分解及び図形を修得する。さらに、それらのことを通して、数学において重要なものは答えだけではなく、思考過程であることも理解し、習慣づけることができる。

授業全体の内容と概要

数の計算から始まり、負の数・平方・立方・分数・小数・単位・方程式・連立方程式・比例式・三角関数・展開公式・因数分解・指数・図形の辺の長さ及び面積などを練習問題を計算する及び学生にプレゼンテーションさせることによって、数学の問題を深く実感をつかむ。「SDG9.産業と技術革新の基盤をつくろう」の関連科目。

授業の方法

授業は、板書及び配布資料で実施し、板書及び資料にて説明した後、課題演習を行う。課題及び演習の解答は時間内に行うようにし、学生にプレゼンテーションも行わせる。

アクティブラーニングの実施方法

<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL
<input type="checkbox"/>	模擬授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業
<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

講義内容を十分に理解するための予習・復習を怠らず、講義や演習に対して積極的に取り組むこと。  
授業時間の半分以上の遅刻は欠席とみなします。  
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、大学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

11回以上の出席、レポート課題の提出と定期試験の結果を総合し絶対評価及び相対評価を併用して判定する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70%	0%	20%	0%	10%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
基礎知識の修得	計算力、単位、方程式、三角関数、因数分解及び図形の基礎知識及び計算過程(思考過程)が100%理解できた。	計算力、単位、方程式、三角関数、因数分解及び図形の基礎知識及び計算過程(思考過程)が90%以上理解できた。	計算力、単位、方程式、三角関数、因数分解及び図形の基礎知識及び計算過程(思考過程)が80%以上理解できた。	計算力、単位、方程式、三角関数、因数分解及び図形の基礎知識及び計算過程(思考過程)が70%以上理解できた。	計算力、単位、方程式、三角関数、因数分解及び図形の基礎知識及び計算過程(思考過程)が70%も理解できなかった。
計算過程(思考過程の説明)の習慣化	演習問題は計算過程を100%記述したレポートになった。	演習問題は計算過程を90%記述したレポートになった。	演習問題は計算過程を80%記述したレポートになった。	演習問題は計算過程を70%記述したレポートになった。	演習問題は計算過程を70%も記述したレポートにならなかった。
思考過程能力の向上	プレゼンテーションを通して、筋道の立った思考過程が明確に出来た。また、質問にも正確に対応した。	プレゼンテーションを通して、筋道の立った思考過程が明確に出来た。	プレゼンテーションを通して、筋道の立った思考過程が出来た。	プレゼンテーションを通して、一部筋道の立った思考過程が出来た。	プレゼンテーションを通して、筋道の立った思考過程が出来なかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	建築士のための基礎数 (科目ナンバリング: MAT321044)				
授業担当者(所属・職名)	横山 哲也(建築学科・准教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 横山 哲也)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『適時資料配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス、シラバスの説明及び授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読んでおくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
2	四則計算	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
3	負の数の計算	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
4	平方・立法	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
5	分数計算	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
6	小数計算	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
7	単位	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
8	方程式	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
9	連立方程式	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
10	比例式	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
11	三角関数	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
12	展開公式・因数分解	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
13	指数	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
14	図形の辺の長さや面積	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
15	まとめ及び授業改善アンケートの実施	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
16	60分の試験終了後、残りの30分で解説を行います。	全内容の再確認及び理解を行う。(90分)	総理解(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	商法 (科目ナンバリング: LAW412009, LAW512006 2023年度以降LAW422009)				
授業担当者(所属・職名)	青山 浩之(経営学科・教授)	研究室等所在	1号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者: 青山 浩之)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

企業を巡る法律関係を規定する商法および手形法・小切手法、その関連法規について、基本となる知識を修得することを目的とする。法的な問題が生じたとき、迅速かつ的確に対応できるよう、条文を理解し、適用・解釈できるようになる。

授業の位置づけ

経営学科のDP(1)(2)(3)に対応する。

到達目標

企業を巡る法律関係を規定する商法および手形法・小切手法、その関連法規について、基本となる知識を修得することを目的とする。法律の基本知識を修得することにより、条文を理解し、適用・解釈できるようになる。

授業全体の内容と概要

商法および手形法・小切手法、その関連法規について、基本となる知識を修得することを目的とし、条文を理解し、適用・解釈できるようになることを目標とし、さらに法的な問題が生じたとき、迅速かつ的確に対応できる人材の育成することを目的とする。商法は、法律の全体像をつかむことに主眼に、企業法といわれる商法・会社法の基本的な説明を行い、具体的には、商法総則・商行為・手形法・小切手法などの分野を解説する。  
「SDG 10.人や国の不平等をなくそう」の関連科目。

授業の方法

授業は、資料をパワーポイントで投影し、資料(第3回から第15回の計13回)を配布して実施する。授業の進行は、前回の復習から始まり、本日の講義の内容を講義形式で解説を行う。  
確認テストは、講義の理解を深めるために5回(前年実績)実施する。ビデオ視聴は、課題解決力を養うために2回(前年実績なし)(受講人数・使用教室などによっては実施しない)実施する。課題は、講義の理解を深めるために1回(前年実績)実施する。 についてのフィードバックは、講義内で解説を行う。  
補講が必要な場合は実施する(欠かすなどの学生に対しては補講を実施する)。  
確認テストなどはプリント配布で実施のほか、Microsoft Formsの小テストから学生全体の理解度を把握し、指導する。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

- ・私語などの迷惑行為は厳禁。
- ・講義中スマホの操作は厳禁、マナーモードで受講してください。
- ・六法を持参することを推奨。
- ・確認テストやビデオ視聴を実施するので遅刻は慎むこと。開始後、プリント配布はしません。
- ・不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。  
・参考資料の配布方法や事前提供などについて配慮する。  
・講義中の録音・録画・撮影などについて配慮する。

資格指定科目

教職課程(商業)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上  
課題の提出等の定期試験以外の割合が単位認定基準の4割を占めるので、12回以上の出席を推奨。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	0%	10%	0%	30%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
法律の条文を読み取り、理解できる	法律の条文を読み取り、理解でき、さらに自分の意見を述べた	法律の条文を読み取り、理解でき、自分なりの説明できた	法律の条文を読み取り、理解できた	法律の条文を読み取れた	法律の条文を読み取れなかった
事例を理解し、法律の条文を適用できる	事例を理解し、法律の条文を適用し、さらに自分の意見を述べた	事例を理解し、法律の条文を適用し、自分なりの説明できた	事例を理解し、法律の条文を適用できた	事例を理解し、法律の条文を理解できた	事例を読み取れず、法律の条文を理解できなかった
課題に対し、問題解決ができる	解答が的確で、過不足なく網羅して答えられた	解答は答えているが、一部に解答と関係ないことを答えた	解答が一通り答えているが、改善すべき点があった	解答を部分的には答えているが、的確ではなかった	解答が論点にズレがあり、テーマに対して十分ではなかった

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	商法 (科目ナンバリング: LAW412009, LAW512006, 2023年度以降LAW422009)				
授業担当者(所属・職名)	青山 浩之(経営学科・教授)	研究室等所在	1号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者: 青山 浩之)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『商法 第2版(ファーストトラックシリーズ4)』	伊藤真	弘文堂	2018年	9784335314599	
2	『ポケット六法 令和5年版』	佐伯 仁志、大村 敦志 / 編集代表	有斐閣	2021年	9784641009233	
3	『法学入門』	穴戸常寿・石川博康	有斐閣	2021年	9784641126183	
4	『大学生活と法学』	江藤祥平・大塚智見・遠藤聡太・豊谷しのぶ・辰野嘉則・田原	有斐閣	2022年	9784641126312	
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 商法の意義・目的・全体像	シラバスの確認(90分)	復習(90分)
2	ガイダンス シラバスの説明 商法総則・商行為の概要	シラバスの確認。 商法総則・商行為についての調べ学習(90分)	復習(90分)
3	商人と商行為	商人と商行為についての調べ学習(90分)	配布資料の復習(90分)
4	知的財産権と商号・商標	知的財産権と商号・商標についての調べ学習(90分)	配布資料の復習(90分)、確認テストの復習
5	商号・類似商号事例研究、名板貸し 確認テスト1(前年実績)	類似商号・名板貸しについての調べ学習(90分)	配布資料の復習(90分)
6	営業譲渡、商業帳簿	営業譲渡と商業帳簿についての調べ学習(90分)	配布資料の復習(90分)、確認テストの復習
7	代理商	代理商についての調べ学習(90分)	配布資料の復習(90分)、確認テストの復習
8	商業使用人 課題1(前年実績)	商業使用人についての調べ学習(90分)	配布資料の復習(90分)、確認テストの復習
9	商業登記	商業登記についての調べ学習(90分)	配布資料の復習(90分)
10	商行為法、商行為の代理	商行為法・商行為の代理についての調べ学習(90分)	配布資料の復習(90分)
11	契約の成立、債務の履行・債券担保 確認テスト2(前年実績)	契約の成立・債務の履行・債券担保についての調べ学習(90分)	課題の作成 配布資料の復習(90分)
12	商人間の留置権 確認テスト3(前年実績)	課題の作成 商人間の留置権についての調べ学習(90分)	配布資料の復習(90分)
13	手形小切手法・有価証券(手形・小切手) 手形の要件、白地手形・債権譲渡 確認テスト4(前年実績)	手形小切手法・有価証券(手形・小切手)・手形の要件・白地手形・債権譲渡についての調べ学習(90分)	配布資料の復習(90分)
14	裏書・手形の抗弁・物的抗弁・人的抗弁 善意取得・人的抗弁の切斷 確認テスト5(前年実績)	裏書・手形の抗弁・物的抗弁・人的抗弁・善意取得・人的抗弁の切斷についての調べ学習(90分)	配布資料の復習(90分)
15	支払免責・満期前の支払い・手形行為独立の原則 まとめ、定期試験の説明 授業改善アンケートの実施	支払免責・満期前の支払い・手形行為独立の原則 第3回から第14回まで復習(90分)	配布資料の復習(90分) 試験範囲の確認により、第3回から第15回まで復習(90分)
16	定期試験(60分) 定期試験の解説、採点方法の説明 授業改善アンケートの実施	試験範囲の確認、第3回から第15回まで復習(90分)	復習(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	色彩環境論 (A) (科目ナンバリング: DES211005, AEA321048)				
授業担当者(所属・職名)	北嶋 洋一(デザイン学科・教授)	研究室等所在	2号館5階		
単位数	2 (単位認定責任者: 北嶋 洋一)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザイン現場において実務経験者である教員が、その経験を基に実践的な色彩論を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

色彩の基礎知識や基礎理論を系統的に学び、デザインにおける制作工程で有効に活用し応用できる力を身につける。すべての人が心ゆく生活を送るための色彩による貢献ができる意識と能力を身につける。

授業の位置づけ

建築学科のDP(2)に対応する。

到達目標

授業の内容をよく理解し、制作に活かすことができるようにすること。受験希望者以外も含めて、カラーコーディネーター検定試験スタンダードクラス合格者と同程度の知識を獲得することができる。

授業全体の内容と概要

色に関する物理学的な概念、もの見え方に関する医学的概念、色の表示、配色、色の心理的効果、色と環境などについて知識だけではなく、色に関する感覚を育む。  
「SDGs9・産業と技術革新の基盤をつくろう」の関連授業。

授業の方法

PowerPointを用い、色彩の理論を教科書(カラーコーディネーター検定試験スタンダードクラス公式テキスト)の掲載順に合わせて解説する。PowerPointの内容について理解した後、調査学習として教科書本文の掲載内容について検証し、その要旨の整理を各自に行わせる。理解度の確認は中間テストや定期試験に於いて行われるが、答案の採点確認後に該当箇所での訂正作業を推奨する。さらに課題制作として色彩構成の実技を行い、これを理論の実践とする。高、授業で用いた教材は全てTeamsのファイル又はクラウドストレージへアップロードし、学生が任意で閲覧できる資料として蓄積する。授業に関する学生からの質問や課題の進行確認などは対面及びオンラインにて随時対応する。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模範授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

知識の修得だけでなくとどまらず、色彩感覚を伸張させるための訓練に積極的に取り組むこと。テキストや講義内容についての予習・復習を行なうことは勿論、身の回りの色彩について積極的に学修を行い、制作にそれを反映させること。また、知識のみならず感覚的な面についても十分に強化をはかること。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。講義中の録音・録画・撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は10回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
50%	0%	30%	0%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能 「色彩に関するカラーコーディネーター検定試験スタンダードクラス相当の基本的な知識を身につけている」	中間テスト及び定期試験にて、受講者偏差値が61以上である。	中間テスト及び定期試験にて、受講者偏差値が56-60である。	中間テスト及び定期試験にて、受講者偏差値が46-55である。	中間テスト及び定期試験にて、受講者偏差値が40-45である。	中間テスト及び定期試験にて受講者偏差値が40未満である。
思考力・判断力・表現力 「色彩に関するカラーコーディネーター検定試験スタンダードクラス相当の基本的な知識をもとにして課題制作が行える」	色彩について学んだ知識をもとにして、論理的でデザイン的に優れた課題制作を行った。	色彩について学んだ知識をもとにして、論理的な課題制作を行った。	色彩について学んだ知識の一部に活用して、課題制作を行った。	色彩について学んだ知識の応用は不十分だが、課題の完成には至った。	課題の完成には至らなかった。
主体性・多様性・協働性 「色彩に関するカラーコーディネーター検定試験スタンダードクラス相当の基本的な知識を用いて、色彩のメカニズムやシステムについて考察し、論理的な説明を行える」	色彩のメカニズムやシステムについての適切なプレゼンテーションが行え、今後められるレベルに到達している。	色彩のメカニズムやシステムについての適切なプレゼンテーションについて、求められるレベルに到達している。	色彩のメカニズムやシステムについての適切なプレゼンテーションについて、求められるレベルに到達できなかった。	色彩のメカニズムやシステムについての適切なプレゼンテーションについて、評価できるレベルに達していない。	

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	色彩環境論 (A) (科目ナンバリング: DES211005, AEA321048)				
授業担当者 (所属・職名)	北嶋 洋一 (デザイン学科・教授)	研究室等所在	2号館5階		
単位数	2 (単位認定責任者: 北嶋 洋一)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザイン現場において実務経験者である教員が、その経験を基に実践的な色彩論を指導する		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『カラーコーディネーター検定試験 スタンダードクラス公式テキスト』	東京商工会議所	東京商工会議所検定センター	2020	978-4502330018	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	ガイダンス～シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 授業の流れとカラーコーディネーター検定について	シラバスを一読しておくこと (90分)	検定の必要性を感じた者は日程など確認し、受験勉強の計画を立てること (90分)
2	Chapter 1 「生活と色の効用」	テキストの当該範囲を一読すること (90分)	授業内容を理解した上での応用力の確保を心掛ける (90分)
3	Chapter 1 「生活と色の効用」	テキストの当該範囲を一読すること (90分)	授業内容を理解した上での応用力の確保を心掛ける (90分)
4	Chapter 2 「色を自在に操る方法」	テキストの当該範囲を一読すること (90分)	授業内容を理解した上での応用力の確保を心掛ける (90分)
5	Chapter 2 「色を自在に操る方法」	テキストの当該範囲を一読すること (90分)	採点後の答案を基にし、特に誤答した箇所について再確認する (90分)
6	Chapter 3 「きれいな配色をつくる」	テキストの当該範囲を一読すること (90分)	授業内容を理解した上での応用力の確保を心掛ける (90分)
7	Chapter 3 「きれいな配色をつくる」	テキストの当該範囲を一読すること (90分)	授業内容を理解した上での応用力の確保を心掛ける (90分)
8	Chapter 4 「色を美しく見せる光のマジック」	テキストの当該範囲を一読すること (90分)	授業内容を理解した上での応用力の確保を心掛ける (90分)
9	Chapter 4 「色を美しく見せる光のマジック」	テキストの当該範囲を一読すること (90分)	授業内容を理解した上での応用力の確保を心掛ける (90分)
10	Chapter 5 「背景色を上手に使うって色の見えを変えてみよう」	テキストの当該範囲を一読すること (90分)	授業内容を理解した上での応用力の確保を心掛ける (90分)
11	Chapter 5 「背景色を上手に使うって色の見えを変えてみよう」	テキストの当該範囲を一読すること (90分)	授業内容を理解した上での応用力の確保を心掛ける (90分)
12	Chapter 6 「色で売り上げをアップするために」	テキストの当該範囲を一読すること (90分)	授業内容を理解した上での応用力の確保を心掛ける (90分)
13	実技課題 「配色計画」	テキストの当該範囲を一読すること (90分)	授業内容を理解した上での応用力の確保を心掛ける (90分)
14	実技課題 「配色計画」	期間内の提出が可能なように補完作業を行う (90分)	今回の授業終了時までには課題の完成提出を目指すための工程確認 (90分)
15	実技課題 「配色計画」	期間内の提出が可能なように補完作業を行う (90分)	配色に於ける応用力と実戦力の確認 (90分)
16	定期試験 Chapter 4～6 授業改善アンケートの実施	テキストの当該範囲を一読すること (90分)	誤答箇所について再確認する (90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	建築材料 (科目ナンバリング: BSM311016)				
授業担当者(所属・職名)	小笠原 健(建築学科・専任講師)	研究室等所在	2号館6階		
単位数	2 (単位認定責任者: 小笠原 健)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標
------

建築材料の具体的な名称や機能を理解し、材料の使用方法を修得することで、今後の専門科目を学ぶために役立つ基礎知識を養う。

授業の位置づけ

建築学科のDP(1)(2)に対応する科目。

到達目標

建築学科の専門科目に向けての基礎知識を修得し、専門用語の理解とその機能を理解できる。また、建築士試験科目を見据えた基礎的学力を修得できる。

授業全体の内容と概要

構造材料では主に木材・金属・コンクリート等を中心に基本的な特性、品質、規格、形状等について修得し、仕上げ材料などについても理解できるように授業を実施する。

授業の方法

授業形式は板書中心に実施するが、その個々の材料についての特徴などを説明していく。また、状況によってはイラストや写真などの資料を提供し、各材料のイメージしやすくし、解説する。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	○ その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

指定テキストと配布資料を必ず持参すること。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する可能性がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

「建築士試験受験資格課程」必修科目、教職課程(工業)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は11回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
90%	0%	0%	0%	10%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
共生社会の実現ならびに貢献できる人材として、建築の基礎力を養うことができる。	建築が社会で果たす役割を理解し、基礎力を修得できた。	建築が社会で果たす役割を理解し、ある程度の基礎力を修得できていた。	建築が社会で果たす役割を理解し、最低限の基礎力を修得できていた。	建築が社会で果たす役割を理解していた。	建築が社会で果たす役割を理解していなかった。
建築技術者としての問題意識を持ち、その問題解決の意識を持つことができる。	建築についての問題意識を持ち、問題解決に向き合うことができた。	建築についての問題意識を持ち、ある程度の問題解決に向き合うことができた。	建築についての問題意識を持ち、どのような問題が存在しているかを理解していた。	建築についての問題意識を持ち、問題解決の必要性を理解していた。	建築についての問題意識を持たなかった。
「建築材料」の基礎知識を習得することができる。	基礎知識を修得し、さらに建築科目全般に取り組むことができた。	基礎知識を修得し、さらに建築科目全般に取り組む必要性を理解できた。	基礎知識を修得することができた。	基礎知識をおおむね修得することができた。	基礎知識を修得することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	建築材料 (科目ナンバリング: BSM311016)				
授業担当者(所属・職名)	小笠原 健 (建築学科・専任講師)	研究室等所在	2号館 6階		
単位数	2 (単位認定責任者: 小笠原 健)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『絵とき建築材料 改訂3版』	廣瀬幸男・赤石辰夫・遠藤真弘・廣瀬妙子(共著)	オーム社	2022	978-4-274-22890-2	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 授業の進め方について説明 授業改善アンケート結果に関する説明(小笠原)	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する(90分)	授業内容を整理して、復習する(90分)
2	木材 (木材の特徴・種類・性質)	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容を整理して、復習する(90分)
3	木材 (木材の強度・木取り・規格・等級)	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容を整理して、復習する(90分)
4	木材 (集成材・合板・木質ボード)	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容を整理して、復習する(90分)
5	コンクリート (コンクリートの特徴・種類・性質)	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容を整理して、復習する(90分)
6	コンクリート (コンクリートの施工と耐久性・セメント・骨材)	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容を整理して、復習する(90分)
7	コンクリート (混和材料・コンクリート製品・セメント製品)	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容を整理して、復習する(90分)
8	鋼材 (鋼材の特徴・加工と腐食・種類)	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容を整理して、復習する(90分)
9	鋼材 (鋼材の接合・ステンレスとアルミニウム・構造用金物)	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容を整理して、復習する(90分)
10	仕上げ材 (石材・ガラス・タイル・レンガ)	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容を整理して、復習する(90分)
11	仕上げ材 (外装材・屋根・外壁)	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容を整理して、復習する(90分)
12	仕上げ材 (内装材・天井・壁・床)	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容を整理して、復習する(90分)
13	機能性材料(防水材料・防火材料・断熱材)	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容を整理して、復習する(90分)
14	設備機器等	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容を整理して、復習する(90分)
15	高齢者対応とバリアフリー	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容を整理して、復習する(90分)
16	定期試験(60分の試験終了後、残りの30分で解説を行う) 授業改善アンケートの実施	授業内容全体について資料を整理して、定期試験に備える(90分)	定期試験内容を整理して、復習する(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	イラストレーション基礎 (科目ナンバリング: AEA221038)				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 正人(デザイン学科・客員教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 佐藤 正人)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザイン業界で長年に携わる実務経験者が実践に促した実務を行う。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。				

概要

履修目標

イラスト制作に必要なさまざまな画材の使い方、表現方法などを基礎から学び習得する。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP(1)(2)(3)に対応する。

到達目標

各画材の性質、多様な表現方法を習得して更なる独自のイラスト制作の技術向上に繋げることができる。

授業全体の内容と概要

透明水彩、アクリル絵の具を使用して各課題を製作しながら様々なイラスト表現を身につける。

授業の方法

各課題ごとに課題説明書記載の画材類を毎回持参して授業内で作業を行い、作品提出がある。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

遅刻3回で欠席1回とみなす。  
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、20回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	70%	0%	30%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
イラストレーションに対する制作意欲及び授業態度	授業の事前事後学習を進め意欲的な制作態度、取り組みがなされる模範的な授業態度であった。	授業の事前事後学習を進め、真面目に授業課題の作品制作に取り組んでいた。	授業課題、内容に真面目に取り組んでいた。	授業課題に取り組みながらも制作意欲が乏しかった。	授業に対する意欲が感じられず制作態度の取り組みに欠けていた。
イラスト表現に於ける画材の知識及び理解	授業内容に積極的に真剣に取り組む、知識の習得と理解度を深めた。	授業内容に真剣に取り組む、授業内容を充分理解していた。	授業内容を真面目に取り組む概ね理解していた。	授業内容への最低限の理解がみられた。	授業内容を理解していなかった。
イラスト表現への研究及び習得	授業内容を深く理解して研究心、習得への向上心が著しくあり実践的にも優れていた。	授業内容を充分理解して研究心があり習得して形になっていた。	授業内容を概ね理解して真面目に研究、習得していた。	授業内容への最低限の理解がみられた。	授業内容を理解せず研究心、習得への意欲に欠けていた。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	イラストレーション基礎 (科目ナンバリング: AEA221038)				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 正人(デザイン学科・客員教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 佐藤 正人)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容をデザイン業界で長年に携わる実務経験者が実践に促した実務を行う。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション(イラストについての全般的な講義、イラストレーターの仕事、画材類について) シラバスの説明、授業改善アンケート結果反	シラバスを読んでおくこと。(45分)	講義内容の理解を深め要点をまとめておくこと。(45分)
2	オリエンテーション(イラストについての全般的な講義、イラストレーターの仕事、画材類について) シラバスの説明。	シラバスを読んでおくこと。(45分)	講義内容の理解を深め要点をまとめておくこと。(45分)
3	各画材の実践的使用をイラスト見本に合わせて実技を披露することで画材の使い方や特徴を習得。	配布資料を読み画材の特性を理解しておくこと。(45分)	各画材の特性や使い方を復習しておくこと。(45分)
4	各画材の実践的使用をイラスト見本に合わせて実技を披露することで画材の使い方や特徴を習得。	配布資料を読み画材の特性を理解しておくこと。(45分)	各画材の特性や使い方を復習しておくこと。(45分)
5	透明水彩絵具を使用して色の作製、画材の特徴を体験しながら描き方を研究。イラストラフ制作。	課題説明書を読み学習内容をイメージしておくこと。(45分)	作品制作へ向けて取り組みを進めること。(45分)
6	透明水彩絵具を使用して色の作製、画材の特徴を体験しながら描き方を研究。イラストラフ制作。	課題説明書を読み学習内容をイメージしておくこと。(45分)	作品制作へ向けて取り組みを進めること。(45分)
7	ラフ完成後トレースして透明水彩で着色作業 1	イラストラフ制作を進めておくこと。(45分)	作品提出へ向けて取り組みを進めること。(45分)
8	ラフ完成後トレースして透明水彩で着色作業 1	イラストラフ制作を進めておくこと。(45分)	作品提出へ向けて取り組みを進めること。(45分)
9	透明水彩で着色作業 2。作品提出。	透明水彩による着色作業の準備をしておくこと。(45分)	実習内容の理解を深めて要点をまとめておくこと。(45分)
10	透明水彩で着色作業 2。作品提出。	透明水彩による着色作業の準備をしておくこと。(45分)	実習内容の理解を深めて要点をまとめておくこと。(45分)
11	線画イラストの下絵制作。ラフ制作後に透明水彩で着色作業 1。	課題説明書を読み線画イラストの構想を練っておくこと。(45分)	作品提出へ向けて取り組みを進めること。(45分)
12	線画イラストの下絵制作。ラフ制作後に透明水彩で着色作業 1。	課題説明書を読み線画イラストの構想を練っておくこと。(45分)	作品提出へ向けて取り組みを進めること。(45分)
13	線画イラストを制作して透明水彩で着色作業 2。	イラストラフ制作を進めておくこと。(45分)	作品提出へ向けて取り組みを進めること。(45分)
14	線画イラストを制作して透明水彩で着色作業 2。	イラストラフ制作を進めておくこと。(45分)	作品提出へ向けて取り組みを進めること。(45分)
15	線画イラストを制作して透明水彩で着色作業 3。コンセプトシートを記載してプレゼン後に作品提出	作品のプレゼンテーションに向けて準備をしておくこと。(45分)	実習内容の理解を深めて要点をまとめておくこと。(45分)
16	線画イラストを制作して透明水彩で着色作業 3。コンセプトシートを記載してプレゼン後に作品提出	作品のプレゼンテーションに向けて準備をしておくこと。(45分)	実習内容の理解を深めて要点をまとめておくこと。(45分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『マイワーク31』	北海道イラストレーターズクラブアルファ		2019年		
2	『雑誌イラストレーション』		玄光社			バックナンバー
3	『イラストノート』		誠文堂新光社			バックナンバー
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17	アクリル絵具の画材の特性や使用方法を描写し画材研究。	教科書・参考文献等を活用し、アクリル絵具について調べておくこと。(45分)	アクリル絵具の画材の特性や使い方を復習しておくこと。(45分)
18	アクリル絵具の画材の特性や使用方法を描写し画材研究。	教科書・参考文献等を活用し、アクリル絵具について調べておくこと。(45分)	アクリル絵具の画材の特性や使い方を復習しておくこと。(45分)
19	アクリル絵具による様々なタッチ表現実習 1	参考文献等を活用し、アクリル絵具による表現方法を調べておくこと。(45分)	実習内容の理解を深めて要点をまとめておくこと。(45分)
20	アクリル絵具による様々なタッチ表現実習 1	参考文献等を活用し、アクリル絵具による表現方法を調べておくこと。(45分)	実習内容の理解を深めて要点をまとめておくこと。(45分)
21	アクリル絵具による様々なタッチ表現実習 2	参考文献等を活用し、アクリル絵具による表現方法を調べておくこと。(45分)	実習内容の理解を深めて要点をまとめておくこと。(45分)
22	アクリル絵具による様々なタッチ表現実習 2	参考文献等を活用し、アクリル絵具による表現方法を調べておくこと。(45分)	実習内容の理解を深めて要点をまとめておくこと。(45分)
23	課題に沿ってアクリル絵具を使用して作品制作過程を習得。	参考文献等を活用し、アクリル絵具による表現方法を調べておくこと。(45分)	実習内容の理解を深めて要点をまとめておくこと。(45分)
24	課題に沿ってアクリル絵具を使用して作品制作過程を習得。	参考文献等を活用し、アクリル絵具による表現方法を調べておくこと。(45分)	実習内容の理解を深めて要点をまとめておくこと。(45分)
25	アクリル画制作・1	制作作業の準備を行い道具の準備をしておくこと。(45分)	実習内容の理解を深めて要点をまとめておくこと。(45分)
26	アクリル画制作・1	制作作業の準備を行い道具の準備をしておくこと。(45分)	作品提出へ向けて取り組みを進めること。(45分)
27	アクリル画制作・2	配布された参考作品及び資料を読み、道具の手入れをしておくこと。(45分)	実習内容の理解を深めて要点をまとめておくこと。(45分)
28	アクリル画制作・2	配布された参考作品及び資料を読み、道具の手入れをしておくこと。(45分)	作品提出へ向けて取り組みを進めること。(45分)
29	アクリル画制作・3	配布された参考作品及び資料を読み、道具の手入れをしておくこと。(45分)	実習内容の理解を深めて要点をまとめておくこと。(45分)
30	アクリル画制作・3	配布された参考作品及び資料を読み、道具の手入れをしておくこと。(45分)	作品最終提出へ向けて取り組みを進めること。(45分)
31	アクリル画制作・4。コンセプトシートを記載してプレゼン後に作品提出。	作品の完成、プレゼンテーションに向けて準備をしておくこと。(45分)	講評内容の理解を深め要点をまとめておくこと。(45分)
32	アクリル画制作・4。コンセプトシートを記載してプレゼン後に作品提出。授業アンケート実施。	作品の完成、プレゼンテーションに向けて準備をしておくこと。(45分)	講評内容の理解を深め要点をまとめておくこと。(45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	ビジュアルデザイン (科目ナンバリング: DES222018)				
授業担当者(所属・職名)	田中 靖之(デザイン学科・非常勤講師)	研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 田中 靖之)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザインの現場において実務経験者である教員が、その経験を基に実践的な授業を行う。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。				

概要

履修目標

- グラフィックレイアウトの基本ルールを理解する。
- アートディレクションの位置づけを理解する。
- グラフィックデザイン実務の概念を理解する。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP(3)、(4)に対応する。

到達目標

レイアウトパターンを分類し、試行を重ねてグラフィックデザインとして実施制作ができる。

授業全体の内容と概要

デザイン業界の仕組みを、概説を含め、広告・出版に関するコミュニケーションを意識した基本レイアウト(サムネール主体)とプレゼンテーションシステムを理解する。「SDGs12: つくる責任つかう責任」の関連授業。

授業の方法

板書とオリジナルプリント配布を併用し実技形式で行う。また、プレゼンテーションに耐えうる内容を吟味し、デザイン要素のフィードバックを繰り返したのち、演習課題を完成させ提出する。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

サムネールやスケッチの実技が重要なため、ノート・筆記具を常備すること。不足の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談で相談のもと、事前に参考資料を提供することがある。

資格指定科目

教職課程(美術・工芸)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は20回以上。完成度の高い作品を合格とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	60%	0%	10%	30%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
グラフィックレイアウトの基本ルール	レイアウトパターンの分類ができ、その2つ以上で、基本ルールにのっとったオリジナリティを発揮できた。	レイアウトパターンの分類ができ、その2つ以上でデザインができた。	レイアウトパターンの分類ができ、その1つでデザインができた。	レイアウトパターンの分類ができた。	レイアウトパターンの分類ができなかった。
アートディレクションの位置づけ	アートディレクションの意味を理解でき、ビジュアルとコピーを駆使して応用・展開できるデザインができた。	アートディレクションの意味を理解でき、ビジュアル要素を1つ以上とコピーライティングを含めたデザインができた。	アートディレクションの意味を理解でき、ビジュアル要素を1つ以上含んだデザインができた。	アートディレクションの意味が理解できた。	アートディレクションの意味が理解できなかった。
グラフィックデザイン実務の概念	グラフィックデザインの実務を理解し、複数の実例を参考にしたオリジナルかつトレンドを吟味したデザインパターン演習ができた。	グラフィックデザインの実務を理解し、複数の実例を参考にしたオリジナルなデザインパターン演習ができた。	グラフィックデザインの実務を理解し、その実例を2つ以上(異種)提示することができた。	グラフィックデザインの実務を理解し、その実例を1つ提示することができた。	グラフィックデザインの実務の現状が理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	ビジュアルデザイン (科目ナンバリング: DES222018)				
授業担当者(所属・職名)	田中 靖之(デザイン学科・非常勤講師)	研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 田中 靖之)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザインの現場において実務経験者である教員が、その経験を基に実践的な授業を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	授業改善アンケート結果反映の説明シラバスについての説明 アートデザインについて	「ビジュアルデザイン」語句の認識(45分)	「アート・デザイン」の位置づけ確認(45分)
2	「ことばと物」コミュニケーションのためのゲーム演習	「ことばと物」語句の認識(45分)	「ことば」の自己復習(45分)
3	ビジュアルデザインの歴史(DTPまで)	「DTP」語句の認識(45分)	「DTP」の歴史的理解(45分)
4	JIS用紙、テキストポイントについて	A4・A3用紙サイズの認識(45分)	「用紙サイズの使用実例について」(45分)
5	レタリングとフォントの現状について	「フォントバリエーション」の認識(45分)	「明朝体・ゴシック体」及び「セリフ・サンセリフ」の理解(45分)
6	レタリング演習と基本形態	基本となる書体の認識(45分)	レタリング演習 下書き(45分)
7	レイアウトの基本パターンについて	「レイアウト例の資料収集」(45分)	レイアウトパターンのサムネール作成(45分)
8	フォーマット用紙のレンダリング演習	演習用具の確認と役割チェック(45分)	レンダリング演習 仕上げ(45分)
9	素材(イラスト、写真)とテキストの役割	「レイアウトのサムネール体験」(45分)	「レイアウトサムネール」の修正及び変更(45分)
10	基本レイアウト演習(サムネール)	素材(イラスト・収集)とテキストのボリューム確認(45分)	「レイアウトのサムネール演習」(45分)
11	広告デザインと編集デザイン	「広告・編集」語句の認識(45分)	「広告・編集デザイン」の実例を収集(45分)
12	メディアに対応した企画デザイン	「マスメディア・ソーシャルメディア」の位置づけと認識(45分)	アイデアフラッシュ(メディアに対応)(45分)
13	RGB & CMYK及び印刷技術	「RGB & CMYK」語句の認識(45分)	「CMYK・オフセット印刷機」の資料収集(45分)
14	広告デザイン演習 *意見広告	「意見広告」語句の認識(45分)	サムネール演習(45分)
15	SNSと企業戦略	「GAFA」戦略の認識(45分)	「メタバース」に対する最新情報収集(45分)
16	広告デザイン演習 *企業広告	「企業広告」語句の認識(45分)	サムネール演習(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17	広告・出版・印刷業界の現状	業界大手企業群の情報収集(45分)	大手企業群の活動資料収集(45分)
18	編集デザイン演習 *フライヤー編	「フライヤー」の資料収集(45分)	サムネール演習(45分)
19	コミュニケーションツールとしての役割と現状	「ツールの種類」の資料収集(45分)	ツール毎の比較・検討(45分)
20	編集デザイン演習 *雑誌編	「雑誌類資料収集」(45分)	サムネール演習(45分)
21	最終課題のためのオリエンテーション	アイデアフラッシュ準備(45分)	具体的アイデアを記述(45分)
22	アイデアフラッシュと方向性の決定	アイデアの精査と方向性をイメージング(45分)	「方向性の決定」(45分)
23	課題演習 -1 ・サムネール制作	素材・コピー類のボリュームチェック(45分)	素材・コピーのおおまかなレイアウト作業(45分)
24	課題演習 -2 ・レイアウトの決定	複数のラフサムネールを準備(45分)	サムネール制作・完成(45分)
25	課題演習 -1 ・レンダリング制作	レイアウト及びレンダリング準備(45分)	レイアウト及びレンダリングの微調整(45分)
26	課題演習 -1 ・レイアウト修正	レイアウトアイテム(素材・コピー)の最終チェック(45分)	レンダリング完成(45分)
27	課題演習 -1 ・カラーリング制作	カラーリング準備(45分)	カラーリング用具(PC及び色エンピツ)での練習(45分)
28	課題演習 -2 ・カラーリング修正	PCはモニターでのチェック、アナログでは着色でのチェック(45分)	カラーリング完成(45分)
29	課題演習 ・仕上げ	仕上げに向けて準備(45分)	仕上げ作業(45分以上)
30	課題提出	仕上げの最終チェック(45分以上)	講義全体の振り返りを行う(45分)
31	課題に対する解説・フィードバック	講義全体を通して質問事項をまとめておく(45分)	質問に対する解説等の理解(45分)
32	課題に対する解説・フィードバック 授業改善アンケートの実施	総体的な質問項目のまとめ(45分)	解説・フィードバックを受けて講義全体の理解を深める(45分)

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・3年、社会福祉学科・3年、デザイ		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	政治学入門 (科目ナンバリング: POL021022)				
授業担当者(所属・職名)	後藤 啓倫(社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	1号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者: 後藤 啓倫)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標
------

現代日本政治を中心に、政治を理解するための基礎概念、制度、歴史に関する知識を理解する。

授業の位置づけ

経営学科のDP(2)に対応する。  
社会福祉学科のDP(2)(5)に対応する。  
デザイン学科のDP(2)に対応する。  
建築学科のDP(2)に対応する。

到達目標

政治に関する基礎的な概念を理解し、説明することができる。  
日本政治の歴史、制度に関する基礎的な知識を修得し、説明することができる。  
日本政治に関する自分なりの考えを概念、歴史、制度の観点から説明することができる。

授業全体の内容と概要

政治というものは日常生活を送るうえで避けて通ることができないものであるが、目に見えるものではない。政治学は、この目には見えない政治という現象を捉えようとする学問である。この講義では、現代日本政治を題材に政治学の成り立ち、基本的な概念について学ぶ。具体的には、日本の政治がどのような仕組みになっているのか、その制度を学ぶ。次に、日本の政治がこれまでどのように展開してきたのか、その歴史を学ぶ。そのうえで、現代日本政治の課題について学ぶ。「SDG1.貧困をなくそう」、「SDG10.人や国の不平等をなくそう」、「SDG16.平和と公正をすべての人に」の関連授業

授業の方法

授業は講義形式で行う。書き込み式のレジュメを配布して補足の説明を行う。  
書き込む内容は板書またはパワーポイントで示す。  
教科書を使用しないので講義をしっかりと聞いてメモをとること。  
毎回の感想・質問等を記入するリアクションペーパーを配布し、次回授業時にフィードバックを行う。  
Teamsを活用し授業資料の配布、質問の受付・回答を行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

授業中の私語、スマホの使用は厳禁。受講マナーを守ること。  
正当な理由のない20分以上の遅刻は欠席とみなす。遅刻3回で欠席1回とみなす。  
不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(社会・公民)の必修科目

評価方法・基準

評価前提条件
--------

単位認定に必要な最低出席回数は10回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70%	0%	0%	30%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
政治に関する基礎的な概念を理解し、説明することができる。	政治に関する基礎的な概念を正確に理解し、発展的に説明することができる。	政治に関する基礎的な概念を正確に理解し、説明することができる。	政治に関する基礎的な概念を理解し、説明できた。	政治に関する基礎的な概念を部分的に理解し、説明できた。	政治に関する基礎的な概念を理解し、説明できなかった。
日本政治の歴史、制度に関する基礎的な知識を修得し、説明することができる。	日本政治の歴史、制度に関する基礎的な知識を正確に修得し、発展的に説明することができる。	日本政治の歴史、制度に関する基礎的な知識を正確に修得し、説明することができる。	日本政治の歴史、制度に関する基礎的な知識を修得し、説明することができる。	日本政治の歴史、制度に関する基礎的な知識を部分的に修得し、説明することができる。	日本政治の歴史、制度に関する基礎的な知識を修得し、説明できなかった。
日本政治に関する自分なりの考えを概念、歴史、制度の観点から説明することができる。	概念、歴史、制度の観点から、日本政治に関する自分なりの考えを十分に説明できた。	概念、歴史、制度の観点から、日本政治に関する自分なりの考えを説明できた。	日本政治に関する自分なりの考えを説明できた。	日本政治に関する自分なりの考えを部分的に説明できた。	日本政治に関する自分なりの考えを説明できなかった。



基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・3年、社会福祉学科・3年、デザイ		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	政治学入門 (科目ナンバリング: POL021022)				
授業担当者(所属・職名)	後藤 啓倫 (社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	1号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者: 後藤 啓倫)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						なし。
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						適宜紹介する。
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスの確認(90分)	配布プリントの整理・再読(90分)
2	政治学の基礎概念	授業テーマに関する新聞記事の熟読(90分)	配布プリントの整理・再読(90分)
3	政治の役割	授業テーマに関する新聞記事の熟読(90分)	配布プリントの整理・再読(90分)
4	日本の内閣	授業テーマに関する新聞記事の熟読(90分)	配布プリントの整理・再読(90分)
5	日本の官僚制	授業テーマに関する新聞記事の熟読(90分)	配布プリントの整理・再読(90分)
6	日本の国会	授業テーマに関する新聞記事の熟読(90分)	配布プリントの整理・再読(90分)
7	日本の政党	授業テーマに関する新聞記事の熟読(90分)	配布プリントの整理・再読(90分)
8	日本の選挙制度	授業テーマに関する新聞記事の熟読(90分)	配布プリントの整理・再読(90分)
9	日本の選挙の課題	授業テーマに関する新聞記事の熟読(90分)	配布プリントの整理・再読(90分)
10	中間テスト	中間テスト出題テーマに関する配布プリントの熟読(90分)	中間テストの復習(90分)
11	日本の地方自治	授業テーマに関する新聞記事の熟読(90分)	配布プリントの整理・再読(90分)
12	地方自治の課題	授業テーマに関する新聞記事の熟読(90分)	配布プリントの整理・再読(90分)
13	日本の外交	授業テーマに関する新聞記事の熟読(90分)	配布プリントの整理・再読(90分)
14	日本政治の課題	授業テーマに関する新聞記事の熟読(90分)	配布プリントの整理・再読(90分)
15	授業のまとめ 授業改善アンケートの実施	授業テーマに関する新聞記事の熟読(90分)	配布プリントの整理・再読(90分)
16	定期試験(試験60分+解説30分)	試験の準備(90分)	試験のふり返り(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年（留学生対象）		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	日本語（科目ナンバリング：JLN052040）				
授業担当者（所属・職名）	佐藤 恵利（国際交流センター・センター員）	研究室等所在	本部棟3階国際交流センター		
単位数	2（単位認定責任者：佐藤 恵利）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	日本語		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、国際交流センター等で対応。				

概要

履修目標

教養力と語学力を身に付け、日本における実社会で活躍するための高度な日本語スキルを習得する。講義聴解や資料読解を通して「日本語」よりレベルの高い文書や資料を読み込む力を習得し、適切な文章表現ができるようになる。また新聞やインターネットなどの記事を取り上げ、新聞で使われる語彙、文末表現、慣用表現などを身に付け、日本語中級中期（日本語能力検定試験N2レベル）と同等の日本語能力を身に付ける。

授業の位置づけ

経営学科のDP（1）（2）（4）に対応する。  
 社会福祉学科のDP（2）（3）（4）（5）に対応する。  
 デザイン学科のDP（2）（4）（5）に対応する。  
 建築学科のDP（2）（4）（5）に対応する。

到達目標

読解力、文章表現力、意見の発表と他者の意見を聞く能力、ディスカッション能力を習得し、グループ内で討議することができる。グラフ・表・文献などの読み取り、意見交換の力を養い、コミュニケーションすることができる。

授業全体の内容と概要

資料や参考図書を使用し、日本語能力試験N2と同等の日本語能力を身に付ける。また、授業を通し「聞く・話す・読む・書く」の4技能の向上を目指す。日本語学を通して日本文化や日本事情を理解し、「SDG3：すべての人に健康と福祉を」「SDG7：エネルギーをみんなにそしてクリーンに」「SDG10：人や国の不平等をなくそう」について考え、知識を深める。

授業の方法

授業は参考資料、参考図書を使用し、中級中期の日本語を学習する。授業形態は講義だが、読解、聴解、作文、発表、グループワークなどもあり、学生が主体的に活動することもあり、また、場面を考えてのロールプレイやディスカッションも授業内で行う。評価はレポートと定期試験で判断するが、授業内に出される課題も評価対象となる。レポートはテーマ、内容、正確さ、長さ、表現力の5項目で評価する。「内容」の項目は特に重要で、自分の言葉でわかりやすく表現できているかを評価する。「正確さ」では文法や文字表記の誤りを提示するので、各自でフィードバックすること。定期試験は授業で学んだ内容を基に文法、聴解、読解、文章表現などの項目で評価する。定期テストも評価後は各自でフィードバックすること。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

授業中は母語の使用は原則禁止とする。母語話者同士の会話もすべて日本語で行うこと。また、授業中の携帯電話、辞書の使用は原則禁止とする。集中して教師の講義を聞き、わからなかったら教師に質問すること。平常点が評価に大きく影響する。授業中は真面目に取り組み、「日本語で表現できない」と思わずなんでもチャレンジすることが求められる。また、全講義内容をもとに定期試験を行う。一日でも休むと講義内容が分からなくなってしまうので、出席すること。日本語はまだ日本語能力検定N2レベルまで達してあらず、日本語能力レベルの向上を目指すクラスである。自身の日本語能力レベルを確認し、履修すること。15分以上の遅刻は欠席とみなす。また、遅刻3回で欠席1回とみなす。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、10回である。  
 16回目の授業で定期試験を行う。  
 出席、授業態度、レポート、定期テストで評価する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
40%	0%	30%	0%	30%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
日本語の知識・技能	正しい文法を習得し、場面に合わせた文法の使い分けを理解することができた。	正しい文法を習得しているが、場面に合わせた文法の使い分けをおおむね理解することができた。	正しい文法を習得し、場面に合わせた文法の使い分けを一定程度理解することができた。	正しい文法が習得できた。	正しい文法が習得できなかった。
思考力、判断力、日本語での表現力	自身で考え、自分の言葉で表現できる。表現の内容が分かりやすく、文法の間違えがほとんどない。声の大きさ、発音もよかった。	自身で考え、自分の言葉で（日本語）表現でき、内容が分かりやすかった。	自身で考え、自分の言葉で（日本語）表現できた。	日本語での表現ができた。	日本語での表現がなかった。
主体的に日本語学習に取り組む態度	毎回の授業に参加し授業に意欲的で、活動にも積極的に参加している。発言も多かった。	毎回の授業に参加し、授業に対し真面目に取り組んでいる。積極的に活動に参加していた。	毎回の授業に参加し、授業に対し意欲的で真面目に取り組んでいる。積極性は弱かった。	最低出席日数分授業に参加しており、授業に対し真面目に取り組んでいるが、授業内の活動に対し消極的であった。	最低出席日数分授業に参加してあらず、授業態度も問わなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年（留学生対象）		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	日本語（科目ナンバリング：JLN052040）				
授業担当者（所属・職名）	佐藤 恵利（国際交流センター・センター員）	研究室等所在	本部棟3階国際交流センター		
単位数	2（単位認定責任者：佐藤 恵利）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	日本語		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『中級を学ぼう日本語』の文型と表現 8 2 中級中 期	平井悦子・三輪さち子	スリーエネット ワーク	2009年	9784883195091	日本語と同じ教科書を使用。日本語
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション（今期の授業目的と進め方・シラバスの説明） 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを熟読し、本講義について理解しておくこと（90分）	講義内容を深め、指定された課題を作成すること（90分）
2	教科書、参考資料の内容読み取り、文法理解、聴解、文章表現、発表	教科書、参考資料を読み、授業の準備をする（90分）	講義内容を深め、指定された課題を作成すること（90分）
3	教科書、参考資料の内容読み取り、文法理解、聴解、文章表現、発表	教科書、参考資料を読み、授業の準備をする（90分）	講義内容を深め、指定された課題を作成すること（90分）
4	教科書、参考資料の内容読み取り、文法理解、聴解、文章表現、発表	教科書、参考資料を読み、授業の準備をする（90分）	講義内容を深め、指定された課題を作成すること（90分）
5	教科書、参考資料の内容読み取り、文法理解、聴解、文章表現、発表	教科書、参考資料を読み、授業の準備をする（90分）	講義内容を深め、指定された課題を作成すること（90分）
6	教科書、参考資料の内容読み取り、文法理解、聴解、文章表現、発表	教科書、参考資料を読み、授業の準備をする（90分）	講義内容を深め、指定された課題を作成すること（90分）
7	教科書、参考資料の内容読み取り、文法理解、聴解、文章表現、発表	教科書、参考資料を読み、授業の準備をする（90分）	講義内容を深め、指定された課題を作成すること（90分）
8	教科書、参考資料の内容読み取り、文法理解、聴解、文章表現、発表	教科書、参考資料を読み、授業の準備をする（90分）	講義内容を深め、指定された課題を作成すること（90分）
9	教科書、参考資料の内容読み取り、文法理解、聴解、文章表現、発表	教科書、参考資料を読み、授業の準備をする（90分）	講義内容を深め、指定された課題を作成すること（90分）
10	教科書、参考資料の内容読み取り、文法理解、聴解、文章表現、発表	教科書、参考資料を読み、授業の準備をする（90分）	講義内容を深め、指定された課題を作成すること（90分）
11	教科書、参考資料の内容読み取り、文法理解、聴解、文章表現、発表	教科書、参考資料を読み、授業の準備をする（90分）	講義内容を深め、指定された課題を作成すること（90分）
12	教科書、参考資料の内容読み取り、文法理解、聴解、文章表現、発表	教科書、参考資料を読み、授業の準備をする（90分）	講義内容を深め、指定された課題を作成すること（90分）
13	教科書、参考資料の内容読み取り、文法理解、聴解、文章表現、発表	教科書、参考資料を読み、授業の準備をする（90分）	講義内容を深め、指定された課題を作成すること（90分）
14	教科書、参考資料の内容読み取り、文法理解、聴解、文章表現、発表	教科書、参考資料を読み、授業の準備をする（90分）	講義内容を深め、指定された課題を作成すること（90分）
15	総括（授業の内容を復習） レポート提出	教科書、参考資料を読み、授業の準備をする（90分）	講義内容を深め、指定された課題を作成すること（90分）
16	定期試験実施（60分）と解説 授業アンケートの実施	試験に向けて講義の復習を行うこと（90分）	解説を受けて、試験及び講義全体の復習を行うこと（90分）

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	精神保健福祉援助実習 (科目ナンバリング: SWS123048)				
授業担当者(所属・職名)	畠山 明子(社会福祉学科・准教授)、 西野 克俊(社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 西野 克俊)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神科医療機関における実践経験がある教員がその経験を活かして、基礎能力・技術等を実践的に指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示板等を参照				

概要

履修目標
<p>ソーシャルワーク(精神保健福祉士)実習の意義について理解する。          精神疾患や精神障害のある人のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について理解する。          ソーシャルワーク(精神保健福祉士)実習に係る個別指導及び集団指導を通して、精神保健福祉士が行うソーシャルワークに係る知識と技術について具体的なかつ実践的に理解し実践的な技術等を体得する。          精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。          具体的な実習体験を、専門的知識及び技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。</p>

授業の位置づけ
社会福祉学科のDP(1)(2)(3)(4)(5)に対応する。

到達目標
精神保健福祉援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、精神障害者の生活や生活上の困難について把握し、精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。

授業全体の内容と概要
障害福祉サービス事業所や行政機関等、及び精神科病院等の医療機関理解のための個別指導及び集団指導を受ける。 精神保健福祉領域における精神保健福祉士の倫理・責務・義務理解のための個別指導及び集団指導を受ける。

授業の方法
教科書に記載されている事例を活用した、検討を行い相談援助の展開について学ぶ。 具体的な相談援助場面を想定したロールプレイを行い相談援助の実践力を涵養する。 「SDG3.すべての人に健康と福祉を」の関連科目

アクティブラーニングの実施方法																					
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>○</td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td>○</td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>○ ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業	○ ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL															
模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業															
○ ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)															

履修上の注意事項
精神保健福祉援助実習指導 を修了していることを前提とする。 テキスト及び配布資料を使用し、ポイントとすべき箇所は説明、板書を行う。 Microsoft Teams/Formsの諸機能を活用し、質問を受け付け、適宜教材配布等を行う。 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
精神保健福祉士国家試験受験資格課程

評価方法・基準

評価前提条件												
単位認定に必要な最低出席回数は10回以上。												
評価方法												
<table border="1"> <thead> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	0%	0%	0%	0%	100%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	0%	0%	0%	0%	100%							

ルーブリック																													
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を越えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>知識・理解</td> <td>精神保健福祉相談援助の発展的な知識を深く理解できた。</td> <td>精神保健福祉相談援助の発展的な知識を概ね理解できた。</td> <td>精神保健福祉相談援助の発展的な知識を理解できた。</td> <td>精神保健福祉相談援助の発展的な知識を多少理解できた。</td> <td>精神保健福祉相談援助の発展的な知識を理解できなかった。</td> </tr> <tr> <td>思考力・考察力</td> <td>精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について十分に考察できた。</td> <td>精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について概ね考察できた。</td> <td>精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について考察できた。</td> <td>精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について多少考察できた。</td> <td>精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について考察できなかった。</td> </tr> <tr> <td>主体性・情意</td> <td>精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを適切に説明・表現できた。</td> <td>精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを概ね説明・表現できた。</td> <td>精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを説明・表現できた。</td> <td>精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを多少説明・表現できた。</td> <td>精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを説明・表現できなかった。</td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	知識・理解	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を深く理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を概ね理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を多少理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を理解できなかった。	思考力・考察力	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について十分に考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について概ね考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について多少考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について考察できなかった。	主体性・情意	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを適切に説明・表現できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを概ね説明・表現できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを説明・表現できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを多少説明・表現できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを説明・表現できなかった。
評価項目		評価基準																											
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
知識・理解	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を深く理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を概ね理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を多少理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を理解できなかった。																								
思考力・考察力	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について十分に考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について概ね考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について多少考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について考察できなかった。																								
主体性・情意	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを適切に説明・表現できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを概ね説明・表現できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを説明・表現できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを多少説明・表現できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを説明・表現できなかった。																								

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	精神保健福祉援助実習 (科目ナンバリング: SWS123048)				
授業担当者(所属・職名)	畠山 明子(社会福祉学科・准教授)、 西野 克俊(社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 西野 克俊)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 精神科医療機関における実践経験がある教員がその経験を活かして、基礎能力・技術等を実践的に指導する。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『新・精神保健福祉士養成講座9 精神保健福祉援助実習指導・実習 第2版』	一般社団法人日本精神保健福祉士養成校協会	中央法規	2016	978-4-8058-5120-3	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション シラバス説明	教科書を事前に読んでおくこと。(90分)	ノート・資料整理を行うこと。(90分)
2	ソーシャルワーク実習とソーシャルワーク実習指導 における個別指導及び集団指導の意義	教科書を事前に読んでおくこと。(90分)	ノート・資料整理を行うこと。(90分)
3	精神保健医療福祉の現状(利用者理解を含む。)に関する基本的な理解	教科書を事前に読んでおくこと。(90分)	ノート・資料整理を行うこと。(90分)
4	精神保健医療福祉の現状(利用者理解を含む。)に関する基本的な理解	教科書を事前に読んでおくこと。(90分)	ノート・資料整理を行うこと。(90分)
5	実際に実習を行う施設・機関・事業者・団体・地域 社会等に関する基本的な理解	教科書を事前に読んでおくこと。(90分)	ノート・資料整理を行うこと。(90分)
6	精神疾患や精神障害のある当事者の語りに触れる体験	教科書を事前に読んでおくこと。(90分)	ノート・資料整理を行うこと。(90分)
7	精神疾患や精神障害のある当事者の語りに触れる体験	教科書を事前に読んでおくこと。(90分)	ノート・資料整理を行うこと。(90分)
8	精神疾患や精神障害のある当事者の語りに触れる体験	教科書を事前に読んでおくこと。(90分)	ノート・資料整理を行うこと。(90分)
9	精神疾患や精神障害のある当事者の語りに触れる体験	教科書を事前に読んでおくこと。(90分)	ノート・資料整理を行うこと。(90分)
10	現場体験学習及び見学実習	教科書を事前に読んでおくこと。(90分)	ノート・資料整理を行うこと。(90分)
11	現場体験学習及び見学実習	教科書を事前に読んでおくこと。(90分)	ノート・資料整理を行うこと。(90分)
12	現場体験学習及び見学実習	教科書を事前に読んでおくこと。(90分)	ノート・資料整理を行うこと。(90分)
13	実習先で必要とされる精神保健福祉士としての ソーシャルワークに係る専門的知識と技術に関する理解	教科書を事前に読んでおくこと。(90分)	ノート・資料整理を行うこと。(90分)
14	実習先で必要とされる精神保健福祉士としての ソーシャルワークに係る専門的知識と技術に関する理解	教科書を事前に読んでおくこと。(90分)	ノート・資料整理を行うこと。(90分)
15	精神保健福祉士に求められる職業倫理と法的 責務に関する理解	教科書を事前に読んでおくこと。(90分)	ノート・資料整理を行うこと。(90分)
16	精神保健福祉士に求められる職業倫理と法的 責務に関する理解	教科書を事前に読んでおくこと。(90分)	ノート・資料整理を行うこと。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	
科目名称	アクションプログラム (科目ナンバリング: IRE321072)				
授業担当者(所属・職名)		研究室等所在			
単位数	1 (単位認定責任者: )	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー					

概要

履修目標

--

授業の位置づけ

--

到達目標

--

授業全体の内容と概要

--

授業の方法

--

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

--

修学サポート(合理的配慮)

--

資格指定科目

--

評価方法・基準

評価前提条件

--

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	
科目名称	アクションプログラム (科目ナンバリング: IRE321072)				
授業担当者(所属・職名)		研究室等所在			
単位数	1 (単位認定責任者: )	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	コミュニケーション論 (科目ナンバリング: SOC412014, SOC512008/2023年度以降 SOC422014)				
授業担当者(所属・職名)	山本 一彦(経営学科・特任教授)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者: 山本 一彦)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

コミュニケーションという人間行動の意味を知り、小集団・組織から社会全体にいたるまで、さまざまな場面での社会的相互作用としてのコミュニケーションについて考え、理解することができる。

授業の位置づけ

経営学科のDP(2)(4)に対応する。

到達目標

コミュニケーションの理論について単に知識を習得するだけでなく、日々の生活場面におけるコミュニケーション行動のもつ意味と、コミュニケーションをめぐる現代的な問題について自ら考える姿勢をもてるようになることができる。

授業全体の内容と概要

まず、コミュニケーションの原理、形式、過程、メディアに目を向ける。次に組織コミュニケーション、とりわけネットワークおよびリーダーシップとフォローアップに焦点を当て、経営組織をコミュニケーションの視点から考察する。最後に、広く社会的コミュニケーションをとり上げ、特にオーディエンスの権利はどうあるべきかを追究し、合わせて現代社会のコミュニケーション問題を考える。

授業の方法

授業は現代のさまざまな事例を素材としながら講義形式で行ない、必要な場合には資料を配布する。単元・項目によっては受講者の見解を知るための小文を提出してもらい、授業で概要を発表してフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	○	PBL
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

さまざまなテーマについて自ら考える「主体的・能動的」な姿勢での受講を求める。本試験・追試験結果が保留となった場合、レポート課題の提出が必要。保留後の合格の場合の評価はCとする。尚、不測の事態の際はオンラインで実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は11回

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
90%	0%	0%	0%	0%	10%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識	定期試験における基礎事項該当部分で90%以上の正答があった。	同部分が80%以上90%未満の正答であった。	同部分が70%以上80%未満の正答であった。	同部分が60%以上70%未満の正答であった。	同部分の正答が60%に届かなかった。
思考力・判断力等	コミュニケーション原理を軸にして、さまざまな場面のコミュニケーション行動を十分に考察できていた。	左記の事項について概ね考察できていた。	左記の事項について広く一般的な水準の考察に達していた。	左記の事項についての考察が最低限の水準に留まっていた。	考察が最低限の水準に届かず、授業内容が理解できていなかった。
コミュニケーション問題への分析力・主体性等	授業の中心的テーマである組織コミュニケーション中心に、さまざまなコミュニケーション問題について十分な主体的分析ができていた。	左記の事項について概ね考察できていた。	左記の事項について広く一般的な水準の考察に達していた。	左記の事項についての考察が最低限の水準に留まっていた。	考察が最低限の水準に届かず、授業内容が理解できていなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	コミュニケーション論 (科目ナンバリング: SOC412014, SOC512008/2023年度以降 SOC422014)				
授業担当者(所属・職名)	山本 一彦(経営学科・特任教授)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者: 山本 一彦)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	科目ガイダンス…全体概要、目的とねらい、履修上の注意、評価方法説明、(シラバスの説明を含む)、前年度授業アンケート結果説明	シラバス内容の事前確認(90分)	目的とねらいについての復習・確認(90分)
2	…人間行動としてのコミュニケーション…コミュニケーションとはどのような営みか	コミュニケーション概念についての事前考察(90分)	コミュニケーションが人と人との社会的相互作用であることの復習・理解(90分)
3	…コミュニケーションの形式と過程…類型とモデル	人間の社会的相互作用にどのような型があるかについての事前考察(90分)	コミュニケーションについての学問的な「類型とモデル」の復習・理解(90分)
4	1. 組織コミュニケーションとリーダーシップ 1. フォーマル・コミュニケーションとインフォーマル・コミュニケーション	組織と基礎集団におけるコミュニケーションの違いについての事前考察(90分)	組織のフォーマルとインフォーマルの両面性についての復習・理解(90分)
5	2. 組織コミュニケーションとリーダーシップ 2. コミュニケーションネットワークと集団の効果性	組織の中にあるネットワークの種類についての事前考察(90分)	ネットワークの種類とその機能的特徴についての復習・理解(90分)
6	3. 組織コミュニケーションとリーダーシップ 3. コミュニケーションとリーダーシップ (1) マネジメントとリーダーシップ	組織コミュニケーションでのリーダーシップについての事前考察(90分)	良いマネジメントを超える対人的影響力についての復習・理解(90分)
7	3. コミュニケーションとリーダーシップ (2) リーダーシップ理論の変化	リーダーシップをとらえる視点についての事前考察(90分)	古典的リーダーシップ理論の特質・限界についての復習・理解(90分)
8	3. コミュニケーションとリーダーシップ (2) リーダーシップ理論の変化	「個人的属性」に根拠を求めないリーダーシップ理論についての事前考察(90分)	集団・組織機能向上とリーダーシップの関係についての復習・理解(90分)
9	4. 組織コミュニケーションとリーダーシップ 4. リーダーシップとフォロワーシップ	組織メンバーの行動とフォロワーシップについての事前考察(90分)	リーダーシップとフォロワーシップの不可分性についての復習・理解(90分)
10	4. リーダーシップとフォロワーシップ	フォロワーシップにはどのようなタイプがあるかについての事前考察(90分)	フォロワーシップが組織機能に不可欠であることについての復習・理解(90分)
11	1. 社会的コミュニケーション 1. コミュニケーションとメディア	コミュニケーションにとってメディアとは何かについての事前考察(90分)	メディア類型についての復習・理解(90分)
12	2. 社会的コミュニケーション 2. メディアと社会的現実	われわれにとつての社会的現実とは何かについての事前考察(90分)	メディア環境と社会的現実の構成のされ方との関係についての復習・理解(90分)
13	3. 社会的コミュニケーション 3. オーディエンスの権利 …「知る権利」と「アクセス権」	現代のオーディエンスにとって必要となる権利についての事前考察(90分)	メディア環境とオーディエンスの権利の関係についての復習・理解(90分)
14	現代コミュニケーションの特質と諸問題	人々の社会的相互作用に生じている問題についての事前考察(90分)	社会的技術的变化によるコミュニケーション問題についての復習・理解(90分)
15	総括と試験概要説明、授業アンケート実施	ノートの整理と重要事項のチェック(90分)	試験対応のための復習・理解(90分)
16	試験および解説 60分の試験終了後、残りの30分で解説	試験対応準備(90分)	解説内容の確認・理解(90分)

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科 2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	色彩環境論 (D) (科目ナンバリング: DES211005, AEA321048)				
授業担当者 (所属・職名)	北嶋 洋一(デザイン学科・教授)	研究室等所在	2号館 5階		
単位数	2 (単位認定責任者: 北嶋 洋一)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザイン現場において実務経験者である教員が、その経験を基に実践的な色彩論を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示板等を参照				

概要

履修目標

色彩の基礎知識や基礎理論を系統的に学び、デザインにおける制作工程で有効に活用し応用できる力を身につける。  
すべての人が心ゆく生活を送るための色彩による貢献ができる意識と能力を身につける。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP(1)、(3)に対応する。

到達目標

授業の内容をよく理解し、制作に活かすことができるようにすること。受験希望者以外も含めて、カラーコーディネーター検定試験スタンダードクラス合格者と同程度の知識を獲得することができる。

授業全体の内容と概要

色に関する物理学的な概念、もの見え方に関する医学的概念、色の表示、配色、色の心理的効果、色と環境などについて知識だけでなく、色に関する感覚を育む。  
「SDGs9・産業と技術革新の基盤をつくろう」の関連授業。

授業の方法

PowerPointを用い、色彩の理論を教科書(カラーコーディネーター検定試験スタンダードクラス公式テキスト)の掲載順に合わせて解説する。PowerPointの内容について理解した後、調査学習として教科書本文の掲載内容について検証し、その要旨の整理を各自に行わせる。理解度の確認は中間テストや定期試験に於いて行われるが、答案の採点確認後に該当箇所の訂正作業を推奨する。  
さらに課題制作として色彩構成の実技を行い、これを理論の実践とする。  
高、授業で用いた教材は全てTeamsのファイル又はクラウドストレージへアップロードし、学生が任意で閲覧できる資料として蓄積する。  
授業に関する学生からの質問や課題の進行確認などは対面及びオンラインにて随時対応する。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模範授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

知識の修得だけでなくとどまらず、色彩感覚を伸張させるための訓練に積極的に取り組むこと。  
テキストや講義内容についての予習・復習を行うことは勿論、身の回りの色彩について積極的に学修を行い、制作にそれを反映させること。  
また、知識のみならず感覚的な面についても十分に強化をはかること。  
不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。  
講義中の録音・録画・撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。

資格指定科目

教職課程(工芸)選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は10回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
50%	0%	30%	0%	0%	20%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能 「色彩に関するカラーコーディネーター検定試験スタンダードクラス相当の基本的な知識を身につけている」	中間テスト及び定期試験にて、受講者偏差値が61以上である。	中間テスト及び定期試験にて、受講者偏差値が56-60である。	中間テスト及び定期試験にて、受講者偏差値が46-55である。	中間テスト及び定期試験にて、受講者偏差値が40-45である。	中間テスト及び定期試験にて受講者偏差値が40未満である。
思考力・判断力・表現力 「色彩に関するカラーコーディネーター検定試験スタンダードクラス相当の基本的な知識をもとにして課題制作が行える」	色彩について学んだ知識をもとにして、論理的でデザイン的に優れた課題制作を行った。	色彩について学んだ知識をもとにして、論理的な課題制作を行った。	色彩について学んだ知識の一部に活用して、課題制作を行った。	色彩について学んだ知識の応用は不十分だが、課題の完成には至った。	課題の完成には至らなかった。
主体性・多様性・協働性 「色彩に関するカラーコーディネーター検定試験スタンダードクラス相当の基本的な知識を用いて、色彩のメカニズムやシステムについて考察し、論理的な説明を以てプレゼンテーションが行える」	色彩のメカニズムやシステムについての適切なプレゼンテーションが行え、今後められるレベルに到達している。	色彩のメカニズムやシステムについての適切なプレゼンテーションについて、求められるレベルに到達している。	色彩のメカニズムやシステムについての適切なプレゼンテーションについて、求められるレベルに到達できなかった。	色彩のメカニズムやシステムについての適切なプレゼンテーションについて、評価できるレベルに達していない。	

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	色彩環境論(D) (科目ナンバリング: DES211005, AEA321048)				
授業担当者(所属・職名)	北嶋 洋一(デザイン学科・教授)	研究室等所在	2号館5階		
単位数	2 (単位認定責任者: 北嶋 洋一)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務。デザイン現場において実務経験者である教員が、その経験を基に実践的な色彩論を指導する経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『カラーコーディネーター検定試験 スタンドクラス公式テキスト』	東京商工会議所	東京商工会議所検定センター	2020	978-4502330018	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス-シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 授業の流れとカラーコーディネーター検定について	シラバスを一読しておくこと(90分)	検定の必要性を感じた者は日程など確認し、受験勉強の計画を立てること(90分)
2	Chapter 1 「生活と色の効用」	テキストの当該範囲を一読すること(90分)	授業内容を理解した上での応用力の確保を心掛ける(90分)
3	Chapter 1 「生活と色の効用」	テキストの当該範囲を一読すること(90分)	授業内容を理解した上での応用力の確保を心掛ける(90分)
4	Chapter 2 「色を自在に操る方法」	テキストの当該範囲を一読すること(90分)	授業内容を理解した上での応用力の確保を心掛ける(90分)
5	Chapter 2 「色を自在に操る方法」	テキストの当該範囲を一読すること(90分)	授業内容を理解した上での応用力の確保を心掛ける(90分)
6	Chapter 3 「きれいな配色をつくる」	テキストの当該範囲を一読すること(90分)	授業内容を理解した上での応用力の確保を心掛ける(90分)
7	Chapter 3 「きれいな配色をつくる」	テキストの当該範囲を一読すること(90分)	授業内容を理解した上での応用力の確保を心掛ける(90分)
8	Chapter 4 「色を美しく見せる光のマジック」	テキストの当該範囲を一読すること(90分)	授業内容を理解した上での応用力の確保を心掛ける(90分)
9	Chapter 4 「色を美しく見せる光のマジック」	テキストの当該範囲を一読すること(90分)	授業内容を理解した上での応用力の確保を心掛ける(90分)
10	Chapter 5 「背景色を上手に使うことで色の見えを変えてみよう」	テキストの当該範囲を一読すること(90分)	授業内容を理解した上での応用力の確保を心掛ける(90分)
11	Chapter 5 「背景色を上手に使うことで色の見えを変えてみよう」	テキストの当該範囲を一読すること(90分)	授業内容を理解した上での応用力の確保を心掛ける(90分)
12	Chapter 6 「色で売り上げをアップするために」	テキストの当該範囲を一読すること(90分)	授業内容を理解した上での応用力の確保を心掛ける(90分)
13	実技課題 「配色計画」	事前配布された課題を確認し計画を立てる(90分)	次回の授業終了時までに課題の完成提出を目指すための工程確認(90分)
14	実技課題 「配色計画」	期間内の提出が可能なように補完作業を行う(90分)	次回の授業終了時までに課題の完成提出を目指すための工程確認(90分)
15	実技課題 「配色計画」	期間内の提出が可能なように補完作業を行う(90分)	配色に於ける応用力と実戦力の確認(90分)
16	定期試験 Chapter 4-6 授業改善アンケートの実施	テキストの当該範囲を一読すること(90分)	誤答箇所について再確認する(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	スポーツマネジメント論 (科目ナンバリング: SPS422060, SPS512009)				
授業担当者(所属・職名)	信濃 吉彦(経営学科・教授)	研究室等所在	2号館6階		
単位数	2 (単位認定責任者: 信濃 吉彦)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

経営学の手法を使って、スポーツ組織の構造と運営に関して理解する。

授業の位置づけ

経営学科DPの(1)(3)(5)に対応する。

到達目標

スポーツ団体における経営の問題点や課題について理解したうえで、各種競技スポーツの運営や活動に関して理解を深めることができる。

授業全体の内容と概要

板書が多いのできちんとノートをとり、その内容をしっかり理解する。様々な場面・考え方を理解することによってスポーツとマネジメントがどのようにつながり発展的な運営となるのかを考える。積極的な質問や相談は大いに歓迎する。また、興味を持った内容についてはどんどん掘り下げて自分のものとしていくことを励む。『SDG 4.質の高い教育をみんなに』の関連科目。

授業の方法

講義形式で授業を行う。既習範囲の内容やハンドアウトを利用し、スポーツにおけるマネジメントの在り方を理解する。ノートの作り方や課題、予習復習の内容・やり方についてはその都度授業中に指示を出す。座席は全席指定としスマホの使用は指示があるとき以外は認めない。板書の写真撮影は認めるが次回授業までに必ずノートに転記すること。課題や不明点に関してはネットや経営学辞典等で調べたものを必ずノートに筆記保存すること。与えられた課題については個別対応は行わず、授業内でディスカッション形式で確認を行うものとする。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模範授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

出席および授業参加度を重視する。出席とは、教科書・前回までの配布物・ノート・筆記用具の4点セットを持参することを意味する。授業参加度とは、発言や質問等の積極性を意味し私語・居眠り・スマホゲーム・LINE等の授業妨害行為およびテキストを持参しない学生・手ぶらで着席している学生に関しては欠席扱いとする。中間試験は実施しない。課題提出を複数回行う。ノート提出を1回課し、最終評価の対象とする。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

スポーツ指導者(スポーツリーダー)資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる出席回数は、試験実施回を含めて11回以上とする。選択は20分までとし2回の選択を1回の欠席として扱う。予習復習を心がけ、知らない・分からない事柄は必ず調べてノートに記録すること。ノート提出は平常点の最大50%に換算する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	0%	20%	0%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	定期試験で90点以上の得点を挙げた。	定期試験で80点以上の得点を挙げた。	定期試験で70点以上の得点を挙げた。	定期試験で60点以上の得点を挙げた。	定期試験で60点をクリアすることができなかった。
思考力・判断力・表現力	積極的に課題に取り組み、意思決定において必要となる理論の運用を学び、経営学における実践力を獲得するための努力をしている。	与えられた課題に取り組み、マネジメントの真髄や各種理論への理解が深まりつつある。	与えられた課題に取り組み、意思決定に至る考え方や各種理論の理解に対する努力が見られる。	与えられた課題に取り組み、経営バランスを理解するための努力は認められるがなかなか定着していない。	課題への取り組みが不十分で、意思決定につながる過程とバランスへの理解に対する進歩が見られず、自分自らのデータベースができていない。
主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら課題解決に取り組み、余った時間をさらなる定義や理論の研究・理解に振り分けている。	授業中の質問が多く、学習方法や調査結果などの相談も常であり経営学における意思決定やバランス理論の習得に関して前向きで、努力が見える。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がつかかわれる。	何とか課題はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、ノートも板書の範囲を超えない。	自分から進んでマネジメント力を身につけようとする姿勢が見られない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	スポーツマネジメント論 (科目ナンバリング:SPS422060, SPS512009)				
授業担当者(所属・職名)	信濃 吉彦(経営学科・教授)	研究室等所在	2号館6階		
単位数	2 (単位認定責任者: 信濃 吉彦)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『養成講習会用テキストReference Book』	JSPQ	公益財団法人日本スポーツ協会			
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション:シラバスの説明 授業評価アンケートの結果を説明する	専用のノートを準備する(90分)	ノートによる情報のデータベース化を行うこと(90分)
2	スポーツ組織とは何をさすのか	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える(90分)
3	スポーツ組織の経営戦略	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える(90分)
4	スポーツ組織の経営資源	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える(90分)
5	人材育成と経営責任	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える(90分)
6	マーケティング	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える(90分)
7	ストレッチの重要性と危機管理	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える(90分)
8	マーケティング上の意思決定	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える(90分)
9	マーケティングミックス	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える(90分)
10	スポーツ組織のリーダーシップ論	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える(90分)
11	プロスポーツ産業の経営戦略	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える(90分)
12	スポーツ事業のプロモーション	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える(90分)
13	情報化とスポーツ	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える(90分)
14	ノートチェック	ノート提出に備える(90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える(90分)
15	テストレビュー&ノートチェック 授業評価アンケートを実施	ノート提出に備える(90分)	試験に備える(90分)
16	試験および総括	試験に備える(150分)	本科目の総復習(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	スポーツマネジメント論 (SP) (科目ナンバリング: SPS422060, SPS512009)				
授業担当者(所属・職名)	信濃 吉彦 (経営学科・教授)	研究室等所在	2号館6階		
単位数	2 (単位認定責任者: 信濃 吉彦)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

学生に経営学の手法を使って、スポーツ組織の構造と運営に関して理解する。

授業の位置づけ

経営学科DPの(1)(3)(5)に対応する。

到達目標

スポーツ団体における経営の問題点や課題について理解したうえで、各種競技スポーツの運営や活動に関して理解を深めることができる。

授業全体の内容と概要

板書が多いのできちんとノートをとり、その内容をしっかり理解する。様々な場面・考え方を理解することによってスポーツとマネジメントがどのようにつながり発展的な運営となるのかを考える。積極的な質問や相談は大いに歓迎する。また、興味を持った内容についてはどんどん掘り下げて自分のものとしていくことを励む。『SDG 4.質の高い教育をみんなに』の関連科目。

授業の方法

講義形式で授業を行う。既習範囲の内容やハンドアウトを利用し、スポーツにおけるマネジメントの在り方を理解する。ノートの作り方や課題、予習復習の内容・やり方についてはその都度授業中に指示を出す。座席は全席指定としスマホの使用は指示があるとき以外は認めない。板書の写真撮影は認めるが次回授業までに必ずノートに転記すること。課題や不明点に関してはネットや経営学辞典等で調べたものを必ずノートに筆記保存すること。与えられた課題については個別対応は行わず、授業内でディスカッション形式で確認を行うものとする。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模範授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

出席および授業参加度を重視する。出席とは、教科書・前回までの配布物・ノート・筆記用具の4点セットを持参することを意味する。授業参加度とは、発言や質問等の積極性を意味し私語・居眠り・スマホゲーム・LINE等の授業妨害行為およびテキストを持参しない学生・手ぶらで着席している学生に関しては欠席扱いとする。中間試験は実施しない。課題提出を複数回行う。ノート提出を1回課し、最終評価の対象とする。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(保健体育)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な出席回数は、試験実施回を含めて11回以上とする。遅刻は20分までとし2回の遅刻を1回の欠席として扱う。予習復習を心がけ、知らない・分からない事柄は必ず調べてノートに記録すること。ノート提出は平常点の最大50%に換算する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	0%	20%	0%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にいるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	定期試験で90点以上の得点を挙げた。	定期試験で80点以上の得点を挙げた。	定期試験で70点以上の得点を挙げた。	定期試験で60点以上の得点を挙げた。	定期試験で60点をクリアすることができなかった。
思考力・判断力・表現力	積極的に課題に取り組み、意思決定において必要となる理論の運用を学び、経営学における実践力を獲得するための努力をしている。	与えられた課題に取り組み、マネジメントの真髄や各種理論への理解が深まりつつある。	与えられた課題に取り組み、意思決定に至る考え方や各種理論の理解に対する努力が見られる。	与えられた課題に取り組み、経営バランスを理解するための努力は認められるがなかなか定着していない。	課題への取り組みが不十分で、意思決定につながる過程とバランスへの理解に対する進歩が見られず、自分自らのデータベースができていない。
主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら課題解決に取り組み、余った時間をさらなる定義や理論の研究・理解に振り分けている。	授業中の質問が多く、学習方法や調査結果などの相談も常であり経営学における意思決定やバランス理論の習得に関して前向きで、努力が見える。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がつかかわれる。	何とか課題はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、ノートも板書の範囲を超えない。	自分から進んでマネジメント力を身につけようとする姿勢が見られない。



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	スポーツマネジメント論 (SP) (科目ナンバリング: SPS422060, SPS512009)				
授業担当者(所属・職名)	信濃 吉彦(経営学科・教授)	研究室等所在	2号館6階		
単位数	2 (単位認定責任者: 信濃 吉彦)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『養成講習会用テキストReference Book』	JSPD	公益財団法人日本スポーツ協会			
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション: シラバスの説明 授業評価アンケートの結果について説明する	専用のノートを準備する(90分)	ノートによる情報のデータベース化を行うこと(90分)
2	スポーツ組織とは何をさすのか	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える(90分)
3	スポーツ組織の経営戦略	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える(90分)
4	スポーツ組織の経営資源	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える(90分)
5	人材育成と経営責任	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える(90分)
6	マーケティング	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える(90分)
7	ストレッチの重要性と危機管理	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える(90分)
8	マーケティング上の意思決定	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える(90分)
9	マーケティングミックス	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える(90分)
10	スポーツ組織のリーダーシップ論	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える(90分)
11	プロスポーツ産業の経営戦略	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える(90分)
12	スポーツ事業のプロモーション	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える(90分)
13	情報化とスポーツ	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える(90分)
14	ノートチェック	ノート提出に備える(90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える(90分)
15	テストレビュー&ノートチェック 授業評価アンケートの実施	ノート提出に備える(90分)	試験に備える(90分)
16	試験および総括	試験に備える(150分)	本科目の総復習(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	漫画 (科目ナンバリング: AEA222064)				
授業担当者(所属・職名)	三上 いずみ(デザイン学科・准教授)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者: 三上 いずみ)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	漫画家として出版経験のある教員がその経験を活かして漫画の描き方を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

漫画の構成・特徴についての理解を深める。  
漫画を描くために必要な道具の使い方を理解し、基礎技術を習得する。  
漫画の仕組みを理解した上で、漫画での表現方法を身につける。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP(1)(3)(5)に対応する。

到達目標

漫画の構成・特徴について知る。  
漫画を描くために必要な道具の使い方を理解する。  
漫画の仕組みを理解し、表現方法を学ぶ。

授業全体の内容と概要

漫画とはなにか、その本質について考え、漫画の定義を知り、実際に漫画を描く。また、漫画を描くための基本的な技法(アナログ表現)を学ぶ。漫画の形式に沿って課題に取り組み、制作し、発表する。

授業の方法

授業は板書・パワーポイント・資料配布・実演等の方法で説明する。プロジェクター使用。授業後にデジタル資料はTeam s に保存するので振り返り可能。漫画を描くための道具(アナログ)を使用する。漫画を描くための基本的な技法の課題がある。課題は授業内で実践し、授業後に練習して提出する。漫画を作成するときは段階ごとに個別に対応する。課題は添削、講評にてフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

必要な漫画道具を購入すること。  
授業開始から30分間で学習内容の説明を行うので遅刻しないこと。  
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

最低出席回数20回以上。  
完成した課題を期日までに提出すること。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	50%	0%	50%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
漫画の構成・特徴についての理解を深める。	漫画の構成・特徴について理解を深め、作品に活かすことができた。	漫画の構成・特徴について理解を深めることができた。	漫画の構成・特徴について理解を深めることに努めた。	漫画の構成・特徴について知る事ができた。	漫画の構成・特徴について知る事ができなかった。
漫画を描くために必要な道具の使い方を理解し、基礎技術を習得する。	漫画を描くために必要な道具の使い方を理解し、基礎技術を習得し、磨くことができた。	漫画を描くために必要な道具の使い方を理解し、基礎技術を習得した。	漫画を描くために必要な道具の使い方を理解し、基礎技術を習得に努めた。	漫画を描くために必要な道具の使い方を理解した。	漫画を描くために必要な道具の使い方を理解できなかった。
漫画の仕組みを理解した上で、漫画での表現方法を身につける。	漫画の仕組みを理解した上で、漫画での独自の表現方法を身につけることができた。	漫画の仕組みを理解した上で、漫画での表現方法を身につけることができた。	漫画の仕組みを理解した上で、表現方法を身につけることに努めた。	漫画の仕組みを理解し、表現方法を学ぶことができた。	漫画の仕組みを理解し、表現方法を学ぶことができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	漫画 (科目ナンバリング: AEA222064)				
授業担当者(所属・職名)	三上 いずみ(デザイン学科・准教授)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者: 三上 いずみ)		CAP制	x	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 漫画家として出版経験のある教員がその経験を活かして漫画の描き方を指導する。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスの説明 漫画道具の説明	シラバスを読んでおくこと(45分)	必要な道具を準備する。(45分)
2	自己紹介イラスト 下描き	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
3	自己紹介イラスト 完成	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
4	自己紹介イラスト 冊子作成・発表	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
5	つけペンの練習	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
6	顔を描く	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
7	カメラミ技法	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
8	全身を描く	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
9	効果線の描き方	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
10	背景の描き方	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
11	漫画の構成・特徴・形式について	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
12	1ページ漫画(エッセイ) ネーム	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
13	1ページ漫画(エッセイ) 下描き	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
14	1ページ漫画(エッセイ) ペン入れ	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
15	1ページ漫画(エッセイ) スクリーントーン	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
16	1ページ漫画(エッセイ) 仕上げ	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17	1ページ漫画(フィクション) ネーム	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
18	1ページ漫画(フィクション) 下描き	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
19	1ページ漫画(フィクション) ペン入れ	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
20	1ページ漫画(フィクション) 仕上げ	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
21	2ページ漫画 ネーム	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
22	2ページ漫画 下描き	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
23	2ページ漫画 ペン入れ	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
24	2ページ漫画 仕上げ	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
25	ストーリー漫画 プロット	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
26	ストーリー漫画 プロット	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
27	ストーリー漫画冒頭3ページ ネーム	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
28	ストーリー漫画冒頭3ページ ネーム	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
29	ストーリー漫画冒頭3ページ ネーム	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
30	ストーリー漫画冒頭3ページ ネーム	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
31	製本・発表・鑑賞	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
32	講評・展示 授業改善アンケートの実施	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	講義全体をふりかえり、まとめを行うこと(45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	イラストレーション (科目ナンバリング: AEA222040)				
授業担当者(所属・職名)	浩而魅諭(デザイン学科・非常勤講師)	研究室等所在	1号館1階 非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 浩而魅諭)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	細密画家、復元画家、イラストレーターとして活動する教師が、その経験を活かして条件のある「仕事」の中での個性的な表現について実習を通して指導する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室などで対応。				

概要

履修目標	学生が、イラストレーションを仕事にしていく上で必要とされる基本の技術や社会人としての素養を身に付けることを目的とする。
授業の位置づけ	デザイン学科のDP(1)(2)(3)に対応する。

到達目標	学生が、自分の個性に気付きそれをイラストレーションで表現するための基本となる技術を身に付ける事ができる。 学生が、仕事をしていく上での社会人としての最低限の素養を身に付けることができる。 学生が、依頼者の希望に沿うイラストレーションを制作するためには何をすればいいかを考えることが出来る。
------	--

授業全体の内容と概要	学生が、イラストレーションを理解し己の個性をイラストレーションで表現しつつ、依頼者の希望を理解し応えることが出来るようになるための基本を身に付けられるよう、教師は経験を生かし実践的な教授を行う。 「SDGs15.陸の豊かさを守る」の関連項目
------------	---

授業の方法	授業は、各課題の説明の後、実技制作にあたる。板書や実際の作品を用いた講義形式の一斉授業と、こまめな机間巡視による個々の学生への個別の指導とを組み合わせで行う。
-------	---

アクティブラーニングの実施方法	<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模範授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																

履修上の注意事項	指定した用具、用品、各自が必要に応じて用意する材料、道具などは毎回必ず持ってくること。 課題の締め切りを遵守すること。 実際の仕事の納期を意識すること。 家庭学習(持参して見せてください)は評価の対象となる。 授業は第一回目からの積み重ね型の形態で行われるので欠かさず出席する事が大前提。 受講人数や前年度などによりシラバスの内容の順番を組み替えたり、削ったりすることもある。 (その都度説明しますのでご理解ください。) 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。
----------	--

修学サポート(合理的配慮)	事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
---------------	---

資格指定科目	
--------	--

評価方法・基準

評価前提条件	単位認定に必要な最低出席回数は22回以上。												
評価方法	<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>70%</td> <td>0%</td> <td>30%</td> <td>0%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	0%	70%	0%	30%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他								
0%	0%	70%	0%	30%	0%								

ルーブリック	<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> <tr> <td>自己表現と技術</td> <td>基本となる技術を身に付け、自分らしさを生かしたイラストレーションの制作を十分的確に行えた。</td> <td>基本となる技術を身に付け、自分らしさを生かしたイラストレーションの制作を的確に行えた。</td> <td>基本となる技術を身に付け、自分らしさを生かしたイラストレーションの制作をほぼ的確に行えた。</td> <td>基本となる技術を身に付け、自分らしさを生かしたイラストレーションの制作をある程度の確に行えた。</td> <td>基本となる技術を身に付け、自分らしさを生かしたイラストレーションの制作を十分的確に行うことができなかった。</td> </tr> <tr> <td>関心・意欲・態度・絵に携わる社会人としての素養</td> <td>イラストレーションに対する興味関心を高め、絵に携わる社会人としての素養を身に付ける事が十分できた。</td> <td>イラストレーションに対する興味関心を高め、絵に携わる社会人としての素養を身に付ける事ができた。</td> <td>イラストレーションに対する興味関心を高め、絵に携わる社会人としての素養を身に付ける事がほぼできた。</td> <td>イラストレーションに対する興味関心を高め、絵に携わる社会人としての素養を身に付ける事がある程度できた。</td> <td>イラストレーションに対する興味関心を高め、絵に携わる社会人としての素養を身に付ける事ができなかった。</td> </tr> <tr> <td>依頼作品(課題)</td> <td>依頼に沿うイラストレーションとは何かを考えながら制作を十分的確に行なえた。</td> <td>依頼に沿うイラストレーションとは何かを考えながら制作を的確に行なえた。</td> <td>依頼に沿うイラストレーションとは何かを考えながら制作をほぼ的確に行なえた。</td> <td>依頼に沿うイラストレーションとは何かを考えながら制作をある程度の確に行なえた。</td> <td>依頼に沿うイラストレーションとは何かを考えながら制作を的確に行う事ができなかった。</td> </tr> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	自己表現と技術	基本となる技術を身に付け、自分らしさを生かしたイラストレーションの制作を十分的確に行えた。	基本となる技術を身に付け、自分らしさを生かしたイラストレーションの制作を的確に行えた。	基本となる技術を身に付け、自分らしさを生かしたイラストレーションの制作をほぼ的確に行えた。	基本となる技術を身に付け、自分らしさを生かしたイラストレーションの制作をある程度の確に行えた。	基本となる技術を身に付け、自分らしさを生かしたイラストレーションの制作を十分的確に行うことができなかった。	関心・意欲・態度・絵に携わる社会人としての素養	イラストレーションに対する興味関心を高め、絵に携わる社会人としての素養を身に付ける事が十分できた。	イラストレーションに対する興味関心を高め、絵に携わる社会人としての素養を身に付ける事ができた。	イラストレーションに対する興味関心を高め、絵に携わる社会人としての素養を身に付ける事がほぼできた。	イラストレーションに対する興味関心を高め、絵に携わる社会人としての素養を身に付ける事がある程度できた。	イラストレーションに対する興味関心を高め、絵に携わる社会人としての素養を身に付ける事ができなかった。	依頼作品(課題)	依頼に沿うイラストレーションとは何かを考えながら制作を十分的確に行なえた。	依頼に沿うイラストレーションとは何かを考えながら制作を的確に行なえた。	依頼に沿うイラストレーションとは何かを考えながら制作をほぼ的確に行なえた。	依頼に沿うイラストレーションとは何かを考えながら制作をある程度の確に行なえた。	依頼に沿うイラストレーションとは何かを考えながら制作を的確に行う事ができなかった。
評価項目	評価基準																													
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																									
自己表現と技術	基本となる技術を身に付け、自分らしさを生かしたイラストレーションの制作を十分的確に行えた。	基本となる技術を身に付け、自分らしさを生かしたイラストレーションの制作を的確に行えた。	基本となる技術を身に付け、自分らしさを生かしたイラストレーションの制作をほぼ的確に行えた。	基本となる技術を身に付け、自分らしさを生かしたイラストレーションの制作をある程度の確に行えた。	基本となる技術を身に付け、自分らしさを生かしたイラストレーションの制作を十分的確に行うことができなかった。																									
関心・意欲・態度・絵に携わる社会人としての素養	イラストレーションに対する興味関心を高め、絵に携わる社会人としての素養を身に付ける事が十分できた。	イラストレーションに対する興味関心を高め、絵に携わる社会人としての素養を身に付ける事ができた。	イラストレーションに対する興味関心を高め、絵に携わる社会人としての素養を身に付ける事がほぼできた。	イラストレーションに対する興味関心を高め、絵に携わる社会人としての素養を身に付ける事がある程度できた。	イラストレーションに対する興味関心を高め、絵に携わる社会人としての素養を身に付ける事ができなかった。																									
依頼作品(課題)	依頼に沿うイラストレーションとは何かを考えながら制作を十分的確に行なえた。	依頼に沿うイラストレーションとは何かを考えながら制作を的確に行なえた。	依頼に沿うイラストレーションとは何かを考えながら制作をほぼ的確に行なえた。	依頼に沿うイラストレーションとは何かを考えながら制作をある程度の確に行なえた。	依頼に沿うイラストレーションとは何かを考えながら制作を的確に行う事ができなかった。																									

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	イラストレーション (科目ナンバリング: AEA222040)				
授業担当者(所属・職名)	浩而魅諭(デザイン学科・非常勤講師)	研究室等所在	1号館1階 非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 浩而魅諭)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	細密画家、復元画家、イラストレーターとして活動する教師が、その経験を活かして条件のある「仕事」の中での個性的な表現について実習を通して指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 オリエンテーション 授業概要について。	シラバスを読んでおくこと。(45分)	概要について見直す。(45分)
2	自分を見つめる 課題1自己紹介カード 制作	概要について見直す。(45分)	イラストレーションについて考えておくこと。(45分)
3	講評会	自分の作品を見つめ直す(45分)	他人の作品の良さを考える(45分)
4	講評会	自分の作品を見つめ直す(45分)	他人の作品の良さを考える(45分)
5	イラストレーションの大前提 物を見る力をつける 課題2デッサン よく見てものの形を理解しよう	指定したモチーフを用意する(45分)	自宅でも課題を進める。(45分)
6	課題2デッサン 360度色々な角度から見よう	指定したモチーフを用意する(45分)	自宅でも課題を進める。(45分)
7	課題2デッサン 触ってみよう・触感を描き表そう	指定したモチーフを用意する(45分)	自宅でも課題を進める。(45分)
8	課題2デッサン 内部構造を理解しよう	指定したモチーフを用意する(45分)	自宅でも課題を進める。(45分)
9	講評会 自分の表現を理解する 他人の表現の良いところをに気付き吸収する	自分の作品を見つめ直す(45分)	他人の作品の良さを考える(45分)
10	講評会 自分の表現を理解する 他人の表現の良いところをに気付き吸収する	自分の作品を見つめ直す(45分)	他人の作品の良さを考える(45分)
11	線画の基礎 点描、ハッチング、タッチなど	(45分)	自宅でも課題を進める。(45分)
12	線画の基礎 点描、ハッチング、タッチなど	各自資料を用意。(45分)	自宅でも課題を進める。(45分)
13	課題3線画 課題2を通して物の形を深く理解できたモチーフを用い線画で表現してみよう	各自資料を用意。(45分)	自宅でも課題を進める。(45分)
14	課題3線画 線画の基礎で学んだ中から自分らしさを表現できる技法を用い制作しよう	各自資料を用意。(45分)	授業内容を復習する。(45分)
15	講評会	自分の作品を見つめ直す(45分)	他人の作品の良さを考える(45分)
16	講評会	自分の作品を見つめ直す(45分)	他人の作品の良さを考える(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17	線の整理 課題2の作品を基に線の整理をしよう	課題2の作品を見つめ直しておく(45分)	自宅でも課題を進める。(45分)
18	線の整理 課題2の作品を基に簡潔な線でそのものの本質を捉えられるようなエスキースを幾パターンも描いてい	課題2の作品を見つめ直しておく(45分)	自宅でも課題を進める(45分)
19	線の整理・色の基本 前回の幾パターンの中から一つを選出し、配色計画を立てる	中学校や高校の美術の教科書や資料集を目をとしておく(45分)	中学校や高校の美術の教科書や資料集を目をとしておく(45分)
20	色の基本 着彩の基本を学ぼう	中学校や高校の美術の教科書や資料集を目をとしておく(45分)	中学校や高校の美術の教科書や資料集を目をとしておく(45分)
21	課題4制作 すでに授業で線を整理し、配色計画を立ててある作品に着彩しよう	中学校や高校の美術の教科書や資料集を目をとしておく(45分)	自宅でも課題を進める。(45分)
22	課題4制作 制作していた作品を仕上げよう	中学校や高校の美術の教科書や資料集を目をとしておく(45分)	授業内容を復習する。(45分)
23	課題5イラストレーションの依頼を受ける 社会人としての基礎知識、素養 今までの授業で学んだことを生かし自分らしい作品	今までの授業を振り返る(45分)	自宅でも課題を進める。(45分)
24	課題5イラストレーションの依頼を受ける 引き続き制作	今までの授業を振り返る(45分)	自宅でも課題を進める。(45分)
25	課題5イラストレーションの依頼を受ける 引き続き制作	今までの授業を振り返る(45分)	自宅でも課題を進める。(45分)
26	課題5イラストレーションの依頼を受ける 引き続き制作	今までの授業を振り返る(45分)	自宅でも課題を進める。(45分)
27	課題5イラストレーションの依頼を受ける 引き続き制作	今までの授業を振り返る(45分)	自宅でも課題を進める。(45分)
28	課題5イラストレーションの依頼を受ける 引き続き制作 完成	今までの授業を振り返る(45分)	自宅でも課題を進める。(45分)
29	講評会	自分の作品を見つめ直す(45分)	(他人の作品の良さを考える分)
30	講評会	自分の作品を見つめ直す(45分)	他人の作品の良さを考える(45分)
31	講評会	自分の作品を見つめ直す(45分)	他人の作品の良さを考える(45分)
32	授業改善アンケートの実施	授業で学んだことを以後の制作にどう反映させていくか考える(45分)	授業で学んだことを以後の制作にどう反映させていくか考える(45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	建築設計演習 (科目ナンバリング: APT324019)				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 善太郎(建築学科・教授)・向井 正伸(建築学科・専任講師)		研究室等所在	2号館6階	
単位数	2 (単位認定責任者: 佐藤 善太郎)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	向井 正伸(建築学科・専任講師)実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	設計事務所にて設計業務に携わる		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

今日の生活習慣や価値観の多様化は、建築空間にも急速に進展してきた。そしてそれは建築士試験における出題傾向にも色濃く反映されている。建築設計演習を通して建築士試験の2次試験製図課題の傾向を探り、実践的な設計手法を学ぶ。

授業の位置づけ

建築学科のDP(1)、(2)に対応する。

到達目標

設計業務に於いて即座に提示される付与条件と課題目標に対応した設計手順を学び、多様な図面表現をすることができる。

授業全体の内容と概要

建築士の想定製図課題を提示し、出題者の意図を探り、計画上の決まりごとや作図上の留意点をエスキス等をもとに理解し、作図する。

授業の方法

授業は授業初めに板書と配布資料、ビデオによる視聴覚資料により解説をおこない、エスキス・作図については基本的に個別にチェックをしてフィードバックする。最後の講評会は全員による発表会形式で行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

コンセプトを構築し空間として具現化を図るためには、とりもなおさず人の話を「注意深く」聞き、その内容を理解するという作業から始まる。時間外の指導及び作業を課す。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

原則毎回出席し全課題に取り組むこと(ただし最低出席回数11回以上)と、積極的に課題に取り組むこと。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	80%	0%	0%	20%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
一級建築士製図試験想定問題に対する正確なエスキスと平面プランの構築をすることができる。	設計課題をすべて理解した上で不備のないエスキスや平面プランを構築できた。	設計課題をすべて理解した上でエスキスや平面プランを構築できた。	設計課題をおおむね理解した上でエスキスや平面プランを構築できた。	設計課題をある程度理解した上でエスキスや平面プランを構築できた。	設計課題の内容を理解することができなかった。
設計と条件に対する適切な解答としての表現力を修得することができる。	与条件すべてを満足させる適切な表現ができた。	与条件を満足させる適切な表現ができた。	与条件をおおむね満足させる適切な表現ができた。	与条件をおおむね満足させる表現ができた。	与条件をおおむね満足させる表現ができなかった。
限られた時間内に図面を完成することのできる作図スピードを修得することができる。	時間内にすべての図面を書き残すことなく完成することができた。	時間内に書き上げることができた。	時間内におおむね書き上げることができた。	時間内にほぼ書き上げることができた。	時間内に完成することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	建築設計演習 (科目ナンバリング: APT324019)				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 善太郎(建築学科・教授)・向井 正伸(建築学科・専任講師)	研究室等所在	2号館6階		
単位数	2 (単位認定責任者: 佐藤 善太郎)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	向井 正伸(建築学科・専任講師)実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	設計事務所にて設計業務に携わる		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『適宜』					
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの確認。 授業の進め方と課題提出までのスケジュール	オリエンテーション時に配布された資料の熟読(90分)	授業終了時に提示の課題を処理する(90分)
2	問題の読み解きとその手法	指定した資料を事前に熟読する(90分)	授業終了時に提示の課題を処理する(90分)
3	建築士試験想定製図課題の設計	指定した資料を事前に熟読する(90分)	授業終了時に提示の課題を処理する(90分)
4	平面計画とプランニング	指定した資料を事前に熟読する(90分)	授業終了時に提示の課題を処理する(90分)
5	プランニングの陥穽	指定した資料を事前に熟読する(90分)	授業終了時に提示の課題を処理する(90分)
6	プランニングからエスキスへ	指定した資料を事前に熟読する(90分)	授業終了時に提示の課題を処理する(90分)
7	エスキスの注意点	指定した資料を事前に熟読する(90分)	授業終了時に提示の課題を処理する(90分)
8	良いエスキスと悪いエスキス	指定した資料を事前に熟読する(90分)	授業の作図の継続(90分)
9	作図への移行	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
10	各階平面図の同時作成	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
11	立面図作図	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
12	断面図作図	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
13	面積表・仕上表	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
14	設計主旨のまとめ方	作図準備をする(90分)	プレゼンテーション準備(90分)
15	全体チェック	プレゼンテーション準備(90分)	感想レポート提出(90分)
16	講評会	プレゼンテーション準備(90分)	感想レポート提出(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	スポーツとヘルスケア (科目ナンバリング: SPS422073, SPS522058)				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 和裕(経営学科・准教授)、三嶋 康嗣(経営学科・専任講師)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 佐藤 和裕)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり 左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、スポーツとヘルスケアについての基礎的な科学的知識を深め指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標
身体運動に異常が出ればスポーツ選手個人がもつパフォーマンスの発揮ができないばかりか、障害をまねく危険性がある。そこで外傷・障害の予防とコンディショニングの手法に関して学習する。

授業の位置づけ
経営学科のDP(2)(4)(5)に対応する。

到達目標
スポーツを見つめる科学的な視点。スポーツにおける基礎理論の理解と実践の応用について理解することができる。

授業全体の内容と概要
アスレティックリハビリテーションとトレーニング計画(実施上の留意点、進め方)、予防・治療・再発防止のテーピングの解説と演習。スポーツマッサージの解説。アイシング・ストレッチングなどの解説。特殊環境下での対応。アンチテーピング(ドーピング防止とドーピングコントロール)。トップアスリートの育成・強化の方法とその評価。競技力向上のためのチームマネジメント。について分かりやすく講義する。 「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目

授業の方法
授業はパワーポイント及び配布物資料で実施しコンディショニングの事例を紹介しコンディショニングのDVDも活用しながら講義形式で行う。授業によってはグループワークで思考・考察・発表を行い学習していく。また、授業の終わりに確認の小テストを実施し、フィードバックとして回収後、回答の解説を行う。

アクティブラーニングの実施方法																					
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>○</td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模範授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>○</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>○</td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL															
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業															
ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)															

履修上の注意事項
ノートやプリントは毎回必ず持参すること、授業中は口頭説明にも注意を向けノートやプリント等にメモしながらノート作成を行うこと。口頭で説明したことにも重要な事柄が含まれる。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件												
単位認定に必要な出席回数は、11回以上。												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>30%</td> <td>60%</td> <td>10%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	0%	0%	30%	60%	10%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	0%	0%	30%	60%	10%							

ルーブリック																													
<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> <tr> <td>授業に対する積極性</td> <td>準備学習、事後学習はもとより積極的に授業に参加するなど、他の学生の模範となる授業態度であり、板書や課題提出ができた。</td> <td>準備学習、事後学習がなされ理解を深めるために受講し、板書や課題提出ができた。</td> <td>準備学習、事後学習がなされ普通に受講し、板書や課題提出ができた。</td> <td>準備学習、事後学習がなされていないが、板書や課題提出ができた。</td> <td>準備学習、事後学習がなかつた。板書や課題提出ができなかった。</td> </tr> <tr> <td>コンディショニングについての基礎知識・領域理解</td> <td>幅広い領域について基礎的な知識を持ち、それぞれの領域について理解し説明できた。</td> <td>多様な領域からの見解を深く理解できた。</td> <td>多様な領域からの見解を一定程度理解できた。</td> <td>多様な領域からの見解をある程度理解できた。</td> <td>多様な領域からの見解をまったく理解できなかった。</td> </tr> <tr> <td>知識に基づく思考・判断</td> <td>幅広い分野の知識・理解をもとにして、問題に対して多角的な思考力・判断力を行うことができた。</td> <td>多様な思考力・判断力が身につけることができた。</td> <td>多様な思考力・判断力が一定程度身につけることができた。</td> <td>多様な思考力・判断力がある程度身につけることができた。</td> <td>多様な思考力・判断力がまったく身につけることができなかった。</td> </tr> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	授業に対する積極性	準備学習、事後学習はもとより積極的に授業に参加するなど、他の学生の模範となる授業態度であり、板書や課題提出ができた。	準備学習、事後学習がなされ理解を深めるために受講し、板書や課題提出ができた。	準備学習、事後学習がなされ普通に受講し、板書や課題提出ができた。	準備学習、事後学習がなされていないが、板書や課題提出ができた。	準備学習、事後学習がなかつた。板書や課題提出ができなかった。	コンディショニングについての基礎知識・領域理解	幅広い領域について基礎的な知識を持ち、それぞれの領域について理解し説明できた。	多様な領域からの見解を深く理解できた。	多様な領域からの見解を一定程度理解できた。	多様な領域からの見解をある程度理解できた。	多様な領域からの見解をまったく理解できなかった。	知識に基づく思考・判断	幅広い分野の知識・理解をもとにして、問題に対して多角的な思考力・判断力を行うことができた。	多様な思考力・判断力が身につけることができた。	多様な思考力・判断力が一定程度身につけることができた。	多様な思考力・判断力がある程度身につけることができた。	多様な思考力・判断力がまったく身につけることができなかった。
評価項目		評価基準																											
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
授業に対する積極性	準備学習、事後学習はもとより積極的に授業に参加するなど、他の学生の模範となる授業態度であり、板書や課題提出ができた。	準備学習、事後学習がなされ理解を深めるために受講し、板書や課題提出ができた。	準備学習、事後学習がなされ普通に受講し、板書や課題提出ができた。	準備学習、事後学習がなされていないが、板書や課題提出ができた。	準備学習、事後学習がなかつた。板書や課題提出ができなかった。																								
コンディショニングについての基礎知識・領域理解	幅広い領域について基礎的な知識を持ち、それぞれの領域について理解し説明できた。	多様な領域からの見解を深く理解できた。	多様な領域からの見解を一定程度理解できた。	多様な領域からの見解をある程度理解できた。	多様な領域からの見解をまったく理解できなかった。																								
知識に基づく思考・判断	幅広い分野の知識・理解をもとにして、問題に対して多角的な思考力・判断力を行うことができた。	多様な思考力・判断力が身につけることができた。	多様な思考力・判断力が一定程度身につけることができた。	多様な思考力・判断力がある程度身につけることができた。	多様な思考力・判断力がまったく身につけることができなかった。																								

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	スポーツとヘルスケア (科目ナンバリング: SPS422073, SPS522058)				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 和裕 (経営学科・准教授)、三嶋 康嗣 (経営学科・専任講師)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 佐藤 和裕)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり 左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、スポーツとヘルスケアについての基礎的な科学的知識を深め指導する。				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『養成講習会用テキストReference Book』	JSPQ	公益財団法人日本スポーツ協会			
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス(シラバスの説明) 授業改善アンケート結果反映の説明(佐藤和裕)	事前にシラバスを読んで確認しておく(90分)	ガイダンスの内容を理解しておく(90分)
2	特殊環境下での対応(三嶋康嗣)	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく(90分)	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく(90分)
3	ドーピング防止(三嶋康嗣)	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく(90分)	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく(90分)
4	競技力向上のためのチームマネジメント(三嶋康嗣)	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく(90分)	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく(90分)
5	競技力向上のための情報とその活用(三嶋康嗣)	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく(90分)	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく(90分)
6	指導者の心構え・視点(佐藤和裕)	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく(90分)	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく(90分)
7	アスリートの健康管理(佐藤和裕)	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく(90分)	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく(90分)
8	アスリートの内伤的障害と対策(佐藤和裕)	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく(90分)	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく(90分)
9	アスリートの外傷・障害と対策(佐藤和裕)	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく(90分)	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく(90分)
10	アスレティックリハビリテーションとトレーニング計画(佐藤和裕)	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく(90分)	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく(90分)
11	アスリートの育成・強化(佐藤和裕)	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく(90分)	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく(90分)
12	コンディショニングの手法・ストレッチング、アイシング(佐藤和裕)	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく(90分)	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく(90分)
13	コンディショニングの手法・テーピング(佐藤和裕)	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく(90分)	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく(90分)
14	コンディショニングの手法・スポーツマッサージ(佐藤和裕)	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく(90分)	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく(90分)
15	スポーツによる精神障害と対策(佐藤和裕)	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく(90分)	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく(90分)
16	まとめ・授業改善アンケートの実施(佐藤和裕)	ノート、プリントで講義内容を確認しておく(90分)	専門用語の意味や授業内容を理解しておく(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	美術学概論 (科目ナンバリング: AEA211001)				
授業担当者(所属・職名)	竹内 美帆(デザイン学科・専任講師)	研究室等所在	未定		
単位数	2 (単位認定責任者: 竹内 美帆)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	美術館での勤務や、公的なメディア芸術関連事業に関わった経験をもとに、美術学を講義する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

社会や文化における美術の意義や歴史、美術に関して問われてきたことを学び、多様な視点を理解する。美術に関する表現活動を行う者として、芸術文化一般についての視野を広げ、批評的な考え方を身につけることができる。

授業の位置づけ

デザイン学科のD P (1) (2) (4)に対応する。

到達目標

美術に関するこれまでの論点を理解できる。美術作品を制作し鑑賞するための、基礎能力を養う。自分の考えを根拠づけ明確に他者に表現する力を身につける。

授業全体の内容と概要

これまで美術に関して問われてきたさまざまなトピックを考えることを通して、社会における美術作品の意義を捉えなおし、美術について多様な視点から考える力を養う。

授業の方法

講義形式で、パワーポイントやレジュメ、視聴覚メディア等を使って実施する。授業内のトピックについてグループワークやディスカッションも取り入れる。授業で使用する資料はTeams等の学習支援システムを活用して配布、回収するほか、学生の不明点・質問は、チャット形式などの支援システムで迅速に回答する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		P B L
	模範授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

事前学習として、授業内で取り上げるテーマについて事前に書籍やインターネット等で予習し、事後学習として取り上げたテーマを掘り下げて調べると、より理解が深まる。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する可能性がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程必修 高・美術

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は10回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
30%	0%	0%	30%	40%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
授業内容の理解	授業で得た用語や概念の理解を通して、社会や文化に対する深い洞察力をもって自分独自のテーマを考察できた。	授業で得た用語や概念の理解を通して、自分独自のテーマを考察できた。	授業で得た用語や概念の理解を通して、授業で示された範囲のテーマを考察できた。	授業で得た用語や概念が理解できた。	授業内で使われた用語や概念の理解が不十分だった。
文献や資料の調査・活用	授業で取り上げた資料を越えて、独自性のある調査ができた。	授業で取り上げた資料を越えて、必要な調査ができた。	授業で取り上げた資料を理解し活用できた。	授業で取り上げた資料を理解できた。	授業で取り上げた資料の理解・活用が不十分だった。
論理・文章表現力	自身の観点から、深い洞察をもって論考を書くことができた。	自身の観点から、十分に考えられた内容の論考を書くことができた。	自身の観点はまだ不十分だが、十分に考えられた内容の論考を書くことができた。	課題に応じた内容・形式の論考を書くことができた。	課題に応じた内容・形式の論考を書くことができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	美術学概論 (科目ナンバリング: AEA211001)				
授業担当者(所属・職名)	竹内 美帆(デザイン学科・専任講師)	研究室等所在	未定		
単位数	2 (単位認定責任者: 竹内 美帆)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	美術館での勤務や、公的なメディア芸術関連事業に関わった経験をもとに、美術学を講義する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『西洋美術史入門』	池上英洋	ちくまプリマー新書	2012	9784480688767	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 授業のオリエンテーション 授業改善アンケート結果反映の説明 美術/芸術とは何か。なぜ美術を学ぶ必要があるのか	シラバスを読んでおく(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(90分)
2	美術作品とは何か 美術作品を「読む」ということ	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(90分)
3	美術の技法とジャンル(1)技法	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(90分)
4	美術の技法とジャンル(2)ジャンル	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(90分)
5	社会と美術(1)美術の社会的役割 社会を見るための窓	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(90分)
6	社会と美術(2)美的価値と社会	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(90分)
7	小テスト(1) 美術と文化 「文化」とは何か	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(90分)
8	美術における「作者」とは何か 近代美術における「作者」の誕生	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(90分)
9	美術における「オリジナリティ」とは何か	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(90分)
10	モダニズムとポストモダニズム	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(90分)
11	小テスト(2) 美術館(1)美術館とは何か 美術館の役割	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(90分)
12	美術館(2)美術館の歴史	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(90分)
13	美術館(3)美術館の現在の課題(日本の課題)	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(90分)
14	美術とジェンダー 女性作家の問題 女性の表象	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(90分)
15	まとめ 授業改善アンケート実施	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(90分)
16	定期試験 試験のフィードバック	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく(90分)	これまでの授業内容を復習する(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	西洋美術史 (科目ナンバリング: FAH211010)				
授業担当者(所属・職名)	竹内 美帆(デザイン学科・専任講師)	研究室等所在	未定		
単位数	2 (単位認定責任者: 竹内 美帆)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

ルネサンス以降の西洋の絵画を中心とする美術の歴史を理解する。各時代を代表する画家の主要作品を通して、西洋美術に慣れ親しむとともに、その画家や作品を生み出した社会や文化に対する理解を深める。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP (1) (2) (4) に対応する。

到達目標

西洋美術史の時代区分、様式、流派、個々の美術作品などに対する基礎的な知識を習得する。個々の作品の特徴や社会的背景などについて自分の言葉で説明することができる。

授業全体の内容と概要

西洋美術の流れを概観し、具体的な作品を取り上げながら、個々の美術作品の特徴や時代区分、様式、流派について学び、作品の背景にあるものを含めて、美術作品を「視る」能力を高める。

授業の方法

講義形式で、パワーポイントやレジュメ、視聴覚メディア等を使って実施する。グループワークやディスカッションも取り入れる。授業で使用する資料はTeams等の学習支援システムを活用して配布、回収するほか、学生の不明点・質問は、チャット形式などの支援システムで迅速に回答する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模範授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

事前学習として、授業内で取り上げる作品について事前にテキストやインターネット等で予習し、事後学習として取り上げた作家の他の作品について調べると、理解が深まる。教科書は西洋美術史でも使用するため、必ず購入すること。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程必修 高・美術、工芸

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は10回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
30%	0%	0%	30%	40%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
美術史の内容に対する理解度	授業で得た用語や概念の理解を通して、社会や文化に対する深い洞察力をもって自分独自の視点から考察できた。	授業で得た用語や概念の理解を通して、自分独自の視点から考察できた。	授業で得た用語や概念の理解を通して、授業で示された範囲のテーマを考察できた。	授業で得た用語や概念が理解できた。	授業内で使われた用語や概念の理解が不十分だった。
文献や資料の調査・活用	授業で取り上げた資料を越えて、独自性のある調査ができた。	授業で取り上げた資料を越えて、必要な調査ができた。	授業で取り上げた資料を理解し活用できた。	授業で取り上げた資料を理解できた。	授業で取り上げた資料の理解・活用が不十分だった。
表現力	他人が納得できるように、自分独自の視点を論理的な妥当性・整合性をもって述べることができた。	授業で学んだことを生かして、自分独自の視点を、論理的妥当性・整合性をもって述べることができた。	授業で学んだことを生かして、論理的妥当性・整合性をもって自分の考えを述べることができた。	自分の意見を述べることができた。	講義中や期末テストで自分の意見を述べられなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	西洋美術史 (科目ナンバリング: FAH211010)				
授業担当者(所属・職名)	竹内 美帆(デザイン学科・専任講師)	研究室等所在	未定		
単位数	2 (単位認定責任者: 竹内 美帆)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『いちばん親切な西洋美術史』	池上英洋、川口清香、荒井咲紀	新星出版社	2016	9784405072282	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『美術でめぐる 西洋史年表』	池上英洋、青野尚子	新星出版社	2021	9784405108134	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明、授業についてのオリエンテーション、授業改善アンケート結果反映の説明 なぜ美術史を学ぶのか、プロト・ルネサンス	シラバスを読んでおく(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(90分)
2	初期ルネサンス(1)遠近法の発見 ルネサンスの背景 プルネッレスキ、マザッチョ、ドナテッロ	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(90分)
3	初期ルネサンス(2)古典復興と芸術革新、ポッティエリ	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(90分)
4	盛期ルネサンス(1)レオナルド・ダ・ヴィンチ	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(90分)
5	盛期ルネサンス(2)ミケランジェロ、ラファエッロ	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(90分)
6	盛期ルネサンス(3)ティツィアーノとヴェネツィア派	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(90分)
7	小テスト(1) 北方ルネサンス(1)ヤン・ファン・エイク、ボス、デューラー	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(90分)
8	マニエリスム 古典的理想美からの逸脱	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(90分)
9	バロック美術(1)イタリアにおけるバロックの成立 カラッチ、カラヴァッジョ	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(90分)
10	バロック美術(2)絶対王政を支えた画家たち ルーベンス	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(90分)
11	小テスト(2) バロック美術(3)スペイン・ベラスケス	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(90分)
12	バロック美術(4)オランダ 風景画の成立 静物画とヴァニタス	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(90分)
13	バロック美術(5)オランダ フェルメール レンブラント	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(90分)
14	ロココ美術	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(90分)
15	まとめ	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(90分)
16	定期試験 フィードバック 授業改善アンケート実施	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。(90分)	授業内容を復習する(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	スポーツ経営管理論 (科目ナンバリング: SPS422066, SPS512010)				
授業担当者(所属・職名)	信濃 吉彦(経営学科・教授)	研究室等所在	2号館6階		
単位数	2 (単位認定責任者: 信濃 吉彦)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

体育・スポーツを経営学の視点から捉え、指導者(リーダー)として、体育・スポーツ経営管理に必要な基本的知識や基礎理論を理解し、体育・スポーツ経営管理の考え方や各領域の具体的な動向について学ぶ。

授業の位置づけ

経営学科DPの(1)、(3)、(5)に対応する。

到達目標

学校教育およびスポーツ団体における経営の問題点や課題について理解し、各種スポーツの運営や学校教育における体育やスポーツ活動に関して理解を深めることができる。

授業全体の内容と概要

体育・スポーツ経営管理について、知識や理論として学ぶだけでなく、実践的な能力を身につけることを目指す。学校における教科体育や体育的行事、運動部活動、職場・地域のスポーツクラブ等様々な領域におけるスポーツ経営管理の内容・方法・形態・評価など、具体的な実践事例を挙げ授業を進める。

授業の方法

講義形式で授業を行う。既習範囲の内容やハンドアウトを利用し、スポーツにおけるマネジメントの在り方を理解する。ノートの作り方や課題、予習復習の内容・やり方についてはその都度授業中に指示を出す。座席は全席指定としスマホの使用は指示があるとき以外は認めない。板書の写真撮影は認めるが次回の授業までに必ずノートに転記すること。講義資料はその都度配布する。課題や不明点に関してはネットや経営学辞典等で調べたものを必ずノートに筆記保存すること。与えられた課題については個別対応は行わず、授業内でディスカッション形式で確認を行うものとする。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模範授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

出席および授業参加度を重視する。出席とは、教科書・ノート・筆記用具の3点セットを持参することを意味する。授業参加度とは、発言や質問等の積極性を意味し私語・居眠り・スマホゲーム・LINE等の授業妨害行為およびテキストを持参しない学生・手ぶらで着席している学生に関しては欠席扱いとする。中間試験は実施しない。課題提出を複数回行う。ノート提出を1回課し、最終評価の対象とする。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

スポーツソーシャルワーカー資格課程科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な出席回数は、試験実施回を含めて11回以上とする。遅刻は20分までとし2回の遅刻を1回の欠席として扱う。予習復習を心がけ、知らない・分からない事柄は必ず調べてノートに記録すること。ノート提出は平常点の最大50%に換算する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	0%	20%	0%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあたるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	定期試験で90点以上の得点を挙げた。	定期試験で80点以上の得点を挙げた。	定期試験で70点以上の得点を挙げた。	定期試験で60点以上の得点を挙げた。	定期試験で60点をクリアすることができなかった。
思考力・判断力・表現力	積極的に課題に取り組み、意思決定において必要となる理論の運用を学び、経営学における実践力を獲得するための努力をしている。	与えられた課題に取り組み、マネジメントの真髓や各種理論への理解が深まりつつある。	与えられた課題に取り組み、意思決定に至る考え方や各種理論の理解に対する努力が見られる。	与えられた課題に取り組み、経営バランスを理解するための努力は認められるがなかなか定着していない。	課題への取り組みが不十分で、意思決定につながる過程とバランスへの理解に対する進歩が見られず、自分自らのデータベースができていない。
主体性	自己の目標をしっかりと設定し、データベース化に取り組み、余った時間をさらに定義や理論の研究・理解に振り分けている。	質問が多く、学習方法や調査結果などの相談も常であり経営学における意思決定やデータベース化に関して前向きで、努力が窺える。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がつかかわれる。	何とか課題はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、ノートも板書の範囲を超えない。	自分から進んでマネジメント力を身につけようとする姿勢が見られない。



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	<b>スポーツ経営管理論</b> (科目ナンバリング: SPS422066, SPS512010)				
授業担当者(所属・職名)	信濃 吉彦(経営学科・教授)	研究室等所在	2号館6階		
単位数	2 (単位認定責任者: 信濃 吉彦)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『体育・スポーツ経営学講義』	八代 勉・中村 平	大修館書店	2002	9784469264807	2013年第11刷発行
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション: シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 現代スポーツと体育・スポーツ経営学 <スボ	専用のノートを準備する(90分)	ノートによる情報のデータベース化を行うこと(90分)
2	体育・スポーツ経営とは	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える(90分)
3	体育・スポーツ経営とは	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える(90分)
4	体育・スポーツ事業と経営資源	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える(90分)
5	体育・スポーツ事業と経営資源	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える(90分)
6	体育・スポーツ事業の進め方	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える(90分)
7	体育・スポーツ事業の進め方	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える(90分)
8	よい体育・スポーツ経営の条件	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える(90分)
9	よい体育・スポーツ経営の条件	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える(90分)
10	学校週5日制時代の体育・スポーツ経営	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える(90分)
11	学校週5日制時代の体育・スポーツ経営	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える(90分)
12	『みるスポーツ』の経営	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える(90分)
13	『みるスポーツ』の経営	ノート提出に備える(90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える(90分)
14	ノートチェック	ノート提出に備える(90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える(90分)
15	テストレビュー&ノートチェック 授業改善アンケートの実施	ノート提出に備える(90分)	試験に備える(90分)
16	試験および総括	試験に備える(150分)	本科目の総復習(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	スポーツ経営管理論 (SP) (科目ナンバリング: SPS422066, SPS512010)				
授業担当者(所属・職名)	信濃 吉彦 (経営学科・教授)	研究室等所在	2号館 6階		
単位数	2 (単位認定責任者: 信濃 吉彦)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示板等を参照				

概要

履修目標

体育・スポーツを経営学の視点から捉え、指導者(リーダー)として、体育・スポーツ経営管理に必要な基本的知識や基礎理論を理解し、体育・スポーツ経営管理の考え方や各領域の具体的な動向について学ぶ。

授業の位置づけ

経営学科DPの(1)、(3)、(5)に対応する。

到達目標

学校教育およびスポーツ団体における経営の問題点や課題について理解し、各種スポーツの運営や学校教育における体育やスポーツ活動に関して理解を深めることができる。

授業全体の内容と概要

体育・スポーツ経営管理について、知識や理論として学ぶだけでなく、実践的な能力を身につけることを目指す。学校における教科体育や体育的行事、運動部活動、職場・地域のスポーツクラブ等様々な領域におけるスポーツ経営管理の内容・方法・形態・評価など、具体的な実践事例を挙げ授業を進める。

授業の方法

講義形式で授業を行う。既習範囲の内容やハンドアウトを利用し、スポーツにおけるマネジメントの在り方を理解する。ノートの作り方や課題、予習復習の内容・やり方についてはその都度授業中に指示を出す。座席は全席指定としスマホの使用は指示があるとき以外は認めない。板書の写真撮影は認めるが次回の授業までに必ずノートに転記すること。講義資料はその都度配布する。課題や不明点に関してはネットや経営学辞典等で調べたものを必ずノートに筆記保存すること。与えられた課題については個別対応は行わず、授業内でディスカッション形式で確認を行うものとする。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模範授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

出席および授業参加度を重視する。出席とは、教科書・ノート・筆記用具の3点セットを持参することを意味する。授業参加度とは、発言や質問等の積極性を意味し私語・居眠り・スマホゲーム・LINE等の授業妨害行為およびテキストを持参しない学生・手ぶらで着席している学生に関しては欠席扱いとする。中間試験は実施しない。課題提出を複数回行う。ノート提出を1回課し、最終評価の対象とする。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

スポーツソーシャルワーカー資格課程科目 保健体育教員養成課程科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な出席回数、試験実施回を含めて13回以上とする。遅刻は20分までとし2回の遅刻を1回の欠席として扱う。予習復習を心がけ、知らない・分からない事柄は必ず調べてノートに記録すること。ノート提出は平常点の最大50%に換算する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	0%	20%	0%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあたるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	定期試験で90点以上の得点を挙げた。	定期試験で80点以上の得点を挙げた。	定期試験で70点以上の得点を挙げた。	定期試験で60点以上の得点を挙げた。	定期試験で60点をクリアすることができなかった。
思考力・判断力・表現力	積極的に課題に取り組み、意思決定において必要となる理論の運用を学び、経営学における実践力を獲得するための努力をしている。	与えられた課題に取り組み、マネジメントの真髄や各種理論への理解が深まりつつある。	与えられた課題に取り組み、意思決定に至る考え方や各種理論の理解に対する努力が見られる。	与えられた課題に取り組み、経営バランスを理解するための努力は認められるがなかなか定着していない。	課題への取り組みが不十分で、意思決定につながる過程とバランスへの理解に対する進歩が見られず、自分自らのデータベースができていない。
主体性	自己の目標をしっかりと設定し、データベース化に取り組み、余った時間をさらに定義や理論の研究・理解に振り分けている。	質問が多く、学習方法や調査結果などの相談も常であり経営学における意思決定やデータベース化に関して前向きで、努力が窺える。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がつかかわれる。	何とか課題はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、ノートも板書の範囲を超えない。	自分から進んでマネジメント力を身につけようとする姿勢が見られない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	<b>体育・経営管理論 (SP)</b> (科目ナンバリング: SPS422066, SPS512010)				
授業担当者(所属・職名)	信濃 吉彦(経営学科・教授)	研究室等所在	2号館6階		
単位数	2 (単位認定責任者: 信濃 吉彦)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『体育・スポーツ経営学講義』	八代 勉・中村 平	大修館書店	2002	9784469264807	2013年第11刷発行
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション: シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 現代スポーツと体育・スポーツ経営学 <スボ	専用のノートを準備する(90分)	ノートによる情報のデータベース化を行うこと(90分)
2	体育・スポーツ経営とは	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える(90分)
3	体育・スポーツ経営とは	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える(90分)
4	体育・スポーツ事業と経営資源	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える(90分)
5	体育・スポーツ事業と経営資源	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える(90分)
6	体育・スポーツ事業の進め方	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える(90分)
7	体育・スポーツ事業の進め方	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える(90分)
8	よい体育・スポーツ経営の条件	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える(90分)
9	よい体育・スポーツ経営の条件	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える(90分)
10	学校週5日制時代の体育・スポーツ経営	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える(90分)
11	学校週5日制時代の体育・スポーツ経営	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える(90分)
12	『みるスポーツ』の経営	テキストの指定範囲を読み込む(90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える(90分)
13	『みるスポーツ』の経営	ノート提出に備える(90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える(90分)
14	ノートチェック	ノート提出に備える(90分)	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える(90分)
15	テストレビュー&ノートチェック 授業改善アンケートの実施	ノート提出に備える(90分)	試験に備える(90分)
16	試験および総括	試験に備える(150分)	本科目の総復習(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	発達心理学 (科目ナンバリング: EDP122066)				
授業担当者(所属・職名)	蝦名 美穂(社会福祉学科・専任講師)		研究室等所在	未定	
単位数	2	(単位認定責任者: 蝦名 美穂)	CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	臨床心理士・公認心理師の資格を持ち、スクールカウンセラーとして相談活動や乳幼児の発達相談での経験を踏まえて、講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示板等を参照				

概要

履修目標

1. 保育実践にかかわる発達理論等の心理学的知識を理解する。  
 2. 生涯発達  
 の観点から、発達過程や乳幼児期の位置づけを理解し、保育における人との相互的関わりや環境の重要性について理解する。  
 3. 人の発達に関わる心理学の基礎知識を学び、養護および教育の一体性や発達に即した援助の基本となる人への理解を深める。

授業の位置づけ

社会福祉学部のDP(2)、(3)、(5)に対応する。

到達目標

発達過程における心理学の基礎知識の習得することができる。習得した知識を子どもを理解する上で用いることができる。

授業全体の内容と概要

「発達」を人の誕生(受胎)から死に至るまでの心身の変化ととらえ、発達過程をいくつかの段階にわけ、各段階の特徴について学ぶ。

授業の方法

授業では、テキスト、パワーポイント、板書、配布資料等を適宜活用した講義形式で行う。  
 授業の終わりに質問や感想(リアクションシート)を提出する。質問は随時受け付ける。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

自分で振り返ることができるようなノートや資料づくりを心がける。  
 授業の進行を妨害するような行為、他の受講者の迷惑となる行為(私語など)を慎む。  
 不測の事態が起きた際にはオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

保育士資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は星槎道都大学学生便覧に準ずる。  
 定期試験、授業の終わりに提出する感想等(リアクションシート)、授業態度を評価の対象とする。 再試験は実施しない。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70%	0%	0%	0%	20%	10%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解	授業で扱った内容(発達心理学の基本的用語等)について理解し、用語の説明を資料等を見ずに説明することができた。	授業で扱った内容(発達心理学の基本的用語等)について理解し、用語の説明を資料等を見ながら説明することができた。	授業で扱った内容(発達心理学の基本的用語等)について理解し、用語の説明を資料等の中から探すことができるようにノートや資料がまとめられた。	授業で扱った内容(発達心理学の基本的用語等)について、ノートにまとめることができた。	授業で扱った内容についてノートにまとめることができなかった。
知識の応用	発達心理学の基礎知識を利用して、子どもの状況理解ができ、資料等を見ずに説明することができた。	発達心理学の基礎知識を利用して、子どもの状況理解ができ、資料等を見ながら説明することができた。	子どもの状況を発達心理学の基礎知識の中から探すことができた。	子どもの状況を言葉で表すことができた。	左記の内容が何一つすることができなかった。
授業に主体的に取り組む態度(リアクションシート含む)	授業内容に関心をもち、自身の授業態度について客観的に振り返ることができた。且つ、授業内容を振り返る感想だけでなく、疑問点を明確にすることができ、自分なりの考えを述べられた。	授業内容に関心をもち、自身の授業態度について客観的に振り返ることができた。且つ、授業内容を振り返り感想を述べ、疑問点を明確にすることができた。	授業内容に関心をもち、自身の授業態度について客観的に振り返ることができた。且つ、授業内容を振り返り感想を述べられた。	授業内容を振り返り感想を述べられた。	左記の内容が何一つすることができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	発達心理学 (科目ナンバリング: EDP122066)				
授業担当者(所属・職名)	蝦名 美穂(社会福祉学科・専任講師)		研究室等所在	未定	
単位数	2 (単位認定責任者: 蝦名 美穂)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 臨床心理士・公認心理師の資格を持ち、スクールカウンセラーとして相談活動や乳幼児の発達相談での経験を踏まえて、講義を行う。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『完全カラー図解よくわかる 発達心理学』	渡辺 弥生	ナツメ社	2021	978-4-8163-7057-1	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『発達心理学15講』	高橋一公・中川佳子	北大路出版	2014	978-4-7628-3057-0	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 発達心理学とは、生	発達心理学で学ぶことについて調べる(90分)	発達心理学で学ぶ内容について振り返る(90分)
2	胎児期・乳幼児期の発達 お腹の中にいる時の 赤ちゃんは何をしているのだろうか？	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する(90分)
3	胎児期・乳幼児期の発達 赤ちゃんは意外とず ごいんです。乳児の認知、運動発達等	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する(90分)
4	胎児期・乳幼児期の発達 愛着形成について	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する(90分)
5	幼児期の発達 言葉の発達	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する(90分)
6	幼児期の発達 ピアジェの発達段階	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する(90分)
7	幼児期の発達 遊びの発達	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する(90分)
8	幼児期の発達 社会性の発達	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する(90分)
9	幼児期の発達 感情の発達	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する(90分)
10	発達障害について	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する(90分)
11	児童期の発達 ピアジェの発	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する(90分)
12	児童期の発達 動機づけ、自尊心、友	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する(90分)
13	青年期の発達 第二次性徴～友達づき	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する(90分)
14	成人期・高齢期の発達	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する(90分)
15	これまでの授業のまとめ	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する(90分)
16	定期試験。60分の試験終了後、残りの30分で解説を行う。授業改善アンケートの実施。	これまでの学習内容について振り返る(90分)	試験の振り返りを行う(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	建築計画 (科目ナンバリング: APT312006)				
授業担当者(所属・職名)	安藤 淳一(建築学科・教授)	研究室等所在	2号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 安藤 淳一)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標
社会構造や価値観の多様化が顕著な今日の状況を的確に捉え、建築が社会に果たす役割や意味を再考すると共に、将来の建築のあり方を考える力を養う。また建築士試験科目の「建築計画」に対応すべく、建築計画全般(住宅地計画、都市計画等含む)にわたる基礎知識を修得する。

授業の位置づけ
建築学科のDP(2)(5)に対応する。

到達目標
建築の基本原理を知ることによって建築に対する興味が広がり、建築の仕事の魅力とやり甲斐を会得する。また、建築士試験の建築計画科目の設問に対する理解と解く力を養うことができる。

授業全体の内容と概要
授業内容を網羅した資料を毎回配布し、その授業資料に沿って授業を進める。毎回の授業のポイントが演習問題として課せられ、さらに詳細な解説も行うので集中して聴くことが求められる。 「SDGs11.住み続けられるまちづくりを」の関連授業

授業の方法
板書事項は授業内容を記した資料で賄う。プロジェクターで画像や図表を投影して解説するのが、授業内容の理解度を確認するため授業ノートを取りまとめた演習1を毎回授業終了後提出してもらう。情報量は多く、見て、聴いて、理解できる授業である。演習2は、提出後一人ずつ講評を記述して返却する。

アクティブラーニングの実施方法												
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模範授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL									
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業									
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)									

履修上の注意事項
授業開始時に配布する着席票に氏名を記入した後に回収するので、遅刻者は欠席扱いとなる。また、着席票をもとに意見発表を求め、受講態度もチェックされるので留意すること。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
「建築士試験受験資格科目」必修科目、教職課程(工業)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件												
原則毎回出席すること(最低出席回数10回以上)、毎回の授業内で行う演習評価点(授業成果)が単位認定(成績評価)の過半を占めるので、授業欠席や演習未提出は不合格に直結することになる。												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>20%</td> <td>0%</td> <td>70%</td> <td>10%</td> <td>0%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	20%	0%	70%	10%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	20%	0%	70%	10%	0%							

ルーブリック																													
<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> <tr> <td>建築が社会にはたす役割や意味を理解すると共に、将来の建築のあり方を考える力を修得する。</td> <td>建築が社会にはたす役割を理解でき、今後の建築のあり方が変化することを理解することができた。</td> <td>建築が社会にはたす役割を理解でき、今後の建築のあり方が変化することを理解することができた。</td> <td>建築が社会にはたす役割を理解できた。</td> <td>建築が社会にはたす役割をおおむね理解できた。</td> <td>建築が社会にはたす役割を理解できなかった。</td> </tr> <tr> <td>建築士試験科目の「建築計画」に対応する建築計画全般(住宅地計画、都市計画等含む)にわたる基礎知識を修得する。</td> <td>基礎知識を習得し、さらに建築士試験問題に取り組むことができた。</td> <td>基礎知識を習得し、さらに建築士試験内容を理解することができた。</td> <td>基礎知識を修得することができた。</td> <td>基礎知識をおおむね修得することができた。</td> <td>基礎知識を修得することができなかった。</td> </tr> <tr> <td>建築の基本原理を知ることによって建築に対する興味が広がり、建築の仕事の魅力とやり甲斐を会得する。また、建築士試験の建築計画科目の設問に対する理解と解く力を養うことができる。</td> <td>建築の基本原理に興味を持ち、さまざまな建築のあり方に対しても理解することができた。</td> <td>建築の基本原理に興味を持ち理解することができた。</td> <td>建築に対する興味を持つことができた。</td> <td>建築に対する興味をおおむね持つことができた。</td> <td>建築に対する興味を持つことができなかった。</td> </tr> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	建築が社会にはたす役割や意味を理解すると共に、将来の建築のあり方を考える力を修得する。	建築が社会にはたす役割を理解でき、今後の建築のあり方が変化することを理解することができた。	建築が社会にはたす役割を理解でき、今後の建築のあり方が変化することを理解することができた。	建築が社会にはたす役割を理解できた。	建築が社会にはたす役割をおおむね理解できた。	建築が社会にはたす役割を理解できなかった。	建築士試験科目の「建築計画」に対応する建築計画全般(住宅地計画、都市計画等含む)にわたる基礎知識を修得する。	基礎知識を習得し、さらに建築士試験問題に取り組むことができた。	基礎知識を習得し、さらに建築士試験内容を理解することができた。	基礎知識を修得することができた。	基礎知識をおおむね修得することができた。	基礎知識を修得することができなかった。	建築の基本原理を知ることによって建築に対する興味が広がり、建築の仕事の魅力とやり甲斐を会得する。また、建築士試験の建築計画科目の設問に対する理解と解く力を養うことができる。	建築の基本原理に興味を持ち、さまざまな建築のあり方に対しても理解することができた。	建築の基本原理に興味を持ち理解することができた。	建築に対する興味を持つことができた。	建築に対する興味をおおむね持つことができた。	建築に対する興味を持つことができなかった。
評価項目		評価基準																											
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
建築が社会にはたす役割や意味を理解すると共に、将来の建築のあり方を考える力を修得する。	建築が社会にはたす役割を理解でき、今後の建築のあり方が変化することを理解することができた。	建築が社会にはたす役割を理解でき、今後の建築のあり方が変化することを理解することができた。	建築が社会にはたす役割を理解できた。	建築が社会にはたす役割をおおむね理解できた。	建築が社会にはたす役割を理解できなかった。																								
建築士試験科目の「建築計画」に対応する建築計画全般(住宅地計画、都市計画等含む)にわたる基礎知識を修得する。	基礎知識を習得し、さらに建築士試験問題に取り組むことができた。	基礎知識を習得し、さらに建築士試験内容を理解することができた。	基礎知識を修得することができた。	基礎知識をおおむね修得することができた。	基礎知識を修得することができなかった。																								
建築の基本原理を知ることによって建築に対する興味が広がり、建築の仕事の魅力とやり甲斐を会得する。また、建築士試験の建築計画科目の設問に対する理解と解く力を養うことができる。	建築の基本原理に興味を持ち、さまざまな建築のあり方に対しても理解することができた。	建築の基本原理に興味を持ち理解することができた。	建築に対する興味を持つことができた。	建築に対する興味をおおむね持つことができた。	建築に対する興味を持つことができなかった。																								

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	建築計画 (科目ナンバリング: APT312006)				
授業担当者(所属・職名)	安藤 淳一 (建築学科・教授)	研究室等所在	2号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 安藤 淳一)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス シラバスの説明, 授業改善アンケート結果反映の説明, 「建築計画」で学ぶこと	シラバス事前確認(90分)	演習2作成(90分)
2	建築のかたち(1) 建築のかたちを規定する自然的条件 温湿度, 風, 日照・日射, 敷地形状, 街路	資料参照(90分)	演習2作成(90分)
3	建築のかたち(2) 建築のかたちを規定する人為的要素 起居方式, 歴史・伝統, 社会構造, 機能	資料参照(90分)	演習2作成(90分)
4	建築空間の性能(1) 快適性 熱環境, 光環境, 音環境, 空気環境, 心理環境	資料参照(90分)	演習2作成(90分)
5	建築空間の性能(2) 利便性 面積・容積, 高さ,ゾーニング, 動線計画, 空間の質と量	資料参照(90分)	演習2作成(90分)
6	建築空間の性能(3) 安全性 災害と安全, 避難計画, 内装制限, 排煙, 防火	資料参照(90分)	演習2作成(90分)
7	建築空間の性能(4) 耐久性と経済性 耐用年数, ライフサイクルコスト, S I方式, 保存・再生	資料参照(90分)	演習2作成(90分)
8	建築計画の基礎(1) 空間知覚の原理 五感と空間知覚, 視認距離, 囲み感, 黄金分割	資料参照(90分)	演習2作成(90分)
9	建築計画の基礎(2) 形態知覚と空間特性 ゲンシュタルト心理学, 空間感覚	資料参照(90分)	演習2作成(90分)
10	建築計画の基礎(3) 色彩, 色彩と心理, 色彩と環境	資料参照(90分)	演習2作成(90分)
11	建築計画の基礎(4) 寸法と規模と単位空間 人体寸法, 動作寸法, 規模算定, 単位空間, 階段・斜路	資料参照(90分)	演習2作成(90分)
12	建築計画の基礎(5) 空間の仕切り方とディテール 仕切りの手法, 収まりの手法	資料参照(90分)	演習2作成(90分)
13	居住施設計画(1) 戸建住宅と住宅地計画 住居の種類, 生活と間取り, 住環境計画, 日影規制	資料参照(90分)	演習2作成(90分)
14	居住施設計画(2) 集合住宅の計画 近隣組織, 地域福祉計画, 家族と住居	資料参照(90分)	演習2作成(90分)
15	居住施設計画(3) 住宅地計画 地域居住, 近隣組織, 地域福祉計画, 家族と住居	資料参照(90分)	演習2作成(90分)
16	試験(試験結果・解説ならびに提出課題の総評) 授業改善アンケートの実施	資料参照(90分)	最終振り返り(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	トレーニング科学 (科目ナンバリング: SPS422064, SPS522059)				
授業担当者(所属・職名)	篠原 諒介(経営学科・専任講師)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 篠原 諒介)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示板等を参照				

概要

履修目標

トレーニングは、働きかけの対象である身体機能を良く理解しなければ、効果が得られない場合もある。本講義では、トレーニングに関わる身体の仕組み・働きについて解説し、各種スポーツ、体力づくりに必要なトレーニングの基礎理論を理解させ、女性と運動、中年における健康に対する構成要素の知識を学ぶと共に障害者における運動と健康についても詳しく学習する。

授業の位置づけ

経営学科のDP(1)、(4)、(5)に対応する。

到達目標

身体機能の特性を理解し、トレーニングの原理・原則を熟知させ各人の性、年齢、体力、健康状態を考慮し、適正なトレーニングの処方計画を作成できるようにする。

授業全体の内容と概要

テキストを中心に授業を進め、授業の展開に応じて、レポートの提出やビデオを利用して理解を確実なものにする。

授業の方法

授業はパワーポイントを使用し、DVDの視聴、レポートなどの講義形式で実施する。また、レポートへの対応はコメントや解説などでフィードバックを行う。他にも、課題は講義内で学生に発表を行わせる。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

注意事項及び詳細に関しては、オリエンテーションで説明  
・不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、大学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(保健体育)選択科目 スポーツ指導者(スポーツリーダー)資格過程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、1回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
25%	30%	0%	25%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	学修した知識・技能を確実に修得するとともに、それらに関連した知識・技能についても獲得した	学修した知識・技能を確実に修得した	学修した知識・技能のすべてを修得することはできなかった	学修した知識・技能を修得したが最低限容認できるレベルにとどまった	学修に真面目に取り組まなかった
思考力・判断力・表現力等	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては求められるレベルを大きく超えた	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては、求められるレベルを達成した	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては、求められるレベルには達しなかった	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては最低限容認できるレベルにとどまった	与えられた課題に真面目に取り組まなかった
主体性・多様性・協働性	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協働性に関しては求められるレベルを大きく超えた	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては、求められるレベルを達成した	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては達しなかった	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては最低限容認できるレベルにとどまった	与えられた課題に真面目に取り組まなかった

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	トレーニング科学 (科目ナンバリング: SPS422064, SPS522059)				
授業担当者(所属・職名)	篠原 諒介(経営学科・専任講師)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 篠原 諒介)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『養成講習会用テキストReference Book』	JSPQ	公益財団法人日本スポーツ協会			
2						
3						
4						
5						

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明及び授業改善アンケート結果反映の説明 体力とは	教科書理解(90分)	学習内容の復習(90分)
2	トレーニングの進め方(原理、原則、トレーニング処方)	教科書理解(90分)	学習内容の復習(90分)
3	トレーニングの種類	教科書理解(90分)	学習内容の復習(90分)
4	運動器のしくみと働き 筋・骨格・神経系のしくみと働き	教科書理解(90分)	学習内容の復習(90分)
5	運動器のしくみと働き 間接・運動器の機能	教科書理解(90分)	学習内容の復習(90分)
6	運動器のしくみと働き 神経のコントロール	教科書理解(90分)	学習内容の復習(90分)
7	呼吸循環器系の働きとエネルギー供給 呼吸循環器系の働き	教科書理解(90分)	学習内容の復習(90分)
8	呼吸循環器系の働きとエネルギー供給 エネルギーの供給	教科書理解(90分)	学習内容の復習(90分)
9	スポーツバイオメカニクスの基礎(歩く、走る、跳ぶ、泳ぐ、投げる、蹴るなど)	教科書理解(90分)	学習内容の復習(90分)
10	中高年者とスポーツ	教科書理解(90分)	学習内容の復習(90分)
11	女性とスポーツ 身体的特徴について	教科書理解(90分)	学習内容の復習(90分)
12	女性とスポーツ 心理的特徴について	教科書理解(90分)	学習内容の復習(90分)
13	女性とスポーツ トレーナビリティとプログラム	教科書理解(90分)	学習内容の復習(90分)
14	障害者とスポーツ 障害者の理解	教科書理解(90分)	学習内容の復習(90分)
15	障害者とスポーツ 障害者の理解	教科書理解(90分)	学習内容の復習(90分)
16	テスト及び解説 60分の試験終了後、残り30分で解説 授業改善アンケートの実施	教科書理解(90分)	学習内容の復習(90分)

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	デザイン (科目ナンバリング: AEA211006)				
授業担当者(所属・職名)	西田 陽二 (デザイン学科・特任教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 西田 陽二)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	画家として活動経験を有する教員が、その経験を活かし実践に即してデザインについて教授する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示板等を参照				

概要

<b>履修目標</b>												
1: 質感・量感の描き方を理解する。 2: 陰影と固有色の描き分けを理解する。												
<b>授業の位置づけ</b>												
デザイン学科のDP(1)(2)に対応する。												
<b>到達目標</b>												
1. 基本形体の描法を身につけることができる。 2. 細部表現を身につけることができる。												
<b>授業全体の内容と概要</b>												
立方体・円柱・円錐・球体などの基本形体を基に正確な描写を行った後、石膏像頭像を描く。												
<b>授業の方法</b>												
プレゼンテーションは板書にて行う。授業形態は実技を行う。												
<b>アクティブラーニングの実施方法</b>												
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL									
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業									
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)									
<b>履修上の注意事項</b>												
知性と感性を十分に発揮し、根気強くたゆまなく努力すること。 作品の質・課題に取り組む姿勢・鑑賞力などを重視する。 不測の事が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。												

<b>修学サポート(合理的配慮)</b>
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
<b>資格指定科目</b>
教職課程(美術)必修科目

評価方法・基準

<b>評価前提条件</b>												
単位認定に必要な最低出席回数は、20回以上												
<b>評価方法</b>												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>80%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>20%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	0%	80%	0%	0%	20%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	0%	80%	0%	0%	20%							

<b>ルーブリック</b>																													
<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にいるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> <tr> <td>適正な構図、形のバランス(比例)が正しく捉えられていることを基準とする</td> <td>バランスよく配置や大きさが捉えられていた</td> <td>ほぼバランスよく配置されていた</td> <td>大きさ等が大体捉えられていた</td> <td>左右上下にバランスよく配置されていた</td> <td>左右により過ぎや、極端に大きい、小さい等</td> </tr> <tr> <td>光の方向や陰影の濃淡等が分かりやすく表現できているかを基準とする</td> <td>自然な光の流れが表現出来ていた</td> <td>ほぼ光の方向が表現出来ていた</td> <td>明るい、暗いの区分が出来ていた</td> <td>明暗で表現していた</td> <td>輪郭線等で囲って色を付けていた</td> </tr> <tr> <td>陰影法を正しく理解できているかを基準とする</td> <td>陰と投影を正しく理解し描き分けられている。質感の表現も出来ていた</td> <td>陰で立体表現が出来ていた</td> <td>光の流れで立体表現をしようとして言えた</td> <td>色の濃淡で表現していた</td> <td>輪郭の中に単色の調子を塗り込んでいた</td> </tr> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にいるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	適正な構図、形のバランス(比例)が正しく捉えられていることを基準とする	バランスよく配置や大きさが捉えられていた	ほぼバランスよく配置されていた	大きさ等が大体捉えられていた	左右上下にバランスよく配置されていた	左右により過ぎや、極端に大きい、小さい等	光の方向や陰影の濃淡等が分かりやすく表現できているかを基準とする	自然な光の流れが表現出来ていた	ほぼ光の方向が表現出来ていた	明るい、暗いの区分が出来ていた	明暗で表現していた	輪郭線等で囲って色を付けていた	陰影法を正しく理解できているかを基準とする	陰と投影を正しく理解し描き分けられている。質感の表現も出来ていた	陰で立体表現が出来ていた	光の流れで立体表現をしようとして言えた	色の濃淡で表現していた	輪郭の中に単色の調子を塗り込んでいた
評価項目		評価基準																											
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にいるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
適正な構図、形のバランス(比例)が正しく捉えられていることを基準とする	バランスよく配置や大きさが捉えられていた	ほぼバランスよく配置されていた	大きさ等が大体捉えられていた	左右上下にバランスよく配置されていた	左右により過ぎや、極端に大きい、小さい等																								
光の方向や陰影の濃淡等が分かりやすく表現できているかを基準とする	自然な光の流れが表現出来ていた	ほぼ光の方向が表現出来ていた	明るい、暗いの区分が出来ていた	明暗で表現していた	輪郭線等で囲って色を付けていた																								
陰影法を正しく理解できているかを基準とする	陰と投影を正しく理解し描き分けられている。質感の表現も出来ていた	陰で立体表現が出来ていた	光の流れで立体表現をしようとして言えた	色の濃淡で表現していた	輪郭の中に単色の調子を塗り込んでいた																								

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	デッサン (科目ナンバリング: AEA211006)				
授業担当者(所属・職名)	西田 陽二 (デザイン学科・特任教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 西田 陽二)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 画家として活動経験を有する教員が、その経験を活かし実践に即してデッサンについて教授する。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『使用しない』					
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『使用しない』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション デッサンのための用具の説明や目的について授業の流れについての説明	シラバスを読んでおくこと(45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
2	立方体(幾何形体)を描く	題材となるモチーフの構想を練っておくこと(45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
3	立方体(幾何形体)を描く	題材となるモチーフの構想を練っておくこと(45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
4	立方体の箱を描く	題材となるモチーフの構想を練っておくこと(45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
5	レンガとブロックを描く	題材となるモチーフの構想を練っておくこと(45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
6	レンガとブロックを描く	題材となるモチーフの構想を練っておくこと(45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
7	円柱(幾何形体)を描く	題材となるモチーフの構想を練っておくこと(45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
8	焼き丸太を描く	題材となるモチーフの構想を練っておくこと(45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
9	バケツとタオルを描く	題材となるモチーフの構想を練っておくこと(45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
10	バケツとタオルを描く	題材となるモチーフの構想を練っておくこと(45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
11	ビール瓶とグラスを描く	題材となるモチーフの構想を練っておくこと(45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
12	ビール瓶とグラスを描く	題材となるモチーフの構想を練っておくこと(45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
13	球体(幾何形体)を描く	題材となるモチーフの構想を練っておくこと(45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
14	紙風船を描く	題材となるモチーフの構想を練っておくこと(45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
15	サッカーボール(白と黒)を描く	題材となるモチーフの構想を練っておくこと(45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
16	サッカーボール(赤と黒)を描く	題材となるモチーフの構想を練っておくこと(45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17	石膏像(白い布で覆う)を描く	題材となるモチーフの構想を練っておくこと(45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
18	石膏像(白い布で覆う)を描く	題材となるモチーフの構想を練っておくこと(45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
19	石膏像(白い布で覆う)を描く 作品画像を保存	題材となるモチーフの構想を練っておくこと(45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
20	石膏像(頭像)を描く	題材となるモチーフの構想を練っておくこと(45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
21	石膏像(頭像)を描く	題材となるモチーフの構想を練っておくこと(45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
22	石膏像(頭像)を描く 作品画像を保存	題材となるモチーフの構想を練っておくこと(45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
23	石膏像(頭像)を描く	題材となるモチーフの構想を練っておくこと(45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
24	石膏像(頭像)を描く	題材となるモチーフの構想を練っておくこと(45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
25	石膏像(頭像)を描く 作品画像を保存	題材となるモチーフの構想を練っておくこと(45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
26	石膏像(頭像)を描く	題材となるモチーフの構想を練っておくこと(45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
27	石膏像(頭像)を描く	題材となるモチーフの構想を練っておくこと(45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
28	石膏像(頭像)を描く 作品画像を保存	題材となるモチーフの構想を練っておくこと(45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
29	石膏像(頭像)を描く	題材となるモチーフの構想を練っておくこと(45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
30	石膏像(頭像)を描く	題材となるモチーフの構想を練っておくこと(45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
31	石膏像(頭像)を描く 作品画像を保存	題材となるモチーフの構想を練っておくこと(45分)	講義内容の理解を深め要点をまとめておくこと(45分)
32	採点及び講評会を行う(解説・フィードバック)授業改善アンケートの記入	講評会の準備を行うこと(45分)	解説・フィードバックを受けて講義内容のふりかえりを行うこと(45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	イラストレーション (科目ナンバリング: AEA223042)				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 正人(デザイン学科・客員教授)		研究室等所在	2号館7階	
単位数	2	(単位認定責任者: 佐藤 正人)	CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザイン業界で長年携わる実務経験者が実践に即した実習を行う。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。				

概要

履修目標

本科目は、デザイン現場に於けるイラスト制作やイラストの多様性、表現方法を学び、イラストレーターとしての役割を実践形式で学び習得する。イラスト、デザイン、アートのみならず様々なものから積極的な探求心、研究心を養う。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP(1)(2)(3)(5)に対応する。

到達目標

アドバタイジング、エディトリアル各媒体目的を意識して完成度の高いオリジナル作品の完成を目指し、独自のイラスト表現を確立できる。

授業全体の内容と概要

マチエール、下地と画材表現の研究。また各課題のテーマ、コンセプトに合わせて個々の表現を模索して、オリジナルの方向性を確立。作品制作の中で実践的制作過程を学び、画材表現、イラスト表現を習得する。

授業の方法

各課題説明書に沿って各テーマに合ったアイデア発想、表現を考え、その後実技にてイラスト作品制作を行っていく。作品提出ごとにプレゼンを実施する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

遅刻3回で欠席1回とみなす。  
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は20回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	70%	0%	30%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
イラストレーションに対する制作意欲および授業態度。	授業の事前事後学習を進め意欲的な制作態度、取り組みがなされ模範的な授業態度であった。	授業の事前事後学習を進め、真面目に授業課題の作品制作に取り組んでいた。	授業課題、内容に真面目に取り組んでいた。	授業課題へ取り組みながらも制作意欲が乏しかった。	授業に対しての意欲が感じられず制作態度の取り組みに欠けていた。
イラスト表現における表現・描法への知識および理解。	授業内容に積極的に真剣に取り組む、知識の習得と理解度を深めていた。	授業内容に真剣に取り組む授業内容を充分理解していた。	授業内容を真面目に取り組む概ね理解していた。	授業内容への最低限の理解が見られた。	授業内容を理解していなかった。
イラスト表現への研究および習得。	授業内容を深く理解して研究心、習得の向上心が著しくあり実践的にも優れていた。	授業内容を充分理解して研究心があり習得して形になっていた。	授業内容を概ね理解して真面目に研究、習得していた。	授業内容への最低限の理解が見られた。	授業内容を理解せず研究心、習得への意欲に欠けていた。
イラストの多様性・実践的・制作への理解。	授業内容を深く理解して実践的応用や表現の多様性にも優れ、完成度にも著しく優れていた。	授業内容を充分理解して実践的・制作、多様性を習得して表現していた。	授業内容を概ね理解して真面目に多様性・実践的制作をしていた。	授業内容への最低限の理解が見られた。	授業内容を理解せず制作意欲に欠けていた。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	イラストレーション (科目ナンバリング: AEA223042)				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 正人(デザイン学科・客員教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 佐藤 正人)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 デザイン業界で長年携わる実務経験者が実践に即した実習を行う。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『マイワーク31a』	北海道イラストレーターズクラブアルファ				
2	『雑誌イラストレーション』		玄光社			バックナンバー
3	『イラストノート』		誠文堂新光社			バックナンバー
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション(イラストレーターの仕事について、イラスト表現の多様性、イラスト制作過程の注意点などについて講義)、シラバスの説明、授業	シラバスを読んでおくこと。(45分)	講義内容の理解を深め要点をまとめておくこと。(45分)
2	オリエンテーション(イラストレーターの仕事について、イラスト表現の多様性、イラスト制作過程の注意点などについて講義)、シラバスの説明。	シラバスを読んでおくこと。(45分)	講義内容の理解を深め要点をまとめておくこと。(45分)
3	マチエール、下地の研究1。ジェッツを中心に各メディアの特性を実技して行く。	制作作業に使用する道具の準備を行っておくこと。(45分)	各マチエール、メディアの特性の理解を深めておくこと。(45分)
4	マチエール、下地の研究1。ジェッツを中心に各メディアの特性を実技して行く。	制作作業に使用する道具の準備を行っておくこと。(45分)	各マチエール、メディアの特性の理解を深めておくこと。(45分)
5	マチエール、下地の研究2。ジェッツを中心に各メディアの特性を実技して行く。	制作作業に使用する道具の準備を行っておくこと。(45分)	各マチエール、メディアの特性の理解を深めておくこと。(45分)
6	マチエール、下地の研究2。ジェッツを中心に各メディアの特性を実技して行く。	制作作業に使用する道具の準備を行っておくこと。(45分)	各マチエール、メディアの特性の理解を深めておくこと。(45分)
7	アドバタイジングイラストレーションの研究、実習・1。	課題説明書を読みイラスト制作の構想を練っておくこと。(45分)	講義内容を理解して作品制作へ向けて取り組みを進めること。(45分)
8	アドバタイジングイラストレーションの研究、実習・1。	課題説明書を読みイラスト制作の構想を練っておくこと。(45分)	講義内容を理解して作品制作へ向けて取り組みを進めること。(45分)
9	アドバタイジングイラストレーションの研究、実習・2。	課題説明書を読みイラストラフを完成しておくこと。(45分)	作品制作へ向けて取り組みを進めること。(45分)
10	アドバタイジングイラストレーションの研究、実習・2。	課題説明書を読みイラストラフを完成しておくこと。(45分)	作品制作へ向けて取り組みを進めること。(45分)
11	アドバタイジングイラストレーションの研究、実習・3。	作品制作へ向けて取り組みを進めておくこと。(45分)	作品制作へ向けて取り組みを進めること。(45分)
12	アドバタイジングイラストレーションの研究、実習・3。	作品制作へ向けて取り組みを進めること。(45分)	作品制作へ向けて取り組みを進めること。(45分)
13	アドバタイジングイラストレーションの研究、実習・4。	作品制作へ向けて取り組みを進めておくこと。(45分)	作品制作へ向けて取り組みを進めること。(45分)
14	アドバタイジングイラストレーションの研究、実習・4。	作品制作へ向けて取り組みを進めること。(45分)	作品制作へ向けて取り組みを進めること。(45分)
15	アドバタイジングイラストレーション研究、実習・5。コンセプトシート記載後にプレゼン実施。作品提出。	作品完成、プレゼンテーションへ向けて準備をしておくこと。(45分)	講義内容の理解を深め要点をまとめておくこと。(45分)
16	アドバタイジングイラストレーション研究、実習・5。コンセプトシート記載後にプレゼン実施。作品提出。	作品完成、プレゼンテーションへ向けて準備をしておくこと。(45分)	講義内容の理解を深め要点をまとめておくこと。(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17	エディトリアルイラストレーション研究、実習・1。	課題説明書を読みイラスト制作の構想を練っておくこと。(45分)	講義内容を理解して作品制作へ向けて取り組みを進めること。(45分)
18	エディトリアルイラストレーション研究、実習・1。	課題説明書を読みイラスト制作の構想を練っておくこと。(45分)	講義内容を理解して作品制作へ向けて取り組みを進めること。(45分)
19	エディトリアルイラストレーション研究、実習・2。	課題説明書を読みイラストラフを完成しておくこと。(45分)	作品制作へ向けて取り組みを進めておくこと。(45分)
20	エディトリアルイラストレーション研究、実習・2。	作品制作へ向けて取り組みを進めておくこと。(45分)	作品制作へ向けて取り組みを進めること。(45分)
21	エディトリアルイラストレーション研究、実習・3。	作品制作へ向けて取り組みを進めておくこと。(45分)	作品制作へ向けて取り組みを進めておくこと。(45分)
22	エディトリアルイラストレーション研究、実習・3。	作品制作へ向けて取り組みを進めておくこと。(45分)	作品制作へ向けて取り組みを進めること。(45分)
23	エディトリアルイラストレーション研究、実習・4。	作品制作へ向けて取り組みを進めておくこと。(45分)	作品完成へ向けて取り組みを進めること。(45分)
24	エディトリアルイラストレーション研究、実習・4。	作品制作へ向けて取り組みを進めておくこと。(45分)	作品完成へ向けて取り組みを進めること。(45分)
25	エディトリアルイラストレーション研究、実習・5。コンセプトシート記載後にプレゼン実施。作品提出。	作品完成、プレゼンテーションへ向けて準備をしておくこと。(45分)	講義内容の理解を深め要点をまとめておくこと。(45分)
26	エディトリアルイラストレーション研究、実習・5。コンセプトシート記載後にプレゼン実施。作品提出。	作品完成、プレゼンテーションへ向けて準備をしておくこと。(45分)	講義内容の理解を深め要点をまとめておくこと。(45分)
27	オリジナルイラストレーション研究、実習・1。	課題説明書を読みイラスト制作の構想を練っておくこと。(45分)	講義内容を理解して作品制作へ向けて取り組みを進めること。(45分)
28	オリジナルイラストレーション研究、実習・1。	課題説明書を読みイラスト制作の構想を練っておくこと。(45分)	講義内容を理解して作品制作へ向けて取り組みを進めること。(45分)
29	オリジナルイラストレーション研究、実習・2。	作品制作へ向けて取り組みを進めておくこと。(45分)	作品制作へ向けて取り組みを進めておくこと。(45分)
30	オリジナルイラストレーション研究、実習・2。	作品制作へ向けて取り組みを進めておくこと。(45分)	作品制作へ向けて取り組みを進めておくこと。(45分)
31	オリジナルイラストレーション研究、実習・3。総合プレゼンテーション&全体講評会。	作品完成、プレゼンテーションへ向けて準備をしておくこと。(45分)	講義内容の理解を深め要点をまとめておくこと。(45分)
32	オリジナルイラストレーション研究、実習・3。総合プレゼンテーション&全体講評会。授業改善のアンケート実施。	作品完成、プレゼンテーションへ向けて準備をしておくこと。(45分)	講義内容の理解を深め要点をまとめておくこと。(45分)

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	日本事情 (科目ナンバリング:CUA021026)				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 恵利(経営学科・非常勤講師)	研究室等所在	本部棟3階国際交流センター		
単位数	2 (単位認定責任者: 佐藤 恵利)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	日本事情		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、国際交流センターで対応				

概要

<b>履修目標</b>
留学生が日本文化・日本社会の諸々の面から理解を深め、大学生活、日本での生活を円滑に送ることができることを目的とする。

<b>授業の位置づけ</b>
経営学科のDP(1)(2)(4)に対応する。 社会福祉学科のDP(2)(3)(4)(5)に対応する。 デザイン学科のDP(2)(4)(5)に対応する。 建築学科のDP(2)(4)(5)に対応する。

<b>到達目標</b>
日本文化・日本社会の諸々の側面について留学生の知識が深められることができる。日本に置いて深めた知識を勉学や生活、専門分野の研究などに生かし、日本人との討議やコミュニケーションに積極的に参加することができる。

<b>授業全体の内容と概要</b>
毎時限トピックを提示し、視覚的な教材の使用、来日後の留学生の体験談などを積極的に取り入れ、留学生の日本事情理解を促進する授業展開を図る。日本文化や日本事情を通して「SDG3「すべての人に健康と福祉を」「SDG7「エネルギーをみんなに」「SDG10「人や国の不平等をなくそう」について考え、知識を深める。

<b>授業の方法</b>
毎時限提示されるトピックに対しディスカッションやグループワークを通して理解を深める。また、トピックをテーマにプレゼンテーションやレポート作成を行い、自分の意見やグループの考えを表現する。

<b>アクティブラーニングの実施方法</b>																								
<table border="1"> <tr> <td>○</td> <td>プレゼンテーション</td> <td>○</td> <td>グループワーク</td> <td>○</td> <td>フィールドワーク</td> <td>○</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模範授業</td> <td>○</td> <td>ロールプレイ</td> <td>○</td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td>○</td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	PBL		模範授業	○	ロールプレイ	○	調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)
○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	PBL																	
	模範授業	○	ロールプレイ	○	調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)																	

<b>履修上の注意事項</b>
課題は授業内で決定し、指定期日に発表・提出する。また、それ以外でも自主的にレポートを作成し、提出した者は評価の対象とする。定期試験は行わない。学期末にレポートの提出を課すが、自分の言葉で書いていないもの(コピー＆ペースト)は不可とする。授業中は母語の使用は原則禁止とする。母語話者同士の会話も全て日本語で行うこと。平常点が評価に大きく影響する。授業中は真面目に取り組み「日本語で表現できない」と思わず、なんでもチャレンジすること。15分以上の遅刻は欠席とみなす。また、遅刻3回で欠席1回とみなす。不測の事態の際にオンライン授業を実施する可能性がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
---

<b>資格指定科目</b>
---------------

評価方法・基準

<b>評価前提条件</b>
単位認定に必要な最低出席回数は、11回である。出席、授業態度、レポート、プレゼンテーションで評価を行う。

<b>評価方法</b>												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>30%</td> <td>15%</td> <td>0%</td> <td>50%</td> <td>5%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	30%	15%	0%	50%	5%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	30%	15%	0%	50%	5%							

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
日本語、日本文化、時事問題の知識・技能	知識や技能を習得した。授業外でも日本のニュースなどに興味を持つことができた。	日本の時事問題や文化、習慣に興味・関心を持ち、積極的に知識・技能を習得しようとしていたが、授業内の関心だけで終わってしまった。	日本の時事問題や文化、習慣に興味・関心を持っていないが、知識・技能を習得しようという姿勢があまり見られなかった。	日本の時事問題や文化、習慣に興味・関心を持っていない。授業内の活動には参加するが、知識・技能があまり見られなかった。	日本の時事問題や文化、習慣に興味・関心を持たず、知識・技能を習得しようという姿勢が見られなかった。授業内の活動にもあまり参加できなかった。
思考力、判断力、日本語での表現力	自身で考え、自分の言葉で表現できた。表現の内容が分かりやすく、文法の問題がほとんどない。声の大きさ、発音もよかった。	自身で考え、自分の言葉で表現できた。表現の内容が分かりやすいが、文法の問題が目立った。声の大きさ、発音がよかった。	自身で考え、自分の言葉で表現できた。表現の内容が分かりやすいが、文法、発音に問題があり、聞き取りにくい箇所があった。	自身で考えているが、他者の協力がないと自分の言葉で表現することができなかった。文法、発音に問題があった。	他者任せで、自身で考え、自分の言葉で表現しようという姿勢が見られなかった。文法、発音に問題があった。
主体的に日本語学習に取り組む態度	毎回の授業に参加し授業に意欲的で、活動にも積極的に参加していた。発言も多量。	毎回の授業に参加し、授業に意欲的で真面目に取り組んでいた。積極性は弱い。	最低出席日数分授業に参加しており、授業に対し真面目に取り組んでいた。積極的に活動に参加していた。	最低出席日数分授業に参加しており、授業に対し真面目に取り組んでいたが、授業内の活動に対し消極的だった。	最低出席日数分授業に参加せず、授業態度も問題あった。



基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	日本事情 (科目ナンバリング:CUA021026)				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 恵利(経営学科・非常勤講師)	研究室等所在	本部棟3階国際交流センター		
単位数	2 (単位認定責任者: 佐藤 恵利)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	日本事情		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						必要に応じ適宜配布
2						
3						
4						
5						

授業計画

各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間			
回	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション(シラバス・授業説明)アンケート; 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを熟読し、本講義について理解する。専用ノートを準備する。(90分)	講義内容の理解を深め、指定された課題を作成する。プレゼンなどの準備をする。(90分)
2	日本について: 地理、気候、地域による特色など	新聞やニュースに興味を持つとともに、自主的に日本事情について学習する。(90分)	講義内容の理解を深め、指定された課題を作成する。プレゼンなどの準備をする。(90分)
3	暮らし: 日本での暮らしの中のマナー、都市と地方の暮らしの違いなど	新聞やニュースに興味を持つとともに、自主的に日本事情について学習する。(90分)	講義内容の理解を深め、指定された課題を作成する。プレゼンなどの準備をする。(90分)
4	旅行・観光: 交通機関、観光地など	新聞やニュースに興味を持つとともに、自主的に日本事情について学習する。(90分)	講義内容の理解を深め、指定された課題を作成する。プレゼンなどの準備をする。(90分)
5	食文化: 食生活の変化、マナーなど	新聞やニュースに興味を持つとともに、自主的に日本事情について学習する。(90分)	講義内容の理解を深め、指定された課題を作成する。プレゼンなどの準備をする。(90分)
6	四季: 季節行事、祝祭日、気候など	新聞やニュースに興味を持つとともに、自主的に日本事情について学習する。(90分)	講義内容の理解を深め、指定された課題を作成する。プレゼンなどの準備をする。(90分)
7	歴史: 知っておきたい日本の歴史と文化の観点から見た日本の歴史	新聞やニュースに興味を持つとともに、自主的に日本事情について学習する。(90分)	講義内容の理解を深め、指定された課題を作成する。プレゼンなどの準備をする。(90分)
8	伝統文化: 茶道、華道、演芸など	新聞やニュースに興味を持つとともに、自主的に日本事情について学習する。(90分)	講義内容の理解を深め、指定された課題を作成する。プレゼンなどの準備をする。(90分)
9	現代文化とポップカルチャー: マンガ、アニメ、キャラクターなど	新聞やニュースに興味を持つとともに、自主的に日本事情について学習する。(90分)	講義内容の理解を深め、指定された課題を作成する。プレゼンなどの準備をする。(90分)
10	スポーツ: 伝統的スポーツ、東京オリンピックなど	新聞やニュースに興味を持つとともに、自主的に日本事情について学習する。(90分)	講義内容の理解を深め、指定された課題を作成する。プレゼンなどの準備をする。(90分)
11	クリエイティブジャパン: 日本の科学技術の進歩について	新聞やニュースに興味を持つとともに、自主的に日本事情について学習する。(90分)	講義内容の理解を深め、指定された課題を作成する。プレゼンなどの準備をする。(90分)
12	環境問題: 日本の環境問題に対する取り組み、ゴミの分別やリサイクルについて	新聞やニュースに興味を持つとともに、自主的に日本事情について学習する。(90分)	講義内容の理解を深め、指定された課題を作成する。プレゼンなどの準備をする。(90分)
13	プレゼンテーション レポートテーマ発表	プレゼンテーションの準備をする。レポート作成に取り組む(90分)	講義内容の理解を深め、指定された課題を作成する。プレゼンなどの準備をする。(90分)
14	プレゼンテーション	プレゼンテーションの準備をする。レポート作成に取り組む(90分)	講義内容の理解を深め、指定された課題を作成する。プレゼンなどの準備をする。(90分)
15	プレゼンテーション	プレゼンテーションの準備をする。レポート作成に取り組む(90分)	講義内容の理解を深め、指定された課題を作成する。プレゼンなどの準備をする。(90分)
16	レポート提出 幾括 授業改善アンケートの実施	レポートの再確認(90分)	講義全体を振り返り理解を深めること(90分)

各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間			
回	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	建築設備 (科目ナンバリング: AEN312011)				
授業担当者(所属・職名)	君 興治(建築学科・特任准教授)		研究室等所在	2号館4階	
単位数	2	(単位認定責任者: 君 興治)	CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	建築事務所所長として設計監理をしている経験から、躯体、断熱、金物との干渉やスペースの確保、またどのタイミングで設備工事が行われるかをイメージしながら設備計画を進める。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整し研究室もしくはオンラインで対応。				

概要

履修目標
<p>建築にはどのような設備があり、その設備をどう計画し、どう作図するのか。本講義では、快適な住空間を構成するために必要な給水給湯設備・衛生排水設備・空調設備・電気設備・照明設備の知識、ならびに設備計画技術の基本を習得する。</p>
授業の位置づけ
<p>建築学科のDP(1)(2)に対応する科目。</p>
到達目標
<p>住宅建築の各設備の必要性を理解した上で、仕組みを知り、用途に合った設備を計画・作図表現ができる。</p>

授業の位置づけ
<p>建築学科のDP(1)(2)に対応する科目。</p>
到達目標
<p>住宅建築の各設備の必要性を理解した上で、仕組みを知り、用途に合った設備を計画・作図表現ができる。</p>

到達目標
<p>住宅建築の各設備の必要性を理解した上で、仕組みを知り、用途に合った設備を計画・作図表現ができる。</p>

授業全体の内容と概要
<p>給水給湯設備・衛生排水設備・空調設備・電気設備・照明設備について、そのシステムとメカニズムを中心に解説し、各種設備の役割を学ぶ。          「SDG7 エネルギーをみんなに、そしてクリーンに」          「SDG12 つくる責任 つかう責任」          これからの時代のエネルギーに合わせた設備設計や設備図面の描き方を指導していく</p>

授業の方法
<p>授業では、板書やICT(チームスを使用しながら、設備図をオンライン上その場で液晶ペンタブレットで添削し、毎事業ごとに保存することで、授業の課題経過をデジタル的にの残し、振り返りの自習を実現する。)を活用しながら事例を紹介し、双方向授業で実施する。          また、授業中毎回、設備計画図を提出し添削を行いフィードバックする。</p>

アクティブラーニングの実施方法																					
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>○</td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模範授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td>○</td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL															
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業															
ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)															

履修上の注意事項
<p>不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。</p>

修学サポート(合理的配慮)
<p>事前相談を受け、大学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。</p>

資格指定科目
<p>「建築士試験受験資格課程」必修科目、教職課程(工業)必修科目</p>

評価方法・基準

評価前提条件												
<p>単位認定に必要な最低出席回数は、12回以上。</p>												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>70%</td> <td>0%</td> <td>30%</td> <td>0%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	0%	70%	0%	30%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	0%	70%	0%	30%	0%							

ルーブリック																													
<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> <tr> <td>住宅規模の設備の種類を理解し、設備計画、正確な作図表現ができていたか。</td> <td>各設備図の適した計画ができていた。</td> <td>各設備図の計画ができ、正しく図面が描けていた。</td> <td>各種設備図を正しく描くことができた。</td> <td>各種設備図を描くことができた。</td> <td>設備図の作図ができなかった。</td> </tr> <tr> <td>使用者が利用しやすい設備計画となっていたか。</td> <td>各設備図の適した計画ができて、正しく図面を描くことができていた。</td> <td>各設備図の計画ができ、正しく図面が描けていた。</td> <td>各種設備図を正しく描くことができた。</td> <td>各種設備図を描くことができた。</td> <td>設備図の作図ができなかった。</td> </tr> <tr> <td>設備の能力上支障がなかったか。</td> <td>各設備図の適した計画ができて、正しく図面を描くことができていた。</td> <td>各設備図の計画ができ、正しく図面が描けていた。</td> <td>各種設備図を正しく描くことができた。</td> <td>各種設備図を描くことができた。</td> <td>設備図の作図ができなかった。</td> </tr> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	住宅規模の設備の種類を理解し、設備計画、正確な作図表現ができていたか。	各設備図の適した計画ができていた。	各設備図の計画ができ、正しく図面が描けていた。	各種設備図を正しく描くことができた。	各種設備図を描くことができた。	設備図の作図ができなかった。	使用者が利用しやすい設備計画となっていたか。	各設備図の適した計画ができて、正しく図面を描くことができていた。	各設備図の計画ができ、正しく図面が描けていた。	各種設備図を正しく描くことができた。	各種設備図を描くことができた。	設備図の作図ができなかった。	設備の能力上支障がなかったか。	各設備図の適した計画ができて、正しく図面を描くことができていた。	各設備図の計画ができ、正しく図面が描けていた。	各種設備図を正しく描くことができた。	各種設備図を描くことができた。	設備図の作図ができなかった。
評価項目		評価基準																											
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
住宅規模の設備の種類を理解し、設備計画、正確な作図表現ができていたか。	各設備図の適した計画ができていた。	各設備図の計画ができ、正しく図面が描けていた。	各種設備図を正しく描くことができた。	各種設備図を描くことができた。	設備図の作図ができなかった。																								
使用者が利用しやすい設備計画となっていたか。	各設備図の適した計画ができて、正しく図面を描くことができていた。	各設備図の計画ができ、正しく図面が描けていた。	各種設備図を正しく描くことができた。	各種設備図を描くことができた。	設備図の作図ができなかった。																								
設備の能力上支障がなかったか。	各設備図の適した計画ができて、正しく図面を描くことができていた。	各設備図の計画ができ、正しく図面が描けていた。	各種設備図を正しく描くことができた。	各種設備図を描くことができた。	設備図の作図ができなかった。																								

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	建築設備 (科目ナンバリング: AEN312011)				
授業担当者(所属・職名)	君 興治 (建築学科・特任准教授)	研究室等所在	2号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者: 君 興治)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	建築事務所所長として設計監理をしている経験から、躯体、断熱、金物との干渉やスペースの確保、またどのタイミングで設備工事が行われるかをイメージしながら設備計画を進める。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『やさしい建築設備図面の見方・かき方』	千葉 孝男	オーム社	1999	9784274102509	
2	『世界で一番やさしい 建築設備』	山田浩幸	エクスナレッジ	2013	9784767815480	
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバスの説明 授業の進め方 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読んでおくこと (90分)	プリントを読んで理解しておくこと (90分)
2	給水設備・給湯設備の概要と計画 (1)	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する (90分)	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する (90分)
3	給水設備・給湯設備の概要と計画 (2)	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する (90分)	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する (90分)
4	給水設備・給湯設備の概要と計画 (3)	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する (90分)	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する (90分)
5	衛生設備・排水設備の概要と計画 (1)	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する (90分)	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する (90分)
6	衛生設備・排水設備の概要と計画 (2)	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する (90分)	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する (90分)
7	衛生設備・排水設備の概要と計画 (3)	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する (90分)	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する (90分)
8	空調設備の概要と計画 (1)	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する (90分)	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する (90分)
9	空調設備の概要と計画 (2)	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する (90分)	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する (90分)
10	空調設備の概要と計画 (3)	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する (90分)	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する (90分)
11	電気設備の概要と計画 (1)	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する (90分)	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する (90分)
12	電気設備の概要と計画 (2)	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する (90分)	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する (90分)
13	電気設備の概要と計画 (3)	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する (90分)	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する (90分)
14	照明設備の概要と計画 (1)	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する (90分)	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する (90分)
15	照明設備の概要と計画 (2)	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する (90分)	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する (90分)
16	照明設備の概要と計画 (3) 授業改善アンケートの実施	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する (90分)	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する (90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	保育原理 (科目ナンバリング: CHS121068)				
授業担当者(所属・職名)	吉江 幸子(社会福祉学科・教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 吉江 幸子)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	保育施設において実務経験がある教員が、その経験をもとに保育の意義、目的、法令および制度、思想・歴史の変遷等について実際の保育現場をイメージできるような講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

<b>履修目標</b>																					
保育の意義、目的について理解する。保育に関する法令及び制度を理解する。 保育所保育指針における保育の基本について理解する。 保育の思想と歴史の変遷について学修し、現状と課題を理解する。																					
<b>授業の位置づけ</b>																					
社会福祉学科のDP(1)(3)に対応する。																					
<b>到達目標</b>																					
保育の意義、制度、計画・実践(方法・内容)、思想・歴史の変遷等を理解している。 保育所保育指針における保育の基本について理解している。																					
<b>授業全体の内容と概要</b>																					
保育の意義、目的、法令及び制度、保育の目標と方法等を体系的に学修する。 「SDG4. 質の高い教育をみんなに」の関連科目。																					
<b>授業の方法</b>																					
講義を中心とした授業を行っていく中で、実際の保育現場の事例をあげ、子どもや保護者、保育者の様子をイメージしながら、一人ひとり学生の考える場となるように授業を進めていく。質問にはその都度対応し、レポートはコメントしてフィードバックする。Microsoft Teams及びFormsの諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。																					
<b>アクティブラーニングの実施方法</b>																					
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模範授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL															
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業															
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)															
<b>履修上の注意事項</b>																					
出席を重要視するため、20分以上の「遅刻」は、入室できるが「欠席」扱いとする。 評価Sは履修者の10%以内、評価SとAを合わせて40%以内となっている。 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。																					

<b>修学サポート(合理的配慮)</b>
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
<b>資格指定科目</b>
保育士養成課程

評価方法・基準

<b>評価前提条件</b>												
単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上。												
<b>評価方法</b>												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>70%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>30%</td> <td>0%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	70%	0%	0%	0%	30%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
70%	0%	0%	0%	30%	0%							

<b>ルーブリック</b>																													
<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を越えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> <tr> <td>保育の制度に関する知識・技能(何を知っているか、何ができるか)</td> <td>保育の制度について基礎的な知識を深く理解できた。</td> <td>保育の制度について基礎的な知識をおおむね理解できた。</td> <td>保育の制度について基礎的な知識を理解できた。</td> <td>保育の制度について基礎的な知識を多少理解できた。</td> <td>保育の制度について基礎的な知識を理解することができなかった。</td> </tr> <tr> <td>思考力・判断力・表現力等(知っていること、できることをどう使うか)</td> <td>歴史の変遷を踏まえた保育の基本について十分に考察できた。</td> <td>歴史の変遷を踏まえた保育内容の展開についておおむね考察できた。</td> <td>歴史の変遷を踏まえた保育内容の展開について考察できた。</td> <td>歴史の変遷を踏まえた保育内容の展開について多少考察できた。</td> <td>歴史の変遷を踏まえた保育内容の展開について考察できなかった。</td> </tr> <tr> <td>主体的に取り組む態度(どのように関わるか)</td> <td>保育の意義・目的について理解したことをわかりやすく説明できた。</td> <td>保育の意義・目的について理解したことをおおむね説明できた。</td> <td>保育の意義・目的について理解したことを説明できた。</td> <td>保育の意義・目的について理解したことを多少説明できた。</td> <td>保育の意義・目的について理解したことを説明できなかった。</td> </tr> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	保育の制度に関する知識・技能(何を知っているか、何ができるか)	保育の制度について基礎的な知識を深く理解できた。	保育の制度について基礎的な知識をおおむね理解できた。	保育の制度について基礎的な知識を理解できた。	保育の制度について基礎的な知識を多少理解できた。	保育の制度について基礎的な知識を理解することができなかった。	思考力・判断力・表現力等(知っていること、できることをどう使うか)	歴史の変遷を踏まえた保育の基本について十分に考察できた。	歴史の変遷を踏まえた保育内容の展開についておおむね考察できた。	歴史の変遷を踏まえた保育内容の展開について考察できた。	歴史の変遷を踏まえた保育内容の展開について多少考察できた。	歴史の変遷を踏まえた保育内容の展開について考察できなかった。	主体的に取り組む態度(どのように関わるか)	保育の意義・目的について理解したことをわかりやすく説明できた。	保育の意義・目的について理解したことをおおむね説明できた。	保育の意義・目的について理解したことを説明できた。	保育の意義・目的について理解したことを多少説明できた。	保育の意義・目的について理解したことを説明できなかった。
評価項目		評価基準																											
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
保育の制度に関する知識・技能(何を知っているか、何ができるか)	保育の制度について基礎的な知識を深く理解できた。	保育の制度について基礎的な知識をおおむね理解できた。	保育の制度について基礎的な知識を理解できた。	保育の制度について基礎的な知識を多少理解できた。	保育の制度について基礎的な知識を理解することができなかった。																								
思考力・判断力・表現力等(知っていること、できることをどう使うか)	歴史の変遷を踏まえた保育の基本について十分に考察できた。	歴史の変遷を踏まえた保育内容の展開についておおむね考察できた。	歴史の変遷を踏まえた保育内容の展開について考察できた。	歴史の変遷を踏まえた保育内容の展開について多少考察できた。	歴史の変遷を踏まえた保育内容の展開について考察できなかった。																								
主体的に取り組む態度(どのように関わるか)	保育の意義・目的について理解したことをわかりやすく説明できた。	保育の意義・目的について理解したことをおおむね説明できた。	保育の意義・目的について理解したことを説明できた。	保育の意義・目的について理解したことを多少説明できた。	保育の意義・目的について理解したことを説明できなかった。																								

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	保育原理 (科目ナンバリング: CHS121068)				
授業担当者(所属・職名)	吉江 幸子(社会福祉学科・教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 吉江 幸子)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	保育施設において実務経験がある教員が、その経験をもとに保育の意義、目的、法令および制度、思想・歴史の変遷等について実際の保育現場をイメージできるような講義を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『保育所保育指針解説』	厚生労働省	フレーベル館	2018	9784577814482	
2	『保育所保育指針<平成29年告示>』	厚生労働省	フレーベル館	2017	9784577814239	
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 保育の理念と概念 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読んでおくこと(90分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと(90分)
2	子どもの最善の利益と保育	教科書を読み、学習しておくこと(90分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと(90分)
3	子ども家庭福祉と保育	教科書を読み、学習しておくこと(90分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと(90分)
4	保育の社会的役割と責任	教科書を読み、学習しておくこと(90分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと(90分)
5	子ども家庭福祉の法体系における保育の位置付けと関係法令	教科書を読み、学習しておくこと(90分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと(90分)
6	子ども・子育て支援新制度	教科書を読み、学習しておくこと(90分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと(90分)
7	保育の実施体系	教科書を読み、学習しておくこと(90分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと(90分)
8	保育所保育指針	教科書を読み、学習しておくこと(90分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと(90分)
9	保育所保育に関する基本原則	教科書を読み、学習しておくこと(90分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと(90分)
10	保育における養護	教科書を読み、学習しておくこと(90分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと(90分)
11	保育の目標、保育の内容	教科書を読み、学習しておくこと(90分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと(90分)
12	保育の環境と方法	教科書を読み、学習しておくこと(90分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと(90分)
13	子どもの理解に基づく保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)とその循環	教科書を読み、学習しておくこと(90分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと(90分)
14	諸外国の保育の現状と課題	教科書を読み、学習しておくこと(90分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと(90分)
15	日本の保育の現状と課題	教科書を読み、学習しておくこと(90分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと(90分)
16	定期試験 解説およびフィードバック 授業改善アンケートの実施	講義全体をとおして質問などを整理しておくこと(90分)	解説を受け、講義全体をふりかえること(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	デザイン概論 (科目ナンバリング: DES211014)				
授業担当者(所属・職名)	赤木 良子 (建築学科・准教授)	研究室等所在	未定		
単位数	2 (単位認定責任者: 赤木 良子)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	建築意匠設計経験。インテリアデザイン経験。一級建築士。実務経験と学術的な両方の観点から、テーマを取り扱う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。Teams等により、事前連絡。				

概要

履修目標

現代におけるデザインには様々な分野があり、多岐に渡る。そして、デザインの現代における現象は、ここ100年ほどの短い「デザイン史」の結果でもあるため、デザイン史を軸として今起きているデザイン業界での作家性、手法、思想などについて幅広く学び、知性としてのデザイン力の基礎的な部分について身につける。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP (1) (2) (5) に対応する。

到達目標

授業で取り上げるデザインに関する大まかな事項について理解している。分からないことについて調べることができる。調べたこと、見聞したことに対し、自分の意見を表現し、深めることができる。

授業全体の内容と概要

デザインの歴史は浅く、一般的には、この100年程度を指している。ゆえに、現代生しているデザインの多くは、そのまま現代におけるデザインの根幹となっている現象である。本講義ではデザイン史を時系列になぞりながら、関連する事項についてその都度、論じていく。

授業の方法

本講義では、テキストに沿ってデザイン史を学びつつ、関連する事柄について講義を行う。各講義の節目に、小テストを行う。小テストをまとめた形で最終的に試験又はレポート(もしくは試験+レポート)を行い評価する。内容に応じて、調査し発表する機会も設ける場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

各自ノート・筆記具を持参すること。不足の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程科目(高・美術、工芸)の必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

12回以上の出席と事前学修を含む全部の課題(主にレポート)提出を必須とする。10分以上の遅刻は、5回で一回欠席とみなす。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	80%	0%	0%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
授業で取り上げるデザインに関する大まかな事項について理解している。	十分に理解できていた。	概ね理解できていた。	不十分ではあるが理解できていた。	最低限の理解しかできていなかった。	全く理解できていなかった。
分からないことについて調べることができる。	十分に深め、出来ていた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが、できていた。	最低限は出来ていた。	全くできていなかった。
調べたこと、見聞したことに対し、自分の意見を表現し、深めることができる。	十分に知見を深めていた。	概ね知見を深めていた。	不十分ではあるが、知見を深めていた。	最低限にとどまっていた。	全く深めていなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	デザイン概論 (科目ナンバリング: DES211014)				
授業担当者(所属・職名)	赤木 良子 (建築学科・准教授)	研究室等所在	未定		
単位数	2 (単位認定責任者: 赤木 良子)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	建築意匠設計経験。インテリアデザイン経験。一級建築士。実務経験と学術的な両方の観点から、テーマを取り扱う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『カラー版 図説 デザインの歴史』	暮沢剛巳他	学芸出版社	2022	9784761528348	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『生きのびるためのデザイン』	ヴィクター・ババネック	晶文社	1974		
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明 近代デザインの潮流	シラバスを読んでおくこと(90分)	課題レポート(90分)
2	アーツ・アンド・クラフツ(モリス) 小テスト	課題レポート(90分)	課題レポート(90分)
3	優美な曲線のデザイン	課題レポート(90分)	課題レポート(90分)
4	ユーゲントシュティール・分離派 小テスト	課題レポート(90分)	課題レポート(90分)
5	ドイツ工作連盟	課題レポート(90分)	課題レポート(90分)
6	アール・デコ 小テスト	課題レポート(90分)	課題レポート(90分)
7	アメリカにおける潮流	課題レポート(90分)	課題レポート(90分)
8	パウハウスとその理念 小テスト	課題レポート(90分)	課題レポート(90分)
9	オランダにおける潮流	課題レポート(90分)	課題レポート(90分)
10	20世紀の巨匠として 小テスト	課題レポート(90分)	課題レポート(90分)
11	ファシズム・ナチズム・全体主義	課題レポート(90分)	課題レポート(90分)
12	日本の工業デザイン 小テスト	課題レポート(90分)	課題レポート(90分)
13	ミッドセンチュリー・デザイン	課題レポート(90分)	課題レポート(90分)
14	北欧デザイン 小テスト	課題レポート(90分)	課題レポート(90分)
15	まとめ	課題レポート(90分)	課題レポート(90分)
16	試験 授業改善アンケートの実施	課題レポート(90分)	振り返り(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	原価計算論 (科目ナンバリング: ACC422023, ACC522025)				
授業担当者(所属・職名)	鈴木 重政(経営学科・教授)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 鈴木 重政)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照 Teamsによるチャットは平日午前9時から午後5時まで対応				

概要

履修目標

製造業を対象として発展した原価計算は、現在サービス業も含めすべての企業を対象としている。伝統的な原価計算を学んだうえで、最新の原価計算の展開を学び、経営の意思決定力を養う。

授業の位置づけ

経営学科のDP(1)、(3)に対応する。

到達目標

企業経営における適正なコスト把握を行う能力を有する。短期的な経営の意思決定能力を有する。

授業全体の内容と概要

テーマの説明を行い、練習問題を解きながら講義を進めていく。また時事問題についても解説を行い、学生から意見を発言してもらう。

授業の方法

毎回プリントを配布し、講義内容の原価計算における位置づけを説明し、本題に入る。毎回の課題について、学生によるプレゼンテーションを実施する。講義の最後にミニテストを毎回実施する。ミニテスト、試験などの解説のフィードバックを実施する。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

正当な理由のない遅刻・途中退席は認めない、電卓を持参すること。ノートをしっかり取ること。毎回講義の最後に小テスト(2点満点×1.5回=3.0点)を行う。不測の事態の際はオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(商業)選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70%	0%	0%	0%	30%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
伝統的な原価計算を理解し活用できる	伝統的な原価計算とABC(活動基準原価計算)との相違を指摘できた。	個別原価計算と総合原価計算が適正に行えた。	間接費の配賦を理解し、正しい費用を算出できた。	直接費と間接費、そして原材料費、労務費、経費を正しく計算できた。	直接費と間接費を算定できなかった。
新しい原価計算を理解し活用できる	ABC(活動基準原価計算)を用いて事業変革を提案できた。	ABCを用いて業務改善提案ができた。	ABCを用いて無駄なコストを発見することができた。	ABCを用いたコスト計算ができた。	ABCを用いたコスト計算ができなかった。
原価計算を用いた短期的な経営意思決定能力を有する	埋没原価、ライフサイクルコストおよび失敗原価の概念を駆使して、短期的な経営の意思決定力を有していた。	CVP分析を用いて経営戦略を策定できた。	CVP分析を用いた損益分岐点、利益目標を算出できた。	原価計算を用いた短期的な経営の意思決定のための計算ができた。	原価計算を用いた短期的な経営の意思決定のための計算ができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	原価計算論 (科目ナンバリング: ACC422023, ACC522025)				
授業担当者(所属・職名)	鈴木 重政(経営学科・教授)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 鈴木 重政)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション(シラバスの説明など)、企業経営と原価計算の目的、授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読んでおくこと(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
2	材料費(先入先出法・移動平均法)・労務費・経費の計算	ケースの該当箇所を読んでおく(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
3	個別原価計算	ケースの該当箇所を読んでおく(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
4	総合原価計算(先入先出法)	ケースの該当箇所を読んでおく(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
5	標準原価計算と原価差異	ケースの該当箇所を読んでおく(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
6	伝統的な原価計算とABC(活動基準原価計算)	ケースの該当箇所を読んでおく(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
7	ABCの適用事例	ケースの該当箇所を読んでおく(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
8	CVF分析の基本(固定費と変動費、損益分岐点)	ケースの該当箇所を読んでおく(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
9	CVF分析と利益計画	ケースの該当箇所を読んでおく(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
10	意思決定のための原価計算 機会原価の概念、販売先の選別	ケースの該当箇所を読んでおく(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
11	意思決定のための原価計算 特別注文受諾の可否、資産売却	ケースの該当箇所を読んでおく(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
12	投資の意思決定 キャッシュフロー	ケースの該当箇所を読んでおく(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
13	投資の意思決定 資本コスト	ケースの該当箇所を読んでおく(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
14	ライフサイクルコスト、バリューチェーン(予防原価失敗原価)、試験の説明	ケースの該当箇所を読んでおく(90分)	ミニテストが満点になるまで解く(90分)
15	定期試験および解説(60分の試験終了後、残りの30分で解説)、授業改善アンケートの実施	総復習(90分)	管理会計への取り組み(90分)
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	スポーツ文化論 (科目ナンバリング: SPS422068, SPS512012)				
授業担当者(所属・職名)	細川 光法(経営学科・非常勤講師)	研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 細川 光法)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等対応				

概要

履修目標

オリンピック・パラリンピックなどを通して、スポーツの文化性・価値・未来への展望などへの関心を高め、スポーツを多面的な視点で捉える力を養うことにより、人間・スポーツ・社会の関連を理解し、スポーツ指導者として社会に貢献できる資質を身に付ける。

授業の位置づけ

経営学科のDP(1)、(4)に対応する。

到達目標

スポーツを文化性・価値・未来への展望などの多面的な視点で理解することができる。

授業全体の内容と概要

毎回、直近のスポーツ文化関連ニュースの背景を探ることからはじめ、シラバスに基づいたテーマを学ぶ。  
 \*SDG 5. ジェンダー平等を実現しようの関連科目。  
 \*SDG 17. パートナリーシップで目標を達成しようの関連科目。

授業の方法

基本は「スポーツは文化である」という認識で各テーマを解説する。毎回、テーマに対応したプリントを配布し、板書など参考データを活用しながら講義形式で行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	〇	双方向授業
その他(授業の方法参照)			

履修上の注意事項

教室では他人の迷惑になる行為(私語など)をしない、携帯・スマホの使用も厳禁。  
 \*不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

スポーツ指導者(スポーツリーダー)資格課程、スポーツソーシャルワーカー資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は15回の授業のうち10回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
80%	0%	0%	0%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
スポーツの文化性	スポーツが芸術や遺跡などに劣らない文化性を持つ真の意味を十分に理解できた。	スポーツが芸術や遺跡などに劣らない文化性を持つ真の意味を概ね理解できた。	スポーツはなぜ文化といえるのかを一定程度理解し、資料収集もしていた。	スポーツの文化性をわずかに理解できた。	スポーツを文化ととらえる考えが見られない。
パラリンピックと障害者への視点	単にスポーツの世界だけでなく、ハンディを克服していく人々の勇気と行動力まで十分に理解できた。	スポーツの世界において、ハンディを克服していく人々の勇気と行動力を概ね理解できた。	スポーツの世界において、ハンディを克服していく人々の勇気と行動力を一定程度理解できた。	スポーツの世界において、ハンディを克服していく人々の勇気と行動力に共感していた。	スポーツ競技に参加する障害者に関心が見られない。
東京オリンピックの光と影	経済効果や遺産の陰にあるさまざまな課題まで総合的に理解できた。	経済効果や遺産の陰にさまざまな課題があることを概ね理解できた。	経済効果や遺産の陰にさまざまな課題があることを一定程度理解できた。	経済効果や遺産の陰にさまざまな課題があることをわずかに理解できた。	五輪の光と影について全く興味が無い。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	<b>スポーツ文化論</b> (科目ナンバリング: SPS422068, SPS512012)				
授業担当者(所属・職名)	細川 光法(経営学科・非常勤講師)	研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 細川 光法)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『スポーツ文化を学ぶ人のために』	井上俊・亀山佳明(編)	世界思想社	1999	4790707717	
2	『よくわかるスポーツ文化論(やわらかアカデミズム・<わかる>シリーズ)』	井上俊・菊幸一編著	ミネルヴァ書房	2012	9784623061181	
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 この授業全体のガイダンス 授業改善アンケート結果反映の説明	スポーツ関連ニュースを意識(90分)	ガイダンスの復習(90分)
2	スポーツ文化のとらえ方	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る(90分)	授業中に学んだことを復習(90分)
3	メディア化するスポーツ	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る(90分)	授業中に学んだことを復習(90分)
4	2020東京オリンピックの光と影	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る(90分)	授業中に学んだことを復習(90分)
5	1964年の東京オリンピック	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る(90分)	授業中に学んだことを復習(90分)
6	パラリンピックの歴史と意義	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る(90分)	授業中に学んだことを復習(90分)
7	スポーツとジェンダー	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る(90分)	授業中に学んだことを復習(90分)
8	スポーツと地域社会	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る(90分)	授業中に学んだことを復習(90分)
9	スポーツと教育	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る(90分)	授業中に学んだことを復習(90分)
10	スポーツと政治・権力	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る(90分)	授業中に学んだことを復習(90分)
11	職業としてのスポーツ	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る(90分)	授業中に学んだことを復習(90分)
12	スポーツ・ファンの文化	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る(90分)	授業中に学んだことを復習(90分)
13	スポーツ指導者としての在り方	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る(90分)	授業中に学んだことを復習(90分)
14	スポーツとジャーナリズム	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る(90分)	授業中に学んだことを復習(90分)
15	スポーツ文化研究の視点と方法	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る(90分)	授業中に学んだことを復習(90分)
16	総合評価・定期試験 授業改善アンケートの実施	これまで学んだことを確認(90分)	解説を受けて試験のふりかえりを行うこと(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	スポーツ文化論 (SP) (科目ナンバリング: SPS422068, SPS512012)				
授業担当者(所属・職名)	細川 光法 (経営学科・非常勤講師)	研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 細川 光法)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等対応				

概要

履修目標

東京オリンピック・パラリンピックなどを通して、スポーツの文化性・価値・未来への展望などへの関心を高め、スポーツを多面的な視点で捉える力を養うことにより、人間・スポーツ・社会の関連を理解し、スポーツ指導者として社会に貢献できる資質を身に付ける。

授業の位置づけ

経営学科のDP(1)、(4)に対応する。

到達目標

スポーツを文化性・価値・未来への展望などの多面的な視点で理解することができる。

授業全体の内容と概要

毎回、直近のスポーツ文化関連ニュースの背景を探ることからはじめ、シラバスに基づいたテーマを学ぶ。

SDG 5. ジェンダー平等を実現しようの関連科目。  
SDG 17. パートナリーシップで目標を達成しようの関連科目。

授業の方法

基本は「スポーツは文化である」という認識で各テーマを解説する。毎回、テーマに対応したプリントを配布し、板書など参考データを活用しながら講義形式で行う。なお、資料にて説明したことをもとに、プレゼンテーションやディスカッション、調査学習を用いた講義を展開する。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

教室では他人の迷惑になる行為(私語など)をしない、携帯・スマホの使用も厳禁。  
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

スポーツ指導者(スポーツリーダー)資格課程、スポーツソーシャルワーカー資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は15回の授業のうち10回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
80%	0%	0%	0%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
スポーツの文化性	スポーツが芸術や遺跡などに劣らない文化性を持つ真の意味を十分に理解できた。	スポーツが芸術や遺跡などに劣らない文化性を持つ真の意味を概ね理解できた。	スポーツはなぜ文化といえるのかを一定程度理解し、資料収集もしていた。	スポーツの文化性をわずかに理解できた。	スポーツを文化ととらえる考えが見られない。
パラリンピックと障害者への視点	単にスポーツの世界だけでなく、ハンディを克服していく人々の勇気と行動力まで十分に理解できた。	スポーツの世界において、ハンディを克服していく人々の勇気と行動力を概ね理解できた。	スポーツの世界において、ハンディを克服していく人々の勇気と行動力を一定程度理解できた。	スポーツの世界において、ハンディを克服していく人々の勇気と行動力に共感していた。	スポーツ競技に参加する障害者に関心が見られない。
東京オリンピックの光と影	経済効果や遺産の陰にあるさまざまな課題まで総合的に理解できた。	経済効果や遺産の陰にさまざまな課題があることを概ね理解できた。	経済効果や遺産の陰にさまざまな課題があることを一定程度理解できた。	経済効果や遺産の陰にさまざまな課題があることをわずかに理解できた。	五輪の光と影について全く興味が無い。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	スポーツ文化論 (SP) (科目ナンバリング: SPS422068, SPS512012)				
授業担当者(所属・職名)	細川 光法 (経営学科・非常勤講師)	研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 細川 光法)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『スポーツ文化を学ぶ人のために』	井上俊・亀山佳明(編)	世界思想社	1999	4790707717	
2	『よくわかるスポーツ文化論(やわらかアカデミズム・<わかる>シリーズ)』	井上俊・菊幸一編著	ミネルヴァ書房	2012	9784623061181	
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 この授業全体のガイダンス 授業改善アンケート結果反映の説明	スポーツ関連ニュースを意図(90分)	ガイダンスの復習(90分)
2	スポーツ文化のとらえ方	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る(90分)	授業中に学んだことを復習(90分)
3	メディア化するスポーツ	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る(90分)	授業中に学んだことを復習(90分)
4	2020東京オリンピックの光と影	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る(90分)	授業中に学んだことを復習(90分)
5	1964年の東京オリンピック	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る(90分)	授業中に学んだことを復習(90分)
6	パラリンピックの歴史と意義	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る(90分)	授業中に学んだことを復習(90分)
7	スポーツとジェンダー	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る(90分)	授業中に学んだことを復習(90分)
8	スポーツと地域社会	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る(90分)	授業中に学んだことを復習(90分)
9	スポーツと教育	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る(90分)	授業中に学んだことを復習(90分)
10	スポーツと政治・権力	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る(90分)	授業中に学んだことを復習(90分)
11	職業としてのスポーツ	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る(90分)	授業中に学んだことを復習(90分)
12	スポーツ・ファンの文化	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る(90分)	授業中に学んだことを復習(90分)
13	スポーツ指導者としての在り方	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る(90分)	授業中に学んだことを復習(90分)
14	スポーツとジャーナリズム	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る(90分)	授業中に学んだことを復習(90分)
15	スポーツ文化研究の視点と方法	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る(90分)	授業中に学んだことを復習(90分)
16	総合評価・定期試験 授業改善アンケートの実施	これまで学んだことを確認(90分)	解説を受けて試験のふりかえりを行うこと(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	日本の歴史 (科目ナンバリング: HIS021024)				
授業担当者(所属・職名)	及川 琢英(社会福祉学科・非常勤講師)		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室	
単位数	2 (単位認定責任者: 及川 琢英)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。				

概要

履修目標

人文的教養の一環として、歴史学について学び、文献を批判的に考察し、表現する能力を培う。

授業の位置づけ

経営学科のDP(2)に対応する。  
社会福祉学科のDP(2)に対応する。  
デザイン学科のDP(2)に対応する。  
建築学科のDP(2)に対応する。

到達目標

1. テーマに沿った文献や資料を提示することができる。
2. 文献を批判的に考察することができる。
3. 考察した内容を適切に表現できる。

授業全体の内容と概要

1. 満蒙政策、関東軍、戦争という3つの観点から日本近現代史を概観する。
2. 日本近現代史研究で蓄積されてきた研究成果について理解する。
3. 日本近現代史に関する史料や文献を読んで考察する。

授業の方法

毎回資料を配布し、講義形式で行う。受講者には小課題、毎回講義に対する意見、質問などリアクションペーパーを書いて提出してもらい、次回にそれに対するコメントを行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

毎回配布する資料をしっかりと読み、読み切れなかった箇所目を通して、次回の授業に臨むこと。  
毎回のリアクションペーパー提出を持って出席に代える。私語厳禁。  
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(社会・地理歴史)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は10回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	70%	0%	0%	30%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
文献・資料の取り扱い	授業で配布された資料を整理し、自分で文献や資料を広く入手するとともに、テーマに沿って適切に提示できていた。	授業で配布された資料を整理し、自分で文献や資料を図書館のみならず、広く入手して提示できていた。	授業で配布された資料を整理し、自分で文献や資料を図書館などで入手して提示できていた。	授業で配布された資料を整理できていた。	授業で配布された資料を整理できていなかった。
文献の批判的考察	テーマに沿って、資料を取捨選択して提示し、複数の観点から分析を行ったうえで、考察がなされていた。	テーマに沿って、資料を取捨選択して提示し、批判的な分析を行ったうえで、考察がなされていた。	テーマに沿って、資料を取捨選択して、適切な考察がなされていた。	テーマに沿って、資料を提示し、考察がなされていた。	テーマに沿った資料を提示しての考察がなされていないかった。
考察内容の表現	指示された枠組みに基づいて記述がなされ、資料の提示、記述を工夫するとともに、さらなる課題なども提示できていた。	指示された枠組みに基づいて記述がなされ、資料の提示、記述も工夫され、説得力があった。	指示された枠組みに基づいて記述がなされ、資料の提示も適切になされていた。	指示された枠組みに基づいて記述されていた。	指示された枠組みに基づいて記述されていないかった。



基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	日本の歴史 (科目ナンバリング: HIS021024)				
授業担当者(所属・職名)	及川 琢英 (社会福祉学科・非常勤講師)		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室	
単位数	2 (単位認定責任者: 及川 琢英)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明、歴史学・植民地とは	シラバスを読んでおく(90分)	基礎的事項の復習(90分)
2	日清・日露戦争と満蒙權益	学習内容について調べる(90分)	資料を読み直し、関連事項を調べる(90分)
3	張作霖と満洲駐屯部隊	学習内容について調べる(90分)	資料を読み直し、関連事項を調べる(90分)
4	関東軍の誕生	学習内容について調べる(90分)	資料を読み直し、関連事項を調べる(90分)
5	シベリア出兵と張作霖支援	学習内容について調べる(90分)	資料を読み直し、関連事項を調べる(90分)
6	第二次奉直戦争と郭松齢事件	学習内容について調べる(90分)	資料を読み直し、関連事項を調べる(90分)
7	北伐と張作霖機殺事件	学習内容について調べる(90分)	資料を読み直し、関連事項を調べる(90分)
8	国際連盟	学習内容について調べる(90分)	資料を読み直し、関連事項を調べる(90分)
9	不戦条約と石原莞爾	学習内容について調べる(90分)	資料を読み直し、関連事項を調べる(90分)
10	満洲事変	学習内容について調べる(90分)	資料を読み直し、関連事項を調べる(90分)
11	満洲国と在満機関統一問題	学習内容について調べる(90分)	資料を読み直し、関連事項を調べる(90分)
12	熱河・長城作戦	学習内容について調べる(90分)	資料を読み直し、関連事項を調べる(90分)
13	華北・内モンゴル工作と日中戦争	学習内容について調べる(90分)	資料を読み直し、関連事項を調べる(90分)
14	日ソ国境紛争とノモンハン事件	学習内容について調べる(90分)	資料を読み直し、関連事項を調べる(90分)
15	開特演とアジア・太平洋戦争、授業改善アンケートの実施	学習内容について調べる(90分)	資料を読み直し、関連事項を調べる(90分)
16	日ソ戦争、フィードバック	資料などで講義内容を整理する(90分)	講義内容を見直す(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

## 基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	建築法規 (科目ナンバリング: APT312018)				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 善太郎(建築学科・教授)	研究室等所在	2号館6階		
単位数	2 (単位認定責任者: 佐藤 善太郎)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

## 概要

### 履修目標

建築関係法令は建築基準法をはじめとして関連する法律が非常に多く、生活環境・社会構造の変化と共により複雑化してきている。ここでは建築関係法令のうち種幹である建築基準法・建築基準法施行令をメインとして、建築に関する法律の仕組みと体系について学習し、建築法規を手がかりに建築への理解を実務的視点から深める。

### 授業の位置づけ

建築学科のDP(1)、(3)に対応する。

### 到達目標

建築関係法令の全体像を把握して、建築基準法の概要及び使用される重要な用語の意義・定義を理解できる。基準法の中でも、人々の生活に密接な係わりを持つ・敷地・構造・建築設備・建築環境に関する条文を理解できる。

### 授業全体の内容と概要

建築基準法を理解する上で重要な条文について、図解を交えてわかりやすく解説する。更に主要な制度規定について、条文の成立から実例まで併せて解説すると共に、条文の理解を深めるための演習を行う。

「SDG11・住み続けられるまちづくりを」の関連授業

### 授業の方法

授業は条文の重要項目のチェックと線引きをおこない、板書と配布資料により進めていく。随所に出現する法令独特の語彙の解釈や考え方にも触れて、きめ細やかに進めていく。また、理解度を測るため、単元ごとに課題提示・小テストを行い、必ず答え合わせ・質疑応答の時間を設ける。

### アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

### 履修上の注意事項

法令集と赤ペン、青ペンを必ず持参のこと。また、本講義にあたっては電卓や携帯電話、スマートフォンなどの計算機能を使った計算を禁止する。必ず筆算のこと。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

### 修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

### 資格指定科目

「建築士試験受験資格課程」必修科目、教職課程(工業)選択科目

## 評価方法・基準

### 評価前提条件

原則毎回出席すること(最低出席回数11回以上)

### 評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
80%	0%	0%	0%	0%	20%

## ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
建築基準法の位置づけ、建築用語の定義及び確認申請業務の理解	建築用語の定義及び確認申請業務に関する事項の法体系での位置づけをすべて理解できた。	建築用語の定義及び確認申請業務に関する事項の法体系での位置づけを8割方理解できた。	建築用語の定義及び確認申請業務に関する事項の法体系での位置づけを6割方理解できた。	建築用語の定義及び確認申請業務に関する事項を理解できた。	建築用語の定義及び確認申請業務に関する事項を理解できなかった。
建築物の敷地に関連する規定(道路、用途地域、建築基準、容積率、高さ等)の理解	建築基準法における建築物の敷地に関連する規定を正確に理解できた。	建築基準法における建築物の敷地に関連する規定を8割方正確に理解できた。	建築基準法における建築物の敷地に関連する規定を6割方正確に理解できた。	建築基準法における建築物の敷地に関連する規定を理解できた。	建築基準法における建築物の敷地に関連する規定を理解できなかった。
その他の建築関連法規の理解	その他の建築関連法規に関する規定を正確に理解できた。	その他の建築関連法規に関する規定を8割方正確に理解できた。	その他の建築関連法規に関する規定を6割方正確に理解できた。	その他の建築関連法規に関する規定を理解できた。	その他の建築関連法規に関する規定を理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	建築法規 (科目ナンバリング: APT312018)				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 善太郎 (建築学科・教授)	研究室等所在	2号館6階		
単位数	2 (単位認定責任者: 佐藤 善太郎)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『建築基準法関係法令集 2023年』	日建学院編	建築資料研究社	2023	4863588356	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバスの説明。建築関係法令とその背景(歴史的経緯と位置づけ・施行令・規則・人間・居住・都市・環境)	オリエンテーション時に配布された資料の熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
2	建築基準法の概要(法令構成・文脈・総則)	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
3	建築基準法各論-1 実例から読み取る身近な建築基準法	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
4	建築基準法各論-2 敷地・居室・主要構造部・構造体上主要な部分	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
5	建築基準法各論-3 工作物, 特殊建築物, 建築行為	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
6	建築基準法各論-4 面積および階数の算定・建物の高さの算定	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
7	建築基準法各論-5 許可申請等の手続規定	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
8	建築基準法各論-6 耐火・準耐火・防火構造	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
9	建築基準法各論-7 特殊建築物の役割とその定義・別表第1	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
10	建築基準法各論-8 防火関係条文の構造とその理解	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
11	建築基準法各論-9 居室の採光と生活空間	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
12	建築基準法各論-10 床高・軒高・天井高	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
13	建築基準法各論-11 階段	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
14	建築基準法各論-12 居住環境と換気	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
15	建築基準法各論-13 建築基準法と倫理 授業改善アンケートの実施	事前提示の条文熟読(90分)	本授業の振り返り(90分)
16	理解度診断試験・試験解説	事前提示の条文熟読(90分)	試験の振り返り(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	精神障害リハビリテーション論 (科目ナンバリング: SWS123042)				
授業担当者(所属・職名)	畠山 明子(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 畠山 明子)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

精神障害リハビリテーションの理念、定義、基本原則、精神障害リハビリテーションの構成及び展開、精神障害リハビリテーションプログラムの内容と実施機関、精神障害リハビリテーションの動向と実際について学び、精神保健福祉士に求められる知識および技術を習得する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP(1)(2)(3)(5)に対応する。

到達目標

精神障害リハビリテーションの概念とプロセス及び精神保健福祉士の役割について理解し、援助場面で活用できる。  
精神障害リハビリテーションプログラムの知識を援助場面で活用できる。  
精神障害リハビリテーションの実施機関と精神障害リハビリテーションプログラムの関連について理解し、援助場面で活用できる。

授業全体の内容と概要

精神障害リハビリテーションが医学的な回復にとどまらず、一人の人として尊厳のある社会生活を送ることを保障するものであることを学ぶ。  
精神障害リハビリテーションの歴史と現状、精神障害リハビリテーションプログラムの内容について学ぶ。  
「SDGs3. すべての人に健康と福祉を」の関連授業

授業の方法

教科書の内容をまとめた配布資料に基づく講義形式になるが、新聞記事の活用や映像資料の視聴、演習(グループワーク等)も取り入れる。配布された資料には板書事項を記述すること。  
毎回の感想・質問等をMicrosoft Formsを通して提出し、次回授業開始時にフィードバックを行う。  
第10回目の前半には中間テストを実施し、理解度を確認する(出題形式・試験時間等は授業内で説明)。質問等は随時対応。  
授業資料の配信等においてMicrosoft Teamsを活用する。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

教科書は毎回持参すること。  
配布資料は紛失しないよう、ファイリングする等して管理を徹底すること。  
ニュースなどで報道される福祉に関わる話題について興味を持つこと。  
新聞記事などを題材として社会福祉の現状や課題を検討する等、常に問題意識を持ちながら積極的に授業に参加すること。  
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

・事前相談を受け、大学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

精神保健福祉士国家試験受験資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

出席回数は定期試験前までに10回以上あることを評価の前提条件とし、第10回目に実施する中間テスト(30点)、第16回目に実施する定期試験(70点)の結果を総合して評価する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70%	0%	0%	30%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
精神障害リハビリテーションの概念とプロセス及び精神保健福祉士の役割について理解し、援助場面で活用できる。	関係するキーワードを用いて精神障害リハビリテーションの概念とプロセス及び精神保健福祉士の役割について理解し、援助場面で活用できる。	関係するキーワードを用いて精神障害リハビリテーションの概念とプロセス及び精神保健福祉士の役割について説明できた。	関係するキーワードを提示することにより精神障害リハビリテーションの概念とプロセス及び精神保健福祉士の役割について具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより精神障害リハビリテーションの概念とプロセス及び精神保健福祉士の役割について説明できた。	精神障害リハビリテーションの概念とプロセス及び精神保健福祉士の役割について説明が不十分だった。
精神障害リハビリテーションプログラムの知識を援助場面で活用できる。	関係するキーワードを用いて精神障害リハビリテーションプログラムについて具体的に説明できた。	関係するキーワードを用いて精神障害リハビリテーションプログラムについて説明できた。	関係するキーワードを提示することにより精神障害リハビリテーションプログラムについて具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより精神障害リハビリテーションプログラムについて説明できた。	精神障害リハビリテーションプログラムについて説明が不十分だった。
精神障害リハビリテーションの実施機関と精神障害リハビリテーションプログラムの関連について理解し、援助場面で活用できる。	関係するキーワードを用いて精神障害リハビリテーションの実施機関と精神障害リハビリテーションプログラムの関連について説明できた。	関係するキーワードを用いて精神障害リハビリテーションの実施機関と精神障害リハビリテーションプログラムの関連について説明できた。	関係するキーワードを提示することにより精神障害リハビリテーションの実施機関と精神障害リハビリテーションプログラムの関連について具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより精神障害リハビリテーションの実施機関と精神障害リハビリテーションプログラムの関連について説明できた。	精神障害リハビリテーションの実施機関と精神障害リハビリテーションプログラムの関連について説明が不十分だった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	精神障害リハビリテーション論 (科目ナンバリング: SWS123042)				
授業担当者(所属・職名)	畠山 明子(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 畠山 明子)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『最新精神保健福祉士養成講座3 精神障害リハビリテーション論』	日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規出版	2021	9784805882542	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間			
回	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明、精神障害リハビリテーションとソーシャルワーク(精神障害リハビリテーションとソーシャルワーク福祉士の役割)	本講義で学ぶ概要についてシラバスや教科書の内容を確認する。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
2	精神障害リハビリテーションとソーシャルワーク(精神障害リハビリテーションにおける精神保健福祉士の役割)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
3	精神障害リハビリテーションの理念、定義、基本原則(精神障害リハビリテーションの理念と定義)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
4	精神障害リハビリテーションの理念、定義、基本原則(医学的・職業的・社会的・教育的リハビリテーション)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
5	精神障害リハビリテーションの理念、定義、基本原則(精神障害リハビリテーションの基本原則、地域およびリカバリー概念を基礎としたリハビリテーション)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
6	精神障害リハビリテーションの構成および展開(精神障害リハビリテーションの対象)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
7	精神障害リハビリテーションの構成および展開(チームアプローチ)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
8	精神障害リハビリテーションの構成および展開(精神障害リハビリテーションのプロセス)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
9	まとめ	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
10	中間テスト、振り返り	試験に向けて授業内容の振り返りを行う。(90分)	試験で間違えたところ、理解があまりなかった箇所についてプリント等を確認して見直し、復習を行う。(90分)
11	精神障害リハビリテーションプログラムの内容と実施機関(医学的リハビリテーションプログラム)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
12	精神障害リハビリテーションプログラムの内容と実施機関(職業的リハビリテーションプログラム)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
13	精神障害リハビリテーションプログラムの内容と実施機関(社会的リハビリテーションプログラム、教育的リハビリテーションプログラム)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
14	精神障害リハビリテーションプログラムの内容と実施機関(家族支援プログラム、リハビリテーションプログラムに用いられるその他の手法・プログラム)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
15	精神障害リハビリテーションの動向と実際	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
16	定期試験(60分の試験終了後、残りの30分で解説)、授業改善アンケートの実施	試験に向けて授業内容の振り返りを行う。(90分)	試験で間違えたところ、理解があまりなかった箇所についてプリント等を確認して見直し、復習を行う。(90分)

各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間			
回	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	保育者論 (科目ナンバリング: CHS121072)				
授業担当者(所属・職名)	吉江 幸子(社会福祉学科・教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 吉江 幸子)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	保育現場における実務経験を活かし、保育士の専門性を体系的に講義する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

以下の4つを授業の目的とする。  
 1. 保育者の役割と倫理について理解する。  
 2. 保育士の制度的な位置づけを理解し、その専門性について考察する。  
 3. 保育者の連携・協働について理解する。  
 4. 保育者の資質向上とキャリア形成について理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP(1)(3)に対応する。

到達目標

1. 保育者の役割・倫理、協働、専門職的成長について理解したことを説明する。
2. 保育士の制度的な位置づけ、専門性について理解したことを説明する。

授業全体の内容と概要

保育者の役割、倫理、協働、専門職的成長及び保育士の制度的な位置づけ、専門性について体系的に学修する。  
 \*SDG4「質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業は、板書とプレゼンテーションソフトを活用しながら講義形式で行う。  
 Microsoft Teams/Formsの諸機能を活用し、意見交換や教材配付等を行う。  
 レポートに関してもコメントしてフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

レポートの内容・提出方法及び平常点の評価は加点方式とし、授業時間に説明する。  
 遅刻した場合、授業へは参加できるが20分以上の遅刻は欠席扱いとするので注意すること。  
 評価Sは履修者の10%以内、評価SとAを合わせて40%以内となっている。  
 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

保育士養成課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は11回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
50%	20%	0%	0%	30%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
保育者の役割に関する知識・技能(何を知っているか、何ができるか)	保育者の役割及び倫理性について深く理解できた。	保育者の役割及び倫理性についておおむね理解できた。	保育者の役割及び倫理性について理解できた。	保育者の役割及び倫理性についてやや理解できた。	保育者の役割及び倫理性について理解できなかった。
保育士の専門性に関する思考力・判断力・表現力等(知っていること、できることをどう使うか)	保育士の専門性について深く考察できた。	保育士の専門性についておおむね考察できた。	保育士の専門性について考察できた。	保育士の専門性についてやや考察できた。	保育士の専門性について考察することができなかった。
主体的に取り組む態度(どのように関わるか)	専門職としての役割・倫理・協働について理解したことをわかりやすく説明できた。	専門職としての役割・倫理・協働について理解したことをおおむね説明できた。	専門職としての役割・倫理・協働について理解したことを説明できた。	専門職としての役割・倫理・協働について理解したことをやや説明できた。	専門職としての役割・倫理・協働について理解したことを説明できなかった。



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	保育者論 (科目ナンバリング: CHS121072)				
授業担当者(所属・職名)	吉江 幸子(社会福祉学科・教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 吉江 幸子)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	保育現場における実務経験を活かし、保育士の専門性を体系的に講義する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『保育所保育指針<平成29年告示>』	厚生労働省	フレーベル館	2017	9784577814239	
2	『保育所保育指針解説』	厚生労働省	フレーベル館	2018	9784577814482	
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明	指定した教科書を事前に読むこと(90分)。	1回目の授業で理解した点を整理する(90分)。
2	保育者の役割・職務内容と倫理	教科書の専門用語の意味を理解しておく(90分)。	2回目の授業で理解した点を整理する(90分)。
3	児童福祉法における保育士の定義	教科書の専門用語の意味を理解しておく(90分)。	授業終了時に示す課題レポートを作成する(90分)。
4	保育士の資格・要件	教科書の専門用語の意味を理解しておく(90分)。	4回目の授業で理解した点を整理する(90分)。
5	欠格事由、信用失墜行為及び秘密義務保持等	教科書の専門用語の意味を理解しておく(90分)。	5回目の授業で理解した点を整理する(90分)。
6	保育士の資質・能力	教科書の専門用語の意味を理解しておく(90分)。	6回目の授業で理解した点を整理する(90分)。
7	養護及び教育の一体的展開	教科書の専門用語の意味を理解しておく(90分)。	7回目の授業で理解した点を整理する(90分)。
8	家庭との連携と保護者に対する支援	教科書の専門用語の意味を理解しておく(90分)。	授業終了時に示す課題レポートを作成する(90分)。
9	計画に基づく保育の実践と省察・評価	教科書の専門用語の意味を理解しておく(90分)。	9回目の授業で理解した点を整理する(90分)。
10	保育の質の向上	教科書の専門用語の意味を理解しておく(90分)。	10回目の授業で理解した点を整理する(90分)。
11	保育における職員間の連携・協働	教科書の専門用語の意味を理解しておく(90分)。	11回目の授業で理解した点を整理する(90分)。
12	専門職間及び専門機関との連携・協働	教科書の専門用語の意味を理解しておく(90分)。	12回目の授業で理解した点を整理する(90分)。
13	地域における自治体や関係機関等との連携・協働	教科書の専門用語の意味を理解しておく(90分)。	13回目の授業で理解した点を整理する(90分)。
14	資質向上に関する組織的取組	教科書の専門用語の意味を理解しておく(90分)。	授業終了時に示す課題レポートを作成する(90分)。
15	保育者の専門性の向上とキャリア形成の意義 組織とリーダーシップ まとめ	これまでの授業で学んだ事を整理しておく(90分)。	授業の目的の達成度を自己評価する(90分)。
16	定期試験60分。試験終了後に解説を行う 提出されたレポートの総合評価をフィードバックと 授業改善アンケートの実施	15回の講義内容を振り返り復習する(90分)。	験、課題の解説に基づき復習し整理する(90分)。

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	特別支援教育総論 (科目ナンバリング：SNE122103)				
授業担当者(所属・職名)	堀川厚志(社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者：堀川厚志)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校教育現場及び教育行政経験のある教員が、特別支援教育に関する今日的課題について指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示板等を参照				

概要

履修目標
特別支援教育への転換の背景から特別支援教育の理念や意義、現状等について総合的に理解する。

授業の位置づけ
社会福祉学科のDP(2)と(5)に対応する。

到達目標
特別支援教育への転換の背景、特別支援教育の理念や意義がわかり、関連する基本的な内容がわかる。

授業全体の内容と概要
内容は、特殊教育から特別支援教育への転換の背景、特別支援教育の理念や意義、障害のある子の教育の歴史、教育制度、教育課程、個別的教育支援計画と個別の指導計画、学習指導要領の概要、小・中学校等を含めた特別支援教育コーディネーターの役割等について、現状の特別支援教育を踏まえて説明する。 「SDG4、質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法
プレゼン資料等の提示による講義形式を主とし、内容により、グループワークやペアワークを実施する。 Microsoft Forms等を活用して、前時の振り返りと本時の内容確認の小テストを実施して、学生全体の理解度を把握し、指導する。

アクティブラーニングの実施方法																					
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模範授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL															
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業															
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)															

履修上の注意事項
授業内容に関するプレゼン資料の毎時間の配布や、レポート課題の出題、小テストを実施するので、欠席をしないようにすること。 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
---

資格指定科目
教職課程(特別支援)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件
単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上とする。

評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>60%</td> <td>20%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>10%</td> <td>10%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	60%	20%	0%	0%	10%	10%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
60%	20%	0%	0%	10%	10%							

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
特別支援教育の基本的な内容や現状等に関する総合的な理解	特別支援教育の基本的な内容や現状等について、十分に理解し、学修した知識をさらに深化させたり、発展的な学修ができた。	特別支援教育の基本的な内容や現状等について、十分に理解できた。	特別支援教育の基本的な内容や現状等について、一定程度、理解できた。	特別支援教育の基本的な内容や現状等について、部分的に理解できた。	特別支援教育の基本的な内容や現状等について、理解できなかった。
特別支援教育の基本的な内容、現状と課題等に関する理解、思考力、判断力、表現力の向上	特別支援教育の基本的な内容、現状と課題等について、的確かつ発展的に整理し、思考力、判断力、表現力を十分に高めることができた。	特別支援教育の基本的な内容、現状と課題等について整理し、思考力、判断力、表現力を十分に高めることができた。	特別支援教育の基本的な内容、現状と課題等について整理し、思考力、判断力、表現力を高めることができた。	特別支援教育の基本的な内容、現状と課題等について整理し、部分的に思考力、判断力、表現力を高めることができた。	特別支援教育の基本的な内容、現状と課題等について整理し、思考力、判断力、表現力を高めることができなかった。
授業への参加意欲や学修に向かう姿勢・態度	授業には意欲的に参加し、自ら発言するなど、常に積極的に取り組むことができた。	授業には意欲的に参加し、積極的に取り組むことができた。	授業には意欲的に参加し、部分的に積極的に取り組むことができた。	授業に参加し、ときどき積極的に取り組むことができた。	授業に参加し、積極的に取り組むことができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	特別支援教育総論 (科目ナンバリング: SNE122103)				
授業担当者(所属・職名)	堀川厚志(社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者: 堀川厚志)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校教育現場及び教育行政経験のある教員が、特別支援教育に関する今日的課題等について指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『特別支援教育の基礎・基本2020』	独立行政法人国立特別支援教育総合研究所	ジヤース教育新社	2020	978-4-86371-548-6	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション(シラバス、授業改善アンケート結果反映の説明、特別支援教育の概要)	シラバスを読む(90分)	内容を振り返る(90分)
2	特別支援教育への転換とその背景の理解	特別支援教育への転換を調べる(90分)	重要事項を整理する(90分)
3	特別支援教育の制度の理解	特別支援教育の制度を調べる(90分)	重要事項を整理する(90分)
4	障害児教育の歴史の変遷の理解	障害児教育の歴史を調べる(90分)	重要事項を整理する(90分)
5	特別支援教育の対象と就学(教育支援)についての理解	対象児童生徒と就学を調べる(90分)	重要事項を整理する(90分)
6	個別の教育支援計画について説明する。	個別の教育支援計画を調べる(90分)	重要事項を整理する(90分)
7	学習指導要領と教育課程の理解	学習指導要領と教育課程を調べる(90分)	重要事項を整理する(90分)
8	個別の指導計画の作成と活用についての理解	個別の指導計画を調べる(90分)	重要事項を整理する(90分)
9	各障害の状態等と特別支援学校の教育についての理解	障害の状態と特別支援学校を調べる(90分)	重要事項を整理する(90分)
10	教育課程の編成と指導の実践についての理解	教育課程の編成を調べる(90分)	重要事項を整理する(90分)
11	自立活動の指導の理解	自立活動の指導を調べる(90分)	重要事項を整理する(90分)
12	特別支援教育コーディネーターの理解	特別支援教育コーディネーターを調べる(90分)	重要事項を整理する(90分)
13	小・中学校等の特別支援教育についての理解	小・中学校の指導を調べる(90分)	重要事項を整理する(90分)
14	実態把握とアセスメントの重要性の理解	指導とアセスメントを調べる(90分)	重要事項を整理する(90分)
15	心理検査の活用についての理解 授業改善アンケートの実施	心理検査を調べる(90分)	重要事項を整理する(90分)
16	定期試験(60分間の筆記テスト、終了後15分間の解答の解説を実施)	全内容を整理する(90分)	全内容を振り返る(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	デザイン概論 (科目ナンバリング: DES211015)				
授業担当者(所属・職名)	赤木 良子(建築学科・准教授)	研究室等所在	未定		
単位数	2 (単位認定責任者: 赤木 良子)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	建築意匠設計経験。インテリアデザイン経験。一級建築士。実務経験と学術的な両方の観点から、テーマを取り扱う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。Teams等による事前連絡。				

概要

履修目標

現代におけるデザインには様々な分野があり、多岐に渡る。このデザインの現代における現象は、ここ100年ほどの短い「デザイン史」の結果でもある。デザイン史を軸として今起きているデザイン業界での作家性、手法、思想などについて幅広く学び、知性としてのデザイン力の基礎的な部分について身につける。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP (1) (2) (5) に対応する。

到達目標

授業で取り上げるデザインに関する大まかな事項について理解している。分からないことについて調べることができる。調べたこと、見聞したことに対し、自分の意見を表現し、深めることができる。

授業全体の内容と概要

本講義は、デザイン概論1から連続性のある内容である。デザインの歴史は長く、一般的には、この100年程度を指している。ゆえに、現代生じているデザインの多くは、そのまま現代におけるデザインの根幹となっている現象である。本講義ではデザイン史を時系列になぞりながら、関連する事項についてその都度、論じていく。

授業の方法

本講義では、テキストに沿ってデザイン史を学びつつ、関連する事柄について講義を行う。各講義の節目に、小テストを行う。小テストをまとめた形で最終的に試験又はレポート(もしくは試験・レポート)を行い評価する。内容に応じて、調査し発表する機会も設ける場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

本講義は、「デザイン概論1」を受講していることを前提としている。ノート・筆記具を用意すること。不足の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程科目(高・美術、工芸)の選択必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

12回以上の出席と全てのテスト・レポート類の提出が必須。10分以上の遅刻は、5回で一回欠席とみなす。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	60%	0%	0%	20%	20%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
授業で取り上げるデザインに関する大まかな事項について理解している。	十分に理解できている。	概ね理解できている。	不十分ではあるが、理解できている部分がある。	最低限の理解しかできていない。	全く理解できていない。
分からないことについて調べることができる。	十分できている。	概ね、できている。	不十分ではあるが部分的にはできている。	最低限のことしかできていない。	全くできていない。
調べたこと、見聞したことに対し、自分の意見を表現し、深めることができる。	十分深められている。	概ね、深められている。	不十分ではあるが部分的に深められている。	ほとんど深められていない。	全く深められていない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	デザイン概論 (科目ナンバリング: DES211015)				
授業担当者(所属・職名)	赤木 良子(建築学科・准教授)	研究室等所在	未定		
単位数	2 (単位認定責任者: 赤木 良子)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 建築意匠設計経験。インテリアデザイン経験。一級建築士。実務経験と学術的な両方の観点から、テーマを取り扱う。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『カラー版図説 デザインの歴史』	暮沢剛巳他	学芸出版社	2022	9784761528348	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『生きのびるためのデザイン』	ヴィクター・ババネック	晶文社	1974		
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明 スライス・スタイル	シラバスを読んでおくこと(90分)	課題レポート(90分)
2	戦後の工業デザイン	課題レポート(90分)	課題レポート(90分)
3	ポップとサイケデリック	課題レポート(90分)	課題レポート(90分)
4	広告デザインとアートディレクション	課題レポート(90分)	課題レポート(90分)
5	第二機械時代のデザイン	課題レポート(90分)	課題レポート(90分)
6	子供と遊びのデザイン	課題レポート(90分)	課題レポート(90分)
7	オリンピックと万博	課題レポート(90分)	課題レポート(90分)
8	ポストモダン1	課題レポート(90分)	課題レポート(90分)
9	ポストモダン2	課題レポート(90分)	課題レポート(90分)
10	ブランド・家電	課題レポート(90分)	課題レポート(90分)
11	モビリティ・デザイン・人間工学	課題レポート(90分)	課題レポート(90分)
12	スポーツ・高度経済成長期の日本	課題レポート(90分)	課題レポート(90分)
13	キャラクターの生まれるところ	課題レポート(90分)	課題レポート(90分)
14	デジタルデザイン1	課題レポート(90分)	課題レポート(90分)
15	デジタルデザイン2	課題レポート(90分)	課題レポート(90分)
16	試験・授業改善アンケートの実施	課題レポート(90分)	振り返り(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	キャラクターデザイン (科目ナンバリング: AEA222044)				
授業担当者(所属・職名)	三上 いずみ(デザイン学科・准教授)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	1 (単位認定責任者: 三上 いずみ)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

キャラクターデザインについての理解を深める。  
キャラクターデザイナーの役割を実践形式で学ぶ。  
魅力的なオリジナルキャラクターを生み出す。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP(1)(3)(5)に対応する。

到達目標

キャラクターデザインについて知る。  
キャラクターデザイナーの役割を実践形式で体験する。  
オリジナルキャラクターを生み出す。

授業全体の内容と概要

3つのテーマ別課題に沿ったキャラクターをデザインし、発表する。制作はアナログ・デジタルどちらでも可。課題は授業内で説明、ラフデザインチェック後、授業後に制作して提出する。また、公募をひとつ選び、応募する。

授業の方法

授業は板書・パワーポイント・資料配布・実演等の方法で説明する。プロジェクター使用。授業後にデジタル資料はTeam s に保存するので振り返り可能。段階ごとに個別に対応する。完成作品は発表し学生同士で評価しあう。また、添削、講評にてフィードバックする。発表後、パネルにして展示する。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

デジタルで課題制作を行う場合は教室で制作できるように機材を持参すること。  
アナログで課題制作を行う場合は画材を持参すること。  
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

最低出席回数10回以上。  
課題は期日までに提出すること。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	50%	0%	50%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
キャラクターデザインについての知識	キャラクターデザインについての理解を深め、作品に活かすことができた。	キャラクターデザインについての理解を深めることができた。	キャラクターデザインとは何かを知り、理解を深めることができた。	キャラクターデザインについて知ることができた。	キャラクターデザインについて知ることができなかった。
キャラクターデザイナーの役割を実践形式で学ぶ	キャラクターデザイナーの役割を実践形式で学び、作品に活かすことができた。	キャラクターデザイナーの役割を実践形式で学ぶことができた。	キャラクターデザイナーの役割を体験し、学ぶことができた。	キャラクターデザイナーの役割を体験することができた。	キャラクターデザイナーの役割を体験できなかった。
魅力的なオリジナルキャラクターを生み出す	魅力的なオリジナルキャラクターを生み出し、完成度の高い作品ができた。	魅力的なオリジナルキャラクターを生み出すことができた。	魅力的なオリジナルキャラクターを生み出すことに努めた。	オリジナルキャラクターを生み出すことができた。	オリジナルキャラクターを生み出すことができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	キャラクターデザイン (科目ナンバリング: AEA222044)				
授業担当者(所属・職名)	三上 いずみ(デザイン学科・准教授)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	1 (単位認定責任者: 三上 いずみ)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスの説明 キャラクターデザインと公募について	シラバスを読んでおくこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
2	公募を選ぶ	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
3	キャラクターデザイン(人物)	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
4	公募に向けてのキャラクターデザイン	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
5	キャラクターデザイン(人物) 発表	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
6	公募に向けてキャラクターデザイン	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
7	キャラクターデザイン(擬人化)	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
8	公募に向けてキャラクターデザイン	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
9	キャラクターデザイン(擬人化) 発表	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
10	公募に向けてキャラクターデザイン	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
11	キャラクターデザイン(相棒)	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
12	公募に向けてキャラクターデザイン完成	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
13	キャラクターデザイン(相棒) 発表	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
14	公募作品発表	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
15	課題作品の額装	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
16	展示 授業改善アンケートの実施	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	講義全体をふりかえり、まとめを行うこと(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ミク経済学 (科目ナンバリング: ECT422028, ECT522031)				
授業担当者(所属・職名)	河野 善文(経営学科・教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 河野 善文)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

ミク経済学の基礎的な用語や考え方を学ぶことで、ミク経済学の考え方や仕組みを理解し、身近な経済のさまざまな事象を分析するための思考力を身につける。

授業の位置づけ

経営学科のDPの(1)(3)に対応する。

到達目標

基礎的なミク経済学の用語を説明できる。  
身近な経済事象をミク経済学の視点から考察できる。  
市場で決まる価格のしくみと意味がわかる。

授業全体の内容と概要

トレード・オフや機会費用などの経済学の考え方について、身近な事例をもとにした演習も行いながら学ぶ。また、余剰の計算や限界概念にかんする演習をつうじて、市場で価格が決まるしくみやその社会的な意味について理解する。

授業の方法

各回の計画によって、板書やスライドによる講義とノートをもちいた演習とを組み合わせた授業をおこなう。講義では、ミク経済学の用語や基本的な考え方について事例をまじえて解説する。演習では、ミク経済学に関連する計算問題やグラフの作成、例をあげた用語の説明などの問題に取り組む。また、理解の確認の意味もふくめて、解説と演習のあいまに受講生に対して随時質問をして意見をもちながら授業をすすめる。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

履修人数によっては座席を指定する場合がある。また、質問や演習問題の回答・解答を書くために必ずノートが必要である。平常点は、この演習課題への取り組みを評価する。このため、欠席・遅刻することなく授業に参加して演習に取り組むことが重要である。また、不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は10回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
80%	0%	0%	0%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ミク経済学の用語の理解	事例をあげてミク経済学の用語を的確に説明できた。	事例をあげてミク経済学の用語を説明できた。	ミク経済学の用語を説明できた。	ミク経済学の用語をある程度説明できた。	ミク経済学の用語を説明できなかった。
ミク経済理論の理解	図や式を利用して、ミク経済の考え方を的確に説明できた。	図や式を利用して、ミク経済の考え方を説明できた。	ミク経済理論の基礎的な図や式を正確に書き・計算できた。	ミク経済理論の基礎的な図や式をある程度書くことができた。	ミク経済学の図や式を書けなかった。
ミク経済事象の考察	ミク経済学の視点から身近な経済事象を的確に考察できた。	ミク経済学の視点から身近な経済事象をある程度考察できた。	ミク経済学の視点を身近な経済事象に適用できた。	ミク経済学の視点を身近な経済事象にある程度適用できた。	ミク経済学の視点を身近な経済事象に適用できなかった。



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ミクロ経済学 (科目ナンバリング: ECT422028, ECT522031)				
授業担当者(所属・職名)	河野 善文(経営学科・教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 河野 善文)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『マンキュー入門経済学(第3版)』	N・グレイジー・マンキュー	東洋経済新報社	2019	4492315217	
2	『スタンフォード大学で一番人気の経済学入門ミクロ論』	ティモシー・テイラー	かんき出版	2013	9784761268947	
3						
4						
5						

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ミクロ経済学とは: ・授業改善アンケート結果反映の説明 ・授業計画(シラバス)の説明	ミクロ経済学という用語について調べる(90分)	ミクロ経済学とは何かについてノートにまとめる(90分)
2	希少な資源とトレードオフ・ ・トレードオフとは、資源の希少性と経済学の目的	用語「トレード・オフ」・「資源の希少性」について調べる(90分)	資源の希少性とトレード・オフの関係についてノートにまとめる(90分)
3	経済学的費用とは ・ある行動の経済学的費用とは、機会費用の考え方	「機会費用」について調べる(90分)	経済学的費用の考え方についてノートにまとめる(90分)
4	インセンティブと効用: ・意思決定と意志力	「インセンティブ」「効用」について調べる(90分)	経済学におけるインセンティブの考え方についてノートにまとめる(90分)
5	現在価値: ・現在価値と将来価値 ・割引現在価値の演習	「割引現在価値」について調べる(90分)	割引現在価値の考え方についてノートにまとめる(90分)
6	買手の行動について: ・意思決定と機会費用、コミットメント	「コミットメント」について調べる(90分)	買手の意思決定についてノートにまとめる(90分)
7	需要曲線と消費者余剰: ・商品に対する買手の評価と需要 ・消費者余剰とは	「消費者余剰」について調べる(90分)	買手の評価と需要曲線、消費者余剰についてノートにまとめる(90分)
8	需要の変化と需要曲線: ・需要曲線上の変化 ・需要曲線のシフト	「需要曲線」について調べる(90分)	需要の変化と需要曲線との関係についてノートにまとめる(90分)
9	財と財との関係: ・代替財とは ・補充財とは	「代替財」「補充財」について調べる(90分)	代替財と補充財について事例もまじえてノートにまとめる(90分)
10	需要の価格弾力性: ・需要の価格弾力性とは ・価格弾力性と需要曲線	「需要の価格弾力性」について調べる(90分)	需要の価格弾力性と需要曲線との関係についてノートにまとめる(90分)
11	売手の費用と行動: ・価格と供給量	価格と供給量との関係について調べる(90分)	供給曲線についてまとめる(90分)
12	限界的な変化:経済学における限界概念 ・限界効用とは ・限界費用とは	「限界効用」と「限界費用」について調べる(90分)	経済学の限界概念についてノートにまとめる(90分)
13	市場機構(1): ・需要と供給 ・需要曲線と買手の限界的な評価 ・供給曲線と売手の限界的な費用	「市場価格」について調べる(90分)	需要曲線・供給曲線の高さの意味についてノートにまとめる(90分)
14	市場機構(2): ・市場の均衡 ・均衡価格と買手の評価・売手の費用	経済学における均衡について調べる(90分)	市場均衡のしくみと市場価格の意味についてノートにまとめる(90分)
15	市場の効率性と市場の失敗 全体のまとめ	市場の失敗について調べる(90分)	不明な点を確認して授業ノートを完成させる(90分)
16	定期試験(60分)と試験の説明 授業改善アンケートの実施	各回の演習問題に再度とりくむ(90分)	試験で間違えた問題に再度とりくむ(90分)

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	スポーツビジネス論 (科目ナンバリング: SPS422067, SPS512013)				
授業担当者(所属・職名)	鈴木 重政(経営学科・教授)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 鈴木 重政)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照 Teamsによるチャットは平日午前9時から午後5時まで対応				

概要

履修目標

世界のスポーツビジネスの事例を学び、北広島に建設されるBPをケースとしてスポーツビジネスの発展をリアルタイムで学ぶことにより、成長産業としてのスポーツビジネスを理解する。

授業の位置づけ

経営学科のDP(2)、(3)、(5)に対応する。

到達目標

スポーツビジネスにおけるマーケティング、経営戦略、会計の知識を用いて、スポーツ業界・企業の分析ができる能力を会得する。

授業全体の内容と概要

スポーツビジネスにおけるマーケティング、経営戦略、会計の知識を用いて、スポーツ業界・企業の分析ができる能力を会得する。

授業の方法

ケースを中心に講義を進める。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

授業に集中しない学生には退出を指示する。授業中の問いに対する積極的な発言を歓迎する。履修にあたりマーケティング論、経営戦略論、財務会計論を履修済みであることが望ましい。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、大学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(保健体育)選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	70%	0%	0%	30%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
スポーツビジネスにおける個別、種目別のビジネスモデルを理解し、経営戦略を策定することができる。	野球団の新規事業を作成することができた。	アメリカメジャーリーグのビジネスモデルを理解していた。	日本のプロ野球のビジネスモデルの変遷を理解していた。	スポーツビジネスのビジネスモデルの基本を理解していた。	スポーツビジネスのビジネスモデルの理解が不足していた。
オリンピックとワールドカップに関するビジネスモデルを理解する	オリンピックのビジネスモデルと課題解決策を明確にすることができた。	オリンピックとワールドカップのビジネスモデルへ課題の解決策を導くことができた。	オリンピックとワールドカップのビジネスモデルの課題を抽出することができた。	オリンピックとワールドカップのビジネスモデルの基本的理解していた。	オリンピックとワールドカップのビジネスモデルへの理解が不足していた。
新たなスポーツビジネスの理解と創造力を養う	北海道ボールパークの課題を抽出し高度な事業計画を策定することができた。	北海道ボールパーク構想の課題を抽出し解決策を策定することができた。	北海道ボールパーク構想について、価値や意義ならびに経済効果などに対して理解を深めていた。	E-SportsやBP(ボールパーク)について基本的に理解していた。	E-SportsやBP(ボールパーク)について理解が不足していた。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	スポーツビジネス論 (科目ナンバリング: SPS422067, SPS512013)				
授業担当者(所属・職名)	鈴木 重政(経営学科・教授)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 鈴木 重政)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション(シラバスの説明)スポーツビジネスの概要 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読んでおくこと(90分)	レポート作成(90分)
2	スポーツビジネスモデル	ケースを読んでおく(90分)	レポート作成(90分)
3	日本のスポーツビジネスモデル(体育からスポーツへ)	ケースを読んでおく(90分)	レポート作成(90分)
4	日本のスポーツビジネスモデル(鹿島アントラーズ)	ケースを読んでおく(90分)	レポート作成(90分)
5	日本のスポーツビジネスモデル(プロ野球 楽天・ロッテ・日本ハム)	ケースを読んでおく(90分)	レポート作成(90分)
6	米国のスポーツビジネスモデル(MLB)	ケースを読んでおく(90分)	レポート作成(90分)
7	米国のスポーツビジネスモデル(NFL)	ケースを読んでおく(90分)	レポート作成(90分)
8	米国のスポーツビジネスモデル(中国に進出するバスケットボールビジネス)	ケースを読んでおく(90分)	レポート作成(90分)
9	英国におけるサッカービジネスモデル	ケースを読んでおく(90分)	レポート作成(90分)
10	英国におけるサッカービジネスモデル	ケースを読んでおく(90分)	レポート作成(90分)
11	FIFAのビジネスモデル	ケースを読んでおく(90分)	レポート作成(90分)
12	オリンピックビジネス	ケースを読んでおく(90分)	レポート作成(90分)
13	eスポーツ	ケースを読んでおく(90分)	レポート作成(90分)
14	ボールパーク	ケースを読んでおく(90分)	レポート作成(90分)
15	ボールパーク 授業改善アンケートの実施	ケースを読んでおく(90分)	レポート作成(90分)
16	レポート講評	解説フィードバック(90分)	総復習(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科（スポーツマネジメントコース）・3		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	スポーツビジネス論（SP）（科目ナンバリング：SPS422067, SPS512013）				
授業担当者（所属・職名）	鈴木 重政（経営学科・教授）	研究室等所在	1号館3階		
単位数	2（単位認定責任者：鈴木 重政）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照 Teamsによるチャットは平日午前9時から午後5時まで対応				

概要

履修目標

世界のスポーツビジネスの事例を学び、北広島に建設されるBPをケースとしてスポーツビジネスの発展をリアルタイムで学ぶことにより、成長産業としてのスポーツビジネスを理解する。

授業の位置づけ

経営学科のDP（2）、（3）、（5）に対応する。

到達目標

スポーツビジネスにおけるマーケティング、経営戦略、会計の知識を用いて、スポーツ業界・企業の分析ができる能力を会得する。

授業全体の内容と概要

スポーツビジネスにおけるマーケティング、経営戦略、会計の知識を用いて、スポーツ業界・企業の分析ができる能力を会得する。

授業の方法

ケースを中心に講義を進める。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
○	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

授業に集中しない学生には退出を指示する。授業中の問いに対する積極的な発言を歓迎する。履修にあたりマーケティング論、経営戦略論、財務会計論を履修済みであることが望ましい。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（保健体育）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	70%	0%	0%	30%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
スポーツビジネスにおける個別、種目別のビジネスモデルを理解し、経営戦略を策定することができる。	野球団の新規事業を作成することができた。	アメリカメジャーリーグのビジネスモデルを理解していた。	日本のプロ野球のビジネスモデルの変遷を理解していた。	スポーツビジネスのビジネスモデルの基本を理解していた。	スポーツビジネスのビジネスモデルの理解が不足していた。
オリンピックとワールドカップに関するビジネスモデルを理解する	オリンピックのビジネスモデルと課題解決策を明確にすることができた。	オリンピックとワールドカップのビジネスモデルへ課題の解決策を導くことができた。	オリンピックとワールドカップのビジネスモデルの課題を抽出することができた。	オリンピックとワールドカップのビジネスモデルの基本的理解していた。	オリンピックとワールドカップのビジネスモデルへの理解が不足していた。
新たなスポーツビジネスの理解と創造力を養う	北海道ボールパークの課題を抽出し高度な事業計画を策定することができた。	北海道ボールパーク構想の課題を抽出し解決策を策定することができた。	北海道ボールパーク構想について、価値や意義ならびに経済効果などに対して理解を深めていた。	E-SportsやBP（ボールパーク）について基本的理解していた。	E-SportsやBP（ボールパーク）について理解が不足していた。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科（スポーツマネジメントコース）・3		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	スポーツビジネス論（SP）（科目ナンバリング：SPS422067，SPS512013）				
授業担当者（所属・職名）	鈴木 重政（経営学科・教授）	研究室等所在	1号館3階		
単位数	2（単位認定責任者：鈴木 重政）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション（シラバスの説明） スポーツビジネスの概要 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読んでおくこと（90分）	レポート作成（90分）
2	スポーツビジネスモデル	ケースを読んでおく（90分）	レポート作成（90分）
3	日本のスポーツビジネスモデル（体育からスポーツへ）	ケースを読んでおく（90分）	レポート作成（90分）
4	日本のスポーツビジネスモデル（鹿島アントラーズ）	ケースを読んでおく（90分）	レポート作成（90分）
5	日本のスポーツビジネスモデル（プロ野球 楽天・ロッテ・日本ハム）	ケースを読んでおく（90分）	レポート作成（90分）
6	米国のスポーツビジネスモデル（MLB）	ケースを読んでおく（90分）	レポート作成（90分）
7	米国のスポーツビジネスモデル（NFL）	ケースを読んでおく（90分）	レポート作成（90分）
8	米国のスポーツビジネスモデル（中国に進出するバスケットボールビジネス）	ケースを読んでおく（90分）	レポート作成（90分）
9	英国におけるサッカービジネスモデル	ケースを読んでおく（90分）	レポート作成（90分）
10	英国におけるサッカービジネスモデル	ケースを読んでおく（90分）	レポート作成（90分）
11	FIFAのビジネスモデル	ケースを読んでおく（90分）	レポート作成（90分）
12	オリンピックビジネス	ケースを読んでおく（90分）	レポート作成（90分）
13	eスポーツ	ケースを読んでおく（90分）	レポート作成（90分）
14	ボールパーク	ケースを読んでおく（90分）	レポート作成（90分）
15	ボールパーク 授業改善アンケートの実施	ケースを読んでおく（90分）	レポート作成（90分）
16	レポート講評	解説フィードバック（90分）	総復習（90分）

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	建築構造力学 (科目ナンバリング: BSM312012)				
授業担当者(所属・職名)	長森 正(建築学科・教授)		研究室等所在	アトリエ棟 1階	
単位数	2	(単位認定責任者: 長森 正)	CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	1級土木施工管理技士・測量士・コンクリート技士として建設会社に勤務。実務経験をもとに講義する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

建築技術者に必要な建築構造力学のうち、力と構造物の関係・力の釣り合い・静定構造物の特徴や解法を学習する。物理学や数学をベースとして、構造計算の基礎知識を修得し、それらに応用する能力を身につける。

授業の位置づけ

建築学科のDP(1)、(2)に対応する。

到達目標

建築構造物に起きている力学的諸現象がイメージし、把握できる。力の釣り合いを理解し、静定はり・静定ラーメンなどの支点反力・応力を計算して断面力図を描くことができる。建築施工管理技士・建築士の構造力学分野の問題を解くことができる。

授業全体の内容と概要

取扱う内容は静力学の基礎知識・初等弾性力学及び静定構造物の応力と変形等である。力の表示・合成・分解・釣り合い等から構造物の荷重・反力、応力などの事項を講義する。

授業の方法

教科書の例題に沿って解説しながら板書にて講義する。積み重ねが重要な科目であるので出席を特に重視し、授業毎に簡単な演習を出題する。参考資料無しで演習が自力で解けるように講義する。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

教科書の例題と配布資料を中心に講義を進めるので、休まず出席して知識を集積することが重要。講義を理解し演習を行うには十分な予習が必要であり、知識の定着には復習(反復演習)が必要である。不足の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(工業)必修科目, 建築士試験受験資格課程必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は10回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70%	0%	0%	0%	0%	30%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
力に関する基礎知識	複数の力のベクトル表示から力の合成・分解ができ、他の人に説明できた。	複数の力のベクトル表示から力の合成・分解ができた。	複数の力のベクトル表示ができた。	ある点の作用するベクトル表示ができた。	ある点の作用するベクトル表示ができなかった。
静定構造物に生じる力学的諸現象	様々な構造形式の支点反力を求め、断面力図を描くことができ、他の人に説明できた。	様々な構造形式の支点反力を求め、断面力図を描くことができた。	基本的な構造形式の支点反力を求め、断面力図を描くことができ、説明できた。	基本的な構造形式の支点反力を求め、断面力図を描くことができた。	基本的な構造形式の支点反力を求め、断面力図を描くことができなかった。
建築士・建築施工管理技士の試験問題対応力	2級建築士問題(構造部門)を解答でき、他の人に説明できた。	2級建築士問題(構造部門)を解答できた。	施工管理技士試験問題(構造部門)を解答でき、他人に説明できた。	施工管理技士試験問題(構造部門)を解答できた。	施工管理技士試験問題(構造部門)を解答できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	建築構造力学 (科目ナンバリング: BSM312012)				
授業担当者(所属・職名)	長森 正(建築学科・教授)	研究室等所在	アトリエ棟1階		
単位数	2 (単位認定責任者: 長森 正)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	1級土木施工管理技術士・測量士・コンクリート技術士として建設会社に勤務。実務経験をもとに講義する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『図説やさしい構造力学』	浅野 清昭	学芸出版社			
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『初めての建築構造力学』	建築のテキスト編集委員会編	学芸出版社			
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスの説明 構造力学に必要な算術計算	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する(90分)	授業内容を整理して、演習問題を復習する(90分)
2	力に関する基礎知識 (1)力・力のモーメント	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	演習問題を理解し復習する(90分)
3	力に関する基礎知識 (2)合力・分布荷重	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	演習問題を理解し復習する(90分)
4	力の釣り合い	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	演習問題を理解し復習する(90分)
5	構造物(荷重)	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	演習問題を理解し復習する(90分)
6	構造物(反力)	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	演習問題を理解し復習する(90分)
7	部材の生じる力 (1)(基礎)	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	演習問題を理解し復習する(90分)
8	部材の生じる力 (2)(単純梁)	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	演習問題を理解し復習する(90分)
9	部材の生じる力 (3)(片持梁)	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	演習問題を理解し復習する(90分)
10	部材の生じる力 (4)(せん断力図・曲げモーメント図)	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	演習問題を理解し復習する(90分)
11	荷重の重ね合わせ	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	演習問題を理解し復習する(90分)
12	静定ラーメン(1)	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	演習問題を理解し復習する(90分)
13	静定ラーメン(2)	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	演習問題を理解し復習する(90分)
14	静定ラーメン(3)	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	演習問題を理解し復習する(90分)
15	まとめ	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	演習問題を理解し復習する(90分)
16	授業改善アンケートの実施 定期試験 6.0分の試験終了後、残りの3.0分で解説する。	授業内容全体について資料を整理して、定期試験に備える(90分)	授業内容全体について資料を整理する。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	人文地理学 (科目ナンバリング: HUG122125, )				
授業担当者(所属・職名)	塩崎 大輔(社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	未定		
単位数	2 (単位認定責任者: 塩崎 大輔)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示板等を参照				

概要

履修目標

本授業は地理学の基礎を学ぶことによって人と土地との関係を考えるという地理学的なモノの見方を身につける。また地域と災害の関係を地理学的に学ぶことで、地域や教育に活用できるスキルを身につけることを目的とする。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP(4)(5)に対応する。

到達目標

1. 人文地理学の基礎を理解し、基本的な知識を説明できること。
2. 災害関連情報を収集し、活用するスキルを身に付ける。

授業全体の内容と概要

地理学とは土地と人との関係を議論する学問である。高等学校教育までの地理教育は「どこに」「なに」があるのかを知識として学んできた。この授業ではそこから一歩先に進み「なぜ」そこにあるのかを考える力を養うことを目的とする。本講義は地理学の中でも人文地理学の基礎を解説する。地理学は学際的な分野と言われ、その研究対象は幅広いため、ここではまず地理学の中でも農業、工業、商業、都市、開発という各分野の概説を日本の事例を中心に解説し、これまでの地理学の成果を学んでいく。「SDGs4.質の高い教育をみんなに」および「SDGs11.住み続けられるまちづくりを」の関連科目。

授業の方法

授業は講義形式で行い、スライド資料及び映像資料を使用して行う。また授業中・授業後に適宜、課題に沿った作業・レポート作成を行う。その過程で国土地理院地理院地図や地域分析ソフトRESASといった、WebGISの活用方法を解説する。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

授業内で適宜連絡する。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(社会・地理歴史)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	50%	50%	0%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
人文地理学の理解	レポート課題において、9割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、8割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、7割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、6割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、6割以上の得点を取ることができなかった。
多面的多角的な視点	右の記述を高いレベルで実現できた。	人文地理的要因(工業・商業・都市・観光・開発等)を深く理解することができた。	人文地理的要因(工業・商業・都市・観光・開発等)を理解することができた。	人文地理的要因(工業・商業・都市・観光・開発等)をやや理解することができた。	人文地理的要因(工業・商業・都市・観光・開発等)を理解することができなかった。
災害情報の活用	災害情報を地理的に理解し、高いレベルで活用することができた。	災害情報を地理的に理解し、活用することができた。	災害情報を地理的に理解することができた。	災害情報を地理的にやや理解することができた。	災害情報を地理的に理解することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	人文地理学 (科目ナンバリング: HUG122125, )				
授業担当者(所属・職名)	塩崎 大輔(社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	未定		
単位数	2 (単位認定責任者: 塩崎 大輔)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明、授業の内容・進め方・評価の仕方 ガイダンス	事前にシラバスを読んでいること。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
2	地理学概説 地理学の成り立ち	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
3	地理学概説 系統地理学と地誌学	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	レポート課題等を作成すること。(90分)
4	立地論	レポート課題等を作成すること。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
5	工業地理学	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
6	都市地理学	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
7	商業地理学	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	レポート課題等を作成すること。(90分)
8	観光地理学	レポート課題等を作成すること。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
9	開発地理学	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
10	地理学とフィールドワーク	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	レポート課題等を作成すること。(90分)
11	地域調査法	レポート課題等を作成すること。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
12	地理学と災害	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
13	北海道における災害リスク	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
14	地域防災とハザードマップ	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	レポート課題等を作成すること。(90分)
15	これからの地理学	レポート課題等を作成すること。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
16	まとめ、課題(レポートなど)の解説 授業改善アンケートの実施	事前にテキストの範囲を読んでいること。(90分)	まとめの振り返り。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	実験	必修・選択	選択
科目名称	建築材料実験 (科目ナンバリング: BSM322028)				
授業担当者(所属・職名)	長森 正(建築学科・教授)		研究室等所在	アトリエ棟1階	
単位数	1	(単位認定責任者: 長森 正)	CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	1級土木施工管理技士・測量士・コンクリート技士として建設会社に勤務。実務経験をもとに実験をします。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標
------

基本的な建築材料のコンクリートと鋼材について、物理的性質や力学的性質を求める試験法を修得し、体験的な理解を深める。

授業の位置づけ
---------

建築学科のDP(1)、(2)、(4)に対応する。

到達目標
------

JIS規格試験から材料実験の意義・実験法を理解し、実験データのまとめ方、実験報告書の作成ができる。

授業全体の内容と概要
------------

主に鉄筋コンクリート構造の構成材料である鋼材とコンクリート材料に関するJIS規格試験を実施する。コンクリートと鋼材の試験体制作や強度試験から基本的な性状を理解する。

授業の方法
-------

授業は配布資料にて説明をした後、グループワークにて実験を行い、実験報告書の提出を行う。実験報告書にはフィードバックとして実験結果の解説を行う。

アクティブラーニングの実施方法
-----------------

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
----------

実験作業に適した汚れても良い服装とし、スリッパ・サンダル履きは厳禁とする。作業や機器類の操作は教員の指示確認に従い、安全第1とする。電車、ノート、筆記用具を必ず持参すること。不足の事態が起きた際にオンライン授業を実施する可能性がある。

修学サポート(合理的配慮)
---------------

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目
--------

教職課程(工業)必修科目, 建築士試験受験資格課程選択科目

評価方法・基準

評価前提条件
--------

単位認定に必要な最低出席回数は11回以上。

評価方法
------

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	50%	0%	0%	0%	50%

ルーブリック
--------

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
材料実験の理解	自ら進んで実験に関する内容を調べることができた。	実験内容を十分に理解し、他の人に説明できた。	理解のあいまいな点があるが、予備ができた。	実験内容の予習ができた。	頻繁に実験内容の予習ができなかった。
材料実験の正確性	他人をリードする行動で実験を進めることができた。	自発的に実験を進めることができた。	テキストを見れば、内容を理解して実験を進めることができた。	テキストの従って正しく実験を進めることができた。	テキストに従った実験が進められなかった。
材料実験報告書	実験から得た自らの考えを報告書に記述することができた。	実験から得た自らの考えを正確に伝えることができた。	実験で得たデータを正しく整理し、まとめることができた。	実験で得たデータを正しく整理できた。	実験で得たデータを正しく整理できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	実験	必修・選択	選択
科目名称	建築材料実験 (科目ナンバリング: BSM322028)				
授業担当者(所属・職名)	長森 正(建築学科・教授)	研究室等所在	アトリエ棟1階		
単位数	1 (単位認定責任者: 長森 正)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	1級土木施工管理技士・測量士・コンクリート技士として建設会社に勤務。実務経験をもとに実験をします。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『建築材料実験教材』	日本建築学会	丸善株式会社			
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスの説明 実験要領ガイド	シラバス資料を確認して、実験内容を予習する(45分)	実験内容を理解し復習する(45分)
2	実験データのまとめ方	次回実習範囲の資料を予習する(45分)	実験内容を理解し復習する(45分)
3	コンクリートの調査設計	次回実習範囲の資料を予習する(45分)	実験内容を理解し復習する(45分)
4	骨材含水率調整	次回実習範囲の資料を予習する(45分)	実験内容を理解し復習する(45分)
5	コンクリート調査(試験練り・本練り)	次回実習範囲の資料を予習する(45分)	実験内容を理解し復習する(45分)
6	JIS A 1101スランプ試験	次回実習範囲の資料を予習する(45分)	実験内容を理解し復習する(45分)
7	JIS A 1128空気量試験	次回実習範囲の資料を予習する(45分)	実験内容を理解し復習する(45分)
8	JIS A 1108圧縮強度試験	次回実習範囲の資料を予習する(45分)	実験内容を理解し復習する(45分)
9	JIS A 1113割裂引張試験	次回実習範囲の資料を予習する(45分)	実験内容を理解し復習する(45分)
10	コンクリート実験レポート	次回実習範囲の資料を予習する(45分)	実験内容を理解し復習する(45分)
11	鉄筋加工	次回実習範囲の資料を予習する(45分)	実験内容を理解し復習する(45分)
12	鉄筋試験片歪ゲージ貼付け	次回実習範囲の資料を予習する(45分)	実験内容を理解し復習する(45分)
13	JIS Z 2201鉄筋引張試験	次回実習範囲の資料を予習する(45分)	実験内容を理解し復習する(45分)
14	静弾性係数試験	次回実習範囲の資料を予習する(45分)	実験内容を理解し復習する(45分)
15	鋼材系実験レポート	次回実習範囲の資料を予習する(45分)	実験内容を理解し復習する(45分)
16	授業改善アンケートの実施 まとめ 最終回において解説レフィードバックします。	次回実習範囲の資料を予習する(45分)	実験内容全体について資料を整理して、レポート作成に備える(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	映像表現 (科目ナンバリング: AEA223046)				
授業担当者(所属・職名)	北嶋 洋一(デザイン学科・教授)	研究室等所在	2号館5階		
単位数	2 (単位認定責任者: 北嶋 洋一)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	映像制作の実務経験と研究実績のある教員が、その経験を基にして映像制作の基礎から応用までを指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

映像分野について、そのメディアも含めて知識を深め、設計作業を通じて、そのデザイン工程を正しく理解する。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP(1)、(2)、(3)、(4)に対応する。

到達目標

映像制作を行う上で、一般的な作業工程と既成の作品を分析し、必要な業務内容やスタッフの役割分担を認識して、作品の完成度を上げるための基本的な方法論を用いることができる。

授業全体の内容と概要

映像史を含めた作品研究を行い、様々な技術の成り立ちや演出法の発達にふれることで基本から応用までの流れを吸収する。さらに、シナリオやストーリーボードの作成を通じて適切な情報提供が行える映像作品の設計と制作工程を学ぶ。  
「SDGs・産業と技術革新の基盤をつくろう」の関連授業。

授業の方法

1～10回までは様々な過去の映像作品を資料としたPowerPointを用いて講義形式の授業を行う。毎回のレポートは、其々の注目すべき点を取り上げて調査・分析し、映像制作に必要な知識を積み上げることを目的として作成する。質問に対しては随時対応し、レポートについては次回授業の導入に於いて講評を行う。  
11～15回は、それまでに得た知識を基にして、実際に映像作品を構想し、設計する。その際に、専用の用紙を必要枚数配布し、それを用いて映像の設計(ストーリーボードの作成)を行う。完成したストーリーボードは各自のプレゼンテーションとする。質問には随時対応し、作画やト書きなどの表現的指導は個別に行う。授業で用いた教材は全てTeamsのファイル又はクラウドストレージへアップロードし、学生が任意で閲覧できる資料として蓄積する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模範授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

授業内で提示される資料映像は、授業時間の関係もあるため、断片での紹介になる。よって、時間外では可能な限り全編を観る努力をしなければならない。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(美術)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は10回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	60%	20%	0%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能 「映像史を基にした映像の表現や技法を系統的に理解できている」	映像の成り立ちや理論を正しく理解し、設計作業に於いては、それを反映させ充実した表現を思案することができた。	映像の成り立ちや理論を理解し、設計作業に於いては、それを表現に反映させ、内容の充実に図ることができた。	映像の成り立ちや理論を理解したが、設計作業との関係付けが不十分であり、内容が不完全だった。	映像の成り立ちや理論の理解が不十分であり、関連付けが不十分で、設計作業ができていない。	映像の成り立ちや理論が理解できず、設計作業ができていなかった。
思考力・判断力・表現力 「参考資料によって提示された様々な知識を基にして映像作品の設計が行える」	与えられた参考資料を徹底して読み解き、そこから自らの表現を編み出すことができた。	与えられた参考資料の分析は適切である。それを自らの表現に応用しようとする意識は見えた。	与えられた参考資料の分析は行っているが、自らの表現に応用する意識は低かった。	与えられた参考資料を理解できなかった。	与えられた参考資料を理解できなかった。
主体性・多様性・協働性 「映像によって提供される情報の形態を理解し、適切な情報の構築が行える」	映像による情報提供や問題解決のために必要な対応ができており、表現や技法の実験に積極的であった。	映像による情報提供や問題解決に努力し、表現や技法の実験に取り組む必要性も理解していた。	映像による情報提供や問題解決のために必要な対応が不十分で、表現や技法の実験に積極的ではなかった。	映像による情報提供や問題解決のために必要な対応が不十分で、表現や技法の実験が適切に行えていなかった。	映像による情報提供や問題解決ができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	映像表現 (科目ナンバリング: AEA223046)				
授業担当者(所属・職名)	北嶋 洋一(デザイン学科・教授)	研究室等所在	2号館5階		
単位数	2 (単位認定責任者: 北嶋 洋一)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 映像制作の実務経験と研究実績のある教員が、その経験を基にして映像制作の基礎から応用までを指導する。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイドダンス-シラバス及び授業改善アンケート結果 反映の説明 映像の学び方	シラバスを一読しておくこと(45分)	レポート作成 資料の再確認(45分)
2	「サイレントピクチャー」 完成形とは何か?	次週の授業内容を確認し、自身の志向や考えを持つ ておくこと(45分)	レポート作成 資料の再確認(45分)
3	「トーキングピクチャー」 新旧技術の対比 総合芸術としての映像	次週の授業内容を確認し、自身の志向や考えを持つ ておくこと(45分)	レポート作成 資料の再確認(45分)
4	「SFX(特殊効果撮影)の誕生」 カメラ技術によるトリック映像撮影	次週の授業内容を確認し、自身の志向や考えを持つ ておくこと(45分)	レポート作成 資料の再確認(45分)
5	「VFX(特殊効果撮影)の効果」 リアルから誇張表現	次週の授業内容を確認し、自身の志向や考えを持つ ておくこと(45分)	レポート作成 資料の再確認(45分)
6	「アニメーションの進化」 作画+合成による進化	次週の授業内容を確認し、自身の志向や考えを持つ ておくこと(45分)	レポート作成 資料の再確認(45分)
7	「サウンド表現」 音響作家の仕事	次週の授業内容を確認し、自身の志向や考えを持つ ておくこと(45分)	レポート作成 資料の再確認(45分)
8	「感情操作」 観客の喜怒哀楽を操作する	次週の授業内容を確認し、自身の志向や考えを持つ ておくこと(45分)	レポート作成 資料の再確認(45分)
9	「シナリオ、演出、撮影」 著名な監督の演出方法を分析する	次週の授業内容を確認し、自身の志向や考えを持つ ておくこと(45分)	レポート作成 資料の再確認(45分)
10	ストーリーボード(絵コンテ) 用紙の使い方	次週の授業内容を確認し、自身の志向や考えを持つ ておくこと(45分)	レポート作成 資料の再確認(45分)
11	映像の設計 ストーリーボードの作成	前週に配布された用紙の複製をおこなっておくこと (45分)	構想-ラフ作成(45分)
12	映像の設計 ストーリーボードの作成	作業進捗の確認と調整。資料映像の再確認(45分)	期間内に課題提出可能なスケジュール設定で、時間 外制作を行うこと(45分)
13	映像の設計 ストーリーボードの作成	作業進捗の確認と調整。資料映像の再確認(45分)	期間内に課題提出可能なスケジュール設定で、時間 外制作を行うこと(45分)
14	映像の設計 ストーリーボードの作成	作業進捗の確認と調整。資料映像の再確認(45分)	期間内に課題提出可能なスケジュール設定で、時間 外制作を行うこと(45分)
15	映像の設計 ストーリーボードの作成	作業進捗の確認と調整。資料映像の再確認(45分)	期間内に課題提出可能なスケジュール設定で、時間 外制作を行うこと(45分)
16	映像の設計 ストーリーボードの講評 授業改善アンケートの実施	完成したストーリーボードの自己評価(45分)	ストーリーボードの映像化をシミュレーションする (45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	職業指導 (M) (科目ナンバリング: ESS323056, SOE423051)				
授業担当者 (所属・職名)	川津 大樹 (経営学科・専任講師)	研究室等所在	未定		
単位数	2 (単位認定責任者: 川津 大樹)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	大分県内の経済団体(商工会)に勤務し、地域の中小企業に対して経営指導を行った経験も踏まえて、業界の特徴や企業実務に関する実例も取り上げていく。		
オフィスアワー	研究室前の掲示等を参照				

概要

履修目標
<p>経済環境の変化により、企業・業界のビジネス環境は大きく変化している。また、個人の就業環境や勤労観も変化しており、企業に努めつつ副業を行ったり、フリーランスとして活躍したりするチャンスも増えている。本講義では、業界・企業分析を通じて、職業を学び、「働くこと」に対する意識向上を目標とする。</p>
授業の位置づけ
<p>経営学科のDP(1)(2)(3)(4)に対応する。</p>
到達目標
<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な業界・業種の特徴を学ぶ。</li> <li>企業分析の手法を習得する。</li> <li>自分なりの職業観・勤労観を自覚する。</li> </ul>

到達目標
<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な業界・業種の特徴を学ぶ。</li> <li>企業分析の手法を習得する。</li> <li>自分なりの職業観・勤労観を自覚する。</li> </ul>

到達目標
<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な業界・業種の特徴を学ぶ。</li> <li>企業分析の手法を習得する。</li> <li>自分なりの職業観・勤労観を自覚する。</li> </ul>

授業全体の内容と概要
<p>本講義では、業界分析と企業分析を通じて、職業を学ぶ。講義の序盤(第6回まで)は、業界分析の手法について学習し、実践する。講義の中盤(第8回~第10回)では、経営分析と財務諸表分析の手法について学習し、実践する。講義の終盤(第13回以降)では、これまでの総仕上げとして、業界分析と企業分析を組み合わせた総合分析について学ぶ。本授業科目は、「SDG8 経済成長と雇用」の関連授業である。</p>

授業の方法
<p>本講義は、テキストの解説のみならず、受講者自らが実践的に分析を行う機会を設ける。日経新聞の記事や上場企業の財務諸表を用いて、実社会との関わりを意識して講義を進める。授業では、リアクションペーパーを毎回配布し、その回答内容は、次回以降の授業で取り上げる。</p>

アクティブラーニングの実施方法																					
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>○ ディスカッション</td> <td>○</td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業	○ ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL															
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業															
○ ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)															

履修上の注意事項
<p>実践的に分析する機会を設けるので、出席を重視する。出席確認は、授業で毎回配布するリアクションペーパーの提出をもって行う。また、業界・企業分析に際しては、受講者が積極的・能動的に取り組み姿勢を求める。財務分析の際には、計算が必要となるので、計算機の特参加を推奨する。</p>

修学サポート(合理的配慮)
<p>事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。</p>

資格指定科目
<p>教職課程(商業)必修科目</p>

評価方法・基準

評価前提条件												
<p>単位認定に必要となる最低出席回数は11回以上。出席確認は、授業で毎回配布するリアクションペーパーの提出をもって行う。レポートは2回行う予定である。具体的な提出時期は、授業内で説明する。</p>												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>70%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>30%</td> <td>0%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	70%	0%	0%	30%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	70%	0%	0%	30%	0%							

ルーブリック																													
<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> <tr> <td>様々な業界・業種の特徴を理解する。</td> <td>特定の業界と、それに関連する業界について総合的に説明できる。</td> <td>様々な業界・業種の特徴を十分に理解している。</td> <td>自分の関心ある業界・業種を理解するのみならず、関連する業界・業種についても、関心を抱いている。</td> <td>自分の関心ある業界・業種の特徴を最低限理解している。</td> <td>業界・業種の特徴を理解できなかった。</td> </tr> <tr> <td>企業分析(経営・財務諸表分析)の手法を習得する。</td> <td>企業分析を行い、対象企業について詳細に説明できる。</td> <td>企業分析の手法を駆使して対象企業の特徴を十分に把握できる。</td> <td>企業分析の手法を駆使して、対象企業の特徴をある程度把握できる。</td> <td>企業分析に使用される指標の意味を最低限理解している。</td> <td>企業分析に使用される指標の意味を理解できなかった。</td> </tr> <tr> <td>自分なりの職業観・勤労観を自覚する</td> <td>「働くこと」に対して意識が向上し、自分の将来目標に向けて、具体的に取り組み始めた。</td> <td>「働くこと」に対して意識が向上し、自分の将来についてしっかり考えるようになった。</td> <td>職業観・勤労観について自覚し、「働くこと」に対して意識し始めた。</td> <td>職業観・勤労観について最低限自覚できた。</td> <td>職業観・勤労観を自覚できなかった。</td> </tr> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	様々な業界・業種の特徴を理解する。	特定の業界と、それに関連する業界について総合的に説明できる。	様々な業界・業種の特徴を十分に理解している。	自分の関心ある業界・業種を理解するのみならず、関連する業界・業種についても、関心を抱いている。	自分の関心ある業界・業種の特徴を最低限理解している。	業界・業種の特徴を理解できなかった。	企業分析(経営・財務諸表分析)の手法を習得する。	企業分析を行い、対象企業について詳細に説明できる。	企業分析の手法を駆使して対象企業の特徴を十分に把握できる。	企業分析の手法を駆使して、対象企業の特徴をある程度把握できる。	企業分析に使用される指標の意味を最低限理解している。	企業分析に使用される指標の意味を理解できなかった。	自分なりの職業観・勤労観を自覚する	「働くこと」に対して意識が向上し、自分の将来目標に向けて、具体的に取り組み始めた。	「働くこと」に対して意識が向上し、自分の将来についてしっかり考えるようになった。	職業観・勤労観について自覚し、「働くこと」に対して意識し始めた。	職業観・勤労観について最低限自覚できた。	職業観・勤労観を自覚できなかった。
評価項目		評価基準																											
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
様々な業界・業種の特徴を理解する。	特定の業界と、それに関連する業界について総合的に説明できる。	様々な業界・業種の特徴を十分に理解している。	自分の関心ある業界・業種を理解するのみならず、関連する業界・業種についても、関心を抱いている。	自分の関心ある業界・業種の特徴を最低限理解している。	業界・業種の特徴を理解できなかった。																								
企業分析(経営・財務諸表分析)の手法を習得する。	企業分析を行い、対象企業について詳細に説明できる。	企業分析の手法を駆使して対象企業の特徴を十分に把握できる。	企業分析の手法を駆使して、対象企業の特徴をある程度把握できる。	企業分析に使用される指標の意味を最低限理解している。	企業分析に使用される指標の意味を理解できなかった。																								
自分なりの職業観・勤労観を自覚する	「働くこと」に対して意識が向上し、自分の将来目標に向けて、具体的に取り組み始めた。	「働くこと」に対して意識が向上し、自分の将来についてしっかり考えるようになった。	職業観・勤労観について自覚し、「働くこと」に対して意識し始めた。	職業観・勤労観について最低限自覚できた。	職業観・勤労観を自覚できなかった。																								



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	職業指導 (M) (科目ナンバリング: ESS323056, SOE423051)				
授業担当者 (所属・職名)	川津 大樹 (経営学科・専任講師)	研究室等所在	未定		
単位数	2 (単位認定責任者: 川津 大樹)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	大分県内の経済団体(商工会)に勤務し、地域の中小企業に対して経営指導を行った経験も踏まえて、業界の特徴や企業実務に関する実例も取り上げていく。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『学部生のための企業分析テキスト・財務分析の基本』	高橋聡・福川裕徳・三浦敬 著	創成社	2020年		
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	ガイダンス (講義の進め方、アンケートによる受講者の意向調査)	シラバスとテキストの序文を読んでおく (90分)	テキストと配布資料の内容を復習する (90分)
2	働く目的	事前配布資料を予習する (90分)	配布資料の内容を復習する (90分)
3	業界・業種の概要	テキストの指定箇所を予習する (90分)	テキストと配布資料の内容を復習する (90分)
4	業界・業種の概要	テキストの指定箇所を予習する (90分)	テキストと配布資料の内容を復習する (90分)
5	業界・業種の概要	テキストの指定箇所を予習する (90分)	テキストと配布資料の内容を復習する (90分)
6	業界分析の実践	テキストの指定箇所を予習する (90分)	テキストと配布資料の内容を復習する (90分)
7	職業興味と自己理解	テキストの指定箇所を予習する (90分)	テキストと配布資料の内容を復習する (90分)
8	経営分析の概要	テキストの指定箇所を予習する (90分)	テキストと配布資料の内容を復習する (90分)
9	財務諸表分析の概要	テキストの指定箇所を予習する (90分)	テキストと配布資料の内容を復習する (90分)
10	財務諸表分析の実践	テキストの指定箇所を予習する (90分)	テキストと配布資料の内容を復習する (90分)
11	特別講演	テキストの指定箇所を予習する (90分)	講演の内容を復習する (90分)
12	就職活動	テキストの指定箇所を予習する (90分)	テキストと配布資料の内容を復習する (90分)
13	業界・企業の総合分析	テキストの指定箇所を予習する (90分)	テキストと配布資料の内容を復習する (90分)
14	業界・企業の総合分析	テキストの指定箇所を予習する (90分)	テキストと配布資料の内容を復習する (90分)
15	まとめ講義	これまでの内容を復習する (90分)	テキストと配布資料の内容を復習する (90分)
16	課題に対する解説とフィードバック 授業改善アンケートの実施	これまでの内容を復習する (90分)	授業で取り上げた解説の内容を復習する (90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目		対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	前期		授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	生涯学習概論 (M) (科目ナンバリング: EDU011014)					
授業担当者(所属・職名)	藤根 収(社会福祉学科・特任教授)		研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 藤根 収)		CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場や教育行政における経験がある教員がその経験を活かして、今日的な教育課題(生涯学習)について指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標
生涯学習についての基礎的・基本的事項を理解し、生涯学習の学習者・支援者としての知識・態度を身に付ける。

授業の位置づけ
経営学科のDP(2)(5)に対応する。

到達目標
生涯学習に関連する基礎的知識を身に付け、生涯学習社会における学校教育、社会教育、家庭教育等の役割やリカレント教育など生涯学習の取組について理解できる。

授業全体の内容と概要
毎回のテーマに基づき必要な事項を講義するとともに、主体的・対話的で深い学びを実現するため、テーマに関連する事項に関して考察、意見交換(グループ)、発表等の一連の活動を行う。また、できるだけ具体的な事例から生涯学習の理解を深め、生涯においてどう関わるか、また、支援者としての関わりを考えられるように構成する。 「SDG4・質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法
授業ではパワーポイント及び配布物(レジュメ)で実施し、資料にて説明した後、グループワーク等で思考・考察、意見交換・討論、発表等の一連の活動を行う。また、実践事例のVTR教材視聴後に事例に基づくレポート提出を行う。レポートにはコメントにてフィードバックする。なお、学生の質問などには、チャット形式などの支援システムで迅速に回答する。

アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td>○</td> <td>プレゼンテーション</td> <td>○</td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業	○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	

履修上の注意事項
20分以上の遅刻は欠席とし、遅刻3回で欠席1回とみなす。全学科が同一クラスで授業を行うため、受講に当たっての注意事項を必ず守ること。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
---

資格指定科目
教職課程(全教科)の選択科目

評価方法・基準

評価前提条件
単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。

評価方法												
<table border="1"> <thead> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>50%</td> <td>10%</td> <td>0%</td> <td>20%</td> <td>20%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	50%	10%	0%	20%	20%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
50%	10%	0%	20%	20%	0%							

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
生涯学習理論等の理解	生涯学習理論等について、学修したを知識・技能を基礎に、さらに知識等を深めようとする事ができた。	生涯学習理論等について、意欲的に学び、必要な知識・技能を理解する事ができた。	生涯学習理論等について必要な知識・技能を理解できた。	生涯学習理論等についての知識・技能を一定程度理解できた。	生涯学習理論等について、理解が不十分だった。
生涯学習に関する情報や実践に対する思考・判断・表現	生涯学習について積極的に思考・判断し、個人やグループで工夫して表現する事ができた。	生涯学習について思考・判断し、個人やグループで表現する事ができた。	生涯学習について、個人やグループで思考活動等に取り組む、表現しようとする事ができた。	生涯学習について思考活動等に一定程度取り組み、表現しようとしていた。	生涯学習理論等について、理解が不十分だった。
授業への参加態度・姿勢	授業に非常に積極的に参加する事ができた。	授業に積極的に参加する事ができた。	授業に関心をもって参加する事ができた。	授業への関心が一定程度みられた。	授業への参加態度に課題があった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	生涯学習概論 (M) (科目ナンバリング: EDU011014)				
授業担当者(所属・職名)	藤根 収(社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 藤根 収)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場や教育行政における経験がある教員がその経験を活かして、今日的な教育課題(生涯学習)について指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『よくわかる生涯学習(改訂版)』	香川正弘 ほか	ミネルブ書房	2016	978-4-623-07631-4	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『テキスト生涯学習「新訂2版」』	田中雅文 ほか	学文社	2020	978-4-7620-2966-0	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション - シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明、生涯学習とは何か -	教科書から「生涯学習」についての課題を整理する(90分)	課題についてノートに整理し、シラバスで確認すること(90分)
2	「生涯学習とは」 1 生涯学習の概念と生涯学習社会の形成	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
3	「生涯学習とは」 2 「生涯教育」と「生涯学習」	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
4	「生涯学習とは」 3 ライフサイクル論と生涯発達	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
5	生涯学習社会における各機能の役割 学校教育の役割 「生涯学習と学校教育」	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
6	生涯学習社会における各機能の役割 社会教育の役割 「生涯学習と社会教育」	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
7	生涯学習社会における各機能の役割 家庭教育の役割 「生涯学習と家庭教育」	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
8	生涯学習社会における各機能の役割 行政機関の役割 「行政機関による生涯学習の振興」	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
9	生涯学習社会における各機能の役割 民間団体・機関の役割 「民間団体等による生涯学習支援」	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
10	生涯学習社会における各機能の役割 大学の役割 「生涯学習支援としての大学開放」 (中間テスト)	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
11	生涯学習の多様な学習方法1 学習方法の種類と具体的な方法	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
12	生涯学習の多様な学習方法2 メディア活用やワークショップなどによる学習方法	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
13	生涯学習とリカレント教育1 リカレント教育の意義	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
14	生涯学習とリカレント教育2 リカレント教育の方策、職業能力開発の生涯学習	講義内容を整理し、レポート作成の課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
15	生涯学習と生涯学習社会の今後の課題について 授業改善アンケートの実施	講義内容を整理し、レポート作成の課題を整理する(90分)	レポートを作成する(90分)
16	定期試験(60分の試験終了後、残りの30分で解説する。)	教科書等で講義内容を整理する。(90分)	試験の結果を見直す(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目		対象学科・配当	社会福祉学科、デザイン学科、建築学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択	
科目名称	生涯学習概論 (科目ナンバリング: EDU011014)					
授業担当者(所属・職名)	藤根 収(社会福祉学科・特任教授)		研究室等所在	2号館7階		
単位数	2	(単位認定責任者: 藤根 収)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場や教育行政における経験がある教員がその経験を活かして、今日的な教育課題(生涯学習)について指導する。			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照					

概要

履修目標

生涯学習についての基礎的・基本的事項を理解し、生涯学習の学習者・支援者としての知識・態度を身に付ける。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP(2)(4)(5)に対応する。  
デザイン学科のDP(2)(4)に対応する。  
建築学科のDP(2)(4)に対応する。

到達目標

生涯学習に関連する基礎的知識を身に付け、生涯学習社会における学校教育、社会教育、家庭教育等の役割やリカレント教育など生涯学習の取組について理解できる。

授業全体の内容と概要

毎回のテーマに基づき必要な事項を講義するとともに、主体的・対話的で深い学びを実現するため、テーマに関連する事項に関して考察、意見交換(グループ)、発表等の一連の活動を行う。また、できるだけ具体的な事例から生涯学習の理解を深め、生涯においてどう関わるか、また、支援者としての関わりを考えられるように構成する。  
「SDG4・質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業ではパワーポイント及び配布物(レジュメ)で実施し、資料にて説明した後、グループワーク等で思考・考察、意見交換・討論、発表等の一連の活動を行う。また、実践事例のVTR教材視聴後に事例に基づくレポート提出を行う。レポートにはコメントにてフィードバックする。なお、学生の質問などには、チャット形式などの支援システムで迅速に回答する。

アクティブラーニングの実施方法

<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL
<input type="checkbox"/>	模擬授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業
<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

20分以上の遅刻は欠席とし、遅刻3回で欠席1回とみなす。  
全学科が同一クラスで授業を行うため、受講に当たっての注意事項を必ず守ること。  
不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(全教科)の選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
50%	10%	0%	20%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
生涯学習理論等の理解	生涯学習理論等について、学修したを知識・技能を基礎に、さらに知識等を深めようとする事ができた。	生涯学習理論等について、意欲的に学び、必要な知識・技能を理解することができた。	生涯学習理論等について必要な知識・技能を理解できた。	生涯学習理論等についての知識・技能を一定程度理解できた。	生涯学習理論等について、理解が不十分だった。
生涯学習に関する情報や実践に対する思考・判断・表現	生涯学習について積極的に思考・判断し、個人やグループで工夫して表現することができた。	生涯学習について思考・判断し、個人やグループで表現することができた。	生涯学習について、個人やグループで思考活動等に取り組む、表現しようとする事ができた。	生涯学習について思考活動等に一定程度取り組み、表現しようとしていた。	生涯学習理論等について、理解が不十分だった。
授業への参加態度・姿勢	授業に非常に積極的に参加することができた。	授業に積極的に参加することができた。	授業に関心をもって参加することができた。	授業への関心が一定程度みられた。	授業への参加態度に課題があった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科、デザイン学科、建築学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	生涯学習概論 (科目ナンバリング: EDU011014)				
授業担当者(所属・職名)	藤根 収(社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 藤根 収)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場や教育行政における経験がある教員がその経験を活かして、今日的な教育課題(生涯学習)について指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『よくわかる生涯学習(改訂版)』	香川正弘 ほか	ミネルブ書房	2016	978-4-623-07631-4	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『テキスト生涯学習「新訂2版」』	田中雅文 ほか	学文社	2020	978-4-7620-2966-0	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション - シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明、生涯学習とは何か -	教科書から「生涯学習」についての課題を整理する(90分)	課題についてノートに整理し、シラバスで確認すること(90分)
2	「生涯学習とは？」 1 生涯学習の概念と生涯学習社会の形成	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
3	「生涯学習とは？」 2 「生涯教育」と「生涯学習」	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
4	「生涯学習とは？」 3 ライフサイクル論と生涯発達	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
5	生涯学習社会における各機能の役割 学校教育の役割 「生涯学習と学校教育」	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
6	生涯学習社会における各機能の役割 社会教育の役割 「生涯学習と社会教育」	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
7	生涯学習社会における各機能の役割 家庭教育の役割 「生涯学習と家庭教育」	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
8	生涯学習社会における各機能の役割 行政機関の役割 「行政機関による生涯学習の振興」	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
9	生涯学習社会における各機能の役割 民間団体・機関の役割 「民間団体等による生涯学習支援」	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
10	生涯学習社会における各機能の役割 大学の役割 「生涯学習支援としての大学開放」 (中間テスト)	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
11	生涯学習の多様な学習方法1 学習方法の種類と具体的な方法	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
12	生涯学習の多様な学習方法2 メディア活用やワークショップなどによる学習方法	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
13	生涯学習とリカレント教育1 リカレント教育の意義	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
14	生涯学習とリカレント教育2 リカレント教育の方策、職業能力開発の生涯学習	講義内容を整理し、レポート作成の課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
15	生涯学習と生涯学習社会の今後の課題について 授業改善アンケートの実施	講義内容を整理し、レポート作成の課題を整理する(90分)	レポートを作成する(90分)
16	定期試験(60分の試験終了後、残りの30分で解説する。)	教科書等で講義内容を整理する(90分)	試験の結果を見直す(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	身体表現 (科目ナンバリング: CHS122083)				
授業担当者(所属・職名)	尾西則昭 (社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 尾西 則昭)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	大学及び専門学校において身体表現の授業を担当した経験を活かし指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

自身のダンスの技術の分析をし、自身で課題の克服をする。  
ダンスの振り付けを分析し、評価する。  
ダンス特有の面白さを理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP(1)(2)(3)(4)(5)に対応する。

到達目標

ダンスの特性について理解することができる。  
ダンスの基礎技術、指導法、発表技法について理解することができる。  
主体かつ積極的に課題に取り組みすることができる。  
仲間と協力して課題に取り組むことができる。  
リズムの特徴やイメージをとらえて、即興的かつ自由な身体表現ができる。

授業全体の内容と概要

表現運動・ダンス領域は、社会におけるダンスの広がりに対応し、創作ダンスの現代的なリズムのダンスフォークダンスから構成され幼稚園・保育園において発達段階に対応した内容で構成されている。  
「SDGs3. すべての人に健康と福祉を」の関連科目。

授業の方法

授業は板書及び配布物資料で実施し、資料にて説明した後、グループワーク発表(全2回)実施

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
○	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

積極的に取り組むことを期待します。  
学習にはグループワークもあるので、お互い声を掛け合い、協力して実施すること。  
自分の健康は自分で管理すること。  
「不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。」

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

保育士養成課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数13回

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	10%	80%	0%	10%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
表現活動の基礎技能	基本ステップを行うことができ、意欲的にダンステクニックを発揮でき、パートナーとできた。	基本ステップを行うことができ、意欲的にダンステクニックをおおむね発揮できた。	基本ステップを行うことができ、意欲的にダンステクニックを発揮できた。	基本ステップを行うことができ、意欲的にパートナーと多少できた。	基本ステップを行わない。意欲もなくパートナーとできなかった。
創作ダンスの技術の向上	各種ダンスの技術向上への姿勢は優れ、充分だった。	各種ダンスの技術向上への姿勢は7割ほどだった。	各種ダンスの技術向上への姿勢は5割ほどだった。	各種ダンスの技術向上への姿勢は3割ほどだった。	各種ダンスの技術向上への姿勢はできなかった。
作品創作の発表	創作ダンスの発表でしっかりと踊ることができた。	創作ダンスの発表で踊ることがおおむねできた。	創作ダンスの発表で踊ることができた。	創作ダンスの発表で多少踊ることができた。	創作ダンスの発表で踊ることができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	身体表現 (科目ナンバリング: CHS122083)				
授業担当者(所属・職名)	尾西則昭 (社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 尾西 則昭)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	大学及び専門学校において身体表現の授業を担当した経験を活かし指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『身体表現を楽しむあそび作品集』	新リズム表現研究会	かもがわ出版	2018年	978478030948-5	
2	『資料配布』					
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス「シラバス説明」「授業改善アンケート結果反映の説明」	事前にシラバスを読んで確認をする。(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(90分)
2	身体表現 (ダンスの導入)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(90分)
3	身体表現 (ダンスの映像鑑賞)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(90分)
4	身体表現 (外国フォークダンス・日本の民謡)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(90分)
5	身体表現 (指導案)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(90分)
6	創作ダンス (映像鑑賞)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(90分)
7	創作ダンス (動き)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(90分)
8	創作ダンス (スポーツ動作)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(90分)
9	創作ダンス (対極の動きの連続)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(90分)
10	創作ダンス (個人の作品づくり)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(90分)
11	創作作品 (個人の作品づくり)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(90分)
12	創作作品 (個人の作品づくり)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(90分)
13	創作作品 (個人の作品づくり)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(90分)
14	創作作品 (個人の作品づくり)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(90分)
15	創作作品リハーサル(個人の作品づくり)「授業アンケートの実施」	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(90分)
16	創作ダンス発表会(試験)まとめ	ノートに記載された内容を再度確認し、理解する。(90分)	解説の内容を確認する。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



## 基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・一年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	図学 (科目ナンバリング: AEA221052)				
授業担当者(所属・職名)	赤木 良子 (建築学科・准教授)	研究室等所在	未定		
単位数	2 (単位認定責任者: 赤木 良子)	CAP制	×		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	建築意匠設計経験あり。一級建築士。図学は製図の基礎的な技術に位置付けられるため、直接的な関連がある。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。Teams等による事前連絡。				

## 概要

### 履修目標

図学、つまり図形幾何学とは、3次元の立体を2次元の平面上に表現したり、2次元の平面情報から3次元の立体を再構成する技術である。これは美術・デザインにおける表現手段の基礎的な技術の一つであり、製図の基礎として位置付けられる。本実習ではこの表現技術について修得し、基本的な作図と立体表現ができるようになることを目標とする。

### 授業の位置づけ

デザイン学科のDP (1) (2) に対応する。

### 到達目標

基礎的な立体と平面の関係性の把握。  
作図に必要な道具を使って水平・垂直・長さ・線の太さ・破線等を美しく正確に作図表現できる。

### 授業全体の内容と概要

まずは基本となる図形の書き方を定規やコンパスなどを用いて描く演習。  
製図の基本的な仕組みや、立体を平面上で表現する基礎的な方法を学ぶ。

### 授業の方法

課題説明と必要に応じた講義の後、課題に各自取り組む。  
制作には、基本的な製図道具(製図用シャープペンシル、定規類、コンパス等)を必要とする。  
そのほか、定規(短い普通のもの、できれば30cm程度のもの)、三角定規、三角スケール、コンパス等、スケッチブックまたはクロッキー帳が必要。アイデアを書き留めるためのものであり、使いやすいものを選ぶこと。  
そのほか、エスキスのためのスケッチブックまたはクロッキー帳を必要とする。  
質問は適宜受け付ける。作業に必要な道具は各自で用意し、持参して用いること。

### アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

### 履修上の注意事項

作図は製図用のシャープペンシル(芯の太さ0.5、濃さは8かそれ以上が描きやすい)を必要とする。0.3や0.7があっても良い。  
そのほか、定規(短い普通のもの、できれば30cm程度のもの)、三角定規、三角スケール、コンパス等、スケッチブックまたはクロッキー帳が必要。アイデアを書き留めるためのものであり、使いやすいものを選ぶこと。  
最初のガイダンスの日には、上記のシャープペンシル、定規、三角定規、スケッチブックやエスキスノートを持参すること。  
最初の日に製図用シャープペンシルが良くわからない人は、まずは普通のシャープペンシルを持参すること。詳細は、ガイダンスで説明する。  
なお、全体の課題の進行程度によって、課題数の増減等、内容の調整・変更を行うことがある。  
不足の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

### 修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

### 資格指定科目

教職課程(工芸)必修科目

## 評価方法・基準

### 評価前提条件

1 2 回以上の出席と全課題作の完成・提出を必須とする。  
正当な理由なき10分以上の遅刻に関して、遅刻5回を1回欠席とみなす。

### 評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	80%	0%	20%	0%

## ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
基礎的な立体と平面の関係性の把握ができています。	十分に目標に達成していた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが出来ていた。	最低限出来ていた。	全く出来ていなかった。
作図に必要な道具を使って基本的な図面の表現ができる。	十分に出来ていた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが出来ていた。	最低限出来ていた。	全く出来ていなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・一年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	図学 (科目ナンバリング: AEA221052)				
授業担当者(所属・職名)	赤木 良子 (建築学科・准教授)	研究室等所在	未定		
単位数	2 (単位認定責任者: 赤木 良子)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	建築意匠設計経験あり。一級建築士。図学は製図の基礎的な技術に位置付けられるため、直接的な関連がある。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『基礎製図演習(1)第三角法と第一角法』	パワー社出版部	パワー社	2006	978-4-8277-3045-6	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス: シラバスの説明・授業改善アンケート結果反映の説明 図学とは、授業の進め方、用具の使い方等	シラバスを読んでおくこと(90分)	課題の制作(90分)
2	定規とコンパスによる演習2	課題の制作(90分)	課題の制作(90分)
3	定規とコンパスによる演習3	課題の制作(90分)	課題の制作(90分)
4	定規とコンパスによる演習4	課題の制作(90分)	課題の制作(90分)
5	定規とコンパスによる演習5	課題の制作(90分)	課題の制作(90分)
6	基礎製図 立体と平面の関係1	課題の制作(90分)	課題の制作(90分)
7	基礎製図 立体と平面の関係2	課題の制作(90分)	課題の制作(90分)
8	基礎製図 立体と平面の関係3	課題の制作(90分)	課題の制作(90分)
9	基礎製図 立体と平面の関係4	課題の制作(90分)	課題の制作(90分)
10	基礎製図 立体と平面の関係5	課題の制作(90分)	課題の制作(90分)
11	図面の縮尺演習	課題の制作(90分)	課題の制作(90分)
12	透視図1	課題の制作(90分)	課題の制作(90分)
13	透視図2	課題の制作(90分)	課題の制作(90分)
14	透視図3	課題の制作(90分)	課題の制作(90分)
15	透視図4	課題の制作(90分)	課題の制作(90分)
16	総評 授業改善アンケートの実施	課題の制作(90分)	振り返り(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	CAD演習 (2年) (科目ナンバリング: APT323036)				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 善太郎(建築学科・教授)・伊藤 裕康(建築学科・教授)		研究室等所在	2号館 6階	
単位数	1 (単位認定責任者: 佐藤 善太郎)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示板などを参照				

概要

履修目標

「CAD演習」を受けてWindowsの3次元CADの応用及びフローイングソフトの基礎を学ぶ。本科目習得者全員が単にCADを操作できるだけでなく、プレゼンテーションとして表現できるように学ぶ。

授業の位置づけ

建築学科のDP(1)、(2)に対応する。

到達目標

3次元CADで、3次元作図とアニメーションの基本的な操作までできる。

授業全体の内容と概要

テキストとHPによる解説により3次元CADの操作を学ぶ。3次元CADはVectorworksを使用する。「SDG11・住み続けられるまちづくりを」の関連授業

授業の方法

授業は前半、テキストや資料を基に3次元CADの操作を修得し、後半は課題作品の制作に取り組む。最終日には作図した作品をプレゼンテーションする発表会形式で実施し意見交換を行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

USBメモリーは持参すること。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

「建築士試験受験資格課程」選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

原則毎回出席すること(最低出席回数11回以上)

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	80%	0%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
3次元CADの3次元機能を用いて表現ができる。	3次元CADの3次元機能を用いて、的確で美しい3次元表現が完璧にできた。	3次元CADの3次元機能を用いて、的確で美しい3次元表現が8割方できた。	3次元CADの3次元機能を用いて、的確で美しい3次元表現がほぼ6割方できた。	3次元CADの3次元機能を用いて、3次元表現ができた。	3次元CADの3次元機能を用いて、3次元表現ができなかった。
3次元CADの3次元表現で相手に伝わるプレゼンテーションができる。	3次元CADの3次元表現で相手に正確に意図を伝えるアニメーションが完璧に作成できた。	3次元CADの3次元表現で相手に正確に意図を伝えるアニメーションが8割方作成できた。	3次元CADの3次元表現で相手に正確に意図を伝えるアニメーションがほぼ6割方作成できた。	3次元CADの3次元表現で相手に意図を伝えるアニメーションが作成できた。	3次元CADの3次元表現で相手に意図を伝えるアニメーションが作成できなかった。
3次元CADと複数のデジタルツールを用いた設計表現ができる。	3次元CADと複数のデジタルツールを用いて、的確で美しい設計表現が完璧にできた。	3次元CADと複数のデジタルツールを用いて、的確で美しい設計表現が8割方できた。	3次元CADと複数のデジタルツールを用いて、的確で美しい設計表現がほぼ6割方できた。	3次元CADと複数のデジタルツールを用いて、設計表現ができた。	3次元CADと複数のデジタルツールを用いて、設計表現ができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	CAD演習 (2年) (科目ナンバリング: APT323036)				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 善太郎(建築学科・教授)・伊藤 裕康(建築学科・教授)		研究室等所在	2号館 6階	
単位数	1 (単位認定責任者: 佐藤 善太郎)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『10日でマスター! VECTORWORKS (Ver. 2018/2017対応)』	山川佳伸	エクスタレッジ	2018	9784767825199	
2						
3						
4						
5						

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明。2・3次元CADの基本と柱状体,回転体 授業改善アンケート結果反映の説明	CAD演習 の振返り(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
2	2次元での作図	配布資料・テキスト熟読(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
3	2次元モデルの移動,整列,回転	配布資料・テキスト熟読(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
4	2次元モデルの複製,反転複写ほか編集	配布資料・テキスト熟読(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
5	3次元モデルの編集	配布資料・テキスト熟読(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
6	3次元での視点と各投影法の違いについて	配布資料・テキスト熟読(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
7	各レンダリングの種類と特性	配布資料・テキスト熟読(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
8	光源,プーリアンの配置	配布資料・テキスト熟読(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
9	ハイブリッド図形の注意点	配布資料・テキスト熟読(45分)	授業の作図の継続(45分)
10	トータルな3次元表現とアニメーション	配布資料・テキスト熟読(45分)	授業の作図の継続(45分)
11	設計課題の提示	授業の作図の継続(45分)	授業の作図の継続(45分)
12	設計プランの検討と確認	授業の作図の継続(45分)	授業の作図の継続(45分)
13	エスキスチェック	授業の作図の継続(45分)	授業の作図の継続(45分)
14	作図指導	授業の作図の継続(45分)	授業の作図の継続(45分)
15	3次元設計審査 授業改善アンケートの実施	プレゼンテーション準備(45分)	感想レポート提出(45分)
16	講評会	講評会準備(45分)	振り返りレポート作成(45分)

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	CAD演習 (3年) (科目ナンバリング: APT323036)				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 善太郎(建築学科・教授)・伊藤 裕康(建築学科・教授)		研究室等所在	2号館6階	
単位数	1 (単位認定責任者: 佐藤 善太郎)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示板などを参照				

概要

履修目標

「CAD演習」を受けてWindowsの3次元CADの応用及びフローイングソフトの基礎を学ぶ。本科目習得者全員が単にCADを操作できるだけでなく、プレゼンテーションとして表現できるように学ぶ。

授業の位置づけ

建築学科のDP(1)、(2)に対応する。

到達目標

3次元CADで、3次元作図とアニメーションの基本的な操作までできる。

授業全体の内容と概要

テキストとHPによる解説により3次元CADの操作を学ぶ。3次元CADはVectorworksを使用する。「SDG11・住み続けられるまちづくりを」の関連授業

授業の方法

授業は前半、テキストや資料を基に3次元CADの操作を修得し、後半は課題作品の制作に取り組む。最終日には作図した作品をプレゼンテーションする発表会形式で実施し意見交換を行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

USBメモリーは持参すること。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

「建築士試験受験資格課程」選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

原則毎回出席すること(最低出席回数11回以上)

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	80%	0%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
3次元CADの3次元機能を用いて表現ができる。	3次元CADの3次元機能を用いて、的確で美しい3次元表現が完璧にできた。	3次元CADの3次元機能を用いて、的確で美しい3次元表現が8割方できた。	3次元CADの3次元機能を用いて、的確で美しい3次元表現がほぼ6割方できた。	3次元CADの3次元機能を用いて、3次元表現ができた。	3次元CADの3次元機能を用いて、3次元表現ができなかった。
3次元CADの3次元表現で相手に伝わるプレゼンテーションができる。	3次元CADの3次元表現で相手に正確に意図を伝えるアニメーションが完璧に作成できた。	3次元CADの3次元表現で相手に正確に意図を伝えるアニメーションが8割方作成できた。	3次元CADの3次元表現で相手に正確に意図を伝えるアニメーションがほぼ6割方作成できた。	3次元CADの3次元表現で相手に意図を伝えるアニメーションが作成できた。	3次元CADの3次元表現で相手に意図を伝えるアニメーションが作成できなかった。
3次元CADと複数のデジタルツールを用いた設計表現ができる。	3次元CADと複数のデジタルツールを用いて、的確で美しい設計表現が完璧にできた。	3次元CADと複数のデジタルツールを用いて、的確で美しい設計表現が8割方できた。	3次元CADと複数のデジタルツールを用いて、的確で美しい設計表現がほぼ6割方できた。	3次元CADと複数のデジタルツールを用いて、設計表現ができた。	3次元CADと複数のデジタルツールを用いて、設計表現ができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	CAD演習 (3年) (科目ナンバリング: APT323036)				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 善太郎(建築学科・教授)・伊藤 裕康(建築学科・教授)		研究室等所在	2号館 6階	
単位数	1 (単位認定責任者: 佐藤 善太郎)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『10日でマスター! VECTORWORKS (Ver. 2018/2017対応)』	山川佳伸	エクスタレッジ	2018	9784767825199	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明。2・3次元CADの基本と柱状体,回転体 授業改善アンケート結果反映の説明	CAD演習 の振返り(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
2	2次元での作図	配布資料・テキスト熟読(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
3	2次元モデルの移動, 整列, 回転	配布資料・テキスト熟読(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
4	2次元モデルの複製, 反転複写ほか編集	配布資料・テキスト熟読(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
5	3次元モデルの編集	配布資料・テキスト熟読(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
6	3次元での視点と各投影法の違いについて	配布資料・テキスト熟読(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
7	各レンダリングの種類と特性	配布資料・テキスト熟読(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
8	光源, プーリアンの配置	配布資料・テキスト熟読(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
9	ハイブリッド図形の注意点	配布資料・テキスト熟読(45分)	授業の作図の継続(45分)
10	トータルな3次元表現とアニメーション	配布資料・テキスト熟読(45分)	授業の作図の継続(45分)
11	設計課題の提示	授業の作図の継続(45分)	授業の作図の継続(45分)
12	設計プランの検討と確認	授業の作図の継続(45分)	授業の作図の継続(45分)
13	エスキスチェック	授業の作図の継続(45分)	授業の作図の継続(45分)
14	作図指導	授業の作図の継続(45分)	授業の作図の継続(45分)
15	3次元設計審査 授業改善アンケートの実施	プレゼンテーション準備(45分)	感想レポート提出(45分)
16	講評会	講評会準備(45分)	振返りレポート作成(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	病弱教育 (科目ナンバリング：SNE122111)				
授業担当者(所属・職名)	千葉 聡美(社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者：千葉 聡美)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験から、その経験を活かして具体的な実践例を中心に各特性等の理解を図り、さらに教育実習にも必要な内容を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

病弱教育の教育課程及び支援の方法を理解し、教育課程の枠組みを踏まえ、個別の教育支援計画及び個別の指導計画を作成する意義と方法を理解する。病弱・身体虚弱教育に必要な基本的な知識と健康や病気の状態に応じた指導の在り方等の知識を取得する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP(2)(4)(5)に対応する。

到達目標

病弱・身体虚弱児教育の教育課程、指導内容・方法等についての基礎的知識を理解することができる。

授業全体の内容と概要

病弱・身体虚弱児の健康や病気の状況に応じた教育課程や指導内容・方法、医療機関との連携、医療的ケアの在り方等について構成する。「SOG3 すべての人に健康と福祉」の関連授業。

授業の方法

各回のテーマに基づき必要な事項を講義するとともに、主体的・対話的で深い学びを実現するため、テーマに関連する事項に関して考察、意見交換、発表等の一連の活動を行う。授業ではパワーポイント及び配布物(レシメ)で実施し、資料にて説明した後、グループワーク等でグループ協議を行う。また具体的な事例のVTR教材視聴後のレポート提出を行う。レポート等については、コメントにてフィードバックを行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

○20分以上の遅刻は欠席とし、遅刻3回で欠席1回とみなす。  
○不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、大学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(特別支援)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
50%	20%	0%	0%	20%	10%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
病弱教育の基礎的な知識・技能の習得	知識・技能についての基礎的内容について高い関心をもって理解し、さらに深めることができた。	知識・技能の基礎的内容について関心をもって理解し、学修できた。	知識・技能の基礎的内容についてほぼ学修できた。	知識・技能について不十分ながら理解することができた。	知識・技能の基礎的内容について理解できなかった。
病弱教育に関する思考・判断・表現	テーマに基づき、積極的に思考・判断し、個人やグループで工夫して積極的に表現できた。	テーマに基づき、積極的に思考・判断し、個人やグループで感性的に表現できた。	テーマに基づき、積極的に思考・判断し、個人やグループで表現できた。	テーマに基づき、思考・判断し、個人やグループで取り組みができた。	テーマの受け止め方が不十分で思考・判断に課題がみられ、表現できなかった。
授業への参加態度・姿勢	授業に非常に積極的に参加することができた。	授業に積極的に参加することができた。	授業に関心をもって参加することができた。	授業への関心が低いが参加できた。	授業への態度に課題があり、参加できなかった。



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	病弱教育 (科目ナンバリング: SNE122111)				
授業担当者(所属・職名)	千葉 聡美 (社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 千葉 聡美)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験から、その経験を活かして具体的な実践例を中心に各特性等の理解を図り、さらに教育実習にも必要な内容を指導する。		

教科書・参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『特別支援教育の基礎・基本 2020』	ジアース教育新社	ジアース教育新社	2020	978-4-86371-543-6	
2						
3						
4						
5						

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバス説明とオリエンテーション 授業改善アンケート結果反映の説明	教科書から「病弱教育」についての課題を整理する(90分)	課題についてノートに整理し、シラバスで確認すること。(90分)
2	病弱教育の歴史の変遷	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
3	病弱教育の特別支援学校・特別支援学級	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
4	教育課程と学習指導要領(1)	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
5	教育課程と学習指導要領(2)	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
6	個別の教育支援計画と個別の指導計画	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
7	教科指導	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な語句や内容の整理とレポートの作成(90分)
8	自立活動	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
9	特別活動	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
10	病気等の状態に応じた指導と配慮	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
11	重度重複児の指導	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
12	訪問教育	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
13	保護者との連携	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
14	多職種連携と医療的ケア	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
15	進路指導と自立 授業改善アンケートの実施	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な語句や内容の整理とレポートの作成(90分)
16	定期試験(60分の試験終了後、残りの30分で解説する。)	講義内容の重要事項について整理しておくこと(90分)	試験の結果を見直す(90分)

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	精神疾患とその治療 (科目ナンバリング:PSS123037)				
授業担当者(所属・職名)	伊東 隆雄(社会福祉学科・非常勤講師)	研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 伊東 隆雄(社会福祉学科・非常勤講師))	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神保健指定医、精神科専門医として、大学病院や総合病院精神科での豊富な臨床経験に基づいて、授業を展開する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。				

概要

履修目標	精神医学の歴史や現状を理解する。脳および神経の解剖と生理を理解する。さらに、代表的な精神疾患を理解し、精神を病む人間存在を支援するための福祉の理念を論じる。
授業の位置づけ	社会福祉学科のDP(3)(5)に対応する。
到達目標	1. 精神医学、精神医療の歴史を説明する。2. 脳および神経の生理・解剖の基礎を説明する。3. 代表的な精神障害について説明する。

授業全体の内容と概要	精神保健福祉士の業務に必要な精神医学の知識の理解、とくに主要な精神疾患の症状、経過、治療等についての理解を深める。 SDG3「すべての人に健康と福祉を」の関連科目
------------	--

授業の方法	講義形式で各授業を進行する。教科書の概説および毎回、関連する資料を配布し説明する。適宜グループワークやディスカッションを行い理解を深める。授業の冒頭において、前回のまとめを行う。わからない部分については質問を受け付ける。
-------	--

アクティブラーニングの実施方法	<table border="1"> <tr> <td>○</td> <td>プレゼンテーション</td> <td>○</td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模範授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL		模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業	○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL																		
	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																		
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																		

履修上の注意事項	必ず予習をして、積極的に質問して、わからないことをその場できちんと理解してほしい。授業の冒頭で前回のまとめを行う。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。
----------	---

修学サポート(合理的配慮)	事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目	精神保健福祉士国家試験受験資格課程

評価方法・基準

評価前提条件	単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。 筆記試験で規定の成績を得たもの。												
評価方法	<table border="1"> <thead> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	100%	0%	0%	0%	0%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他								
100%	0%	0%	0%	0%	0%								

ルーブリック	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を越えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>精神医学の歴史についての理解が目標のレベルを達成しているか。</td> <td>精神医学、精神医療の歴史を、批判的に考察して、支援のあり方について説明できた。</td> <td>精神医学、精神医療の歴史から、支援のあり方を説明できた。</td> <td>精神医学、精神医療の歴史の詳細を説明できた。</td> <td>精神医学、精神医療の歴史の概要を説明できた。</td> <td>精神医学、精神医療の歴史を説明できなかった。</td> </tr> <tr> <td>脳や神経の解剖学と生理学の理解が目標のレベルを達成しているか。</td> <td>脳の解剖学と生理学について理解し、精神症状との関連を説明できた。</td> <td>脳の解剖学と生理学について理解し、精神疾患の病態を説明できた。</td> <td>脳の解剖学と生理学についての基本的な知識について説明できた。</td> <td>脳の解剖学についての基礎的な知識を説明できた。</td> <td>脳の解剖学について説明できなかった。</td> </tr> <tr> <td>代表的な精神疾患についての理解が目標のレベルを達成しているか。</td> <td>代表的な精神疾患の原因、診断、治療および福祉的支援のあり方について説明できた。</td> <td>代表的な精神疾患の原因、診断、治療の詳細について説明できた。</td> <td>代表的な精神疾患の診断と治療の概要について説明できた。</td> <td>代表的な精神疾患の概要について説明できた。</td> <td>代表的な精神疾患について説明できなかった。</td> </tr> </tbody> </table>					評価項目	評価基準					履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	精神医学の歴史についての理解が目標のレベルを達成しているか。	精神医学、精神医療の歴史を、批判的に考察して、支援のあり方について説明できた。	精神医学、精神医療の歴史から、支援のあり方を説明できた。	精神医学、精神医療の歴史の詳細を説明できた。	精神医学、精神医療の歴史の概要を説明できた。	精神医学、精神医療の歴史を説明できなかった。	脳や神経の解剖学と生理学の理解が目標のレベルを達成しているか。	脳の解剖学と生理学について理解し、精神症状との関連を説明できた。	脳の解剖学と生理学について理解し、精神疾患の病態を説明できた。	脳の解剖学と生理学についての基本的な知識について説明できた。	脳の解剖学についての基礎的な知識を説明できた。	脳の解剖学について説明できなかった。	代表的な精神疾患についての理解が目標のレベルを達成しているか。	代表的な精神疾患の原因、診断、治療および福祉的支援のあり方について説明できた。	代表的な精神疾患の原因、診断、治療の詳細について説明できた。	代表的な精神疾患の診断と治療の概要について説明できた。	代表的な精神疾患の概要について説明できた。	代表的な精神疾患について説明できなかった。
評価項目	評価基準																																	
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																													
精神医学の歴史についての理解が目標のレベルを達成しているか。	精神医学、精神医療の歴史を、批判的に考察して、支援のあり方について説明できた。	精神医学、精神医療の歴史から、支援のあり方を説明できた。	精神医学、精神医療の歴史の詳細を説明できた。	精神医学、精神医療の歴史の概要を説明できた。	精神医学、精神医療の歴史を説明できなかった。																													
脳や神経の解剖学と生理学の理解が目標のレベルを達成しているか。	脳の解剖学と生理学について理解し、精神症状との関連を説明できた。	脳の解剖学と生理学について理解し、精神疾患の病態を説明できた。	脳の解剖学と生理学についての基本的な知識について説明できた。	脳の解剖学についての基礎的な知識を説明できた。	脳の解剖学について説明できなかった。																													
代表的な精神疾患についての理解が目標のレベルを達成しているか。	代表的な精神疾患の原因、診断、治療および福祉的支援のあり方について説明できた。	代表的な精神疾患の原因、診断、治療の詳細について説明できた。	代表的な精神疾患の診断と治療の概要について説明できた。	代表的な精神疾患の概要について説明できた。	代表的な精神疾患について説明できなかった。																													

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	精神疾患とその治療 (科目ナンバリング:PSS123037)				
授業担当者(所属・職名)	伊東 隆雄(社会福祉学科・非常勤講師)	研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 伊東 隆雄(社会福祉学科・非常勤講師))	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神保健指定医、精神科専門医として、大学病院や総合病院精神科での豊富な臨床経験に基づいて、授業を展開する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『最新精神保健福祉士養成講座第1巻 精神医学と精神医療』	日本精神保健福祉士養成校協会=編集	中央法規出版	2021年	978-4-8058-8252-8	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読んでおくこと(90分)	講義内容の理解を深め、教科書・ノートをまとめておくこと(90分)
2	精神医学、精神医療の歴史	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと(90分)	講義内容の理解を深め、教科書・ノートをまとめておくこと(90分)
3	脳および神経の生理・解剖	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと(90分)	講義内容の理解を深め、教科書・ノートをまとめておくこと(90分)
4	精神医学の概念	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと(90分)	講義内容の理解を深め、教科書・ノートをまとめておくこと(90分)
5	精神障害の成因と分類	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと(90分)	講義内容の理解を深め、教科書・ノートをまとめておくこと(90分)
6	診断法 診断の手順と方法	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと(90分)	講義内容の理解を深め、教科書・ノートをまとめておくこと(90分)
7	診断法 精神症状と状態像	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと(90分)	講義内容の理解を深め、教科書・ノートをまとめておくこと(90分)
8	診断法 心理検査と身体的検査	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと(90分)	講義内容の理解を深め、教科書・ノートをまとめておくこと(90分)
9	代表的な精神障害 症状性を含む器質性精神障害(老人性認知症を含む)	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと(90分)	講義内容の理解を深め、教科書・ノートをまとめておくこと(90分)
10	代表的な精神障害 および行動の障害 精神作用物質使用による精神	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと(90分)	講義内容の理解を深め、教科書・ノートをまとめておくこと(90分)
11	代表的な精神障害 および妄想性障害 統合失調症、統合失調型障害	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと(90分)	講義内容の理解を深め、教科書・ノートをまとめておくこと(90分)
12	代表的な精神障害 気分(感情)障害	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと(90分)	講義内容の理解を深め、教科書・ノートをまとめておくこと(90分)
13	代表的な精神障害 神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと(90分)	講義内容の理解を深め、教科書・ノートをまとめておくこと(90分)
14	代表的な精神障害 生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと(90分)	講義内容の理解を深め、教科書・ノートをまとめておくこと(90分)
15	まとめ	講義全体でわからないことがあれば質問をまとめておくこと(90分)	講義内容の理解を深め、教科書・ノートをまとめておくこと(90分)
16	定期試験 60分の試験終了後、残りの30分で解説 授業改善アンケートの実施	試験に備えて講義全体のふりかえりを行うこと(90分)	試験および解説を受けて講義全体をふりかえり理解を深めること(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	コンテンツデザイン (科目ナンバリング: DES223050)				
授業担当者(所属・職名)	上坂 恒章(デザイン学科・特任教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 上坂 恒章)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	企業におけるコンピュータスキルの実務経験を活かし、実践的な授業に取り組む。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

学生がコンピュータを用いたwebデザインの基礎の学び、表現手法を修得する。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP(1)(3)(5)に対応する。

到達目標

Webプログラミングの基礎とコンテンツデザインの手法をマスターし、実際のコンテンツ制作の基礎、応用まで可能なスキルを修得することができる。

授業全体の内容と概要

コンセプト設定、情報の構造化、ページデザイン、インターフェース、画像処理手法等の講義とHTML、CSSのコーディングを学び、その成果を作品として制作し発表する。

授業の方法

授業では、テキスト及び配布したプリントの内容をプロジェクターにより投影し解説する。各項目ごとの課題に対してそれぞれが解決しながら学習する。提出された課題のプレゼンテーションを行い、評価をフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

コンピュータを利用するため、遅刻・欠席すると次の授業の理解が厳しくなるので注意すること。  
「デジタルデザイン」の知識が必要なので履修済みであること。  
WEBデザイナー検定(CG-ARTS)の受験を推奨する。  
不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施することができる。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は11回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	50%	20%	30%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
インターネットやwebデザインに関する知識の理解	学習した内容から範囲を広げて、自ら学び、理解を深めていた。	学習した内容を理解していた。検定に合格できるレベルに達している。	学習した内容を概ね理解していた。	学習した内容を最低限理解していた。	学習した内容を理解していなかった。
webコーディングの理解	HTML5やCSS3を完全に理解し、自ら更に理解を深めていた。	HTML5やCSS3を理解し、検定に合格できるレベルに達している。	HTML5やCSS3をお概ね理解していた。	HTML5やCSS3を最低限理解していた。	HTML5やCSS3の理解できていなかった。
webサイトの制作	学んだ知識、技術を更に深めて、意図したとおりwebサイトを制作することができる。	webサイトを制作することができる。	webサイトを概ね制作することができる。	webサイトを最低限制作することができる。	webサイトを制作することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	コンテンツデザイン (科目ナンバリング: DES223050)				
授業担当者(所属・職名)	上坂 恒章(デザイン学科・特任教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 上坂 恒章)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	企業におけるコンピュータスキルの実務経験を活かし、実践的な授業に取り組む。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『入門Webデザイン 第四版』	画像情報教育振興協会		2022	9784903474663	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション・シラバスの説明、コンテンツデザインとは 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読み、コンテンツの意味を調べておくこと(90分)	授業の内容を復習すること(90分)
2	インターネットとWeb	テキストの該当部分読んでおくこと(90分)	授業の内容を復習すること(90分)
3	Webサイトのしくみ	テキストの該当部分読んでおくこと(90分)	授業の内容を復習すること(90分)
4	情報の構造化とアクセラート、画面構成	テキストの該当部分読んでおくこと(90分)	授業の内容を復習すること(90分)
5	Webページを実現する技術の基礎 (HTMLの基本構成)	プリントを予習すること(90分)	授業の内容を復習すること(90分)
6	Webページを実現する技術の基礎 (画像表示、リンク処理)	プリントを予習すること(90分)	授業の内容を復習すること(90分)
7	Webページを実現する技術の基礎 (表組処理)	プリントを予習すること(90分)	授業の内容を復習すること(90分)
8	Webページを実現する技術の基礎 (文字の装飾)	プリントを予習すること(90分)	授業の内容を復習すること(90分)
9	コンセプトメイキング	テキストの該当部分読んでおくこと(90分)	授業の内容を復習すること(90分)
10	レイアウトデザイン	テキストの該当部分読んでおくこと(90分)	授業の内容を復習すること(90分)
11	オリジナルWeb制作 1	レイアウトのラフを完成させること(90分)	Web制作(90分)
12	オリジナルWeb制作 2	Web制作(90分)	Web制作(90分)
13	オリジナルWeb制作 3	Web制作(90分)	Web制作(90分)
14	オリジナルWeb制作 4	Web制作(90分)	Web制作(90分)
15	オリジナルWeb制作 5 プレゼンテーション	プレゼン用レジユメの準備をすること(90分)	フィードバックするので、自己評価をすること(90分)
16	作品講評 授業改善アンケートの実施	全授業の振り返りを行う(90分)	作品講評の内容を振り返り自己評価を行う(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	建築表現 (科目ナンバリング: AHD322041)				
授業担当者(所属・職名)	安藤 淳一(建築学科・教授)	君 興 治(建築学科・准教授)	研究室等所在	2号館3階	2号館4階
単位数	1 (単位認定責任者: 安藤 淳一)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

前半は、建築の正面(ファサード)に限定したデザイン能力を養う課題と各種建築図面を用いて彩色・配色する能力を養う課題に取り組む。後半は、この前半の内容を統合させた課題に取り組むことで、建築のトータルデザイン能力を修得する。

授業の位置づけ

建築学科のDP(1)(5)に対応する。

到達目標

建築用途・建築形態に対し、建築要素をどのように取り入れデザインしていくかを考慮し、どのように表現するかが求められる。各シリーズとも3課題ごとに講評会を実施するが、作品に対するさまざまな評価から自己の作品に対する客観視できる能力を養うことができる。

授業全体の内容と概要

各シリーズとも3課題ごとに講評会をおこなう。課題制作は、原則として授業時間内におこない即日提出とするが、やむを得ず授業時間内に完成させられなかった場合は、次週授業開始時まで完成させ提出する。

授業の方法

シリーズごとに課題の目的・到達目標等について説明の後、課題制作に取り組む。課題のシリーズ終了ごとに講評会開催し、各自作品のプレゼンテーションをおこない、その後指導教員が講評・評価をおこなう。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

実技科目であるため、全授業に出席し期限内に課題を制作し提出すること。また作品講評会に出席し自分の作品の解説(プレゼンテーション)することも評価する。原則授業にはすべて出席し、授業時間内に課題制作をおこなうこと。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(工業)選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

原則毎回出席する(ただし最低出席回数10回以上)こととし、積極的に課題に取り組むこと。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	85%	0%	0%	15%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
建築用途・建築形態に対し、建築要素をどのように取り入れデザインしていくかを構想し表現する。	非常に優れた構想力と表現力を身につけることができた。	優れた構想力と表現力を身につけることができた。	優れた表現力を身につけることができた。	おおむね表現できる力を身につけることができた。	作品を作成しなかったやめ表現できる力を身につけることができなかった。
講評会をとおし、作品に対するさまざまな評価から自己の作品に対する客観視できる能力を修得する。	自己の作品を積極的にプレゼンしそれに対する評価を客観的に捉えられ、他人の作品への評価ができた。	自己の作品をプレゼンしそれに対する評価を客観的に捉えることができた。	自己の作品をプレゼンしそれに対する評価を理解することができた。	自己の作品のプレゼンをすることができた。	講評会に出席しなかったため、プレゼンをすることができなかった。
建築の重要な要素である正面(ファサード)に対し、形態・材質感など建築要素を組み合わせ彩色・配色のデザインを彩色用の道具を使用し作成する。	配色・彩色できる非常に優れた力を身につけることができた。	配色・彩色できる優れた力を身につけることができた。	配色できる優れた力を身につけることができた。	おおむね配色表現できる力を身につけることができた。	作品を制作しなかったため表現できる力を身につけることができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	建築表現 (科目ナンバリング: AHD322041)				
授業担当者(所属・職名)	安藤 淳一(建築学科・教授)	君 興 治(建築学科・准教授)	研究室等所在	2号館3階 2号館4階	
単位数	1 (単位認定責任者: 安藤 淳一)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス シラバスの説明, 授業改善アンケート結果反映の説明, 授業計画の説明	シラバスの事前確認(45分)	授業内容の確認(45分)
2	ファサードデザイン1(商業建築)	使用道具の確認と準備(45分)	追加作業(45分)
3	ファサードデザイン2(住宅)	使用道具の確認と準備(45分)	追加作業(45分)
4	ファサードデザイン3(住宅)	使用道具の確認と準備(45分)	追加作業(45分)
5	講評会(ファサードデザイン)	提出作品の確認(45分)	講評内容の振り返り(45分)
6	色彩表現のための道具と材料の説明	配布資料の確認(45分)	追加作業(45分)
7	色彩1(街区・配置図)	使用道具の確認と準備(45分)	追加作業(45分)
8	色彩2(立面図)	使用道具の確認と準備(45分)	追加作業(45分)
9	色彩3(立面図)	使用道具の確認と準備(45分)	追加作業(45分)
10	講評会(色彩)	提出作品の確認(45分)	講評内容の振り返り(45分)
11	彩色によるファサードデザインのねらい	配布資料の確認(45分)	授業の振り返り(45分)
12	ファサードデザイン+色彩1	使用道具の確認と準備(45分)	追加作業(45分)
13	ファサードデザイン+色彩2	使用道具の確認と準備(45分)	追加作業(45分)
14	ファサードデザイン+色彩3	使用道具の確認と準備(45分)	追加作業(45分)
15	講評会(ファサードデザイン+色彩)	提出作品の確認(45分)	講評内容の振り返り(45分)
16	総評(全作品の講評) 授業改善アンケートの実施	提出作品の最終確認(45分)	総評の振り返り(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	建築環境 (科目ナンバリング: AEN313010)				
授業担当者(所属・職名)	佐々木 哲之(建築学科・特任教授)	研究室等所在	1号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者: 佐々木 哲之)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

建築の目的はその発生の当初から、外界の厳しい自然環境から人間生活を護ることにあり、快適な室内環境の実現には建築技術の長い発展の不断の目標である。そのために空気、熱、光、音の基本性質を学習し、それらが建築環境にどのように関わるかを理解・修得する。

授業の位置づけ

建築学科のDP(1),(2),(3)に対応する。

到達目標

空気、熱、光、音が建築物に与える影響を知り、建築物の配置計画、平面計画を実施する際の建築計画の基本となる知識として身に付け、応用できる。

授業全体の内容と概要

自然(外部)環境が室内環境に及ぼす要因と空気環境の基準を学ぶ。また、自然環境が建築物に与える功罪を知る手がかりとして日照と日射の基礎的取扱いからその建築計画上の方法の理解。採光計画における昼光率、設計用天空照度、照度の計算そして、換気と通風の理論、及びその応用など大別して講義展開をする。また「SDGs:すべての人に健康と福祉を」の関連授業である。

授業の方法

テキストに加えて、プロジェクターによる画像、図表で解説するので、ノートに講義内容と資料を整理すること。また、課題は各単元ごとに課題し、それはレポート、小テストの形式とする。課題返却後、解説をする。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

授業成果の確認のため単元ごとに小テストを行うので、講義にはテキスト、過去のノート、電卓は必ず持参すること。30分以上の遅刻は欠席とする。また、遅刻3回で欠席1回とみなすので注意すること。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する可能性がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

「建築士試験受験資格課程」必修科目、教職課程(工業)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70%	10%	10%	10%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
建築環境に関わる基礎的知識について	知識を十分に習得しており、それを応用でき、説明・解説ができた。	知識を十分に習得しており、それを応用できた。	知識を十分に習得していた。	基礎的な知識を理解できていた。	基礎的な知識が不足していた。
光環境に関わる知識や計算について	知識を十分に習得して計算ができた。さらにそれを応用でき、説明・解説ができた。	知識を十分に習得して計算ができた。さらにそれを応用できた。	知識を習得して計算ができた。さらにそれを十分ではないが応用できた。	知識を習得して計算ができた。	知識が不足し計算ができなかった。
採光と照明に関わる知識と計算について	知識を十分に習得して計算ができた。さらにそれを応用でき、説明・解説ができた。	知識を十分に習得して計算ができた。さらにそれを応用できた。	知識を習得して計算ができた。さらにそれを十分ではないが応用できた。	知識を習得して計算ができた。	知識が不足し計算ができなかった。
通風と換気に関わる知識と計算について	知識を十分に習得して計算ができた。さらにそれを応用でき、説明・解説ができた。	知識を十分に習得して計算ができた。さらにそれを応用できた。	知識を習得して計算ができた。さらにそれを十分ではないが応用できた。	知識を習得して計算ができた。	知識が不足し計算ができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	建築環境 (科目ナンバリング: AEN313010)				
授業担当者(所属・職名)	佐々木 哲之(建築学科・特任教授)	研究室等所在	1号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者: 佐々木 哲之)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『最新 建築環境工学』	田中俊六	井上書院	2022	978-4-7530-1757-7	
2						
3						
4						
5						

No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 建築環境の概要	シラバスにより次回の部分を予習すること(90分)	授業内容を復習すること(90分)
2	快適環境-1 人体生理と室内環境	次回の授業範囲を予習すること(90分)	授業内容を復習し、特に専門用語を確認すること(90分)
3	快適環境-2 空気環境の基準	次回の授業範囲を予習すること(90分)	授業内容を復習し、特に専門用語を確認すること(90分)
4	快適環境-3 温熱環境 絶対湿度と相対湿度 有効湿度	次回の授業範囲を予習すること(90分)	授業内容を復習し、特に専門用語を確認すること(90分)
5	光環境-1 日照と住環境	次回の授業範囲を予習すること(90分)	授業内容を復習し、特に専門用語を確認すること(90分)
6	光環境-2 日照と日射 昼光照度と日射量、日照と建築計画	次回の授業範囲を予習すること(90分)	授業内容を復習し、特に専門用語を確認すること(90分)
7	光環境-3 日影曲線、日影図、日影時間、日影の検討方法	次回の授業範囲を予習すること(90分)	授業内容を復習し、特に専門用語を確認すること(90分)
8	光環境-4 日射と日照調整	次回の授業範囲を予習すること(90分)	授業内容を復習し、特に専門用語を確認すること(90分)
9	採光と照明-1 測光量とその単位 照度、光束、輝度	次回の授業範囲を予習すること(90分)	授業内容を復習し、特に専門用語を確認すること(90分)
10	採光と照明-2 昼光光源 設計用天空照度 照度の計算	次回の授業範囲を予習すること(90分)	授業内容を復習し、特に専門用語を確認すること(90分)
11	採光と照明-3 昼光率とその計算法	次回の授業範囲を予習すること(90分)	授業内容を復習し、特に専門用語を確認すること(90分)
12	換気と通気-1 人体と必要換気量 用途に応じた必要換気量と換気方式	次回の授業範囲を予習すること(90分)	授業内容を復習し、特に専門用語を確認すること(90分)
13	換気と通気-2 室内通風 通風の現象、通風による温熱効果	次回の授業範囲を予習すること(90分)	授業内容を復習し、特に専門用語を確認すること(90分)
14	換気と通気-3 圧力差と換気量 温度差による換気、換気計算	次回の授業範囲を予習すること(90分)	授業内容を復習し、特に専門用語を確認すること(90分)
15	まとめ 授業改善アンケートの実施	次回の授業範囲を予習すること(90分)	授業内容を復習し、特に専門用語を確認すること(90分)
16	定期試験(60分)及び解説(30分)	これまでの授業範囲を見直し予習すること(90分)	試験内容を振り返り、特に専門用語を復習すること(90分)

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	視覚障害教育総論 (科目ナンバリング：SNE122112)				
授業担当者(所属・職名)	木村 浩紀(社会福祉学科・特任教授)		研究室等所在	未定	
単位数	2	(単位認定責任者：木村 浩紀)	CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	特別支援学校や教育行政における勤務経験を活かして、視覚障害教育に関する諸事項を講義する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標
特別支援教育の教師を目指すため、視覚障害の特性の理解と、学習上・生活上の困難を改善・克服する教育についての基本的知識を習得し、視覚障害教育に携わる者の意欲・態度等の基本的資質について学ぶ。

授業の位置づけ
社会福祉学科のDP(2)(4)(5)に対応する。

到達目標
視覚障害の特性を、眼疾患や心理面、歴史、職業、学校制度から基本的な理解ができる。また、視覚障害による学習上・生活上の困難さの理解を基に、視覚障害者が社会参加・自立できるための教育について基礎的知識を習得することができ、視覚障害教育に携わる者としての知識・意欲・態度の資質を養うことができる。

授業全体の内容と概要
1.前半を「視覚障害者の心理・生理・病理」、後半を「視覚障害教育」を中心に構成する。 2.「心理・生理・病理」では、視覚障害児の眼疾患や視知覚の状況、心理面の理解を学び、「教育論」では、学習上・生活上の困難さを改善・克服するための点字や歩行・触察など自立活動を中心に、歴史やキャリア教育等、視覚障害教育の課題等についても学ぶ構成とする。 3.具体的な理解を図るため、歩行や触察等の疑似体験や視覚教材視聴等の構成とする。 SDG4.「質の高い教育を教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法
1.講義では、各項目の特徴を明らかにすることを重視し、振り替えシートで講義内容を整理する。 2.講義ではできない体験や点字など時間をかけて復習することが必要なものについては課題とし、内容の定着を図る。 3.自立活動や指導の実践については、簡単な演習や映像・スライド等で理解を深める。

アクティブラーニングの実施方法			
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
1.振り替えシートは講義後(当日)に提出、課題については提出日の講義前に提出すること。 2.「歩行」・「触察」時にアイマスクやお金を使用するので、衛生面上、必ず各自で準備すること。 3.「歩行」時は服装や靴など動きやすいものを準備すること。 4.不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合ある。

修学サポート(合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
教職課程(特別支援)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件					
・単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上。 ・試験結果や課題の提出状況、発表等の講義での取り組み状況により評価する。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
25%	0%	40%	25%	0%	10%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
準備・課題学習	課題学習等に努め、基本的・応用的理解が身につけているとともに、自主的な学習にも取り組んだ。	課題学習等に努め、基本的・応用的な理解が身についた。	課題学習等に努め、基本的理解が身についた。	課題学習等に努め、提出した。	課題学習等への取り組みが不十分で、空白部分多かったり、未提出が多かった。
視覚障害者(眼疾患等)や視覚障害教育(指導内容・方法等)についての理解	視覚障害教育について、意欲的に学び、興味・関心を高め、自ら課題をみつけ調査したり、要点をまとめた。	視覚障害教育について、良く学び、基本的理解が十分身についた。	視覚障害教育について、学ぶ意欲が高まり、基本的理解が身につくようになった。	視覚障害教育について、基本的理解への努力がみられるようになった。	視覚障害教育について、基本的理解への努力がみられなかった。
視覚障害教育への関心・意欲・態度	視覚障害者の教育に携わる者としての意欲・態度が、応答・発表等に著しくみられた。	視覚障害者の教育に携わる者としての意欲・態度が、応答・発表等に十分のみられた。	視覚障害者の教育に携わる者としての意欲・態度が、応答・発表等にみられた。	視覚障害者の教育に携わる者としての意欲が、みられるようになった。	視覚障害者の教育に携わる者としての意欲・態度が、応答・発表等にみられなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	視覚障害教育総論 (科目ナンバリング: SNE122112)				
授業担当者(所属・職名)	木村 浩紀(社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	未定		
単位数	2 (単位認定責任者: 木村 浩紀)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	特別支援学校や教育行政における勤務経験を活かして、視覚障害教育に関する諸事項を講義する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『視覚障害教育に携わる方のために(五訂版)』	香川 邦生ほか	慶應義塾出版	2016年	978-4-7664-2367-9	
2	『新・視覚障害教育入門』	青柳まゆみ・鳥山由子	ジアース教育新社	2021年	978-4-86371-533-2	
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション ・授業計画(シラバス)の説明 ・視覚障害者の生活と視覚認知	シラバスの確認。(90分)	講義内容の整理と課題の作成。(90分)
2	目の構造・機能と視覚障害 ・視覚認知 ・目の構造と機能	学習内容の確認と関連事項を調べる。(90分)	講義内容の整理と課題の作成。(90分)
3	視機能の役割と視覚障害児における眼疾患 ・目の機能 ・視機能の障害	学習内容の確認と関連事項を調べる。(90分)	講義内容の整理と課題の作成。(90分)
4	視覚障害児の眼疾患と視知覚・触知覚の発達 ・主な眼疾患 ・視知覚・触知覚の発達	学習内容の確認と関連事項を調べる。(90分)	講義内容の整理と課題の作成。(90分)
5	視覚障害者の心理と社会性の発達 ・視覚障害の疑似体験(触察)(アイマスク使用) ・弱視児の見え方	学習内容の確認と関連事項を調べる。(90分)	講義内容の整理と課題の作成。(90分)
6	視力検査の実際と視機能検査 ・視覚障害者の程度の把握 ・視力検査等の実際	学習内容の確認と関連事項を調べる。(90分)	講義内容の整理と課題の作成。(90分)
7	視覚障害児の心理(発達)検査と指導との関連 ・視覚検査の実際 ・指導との関連	学習内容の確認と関連事項を調べる。(90分)	講義内容の整理と課題の作成。(90分)
8	心理・生理・病理のまとめ ・心理・生理・病理のまとめ ・試験(6.0分)	前半の復習。(120分)	講義内容の整理。(90分)
9	視覚障害教育の歴史 ・視覚障害教育の歴史 ・北海道の視覚障害教育の歩み	学習内容の確認と関連事項を調べる。(90分)	講義内容の整理と課題の作成。(90分)
10	視覚障害教育の対象と教育の場 ・就学基準 ・教育の場と各学校の現状	学習内容の確認と関連事項を調べる。(90分)	講義内容の整理と課題の作成。(90分)
11	視覚障害教育の教育課程と指導上の配慮事項 ・教育課程 ・指導上の配慮事項	学習内容の確認と関連事項を調べる。(90分)	講義内容の整理と課題の作成。(90分)
12	点字の歴史と点字の概要 ・点字の歴史 ・点字の概要と仕組み	学習内容の確認と関連事項を調べる。(90分)	講義内容の整理と課題の作成。(90分)
13	点字の読み書きの実際 ・点字の読み書き ・指導の実際	学習内容の確認と関連事項を調べる。(90分)	講義内容の整理と課題の作成。(90分)
14	視覚障害児における自立活動(歩行等) ・自立活動の指導 ・歩行指導	学習内容の確認と関連事項を調べる。(90分)	講義内容の整理と課題の作成。(90分)
15	歩行指導の実際とキャリア教育 ・歩行指導の実際(介添え等)(アイマスク使用) ・進路と三療	学習内容の確認と関連事項を調べる。(90分)	講義内容の整理と課題の作成。(90分)
16	視覚障害教育のまとめ ・視覚障害教育のまとめ ・試験(6.0分)授業改善アンケートの実施	後半の復習。(120分)	講義全体の振り返り。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・4年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	日本文化史 (M) (科目ナンバリング: HIS122122)				
授業担当者 (所属・職名)	及川 琢英 (社会福祉学科・非常勤講師)		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室	
単位数	2 (単位認定責任者: 及川 琢英)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。				

概要

履修目標

人と猫との関わり合いという切り口を通して、日本の文化、人間社会のあり様を考察する。

授業の位置づけ

経営学科のDP (2) (4) に対応する。  
社会福祉学科のDP (2) (4) に対応する。  
デザイン学科のDP (2) (4) に対応する。  
建築学科のDP (2) (4) に対応する。

到達目標

1. テーマに沿った文献や資料を提示することができる。
2. 文献を批判的に考察することができる。
3. 考察した内容を適切に表現できる。

授業全体の内容と概要

1. 人と動物との関わり合いについて考察する。
2. 日本独特の文化とは何かを考える。

授業の方法

受講者にはテキスト読解を担当してもらい、質疑応答を行う。またリアクションペーパーを書いて提出してもらい、次回にそれに対するコメントを行う。

アクティブラーニングの実施方法

<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL
<input type="checkbox"/>	模擬授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業
<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他 (授業の方法参照)

履修上の注意事項

毎回配布する資料をしっかりと読み、読み切れなかった箇所に目を通して、次回の授業に臨むこと。  
毎回のリアクションペーパー提出を持って出席に代える。  
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート (合理的配慮)

事前相談を受け、大学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員 (大学) が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程 (社会・地理歴史) 選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は10回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	60%	0%	0%	40%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
文献・資料の取り扱い	授業で配布された資料を整理し、自分で文献や資料を広く入手するとともに、テーマに沿って適切に提示できていた。	授業で配布された資料を整理し、自分で文献や資料を図書館のみならず、広く入手して提示できていた。	授業で配布された資料を整理し、自分で文献や資料を図書館などで入手して提示できていた。	授業で配布された資料を整理できていた。	授業で配布された資料を整理できていなかった。
文献の批判的考察	テーマに沿って、資料を取捨選択して提示し、複数の観点から分析を行ったうえで、考察がなされていた。	テーマに沿って、資料を取捨選択して提示し、批判的な分析を行ったうえで、考察がなされていた。	テーマに沿って、資料を取捨選択して、適切な考察がなされていた。	テーマに沿って、資料を提示し、考察がなされていた。	テーマに沿った資料を提示しての考察がなされていないかった。
考察内容の表現	指示された枠組みに基づいて記述がなされ、資料の提示、記述を工夫するとともに、さらなる課題なども提示できていた。	指示された枠組みに基づいて記述がなされ、資料の提示、記述も工夫され、説得力があった。	指示された枠組みに基づいて記述がなされ、資料の提示も適切になされていた。	指示された枠組みに基づいて記述されていた。	指示された枠組みに基づいて記述されていないかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・4年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	日本文化史 (M) (科目ナンバリング: HIS122122)				
授業担当者 (所属・職名)	及川 琢英 (社会福祉学科・非常勤講師)		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室	
単位数	2 (単位認定責任者: 及川 琢英)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『猫が歩いた近現代』	真辺将之	吉川弘文館	2021		
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	オリエンテーション、シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読んでおく (90分)	基礎的事項の確認 (90分)
2	猫の世界史	学習内容について調べる (90分)	資料を読み直し、関連事項を調べる (90分)
3	猫の世界史2	学習内容について調べる (90分)	資料を読み直し、関連事項を調べる (90分)
4	江戸時代の猫	学習内容について調べる (90分)	資料を読み直し、関連事項を調べる (90分)
5	明治初期の認識	学習内容について調べる (90分)	資料を読み直し、関連事項を調べる (90分)
6	文筆家と猫	学習内容について調べる (90分)	資料を読み直し、関連事項を調べる (90分)
7	猫絵	学習内容について調べる (90分)	資料を読み直し、関連事項を調べる (90分)
8	猫の需要	学習内容について調べる (90分)	資料を読み直し、関連事項を調べる (90分)
9	猫権り	学習内容について調べる (90分)	資料を読み直し、関連事項を調べる (90分)
10	虐待と愛護	学習内容について調べる (90分)	資料を読み直し、関連事項を調べる (90分)
11	震災と戦争	学習内容について調べる (90分)	資料を読み直し、関連事項を調べる (90分)
12	猫食い	学習内容について調べる (90分)	資料を読み直し、関連事項を調べる (90分)
13	猫文化	学習内容について調べる (90分)	資料を読み直し、関連事項を調べる (90分)
14	生活の変化	学習内容について調べる (90分)	資料を読み直し、関連事項を調べる (90分)
15	猫ブーム	学習内容について調べる (90分)	資料を読み直し、関連事項を調べる (90分)
16	猫の現代、授業改善アンケートの実施	学習内容について調べる (90分)	資料を読み直し、関連事項を調べる (90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・4年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	日本文化史(S) (科目ナンバリング: HIS122122)				
授業担当者(所属・職名)	及川 琢英(社会福祉学科・非常勤講師)		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室	
単位数	2 (単位認定責任者: 及川 琢英)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。				

概要

履修目標

人と猫との関わり合いという切り口を通して、日本の文化、人間社会のあり様を考察する。

授業の位置づけ

経営学科のDP(2)(4)に対応する。  
社会福祉学科のDP(2)(4)に対応する。  
デザイン学科のDP(2)(4)に対応する。  
建築学科のDP(2)(4)に対応する。

到達目標

1. テーマに沿った文献や資料を提示することができる。
2. 文献を批判的に考察することができる。
3. 考察した内容を適切に表現できる。

授業全体の内容と概要

1. 人と動物との関わり合いについて考察する。
2. 日本独特の文化とは何かを考える。

授業の方法

受講者にはテキスト読解を担当してもらい、質疑応答を行う。またリアクションペーパーを書いて提出してもらい、次回にそれに対するコメントを行う。

アクティブラーニングの実施方法

<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL
<input type="checkbox"/>	模擬授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業
<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

毎回配布する資料をしっかりと読み、読み切れなかった箇所に目を通して、次回の授業に臨むこと。  
毎回のリアクションペーパー提出を持って出席に代える。  
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(社会・地理歴史)選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は10回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	60%	0%	0%	40%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
文献・資料の取り扱い	授業で配布された資料を整理し、自分で文献や資料を広く入手するとともに、テーマに沿って適切に提示できていた。	授業で配布された資料を整理し、自分で文献や資料を図書館のみならず、広く入手して提示できていた。	授業で配布された資料を整理し、自分で文献や資料を図書館などで入手して提示できていた。	授業で配布された資料を整理できていた。	授業で配布された資料を整理できていなかった。
文献の批判的考察	テーマに沿って、資料を取捨選択して提示し、複数の観点から分析を行ったうえで、考察がなされていた。	テーマに沿って、資料を取捨選択して提示し、批判的な分析を行ったうえで、考察がなされていた。	テーマに沿って、資料を取捨選択して、適切な考察がなされていた。	テーマに沿って、資料を提示し、考察がなされていた。	テーマに沿った資料を提示しての考察がなされていないかった。
考察内容の表現	指示された枠組みに基づいて記述がなされ、資料の提示、記述を工夫するとともに、さらなる課題なども提示できていた。	指示された枠組みに基づいて記述がなされ、資料の提示、記述も工夫され、説得力があった。	指示された枠組みに基づいて記述がなされ、資料の提示も適切になされていた。	指示された枠組みに基づいて記述されていた。	指示された枠組みに基づいて記述されていないかった。



基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・4年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	日本文化史(S) (科目ナンバリング: HIS122122)				
授業担当者(所属・職名)	及川 琢英(社会福祉学科・非常勤講師)		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室	
単位数	2 (単位認定責任者: 及川 琢英)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『猫が歩いた近現代』	真辺将之	吉川弘文館	2021		
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション、シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読んでおく(90分)	基礎的事項の確認(90分)
2	猫の世界史	学習内容について調べる(90分)	資料を読み直し、関連事項を調べる(90分)
3	猫の世界史2	学習内容について調べる(90分)	資料を読み直し、関連事項を調べる(90分)
4	江戸時代の猫	学習内容について調べる(90分)	資料を読み直し、関連事項を調べる(90分)
5	明治初期の認識	学習内容について調べる(90分)	資料を読み直し、関連事項を調べる(90分)
6	文筆家と猫	学習内容について調べる(90分)	資料を読み直し、関連事項を調べる(90分)
7	猫絵	学習内容について調べる(90分)	資料を読み直し、関連事項を調べる(90分)
8	猫の需要	学習内容について調べる(90分)	資料を読み直し、関連事項を調べる(90分)
9	猫権り	学習内容について調べる(90分)	資料を読み直し、関連事項を調べる(90分)
10	虐待と愛護	学習内容について調べる(90分)	資料を読み直し、関連事項を調べる(90分)
11	震災と戦争	学習内容について調べる(90分)	資料を読み直し、関連事項を調べる(90分)
12	猫食い	学習内容について調べる(90分)	資料を読み直し、関連事項を調べる(90分)
13	猫文化	学習内容について調べる(90分)	資料を読み直し、関連事項を調べる(90分)
14	生活の変化	学習内容について調べる(90分)	資料を読み直し、関連事項を調べる(90分)
15	猫ブーム	学習内容について調べる(90分)	資料を読み直し、関連事項を調べる(90分)
16	猫の現代、授業改善アンケートの実施	学習内容について調べる(90分)	資料を読み直し、関連事項を調べる(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	洋画 (科目ナンバリング: AEA223058)				
授業担当者(所属・職名)	安田 祐造(デザイン学科・特任教授)	研究室等所在	2号館1階		
単位数	2 (単位認定責任者: 安田 祐造)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 50年近く画業に専念するなかで経験した課題を具体的に解説しながら指導に当たる。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション シラバスについて 古今の作品について。(構図を主に) 授業改善アンケート結果反映の説明	予めシラバスに目を通す。(45分)	これから制作する作品の構想を練る。(45分)
2	洋画作品の構造と用材 木材の性質について	基底材として使用する木材の性質について予習する。(45分)	本時の内容についての復習と自らの作品に相応しい支持体について検討する。(45分)
3	支持体製作 木材の裁断について 木工具の取り扱い方について	基本的な木工具の取り扱い方について予習する。(45分)	作品のテーマとモチーフを検討する。(45分)
4	支持体製作 木材の組み立てについて 木材の接着について	接着剤の種類や用法について予習する。(45分)	本時の内容についての復習と地塗り材についての予習を行う。(45分)
5	支持体製作 地塗り材の処方について	地塗り材による作品に対する効果について予習する。(45分)	様々な地塗り材の特徴と取り扱いとを復習する。(45分)
6	支持体製作 地塗りの仕方について	地塗り材の塗りの方法について予習する。(45分)	新作として構想したものを下絵として用意する。(45分)
7	支持体製作 地塗り面の研磨について 下絵の転写作業について	ヤスリなどの研磨材や用具について予習しておく。(45分)	様々な転写方法について復習する。(45分)
8	エッグテンペラでの下描き エッグテンペラ用展色剤の処方について	面や陰影の把握の重要性について予習する。(45分)	エッグテンペラ用展色剤の処方について復習する。(45分)
9	エッグテンペラでの下描き エッグテンペラでの描法について	エッグテンペラメディウムの特徴について予習する。(45分)	作品刷りに不足している用材等を補充しておく。(45分)
10	エッグテンペラでの下描き エッグテンペラでの描法について	エッグテンペラ絵具での描法について練習を行う。(45分)	本時の内容を復習し、古今のエッグテンペラを用いた作品を分析する。(45分)
11	混合技法(油彩とエッグテンペラ)による本制作 A エッグテンペラでの描法について	制作が遅れている場合、自ら制作を進め、遅れを取り戻す。(45分)	エッグテンペラの特徴を踏まえた描法について復習する。(45分)
12	混合技法による本制作 B エッグテンペラでの描法について	前回の制作を振り返り、自らの課題を明確化しておく。(45分)	描写に不足がある場合は、自らそれを補っておく。(45分)
13	混合技法による本制作 C 油彩の特徴について	油彩の特徴を活かした描法について予習する。(45分)	古今の油彩や混合技法による作品の良さを画集やインターネットを活用して味わう。(45分)
14	混合技法による本制作 D エッグテンペラでの下層を活かす油彩描法について	油彩絵具の透明性について予習する。(45分)	進捗状況を点検し、足りない部分を補う。(45分)
15	混合技法による本制作 E 質感の表現法について	質感表現について予習する。(45分)	本時の内容に照らし、遅れている点や不足している点がないか検討する。(45分)
16	混合技法による本制作 F 陰影のコントラストについて	陰影のコントラストの重要性について予習する。(45分)	より良いものを求め不足している部分を補い、過ぎた部分については修正する。(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17	混合技法による本制作 G 色彩の調和と色の三属性について	表現の意図に相応しい配色の仕方について予習する。(45分)	本時の内容を復習し理解する。(45分)
18	混合技法による本制作 H 色彩の調和と色の三属性について	前回の内容で理解できていない点を明らかにする。(45分)	色彩について着目し、制作の進め方について検討する。(45分)
19	混合技法による本制作 I 色彩の調和と色の三属性について	色彩に着目し、自らの作品の進捗を確認する。(45分)	色彩について、これまでに学んだことを復習する。(45分)
20	混合技法による本制作 J エッグテンペラでの上描きについて	油彩絵具の層の上にエッグテンペラ絵具を乗せたことによる効果について予習する。(45分)	油彩絵具の層の上にエッグテンペラ絵具を乗せて表現した古今の作品を参照する。(45分)
21	混合技法による本制作 K エッグテンペラでの上描きについて	油彩絵具の層の乾き具合とエッグテンペラ絵具の乗り具合の関係について予習する。(45分)	本時の制作体験から、油彩絵具の具だけでは得られないものが何か検討する。(45分)
22	混合技法による本制作 L エッグテンペラ絵具の浮き出し効果について	油彩絵具の具での光の表現と混合技法でのそれとの効果の差異について予習する。(45分)	本時の制作体験により得られたものを、これからの制作にどのように活かすべきかを検討する。(45分)
23	混合技法による本制作 M 個別的な課題について	これまでの制作を振り返り、自らの課題が何かを明らかにする。(45分)	自らが抱く作品についての構想を再確認する。(45分)
24	混合技法による本制作 N 個別的な課題について	本時の制作で解決すべき点についてまとめる。(45分)	本時の制作で解決した点とそうではなかった点について検討する。(45分)
25	混合技法による本制作 O 個別的な課題について	前回の制作で行き詰った点があれば、それを明らかにし、他者からの助言を受ける用意を行う。(45分)	作品仕上げの期限も近いことから、空き時間を利用して完成度を高められるように制作に取り組む。(45分)
26	混合技法による本制作 P 個別的な課題について	制作当初の表現の意図が具現化されつつあるかを確認する。(45分)	表現の意図を確かにするために必要な点があるかを明らかにする。(45分)
27	混合技法による本制作 Q 個別的な課題について	作品の細部と全体とに目をやり、改めるべき点や補うべき点などを明らかにする。(45分)	他者から意見や感想を寄せてもらい、制作の糧とする。(45分)
28	混合技法による本制作 R 個別的な課題について	これまでの授業で取りあげられたそれぞれのテーマについて、自らの作品を客観的に検討する。(45分)	足りない点や過ぎた点などを加筆したり修正したりして完成度を高める。(45分)
29	混合技法による本制作 S 個別的な課題について	作品提出を前に完成度を点検する。(45分)	冷静に客観的にできるだけ広い視野で自らの作品を検討する。(45分)
30	混合技法による本制作 T 個別的な課題について	完成に向けて、様々な点について検討を行う。(45分)	これまでの制作で果たせたことや果たしきれなかったことについて検討する。(45分)
31	合評 A	自らの作品について自己評価を行う。(45分)	他者の意見や助言や感想を参考に、自らの作品についての評価を再検討する。(45分)
32	合評 B 授業改善アンケートの実施	感性や価値観の相違、多様性などについての考えをまとめる。(45分)	合評会での他者の意見や助言を参考に、これからの制作の仕方について検討する。(45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	経営分析論 (科目ナンバリング: MAN413006, MAN523016/2023年度以降) ) MAN423006				
授業担当者(所属・職名)	石山 玄幸(経営学科・准教授)		研究室等所在	1号館2階	
単位数	2 (単位認定責任者: 石山 玄幸)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	経営コンサルタント会社の代表として200社以上の中小企業の経営指導をしてきた経験を生かして、守秘義務に配慮しつつ身近な企業の事例を活用した講義を展開する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照のこと。				

概要

履修目標

本講義は、経営学部における会計科目の仕上げ科目と位置づけ、学生が会社経営の安全性、収益性、成長性など、財務分析の手法について学ぶことを目的としている。分析の結果を踏まえて、会社とはどうあるべきか考えられる力を養成することも本講義のねらいである。

授業の位置づけ

経営学科のDP(1)、(2)、(3)に対応する。

到達目標

本講義修了時の達成目標は以下の通り。貸借対照表、損益決算書、キャッシュフロー計算書の内容が理解できる。対象企業における資産状況、負債状況、自己資本比率を理解できる。貸借対照表、損益決算書、キャッシュフロー計算書を使い会社経営の安全性、収益性、成長性の数値を導き出すことができる。

授業全体の内容と概要

本講義は、会社経営における財務分析の手法を学ぶ。貸借対照表(B/S)、損益決算書(P/L)、キャッシュフロー計算書(C/S)の数値を使い会社の安全性、収益性、成長性などを導き出す。経営分析の過程で数学を使うが、基本的には割り算と掛け算である。計算の際は計算機の使用を認める。

授業の方法

本講義はパワーポイント及び配布資料で進める。1枚のパワーポイントを提示して、一連の解説が終了した後、一定の時間、学生がノートを書く時間を取る。また、本講義では、アクティブラーニングを活用し、一つの公式を解説後、グループワークやディスカッションを行い、学生の理解をより深めることとする。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

本講義は、財務会計論の発展科目であることから、「財務会計論」の単位を取得していなければ受講できない。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(商業)選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な出席回数は、11回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
100%	0%	0%	0%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
企業会計の必要性について	企業における会計の必要性について、業種別の特徴を踏まえて説明できた。	企業における会計の必要性について、具体的な事例を挙げて説明できた。	企業における会計の必要性について理解していた。	企業における会計の必要性を最低限理解していた。	企業における会計の必要性を理解していなかった。
財務諸表の理解	3つの財務諸表を使いこなし、企業財務の現状を述べることができた。	3つの財務諸表の違いを述べることができ、それぞれの諸表を読んで理解できた。	3つの財務諸表の違いを述べることができた。	3つの財務諸表を述べることができた。	そもそも財務諸表とは何かを理解していなかった。
経営分析に対応した数学的計算力	企業会計の法則に沿ってスムーズに数学的な計算ができた。	企業会計の法則に沿って数学的な計算ができた。	企業会計の法則に沿って、多少の時間がかかるが計算ができた。	企業会計の法則に沿って、最低限の計算ができた。	企業会計の法則に沿った数学的な計算ができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	経営分析論 (科目ナンバリング: MAN413006, MAN523016/2023年度以降 MAN423006)				
授業担当者(所属・職名)	石山 玄幸(経営学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 石山 玄幸)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	経営コンサルタント会社の代表として200社以上の中小企業の経営指導をしてきた経験を生かして、守秘義務に配慮しつつ身近な企業の事例を活用した講義を展開する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『経営分析入門』	森田松太郎	日本経済新聞出版社	2009年	9784532133658	
2	『第五版中小企業の財務分析経営・原価指標の分析・活用』	宇田川荘二	同友館	2020年	9784496054877	
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス シラバスの説明(講義全体の概要、講義のやり方、評価方法など)、授業改善アンケート結果反映の説明	必ずシラバスを読んでから、初回ガイダンスを受講すること。(90分)	講義終了時に練習問題の復習。(90分)
2	財務諸表の見方 貸借対照表	講義で学んだ手法を使い企業の財務分析をしてみる。(90分)	講義終了時に練習問題の復習。(90分)
3	財務諸表の見方 損益決算書	講義で学んだ手法を使い企業の財務分析をしてみる。(90分)	講義終了時に練習問題の復習。(90分)
4	会社分析のねらいと財務分析の手法	講義で学んだ手法を使い企業の財務分析をしてみる。(90分)	講義終了時に練習問題の復習。(90分)
5	会社の財務安全性 流動比率 当座比率	講義で学んだ手法を使い企業の財務分析をしてみる。(90分)	講義終了時に練習問題の復習。(90分)
6	会社の財務安全性 自己資本比率 固定比率	講義で学んだ手法を使い企業の財務分析をしてみる。(90分)	講義終了時に練習問題の復習。(90分)
7	会社の収益性 資本の収益力	講義で学んだ手法を使い企業の財務分析をしてみる。(90分)	講義終了時に練習問題の復習。(90分)
8	会社の収益性 売上対利益と損益分岐点	講義で学んだ手法を使い企業の財務分析をしてみる。(90分)	講義終了時に練習問題の復習。(90分)
9	会社の活性度 回転率	講義で学んだ手法を使い企業の財務分析をしてみる。(90分)	講義終了時に練習問題の復習。(90分)
10	会社の活性度 設備効率	講義で学んだ手法を使い企業の財務分析をしてみる。(90分)	講義終了時に練習問題の復習。(90分)
11	会社の発展性 成長性	講義で学んだ手法を使い企業の財務分析をしてみる。(90分)	講義終了時に練習問題の復習。(90分)
12	キャッシュフロー	講義で学んだ手法を使い企業の財務分析をしてみる。(90分)	講義終了時に練習問題の復習。(90分)
13	会社の人材	講義で学んだ手法を使い企業の財務分析をしてみる。(90分)	講義終了時に練習問題の復習。(90分)
14	会社の総合評価	講義で学んだ手法を使い企業の財務分析をしてみる。(90分)	講義終了時に練習問題の復習。(90分)
15	まとめ 試験対策、授業改善アンケートの実施	講義で学んだ手法を使い企業の財務分析をしてみる。(90分)	講義終了時に練習問題の復習。(90分)
16	定期試験とフィードバック	定期試験に向けて準備をしておくこと。(90分)	定期試験のフィードバックを受けて、経営分析論を総括する。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	経営分析論 (SP) (科目ナンバリング: MAN413006, MAN523016/2023年度以降, MAN423006)				
授業担当者(所属・職名)	石山 玄幸 (経営学科・准教授)		研究室等所在	1号館2階	
単位数	2 (単位認定責任者: 石山 玄幸)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	経営コンサルタント会社の代表として200社以上の中小企業の経営指導をしてきた経験を生かして、守秘義務に配慮しつつ身近な企業の事例を活用した講義を展開する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照のこと。				

概要

履修目標
本講義は、経営学部における会計科目の仕上げ科目と位置づけ、学生が会社経営の安全性、収益性、成長性など、財務分析の手法について学ぶことを目的としている。分析の結果を踏まえて、会社とはどうあるべきか考えられる力を養成することも本講義のねらいである。

授業の位置づけ
経営学科のDP(1)、(2)、(3)に対応する。

到達目標
本講義修了時の達成目標は以下の通り。貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書の内容が理解できる。対象企業における資産状況、負債状況、自己資本比率を理解できる。貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書を使い会社経営の安全性、収益性、成長性の数値を導き出すことができる。

授業全体の内容と概要
本講義は、会社経営における財務分析の手法を学ぶ。貸借対照表(B/S)、損益計算書(P/L)、キャッシュフロー計算書(C/S)の数値を使い会社の安全性、収益性、成長性などを導き出す。経営分析の過程で数学を使うが、基本的には割り算と掛け算である。計算の際は計算機の使用を認める。

授業の方法
本講義はパワーポイント及び配布資料で進める。1枚のパワーポイントを提示して、一連の解説が終了した後、一定の時間、学生がノートを書く時間を取る。また、本講義では、アクティブラーニングを活用し、一つの公式を解説後、グループワークやディスカッションを行い、学生の理解をより深めることとする。

アクティブラーニングの実施方法						
プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
本講義は、財務会計論の発展科目であることから、「財務会計論」の単位を取得していなければ受講できない。尚、不測の事態の際はオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
教職課程(商業)選択科目

評価方法・基準

評価前提条件												
単位認定に必要となる出席回数は、11回以上。												
評価方法												
<table border="1"> <thead> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>90%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>10%</td> </tr> </tbody> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	90%	0%	0%	0%	0%	10%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
90%	0%	0%	0%	0%	10%							

ルーブリック																													
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>企業会計の必要性について</td> <td>企業における会計の必要性について、業種別の特徴を踏まえて説明できた。</td> <td>企業における会計の必要性について、具体的な事例を挙げて説明できた。</td> <td>企業における会計の必要性について理解していた。</td> <td>企業における会計の必要性を最低限理解していた。</td> <td>企業における会計の必要性を理解していなかった。</td> </tr> <tr> <td>財務諸表の理解</td> <td>3つの財務諸表を使いこなし、企業財務の現状を述べることができた。</td> <td>3つの財務諸表の違いを述べることができ、それぞれの諸表を読んで理解できた。</td> <td>3つの財務諸表の違いを述べることができた。</td> <td>3つの財務諸表を述べることができた。</td> <td>そもそも財務諸表とは何かを理解していなかった。</td> </tr> <tr> <td>経営分析に対応した数学的計算力</td> <td>企業会計の法則に沿ってスムーズに数学的な計算ができた。</td> <td>企業会計の法則に沿って数学的な計算ができた。</td> <td>企業会計の法則に沿って、多少の時間がかかるが計算ができた。</td> <td>企業会計の法則に沿って、最低限の計算ができた。</td> <td>企業会計の法則に沿った数学的な計算ができなかった。</td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	企業会計の必要性について	企業における会計の必要性について、業種別の特徴を踏まえて説明できた。	企業における会計の必要性について、具体的な事例を挙げて説明できた。	企業における会計の必要性について理解していた。	企業における会計の必要性を最低限理解していた。	企業における会計の必要性を理解していなかった。	財務諸表の理解	3つの財務諸表を使いこなし、企業財務の現状を述べることができた。	3つの財務諸表の違いを述べることができ、それぞれの諸表を読んで理解できた。	3つの財務諸表の違いを述べることができた。	3つの財務諸表を述べることができた。	そもそも財務諸表とは何かを理解していなかった。	経営分析に対応した数学的計算力	企業会計の法則に沿ってスムーズに数学的な計算ができた。	企業会計の法則に沿って数学的な計算ができた。	企業会計の法則に沿って、多少の時間がかかるが計算ができた。	企業会計の法則に沿って、最低限の計算ができた。	企業会計の法則に沿った数学的な計算ができなかった。
評価項目		評価基準																											
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
企業会計の必要性について	企業における会計の必要性について、業種別の特徴を踏まえて説明できた。	企業における会計の必要性について、具体的な事例を挙げて説明できた。	企業における会計の必要性について理解していた。	企業における会計の必要性を最低限理解していた。	企業における会計の必要性を理解していなかった。																								
財務諸表の理解	3つの財務諸表を使いこなし、企業財務の現状を述べることができた。	3つの財務諸表の違いを述べることができ、それぞれの諸表を読んで理解できた。	3つの財務諸表の違いを述べることができた。	3つの財務諸表を述べることができた。	そもそも財務諸表とは何かを理解していなかった。																								
経営分析に対応した数学的計算力	企業会計の法則に沿ってスムーズに数学的な計算ができた。	企業会計の法則に沿って数学的な計算ができた。	企業会計の法則に沿って、多少の時間がかかるが計算ができた。	企業会計の法則に沿って、最低限の計算ができた。	企業会計の法則に沿った数学的な計算ができなかった。																								



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	経営分析論（SP） （科目ナンバリング：MAN413006，MAN523016/2023年度以降 MAN423006）				
授業担当者（所属・職名）	石山 玄幸（経営学科・准教授）	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 （単位認定責任者：石山 玄幸）	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	経営コンサルタント会社の代表として200社以上の中小企業の経営指導をしてきた経験を生かして、守秘義務に配慮しつつ身近な企業の事例を活用した講義を展開する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『経営分析入門』	森田松太郎	日本経済新聞出版社	2009年	9784532133658	
2	『第五版中小企業の財務分析経営・原価指標の分析・活用』	宇田川荘二	同友館	2020年	9784496054877	
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス シラバスの説明（講義全体の概要、講義のやり方、評価方法など）、授業改善アンケート結果反映の説明	必ずシラバスを読んでから、初回ガイダンスを受講すること。（90分）	講義終了時に練習問題の復習。（90分）
2	財務諸表の見方 貸借対照表	講義で学んだ手法を使い企業の財務分析をしてみる。（90分）	講義終了時に練習問題の復習。（90分）
3	財務諸表の見方 損益決算書	講義で学んだ手法を使い企業の財務分析をしてみる。（90分）	講義終了時に練習問題の復習。（90分）
4	会社分析のねらいと財務分析の手法	講義で学んだ手法を使い企業の財務分析をしてみる。（90分）	講義終了時に練習問題の復習。（90分）
5	会社の財務安全性 流動比率 当座比率	講義で学んだ手法を使い企業の財務分析をしてみる。（90分）	講義終了時に練習問題の復習。（90分）
6	会社の財務安全性 自己資本比率 固定比率	講義で学んだ手法を使い企業の財務分析をしてみる。（90分）	講義終了時に練習問題の復習。（90分）
7	会社の収益性 資本の収益力	講義で学んだ手法を使い企業の財務分析をしてみる。（90分）	講義終了時に練習問題の復習。（90分）
8	会社の収益性 売上対利益と損益分岐点	講義で学んだ手法を使い企業の財務分析をしてみる。（90分）	講義終了時に練習問題の復習。（90分）
9	会社の活性度 回転率	講義で学んだ手法を使い企業の財務分析をしてみる。（90分）	講義終了時に練習問題の復習。（90分）
10	会社の活性度 設備効率	講義で学んだ手法を使い企業の財務分析をしてみる。（90分）	講義終了時に練習問題の復習。（90分）
11	会社の発展性 成長性	講義で学んだ手法を使い企業の財務分析をしてみる。（90分）	講義終了時に練習問題の復習。（90分）
12	キャッシュフロー	講義で学んだ手法を使い企業の財務分析をしてみる。（90分）	講義終了時に練習問題の復習。（90分）
13	会社の人材	講義で学んだ手法を使い企業の財務分析をしてみる。（90分）	講義終了時に練習問題の復習。（90分）
14	会社の総合評価	講義で学んだ手法を使い企業の財務分析をしてみる。（90分）	講義終了時に練習問題の復習。（90分）
15	まとめ 試験対策、授業改善アンケートの実施	講義で学んだ手法を使い企業の財務分析をしてみる。（90分）	講義終了時に練習問題の復習。（90分）
16	定期試験とフィードバック	定期試験に向けて準備しておくこと。（90分）	定期試験のフィードバックを受けて、経営分析論を総括する。（90分）

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	保健体育科教育法 (科目ナンバリング: DMB543119/2023年度以降DMB443134)				
授業担当者(所属・職名)	高井 雅一(経営学科・特任教授)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者: 高井 雅一)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校における勤務経験を活かして保健体育科教育法に関する諸事項を講義する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等で確認する				

概要

履修目標

保健体育科の意義や内容をはじめ、各領域の内容・計画方法・評価等を学ぶ科目であり、授業設計を身につけ、保健体育科教師としての基本的な学習指導理論を理解できるようにする。

授業の位置づけ

経営学科のDP(2)(4)に対応する。

到達目標

保健体育科の目標・内容をはじめ、体育の指導計画の作成や評価の在り方並びに基礎的な学習指導理論を理解し、子どもの実態に応じた効果的な授業設計をすることができる。

授業全体の内容と概要

・中学校及び高等学校教育の目的・目標を明確にするとともに、保健体育科教育としての独自の役割をわかりやすく理解させる。  
 ・保健体育科の授業を行うための必要な知識と指導技術について、意見交換で自分の意見を述べることができ、グループ学習の中で、多様な指導方法を身につける活動を行う。  
 ・授業全体を通して、情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができるよう、具体的な指導を行う。

授業の方法

・各回のテーマに関してプリント等をを使用して説明を行う。  
 ・各テーマに基づき必要な事項を講義するとともに、主体的・対話的で深い学びを実現するため、テーマに関連する事項に関して思考・考察・意見交換・発表等の一連の活動を行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

・講義で配布するプリント類や課題プリントはファイル等に整理と保管し必要時に参照できるようにすること。  
 ・講義中、スマホや飲食物等はカバン等の中に入れておくこと。但し、指示のある場合は可。  
 ・20分以上の遅刻は欠席とみなし、遅刻3回で欠席1回とみなす。  
 ・不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、大学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(保健体育)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な出席回数は、11回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
40%	20%	20%	0%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
保健体育科教育の目的・目標についての認識・理解できる	保健体育科教育の目的・目標を認識し独自の役割と学修の基本事項、実務的事項を理解できた。(9割)	保健体育科教育の目的・目標を認識し独自の役割と学修の基本事項、実務的事項を理解できた。(8割)	保健体育科教育の目的・目標を認識し独自の役割と学修の基本事項、実務的事項を理解できた。(7割)	保健体育科教育の目的・目標を認識し独自の役割を理解できた。	保健体育科教育の目的・目標を認識し独自の役割を理解できなかった。
保健体育科教育の意義や基本的構造に基づく授業設計ができる	教育の意義・内容・学習過程・指導方法・評価方法など基本的構造について理解し、授業の特質を考慮し、授業設計を身につけた。(9割)	教育の意義・内容・学習過程・指導方法・評価方法など基本的構造について理解し、授業の特質を考慮し、授業設計を身につけた。(8割)	教育の意義・内容・学習過程・指導方法・評価方法など基本的構造について理解し、授業の特質を考慮し、授業設計を身につけた。(7割)	保健体育科教育の意義や基本的構造について考え、授業設計を身につけた。	保健体育科教育の意義や基本的構造について考えて、授業設計ができなかった。
意見交換における主体性・協働性を身につける	授業を行うための必要な知識と指導技術について自分の意見を述べながら意見交換を交わし、協働作業ができた。(9割)	授業を行うための必要な知識と指導技術について自分の意見を述べながら意見交換を交わし、協働作業ができた。(8割)	授業を行うための必要な知識と指導技術について自分の意見を述べながら意見交換を交わし、協働作業ができた。(7割)	授業を行うための必要な知識と指導技術について自分の意見を述べながら意見交換ができた。	授業を行うための必要な知識と指導技術について自分の意見を述べることができなかった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	保健体育科教育法 (科目ナンバリング: DMB543119/2023年度以降DMB443134)				
授業担当者(所属・職名)	高井 雅一(経営学科・特任教授)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者: 高井 雅一)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 学校における勤務経験を活かして保健体育科教育法 に関する諸事項を講義する。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 保健体育編』	文部科学省	東山書房	2018	9784827815603	
2	『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 保健体育編 体育編』	文部科学省	東山書房	2019	9784827815689	
3	『新しい保健体育』	戸田芳雄 他	東京書籍	2022	9784487123711	中学校の教科書
4	『現代高等保健体育』	衛藤 隆 他	大修館	2022	9784469663198	高等学校の教科書
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説』	文部科学省	東山書房	2018		
2	『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説』	文部科学省	東山書房	2019		
3	『体育科教育学入門 三訂版』	岡出美則、友添秀則、岩田靖	大修館書店	2016		
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 保健体育科改定の要点について	海底の要点について簡単に説明できるようにしておく。(90分)	海底の要点を理解する
2	保健体育科の目標と内容について	前時に予告した課題について自分なりの進め方をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べる事ができるよう準備する。(90分)
3	中学「体育分野」、高等学校の科目「体育」の目標と内容について	前時に予告した課題について自分なりの進め方をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べる事ができるよう準備する。(90分)
4	体育教育の今日の課題について	前時に予告した課題について自分なりの進め方をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べる事ができるよう準備する。(90分)
5	指導計画の作成と内容の取扱いの留意点について	前時に予告した課題について自分なりの進め方をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べる事ができるよう準備する。(90分)
6	中学校の「体育分野」の領域と内容について(1)A-Dの領域について	前時に予告した課題について自分なりの進め方をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べる事ができるよう準備する。(90分)
7	中学校の「体育分野」の領域と内容について(2)E-Hの領域について	前時に予告した課題について自分なりの進め方をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べる事ができるよう準備する。(90分)
8	高等学校の科目「体育」の領域と内容について(1)A-Dの領域について	前時に予告した課題について自分なりの進め方をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べる事ができるよう準備する。(90分)
9	高等学校の科目「体育」の領域と内容について(2)E-Hの領域について	前時に予告した課題について自分なりの進め方をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べる事ができるよう準備する。(90分)
10	選択授業・男女共習授業のねらいと進め方について	前時に予告した課題について自分なりの進め方をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べる事ができるよう準備する。(90分)
11	効果的な指導を実践するための情報機器の活用及び教材の選び方について	前時に予告した課題について自分なりの進め方をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べる事ができるよう準備する。(90分)
12	年間指導計画の作成について	前時に予告した課題について自分なりの進め方をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べる事ができるよう準備する。(90分)
13	各種目の単元計画の作成について	前時に予告した課題について自分なりの進め方をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べる事ができるよう準備する。(90分)
14	体育授業の指導上の留意点について	前時に予告した課題について自分なりの進め方をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べる事ができるよう準備する。(90分)
15	体育授業の評価と方法について 授業改善アンケートの実施	前時に予告した課題について自分なりの進め方をまとめておく。(90分)	講義の内容を総復習する。(90分)
16	定期試験(60分)、終了後、試験の解説(30分)	全講義内容の復習(90分)	本時の学修内容をまとめて提出する。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・4年（留学生対象）		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	上級日本語（科目ナンバリング：JLN054037）				
授業担当者（所属・職名）	竜野 征一郎（経営学科・非常勤講師）	研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2（単位認定責任者：竜野 征一郎）	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。				

概要

<b>履修目標</b>
教養力と語学力を幅広く身に付け、日本における実社会で活躍するための高度な日本語スキルを修得する。それぞれの場面に合った日本語の表現方法を学び、円滑な会話やコミュニケーションに必要な能力を伸ばす。
<b>授業の位置づけ</b>
経営学科のDP(2)に対応する。 社会福祉学科のDP(2)に対応する。 デザイン学科のDP(2)に対応する。 建築学科のDP(2)に対応する。
<b>到達目標</b>
様々な文章を読み、ディスカッションや発表などの活動を通して、総合的な日本語運用能力を身に付ける。

<b>到達目標</b>
様々な文章を読み、ディスカッションや発表などの活動を通して、総合的な日本語運用能力を身に付ける。

<b>授業全体の内容と概要</b>
様々な文章を読み、内容および日本語の表現について理解を深めるとともに、ディスカッションや発表などの活動を行うために必要な表現・構成についても学習を行う。日本語能力試験N1レベル相当以上の内容を取り扱う。

<b>授業の方法</b>
授業では主にプリントなどを用いながら、ディスカッションや発表などを学習活動に取り入れて講義を行う。指定された課題を作成してもらうほか、レポート作成など、自主的に行い、提出したものがあれば評価の対象とする。また、受講者数に応じてグループワークおよびグループ発表を行う場合がある。

<b>アクティブラーニングの実施方法</b>					
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク
	模範授業		ロールプレイ		調査学習
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業
					PBL
					反転授業
					その他（授業の方法参照）

<b>履修上の注意事項</b>
受講対象者は留学生とする。受講者の発表や意見交換に向けて、資料の用意や課題作文など積極的に取り組むこと。また、事前に配布される資料には必ず目を通しておくこと。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

<b>修学サポート（合理的配慮）</b>
事前相談を受け、大学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
<b>資格指定科目</b>

評価方法・基準

<b>評価前提条件</b>												
単位認定に必要な最低出席回数は、1回以上。出席状況、課題提出、発表能力、試験、授業への参加態度など総合的に判断する。												
<b>評価方法</b>												
<table border="1"> <thead> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0%</td> <td>30%</td> <td>50%</td> <td>0%</td> <td>15%</td> <td>5%</td> </tr> </tbody> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	30%	50%	0%	15%	5%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	30%	50%	0%	15%	5%							

<b>ルーブリック</b>					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
文章理解	テキストに関する一般的な背景知識および具体的な連絡情報を使用しながら、筆者の主張についてより複雑な推論を行うことができた。	筆者の主張について、一般的な背景知識も考慮しながら基礎的な推論を行うことができた。	テキストの内容を理解し、その構造や特徴、筆者の主張についても理解できた。	テキストの内容を理解し、別の言葉で説明したり、要約することができた。	テキストの内容について、理解できなかった。
日本語表現	クラス内で用いられた日本語表現について、意味や使用場面について理解し、発表や課題作文内で実際に用いることができた。	クラス内で用いられた日本語表現について、意味や使用場面について理解し、適切に使用することができた。	クラス内で用いられた日本語表現について、それぞれの表現の意味を理解し、各日本語表現の使用場面が理解できた。	クラス内で用いられた日本語表現について、それぞれの表現の意味を理解できた。	クラス内で用いられた日本語表現について、理解できなかった。
発表	聞き手に配慮された多様な資料を用いた、主張内容が明確な発表を行うことができた。適切な引用により、内容に具体性があり、説得力があった。	聞き手に配慮された多様な資料を用いた、主張内容が明確な発表を行うことができた。また、主張内容が資料と一貫性のあるものだった。	適切な資料を用いながら、主張内容が明確な発表を行うことができた。	主張内容について、関連性のある資料を用いながら、理解可能な発表を行うことができた。	話し方や発表資料が適切でなく、主張が理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・4年（留学生対象）		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	上級日本語（科目ナンバリング：JLN054037）				
授業担当者（所属・職名）	竜野 征一郎（経営学科・非常勤講師）		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室	
単位数	2	（単位認定責任者：竜野 征一郎）	CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『学生の能力と興味に応じて教材を指定・作成する。』					
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『参考文献・文献類は授業中にプリント等を用い随時紹介する。』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション（シラバスの説明および今期の授業目的と進め方について解説・プレースメントテスト・実力確認を含む）	シラバスを熟読し、本講義について理解しておくこと（90分）	講義内容の理解を深め、指定された課題に取り組むこと（90分）
2	上級表現練習（1）トピック 1回目	教科書を読んでテーマの課題を実践練習すること（90分）	講義内容の理解を深め、指定された課題に取り組むこと（90分）
3	上級表現練習（2）トピック 2回目	教科書を読んでテーマの課題を実践練習すること（90分）	講義内容の理解を深め、指定された課題に取り組むこと（90分）
4	上級表現練習（3）トピック 3回目	教科書を読んでテーマの課題を実践練習すること（90分）	講義内容の理解を深め、指定された課題に取り組むこと（90分）
5	上級表現練習（4）トピック 4回目	教科書を読んでテーマの課題を実践練習すること（90分）	講義内容の理解を深め、指定された課題に取り組むこと（90分）
6	上級表現練習（5）トピック 1回目	教科書を読んでテーマの課題を実践練習すること（90分）	講義内容の理解を深め、指定された課題に取り組むこと（90分）
7	上級表現練習（6）トピック 2回目	教科書を読んでテーマの課題を実践練習すること（90分）	講義内容の理解を深め、指定された課題に取り組むこと（90分）
8	上級表現練習（7）トピック 3回目	教科書を読んでテーマの課題を実践練習すること（90分）	講義内容の理解を深め、指定された課題に取り組むこと（90分）
9	上級表現練習（8）トピック 4回目	教科書を読んでテーマの課題を実践練習すること（90分）	講義内容の理解を深め、指定された課題に取り組むこと（90分）
10	上級表現練習（9）トピック 1回目	教科書を読んでテーマの課題を実践練習すること（90分）	講義内容の理解を深め、指定された課題に取り組むこと（90分）
11	上級表現練習（10）トピック 2回目	教科書を読んでテーマの課題を実践練習すること（90分）	講義内容の理解を深め、指定された課題に取り組むこと（90分）
12	上級表現練習（11）トピック 3回目	教科書を読んでテーマの課題を実践練習すること（90分）	講義内容の理解を深め、指定された課題に取り組むこと（90分）
13	上級表現練習（12）トピック 4回目	教科書を読んでテーマの課題を実践練習すること（90分）	講義内容の理解を深め、指定された課題に取り組むこと（90分）
14	上級表現練習（13）発表と質疑応答	教科書を読んでテーマの課題を実践練習すること（90分）	講義内容の理解を深め、指定された課題に取り組むこと（90分）
15	上級表現練習（14）まとめ	教科書を読んでテーマの課題を実践練習すること（90分）	講義内容の理解を深め、指定された課題に取り組むこと（90分）
16	解説およびフィードバック 授業改善アンケートの実施	講義全体の内容についてふりかえりを行うこと（90分）	解説およびフィードバックを受け、講義に関してより理解を深めること（90分）

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	発達障害等教育総論 (科目ナンバリング：SNE122114)				
授業担当者(所属・職名)	堀川 厚志(社会福祉学科・特任教授)		研究室等所在	2号館8階	
単位数	2 (単位認定責任者：堀川 厚志)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校教育現場及び教育行政機関に勤務経験のある教員が、特別支援教育に必要な今日的課題等について指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標	限局性学習症、注意欠如多動症、自閉スペクトラム症等の心理、病理、認知特性や行動特性等の基礎的な知識を理解するとともに、その特性等に応じた教育内容、方法等の対応に必要な基本的な知識、配慮事項等を理解する。												
授業の位置づけ	社会福祉学科のDP(2)と(5)に対応する。												
到達目標	限局性学習症、注意欠如多動症、自閉スペクトラム症等の心理、病理、認知特性や行動特性等の基礎的な内容がわかり、指導上の基本的な配慮事項等がわかる。												
授業全体の内容と概要	限局性学習症、注意欠如多動症、自閉スペクトラム症等に関する定義、原因、医学的診断、状態の把握(アセスメント、心理検査)、認知特性、行動特性等について、教育的な望ましい対応の視点から説明する「SDGs4・質の高い教育をみんなに」の関連科目。												
授業の方法	プレゼン資料等の提示による講義形式を主とし、内容によりグループワークやペアワークを実施する。Microsoft Forms等を活用して、前時の振り返りと本時の内容確認の小テストを実施して、学生全体の理解度を把握し、指導する。												
アクティブラーニングの実施方法	<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模範授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL										
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業										
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)										
履修上の注意事項	授業内容に関するプレゼン資料の毎時間の配付や、レポート課題の出題、小テストを実施するので、欠席をしないようにすること。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。												

修学サポート(合理的配慮)	事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目	教職課程(特別支援)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件	単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上とする。												
評価方法	<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>60%</td> <td>20%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>10%</td> <td>10%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	60%	20%	0%	0%	10%	10%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他								
60%	20%	0%	0%	10%	10%								

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
限局性学習症、注意欠如多動症、自閉スペクトラム症等の心理や生理、病理、行動特性等の基本的な内容の理解	限局性学習症、注意欠如多動症、自閉スペクトラム症等の心理や生理、病理、行動特性等を十分に理解し、さらに深化させたり、発展的な学習ができた。	限局性学習症、注意欠如多動症、自閉スペクトラム症等の心理や生理、病理、行動特性等を十分に理解できた。	限局性学習症、注意欠如多動症、自閉スペクトラム症等の心理や生理、病理、行動特性等を一定程度、理解できた。	限局性学習症、注意欠如多動症、自閉スペクトラム症等について部分的に理解できた。	限局性学習症、注意欠如多動症、自閉スペクトラム症等の心理や生理、病理、行動特性等を理解できなかった。
基本的内容及び指導上の基礎的な配慮事項等を踏まえた教育的対応に力、判断力、表現力の向上	指導上の基礎的な配慮事項等を踏まえた教育的対応について、的確かつ発展的に整理し、思考力、判断力、表現力を十分に高めることができた。	指導上の基礎的な配慮事項等を踏まえた教育的対応について整理し、思考力、判断力、表現力を十分に高めることができた。	指導上の基礎的な配慮事項等を踏まえた教育的対応について整理し、思考力、判断力、表現力を高めることができた。	指導上の基礎的な配慮事項等を踏まえた教育的対応について整理し、部分的に思考力、判断力、表現力を高めることができた。	指導上の基礎的な配慮事項等を踏まえた教育的対応について整理し、思考力、判断力、表現力を高めることができなかった。
授業への参加意欲や学修に向かう姿勢・態度	授業には意欲的に参加し、自ら発言するなど、常に積極的に取り組むことができた。	授業には意欲的に参加し、積極的に取り組むことができた。	授業には意欲的に参加し、部分的に積極的に取り組むことができた。	授業に参加し、ときどき積極的に取り組むことができた。	授業に参加し、積極的に取り組むことができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	発達障害等教育総論 (科目ナンバリング: SNE122114)				
授業担当者(所属・職名)	堀川 厚志(社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者: 堀川 厚志)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校教育現場及び教育行政機関に勤務経験のある教員が、特別支援教育に必要な今日的課題等について指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『特別支援教育の基礎・基本2020』	独立行政法人国立特別支援教育総合研究所	ジヤース教育新社	2020	978-4-86371-548-6	
2	『新編発達障害事典』	原 仁	合同出版	2019	978-4-7726-1382-8	
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション(シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明、発達障害等の概要について)	シラバスを読む(90分)	内容を振り返る(90分)
2	発達障害等の理解について	状態像を調べる(90分)	重要事項を整理する(90分)
3	発達障害等の定義と診断基準について	定義と診断基準を調べる(90分)	重要事項を整理する(90分)
4	発達障害等の行動の特徴と原因等の変遷について	行動の特徴と原因論を調べる(90分)	重要事項を整理する(90分)
5	自閉スペクトラム症等の状態像とその理解について	高機能自閉症等について調べる(90分)	重要事項を整理する(90分)
6	限局性学習症の状態像とその理解について	学習障害について調べる(90分)	重要事項を整理する(90分)
7	注意欠如多動症の状態像とその理解について	注意欠如多動性障害について調べる(90分)	重要事項を整理する(90分)
8	知的障害と発達障害等について	知的発達の違いについて調べる(90分)	重要事項を整理する(90分)
9	知的障害児への学習支援について	知的障害児について調べる(90分)	重要事項を整理する(90分)
10	発達障害児の学びと状態状態の変化について	二次的な障害について調べる(90分)	重要事項を整理する(90分)
11	限局性学習症の子への教育的な対応について	望ましい対応について調べる(90分)	重要事項を整理する(90分)
12	注意欠如多動症の子への教育的な対応について	望ましい対応について調べる(90分)	重要事項を整理する(90分)
13	自閉スペクトラム症(高機能自閉症、アスペルガー症候群症候群)等の子への教育的な対応について	望ましい対応について調べる(90分)	重要事項を整理する(90分)
14	自閉スペクトラム症(アスペルガー症候群)の子への教育的な対応について	望ましい対応について調べる(90分)	重要事項を整理する(90分)
15	アセスメントと実態把握等について 授業改善アンケートの実施	アセスメント等について調べる(90分)	重要事項を整理する(90分)
16	定期試験(60分間の筆記テスト、終了後15分間の解答解説の実施)	全内容を整理する(90分)	全内容を振り返る(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・4年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	社会思想史 (M) (科目ナンバリング: SOC122121)				
授業担当者(所属・職名)	後藤 啓倫 (社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	1号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者: 後藤 啓倫)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

ヨーロッパ社会に登場した思想の特徴と歴史的展開に関する基本的な知識を理解する。

授業の位置づけ

経営学科のDP(2)に対応する。

到達目標

ヨーロッパの社会思想に関する概念を理解し、説明することができる。  
 ヨーロッパ社会思想の歴史的展開を説明することができる。  
 社会思想の概念を用いて現代社会を考察することができる。

授業全体の内容と概要

社会とはどのようなもので、どうあるべきなのか、私たちは人生のどこかでこの問いに直面するだろう。この授業では、これからの社会を考えていくための思考の基礎体力を養うことを目標に、主にヨーロッパの社会思想家たちの考えを歴史的に学ばせ、思想家たちがどのような歴史的な文脈のなかで、なぜ社会のことを考えたのかを振り返ることは、自分自身のあり方を振り返るきっかけとなるはずである。  
 「SDG1.貧困をなくそう」、「SDG10.人や国の不平等をなくそう」、「SDG16.平和と公正をすべての人に」の関連授業

授業の方法

授業は講義形式で行う。書き込み式のレジュメを配布して補足の説明を行う。  
 書き込む内容は板書またはパワーポイントで示す。  
 教科書を使用しないので講義をしっかりと聴いてメモをとること。  
 毎回の感想・質問等を記入するリアクションペーパーを配布し、次回授業時にフィードバックを行う。  
 Teamsを活用し授業資料の配布、質問の受付・回答を行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

授業中の私語、スマホの使用は厳禁。受講マナーを守ること。  
 正当な理由のない20分以上の遅刻は欠席とみなす。遅刻3回で欠席1回とみなす。  
 不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(社会・地歴公民)の選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は10回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70%	0%	0%	30%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ヨーロッパの社会思想に関する概念を理解し、説明することができる。	社会思想に関する基礎的な概念を正確に理解し、発展的に説明することができた。	社会思想に関する基礎的な概念を正確に理解し、説明することができた。	社会思想に関する基礎的な概念を理解し、説明することができた。	社会思想に関する基礎的な概念を部分的に理解し、説明することができた。	社会思想に関する基礎的な概念を理解し、説明することができなかった。
ヨーロッパ社会思想の歴史的展開を説明することができる。	ヨーロッパ社会思想の歴史的展開を正確に理解し、発展的に説明することができた。	ヨーロッパ社会思想の歴史的展開を正確に理解し、説明することができた。	ヨーロッパ社会思想の歴史的展開を理解し、説明することができた。	ヨーロッパ社会思想の歴史的展開を部分的に理解し、説明することができた。	ヨーロッパ社会思想の歴史的展開を理解し、説明することができなかった。
社会思想の概念を用いて現代社会を考察することができる。	社会思想の概念を用いて、現代社会に対する自分なりの考えを十分に説明できた。	社会思想の概念を用いて、現代社会に対する自分なりの考えを説明できた。	現代社会に対する自分なりの考えを説明できた。	現代社会に対する自分なりの考えを部分的に説明できた。	現代社会に対する自分なりの考えを説明できなかった。



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・4年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	社会思想史 (M) (科目ナンバリング: SOC122121)				
授業担当者 (所属・職名)	後藤 啓倫 (社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	1号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者: 後藤 啓倫)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						なし。
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						適宜紹介する。
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読んでおくこと (90分)	配布プリントの整理・再読 (90分)
2	社会思想史とは何か	授業で示したキーワードを調べる (90分)	配布プリントの整理・再読 (90分)
3	民主主義とは何か	授業で示したキーワードを調べる (90分)	配布プリントの整理・再読 (90分)
4	ソクラテス・プラトン	授業で示したキーワードを調べる (90分)	配布プリントの整理・再読 (90分)
5	アリストテレス・ヘレニズム	授業で示したキーワードを調べる (90分)	配布プリントの整理・再読 (90分)
6	ユダヤ教・キリスト	授業で示したキーワードを調べる (90分)	配布プリントの整理・再読 (90分)
7	キリスト教の発展	授業で示したキーワードを調べる (90分)	配布プリントの整理・再読 (90分)
8	中世ヨーロッパの社会思想	授業で示したキーワードを調べる (90分)	配布プリントの整理・再読 (90分)
9	ルネサンスと宗教改革	授業で示したキーワードを調べる (90分)	配布プリントの整理・再読 (90分)
10	中間テスト	中間テスト範囲のプリントの熟読 (90分)	中間テストの復習 (90分)
11	ベーコン・デカルト	授業で示したキーワードを調べる (90分)	配布プリントの整理・再読 (90分)
12	カント	授業で示したキーワードを調べる (90分)	配布プリントの整理・再読 (90分)
13	ホブズ・ロック・ルソー	授業で示したキーワードを調べる (90分)	配布プリントの整理・再読 (90分)
14	アダム・スミス・マルクス	授業で示したキーワードを調べる (90分)	配布プリントの整理・再読 (90分)
15	授業のまとめ 授業改善アンケートの実施	授業で示したキーワードを調べる (90分)	配布プリントの整理・再読 (90分)
16	定期試験 (試験60分+解説30分)	試験の準備 (90分)	試験のふり返り (90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	社会思想史 (S) (科目ナンバリング: SOC122121)				
授業担当者(所属・職名)	後藤 啓倫 (社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	1号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者: 後藤 啓倫)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

ヨーロッパ社会に登場した思想の特徴と歴史的展開に関する基本的な知識を理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP(2)(5)に対応する。

到達目標

ヨーロッパの社会思想に関する概念を理解し、説明することができる。  
 ヨーロッパ社会思想の歴史的展開を説明することができる。  
 社会思想の概念を用いて現代社会を考察することができる。

授業全体の内容と概要

社会とはどのようなもので、どうあるべきなのか、私たちは人生のどこかでこの問いに直面するだろう。この授業では、これからの社会を考えていくための思考の基礎体力を養うことを目標に、主にヨーロッパの社会思想家たちの考えを歴史的に学ばせ、思想家たちがどのような歴史的文脈のなかで、なぜ社会のことを考えたのかを振り返ることは、自分自身のあり方を振り返るきっかけとなるはずである。  
 『SDGs1.貧困をなくそう』、『SDGs10.人や国の不平等をなくそう』、『SDGs16.平和と公正をすべての人に』の関連授業

授業の方法

授業は講義形式で行う。書き込み式のレジュメを配布して補足の説明を行う。  
 書き込み内容は板書またはパワーポイントで示す。  
 教科書を使用しないので講義をしっかりと聴いてメモをとること。  
 毎回の感想・質問等を記入するリアクションペーパーを配布し、次回授業時にフィードバックを行う。  
 Teamsを活用し授業資料の配布、質問の受付・回答を行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

授業中の私語、スマホの使用は厳禁。受講マナーを守ること。  
 正当な理由のない20分以上の遅刻は欠席とみなす。遅刻3回で欠席1回とみなす。  
 不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(社会・地歴公民)の選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は10回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70%	0%	0%	30%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ヨーロッパの社会思想に関する概念を理解し、説明することができる。	社会思想に関する基礎的な概念を正確に理解し、発展的に説明することができた。	社会思想に関する基礎的な概念を正確に理解し、説明することができた。	社会思想に関する基礎的な概念を理解し、説明することができた。	社会思想に関する基礎的な概念を部分的に理解し、説明することができた。	社会思想に関する基礎的な概念を理解し、説明することができなかった。
ヨーロッパ社会思想の歴史的展開を説明することができる。	ヨーロッパ社会思想の歴史的展開を正確に理解し、発展的に説明することができた。	ヨーロッパ社会思想の歴史的展開を正確に理解し、説明することができた。	ヨーロッパ社会思想の歴史的展開を理解し、説明することができた。	ヨーロッパ社会思想の歴史的展開を部分的に理解し、説明することができた。	ヨーロッパ社会思想の歴史的展開を理解し、説明することができなかった。
社会思想の概念を用いて現代社会を考察することができる。	社会思想の概念を用いて、現代社会に対する自分なりの考えを十分に説明できた。	社会思想の概念を用いて、現代社会に対する自分なりの考えを説明できた。	現代社会に対する自分なりの考えを説明できた。	現代社会に対する自分なりの考えを部分的に説明できた。	現代社会に対する自分なりの考えを説明できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	社会思想史 (S) (科目ナンバリング: SOC122121)				
授業担当者(所属・職名)	後藤 啓倫 (社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	1号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者: 後藤 啓倫)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						なし。
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						適宜紹介する。
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読んでおくこと (90分)	配布プリントの整理・再読 (90分)
2	社会思想史とは何か	授業で示したキーワードを調べる (90分)	配布プリントの整理・再読 (90分)
3	民主主義とは何か	授業で示したキーワードを調べる (90分)	配布プリントの整理・再読 (90分)
4	ソクラテス・プラトン	授業で示したキーワードを調べる (90分)	配布プリントの整理・再読 (90分)
5	アリストテレス・ヘレニズム	授業で示したキーワードを調べる (90分)	配布プリントの整理・再読 (90分)
6	ユダヤ教・キリスト	授業で示したキーワードを調べる (90分)	配布プリントの整理・再読 (90分)
7	キリスト教の発展	授業で示したキーワードを調べる (90分)	配布プリントの整理・再読 (90分)
8	中世ヨーロッパの社会思想	授業で示したキーワードを調べる (90分)	配布プリントの整理・再読 (90分)
9	ルネサンスと宗教改革	授業で示したキーワードを調べる (90分)	配布プリントの整理・再読 (90分)
10	中間テスト	中間テスト範囲のプリントの熟読 (90分)	中間テストの復習 (90分)
11	ベーコン・デカルト	授業で示したキーワードを調べる (90分)	配布プリントの整理・再読 (90分)
12	カント	授業で示したキーワードを調べる (90分)	配布プリントの整理・再読 (90分)
13	ホブズ・ロック・ルソー	授業で示したキーワードを調べる (90分)	配布プリントの整理・再読 (90分)
14	アダム・スミス・マルクス	授業で示したキーワードを調べる (90分)	配布プリントの整理・再読 (90分)
15	授業のまとめ 授業改善アンケートの実施	授業で示したキーワードを調べる (90分)	配布プリントの整理・再読 (90分)
16	定期試験 (試験60分+解説30分)	試験の準備 (90分)	試験のふり返り (90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	デザイン概論 (A) (科目ナンバリング: DES322053)				
授業担当者 (所属・職名)	赤木 良子 (建築学科・准教授)	研究室等所在	未定		
単位数	2 (単位認定責任者: 赤木 良子)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	建築意匠設計経験。インテリアデザイン経験。一級建築士。実務経験と学術的な両方の観点から、テーマを取り扱う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示板等を参照。Teams等により、事前連絡。				

概要

<p><b>履修目標</b></p> <p>現代におけるデザインには様々な分野があり、多岐に渡る。そして、デザインの現代における現象は、ここ100年ほどの短い「デザイン史」の結果でもあるため、デザイン史を軸として今起きているデザイン業界での作家性、手法、思想などについて幅広く学び、知性としてのデザイン力の基礎的な部分について身につける。</p>												
<p><b>授業の位置づけ</b></p> <p>建築学科のDP (1) (2) (5) に対応する。</p>												
<p><b>到達目標</b></p> <p>授業で取り上げるデザインに関する大まかな事項について理解している。 分からないことについて調べることができる。 調べたこと、見聞したことに対し、自分の意見を表現し、深めることができる。</p>												
<p><b>授業全体の内容と概要</b></p> <p>デザインの歴史は浅く、一般的には、この100年程度を指している。ゆえに、現代生しているデザインの多くは、そのまま現代におけるデザインの根幹となっている現象である。本講義ではデザイン史を時系列になぞりながら、関連する事項についてその都度、論じていく。</p>												
<p><b>授業の方法</b></p> <p>本講義では、テキストに沿ってデザイン史を学びつつ、関連する事柄について講義を行う。 各講義の節目に、小テストを行う。 小テストをまとめた形で最終的に試験又はレポート（もしくは試験・レポート）を行い評価する。 内容に応じて、調査し発表する機会も設ける場合がある。</p>												
<p><b>アクティブラーニングの実施方法</b></p> <table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他（授業の方法参照）</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他（授業の方法参照）
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL									
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業									
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他（授業の方法参照）									
<p><b>履修上の注意事項</b></p> <p>各自ノート・筆記具を持参すること。 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。</p>												

<p><b>修学サポート（合理的配慮）</b></p> <p>事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。</p>
<p><b>資格指定科目</b></p>

評価方法・基準

<p><b>評価前提条件</b></p> <p>1 2 回以上の出席と事前学修を含む全部の課題（主にレポート）提出を必須とする。 1 0 分以上の遅刻は、5 回で一回欠席とみなす。</p>												
<p><b>評価方法</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0 %</td> <td>8 0 %</td> <td>0 %</td> <td>0 %</td> <td>2 0 %</td> <td>0 %</td> </tr> </tbody> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0 %	8 0 %	0 %	0 %	2 0 %	0 %
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0 %	8 0 %	0 %	0 %	2 0 %	0 %							

<p><b>ルーブリック</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>授業で取り上げるデザインに関する大まかな事項について理解している。</td> <td>十分に理解できていた。</td> <td>概ね理解できていた。</td> <td>不十分ではあるが理解できていた。</td> <td>最低限の理解しかできていなかった。</td> <td>全く理解できていなかった。</td> </tr> <tr> <td>分からないことについて調べることができる。</td> <td>十分に深め、出来ていた。</td> <td>概ね出来ていた。</td> <td>不十分ではあるが、できていた。</td> <td>最低限は出来ていた。</td> <td>全くできていなかった。</td> </tr> <tr> <td>調べたこと、見聞したことに対し、自分の意見を表現し、深めることができる。</td> <td>十分に知見を深めていた。</td> <td>概ね知見を深めていた。</td> <td>不十分ではあるが、知見を深めていた。</td> <td>最低限にとどまっていた。</td> <td>全く深めていなかった。</td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	授業で取り上げるデザインに関する大まかな事項について理解している。	十分に理解できていた。	概ね理解できていた。	不十分ではあるが理解できていた。	最低限の理解しかできていなかった。	全く理解できていなかった。	分からないことについて調べることができる。	十分に深め、出来ていた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが、できていた。	最低限は出来ていた。	全くできていなかった。	調べたこと、見聞したことに対し、自分の意見を表現し、深めることができる。	十分に知見を深めていた。	概ね知見を深めていた。	不十分ではあるが、知見を深めていた。	最低限にとどまっていた。	全く深めていなかった。
評価項目		評価基準																											
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
授業で取り上げるデザインに関する大まかな事項について理解している。	十分に理解できていた。	概ね理解できていた。	不十分ではあるが理解できていた。	最低限の理解しかできていなかった。	全く理解できていなかった。																								
分からないことについて調べることができる。	十分に深め、出来ていた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが、できていた。	最低限は出来ていた。	全くできていなかった。																								
調べたこと、見聞したことに対し、自分の意見を表現し、深めることができる。	十分に知見を深めていた。	概ね知見を深めていた。	不十分ではあるが、知見を深めていた。	最低限にとどまっていた。	全く深めていなかった。																								

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	デザイン概論(A) (科目ナンバリング: DES322053)				
授業担当者(所属・職名)	赤木 良子 (建築学科・准教授)	研究室等所在	未定		
単位数	2 (単位認定責任者: 赤木 良子)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	建築意匠設計経験。インテリアデザイン経験。一級建築士。実務経験と学術的な両方の観点から、テーマを取り扱う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『カラー版 図説 デザインの歴史』	暮沢剛巳他	学芸出版社	2022	9784761528348	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『生きのびるためのデザイン』	ヴィクター・ババネック	晶文社	1974		
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明 近代デザインの潮流	シラバスを読んでおくこと(90分)	課題レポート(90分)
2	アーツ・アンド・クラフツ(モリス) 小テスト	課題レポート(90分)	課題レポート(90分)
3	優美な曲線のデザイン	課題レポート(90分)	課題レポート(90分)
4	ユーゲントシュティール・分離派 小テスト	課題レポート(90分)	課題レポート(90分)
5	ドイツ工作連盟	課題レポート(90分)	課題レポート(90分)
6	アール・デコ 小テスト	課題レポート(90分)	課題レポート(90分)
7	アメリカにおける潮流	課題レポート(90分)	課題レポート(90分)
8	パウハウスとその理念 小テスト	課題レポート(90分)	課題レポート(90分)
9	オランダにおける潮流	課題レポート(90分)	課題レポート(90分)
10	20世紀の巨匠として 小テスト	課題レポート(90分)	課題レポート(90分)
11	ファシズム・ナチズム・全体主義	課題レポート(90分)	課題レポート(90分)
12	日本の工業デザイン 小テスト	課題レポート(90分)	課題レポート(90分)
13	ミッドセンチュリー・デザイン	課題レポート(90分)	課題レポート(90分)
14	北欧デザイン 小テスト	課題レポート(90分)	課題レポート(90分)
15	まとめ	課題レポート(90分)	課題レポート(90分)
16	試験・授業改善アンケートの実施	課題レポート(90分)	振り返り(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	鉄筋コンクリート構造 (科目ナンバリング: BSM313015)				
授業担当者(所属・職名)	長森 正 (建築学科・教授)	研究室等所在	アトリエ棟 1階		
単位数	2 (単位認定責任者: 長森 正)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	1級土木施工管理技士・測量士・コンクリート技士として建設会社に勤務。実務経験をもとに講義をします。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

<p><b>履修目標</b></p> <p>鉄筋コンクリート構造は鉄とコンクリートからなる一種の複合構造物である。鉄筋コンクリート構造の仕組みとそれを構成する部材断面の設計方法を修得する。力学や材料の専門知識を応用して部材断面の応力と変形などの性質を理解し、断面設計方法を学習する。</p>																					
<p><b>授業の位置づけ</b></p> <p>建築学科のDP(1)、(2)に対応する。</p>																					
<p><b>到達目標</b></p> <p>鋼材とコンクリート材料をどのように活かしているかを把握した上で、鉄筋コンクリート構造の構造計画、許容応力度設計法などの基本的な設計原理を修得する。鉄筋コンクリート構造の仕組み・名称・規準などが理解できる。軸力や曲げを受ける部材の性状を理解し、各部材断面の設計ができる。</p>																					
<p><b>授業全体の内容及び概要</b></p> <p>鉄筋コンクリート構造の概要・構造形式・規準などを学び、許容応力度設計法、梁・柱・スラブなどの各部材の断面設計を中心に講義・演習を行う。</p>																					
<p><b>授業の方法</b></p> <p>授業は教科書を中心にパワーポイント及び配布資料で講義形式で行う。また構造設計問題を参考にして演習課題を実施して理解を深める。フィードバックとして課題の解説を行う。</p>																					
<p><b>アクティブラーニングの実施方法</b></p> <table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模範授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL															
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業															
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)															
<p><b>履修上の注意事項</b></p> <p>講義内容を要領よくまとめ、ノート整理を欠かさないこと。講義には設計演習等を頻りに実施するので、必ず電卓を持参すること。不足の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。</p>																					

<p><b>修学サポート(合理的配慮)</b></p> <p>事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。</p>
<p><b>資格指定科目</b></p> <p>教職課程(工業)選択科目, 建築士試験受験資格課程必修科目</p>

評価方法・基準

<p><b>評価前提条件</b></p> <p>単位認定に必要な最低出席回数は11回以上。</p>												
<p><b>評価方法</b></p> <table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>50%</td> <td>0%</td> <td>30%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>20%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	50%	0%	30%	0%	0%	20%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
50%	0%	30%	0%	0%	20%							

<b>ルーブリック</b>					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
鉄筋コンクリート構造の概要	RC構造の特徴・構造形式・規準等について明確に説明でき、他の人に正確に説明できた。	RC構造の特徴・構造形式・規準等について明確に説明できた。	RC構造の特徴について説明でき、他の人に説明できた。	RC構造の特徴について説明できた。	RC構造の特徴について説明できなかった。
鉄筋コンクリート構造の構成と力学	鉄筋とコンクリートの機械的性質および許容応力度設計法について明確に説明でき、他の人に説明できた。	鉄筋とコンクリートの機械的性質および許容応力度設計法について明確に説明できた。	許容応力度設計法について説明でき、他の人に説明できた。	許容応力度設計法について説明できた。	許容応力度設計法について説明できなかった。
鉄筋コンクリート部材の設計演習	RC構造各部材(梁・柱・スラブ)の演習問題を正確に解くことができ、他の人に説明できた。	RC構造各部材(梁・柱・スラブ)の演習問題を正確に解くことができた。	RC構造各部材(梁・柱・スラブ)の基本的な演習問題を解くことができ、他の人に説明できた。	RC構造各部材(梁・柱・スラブ)の基本的な演習問題を解くことができた。	RC構造各部材(梁・柱・スラブ)の基本的な演習問題を解くことができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	鉄筋コンクリート構造 (科目ナンバリング: BSM313015)				
授業担当者(所属・職名)	長森 正(建築学科・教授)	研究室等所在	アトリエ棟1階		
単位数	2 (単位認定責任者: 長森 正)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	1級土木施工管理技士・測量士・コンクリート技士として建設会社に勤務。実務経験をもとに講義をします。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『図説やさしい構造設計』	浅野 清昭	学芸出版社			
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『RC規程による鉄筋コンクリートの構造設計』	佐藤立美・荒木秀夫・森村毅	鹿島出版会			
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	授業改善アンケートの結果反映の説明 シラバスの説明 鉄筋コンクリート構造の概論	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する(90分)	授業内容・演習問題を理解し復習する(90分)
2	鉄筋コンクリート構造の歴史・特徴	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容・演習問題を理解し復習する(90分)
3	構造形式、規準等	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容・演習問題を理解し復習する(90分)
4	鉄筋・コンクリートの機械的性質	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容・演習問題を理解し復習する(90分)
5	コンクリートの調合設計	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容・演習問題を理解し復習する(90分)
6	許容応力度設計法(1)	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容・演習問題を理解し復習する(90分)
7	許容応力度設計法(2)	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容・演習問題を理解し復習する(90分)
8	RC部材の複合材料力学	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容・演習問題を理解し復習する(90分)
9	梁の設計(1)	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容・演習問題を理解し復習する(90分)
10	梁の設計(2)	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容・演習問題を理解し復習する(90分)
11	柱の設計(1)	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容・演習問題を理解し復習する(90分)
12	柱の設計(2)	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容・演習問題を理解し復習する(90分)
13	床(スラブ)の設計(1)	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容・演習問題を理解し復習する(90分)
14	床(スラブ)の設計(2)	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容・演習問題を理解し復習する(90分)
15	構造計画・地震と建物の構造(1)	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容・演習問題を理解し復習する(90分)
16	定期試験 60分の試験終了後、残りの30分で解説する。	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容・演習問題を理解し復習する(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	経営情報論 (科目ナンバリング: MAN412004, MAN522015/2023年度以降 MAN422004)				
授業担当者(所属・職名)	薦田 勇智(経営学科・専任講師)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 薦田 勇智)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照のこと。				

概要

履修目標

・企業経営における情報の役割と管理の重要性や方法、そして課題について理解を深める。  
 ・ビッグデータ、IoT、プラットフォームの登場などに代表される、近年の情報技術の発達に連関する競争環境の変化を理解する。

授業の位置づけ

経営学科のDP(1)(3)に対応する。

到達目標

・企業が扱う情報の種類や特徴、技術進歩による変化および近年の動向について説明できる。  
 ・企業の情報管理活動に連関する経営学の理論を知り、企業活動を自ら分析することができる。  
 ・上記を通じて、企業が情報を取得・活用・管理する際に注意すべき点や工夫すべき点を主体的に考え、課題解決に活かすことができる。

授業全体の内容と概要

企業経営における情報の役割と管理について学習する。企業が扱う情報は、製品の製造を管理するためのものや、従業員に関するもの、顧客の購買データなど多岐に渡る。これらの情報を経営資源として最大限に活用していくことは企業経営における重要課題である。特にビッグデータ、IoT、AIといった新技術の登場を受け、その重要性はさらに増してきている。こうした近年の動向を、事例をみながら理解し、企業と情報との向き合い方について考えていく。

授業の方法

授業はパワーポイントの資料を用いて行う。履修者には、毎週授業の終わりにその日の講義内容をまとめた小レポートを提出してもらう。なお、小レポート課題は Moodle で提出する。  
 また、授業の最後には次回の授業で取り上げるテーマやキーワードについて概説するが、そのテーマやキーワードについて事前に自分自身で調べ、レポートにまとめて提出を求められることがある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模範授業		ロールプレイ		調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

授業中の私語、スマホの使用は特に言及がない限り禁止とする。  
 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

・毎週課されるレポート課題の期限内の提出が出席の条件である。  
 ・単位認定に必要な最低出席回数は11回以上である。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	50%	50%	0%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
経営情報論に関する知識・理解	経営情報論の基本的な用語と意味は覚え、説明することができる。近年の情報社会と関連づけて考察することもできた。さらに、今後の情報社会のあり方や企業の課題についても言及できた。	経営情報論の基本的な用語と意味は覚え、説明することができる。近年の情報社会と関連づけて考察することもできた。	経営情報論の基本的な用語と意味は覚え、説明することができる。近年の情報社会について最低限理解できた。	経営情報論の基本的な用語と意味は覚え、説明することができる。	経営情報論の基本的な用語と意味を覚え、説明することができなかった。
レポートを作成する能力	学習内容をまとめるレポート課題を所定の回数以上提出し、非常にわかりやすくまとめられており、講義内容以上の知識も自身で調べ、まとめることができた。	学習内容をまとめるレポート課題を所定の回数以上提出し、わかりやすくまとめられていた。	学習内容をまとめるレポート課題を所定の回数以上提出し、わかりやすくまとめようとする工夫がみられた。	学習内容をまとめるレポート課題を所定の回数以上提出することができた。	学習内容をまとめるレポート課題を所定の回数以上提出することができなかった。
自身の生活や進路と関連づけて学ぶ能力	学習内容を自身の生活や就職先、就職希望先といった進路と関連づけ、主体的に学習内容の活用策を提案・実行し、一定の成果をあげることができた。	学習内容を自身の生活や就職先、就職希望先といった進路と関連づけ、主体的に学習内容の活用策を提案し、実行することができた。	学習内容を自身の生活や就職先、就職希望先といった進路と関連づけ、主体的に学習内容の活用策を提案することができた。	学習内容を自身の生活や就職先、就職希望先といった進路と関連づけ、主体的に学習内容を活かそうと努力した。	学習内容を自身の生活や就職先、就職希望先といった進路と関連づけ、主体的に学習内容を活かそうとしなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	経営情報論 (科目ナンバリング: MAN412004, MAN522015/2023年度以降 MAN422004)				
授業担当者(所属・職名)	薦田 勇智(経営学科・専任講師)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 薦田 勇智)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『現代経営情報論』	遠山暁・村田潔・古賀広志 編	有斐閣アルマ	2021	9784641221	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	イントロダクション: 授業の概要と全体のレビュー 本イントロダクション 授業の概要と全体のレビュー。本授業のシラバス	テキストのはしがきを読んでおくこと。(90分)	小レポートの作成・提出(90分)
2	企業経営と情報 企業が扱う情報にはどのようなものがあるのか、情報社会とはどのようなものかを解説する。	テキストの第1章を読んでおくこと。(90分)	小レポートの作成・提出(90分)
3	企業の情報管理と経営学の基礎理論 情報管理の活動を分析するための経営学の基本的な理論を振り返る。	テキストの第2章を読んでおくこと。(90分)	小レポートの作成・提出(90分)
4	情報通信技術の発達 情報通信技術がどのような発展を遂げてきたのかを振り返る。	テキストの第4章を読んでおくこと。(90分)	小レポートの作成・提出(90分)
5	経営情報システムとその変遷 経営情報システムにはどのようなものがあるのか、どのように変化してきたのかを解説する。	テキストの第3章を読んでおくこと。(90分)	小レポートの作成・提出(90分)
6	経営情報システムの設計と開発 経営情報システム開発の方法論を解説する。	テキストの第5章を読んでおくこと。(90分)	小レポートの作成・提出(90分)
7	顧客情報の収集と活用 企業が顧客情報をどのように収集し活用しているのかについて先進企業の事例を用いて解説する。	これまでの学習内容を振り返ること。(90分)	小レポートの作成・提出(90分)
8	情報通信技術とビジネス革新 情報通信技術の発達に伴いビジネス全体がどのように変化しているのかを解説する。	テキストの第7章を読んでおくこと。(90分)	小レポートの作成・提出(90分)
9	情報通信技術とビジネス革新 前回に引き続き、近年のビジネスの変化を追う。特に、XaaSやAIといった、最近注目されるキーワード	ビジネス・経済の専門誌(日経ビジネスや東洋経済)の記事から情報管理に関連するものを見つけて読んでおくこと。(90分)	小レポートの作成・提出(90分)
10	情報管理と組織コミュニケーション 情報管理を行う主体の組織にはどのような能力が必要か、情報通信技術の発展によってどのような変化	テキストの第9章を読んでおくこと。(90分)	小レポートの作成・提出(90分)
11	情報管理と知識創造 知識創造とイノベーションの観点から、今日の情報管理の課題について考える。	テキストの第10章を読んでおくこと。(90分)	小レポートの作成・提出(90分)
12	経営情報システムの運用と保守 経営情報のシステム化と保守に関する問題を解説する。	テキストの第6章を読んでおくこと。(90分)	小レポートの作成・提出(90分)
13	情報管理と対顧客コミュニケーション 情報通信技術の発達に伴う顧客とのコミュニケーションの多様化・複雑化を理解し、失敗事例などを	SNSで企業が失敗した例を見つけ、何が悪かったのか、どうするべきかについて考えておく。	小レポートの作成・提出(90分)
14	まとめと期末レポート課題に関する案内 講義を振り返り、期末レポート課題の内容について案内する。	これまで授業の復習をし、わからない点を質問にまとめること(90分)	小レポートの作成・提出(90分)
15	期末レポート課題の発表 希望者に期末レポートの内容をプレゼンテーションしてもらおう。	これまでの授業内容の復習をしていただくこと。(90分)	期末レポートを作成する。(90分)
16	期末レポート課題の講評とガイダンス 提出された期末レポート課題を講評し、今後の自主学習のための案内をする。	これまでの授業内容の復習をしていただくこと。(90分)	小レポートの作成・提出(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	経営情報論 (SP) (科目ナンバリング: MAN412004, MAN522015/2023年度以降, MAN422004)				
授業担当者(所属・職名)	薦田 勇智(経営学科・専任講師)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 薦田 勇智)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照のこと。				

概要

履修目標

・企業経営における情報の役割と管理の重要性や方法、そして課題について理解を深める。  
 ・ビッグデータ、IoT、プラットフォームの登場などに代表される、近年の情報技術の発達に関連する競争環境の変化を理解する。

授業の位置づけ

経営学科のDP(1)(3)に対応する。

到達目標

・企業が扱う情報の種類や特徴、技術進歩による変化および近年の動向について説明できる。  
 ・企業の情報管理活動に関連する経営学の理論を知り、企業活動を自ら分析することができる。  
 ・上記を通じて、企業が情報を取得・活用・管理する際に注意すべき点や工夫すべき点を主体的に考え、課題解決に活かすことができる。

授業全体の内容と概要

企業経営における情報の役割と管理について学習する。企業が扱う情報は、製品の製造を管理するためのものや、従業員に関するもの、顧客の購買データなど多岐に渡る。これらの情報を経営資源として最大限に活用していくことは企業経営における重要課題である。特にビッグデータ、IoT、AIといった新技術の登場を受け、その重要性はさらに増してきている。こうした近年の動向を、事例をみながら理解し、企業と情報との向き合い方について考えていく。

授業の方法

授業はパワーポイントの資料を用いて行う。履修者には、毎週授業の終わりにその日の講義内容をまとめた小レポートを提出してもらう。なお、小レポート課題は Moodle で提出する。  
 また、授業の最後には次回の授業で取り上げるテーマやキーワードについて概説するが、そのテーマやキーワードについて事前に自分自身で調べ、レポートにまとめて提出を求められることがある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模範授業		ロールプレイ		調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

授業中の私語、スマホの使用は特に言及がない限り禁止とする。  
 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

・毎週課されるレポート課題の期限内の提出が出席の条件である。  
 ・単位認定に必要な最低出席回数は11回以上である。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	50%	50%	0%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
経営情報論に関する知識・理解	経営情報論の基本的な用語と意味は覚え、説明することができる。近年の情報社会と関連づけて考察することもできた。さらに、今後の情報社会のあり方や企業の課題についても言及できた。	経営情報論の基本的な用語と意味は覚え、説明することができる。近年の情報社会と関連づけて考察することもできた。	経営情報論の基本的な用語と意味は覚え、説明することができる。近年の情報社会について最低限理解できた。	経営情報論の基本的な用語と意味は覚え、説明することができる。	経営情報論の基本的な用語と意味を覚え、説明することができなかった。
レポートを作成する能力	学習内容をまとめるレポート課題を所定の回数以上提出し、非常にわかりやすくまとめられており、講義内容以上の知識も自身で調べ、まとめることができた。	学習内容をまとめるレポート課題を所定の回数以上提出し、わかりやすくまとめられていた。	学習内容をまとめるレポート課題を所定の回数以上提出し、わかりやすくまとめようとする工夫がみられた。	学習内容をまとめるレポート課題を所定の回数以上提出することができた。	学習内容をまとめるレポート課題を所定の回数以上提出することができなかった。
自身の生活や進路と関連づけて学ぶ能力	学習内容を自身の生活や就職先、就職希望先といった進路と関連づけ、主体的に学習内容の活用策を提案・実行し、一定の成果をあげることができた。	学習内容を自身の生活や就職先、就職希望先といった進路と関連づけ、主体的に学習内容の活用策を提案し、実行することができた。	学習内容を自身の生活や就職先、就職希望先といった進路と関連づけ、主体的に学習内容の活用策を提案することができた。	学習内容を自身の生活や就職先、就職希望先といった進路と関連づけ、主体的に学習内容を活かそうと努力した。	学習内容を自身の生活や就職先、就職希望先といった進路と関連づけ、主体的に学習内容を活かそうとしなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	経営情報論 (SP) (科目ナンバリング: MAN412004, MAN522015/2023年度以降 MAN422004)				
授業担当者(所属・職名)	薦田 勇智(経営学科・専任講師)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 薦田 勇智)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『現代経営情報論』	遠山暁・村田潔・古賀広志 編	有斐閣アルマ	2021	9784641221	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	イントロダクション 授業の概要と全体のプレビュー。本授業のシラバス・内容・評価方法・注意事項を説明する。	テキストのはしがきを読んでおくこと。(90分)	小レポートの作成・提出(90分)
2	企業経営と情報 企業が扱う情報にはどのようなものがあるのか、情報社会とはどのようなものかを解説する。	テキストの第1章を読んでおくこと。(90分)	小レポートの作成・提出(90分)
3	企業の情報管理と経営学の基礎理論 情報管理の活動を分析するための経営学の基本的な理論を振り返る。	テキストの第2章を読んでおくこと。(90分)	小レポートの作成・提出(90分)
4	情報通信技術の発達 情報通信技術がどのような発展を遂げてきたのかを振り返る。	テキストの第4章を読んでおくこと。(90分)	小レポートの作成・提出(90分)
5	経営情報システムとその変遷 経営情報システムにはどのようなものがあるのか、どのように変化してきたのかを解説する。	テキストの第3章を読んでおくこと。(90分)	小レポートの作成・提出(90分)
6	経営情報システムの設計と開発 経営情報システム開発の方法論を解説する。	テキストの第5章を読んでおくこと。(90分)	小レポートの作成・提出(90分)
7	顧客情報の収集と活用 企業が顧客情報をどのように収集し活用しているのかについて先進企業の事例を用いて解説する。	これまでの学習内容を振り返ること。(90分)	小レポートの作成・提出(90分)
8	情報通信技術とビジネス革新 情報通信技術の発達に伴いビジネス全体がどのように変化しているのかを解説する。	テキストの第7章を読んでおくこと。(90分)	小レポートの作成・提出(90分)
9	情報通信技術とビジネス革新 前回に引き続き、近年のビジネスの変化を追う。特に、XaaSやAIといった最近注目されるキーワード	ビジネス・経済の専門誌(日経ビジネスや東洋経済)の記事から情報管理に関連するものを見つけて読んでおくこと。(90分)	小レポートの作成・提出(90分)
10	情報管理と組織コミュニケーション 情報管理を行う主体の組織にはどのような能力が必要か、情報通信技術の発展によってどのような変化	テキストの第9章を読んでおくこと。(90分)	小レポートの作成・提出(90分)
11	情報管理と知識創造 知識創造とイノベーションの観点から、今日の情報管理の課題について考える。	テキストの第10章を読んでおくこと。(90分)	小レポートの作成・提出(90分)
12	経営情報システムの運用と保守 経営情報のシステム化と保守に関する問題を解説する。	テキストの第6章を読んでおくこと。(90分)	小レポートの作成・提出(90分)
13	情報管理と対顧客コミュニケーション 情報通信技術の発達に伴う顧客とのコミュニケーションの多様化・複雑化を理解し、失敗事例などを	SNSで企業が失敗した例を見つけ、何が良かったのか、どうするべきかについて考えておく。	小レポートの作成・提出(90分)
14	まとめと期末レポート課題に関する案内 講義を振り返り、期末レポート課題の内容について案内する。	これまで授業の復習をし、わからない点を質問にまとめること(90分)	小レポートの作成・提出(90分)
15	期末レポート課題の発表 希望者に期末レポートの内容をプレゼンテーションしてもらおう。	これまでの授業内容の復習をしていただくこと。(90分)	期末レポートを作成する。(90分)
16	期末レポート課題の講評とガイダンス 提出された期末レポート課題を講評し、今後の自主学習のための案内をする。	これまでの授業内容の復習をしていただくこと。(90分)	小レポートの作成・提出(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	デザイン製図 (科目ナンバリング: DES222054)				
授業担当者(所属・職名)	松岡 龍介(デザイン学科・准教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 松岡 龍介)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

<p><b>履修目標</b></p> <p>学生が美術、デザインの専門家に必要な基本的素養としての表現である製図の作図の基となる線、文字、数字の描き方、スケール等を練習問題とともに、実測した椅子の図面の作図を通して各自が理解しながら製図表現の基礎を身につけることを目標とする。さらに展開図をもとに紙模型を制作することで表現される物体と図の関係性の感覚を身に付けることも目的とする。</p>
--

<p><b>授業の位置づけ</b></p> <p>デザイン学科のDP(1)(4)(5)に対応する。</p>
---

<p><b>到達目標</b></p> <p>学生が、製図機を使い基本的な製図表現が(ある程度)正確にできる。</p>
--

<p><b>授業全体の内容と概要</b></p> <p>美術、デザインにおける基本的素養としての製図表現について各自が理解しながら製図表現の基礎を身につけるために、最初に製図機を用いた手書きの作図の基となる「線の練習問題」、「文字や数字の練習問題」、「スケールについての練習問題」などの要素毎の練習問題を描き方の手順とともに学習する。つぎに各自が椅子を実測してそれを、手書きの製図やCADを用いた製図を制作することを通して主要な製図の表現である三面図や断面図を学習する。また、表現する対象(椅子)の展開図の制作しそれを組み立てることによって表現される物体と図の関係性の感覚も身につける。進度に応じて漸次、課題を更新しながら進める。</p>
---

<p><b>授業の方法</b></p> <p>授業のプレゼンテーションの方法として板書と各課題に関連する資料を配布し授業を実施する。講義形式で授業をすすめると共に製図機やパソコンを用いて制作手順および要点を示す。各回の授業の要点を学生各自が自筆ノートにまとめる。これらをもとに、アクティブラーニングとして各自が自らが主体となって能動的に毎回の手書き、または、アプリケーションソフトを用いて課題を制作する。学生が図的なプレゼンテーションとして各課題を制作する。実験・実習・実技として各自が制作した課題の確認・評価を双方向授業としておこなう。また、毎回の提出する課題に対して、フィードバックとして添削およびコメントをする。</p>
---

<b>アクティブラーニングの実施方法</b>					
プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
模範授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	その他(授業の方法参照)

<p><b>履修上の注意事項</b></p> <p>不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。自筆ノートやスケッチ、データ、各自が制作した課題、および用具等を持ってくる。使用する用具等については、1回目、2回目の授業で解説する。出席を取り終わったあとは欠席とする。</p>
--

<p><b>修学サポート(合理的配慮)</b></p> <p>事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。</p>
<p><b>資格指定科目</b></p> <p>教職課程(工芸)必修科目</p>

評価方法・基準

<p><b>評価前提条件</b></p> <p>単位認定に必要なとなる最低出席回数は、10回以上。</p>												
<p><b>評価方法</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>60%</td> <td>0%</td> <td>40%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	0%	60%	0%	40%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	0%	60%	0%	40%	0%							

<b>ルーブリック</b>					
評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
製図の基本となる図表現の方法について理解し表現できる	板書を写したノートや配付した各課題に関する資料の解説や、製図機やパソコンを用いて示した作図手順通りに作図することが、十分に目標に達成していた。	板書を写したノートや配付した各課題に関する資料の解説や、製図機やパソコンを用いて示した作図手順通りに作図することが、概ね出来ていた。	板書を写したノートや配付した各課題に関する資料の解説や、製図機やパソコンを用いて示した作図手順通りに作図することが、最低限出来ていた。	板書を写したノートや配付した各課題に関する資料の解説や、製図機やパソコンを用いて示した作図手順通りに作図することが、全くと出来ていなかった。	板書を写したノートや配付した各課題に関する資料の解説や、製図機やパソコンを用いて示した作図手順通りに作図することが、全くと出来ていなかった。
テクニカル・ドローイングの意味合いも含めた製図表現について理解し表現できる	点線、破線、一点鎖線、寸法線、寸法補助線などの表現と意味を理解し表現することが、十分に目標に達成していた。	点線、破線、一点鎖線、寸法線、寸法補助線などの表現と意味を理解し表現することが、概ね出来ていた。	点線、破線、一点鎖線、寸法線、寸法補助線などの表現と意味を理解し表現することが、最低限出来ていた。	点線、破線、一点鎖線、寸法線、寸法補助線などの表現と意味を理解し表現することが、全くと出来ていなかった。	点線、破線、一点鎖線、寸法線、寸法補助線などの表現と意味を理解し表現することが、全くと出来ていなかった。
各自が意図したものを製図表現できる	各自が制作した練習課題や板書を写したノートや配付資料での解説等や実測データをもとに、各自が理解し作図することが十分に目標に達成していた。	各自が制作した練習課題や板書を写したノートや配付資料での解説等や実測データをもとに、各自が理解し作図することが概ね出来ていた。	各自が制作した練習課題や板書を写したノートや配付資料での解説等や実測データをもとに、各自が理解し作図することが最低限出来ていた。	各自が制作した練習課題や板書を写したノートや配付資料での解説等や実測データをもとに、各自が理解し作図することが全くと出来ていなかった。	各自が制作した練習課題や板書を写したノートや配付資料での解説等や実測データをもとに、各自が理解し作図することが全くと出来ていなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	デザイン製図 (科目ナンバリング: DES222054)				
授業担当者(所属・職名)	松岡 龍介(デザイン学科・准教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 松岡 龍介)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス, デザイン製図の概要, 授業の進め方, 使用する用具等の解説, シラバスの説明	シラバスの確認(90分)	ガイダンス, デザイン製図の概要 (90分)
2	製図機の使い方と横線の描き方の練習 使用する用具等の解説	ガイダンス, デザイン製図の概要の確認(90分)	製図機の使い方と横線の描き方の練習(90分)
3	製図機の使い方と縦線の描き方の練習	製図機の使い方と横線の描き方の練習(90分)	製図機の使い方と縦線の描き方の練習(90分)
4	100分の1, 200分の1, 300分の1の寸法記入の練習	製図機の使い方と縦線の描き方の練習(90分)	100分の1, 200分の1, 300分の1の寸法記入の練習(90分)
5	400分の1, 500分の1, 600分の1の寸法記入の練習	100分の1, 200分の1, 300分の1の寸法記入の練習(90分)	400分の1, 500分の1, 600分の1の寸法記入の練習(90分)
6	製図機の使い方と格子線の描き方の練習	400分の1, 500分の1, 600分の1の寸法記入の練習(90分)	製図機の使い方と格子線の描き方の練習(90分)
7	40分の1, 50分の1, 60分の1の寸法記入の練習	製図機の使い方と格子線の描き方の練習(90分)	10分の1, 20分の1, 30分の1の寸法記入の練習(90分)
8	椅子の上面図, 断面図, 正面図のスケッチ	10分の1, 20分の1, 30分の1の寸法記入の練習(90分)	椅子の上面図, 断面図, 正面図のスケッチ(90分)
9	椅子の上面図, 断面図, 正面図の実測	椅子の上面図, 断面図, 正面図のスケッチ(90分)	椅子の上面図, 断面図, 正面図の確認(90分)
10	椅子の上面図	椅子の上面図, 断面図, 正面図の確認(90分)	椅子の上面図(90分)
11	椅子の断面図	椅子の上面図(90分)	椅子の断面図(90分)
12	椅子の正面図	椅子の断面図(90分)	椅子の正面図(90分)
13	C A Dを用いた椅子の正面図	椅子の断面図と正面図の確認(90分)	C A Dを用いた椅子の正面図(90分)
14	椅子の展開図	C A Dを用いた椅子の正面図(90分)	椅子の展開図(90分)
15	椅子の紙模型	椅子の紙模型(90分)	椅子の紙模型(90分)
16	講評 課題返却 授業改善アンケートの実施	講義全体を通して質問事項をまとめておく(90分)	評価を受け講義全体の理解を深める(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	インテリアデザイン (科目ナンバリング: SWS123222, HLS322050)				
授業担当者(所属・職名)	松岡 龍介(デザイン学科・准教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 松岡 龍介)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

<p><b>履修目標</b></p> <p>学生が建築のデザインの専門家として必要な基礎的素養としての表現であるインテリアデザインの基本となるインテリア製図を表現する作図に熟練することを目標とする。</p> <p>1年次の建築設計製図の総合的な内容として、特に建築家的な創作のための表現方法や、アトリエ系設計事務所を目指す学生のポートフォリオ、あるいは、学術的な建築調査の図面作成のための製図表現の基本となる内容となることを目的とする。</p>
<p><b>授業の位置づけ</b></p> <p>建築学科のD P ( 3 ) ( 4 ) ( 5 ) に対応する。</p>

<p><b>到達目標</b></p> <p>学生がインテリア製図表現としての、(最低限の)平面図、室内断面図、室内展開図等の基本の表現を身につけることができる。</p>
--

<p><b>授業全体の内容及概要</b></p> <p>美術、デザインにおける基本的素養としての表現について熟練するために、インテリアデザインの基本となるインテリア製図について自室の作図を通して学ぶ。図面化の手順は、平面図、断面図、室内展開図、天井伏図をフリーハンドでスケッチして、コンベックスを用いてミリ単位で実測するしてスケッチに大きさを記録してデータを作成する(建具および家具も含む、建具および家具の大きさが1枚の紙に入らない場合別紙に描いても良い)。</p> <p>実測した大きさのデータをともに最初に30分の1程度のスケールの精度の平面図、断面図、室内展開図、天井伏図を手書きで完成させる。手書き図面の完成後にそれをともにCADで3Dモデリング出来る程度の精度の2次元データの平面図、室内展開図、天井伏図を連結させた図面を完成させる。CADで平面図、室内展開図、天井伏図を3次元に配置したデータを完成させる。進度に応じて漸次、課題を更新しながら進めてゆく。</p>
<p><b>授業の方法</b></p> <p>授業のプレゼンテーションの方法として板書や図による解説および要点をまとめた資料を配付して授業を実施し、それを各自が自筆ノードにまとめる。議義形式で授業をすすめると共にパソコンを用いて制作手法や手順および要点等を示す。調査学習として自室の実測をおこなう。</p> <p>アクティブラーニングとして学生各自が自ら主体となって能動的に、自室をスケッチして部屋の大きさ、建具および家具の大きさを実測して記録する。それをともに手書き図面とアプリケーション・ソフトを含めた図的なプレゼンテーションとして課題を制作する。実験・実習・実技として各自が制作した課題の確認・評価を双方向授業としておこなう。また、毎回の提出された課題に対して、フィードバックとして添削およびコメントをする。</p>

<p><b>アクティブラーニングの実施方法</b></p> <table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>P B L</td> </tr> <tr> <td>模範授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L															
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業															
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)															

<p><b>履修上の注意事項</b></p> <p>不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。自筆ノード、スケッチ、各自が制作した課題、および用具等を持ってこること。出席を取り終わった後は欠席とする。</p>
--

<p><b>修学サポート(合理的配慮)</b></p> <p>事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。</p>
--

<p><b>資格指定科目</b></p>
----------------------

評価方法・基準

<p><b>評価前提条件</b></p> <p>単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。</p>												
<p><b>評価方法</b></p> <table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>60%</td> <td>0%</td> <td>40%</td> <td>0%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	0%	60%	0%	40%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	0%	60%	0%	40%	0%							

<p><b>ルーブリック</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>プロフェッショナルとしての図的なプレゼンテーションとして完成していること</td> <td>手書き図面では、30分の1の図面の精度であり、各図面のC A Dのデータでは、3 Dモデリングが制作が可能な精度であり図的なプレゼンテーションとして完成していることが、十分に目標に達成していた。</td> <td>手書き図面では、30分の1の図面の精度であり、各図面のC A Dのデータでは、3 Dモデリングが制作が可能な精度であり図的なプレゼンテーションとして完成していることが、概ね出来ていた。</td> <td>手書き図面では、30分の1の図面の精度であり、各図面のC A Dのデータでは、3 Dモデリングが制作が可能な精度であり図的なプレゼンテーションとして完成していることが、不十分ではあるが出来ていた。</td> <td>手書き図面では、30分の1の図面の精度であり、各図面のC A Dのデータでは、3 Dモデリングが制作が可能な精度であり図的なプレゼンテーションとして完成していることが、最低限出来ていた。</td> <td>手書き図面では、30分の1の図面の精度であり、各図面のC A Dのデータでは、3 Dモデリングが制作が可能な精度であり図的なプレゼンテーションとして完成していることが、全く出来ていなかった。</td> </tr> <tr> <td>正しい手順、正しい表現方法によって図面が高いレベルで完成させていること</td> <td>フリーハンドの自室のスケッチに部屋全体や家具および建具の大きさを記録したデータから手書きの平面図、断面図、室内展開図、天井伏図を制作して、それらをもとにC A Dのデータを制作する手順を遵守して、それらの図面が正しく表現され完成させていること</td> <td>フリーハンドの自室のスケッチに部屋全体や家具および建具の大きさを記録したデータから手書きの平面図、断面図、室内展開図、天井伏図を制作して、それらをもとにC A Dのデータを制作する手順を遵守して、それらの図面が正しく表現され完成させていること</td> <td>フリーハンドの自室のスケッチに部屋全体や家具および建具の大きさを記録したデータから手書きの平面図、断面図、室内展開図、天井伏図を制作して、それらをもとにC A Dのデータを制作する手順を遵守して、それらの図面が正しく表現され完成させていること</td> <td>フリーハンドの自室のスケッチに部屋全体や家具および建具の大きさを記録したデータから手書きの平面図、断面図、室内展開図、天井伏図を制作して、それらをもとにC A Dのデータを制作する手順を遵守して、それらの図面が正しく表現され完成させていること</td> <td>フリーハンドの自室のスケッチに部屋全体や家具および建具の大きさを記録したデータから手書きの平面図、断面図、室内展開図、天井伏図を制作して、それらをもとにC A Dのデータを制作する手順を遵守して、それらの図面が正しく表現され完成させていること</td> </tr> <tr> <td>図表現として簡潔、曖昧さ、間違いがないこと</td> <td>例えば、平面図と室内展開図の間に矛盾がなく、建具の収まり方などに整合性のある表現が、十分に目標に達成していた。</td> <td>例えば、平面図と室内展開図の間に矛盾がなく、建具の収まり方などに整合性のある表現が、概ね出来ていた。</td> <td>例えば、平面図と室内展開図の間に矛盾がなく、建具の収まり方などに整合性のある表現が、不十分ではあるが出来ていた。</td> <td>例えば、平面図と室内展開図の間に矛盾がなく、建具の収まり方などに整合性のある表現が、最低限出来ていた。</td> <td>例えば、平面図と室内展開図の間に矛盾がなく、建具の収まり方などに整合性のある表現が、全く出来ていなかった。</td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	プロフェッショナルとしての図的なプレゼンテーションとして完成していること	手書き図面では、30分の1の図面の精度であり、各図面のC A Dのデータでは、3 Dモデリングが制作が可能な精度であり図的なプレゼンテーションとして完成していることが、十分に目標に達成していた。	手書き図面では、30分の1の図面の精度であり、各図面のC A Dのデータでは、3 Dモデリングが制作が可能な精度であり図的なプレゼンテーションとして完成していることが、概ね出来ていた。	手書き図面では、30分の1の図面の精度であり、各図面のC A Dのデータでは、3 Dモデリングが制作が可能な精度であり図的なプレゼンテーションとして完成していることが、不十分ではあるが出来ていた。	手書き図面では、30分の1の図面の精度であり、各図面のC A Dのデータでは、3 Dモデリングが制作が可能な精度であり図的なプレゼンテーションとして完成していることが、最低限出来ていた。	手書き図面では、30分の1の図面の精度であり、各図面のC A Dのデータでは、3 Dモデリングが制作が可能な精度であり図的なプレゼンテーションとして完成していることが、全く出来ていなかった。	正しい手順、正しい表現方法によって図面が高いレベルで完成させていること	フリーハンドの自室のスケッチに部屋全体や家具および建具の大きさを記録したデータから手書きの平面図、断面図、室内展開図、天井伏図を制作して、それらをもとにC A Dのデータを制作する手順を遵守して、それらの図面が正しく表現され完成させていること	フリーハンドの自室のスケッチに部屋全体や家具および建具の大きさを記録したデータから手書きの平面図、断面図、室内展開図、天井伏図を制作して、それらをもとにC A Dのデータを制作する手順を遵守して、それらの図面が正しく表現され完成させていること	フリーハンドの自室のスケッチに部屋全体や家具および建具の大きさを記録したデータから手書きの平面図、断面図、室内展開図、天井伏図を制作して、それらをもとにC A Dのデータを制作する手順を遵守して、それらの図面が正しく表現され完成させていること	フリーハンドの自室のスケッチに部屋全体や家具および建具の大きさを記録したデータから手書きの平面図、断面図、室内展開図、天井伏図を制作して、それらをもとにC A Dのデータを制作する手順を遵守して、それらの図面が正しく表現され完成させていること	フリーハンドの自室のスケッチに部屋全体や家具および建具の大きさを記録したデータから手書きの平面図、断面図、室内展開図、天井伏図を制作して、それらをもとにC A Dのデータを制作する手順を遵守して、それらの図面が正しく表現され完成させていること	図表現として簡潔、曖昧さ、間違いがないこと	例えば、平面図と室内展開図の間に矛盾がなく、建具の収まり方などに整合性のある表現が、十分に目標に達成していた。	例えば、平面図と室内展開図の間に矛盾がなく、建具の収まり方などに整合性のある表現が、概ね出来ていた。	例えば、平面図と室内展開図の間に矛盾がなく、建具の収まり方などに整合性のある表現が、不十分ではあるが出来ていた。	例えば、平面図と室内展開図の間に矛盾がなく、建具の収まり方などに整合性のある表現が、最低限出来ていた。	例えば、平面図と室内展開図の間に矛盾がなく、建具の収まり方などに整合性のある表現が、全く出来ていなかった。
評価項目		評価基準																											
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
プロフェッショナルとしての図的なプレゼンテーションとして完成していること	手書き図面では、30分の1の図面の精度であり、各図面のC A Dのデータでは、3 Dモデリングが制作が可能な精度であり図的なプレゼンテーションとして完成していることが、十分に目標に達成していた。	手書き図面では、30分の1の図面の精度であり、各図面のC A Dのデータでは、3 Dモデリングが制作が可能な精度であり図的なプレゼンテーションとして完成していることが、概ね出来ていた。	手書き図面では、30分の1の図面の精度であり、各図面のC A Dのデータでは、3 Dモデリングが制作が可能な精度であり図的なプレゼンテーションとして完成していることが、不十分ではあるが出来ていた。	手書き図面では、30分の1の図面の精度であり、各図面のC A Dのデータでは、3 Dモデリングが制作が可能な精度であり図的なプレゼンテーションとして完成していることが、最低限出来ていた。	手書き図面では、30分の1の図面の精度であり、各図面のC A Dのデータでは、3 Dモデリングが制作が可能な精度であり図的なプレゼンテーションとして完成していることが、全く出来ていなかった。																								
正しい手順、正しい表現方法によって図面が高いレベルで完成させていること	フリーハンドの自室のスケッチに部屋全体や家具および建具の大きさを記録したデータから手書きの平面図、断面図、室内展開図、天井伏図を制作して、それらをもとにC A Dのデータを制作する手順を遵守して、それらの図面が正しく表現され完成させていること	フリーハンドの自室のスケッチに部屋全体や家具および建具の大きさを記録したデータから手書きの平面図、断面図、室内展開図、天井伏図を制作して、それらをもとにC A Dのデータを制作する手順を遵守して、それらの図面が正しく表現され完成させていること	フリーハンドの自室のスケッチに部屋全体や家具および建具の大きさを記録したデータから手書きの平面図、断面図、室内展開図、天井伏図を制作して、それらをもとにC A Dのデータを制作する手順を遵守して、それらの図面が正しく表現され完成させていること	フリーハンドの自室のスケッチに部屋全体や家具および建具の大きさを記録したデータから手書きの平面図、断面図、室内展開図、天井伏図を制作して、それらをもとにC A Dのデータを制作する手順を遵守して、それらの図面が正しく表現され完成させていること	フリーハンドの自室のスケッチに部屋全体や家具および建具の大きさを記録したデータから手書きの平面図、断面図、室内展開図、天井伏図を制作して、それらをもとにC A Dのデータを制作する手順を遵守して、それらの図面が正しく表現され完成させていること																								
図表現として簡潔、曖昧さ、間違いがないこと	例えば、平面図と室内展開図の間に矛盾がなく、建具の収まり方などに整合性のある表現が、十分に目標に達成していた。	例えば、平面図と室内展開図の間に矛盾がなく、建具の収まり方などに整合性のある表現が、概ね出来ていた。	例えば、平面図と室内展開図の間に矛盾がなく、建具の収まり方などに整合性のある表現が、不十分ではあるが出来ていた。	例えば、平面図と室内展開図の間に矛盾がなく、建具の収まり方などに整合性のある表現が、最低限出来ていた。	例えば、平面図と室内展開図の間に矛盾がなく、建具の収まり方などに整合性のある表現が、全く出来ていなかった。																								



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	インテリアデザイン (科目ナンバリング: SWS123222, HLS322050)				
授業担当者(所属・職名)	松岡 龍介(デザイン学科・准教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 松岡 龍介)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス、インテリア製図の進め方と概要 この授業に必要な道具等の解説 実測の方法と図面化の手順についての解説	シラバスの確認(90分)	自室のスケッチ(90分)
2	インテリア製図の基本についての解説 実測方法等の解説および質疑応答	自室のスケッチ(90分)	自室のスケッチ(90分)
3	インテリア製図の基本についての解説 「自室を実測する課題」 自室のスケッチの確認 平面図の下書き	自室のスケッチ(90分)	平面図の下書き(90分)
4	インテリア製図の基本についての解説 「自室を実測する課題」 自室のスケッチの確認 手書き平面図の完成	平面図の下書き(90分)	手書き平面図の完成(90分)
5	「自室を実測する課題」 断面図の下書き	手書き平面図の完成(90分)	断面図の下書き(90分)
6	「自室を実測する課題」 手書きの断面図の完成	断面図の下書き(90分)	手書きの断面図の完成(90分)
7	「自室を実測する課題」 手書きの室内展開図(1面目,2面目,3面目)の作成 (1面目は断面図を一部併用)	手書きの断面図の完成(90分)	手書きの室内展開図(1面目,2面目,3面目)の作成(90分)
8	「自室を実測する課題」 手書きの室内展開図(4面目)および天井伏図の作成	手書きの室内展開図(1面目,2面目,3面目)の作成(90分)	手書きの室内展開図(4面目)および天井伏図の作成(90分)
9	「自室を実測する課題」 手書きの平面図,展開図,室内展開図,天井伏図の完成	手書きの室内展開図(4面目)および天井伏図の作成(90分)	手書きの平面図,展開図,室内展開図,天井伏図の完成(90分)
10	「自室を実測する課題」 平面図の作成(CAD製図)	手書きの平面図,展開図,室内展開図,天井伏図の完成(90分)	平面図の作成(CAD製図)(90分)
11	「自室を実測する課題」 断面図の作成(CAD製図)	平面図の作成(CAD製図)(90分)	断面図の作成(CAD製図)(90分)
12	「自室を実測する課題」 室内展開図(1面目,2面目,3面目)の作成(CAD製図)	断面図の作成(CAD製図)(90分)	室内展開図(1面目,2面目,3面目)の作成(CAD製図)(90分)
13	「自室を実測する課題」 室内展開図(4面目)および天井伏図の作成(CAD製図)	室内展開図(1面目,2面目,3面目)の作成(CAD製図)(90分)	室内展開図(4面目)および天井伏図の作成(CAD製図)(90分)
14	「自室を実測する課題」 平面図,展開図,室内展開図,天井伏図の完成(CAD製図)	室内展開図(4面目)および天井伏図の作成(CAD製図)(90分)	平面図,展開図,室内展開図,天井伏図の完成(90分)
15	「自室を実測する課題」 平面図,室内展開図,天井伏図を連結させた図面の完成(CAD製図)	平面図,展開図,室内展開図,天井伏図の完成(CAD製図)(90分)	平面図,室内展開図,天井伏図を連結させた図面(CAD製図)(90分)
16	「自室を実測する課題」 平面図,室内展開図,天井伏図を3次元に配置したデータの完成(CAD製図)	課題の総括(90分)	課題の総括(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	就労支援サービス (科目ナンバリング：SWS112020)				
授業担当者(所属・職名)	畠山 明子(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者：畠山 明子)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

働くことの意味を考えながら、就労することに対する支援が必要なたちとはどのような生活課題のある人たちなのか、どのような制度や機関、専門職が関わっているのか、さらに、ソーシャルワークの専門職としての社会福祉士はどのように就労支援を展開しているのかを理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP(1)(2)に対応する。

到達目標

労働環境の現状について、データを用いて説明し課題を指摘できる。  
 就労支援にかかわる法体系について、その概要について理解する。  
 障害者の就労支援にかかわる制度の体系とその概要について理解し、課題を指摘できる。  
 低所得者等の就労支援にかかわる制度の体系とその概要について理解し、課題を指摘できる。  
 高齢者の就労支援にかかわる制度の体系とその概要について理解し、課題を指摘できる。

授業全体の内容と概要

労働環境の現状と関連する法制度について学ぶ。  
 障害者の就労支援について学ぶ。  
 低所得者等の就労支援について学ぶ。  
 高齢者の就労支援について学ぶ。  
 「SDG1.貧困をなくそう」、「SDG2.飢餓をゼロに」、「SDG3.すべての人に健康と福祉を」、「SDG5.ジェンダー平等を実現しよう」、「SDG8.働きがいも経済成長も」、「SDG16.平和と公正をすべての人に」、「SDG17.パートナーシップで目標を達成しよう」の関連授業。

授業の方法

配布資料に基づき講義形式になるが、新聞記事の活用や映像資料の視聴、演習(グループワーク等)も取り入れる。配布された資料には板書事項を記述すること。  
 毎回の授業終了時、授業内容に関する小テスト(5問出題)を実施する。  
 毎回の感想・質問等をMicrosoft Formsを通して提出し、次回授業開始時にフィードバックを行う。  
 授業資料の配信等、Microsoft Teamsを活用する

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

配布資料は紛失しないよう、ファイリングする等して管理を徹底すること。  
 ニュース等で報道される福祉に関する話題について興味を持つこと。  
 新聞記事等を題材として社会福祉の現状や課題を検討する等、常に問題意識を持ちながら積極的に授業に参加すること。  
 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

社会福祉士国家試験受験資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

出席回数は5回以上あることを評価の前提条件とし、毎回の小テストの結果(8回×5点)、第8回に実施する定期試験(60点)の結果を総合して評価する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	0%	0%	0%	0%	40%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
労働環境の現状について、データを用いて説明し課題を指摘できる。	関係するデータを用いて労働環境の現状と課題について具体的に説明・記述できた。	関係するデータを用いて労働環境の現状と課題についておおむね具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより労働環境の現状と課題について具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより労働環境の現状と課題についておおむね説明・記述できた。	労働環境の現状と課題について関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。
就労支援にかかわる法体系について、その概要について理解する。	就労支援にかかわる法体系の概要について具体的に説明・記述できた。	就労支援にかかわる法体系の概要についておおむね具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより就労支援にかかわる法体系の概要について具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより就労支援にかかわる法体系の概要についておおむね説明・記述できた。	就労支援にかかわる法体系の概要について関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。
障害者の就労支援にかかわる制度の体系とその概要について理解し、課題を指摘できる。	障害者の就労支援にかかわる制度の体系と概要、課題について具体的に説明・記述できた。	障害者の就労支援にかかわる制度の体系とその概要、課題についておおむね具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより障害者の就労支援にかかわる制度の体系とその概要、課題について具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより障害者の就労支援にかかわる制度の体系とその概要、課題についておおむね説明・記述できた。	障害者の就労支援にかかわる制度の体系とその概要、課題について関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。
低所得者等の就労支援にかかわる制度の体系とその概要について理解し、課題を指摘できる。	低所得者等の就労支援にかかわる制度の体系と概要、課題について具体的に説明・記述できた。	低所得者等の就労支援にかかわる制度の体系とその概要、課題についておおむね具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより低所得者等の就労支援にかかわる制度の体系とその概要、課題について具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより低所得者等の就労支援にかかわる制度の体系とその概要、課題についておおむね説明・記述できた。	低所得者等の就労支援にかかわる制度の体系とその概要、課題について関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。
高齢者の就労支援にかかわる制度の体系とその概要について理解し、課題を指摘できる。	高齢者の就労支援にかかわる制度の体系と概要、課題について具体的に説明・記述できた。	高齢者の就労支援にかかわる制度の体系とその概要、課題についておおむね具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより高齢者の就労支援にかかわる制度の体系とその概要、課題について具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより高齢者の就労支援にかかわる制度の体系とその概要、課題についておおむね説明・記述できた。	高齢者の就労支援にかかわる制度の体系とその概要、課題について関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	就労支援サービス (科目ナンバリング: SWS112020)				
授業担当者(所属・職名)	畠山 明子(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 畠山 明子)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	本講義の進め方、シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明、人が働くことの意味、労働の動向と法制度	本講義で学ぶ概要についてシラバスの内容を確認する。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
2	障害者の就労支援 障害者の就労状況と就労支援制度	前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
3	障害者の就労支援 障害者の就労支援機関と専門職	前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
4	低所得者等の就労支援 低所得者等の就労状況と就労支援制度	前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
5	低所得者等の就労支援 低所得者等の就労支援機関と専門職	前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
6	高齢者の就労支援 高齢者の就労状況と就労支援制度	前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
7	高齢者の就労支援 高齢者の就労支援機関と専門職、授業のまとめ	前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
8	定期試験(60分の試験終了後、残りの30分で解説)、授業改善アンケートの実施	試験に向けて授業内容の振り返りを行う。(90分)	試験で間違えた箇所、理解があいまいだった箇所についてプリント等を確認して見直し、復習を行う。(90分)
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	都市計画 (科目ナンバリング: APT314020)				
授業担当者(所属・職名)	安藤 淳一(建築学科・教授)	研究室等所在	2号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 安藤 淳一)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標
「ひとと建築を取り巻く環境、を都市空間と捉え、都市の発展を計画する上で必要な知識を修得する。また、都市計画の基礎とともに、人口増加を前提とした都市化の時代は終焉を迎え人口減少、少子高齢社会となったわが国における新たな時代に必要となる都市計画・まちづくりを計画できる知識を修得する。

授業の位置づけ
建築学科のDP(3)(5)に対応する。

到達目標
めまぐるしく変化する社会や都市の将来を見据え、働く機会と生活する場所が確保され、平和で安全に、そして安心して暮らすことの出来る都市がどのように形成され今後どのような方向を目指すのかを理解し、これからの都市を計画立案できるための基礎能力を身につけることができる。

授業全体の内容と概要
指定テキストのほかに毎回資料を配布し、援用しながら講義を進める。授業内容の記録を演習1とし、授業終了後提出する。授業内容に関わる内容の記述式レポートを演習2とし、登壇最初の授業開始時に提出する。 [SDGs11.住み続けられるまちづくりを]の関連授業

授業の方法
板書事項は授業資料として記したものを配布する。プロジェクターで画像や図表を投影して解説するのが、授業内容の理解度を確認するため授業ノートを取り、毎回授業終了後提出してもらう。情報量は多く、見て、聴いて、理解できる授業である

アクティブラーニングの実施方法							
○ プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL	
	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
授業に遅刻すると欠席とみなし、配布資料を入手することができなくなるため注意すること。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目
「建築士試験受験資格科目」必修科目

評価方法・基準

評価前提条件					
原則毎回出席すること(最低出席回数10回以上)、毎回の授業内で行う演習評価点(授業成果)が単位認定(成績評価)の過半を占めるので、授業欠席や演習未提出は不合格に直結することになる。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	80%	0%	0%	0%	20%

ルーブリック					
	評価基準				
評価項目	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
世界の中から抽出した都市が、古代から現代までを時間軸に則し、どのように成り立ち、展開してきたかを理解する。	時間軸の中で都市の成り立ちを理解し、発展に寄与した要素と経緯を関連付けることができた。	時間軸のなかで都市の発展に寄与した要素を理解できた。	時間軸で都市の変化を理解することができた。	都市の変化に時間という要素が不可欠であること理解できた。	都市を時間軸で捉えることができなかった。
都市を成り立たせるための法制度と都市計画の関わりを知り、地方自治体の都市計画と都市の関係を理解する。	都市が国家から自治体に至るまで法制度により統一的に統制されていること、地方自治体の都市計画と都市のあり方との関係を理解できた。	都市が国家から自治体に至るまで法制度により統一的に統制されていることを理解できた。	都市計画に係る法律の存在とその内容を理解することができた。	都市計画にかかわる法律があることを理解できた。	都市計画のための法律を理解することができなかった。
現代の都市計画においてまちづくりが重要度を高めていることの認識と、都市計画との違いを理解する。	現代社会の都市計画にとりまちづくりの重要性と必要性を理解できた。	現代都市における都市計画とまちづくりの違い、まちづくりのために必要な事項を理解できた。	都市計画とまちづくりの違いを理解できた。	まちづくりがめざすものが理解できた。	まちづくりの重要性を理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	都市計画 (科目ナンバリング: APT314020)				
授業担当者(所属・職名)	安藤 淳一 (建築学科・教授)	研究室等所在	2号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 安藤 淳一)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『都市計画とまちづくりがわかる本』	伊藤雅春他	彰国社	2018	9784395320936	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス シラバスの説明, 授業改善アンケート結果反映の説明, 課題説明, 授業の進め方	シラバスの事前確認(90分)	配布資料から授業内容確認(90分)
2	「都市計画」で学ぶこと	該当単元予習(90分)	演習2作成(90分)
3	都市の遺産 都市の防御性と効率性	該当単元予習(90分)	演習2作成(90分)
4	都市の遺産 社会改良思想の都市	該当単元予習(90分)	演習2作成(90分)
5	都市計画制度 日本の都市計画史	該当単元予習(90分)	演習2作成(90分)
6	都市計画制度 日本の都市計画の枠組み	該当単元予習(90分)	演習2作成(90分)
7	都市計画制度 現代都市計画の思潮	該当単元予習(90分)	演習2作成(90分)
8	都市計画制度 まちづくりの担い手と進め方	該当単元予習(90分)	演習2作成(90分)
9	都市計画制度 人口減少社会のまちづくり	該当単元予習(90分)	演習2作成(90分)
10	都市計画制度 都市交通計画	該当単元予習(90分)	演習2作成(90分)
11	都市計画制度 都市の防災計画	該当単元予習(90分)	演習2作成(90分)
12	都市計画制度 都市の緑地・景観計画	該当単元予習(90分)	演習2作成(90分)
13	研究発表 委と将来像 「都市マス」からみたわたしの都市の	発表資料の予習(90分)	発表内容の振返り(90分)
14	研究発表 委と将来像 「都市マス」からみたわたしの都市の	発表資料の予習(90分)	発表内容の振返り(90分)
15	研究発表 委と将来像 「都市マス」からみたわたしの都市の	発表資料の予習(90分)	発表内容の振返り(90分)
16	総評(演習課題の提出状況と評価・解説) 授業改善アンケートの実施	演習課題提出確認(90分)	最終振返り(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由	対象学科・配当	経営学科・2年、デザイン学科・2年、建築学		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択（教職課）
科目名称	教育原理（M・D・A）（科目ナンバリング：EDU121069，EDU241094，EDU341090，E DU441092，EDU541099）				
授業担当者（所属・職名）	西崎 毅（社会福祉学科・特任教授）	研究室等所在	2号館6階		
単位数	2（単位認定責任者：西崎 毅）	CAP制	×		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	高等学校や教育行政における勤務経験を活かして教育原理に関連する諸事項を講義する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照				

概要

履修目標
教職に必要な知識や技能のうち、教育の基本概念をはじめ、教育を成り立たせている要素と相互関係、教育及び学校の変遷、学校教育の諸分野に関する基礎的事項を身に付ける。教職に必要な思考力・判断力・表現力等の能力及び主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を身に付ける。

授業の位置づけ

経営学科のDP(2)(4)に対応する。  
デザイン学科のDP(2)(4)に対応する。  
建築学科のDP(2)(4)に対応する。

到達目標

授業のテーマについて考え、根拠を示しながら自分の意見をまとめ、他者と意見交換をしたり発表したりすることができる。

授業全体の内容と概要

各回のテーマに基づき必要な事項を講義するとともに、主体的・対話的で深い学びを実現するため、テーマに関連する事項に関して思考・考察、意見交換、発表等の一連の活動を行う。教育に関する内容は複数のテーマにかかわることが多いため、シラバスに示した学修内容を再構成し15回の授業全体を通して学修を完結する形とする場合がある。このため、各授業の冒頭において、当該の授業内容とシラバス上の授業テーマとの関連を明示する。「SDG4.質の高い教育をみんなに」の関連科目

授業の方法

各回のテーマに関してプレゼンテーションソフトウェア及びプリント等を使用して説明を行う。各回のテーマに基づき必要な事項を講義するとともに、主体的・対話的で深い学びを実現するため、テーマに関連する事項に関して、グループワークを中心として思考・考察、意見交換、発表等の一連の活動を行う。課題については、観点別の評価とコメントによりフィードバックを行う。要望については口頭及びメール等で対応する。Microsoft Teams/Formsの諸機能を活用し、意見交換、質問、小テスト、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

思考・考察、討論・発表等の活動を行うので、積極的に参加すること。  
○講義の前夜に行う学修課題を課しますので真摯に取り組むこと。  
プリント類は、ファイル等に綴って適切に管理し、学修に役立てること。  
欠席した場合は、Microsoft Teamsからプリント等を入手すること。  
講義中の私語・居眠り等は厳に慎むこと。  
講義中は特に指示がない場合にはスマートフォンをカバン等の中に格納すること。  
講義では質問を行うため、居席を指定する。  
講義開始時間までに用便を済ませておくこと。  
30分以上の「遅刻」は、「欠席」扱いとする。  
学修に向かう姿勢及び課題はすべて点数化・集積し評価点とする。  
評価Sは履修者の10%以内、評価SとAを合わせて40%以内が目安となっている。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
教職課程（全教科）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な出席回数は13回。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	0%	0%	0%	40%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間に係るレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	定期テストで9割以上の得点を上げた。	定期テストで8割以上の得点を上げた。	定期テストで7割以上の得点を上げた。	定期テストで6割以上の得点を上げた。	定期テストの得点が6割未満であった。
思考の深さ	右の記述を高いレベルで実現した。	与えられた思考テーマについて、既に学修した知識や自ら経験等と関連させながら深く多面的に考え、根拠を明らかにしながら、論理的に自分の意見をまとめることができた。	与えられた思考テーマについて多面的に考え、根拠を示しながら論理的に自分の意見をまとめることができた。	与えられた思考テーマについて自分の意見をまとめ、自分の意見をまとめ、自分の意見や論理性に課題があった。	与えられた思考テーマについて記述しているが、思考テーマの意味のとらえが不十分であり、期待される最低限の基準に到達することができなかった。
判断的的確性	右の記述を高いレベルで実現した。	与えられた思考テーマの意味を的確にとらえ、期待されるすべての論点に言及し、各論点について論理を明確にし、自分の意見をまとめることができた。	与えられた思考テーマの意味をとらえているが、期待されるすべての論点には言及できなかった。言及した論点については論理を明確にし、自分の意見をまとめることができた。	与えられた思考テーマについて自分の意見をまとめ、自分の意見の味のとらえに課題があり、期待される論点に十分には言及できなかった。	与えられた思考テーマについて記述しているが、思考テーマの意味のとらえが不十分であり、期待される最低限の基準に到達することができなかった。
表現の適切性	右の記述を高いレベルで実現した。	他の成員の意見の趣旨を的確にとらえ、簡潔にまとめて記述した。誤字脱字が少なく、丁寧に書くことができた。各欄の記述の分量が期待される分量の9割を超えた。	他の成員の意見の趣旨を簡潔にまとめて記述することができた。誤字脱字が少なく、各欄の記述の分量が期待される分量の7割程度であった。	他の成員の意見を記述しているが、その趣旨を十分にまとめ切れなかった。誤字脱字が多かった。各欄の記述の分量が期待される分量の3割程度であった。	他の成員の意見を記述しているが、内容が極めて不十分であった。誤字脱字が多かった。各欄の記述の分量が期待される分量の3割程度であるなど、期待される最低限の基準に到達することができなかった。
主体性・協働性	右の記述を高いレベルで実現した。	他の成員と積極的に意見交換を行った。他の成員の意見を十分に理解し、自分の感想等を記述することができた。自分の意見と異なる他の成員の意見に対して疑問点や反論等を記述し、見聞が広がった。	他の成員と意見交換しているが、特段積極性は見られなかった。他の成員の意見を十分に理解し、自分の感想等を記述することができた。自分の意見と異なる他の成員の意見に対して疑問点や反論等を記述し、見聞が広がった。	他の成員と意見交換しているが、消極的であった。他の成員の意見の理解が極めて不十分であった。自分の感想等を記述しているが、論点がずれているなど、期待される最低限の基準に到達することができなかった。	他の成員との意見交換に消極的であった。他の成員の意見の理解が極めて不十分であった。自分の感想等を記述しているが、論点がずれているなど、期待される最低限の基準に到達することができなかった。



基本情報

科目分類区分	自由	対象学科・配当	経営学科・2年、デザイン学科・2年、建築学		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択（教職課）
科目名称	教育原理（M・D・A）（科目ナンバリング：EDU121069，EDU241094，EDU341090，EDU441092，EDU541099）				
授業担当者（所属・職名）	西崎 毅（社会福祉学科・特任教授）	研究室等所在	2号館6階		
単位数	2（単位認定責任者：西崎 毅）	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	高等学校や教育行政における勤務経験を活かして教育原理に関連する諸事項を講義する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『最新教育原理 改訂2版』	安彦忠彦ほか	勁草書房	2020	9784326251421	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション（シラバスの説明含む） 教育の目的と本質について 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを確認して学修の心構えを、持つこと。 （90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。 （90分）
2	教育と人間の成長・発達について	前時に課された事前課題を行い提出すること。 （90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。 （90分）
3	社会の変動と教育について	前時に課された事前課題を行い提出すること。 （90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。 （90分）
4	日本の教育（歴史と展開）について	前時に課された事前課題を行い提出すること。 （90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。 （90分）
5	世界の教育（歴史と展開）について	前時に課された事前課題を行い提出すること。 （90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。 （90分）
6	日本の教育制度と行政について	前時に課された事前課題を行い提出すること。 （90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。 （90分）
7	主要国の学校制度と教育改革について	前時に課された事前課題を行い提出すること。 （90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。 （90分）
8	学校と教師について	前時に課された事前課題を行い提出すること。 （90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。 （90分）
9	教育の内容及び教育課程について	前時に課された事前課題を行い提出すること。 （90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。 （90分）
10	教育の方法と技術について	前時に課された事前課題を行い提出すること。 （90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。 （90分）
11	道徳教育、特別活動の原理と方法について	前時に課された事前課題を行い提出すること。 （90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。 （90分）
12	総合的な学習の時間の原理と方法について	前時に課された事前課題を行い提出すること。 （90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。 （90分）
13	外国語活動の原理と方法について	前時に課された事前課題を行い提出すること。 （90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。 （90分）
14	生徒指導と教育相談・キャリア教育と進路指導について	前時に課された事前課題を行い提出すること。 （90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。 （90分）
15	特別支援教育の原理と方法について 授業改善アンケートの実施	前時に課された事前課題を行い提出すること。 （90分）	前15回の学修内容を復習すること。（90分）
16	70分の試験終了後、残りの20分で解説を行う。	前15回の学修内容を復習すること。（90分）	試験を振り返り、自分の学修姿勢を評価すること。 （90分）

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択（教職課）
科目名称	教育原理（S） （科目ナンバリング：EDU121069，EDU241094，EDU341090，E DU441092，EDU541099）				
授業担当者（所属・職名）	西崎 毅（社会福祉学科・特任教授）	研究室等所在	2号館6階		
単位数	2（単位認定責任者：西崎 毅）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	高等学校や教育行政における勤務経験を活かして教育原理に関連する諸事項を講義する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照				

概要

履修目標

教職に必要な知識や技能のうち、教育の基本概念をはじめ、教育を成り立たせている要素と相互関係、教育及び学校の発達、学校教育の諸分野に関する基礎的事項を身に付ける。教職に必要な思考力・判断力・表現力等の能力及び主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を身に付ける。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP（2）（4）（5）に対応する。

到達目標

授業のテーマについて考え、根拠を示しながら自分の意見をまとめ、他者と意見交換をしたり発表したりすることができる。

授業全体の内容と概要

各回のテーマに基づき必要な事項を講義するとともに、主体的・対話的で深い学びを実現するため、テーマに関連する事項に関して思考・考察、意見交換、発表等の一連の活動を行う。教育に関する内容は複数のテーマにかかわることが多いため、シラバスに示した学修内容を再構成し15回の授業全体を通して学修を完結する形とする場合がある。このため、各授業の冒頭において、当該の授業内容とシラバス上の授業テーマとの関連を明示する。「SDG4.質の高い教育をみんなに」の関連科目

授業の方法

各回のテーマに関してプレゼンテーションソフトウェア及びプリント等を使用して説明を行う。各回のテーマに基づき必要な事項を講義するとともに、主体的・対話的で深い学びを実現するため、テーマに関連する事項に関して、グループワークを中心として思考・考察、意見交換、発表等の一連の活動を行う。課題については、観点別の評価とコメントによりフィードバックを行う。要望については口頭及びメール等で対応する。Microsoft Teams/Formsの諸機能を活用し、意見交換、質問、小テスト、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

思考・考察、討論・発表等の活動を行うので、積極的に参加すること。  
 ○講義の前夜に行う学修課題を課しますので真剣に取り組むこと。  
 プリント類は、ファイル等に綴って適切に管理し、学修に役立てること。  
 欠席した場合は、Microsoft Teamsからプリント等を入手すること。  
 講義中の私語・居眠り等は厳に慎むこと。  
 講義中は特に指示がない場合にはスマートフォンをカバン等の中に格納すること。  
 講義では質問を行うため、居席を指定する。  
 講義開始時間までに用便を済ませておくこと。  
 30分以上の「遅刻」は、「欠席」扱いとする。  
 学修に向かう姿勢及び課題はすべて点数化・集積し評価点とする。  
 評価Sは履修者の10%以内、評価SとAを合わせて40%以内が目安となっている。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（全教科）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な出席回数は13回。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	0%	0%	0%	40%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあたるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	定期テストで9割以上の得点を上げた。	定期テストで8割以上の得点を上げた。	定期テストで7割以上の得点を上げた。	定期テストで6割以上の得点を上げた。	定期テストの得点が6割未満であった。
思考の深さ	右の記述を高いレベルで実現した。	与えられた思考テーマについて、既に学修した知識や自らの経験等と関連させながら深く多面的に考え、根拠を明らかにしながら、論理的に自分の意見をまとめることができた。	与えられた思考テーマについて多面的に考え、根拠を示しながら論理的に自分の意見をまとめることができた。	与えられた思考テーマについて自分の意見をまとめてはいるが、根拠の記述や論理性に課題があった。	与えられた思考テーマについて記述しているが、思考テーマの意味のとらえが不十分であり、期待される最低限の基準に到達することができなかった。
判断的的確性	右の記述を高いレベルで実現した。	与えられた思考テーマの意味を的確にとらえ、期待されるすべての論点に言及し、各論点について論理を明確にししながら自分の意見をまとめることができた。	与えられた思考テーマの意味をとらえているが、期待されるすべての論点には言及できなかった。言及した論点については論理を明確にししながら自分の意見をまとめることができた。	与えられた思考テーマについて自分の意見をまとめているが、思考テーマの意味のとらえに課題があり、期待される論点に十分には言及できなかった。	与えられた思考テーマについて記述しているが、思考テーマの意味のとらえが不十分であり、期待される最低限の基準に到達することができなかった。
表現の適切性	右の記述を高いレベルで実現した。	他の成員の意見の趣旨を的確にとらえ、簡潔にまとめて記述した。誤字脱字が少なく、丁寧に書くことができた。各欄の記述の分量が期待される分量の9割を超えた。	他の成員の意見の趣旨を簡潔にとらえ、簡潔にまとめて記述することができた。誤字脱字が少なく、各欄の記述の分量が期待される分量の7割程度であった。	他の成員の意見を記述しているが、その趣旨を十分にまとめ切れなかった。誤字脱字が多かった。各欄の記述の分量が期待される分量の3割程度であるなど、期待される最低限の基準に到達することができなかった。	他の成員の意見を記述しているが、内容が極めて不十分であった。誤字脱字が多かった。各欄の記述の分量が期待される分量の3割程度であるなど、期待される最低限の基準に到達することができなかった。
主体性・協働性	右の記述を高いレベルで実現した。	他の成員と積極的に意見交換を行った。他の成員の意見を十分に理解し、自分の感想等を記述することができた。自分の意見と異なる他の成員の意見に対して疑問点や反論等を記述し、見聞が広がった。	他の成員と意見交換しているが、特段積極性は見られなかった。他の成員の意見を十分に理解し、自分の感想等を記述することができた。自分の意見と異なる他の成員の意見に対して疑問点や反論等を記述し、見聞が広がった。	他の成員と意見交換しているが、消極的であった。他の成員の意見の理解が極めて不十分であった。自分の感想等を記述しているが、表面的なものにとどまった。	他の成員との意見交換に消極的であった。他の成員の意見の理解が極めて不十分であった。自分の感想等を記述しているが、期待される最低限の基準に到達することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択（教職課）
科目名称	教育原理（S） （科目ナンバリング：EDU121069，EDU241094，EDU341090，E） DU441092，EDU541099）				
授業担当者（所属・職名）	西崎 毅（社会福祉学科・特任教授）	研究室等所在	2号館6階		
単位数	2（単位認定責任者：西崎 毅）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	高等学校や教育行政における勤務経験を活かして教育原理に関連する諸事項を講義する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『最新教育原理 改訂2版』	安彦忠彦ほか	勁草書房	2020	9784326251421	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション（シラバスの説明含む） 教育の目的と本質について 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを確認して学修の心構えを、持つこと。 （90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。 （90分）
2	教育と人間の成長・発達について	前時に課された事前課題を行い提出すること。 （90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。 （90分）
3	社会の変動と教育について	前時に課された事前課題を行い提出すること。 （90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。 （90分）
4	日本の教育（歴史と展開）について	前時に課された事前課題を行い提出すること。 （90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。 （90分）
5	世界の教育（歴史と展開）について	前時に課された事前課題を行い提出すること。 （90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。 （90分）
6	日本の教育制度と行政について	前時に課された事前課題を行い提出すること。 （90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。 （90分）
7	主要国の学校制度と教育改革について	前時に課された事前課題を行い提出すること。 （90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。 （90分）
8	学校と教師について	前時に課された事前課題を行い提出すること。 （90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。 （90分）
9	教育の内容及び教育課程について	前時に課された事前課題を行い提出すること。 （90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。 （90分）
10	教育の方法と技術について	前時に課された事前課題を行い提出すること。 （90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。 （90分）
11	道徳教育、特別活動の原理と方法について	前時に課された事前課題を行い提出すること。 （90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。 （90分）
12	総合的な学習の時間の原理と方法について	前時に課された事前課題を行い提出すること。 （90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。 （90分）
13	外国語活動の原理と方法について	前時に課された事前課題を行い提出すること。 （90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。 （90分）
14	生徒指導と教育相談・キャリア教育と進路指導について	前時に課された事前課題を行い提出すること。 （90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。 （90分）
15	特別支援教育の原理と方法について 授業改善アンケートの実施	前時に課された事前課題を行い提出すること。 （90分）	前15回の学修内容を復習すること。（90分）
16	70分の試験終了後、残りの20分で解説を行う。	前15回の学修内容を復習すること。（90分）	試験を振り返り、自分の学修姿勢を評価すること。 （90分）

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	課程必修
科目名称	社会科・地理歴史科教 (科目ナンバリング: ESS143155, )				
授業担当者(所属・職名)	塩崎 大輔(社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	未定		
単位数	2 (単位認定責任者: 塩崎 大輔)	CAP制	×		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

中学校社会科および高等学校地理歴史科の目標および学習指導要領に示された学習内容について理解し、授業計画を作成・研究することができる能力を身に付け、教壇に立てるだけの最低限のスキルを身につける。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP(4)(5)に対応する。

到達目標

「社会科」・「地理歴史科」の目標および学習指導要領に示された学習内容について理解し、実際に教壇に立って授業を行うことができるように、授業計画を作成することや教壇に立てるだけの最低限のスキルを身につけ、教材研究ができる。

授業全体の内容と概要

教育実習の準備として、基本的な教科の理解及び教科の授業計画、教材研究、模擬授業(後期)等をマスターするので、教員の立場として物事を考えることが望まれる。前期は、社会・地理歴史科の基礎的な内容を学修して教材研究の方法を学び、後期には実践的な模擬授業を実施する。  
「SDG4-質の高い教育をみんなに」の関連科目  
授業全体を通して、情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができるよう、具体的な指導を行う。

授業の方法

授業形態はスライドを用いた講義形式が中心であるが、グループ学習・ディスカッションも含まれる。また、指導案やレポート等は、コメントによりフィードバックを行う。なお、野外調査活動の一環として、地域のフィールドワークを行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

レポートは、指示した「レポート作成要領」に準拠したものを提出すること。  
教育実習の準備として、基本的な教科の理解及び教科の授業計画、模擬授業の方法等をマスターするので、教員の立場として物事を考えること。  
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(社会・地理歴史)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上である。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	30%	50%	0%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解	レポート課題において、9割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、8割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、7割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、6割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、6割以上の得点を取ることができなかった。
思考力・判断力・表現力	右の記述を高いレベルで実現できた。	ディスカッションの課題などで、論理的に自分の意見をまとめ、たいへんわかりやすく説明ができた。	ディスカッションの課題などで、自分の意見をまとめ、わかりやすく説明ができた。	ディスカッションの課題などで、自分の意見をまとめ、説明ができた。	ディスカッションの課題などで、自分の意見をまとめ、説明ができなかった。
関心・意欲・態度	右の記述を高いレベルで実現できた。	フィールドワークを通して、調査の観点に基づいて、詳細に観察し情報を集めることができた。	フィールドワークを通して、調査の観点に基づいて、観察し情報を集めることができた。	フィールドワークを通して、調査の観点に基づいて、観察し情報を集めることができた。	フィールドワークを通して、調査の観点に基づいて、観察し情報を集めることができなかった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	課程必修
科目名称	社会科・地理歴史科教 (科目ナンバリング: ESS143155, )				
授業担当者(所属・職名)	塩崎 大輔(社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	未定		
単位数	2 (単位認定責任者: 塩崎 大輔)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『中学校学習指導要領解説 社会編』	文部科学省	東洋館出版社	2018	9784491034713	
2	『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』	文部科学省	東洋館出版社	2019	9784491036410	
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明、授業の内容・進め方・評価方法のガイダンス 前年度の授業改善アンケート結果反映の説明	事前にシラバスを読んでいること。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
2	社会科教育の歴史(1)戦後教育の歩みについて	事前にテキストの範囲を読んでいること。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
3	社会科教育の歴史(2)学習指導要領改訂の経過について	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	レポート課題等を作成すること。(90分)
4	社会科・地理歴史科の目標分析	事前にテキストの範囲を読んでいること。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
5	社会科・地理歴史科の目標分析	事前にテキストの範囲を読んでいること。(90分)	レポート課題等を作成すること。(90分)
6	社会科・地理歴史科の構造	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
7	社会科・地理歴史科の構造	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	レポート課題等を作成すること。(90分)
8	社会科・地理歴史科教育の方法 ディスカッション	ディスカッションの準備学習をしておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
9	社会科・地理歴史科教育の方法 ディスカッション	ディスカッションの準備学習をしておくこと。(90分)	レポート課題等を作成すること。(90分)
10	中学校社会科地理分野の指導について	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
11	中学校社会科歴史分野の指導について	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
12	中学校社会科地理分野の授業	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	レポート課題等を作成すること。(90分)
13	中学校社会科歴史分野の授業	前回の授業内容を復習しておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
14	フィールドワーク 郷土資料館	フィールドワークの準備学習をしておくこと。(90分)	レポート課題等を作成すること。(90分)
15	フィールドワーク 土地利用・地形等の巡検	フィールドワークの準備学習をしておくこと。(90分)	今回の授業内容を復習しておくこと。(90分)
16	まとめ、課題(レポートなど)の解説 授業改善アンケートの実施	まとめの準備(90分)	まとめの振り返り(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	更生保護制度 (科目ナンバリング: SWS112021)				
授業担当者(所属・職名)	西野 克俊(社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 西野 克俊)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神科医療機関における実務経験がある教員がその経験を活かして、医療観察法等の基礎となる知識等習得のための指導をする。		
オフィスアワー	研究室前の掲示板等を参照				

概要

履修目標
------

今日求められている社会福祉と更生保護の連携強化を視野に、ソーシャルワーカーに必要とされる更生保護制度に関する知識・役割について理解を深める。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP(1)(2)(3)(5)に対応する。

到達目標

更生保護制度の意義と仕組みを説明できる。  
更生保護制度を通じてソーシャルワーカーが担うべき役割を考えることができる。  
わが国の更生保護制度の現状と課題について自らの意見を示すことができる。

授業全体の内容と概要

刑事司法における更生保護の仕組みを学ぶとともに、犯罪をした者や非行のある少年に対する社会のなかでの処遇に関するソーシャルワーカーの関わりを考える。  
「SDG1.貧困をなくそう」、「SDG10.人や国の不平等をなくそう」の関連授業

授業の方法

授業形態は講義形式で行う。  
テキスト及び配布資料を使用し、ポイントとすべき箇所は説明、板書を行う。  
質問等に関しては都度口頭にて説明を行い、必要に応じて資料を配布する。  
確認テストを実施し、解答回収後説明を行う。  
Microsoft Teams/Formsの諸機能を活用し、質問を受け付け、適宜教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

教科書は必ず持参すること。  
必要な資料等は適宜配布する。  
20分以上の遅刻・早退は欠席とみなす。  
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

社会福祉士国家試験受験資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な出席回数は5回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	0%	0%	0%	30%	10%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解	履修目標を超えて広く刑事司法と福祉に関する知識を理解できた。	社会福祉と更生保護の連携の必要性を視野にソーシャルワーカーに必要な更生保護に関する知識を理解できた。	社会福祉と更生保護の連携の必要性を知ることができた。	更生保護制度の意義と仕組みを説明することができた。	更生保護制度の意義と仕組みを説明することができなかった。
思考・判断	刑事司法と司法福祉のあり方について考えることができた。	保護観察官、社会復帰調整官の具体的業務について考えることができた。	更生保護におけるソーシャルワーカーの役割を考えることができた。	更生保護におけるソーシャルワーカーの役割を考えた姿勢を示した。	更生保護におけるソーシャルワーカーの役割を考えた姿勢を示せなかった。
関心・意欲	社会福祉と更生保護との連携について課題を提示することができた。	更生保護におけるソーシャルワーカーの役割について意見を述べることができた。	更生保護制度の現状を踏まえその課題について考える姿勢を示した。	更生保護制度の現状について自分の意見を述べることができた。	更生保護制度の現状について考える姿勢を示せなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	更生保護制度 (科目ナンバリング: SWS112021)				
授業担当者(所属・職名)	西野 克俊(社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 西野 克俊)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神科医療機関における実務経験がある教員がその経験を活かして、医療観察法等の基礎となる知識等習得のための指導をする。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『新・社会福祉士養成講座20 更生保護制度 第4版』	社会福祉士養成講座編集委員会	中央法規出版	2017	978-4-8058-5433-4	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 近年の犯罪の特徴と社会内処遇の重要性 - 高齢者、	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
2	更生保護制度の概要(1) - 仮釈放, 保護観察, 生活環境の調整	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
3	更生保護制度の概要(2) - 更生緊急保護, 恩赦, 犯罪予防活動	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
4	更生保護制度の担い手 - 保護観察官, 保護司, 更生保護施設など	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
5	更生保護制度における関係機関・団体との連携	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
6	医療観察制度の概要	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
7	社会福祉と更生保護 - 更生保護の動向と課題 - 授業改善アンケートの実施	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
8	試験(60分の試験終了後、30分で解説をする)	全授業を振り返り試験に向けた準備(90分)	試験内容をふまえ授業全体を振り返る(90分)
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	臨床心理学 (科目ナンバリング: CLP122060)				
授業担当者(所属・職名)	蝦名 美穂(社会福祉学科・専任講師)		研究室等所在	未定	
単位数	2	(単位認定責任者: 蝦名 美穂)	CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	臨床心理士・公認心理師の資格を持ち、教育領域、福祉領域、司法・矯正領域、産業領域での臨床経験を踏まえて講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標
------

対人援助に必要な臨床心理学的知識を習得する。臨床心理学の発想を自分の日常の生活に結びつけて考えることができる。

授業の位置づけ
---------

社会福祉学部のDP(2)、(3)、(5)に対応する

到達目標
------

臨床心理学の成り立ちについて概説できる。  
乳幼児から青年期・成人期にかけての心身の問題について理解できる。  
心理臨床の諸理論の特徴や方法を理解し、臨床実践の基礎を理解できる。

授業全体の内容と概要
------------

臨床心理学の成り立ち、臨床心理学の代表的な基礎理論とアプローチの方法について解説する。また、臨床心理学実践を各領域事に紹介する。他の科目との重複があるかもしれないが、身近な問題の具体例を挙げ、理解を深められるよう、解説する。

授業の方法
-------

授業では、テキスト、パワーポイント、板書、配布資料等を適宜活用した講義形式で行う。  
内容によってはグループワークをすることがある。  
授業の終わりに質問や感想(リアクションシート)を提出する。質問は随時受け付ける。

アクティブラーニングの実施方法
-----------------

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
----------

授業の進行を妨害するような行為、他の受講者の迷惑となる行為を慎む。  
不測の事態が起きた際にはオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)
---------------

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目
--------

評価方法・基準

評価前提条件
--------

単位認定に必要な最低出席回数は星槎道都大学学生便覧に準ずる。  
授業の終わりに提出する感想(リアクションシート)等も評価の対象とする。

評価方法
------

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	70%	0%	0%	20%	10%

ルーブリック
--------

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解	授業で扱った内容について理解し、臨床心理学に関する用語の説明を資料等を見ずに説明することができた	授業で扱った内容について理解し、臨床心理学に関する用語の説明を資料等を見ずに説明することができた。	授業で扱った臨床心理学に関する用語の説明を資料等の中から採ることができるようにノートや資料がまとめられた。	授業で扱った臨床心理学の用語について、ノートにまとめることができた。	授業で扱った内容について、ノートにまとめることができなかった。
知識の応用	臨床心理学の知識を活用して、人の心のあり方について考え、そのメカニズムについて、資料も見ずに説明することができた。	臨床心理学の知識を活用して、人の心のあり方について考え、そのメカニズムについて、資料も見ながら説明することができた。	臨床心理学の知識を活用して、人の心のあり方について考えることができた。	臨床心理学の知識を活用して、人の心のあり方について多少考えることができた。	左記の内容が何一つすることができなかった。
授業に主体的に取り組む態度(リアクションシート含む)	授業内容に関心をもち、自身の授業態度について客観的に振り返ることができた。且つ、授業内容を振り返る感想だけでなく、疑問点を明確にすることができ、自分なりの考えを述べられた。	授業内容に関心をもち、自身の授業態度について客観的に振り返ることができた。且つ、授業内容を振り返る感想を述べ、疑問点を明確にすることができた。	授業内容に関心をもち、自身の授業態度について客観的に振り返ることができた。且つ、授業内容を振り返り感想を述べられた	授業内容を振り返り感想を述べられた。	左記の内容が何一つすることができなかった。



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	臨床心理学 (科目ナンバリング: CLP122060)				
授業担当者(所属・職名)	蝦名 美穂(社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	未定		
単位数	2 (単位認定責任者: 蝦名 美穂)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	臨床心理士・公認心理師の資格を持ち、教育領域、福祉領域、司法・矯正領域、産業領域での臨床経験を踏まえて講義を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『完全カラー図解よくわかる臨床心理学』	岩壁 茂	ナツメ社	2020	978-4-8163-6854-7	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明。臨床心理学とはどのような学問なのだろうか？	臨床心理学について調べる(90分)	授業で学ぶ内容について振り返る(90分)
2	不適応をどのように捉えるか？	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する(90分)
3	主な理論と歴史	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する(90分)
4	臨床心理学の活用	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する(90分)
5	心理学的支援の流れ：面接の流れ	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する(90分)
6	心理検査：パーソナリティ検査、知能検査	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する(90分)
7	心理検査：発達認知機能の検査、精神疾患の診断基準	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する(90分)
8	代表的な心理療法：精神分析的アプローチ、認知行動的アプローチ	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する(90分)
9	代表的な心理療法：ヒューマンスティックアプローチ、心理療法の新たな流れ	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する(90分)
10	心の問題の捉え方	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する(90分)
11	主な心理的障害について	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する(90分)
12	発達障害、児童虐待、DVについて	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する(90分)
13	各領域での活動 医療・保健領域、教育領域	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する(90分)
14	各領域での活動 福祉領域、産業・労働領域、司法・法務・警察領域	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する(90分)
15	職業倫理と職業的成長	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する(90分)
16	レポート作成についての説明。質疑応答。授業改善アンケートの実施。	レポート作成についての準備・疑問点の整理(90分)	レポート作成(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	
科目名称	アクションプログラム (科目ナンバリング: IRE322074)				
授業担当者(所属・職名)		研究室等所在			
単位数	1 (単位認定責任者: )	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー					

概要

履修目標

--

授業の位置づけ

--

到達目標

--

授業全体の内容と概要

--

授業の方法

--

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

--

修学サポート(合理的配慮)

--

資格指定科目

--

評価方法・基準

評価前提条件

--

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	
科目名称	アクションプログラム (科目ナンバリング: IRE322074)				
授業担当者(所属・職名)		研究室等所在			
単位数	1 (単位認定責任者: )	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・4年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	国際経営論 (科目ナンバリング: MAN423025, MAN523027)				
授業担当者(所属・職名)	岡島 徳昭(経営学科・特任教授)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 岡島 徳昭)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

国際経営の歴史的变化、全体像、国際経営の成果 課題について学ぶ。国際企業の社会的責任や役割、グローバル企業として成長していく為の質質を考える。

授業の位置づけ

経営学科のDP(1)(3)(4)に対応する。

到達目標

国際経営についての基礎的知識の修得。

授業全体の内容と概要

日本企業の国際経営について学び、実際の動きや将来の課題について考える。

授業の方法

板書、パワーポイントを用い、講義形式・学生参加型授業を行う。 中間テスト、定期試験の解説等のフィードバックを実施する。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

出席重視、テキスト持参  
不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(商業)選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

成績評価には10回以上の出席が必要です。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
40%	0%	0%	40%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
参加型授業への取り組み姿勢	大いに意欲・関心・興味を持って授業に参加していた。クラスでの発表も多く積極的だった。	意欲・関心・興味を持って授業に参加していた。クラスでの発表に努め積極的だった。	ある程度意欲・関心・興味を持って授業に参加していた。やや積極的だった。	あまり意欲・関心・興味を感じられなかった。無難に授業を消化していた。やや積極性に欠けていた。	全く意欲・関心・興味を感じられなかった。遅刻・欠席が目立った。積極性に欠けていた。
知識	試験の成績9割以上。用語・理論共によく理解していた。	試験の成績8割以上。用語・理論を理解していた。	試験の成績7割以上。用語・理論をある程度理解していた。	試験の成績6割以上。用語・理論の理解が浅かった。	試験の成績6割以下。用語・理論の理解ができていなかった。
思考力・表現力	思考力に長けている。表現方法も豊かで自分の考えを正確に伝えることができていた。	思考力・表現力共に良。自分の考えを適切に伝えることができていた。	思考力・表現力共に普通。自分の考えを伝えることができていた。	思考力・表現力共に若干弱かった。自分の考えを伝えるのに苦勞していた。	思考力・表現力共に弱い。自分の考えを正確に伝えることができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・4年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	国際経営論 (科目ナンバリング: MAN423025, MAN523027)				
授業担当者(所属・職名)	岡島 徳昭(経営学科・特任教授)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 岡島 徳昭)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『「はじめての国際経営」』	中川 功一, 林 正 他	有華閣スタジオ	2017	978-4-641-15017-1	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	授業全般、評価方法についてガイダンス(シラバスの説明) 国際経営とは何か	シラバスを読むこと。(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
2	国際経営とは何か 海外進出の理由	指定されたページを読み予習する。(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
3	海外直接投資の理論	指定されたページを読み予習する。(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
4	多国籍企業による国際競争の歴史 多国籍企業の栄枯盛衰	指定されたページを読み予習する。(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
5	多国籍企業による国際競争の歴史 第二次世界大戦前後	指定されたページを読み予習する。(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
6	多国籍企業の組織デザイン 組織デザインから見えること	指定されたページを読み予習する。(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
7	多国籍企業の組織デザイン 多国籍企業の戦略と組織	指定されたページを読み予習する。(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
8	中間テスト 海外子会社の経営	指定されたページを読み予習する。(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
9	海外子会社の経営 海外子会社が担う多様な役割	指定されたページを読み予習する。(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
10	国際マーケティング マーケティングとは何か	指定されたページを読み予習する。(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
11	国際マーケティング 国際マーケティングのプロセス	指定されたページを読み予習する。(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
12	ものづくりの国際拠点展開 単独海外生産拠点の設立・運営	指定されたページを読み予習する。(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
13	ものづくりの国際拠点展開 国際生産ネットワーク	指定されたページを読み予習する。(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
14	国際的な人的資源管理 グローバル人材の時代	指定されたページを読み予習する。(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
15	国際的な人的資源管理 海外駐在員のマネジメント	指定されたページを読み予習する。(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
16	総合評価、定期試験60分、解説30分 授業改善アンケートの実施	指定されたページを読み予習する。(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	課程必修
科目名称	特別な教育的ニーズの理 (科目ナンバリング: SNE142161, SNE242109, SNE342102, SNE442104, SNE542113)				
授業担当者(所属・職名)	藤根 収(社会福祉学科・特任教授) 木村浩紀(社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 藤根 収)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場や教育行政における経験がある教員がその経験を活かして、今日的な教育課題(特別な教育的ニーズの理解と支援)についてオムニバスで指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標
小学校、中学校、高等学校、特別支援学校において、特別支援教育を推進するために必要な基本的知識と障害の状況等に応じた指導のあり方等の実践的な知識を習得する。

授業の位置づけ
経営学科のDP(2)(4)に対応する。 社会福祉学科のDP(2)(4)(5)に対応する。 デザイン学科のDP(2)(4)に対応する。 建築学科のDP(2)(4)に対応する。

到達目標
特別支援教育制度の概要と特別支援学校の教育課程並びに個別的教育支援計画の作成の意義や学習指導要領、特別支援教育コーディネーターの設置義務とその役割等、特別支援教育の推進について理解することができる。併せて、各障害の特性に即した自立活動の在り方について理解することができる。

授業全体の内容と概要
各回のテーマに基づき必要な事項を講義するとともに、特別支援教育の意義や目的、実践等について、主体的・対話的で深い学びを通して、理解を深められるようテーマに関連する事項に関して考察、意見交換、発表等の一連の活動を行う。また、具体的な事例をとおして理解を深められるよう、パソコンや映像等の視聴覚教材などのICTを活用し総合的に構成する。 『SDGs4・質の高い教育をみんなに』の関連科目

授業の方法
授業は、パワーポイント及び教科書、配布物(レジメ)を活用して実施し、資料にて説明した後、グループワーク等で思考・考察、意見交換、討論、発表等一連の活動を行う。グループワークにてグループ発表を行うとともに、レポート提出(1回)を行う。なお、グループ発表やレポートにはコメントにてフィードバックする。ICT活用に関しては、授業についての質問などをチャット形式などの支援システムで迅速に回答する。

アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td>○</td> <td>プレゼンテーション</td> <td>○</td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模範授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL		模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業	○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	

履修上の注意事項
教職課程登録者を対象にした科目であり、全学科同一クラスで授業を行う。 20分以上の遅刻は欠席、遅刻3回で欠席1回とみなす。 教職を目指す学生としてふさわしい受講態度で履修すること。 不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目
教職課程(全教科)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件												
単位認定に必要な最低出席回数は10回以上。												
評価方法												
<table border="1"> <thead> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>70%</td> <td>10%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>20%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	70%	10%	0%	0%	20%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
70%	10%	0%	0%	20%	0%							

ルーブリック																													
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>特別支援教育の基礎的な知識・技能の習得</td> <td>知識・技能の基礎的な内容について高い関心をもって理解し、さらに深めることができた。</td> <td>知識・技能の基礎的な内容について、関心をもって理解し、学修できた。</td> <td>知識・技能の基礎的な内容について理解し、学修することができた。</td> <td>知識・技能の基礎的な内容について一定程度理解することができた。</td> <td>知識・技能の基礎的な内容について理解ができなかった。</td> </tr> <tr> <td>特別支援教育に関する思考・判断・表現</td> <td>テーマに基づき、積極的に思考・判断し、個人やグループで工夫して積極的に表現できた。</td> <td>テーマに基づき、思考・判断し、個人やグループで意欲的に表現できた。</td> <td>テーマに基づき、思考・判断し、個人やグループで表現できた。</td> <td>テーマに基づき、思考・判断し、個人やグループで表現しようとした。</td> <td>テーマの受け止めが不十分で思考・判断・表現が十分でなかった。</td> </tr> <tr> <td>授業への参加態度・姿勢</td> <td>授業にとっても積極的に参加することができた。</td> <td>授業に積極的に参加することができた。</td> <td>授業に関心をもって参加することができた。</td> <td>授業に一定程度関心をもって参加できた。</td> <td>授業への参加態度・姿勢が不十分だった。</td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	特別支援教育の基礎的な知識・技能の習得	知識・技能の基礎的な内容について高い関心をもって理解し、さらに深めることができた。	知識・技能の基礎的な内容について、関心をもって理解し、学修できた。	知識・技能の基礎的な内容について理解し、学修することができた。	知識・技能の基礎的な内容について一定程度理解することができた。	知識・技能の基礎的な内容について理解ができなかった。	特別支援教育に関する思考・判断・表現	テーマに基づき、積極的に思考・判断し、個人やグループで工夫して積極的に表現できた。	テーマに基づき、思考・判断し、個人やグループで意欲的に表現できた。	テーマに基づき、思考・判断し、個人やグループで表現できた。	テーマに基づき、思考・判断し、個人やグループで表現しようとした。	テーマの受け止めが不十分で思考・判断・表現が十分でなかった。	授業への参加態度・姿勢	授業にとっても積極的に参加することができた。	授業に積極的に参加することができた。	授業に関心をもって参加することができた。	授業に一定程度関心をもって参加できた。	授業への参加態度・姿勢が不十分だった。
評価項目		評価基準																											
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
特別支援教育の基礎的な知識・技能の習得	知識・技能の基礎的な内容について高い関心をもって理解し、さらに深めることができた。	知識・技能の基礎的な内容について、関心をもって理解し、学修できた。	知識・技能の基礎的な内容について理解し、学修することができた。	知識・技能の基礎的な内容について一定程度理解することができた。	知識・技能の基礎的な内容について理解ができなかった。																								
特別支援教育に関する思考・判断・表現	テーマに基づき、積極的に思考・判断し、個人やグループで工夫して積極的に表現できた。	テーマに基づき、思考・判断し、個人やグループで意欲的に表現できた。	テーマに基づき、思考・判断し、個人やグループで表現できた。	テーマに基づき、思考・判断し、個人やグループで表現しようとした。	テーマの受け止めが不十分で思考・判断・表現が十分でなかった。																								
授業への参加態度・姿勢	授業にとっても積極的に参加することができた。	授業に積極的に参加することができた。	授業に関心をもって参加することができた。	授業に一定程度関心をもって参加できた。	授業への参加態度・姿勢が不十分だった。																								

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	課程必修
科目名称	特別な教育的ニーズの理 (科目ナンバリング: SNE142161, SNE242109, SNE342102, SNE442104, SNE542113)				
授業担当者(所属・職名)	藤根 収(社会福祉学科・特任教授) 木村浩紀(社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 藤根 収)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 学校現場や教育行政における経験がある教員がその経験を活かして、今日的な教育課題(特別な教育的ニーズの理解と支援)についてオムニバスで指導する。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『特別支援教育の基礎・基本 2020』	国立特別支援教育総合研究所	ジアース教育新社	2020	978-4-86371-548-6	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『特別支援学校学習指導要領 小学部・中学部(平成29年4月告示)』	文部科学省	海文堂出版	2018	978-4-303-12424-3	
2	『特別支援学校学習指導要領 高等部(平成31年2月告示)』	文部科学省	海文堂出版	2019	978-430312427	
3	『特別支援教育基本用語100』	上野一彦・緒方明子・柘植正義	明治図書	2014	978-4181085	
4	『特別支援学校学習指導要領解説 総則等編(幼稚園部・小学部・中学部)』	文部科学省	開隆堂	2018	978-4-304-04229-4	
5	『特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編(幼稚園部・小学部・中学部)』	文部科学省	開隆堂	2018	978-4-304-04231-7	

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	授業改善アンケート結果反映の説明とシラバスの説明、共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システムの構築について(藤根)	教科書から「インクルーシブ教育システム」についての課題を整理する(90分)	課題についてノートに整理し、シラバスで確認する(90分)
2	インクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進について(藤根)	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
3	特別支援教育の理念と基本的な考え方及び特別支援教育の対象について(藤根)	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
4	個別の教育支援計画の意義と活用について(藤根)	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
5	学習指導要領と教育課程の編成及び配慮事項について(藤根)	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
6	特別支援学校の教育の概要と教育課程の編成並びに指導について(木村)	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
7	自立活動の目標と内容について(木村)	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
8	特別支援教育コーディネーターの役割と求められる資質について(木村)	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
9	特別支援学校のセンター的な役割について(木村)	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
10	小学校、中学校等における特別支援教育について(藤根)	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
11	各障害に応じた教育1 - 視覚障害、聴覚障害について(木村)	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
12	各障害に応じた教育2 - 知的障害、肢体不自由、病弱・身体虚弱について(藤根)	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
13	各障害に応じた教育3 - 重複障害、言語障害、情緒障害について(木村)	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
14	各障害に応じた教育4 - 発達障害について(藤根)	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(90分)
15	障害のある子どもへのアセスメント 授業改善アンケートの実施(藤根)	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(90分)	重要な語句や内容の整理とレポートの作成(90分)
16	定期試験(60分の試験後、残りの30分で解説)	教科書等で講義内容を整理する(90分)	試験の結果を見直す(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	特別支援教育実習（事（科目ナンバリング：SNE123116））				
授業担当者（所属・職名）	木村 浩紀（社会福祉学科・特任教授） 、千葉 聡美（社会福祉学科・特任		研究室等所在	未定	
単位数	1	（単位認定責任者：木村 浩紀）	CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、教育実習について事前指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示板等を参照				

概要

履修目標
特別支援教育の趣旨や内容を理解するとともに、特別支援学校教諭一種免許状取得のために必要な教育実習の意義を理解する。模擬授業等の演習では、教育実習を見据え、学校現場で教壇に立つ教師の役割を意識して学ぶ。
授業の位置づけ
「社会福祉学科」のDP（2）（4）（5）に対応する。
到達目標
特別支援学校教育の概要や教育実習について理解し、障害のある子どもの教育活動や授業づくりに必要な基礎的な知識、技能、態度を身に付ける。

授業の位置づけ
「社会福祉学科」のDP（2）（4）（5）に対応する。
到達目標
特別支援学校教育の概要や教育実習について理解し、障害のある子どもの教育活動や授業づくりに必要な基礎的な知識、技能、態度を身に付ける。

到達目標
特別支援学校教育の概要や教育実習について理解し、障害のある子どもの教育活動や授業づくりに必要な基礎的な知識、技能、態度を身に付ける。
授業全体の内容と概要
特別支援学校教育の概要および授業の実際について理解できるとともに、学校の教育活動全般についても具体的な理解を図るようにする。 「SDG4・質の高い教育をみんなに」の関連授業。
授業の方法
授業はパワーポイント等の配布資料で実施するとともに、学生自らが考えた授業設計や指導案づくり、模擬授業等を実際の学校現場に近い内容で実施する。演習後にはコメントにてフィードバックする。また、夏季休暇等を活用して学校現場の見学や公開授業研究会等に参加させ、レポート提出を行う。なお、指導案やレポートにはコメントにてフィードバックする。

授業全体の内容と概要																								
特別支援学校教育の概要および授業の実際について理解できるとともに、学校の教育活動全般についても具体的な理解を図るようにする。 「SDG4・質の高い教育をみんなに」の関連授業。																								
授業の方法																								
授業はパワーポイント等の配布資料で実施するとともに、学生自らが考えた授業設計や指導案づくり、模擬授業等を実際の学校現場に近い内容で実施する。演習後にはコメントにてフィードバックする。また、夏季休暇等を活用して学校現場の見学や公開授業研究会等に参加させ、レポート提出を行う。なお、指導案やレポートにはコメントにてフィードバックする。																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td><input type="radio"/></td> <td>プレゼンテーション</td> <td><input type="radio"/></td> <td>グループワーク</td> <td><input type="radio"/></td> <td>フィールドワーク</td> <td><input type="radio"/></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td><input type="radio"/></td> <td>模擬授業</td> <td><input type="radio"/></td> <td>ロールプレイ</td> <td><input type="radio"/></td> <td>調査学習</td> <td><input type="radio"/></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td><input type="radio"/></td> <td>ディスカッション</td> <td><input type="radio"/></td> <td>実験・実習・実技</td> <td><input type="radio"/></td> <td>双方向授業</td> <td><input type="radio"/></td> <td>その他（授業の方法参照）</td> </tr> </table>	<input type="radio"/>	プレゼンテーション	<input type="radio"/>	グループワーク	<input type="radio"/>	フィールドワーク	<input type="radio"/>	PBL	<input type="radio"/>	模擬授業	<input type="radio"/>	ロールプレイ	<input type="radio"/>	調査学習	<input type="radio"/>	反転授業	<input type="radio"/>	ディスカッション	<input type="radio"/>	実験・実習・実技	<input type="radio"/>	双方向授業	<input type="radio"/>	その他（授業の方法参照）
<input type="radio"/>	プレゼンテーション	<input type="radio"/>	グループワーク	<input type="radio"/>	フィールドワーク	<input type="radio"/>	PBL																	
<input type="radio"/>	模擬授業	<input type="radio"/>	ロールプレイ	<input type="radio"/>	調査学習	<input type="radio"/>	反転授業																	
<input type="radio"/>	ディスカッション	<input type="radio"/>	実験・実習・実技	<input type="radio"/>	双方向授業	<input type="radio"/>	その他（授業の方法参照）																	

アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td><input type="radio"/></td> <td>プレゼンテーション</td> <td><input type="radio"/></td> <td>グループワーク</td> <td><input type="radio"/></td> <td>フィールドワーク</td> <td><input type="radio"/></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td><input type="radio"/></td> <td>模擬授業</td> <td><input type="radio"/></td> <td>ロールプレイ</td> <td><input type="radio"/></td> <td>調査学習</td> <td><input type="radio"/></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td><input type="radio"/></td> <td>ディスカッション</td> <td><input type="radio"/></td> <td>実験・実習・実技</td> <td><input type="radio"/></td> <td>双方向授業</td> <td><input type="radio"/></td> <td>その他（授業の方法参照）</td> </tr> </table>	<input type="radio"/>	プレゼンテーション	<input type="radio"/>	グループワーク	<input type="radio"/>	フィールドワーク	<input type="radio"/>	PBL	<input type="radio"/>	模擬授業	<input type="radio"/>	ロールプレイ	<input type="radio"/>	調査学習	<input type="radio"/>	反転授業	<input type="radio"/>	ディスカッション	<input type="radio"/>	実験・実習・実技	<input type="radio"/>	双方向授業	<input type="radio"/>	その他（授業の方法参照）
<input type="radio"/>	プレゼンテーション	<input type="radio"/>	グループワーク	<input type="radio"/>	フィールドワーク	<input type="radio"/>	PBL																	
<input type="radio"/>	模擬授業	<input type="radio"/>	ロールプレイ	<input type="radio"/>	調査学習	<input type="radio"/>	反転授業																	
<input type="radio"/>	ディスカッション	<input type="radio"/>	実験・実習・実技	<input type="radio"/>	双方向授業	<input type="radio"/>	その他（授業の方法参照）																	
履修上の注意事項																								
<ol style="list-style-type: none"> <li>常に障害のある子どもの前に立って指導する姿を想定して授業に臨むこと。</li> <li>4年生での特別支援学校の教育実習（事前・事後指導）の単位取得に必修科目であること。</li> <li>普段から障害児のある子どもの生活や教育に関する新聞記事やテレビ情報を収集すること。</li> <li>学習指導案作成にかかわる情報の収集に努め、教育実習に備えること。</li> <li>通年授業なので、下記の授業以外に特別支援学校の参観や研究授業等に参加するようにすること。</li> <li>模擬授業を行う際には、授業者以外は生徒役を实践して授業案の作成・授業展開等について学ぶこと。</li> <li>不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。</li> </ol>																								

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目
教職課程（特別支援）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件												
単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上。												
評価方法												
<table border="1"> <thead> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0%</td> <td>80%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>20%</td> </tr> </tbody> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	80%	0%	0%	0%	20%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	80%	0%	0%	0%	20%							

ルーブリック																													
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を越えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>特別支援教育の基礎的な知識・技能の理解</td> <td>知識・技能に関する基礎的な内容について高い関心をもって理解し、さらに深めて学ぶことができた。</td> <td>知識・技能に関する基礎的な内容について、関心をもって理解し、学ぶことができた。</td> <td>知識・技能に関する基礎的な内容を学ぶことができた。</td> <td>知識・技能に関する基礎的な内容について一定程度理解することができた。</td> <td>知識・技能に関する基礎的な内容の理解ができなかった。</td> </tr> <tr> <td>授業づくりに対する思考・判断・表現</td> <td>自ら授業づくりを構想し、創意工夫を凝らした指導案作成と模擬授業に積極的に取り組んだ。</td> <td>自ら授業づくりを構想し、指導案作成と模擬授業に積極的に取り組んだ。</td> <td>自ら授業づくりを構想し、指導案作成と模擬授業に取り組んだ。</td> <td>指導案作成と模擬授業に取り組んだ。</td> <td>指導案作成と模擬授業への取り組みが十分でなかった。</td> </tr> <tr> <td>授業や模擬授業への取り組み姿勢</td> <td>非常に積極的に取り組むことができた。</td> <td>積極的に取り組むことができた。</td> <td>関心をもって取り組むことができた。</td> <td>関心をもって取り組もうとした。</td> <td>取組態度・姿勢が不十分だった。</td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	特別支援教育の基礎的な知識・技能の理解	知識・技能に関する基礎的な内容について高い関心をもって理解し、さらに深めて学ぶことができた。	知識・技能に関する基礎的な内容について、関心をもって理解し、学ぶことができた。	知識・技能に関する基礎的な内容を学ぶことができた。	知識・技能に関する基礎的な内容について一定程度理解することができた。	知識・技能に関する基礎的な内容の理解ができなかった。	授業づくりに対する思考・判断・表現	自ら授業づくりを構想し、創意工夫を凝らした指導案作成と模擬授業に積極的に取り組んだ。	自ら授業づくりを構想し、指導案作成と模擬授業に積極的に取り組んだ。	自ら授業づくりを構想し、指導案作成と模擬授業に取り組んだ。	指導案作成と模擬授業に取り組んだ。	指導案作成と模擬授業への取り組みが十分でなかった。	授業や模擬授業への取り組み姿勢	非常に積極的に取り組むことができた。	積極的に取り組むことができた。	関心をもって取り組むことができた。	関心をもって取り組もうとした。	取組態度・姿勢が不十分だった。
評価項目		評価基準																											
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
特別支援教育の基礎的な知識・技能の理解	知識・技能に関する基礎的な内容について高い関心をもって理解し、さらに深めて学ぶことができた。	知識・技能に関する基礎的な内容について、関心をもって理解し、学ぶことができた。	知識・技能に関する基礎的な内容を学ぶことができた。	知識・技能に関する基礎的な内容について一定程度理解することができた。	知識・技能に関する基礎的な内容の理解ができなかった。																								
授業づくりに対する思考・判断・表現	自ら授業づくりを構想し、創意工夫を凝らした指導案作成と模擬授業に積極的に取り組んだ。	自ら授業づくりを構想し、指導案作成と模擬授業に積極的に取り組んだ。	自ら授業づくりを構想し、指導案作成と模擬授業に取り組んだ。	指導案作成と模擬授業に取り組んだ。	指導案作成と模擬授業への取り組みが十分でなかった。																								
授業や模擬授業への取り組み姿勢	非常に積極的に取り組むことができた。	積極的に取り組むことができた。	関心をもって取り組むことができた。	関心をもって取り組もうとした。	取組態度・姿勢が不十分だった。																								

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	特別支援教育実習（事（科目ナンバリング：SNE123116））				
授業担当者（所属・職名）	木村 浩紀（社会福祉学科・特任教授） 、千葉 聡美（社会福祉学科・特任		研究室等所在	未定	
単位数	1	（単位認定責任者：木村 浩紀）	CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、教育実習について事前指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『特別支援教育の基礎・基本 2020』	国立特別支援教育総合研究所	ジアース教育新社	2020	978-4-86371-548-6	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『特別支援学校学習指導要領』	文部科学省	海文堂出版	2018	978-4-303-12424-3	
2	『教育実習完璧ガイド』	宮崎 猛 小泉博明	小学館	2015	978-4-09-105015-1	
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション/シラバスの説明等	教育実習に臨む心構えを発表する準備をしておくこと。(90分)	オリエンテーションの重要事項を整理すること。(90分)
2	特別支援学校の教育実習の意義や目標	事前に意義や目標を調べておくこと。(90分)	授業内容の概要と課題等を整理すること。(90分)
3	教育実習の実際（挨拶、服従規律、注意点）	前時に学んだことを振り返り、発表できるようにすること。(90分)	授業内容の概要と課題等を整理すること。(90分)
4	実習のスケジュールと心構え	先輩等から聴取して、必要な準備やスケジュールを調べておくこと。(90分)	授業内容の概要と課題等を整理すること。(90分)
5	実習日誌の書き方、文章の書き方	実習日誌について内容や書き方などを調べておくこと。(90分)	授業内容の概要と課題等を整理すること。(90分)
6	特別支援学校教育の実際	特別支援学校児童生徒や教育課程等を調べておくこと。(90分)	授業内容の概要と課題等を整理すること。(90分)
7	学習指導案の作成（学習指導案の構成と要素）	学習指導案について内容や必要な要素などを調べておくこと。(90分)	授業内容の概要と課題等を整理すること。(90分)
8	学習指導案の作成（学習指導案の記入の方法1）	児童生徒の実態を踏まえた児童生徒の実態を踏まえた目標設定などを調べておくこと。(90分)	授業内容の概要と課題等を整理すること。(90分)
9	学習指導案の作成（学習指導案の記入の方法2）	学習指導案の作成の方法などを調べておくこと。(90分)	授業内容の概要と課題等を整理すること。(90分)
10	学習指導案の作成（学習指導案の記入の実際1）	対象児童生徒を想定して学習指導案について考えておくこと。(90分)	授業内容の概要と課題等を整理すること。(90分)
11	学習指導案の作成（学習指導案の記入の実際2）	必要な教材の準備、具体的な指導方法を考えること。(90分)	授業内容の概要と課題等を整理すること。(90分)
12	模擬授業の実際（各教科を合わせた指導）	対象児童生徒を想定して模擬授業の準備をしておくこと。(90分)	模擬授業の振り返りと課題等を整理すること。(90分)
13	模擬授業の実際（各教科等を合わせた指導）	対象児童生徒を想定して模擬授業の準備をしておくこと。(90分)	模擬授業の振り返りと課題等を整理すること。(90分)
14	模擬授業の実際（各教科等を合わせた指導）	対象児童生徒を想定して模擬授業の準備をしておくこと。(90分)	模擬授業の振り返りと課題等を整理すること。(90分)
15	模擬授業のまとめと今後の課題	模擬授業の反省点を明確にして発表できるように準備しておくこと。(90分)	模擬授業の振り返りと課題等を整理すること。(90分)
16	レポート（最終回において解説しフィードバックする。）	講義等の内容を整理しておくこと。(90分)	解説内容を整理すること。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	課程必修
科目名称	社会科・公民科教育法 (科目ナンバリング: ESS143153)				
授業担当者(所属・職名)	松下 守邦(社会福祉学科・教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 松下 守邦)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示板等を参照。 Teamsチーム(本科目)には、履修学生と授業者の履修相談について説明案内、連絡ツールを掲載する。				

概要

履修目標

授業の目的は、以下の2つが具体化内容である。  
 中学校社会科の公民的分野、高等学校公民科における資質育成のねらい、教科内容を学修する。  
 授業実践のための教材作成を学修する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP(2)(3)(5)に対応する。

到達目標

・社会福祉学の学科専攻領域をこえ、広く社会科学の専門性を理解し説明できる。  
 ・専門知をふまえて高等学校、中学校レベルの学習内容を抽出できる。  
 ・授業づくりは、「ここは重要だから、アンダーラインを引いておこうではない。学んだことを活用して他の事例についておなじことがいえるかを見つける」学びである。(編譯正業 2022:76)  
 ・公民的資質の育成にもとづく分析説明ができる。教科学習内容の概念的枠組みを説明できる。教材研究に主体的な取り組みができる。  
 下記ルーブリックの合格最低レベル(C)、到達目標にとどまることのないよう留意する。相対性と絶対性を動案するのでベストを尽くすこと。

授業全体の内容と概要

「SDG4、質の高い教育をみんなに」の関連科目。  
 公民科の教科目標と内容を把握し、学習指導理論をふまえ、デジタルコンテンツ、大学図書館等の資料を利用するうえで学術資料の信頼性と妥当性を確保し、現代社会における社会的現象等についての概念や理論を教材研究するため、公民科教科指導方法の基礎を学修する。  
 授業全体を通して、情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができるよう、具体的な指導を行う。

授業の方法

・前期10科目では、教材研究を主にこなう。講義形式と作業提出が学修の主になる。  
 ・文献読解、教材の取捨選択作業をこなう。(PBL 問題基礎型学習 プレゼンテーション)  
 ・教育機関HPを閲覧し実践資料を収集する。(AL; その他 情報機器利用)  
 ・授業中の作業課題報告と文献読解レポートは評価対象になる。  
 ・「課題に関する説明-課題に対するフィードバック」:各課題フィードバックを次の授業にて模範回答例が紹介されるので、次回の課題提出の改善材料として利用してほしい。  
 ・大学から交付される学生メールアドレスを使い、マイクロソフトTeams科目チャネル、Formsを学修利用する。パソコンスキル(レポート作成、準備学修の確認)として自覚し、自分の意見と異なる意見を統合させながら、学修経験を高めることとする。関心・意欲・態度  
 ・「要望等への対応方法」:授業の課題の取り組みなど質問、要望、相談は、随時、対応する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	○	PBL
	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

・教職課程科目(中社会・高校公民)必修。教材研究は、単に教えられたことを暗記し再現するものではなく、「深い理解、深い学習、深い関与」(松下佳代、2015)のアウトプットである。  
 ・新聞記事時事ニュースを収集する。「試験に出るところや楽して点を取る方法を伝える」ことではない「勉強の面白さを伝える」ための学修準備をする。  
 ・「社会科・公民科教育法」,「社会科・公民科教育法」は、順序性のある段階的履修が基本である。単独科目履修希望の場合、教員に事前相談してほしい。  
 ・「社会科・公民科教育法」,「社会科・公民科教育法」の指定テキストは共通のものである。  
 ・教職課程学生は、教員の立場に立つ行動がもたらされる。中学、高校時の公民系教材(教科書、ノート)を準備する。  
 ・授業関連情報コースバケットをマイクロソフトTeams科目チャネル、過去の科目情報は、大学HP教員個人ページにあるので参照すること。  
<https://www.seisadohts.ac.jp/~mmatsu/index.html>  
 ・不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。  
 高校教育までの支援をふまえ、本人とメニュー調整をおこないながら科目サポートを進めるので、授業開始前に授業者へ相談すること。

資格指定科目

教職課程(社会・公民)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

・単位認定のためには、授業第1回から第15回までに計10回以上の出席が必要になる。  
 ・文献読解(読解;文献要旨報告、文部省(2018)、プレゼンテーション;口頭発表をおこなう。学修のまとめとしてレポート作成提出する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	30%	60%	0%	10%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあたるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
テキスト資料により学修した知識を使い、収集した情報を分析し、理解することできる。情報分析力として学ぶことについて、複数の言葉で例をあげながら、自分の言葉でいかに説明ができた。	テキスト資料の要旨をていねいにまとめてあり、これまでの学修内容のいくつかを関連づけて適切にふまえている。新しく学ぶことについて、自分の言葉で説明ができた。	テキスト資料の要旨をまとめてあり、これまでの学修内容のいくつかを関連づけて、新しく学ぶことについて、自分の言葉で例をあげて説明ができた。	テキスト資料の要旨をまとめてあり、新しく学ぶことについて、自分の言葉で説明ができた。	テキスト資料の要旨は、改める余地があるが、まとめられている。新しく学ぶことについて、説明はできている。改める余地はあるが、自分の言葉で説明ができた。	テキスト資料の要旨をまとめる作業が難しい。新しく学ぶことについて、説明は難しく、知識・技能は修得できなかった。
文献資料の信頼性を保ちながら、学術概念を使って考察すること、客観的立場から社会的現象について論理的に分析表現をすることができる。思考力・判断力・表現力	課題に関連して、信頼性のある文献資料を複数選び、適切に引用している。新しく学ぶことは、自らの知見と既知の事項を整理して表現することができた。	課題に関連して、信頼性のある文献資料を選び、適切な手紙きで引用している。新しく学ぶことは、これまでのものと関連づけながら、論理的に表現ができた。	課題に関連して、信頼性のある文献資料を選び、引用している。新しく学ぶことは、これまでのものと関連づけながら表現ができた。	課題に関連して、改善の余地があるが、文献資料を適切に引用している。新しく学ぶことは、充分ではないが、これまでのものを関連づけて表現ができた。	課題に関連して、文献資料を選び、引用することが難しい。新しく学ぶことは、表現することが難しく、思考力・判断力・表現力は修得できなかった。
大学の学修環境を創造するメンバー(教職課程の教生)として自覚し、自分の意見と異なる意見を統合させながら、学修経験を高めることとする。関心・意欲・態度	大学生(教職課程の教生)としての役割と責任を自覚し、積極的、協同的に行動することができた。	大学生(教職課程の教生)としての役割は、おおむね理解しており、行動することができた。	大学生(教職課程の教生)としての役割は、基本的な行動をすることができた。	大学生(教職課程の教生)として自分の役割は、改善の余地があるが、行動することができた。	大学生(教職課程の教生)として自分の役割は、自らの理解して行動することが難しく、関心・意欲・態度はみられなかった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	課程必修
科目名称	社会科・公民科教育法 (科目ナンバリング: ESS143153)				
授業担当者(所属・職名)	松下 守邦(社会福祉学科・教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 松下 守邦)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『中学校社会 公民 ともに生きる』	成田 ほか	教育出版	2020		17教出公民902(中学検定済)
2	『詳述公共』	中村 ほか	実教出版	2021		7実教公民703(高校検定済教科)
3	『用語集 公共+政治・経済』	用語集「公共」編集委員会	清水書院	2022	9784389218737	
4	『中学校社会 指導スキル大全』	梅津正美	明治図書	2022	9784184522336	
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス; シラバスの説明、前年度本科目、授業改善アンケート結果反映の説明、公民科の教育目標と教科内容の基礎理解	シラバスをあらかじめ確認する。(90分)	今回の学習内容(テキスト、資料)を復習する。(90分)
2	中学校社会科と公民の資質	テキスト(中村正美:2022)、資料を予習する。(90分)	今回の学習内容(テキスト、資料)を復習する。(90分)
3	高等学校公民科と公民の資質	テキスト(中村正美:2022)、資料を予習する。(90分)	今回の学習内容(テキスト、資料)を復習する。(90分)
4	問題解決学習と課題解決学習	テキスト(中村正美:2022)、資料を予習する。(90分)	今回の学習内容(テキスト、資料)を復習する。(90分)
5	概念的枠組み、事実的知識と汎用的理論	テキスト(中村正美:2022)、資料を予習する。(90分)	授業1-5回学習整理する。(90分)
6	資料作成の概念	テキスト(中村正美:2022)、資料を予習する。(90分)	教育課程企画特別部会資料を確認する。(学習の浅さと深さ)(2015/03/24/1355105_07.pdf)(90分)
7	時案作成の概念	テキスト(中村正美:2022)、資料を予習する。(90分)	今回の学習内容(テキスト、資料)を復習する。(90分)
8	教科書の理解、学習指導要領と教科書	テキスト(検定教科書)、学習指導要領を予習する。(90分)	文科省HP 現行学習指導要領(本文、解説、資料等)を確認する。(90分)
9	教科書の理解、本文、図表、重要用語	テキスト(検定教科書)、学習指導要領を予習する。(90分)	今回の学習内容を復習する。図書情報館、専門辞典の確認(90分)
10	教科書の理解、中学校公民科の分野と高校公民の比較	テキスト(検定教科書)、学習指導要領を予習する。(90分)	学習課題(中学校、高校の教科書比較)作成提出する。(90分)
11	教科書の理解、高校公民同一教科各教科書の記述分析	テキスト(検定教科書)、学習指導要領を予習します。(90分)	学習課題(高校同一教科の教科書比較)を作成提出します。(90分)
12	教科書の理解、教科書と副教材資料集	テキスト(検定教科書)、学習指導要領を予習する。(90分)	今回の学習内容を復習する。教職センター資料の確認する。(90分)
13	教科書の理解、まとめ	テキスト(検定教科書)、学習指導要領を予習します。(90分)	授業6-13回の学習整理をします。(90分)
14	教育実践支援ICT、政府研究所HP、教育委員会HP	テキスト(中村正美:2022)、資料を予習する。(90分)	川嶋直KP法、YouTubeチャンネルKP法を学習する。(90分)
15	公民科の教育目標と学習内容の基礎理解、総括	テキスト(中村正美:2022)、資料を予習する。(90分)	授業全体の学習整理する。(90分)
16	本科目のまとめ(授業総括と学修の教員講評)授業改善アンケートの実施	全授業のまとめを準備する。(90分)	全授業を振り返り、学習内容の内省的レポートを期日までに提出する。(90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 社会科』	文部科学省	東京書籍	2018	9784491034713	
2	『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 公民科』	文部科学省	東洋館出版社	2019	9784487286331	
3	『ベストをつくす教育実習-強みを活かし実力を伸ばす』	岡井 美紀/遠藤野ゆり	有斐閣	2017	9784641174320	
4	『詳説政治・経済研究 第3版』	藤井剛	山川出版社	2016	9784634050242	
5	『高校の公共が1冊でしっかりわかる本』	吉見直倫	かいき出版	2022	9784761230609	

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	建築設計演習 (科目ナンバリング: APT323021)				
授業担当者(所属・職名)	君 興治(建築学科・特任准教授) 向井 正伸(建築学科・専任講師)		研究室等所在	2号館4階	
単位数	2 (単位認定責任者: 君 興治)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	建築事務所長としての経験から、設計者が考えた思考やアイデアが、見る人に伝わり、理解してもらえるような表現方法と工夫を、図面に反映させる。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整し研究室もしくはオンラインで対応。				

概要

履修目標

課題として、公共の小規模建築の計画・設計・作図を行う。土地、地域、利用者、建物の規模、をもとに、利用の目的やそれに合わせた動線計画を行う。本科目では、課題に合わせた平面計画をし、それを正しく作図し、プレゼンテーションする手法を学ぶ。

授業の位置づけ

建築学科のDP(2)(3)に対応する科目。

到達目標

小規模建築の主要条件、付帯条件を満たし、建築関係法規に則った計画に、設計者の考え方設計主旨を盛り込み、その内容をわかりやすく表現する建築計画とプレゼンテーションができる。

授業全体の内容と概要

RC壁式構造で低層集合住宅の計画とコンセプトを段階的に指導することで、設計者の意図をダイアグラム、パースもしくは模型を使い、伝わるような表現方法を修得する。提出後は、作品の発表会を行い、他の作品から多様な考えと自分の作品を比較し、学ぶ機会を設ける。  
「SDGs 1 2 つくる責任 つかう責任」  
「SDGs 1 1 住み続けられるまちづくりを」  
狭い視野での設計だけでなく町や地域を念頭にいた設計を指導する。

授業の方法

授業では、板書やICT(チームスを使用しながら、図面をオンライン上その場で液晶ペンタブレットで添削し、毎事業ごとに保存することで、授業の課題経過をデジタル的にの残し、振り返りの自習を実現する。)をしながら詳細図をもとに構造の考え方を説明し、双方向授業で実施する。また、授業中毎回、進行状況と中間指導を行い添削する。プレゼンテーションに対しては授業内で講評しフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

課題を構築するために、授業には必ず出席し、成果の提示と中間指導を受けなければならない。また、課題の説明等主要な説明は授業の最初に行われるため遅刻は厳禁とする。時間割上の授業時間内だけで図面を完成させることはむずかしいと思われるので、時間外、および自宅での製図が不可欠である。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

「建築士試験受験資格課程」選択科目、教職課程(工業)選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、12回以上。提出課題と受講態度との総合判定

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	70%	0%	30%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
小規模建築において、主要条件、付帯条件に則った計画ができていたか。	各種図面が適した計画であり、正しく作図することができていた。	各種図面の計画ができ、正しく作図することができていた。	各種図面を正しく作図することができていた。	各種図面を作図することができていた。	各種図面を作図することができなかった。
建築関係法規に則った計画ができていたか。	各種図面が適した計画であり、正しく作図することができていた。	各種図面の計画ができ、正しく作図することができていた。	各種図面を正しく作図することができていた。	各種図面を作図することができていた。	各種図面を作図することができなかった。
設計主旨に合った建築計画が出来ていたか。	各種図面が適した計画であり、正しく作図することができていた。	各種図面の計画ができ、正しく作図することができていた。	各種図面を正しく作図することができていた。	各種図面を作図することができていた。	各種図面を作図することができなかった。
初めてこの作品を見た人が理解しやすいプレゼンテーションで表現されていたか。	各種図面が適したデザインであり、正しく表現することができていた。	各種図面のデザインができ、正しく表現することができていた。	各種図面を正しく表現することができていた。	各種図面を表現することができていた。	各種図面を表現することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	建築設計演習 (科目ナンバリング: APT323021)				
授業担当者(所属・職名)	君 興治(建築学科・特任准教授) 向井 正伸(建築学科・専任講師)		研究室等所在	2号館4階	
単位数	2	(単位認定責任者: 君 興治)	CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 建築事務所所長としての経験から、設計者が考えた思考やアイデアが、見る人に伝わり、理解してもらえるような表現方法と工夫を、図面に反映させる。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『コンパクト建築設計資料集 第3版』 日本建築学会編	日 村田誠四郎	丸善株式会社	2005	9784621075098	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 授業の進め方 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読んでおくこと (90分)	プリントを読んで理解しておくこと(90分)
2	即日課題1 低層集合住宅計画 木構造	即日課題用低層集合住宅について考えをまとめる (90分)	即日課題の改善点をまとめ赤ペンで書き込む(90分)
3	即日課題2 低層集合住宅計画 RCラーメン構造	即日課題用低層集合住宅について考えをまとめる (90分)	即日課題の改善点をまとめ赤ペンで書き込む(90分)
4	即日課題3 低層集合住宅計画 RC壁式構造	即日課題用低層集合住宅について考えをまとめる (90分)	即日課題の改善点をまとめ赤ペンで書き込む(90分)
5	即日課題4 低層集合住宅計画 Sラーメン構造	即日課題用低層集合住宅について考えをまとめる (90分)	即日課題の改善点をまとめ赤ペンで書き込む(90分)
6	設計課題 低層集合住宅計画 RC壁式構造 (課題説明、集合住宅の解説)	課題について自分の考えを書面でまとめ提出する (90分)	設計課題で確定した内容をCAD等でデータとして保存する。(90分)
7	設計課題 低層集合住宅計画 RC壁式構造 (課題説明、集合住宅の解説)	課題について自分の考えを書面でまとめ提出する (90分)	設計課題で確定した内容をCAD等でデータとして保存する。(90分)
8	中間指導 コンセプトと全体計画 (エスキスチェック)	課題について自分の考えを書面でまとめ提出する (90分)	設計課題で確定した内容をCAD等でデータとして保存する。(90分)
9	中間指導 全体計画とランドスケープ (エスキスチェック)	課題について自分の考えを書面でまとめ提出する (90分)	設計課題で確定した内容をCAD等でデータとして保存する。(90分)
10	中間指導 ランドスケープと平面計画 (エスキスチェック)	課題について自分の考えを書面でまとめ提出する (90分)	設計課題で確定した内容をCAD等でデータとして保存する。(90分)
11	中間指導 平面計画と断面構成 (エスキスチェック)	課題について自分の考えを書面でまとめ提出する (90分)	設計課題で確定した内容をCAD等でデータとして保存する。(90分)
12	中間指導 平面計画と断面構成 (ダイアグラムについて)	課題について自分の考えを書面でまとめ提出する (90分)	設計課題で確定した内容をCAD等でデータとして保存する。(90分)
13	中間指導 模型とプレゼンテーション (模型の造り方 レイアウトチェック)	課題について自分の考えを書面でまとめ提出する (90分)	設計課題で確定した内容をCAD等でデータとして保存する。(90分)
14	中間指導 プレゼンテーション (レイアウトチェック)	課題について自分の考えを書面でまとめ提出する (90分)	設計課題で確定した内容をCAD等でデータとして保存する。(90分)
15	課題提出・講評会	提出課題の準備をしておくこと(90分)	他の学生の発表内容をまとめる(90分)
16	最終指導 プレゼンテーションの指導 解説し、フィードバック 授業改善アンケートの実施	講評会の内容からさらにどのようにプレゼンするか 考えておくこと(90分)	作品の調整、ポートフォリオに使用できるように プレゼンを行う(90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『矩形図で徹底的に学ぶ住宅設計「RC編」』	中山 繁信	オーム社	2016	9784274218828	
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科（ｽﾌﾟｰﾀﾞﾝｼﾞﾝｸﾞｺｰｽ以外）・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	観光マﾈｼﾞﾐﾝｸﾞ論 (科目ナンバリング：TOS422039)				
授業担当者(所属・職名)	五ノ井 壽一(経営学科・非常勤講師)	研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者：五ノ井 壽一)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	旅行業における実務経験を有する教員がその経験を活かし観光マネジメントについて講義する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。				

概要

<b>履修目標</b>																								
観光マネジメントの特性・重要性を理解し講師の経験を通して学ぶ。																								
<b>授業の位置づけ</b>																								
経営学科のDP(1)(3)(4)に対応する。																								
<b>到達目標</b>																								
観光産業の現状と課題を認識することで観光マネジメントの重要性を理解する。																								
<b>授業全体の内容と概要</b>																								
観光の概念と特徴を説明し、主な観光産業の歴史・特徴・現状等を紹介し観光学の基礎、観光ビジネスの基本知識を観光サービスの視点から解説していく。																								
<b>授業の方法</b>																								
授業は板書および教科書をもとに講義形式で行う。日々の授業において様々な質問や提案をするので自分なりの意見をすくままとめて発表すること。問いかけに対する答えや各種フィードバックは、その都度行ったり、講義で全体的に行ったりする。																								
<b>アクティブラーニングの実施方法</b>																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模範授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業	○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
<b>履修上の注意事項</b>																								
最低限の規則を守ること。教科書を必ず持参し欠席・遅刻は極力避けること。平常点を重視します。尚、不測の事態の際はオンライン授業を実施する場合があります。																								

<b>修学サポート(合理的配慮)</b>
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
<b>資格指定科目</b>

評価方法・基準

<b>評価前提条件</b>												
単位認定に必要な出席回数は、11回以上。出席率・授業参加度等の平常点、レポートの結果等を総合的に判断する。特に平常点を重視する。期限までにレポートの提出がなかったものは評価の対象としない。また、授業中のスマホ使用は厳にこれを慎むこと。												
<b>評価方法</b>												
<table border="1"> <thead> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0%</td> <td>70%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>30%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	70%	0%	0%	30%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	70%	0%	0%	30%	0%							

<b>ルーブリック</b>																													
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>観光産業の現状と課題の認識</td> <td>観光産業の現状と課題を十分に認識し、その認識に基づいて観光マネジメントの重要性を理解し、自身の意見を持つことができた。</td> <td>観光産業の現状と課題を十分に認識し、その認識に基づいて観光マネジメントの重要性を理解できた。</td> <td>観光産業の現状と課題を認識できた。</td> <td>観光産業の現状と課題の理解は十分ではないが、理解するために努めてはいった。</td> <td>観光産業の現状と課題が理解できておらず、理解する姿勢もみられなかった。</td> </tr> <tr> <td>レポートについて(思考力・判断力・表現力)</td> <td>極めて優れたレポートで到達目標を完全に達成した。</td> <td>優れたレポートで到達目標をほぼ達成した。</td> <td>妥当と認められるレポートで不十分な点は認められるものの到達目標を成した。</td> <td>合格を認められる最低限のレポートで到達目標の最低限は満たしていた。</td> <td>合格と認められる最低限のレポートに達しておらず、到達目標を充足していなかった。</td> </tr> <tr> <td>授業に対する積極性</td> <td>自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら授業に取り組み、余った時間をさらなる研究・理解に振り分けるなど、授業に対する積極性が顕著にみられた。</td> <td>積極的に授業に参加しており、不明点を質問するなど前向きな姿勢がうかがえた。</td> <td>積極性は乏しいものの、申し分なく授業に参加していた。</td> <td>最低限授業には参加していた。</td> <td>授業に参加していると言いが取り組みだった。</td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	観光産業の現状と課題の認識	観光産業の現状と課題を十分に認識し、その認識に基づいて観光マネジメントの重要性を理解し、自身の意見を持つことができた。	観光産業の現状と課題を十分に認識し、その認識に基づいて観光マネジメントの重要性を理解できた。	観光産業の現状と課題を認識できた。	観光産業の現状と課題の理解は十分ではないが、理解するために努めてはいった。	観光産業の現状と課題が理解できておらず、理解する姿勢もみられなかった。	レポートについて(思考力・判断力・表現力)	極めて優れたレポートで到達目標を完全に達成した。	優れたレポートで到達目標をほぼ達成した。	妥当と認められるレポートで不十分な点は認められるものの到達目標を成した。	合格を認められる最低限のレポートで到達目標の最低限は満たしていた。	合格と認められる最低限のレポートに達しておらず、到達目標を充足していなかった。	授業に対する積極性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら授業に取り組み、余った時間をさらなる研究・理解に振り分けるなど、授業に対する積極性が顕著にみられた。	積極的に授業に参加しており、不明点を質問するなど前向きな姿勢がうかがえた。	積極性は乏しいものの、申し分なく授業に参加していた。	最低限授業には参加していた。	授業に参加していると言いが取り組みだった。
評価項目		評価基準																											
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
観光産業の現状と課題の認識	観光産業の現状と課題を十分に認識し、その認識に基づいて観光マネジメントの重要性を理解し、自身の意見を持つことができた。	観光産業の現状と課題を十分に認識し、その認識に基づいて観光マネジメントの重要性を理解できた。	観光産業の現状と課題を認識できた。	観光産業の現状と課題の理解は十分ではないが、理解するために努めてはいった。	観光産業の現状と課題が理解できておらず、理解する姿勢もみられなかった。																								
レポートについて(思考力・判断力・表現力)	極めて優れたレポートで到達目標を完全に達成した。	優れたレポートで到達目標をほぼ達成した。	妥当と認められるレポートで不十分な点は認められるものの到達目標を成した。	合格を認められる最低限のレポートで到達目標の最低限は満たしていた。	合格と認められる最低限のレポートに達しておらず、到達目標を充足していなかった。																								
授業に対する積極性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら授業に取り組み、余った時間をさらなる研究・理解に振り分けるなど、授業に対する積極性が顕著にみられた。	積極的に授業に参加しており、不明点を質問するなど前向きな姿勢がうかがえた。	積極性は乏しいものの、申し分なく授業に参加していた。	最低限授業には参加していた。	授業に参加していると言いが取り組みだった。																								



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科（ｽｰﾊﾟｰﾏｼﾞﾝｸﾞｼﾞｮｲﾝﾄ以外）・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	観光マｼﾞﾝｸﾞ論（科目ナンバリング：TOS422039）				
授業担当者（所属・職名）	五ノ井 壽一（経営学科・非常勤講師）	研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2（単位認定責任者：五ノ井 壽一）	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容。旅行業における実務経験を有する教員がその経験を活かし観光マネジメントについて講義する。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『観光サービス論』	安田 亘宏	古今書院	2015	9784772231664	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『1からの観光事業論』	高橋一夫・柏木千春	碩学舎	2016	9784502172816	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスの説明・ガイダンス	シラバスを読んでおくこと（90分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（90分）
2	観光と観光サービス	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（90分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（90分）
3	観光の歴史	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（90分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（90分）
4	国内旅行	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（90分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（90分）
5	海外旅行	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（90分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（90分）
6	訪日外国人旅行	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（90分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（90分）
7	観光行政	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（90分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（90分）
8	観光ビジネス	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（90分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（90分）
9	旅行業ビジネス	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（90分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（90分）
10	宿泊業ビジネス	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（90分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（90分）
11	観光交通ビジネス	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（90分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（90分）
12	観光施設ビジネス	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（90分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（90分）
13	観光まちづくり	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（90分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（90分）
14	ニューツーリズム（1）	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（90分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（90分）
15	ニューツーリズム（2） 授業改善アンケートの実施	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（90分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（90分）
16	まとめ（レポート総評と解説）	講義を振り返り、質問事項等があれば整理しておくこと（90分）	講義全体をふりかえり、まとめておくこと（90分）

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	課程必修
科目名称	教育方法論 (M) (科目ナンバリング: EDU122118, EDU242105, EDU342099, E DU442101, EDU542110)				
授業担当者 (所属・職名)	藤根 収 (社会福祉学科・特任教授)		研究室等所在	2号館7階	
単位数	2 (単位認定責任者: 藤根 収)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、今日的な教育課題(教育方法論)について指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

教師のもつべき専門的教養の中核となる教育の方法と技術について、現実的な課題を整理しながら、実践的技術を解明するための知識を習得する。

授業の位置づけ

経営学科のDP(1)(2)(4)に対応する。

到達目標

児童生徒に正しい効果的な学び方を指導し、自ら学ぶ力をつけさせる方法論を会得し、具体的に述べる。

授業全体の内容と概要

各回のテーマに基づき必要な事項を講義するとともに、主体的・対話的で深い学びを実現するため、テーマに関連する事項に関して思考・考察・意見交換発表等の一連の活動を行う。内容は、教育論、児童生徒理解、カリキュラム、授業づくり、学力と教育評価等について扱う。授業全体を通して、情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができるよう、具体的な指導を行う。『SDG4:質の高い教育をみんなに』の関連科目。

授業の方法

教科書を輪読し、パワーポイント及び配布物資料で教科書の内容を確認するとともに、テーマに関する事項について、思考・考察、意見交換、討議、発表等の一連の活動を行うなどして、総合的に教育の方法を習得させる。グループワークにて発表及びレポート提出も行う。また、授業におけるICT活用についても講義の中で実践的に扱うとともに、質問等は、チャット形式などの支援システムで迅速に回答する。なお、グループワーク発表、レポートにはコメントにてフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法

<input type="radio"/>	プレゼンテーション	<input type="radio"/>	グループワーク	<input type="radio"/>	フィールドワーク	<input type="radio"/>	PBL
<input type="radio"/>	模範授業	<input type="radio"/>	ロールプレイ	<input type="radio"/>	調査学習	<input type="radio"/>	反転授業
<input type="radio"/>	ディスカッション	<input type="radio"/>	実験・実習・実技	<input type="radio"/>	双方向授業	<input type="radio"/>	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

教職を目指す学生としてふさわしい受講態度で履修すること。遅刻は3回で欠席1回とみなす。全学科同一クラスで授業を行うので、受講に当たっての注意事項を守ること。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(全教科)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は10回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	20%	0%	0%	0%	20%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
教育方法論の理解	教育方法論について学修した知識・技能を基盤に、さらに学修を深めようとする事ができた。	教育方法論について意欲的に学び、必要な知識・技能を理解することができた。	教育方法論についての知識・技能を理解できた。	教育方法論について、知識・技能を一定程度理解できた。	教育方法論について、理解ができなかった。
教育技術の思考・判断・表現	教育技術について積極的に思考・判断し、自ら表現することができた。	教育技術について思考・判断し、自ら表現することができた。	教育技術について、思考活動に取り組み、表現することができた。	教育技術について、一定程度思考活動に取り組み、表現しようとした。	教育技術について、思考・判断・表現について必要な取組ができなかった。
授業への参加態度・姿勢	授業にとっても積極的に参加することができた。	授業に積極的に参加することができた。	授業に関心をもって参加することができた。	授業への関心が一定程度みられた。	授業への参加態度が不十分だった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	課程必修
科目名称	教育方法論 (M) (科目ナンバリング: EDU122118, EDU242105, EDU342099, E DU442101, EDU542110)				
授業担当者(所属・職名)	藤根 収 (社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 藤根 収)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、今日的な教育課題(教育方法論)について指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『教育の方法と技術 第三版』	柴田義松・山崎準二編	学文社	2019	978-4-7620-2869-4	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『中学校学習指導要領(平成29年3月告示)』	文部科学省	東山書房	2018	978-4827815580	
2	『高等学校学習指導要領(平成30年3月告示)』	文部科学省	東山書房	2018	978-4827815672	
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション - シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明、教育方法論の概要	シラバスを確認しておくこと。(90分)	配布資料に基づき「教育方法論」について概念を確認すること。(90分)
2	教育方法論の歴史 ・ ソクラテス法、コメニウスの教授法の特徴、ルソーの教育方法上の位置ほか	指定した教科書の「問題1-5」を事前に読んでおくこと。(90分)	配布資料に基づき復習しておくこと。(90分)
3	教育方法論の歴史 ・ 20世紀初頭の教育運動、集団主義教育と総合技術教育の思想ほか	指定した教科書の「問題6-9」を事前に読んでおくこと。(90分)	配布資料に基づき復習しておくこと。(90分)
4	現代社会と教育	指定した教科書の「問題10-12」を事前に読んでおくこと。(90分)	配布資料に基づき復習しておくこと。(90分)
5	学校の現在と学校論	指定した教科書の「13-14」を事前に読んでおくこと。(90分)	配布資料に基づき復習しておくこと。(90分)
6	教育改革の内容	指定した教科書の「問題15-16」を事前に読んでおくこと。(90分)	配布資料に基づき復習しておくこと。(90分)
7	カリキュラム ・ 児童中心カリキュラム、学問中心カリキュラムほか	指定した教科書の「問題17-18」を事前に読んでおくこと。(90分)	配布資料に基づき復習しておくこと。(90分)
8	カリキュラム ・ 子どもの発達段階と教育との関係、「総合的な学習の時間」の意義と課題ほか	指定した教科書の「問題19-23」を事前に読んでおくこと。(90分)	配布資料に基づき復習しておくこと。(90分)
9	カリキュラム ・ 「教科書を教える」と「教科書で教える」、プログラム学習ほか	指定した教科書の「問題24-29」を事前に読んでおくこと。(90分)	配布資料に基づき復習しておくこと。(90分)
10	授業論(授業の構造、学習指導案、発問等)	指定した教科書の「問題30-35」を事前に読んでおくこと。(90分)	配布資料に基づき復習しておくこと。(90分)
11	授業改善と情報機器(ICT等)の活用	指定した教科書の「問題36-39」を事前に読んでおくこと。(90分)	配布資料に基づき復習しておくこと。(90分)
12	授業改善と視聴覚教材の活用	指定した教科書の「問題40-48」を事前に読んでおくこと。(90分)	配布資料に基づき復習しておくこと。(90分)
13	模擬授業(学習指導案、板書とノート指導、机間巡視)	指定した教科書の「問題49-54」を事前に読んでおくこと。(90分)	配布資料に基づき復習しておくこと。(90分)
14	学力と教育評価 ・ 相互評価と絶対評価、自己評価、「到達目標と学習目標	指定した教科書の「問題55-60」を事前に読んでおくこと。(90分)	配布資料に基づき復習しておくこと。(90分)
15	学力と教育評価 ・ 指導要領「障害のある児童生徒(発達障害など)の教育ほか	指定した教科書の「問題61」と配布資料を事前に読んでおくこと。(90分)	配布資料に基づき復習しておくこと。(90分)
16	定期試験(60分の試験終了後、残りの30分で解説)	指定した教科書や講義内容について整理しておくこと。(90分)	試験の結果を見直す。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	課程必修(教)
科目名称	教育方法論 (S) (科目ナンバリング: EDU122118, EDU242105, EDU342099, E DU442101, EDU542110)				
授業担当者(所属・職名)	藤根 収(社会福祉学科・特任教授)		研究室等所在	2号館7階	
単位数	2 (単位認定責任者: 藤根 収)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、今日的な教育課題(教育方法論)について指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標
------

教師のもつべき専門的教養の中核となる教育の方法と技術について、現実的な課題を整理しながら、実践的技術を解明するための知識を習得する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP(2)(4)(5)に対応する。

到達目標

児童生徒に正しい効果的な学び方を指導し、自ら学ぶ力をつけさせる方法論を会得し、具体的に述べる。

授業全体の内容と概要

各回のテーマに基づき必要な事項を講義するとともに、主体的・対話的で深い学びを実現するため、テーマに関連する事項に関して思考・考察、意見交換発表等の一連の活動を行う。内容は、教育論、児童生徒理解、カリキュラム、授業づくり、学力と教育評価等について扱う。授業全体を通して、情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができるよう、具体的な指導を行う。『SDG4:質の高い教育をみんなに』の関連科目。

授業の方法

教科書を輪読し、パワーポイント及び配布物資料で教科書の内容を確認するとともに、テーマに関する事項について、思考・考察、意見交換、討議、発表等の一連の活動を行うなどして、総合的に教育の方法を習得させる。グループワークにて発表及びレポート提出も行う。また、授業におけるICT活用についても講義の中で実践的に扱うとともに、質問等は、チャット形式などの支援システムで迅速に回答する。なお、グループワーク発表、レポートにはコメントにてフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法

<input type="radio"/>	プレゼンテーション	<input type="radio"/>	グループワーク	<input type="radio"/>	フィールドワーク	<input type="radio"/>	PBL
<input type="radio"/>	模範授業	<input type="radio"/>	ロールプレイ	<input type="radio"/>	調査学習	<input type="radio"/>	反転授業
<input type="radio"/>	ディスカッション	<input type="radio"/>	実験・実習・実技	<input type="radio"/>	双方向授業	<input type="radio"/>	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

教職を目指す学生としてふさわしい受講態度で履修すること。遅刻は3回で欠席1回とみなす。全学科同一クラスで授業を行うので、受講に当たっての注意事項を守ること。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(全教科)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は10回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	20%	0%	0%	0%	20%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
教育方法論の理解	教育方法論について学修した知識・技能を基礎に、さらに学修を深めようとする事ができた。	教育方法論について意欲的に学び、必要な知識・技能を理解することができた。	教育方法論についての知識・技能を理解できた。	教育方法論について、知識・技能を一定程度理解できた。	教育方法論について、理解ができなかった。
教育技術の思考・判断・表現	教育技術について積極的に思考・判断し、自ら表現することができた。	教育技術について思考・判断し、自ら表現することができた。	教育技術について、思考活動に取り組み、表現することができた。	教育技術について、一定程度思考活動に取り組み、表現しようとした。	教育技術について、思考・判断・表現について必要な取組ができなかった。
授業への参加態度・姿勢	授業にとっても積極的に参加することができた。	授業に積極的に参加することができた。	授業に関心をもって参加することができた。	授業への関心が一定程度みられた。	授業への参加態度が不十分だった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	課程必修(教)
科目名称	教育方法論(S) (科目ナンバリング: EDU122118, EDU242105, EDU342099, E DU442101, EDU542110)				
授業担当者(所属・職名)	藤根 収(社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 藤根 収)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、今日的な教育課題(教育方法論)について指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『教育の方法と技術 第三版』	柴田義松・山崎準二編	学文社	2019	978-4-7620-2869-4	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『中学校学習指導要領(平成29年3月告示)』	文部科学省	東山書房	2018	978-4827815580	
2	『高等学校学習指導要領(平成30年3月告示)』	文部科学省	東山書房	2018	978-4827815672	
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション - シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明、教育方法論の概要	シラバスを確認しておくこと。(90分)	配布資料に基づき「教育方法論」について概念を確認すること。(90分)
2	教育方法論の歴史 ・ ソクラテス法、コメニウスの教授法の特徴、ルソーの教育方法上の位置ほか	指定した教科書の「問題1-5」を事前に読んでおくこと。(90分)	配布資料に基づき復習しておくこと。(90分)
3	教育方法論の歴史 ・ 20世紀初頭の教育運動、集団主義教育と総合技術教育の思想ほか	指定した教科書の「問題6-9」を事前に読んでおくこと。(90分)	配布資料に基づき復習しておくこと。(90分)
4	現代社会と教育	指定した教科書の「問題10-12」を事前に読んでおくこと。(90分)	配布資料に基づき復習しておくこと。(90分)
5	学校の現在と学校論	指定した教科書の「13-14」を事前に読んでおくこと。(90分)	配布資料に基づき復習しておくこと。(90分)
6	教育改革の内容	指定した教科書の「問題15-16」を事前に読んでおくこと。(90分)	配布資料に基づき復習しておくこと。(90分)
7	カリキュラム ・ 児童中心カリキュラム、学問中心カリキュラムほか	指定した教科書の「問題17-18」を事前に読んでおくこと。(90分)	配布資料に基づき復習しておくこと。(90分)
8	カリキュラム ・ 子どもの発達段階と教育との関係、「総合的な学習の時間」の意義と課題ほか	指定した教科書の「問題19-23」を事前に読んでおくこと。(90分)	配布資料に基づき復習しておくこと。(90分)
9	カリキュラム ・ 「教科書を教える」と「教科書で教える」、プログラム学習ほか	指定した教科書の「問題24-29」を事前に読んでおくこと。(90分)	配布資料に基づき復習しておくこと。(90分)
10	授業論(授業の構造、学習指導案、発問等)	指定した教科書の「問題30-35」を事前に読んでおくこと。(90分)	配布資料に基づき復習しておくこと。(90分)
11	授業改善と情報機器(ICT等)の活用	指定した教科書の「問題36-39」を事前に読んでおくこと。(90分)	配布資料に基づき復習しておくこと。(90分)
12	授業改善と視聴覚教材の活用	指定した教科書の「問題40-48」を事前に読んでおくこと。(90分)	配布資料に基づき復習しておくこと。(90分)
13	模擬授業(学習指導案、板書とノート指導、机間巡視)	指定した教科書の「問題49-54」を事前に読んでおくこと。(90分)	配布資料に基づき復習しておくこと。(90分)
14	学力と教育評価 ・ 相互評価と絶対評価、自己評価、「到達目標と学習目標」	指定した教科書の「問題55-60」を事前に読んでおくこと。(90分)	配布資料に基づき復習しておくこと。(90分)
15	学力と教育評価 ・ 指導要領「障害のある児童生徒(発達障害など)の教育ほか」	指定した教科書の「問題61」と配布資料を事前に読んでおくこと。(90分)	配布資料に基づき復習しておくこと。(90分)
16	定期試験(60分の試験終了後、残りの30分で解説)	指定した教科書や講義内容について整理しておくこと。(90分)	試験の結果を見直す。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	デザイン学科、建築学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	課程必修(教)
科目名称	教育方法論 (D・A) (科目ナンバリング: EDU122118, EDU242105, EDU342099, E DU442101, EDU542110)				
授業担当者(所属・職名)	藤根 収(社会福祉学科・特任教授)		研究室等所在	2号館7階	
単位数	2 (単位認定責任者: 藤根 収)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、今日的な教育課題(教育方法論)について指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示板等を参照				

概要

履修目標
------

教師のもつべき専門的教養の中核となる教育の方法と技術について、現実的な課題を整理しながら、実践的技術を解明するための知識を習得する。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP(2)(4)に対応する。  
建築学科のDP(2)(4)に対応する。

到達目標

児童生徒に正しい効果的な学び方を指導し、自ら学ぶ力をつけさせる方法論を会得し、具体的に述べる。

授業全体の内容と概要

各回のテーマに基づき必要な事項を講義するとともに、主体的・対話的で深い学びを実現するため、テーマに関連する事項に関して思考・考察・意見交換発表等の一連の活動を行う。内容は、教育論、児童生徒理解、カリキュラム、授業づくり、学力と教育評価等について扱う。  
授業全体を通して、情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができるよう、具体的な指導を行う。  
SDG4「質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

教科書を輪読し、パワーポイント及び配布物資料で教科書の内容を確認するとともに、テーマに関する事項について、思考・考察・意見交換、討議、発表等の一連の活動を行うなどして、総合的に教育の方法を習得させる。グループワークにて発表及びレポート提出も行う。また、また、授業におけるICT活用については講義の中で実践的に扱うとともに、質問等は、チャット形式などの支援システムで迅速に回答する。なお、グループワーク発表、レポートにはコメントにてフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法

<input type="radio"/>	プレゼンテーション	<input type="radio"/>	グループワーク	<input type="radio"/>	フィールドワーク	<input type="radio"/>	PBL
<input type="radio"/>	模擬授業	<input type="radio"/>	ロールプレイ	<input type="radio"/>	調査学習	<input type="radio"/>	反転授業
<input type="radio"/>	ディスカッション	<input type="radio"/>	実験・実習・実技	<input type="radio"/>	双方向授業	<input type="radio"/>	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

教職を目指す学生としてふさわしい受講態度で履修すること。遅刻は3回で欠席1回とみなす。  
全学科を対象として実施するので、受講に当たっての注意事項を守ること。  
不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(全教科)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は10回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	20%	0%	0%	0%	20%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
教育方法論の理解	教育方法論について学修した知識・技能を基盤に、さらに学修を深めようとする事ができた。	教育方法論について意欲的に学び、必要な知識・技能を理解することができた。	教育方法論についての知識・技能を理解できた。	教育方法論について、知識・技能を一定程度理解できた。	教育方法論について、理解ができなかった。
教育技術の思考・判断・表現	教育技術について積極的に思考・判断し、自ら表現することができた。	教育技術について思考・判断し、自ら表現することができた。	教育技術について、思考活動に取り組み、表現することができた。	教育技術について、一定程度思考活動に取り組み、表現しようとした。	教育技術について、思考・判断・表現について必要な取組ができなかった。
授業への参加態度・姿勢	授業にとっても積極的に参加することができた。	授業に積極的に参加することができた。	授業に関心をもって参加することができた。	授業への関心が一定程度みられた。	授業への参加態度が不十分だった。



基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	デザイン学科、建築学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	課程必修(教)
科目名称	教育方法論(D・A) (科目ナンバリング: EDU122118, EDU242105, EDU342099, E DU442101, EDU542110)				
授業担当者(所属・職名)	藤根 収(社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 藤根 収)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、今日的な教育課題(教育方法)について指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『教育の方法と技術 第三版』	柴田義松・山崎準二編	学文社	2019	978-4-7620-2869-4	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『中学校学習指導要領(平成29年3月告示)』	文部科学省	東山書房	2018	978-4827815580	
2	『高等学校学習指導要領(平成30年3月告示)』	文部科学省	東山書房	2018	978-4827815672	
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション - シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明、教育方法論の概要	シラバスを確認しておくこと。(90分)	配布資料に基づき「教育方法論」について概念を確認すること。(90分)
2	教育方法論の歴史 ・ ソクラテス法、コメニウスの教授法の特徴、ルソーの教育方法上の位置ほか	指定した教科書の「問題1-5」を事前に読んでおくこと。(90分)	配布資料に基づき復習しておくこと。(90分)
3	教育方法論の歴史 ・ 20世紀初頭の教育運動、集団主義教育と総合技術教育の思想ほか	指定した教科書の「問題6-9」を事前に読んでおくこと。(90分)	配布資料に基づき復習しておくこと。(90分)
4	現代社会と教育	指定した教科書の「問題10-12」を事前に読んでおくこと。(90分)	配布資料に基づき復習しておくこと。(90分)
5	学校の現在と学校論	指定した教科書の「13-14」を事前に読んでおくこと。(90分)	配布資料に基づき復習しておくこと。(90分)
6	教育改革の内容	指定した教科書の「問題15-16」を事前に読んでおくこと。(90分)	配布資料に基づき復習しておくこと。(90分)
7	カリキュラム ・ 児童中心カリキュラム、学問中心カリキュラムほか	指定した教科書の「問題17-18」を事前に読んでおくこと。(90分)	配布資料に基づき復習しておくこと。(90分)
8	カリキュラム ・ 子どもの発達段階と教育との関係、「総合的な学習の時間」の意義と課題ほか	指定した教科書の「問題19-23」を事前に読んでおくこと。(90分)	配布資料に基づき復習しておくこと。(90分)
9	カリキュラム ・ 「教科書を教える」と「教科書で教える」、プログラム学習ほか	指定した教科書の「問題24-29」を事前に読んでおくこと。(90分)	配布資料に基づき復習しておくこと。(90分)
10	授業論(授業の構造、学習指導案、発問等)	指定した教科書の「問題30-35」を事前に読んでおくこと。(90分)	配布資料に基づき復習しておくこと。(90分)
11	授業改善と情報機器(ICT等)の活用	指定した教科書の「問題36-39」を事前に読んでおくこと。(90分)	配布資料に基づき復習しておくこと。(90分)
12	授業改善と視聴覚教材の活用	指定した教科書の「問題40-48」を事前に読んでおくこと。(90分)	配布資料に基づき復習しておくこと。(90分)
13	模擬授業(学習指導案、板書とノート指導、机間巡視)	指定した教科書の「問題49-54」を事前に読んでおくこと。(90分)	配布資料に基づき復習しておくこと。(90分)
14	学力と教育評価 ・ 相互評価と絶対評価、自己評価、「到達目標と方 向目標	指定した教科書の「問題55-60」を事前に読んでおくこと。(90分)	配布資料に基づき復習しておくこと。(90分)
15	学力と教育評価 ・ 指導要録、障害のある児童生徒(発達障害等)の教育ほか	指定した教科書の「問題61」と配布資料を事前に読んでおくこと。(90分)	配布資料に基づき復習しておくこと。(90分)
16	定期試験(60分の試験終了後、残りの30分で解説)	指定した教科書や講義内容について整理しておくこと。(90分)	試験の結果を見直す。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	技法・材料研究 (科目ナンバリング: AEA223060)				
授業担当者(所属・職名)	安田 祐造(デザイン学科・特任教授)	研究室等所在	2号館1階		
単位数	2 (単位認定責任者: 安田 祐造)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	50年近く画業に専念するなかで経験した課題を具体的に解説しながら指導に当たる。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照してください。				

概要

履修目標
洋画の技法として、油彩やエッグテンペラのみにとどまらず、この授業では他のテンペラや水彩などについても学修する。さらに支持体についてもより高度なもの製作方法を身につける。それぞれの技法や材料及び支持体製作についての知識や技術を身につけることにより、各々の履修生の感性や個性をより一層的確に表現することを目標とする。

授業の位置づけ
デザイン学科のDP(3)、(5)に対応する。

到達目標
油彩やエッグテンペラ、その他のテンペラ、水彩等の技法、それらの用材の特徴や使用法と管理の仕方などに習熟すること。また、新たな支持体づくりについても関心を高めること。そして各々の履修生が絵画制作をとおして自らを見つめる態度を養成することを目標とする。

授業全体の内容と概要
油彩やエッグテンペラとそれ以外の様々な技法や材料、新たな支持体について学修し、個々の履修者の判断で、表現の意図に照らし最も相応しい技法や絵具や展色剤などを用意し、それらの特徴を活かした制作を行えるようにする。また、客観的評価を得て自らの表現力を検証する意味で公募展にも挑む。

授業の方法
自らが選択した技法で自己表現する実技形式の授業で、自らが主体的に設定したテーマに則り表現した作品を創り上げることを課題とする。実習や視聴覚機器を活用するだけでなく、美術館や公募展の作品展覧等にも積極的に取り組む。授業担当者や他の履修生のみならず外部の人々からも批評や助言を得られるように環境を整え、より確かな自己実現に寄与させようとするものである。

アクティブラーニングの実施方法					
プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
模範授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
この授業を履修するに当たっては、間もなく卒業し社会に出ることを前提として、以後美術をとおして何が出来るかを模索するものでもあることを十分に認識したうえで履修すること。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件												
単位認定に必要な最低出席回数は22回以上。												
評価方法												
<table border="1"> <thead> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>70%</td> <td>0%</td> <td>30%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	0%	70%	0%	30%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	0%	70%	0%	30%	0%							

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間に達するレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
支持体について	様々の基底材や地塗り材のそれぞれの特徴を十分に理解し製作することができた。	様々の基底材や地塗り材のそれぞれの特徴を理解し製作することができた。	様々の基底材や地塗り材のそれぞれの特徴をほぼ理解し製作することができた。	様々の基底材や地塗り材のそれぞれの特徴をある程度理解し製作することができた。	様々の基底材や地塗り材のそれぞれの特徴を理解することなく十分なものを製作することができなかった。
彩色材料について	様々の顔料や展色剤などのそれぞれの特徴を十分に理解し、制作にそれを十分に活かすことができた。	様々の顔料や展色剤などのそれぞれの特徴を理解し、制作にそれを活かすことができた。	様々の顔料や展色剤などのそれぞれの特徴をほぼ理解し、制作にそれを活かすことができた。	様々の顔料や展色剤などのそれぞれの特徴をある程度理解し、制作にそれをある程度活かすことができた。	様々の顔料や展色剤などのそれぞれの特徴を理解することなくし、制作にそれを活かすことができなかった。
描写について	モチーフの面やパルルールをとらえる際に、ハッチングや点描などの技法を十分に取り入れられた。	モチーフの面やパルルールをとらえる際に、ハッチングや点描などの技法を取り入れられた。	モチーフの面やパルルールをとらえる際に、ハッチングや点描などの技法をほぼ取り入れられた。	モチーフの面やパルルールをとらえる際に、ハッチングや点描などの技法をある程度取り入れられた。	モチーフの面やパルルールをとらえる際に、ハッチングや点描などの技法を取り入れられなかった。
自らについて	自らの感性や個性について十分に意識した制作を行えた。	自らの感性や個性について意識した制作を行えた。	自らの感性や個性についてほぼ意識した制作を行えた。	自らの感性や個性についてある程度意識した制作を行えた。	自らの感性や個性について意識した制作を行えなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	技法・材料研究 (科目ナンバリング: AEA223060)				
授業担当者(所属・職名)	安田 祐造(デザイン学科・特任教授)	研究室等所在	2号館1階		
単位数	2 (単位認定責任者: 安田 祐造)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
		50年近く画業に専念するなかで経験した課題を具体的に解説しながら指導に当たる。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション シラバスについて、授業改善アンケートについて、 公募展について	予めシラバスに目をおし、出品予定の公募展についても下調べをしておく。(45分)	シラバスの中身に従い、自らの制作についての計画を立てる。(45分)
2	オリエンテーション シラバスについて、公募展について	自らの感性や表現の意図に相応しい公募展について下調べをしておく。(45分)	どの公募展を目指すかを決め、新作のテーマやモチーフについて検討する。(45分)
3	支持体製作(支持体をどの様にどれだけの大きさのものにするかは任意選択) 様々な基底材の特徴について	自らの新作の構想をまとめるに当たり、十分に教師や他の学生の意見や助言を取り入れる。(45分)	構想を取りまとめ下絵を作成する。(45分)
4	支持体製作 布や紙の貼り方、基底材の組み立てと接合について	自らの作品の描法に相応しい支持体を検討する。(45分)	ことに紙や布を使用する場合、満足のいかない状態にある場合は、手直しを行う。(45分)
5	支持体製作 地塗り材の処方と地塗り作業について	描法に相応しい地塗り材を予め決める。(45分)	支持体製作の進捗を確かめる。(45分)
6	支持体製作 地塗り作業について	描法に相応しい地塗り材の塗り方を決める。(45分)	構想を下絵としてまとめ上げる。(45分)
7	支持体製作 地塗り面の研磨と仕上げについて	描法に相応しい地塗り面の仕上げ方について決める。(45分)	下絵の転写の仕方について検討する。(45分)
8	下絵の支持体への転写 その方法と転写作業について	下絵の転写の仕方について決める。(45分)	次回からの彩色の仕方について計画を立てる。(45分)
9	下描き(下描きの有無、その材料は任意選択) 描法に応じた様々な方法について	各々の描法に応じた材料や用具を、各自各自が準備する。(45分)	本時の制作を振り返り、進捗を確かめる。(45分)
10	下描き 描法に応じた様々な方法について	これまでの制作で、修正すべき点を明らかにする。(45分)	本時の制作を省みて、足りない点や過ぎた点についての修正を行う。(45分)
11	本制作 A (制作のための描法・技法・は任意選択) 大まかな色面把握について	大まかな色面把握ということについて予習する。(45分)	細部に捉われて基本的な骨格を見失っていないかを検討する。(45分)
12	本制作 B 大まかな色面把握について	足りない点や過ぎた点について検討する。(45分)	他の学生の制作を参考として、自らの制作の進め方について検討する。(45分)
13	本制作 C 大まかな色面把握	明度、彩度、色相のそれぞれの差異に目をやり、自らの制作の進捗を検討する。(45分)	本時の制作を省みて、足りない点や過ぎた点についての修正を行う。(45分)
14	本制作 D 大まかな色面把握	上描きを繰り返しながら制作を進めることを念頭に、初期段階から細部に捉われすぎないように注意する。(45分)	今一度、色の三属性のそれぞれの要素について大まかに捉えられているかを確かめ、必要に応じて修正を行う。(45分)
15	本制作 E 上描きによる細部の表現について	局部的に細密に描写するのではなく、常に全体的に、次第に細部に目をやるように注意する。(45分)	全体に目をやり、全体的にかつ段階的に描き込みが行われているかを確認する。(45分)
16	本制作 F 上描きによる細部の表現について	色の三属性のそれぞれの要素は、周囲の色との関係から変化して見えることを再確認する。(45分)	ことに、写実的な描写を行う場合には、まず明度について、構想したものとの間に隔たりが生じていないかを検討する。(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17	本制作 G 上描きによる細部の表現について	色の明度の観点から、足りない点や過ぎた点がないかを確認する。(45分)	同様に、彩度や色相についても、周囲の色の影響も考慮し、構想したものとの間に隔たりが生じていないかを検討する。(45分)
18	本制作 H 上描きによる細部の表現について	過ぎた点については、必要に応じて、削ったり拭いたりして後戻りすることを検討する。(45分)	削除したり加筆したりする場合、描画材料により、溶剤や用具について慎重に検討する。(45分)
19	中間発表	これまでの自らの制作を振り返る。(45分)	中間発表会で寄せられた他者の意見や助言や感想について取りまとめる。(45分)
20	中間発表	他の学生の制作について、各々の感性や表現の仕方など、それぞれの良さを見つけ出すように努める。(45分)	他者の意見や感想などを糧として、これからの制作の仕方について計画を立てる。(45分)
21	本制作 I さらなる描き込みについて(質感表現を主に)	ことに、明度に着目し、質感表現について検討する。(45分)	明度差・コントラストやタッチにより質感が変化することに着目して検討する。(45分)
22	本制作 J さらなる描き込みについて(質感表現を主に)	それぞれの色相の明度を見極めて、質感が十分に表現されつつあるかを検討する。(45分)	色合いのある色面の明度について着目し、古今の作品などを参照する。(45分)
23	本制作 K さらなる描き込みについて(陰影表現を主に)	明部と暗部のそれぞれの明るさの差を見極められるように努める。(45分)	次第に作品の構成要素が増加し複雑化するが、部分と部分だけでなく部分と全体との関係についても、隔たりが生じていないかを検討する。(45分)
24	本制作 L さらなる描き込みについて(陰影表現を主に)	確かな陰影表現により、空気感が表現できるように努める。(45分)	陰影の部分と明部との関係について、明度だけでなく、彩度や色相についても検討する。(45分)
25	本制作 M さらなる描き込みについて(色彩調和を主に)	かたちや立体感などを追い求めるのと同時に、表現の意図に合った色彩調和について目をやる。(45分)	美しい調和だけでなく、良い調和とはどういうことかについて検討する。(45分)
26	本制作 N さらなる描き込みについて(色彩調和を主に)	かたちを損なうことのないように色彩調和を求める。(45分)	立体感や奥行きの感を損なうことなく、色彩調和をはかるための要点は何かについて検討する。(45分)
27	本制作 O 仕上げに向けて	さらに全体を見直し、部分どうしや全体とのバランスや調和について検討する。(45分)	仕上げに向け、かたちや色についてだけでなく、質感の表現についても検討する。(45分)
28	本制作 P 仕上げに向けて	立体感や空気感が表現できているかを検討する。(45分)	明部と暗部について、かたちや色彩調和を損なうことなく、足りない点や過ぎた点について修正を行う。(45分)
29	本制作 Q 仕上げに向けて	構想や表現の意図が作品に反映されているかの検討を行う。(45分)	構想や表現の意図に照らし、的確な色彩表現が行われているかを検討する。(45分)
30	本制作 R 仕上げに向けて	色彩調和について、全体調整を行う。(45分)	発表を前に、さらに全体に目をやり、自らの構想に照らし調整を行う。(45分)
31	合評 A	これまでの制作活動を振り返り足りない点や足りない点などについて検討する。(45分)	他者の意見や助言や感想を参考とし、自らの作品についての自己評価を行う。(45分)
32	合評 B、授業改善アンケートについて	他者との感性や価値観の相違、多様性を認め、社会生活のあり方についての考えをまとめる。(45分)	合評会での他者の意見や助言を参考に今後の制作の仕方について検討する。(45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	漫画 (科目ナンバリング: AEA223066)				
授業担当者(所属・職名)	五十嵐 優美子(デザイン学科・客員教授)	鴨 修平(デザイン学科・非常勤)	研究室等所在	1号館1階非常勤講師室	
単位数	2	(単位認定責任者: 鴨 修平)	CAP制	x	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	漫画の連載・単行本出版経験のある教員が、漫画の描き方を基礎から指導する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。				

概要

履修目標

漫画を表現していく上で必要とされる基礎的な知識とそのテクニックを学習し、独自の個性と可能性を発掘し、自らが創作したものを他者に伝える表現技術や理論を身につける。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP(1)(3)(5)に対応する。

到達目標

漫画制作の基礎的な技術を身につけ、自分の漫画作品の方向性を決めて制作することができる。

授業全体の内容と概要

各自で漫画作品の制作を行いながら、漫画道具の使い方、ストーリー構成、ネーム作成、コマ割りや画面構成などの基礎的な知識を身につける。個人の能力にあわせて指導し、漫画を完成させる。

授業の方法

板書及び参考資料とプリントを使って説明をし、各自で制作の実技を行う。制作の際は適宜講師との打ち合わせを行う。制作期間中は宿題とし、期限内に提出する。作品によってはその日の授業内に提出するものもある。提出物にはコメントにてフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

作品制作に応じて必要な画材があれば持参すること。デジタル作品を制作する場合はノートパソコンやタブレットを持参すること。(持参できない場合は講師と相談。)3回の遅刻で1回の欠席とみなす。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、20回以上。授業内で示した作業スケジュールを遵守し、期日内に作品を提出する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	70%	0%	30%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
漫画表現(知識と理論の理解)	漫画・イラスト制作における知識と、制作する上での姿勢、心がけ、理論を十分に理解し、それらを自らの創作に活かして作品を完成できた。	漫画・イラスト制作における知識と、制作する上での姿勢、心がけ、理論を理解し、それらを自らの創作に活かして作品を制作した。	漫画・イラスト制作における知識と、制作する上での姿勢、心がけ、理論をある程度理解し、それらを自らの創作に活かす努力ができた。	漫画・イラスト制作における知識を理解できた。	漫画・イラスト制作における知識を理解できなかった。作品を提出できなかった。
漫画制作(ストーリー創作技術)	ストーリーの組み立て方やネームの作り方、コマ割り等のテクニックを十分に理解し、自らの表現したいテーマを決めて創作し作品を完成できた。	ストーリーの組み立て方やネームの作り方、コマ割り等のテクニックを理解し、作品を創作できた。	ストーリーの組み立て方やネームの作り方、コマ割り等のテクニックをある程度理解し、作品を創作する努力をした。	ストーリーの組み立て方やネームの作り方、コマ割り等のテクニックを理解できた。	ストーリーの組み立て方やネームの作り方、コマ割り等のテクニックを理解できなかった。作品を創作できなかった。
漫画制作(作画技術)	漫画・イラスト制作の作画技術・道具を理解し適切に使用して、自らの考えたテーマや個性を十分に表現し、完成できた。	漫画・イラスト制作の作画技術・道具を理解し適切に使用して、自らのテーマや個性を表現できた。	漫画・イラスト制作の作画技術・道具を理解し、使用できた。	漫画・イラスト制作の作画技術・道具を理解できた。	漫画・イラスト制作の作画技術・道具を理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	漫画 (科目ナンバリング: AEA223066)				
授業担当者(所属・職名)	五十嵐 優美子(デザイン学科・客員教授)	研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 鴨 修平)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 漫画の連載・単行本出版経験のある教員が、漫画の描き方を基礎から指導する。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	*必要に応じて参考資料を提示、プリントを配布					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスの説明	シラバスを読んでおくこと。(45分)	宿題の作品を作成すること。(45分)
2	好きな作品のプレゼンイラスト	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	宿題の作品を作成すること。(45分)
3	クロッキーとディフォルメ1	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	宿題の作品を作成すること。(45分)
4	クロッキーとディフォルメ2	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	宿題の作品を作成すること。(45分)
5	アオリと俯瞰 各アングルの説明と実技1	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	宿題の作品を作成すること。(45分)
6	アオリと俯瞰 各アングルの説明と実技2	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	宿題の作品を作成すること。(45分)
7	背景表現 パースの説明と実技1	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	宿題の作品を作成すること。(45分)
8	背景表現 パースの説明と実技2	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	宿題の作品を作成すること。(45分)
9	1ページ漫画 起承転結とプロット1	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	宿題の作品を作成すること。(45分)
10	1ページ漫画 起承転結とプロット2	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	宿題の作品を作成すること。(45分)
11	1ページ漫画 ネーム・下書き1	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	宿題の作品を作成すること。(45分)
12	1ページ漫画 ネーム・下書き2	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	宿題の作品を作成すること。(45分)
13	1ページ・4コマ漫画 ペン入れ・仕上げ1	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	宿題の作品を作成すること。(45分)
14	1ページ・4コマ漫画 ペン入れ・仕上げ2	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	宿題の作品を作成すること。(45分)
15	いがらしゆみこ特別講座	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	宿題の作品を作成すること。(45分)
16	いがらしゆみこ特別講座	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	宿題の作品を作成すること。(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17	ストーリー漫画制作 プロット	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	宿題の作品を作成すること。(45分)
18	ストーリー漫画制作 ネーム1	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	宿題の作品を作成すること。(45分)
19	ストーリー漫画制作 ネーム2	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	宿題の作品を作成すること。(45分)
20	ストーリー漫画制作 ネーム3	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	宿題の作品を作成すること。(45分)
21	ストーリー漫画制作 ペン入れ1	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	宿題の作品を作成すること。(45分)
22	ストーリー漫画制作 ペン入れ2	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	宿題の作品を作成すること。(45分)
23	ストーリー漫画制作 背景	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	宿題の作品を作成すること。(45分)
24	ストーリー漫画制作 べたぬり・効果線	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	宿題の作品を作成すること。(45分)
25	ストーリー漫画制作 スクリーントーン1	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	宿題の作品を作成すること。(45分)
26	ストーリー漫画制作 スクリーントーン2	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	宿題の作品を作成すること。(45分)
27	ストーリー漫画制作 仕上げ1	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	宿題の作品を作成すること。(45分)
28	ストーリー漫画制作 仕上げ2	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	宿題の作品を作成すること。(45分)
29	いがらしゆみこ特別講座	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	宿題の作品を作成すること。(45分)
30	いがらしゆみこ特別講座	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	宿題の作品を作成すること。(45分)
31	授業改善アンケートの実施 講評	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	宿題の作品を作成すること。(45分)
32	講評	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	講義全体の内容を振り返ること。(45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	彫刻 (科目ナンバリング: AEA222068)				
授業担当者(所属・職名)	梅田 力(デザイン学科・准教授)	研究室等所在	アトリエ棟 2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 梅田 力)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照				

概要

<b>履修目標</b>
彫刻の特性を活かして、構造的にも安定した美しい作品を制作することが出来る。

<b>授業の位置づけ</b>
デザイン学科のDP(1)(3)(5)に対応する。

<b>到達目標</b>
彫刻の特性を理解して作品を制作することが出来る。

<b>授業全体の内容と概要</b>
彫刻では、具象表現(塑像)制作を通じて、彫刻の基礎的な表現力を身につける。また最終回では講評会を行い、プレゼンテーション能力を養う。

<b>授業の方法</b>
スライドを使って課題の説明を行なった後、各自でモチーフ「動物」を選んで作品制作を行っていく。必要な資料は各自で用意する。作品完成後、講評会でプレゼンテーションを行う。

<b>アクティブラーニングの実施方法</b>					
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク		PBL	
模範授業	ロールプレイ	調査学習		反転授業	
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業		その他(授業の方法参照)	

<b>履修上の注意事項</b>
立体構成1及び2を履修している事が望ましい。未履修者は、事前に講義担当者に相談する事。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

<b>修学サポート(合理的配慮)</b>
----------------------

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

<b>資格指定科目</b>
教職課程(美術・工芸)必修科目

評価方法・基準

<b>評価前提条件</b>
単位認定に必要な最低出席回数は20回以上

<b>評価方法</b>					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	70%	0%	30%	0%

<b>ルーブリック</b>					
---------------	--	--	--	--	--

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
彫刻の基本的な特性の理解(知識・理解)	作品が自立し、構造的にも安定している。また、彫刻の特性を理解し、上手く活用しており、美しかった。	作品が自立し、構造的にも安定している。また、彫刻の特性を理解し、活用していた。	作品が自立し、構造的にも安定している。また、彫刻の特性を活用しようとしていた。	作品が自立し、構造的にも安定していた。	作品が自立せず、彫刻として成立していなかった。
編集と発表の能力(思考力・表現力・判断力等)	制作した作品・スケッチ・文章等を秩序立てて編集し、美しくデザインされたボードを作成した。	制作した作品・スケッチ・文章等を秩序立てて編集し、ボードを作成した。	制作した作品・スケッチ・文章等を全て収めたボードを作成した。	制作した作品を収めたボードを作成した。	制作した作品を収めずボードを作成しなかった。
主体的に学習に取り組む態度(主体性・多様性・協働性)	課題を予習・復習をした。挑戦的な計画をし、制作を行う事が出来た。また課題を超えて制作を行なった。	課題の予習・復習をした。挑戦的な計画をし、制作を行う事が出来た。	課題の予習または復習をした。自ら計画を立て、制作を行う事が出来た。	授業毎の課題を受け、計画的に制作を行う事が出来た。	授業毎の課題を受けて計画的に制作を行う事が出来なかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	彫刻 (科目ナンバリング: AEA222068)				
授業担当者(所属・職名)	梅田 力(デザイン学科・准教授)	研究室等所在	アトリエ棟 2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 梅田 力)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスをよく読んでおくこと(45分)	オリエンテーション振り返り(45分)
2	彫刻とは何か	課題に関連するスケッチ等を描いてくる事(45分)	プレゼンテーション準備(45分)
3	動物彫刻 ドロイング	課題に関連するスケッチ等を描いてくる事(45分)	プレゼンテーション準備(45分)
4	動物彫刻 ドロイング	課題に関連するスケッチ等を描いてくる事(45分)	プレゼンテーション準備(45分)
5	動物彫刻 ドロイング	課題に関連するスケッチ等を描いてくる事(45分)	プレゼンテーション準備(45分)
6	動物彫刻 ドロイング	課題に関連するスケッチ等を描いてくる事(45分)	プレゼンテーション準備(45分)
7	動物彫刻 芯作り	課題に関連するスケッチ等を描いてくる事(45分)	プレゼンテーション準備(45分)
8	動物彫刻 芯作り	課題に関連するスケッチ等を描いてくる事(45分)	プレゼンテーション準備(45分)
9	動物彫刻(塑像) 芯作り	課題に関連するスケッチ等を描いてくる事(45分)	プレゼンテーション準備(45分)
10	動物彫刻(塑像) 芯作り	課題に関連するスケッチ等を描いてくる事(45分)	プレゼンテーション準備(45分)
11	動物彫刻(塑像) 芯作り 修正	課題に関連するスケッチ等を描いてくる事(45分)	プレゼンテーション準備(45分)
12	動物彫刻(塑像) 芯作り 修正	課題に関連するスケッチ等を描いてくる事(45分)	プレゼンテーション準備(45分)
13	動物彫刻(塑像)	課題に関連するスケッチ等を描いてくる事(45分)	プレゼンテーション準備(45分)
14	動物彫刻(塑像)	課題に関連するスケッチ等を描いてくる事(45分)	プレゼンテーション準備(45分)
15	動物彫刻(塑像)	課題に関連するスケッチ等を描いてくる事(45分)	プレゼンテーション準備(45分)
16	動物彫刻(塑像)	課題に関連するスケッチ等を描いてくる事(45分)	プレゼンテーション準備(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17	動物彫刻(塑像)	課題に関連するスケッチ等を描いてくる事(45分)	プレゼンテーション準備(45分)
18	動物彫刻(塑像)	課題に関連するスケッチ等を描いてくる事(45分)	プレゼンテーション準備(45分)
19	動物彫刻(塑像)	課題に関連するスケッチ等を描いてくる事(45分)	プレゼンテーション準備(45分)
20	動物彫刻(塑像)	課題に関連するスケッチ等を描いてくる事(45分)	プレゼンテーション準備(45分)
21	動物彫刻(塑像)	課題に関連するスケッチ等を描いてくる事(45分)	プレゼンテーション準備(45分)
22	動物彫刻(塑像)	課題に関連するスケッチ等を描いてくる事(45分)	プレゼンテーション準備(45分)
23	動物彫刻(塑像)	課題に関連するスケッチ等を描いてくる事(45分)	プレゼンテーション準備(45分)
24	動物彫刻(塑像)	課題に関連するスケッチ等を描いてくる事(45分)	プレゼンテーション準備(45分)
25	動物彫刻(塑像) 細部を制作	課題に関連するスケッチ等を描いてくる事(45分)	プレゼンテーション準備(45分)
26	動物彫刻(塑像) 細部を制作	課題に関連するスケッチ等を描いてくる事(45分)	プレゼンテーション準備(45分)
27	動物彫刻(塑像) 仕上げ	課題に関連するスケッチ等を描いてくる事(45分)	プレゼンテーション準備(45分)
28	動物彫刻(塑像) 仕上げ	課題に関連するスケッチ等を描いてくる事(45分)	プレゼンテーション準備(45分)
29	プレゼンテーション	プレゼンテーション準備(45分)	プレゼンテーション振り返り(45分)
30	プレゼンテーション	プレゼンテーション準備(45分)	プレゼンテーション振り返り(45分)
31	講評	講義全体を通して質問したい事項をまとめておくこと(45分)	講評を再考し、理解を深めること(45分)
32	講評 授業改善アンケートの実施	講義全体を通して質問したい事項をまとめておくこと(45分)	講評を再考し、理解を深めること(45分)



## 基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	日本経済史 (M) (科目ナンバリング: ECH122123, ECH422031)				
授業担当者 (所属・職名)	小林大州介		研究室等所在	2号館 8階	
単位数	2 (単位認定責任者: 小林大州介)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	事前連絡の上調整を行うか、研究室前の掲示ボード等を参照。				

## 概要

### 履修目標

日本は東洋諸国の中でもいち早く封建的段階から抜け出し、さらに第2次世界大戦後は世界的にもまれな経済成長を遂げた。近世から現代にかけての日本経済の歴史的發展を多角的に学び、日本がどのように「資本主義」の国家として経済発展を遂げてきたのかを理解する。

### 授業の位置づけ

経営学科のDPにおける(1)(2)(4)に対応する。

### 到達目標

日本経済の歴史の全体像を把握し、何処に転換点があったのかを理解する。

### 授業全体の内容と概要

鎖国下の江戸時代という特殊な条件から、いかにして資本主義体制を形成していったのかを、歴史的事件や経済制度の観点から考察する。

### 授業の方法

PDFを利用した講義形式で行う。教科書は使用せず、基本的には資料配布を行う。

### アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

### 履修上の注意事項

講義中は内容の把握に努め、重要な点はしっかりとノートに取る。不測の事態の際はオンラインで実施する場合がある。

### 修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、大学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

### 資格指定科目

教職課程(社会・地理歴史)選択科目

## 評価方法・基準

### 評価前提条件

単位認定のための最低出席回数は11回以上とする。

### 評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70%	0%	0%	0%	30%	0%

## ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
近世から現代へ: 封建社会から資本主義経済への移行	明治維新以前と以後の日本経済において、どのような制度上の変化が生じたのかを深く理解し、どのような条件が日本経済の発展に寄与したかを示すことが出来るようになった。	明治維新以前と以後の日本経済において、どのような制度上の変化が生じたのかを深く理解できた。	明治維新以前と以後の日本経済において、どのような制度上の変化が生じたのかを理解し、説明できるようになった。	明治維新以前と以後の日本経済において、どのような変化が生じたのかを説明できるようになった。	明治維新以前と以後の日本経済において、どのような変化が生じたのかについて、理解が見られなかった。
明治-昭和へ: 日本経済における変化	明治期以降の日本の資本主義発展のプロセスを理解しており、何が経済発展の要因になったのかを、具体的な例示と伴に説明することが出来るようになった。	明治期以降の日本の資本主義発展のプロセスを理解しており、具体的な歴史的事件を示すことが出来るようになった。	明治期以降の日本の資本主義発展のプロセスを理解出来るようになった。	明治期以降の日本の資本主義発展のプロセスを説明できるようになった。	明治期以降の日本の資本主義発展について、理解が見られなかった。
敗戦から経済成長へ: 経済的成功と挫折	日本経済が敗戦からどのように復興し、経済発展を遂げたのかを深く理解し、今日日本が直面する諸問題も説明することが出来るようになった。	日本経済が敗戦からどのように復興し、経済発展を遂げたのかを理解し、今日日本が直面する諸問題も挙げることが出来るようになった。	日本経済が敗戦からどのように復興し、経済発展を遂げたのかを理解できるようになった。	戦後の日本経済がたどった経緯を説明することが出来るようになった。	戦後の日本経済がたどった経緯について、理解が見られなかった。



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	日本経済史 (M) (科目ナンバリング: ECH122123, ECH422031)				
授業担当者 (所属・職名)	小林大州介		研究室等所在	2号館 8階	
単位数	2 (単位認定責任者: 小林大州介)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『日本経済史』	沢井実	有斐閣	2016	9784641164888	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	初回オリエンテーション、シラバス説明：日本の経済発展とその歴史的前提 授業改善アンケート結果反映の説明	日本経済史に関する所説を、新書やネットを使って調べておくこと(90分)	講義中にとったノートを基に、よく復習しておくこと(90分)
2	「近世経済」の成立と展開1 - 農村社会の発展	江戸時代の日本経済に関心を持ち、関連する問題を新書やネットを使って調べておくこと(90分)	講義中にとったノートを基に、よく復習しておくこと(90分)
3	「近世経済」の成立と展開2 - 武士階級及び都市経済の発展	江戸時代の日本経済に関心を持ち、関連する問題を新書やネットを使って調べておくこと(90分)	講義中にとったノートを基に、よく復習しておくこと(90分)
4	移行期の日本経済1 - 維新前夜の日本経済	江戸時代の日本経済に関心を持ち、関連する問題を新書やネットを使って調べておくこと(90分)	講義中にとったノートを基に、よく復習しておくこと(90分)
5	移行期の日本経済2 - 維新政府の諸改革	幕末から明治維新にかけての日本経済に関心を持ち、関連する問題を新書やネットを使って調べておくこと(90分)	講義中にとったノートを基に、よく復習しておくこと(90分)
6	移行期の日本経済3 - 資本主義の導入へ	幕末から明治維新にかけての日本経済に関心を持ち、関連する問題を新書やネットを使って調べておくこと(90分)	講義中にとったノートを基に、よく復習しておくこと(90分)
7	明治 - 大正時代の日本経済1 - 生産組織と技術導入による経済成長	明治 - 大正にかけての日本経済に関心を持ち関連する問題を新書やネットを使って調べておくこと(90分)	講義中にとったノートを基に、よく復習しておくこと(90分)
8	明治 - 大正時代の日本経済2 - 資本と労働	明治 - 大正にかけての日本経済に関心を持ち関連する問題を新書やネットを使って調べておくこと(90分)	講義中にとったノートを基に、よく復習しておくこと(90分)
9	明治 - 大正時代の日本経済3 - 戦前期の日本経済	明治 - 大正にかけての日本経済に関心を持ち関連する問題を新書やネットを使って調べておくこと(90分)	講義中にとったノートを基に、よく復習しておくこと(90分)
10	明治 - 大正時代の日本経済4 - 変貌する都市と農村	明治 - 大正にかけての日本経済に関心を持ち関連する問題を新書やネットを使って調べておくこと(90分)	講義中にとったノートを基に、よく復習しておくこと(90分)
11	昭和初期 - 第二次世界大戦期の日本経済	第2次世界大戦までの道のりを、新書やネットを使って調べておくこと(90分)	講義中にとったノートを基に、よく復習しておくこと(90分)
12	敗戦と経済復興1 - 統制・計画経済から市場経済へ	敗戦以降、日本はどのように高度経済成長を達成したのかに関して、新書やネットを使って調べておくこと(90分)	講義中にとったノートを基に、よく復習しておくこと(90分)
13	敗戦と経済復興2 - 高度経済成長と産業構造の変化	敗戦以降、日本はどのように高度経済成長を達成したのかに関して、新書やネットを使って調べておくこと(90分)	講義中にとったノートを基に、よく復習しておくこと(90分)
14	経済低迷とバブル経済	現代の日本経済の諸問題について、新書やネットを使い、良く調べておくこと(90分)	講義中にとったノートを基に、よく復習しておくこと(90分)
15	今日の日本経済の課題	現代の日本経済の諸問題について、新書やネットを使い、良く調べておくこと(90分)	講義中にとったノートを基に、よく復習しておくこと(90分)
16	定期試験(60分)と試験の解説 授業改善アンケートの実施	これまで授業で学んだ事の総復習をして置くこと(90分)	講義の全体を良く振り返っておくこと(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学部・4年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	日本経済史 (S) (科目ナンバリング: ECH122123, ECH422031)				
授業担当者 (所属・職名)	小林大州介		研究室等所在	2号館 8階	
単位数	2 (単位認定責任者: 小林大州介)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	事前連絡の上調整を行うか、研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

日本は東洋諸国の中でもいち早く封建的段階から抜け出し、さらに第2次世界大戦後は世界的にもまれな経済成長を遂げた。近世から現代にかけての日本経済の歴史的發展を多角的に学び、日本がどのように「資本主義」の国家として経済発展を遂げてきたのかを理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学部のDP(1)(2)(4)に対応する。

到達目標

日本経済の歴史の全体像を把握し、何処に転換点があったのかを理解する。

授業全体の内容と概要

鎖国下の江戸時代という特殊な条件から、いかにして資本主義体制を形成していったのかを、歴史的事件や経済制度の観点から考察する。

授業の方法

PDFを利用した講義形式で行う。教科書は使用せず、基本的には資料配布の形式で行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

講義中は内容の把握に努め、重要な点はしっかりとノートに取る。不測の事態の際はオンラインで実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、大学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(社会・地理歴史)選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は11回以上とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70%	0%	0%	0%	30%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
近世から現代へ: 封建社会から資本主義経済への移行	明治維新以前と以後の日本経済において、どのような制度上の変化が生じたのかを深く理解し、どのような条件が日本経済の発展に寄与したかを示すことが出来るようになった。	明治維新以前と以後の日本経済において、どのような制度上の変化が生じたのかを深く理解できた。	明治維新以前と以後の日本経済において、どのような制度上の変化が生じたのかを理解し、説明できるようになった。	明治維新以前と以後の日本経済において、どのような変化が生じたのかを説明できるようになった。	明治維新以前と以後の日本経済において、どのような変化が生じたのかについて、理解が見られなかった。
明治-昭和へ: 日本経済における変化	明治期以降の日本の資本主義発展のプロセスを理解しており、何が経済発展の要因になったのかを、具体的な例示と伴に説明することが出来るようになった。	明治期以降の日本の資本主義発展のプロセスを理解しており、具体的な歴史的事件を示すことが出来るようになった。	明治期以降の日本の資本主義発展のプロセスを理解出来るようになった。	明治期以降の日本の資本主義発展のプロセスを説明できるようになった。	明治期以降の日本の資本主義発展について、理解が見られなかった。
敗戦から経済成長へ: 経済的成功と挫折	日本経済が敗戦からどのように復興し、経済発展を遂げたのかを深く理解し、今日日本が直面する諸問題も説明することが出来るようになった。	日本経済が敗戦からどのように復興し、経済発展を遂げたのかを理解し、今日日本が直面する諸問題も挙げることが出来るようになった。	日本経済が敗戦からどのように復興し、経済発展を遂げたのかを理解できるようになった。	戦後の日本経済がたどった経緯を説明することが出来るようになった。	戦後の日本経済がたどった経緯について、理解が見られなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学部・4年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	日本経済史 (S) (科目ナンバリング: ECH122123, ECH422031)				
授業担当者 (所属・職名)	小林大州介		研究室等所在	2号館 8階	
単位数	2 (単位認定責任者: 小林大州介)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	初回オリエンテーション、シラバス説明：日本の経済発展とその歴史的前提 授業改善アンケート結果反映の説明	日本経済史に関する所説を、新書やネットを使って調べておくこと(90分)	講義中に取ったノートを基に、よく復習しておくこと(90分)
2	「近世経済」の成立と展開1 - 農村社会の発展	江戸時代の日本経済に関心を持ち、関連する問題を新書やネットを使って調べておくこと(90分)	講義中に取ったノートを基に、よく復習しておくこと(90分)
3	「近世経済」の成立と展開2 - 武士階級及び都市経済の発展	江戸時代の日本経済に関心を持ち、関連する問題を新書やネットを使って調べておくこと(90分)	講義中に取ったノートを基に、よく復習しておくこと(90分)
4	移行期の日本経済1 - 維新前夜の日本経済	江戸時代の日本経済に関心を持ち、関連する問題を新書やネットを使って調べておくこと(90分)	講義中に取ったノートを基に、よく復習しておくこと(90分)
5	移行期の日本経済2 - 維新政府の諸改革	幕末から明治維新にかけての日本経済に関心を持ち、関連する問題を新書やネットを使って調べておくこと(90分)	講義中に取ったノートを基に、よく復習しておくこと(90分)
6	移行期の日本経済3 - 資本主義の導入へ	幕末から明治維新にかけての日本経済に関心を持ち、関連する問題を新書やネットを使って調べておくこと(90分)	講義中に取ったノートを基に、よく復習しておくこと(90分)
7	明治 - 大正時代の日本経済1 - 生産組織と技術導入による経済成長	明治 - 大正にかけての日本経済に関心を持ち関連する問題を新書やネットを使って調べておくこと(90分)	講義中に取ったノートを基に、よく復習しておくこと(90分)
8	明治 - 大正時代の日本経済2 - 資本と労働	明治 - 大正にかけての日本経済に関心を持ち関連する問題を新書やネットを使って調べておくこと(90分)	講義中に取ったノートを基に、よく復習しておくこと(90分)
9	明治 - 大正時代の日本経済3 - 戦前期の日本経済	明治 - 大正にかけての日本経済に関心を持ち関連する問題を新書やネットを使って調べておくこと(90分)	講義中に取ったノートを基に、よく復習しておくこと(90分)
10	明治 - 大正時代の日本経済4 - 変貌する都市と農村	明治 - 大正にかけての日本経済に関心を持ち関連する問題を新書やネットを使って調べておくこと(90分)	講義中に取ったノートを基に、よく復習しておくこと(90分)
11	昭和初期 - 第二次世界大戦期の日本経済	第2次世界大戦までの道のりを、新書やネットを使って調べておくこと(90分)	講義中に取ったノートを基に、よく復習しておくこと(90分)
12	敗戦と経済復興1 - 統制・計画経済から市場経済へ	敗戦以降、日本はどのように高度経済成長を達成したのかに関して、新書やネットを使って調べておくこと(90分)	講義中に取ったノートを基に、よく復習しておくこと(90分)
13	敗戦と経済復興2 - 高度経済成長と産業構造の変化	敗戦以降、日本はどのように高度経済成長を達成したのかに関して、新書やネットを使って調べておくこと(90分)	講義中に取ったノートを基に、よく復習しておくこと(90分)
14	経済低迷とバブル経済	現代の日本経済の諸問題について、新書やネットを使い、良く調べておくこと(90分)	講義中に取ったノートを基に、よく復習しておくこと(90分)
15	今日の日本経済の課題	現代の日本経済の諸問題について、新書やネットを使い、良く調べておくこと(90分)	講義中に取ったノートを基に、よく復習しておくこと(90分)
16	定期試験(60分)と試験の解説 授業改善アンケートの実施	これまで授業で学んだ事の総復習をして置くこと(90分)	講義の全体を良く振り返っておくこと(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ビジネスプランニング論 (科目ナンバリング: MAN424016, MAN524018)				
授業担当者(所属・職名)	猪尾 紀幸(経営学科・非常勤講師)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 猪尾 紀幸)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	中小零細企業への経営コンサルティングを実施している経営の専門家として、ビジネスプランにおける市場性と実現性を重視した実践的な講義を展開する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等対応				

概要

履修目標

本講義は、学生が経営における専門知識を広範に活用して創業計画を作成することを目的としている。

授業の位置づけ

経営学科のDP(1)、(2)、(3)に対応する。

到達目標

本講義は、事業計画の重要性を理解する。企業(経営者)がとるべき戦略について理解する。経営に関する専門用語についての意味や概念を理解する。以上の3つを理解した上で、創業計画書を作成することができることを到達目標としている。

授業全体の内容と概要

本講義は、創業計画書の作成を通して、事業コンセプト、企業理念、ビジョン、ビジネスモデル、ターゲット、市場の概念、マーケティングなど、事業計画の重要性と事業計画策定の肝を学ぶ。講義の後半は、創業計画の作成に傾注し、最終的には、ビジネスプランをプレゼンテーションしてもらい評価とする。

授業の方法

本講義の前半は、パワーポイント及び配布資料で講義を進める。1枚のパワーポイントを提示して、一連の解説が終了した後、一定の時間、学生がノートを書く時間を取る。講義の後半は、アクティブラーニングを活用し、講師とディスカッションしながら、創業計画を作成してもらう。最終的には、創業計画の内容をパワーポイントを使いプレゼンテーションする。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

本講義は、積極的に経営を学びたいという意欲ある学生の受講を期待する。  
・不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(商業)選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上。  
課題(創業計画)を提出した学生。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	70%	0%	30%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
創業計画書の作成に対応した文章表現力	創業計画書の各項目に対して、自分で調べた内容がわかりやすく書かれていた。	創業計画書の各項目に対して、自分で調べた内容が書かれていた。	創業計画書の各項目に対応する内容が書かれていた。	創業計画書の内容が最低限、読み手に伝わった。	創業計画書の内容が読み手に伝わらなかった。
創業計画書に対応したプレゼンテーション力	ビジネスプランの内容を聞き取り、身振り手振りを加え、制限時間内に相手に伝わる発表ができた。	ビジネスプランの内容を聞き取り、身振り手振りを加えて発表することができた。	ビジネスプランの内容を制限時間内に発表することができた。	最低限、ビジネスプランの内容を発表することができた。	そもそも人前で発表できなかった。
創業計画における総合的な実現性	オリジナリティがあり、戦略、財務計画までもが現実的な内容であった。	ある程度、オリジナリティのあるビジネスで市場性が高かった。	既存のビジネスに追随しつつも、差別化戦略が明確であった。	既存のビジネスに追随する内容であった。	創業計画書が完成していなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ビジネスプランニング論 (科目ナンバリング: MAN424016, MAN524018)				
授業担当者(所属・職名)	猪尾 紀幸 (経営学科・非常勤講師)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 猪尾 紀幸)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	中小等細企業への経営コンサルティングを実施している経営の専門家として、ビジネスプランにおける市場性と実現性を重視した実践的な講義を展開する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『MBAビジネスプラン』	グロービス経営大学院	ダイヤモンド社	2010年	9784478014745	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	ガイダンス シラバスの説明 (講義全体の概要、講義のやり方、評価方法など)、授業改善アンケート結果反映の説明	必ずシラバスを読んでから、初回ガイダンスを受講すること。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
2	起業・創業とはどういうことか? ビジネスプラン・キャリアプランの意味	起業家と呼ばれる人材を事前に調べること。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
3	創業・事業計画のから何がわかるのか? 何のために計画を策定するのか?	起業家・起業家に関する新聞やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
4	企業理念、ビジョンとは? 端的な言葉が人を動かす	起業家・起業家に関する新聞やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
5	市場と顧客の概念、ターゲットとは?	起業家・起業家に関する新聞やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
6	ビジネスモデルと業態 どの価値方をするのか?	起業家・起業家に関する新聞やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
7	マーケティングの基本的な考え方	起業家・起業家に関する新聞やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
8	マーケティング分析のフレームワーク (4P・3C分析など)	起業家・起業家に関する新聞やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
9	マーケティング分析のフレームワーク (SWOT分析、STP分析など)	起業家・起業家に関する新聞やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
10	ビジネスプラン作成【ビジョン・コンセプトの設定】	自分の作成するビジネスプランを決めること。(90分)	ビジネスモデルを考案創業計画書を作成する。(90分)
11	ビジネスプラン作成【ターゲット・商品の設定】	自分の作成するビジネスプランを決めること。(90分)	ビジネスモデルを考案創業計画書を作成する。(90分)
12	ビジネスプラン作成【営業戦略を考える 販路・販売手法・】	ビジネスモデルを考案創業計画書を作成する。(90分)	ビジネスモデルを考案創業計画書を作成する。(90分)
13	ビジネスプラン作成【運営組織・生産体制を考える】	ビジネスモデルを考案創業計画書を作成する。(90分)	ビジネスモデルを考案創業計画書を作成する。(90分)
14	ビジネスプラン作成【損益計算書・資金繰り計画】	ビジネスモデルを考案創業計画書を作成する。(90分)	ビジネスモデルを考案創業計画書を作成する。(90分)
15	プレゼンテーションの基本 伝えるではなく 伝えることの重要性	プレゼンテーションの準備をする。(90分)	ビジネスモデルを考案創業計画書を作成する。(90分)
16	ビジネスプランのプレゼンテーション、講義全体のまとめ、課題提出、授業改善アンケートの実施	プレゼンテーションの準備をする。(90分)	フィードバックを受けて自分のビジネスプランを見直す。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年3年4年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	日本画 (科目ナンバリング: AEA223062)				
授業担当者(所属・職名)	岡 恵子(デザイン学科・非常勤講師)	研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 岡 恵子)	CAP制	×		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	日本画家としての活動履歴を有する教員が、実践に即した実習を行う。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。				

概要

履修目標

- 身近な自然物、静物、人物、風景をよく観察し、日本画の表現に欠かせない基礎的な描写力を身に付けることができる。
- 写生から下絵、本画の制作と進め、日本画制作の基本的な手順を知ることができる。
- 水干絵の具・膠・箔・筆・絵絹などの日本画画材と用具を知り、基本的な扱い方を知ることができる。

授業の位置づけ

美術学部デザイン学科のDP(1)(2)に対応する。

到達目標

- 写生を通して対象を的確に描写することができる。
- 写生から下絵の制作そして本画へと、日本画制作の手順を知り制作を進めることができる。
- 日本画画材と用具についての基礎的な知識と扱い方を身につけることができる。

授業全体の内容と概要

季節の自然物、静物、人物、風景を観察し写生をする。色鉛筆で彩色する。木料に絵絹を貼り込む。替水を引く。写生した対象を画面に構成する。具筆で骨描きする。膠・胡粉・水干絵の具の特徴を知り、これらを使った日本画の表現技法の基礎を学ぶ。希望に応じて箔表現も扱う。絵絹という基底材の特性を生かして塗りを重ねる。

授業の方法

授業は、TEAMSのパワーポイント資料、または授業担当者作成のテキストによる日本画の基礎知識についての講義と、日本画の画材の扱いや表現についての実技指導によって構成される。日本画の基礎知識を問う筆記テストを授業内で2回行う。作品の制作過程で、毎時間「創作レポート」の記入を通して、構想と知識の定着をはかる。作品の構想段階と制作の終盤で、作品についての個人発表(プレゼンテーション)と相互講評を行う。作品完成時に提出する作者のコメントには講評を添え、作品と共に学内に掲示する。実技では写生を重視する。希望者は戸外(大学構内)での写生を行う(フィールドワーク)。制作途中、墨を擦る、胡粉を溶く、カラ刷毛を使ったグラデーション技法などはグループで協力して行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

使用する絹枠・絵絹は各自で購入するものとする。制作スペースと用具の関係から履修人数を24名程度に制限する。希望者が多い場合は、日本画 日本画 通年履修者を優先する。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は2回以上とする。  
以下の3点が期日までに提出されていること  
写生(TEAMS課題欄に提出)・綿本に書写した日本画作品1点 創作レポート  
日本画についての基礎知識を持っていること(基礎知識を問うテストを授業内で2回実施する)

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	20%	70%	10%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあたるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
写生力	対象の色と形をよく観察し、筆圧と筆勢を意識した描線で対象の質感と量感を豊かに表現することができた。	対象の色と形を的確に描写し、筆圧と筆勢を意識した描線で対象の質感と量感を表現することができた。	対象の色と形を的確に描写し、筆圧と筆勢を意識した描線で対象の質感と量感を試みることができた。	対象の色と形を描写することができた。	対象の色と形を描写できなかった。
構成力	写生を通して自らの感性に触れた対象を選択し、作品の主題を定め、主題に沿って取材した写生を画面上に的確に構成し、独創的な表現を目指すことができた。	写生を通して自らの感性に触れた対象を選択し、作品の主題を定め、主題に沿って取材した写生を画面上に的確に構成することができた。	写生を通して作品の主題を定め、主題に沿って取材した写生を画面上に構成することができた。	取材した写生を画面上に配置し画面構成することができた。	取材した写生を画面上に構成することができなかった。
表現力	絵絹と水干し絵の具の特徴、日本画の塗り技法を熟知し、その美しさを生かした独創的な表現を実現することができた。	絵絹と水干し絵の具の特徴、日本画の塗り技法を熟知し、その美しさを生かした独創的な表現を実現することができた。	絵絹と水干し絵の具の特徴、日本画の塗り技法を知り、表現することができた。	絵絹と水干し絵の具の特徴、日本画の塗り技法を知り、表現することができた。	絵絹と水干し絵の具の特徴、日本画の塗り技法を知り、表現することができなかった。
知識	日本画の素材・用具の名称と特徴、扱い方の基本、塗りの技法など、作品制作に必要な基礎知識を完全に習得することができた。	日本画の素材・用具の名称と特徴、扱い方の基本、塗りの技法など、作品制作に必要な基礎知識を習得することができた。	日本画の素材・用具の名称と特徴、扱い方の基本、塗りの技法など、作品制作に必要な基礎知識をほぼ習得することができた。	日本画の素材・用具の名称と特徴、扱い方の基本、塗りの技法など、作品制作に必要な基礎知識を習得することができた。	日本画の素材・用具の名称と特徴、扱い方の基本、塗りの技法など、作品制作に必要な基礎知識を習得できなかった。



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年3年4年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	日本画 (科目ナンバリング: AEA223062)				
授業担当者(所属・職名)	岡 恵子(デザイン学科・非常勤講師)		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室	
単位数	2 (単位認定責任者: 岡 恵子)		CAP制	x	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	日本画家としての活動履歴を有する教員が、実践に即した実習を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション ・「日本画とは」概説 ・シラバスの説明・授業改善アンケート結果反映の	シラバスを読む(45分)	シラバスを確認し、日本画の概説と授業の流れを確認する。(45分)
2	提示された先達の作品鑑賞 ・創作レポートに感想を書く ・絹絵を組む	テキスト、パワーポイント資料、創作レポートを確認する。木枠の組み方の解説を確認する。(45分)	提示してある先達の作品を鑑賞し興味を抱いた点を記録する。捨て際の意味確認。感想を創作レポートに記入する。(45分)
3	日本画の画材と用具の紹介	テキストの用具と画材の欄を事前学習すること、写生に必要な筆記具の準備(45分)	泥・筆・刷毛など形状、名称、用途、特徴などテキストを見て復習する。(45分)
4	モチーフを写生する 絹絵に陰を施す	作品の主題を想定しモチーフの選択と制作の動機づけを行う。(45分)	テキストとパワーポイント資料を参照して獲得した知識と学習の感想を創作レポートに記入する。(45分)
5	基底材としての絹絵の特性を知る ・掛け軸の鑑賞	テキストの絹絵の欄を事前学習する。写生に必要な筆記具の準備(45分)	絹の性質と貼り方、表現の可能性を復習する。描きたいものを選択する。(45分)
6	モチーフを写生する ・絹の文化と特性を知る ・絹絵に陰を施す	作品の主題を想定しモチーフの選択と制作の動機づけを行う。(45分)	テキストとTEAMSのパワーポイント資料を参照して獲得した知識と学習の感想を創作レポートに記入する。(45分)
7	膠、明礬、ドウサを知る ・絹絵に滑引きをする ・ドウサをひく	テキストの膠と礬水の欄を事前学習する。写生に必要な筆記具の準備(45分)	滑引きの目的、礬水と礬水刷毛の役割を復習すること。描きたい対象を絞り意欲を深める。(45分)
8	モチーフを写生する ・大学構内に出て写生しよう	作品の主題を想定しモチーフの選択と制作の動機づけを行う。(45分)	テキストとTEAMSのパワーポイント資料を参照して獲得した知識と学習の感想を創作レポートに記入する。(45分)
9	日本画基礎知識ドリルテスト	日本画基礎知識ドリルを学習しておくこと、写生に必要な筆記具の準備(45分)	基礎ドリルの復習を通して知識の定着を確認する。(45分)
10	モチーフを写生する ・大学構内に出て写生しよう	作品の主題を想定しモチーフの選択と制作の動機づけを行う。モチーフを選択する。(45分)	テキストとTEAMSのパワーポイント資料を参照して獲得した知識と学習の感想を創作レポートに記入する。(45分)
11	墨を知る、墨を摺る ・墨による線描模写演習	墨の濃淡・線質について資料等を閲覧しイメージする。(45分)	墨の摺り方、保管、日本画の線描、骨描きについて演習を通して確認する。(45分)
12	の写生を使って画面を構成しする ・骨描きをする	墨の種類、摺り方、粉本を用いた運筆演習を通して線描の多彩さを知る。(45分)	テキストとTEAMSのパワーポイント資料を参照して獲得した知識と学習の感想を創作レポートに記入する。(45分)
13	胡粉を知る ・胡粉を溜てみる	授業テキストの胡粉団子の作り方を事前学習する。(45分)	日本画の色材の基本である胡粉の伝統的な扱い方と美しい発色を知る。(45分)
14	絹に胡粉を塗る	胡粉の原料、溶き方、塗り方と目的を復習する。資料を確認して具引きの方法を知る。(45分)	テキストとTEAMSのパワーポイント資料を参照して獲得した知識と学習の感想を創作レポートに記入する。(45分)
15	水干絵の具を知る ・水干絵の具を美しく溶く	授業テキストの水干絵具の欄を事前学習する。(45分)	水干絵具の美しい溶き方を確認する。(45分)
16	日本画の染りの技法演習 ・絵具の処理と筆の手入れ方法	水干絵具の美しい溶き方、表現技法を繰り返し確認する。(45分)	テキストとTEAMSのパワーポイント資料を参照して獲得した知識と学習の感想を創作レポートに記入する。(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17	相互鑑賞	作品の背景色と塗りの方法を決定する。(45分)	作品の相互鑑賞を通して表現の多彩さに気付き互いに技法を学び合う。(45分)
18	絵画作品の彩色 ・表彩色と裏彩色の違い	テキスト、パワーポイント資料、創作レポートを確認する。背景色を想定する。(45分)	テキストとTEAMSのパワーポイント資料を参照して獲得した知識と学習の感想を創作レポートに記入する。(45分)
19	絵画作品の彩色	絹の透ける性質を利用した裏箔表現を取り入れるか想定する。(45分)	写生での観察をもとに水干絵具での表現を深めて行くことを確認する。(45分)
20	絵画作品の彩色 ・箔を使った表現、裏箔と砂子	テキストやTEAMSの箔の資料を確認する。	テキストとTEAMSの箔の資料を参照して獲得した知識と学習の感想を創作レポートに記入する。(45分)
21	絵画作品の彩色	絹本の彩色に必要な事前準備を行う。(45分)	写生での観察をもとに水干絵具での表現を深めて行くことを確認する。(45分)
22	絵画作品の彩色	絹本の彩色に必要な事前準備を行う。(45分)	テキストとTEAMSのパワーポイント資料を参照して獲得した知識と学習の感想を創作レポートに記入する。(45分)
23	絵画作品の彩色	学習内容に必要な事前準備を行う。裏装丁を工夫した表現を考える(45分)	絹本の彩色を進めて技法と進度を確認する。(45分)
24	絵画作品の彩色 ・絹の透ける色を生かした表現を考える	絹本の彩色に必要な事前準備を行う。(45分)	次週までの課題として復習テスト問題を考える。テキストとTEAMSのパワーポイント資料を参照して獲得した知識と学習の感想を創作レポートに記入する。(45分)
25	絵画作品の彩色	作品の裏装丁を施す。(45分)	絹本の彩色を進めて技法と進度を確認する。(45分)
26	絵画作品の彩色	絹本の彩色に必要な事前準備を行う。(45分)	テキストとTEAMSのパワーポイント資料を参照して獲得した知識と学習の感想を創作レポートに記入する。(45分)
27	画印を考える ・画印を描く	*画印のデザインを考える 相互鑑賞で自作を語る準備(45分)	復習テスト問題を集約する(45分)
28	相互鑑賞	絹本の彩色に必要な事前準備を行う。作品についての乾燥を考える。(45分)	テキストとTEAMSのパワーポイント資料を参照して獲得した知識と学習の感想を創作レポートに記入する。(45分)
29	日本画基礎知識テスト ・画印を描く	学期末テストの為に学習(45分)	テストの結果確認(45分)
30	作品完成と鑑賞 作品を額装する	作品の装丁に必要な素材や額を選択する。(45分)	テキストとTEAMSのパワーポイント資料を参照して獲得した知識と学習の感想を創作レポートに記入する。(45分)
31	課題に対する解説・フィードバック	講義全体を通して質問事項をまとめておく。(45分)	講義内容全体を振り返り自己評価表を記入する。(45分)
32	課題課題に対する解説・フィードバック 授業改善アンケートの実施	講義内容全体を振り返り自己評価表を記入する。(45分)	解説・フィードバックを受けて講義全体の理解を深める。(45分)



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ビジネス倫理 (科目ナンバリング: PHE422019, PHE522021)				
授業担当者(所属・職名)	遠藤 均(経営学科・教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 遠藤 均)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示板等を参照				

概要

履修目標

過去のビジネス倫理や具体例を踏まえながら、間接体験(感動)や創造的思索を通して、自他の心の支えとなりうるような確固たるビジネスの倫理観を形成することができる。また、これからの時代に必要な新たなビジネス倫理を探究する。

授業の位置づけ

経営学科のDP(2)、(4)、(5)に対応する。

到達目標

仕事の基盤となるべきビジネス倫理や、未来社会のあるべき姿を構築する。

授業全体の内容と概要

過去のビジネス倫理や教師自身の考えを紹介しながら、学生自身が主体的にみずからのビジネス倫理観を形成していく。そのためには、学生自身がみずから主体的に考え、かつ積極的に授業に参加することが欠かせない。「SDG1. 貧困をなくそう」、「SDG2. 飢餓をなくそう」、「SDG8. 働きがいも経済成長も」、「SDG10. 人や国の不平等をなくそう」、「SDG12. つくる責任つかう責任」、「SDG14. 海の豊かさを守ろう」、「SDG15. 陸の豊かさを守ろう」、「SDG16. 平和と公正をすべての人に」の関連授業

授業の方法

講義。対話、発表、ディベート、グループワーク、ディスカッションなどによるアクティブラーニング。適宜、平常点を付与する。

アクティブラーニングの実施方法

<input type="radio"/>	プレゼンテーション	<input type="radio"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL
<input type="checkbox"/>	模擬授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業
<input type="radio"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="radio"/>	双方向授業	<input type="radio"/>	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

講義中はスマホ等の電源を必ずOFFにし、机の上に置かないこと。置いている場合は、講義終了まで預かる。授業に関係のない私語禁止。座席を指定することもありうる。遅刻は一回につき一点減点。居残り厳禁。レポートの採点基準は、「どれだけ講義の内容を理解し、自分のものになっているか」ということ。自分自身との対話を通し、自分のことばで語る事が重要。講義で扱っていない内容や自分の考えばかりを書いても合格点に達することはできない。コピーは10%単位認定されない。最後に、全体的感想や自分の意見を付け加えることよりよい。レポートは、原稿用紙換算5枚以上(2千字以上)、文字数を明記する。書式は問わない。公欠や特別な事由で欠席した場合、課題を提出しなければ、授業回数に反映されないことに留意。最終レポートの提出期限は、第13回の講義当日。一日遅れるごとに1点減点となる。学務課に成績票を提出した後は受領できない。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な出席回数は、12回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	42%	0%	0%	10%	48%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
レポート	講義内容を十分理解し、みずからの考え方も十分確立できた。	講義内容をかなり理解し、みずからの考え方もかなり確立できた。	講義内容をそれなりに理解し、みずからの考え方もそれなりに確立できた。	講義内容を理解しようと努め、みずからの考え方も確立しようと努めた。	講義内容を理解しておらず、みずからの考え方も確立していなかった。
発表	発表回数が10回以上あった。	発表回数が7回以上あった。	発表回数が5回以上あった。	発表回数が3回以上あった。	発表回数が3回未満だった。
ディベート、グループワーク	ディベートやグループワークなどで中心的に発表した。	ディベートやグループワークなどで積極的に発表した。	ディベートやグループワークなどでそれなりに発表した。	ディベートやグループワークなどで発表しようと努めた。	ディベートやグループワークなどに消極的であった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ビジネス倫理 (科目ナンバリング: PHE422019, PHE522021)				
授業担当者(所属・職名)	遠藤 均(経営学科・教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 遠藤 均)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス、シラバスの説明 授業改善アンケート結果を反映の説明 ビジネス倫理とは?	シラバスをよく読む(90分)	第1回講義の復習(90分)
2	SDGsとはなにか	第1回講義の復習と第2回講義の復習(90分)	第2回講義の復習(90分)
3	物質的価値中心主義と利己主義の終着駅 市場原理主義と弱肉強食の論理	第2回講義の復習と第3回講義の復習(90分)	第3回講義の復習(90分)
4	物質的価値中心主義と利己主義の終着駅 企業の論理と人類の幸福	第3回講義の復習と第4回講義の復習(90分)	第4回講義の復習(90分)
5	物質的価値中心主義と利己主義の終着駅 限度をこえた利己主義	第4回講義の復習と第5回講義の復習(90分)	第5回講義の復習(90分)
6	物質的価値中心主義と利己主義の終着駅 拜金主義のジレンマ	第5回講義の復習と第6回講義の復習(90分)	第6回講義の復習(90分)
7	物質的価値中心主義と利己主義の終着駅 豊かさとはなにか	第6回講義の復習と第7回講義の復習(90分)	第7回講義の復習(90分)
8	企業の社会的責任(CSR) 安全性の哲学 足尾銅山鉱毒事件 1	第7回講義の復習と第8回講義の復習(90分)	第8回講義の復習(90分)
9	企業の社会的責任(CSR) 安全性の哲学 足尾銅山鉱毒事件 2	第8回講義の復習と第9回講義の復習(90分)	第9回講義の復習(90分)
10	企業の社会的責任(CSR) 安全性の哲学 水俣病事件 1	第9回講義の復習と第10回講義の復習(90分)	第10回講義の復習(90分)
11	企業の社会的責任(CSR) 安全性の哲学 水俣病事件 2	第10回講義の復習と第11回講義の復習(90分)	第11回講義の復習(90分)
12	企業の社会的責任(CSR) 安全性の哲学 薬害サリドマイド事件, 薬害スモン事件	第11回講義の復習と第12回講義の復習(90分)	第12回講義の復習(90分)
13	企業の社会的責任(CSR) 安全性の哲学 薬害エイズ事件	第12回講義の復習と第13回講義の復習(90分)	第13回講義の復習(90分)
14	企業の社会的責任(CSR) 安全性の哲学 福島原発事故について	第13回講義の復習と第14回講義の復習(90分)	第14回講義の復習(90分)
15	企業の社会的責任(CSR) 安全性の哲学 安全性の要件, 確証と反証の非対称性, 因果関係	第14回講義の復習と第15回講義の復習(90分)	第15回講義の復習(90分)
16	課題(レポート)に対するフィードバック 授業改善アンケートの実施	第15回講義の復習と第16回講義の復習(90分)	第16回講義の復習(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	社会福祉の原理と政策 (科目ナンバリング: SWS121017/2023年度以降SWS111017)				
授業担当者(所属・職名)	小早川 俊哉(社会福祉学部・教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 小早川 俊哉)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示板等を参照				

概要

履修目標

社会福祉の原理をめぐる思想・哲学と理論を理解する。  
 社会福祉の歴史的展開の過程と社会福祉の理論を踏まえ、欧米との比較によって日本の社会福祉の特性を理解する。  
 社会問題と社会構造の関係の視点から、現代の社会問題について理解する。  
 福祉政策を捉える基本的な視点としての概念や理念を理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP(1)(2)(3)に対応する。

到達目標

社会福祉士と精神保健福祉士に必要な基礎的な知識を身につけることができる。  
 社会変化と福祉制度の変遷(変換すること)の関連を説明できるようになる。  
 「公平な社会」を「共生社会」と関連づけることができる。

授業全体の内容と概要

福祉を学ぶための基盤となる考え方や基礎知識を学ぶ。  
 福祉サービスをソーシャル・サービス、福祉政策をソーシャル・ポリシー(社会政策)と福祉を幅広く捉えるようになった背景(要因・理由)とその内容(考え方・概念)を学ぶ。  
 SDG3「すべての人に健康と福祉を」の関連授業。

授業の方法

授業のポイントを記したレジュメ(プリント)を配布する。  
 開始5-10分は、前回の復習を口頭試問形式で行う。その後は、パワーポイントを使用し、配布済みレジュメに従い空き時間に重要・理解できた事項をメモする形の講義形式をとる。理解度の確認のため随時問いかけをさせてもらう。質問には随時対応する。  
 復習を兼ねて、授業中のメモと教科書などを参考にノートにまとめることを推奨する。  
 中間試験(論述)を採点后返す際、解答の仕方など個別に指導する。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業	○	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

社会保険や相談援助の基礎と専門職など、他の授業との関わりに注意する。  
 授業中の積極性は、授業終了時に名前を呼んでの出席確認を行うことで判定する。  
 遅刻3回で欠席1回とみなす。  
 尚、不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。  
 その他、個別案件に対しては要相談

資格指定科目

社会福祉士国家試験受験資格課程、精神保健福祉士国家試験受験資格課程、保育士養成課程、スクール(学校)ソーシャルワーカー資格課程、子育て支援ソーシャルワーカー資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。  
 積極的な授業参加(発言する、質問する、回答する、メモを取る、など)を平常点とする。  
 論述の中間試験と定期試験、平常点の総計で単位認定を行う。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
50%	0%	0%	25%	25%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
社会福祉の歴史について	社会変化と福祉制度変遷の背景を知識として身に付け、今後の福祉制度の在り方を、自己の考えとして表現できた。	社会変化と福祉制度変遷の背景を基礎知識として(質問への回答、試験の論述、などに)使用することができた。	社会変化と福祉制度変遷を関連付けて説明することができた。	社会変化と福祉制度変遷を関係付けることができた。	社会変化と福祉制度変遷を関係付けることができなかった。
社会福祉の理論(哲学、思想を含む)について	公平性と効率性がどの様重要なかを理解できた。	社会福祉の論点が何かを把握することができた。	理論の基盤となる用語の意味を理解できた。	社会福祉の基礎となる考え方を理解できた。	社会福祉の基礎となる考え方を理解できなかった。
ソーシャル・ポリシー(福祉政策)について	幅広い概念のソーシャル・ポリシーを用いる理由を説明することができた。	ソーシャル・ポリシーの目的と公平な社会の実現の関連を説明することができた。	ソーシャル・ポリシーにおいて公平性が重要な理由を説明することができた。	ソーシャル・ポリシーの概要を理解できた。	ソーシャルポリシーの概要を理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	社会福祉の原理と政策 (科目ナンバリング: SWS121017/2023年度以降SWS111017)				
授業担当者(所属・職名)	小早川 俊哉(社会福祉学部・教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 小早川 俊哉)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『最新・社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座 4 社会福祉の原理と政策』	一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規出版	2021	9784050882344	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション(授業改善アンケート結果について、シラバスの説明を含む)と社会福祉の原理について(自助として市場の論議と所得再分配を含む)	シラバスの読み込みと市場原理を調べる(90分)	用語の整理とメモ等をノートにまとめる(90分)
2	社会福祉の歴史について(社会変化と福祉制度変遷の関係性)	教科書を読み本授業のイメージを持てるようにする(90分)	用語の整理とメモ等をノートにまとめる(90分)
3	社会福祉の歴史について(欧米の社会福祉の歴史的展開)	教科書を読み本授業のイメージを持てるようにする(90分)	用語の整理とメモ等をノートにまとめる(90分)
4	社会福祉の歴史について(日本の社会福祉の歴史的展開)	教科書を読み本授業のイメージを持てるようにする(90分)	用語の整理とメモ等をノートにまとめる(90分)
5	社会福祉の思想・哲学について(人間の尊厳、社会正義などを含む)	教科書を読み本授業のイメージを持てるようにする(90分)	用語の整理とメモ等をノートにまとめる(90分)
6	社会福祉の理論について(基本的な考え方について)	教科書を読み本授業のイメージを持てるようにする(90分)	用語の整理とメモ等をノートにまとめる(90分)
7	社会福祉の論点について(効率と公平、リパタリアン・パターナリズムなどを含む)	教科書を読み本授業のイメージを持てるようにする(90分)	今回のノートをまとめるとともに中間試験のため直しを行う(90分)
8	前半のまとめと中間小試験	中間試験の準備をする(90分)	自身の解答を振り返る(90分)
9	社会福祉の対象とニーズについて(demandsとneedsの違いと変遷を含む)	教科書を読み本授業のイメージを持てるようにする(90分)	用語の整理とメモ等をノートにまとめる(90分)
10	現代社会の課題について(人口減少、少子高齢化などを含む)	教科書を読み本授業のイメージを持てるようにする(90分)	用語の整理とメモ等をノートにまとめる(90分)
11	現代社会の課題背景について(社会構造・情勢の変化を含む)	教科書を読み本授業のイメージを持てるようにする(90分)	用語の整理とメモ等をノートにまとめる(90分)
12	福祉政策の基本的視点について(福祉レジームを含む)	教科書を読み本授業のイメージを持てるようにする(90分)	用語の整理とメモ等をノートにまとめる(90分)
13	ソーシャル・ポリシーと福祉政策(1)・社会政策のなかの福祉政策	教科書を読み本授業のイメージを持てるようにする(90分)	用語の整理とメモ等をノートにまとめる(90分)
14	ソーシャル・ポリシーと福祉政策(2)・福祉政策の体系	教科書を読み本授業のイメージを持てるようにする(90分)	用語の整理とメモ等をノートにまとめる(90分)
15	まとめとして、現代社会の課題と福祉政策の変遷についての確認 授業改善アンケートの実施	これまでの授業を振り返り、福祉において公平がなぜ重要かを考える(90分)	定期試験に向け自身のノートの最終チェックを行う(90分)
16	定期試験(60分の試験終了後、試験のポイントを解説)	定期試験の準備をする(90分)	現代社会と福祉の授業に向けて、試験の振り返り(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	工芸実習 (ガラス工芸) (科目ナンバリング: AEA223074)				
授業担当者(所属・職名)	楠本 祐弘(デザイン学科・非常勤講師)	研究室等所在	1号館1階非常勤講師室 2階クラフト教室		
単位数	2 (単位認定責任者: 楠本 祐弘)	CAP制	×		
実務経験のある教員の授業科目	ガラス工芸家としての活動	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	複数の技法を扱う制作活動経験を活かし、技法、発想力・デザインの指導を行う。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。				

概要

履修目標
課題に対し、適正な発想展開しデザインする事、安全で効率良い制作作業、作品の説明までを一つの作品制作として行う。それぞれのプロセスの質を高めるよう努める。また素材知識を身につける事と段取りをして効率の良い進め方をする。

授業の位置づけ
デザイン学科のDP (1) (2) (5) に対応する。

到達目標
ガラスの素材知識を得る事とガラス工芸の手法を理解する。作品を具現化する為の発想展開が出来る。安全確保し、効率よく作業が行える。作品を明確に説明できる。

授業全体の内容と概要
コールドガラス(スタンドグラス・キルンワーク)のテクニック、素材等の理解と作品の製作。ホットガラス(バーナーワーク・吹きガラス)による作品製作

授業の方法
講師による技術指導での製作実習

アクティブラーニングの実施方法					
プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
模範授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
安全を確保し、怪我に十分注意し作業する事。作業要点のメモを取る事。成績を主に作品で評価するため、必ず作品提出する事。

修学サポート(合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目
--------

評価方法・基準

評価前提条件												
出席数20回以上及び作品提出にて評価する。発想・作業・完成度・作品説明を考慮して評価。												
評価方法												
<table border="1"> <thead> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>90%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>10%</td> </tr> </tbody> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	0%	90%	0%	0%	10%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	0%	90%	0%	0%	10%							

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
発想力及びデザイン展開	テーマに対し、ユニークな発想、デザイン展開がスムーズに行えた。	テーマに対し、発想の独自性、デザイン展開の整合性が取れている。	修正を行い制作可能なデザインができた。	スケジュール内にデザインを決められた。	発想が枯渇して、デザインが進まなかった。具現化出来る案がデザインできなかった。
作品制作のプランニング及び理解	作業の目的と要点を把握し、効率良く作業出来た。テーマに対し明快に答えた。	作業の目的と要点を把握し、効率良く作業出来た。	テーマに相応しい形態に仕上げられた。	スケジュール内に作品が完成した。	スケジュール内に作品が完成しなかった。
技術の習得	高温で熔けたガラスを難なく、余裕を持って扱えた。形を意図してコントロールできた。	高温で熔けたガラスをそこそ安定して扱えた。形を成形できた。	高温で熔けたガラスをなんとか扱うことができた。僅かに歪み有る形に制作できた。	高温で熔けたガラスの扱いではミスはありつつも堪えられた。歪んだ形ができた。	高温で熔けたガラスを扱えなかった。要点を体現出来なかった。
作品説明の表現	作品説明を的確な言葉使いでできた。形と説明が合致していた。質問に明快に返答できた。	テーマ、コンセプトが理解出来る作品説明ができた。	質問をやりとりして、テーマ、コンセプトが理解出来る作品説明ができた。	作品と制作意図に整合性が弱い。	テーマに対応した説明ができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	工芸実習（ガラス工芸）（科目ナンバリング：AEA223074）				
授業担当者（所属・職名）	楠本 祐弘（デザイン学科・非常勤講師）	研究室等所在	1号館1階非常勤講師室 2階クラフト教室		
単位数	2（単位認定責任者：楠本 祐弘）	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	ガラス工芸家としての活動	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	複数の技法を扱う制作活動経験を活かし、技法、発想力・デザインの指導を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明・技法説明を行う。	シラバスを読んでおくこと。（45分）	アイデアの素材収集する。（45分）
2	コールドガラス（スタンドグラス技法によるサンキヤッチャー等の製作）-1	アイデアの素材収集する。（45分）	メモを取り要点整理。（45分）
3	コールドガラス（スタンドグラス技法によるサンキヤッチャー等の製作）-2	アイデア、素材の収集（45分）	作業の準備（45分）
4	コールドガラス（スタンドグラス技法によるサンキヤッチャー等の製作）-3	作業の段取りをする。（45分）	作業の準備（45分）
5	コールドガラス（スタンドグラス技法によるサンキヤッチャー等の製作）-4	アイデアの素材収集する。（45分）	作業の準備（45分）
6	コールドガラス（スタンドグラス技法によるサンキヤッチャー等の製作）-5	作業の段取りをする。（45分）	作業の準備（45分）
7	コールドガラス（フュージングによる小物、小皿の製作）-1	アイデアの素材収集する。（45分）	メモを取り要点整理。（45分）
8	コールドガラス（フュージングによる小物、小皿の製作）-2	作業の段取りをする。（45分）	作業の準備（45分）
9	コールドガラス（フュージングによる小物、小皿の製作）-3 ホットガラス（バーナーワーク等）-1	アイデアの素材収集する。（45分）	作業の準備（45分）
10	コールドガラス（フュージングによる小物、小皿の製作）-4 ホットガラス（バーナーワーク等）-2	作業の段取りをする。（45分）	メモを取り要点整理。（45分）
11	コールドガラス（フュージングによる小物、小皿の製作）-5 ホットガラス（バーナーワーク等）-3	作業の段取りをする。（45分）	作業の準備（45分）
12	コールドガラス（フュージングによる小物、小皿の製作）-6 ホットガラス（バーナーワーク等）-4	作業の段取りをする。（45分）	作業の準備（45分）
13	コールドガラス（フュージングによる小物、小皿の製作）-7 ホットガラス（バーナーワーク等）-5	アイデアの素材収集する。（45分）	作業の準備（45分）
14	コールドガラス（フュージングによる小物、小皿の製作）-8 ホットガラス（バーナーワーク等）-6	作業の段取りをする。（45分）	作業の準備（45分）
15	コールドガラス（フュージングによる小物、小皿の製作）-9 ホットガラス（バーナーワーク等）-7	作業の段取りをする。（45分）	作業の準備（45分）
16	コールドガラス（フュージングによる小物、小皿の製作）-10 ホットガラス（バーナーワーク等）-8	作業の段取りをする。（45分）	作業の準備（45分）

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	ホットガラス（吹きガラス）器等の製作 サンドブラストを使用するの装飾-1	作業の段取りをする。（45分）	作業の準備（45分）
18	ホットガラス（吹きガラス）器等の製作 サンドブラストを使用するの装飾-2	作業の段取りをする。（45分）	作業の準備（45分）
19	ホットガラス（吹きガラス）器等の製作 サンドブラストを使用するの装飾-3	作業の段取りをする。（45分）	作業の準備（45分）
20	ホットガラス（吹きガラス）器等の製作 サンドブラストを使用するの装飾-4	作業の段取りをする。（45分）	作業の準備（45分）
21	ホットガラス（吹きガラス）器等の製作 サンドブラストを使用するの装飾-5	作業の段取りをする。（45分）	作業の準備（45分）
22	ホットガラス（吹きガラス）器等の製作 サンドブラストを使用するの装飾-6	作業の段取りをする。（45分）	作業の準備（45分）
23	コールドガラス（パート・ド・ヴェールによる立体物の製作）-1	アイデアの素材収集する。（45分）	製作手順の確認
24	コールドガラス（パート・ド・ヴェールによる立体物の製作）-2	作業の段取りをする。（45分）	製作手順の確認
25	コールドガラス（パート・ド・ヴェールによる立体物の製作）-3	作業の段取りをする。（45分）	製作手順の確認
26	コールドガラス（パート・ド・ヴェールによる立体物の製作）-4	作業の段取りをする。（45分）	製作手順の確認
27	コールドガラス（パート・ド・ヴェールによる立体物の製作）-5	作業の段取りをする。（45分）	製作手順の確認
28	コールドガラス（パート・ド・ヴェールによる立体物の製作）-6	作業の段取りをする。（45分）	製作手順の確認
29	コールドガラス（パート・ド・ヴェールによる立体物の製作）-7	作業の段取りをする。（45分）	製作手順の確認
30	コールドガラス（パート・ド・ヴェールによる立体物の製作）-8	作業の段取りをする。（45分）	製作手順の確認
31	コールドガラス（パート・ド・ヴェールによる立体物の製作）-9	作業の段取りをする。（45分）	メモを取り要点整理。（45分）
32	講評会「授業改善アンケートの実施」	プレゼンテーション案（45分）	メモを取り要点整理。（45分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	工芸実習（陶芸）（科目ナンバリング：AEA223074）				
授業担当者（所属・職名）	中島 知之（デザイン学科・非常勤講師）	研究室等所在	1号館1階 非常勤講師室		
単位数	2（単位認定責任者：中島 知之）	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	作家活動の中で培った陶芸制作技法、経験を学生により分かりやすく伝える。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。				

概要

履修目標

日常の中にある「うつわ」をテーマにした陶芸制作を通じ、「陶器」という素材における表現方法と知識、技術を深めることで、美術表現の幅を広げる。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP(1)(5)に対応する。

到達目標

陶芸の知識・技法の理解を目標とする。その上で豊かな発想をもって新しく活動を展開する力を身につけることができる。

授業全体の内容と概要

2年次での工芸実習の内容をふまえ、これまでの実習の応用と新しい技術の習得を目指し、電動ろくろでの成形技術の実習を中心に進める。「土ねり」「装飾」「絵付け」「釉掛け」「窯詰め」「窯焚き」なども、作品の制作過程に沿ってより深く学ぶ。それと同時に全国の焼き物、自窯業地などの特色なども学ぶ。

授業の方法

課題作品の説明、実演ののちに各自練習。講師の示す期間内に課題作品提出し作品批評をおこなう。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

課題提出期限は厳守。遅刻、欠席の無いよう注意すること。課題作品の提出を課す。課題作品の説明、提出の方法は授業時間に指示する。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

課題提出期限は厳守。遅刻、欠席の無いよう注意すること。課題作品の提出を課す。課題作品の説明、提出の方法は授業時間に指示する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	50%	0%	0%	50%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
陶芸における関心、意欲及び授業態度	授業前事後の学習は、授業中に積極的な質問を行い、作業など積極的な授業態度が出来る。	授業前事後の学習がなされている。授業中の課題、作業をこなしている。また、理解を深めるため真剣に作業に取り組んだ。	授業中の課題、作業をこなしている。また、理解を深めるため真剣に作業に取り組んだ。	授業中の課題、作業をこなした。	授業中の課題、作業をしていない。
陶芸の知識	授業内容を超越する陶芸の知識を積極的に学び理解を深めた。	授業内容における陶芸の知識をほぼ理解した。	授業内容における陶芸の知識をおおむね理解した。	授業内容における陶芸の知識を最低限理解した。	授業内容における陶芸の知識を理解できていない。
陶芸技法の習得度	課題作品に必要な技法を習得し課題を完成させる。そして、より高難度技法の課題に取り組りくんだ。	課題作品に必要な技法をほぼ習得し課題を完成させた。	課題作品に必要な技法をおおむね習得し課題を完成させた。	課題作品に必要な技法を最低限習得し課題課題を完成させた。	課題を完成できない。



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	工芸実習（陶芸）（科目ナンバリング：AEA223074）				
授業担当者（所属・職名）	中島 知之（デザイン学科・非常勤講師）	研究室等所在	1号館1階 非常勤講師室		
単位数	2（単位認定責任者：中島 知之）	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	作家活動の中で培った陶芸制作技法、経験を学生により分かりやすく伝える。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバス説明・授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読んでおくこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
2	基本的な陶芸の知識と制作の説明 土ねり指導（荒ねり、菊ねり）	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
3	電動ろくろによる作品制作 カップ（電動ろくろによる粘土成型）	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
4	電動ろくろによる作品制作 カップ（電動ろくろによる粘土成型）	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
5	電動ろくろによる作品制作 カップ（電動ろくろによる粘土成型、装飾、仕上げ）	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
6	電動ろくろによる作品制作 カップ（電動ろくろによる粘土成型、装飾、仕上げ）	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
7	電動ろくろによる作品制作 カップ（装飾、仕上げ）	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
8	電動ろくろによる作品制作 カップ（装飾、仕上げ）	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
9	釉がけ、窯詰め、電気窯による焼成	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
10	釉がけ、窯詰め、電気窯による焼成	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
11	電動ろくろによる作品制作 茶碗（電動ろくろによる粘土成型、装飾、仕上げ）	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
12	電動ろくろによる作品制作 茶碗（電動ろくろによる粘土成型、装飾、仕上げ）	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
13	電動ろくろによる作品制作 茶碗（電動ろくろによる装飾、仕上げ）	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
14	電動ろくろによる作品制作 茶碗（電動ろくろによる装飾、仕上げ）	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
15	電動ろくろによる作品制作 皿（装飾、仕上げ） 釉がけ、窯詰め、電気窯による焼成	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
16	電動ろくろによる作品制作 皿（装飾、仕上げ） 釉がけ、窯詰め、電気窯による焼成	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	電動ろくろによる作品制作 皿（装飾、仕上げ） 釉がけ、窯詰め、電気窯による焼成	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
18	電動ろくろによる作品制作 皿（装飾、仕上げ） 釉がけ、窯詰め、電気窯による焼成	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
19	電動ろくろによる作品制作 花器（電動ろくろによる粘土成型）	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
20	電動ろくろによる作品制作 花器（電動ろくろによる粘土成型）	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
21	電動ろくろによる作品制作 花器（電動ろくろによる粘土成型、装飾、仕上げ）	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
22	電動ろくろによる作品制作 花器（電動ろくろによる粘土成型、装飾、仕上げ）	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
23	電動ろくろによる作品制作 花器（電動ろくろによる粘土成型、装飾、仕上げ）	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
24	電動ろくろによる作品制作 花器（電動ろくろによる粘土成型、装飾、仕上げ）	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
25	電動ろくろによる作品制作 花器（電動ろくろによる粘土成型、装飾、仕上げ）	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
26	電動ろくろによる作品制作 花器（電動ろくろによる粘土成型、装飾、仕上げ）	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
27	電動ろくろによる作品制作 花器（装飾、釉がけ、焼成）	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
28	電動ろくろによる作品制作 花器（装飾、釉がけ、焼成）	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
29	釉がけ、窯詰め、電気窯による焼成	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（45分）
30	釉がけ、窯詰め、電気窯による焼成	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自で制作作業について振り返る（45分）
31	課題作品の批評会		人の作品を見て自分の作品との違い等についてイメージしておく（45分）
32	課題作品の批評会・まとめ・解説・授業改善アンケートの実施	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	講義全体をふりかえり、まとめを行うこと（45分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	工芸実習（版表現）（科目ナンバリング：AEA223074）				
授業担当者（所属・職名）	森迫 暁夫（デザイン学科・非常勤講師）	研究室等所在	1号館1階 非常勤講師室		
単位数	2（単位認定責任者：森迫 暁夫）	CAP制	×		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	版画家として活動している教員が、その経験を活かして実践において活用できる様々な版表現の実習を行う。		
オフィスアワー	事前連絡後に調節をし、非常勤講師室などに対応。				

概要

履修目標
------

各課題について考える事を大事に扱う。技術を学ぶ事と版の可能性について考える事、自分の個性を知り、それを磨いていく事。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP(1)(3)(5)に対応する。

到達目標

版という制約を知り、制約による美を発見して自己の制作につなげる。

授業全体の内容と概要

間接的な表現や直接的表現など、様々な版を体験する。

授業の方法

授業においては、各課題の説明の後に、実技制作にあたる。各回のテーマごとに課題提出を行い、課題ごとにプレゼンテーションをしてもらう。授業の始めに必ず、主に札幌市で行われている展覧会やイベントの告知をしています。自分にとっての制作の立ち位置や、可能性について考えるためのフィールドワークとして、定期的に展示を見に行くことを目標としたい。そこから自ら調査、個人の制作につなげられるようにしていきたい。

アクティブラーニングの実施方法

<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL
<input type="checkbox"/>	模範授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業
<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

自由度の高い授業形態で遅刻や欠席についても理由を聞き配慮しますが、しっかりと授業受けるという意識は持ってきてください。筆記用具を持ってこなかったり、ポツポツと欠席、遅刻があったりする場合はこちらから履修を取り消してもらう場合もあります。授業時間以外では、原画、版下などの制作が必要となる。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合があります。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

なし

評価方法・基準

評価前提条件

自由度の高い授業形態で遅刻や欠席についても理由を聞き配慮しますが、しっかりと授業受けるという意識は持ってきてください。筆記用具を持ってこなかったり、ポツポツと欠席、遅刻があったりする場合はこちらから履修を取り消してもらう場合もあります。課題は多くありませんので全て提出が単位認定の条件となり単位に必要な最低出席回数は、22回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	50%	0%	50%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
理解度	自ら進んで取り組み、授業の内容を理解した。	授業の内容を十分理解した。	授業の内容を概ね理解した。	授業の内容を最低限理解した。	授業の内容を理解できなかった。
課題	各課題に対して優先し、きちんと考えて制作している。	課題は全部出していて、十分考えている。	課題を全部出している。そこそこ考えて制作している。	課題を全部出している。	課題を出していない。
オリジナリティーの追求	自分のオリジナリティーを追求できている。	自分のオリジナリティーをそこそこ追求できている。	自分のオリジナリティーが向かを考えられる。	自分のオリジナリティーが最低限考えられている。	何も考えていない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	工芸実習（版表現）（科目ナンバリング：AEA223074）				
授業担当者（所属・職名）	森迫 暁夫（デザイン学科・非常勤講師）	研究室等所在	1号館1階 非常勤講師室		
単位数	2（単位認定責任者：森迫 暁夫）	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	版画家として活動している教員が、その経験を活かして実践において活用できる様々な版表現の実習を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 オリエンテーション 授業概要について、授業改善アンケート結果反映の	シラバスを見ておく（45分）	四版式について復習する（45分）
2	オリエンテーションと4版式についての講義。	シラバスを見ておく（45分）	四版式について復習する（45分）
3	消しゴムスタンプで遊ぶ。簡単なスタンプを作り、遊ぶ。	デザインカッター用意。四半式について復習。（45分）	自宅でも課題を進める。（45分）
4	消しゴムスタンプで遊ぶ。簡単なスタンプを作り、遊ぶ。	各自資料を用意。（45分）	自宅でも課題を進める。（45分）
5	消しゴムスタンプで名刺を作る。	各自資料を用意。（45分）	自宅でも課題を進める。（45分）
6	消しゴムスタンプで名刺を作る。	各自資料を用意。（45分）	自宅でも課題を進める。（45分）
7	消しゴムスタンプで名刺を作る。	各自資料を用意。（45分）	自宅でも課題を進める。（45分）
8	消しゴムスタンプで名刺を作る。	各自資料を用意。（45分）	自宅でも課題を進める。（45分）
9	消しゴムスタンプで名刺を作る。	各自資料を用意。（45分）	自宅でも課題を進める。（45分）
10	消しゴムスタンプで名刺を作る。	各自資料を用意。（45分）	自宅でも課題を進める。（45分）
11	消しゴムスタンプで名刺を作る。	各自資料を用意。（45分）	自宅でも課題を進める。（45分）
12	消しゴムスタンプで名刺を作る。	各自資料を用意。（45分）	自宅でも課題を進める。（45分）
13	消しゴムスタンプで名刺を作る。	各自資料を用意。（45分）	自宅でも課題を進める。（45分）
14	消しゴムスタンプで名刺を作る。名刺交換の基本を学ぶ。プレゼンテーション。	各自資料を用意。（45分）	ケシ版について考える（45分）
15	マーブリング	汚れても良い格好。四版式について復習。（45分）	自宅でも課題を進める。（45分）
16	マーブリング	汚れても良い格好。四版式について復習。（45分）	楽しかったことを思い出す。四版式について復習。（45分）

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	手形	自分の手について考える。（45分）	自宅でも課題を進める。（45分）
18	手形	自分の手について考える。（45分）	押されたものについて考える。（45分）
19	フロッタージュ	B2鉛筆用意。学校内を探検しておく。（45分）	自宅でも課題を進める。（45分）
20	フロッタージュ	B2鉛筆用意。学校内を探検しておく。（45分）	課題の意図について考える。（45分）
21	木版 アウトラインをとらないことを意識して作品を作る。紙だけでなくフィルムなどにも印刷。原画描き。	彫刻刀と絵の具準備。四版式について復習。資料準備。（45分）	自宅でも課題を進める。（45分）
22	木版 アウトラインをとらないことを意識して作品を作る。紙だけでなくフィルムなどにも印刷。原画描き。	彫刻刀と絵の具準備。四版式について復習。資料準備。（45分）	自宅でも課題を進める。（45分）
23	木版 アウトラインをとらないことを意識して作品を作る。紙だけでなくフィルムなどにも印刷。彫り。	彫刻刀と絵の具準備。四版式について復習。資料準備。（45分）	自宅でも課題を進める。（45分）
24	木版 アウトラインをとらないことを意識して作品を作る。紙だけでなくフィルムなどにも印刷。彫り。	彫刻刀と絵の具準備。四版式について復習。資料準備。（45分）	自宅でも課題を進める。（45分）
25	木版 アウトラインをとらないことを意識して作品を作る。紙だけでなくフィルムなどにも印刷。彫り。	彫刻刀と絵の具準備。四版式について復習。資料準備。（45分）	自宅でも課題を進める。（45分）
26	木版 アウトラインをとらないことを意識して作品を作る。紙だけでなくフィルムなどにも印刷。彫り。	彫刻刀と絵の具準備。四版式について復習。資料準備。（45分）	自宅でも課題を進める。（45分）
27	木版 アウトラインをとらないことを意識して作品を作る。紙だけでなくフィルムなどにも印刷。彫り。	彫刻刀と絵の具準備。四版式について復習。資料準備。（45分）	自宅でも課題を進める。（45分）
28	木版 アウトラインをとらないことを意識して作品を作る。紙だけでなくフィルムなどにも印刷。彫り。	彫刻刀と絵の具準備。四版式について復習。資料準備。（45分）	自宅でも課題を進める。（45分）
29	木版 アウトラインをとらないことを意識して作品を作る。紙だけでなくフィルムなどにも印刷。刷り。	彫刻刀と絵の具準備。四版式について復習。資料準備。（45分）	自宅でも課題を進める。（45分）
30	木版 アウトラインをとらないことを意識して作品を作る。紙だけでなくフィルムなどにも印刷。刷り。	彫刻刀と絵の具準備。四版式について復習。資料準備。（45分）	自宅でも課題を進める。（45分）
31	木版 アウトラインをとらないことを意識して作品を作る。紙だけでなくフィルムなどにも印刷。刷り。	彫刻刀と絵の具準備。四版式について復習。資料準備。（45分）	自宅でも課題を進める。（45分）
32	木版 アウトラインをとらないことを意識して作品を作る。紙だけでなくフィルムなどにも印刷。刷り。プレゼンテーション。授業改善アンケートの実	彫刻刀と絵の具準備。四版式について復習。資料準備。（45分）	課題から。版画について考える。（45分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	工芸実習（木工芸）（科目ナンバリング：AEA223074）				
授業担当者（所属・職名）	島田 晶夫（デザイン学科・非常勤講師）	研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2（単位認定責任者：島田 晶夫）	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	木工作家としての活動経験を有する教員が、その経験を活かして実践に即した実習を行う。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、研究室、非常勤講師室などで対応。				

概要

履修目標
クラフトを課題として、実際にデザインを制作する過程で、木材を主とした素材を体験し、作る楽しさと、それを生活の中で利用する喜びを知る。同時に美と用途を兼ね備える器物「工芸」に対する理解度を深めることができる。
授業の位置づけ
デザイン学科のDP(1)(3)(5)に対応する。
到達目標
使える物を丁寧に作る。ノミ、鉋、ノコの使い方（手工具の使い方）を身につける。

到達目標
使える物を丁寧に作る。ノミ、鉋、ノコの使い方（手工具の使い方）を身につける。

到達目標
使える物を丁寧に作る。ノミ、鉋、ノコの使い方（手工具の使い方）を身につける。

授業全体の内容と概要
木工の工作機械と工具、道具類の使い方を知り、作業手順の大切さと作業後の片付けの大切さを知る。あわせて、刃物の危険性を学ぶ。

授業の方法
実際に作業を見せて説明し、実技を行う。

アクティブラーニングの実施方法					
プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
模擬授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項
作品の制作が長期にわたるため、制作途中で欠席すると次の作業が不可能になる。途中で欠席すると、作品が完成しないので注意すること。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目
--------

評価方法・基準

評価前提条件												
単位認定に必要な最低出席回数は、20回以上。												
評価方法												
<table border="1"> <thead> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>80%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>20%</td> </tr> </tbody> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	0%	80%	0%	0%	20%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	0%	80%	0%	0%	20%							

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
手工具の使い方、授業態度	授業事前事後の学習はもとより、授業中の積極的な取り組み、模範的な授業態度であった。	授業事前事後の学習がなされている。授業中の課題や取り組みをこなしている。また、理解を深めるため内容を真実に真剣に取り組んでいた。	授業中の課題や作業をこなしている。また、理解を深めるため内容を真実に真剣に取り組んでいた。	授業中の課題や作業をこなしていた。	授業中着席するものの課題や作業をしていなかった。
木材への知識、理解	授業内容を越える学習を積極的にこなし理解度を深めていた。	授業内容をほぼすべて理解していた。	授業内容の概ねを理解していた。	最低限の授業内容を理解していた。	授業内容を理解できていなかった。
木工作業への展開、安全	授業内容にとどまらず、問題点と課題を把握させ、よいアイデアがでる、安全な作業を展開できた。	授業内容をほぼすべて理解し、安全な作業を展開できた。	授業内容の概ねを理解し、安全な作業を展開できた。	授業内容の一部から安全な作業の展開を見つけていた。	授業内容を理解できていないため、安全な作業を展開することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	工芸実習（木工芸）（科目ナンバリング：AEA223074）				
授業担当者（所属・職名）	島田 晶夫（デザイン学科・非常勤講師）	研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2（単位認定責任者：島田 晶夫）	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	木工作家としての活動経験を有する教員が、その経験を活かして実践に即した実習を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明 授業説明 第一課題「象嵌」	シラバスを読んでおくこと、象嵌作業とは何かを理解しておく。（45分）	説明を受けたことの確認（45分）
2	第一課題 制作 デザインする	前回までの確認を済ませておく（45分）	制作状況の確認。（45分）
3	第一課題 制作 デザインを基に象嵌作業をする	完成までの計画を立てる事。（45分）	制作状況の確認。（45分）
4	第一課題 制作 デザインを基に象嵌作業をする	完成までの計画を立てる事。（45分）	制作状況の確認。（45分）
5	第一課題 制作 デザインを基に象嵌作業をする	完成までの計画を立てる事。（45分）	説明を受けたことの確認（45分）
6	第一課題 制作 デザインを基に象嵌作業をする	完成までの計画を立てる事。（45分）	制作状況の確認。（45分）
7	第一課題 制作 デザインを基に象嵌作業をする	完成までの計画を立てる事。（45分）	制作状況の確認。（45分）
8	第一課題 制作 象嵌作業を終わらせる	完成までの計画を立てる事。（45分）	制作状況の確認。（45分）
9	第一課題 塗装 完成させる	完成までの計画を立てる事。（45分）	制作したものについての自分なりの感想を 考えておく（45分）
10	第一課題 品評会	制作したものについての自分なりの感想を 考えておく（45分）	指摘事項を確認すること。（45分）
11	授業説明 第二課題「三本脚ツール」	「三本脚」とは何かを調べておく。（45分）	説明を受けたことの確認（45分）
12	第二課題 授業説明続き、計画を立てる	前回の説明の確認をしておくこと（45分）	加工作業の計画遂行状況の把握。（45分）
13	第二課題 加工 各自の進度によって加工を進める	加工作業の計画を立てる事。（45分）	加工作業の計画遂行状況の把握。（45分）
14	第二課題 加工 各自の進度によって加工を進める	加工作業の計画を立てる事。（45分）	加工作業の計画遂行状況の把握。（45分）
15	第二課題 加工 各自の進度によって加工を進める	加工作業の計画を立てる事。（45分）	加工作業の計画遂行状況の把握。（45分）
16	第二課題 加工 各自の進度によって加工を進める	加工作業の計画を立てる事。（45分）	加工作業の計画遂行状況の把握。（45分）

授業計画				
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間			
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）	
17	第二課題 加工 各自の進度によって加工を進める	加工作業の計画を立てる事。（45分）	加工作業の計画遂行状況の把握。（45分）	
18	第二課題 加工 各自の進度によって加工を進める	加工作業の計画を立てる事。（45分）	加工作業の計画遂行状況の把握。（45分）	
19	第二課題 加工 各自の進度によって加工を進める	加工作業の計画を立てる事。（45分）	加工作業の計画遂行状況の把握。（45分）	
20	第二課題 加工 各自の進度によって加工を進める	加工作業の計画を立てる事。（45分）	加工作業の計画遂行状況の把握。（45分）	
21	第二課題 加工 各自の進度によって加工を進める	加工作業の計画を立てる事。（45分）	加工作業の計画遂行状況の把握。（45分）	
22	第二課題 加工 各自の進度によって加工を進める	加工作業の計画を立てる事。（45分）	加工作業の計画遂行状況の把握。（45分）	
23	第二課題 加工 大まかな加工をすべて終わらせる	加工作業の終了の見通しを立てる。（45分）	終了までの見通しの確認と把握をしておく（45分）	
24	第二課題 加工を終了させ、細部の確認をしておく	終了までの見通しの確認と把握をしておく（45分）	作業の遅れないようにする。（45分）	
25	第二課題 細部手直し、組み立て	作業の準備をしておく。（45分）	終了までの見通しの確認と把握をしておく（45分）	
26	第二課題 細部手直し、組み立て	前回の説明の確認をしておく（45分）	組み立て技術を理解しておく。（45分）	
27	第二課題 細部手直し、組み立て	作業の準備をしておく。（45分）	作業の遅れないようにする。（45分）	
28	第二課題 細部手直し、組み立て	作業の準備をしておく。（45分）	組み立て技術を理解しておく。（45分）	
29	第二課題 細部手直し、組み立て	作業の準備をしておく。（45分）	作業の遅れないようにする。（45分）	
30	第二課題 塗装、完成	作業の準備をしておく。（45分）	完成へ向けた準備を行って行く。（45分）	
31	第二課題 解説 授業改善アンケートの実施	全体を通しての質問事項を整理する。（45分）	質問と感想を自分で確認しておくこと（45分）	
32	第二課題 フィードバック	自分の質問と感想を整理しておくこと（45分）	指摘事項を確認すること。（45分）	

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	建築設備 (科目ナンバリング: AEN323025)				
授業担当者(所属・職名)	君 興治(建築学科・特任准教授)		研究室等所在	2号館4階	
単位数	2	(単位認定責任者: 君 興治)	CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	建築事務所所長として設計監理をしている経験から、躯体、断熱、金物との干渉やスペースの確保、またどのタイミングで設備工事が行われるかをイメージしながら設備計画を進める。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整し研究室もしくはオンラインで対応。				

概要

履修目標

建築設備で学んだことを応用し、公共施設や店舗などの規模の設備の計画・作図を学ぶ。利用者や、施工する立場になって、動線を考えた計画、その作図を学ぶ。

授業の位置づけ

建築学科のDP(1)(2)に対応する科目。

到達目標

大規模建築で必要とされる設備の計画ができ、それを正確に図面で表すことができる。

授業全体の内容と概要

給水給湯設備・衛生排水設備・空調設備・電気設備・照明設備について、そのシステムとメカニズムを中心に解説し、その設計手法を学ぶ。  
SDG7 エネルギーをみんなに、そしてクリーンに  
「SDG12 つくる責任 つかう責任」  
これからの時代のエネルギーに合わせた設備設計や設備図面の描き方を指導していく。

授業の方法

授業では、板書やICT(チームスを使用しながら、設備図をオンライン上その場で液晶ペンタブレットで添削し、毎事業ごとに保存することで、授業の課題経過をデジタル的にの残し、振り返りの自習を実現する。)を活用しながら事例を紹介し、双方向授業で実施する。  
また、授業中毎回、設備計画図を提出し添削を行いフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

「建築士試験受験資格課程」選択科目、教職課程(工業)選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、12回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	70%	0%	30%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
住宅よりも設備の種類や数が増す大規模建築において、設備の計画ができ、正確に図面表現ができるようになっていたか	各設備図の適した計画ができ、正しく図面を描くことができていた。	各設備図の計画ができ、正しく図面が描けていた。	各設備図を正しく描くことができた。	各種設備図を描くことができた。	設備図の作図ができなかった。
管理者が管理しやすい設備計画となっているか。	各設備図の適した計画ができ、正しく図面を描くことができていた。	各設備図の計画ができ、正しく図面が描けていた。	各設備図を正しく描くことができた。	各種設備図を描くことができた。	設備図の作図ができなかった。
利用者が使いやすい設備計画となっているか。	各設備図の適した計画ができ、正しく図面を描くことができていた。	各設備図の計画ができ、正しく図面が描けていた。	各設備図を正しく描くことができた。	各種設備図を描くことができた。	設備図の作図ができなかった。
設備の能力上支障がないか。	各設備図の適した計画ができ、正しく図面を描くことができていた。	各設備図の計画ができ、正しく図面が描けていた。	各設備図を正しく描くことができた。	各種設備図を描くことができた。	設備図の作図ができなかった。



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	建築設備 (科目ナンバリング: AEN323025)				
授業担当者(所属・職名)	君 興治 (建築学科・特任准教授)	研究室等所在	2号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者: 君 興治)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	建築事務所所長として設計監理をしている経験から、躯体、断熱、金物との干渉やスペースの確保、またどのタイミングで設備工事が行われるかをイメージしながら設備計画を進める。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『やさしい建築設備図面の見方・かき方』	千葉 孝男	オーム社	1999	9784274102509	
2	『世界で一番やさしい建築設備』	山田 浩幸	エクスナレッジ	2013	9784767815480	
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバスの説明 授業の進め方 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読んでおくこと (90分)	プリントを読んで理解しておくこと (90分)
2	給水設備・給湯設備とボイラー計画 (1)	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する (90分)	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する (90分)
3	給水設備・給湯設備とボイラー計画 (2)	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する (90分)	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する (90分)
4	給水設備・給湯設備とボイラー計画 (3)	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する (90分)	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する (90分)
5	衛生設備・排水設備と配管計画 (1)	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する (90分)	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する (90分)
6	衛生設備・排水設備と配管計画 (1)	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する (90分)	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する (90分)
7	衛生設備・排水設備と配管計画 (3)	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する (90分)	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する (90分)
8	空調調和・排煙設備とダクト計画 (1)	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する (90分)	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する (90分)
9	空調調和・排煙設備とダクト計画 (2)	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する (90分)	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する (90分)
10	空調調和・排煙設備とダクト計画 (3)	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する (90分)	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する (90分)
11	電気設備と冷暖房計画 (1)	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する (90分)	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する (90分)
12	電気設備と冷暖房計画 (2)	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する (90分)	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する (90分)
13	電気設備と冷暖房計画 (3)	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する (90分)	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する (90分)
14	照明設備と消火・防災設備計画 (1)	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する (90分)	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する (90分)
15	照明設備と消火・防災設備計画 (2)	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する (90分)	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する (90分)
16	照明設備と消火・防災設備計画 (3) 授業改善アンケートの実施	次回授業範囲の設備を、日常から触れて設備を確認する (90分)	授業の最後に行った計画を日常と照し合せ、確認する (90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	まちづくり論 (科目ナンバリング: SOC423044, SOC523043)				
授業担当者(所属・職名)	松本 懿 (経営学科・非常勤講師)		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室	
単位数	2 (単位認定責任者: 松本 懿)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	民間シンクタンクでの勤務(23年)や北海道地域づくりアドバイザー(35年)としての実務経験をもとに、まちづくりの考え方、あり方を具体的に・実践的に説明する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。				

概要

履修目標
「まちづくり」という言葉は広く使われているが、その意味・内容や成果についての受け止め方は一律ではない。本講では、住民自治をベースに地域経営をいかに展開・確立するかという観点から、改めてまちづくりの概念、今日的意義と課題、成功要因等を理解するとともに、自らの関わり方についても考究する。

授業の位置づけ
経営学科のDP(1)(2)(3)(4)(5)に対応する。

到達目標
「まちづくり」への知識や興味・関心が高まり、周りにある様々なまちづくり活動の特徴や成否に関する分析的視点・評価尺度が身につくとともに、今後、一住民として、あるいは自治体職員等として、自ら積極的姿勢をもって企画、参画することができる。

授業全体の内容と概要
「まちづくり」とは、誰が、何を、どうすることなのか。また、成功とはどんな状態を指し、到達するための条件・ポイントは何か。さらに、リーダーやメンバーに求められる心構えや行動とは…。こうした疑問や問題意識を念頭に、道内外の実例ををいかに分析・検討する中から、その答えを見出してゆく。

授業の方法
講義、グループワーク、レポート作成などを併用する。講義は、まちづくりの理論的側面を概説した上で、個別のまちづくりに関する経過資料やビデオを活用するなど事例を中心に進める。グループワークでは、まちづくり文献・資料等から、成功要因や学ぶべき事柄等を討議、発表し合う(5回程度)。レポート作成を数多く求めるが(7回程度)、グループワークやレポートへのコメントは、質問や要望事項に対する回答も含めて、次週にフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法			
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
私語厳禁。メモやノートをしっかりとる。遅刻の取り扱いは、授業開始時に説明。不測の事態の際はオンラインで実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	30%	10%	0%	0%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
の意義・概念・成功条件への知識・理解	授業内容を超える知識・情報を積極的に勉強・収集し、理解度を高めている。	授業内容をほぼ全て理解している。	授業内容を概ね理解している。	最低限の授業内容を理解している。	授業内容を理解できていない。
まちづくりへの関心・意欲および授業態度	事前事後の学習はもとより、授業中積極的に質問・発言するなど模範的な授業態度である。	事前事後の学習がなされている。授業中の課題や板書をこなしている。また、理解を深めるため内容を真剣に聴いている。	授業中の課題や板書をこなしている。また、理解を深めるため内容を真剣に聴いている。	授業中の課題や板書をこなしている。	授業中、着席するものの課題や板書に取り組んでいない。
具体的な市町村等を対象に、地域特性や課題を踏まえたまちづくりプランを構想・提言	問題意識が鮮明で、内容も具体的・魅力的に溢れている。	問題意識が鮮明で、内容も具体的・魅力的である。	問題意識が鮮明で、内容も具体的でわかりやすい。	内容に一定の具体性がある。	問題意識が不鮮明で、内容も具体性や魅力に欠けている。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	まちづくり論 (科目ナンバリング: SOC423044, SOC523043)				
授業担当者(所属・職名)	松本 懿 (経営学科・非常勤講師)	研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 松本 懿)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 民間シンクタンクでの勤務(23年)や北海道地域づくりアドバイザー(35年)としての実務経験をもとに、まちづくりの考え方、あり方を具体的・実践的に説明する。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス: シラバスを中心に説明(本講の目的・内容・意義、進め方、試験・評価方法、遅刻の取り扱い、受講上の留意点、授業改善アンケート結果のまちづくりへのアプローチ(1) 基礎理解(その概念、今日的意義・課題、担い手、新しい公共、参加・協働など)	シラバスをよく目を通しておく(90分)	授業内容に関連した「作文」を作成(90分)
2	まちづくりへのアプローチ(2) 構想・計画(まちの構成要素、その点検、計画・ルールなど)、「まちづくりの事例研究」<旭川市>	事前配布「米百俵」を読んでおく(90分)	授業内容に関するノートを整理する(90分)
3	まちづくりへのアプローチ(3) 実践に向けて(その準備、基本手順、留意点など)、「まちづくりの事例研究」<山形県長井市>	事前配布「旭川買物公園」を読んでおく(90分)	授業内容に関するノートを整理する(90分)
4	まちづくりの事例研究 過疎を逆手にとる<鹿児島県鹿屋市やねだん集落>	事前配布「長井市レインポーラン」を読んでおく(90分)	授業内容に関するレポートを作成する(90分)
5	まちづくりの事例研究 まちの美化・環境改善への挑戦<長野県飯田市>	過疎地域の今日的状況、課題を考察しておく(90分)	授業内容に関するレポートを作成する(90分)
6	まちづくりの事例研究 まちの歴史、町並みを活かす<愛媛県内子町>	事前配布「飯田市リンゴ並木」を読んでおく(90分)	授業内容に関するレポートを作成する(90分)
7	まちづくりの事例研究 美しい水環境を再生する<福岡県柳川市>	事前配布「内子町の町並み保存」を読んでおく(90分)	授業内容に関するノートを整理する(90分)
8	ゲスト講話「自治体職員とまちづくり」<北広島市の職員を予定>	事前配布「柳川の堤割」を読んでおく(90分)	授業内容に関するノートを整理する(90分)
9	まちづくりの事例研究 障がい者が働く・輝く<スワンペーカリー>	北広島市についての資料・データ・情報にアクセスする(90分)	ゲスト講話の内容に関するレポート作成(90分)
10	まちづくりの事例研究 安心・安全な子育て環境を創る<東京都NPOフローレンス>	事前配布「スワンペーカリー」を読んでおく(90分)	障がい者が働きやすい地域社会や職場を考えてみる(90分)
11	まちづくりの事例研究 商店街の再生・活性化<東京都足立区東和銀座商店街>	事前配布「病児保育のフローレンス」を読んでおく(90分)	授業内容に関するノートを整理する(90分)
12	まちづくりの事例研究 高齢者の生きがい・働きたい創造<徳島県上勝町>	事前配布「東和銀座商店街」を読んでおく(90分)	出身地の商店街の現状、課題を検討・整理してみる(90分)
13	まちづくりの事例研究 若者によるまちづくりイベント・活性化<札幌市YOSAKOIソーラン祭り>	事前配布「上勝町の葉っぱビジネス」を読んでおく(90分)	身近な高齢者に生きがいやまちのあり方を聞く(90分)
14	まとめ 課題「北広島市のまちづくりへの提言」発表・提出 総括講義「まちづくりの要諦」「授業改善アンケート」	配布資料からレポート「YOSAKOIの特徴・成功要因」を作成(90分)	授業内容に関するノートを整理する(90分)
15	「定期試験」(60分)及び解説(30分)	課題「北広島市への提言」をまとめておく(90分)	「まちづくり論」のノート、資料の整理(90分)
16		定期試験の準備(90分)	定期試験及び解説を受けて、本講全体の理解を深める(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	社会福祉の原理と政策 (科目ナンバリング: SWS121018/2023年度以降SWS111018)				
授業担当者(所属・職名)	小早川 俊哉(社会福祉学部・教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 小早川 俊哉)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示板等を参照				

概要

履修目標

福祉政策を捉える基本的な視点として、生活上のニーズと福祉政策の過程を結び付けて理解する。  
 福祉政策の動向と課題を踏まえた上で、関連施策や包括的支援について理解する。  
 福祉サービスの供給と利用の過程について理解する。  
 福祉政策の国際比較の視点から、日本の福祉政策の特性について理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP(1)(2)(3)に対応する。

到達目標

社会福祉士と精神保健福祉士に必要な基礎的な理論について理解することができる。  
 ソーシャル・ポリシー(社会政策)が元来の福祉政策のみならず、直接福祉を目的としない政策(所得政策、雇用政策、住宅政策、教育政策など)を含む意義と目的を理解することができる。  
 福祉の市場化の意義と目的を理解することができる。  
 主要国の福祉制度の外観を理解し、今後の我が国のソーシャル・ポリシーの方向性を考えることができる。

授業全体の内容と概要

「社会福祉の原理と政策」を踏まえて、ソーシャル・サービスの構成要素と供給主体を学ぶ。  
 福祉の市場化について、その内容と背景を学ぶ。  
 福祉を直接の目的としない個々のソーシャル・ポリシー及び相談援助活動との関連を学ぶことから、福祉における「公平と効率」の意義を学ぶ。  
 『SDG3「すべての人に健康と福祉を」の関連授業。

授業の方法

授業のポイントを記したレジュメ(プリント)を配布する。  
 開始5～10分は、前回の復習を口頭試問形式で行う。その後は、パワーポイントを使用し、配布済みレジュメに従い空き行間に重要・理解できた事項をメモする形の講義形式をとる。理解度の確認のため随時問いかけをさせてもらう。質問には随時対応する。  
 復習を兼ねて、授業中のメモと教科書などを参考にノートにまとめることを推奨する。  
 中間試験(論述)を採点后返す際、解答の仕方など個別に指導する。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業	○	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

「社会福祉の原理と政策」を踏まえ、社会保険や相談援助の基礎と専門職など、他の授業との関わりに注意する。  
 授業中の積極性は、授業終了時に名前を呼んでの出席確認を行うことで判定する。  
 遅刻3回で欠席1回とみなす。  
 尚、不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。  
 その他、個別案件に対しては要相談

資格指定科目

社会福祉士国家試験受験資格課程、精神保健福祉士国家試験受験資格課程、保育士養成課程、スクール(学校)ソーシャルワーカー資格課程、子育て支援ソーシャルワーカー資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。  
 積極的な授業参加(発言する、質問する、回答する、メモを取る、など)を平常点とする。  
 論述の中間試験と定期試験、平常点の総計で単位認定を行う。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
50%	0%	0%	25%	25%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
直接福祉を目的としないソーシャル・ポリシー	ソーシャル・ポリシーの概念とソーシャル・サービスの概念との範囲の違いに気付くことができた。	ソーシャル・ポリシーとソーシャル・サービスの関連を理解できた。	ソーシャル・ポリシーが直接福祉を目的としない政策を含む背景を理解できた。	直接福祉を目的としない個々のソーシャル・ポリシーの意義と目的を理解できた。	直接福祉を目的としない個々のソーシャル・ポリシーの意義と目的を理解できなかった。
福祉の市場化	福祉における公平と効率の関係を説明することができた。	福祉における効率化の必要性を説明することができた。	福祉の市場化の背景と目的を理解することができた。	福祉の市場化の内容を理解できた。	福祉の市場化の内容を理解できなかった。
今後のソーシャル・ポリシーの方向性	公平と効率を念頭に自らの福祉観を表現することができた。	自らの福祉観を持つことができた。	社会変化の方向性とソーシャル・ポリシーの方向性を整合的に説明することができた。	論理的に今後のソーシャル・ポリシーの方向性を説明することができた。	今後のソーシャル・ポリシーの方向性を説明することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	社会福祉の原理と政策 (科目ナンバリング: SWS121018/2023年度以降SWS111018)				
授業担当者(所属・職名)	小早川 俊哉(社会福祉学部・教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 小早川 俊哉)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『最新・社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座 4 社会福祉の原理と政策』	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規出版	2021	9784805882344	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション(授業改善アンケート結果について、シラバスの説明を含む)とソーシャル・サービスにおけるニーズについて(把握方法、種類と内)	シラバスの読み込みと市場原理を調べてくる(90分)	用語の整理とメモ等をノートにまとめる(90分)
2	ソーシャル・サービスにおける社会資源について(種類とその特徴, 新たな構築など)	教科書を読み本授業のイメージを持てるようにする(90分)	用語の整理とメモ等をノートにまとめる(90分)
3	福祉政策の構成要素について(福祉の基礎構造, 措置制度から契約方式へなど)	教科書を読み本授業のイメージを持てるようにする(90分)	用語の整理とメモ等をノートにまとめる(90分)
4	福祉政策の過程について(福祉のPDCAサイクル, 福祉計画, 実施方法と手段など)	教科書を読み本授業のイメージを持てるようにする(90分)	用語の整理とメモ等をノートにまとめる(90分)
5	福祉政策の動向と課題について(地域包括ケアシステムなど)	教科書を読み本授業のイメージを持てるようにする(90分)	用語の整理とメモ等をノートにまとめる(90分)
6	直接福祉を目的としない政策(保健医療政策および防災・災害時避難政策)	教科書を読み本授業のイメージを持てるようにする(90分)	用語の整理とメモ等をノートにまとめる(90分)
7	直接福祉を目的としない政策(権利擁護政策)	教科書を読み本授業のイメージを持てるようにする(90分)	今回のノートをまとめるとともに中間試験のため直しを行う(90分)
8	前半のまとめと中間小試験	中間試験の準備をする(90分)	自身の解答を振り返る(90分)
9	直接福祉を目的としない政策(所得政策および雇用政策)	教科書を読み本授業のイメージを持てるようにする(90分)	用語の整理とメモ等をノートにまとめる(90分)
10	直接福祉を目的としない政策(住宅政策および教育政策)	教科書を読み本授業のイメージを持てるようにする(90分)	用語の整理とメモ等をノートにまとめる(90分)
11	ソーシャル・サービスの供給部門について(福祉の多元化を含む)	教科書を読み本授業のイメージを持てるようにする(90分)	用語の整理とメモ等をノートにまとめる(90分)
12	ソーシャル・サービスの供給過程について(福祉行財政, 市場化などを含む)	教科書を読み本授業のイメージを持てるようにする(90分)	用語の整理とメモ等をノートにまとめる(90分)
13	ソーシャル・サービスの利用主体と援助方法について(対人援助とコミュニティを含む)	教科書を読み本授業のイメージを持てるようにする(90分)	用語の整理とメモ等をノートにまとめる(90分)
14	ソーシャル・サービス及びソーシャル・ポリシーの国際比較と時事および今後の課題について	教科書を読み本授業のイメージを持てるようにする(90分)	用語の整理とメモ等をノートにまとめる(90分)
15	まとめとして, ソーシャル・ポリシーにおける公平と効率およびソーシャル・ポリシーの全体像の確認授業改善アンケート実施	これまでの授業を振り返り, 福祉において公平がなぜ重要かを考えてくる(90分)	定期試験に向け自身のノートの最終チェックを行う(90分)
16	定期試験(60分の試験終了後, 試験のポイントを解説)	定期試験の準備をする(90分)	現代社会と福祉の授業に向けて, 試験の振り返り(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	コーポレートファイナンス論 (科目ナンバリング: MOF422022, MOF523024)				
授業担当者(所属・職名)	川津 大樹(経営学科・専任講師)	研究室等所在	未定		
単位数	2 (単位認定責任者: 川津 大樹)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	大分県内の経済団体(商工会)に勤務し、地域の中小企業に対して金融・経営指導を行った経験も踏まえて、資金調達と資金運用にまつわる中小企業の実務についても取り上げていく。		
オフィスアワー	研究室前の掲示等を参照				

概要

履修目標
経営環境が大きく変化する中、資金調達を行い、その資金を効率的に投資・運用することは、企業にとって重要な経営課題である。本講義では、企業価値に関わる財務的意思決定の論点を取り上げ、経営者として必要な意思決定能力を身につけることを目標とする。
授業の位置づけ
経営学科のDP(3)に対応する。

到達目標
・コーポレートファイナンスに関する用語を正確に理解できるようになる。 ・資本コストの考え方について理解し、計算できるようになる。 ・サステナブルファイナンスなど、資金調達にまつわる新たな論点について理解する。

到達目標
・コーポレートファイナンスに関する用語を正確に理解できるようになる。 ・資本コストの考え方について理解し、計算できるようになる。 ・サステナブルファイナンスなど、資金調達にまつわる新たな論点について理解する。

授業全体の内容と概要
本講義では、コーポレートファイナンスに関するテーマを取り上げる。授業では、テキストと配布資料の解説を行った後、練習問題を解く実習の時間を設ける。また、必要に応じて、日経新聞の記事を題材とした時事問題についても解説を行う。本授業科目は、「SDGs 8 働きがいも経済成長も」と「SDGs 13 気候変動に具体的な対策を」の関連授業であり、SDGsと関わりのあるサステナブルファイナンスについても取り上げる。

授業の方法
本講義は、テキストの解説のみならず、受講者自らが実践的に分析を行う機会を設ける。日経新聞の記事や資金調達と運用にまつわる中小企業の実務も紹介し、実社会との関わりを意識して講義を進める。授業では、小テストを毎回実施する。その解答状況や質問欄に記載された内容は、次回以降の授業に反映していく。

アクティブラーニングの実施方法			
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	○ その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
出席確認は、授業で毎回実施する小テストの提出をもって行う。計算が必要となる場面が多く予定されているので、電卓の持参を推奨する。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目
教職課程(商業)選択科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は11回以上。出席確認は、授業で毎回実施する小テストの提出をもって行う。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
40%	0%	0%	30%	30%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
コーポレートファイナンスに関する用語を正確に理解できる。	コーポレートファイナンスに関する用語とそれに関する理論について詳細に説明できる。	コーポレートファイナンスに関する用語とそれに関する理論について十分に理解している。	コーポレートファイナンスに関する用語の意味を理解するとともに、それに関する理論についてもある程度理解している。	コーポレートファイナンスに関する用語の意味を最低限理解している。	コーポレートファイナンスに関する用語を理解できなかった。
資本コストの考え方について理解し、計算できる。	資本コストの重要性を理解した上で、WACC(資本コスト)を正確かつ素早く計算できる。	資本コストの重要性を理解した上で、WACC(資本コスト)を正確に計算できる。	資本コストの重要性を理解した上で、時間をかけつつも、計算できる。	資本コストの意味について最低限理解している。	資本コストの意味について理解できなかった。
資金調達の重要性について理解できる。	資金調達に関する理論と実務について総合的に説明できる。	サステナブルファイナンスなどの新しい論点を含め、自分なりの問題意識を持って、資金調達に関して考察している。	資金調達の重要性を理解した上で、サステナブルファイナンスなどの新しい論点について関心を抱き始めた。	資金調達の重要性について最低限理解している。	資金調達の重要性について理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	コーポレートファイナンス論 (科目ナンバリング: MOF422022, MOF523024)				
授業担当者(所属・職名)	川津 大樹(経営学科・専任講師)	研究室等所在	未定		
単位数	2 (単位認定責任者: 川津 大樹)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	大分県内の経済団体(商工会)に勤務し、地域の中小企業に対して金融・経営指導を行った経験も踏まえて、資金調達と資金運用にまつわる中小企業の実務についても取り上げていく。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『[新解釈]コ-ポレ-トファイナンス理論』	宮川壽夫	ダイヤモンド社	2022年		
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『コーポレートファイナンス入門 第2版』	砂川伸幸	日本経済新聞社出版	2017年		
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス(講義の進め方、コーポレートファイナンスを学ぶ意義)	シラバスとテキストの序文を読んでおく(90分)	テキストと配布資料の内容を復習する(90分)
2	企業の目的とコーポレートガバナンス	事前配布資料を予習する(90分)	配布資料の内容を復習する(90分)
3	投資のリスクとリターン	テキストの指定箇所を予習する(90分)	テキストと配布資料の内容を復習する(90分)
4	資本コスト	テキストの指定箇所を予習する(90分)	テキストと配布資料の内容を復習する(90分)
5	CAPM	テキストの指定箇所を予習する(90分)	テキストと配布資料の内容を復習する(90分)
6	正味現在価値	テキストの指定箇所を予習する(90分)	テキストと配布資料の内容を復習する(90分)
7	WACC	テキストの指定箇所を予習する(90分)	テキストと配布資料の内容を復習する(90分)
8	効率的市場仮説	テキストの指定箇所を予習する(90分)	テキストと配布資料の内容を復習する(90分)
9	中間テストと解説(テスト終了後、解説を行う)	中間テスト対策の復習を行う(90分)	中間テストの解説内容を復習する(90分)
10	キャッシュフロー	テキストの指定箇所を予習する(90分)	テキストと配布資料の内容を復習する(90分)
11	財務分析	テキストの指定箇所を予習する(90分)	テキストと配布資料の内容を復習する(90分)
12	資金調達と資本構成	テキストの指定箇所を予習する(90分)	テキストと配布資料の内容を復習する(90分)
13	ベアアウト政策	テキストの指定箇所を予習する(90分)	テキストと配布資料の内容を復習する(90分)
14	株主主義とステークホルダー主義	テキストの指定箇所を予習する(90分)	テキストと配布資料の内容を復習する(90分)
15	資金調達の新たな潮流 - サステナブルファイナンス -	テキストの指定箇所を予習する(90分)	テキストと配布資料の内容を復習する(90分)
16	定期試験と解説(60分の試験終了後、残りの30分で解説) 授業改善アンケートの実施	これまでの内容を復習する(90分)	定期試験の解説内容を復習する(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	造形論 (科目ナンバリング: AEA222082)				
授業担当者(所属・職名)	松岡 龍介(デザイン学科・准教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 松岡 龍介)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

学生が美術、デザインの専門家に必要な基礎的素養としての造形解釈について理解することが目的である。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP(3)(4)(5)に対応する。

到達目標

学生が造形論に関わる内容に関して(最低限の)口頭での発表またはレポート形式で記述することを学ぶことができる。

授業全体の内容と概要

学生が美術、デザインにおける基本的素養としての造形解釈について理解するために授業計画に記載されている「形態と表皮」や「遍在する形態と空間」などの直観的造形の本質に関するテーマに触れ、理解した内容やコンセプト、自らの思考を口頭での発表やレポート形式で記述する。

授業の方法

授業のプレゼンテーションの方法としてパワーポイントを用いて授業を実施し、講義形式で授業をすすめる。毎回の授業の要点を各自が自筆ノートにまとめる。これらをもとに、各自が毎回のテーマについてアクティブラーニングとして各自が自ら主体となって能動的に口頭での発表や、レポート形式で記述(レポート制作)する。  
学生が、プレゼンテーションとしての口頭での発表やレポート形式で記述を行う。  
実験・実習・実技として各自が制作した課題レポート(13課題)の確認とアドバイスによる双方向授業を行う。  
また、毎回の口頭での発表や、レポートに対して、フィードバックとして添削およびコメントをする。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。  
自筆ノートを制作すること。  
出席を取り終わったあとは欠席とする。  
不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(工芸)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

10回以上の最低出席回数。および、レポート課題10課題以上の提出の双方。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	60%	0%	0%	40%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
造形論における対象が、人間に関わる文化的な表現であることを理解し表現している。	口頭の発表ないしはレポートで記述の中で、例えば、造形によって表現されたものが何処か文化的な普遍性のようなものが表現されていることについて、十分に目標に達成していた。	口頭の発表ないしはレポートで記述の中で、例えば、造形によって表現されたものが何処か文化的な普遍性のようなものが表現されていることについて、概ね出来ていた。	口頭の発表ないしはレポートで記述の中で、例えば、造形によって表現されたものが何処か文化的な普遍性のようなものが表現されていることについて、不十分ではあるが出来ていた。	口頭の発表ないしはレポートで記述の中で、例えば、造形によって表現されたものが何処か文化的な普遍性のようなものが表現されていることについて、最低限出来ていた。	口頭の発表ないしはレポートで記述の中で、例えば、造形によって表現されたものが何処か文化的な普遍性のようなものが表現されていることについて、全く出来ていなかった。
各回のテーマに対して対象としたものの解説と、さらには自らが対象としたものについての考察の内容が充実している。	口頭での発表やレポート形式で記述で対象としたものが何であるのかの解説と、対象としたものの考察に自らの「発明」「発見」的な要素のある内容が含まれていることが、十分に目標に達成していた。	口頭での発表やレポート形式で記述で対象としたものが何であるのかの解説と、対象としたものの考察に自らの「発明」「発見」的な要素のある内容が含まれていることが、概ね出来ていた。	口頭での発表やレポート形式で記述で対象としたものが何であるのかの解説と、対象としたものの考察に自らの「発明」「発見」的な要素のある内容が含まれていることが、不十分ではあるが出来ていた。	口頭での発表やレポート形式で記述で対象としたものが何であるのかの解説と、対象としたものの考察に自らの「発明」「発見」的な要素のある内容が含まれていることが、最低限出来ていた。	口頭での発表やレポート形式で記述で対象としたものが何であるのかの解説と、対象としたものの考察に自らの「発明」「発見」的な要素のある内容が含まれていることが、全く出来ていなかった。
レポートとしての構成、内容、および、基本的な記述の形式が正しく表現されている。	特に、基本的な参考文献、図版出典の表記の方法が正しく表現されているかについて、十分に目標に達成していた。	特に、基本的な参考文献、図版出典の表記の方法が正しく表現されているかについて、概ね出来ていた。	特に、基本的な参考文献、図版出典の表記の方法が正しく表現されているかについて、不十分ではあるが出来ていた。	特に、基本的な参考文献、図版出典の表記の方法が正しく表現されているかについて、最低限出来ていた。	特に、基本的な参考文献、図版出典の表記の方法が正しく表現されているかについて、全く出来ていなかった。



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	造形論 (科目ナンバリング: AEA222082)				
授業担当者(所属・職名)	松岡 龍介(デザイン学科・准教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 松岡 龍介)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス, 授業の進め方, 単位認定について シラバスの説明 レポートの書き方についての解説	シラバスの確認(90分)	ガイダンス, 授業の進め方についての確認 (90分)
2	形態と表皮 レポートの書き方についての解説	形態と表皮(90分)	形態と表皮(90分)
3	遍在する形態と空間 レポートの書き方についての解説	遍在する形態と空間(90分)	遍在する形態と空間(90分)
4	路上観察で見つかる絵画作品とオブジェ	路上観察で見つかる絵画作品とオブジェ(90分)	路上観察で見つかる絵画作品とオブジェ(90分)
5	透明な造形	透明な造形(90分)	透明な造形(90分)
6	象られた"かたち"	象られた"かたち"(90分)	象られた"かたち"(90分)
7	パターン考	パターン考(90分)	パターン考(90分)
8	白黒のもの	白黒のもの(90分)	白黒のもの(90分)
9	"作品じゃないけど作品に見えるもの"	"作品じゃないけど作品に見えるもの"(90分)	"作品じゃないけど作品に見えるもの"(90分)
10	プリミティブ志向	プリミティブ志向(90分)	プリミティブ志向(90分)
11	形態の変容	形態の変容(90分)	形態の変容(90分)
12	対の造形	対の造形(90分)	対の造形(90分)
13	埋め尽くそうとする	埋め尽くそうとする(90分)	埋め尽くそうとする(90分)
14	コレクション	コレクション(90分)	コレクション(90分)
15	まとめ レポート提出	コレクション(90分)	まとめ レポート提出(90分)
16	講評 レポート返却 授業改善アンケートの実施	講義全体を通して質問事項をまとめておく(90分)	高評を受け講義内容全体の理解を深める(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	建築構造力学 (科目ナンバリング: BSM323026)				
授業担当者(所属・職名)	小笠原 健(建築学科・専任講師)	研究室等所在	2号館6階		
単位数	2 (単位認定責任者: 小笠原 健)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

社会で建築されている建築物のほとんどは不静定構造物であり、これらの実構造物の基本となるのが、力学である。「建築構造力学」では、静定構造物の知識を基礎に不静定構造物の解法の修得を目的とする。

授業の位置づけ

建築学科のDP(1)(2)に対応する科目。

到達目標

簡単な不静定構造物の合理的かつ経済的な設計ができる。  
梁の変形、応力法、変位法について説明できる。

授業全体の内容と概要

「建築構造力学」の知識を基礎に、一級建築士レベルの不静定構造物の解法について修得する。

授業の方法

授業は配布物と板書を中心に講義形式で行う。授業では、講義と問題・解説を交えた内容とする。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	〇 双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

事前に配布した資料は必ず持参のこと。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

「建築士試験受験資格課程」選択科目、教職課程(工業)選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
100%	0%	0%	0%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
梁の変形について修得する。	変形について簡単に説明できた。	曲げについて簡単に説明できた。	曲げについてほぼ簡単に説明できた。	曲げについて説明できた。	曲げについて簡単に説明できなかった。
応力法について修得する。	応力法をトラスやラーメンに適用することができた。	静定梁および不静定梁について簡単に説明できた。	静定梁および不静定梁についてほぼ簡単に説明できた。	静定梁を簡単に説明できるが不静定梁については説明できなかった。	静定梁を簡単に説明できるが不静定梁について簡単に説明できなかった。
変位法について修得する。	変位法を理解し、不静定梁を解くことができた。	変位法を簡単に説明できた。	たわみとたわみ角について簡単に説明できた。	たわみとたわみ角について説明できた。	たわみとたわみ角について簡単に説明できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	建築構造力学 (科目ナンバリング: BSM323026)				
授業担当者(所属・職名)	小笠原 健(建築学科・専任講師)	研究室等所在	2号館6階		
単位数	2 (単位認定責任者: 小笠原 健)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『建築構造テキスト』		建築資料研究社	2020		
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 授業の進め方について説明 授業改善アンケート結果に関する説明(小笠原)	シラバス資料を確認して、構造力学の復習を行う。(90分)	授業内容を整理して復習(90分)
2	静定構造物と不静定構造物との違いの説明	配布資料の指定箇所の予習(90分)	授業内容を整理して復習(90分)
3	静定構造物と不静定構造物との違いの説明	配布資料の指定箇所の予習(90分)	授業内容を整理して復習(90分)
4	不静定構造物の判別式	配布資料の指定箇所の予習(90分)	授業内容を整理して復習(90分)
5	応力度と許容応力度	配布資料の指定箇所の予習(90分)	授業内容を整理して復習(90分)
6	部材の変形(ひずみ・座屈・たわみ・たわみ角)	配布資料の指定箇所の予習(90分)	授業内容を整理して復習(90分)
7	モールの定理	配布資料の指定箇所の予習(90分)	授業内容を整理して復習(90分)
8	マックスウェルの相反定理・ラーメンの変形	配布資料の指定箇所の予習(90分)	授業内容を整理して復習(90分)
9	不静定構造物の応力(重ね合わせの原理)	配布資料の指定箇所の予習(90分)	授業内容を整理して復習(90分)
10	不静定ラーメン(分割・到達モーメント)	配布資料の指定箇所の予習(90分)	授業内容を整理して復習(90分)
11	固定モーメント法	配布資料の指定箇所の予習(90分)	授業内容を整理して復習(90分)
12	ラーメンの水平変位と水平剛性	配布資料の指定箇所の予習(90分)	授業内容を整理して復習(90分)
13	固有周期(振動)のメカニズム	配布資料の指定箇所の予習(90分)	授業内容を整理して復習(90分)
14	加速度応答スペクトル	配布資料の指定箇所の予習(90分)	授業内容を整理して復習(90分)
15	崩壊メカニズム(仮想仕事の原理)	配布資料の指定箇所の予習(90分)	授業内容を整理して復習(90分)
16	定期試験(60分の試験終了後、残りの30分で解説) 授業改善アンケートの実施	全体内容の再確認及び理解(90分)	試験内容の復習(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

## 基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	社会福祉調査の基礎 (科目ナンバリング: SOC112014/2023年度以降SOC122014)				
授業担当者(所属・職名)	杉本 大輔(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 杉本 大輔)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示板等を参照				

## 概要

### 履修目標

- ・量的調査、質的調査の方法論を習得し、あわせて数学的分析方法を理解する。
- ・ソーシャルワーク技法における評価技法を理解する。
- ・統計法及び社会調査における倫理規定について理解し、ソーシャルワーカーの倫理綱領との共通点を理解する。
- ・社会調査の歴史を理解し、科学的調査技法の発展のプロセスを理解する。

### 授業の位置づけ

社会福祉学科のDP(3)(4)に対応する

### 到達目標

- ・量的調査、質的調査の技法と分析方法を習得する。
- ・個人情報保護法における調査倫理を理解する。
- ・データ分析におけるIT機器と統計ソフトの活用方法を習得する。

### 授業全体の内容と概要

- ・社会調査とソーシャルワークの関係の紹介(調査事例を用いる)。
- ・量的調査、質的調査の技法の紹介。
- ・調査倫理と個人情報保護法について関連法規を紹介して関係性を分析。
- ・データ分析方法と統計ソフトの紹介。

### 授業の方法

15回の講義において教員がプリント・資料を用意して講義形式で行う。また、データ分析においては基礎解析などの数学の基本が必要になるので数学の基本的講義も行う。課題として高校数学の復習を課す。学生からの質問等に随時対応する。

### アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

### 履修上の注意事項

主体的・積極的な講義の参加を心掛けること。  
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

### 修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

### 資格指定科目

社会福祉士国家試験受験資格課程、精神保健福祉士国家試験受験資格課程、スクール(学校)ソーシャルワーカー資格課程、子育て支援ソーシャルワーカー資格課程

## 評価方法・基準

### 評価前提条件

最低出席回数10回以上をクリアすること。

### 評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70%	0%	0%	0%	10%	20%

## ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
量的調査の方法論の理解	テーマ設定、仮説の構成と質問文への昇華、回答選択肢の選定、現地調査の方法、統計分析の手順を全て説明できた。	テーマ設定、仮説の構成と質問文への昇華、回答選択肢の選定について説明できた。	テーマ設定、質問文の作成と注意、回答選択肢の選定、現地調査の方法について説明できた。	質問文の作成と現地調査の方法について説明できた。	左記の内容が何一つできていなかった。
質的調査の方法論の理解	参与者と観察者の位置づけ、記述方法、インタビュー方法、質的分析(KJ法、MGT A法)についてすべて説明できた。	参与者と観察者の位置づけ、記述方法、インタビュー方法と質的分析の一つを説明できた。	参与者と観察者の位置づけ、記述方法、インタビュー方法について説明できた。	面接・観察について説明できた。	左記の内容が何一つできていなかった。
社会調査者の倫理規定についての理解	社会調査者の倫理規定と社会福祉士の倫理綱領との共通点と各々の独自性を全て言語で説明できた。	社会調査者の倫理規定と社会福祉士の倫理綱領各々の独自性について言語で説明できた。	社会調査者の倫理規定と社会福祉士の倫理綱領各々の共通点について言語で説明できた。	社会調査者の倫理規定について言語で説明できた。	社会調査者の倫理規定についての説明ができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	社会福祉調査の基礎 (科目ナンバリング: SOC112014/2023年度以降SOC122014)				
授業担当者(所属・職名)	杉本 大輔(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 杉本 大輔)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 社会調査とソーシャルワーク技法の関連(授業改善アンケート結果反映の説明)	基礎数学の復習(90分)	配布プリントの熟読(90分)
2	量的調査の概要	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの熟読(90分)
3	量的調査技法1(テーマの設定)	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの熟読(90分)
4	量的調査技法2(仮説の設定)	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの熟読(90分)
5	量的調査技法3(質問文の作成)	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの熟読(90分)
6	量的調査技法4(サンプリング)	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの熟読(90分)
7	量的調査技法5(プリテストと本調査、その注意点)	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの熟読(90分)
8	量的調査技法6(データ解析法 IT機器の活用)	前回プリントの読み込み1次回数2次回数の復習(90分)	配布プリントの熟読 量的調査全体の復習(90分)
9	質的調査技法1(フィールドの設定)	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの熟読(90分)
10	質的調査技法2(フィールドにおけるサンプリング)	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの熟読(90分)
11	質的調査技法3(フィールドにおける記録と聞き取り)	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの熟読(90分)
12	質的調査技法4(質的分析 グランデッドセオリアプローチを中心に)	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの熟読(90分)
13	質的調査技法5(質的調査事例の紹介1)	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの熟読 事例の熟読(90分)
14	質的調査技法6(質的調査事例の紹介2)	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの熟読 事例の熟読(90分)
15	調査倫理と個人情報保護法との関連(授業改善アンケートの実施)	前回プリントの読み込み(90分)	講義全体の総復習(90分)
16	定期試験(60分試験終了後30分解説をする)	講義全体の総復習(90分)	自己総括(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	社会保障 (科目ナンバリング: SWS111003/2023年度以降SWS121003)				
授業担当者(所属・職名)	星野 秀治(社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 星野 秀治)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示板等を参照				

概要

履修目標

社会保障の概念や対象及びその理念について、社会保障制度の展開過程も含めて理解する。  
現代社会における社会保障制度の役割と意義、取り進むべき課題について理解する。  
社会保障制度の財政について理解する。  
諸外国における社会保障制度の概要について理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP(1)(3)(5)に対応する。

到達目標

社会保障が生まれた背景と発展過程について理解できる。  
社会保障の理念の変化について説明することができる。  
わが国の社会保障が直面している制度的、政策的課題について関心を持つことができる。

授業全体の内容と概要

社会保障の理念、機能、歴史的展開、財政問題などを検討しながら、社会保障とは何かについて基礎的理解を深める。  
「SDG1:貧困をなくそう」、「SDG3:すべての人に健康と福祉を」の関連授業

授業の方法

授業は、パワーポイント及び配布資料を活用しながら、ディスカッションを交えつつ講義形式で行う。適宜、授業内容についてのレポート提出を求める。授業内で実施するレスポンスシートについて、次回の授業でコメントを行うなどのフィードバックを行い双方向性を確保する。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

毎回、必ず教科書・配付資料を携行すること。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

社会福祉士国家試験受験資格課程, 精神保健福祉士国家試験受験資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な出席回数は10回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	0%	0%	0%	40%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解	履修目標を越えて少子高齢社会の課題について理解できた。	社会保障がかかえている問題と課題について理解できた。	今日における社会保障の意義を理解できた。	社会保障が生まれた背景や歴史を理解できた。	社会保障が生まれた背景や歴史を理解できなかった。
思考・判断	経済社会の変化を踏まえた今後の社会保障の見直しの是非について考えることができた。	少子高齢社会における社会保障の課題について対応策を考えることができた。	社会保障の理念の変化と社会保障の保障水準の関係について考えることができた。	社会保障の理念の変化について説明することができた。	社会保障の理念の変化について説明することができなかった。
関心・意欲	社会保障が直面する諸課題について諸外国との比較で対応策を考える意欲を示した。	社会保障が直面する諸課題について対応策を考えることができた。	社会保障が直面する諸課題の解決に関心を寄せることができた。	わが国の社会保障が直面している諸課題に関心を示すことができた。	わが国の社会保障が直面している諸課題に関心を示すことができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	社会保障 (科目ナンバリング: SWS111003/2023年度以降SWS121003)				
授業担当者(所属・職名)	星野 秀治(社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 星野 秀治)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『最新社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座7 社会保障』	日本ソーシャルワーク教育学校連盟編	中央法規出版	2021	978-4-8058-8237-5	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 現代社会と社会保障(1)・私たちの暮らしと社会	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
2	現代社会と社会保障(2)・経済環境の変化と社会保障	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
3	現代社会と社会保障(3)・労働環境の変化と社会保障	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
4	社会保障とは何か(1)・社会保障の概念と範囲	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
5	社会保障とは何か(2)・社会保障の役割と意義、社会保障の理念・目的・対象	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
6	社会保障とは何か(3)・社会保障の機能	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
7	社会保険と社会扶助の関係(1)・社会保険の概念と範囲	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
8	社会保険と社会扶助の関係(2)・社会扶助の概念と範囲	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
9	公的保険と民間保険	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
10	社会保障と財政(1)・社会保障の財源調達方法	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
11	社会保障と財政(2)・社会保障給付費、国民医療費	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
12	社会保障と財政(3)・国民負担率、社会保障と経済	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
13	諸外国の社会保障制度(1)・諸外国における社会保障制度の歴史と概要	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
14	諸外国の社会保障制度(2)・社会保障制度の国際比較	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
15	まとめ。授業改善アンケートの実施。	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
16	試験(60分の試験終了後、30分で解説をする)	全授業を振り返り試験に向けた準備(90分)	試験内容をふまえて授業全体を振り返る(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	建築法規 (科目ナンバリング: APT323031)				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 善太郎(建築学科・教授)	研究室等所在	2号館6階		
単位数	2 (単位認定責任者: 佐藤 善太郎)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

日本の都市は遠く昔より火災との戦いであった。古の為政者達は皆この問題に頭を痛めていたが、これは今も同様で、都市防災は地震対策とともに建築行政でも重要な課題であることを認識する。ここでは建築関係法令のうち建築基準法・建築基準法施行令を中心に構造・避難・防災に関する関係法令を計算例を交えて学び理解する。

授業の位置づけ

建築学科のDP(1)、(3)に対応する。

到達目標

建築基準法に定める性能評価基準の持つ意味・定義を理解でき、都市防災に密接な係わりを持つ構造・計算・防火・避難などに関する条文を理解できる。

授業全体の内容と概要

建築基準法を理解する上で重要な条文について図解を交えてわかりやすく解説する。更に主要な制度規定について、条文の成立から実例まで併せて解説すると共に条文の理解を深めるための演習を行う。  
「SDG11、住み続けられるまちづくりを」の関連授業

授業の方法

授業は条文の重要項目のチェックと線引きを行い、板書と配布資料により進めていく。随所に出現する法令独特の語彙の解釈や考え方にも触れて、きめ細やかに進めていく。また、理解度を測るため、単元ごとに課題提示・小テストを行い、解説も行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

法令集と赤ペン、青ペンを必ず持参のこと。また、本講義にあたっては電卓や携帯電話、スマートフォンなどの計算機能を使った計算を禁止する。必ず筆算のこと。不測の事態の際にオンライン授業を実施する可能性がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

「建築士試験受験資格課程」選択科目、教職課程(工業)選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

原則毎回出席すること(最低出席回数11回以上)

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
80%	0%	0%	0%	0%	20%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
建築物の防災規定に関する理解	基準法に規定された建築物の防災に関する規定を正確に理解することができた。	基準法に規定された建築物の防災に関する規定を8割方正確に理解することができた。	基準法に規定された建築物の防災に関する規定を6割方正確に理解することができた。	基準法に規定された建築物の防災に関する規定を理解することができた。	基準法に規定された建築物の防災に関する規定を理解することができなかった。
建築物の避難規定に関する理解	基準法に規定された建築物の避難に関する規定を正確に理解することができた。	基準法に規定された建築物の避難に関する規定を8割方正確に理解することができた。	基準法に規定された建築物の避難に関する規定を6割方正確に理解することができた。	基準法に規定された建築物の避難に関する規定を理解することができた。	基準法に規定された建築物の避難に関する規定を理解することができなかった。
その他の建築関連法規の理解	その他の建築関連法規に関する規定を正確に理解できた。	その他の建築関連法規に関する規定を8割方正確に理解できた。	その他の建築関連法規に関する規定を6割方正確に理解できた。	その他の建築関連法規に関する規定を理解できた。	その他の建築関連法規に関する規定を理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	建築法規 (科目ナンバリング: APT323031)				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 善太郎 (建築学科・教授)	研究室等所在	2号館6階		
単位数	2 (単位認定責任者: 佐藤 善太郎)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『基準法関係法令集 2022年版』	建築資料研究社	建築資料研究社	2021		
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明。建築設備等1 授業改善アンケート結果反映の説明	建築法規 の振返り(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
2	建築設備等2	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
3	構造強度	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
4	構造計算1	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
5	構造計算2	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
6	構造設計	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
7	防火区画・防火構造1	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
8	防火区画・防火構造2	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
9	防火区画・防火構造3	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
10	避難施設等1	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
11	避難施設等2	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
12	内装制限1	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
13	内装制限2	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
14	雑則・その他1	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
15	雑則・その他2 授業改善アンケートの実施	事前提示の条文熟読(90分)	本講義の振返り(90分)
16	理解度診断試験(60分)・試験解説(30分)	事前提示の条文熟読(90分)	試験の振返り(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	アグリビジネス論 (科目ナンバリング: MAN423037)				
授業担当者(所属・職名)	石山 玄幸(経営学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 石山 玄幸)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照のこと。				

概要

履修目標

本講義は、食料生産に関連する農業という産業の成り立ちから、その特殊性・必要性について学んだ上で、農業関連ビジネスの発展過程と今後について学ぶことを目的としている。

授業の位置づけ

経営学科のDP(1)、(2)、(3)に対応する。

到達目標

本講義終了時の達成目標は、以下の3つである。農業における必要性・特殊性を述べることができる。農業関連ビジネスとは何かを述べることができる。今後の農業関連ビジネスの展望について述べることができる。

授業全体の内容と概要

本講義は、農業に関連するビジネスについて学ぶことを目的としているため、農業という産業の必要性・特殊性を基本として、農業政策・農業市場・農産物の流通等、農業経済学の側面からアプローチする。そのため、本講義は農業に関する専門的な知識がなくても理解できる内容としている。

授業の方法

本講義は、パワーポイント及び配布物資料で進める。1枚のパワーポイントを提示し、一連の解説が終了した後、一定の時間、学生がノートを書く時間を取る。また、本講義では、アクティブラーニングを活用し、グループワークやディスカッションを行う。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

本講義ではノートの作成を義務付ける。筆記用具やノートを持参しない者は受講を認めない。評価方法の「その他」10%は講義ノートの評価とする。不足の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
90%	0%	0%	0%	0%	10%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
アグリビジネス論に係るレポート・試験に対応した文章表現力	講義で学んだ以上の内容を組み、論理性の優れた文章を書いていた。	講義で学んだ内容を理解した上で、自分の言葉で論理的な文章を書いていた。	講義で学んだ内容を理解した上で、自分の言葉で書いていた。	講義で学んだ内容が書かれていた。	読み手に内容が伝わらなかった。
農業の必要性・特殊性についての理解	講義で学んだ農業の必要性・特殊性を具体的な事例を使い、論理性に優れた説明ができた。	講義で学んだ農業の必要性・特殊性を具体的な事例を使い説明できた。	講義で学んだ農業の必要性・特殊性を全て理解していた。	最低限、講義で学んだ農業の必要性・特殊性を1つ理解していた。	農業の必要性・特殊性を全く理解していなかった。
アグリビジネスの理解	アグリビジネスの発展過程と今後の展望を個性的で高い自分の言葉で述べることができた。	アグリビジネスの発展過程と今後の展望を述べることができた。	アグリビジネスの発展過程を含め説明できた。	アグリビジネスとは何か最低限の説明ができた。	そもそもアグリビジネスについて理解していなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	アグリビジネス論 (科目ナンバリング: MAN423037)				
授業担当者(所属・職名)	石山 玄幸(経営学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 石山 玄幸)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『農業のしくみとビジネスがしっかりわかる教科書』	山口亮子・窪田新之助	技術評論社	2020年	9784297113636	
2	『アグリビジネス進化論』	有限会社トーマツ・農林水産業ビジネス推進室	プレジデント社	2017年	9784833451178	
3	『アグリビジネス論』	中野一新	有斐閣ブックス	1998年	4641085943	
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	「アグリビジネス論」ガイダンス シラバスの説明(講義の進め方、評価方法など)、授業改善アンケート結果反映の説明	必ずシラバスを読んでから、初回ガイダンスを受講すること。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
2	産業としての農業	農業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
3	農業の必要性・特殊性	農業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
4	農業協同組合の仕組み	農業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
5	農業協同組合の仕組み	農業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
6	農業政策について	農業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
7	農業政策について	農業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
8	農業市場について	農業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
9	農業市場について	農業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
10	農産物の流通について	農業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
11	農産物の流通について	農業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
12	アグリビジネスの定義	農業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
13	アグリビジネスの事例	農業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
14	アグリビジネスの事例	農業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
15	アグリビジネスの事例、授業改善アンケートの実施	農業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
16	定期試験とフィードバック	定期試験に向けた準備をしておくこと。(90分)	定期試験のフィードバックを受けて、アグリビジネス論を総括すること。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	社会保障 (科目ナンバリング: SWS111004/2023年度以降SWS121004)				
授業担当者(所属・職名)	星野 秀治(社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 星野 秀治)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示板などを参照				

概要

履修目標

公的保険制度と民間保険制度の関係について理解する。  
社会保険制度の体系と概要について理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP(1)(3)(5)に対応する。

到達目標

わが国の社会保険制度の発展過程について説明できる。  
社会保険制度の具体的な仕組みについて理解できる。  
今後の社会保険制度のあり方について自らの考えを示すことができる。

授業全体の内容と概要

わが国の社会保険制度の中核をなしている年金保険、医療保険、介護保険等の社会保険のほか、児童扶養手当などの社会手当制度などについても制度の仕組みを理解するとともに、社会保険と民間保険の関係等についても理解を深める。  
「SDG1:貧困をなくそう」、「SDG3:すべての人に健康と福祉を」の関連授業

授業の方法

授業は、パワーポイント及び配布資料を活用しながら、ディスカッションを交えつつ講義形式で行う。適宜、授業内容についてのレポート提出を求める。授業内で実施するレスポンスシートについて、次回の授業でコメントを行うなどのフィードバックを行い双方向性を確保する。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

毎回、必ず教科書・配付資料を携行すること。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

社会福祉士国家試験受験資格課程, 精神保健福祉士国家試験受験資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な出席回数は10回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	0%	0%	0%	40%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解	少子高齢社会における安定的な社会保険体制構築の方向性について認識できた。	少子高齢社会における社会保険制度の見直しの必要性について説明できた。	わが国の国民皆保険・皆年金体制確立の経緯を理解できた。	わが国の社会保険制度の発展過程について説明できた。	わが国の社会保険制度の発展過程について説明できなかった。
思考・判断	金世代型社会保険体制の構築について思考することができた。	安定的な社会保険体制構築の必要性について思考することができた。	国民皆保険・皆年金体制の維持に向けて制度見直しの必要性を考慮することができた。	社会保険の意義について考えることができた。	社会保険の意義について考えることができなかった。
関心・意欲	国際化が求められる日本社会と社会保険のあり方について関心を示した。	安定的な社会保険体制の構築に向けて自らの考えを示すことができた。	社会保険制度のあり方について自らの考えを示す意欲を持った。	今後の社会保険の方向性について関心を寄せることができた。	今後の社会保険の方向性について関心を寄せることができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	社会保障 (科目ナンバリング: SWS111004/2023年度以降SWS121004)				
授業担当者(所属・職名)	星野 秀治(社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 星野 秀治)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『最新社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座 7 社会保障』	日本ソーシャルワーク教育学校連盟編	中央法規出版	2021	978-4-8058-8237-5	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 わが国における社会保障制度の展開(1)-社会保	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
2	わが国における社会保障制度の展開(2)-国民皆保険・国民年金体制の確立と社会保障の発展期	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
3	わが国における社会保障制度の展開(3)-低成長期への移行と社会保障制度の改革期	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
4	わが国の社会保障制度の体系(年金保険制度)-国民皆年金体制	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
5	わが国の社会保障制度の体系(年金保険制度)-国民年金の概要	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
6	わが国の社会保障制度の体系(年金保険制度)-厚生年金の概要	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
7	わが国の社会保障制度の体系(医療保険制度)-国民皆保険体制	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
8	わが国の社会保障制度の体系(医療保険制度)-被用者医療保険の概要	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
9	わが国の社会保障制度の体系(医療保険制度)-国民健康保険の概要, 後期高齢者医療制度の概要	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
10	わが国の社会保障制度の体系-介護保険制度の概要	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
11	わが国の社会保障制度の体系-労災保険制度の概要、雇用保険制度の概要	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
12	わが国の社会保障制度の体系-生活保護制度の概要	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
13	わが国の社会保障制度の体系-社会手当制度の概要	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
14	わが国の社会保障制度の体系-社会福祉制度の概要	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
15	まとめ 授業改善アンケートの実施	教科書を読み授業範囲の予習をする(90分)	授業のまとめをレポートとして提出する準備(90分)
16	試験(60分の試験終了後, 30分で解説をする)	全授業を振り返り試験に向けた準備(90分)	試験内容をふまえて授業全体を振り返る(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科(ホテルマネジメント系以外)・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ホテルマネジメント論 (科目ナンバリング: TOS422040)				
授業担当者(所属・職名)	五ノ井 壽一(経営学科・非常勤講師)	研究室等所在	1号館1階 非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 五ノ井 壽一)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	旅行業・ホテル業における実務経験を有する教員が、その経験を活かし、日本国内外の観光地・ホテルについて講義をする。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。				

概要

履修目標	観光産業の中核を担うホテル産業の基本理念とホテルビジネスの仕組みやあり方を理解することを目的とする。																								
授業の位置づけ	経営学科のDP(1)(3)(4)に対応する。																								
到達目標	ホテル産業の基礎知識と日常行われている実務を体系的に理解する。																								
授業全体の内容と概要	日本国内外におけるホテル産業の基礎知識とホテルの発生から近代産業に至る発展過程を紹介し理解を深めていく。																								
授業の方法	授業は板書および教科書をもとに講義形式で行う。日々の授業において様々な質問や提案をすることで自分なりの意見をすくままとめて発表すること。問いかけに対する答えや各種フィードバックは、その都度行ったり、講義で全体的に行ったりする。																								
アクティブラーニングの実施方法	<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業	○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																		
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																		
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																		
履修上の注意事項	最低限の規則を守ること。教科書を必ず持参し、欠席・遅刻は極力避けること。平常点を重視します。尚、不測の事態の際はオンライン授業を実施する場合があります。																								

修学サポート(合理的配慮)	事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目	

評価方法・基準

評価前提条件	単位認定に必要な出席回数は、11回以上。 平常点(出席率・授業態度)およびレポートの成果を総合的に判断する。特に平常点を重視します。												
評価方法	<table border="1"> <thead> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0%</td> <td>70%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>30%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	70%	0%	0%	30%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他								
0%	70%	0%	0%	30%	0%								

ルーブリック	評価基準				
評価項目	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ホテル産業についての認識・理解	ホテル産業の基本理念を十分認識し、ホテルビジネスの仕組みやあり方を体系的に理解できた。	ホテル産業の基本理念を認識し、ホテルビジネスの仕組みやあり方を概ね理解できた。	ホテル産業の基本理念を認識し、ホテルビジネスの仕組みやあり方を部分的に理解できた。	ホテル産業について理解するには至っていないが、ある程度認識することはできた。	ホテル産業について認識することができなかった。
レポートについて	極めて優れたレポートと到達目標を完全に達成した。	優れたレポートで到達目標をほぼ達成した。	妥協を認められるレポートで不十分な点は認められるものの到達目標を達成した。	合格を認められる最低限のレポートで到達目標の最低限を満たした。	合格を認められる最低限のレポートに達してあらず到達目標を充足しなかった。
受講態度・その他	質疑応答などの的確であり、極めて真面目に受講した。	ノート試験など、真面目に受講した。	妥当と思われる受講態度を認められた。	妥当と思われる最低限の受講態度を満たした。	妥当な受講態度が見受けられず、遅刻・欠席も多かった。



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科(ｽﾌﾟｰﾝｽﾀｼﾞｵﾝﾄｺｰｽ以外)・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ホテルマネジメント論 (科目ナンバリング:TOS422040)				
授業担当者(所属・職名)	五ノ井 壽一(経営学科・非常勤講師)	研究室等所在	1号館1階 非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 五ノ井 壽一)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	旅行業・ホテル業における実務経験を有する教員が、その経験を活かし、日本国内外の観光地・ホテルについて講義をする。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『ホテル・ビジネス・ブック』	仲谷秀一・テイラー雅子・中村光信	中央経済社	2016	9784502181412	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『基本 ホテル経営教本』	鈴木博・大庭 祺一郎	柴田書店	2012	9784388152872	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	授業改善アンケート結果反映の説明 ガイダンス シラバスの説明	シラバスを読んでおくこと(90分)	講義内容の振り返りを行うこと(90分)
2	ホテルの語源及び特色	ホテルについて情報を収集しておくこと(90分)	講義内容の振り返りを行うこと(90分)
3	ホテルの誕生と発展	学習内容に関連する事項について調べておくこと(90分)	講義内容の振り返りを行うこと(90分)
4	ヨーロッパ・アメリカにおけるホテルの歴史	学習内容に関連する事項について調べておくこと(90分)	講義内容の振り返りを行うこと(90分)
5	日本におけるホテルの歴史	学習内容に関連する事項について調べておくこと(90分)	講義内容の振り返りを行うこと(90分)
6	ホテルの種類(ヨーロッパ・アメリカ・日本)	学習内容に関連する事項について調べておくこと(90分)	講義内容の振り返りを行うこと(90分)
7	ホテルの経営形態	学習内容に関連する事項について調べておくこと(90分)	講義内容の振り返りを行うこと(90分)
8	ホテルの収益構造	学習内容に関連する事項について調べておくこと(90分)	講義内容の振り返りを行うこと(90分)
9	ホテルの情報システム	学習内容に関連する事項について調べておくこと(90分)	講義内容の振り返りを行うこと(90分)
10	ホテルの組織と総支配人の役割	学習内容に関連する事項について調べておくこと(90分)	講義内容の振り返りを行うこと(90分)
11	宿泊部門の仕事	学習内容に関連する事項について調べておくこと(90分)	講義内容の振り返りを行うこと(90分)
12	料飲部門の仕事	学習内容に関連する事項について調べておくこと(90分)	講義内容の振り返りを行うこと(90分)
13	セールス&マーケティング部門の仕事	学習内容に関連する事項について調べておくこと(90分)	講義内容の振り返りを行うこと(90分)
14	管理部門の仕事	学習内容に関連する事項について調べておくこと(90分)	講義内容の振り返りを行うこと(90分)
15	人事システムとキャリアデザイン 授業改善アンケートの実施	学習内容に関連する事項について調べておくこと(90分)	講義内容の振り返りを行うこと(90分)
16	まとめ(レポート総評と解説)	講義を振り返り執事応答があれば整理しておくこと(90分)	総評・解説を受けて講義全体を振り返ること(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ビジネス英語 (科目ナンバリング: CME423020, CME523022)				
授業担当者(所属・職名)	石田 暁子(非常勤講師)	研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 石田 暁子)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。				

概要

履修目標
------

ビジネスの様々な場面で、それぞれ適切なコミュニケーションがとれるようになる。

授業の位置づけ
---------

経営学科のDP(2)に対応する。

到達目標
------

ビジネスでよく使われる語彙や表現を理解する。

授業全体の内容と概要
------------

読むことでビジネスで使われる英語に触れる。語彙や表現に触れた後、リスニングと記述式の練習問題を解きながら復習と応用を行う。  
「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法
-------

講義形式で、最重要事項を板書して注意を促し、じっくりと確実に反復学習を進める。発音練習にも力を入れる。各自の理解度を高めるため、授業では毎回できるだけ多くの学生を指名し、解答を聞く。各レッスンの前半部分に導入される英文は予習で翻訳してやる必要がある。授業で訳の正確さを確認し、最後にまとめたものを課題として提出する。教員が最終チェックをして返却する。これも評価の対象となる。また、各レッスンの後半に練習問題があるので、可能な範囲で予習し、疑問点を授業で解決し、応用できるようにする。

アクティブラーニングの実施方法
-----------------

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
----------

教科書を必ず用意すること。授業内容は、英語の基礎力があることを前提としている。「基礎英語」・「基礎英語」の履修・修得を履修の前提とする。「英語入門」・「英語入門」を履修・修得していることが望ましい。  
・不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)
---------------

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目
--------

評価方法・基準

評価前提条件
--------

単位認定に必要な出席回数は、10回以上。

評価方法
------

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
40%	0%	30%	0%	30%	0%

ルーブリック
--------

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ビジネス英語の習熟度	授業の範囲を超え、関連事項への興味があった。また、自分から発信する意欲が見られる。	授業内容をほぼ理解している。	ビジネス用語と表現に慣れることができた。	ビジネス用語の理解は認められるが、文のレベルではやや不安が残る。	基本的な事項が身についていない。
発音練習・練習問題への参加	積極的に参加し、授業の進行に貢献していた。	説明をよく聞き、発音練習や練習問題にも真剣に取り組んだ。ミス指摘された際、自分で訂正することができ、向上が認められた。	発音練習や練習問題に真剣に取り組んだ。	自分の力で問題を解くことをあきらめてしまっていたが、解答を聞いた後に理解しようとする努力がみられた。	授業中の活動に集中できなかった。
課題(英文和訳)の取り組み	予め語や語句の意味を調べ、ビジネスにふさわしい変換の訳ができた。また、疑問点を自覚した上で授業に臨み、解決することができた。	予習にきめ細かさはないが、ほぼ満足な訳ができた。	毎回予習をせず、復習によって挽回を図ることもあった。	復習だけのことが多く、課題は提出したが、期限を守ることができなかった。	課題を提出しなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ビジネス英語 (科目ナンバリング: CME423020, CME523022)				
授業担当者(所属・職名)	石田 暁子(非常勤講師)		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室	
単位数	2 (単位認定責任者: 石田 暁子)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『English for Business Communication』	新田 亜紀子	南雲堂	2017	9784523178705	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『英和辞典』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスの説明 Stating a Purpose of a Contact	テキストp.6-7 予習(90分)	授業内容復習 (90分)
2	Meeting for the First Time	テキストp.8-9 予習(90分)	授業内容復習 (90分)
3	Presenting a Business Card	テキストp.10-11 予習(90分)	授業内容復習 (90分)
4	Transferring a Call	テキストp.12-13 予習(90分)	授業内容復習 (90分)
5	Phone Troubles	テキストp.14-15 予習(90分)	授業内容復習 (90分)
6	At the Airport Abroad	テキストp.16-17予習(90分)	授業内容復習 (90分)
7	Making Polite Requests	テキストp.18-19 予習(90分)	授業内容復習 (90分)
8	Taking and Leaving Telephone Messages	テキストp.20-21 予習(90分)	授業内容復習 (90分)
9	Making Inquiries	テキストp.22-23 予習(90分)	授業内容復習 (90分)
10	Making Appointments 1	テキストp.24-25 予習(90分)	授業内容復習 (90分)
11	Stating Requests Clearly	テキストp.26-27 予習(90分)	授業内容復習 (90分)
12	Making Apologies	テキストp.28-29 予習(90分)	授業内容復習 (90分)
13	Making Appointments 2	テキストp.30-31 予習(90分)	授業内容復習 (90分)
14	Notification of Absence	テキストp.32-33 予習(90分)	授業内容復習 (90分)
15	総復習・要点整理	期末試験準備 (90分)	期末試験準備 (90分)
16	授業改善アンケートの実施 期末試験(60分)・解説(30分)	期末試験準備 (90分)	期末試験内容復習 (90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	彫刻（3年）（科目ナンバリング：AEA223070）				
授業担当者（所属・職名）	國松 明日香（デザイン学科・非常勤講師）	研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2（単位認定責任者：國松 明日香）	CAP制	×		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。				

概要

履修目標

この科目の（課題）では「私の肖像」をテーマに作品を制作する。「私とは何か」という問いかけとそこで見出す自分を造形化することにより、自分自身を客観的に見つめ、よく知っているつもり「私」をもう一度見つめ直すことを目標とする。（課題）ではJR札幌駅東コンコースにある「アートボックス」内に設置する作品の制作をとおして、社会の中でのアートの役割について考察する。

授業の位置づけ

美術学部デザイン学科のDP(1),(2)に対応する科目。

到達目標

（課題）では制作をとおして自分自身をよく見つめ、その一部でも理解できるようになることとそれを他者に伝えることができる能力を身につけることができる。（課題）では自分が表現したものが、社会の中でどの様な役割を担うことができるか考えられることができる。

授業全体の内容と概要

（課題）は作品制作をとおして「私」を理解するために、「私の肖像」をテーマに不用になった段ボール箱を素材に立体作品を制作する。「私とは?」という問いをもとに、理解の手がかりになるものを採り調べる。調査したものから作品を構想し、立体作品にするためのアイディアスケッチを制作。その後不要になった段ボール箱を素材として作品を制作する。（課題）はJR札幌駅東コンコースにある「アートボックス」内に設置する彫刻作品の制作。パブリックな空間に美術作品を設置することの意義を理解するため、決められた特殊な空間での作品制作を行う。実際に設置されている「アートボックス」を視察し、併せて周囲の空間を読み取り、作品プランと模型を制作する。

授業の方法

（課題）はパワーポイント及び授業担当者作成の資料を基に課題についてのプレゼンテーションを行う。自分について改めて調べてみたいと思う資料を収集する。併せて自分が興味を惹かれるものを収集する。通学途中に見つけ出す「気になる風景や物」、「魅力を感じた人や物」などを写真に収めたり拾ってきたりする。それらを基に不用になった段ボール箱で「私の肖像」を立体作品として制作する。（課題）はパワーポイント及び担当者作成の資料を基にプレゼンテーションを行う。設置予定となる「アートボックス」の取材。参考になると思われるものを写真に収めたりスケッチなどとする。それらを基に制作用のイメージスケッチをし、作品プランと模型を制作する。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

実制作に入ってから、作業に適した服装で受講すること。また北広島市や札幌市の公共空間に設置されている美術作品を機会を見つけて視察しておくこと。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、20回以上とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	80%	0%	0%	20%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
資料の活用（知識の習得）	課題の意味をしっかりと理解し、それに関する確かな調査し、必要な資料等を活用しながら的確に作品に反映させることができた。	課題の意味をしっかりと理解し、それに関する資料等の収集に努め、それらの内の数点を的確に作品に反映させることができた。	課題の意味を理解し、資料を複数収集し、それらの資料をよく活用しながら作品に反映させることができた。	資料を収集しそれを活用して作品を完成させることができた。	資料の収集ができなかった。更に作品を完成させることができなかった。
作品とコンセプトの考え方（思考力・表現力）	作品制作のコンセプトが的確であり、それらの表現力に優れ、更に技術力・完成度が高い作品ができた。	作品制作のコンセプトをしっかりと持っていて、それらの表現力も的確に持っており、完成度が高い作品ができた。	作品制作のコンセプトを持っている。それを作品に反映させている作品ができた。	作品制作のコンセプトを持っている。それを作品に反映させている作品ができた。	作品制作のコンセプトが認められない。更に作品を完成させることができなかった。
プレゼンテーション（表現力）	自分自身が制作した作品について、作品を客観的に眺めることができ、その制作プロセスやコンセプトを他者に的確にプレゼンテーションすることができた。	自分自身が制作した作品について、その制作プロセスやコンセプトについて他者にプレゼンテーションすることがしっかりとできた。	自分自身が制作した作品について、その制作プロセスやコンセプトについて他者にプレゼンテーションすることができた。	自分自身が制作した作品について、その制作プロセスやコンセプトについて他者にプレゼンテーションすることがある程度できた。	自分自身が制作した作品について、その制作プロセスやコンセプトについて他者にプレゼンテーションすることができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	彫刻（3年）（科目ナンバリング：AEA223070）				
授業担当者（所属・職名）	國松 明日香（デザイン学科・非常勤講師）	研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2（単位認定責任者：國松 明日香）	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明（課題）に関するオリエンテーション 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読んでおくこと（45分）	自分の周辺にある資料の収集（45分）
2	（課題）に関するオリエンテーション	シラバスを読んでおくこと（45分）	自分の周辺にある資料の収集（45分）
3	持参した資料を基に発表	自分の周辺にある資料の収集（45分）	通学途中で目に止まったものなどの写真撮影や資料の収集（45分）
4	持参した資料を基に発表	通学途中で目に止まったものなどの写真撮影や資料の収集（45分）	通学途中で目に止まったものなどの写真撮影や資料の収集（45分）
5	集めた資料などを基にアイデアスケッチの制作	通学途中で目に止まったものなどの写真撮影や資料の収集（45分）	通学途中で目に止まったものなどの写真撮影や資料の収集（45分）
6	集めた資料などを基にアイデアスケッチの制作	通学途中で目に止まったものなどの写真撮影や資料の収集（45分）	通学途中で目に止まったものなどの写真撮影や資料の収集（45分）
7	段ボール箱による実制作	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること（45分）
8	段ボール箱による実制作のつづき	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること（45分）
9	段ボール箱による実制作のつづき	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること（45分）
10	段ボール箱による実制作のつづき	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること（45分）
11	段ボール箱による実制作のつづき	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること（45分）
12	段ボール箱による実制作のつづき	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること（45分）
13	作品の完成・プレゼンテーション・講評及び採点	提出すべき作品の確認（45分）	講義全体を振り返り、まとめを行うこと（45分）
14	作品の完成・プレゼンテーション・講評及び採点	提出すべき作品の確認（45分）	講義全体を振り返り、まとめを行うこと（45分）
15	（課題）に関するオリエンテーション	学習内容に必要な事前準備を行うこと（45分）	身近にあるパブリックアートを写真に収めておく（45分）
16	（課題）に関するオリエンテーション	学習内容に必要な事前準備を行うこと（45分）	身近にあるパブリックアートを写真に収めておく（45分）

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	アートボックス(札幌駅東コンコース)の現地視察	身近にあるパブリックアートを写真に収めておく（45分）	身近にあるパブリックアートを写真に収めておく（45分）
18	アートボックス(札幌駅東コンコース)の現地視察	身近にあるパブリックアートを写真に収めておく（45分）	身近にあるパブリックアートを写真に収めておく（45分）
19	世界のパブリックアートについて、パワーポイントを使い講義	身近にあるパブリックアートを写真に収めておく（45分）	身近にあるパブリックアートを写真に収めておく（45分）
20	世界のパブリックアートについて、パワーポイントを使い講義	身近にあるパブリックアートを写真に収めておく（45分）	身近にあるパブリックアートを写真に収めておく（45分）
21	アイデアスケッチの制作	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること（45分）
22	アイデアスケッチの制作	各自必要などころまで制作作業を進めること（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること（45分）
23	プレゼンテーションボードの制作	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること（45分）
24	プレゼンテーションボードの制作	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること（45分）
25	プレゼンテーションボードの完成	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること（45分）
26	プレゼンテーションボードの完成	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること（45分）
27	模型の制作	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること（45分）
28	模型の制作	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること（45分）
29	模型の制作	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること（45分）
30	模型の制作	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること（45分）
31	模型の完成・講評及び採点	提出すべき作品の確認（45分）	講義全体を振り返り、まとめを行うこと（45分）
32	模型の完成・講評及び採点 授業改善アンケートの実施	提出すべき作品の確認（45分）	講義全体を振り返り、まとめを行うこと（45分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・4年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	彫刻（4年）（科目ナンバリング：AEA223070）				
授業担当者（所属・職名）	國松 明日香（デザイン学科・非常勤講師）	研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2（単位認定責任者：國松 明日香）	CAP制	×		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。				

概要

履修目標

この科目の（課題）では「私の肖像」をテーマに作品を制作する。「私とは何か」という問いかけとそこで見出す自分を造形化することにより、自分自身を客観的に見つめ、よく知っているつもり「私」をもう一度見つめ直すことを目標とする。（課題）ではJR札幌駅東コンコースにある「アートボックス」内に設置する作品の制作をとおして、社会の中でのアートの役割について考察する。

授業の位置づけ

美術学部デザイン学科のDP(1),(2)に対応する科目。

到達目標

（課題）では制作をとおして自分自身をよく見つめ、その一部でも理解できるようになることとそれを他者に伝えることができる能力を身につけることができる。（課題）では自分が表現したものが、社会の中でどの様な役割を担うことができるか考えられることができる。

授業全体の内容と概要

（課題）は作品制作をとおして「私」を理解するために、「私の肖像」をテーマに不用になった段ボール箱を素材に立体作品を制作する。「私とは?」という問いをもとに、理解の手がかりになるものを採り調べる。調査したものから作品を構想し、立体作品にするためのアイディアスケッチを制作。その後不要になった段ボール箱を素材として作品を制作する。（課題）はJR札幌駅東コンコースにある「アートボックス」内に設置する彫刻作品の制作。パブリックな空間に美術作品を設置することの意義を理解するため、決められた特殊な空間での作品制作を行う。実際に設置されている「アートボックス」を視察し、併せて周囲の空間を読み取り、作品プランと模型を制作する。

授業の方法

（課題）はパワーポイント及び授業担当者作成の資料を基に課題についてのプレゼンテーションを行う。自分について改めて調べてみたいと思う資料を収集する。併せて自分が興味を惹かれるものを収集する。通学途中に見つけ出す「気になる風景や物」、「魅力を感じた人や物」などを写真に収めたり拾ってきたりする。それらを基に不用になった段ボール箱で「私の肖像」を立体作品として制作する。（課題）はパワーポイント及び担当者作成の資料を基にプレゼンテーションを行う。設置予定となる「アートボックス」の取材。参考になると思われるものを写真に収めたりスケッチなどとする。それらを基に制作用のイメージスケッチをし、作品プランと模型を制作する。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

実制作に入ってから、作業に適した服装で受講すること。また北広島市や札幌市の公共空間に設置されている美術作品を機会を見つけて視察しておくこと。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、20回以上とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	80%	0%	0%	20%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
資料の活用（知識の習得）	課題の意味をしっかりと理解し、それに関する点を確認し、必要な資料等を活用しながら的確に作品に反映させることができた。	課題の意味をしっかりと理解し、それに関する点を確認し、それらの資料等の収集に努め、それらの内の数点を的確に作品に反映させることができた。	課題の意味を理解し、資料を複数収集し、それらの資料をよく活用しながら作品に反映させることができた。	資料を収集しそれを活用して作品を完成させることができた。	資料の収集ができなかった。更に作品を完成させることができなかった。
作品とコンセプトの考え方（思考力・表現力）	作品制作のコンセプトが的確であり、それらの表現力に優れ、更に技術力・完成度が高い作品ができた。	作品制作のコンセプトをしっかりと持っていて、それらの表現力も的確に持っており、完成度が高い作品ができた。	作品制作のコンセプトを持っている。それを作品に反映させている作品ができた。	作品制作のコンセプトを持っている。それを作品に反映させている作品ができた。	作品制作のコンセプトが認められない。更に作品を完成させることができなかった。
プレゼンテーション（表現力）	自分自身が制作した作品について、作品を客観的に眺めることができ、その制作プロセスやコンセプトを他者に的確にプレゼンテーションすることができた。	自分自身が制作した作品について、その制作プロセスやコンセプトについて他者にプレゼンテーションすることがしっかりとできた。	自分自身が制作した作品について、その制作プロセスやコンセプトについて他者にプレゼンテーションすることができた。	自分自身が制作した作品について、その制作プロセスやコンセプトについて他者にプレゼンテーションすることがある程度できた。	自分自身が制作した作品について、その制作プロセスやコンセプトについて他者にプレゼンテーションすることができなかった。



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・4年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	彫刻（4年）（科目ナンバリング：AEA223070）				
授業担当者（所属・職名）	國松 明日香（デザイン学科・非常勤講師）	研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2（単位認定責任者：國松 明日香）	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明（課題）に関するオリエンテーション 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読んでおくこと（45分）	自分の周辺にある資料の収集（45分）
2	（課題）に関するオリエンテーション	シラバスを読んでおくこと（45分）	自分の周辺にある資料の収集（45分）
3	持参した資料を基に発表	自分の周辺にある資料の収集（45分）	通学途中で目に止まったものなどの写真撮影や資料の収集（45分）
4	持参した資料を基に発表	通学途中で目に止まったものなどの写真撮影や資料の収集（45分）	通学途中で目に止まったものなどの写真撮影や資料の収集（45分）
5	集めた資料などを基にアイデアスケッチの制作	通学途中で目に止まったものなどの写真撮影や資料の収集（45分）	通学途中で目に止まったものなどの写真撮影や資料の収集（45分）
6	集めた資料などを基にアイデアスケッチの制作	通学途中で目に止まったものなどの写真撮影や資料の収集（45分）	通学途中で目に止まったものなどの写真撮影や資料の収集（45分）
7	段ボール箱による実制作	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること（45分）
8	段ボール箱による実制作のつづき	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること（45分）
9	段ボール箱による実制作のつづき	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること（45分）
10	段ボール箱による実制作のつづき	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること（45分）
11	段ボール箱による実制作のつづき	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること（45分）
12	段ボール箱による実制作のつづき	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること（45分）
13	作品の完成・プレゼンテーション・講評及び採点	提出すべき作品の確認（45分）	講義全体を振り返り、まとめを行うこと（45分）
14	作品の完成・プレゼンテーション・講評及び採点	提出すべき作品の確認（45分）	講義全体を振り返り、まとめを行うこと（45分）
15	（課題）に関するオリエンテーション	学習内容に必要な事前準備を行うこと（45分）	身近にあるパブリックアートを写真に収めておく（45分）
16	（課題）に関するオリエンテーション	学習内容に必要な事前準備を行うこと（45分）	身近にあるパブリックアートを写真に収めておく（45分）

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	アートボックス(札幌駅東コンコース)の現地視察	身近にあるパブリックアートを写真に収めておく（45分）	身近にあるパブリックアートを写真に収めておく（45分）
18	アートボックス(札幌駅東コンコース)の現地視察	身近にあるパブリックアートを写真に収めておく（45分）	身近にあるパブリックアートを写真に収めておく（45分）
19	世界のパブリックアートについて、パワーポイントを使い講義	身近にあるパブリックアートを写真に収めておく（45分）	身近にあるパブリックアートを写真に収めておく（45分）
20	世界のパブリックアートについて、パワーポイントを使い講義	身近にあるパブリックアートを写真に収めておく（45分）	身近にあるパブリックアートを写真に収めておく（45分）
21	アイデアスケッチの制作	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること（45分）
22	アイデアスケッチの制作	各自必要などころまで制作作業を進めること（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること（45分）
23	プレゼンテーションボードの制作	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること（45分）
24	プレゼンテーションボードの制作	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること（45分）
25	プレゼンテーションボードの完成	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること（45分）
26	プレゼンテーションボードの完成	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること（45分）
27	模型の制作	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること（45分）
28	模型の制作	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること（45分）
29	模型の制作	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること（45分）
30	模型の制作	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	各自必要などころまで制作作業を進めること（45分）
31	模型の完成・講評及び採点	提出すべき作品の確認（45分）	講義全体を振り返り、まとめを行うこと（45分）
32	模型の完成・講評及び採点 授業改善アンケートの実施	提出すべき作品の確認（45分）	講義全体を振り返り、まとめを行うこと（45分）



基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	
科目名称	建築の職能と倫理（3 （科目ナンバリング：APT324038））				
授業担当者（所属・職名）		研究室等所在			
単位数	2 （単位認定責任者：）	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー					

概要

履修目標

--

授業の位置づけ

--

到達目標

--

授業全体の内容と概要

--

授業の方法

--

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	P B L
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

--

修学サポート（合理的配慮）

--

資格指定科目

--

評価方法・基準

評価前提条件

--

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	
科目名称	建築の職能と倫理（3 (科目ナンバリング：APT324038) )				
授業担当者（所属・職名）		研究室等所在			
単位数	2 (単位認定責任者：)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	情報システム論 (科目ナンバリング: C0S423053, C0S522048)				
授業担当者(所属・職名)	由水 伸(経営学科・教授)		研究室等所在	1号館2階	
単位数	2	(単位認定責任者: 由水 伸)	CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	企業での情報システムの開発経験を持つ教員が、その実務経験を活かして情報機材の特徴とシステム構築に必要な知識について講義を行う。		
オフィスアワー	講義時間以外は随時来室可(会議等で不在時を除く) 詳しくは研究室前の掲示板等を参照。				

概要

履修目標
情報システムの構築を行うには、コンピューター、ネットワーク、OSなど総合的な仕組みを理解していることが必要である。本講義では、PCほか情報機器を駆使して企業内で活躍できる人材の育成を目的とする。
授業の位置づけ
経営学科のDP(1)(2)に対応する。

到達目標
コンピューターシステムのハードウェアを理解し、オフィス内の情報システムの提案ができる。各種OSやアプリケーションソフトの特徴や用途を理解する。組織や企業などの情報インフラを保守するための知識を獲得し、適切な対応ができる。
授業全体の内容と概要
コンピューター本体や周辺機器などのハードウェアについての知識を得る。同時に、OSとアプリケーションソフトの役割を理解する。また、ネットワークと企業内業務についても学習し、コンピューターシステムの総合的な利用法を身につける。「SDG 9.産業と技術革新の基盤をつくろう」の関連授業。
授業の方法
授業はスライドとプリントを利用した講義形式で進行する。授業中、スマートフォンを利用したオンライン小テストまたはアンケートを行う。

アクティブラーニングの実施方法																					
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模範授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td>○</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL															
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業															
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他(授業の方法参照)															
履修上の注意事項																					
30分以上の遅刻は欠席とみなす。毎回の授業でオンライン小テストを行う。PC、タブレットまたはスマートフォンを持ってこること。(充電量確認)不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。																					

修学サポート(合理的配慮)
事前相談を受け、大学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準												
評価前提条件												
単位認定に必要な出席回数は11回以上。講義で毎回行われるオンライン小テストの結果は中間テストとして成績に参入し、評価する。また、オンライン小テストは出席確認を兼ねている。したがって、出席状況が良好でない場合、S評価はつかない。												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>50%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>50%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	50%	0%	0%	50%	0%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
50%	0%	0%	50%	0%	0%							

ループリック																													
<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> <tr> <td>コンピュータ技術の基本を踏まえて、ハードウェアとソフトウェア、ネットワークを活用できる。</td> <td>コンピュータや情報技術、ハードウェアとソフトウェアについてICTの理解が深くハードウェア、ソフトウェア、ネットワークの最適な設定と運用・保守ができるようになった。</td> <td>ICTの理解が深くハードウェア、ソフトウェア、ネットワークの最適な設定と運用・保守ができるようになった。</td> <td>ICTの理解が進みハードウェア、ソフトウェア、ネットワークの適切な設定と運用・保守ができるようになった。</td> <td>ICTの理解が浅くハードウェア、ソフトウェア、ネットワークの適切な設定と運用・保守には他者の助けがあればできるようになった。</td> <td>ICTの理解が浅くハードウェア、ソフトウェア、ネットワークの適切な設定と運用・保守には無理がある。</td> </tr> <tr> <td>代表的なOSやソフトウェアについて知識を持ち、使用目的に応じて使い分けができる。</td> <td>Windows、MacOS、Unix、Linuxなどの代表的なOSの特性を熟知し利用目的に合わせた選択ができる。また、ソフトウェアも最適なものを選択でき、業務に適したシステム構築ができるようになった。</td> <td>Windows、MacOS、Unix、Linuxなどの代表的なOSの特性を理解し利用目的に合わせた選択ができる。また、ソフトウェアも適切なものを選択できるようになった。</td> <td>Windowsの特性を理解し利用目的に合わせた選択ができる。また、ソフトウェアも適時扱えるようになった。</td> <td>Windowsの特性を理解し利用目的に合わせた操作ができる。また、ソフトウェアも適時扱えるようになった。</td> <td>コンピュータとソフトウェアの理解が不十分で、操作し目的を達することが難しい。</td> </tr> <tr> <td>長期間にわたって、安定した性能で稼働するよう保守を行い、システムを維持できる。</td> <td>情報機器の特性を熟知し、ハードウェア、ソフトウェア両面で、長期にわたって性能を維持できる。また、必要に応じて機能や性能を拡張することができるようになった。</td> <td>情報機器の特性を熟知し、ハードウェア、ソフトウェア両面で、長期にわたって性能を維持できるようになった。</td> <td>情報機器の特性を理解し、一定期間、ハードウェアの保守を行うことかできるようになった。</td> <td>情報機器の特性を理解し、消耗品等の補充で一定期間、動作を維持できるようになった。</td> <td>情報機器の特性が理解できず、保守を行うことは困難である。</td> </tr> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	コンピュータ技術の基本を踏まえて、ハードウェアとソフトウェア、ネットワークを活用できる。	コンピュータや情報技術、ハードウェアとソフトウェアについてICTの理解が深くハードウェア、ソフトウェア、ネットワークの最適な設定と運用・保守ができるようになった。	ICTの理解が深くハードウェア、ソフトウェア、ネットワークの最適な設定と運用・保守ができるようになった。	ICTの理解が進みハードウェア、ソフトウェア、ネットワークの適切な設定と運用・保守ができるようになった。	ICTの理解が浅くハードウェア、ソフトウェア、ネットワークの適切な設定と運用・保守には他者の助けがあればできるようになった。	ICTの理解が浅くハードウェア、ソフトウェア、ネットワークの適切な設定と運用・保守には無理がある。	代表的なOSやソフトウェアについて知識を持ち、使用目的に応じて使い分けができる。	Windows、MacOS、Unix、Linuxなどの代表的なOSの特性を熟知し利用目的に合わせた選択ができる。また、ソフトウェアも最適なものを選択でき、業務に適したシステム構築ができるようになった。	Windows、MacOS、Unix、Linuxなどの代表的なOSの特性を理解し利用目的に合わせた選択ができる。また、ソフトウェアも適切なものを選択できるようになった。	Windowsの特性を理解し利用目的に合わせた選択ができる。また、ソフトウェアも適時扱えるようになった。	Windowsの特性を理解し利用目的に合わせた操作ができる。また、ソフトウェアも適時扱えるようになった。	コンピュータとソフトウェアの理解が不十分で、操作し目的を達することが難しい。	長期間にわたって、安定した性能で稼働するよう保守を行い、システムを維持できる。	情報機器の特性を熟知し、ハードウェア、ソフトウェア両面で、長期にわたって性能を維持できる。また、必要に応じて機能や性能を拡張することができるようになった。	情報機器の特性を熟知し、ハードウェア、ソフトウェア両面で、長期にわたって性能を維持できるようになった。	情報機器の特性を理解し、一定期間、ハードウェアの保守を行うことかできるようになった。	情報機器の特性を理解し、消耗品等の補充で一定期間、動作を維持できるようになった。	情報機器の特性が理解できず、保守を行うことは困難である。
評価項目		評価基準																											
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
コンピュータ技術の基本を踏まえて、ハードウェアとソフトウェア、ネットワークを活用できる。	コンピュータや情報技術、ハードウェアとソフトウェアについてICTの理解が深くハードウェア、ソフトウェア、ネットワークの最適な設定と運用・保守ができるようになった。	ICTの理解が深くハードウェア、ソフトウェア、ネットワークの最適な設定と運用・保守ができるようになった。	ICTの理解が進みハードウェア、ソフトウェア、ネットワークの適切な設定と運用・保守ができるようになった。	ICTの理解が浅くハードウェア、ソフトウェア、ネットワークの適切な設定と運用・保守には他者の助けがあればできるようになった。	ICTの理解が浅くハードウェア、ソフトウェア、ネットワークの適切な設定と運用・保守には無理がある。																								
代表的なOSやソフトウェアについて知識を持ち、使用目的に応じて使い分けができる。	Windows、MacOS、Unix、Linuxなどの代表的なOSの特性を熟知し利用目的に合わせた選択ができる。また、ソフトウェアも最適なものを選択でき、業務に適したシステム構築ができるようになった。	Windows、MacOS、Unix、Linuxなどの代表的なOSの特性を理解し利用目的に合わせた選択ができる。また、ソフトウェアも適切なものを選択できるようになった。	Windowsの特性を理解し利用目的に合わせた選択ができる。また、ソフトウェアも適時扱えるようになった。	Windowsの特性を理解し利用目的に合わせた操作ができる。また、ソフトウェアも適時扱えるようになった。	コンピュータとソフトウェアの理解が不十分で、操作し目的を達することが難しい。																								
長期間にわたって、安定した性能で稼働するよう保守を行い、システムを維持できる。	情報機器の特性を熟知し、ハードウェア、ソフトウェア両面で、長期にわたって性能を維持できる。また、必要に応じて機能や性能を拡張することができるようになった。	情報機器の特性を熟知し、ハードウェア、ソフトウェア両面で、長期にわたって性能を維持できるようになった。	情報機器の特性を理解し、一定期間、ハードウェアの保守を行うことかできるようになった。	情報機器の特性を理解し、消耗品等の補充で一定期間、動作を維持できるようになった。	情報機器の特性が理解できず、保守を行うことは困難である。																								

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	情報システム論 (科目ナンバリング: COS423053, COS522048)				
授業担当者(所属・職名)	由水 伸(経営学科・教授)		研究室等所在	1号館2階	
単位数	2 (単位認定責任者: 由水 伸)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	企業での情報システムの開発経験を持つ教員が、その実務経験を活かして情報機材の特徴とシステム構築に必要な知識について講義を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション シラバスの説明、授業改善アンケート結果について コンピューターの歴史、2進数、16進数	2進数、16進数の復習(90分)	コンピューターの歴史をノートにまとめる(90分)
2	PCの基本構成とパーツの役割(概要) PCの基本構成とは何か	「コンピューターの5大装置」について調べる(90分)	授業で説明された新しい用語をノートに整理(90分)
3	CPU	「intel 4004から80486までの歴史」を調べる(90分)	授業で説明された新しい用語をノートに整理(90分)
4	メモリー	「RAM」「ROM」について調べておく(90分)	授業で説明された新しい用語をノートに整理(90分)
5	補助記憶装置とデータの保存	「電気と磁石」「レーザー光線」について調べる(90分)	授業で説明された新しい用語をノートに整理(90分)
6	グラフィックスカードとディスプレイ	「液晶ディスプレイと有機ELディスプレイ」について調べる(90分)	授業で説明された新しい用語をノートに整理(90分)
7	入出力デバイス	「USB 3.2規格」について調べる(90分)	授業で説明された新しい用語をノートに整理(90分)
8	接続コネクタとケーブル	「HDMIとケーブル規格」について調べる(90分)	授業で紹介された新しい用語をノートに整理(90分)
9	プリンター	「DTPとWYSIWYG」について調べる(90分)	授業で説明された新しい用語をノートに整理(90分)
10	OS(オペレーティングシステム) ・Windowsとシステムツール	Windows10の「設定」の設定項目を確認しておく(90分)	授業で説明された新しい用語をノートに整理(90分)
11	OS(オペレーティングシステム) ・UNIX、Linux、MacOS	UNIXとその歴史について調べておく(90分)	授業で紹介された新しい用語をノートに整理(90分)
12	ネットワーク入門	「LAN」「WAN」を調べておく(90分)	授業で紹介された新しい用語をノートに整理(90分)
13	インターネットとWebサービス	Webブラウザの種類について調べておく(90分)	授業で説明された新しい用語をノートに整理(90分)
14	セキュリティ	「マルウェア」について調べる(90分)	授業で説明された新しい用語をノートに整理(90分)
15	コンピューターのメンテナンスと運用 トラブルシューティング	コンピューター部品の平均寿命について調べる(90分)	課題の修正・完成(90分)
16	定期試験(60分) 解答解説(授業アンケート実施回)	定期試験に備えて全講義内容を復習(90分)	総復習(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	障害者福祉 (科目ナンバリング：SWS112010/2023年度以降SWS122010)				
授業担当者(所属・職名)	畠山 明子(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者：畠山 明子)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示板等を参照				

概要

履修目標
<p>障害の概念と特性を踏まえ、障害者とその家族の生活とこれを取り巻く社会環境について理解する。                  障害者福祉の歴史と障害者の変遷、制度の発展過程について理解する。                  障害者に対する法制度と支援の仕組みについて理解する。                  障害による生活課題を踏まえ、社会福祉士及び精神保健福祉士としての適切な支援のあり方を理解する。</p>

授業の位置づけ
社会福祉学科のDP(1)(2)(3)に対応する。

到達目標
<p>障害者の取り巻く社会情勢と生活実態について、データを用いて説明し課題を指摘できる。                  障害者にかかわる法体系について、その成立の過程や概要について理解する。                  障害者福祉にかかわる制度の体系とその概要について理解し、課題を指摘できる。</p>

授業全体の内容と概要
<p>障害概念の特性、障害者の生活実態とこれを取り巻く社会環境、障害者福祉の歴史、障害者に対する法制度、障害者と家族等の支援における関係機関と専門職の役割、障害者と家族に等に対する支援の実態                  「SDG3.すべての人に健康と福祉を」、「SDG8.働きがいも経済成長も」、「SDG16.平和と公正をすべての人に」、「SDG17.パートナーシップで目標を達成しよう」の関連授業</p>

授業の方法
<p>教科書の内容をまとめた配布資料に基づく講義形式になるが、新聞記事の活用や映像資料の視聴、演習(グループワーク等)も取り入れる。配布された資料には板書事項を記述すること。                  毎回の感想・質問等をMicrosoft Formsを通して提出し、次回授業開始時にフィードバックを行う。                  第10回目の前半には中間テストを実施し、理解度を確認する(出題形式・試験時間等は授業内で説明)。質問等は随時対応。                  授業資料の配信等においてMicrosoft Teamsを活用する。</p>

アクティブラーニングの実施方法					
プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
模範授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
<p>教科書は毎回持参すること。                  配布資料は紛失しないよう、ファイリングする等して管理を徹底すること。                  ニュースなどで報道される福祉に関わる話題について興味を持つこと。                  新聞記事などを題材として社会福祉の現状や課題を検討する等、常に問題意識を持ちながら積極的に授業に参加すること。                  不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。</p>

修学サポート(合理的配慮)
<p>事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。</p>
資格指定科目
社会福祉士国家試験受験資格課程, 精神保健福祉士国家試験受験資格課程

評価方法・基準

評価前提条件												
出席回数は試験前までに10回以上あることを評価の前提条件とし、第10回目に実施する中間テスト(30点)、第16回に実施する定期試験(70点)の結果を総合して評価する。												
評価方法												
<table border="1"> <thead> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>70%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>30%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	70%	0%	0%	30%	0%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
70%	0%	0%	30%	0%	0%							

ルーブリック																													
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>障害者の取り巻く社会情勢と生活実態について、データをを用いて説明し課題を指摘できる。</td> <td>関係するデータを用いて障害者を取り巻く社会情勢と生活実態について具体的に説明・記述できた。</td> <td>関係するデータを用いて障害者を取り巻く社会情勢と生活実態についておおむね具体的に説明・記述できた。</td> <td>関係するキーワードを提示することにより障害者を取り巻く社会情勢と生活実態について具体的に説明・記述できた。</td> <td>関係するキーワードを提示することにより障害者を取り巻く社会情勢と生活実態についておおむね説明・記述できた。</td> <td>障害者を取り巻く社会情勢と生活実態について関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。</td> </tr> <tr> <td>障害者にかかわる法体系について、その成立の過程や概要について理解する。</td> <td>障害者にかかわる法体系の成立の過程や概要について具体的に説明・記述できた。</td> <td>障害者にかかわる法体系の成立の過程や概要についておおむね具体的に説明・記述できた。</td> <td>関係するキーワードを提示することにより障害者にかかわる法体系の成立の過程や概要について具体的に説明・記述できた。</td> <td>関係するキーワードを提示することにより障害者にかかわる法体系の成立の過程や概要についておおむね説明・記述できた。</td> <td>障害者にかかわる法体系の成立の過程や概要について関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。</td> </tr> <tr> <td>障害者福祉にかかわる制度の体系とその概要について理解し、課題を指摘できる。</td> <td>障害者にかかわる制度の体系と概要、課題について具体的に説明・記述できた。</td> <td>障害者にかかわる制度の体系と概要、課題についておおむね具体的に説明・記述できた。</td> <td>関係するキーワードを提示することにより障害者にかかわる制度の体系と概要、課題について具体的に説明・記述できた。</td> <td>関係するキーワードを提示することにより障害者にかかわる制度の体系と概要、課題についておおむね説明・記述できた。</td> <td>障害者にかかわる制度の体系と概要、課題について関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。</td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	障害者の取り巻く社会情勢と生活実態について、データをを用いて説明し課題を指摘できる。	関係するデータを用いて障害者を取り巻く社会情勢と生活実態について具体的に説明・記述できた。	関係するデータを用いて障害者を取り巻く社会情勢と生活実態についておおむね具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより障害者を取り巻く社会情勢と生活実態について具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより障害者を取り巻く社会情勢と生活実態についておおむね説明・記述できた。	障害者を取り巻く社会情勢と生活実態について関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。	障害者にかかわる法体系について、その成立の過程や概要について理解する。	障害者にかかわる法体系の成立の過程や概要について具体的に説明・記述できた。	障害者にかかわる法体系の成立の過程や概要についておおむね具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより障害者にかかわる法体系の成立の過程や概要について具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより障害者にかかわる法体系の成立の過程や概要についておおむね説明・記述できた。	障害者にかかわる法体系の成立の過程や概要について関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。	障害者福祉にかかわる制度の体系とその概要について理解し、課題を指摘できる。	障害者にかかわる制度の体系と概要、課題について具体的に説明・記述できた。	障害者にかかわる制度の体系と概要、課題についておおむね具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより障害者にかかわる制度の体系と概要、課題について具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより障害者にかかわる制度の体系と概要、課題についておおむね説明・記述できた。	障害者にかかわる制度の体系と概要、課題について関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。
評価項目		評価基準																											
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
障害者の取り巻く社会情勢と生活実態について、データをを用いて説明し課題を指摘できる。	関係するデータを用いて障害者を取り巻く社会情勢と生活実態について具体的に説明・記述できた。	関係するデータを用いて障害者を取り巻く社会情勢と生活実態についておおむね具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより障害者を取り巻く社会情勢と生活実態について具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより障害者を取り巻く社会情勢と生活実態についておおむね説明・記述できた。	障害者を取り巻く社会情勢と生活実態について関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。																								
障害者にかかわる法体系について、その成立の過程や概要について理解する。	障害者にかかわる法体系の成立の過程や概要について具体的に説明・記述できた。	障害者にかかわる法体系の成立の過程や概要についておおむね具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより障害者にかかわる法体系の成立の過程や概要について具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより障害者にかかわる法体系の成立の過程や概要についておおむね説明・記述できた。	障害者にかかわる法体系の成立の過程や概要について関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。																								
障害者福祉にかかわる制度の体系とその概要について理解し、課題を指摘できる。	障害者にかかわる制度の体系と概要、課題について具体的に説明・記述できた。	障害者にかかわる制度の体系と概要、課題についておおむね具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより障害者にかかわる制度の体系と概要、課題について具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより障害者にかかわる制度の体系と概要、課題についておおむね説明・記述できた。	障害者にかかわる制度の体系と概要、課題について関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。																								

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	障害者福祉 (科目ナンバリング: SWS112010/2023年度以降SWS122010)				
授業担当者(所属・職名)	畠山 明子(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 畠山 明子)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『最新社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座 8 障害者福祉』	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規	2021年	978-4-8058-8238-2	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間			
回	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	本講義の進め方、シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明、障害者福祉の概説、障害概念と特性	本講義で学ぶ概要についてシラバスや教科書の内容を確認する。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
2	障害者の生活実態とこれを取り巻く社会環境、障害者福祉の歴史 障害者福祉の理念・障害観の変遷	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
3	障害者福祉の歴史 障害者処遇の変遷、障害者の権利条約と障害者基本法	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
4	障害者に対する法制度 障害者総合支援法(障害者総合支援法の概要・障害福祉サービス及び相談支援 障害支援区分及び支給決定)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
5	障害者に対する法制度 障害者総合支援法(自立支援医療・補装具・地域生活支援事業・障害福祉計画)	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
6	障害者に対する法制度 身体障害者福祉法・知的障害者福祉法・精神保健福祉法	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
7	障害者に対する法制度 児童福祉法・発達障害者支援法・障害者虐待防止法	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
8	障害者に対する法制度 障害者差別解消法・バリアフリー法・障害者雇用促進法・障害者優先調達推進法	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
9	障害者概念の特性、障害者の生活実態とこれを取り巻く社会環境、障害者福祉の歴史、障害者に対する法制度の振り返り	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
10	中間テスト、振り返り	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	試験で間違えた箇所、理解があいまいだった箇所についてプリント等を確認して見直し、復習を行う。授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
11	障害者と家族等の支援における関係機関と専門職の役割 関係機関と専門職等の役割	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
12	障害者と家族等の支援における関係機関と専門職の役割 事例検討	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
13	障害者と家族等に対する支援の実践 障害領域における社会福祉士及び精神保健福祉士の役割・障害者と家族等に対する支援の実践	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
14	障害者と家族等に対する支援の実践 事例検討	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
15	授業のまとめ	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。(90分)	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。(90分)
16	定期試験(60分の試験後、残りの30分で解説)、授業改善アンケートの実施	試験に向けて授業内容の振り返りを行う。(90分)	試験で間違えた箇所、理解があいまいだった箇所についてプリント等を確認して見直し、復習を行う。(90分)

各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間			
回	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	障害児保育 (科目ナンバリング：SNE122092)				
授業担当者(所属・職名)	坂上 俊樹(社会福祉学科・非常勤教員)		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室	
単位数	2	(単位認定責任者：坂上 俊樹)	CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験を活かして、今日的な教育課題(障害児保育)について指導する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等対応				

概要

<b>履修目標</b>																					
共生社会の創造のために以下の5つの観点で幅広い教養を身に付ける 1. 障害児保育を支える理念や歴史の変遷について学び、障害児及びその保育について理解する。 2. 様々な障害について理解し、子どもの理解や援助の方法、環境構成等について学ぶ。 3. 障害のある子どもの保育の計画を作成し、個別支援及び他の子どもとのかかわりのなかで育ち合う保育実践について理解を深める。 4. 障害のある子どもの保護者への支援や関係機関との連携について理解する。 5. 障害のある子どもの保育にかかわる保健・医療・福祉・教育等の現状と課題について理解する																					
<b>授業の位置づけ</b>																					
社会福祉学科DP(2)(4)(5)に対応する。																					
<b>到達目標</b>																					
障害児保育を支える理念、障害の理解と保育における発達援助、障害児保育の実際、家庭及び関係機関との連携、障害のある子どもの保育にかかわる現状と課題について具体的に述べるができる。 『SDGs4・質の高い教育をみんなに』の関連科目。																					
<b>授業全体の内容と概要</b>																					
障害児保育を支える理念、障害の理解と保育における発達援助、障害児保育の実際、家庭及び関係機関との連携、障害のある子どもの保育にかかわる現状と課題について学修する。																					
<b>授業の方法</b>																					
教科書の輪読、パワーポイント及び配布資料で講義形式とし、教科書の内容の確認、ロールプレイや質疑応答の時間を設けるなどで基礎知識の定着を図る。また、DVDで具体的な実践場面を視聴し内容をレポートにまとめ知識の伸展を図る。																					
<b>アクティブラーニングの実施方法</b>																					
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL															
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業															
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)															
<b>履修上の注意事項</b>																					
<ul style="list-style-type: none"> <li>具体的な指導場面の指導事例を元に、ロールプレイで体感したり、障害児保育にかかわる実践事例のDVD教材を視聴した後に事例に基づいたレポート作成を求めているので、授業を欠席することのないよう留意すること。</li> <li>教科書を必ず持参すること。</li> <li>不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。</li> </ul>																					

<b>修学サポート(合理的配慮)</b>
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
<b>資格指定科目</b>
保育士養成課程

評価方法・基準

<b>評価前提条件</b>												
単位認定に必要な最低出席回数は10回以上。												
<b>評価方法</b>												
<table border="1"> <thead> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>60%</td> <td>20%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>20%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	60%	20%	0%	0%	20%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
60%	20%	0%	0%	20%	0%							

<b>ルーブリック</b>																													
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>障害児保育の理解</td> <td>障害児保育について、学修した知識・技能を基盤に、さらに学修を深めようとする事ができた。</td> <td>障害児保育について、必要な知識・技能を理解する事ができた。</td> <td>障害児保育について、一定程度の理解ができた。</td> <td>障害児保育について、一部理解する事ができた。</td> <td>障害児保育について、理解できなかった。</td> </tr> <tr> <td>障害児保育の思考・判断・表現</td> <td>障害児保育について、積極的に思考・判断し、自ら表現を工夫して活動する事ができた。</td> <td>障害児保育について、思考・判断し、自ら表現する事ができた。</td> <td>障害児保育について、思考活動に取り組み表現しようとする事ができた。</td> <td>障害児保育について、思考しようとする事はできなかった。</td> <td>障害児保育にかかわる思考・判断・表現について必要な取り組みができなかった。</td> </tr> <tr> <td>授業への参加態度・姿勢</td> <td>授業に非常に積極的に参加する事ができた。</td> <td>授業に積極的に参加する事ができた。</td> <td>授業に関心を持って参加する事ができた。</td> <td>授業への関心を示す事はできた。</td> <td>授業への積極的な参加ができなかった。</td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	障害児保育の理解	障害児保育について、学修した知識・技能を基盤に、さらに学修を深めようとする事ができた。	障害児保育について、必要な知識・技能を理解する事ができた。	障害児保育について、一定程度の理解ができた。	障害児保育について、一部理解する事ができた。	障害児保育について、理解できなかった。	障害児保育の思考・判断・表現	障害児保育について、積極的に思考・判断し、自ら表現を工夫して活動する事ができた。	障害児保育について、思考・判断し、自ら表現する事ができた。	障害児保育について、思考活動に取り組み表現しようとする事ができた。	障害児保育について、思考しようとする事はできなかった。	障害児保育にかかわる思考・判断・表現について必要な取り組みができなかった。	授業への参加態度・姿勢	授業に非常に積極的に参加する事ができた。	授業に積極的に参加する事ができた。	授業に関心を持って参加する事ができた。	授業への関心を示す事はできた。	授業への積極的な参加ができなかった。
評価項目		評価基準																											
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
障害児保育の理解	障害児保育について、学修した知識・技能を基盤に、さらに学修を深めようとする事ができた。	障害児保育について、必要な知識・技能を理解する事ができた。	障害児保育について、一定程度の理解ができた。	障害児保育について、一部理解する事ができた。	障害児保育について、理解できなかった。																								
障害児保育の思考・判断・表現	障害児保育について、積極的に思考・判断し、自ら表現を工夫して活動する事ができた。	障害児保育について、思考・判断し、自ら表現する事ができた。	障害児保育について、思考活動に取り組み表現しようとする事ができた。	障害児保育について、思考しようとする事はできなかった。	障害児保育にかかわる思考・判断・表現について必要な取り組みができなかった。																								
授業への参加態度・姿勢	授業に非常に積極的に参加する事ができた。	授業に積極的に参加する事ができた。	授業に関心を持って参加する事ができた。	授業への関心を示す事はできた。	授業への積極的な参加ができなかった。																								



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	障害児保育 (科目ナンバリング: SNE122092)				
授業担当者(所属・職名)	坂上 俊樹(社会福祉学科・非常勤教員)	研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 坂上 俊樹)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験を活かして、今日的な教育課題(障害児保育)について指導する		

教科書・参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『障がいのある子どもの保育・教育の実践』	中山智哉・濱田尚志・未成妙子	学文社	2022年	978-4-7620-3121-2	
2						
3						
4						
5						

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション - 授業改善アンケート結果反映の説明とシラパスの説明、障害児保育の概要	シラパスを確認しておくこと(90分)	「障害」についての概念を確認する(90分)
2	障害の理解と保育における発達援助(1) 肢体不自由児・視覚・聴覚障害児等の理解と援助	教科書の「障害のある子どもの保育の実際」を事前に読んでおくこと(90分)	配付資料に基づき復習しておくこと(90分)
3	障害の理解と保育における発達援助(2) 知的障害児の理解と援助	教科書の「障害のある子どもの保育の実際」を事前に読んでおくこと(90分)	配付資料に基づき復習しておくこと(90分)
4	障害の理解と保育における発達援助(3) 発達障害児の理解と援助(ADHD・注意欠陥多動性障害、LD・学習障害等)	教科書の「障害のある子どもの保育の実際」を事前に読んでおくこと(90分)	配付資料に基づき復習しておくこと(90分)
5	障害の理解と保育における発達援助(4) 発達障害児の理解と援助(PDD、自閉症スペクトラム等)	教科書の「障害のある子どもの保育の実際」を事前に読んでおくこと(90分)	配付資料に基づき復習しておくこと(90分)
6	障害児保育の実際(1) 保育課程に基づく指導計画の作成と記録及び評価	教科書の「障害のある子どもの保育の実際」を事前に読んでおくこと(90分)	配付資料に基づき復習しておくこと(90分)
7	障害児保育の実際(2) 個々の発達を促す生活や遊びの環境	教科書の「保育実践の基礎知識」を事前に読んでおくこと(90分)	配付資料に基づき復習しておくこと(90分)
8	障害児保育の実際(3) 子ども同士のかかわりと育ち合い	教科書の「保育実践の基礎知識」を事前に読んでおくこと(90分)	配付資料に基づき復習しておくこと(90分)
9	障害児保育の実際(4) 職員間の協働	教科書の「障害のある子どもの保育の実際」を事前に読んでおくこと(90分)	配付資料に基づき復習しておくこと(90分)
10	家庭及び関係機関との連携(1) 保護者や家族に対する理解と支援	教科書の「家族への支援と保育者の役割」を事前に読んでおくこと(90分)	配付資料に基づき復習しておくこと(90分)
11	家庭及び関係機関との連携(2) 地域の専門機関等との連携及び個別の支援計画の作成	教科書の「施設・専門機関の地域ネットワーク」を事前に読んでおくこと(90分)	配付資料に基づき復習しておくこと(90分)
12	家庭及び関係機関との連携(3) 小学校等との連携	教科書の「施設・専門機関の地域ネットワーク」を事前に読んでおくこと(90分)	配付資料に基づき復習しておくこと(90分)
13	障害のある子どもの保育にかかわる現状と課題(1) 保健・医療における現状と課題	教科書の「障害のある子どもの保育の今後の課題」を事前に読んでおくこと(90分)	配付資料に基づき復習しておくこと(90分)
14	障害のある子どもの保育にかかわる現状と課題(DVDの視聴)	配布した資料を事前に読んでおくこと(90分)	DVD視聴時のメモを元に整理すること(90分)
15	障害のある子どもの保育にかかわる現状と課題(2) 福祉・教育における現状と課題「授業改善アンケートの実践」	教科書の「障害のある子どもの保育の今後の課題」を事前に読んでおくこと(90分)	配付資料に基づき復習しておくこと(90分)
16	定期試験(60分の試験終了後、残り30分で解説する。)	指定した教科書や講義内容について整理しておくこと(90分)	試験の結果を見直す(90分)

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	建築表現 (科目ナンバリング: AHD323043)				
授業担当者(所属・職名)	安藤 淳一(建築学科・教授)	研究室等所在	2号館3階		
単位数	1 (単位認定責任者: 安藤 淳一)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示板等を参照				

概要

履修目標

建築の外構空間やアプローチ空間の再構成をテーマとした課題に取り組む。さらに、建築模型課題では外観から内部空間までを製作の対象とし、細かな材質感の表現のほか、模型写真を用いたプレゼン表現や、建築透視図の表現力を修得する。

授業の位置づけ

建築学科のDP(1)(5)に対応する。

到達目標

建築表現や模型の基本的な技術はすでに習得していることを前提として、道具・材料の選択から表現方法まで、模型による多様な表現能力の向上を、空間構成では製図ペンを用いた表現能力修得と透視図技法の理解することができる。

授業全体の内容と概要

建築模型課題については、作品完成後に模型と模型写真を用いたプレゼンテーションボードによる作品講評をおこなう。空間構成については、課題ごとに講評会をおこなう。未完成の場合、次の授業開始時まで完成させたものに限り受け付ける。

授業の方法

シリーズごとに課題の目的・到達目標等について説明をし、課題制作に取り組む。課題のシリーズ終了ごとに講評会を開催し、各自作品のプレゼンテーションをおこない、その後指導教員が講評・評価をおこなう。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
	模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
○	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

実技科目であるため、全授業に出席し期限内に課題を製作し提出すること。また作品講評会に出席し自分の作品の解説(プレゼンテーション)することも評価する。原則授業にはすべて出席し、授業時間内に課題制作をおこなうこと。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(工業)選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

原則毎回出席する(ただし最低出席回数10回以上)こととし、積極的に課題に取り組むこと。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	85%	0%	0%	15%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
建築表現や模型の基本的な技術を習得していることを前提とし、道具・材料の選択から表現方法まで、模型による多様な表現能力を修得する。	道具と材料の選択に対し最適な判断のうえで制作できた。	道具と材料の選択を自己判断でおこない制作できた。	道具と材料の選択をおおむね自己判断でおこない制作できた。	道具と材料の選択をし制作できた。	模型の製作することができなかった。
製図用インクペンを用いた手書きでの空間構成の表現力と透視図技法を修得する。	透視図法を完璧に理解した上での表現ができた。	透視図法を理解した上での表現ができた。	透視図法をおおむね理解した上での表現ができた。	透視図法で表現ができた。	透視図法が理解できなかった。
模型写真を用いデジタルツールによるプレゼン表現を修得する。	デジタルツールを完璧に使いこなした表現ができた。	デジタルツールを使いこなした表現ができた。	デジタルツールをおおむね使いこなした表現ができた。	デジタルツールを使った表現ができた。	デジタルツールが使いこなせなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	建築表現 (科目ナンバリング: AHD323043)				
授業担当者(所属・職名)	安藤 淳一 (建築学科・教授)		研究室等所在	2号館3階	
単位数	1 (単位認定責任者: 安藤 淳一)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス シラバスの説明, 授業改善アンケート結果反映の説明, 授業計画の説明	シラバスの事前確認(45分)	授業内容の確認(45分)
2	建築模型1(課題及び材料の説明)	授業資料の確認(45分)	使用道具の確認(45分)
3	建築模型制作	使用道具の確認と準備(45分)	追加作業(45分)
4	プレゼンテーション(建築模型写真)	使用道具の確認と準備(45分)	追加作業(45分)
5	講評会(建築模型・建築模型写真)	提出作品の確認(45分)	講評内容の振り返り(45分)
6	空間構成1(階段)	使用道具の確認と準備(45分)	追加作業(45分)
7	空間構成2(アプローチ)	使用道具の確認と準備(45分)	追加作業(45分)
8	講評会(階段・アプローチ)	提出作品の確認(45分)	講評内容の振り返り(45分)
9	空間構成3(アプローチと外観)	使用道具の確認と準備(45分)	追加作業(45分)
10	空間構成4(空間の展開)	使用道具の確認と準備(45分)	追加作業(45分)
11	講評会(アプローチと外観・空間の展開)	提出作品の確認(45分)	講評内容の振り返り(45分)
12	建築パース1(外観)	使用道具の確認と準備(45分)	追加作業(45分)
13	建築パース2(内観)	使用道具の確認と準備(45分)	追加作業(45分)
14	建築パース3(彩色)	使用道具の確認と準備(45分)	追加作業(45分)
15	講評会(建築パース)	提出作品の確認(45分)	講評内容の振り返り(45分)
16	総評(全作品の講評) 授業改善アンケートの実施	提出作品の最終確認(45分)	総評の振り返り(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	精神保健福祉の原理 (科目ナンバリング：SWS122038)				
授業担当者(所属・職名)	西野 克俊(社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者：西野 克俊)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神科医療機関における実務経験がある教員がその経験を活かして、精神保健福祉の基礎となる知識や倫理観習得のための指導をする。		
オフィスアワー	研究室前の掲示板等を参照				

概要

履修目標	<p>「障害者」に対する思想や障害者の社会的立場の変遷から、障害者福祉の基本的枠組み(理念・視点・関係性)について理解する。 精神保健福祉士が対象とする「精神障害者」の定義とその障害特性を構造的に理解するとともに、精神障害者の生活実態について学ぶ。 精神疾患や精神障害をもつ当事者の社会的立場や処遇内容の変遷をふまえ、それに対する問題意識をもつ価値観を体得する。 精神障害者へのかわりについて、精神医学ソーシャルワーカーが構築してきた固有の価値を学び、精神保健福祉士の存在意義を理解して職業的アイデンティティの基礎を築く。 現在の精神保健福祉士の基本的枠組み(理念・視点・関係性)と倫理綱領に基づく職責について理解する。 精神保健福祉士を規定する法律と倫理綱領を把握し、求められる機能や役割を理解する。 近年の精神保健福祉の動向を踏まえ、精神保健福祉士の職域と業務特性を理解する。</p>
授業の位置づけ	社会福祉学科のDP(1)(2)(3)(4)(5)に対応する。

到達目標	精神保健福祉の理念や概念を習得し、精神保健福祉士の倫理や価値観を培い、役割や業務特性を理解できる。
------	---

授業全体の内容と概要	<p>障害者福祉の理念や概念の理解や社会的階層について学ぶ。 精神保健福祉士の原理や精神保健福祉士の役割等について学ぶ。 「SDGs・すべての人に健康と福祉を」関連科目。</p>
------------	---

授業の方法	<p>授業形態は講義形式で行う。 テキスト及び配布資料を使用し、ポイントとするべき箇所は説明、板書を行う。 質問等に対しては都度口頭にて説明を行い、必要に応じて資料を配布する。 確認テストを実施し、解答回収後解説を行う。 Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、質問を受け付け、適宜教材配布等を行う。</p>
-------	---

アクティブラーニングの実施方法	<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																

履修上の注意事項	<p>教科書は必ず持参すること。 必要な資料等は適宜配布する。 20分以上の遅刻・早退は欠席とみなす。 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。</p>
----------	--

修学サポート(合理的配慮)	事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目	精神保健福祉士国家試験受験資格科目

評価方法・基準

評価前提条件	単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。					
評価方法	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
	60%	0%	0%	0%	10%	30%

ルーブリック	評価基準				
評価項目	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解	精神保健福祉相談援助についての基礎的な知識を深く理解できた。	精神保健福祉相談援助についての基礎的な知識をおおむね理解できた。	精神保健福祉相談援助についての基礎的な知識を理解できた。	精神保健福祉相談援助についての基礎的な知識を多少理解できた。	精神保健福祉相談援助についての基礎的な知識を理解することができなかった。
思考力・考察力	精神保健福祉の基礎を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について十分に考察できた。	精神保健福祉の基本を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開についておおむね考察できた。	精神保健福祉の基本を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について考察できた。	精神保健福祉の基本を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について多少考察できた。	精神保健福祉の基本を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について考察することができなかった。
主体性・情意	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを適切に説明できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことをおおむねに説明できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを説明できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを多少説明できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを説明することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	精神保健福祉の原理 (科目ナンバリング: SWS122038)				
授業担当者(所属・職名)	西野 克俊(社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 西野 克俊)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神科医療機関における実務経験がある教員がその経験を活かして、精神保健福祉の基礎となる知識や倫理観習得のための指導をする。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『精神保健福祉の原理』	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規出版株式会社	2021	9784805882566	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	障害者福祉の思想と原理について シラバスの説明、授業改善アンケート結果の反映の説明	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
2	障害者福祉の理念について(ノーマライゼーション、ソーシャルインクルージョン等)	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
3	障害者福祉の理念について(エンパワメント、自立生活、機会均等等)	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
4	障害者福祉の歴史的展開について	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
5	国際機能分類について(ICIDH、ICFの理解)	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
6	制度における「精神障害者」の定義について	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
7	精神障害の障害特性について	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
8	諸外国の動向について	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
9	日本の精神保健福祉政策に影響のあった出来事について(相馬事件、ライシャワー事件)	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
10	日本の精神保健福祉政策に影響のあった出来事について(宇都宮病院事件、大和川病院事件)	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
11	日本の精神保健福祉政策に影響のあった出来事について(池田小事件、相模原事件)	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
12	社会的障壁の理解について(欠格事項、強制不妊手術など)	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
13	社会的障壁の理解について(コンフリクトの種類など)	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
14	社会的障壁の理解について(人権侵害、アルコール・薬物問題など)	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
15	まとめ「障害者福祉」、「日本における事件」、「社会的障壁」等について	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート・資料整理を行うこと(90分)
16	試験(60分)実施、終了後解説(30分) 授業改善アンケートの実施	試験のための学習(90分)	試験の振り返りを行うこと(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	測量学 (科目ナンバリング: CIE323037)				
授業担当者(所属・職名)	長森 正 (建築学科・教授)	研究室等所在	アトリエ棟 1階		
単位数	2 (単位認定責任者: 長森 正)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	1級土木施工管理技士・測量士・コンクリート技士として建設会社に勤務。実務経験をもとに講義をします。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

古典的測量から現代の測量迄の建築測量関連としての教養的測量を修得し、建築に関する狭い範囲の測量のみならず測量を体系的に広がりを持った理解ができるようになる。

授業の位置づけ

建築学科のDP(1)、(2)に対応する。

到達目標

建築に必要な基本的測量知識の修得ができる。

授業全体の内容と概要

初めて測量学を学ぶことを前提にして、社会における測量の役割を理解し、実務に合わせた最新測量技術を用いた測量から地図の作成から建築工事測量までの基礎を講義する。

授業の方法

授業は教科書と配布資料を中心にプロジェクターを利用した講義形式で行う。建築工事測量の演習も実施して理解を深める。フィードバックとして演習の解説を行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	○ その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

開教電卓持参すること。数学が得意な学生は基礎となる三角関数の復習に努めること。不足の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(工業)選択科目, 建築士試験受験資格課程選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は10回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70%	0%	0%	0%	0%	30%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
測量全般の基礎理解	測量の内容や用語を理解し、測量学全般に関する基礎的な知識を修得し、他人に説明できた。	測量の内容や用語を理解し、測量学全般に関する基礎的な知識を修得できた。	基本的な測量内容や用語について理解し、他人に説明できた。	基本的な測量内容や用語について理解できた。	基本的な測量内容や用語について理解できなかった。
測量機器全般の基礎理解	測量機器・器具の構造と使用法を理解し、正確に操作でき、他人に説明できた。	測量機器・器具の構造と使用法を理解し、正確に操作できた。	測量機器・器具の構造と使用法を理解し、説明できた。	測量機器・器具の構造と使用法を理解できた。	測量機器・器具の構造と使用法を理解できなかった。
測量データの理解	測量におけるデータの意味を理解し、データを用いた計算や成果の表示ができ、他人に指導できた。	測量におけるデータの意味を理解し、データを用いた計算や成果の表示ができた。	測量におけるデータの意味を理解し、簡単な測量計算ができ、他人に説明できた。	測量におけるデータの意味を理解し、簡単な測量計算ができた。	測量におけるデータの意味を理解し、簡単な測量計算ができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	測量学 (科目ナンバリング: CIE323037)				
授業担当者(所属・職名)	長森 正(建築学科・教授)	研究室等所在	アトリエ棟1階		
単位数	2 (単位認定責任者: 長森 正)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	1級土木施工管理技術士・測量士・コンクリート技術士として建設会社に勤務。実務経験をもとに講義をします。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『図説わかる測量』	猪木幹雄・中田勝行・那須充	学芸出版社			
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスの説明 総論	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する(90分)	授業内容・演習問題を理解し復習する(90分)
2	測量に必要な基礎知識(国家基準点他)測量に必要な基礎数学	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容・演習問題を理解し復習する(90分)
3	距離測量	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容・演習問題を理解し復習する(90分)
4	角(度)測量	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容・演習問題を理解し復習する(90分)
5	基準点測量 その1	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容・演習問題を理解し復習する(90分)
6	基準点測量 その2	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容・演習問題を理解し復習する(90分)
7	光波測距儀の原理	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容・演習問題を理解し復習する(90分)
8	水準測量	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容・演習問題を理解し復習する(90分)
9	平板測量	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容・演習問題を理解し復習する(90分)
10	建築測量	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容・演習問題を理解し復習する(90分)
11	応用測量(面積・曲線設置他)	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容・演習問題を理解し復習する(90分)
12	写真測量概論	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容・演習問題を理解し復習する(90分)
13	GPS測量概論 その1	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容・演習問題を理解し復習する(90分)
14	GPS測量概論 その2	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容・演習問題を理解し復習する(90分)
15	まとめ	次回授業範囲の資料を予習する(90分)	授業内容・演習問題を理解し復習する(90分)
16	授業改善アンケートの実施 定期試験 6.0分の試験終了後、残りの3.0分で解説を行います。	授業内容全体について資料を整理して、定期試験に備える(90分)	授業内容全体について資料を整理する。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	地域情報論 (科目ナンバリング: LIH422046, LIH522045)				
授業担当者(所属・職名)	猪尾 紀幸(経営学科・非常勤講師)	研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 猪尾 紀幸)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	地方地域の中小零細企業への経営コンサルティングを実施している経営の専門家として、経営と地域活性化の視点から地域情報論について具体的に実践的な講義をする。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等対応				

概要

履修目標
地域は、情報の一方的な受け手ではなく、自らの地域情報を発信することにより地域への関心を高め、地域活性化を推進することが求められている。地域情報発信の意義、効果、方法について理解することを目的としている。

授業の位置づけ
経営学科のDP(2)、(4)、(5)に対応する。

到達目標
地域活性化という観点から見た地域情報について理解し、地域内外に対する地域情報発信の意義、効果、方法について理解し見識を持つ。

授業全体の内容と概要
地域情報の例、地域情報発信の意義、効果、方法についての講義を行う。 SDG 11.住み続けられるまちづくりをの関連科目。 SDG 8.働きがいも経済成長もの関連科目。

授業の方法
プロジェクターでの投影や板書を行い、双方向授業を活用しながら講義を進める。必要に応じて資料を配布したり、調査学習を行う。毎回の授業では授業に関する振り返りを簡潔に「振り返りシート」に記入し提出する。振り返りシートの内容をもとに次回授業冒頭でフィードバックを行う。

アクティブラーニングの実施方法					
プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習	反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
本講義は【授業態度】を重視する。【授業態度】においては、授業中の居眠り、私語、携帯電話・スマートホン等の操作は指示された場合を除き厳禁とし、再度の注意を受けたものは退室を命じ欠席扱いとする。 ・不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目

評価方法・基準					
評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上。課題を提出した学生。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	70%	0%	30%	0%

ルーブリック					
	評価基準				
評価項目	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
情報管理(文献・情報検索)	一観点に対して図書館等の文献調査から得た資料を基に必要な情報を整理(短文等)できた。	一観点に対して図書館等の文献調査から得た複数の資料を閲覧し必要な情報を取得できた。	一観点に対して図書館等の文献調査から得た複数の資料(3つ以上)を入手できた。	図書館等の文献調査ができた。	図書館等の文献調査ができなかった。
ICTスキル・情報リテラシー	PC等を活用して適切な体裁で図表や写真等を用いた効果的な論文やレポート、プレゼンテーション資料の作成、データ分析、授業内外で効果的にICTを活用。必要な情報・データへ適切にアクセスでき批判的視点で評価、取捨選択・統合して使用できた。	PC等を活用して適切な体裁で図表や写真等を用いた論文やレポート、プレゼンテーション資料の作成でき、ICTを活用した。必要な情報・データへ適切にアクセスでき批判的視点で評価、取捨選択・統合して使用できた。	PC等を活用して論文やレポート、プレゼンテーション資料を作成できた。必要な情報・データへ適切にアクセスし使用できた。	PC等を活用して論文やレポート、プレゼンテーション資料を作成できた。必要な情報・データへ適切にアクセスし使用できた。	PC等を活用できず、指定の体裁で論文やレポート、プレゼンテーション資料が作成できなかった。必要な情報・データにアクセスできなかった。
情報整理	文献や電子資料の情報整理を研究テーマの背景・問題点・実験方法等のカテゴリに分けることができる観点ごとにまとめ、それらのリスト(規格統一表記)を作成した。	文献や電子資料の情報整理を研究テーマの背景・問題点・実験方法等のカテゴリに分けることができる観点ごとにまとめ、それらのリスト(規格統一表記)を作成した。	文献や電子資料の情報整理を研究テーマの背景・問題点・実験方法等を別にまとめた。	文献や電子資料の情報整理を研究関連としてまとめた。	文献や電子資料の情報整理を行っていなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	地域情報論 (科目ナンバリング: LIH422046, LIH522045)				
授業担当者(所属・職名)	猪尾 紀幸(経営学科・非常勤講師)	研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 猪尾 紀幸)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	地方地域の中小零細企業への経営コンサルティングを実施している経営の専門家として、経営と地域活性化の視点から地域情報論について具体的に実践的な講義をする。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス シラバスの説明(講義全体の概要, 講義のやり方, 評価方法など)、授業改善アンケート結果反映の説明	学習内容について事前調査、疑問点の洗い出しなどを行うこと。(90分)	授業での気づきや振り返りをもとに学習内容を復習すること。(90分)
2	地域情報論・総論(経営的観点からみた地域活性化)	学習内容について事前調査、疑問点の洗い出しなどを行うこと。(90分)	授業での気づきや振り返りをもとに学習内容を復習すること。(90分)
3	地域情報論・総論(地域活性化と地域情報)	学習内容について事前調査、疑問点の洗い出しなどを行うこと。(90分)	授業での気づきや振り返りをもとに学習内容を復習すること。(90分)
4	北広島市の概要(地域の歴史、文化)	学習内容について事前調査、疑問点の洗い出しなどを行うこと。(90分)	授業での気づきや振り返りをもとに学習内容を復習すること。(90分)
5	北広島市の概要(地域の産業、企業)	学習内容について事前調査、疑問点の洗い出しなどを行うこと。(90分)	授業での気づきや振り返りをもとに学習内容を復習すること。(90分)
6	北広島市の地域情報の例(赤毛米と北広島島の稲作、久蔵翁)	学習内容について事前調査、疑問点の洗い出しなどを行うこと。(90分)	授業での気づきや振り返りをもとに学習内容を復習すること。(90分)
7	北広島市の地域情報の例(地域ビジョン: ポールパークを含めた今後の展望)	学習内容について事前調査、疑問点の洗い出しなどを行うこと。(90分)	授業での気づきや振り返りをもとに学習内容を復習すること。(90分)
8	北海道の他地域情報の例(移住推進地域)	学習内容について事前調査、疑問点の洗い出しなどを行うこと。(90分)	授業での気づきや振り返りをもとに学習内容を復習すること。(90分)
9	北海道の他地域情報の例(観光推進地域)	学習内容について事前調査、疑問点の洗い出しなどを行うこと。(90分)	授業での気づきや振り返りをもとに学習内容を復習すること。(90分)
10	情報発信手法(メディアミックス)	学習内容について事前調査、疑問点の洗い出しなどを行うこと。(90分)	授業での気づきや振り返りをもとに学習内容を復習すること。(90分)
11	情報発信手法(トリプルメディア)	学習内容について事前調査、疑問点の洗い出しなどを行うこと。(90分)	授業での気づきや振り返りをもとに学習内容を復習すること。(90分)
12	情報発信手法(IT普及と消費者行動の変化)	学習内容について事前調査、疑問点の洗い出しなどを行うこと。(90分)	授業での気づきや振り返りをもとに学習内容を復習すること。(90分)
13	情報発信手法(インターネット、ホームページ、SNS)	学習内容について事前調査、疑問点の洗い出しなどを行うこと。(90分)	授業での気づきや振り返りをもとに学習内容を復習すること。(90分)
14	情報発信手法(その他の手法)	学習内容について事前調査、疑問点の洗い出しなどを行うこと。(90分)	授業での気づきや振り返りをもとに学習内容を復習すること。(90分)
15	情報発信手法(注意点、商標権、著作権)	学習内容について事前調査、疑問点の洗い出しなどを行うこと。(90分)	授業での気づきや振り返りをもとに学習内容を復習すること。(90分)
16	講義全体のまとめ、課題提出授業改善アンケートの実施	学習内容に基づき課題を作成	授業での気づきや振り返りをもとに学習内容を復習すること。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	施工管理技士演習 (科目ナンバリング: SEM324058)				
授業担当者(所属・職名)	小笠原 健(建築学科・専任講師)	研究室等所在	2号館6階		
単位数	1 (単位認定責任者: 小笠原 健)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標
------

1級建築施工管理技士(学科)試験の合格に必要な知識を修得し、学科試験に合格できる学力を修得する。

授業の位置づけ

建築学科のDP(1)(2)に対応する科目。

到達目標

国家資格である「1級建築施工管理技士」の学科試験に合格できる学力を備えることができる。

授業全体の内容と概要

使用テキストに沿って「1級建築施工管理技士学科試験」項目の講義および演習問題の実施・解説を行い、建築施工管理について修得する。

授業の方法

授業は配布する各章の過去問題をテスト形式で実施し、次回にその解説を行う。事前学習と各章の小テストの解説によって理解を深める。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	○ その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

準備学習として教科書の読み込みを行い、当日の過去問題の小テストに備え、講義後はその復習に努める。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合があります。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

評価方法は、毎回の各章の小テストの合計得点を勘案し、総合的に判断する。単位認定に必要な最低出席回数は11回以上。また、定期試験は実施せず、日常授業の8回の小テスト(課題)の結果を勘案して総合評価する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	100%	0%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
1級建築施工管理技士の学科試験に必要な知識を修得できる。	1級建築施工管理技士(学科)試験の合格に必要な知識を修得できていた。	1級建築施工管理技士(学科)試験の合格に必要な知識をおおむね修得できていた。	1級建築施工管理技士(学科)試験の合格に必要な知識を最低限修得できていた。	1級建築施工管理技士(学科)試験の合格に向けて取り組む意志があった。	1級建築施工管理技士(学科)試験の合格に必要な知識を修得できていなかった。または、取り組む意志がなかった。
共生社会の実現ならびに貢献できる人材として、建築の基礎力を養うことができる。	建築が社会で果たす役割を理解し、基礎力を修得できていた。	建築が社会で果たす役割を理解し、ある程度の基礎力を修得できていた。	建築が社会で果たす役割を理解し、最低限の基礎力を修得できていた。	建築が社会で果たす役割を理解していた。	建築が社会で果たす役割を理解していなかった。
建築技術者としての問題意識を持ち、その問題解決の意識を持つことができる。	建築についての問題意識を持ち、問題解決に向き合うことができた。	建築についての問題意識を持ち、ある程度問題解決に向き合うことができた。	建築についての問題意識を持ち、どのような問題が存在しているかを理解していた。	建築についての問題意識を持ち、問題解決の必要性を理解していた。	建築についての問題意識を持たなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	施工管理技士演習 (科目ナンバリング: SEM324058)				
授業担当者(所属・職名)	小笠原 健 (建築学科・専任講師)	研究室等所在	2号館 6階		
単位数	1 (単位認定責任者: 小笠原 健)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『令和5年度 1級建築施工管理技士学科テキスト』		建築資料研究社	2023		
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 授業の進め方について説明 授業改善アンケート結果に関する説明(小笠原)	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する(45分)	授業内容を整理して、復習する(45分)
2	構造力学・問題・解説	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する(45分)	授業内容を整理して、復習する(45分)
3	計画原論・一般構造・問題	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する(45分)	授業内容を整理して、復習する(45分)
4	計画原論・一般構造・解説	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する(45分)	授業内容を整理して、復習する(45分)
5	建築材料・問題	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する(45分)	授業内容を整理して、復習する(45分)
6	建築材料・解説	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する(45分)	授業内容を整理して、復習する(45分)
7	躯体工事・問題	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する(45分)	授業内容を整理して、復習する(45分)
8	躯体工事・解説	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する(45分)	授業内容を整理して、復習する(45分)
9	躯体工事・問題	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する(45分)	授業内容を整理して、復習する(45分)
10	躯体工事・解説	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する(45分)	授業内容を整理して、復習する(45分)
11	仕上工事・問題	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する(45分)	授業内容を整理して、復習する(45分)
12	仕上工事・解説	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する(45分)	授業内容を整理して、復習する(45分)
13	仕上工事・問題	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する(45分)	授業内容を整理して、復習する(45分)
14	仕上工事・解説	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する(45分)	授業内容を整理して、復習する(45分)
15	設備工事・その他・問題	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する(45分)	授業内容を整理して、復習する(45分)
16	設備工事・その他・解説 授業改善アンケートの実施	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する(45分)	授業内容を整理して、復習する(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	高齡者福祉 (科目ナンバリング：SWS112009/2023年度以降SWS122009)				
授業担当者(所属・職名)	櫻井 美帆子(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	1号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者： 櫻井 美帆子)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	現場の実務経験から得た事例等を用いて、高齡者福祉に対する理解を深めていく。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標	高齡者の生活に対する理解を深め、相談援助活動において必要となる諸制度やサービスの知識と活用方法について理解する。
------	--

授業の位置づけ	社会福祉学科のDP(1)(3)(5)に対応する科目。
---------	----------------------------

到達目標	高齡者の福祉ニーズの理解と、関する制度やサービスの知識を会得できる。
------	------------------------------------

授業全体の内容と概要	高齡者福祉サービスの利用者の理解と、支援の基盤となる理念及び、高齡者福祉に関する諸制度やネットワークについて学ぶ。 「SDGs 3：すべての人に健康と福祉を」の関連授業
------------	---

授業の方法	教科書に沿って、講義形式で展開していく。授業内で小試験(中間試験)を行い、その中から60点分、定期試験に出題する。
-------	---

アクティブラーニングの実施方法	<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模範授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>○</td> <td>双方向授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	○	双方向授業				その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL														
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業														
ディスカッション	実験・実習・実技	○	双方向授業														
			その他(授業の方法参照)														

履修上の注意事項	不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。 30分以上の遅刻は、欠席とする。
----------	--

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
---

資格指定科目	社会福祉士国家試験受験資格課程科目である。
--------	-----------------------

評価方法・基準

評価前提条件	単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。
--------	------------------------

評価方法	<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>60%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>20%</td> <td>0%</td> <td>20%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	60%	0%	0%	20%	0%	20%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他								
60%	0%	0%	20%	0%	20%								

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

高齡者の特性について理解できる。	高齡者が生活してきた時代背景を含めて、説明できる。	身体的、精神的、社会的特徴の説明ができる。	身体的、精神的、社会的特徴の説明ができる。	助言があれば理解できる。	助言があっても理解できない。
------------------	---------------------------	-----------------------	-----------------------	--------------	----------------

高齡者を取り巻く環境と、生活実態の理解ができる。	社会環境と、生活実態、近年の高齡者に関する問題と、今後の課題について説明できる。	社会環境と、生活実態、近年の高齡者に関する問題について説明できる。	社会環境と、生活実態、近年の高齡者について理解できる。	助言があれば理解できる。	助言があっても理解できない。
--------------------------	--	-----------------------------------	-----------------------------	--------------	----------------

高齡者支援に対する関連制度の理解ができる。	高齡者福祉に対する諸制度の概要と、各々の課題について説明できる。	高齡者福祉に対する諸制度の概要について説明できる。	高齡者福祉に対する諸制度の概要について理解できる。	助言があれば理解できる。	助言があっても理解できない。
-----------------------	----------------------------------	---------------------------	---------------------------	--------------	----------------

高齡者と家族の支援におけるソーシャルワーカーの役割を理解できる。	関連する機関や地域の中でソーシャルワーカーが担う役割を事例を用いて説明できる。	関連する機関や地域の中でソーシャルワーカーが担う役割を説明できる。	関連する機関や地域の中でソーシャルワーカーが担う役割を理解できる。	助言があれば理解できる。	助言があっても理解できない。
----------------------------------	---	-----------------------------------	-----------------------------------	--------------	----------------

基本情報

科目分類区分	専門	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	高齢者福祉 (科目ナンバリング：SWS112009/2023年度以降SWS122009)				
授業担当者(所属・職名)	櫻井 美帆子(社会福祉学科・准教授)		研究室等所在	1号館4階	
単位数	2 (単位認定責任者： 櫻井 美帆子)		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 現場の実務経験から得た事例等を用いて、高齢者福祉に対する理解を深めていく。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『最新社会福祉士養成講座高齢者福祉』	荘村明彦	中央法規	2021年	978-4-8058-8245-0	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 高齢者の定義と、少子高齢社会 授業改善アンケート結果反映の説明	教科書の目次に目を通す。新聞の高齢者にかんする記事をスクラップする。(90分)	授業内容をノートに整理する。(90分)
2	高齢者の特性	授業該当部分の教科書を読み、疑問点があれば整理する。(90分)	授業内容をノートに整理する。(90分)
3	高齢者の生活実態と、高齢者を取り巻く社会環境	授業該当部分の教科書を読み、疑問点があれば整理する。(90分)	授業内容をノートに整理する。(90分)
4	高齢者福祉の歴史	授業該当部分の教科書を読み、疑問点があれば整理する。(90分)	授業内容をノートに整理する。(90分)
5	高齢者福祉の法体系 老人福祉法	授業該当部分の教科書を読み、疑問点があれば整理する。(90分)	授業内容をノートに整理する。(90分)
6	高齢者福祉の法体系 高齢者医療確保法、高齢者虐待防止法	授業該当部分の教科書を読み、疑問点があれば整理する。(90分)	授業内容をノートに整理する。(90分)
7	高齢者福祉の法体系 パリアフリー法、高齢者住まい法等	授業該当部分の教科書を読み、疑問点があれば整理する。(90分)	授業内容をノートに整理する。(90分)
8	小試験	1回から7回の内容を復習する。(90分)	試験の自己採点をする。(90分)
9	高齢者福祉の法体系 介護保険法	授業該当部分の教科書を読み、疑問点があれば整理する。(90分)	授業内容をノートに整理する。(90分)
10	高齢者福祉の法体系 介護保険制度によるサービス体系	授業該当部分の教科書を読み、疑問点があれば整理する。(90分)	授業内容をノートに整理する。(90分)
11	高齢者福祉の法体系 介護保険制度によるサービス体系	授業該当部分の教科書を読み、疑問点があれば整理する。(90分)	授業内容をノートに整理する。(90分)
12	高齢者支援における関連機関と専門職	授業該当部分の教科書を読み、疑問点があれば整理する。(90分)	授業内容をノートに整理する。(90分)
13	高齢者支援の実際	授業該当部分の教科書を読み、疑問点があれば整理する。(90分)	授業内容をノートに整理する。(90分)
14	高齢者支援の実際	授業該当部分の教科書を読み、疑問点があれば整理する。(90分)	授業内容をノートに整理する。(90分)
15	定期試験	1回から14回の復習をする。(90分)	試験の自己採点をする。(90分)
16	試験解説とまとめ 授業改善アンケートの実施	1回から15回を振り返り、質問事項があればまとめる。(90分)	試験の不正解部分について復習する。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	応用物理 (科目ナンバリング: PHY322055)				
授業担当者(所属・職名)	伊藤 裕康(建築学科・教授)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者: 伊藤 裕康)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標
物理現象の本質を理解するため、物体の運動状態を的確に表現するために必要となる知識と記述方法を学び、静力学や運動状態に対して物理学的にアプローチする方法を身につける。

授業の位置づけ
建築学科のDP(1)(2)に対応する。

到達目標
ベクトル量の基本演算を理解しており、外力の影響がある場合の物体の運動状態について説明できる。また、固体にかかる力のつり合いの式を立てることができる。

授業全体の内容と概要
主に物体の運動と固体のつり合いについて扱う。物体の状態を表現するため、さまざまな物理量やベクトルの演算を学習する。また、ニュートンの運動3法則を理解し、物体の運動状態を把握するのに3法則がどのように関わっているかを学習する。個体のつり合い問題については、力のモーメントを理解し、つり合いの式を立てられるように学習する。さらに演習問題を随時出題し、応用力を身につける。 「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法
授業は、板書とパワーポイントおよび配付資料で実施する。学生の不明点・質問は、まず一人で考え、次に隣の人と意見交換し、最後に教室全体で共有して議論する。その後、授業内で解答を呈示してフィードバックする。授業の最後には「ふりかえり」レポートを提出し、レポートにはコメントにてフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法												
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模範授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL									
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業									
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)									

履修上の注意事項
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ・不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
教職課程(工業)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件												
単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>50%</td> <td>25%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>25%</td> <td>0%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	50%	25%	0%	0%	25%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
50%	25%	0%	0%	25%	0%							

ルーブリック																													
<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> <tr> <td>ベクトル演算についての理解</td> <td>複数のベクトルの合成と分解について、三角関数を用いて成分計算することができた。</td> <td>物体に加わっている複数の力ベクトルの和とベクトルについて、成分計算および図形表示ができた。</td> <td>ベクトルを任意の2方向に分解し、成分計算および図形表示ができた。</td> <td>2つのベクトルの和や差について、成分計算および図形表示ができた。</td> <td>2つのベクトルの和・差について、成分計算および図形表示ができなかった。</td> </tr> <tr> <td>ニュートンの運動3法則についての理解</td> <td>演習問題において、3法則を用いて物体運動を説明できた。</td> <td>簡単な演習問題において、物体の運動方程式を立てることができた。</td> <td>運動方程式を用いて、力と加速度、質量の関係を説明できた。</td> <td>物体に外力が加わるとき、物体の運動状態がどのように変化するのかを説明できた。</td> <td>物体に外力が加わるとき、物体の運動状態がどのように変化するのかを説明できなかった。</td> </tr> <tr> <td>固体のつり合いについての理解</td> <td>重心まわりのモーメントのつり合いの式を立てることができ、重心の位置を求めることができた。</td> <td>複数の力が作用しているときに、水平方向と垂直方向のつり合いの式を立てることができた。</td> <td>力のモーメントのつり合いの式を立てることができた。</td> <td>力のつり合いの式を立てることができた。</td> <td>力のつり合いの式を立てることができなかった。</td> </tr> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	ベクトル演算についての理解	複数のベクトルの合成と分解について、三角関数を用いて成分計算することができた。	物体に加わっている複数の力ベクトルの和とベクトルについて、成分計算および図形表示ができた。	ベクトルを任意の2方向に分解し、成分計算および図形表示ができた。	2つのベクトルの和や差について、成分計算および図形表示ができた。	2つのベクトルの和・差について、成分計算および図形表示ができなかった。	ニュートンの運動3法則についての理解	演習問題において、3法則を用いて物体運動を説明できた。	簡単な演習問題において、物体の運動方程式を立てることができた。	運動方程式を用いて、力と加速度、質量の関係を説明できた。	物体に外力が加わるとき、物体の運動状態がどのように変化するのかを説明できた。	物体に外力が加わるとき、物体の運動状態がどのように変化するのかを説明できなかった。	固体のつり合いについての理解	重心まわりのモーメントのつり合いの式を立てることができ、重心の位置を求めることができた。	複数の力が作用しているときに、水平方向と垂直方向のつり合いの式を立てることができた。	力のモーメントのつり合いの式を立てることができた。	力のつり合いの式を立てることができた。	力のつり合いの式を立てることができなかった。
評価項目		評価基準																											
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
ベクトル演算についての理解	複数のベクトルの合成と分解について、三角関数を用いて成分計算することができた。	物体に加わっている複数の力ベクトルの和とベクトルについて、成分計算および図形表示ができた。	ベクトルを任意の2方向に分解し、成分計算および図形表示ができた。	2つのベクトルの和や差について、成分計算および図形表示ができた。	2つのベクトルの和・差について、成分計算および図形表示ができなかった。																								
ニュートンの運動3法則についての理解	演習問題において、3法則を用いて物体運動を説明できた。	簡単な演習問題において、物体の運動方程式を立てることができた。	運動方程式を用いて、力と加速度、質量の関係を説明できた。	物体に外力が加わるとき、物体の運動状態がどのように変化するのかを説明できた。	物体に外力が加わるとき、物体の運動状態がどのように変化するのかを説明できなかった。																								
固体のつり合いについての理解	重心まわりのモーメントのつり合いの式を立てることができ、重心の位置を求めることができた。	複数の力が作用しているときに、水平方向と垂直方向のつり合いの式を立てることができた。	力のモーメントのつり合いの式を立てることができた。	力のつり合いの式を立てることができた。	力のつり合いの式を立てることができなかった。																								



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	応用物理 (科目ナンバリング: PHY322055)				
授業担当者(所属・職名)	伊藤 裕康(建築学科・教授)		研究室等所在	2号館8階	
単位数	2 (単位認定責任者: 伊藤 裕康)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『通時、資料配付』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明/授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスと教科書をよく読み、専門用語の意味を理解しておくこと(90分)	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと(90分)
2	ベクトルの大きさや表記について	次回の授業範囲を予習する(90分)	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと(90分)
3	ベクトルの合成・分解と作図法	次回の授業範囲を予習する(90分)	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと(90分)
4	ニュートンの運動第1法則	次回の授業範囲を予習する(90分)	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと(90分)
5	慣性系について	次回の授業範囲を予習する(90分)	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと(90分)
6	ニュートンの運動第2法則と第3法則	次回の授業範囲を予習する(90分)	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと(90分)
7	ケプラーの法則について	次回の授業範囲を予習する(90分)	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと(90分)
8	加速度運動問題についての討論	次回の授業範囲を予習する(90分)	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと(90分)
9	地球スケールの運動についての討論	次回の授業範囲を予習する(90分)	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと(90分)
10	質点の力のつり合い問題	次回の授業範囲を予習する(90分)	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと(90分)
11	力のモーメントと固体のつり合い	次回の授業範囲を予習する(90分)	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと(90分)
12	力のモーメントの計算	次回の授業範囲を予習する(90分)	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと(90分)
13	重心まわりのつり合い	次回の授業範囲を予習する(90分)	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと(90分)
14	固体のつり合い問題について	次回の授業範囲を予習する(90分)	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと(90分)
15	まとめと演習	これまでの授業内容についての質問をまとめる(90分)	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと(90分)
16	授業改善アンケートの実施/定期試験(60分の試験終了後、残りの30分で解説を行う)	試験範囲について復習しておくこと(90分)	試験内容について復習しておくこと(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択（教職課）
科目名称	教育課程論 (科目ナンバリング: ESS142152, ESS242098, ESS342094, ESS442096, EDU542103)				
授業担当者(所属・職名)	西崎 毅 (社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	2号館6階		
単位数	2 (単位認定責任者: 西崎 毅)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	高等学校や教育行政における勤務経験を活かして教育課程論に関連する諸事項を講義する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照				

概要

<p><b>履修目標</b></p> <p>教職に必要な知識や技能のうち、教育課程の役割・機能・意義をはじめ教育課程編成の基本原則と方法、カリキュラム・マネジメントの意義・重要性・推進方法に関する知識を身に付ける。教職に必要な思考力・判断力・表現力等の能力及び主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を身に付ける。</p>
--

<p><b>授業の位置づけ</b></p> <p>経営学科のDP(2)(4)に対応する。          社会福祉学科のDP(2)(4)(5)に対応する。          デザイン学科のDP(2)(4)に対応する。          建築学科のDP(2)(4)に対応する。</p>
--

<p><b>到達目標</b></p> <p>授業のテーマについて考え、根拠を示しながら自分の意見をまとめ、他者と意見交換をしたり発表したりすることができる。</p>
--

<p><b>授業全体の内容と概要</b></p> <p>各回のテーマに基づき必要な事項を講義するとともに、主体的・対話的で深い学びを実現するため、テーマに関連する事項に関して思考・考察、意見交換、発表等の一連の活動を行う。教育に関する内容は複数のテーマにかかわることが多いため、シラバスに示した学修内容を再構成し15回の授業全体を通して学修を完結する形とする場合がある。このため、各授業の冒頭において、当該の授業内容とシラバス上の授業テーマとの関連を明示する。「SDG4：質の高い教育をみんなに」の関連科目</p>
---

<p><b>授業の方法</b></p> <p>各回のテーマに関してプレゼンテーションソフトウェア及びプリント等を使用して説明を行う。各回のテーマに基づき必要な事項を講義するとともに、主体的・対話的で深い学びを実現するため、テーマに関連する事項に関して、グループワークを中心として思考・考察、意見交換、発表等の一連の活動を行う。課題については、観点別の評価とコメントによりフィードバックを行う。要望については口頭及びメール等で対応する。Microsoft Teams/Formsの諸機能を活用し、意見交換、質問、小テスト、教材配布等を行う。</p>
---

<b>アクティブラーニングの実施方法</b>				
プレゼンテーション		グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業		ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

<p><b>履修上の注意事項</b></p> <p>思考・考察、討論・発表等の活動を行うので、積極的に参加すること。          ○講義の前夜に行う学修課題を課しますので真摯に取り扱すること。          プリント類は、ファイル等に綴って適切に管理し、学修に役立てること。          欠席した場合は、Microsoft Teamsからプリント等を入力すること。          講義中の私語・居眠り等は厳に慎むこと。          講義中は特に指示がない場合にはスマートフォンをカバン等の中に格納すること。          講義では演習を行うため、座席を指定する。          講義開始時間までに用便を済ませておくこと。          30分以上の「遅刻」は、「欠席」扱いとする。          学修に向かう姿勢及び課題はすべて点数化・集積し評価点とする。          評価Sは履修者の10%以内、評価SとAを合わせて40%以内が目安となっている。</p>
--

<p><b>修学サポート(合理的配慮)</b></p> <p>事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。</p>
<p><b>資格指定科目</b></p> <p>教職課程(全教科)必修科目</p>

評価方法・基準

<p><b>評価前提条件</b></p> <p>単位認定に必要な最低出席回数は13回。</p>
---

<b>評価方法</b>					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	0%	0%	0%	40%	0%

<b>ルーブリック</b>					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間に係るレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	定期テストで9割以上の得点を上げた。	定期テストで8割以上の得点を上げた。	定期テストで7割以上の得点を上げた。	定期テストで6割以上の得点を上げた。	定期テストの得点が6割未満であった。
思考の深さ	右の記述を高いレベルで実現した。	与えられた思考テーマについて、既に学修した知識や自ら経験等と関連させながら深く多面的に考え、根拠を明らかにしながら、論理的に自分の意見をまとめることができた。	与えられた思考テーマについて多面的に考え、根拠を示しながら論理的に自分の意見をまとめることができた。	与えられた思考テーマについて自分の意見をまとめてはいるが、根拠の記述や論理性に課題があった。	与えられた思考テーマについて記述しているが、思考テーマの意味のとらえが不十分であり、期待される最低限の基準に到達することができなかった。
判断的的確性	右の記述を高いレベルで実現した。	与えられた思考テーマの意味を的確にとらえ、期待されるすべての論点に言及し、各論点について論理を明確にし、自分の意見をまとめることができた。	与えられた思考テーマの意味をとらえているが、期待されるすべての論点には言及できなかった。言及した論点については論理を明確にし、自分の意見をまとめることができた。	与えられた思考テーマについて自分の意見をまとめているが、思考テーマの意味のとらえに課題があり、期待される最低限の基準に到達することができなかった。	与えられた思考テーマについて記述しているが、思考テーマの意味のとらえが不十分であり、期待される最低限の基準に到達することができなかった。
表現の適切性	右の記述を高いレベルで実現した。	他の成員の意見の趣旨を的確にとらえ、簡潔にまとめて記述することができた。誤字脱字が少なく、丁寧に書くことができた。各欄の記述の分量が期待される分量の9割を超えた。	他の成員の意見の趣旨を簡潔にとらえ、まとめて記述することができた。誤字脱字が少なく、各欄の記述の分量が期待される分量の7割程度であった。	他の成員の意見を記述しているが、その趣旨を十分にまとめることができなかった。誤字脱字が多かった。各欄の記述の分量が期待される分量の3割程度であった。	他の成員の意見を記述しているが、内容が極めて不十分であった。誤字脱字が多かった。各欄の記述の分量が期待される分量の3割程度であるなど、期待される最低限の基準に到達することができなかった。
主体性・協働性	右の記述を高いレベルで実現した。	他の成員と積極的に意見交換を行った。他の成員の意見を十分に理解し、自分の感想等を記述することができた。自分の意見と異なる他の成員の意見に対して疑問点や反論等を記述し、見聞が広がった。	他の成員と意見交換しているが、特段積極性は見られなかった。他の成員の意見を十分に理解し、自分の感想等を記述することができた。自分の意見と異なる他の成員の意見に対して疑問点や反論等を記述し、見聞が広がった。	他の成員と意見交換しているが、消極的であった。他の成員の意見の理解が極めて不十分であった。自分の感想等を記述しているが、表面的なものにとどまった。	他の成員との意見交換に誘われて参加していた。他の成員の意見の理解が極めて不十分であった。自分の感想等を記述しているが、期待される最低限の基準に到達することができなかった。

基本情報

科目分類区分	自由	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択(教職課)
科目名称	教育課程論 (科目ナンバリング: ESS142152, ESS242098, ESS342094, ESS442096, EDU542103)				
授業担当者(所属・職名)	西崎 毅(社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	2号館6階		
単位数	2 (単位認定責任者: 西崎 毅)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	高等学校や教育行政における勤務経験を活かして教育課程論に関連する諸事項を講義する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『改訂新版 教職を目指す人のための教育課程論』	古川治ほか	北大路書房	2019	9784762830624	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『中学校学習指導要領』	文部科学省	東山書房	2017	9784827815580	
2	『高等学校学習指導要領』	文部科学省	東山書房	2018	9784827815672	
3	『中学校学習指導要領解説 総則編』	文部科学省	東山書房	2017	9784827815597	
4	『高等学校学習指導要領解説 総則編』	文部科学省	東洋館出版社	2018	9784491036397	
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション(シラバスの説明を含む) 教育課程の意義について 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを確認して学修の心構えを、持つこと。(90分)	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。(90分)
2	教育課程編成の思想と構造について	前時に課された事前課題を行い提出すること。(90分)	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。(90分)
3	近代・現代日本の教育課程の歩みについて	前時に課された事前課題を行い提出すること。(90分)	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。(90分)
4	教育課程の編成と諸要因及びカリキュラム・マネジメントの意義について	前時に課された事前課題を行い提出すること。(90分)	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。(90分)
5	小学校学習指導要領と教育課程編成の実際について	前時に課された事前課題を行い提出すること。(90分)	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。(90分)
6	中学校学習指導要領と教育課程編成の実際について	前時に課された事前課題を行い提出すること。(90分)	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。(90分)
7	高等学校学習指導要領と教育課程編成の実際について	前時に課された事前課題を行い提出すること。(90分)	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。(90分)
8	特別支援学校の学習指導要領と教育課程編成の実際について	前時に課された事前課題を行い提出すること。(90分)	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。(90分)
9	学校経営とカリキュラム・マネジメントについて	前時に課された事前課題を行い提出すること。(90分)	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。(90分)
10	各教科、特別の教科「道徳」、特別活動、総合的な学習の時間の関連について	前時に課された事前課題を行い提出すること。(90分)	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。(90分)
11	教育課程と評価について	前時に課された事前課題を行い提出すること。(90分)	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。(90分)
12	カリキュラム開発と学力向上策について	前時に課された事前課題を行い提出すること。(90分)	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。(90分)
13	学習指導要領の改訂の経過と特徴について	前時に課された事前課題を行い提出すること。(90分)	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。(90分)
14	国際学力調査と教育課程改革について	前時に課された事前課題を行い提出すること。(90分)	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。(90分)
15	諸外国における教育課程改革について 授業改善アンケートの実施	前時に課された事前課題を行い提出すること。(90分)	前15回の学修内容を復習すること。(90分)
16	70分の試験終了後、残りの20分で解説を行う。	前15回の学修内容を復習すること。(90分)	試験を振り返り、自分の学修姿勢を評価すること。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

## 基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	地域福祉と包括的支援 (科目ナンバリング: SWS123023)				
授業担当者(所属・職名)	上原 正希(社会福祉学科・教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 上原 正希)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員の資格を持ち、ソーシャルワーカー、日本および北海道ソーシャルワーカー協会理事としての自分自身の経験や体験談を踏まえ講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示板等を参照				

## 概要

<b>履修目標</b>
社会福祉士国家試験出題基準にも関連する地域福祉学の学術用語や地域福祉の理念と対象、ソーシャルワークなど地域福祉学の基礎を理解する。

<b>授業の位置づけ</b>
社会福祉学科のディプロマポリシー(DP)の(1)と(2)と(3)と(4)と(5)に対応する。

<b>到達目標</b>
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域社会における社会福祉の対象について説明ができる。</li> <li>2. 地域福祉学の学術用語の基礎の説明ができる。</li> </ol>

<b>授業全体の内容と概要</b>
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域福祉学は、その対象理解を学ぶものが地域福祉論、実践方法・技術を学ぶものがコミュニティワークになる。</li> <li>2. 本科目は、理論的接近により地域社会、地域住民、地域資源とは何か、地域福祉論の基礎について学ぶ。</li> <li>3. テキストを中心に関連文献を適宜紹介し、参考文献として、その他文献資料も活用する。</li> <li>4. 授業内容は、社会福祉士国家試験科目「地域福祉と包括的支援体制」の内容についての理論的理解を含む。</li> <li>5. 「SDGs3.すべての人に健康と福祉を」、「SDGs4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。</li> </ol>

<b>授業の方法</b>
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業形態は講義形式だが、適宜、グループワークやディスカッションを含む。</li> <li>2. テキストを使用し、ポイントとするべき箇所は説明、板書を行う。</li> <li>3. 適宜、質疑応答を交える。</li> <li>4. 自然災害などの状況により、オンライン授業などに変更になる場合もある。</li> <li>5. ソーシャルワーカーのお話を聞く授業等もある場合もある。</li> </ol>

<b>アクティブラーニングの実施方法</b>																					
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模範授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL															
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業															
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)															

<b>履修上の注意事項</b>
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教科書は必ず持参すること。</li> <li>2. 必要な資料等は適宜配布する。</li> <li>3. 15回目の授業時にノートの確認を行う。</li> <li>4. とは同じ教科書を使用する。</li> <li>5. 自然災害などの状況により、オンライン授業などに変更になる場合もある。</li> <li>6. ソーシャルワーカーのお話を聞く授業等では、個人情報に触れることもあることから守秘義務の順守が求められる。</li> </ol>

<b>修学サポート(合理的配慮)</b>
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
<b>資格指定科目</b>
社会福祉士国家試験受験資格課程, 精神保健福祉士国家試験受験資格課程

## 評価方法・基準

<b>評価前提条件</b>
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 出席回数は最低10回なければ試験を受験することはできない。</li> <li>2. その他については、出席状況15%・ノート確認15%の評価となる。</li> <li>3. 成績評価分布の目標について「S」は履修者の10%以内とし、「A」と「S」を含めて履修者の40%以内とする。</li> </ol> 但し、履修者が10人未満の授業科目は、授業形態等を考慮し、成績評価の割合の対象外とする(絶対評価と相対評価を併用する)。

<b>評価方法</b>												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>70%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>30%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	70%	0%	0%	0%	0%	30%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
70%	0%	0%	0%	0%	30%							

<b>ルーブリック</b>																													
<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> <tr> <td>【知識】地域福祉の基本的な考え方について理解する。</td> <td>地域福祉の基本的な考え方について非常に理解できた。</td> <td>地域福祉の基本的な考え方についておおむね理解できた。</td> <td>地域福祉の基本的な考え方について理解できた。</td> <td>地域福祉の基本的な考え方について理解が一部できなかった。</td> <td>地域福祉の基本的な考え方について全体的に理解ができなかった。</td> </tr> <tr> <td>【知識】地域福祉の組織や役割について理解する。</td> <td>地域福祉の組織や役割について非常に理解できた。</td> <td>地域福祉の組織や役割についておおむね理解できた。</td> <td>地域福祉の組織や役割について理解できた。</td> <td>地域福祉の組織や役割について理解が一部できなかった。</td> <td>地域福祉の組織や役割について全体的に理解ができなかった。</td> </tr> <tr> <td>【知識】コミュニティソーシャルワークについて理解する。</td> <td>コミュニティソーシャルワークについて非常に理解できた。</td> <td>コミュニティソーシャルワークについておおむね理解できた。</td> <td>コミュニティソーシャルワークについて理解できた。</td> <td>コミュニティソーシャルワークについて理解が一部できなかった。</td> <td>コミュニティソーシャルワークについて全体的に理解ができなかった。</td> </tr> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	【知識】地域福祉の基本的な考え方について理解する。	地域福祉の基本的な考え方について非常に理解できた。	地域福祉の基本的な考え方についておおむね理解できた。	地域福祉の基本的な考え方について理解できた。	地域福祉の基本的な考え方について理解が一部できなかった。	地域福祉の基本的な考え方について全体的に理解ができなかった。	【知識】地域福祉の組織や役割について理解する。	地域福祉の組織や役割について非常に理解できた。	地域福祉の組織や役割についておおむね理解できた。	地域福祉の組織や役割について理解できた。	地域福祉の組織や役割について理解が一部できなかった。	地域福祉の組織や役割について全体的に理解ができなかった。	【知識】コミュニティソーシャルワークについて理解する。	コミュニティソーシャルワークについて非常に理解できた。	コミュニティソーシャルワークについておおむね理解できた。	コミュニティソーシャルワークについて理解できた。	コミュニティソーシャルワークについて理解が一部できなかった。	コミュニティソーシャルワークについて全体的に理解ができなかった。
評価項目		評価基準																											
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
【知識】地域福祉の基本的な考え方について理解する。	地域福祉の基本的な考え方について非常に理解できた。	地域福祉の基本的な考え方についておおむね理解できた。	地域福祉の基本的な考え方について理解できた。	地域福祉の基本的な考え方について理解が一部できなかった。	地域福祉の基本的な考え方について全体的に理解ができなかった。																								
【知識】地域福祉の組織や役割について理解する。	地域福祉の組織や役割について非常に理解できた。	地域福祉の組織や役割についておおむね理解できた。	地域福祉の組織や役割について理解できた。	地域福祉の組織や役割について理解が一部できなかった。	地域福祉の組織や役割について全体的に理解ができなかった。																								
【知識】コミュニティソーシャルワークについて理解する。	コミュニティソーシャルワークについて非常に理解できた。	コミュニティソーシャルワークについておおむね理解できた。	コミュニティソーシャルワークについて理解できた。	コミュニティソーシャルワークについて理解が一部できなかった。	コミュニティソーシャルワークについて全体的に理解ができなかった。																								

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	地域福祉と包括的支援 (科目ナンバリング: SWS123023)				
授業担当者(所属・職名)	上原 正希(社会福祉学科・教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 上原 正希)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員の資格を持ち、ソーシャルワーカー、日本および北海道ソーシャルワーカー協会理事としての自分自身の経験や体験談を踏まえ講義を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『地域福祉と包括的支援体制』	日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規	2021	978-4-8058-8236-8	価格 1,310
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『別途指示します。』 <sup>a</sup>					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション ・シラバスの説明 ・前年度実施した授業改善アンケートの結果反映の	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
2	地域福祉の発展過程について	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
3	地域福祉の発展過程 - 行政と住民の協働・新しい生活課題	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
4	地域福祉の発展過程 - 新しいサービスシステム・地域福祉の主体	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
5	地域福祉の基本的考え方 - 地域福祉理論の発展・理念	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
6	地域福祉の基本的考え方 - 地域コミュニティ型組織とアソシエーション型組織	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
7	地域福祉の主体と福祉教育について	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
8	行政組織と民間組織の役割と実際 - 地域福祉計画	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
9	行政組織と民間組織の役割と実際 - 社会福祉協議会・社会福祉法人	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
10	行政組織と民間組織の役割と実際 - NPO・民生委員児童委員など	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
11	コミュニティソーシャルワークについて - 考え方	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
12	コミュニティソーシャルワークについて - 展開とシステム	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
13	コミュニティソーシャルワークについて - 方法	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
14	コミュニティソーシャルワークについて - チームアプローチ	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
15	コミュニティソーシャルワークについて - 専門職と住民 授業改善アンケートの実施	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
16	【定期試験】60分の試験終了後、残りの30分で解説	テスト勉強をしておくこと(90分)	テストの振り返りを行うこと(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	課程必修
科目名称	工業科教育法 (科目ナンバリング: ESS343095)				
授業担当者(所属・職名)	横山 哲也(建築学科・准教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 横山 哲也)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

学生が高等学校工業科教員としての必要な資質を身につける。

授業の位置づけ

建築学科のDP(2)に対応する。

到達目標

工業教育の意義と役割を考え、基礎的知識及び技術、指導内容及び指導方法を理解することができる。

授業全体の内容と概要

工業教育の基礎的知識及び技術、指導内容・指導方法を理解し学ぶ。授業全体を通して、情報機器及び教材の効果的な活用方法を理解し、授業設計に活用することができるよう、具体的な指導を行う。

授業の方法

授業は、板書で実施し、板書にて説明しながら、演習を行う。課題提出後、解説も行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	〇 双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

積極的に教育に関心をもつこと。  
授業時間の半分以上の遅刻は欠席とみなします。  
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合があります。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(工業)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

11回以上の出席、レポート課題の提出と平常点の結果を総合して判定する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	70%	0%	0%	20%	10%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
工業教育の意義と役割の理解	講義の内容から工業教育の意義と役割について完璧に理解した。	講義の内容から工業教育の意義と役割について理解した。	講義の内容から工業教育の意義と役割についてほぼ理解した。	講義の内容から工業教育の意義と役割について大体理解した。	工業教育の意義と役割について理解しなかった。
工業教育の基礎的知識及び技術の理解	講義の内容から工業教育の基礎的知識及び技術について完璧に理解した。	講義の内容から工業教育の基礎的知識及び技術について理解した。	講義の内容から工業教育の基礎的知識及び技術についてほぼ理解した。	講義の内容から工業教育の基礎的知識及び技術について大体理解した。	工業教育の基礎的知識及び技術について理解しなかった。
指導内容及び指導方法の理解	講義の内容から指導内容及び指導方法について完璧に理解した。	講義の内容から指導内容及び指導方法について理解した。	講義の内容から指導内容及び指導方法についてほぼ理解した。	講義の内容から指導内容及び指導方法について大体理解した。	指導内容及び指導方法について理解しなかった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	課程必修
科目名称	工業科教育法 (科目ナンバリング: ESS343095)				
授業担当者(所属・職名)	横山 哲也(建築学科・准教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 横山 哲也)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『高等学校学習指導要領』	文部科学省				
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『適宜指示』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス、シラバスの説明及び授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読んでおくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
2	教育と教師像	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
3	工業教育の目的、目標の変遷、役割	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
4	工業教育の内容及び教科内容1	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
5	工業教育の内容及び教科内容2	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
6	工業教育の内容及び教科内容3	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
7	一般教育としての工業・技術教育	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
8	西欧の工業教育	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
9	工業教育の始まり	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
10	明治以前の工業教育	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
11	明治の工業教育	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
12	大正期の工業教育	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
13	昭和期の工業教育	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
14	戦後の工業教育	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
15	文部科学省『高等学校学習指導要領』(平成21年3月告示)による改訂	学習指導要領の箇所を事前に予習しておくこと(90分)	今日の授業の再確認(90分)
16	授業改善アンケートの実施及び総解説しフィードバックします	総復習(90分)	総理解(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	課程必修
科目名称	美術科教育法 (科目ナンバリング: ESS243093)				
授業担当者(所属・職名)	竹内 美帆(デザイン学科・専任講師)		研究室等所在	未定	
単位数	2 (単位認定責任者: 竹内 美帆)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	中学校教諭専修免許状(美術)と高等学校教諭専修免許(美術)を有し、公立小学校で教員経験がある教員が、その経験を元に美術科教育法について授業を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標
------

美術科教育の目標、内容及び指導の方法について、学習指導要領を基に基礎的な理解を深め、美術科の学習指導に必要な基礎的な知識や技能を身につける。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP(1)(2)(3)に対応する。

到達目標

- ・学習指導要領を理解し、美術科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解できる。
- ・中等・高等教育段階における美術教育の意義を踏まえ、学習指導案を作成することができる。

授業全体の内容と概要

中学校を中心に美術科の学習指導要領を基に基礎的な内容を理解する。いくつかの教材研究を通して、中等・高等教育における美術科の意味を考え、表現に関する指導計画の作成および学習の方法などを学び、美術科の学習指導に必要な基礎的な知識や技能を身につけていく。授業全体を通して、情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができるよう、具体的な指導を行う。

授業の方法

授業ではパワーポイントや配布資料のほか、DVDなどの視聴覚メディアなどを用い、講義形式だけでなく、グループワークやディスカッション、プレゼンテーション、指導案の作成などを行う。指導案の作成では他の学生の指導案についてお互いに検討し、ディスカッションを行う。最終講義までに再度修正した指導案を提出する。なお、提出された指導案にはコメントにてフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

指導案の作成・検討などを実施するため、やむを得ない場合を除き欠席はしないことが望ましい。授業内で行うグループワークやディスカッションには積極的に参加する態度が求められる。  
『中学校美術の教科書1-3年』(開隆堂出版、日本文教出版、光村図書出版など)について、授業で何冊か準備するが、どの学年でもよいので1冊各自購入し、持参すると学びにつながる。  
授業で使用する資料はTeams等の学習支援システムを活用して配布、回収するほか、学生の不明点・質問は、チャット形式などの支援システムで迅速に回答する。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(美術)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は10回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	50%	0%	0%	50%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
美術科の内容に対する理解度	授業で得た用語や概念の理解を通して、社会や文化に対する深い洞察力をもって自分独自の視点から考察できた。	授業で得た用語や概念の理解を通して、自分独自の視点から考察できた。	授業で得た用語や概念の理解を通して、授業で示された範囲のテーマを考察できた。	授業で得た用語や概念が理解できた。	授業内で使われた用語や概念の理解が不十分だった。
学習指導案作成能力	学習指導要領や題材研究の成果と課題を踏まえて学習指導案を適切に作成することができた。	学習指導要領に沿って適切に学習指導案を作成することができた。	学習指導要領に沿ってある程度適切に学習指導案を作成することができた。	学習指導要領に沿って学習指導案を作成することができた。	学習指導案を作成することができなかった。
演習を通じた考察	自ら進んで課題の範囲を越えて調べ、自主的な学習が認められた。	演習において他者との意見交換を通して考察を深めることができた。	演習を通して考察を深めることができた。	演習を通して考察することができた。	演習を通して考察することができなかった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	課程必修
科目名称	美術科教育法 (科目ナンバリング: ESS243093)				
授業担当者(所属・職名)	竹内 美帆(デザイン学科・専任講師)	研究室等所在	未定		
単位数	2 (単位認定責任者: 竹内 美帆)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	中学校教諭専修免許状(美術)と高等学校教諭専修免許(美術)を有し、公立小学校で教員経験がある教員が、その経験を元に美術科教育法について授業を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『図画工作科・美術科教育法』	図画工作科・美術科教育法研究会編	建帛社	2019年	9784767921150	
2	『中学校学習指導要領解説 美術編 平成29年7月平成29年告示』	文部科学省	日本文教出版大版	2018年	9784536590136	
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『美術科教育の基礎知識』	福田隆真、茂木一司、福本謹一	建帛社	2012年	9784767921013	
2	『高等学校学習指導要領解説 芸術(音楽・美術・工芸・書道)編 音楽編・美術編 平成30年7月』	文部科学省	教育図書	2019年	9784877304201	
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 授業についてのオリエンテーション 美術科教育の目的・意義(1)美術科教育の位置づけ	シラバスを読んでおく(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(90分)
2	美術科教育の目的・意義(2)学習指導要領における目的	事前配布プリントや教科書の該当ページを丁寧に読んで、疑問点を挙げておく。(90分)	配布プリントや教科書を読み、授業内容を復習する(90分)
3	美術科教育の歴史:子どもの発達、造形教育と美術教育	事前配布プリントや教科書の該当ページを丁寧に読んで、疑問点を挙げておく。(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(90分)
4	美術科教育の教科特性:美術科教育における「表現」と「鑑賞」	事前配布プリントや教科書の該当ページを丁寧に読んで、疑問点を挙げておく。(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(90分)
5	美術科教育の教科特性:絵画・彫刻領域とデザイン・工芸領域	事前配布プリントや教科書の該当ページを丁寧に読んで、疑問点を挙げておく。(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(90分)
6	学習指導要領(中学):美術科の各学年の内容	事前配布プリントや教科書の該当ページを丁寧に読んで、疑問点を挙げておく。(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(90分)
7	学習指導要領(高校):目標と内容 指導計画・学習指導案の構成	事前配布プリントや教科書の該当ページを丁寧に読んで、疑問点を挙げておく。(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(90分)
8	「表現」の教材研究(1)	とりあげる教材について事前に特性などを調べておく。(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(90分)
9	「表現」の教材研究(2)	とりあげる教材について事前に特性などを調べておく。(90分)	事前配布プリントや教科書の該当ページを読み、授業内容を復習する(90分)
10	「表現」の教材研究(3)	とりあげる教材について事前に特性などを調べておく。(90分)	事前配布プリントや教科書の該当ページを読み、授業内容を復習する(90分)
11	「表現」の教材研究(4)	とりあげる教材について事前に特性などを調べておく。(90分)	事前配布プリントや教科書の該当ページを読み、授業内容を復習する(90分)
12	学習指導案の作成(1):方法	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点を挙げておく。(90分)	指導案を作成する(90分)
13	学習指導案の作成(2):検討の視点と方法	指導案を作成する(90分)	指導案を作成する(90分)
14	学習指導要領:指導上の留意点、評価について	指導案を作成する(90分)	指導案を作成する(90分)
15	指導案の作成の振り返り	指導案を作成する(90分)	自分の作成した指導案についての気づきをまとめる(90分)
16	指導案の講評 フィードバック 授業改善アンケートの実施	これまでの内容を振り返り、疑問点を挙げておく。(90分)	フィードバックを受けて授業の内容の理解を深める(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	心理学と心理的支援 (科目ナンバリング: PSG111006/2023年度以降PSG121006)				
授業担当者(所属・職名)	吉澤 英里(社会福祉学科・教授)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 吉澤 英里)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標	<p>人の心の基本的な仕組みと機能を理解し、環境との相互作用の中で生じる心理的反応を理解する。                  人の成長・発達段階の各期に特有な心理的課題を理解する。                  日常生活と心の健康との関係について理解する。                  心理学の理論を基礎としたアセスメントの方法と支援について理解する。</p>												
授業の位置づけ	社会福祉学科DP(1)に対応する。												
到達目標	人の基本的な心の仕組みと機能、アセスメント等の支援方法を理解する。												
授業全体の内容と概要	<p>心理学のテーマは多岐にわたる。そこで、本授業ではソーシャルワークに深く関連する事項に絞り、人の心の仕組みと働きについて学ぶ。さらに、心理学理論を基礎とした支援方法について理解する。                  *SDGs3.「すべての人に健康と福祉を」の関連授業</p>												
授業の方法	<p>授業は講義形式で進行する。補助教材として、PowerPointによるスライドを用いる。このスライドは授業前にTeamsでデータ共有するため、必要な人は各自ダウンロードすること、スライドをプリント化して配布することはない。毎授業時間の最後に、コメントや質問、要望を募集する。得られたコメント等に対して、次回の冒頭、全体に向けてのフィードバックを行う。</p>												
アクティブラーニングの実施方法	<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模範授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>○ その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	○ その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL										
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業										
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	○ その他(授業の方法参照)										
履修上の注意事項	<p>教科書を必ず持参すること。授業の進行を著しく妨害する行為が認められた際は、成績評価から減点することがある。                  不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。</p>												

<p>修学サポート(合理的配慮)</p> <p>事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。</p>
<p>資格指定科目</p> <p>社会福祉士国家試験受験資格課程(必修)、精神保健福祉士国家試験受験資格課程(必修)、保育士養成課程(選択)</p>

評価方法・基準

評価前提条件	単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上。												
評価方法	<table border="1"> <thead> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>60%</td> <td>30%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>10%</td> </tr> </tbody> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	60%	30%	0%	0%	0%	10%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他								
60%	30%	0%	0%	0%	10%								

ループリック	評価基準				
評価項目	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
心理学と心理的支援の知識	授業で扱った専門知識について、非常に理解ができた。	授業で扱った専門知識について、よく理解ができた。	授業で扱った専門知識について、やや理解ができた。	授業で扱った専門知識について、最低限の理解ができた。	授業で扱った専門知識について、最低限の理解ができていなかった。
表現方法の適切さ	授業で求められる文章表現の基準を極めて上回る水準で到達できた。	授業で求められる文章表現の基準をかなり上回る水準で到達できた。	授業で求められる文章表現の基準をやや上回る水準で到達できた。	授業で求められる文章表現の基準に到達できた。	授業で求められる文章表現の基準に到達できなかった。
授業への積極的参加	授業に対して、非常によく参加できた。	授業に対して、よく参加できた。	授業に対して、やや参加できた。	授業に最低限の参加ができた。	授業に参加できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	心理学と心理的支援 (科目ナンバリング: PSG111006/2023年度以降PSG121006)				
授業担当者(所属・職名)	吉澤 英里(社会福祉学科・教授)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 吉澤 英里)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『心理学と心理的支援(最新社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座)』	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規出版	2021	9784805882320	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	心理学の歴史と対象について シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明	関連図書を熟読する(90分)	授業内容を振り返り、疑問点をまとめる(90分)
2	心を探究する方法の発展について	示されたキーワードを調べる(90分)	授業内容を振り返り、疑問点をまとめる(90分)
3	心の生物学的基盤について	示されたキーワードを調べる(90分)	授業内容を振り返り、疑問点をまとめる(90分)
4	感情・動機づけ・欲求について	示されたキーワードを調べる(90分)	授業内容を振り返り、疑問点をまとめる(90分)
5	感覚・知覚について	示されたキーワードを調べる(90分)	授業内容を振り返り、疑問点をまとめる(90分)
6	学習・行動について	示されたキーワードを調べる(90分)	授業内容を振り返り、疑問点をまとめる(90分)
7	認知について	示されたキーワードを調べる(90分)	授業内容を振り返り、疑問点をまとめる(90分)
8	個人差について	示されたキーワードを調べる(90分)	授業内容を振り返り、疑問点をまとめる(90分)
9	人と環境について	示されたキーワードを調べる(90分)	授業内容を振り返り、疑問点をまとめる(90分)
10	生涯発達について	示されたキーワードを調べる(90分)	授業内容を振り返り、疑問点をまとめる(90分)
11	心の発達基盤について	示されたキーワードを調べる(90分)	授業内容を振り返り、疑問点をまとめる(90分)
12	心の不適応について	示されたキーワードを調べる(90分)	授業内容を振り返り、疑問点をまとめる(90分)
13	心理アセスメントについて	示されたキーワードを調べる(90分)	授業内容を振り返り、疑問点をまとめる(90分)
14	心理的支援の基本的技法について	示されたキーワードを調べる(90分)	授業内容を振り返り、疑問点をまとめる(90分)
15	心理療法について 授業改善アンケートの実施	示されたキーワードを調べる(90分)	これまでの内容をまとめる(90分)
16	60分の試験後、残り時間で解説を行う	これまでの内容を整理する(90分)	これまでの内容を振り返る(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	インテリアデザイン (科目ナンバリング: SWS123223, HLS322051)				
授業担当者(所属・職名)	安藤 淳一(建築学科・教授)	研究室等所在	2号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 安藤 淳一)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

インテリアデザインは、建築の専門科目のなかでも、自分の生活からみて身近な対象である。自分の部屋の設えはその基本であるからだ。しかし、その見聞には限界がある。学生はインテリアデザインに関する知識を豊富に習得すること、また人間の生活行動やそれぞれの機能、人それぞれの身体状況に対してどのような計画が必要かを認識し理解することを習得する。

授業の位置づけ

建築学科のDP(2)(5)に対応する。

到達目標

一にセンスアップ、二にセンスアップ、三に優しい心を育むことができる。

授業全体の内容と概要

実務と現物に触れることによって、インテリアデザインの現状を把握する。また、内部空間、野外家具(ストリートファニチャー)、店舗ファサードなどについて解説する。それらの空間計画と思想を学ぶと共に、実際の製作を通して発想とプレゼンテーションのトレーニングを行う。

授業の方法

前半は、講義によるインテリアデザインの計画的側面を中心にPPを用いて解説をおこなう。受講時に授業ノート(演習1)をとり授業終了後提出、演習2は自宅学習課題として次週の開始時に提出し、コメントを記したものを後日返却する。後半は、インテリア関係メーカーのショールームの見学(フィールドワーク)を行い、商品や実作に触れインテリアデザインの実態を体験し、そこから得た知見をレポートとしてまとめる。レポート提出後、講評を記述して返却する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

出席して、講義を聴かなければ意味がない。旅行、外出の際は、スケール・カメラまたはクローキープックを所持し、参考になるものを記録する。ショールームなどの視察と調査後は、各自のテーマについての研修事項をレポートとして提出する。作品は模型による提出とする。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する可能性がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

原則毎回出席すること(最低出席回数10回以上)、授業内で行う演習評価点(平常点 授業成果)と見学会レポートが単位認定(成績評価)の過半を占めるので、授業欠席や演習未提出は不合格に直結する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	40%	15%	0%	45%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ショールームの見学を通じ本物を見て触ってみることで見学から多くの示唆を受けたことが判断できた。	レポートがすべて提出され見学から多くの示唆を受けたことが判断できた。	レポートがすべて提出され見学から示唆を受けたことが判断できた。	レポートがすべて提出され見学からおおた示唆を受けたことが判断できた。	レポートがすべて提出できた。	見学に不参加またはレポートが提出できなかった。
インテリアデザインに関する知識を豊富に習得する。	対象インテリアとそれ以外の視点からグローバルに捉えた成果が演習から確認できた。	インテリアを複数の視点で捉えたことが作成された演習から確認できた。	インテリアをひとつのテーマや視点で捉えた演習を作成できた。	演習を作成し提出できた。	演習が提出されなかったため、知識を修得したことが確認することができなかった。
人間の生活行動やそれぞれの機能、人それぞれの身体状況に対してどのような計画が必要かを認識し理解する。	十分に条件を理解し優れた表現の課題を作成することができた。	条件を理解し優れた表現の課題を作成することができた。	条件を理解した課題を作成することができた。	条件理解に多少の問題があるが課題を作成することができた。	課題を作成することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	インテリアデザイン (科目ナンバリング: SWS123223, HLS322051)				
授業担当者(所属・職名)	安藤 淳一 (建築学科・教授)	研究室等所在	2号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 安藤 淳一)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明、インテリアデザインで学ぶこと	シラバス事前確認(90分)	授業内容の確認(90分)
2	人間工学 家具への応用	予習(教科書確認)(90分)	演習2作成(90分)
3	人間工学 行動・動作	予習(教科書確認)(90分)	演習2作成(90分)
4	光と色	予習(教科書確認)(90分)	演習2作成(90分)
5	内装材・塗装	予習(教科書確認)(90分)	演習2作成(90分)
6	構法と納まり	予習(教科書確認)(90分)	演習2作成(90分)
7	家具デザイン	予習(教科書確認)(90分)	演習2作成(90分)
8	建具・金物	予習(教科書確認)(90分)	演習2作成(90分)
9	ショールーム見学会の説明と模型課題出題	予習(教科書確認)(90分)	模型作成(90分)
10	見学会1 家具メーカー ショールーム	見学場所と道具の確認(90分)	レポート作成(90分)
11	見学会2 テキスタイルメーカー ショールーム	見学場所と道具の確認(90分)	レポート作成(90分)
12	見学会3 住宅総合メーカー ショールーム	見学場所と道具の確認(90分)	レポート作成(90分)
13	見学会4 家具卸会社 ショールーム	見学場所と道具の確認(90分)	レポート作成(90分)
14	見学会5 住宅設備メーカー 工場	見学場所と道具の確認(90分)	レポート作成(90分)
15	模型課題 提出・発表	発表準備(90分)	発表内容の振り返り(90分)
16	総評(提出課題・レポートの確認と講評) 授業改善アンケートの実施	提出作品の最終確認(90分)	総評の振り返り(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・4年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	産業社会論 (科目ナンバリング: SOC422043, SOC522042)				
授業担当者(所属・職名)	山本 一彦(経営学科・特任教授)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者: 山本 一彦)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示板等を参照				

概要

履修目標
------

近代産業社会はどのように成り立ってきたのか、その構造と特質はどのようなものか、また、現代の産業社会の変化について学習する。

授業の位置づけ

経営学科のDP(2)(3)に対応する。

到達目標

産業社会に関する理論や実態について単に知識を習得するだけでなく、高度産業化の過程をわれわれの日常生活との多面的な関わりでとらえ、批判的に考察する姿勢を持てるようになることが目標となる。

授業全体の内容と概要

まず、産業革命によって近代産業社会が生み出されたこと、近代化と産業化の関係と矛盾などについて学ぶ。次に、産業化は社会をどのように変えたかを理解し、20世紀半ば以降の第三世界の産業化にも触れる。そして、現代の産業社会の変化はわれわれの生活に何をもちたらしめているかを探り、新しい生産世界について展望し、考察する。

授業の方法

授業は現代のさまざまな事例を素材としながら講義形式で行ない、必要な場合には資料を配布する。単元・項目によっては受講者の見解を知るための小文を提出してもらい、授業で概要を発表してフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	○	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習		反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	○	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

さまざまなテーマについて自ら考える「主体的・能動的」な姿勢での受講を求める。本試験・追再試験結果が保留の場合、レポート課題の提出が必要。再試験合格の場合、評価はCとする。尚、不測の事態の際はオンラインで実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は11回

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
90%	0%	0%	0%	0%	10%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識	定期試験における基礎事項該当部分で90%以上の正答があった。	同部分で80%以上90%未満の正答であった。	同部分で70%以上80%未満の正答であった。	同部分で60%以上70%未満の正答であった。	同部分の正答が60%に満たなかった。
思考力・判断力等	脱工業化概念を軸にして、現代産業社会の構造的特質を十分に考察できていた。	左記の事項について概ね考察できていた。	左記の事項について広く一般的水準の考察に達していた。	左記の事項についての考察が最低限の水準に留まっていた。	考察が最低限の水準に届かず、授業内容が理解されていなかった。
高度産業社会への分析力・主体性等	近代産業社会が脱工業化社会・脱産業社会へ変化してきたことに伴うさまざまな社会的問題への十分な主体的分析ができていた。	左記の事項について概ね考察できていた。	左記の事項について広く一般的水準の考察に達していた。	左記の事項についての考察が最低限の水準に留まっていた。	考察が最低限の水準に届かず、授業内容が理解されていなかった。



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・4年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	産業社会論 (科目ナンバリング: SOC422043, SOC522042)				
授業担当者(所属・職名)	山本 一彦(経営学科・特任教授)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者: 山本 一彦)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	科目ガイダンス…全体概要、目的とねらい、履修上の注意、評価方法説明(シラバス説明を含む)、前年度授業アンケート結果概要説明	シラバス内容の事前確認(90分)	目的とねらいについての復習・確認(90分)
2	近代化と産業社会の成立…インダストリアリスの誕生	産業社会とは何かに関する事前考察(90分)	近代化における産業化・工業化についての復習・理解(90分)
3	産業社会の構造…基礎社会の衰耗、エンプロイ化、市場化	産業化・工業化が社会に何をもたらしたかの事前考察(90分)	産業化・工業化による社会変動についての復習・理解(90分)
4	高度産業社会への移行 1. 脱工業化社会の到来 (1) 産業構造・職業構造の変	現代産業社会の特質に関する事前考察(90分)	脱工業化・脱産業化の意味と趨勢についての復習・理解(90分)
5	高度産業社会への移行 1. 脱工業化社会の到来 (1) 産業構造・職業構造の変	現代の産業構造・職業構造の特質に関する事前考察(90分)	産業・職業の構造変化による働くことの変化についての復習・理解(90分)
6	高度産業社会への移行 1. 脱工業化社会の到来 (2) 知識集約化	高度産業化段階における知識集約化に関する事前考察(90分)	知識集約社会・知識基盤社会についての復習・理解(90分)
7	高度産業社会への移行 1. 脱工業化社会の到来 (3) 資本主義の文化的矛盾	現代産業社会の問題点についての事前考察(90分)	解決すべき問題の復習・確認(90分)
8	高度産業社会への移行 2. 生産の高度化と労働・職業の変容 (1) グローバリゼーションと産業	グローバリゼーションとはどのような過程かについての事前考察(90分)	グローバリゼーションによる産業・地域社会の変化についての復習・理解(90分)
9	高度産業社会への移行 2. 生産の高度化と労働・職業の変容 (2) 産業官僚制と日本の経営システム	近代社会の官僚制とは何かについての事前考察(90分)	近代組織が官僚制であることの復習・確認(90分)
10	高度産業社会への移行 2. 生産の高度化と労働・職業の変容 (2) 産業官僚制と日本の経営システム	産業活動における企業組織と官僚制に関する事前考察(90分)	産業官僚制とは何かについての復習・理解(90分)
11	高度産業社会への移行 2. 生産の高度化と労働・職業の変容 (2) 産業官僚制と日本の経営システム	日本的経営システムの特質についての事前考察(90分)	日本的経営システムの非官僚制的側面についての復習・理解(90分)
12	高度産業社会への移行 2. 生産の高度化と労働・職業の変容 (2) 産業官僚制と日本の経営システム	日本的経営システムが迫られている変化についての事前考察(90分)	日本的経営システムに対する評価の変遷と環境変化についての復習・理解(90分)
13	高度産業社会への移行 2. 生産の高度化と労働・職業の変容 (3) 就業者のネットワーク	日本的経営システムが迫られている変化についての事前考察(90分)	働く者の連帯とネットワークのあり方に関する復習・理解(90分)
14	新しい「生産世界」へ…産業主義を超えて	産業社会を超える社会のあり方についての事前考察(90分)	インダストリアリズムとは何であったかの復習・再確認・理解(90分)
15	総括と試験概要説明、授業アンケート実施	ノートの整理と重要事項のチェック(90分)	評価に関する確認・理解 試験対応のための復習・理解(90分)
16	試験および解説 60分の試験終了後、残りの30分で解説	試験対応準備(90分)	解説内容の確認・理解(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	社会学概論 (科目ナンバリング：SOC123135, )				
授業担当者(所属・職名)	松下 守邦(社会福祉学科・教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者：松下 守邦)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示板等を参照。 Teamsチーム(本科目)には、履修学生と授業者の履修相談について説明案内、連絡ツールを掲載する。				

概要

履修目標

授業の目的は、以下の2つに具体化されます。社会学の基礎を学修する。現代社会の特質、社会生活の変化、青年期の意義、自己形成、自己実現、職業生活、高等学校・学習指導要領、公民、公共の部分に対応する。社会学用語、思考を修得する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP(2)(4)(5)に対応する。

到達目標

社会学の基本になる学術用語の説明ができる。社会学応用領域における社会問題について、社会学の概念、理論の枠組みを用いることで課題を把握して考察ができる。社会学の概念について、専門辞書を読解することで定義と問題を説明ができる。

下記のルーブリック、評価基準(C)は、合格の最低レベル、到達目標である。上位の基準である、履修目標をめざしてベストをつくすこと。成績は、相対性と絶対性により評価される。

授業全体の内容と概要

「SDGs4 質の高い教育をみんなに」の関連科目。  
社会学の概念と理論的枠組みについて、社会化、社会集団、現代日本社会、教育社会学の基礎的概念を学ぶ。  
高校公民(現代社会)の基礎となる、社会学(現代日本社会の歴史社会学、学校教育の比較社会学)の文献精読(小熊英二：2019)、渡辺雅子(2004)をおこなう。

授業の方法

- 「授業の進行方法」：授業の初回にて、文献精読の方法、学生分担発表について説明をおこなう。
- 文献精読は三色線引き読み(齋藤孝『三色ボールペンで読む日本語』角川書店、2005)の技法をもとに、プレゼンテーション(分担発表)、文献読解(下記)、アクティブ・ラーニングの実施方法、その他)の授業構成になる。
- 「課題に関する説明-課題に対するフィードバック」：「要望等への対応方法」：授業中の個別報告、授業のまとめレポートなど課題や要望等の質問相談には、随時、対応する。授業中、あるいは研究室オフィスアワー利用により、気軽に相談してほしい。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

- 教職課程科目(中学社会・高校公民)必修。中学校、高校教員準備のための自立的学修、教材研究は「単に教えられたことを暗記しきだすのではなく、深い理解、深い学習」(松下佳代：2015)をおこなう。
- 教育実習前年度の科目であることから、中学校、高校の教員の行動モデル(時間管理、体調管理、仕事責任遂行力)測定する。
- 大学から交付される学生メールアドレスを使い、マイクロソフト社Teams科目チャネル、Formsを学修利用する。パソコンスキル(レポート作成、準備学修の確認、教員への授業外連絡など、情報通信機器利用マナー)を高めていく。
- 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。高校教育までの支援をふまえ、本人とメニュー調整をおこないながら科目サポートを進めるので、授業開始前に授業者へ相談してほしい。

資格指定科目

教職課程(社会・公民)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

- 単位認定のためには、全授業回数の3/2以上である。計11回以上の出席が必要になる。
- 文献読解(分担報告;本文、ソースノートの要旨をまとめる。新しい知見、学術用語について、例をあげて説明記述する)、プレゼンテーション(分担発表)をする。学修のまとめとしてレポート作成提出する。
- 分担割合は履修登録にもとづき調整をおこなう。小熊英二(2019)、渡辺雅子(2004)を、計2回以上の分担を基本にする。(個別報告、レポート作成提出を含む)
- 前年度は履修人数による課題内容、報告手順の調整をおこなった。テキストに各自が線を引き、書き込みながら読み込む「アクティブ・リーディング」実践確認のため、各自、テキスト作業後、提出準備をすすめる。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	40%	50%	0%	0%	10%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
テキスト資料により学修した知識を使い、収集した情報を分析し、理解することができる。情報分析力としての知識、技能	テキスト資料の要旨をていねいにまとめてあり、これまでの学修内容との関連を適切にふまえていた。新しく学ぶことについて、自分の言葉で例をあげながら、自分の言葉でていねいに説明をしていた。	テキスト資料の要旨をまとめてあり、これまでの学修内容のいくつかも関連づけていた。新しく学ぶことについて、自分の言葉で例をあげて説明をした。	テキスト資料の要旨をまとめてあり、新しく学ぶことについて、自分の言葉で説明をしていた。	テキスト資料の要旨は、改善の余地があるが、まとめている作業、新しく学ぶことについて、説明することが難しい。情報分析の知識、自分の言葉で説明することができた。	テキスト資料の要旨をまとめる作業、新しく学ぶことについて、説明することが難しい。情報分析の知識、自分の言葉で説明することができなかった。
文献資料の信頼性を保ちながら、学術概念を使って考察すること、客観的立場から社会的現象について論理的に分析表現をすることができる。思考力・判断力・表現力	課題に関連して、信頼性のある文献資料を複数選び、適切に引用した。新しく学ぶことは、これまでのものと関連づけて対比して、類似点や相違点をあげながら表現をした。	課題に関連して、信頼性のある文献資料を選び、適切な手続で引用した。新しく学ぶことは、これまでのものと関連づけて対比して、類似点や相違点をあげながら表現をした。	課題に関連して、信頼性のある文献資料を選び、引用した。新しく学ぶことは、これまでのものと関連づけて対比して、類似点や相違点をあげながら表現をした。	課題に関連して、改善の余地があるが、文献資料を適切に引用した。新しく学ぶことは、充分ではないが、これまでのものを関連づけて表現をおこなうことができた。	課題に関連して、文献資料を選び、引用すること、新しく学ぶことを表現することが難しく、思考力・判断力・表現力の修得はできなかった。
大学の学修環境を創造するメンバー(教職課程の教生)として自覚し、自分の意見と異なる意見を統合させながら、学修経験を高めることとする。関心・意欲・態度	大学生(教職課程の教生)としての役割と責任を自覚し、積極的、協同的に行動することができた。	大学生(教職課程の教生)として役割は、おおむね理解しており、行動することができた。	大学生(教職課程の教生)として自分の役割は、基本的な行動をすることができた。	大学生(教職課程の教生)として自分の役割は、改善の余地はあるが、行動することができた。	大学生(教職課程の教生)として自分の役割は、自らの理解して行動することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	社会学概論 (科目ナンバリング: SOC123135, )				
授業担当者(所属・職名)	松下 守邦(社会福祉学科・教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 松下 守邦)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『日本社会のしくみ』	小熊英二	講談社	2019	9784065154298	講談社現代新書2528
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『納得の構造』	渡辺雅子	東洋館	2004	9784491020211	
2	『社会学事典』	日本社会学会	丸善出版	2019	9784621082546	
3	『社会学用語図鑑』	田中正人/香月孝史	プレジデント社	2019	9784833423113	
4	『社会学文献辞典(縮刷版)』	見田宗介	弘文堂	2014	9784335551642	
5	『現代文解釈の基礎(新訂版)』	遠藤嘉基/渡辺実	筑摩書房	2021	9784480510730	

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバス、前年度本科目、授業改善アンケート結果の説明、履修学生状況をふまえ、報告役割分担の確認をおこなう。	シラバスを熟読する。(90分)	今回の学習内容を復習する。(90分)
2	文献精読 小熊英二(2019)；日本社会の三つの生き方	テキストを予習する。(90分)	今回の学習内容を復習する。(90分)
3	文献精読 小熊英二(2019)；日本の働き方、世界の働き方	テキストを予習する。(90分)	今回の学習内容を復習する。(90分)
4	文献精読 小熊英二(2019)；「日本型雇用」の起源	テキストを予習する。(90分)	今回の学習内容を復習する。(90分)
5	文献精読 小熊英二(2019)；慣行の形成	テキストを予習する。(90分)	今回の学習内容を復習する。(90分)
6	文献精読 小熊英二(2019)；民主化と「社員」の平等	テキストを予習する。(90分)	今回の学習内容を復習する。(90分)
7	文献精読 小熊英二(2019)；高度成長と「学歴」	テキストを予習する。(90分)	今回の学習内容を復習する。(90分)
8	文献精読 小熊英二(2019)；「一億総中流」から「新たな二重構造」へ	テキストを予習する。(90分)	今回の学習内容を復習する。(90分)
9	文献精読 小熊英二(2019)；「社会のしくみ」と「正義」のありか	テキストを予習する。(90分)	今回の学習内容を復習する。(90分)
10	文献精読 小熊英二(2019)と高校「現代社会」の比較	テキストを予習する。(90分)	今回の学習内容を復習する。(90分)
11	文献精読 渡辺雅子(2004)；学校教育の比較 社会論(作文、歴史1-2)を精読する。	配布資料を読んで予習する。(90分)	今回の学習内容を復習する。(90分)
12	文献精読 渡辺雅子(2004)；学校教育の比較 社会論(作文、歴史1-2)を精読します。	配布資料を読んで予習する。(90分)	今回の学習内容を復習する。(90分)
13	文献精読 渡辺雅子(2004)；学校教育の比較 社会論(作文、歴史3-4)を精読する。	配布資料を読んで予習する。(90分)	今回の学習内容を復習する。(90分)
14	文献精読 渡辺雅子(2004)；学校教育の比較 社会論(作文、歴史5)を精読する。	配布資料を読んで予習する。(90分)	今回の学習内容を復習する。(90分)
15	文献精読 渡辺雅子(2004)；学校教育の比較 社会論(作文、歴史6-7)を精読する。	配布資料を読んで予習する。(90分)	今回の学習内容を復習する。(90分)
16	社会学の基礎的理解、現代日本社会、日本の学校教育について総括する。授業改善アンケートの実施	これまでのテキスト、資料、視覚教材の学習内容を整理する。(90分)	全授業を振り返り、学習内容の内省的レポートを期日までに提出する。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	
科目名称	アクションプログラム (科目ナンバリング: IRE323076)				
授業担当者(所属・職名)		研究室等所在			
単位数	1 (単位認定責任者: )	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー					

概要

履修目標

--

授業の位置づけ

--

到達目標

--

授業全体の内容と概要

--

授業の方法

--

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

--

修学サポート(合理的配慮)

--

資格指定科目

--

評価方法・基準

評価前提条件

--

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	
科目名称	アクションプログラム (科目ナンバリング: IRE323076)				
授業担当者(所属・職名)		研究室等所在			
単位数	1 (単位認定責任者: )	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	教職課程必修
科目名称	工芸科教育法 (科目ナンバリング: ESS243095)				
授業担当者(所属・職名)	三上 いずみ(デザイン学科・准教授)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者: 三上 いずみ)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	高等学校教諭専修免許状(芸術)を有し、公立高等学校で教員経験がある教員が、その経験を元に工芸科教育法について授業を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

<b>履修目標</b>												
工芸科教育の意味と目的を理解し、教員に必要な資質を身につける。												
<b>授業の位置づけ</b>												
デザイン学科のDP(1)(3)(5)に対応する。												
<b>到達目標</b>												
工芸科教育の意味と目的を考え、教員として最低限の知識と技能を身につける。												
<b>授業全体の内容と概要</b>												
工芸教育の基礎知識と技術、学習指導要領の内容、授業計画、教材研究、指導方法、評価方法を学び、模擬授業の準備を行う。授業全体を通して、情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができるよう、具体的な指導を行う。 *SDGs4「質の高い教育をみんなに」の関連科目。												
<b>授業の方法</b>												
学習指導要領解説を用いて行い、学習内容はパワーポイントやプリント資料で説明する。主体的で対話的な学びを目指し、グループ学習・ディスカッション・発表などを行う。												
<b>アクティブラーニングの実施方法</b>												
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL									
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業									
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)									
<b>履修上の注意事項</b>												
教育について興味・関心を持ち、教員としての心構えを身につけ、行動すること。 課題は期日までに提出すること。 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。												

<b>修学サポート(合理的配慮)</b>
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
<b>資格指定科目</b>
教職課程(美術・工芸)必修科目

評価方法・基準

<b>評価前提条件</b>												
単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。												
<b>評価方法</b>												
<table border="1"> <thead> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0%</td> <td>40%</td> <td>20%</td> <td>0%</td> <td>40%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	40%	20%	0%	40%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	40%	20%	0%	40%	0%							

<b>ルーブリック</b>																													
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>知識・理解</td> <td>工芸科教育の意味と目的を理解し、問題点や目指すことを述べる事ができた。</td> <td>工芸科教育の意味と目的を理解し、問題点を考えることができた。</td> <td>工芸科教育の意味と目的を理解できた。</td> <td>工芸科教育の意味と目的を考えることができた。</td> <td>学習指導要領の要点をまとめることができなかった。</td> </tr> <tr> <td>思考力・判断力・表現力</td> <td>課題を多面的に捉え、自分の意見を論理的に述べ、問題に対応することができた。</td> <td>課題を多面的に捉え、自分の意見を論理的に述べることができた。</td> <td>課題を捉え、自分の意見を述べることができた。</td> <td>自分の意見を述べる事ができた。</td> <td>意見を述べる事ができない。</td> </tr> <tr> <td>関心・意欲・態度</td> <td>責任や自覚を持ち、積極的に知識を身につけ、役立てて、考察することができた。</td> <td>責任や自覚を持ち、積極的に知識を身につけ、役立てることができた。</td> <td>責任や自覚を持ち、知識を身につけ、役立てることができた。</td> <td>責任や自覚を持ち、知識を身につけることができた。</td> <td>責任や自覚を持ち、知識を身につけることができなかった。</td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	知識・理解	工芸科教育の意味と目的を理解し、問題点や目指すことを述べる事ができた。	工芸科教育の意味と目的を理解し、問題点を考えることができた。	工芸科教育の意味と目的を理解できた。	工芸科教育の意味と目的を考えることができた。	学習指導要領の要点をまとめることができなかった。	思考力・判断力・表現力	課題を多面的に捉え、自分の意見を論理的に述べ、問題に対応することができた。	課題を多面的に捉え、自分の意見を論理的に述べることができた。	課題を捉え、自分の意見を述べることができた。	自分の意見を述べる事ができた。	意見を述べる事ができない。	関心・意欲・態度	責任や自覚を持ち、積極的に知識を身につけ、役立てて、考察することができた。	責任や自覚を持ち、積極的に知識を身につけ、役立てることができた。	責任や自覚を持ち、知識を身につけ、役立てることができた。	責任や自覚を持ち、知識を身につけることができた。	責任や自覚を持ち、知識を身につけることができなかった。
評価項目		評価基準																											
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
知識・理解	工芸科教育の意味と目的を理解し、問題点や目指すことを述べる事ができた。	工芸科教育の意味と目的を理解し、問題点を考えることができた。	工芸科教育の意味と目的を理解できた。	工芸科教育の意味と目的を考えることができた。	学習指導要領の要点をまとめることができなかった。																								
思考力・判断力・表現力	課題を多面的に捉え、自分の意見を論理的に述べ、問題に対応することができた。	課題を多面的に捉え、自分の意見を論理的に述べることができた。	課題を捉え、自分の意見を述べることができた。	自分の意見を述べる事ができた。	意見を述べる事ができない。																								
関心・意欲・態度	責任や自覚を持ち、積極的に知識を身につけ、役立てて、考察することができた。	責任や自覚を持ち、積極的に知識を身につけ、役立てることができた。	責任や自覚を持ち、知識を身につけ、役立てることができた。	責任や自覚を持ち、知識を身につけることができた。	責任や自覚を持ち、知識を身につけることができなかった。																								

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	教職課程必修
科目名称	工芸科教育法 (科目ナンバリング: ESS243095)				
授業担当者(所属・職名)	三上 いずみ(デザイン学科・准教授)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者: 三上 いずみ)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	高等学校教諭専修免許状(芸術)を有し、公立高等学校で教員経験がある教員が、その経験を元に工芸科教育法について授業を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『工芸の教育』	大坪圭輔	武蔵野美術大学出版局	2017	9784864630580	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『中学校学習指導要領解説 美術編』	文部科学省	日本文教出版大版	2018	9784536590136	
2	『高等学校学習指導要領解説 芸術(音楽・美術・工芸・書道)編・音楽編・美術編』	文部科学省	教育図書	2019	9784877304201	
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 「工芸とは何か」学校教育の中の「用と美」	シラバスをよく読んでおくこと(90分)	授業内容を復習する(90分)
2	工芸教育の歴史と背景 アーツアンドクラフツ運動とバウハウスを中心とした世界の事情	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語等の事前学習(90分)	授業内容を復習する(90分)
3	工芸教育の歴史と背景 民芸運動と近・現代工芸を中心とした日本の事情	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語等の事前学習(90分)	授業内容を復習する(90分)
4	中学校学習指導要領解説美術編 「美術科の目標と内容」におけるデザイン、工芸の学習について	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語等の事前学習(90分)	授業内容を復習する(90分)
5	中学校学習指導要領解説美術編 「各学年の目標及び内容」におけるデザイン、工芸の学習について	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語等の事前学習(90分)	授業内容を復習する(90分)
6	中学校学習指導要領解説美術編 「指導計画の作成と内容の取り扱い」及び映像メディアの活用について	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語等の事前学習(90分)	授業内容を復習する(90分)
7	高等学校学習指導要領解説芸術編「工芸」の性格、目標、内容、内容の取り扱いについて	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語等の事前学習(90分)	授業内容を復習する(90分)
8	教材研究 1	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語等の事前学習(90分)	授業内容を復習する(90分)
9	教材研究 2	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語等の事前学習(90分)	授業内容を復習する(90分)
10	教材研究 3	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語等の事前学習(90分)	授業内容を復習する(90分)
11	教材研究 4	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語等の事前学習(90分)	授業内容を復習する(90分)
12	学習指導案の作成 1	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語等の事前学習(90分)	授業内容を復習する(90分)
13	学習指導案の作成 2	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語等の事前学習(90分)	授業内容を復習する(90分)
14	模擬授業	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語等の事前学習(90分)	授業内容を復習する(90分)
15	指導案作成の振り返り	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語等の事前学習(90分)	授業内容を復習する(90分)
16	課題・レポートの解説 授業改善アンケートの実施	講義全体をふりかえりまとめを行うこと(90分)	フィードバックの内容を受けて、講義全体のふりかえりを行うこと(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	東洋・日本美術史 (科目ナンバリング: FAH221080)				
授業担当者(所属・職名)	苫名 真(デザイン学科・非常勤講師)	研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 苫名 真)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	美術館における勤務経験を活かして美術史に関する諸事項を講義する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。				

概要

履修目標

日本美術史の大きな流れを概観するとともに、代表的な作品を深く考察することにより、日本美術を見る力を身に付ける。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP (1) (2) (5) に対応する。

到達目標

1. 技法や表現、様式など日本美術に関する基礎的な知識を習得する。
2. 日本美術の展開を俯瞰的な視点で把握する。
3. 初めて目にする作品に対しても美術史上の位置付けを行うことができる。

授業全体の内容と概要

縄文時代から昭和戦後までの日本美術の流れを代表的な作品を通してたどる。

授業の方法

受講生は各回の授業で扱う時代の代表的作品一点について事前に感想を書き、授業の冒頭に一人ずつ発表する。その上で講師がパワーポイントを使って各時代の美術について講義する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

毎回の感想発表と受講姿勢の平常点を重視し、レポートも合わせて評価する。授業の冒頭で各自発表してもらったので遅刻しないこと。不測の事が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程 高・美術 必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は10回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	20%	0%	0%	80%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
授業への取り組み	きわめて意欲的に授業に参加する姿勢が見られた。	真摯な姿勢で授業に参加する姿勢が見られた。	授業には参加していたが積極的な姿勢はあまり見られなかった。	授業には参加していたがほとんど意欲が感じられなかった。	ほとんど授業に参加しなかった。
毎回の事前準備	きわめて意欲的に事前の準備を行っていた。	真摯な姿勢で事前の準備を行っていた。	事前の準備は行っていたが十分ではなかった。	事前準備をしないことが何度あった。	事前準備をほとんどしてこなかった。
知識の習得	きわめて意欲的に十分な知識を習得した。	真摯な姿勢で必要な知識を習得した。	重要項目の知識は概ね習得した。	必要最低限の知識は習得した。	必要最低限の知識を習得できなかった。
レポート	きわめて意欲的に十分な資料調査を行い、自分の考えも的確に表現できていた。	真摯な姿勢で必要な資料調査を行い、自分の考えも表現していた。	十分ではあるが資料調査を行い、ある程度自分の考えを表現していた。	最低限の資料調査を行い、多少は自分の考えを表現していた。	調査をほとんど行わず、自分の考えも表現できていなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	東洋・日本美術史 (科目ナンバリング: FAH221080)				
授業担当者(所属・職名)	苫名 真(デザイン学科・非常勤講師)	研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 苫名 真)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	美術館における勤務経験を活かして美術史に関する諸事項を講義する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『日本美術史』a	山下裕二・高岸輝	美術出版社	2014	978-4568389074	
2	『日本美術の歴史』	辻惟雄	東京大学出版会	2021	978-4130820868	
3	『教養の日本美術史』	吉田亮	ミネルヴァ書房	2019	978-4623085156	
4	『日本美術史ハンドブック』a	辻惟雄・泉武夫	新書館	2009	978-4403250989	
5	『日本美術館』a		小学館	1997	978-4096997017	

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明、縄文・弥生時代の美術	シラバスを読む。(90分)	配付資料を復習する。(90分)
2	古墳・飛鳥・白鳳時代の美術	課題作品を画像で鑑賞し、事前に感想をまとめておく。(90分)	配付資料を復習する。(90分)
3	奈良時代の美術(天平美術)	課題作品を画像で鑑賞し、事前に感想をまとめておく。(90分)	配付資料を復習する。(90分)
4	平安時代前期の美術(貞観美術)	課題作品を画像で鑑賞し、事前に感想をまとめておく。(90分)	配付資料を復習する。(90分)
5	平安時代中期の美術(藤原美術)	課題作品を画像で鑑賞し、事前に感想をまとめておく。(90分)	配付資料を復習する。(90分)
6	平安時代後期の美術(院政期美術)	課題作品を画像で鑑賞し、事前に感想をまとめておく。(90分)	配付資料を復習する。(90分)
7	鎌倉時代の美術	課題作品を画像で鑑賞し、事前に感想をまとめておく。(90分)	配付資料を復習する。(90分)
8	南北朝・室町時代の美術	課題作品を画像で鑑賞し、事前に感想をまとめておく。(90分)	配付資料を復習する。(90分)
9	桃山時代の美術	課題作品を画像で鑑賞し、事前に感想をまとめておく。(90分)	配付資料を復習する。(90分)
10	江戸時代前期の美術	課題作品を画像で鑑賞し、事前に感想をまとめておく。(90分)	配付資料を復習する。(90分)
11	江戸時代中期の美術	課題作品を画像で鑑賞し、事前に感想をまとめておく。(90分)	配付資料を復習する。(90分)
12	江戸時代後期の美術	課題作品を画像で鑑賞し、事前に感想をまとめておく。(90分)	配付資料を復習する。(90分)
13	明治・大正・昭和戦前期の美術	課題作品を画像で鑑賞し、事前に感想をまとめておく。(90分)	配付資料を復習する。(90分)
14	昭和戦後期の美術	課題作品を画像で鑑賞し、事前に感想をまとめておく。(90分)	配付資料を復習する。(90分)
15	レポートの発表とフィードバック	レポートを準備する。(90分)	授業内容を復習する。(90分)
16	レポートの発表とフィードバック 授業改善アンケート実施	レポートを準備する。(90分)	授業内容を復習する。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	医学概論 (科目ナンバリング: BAM112008/2023年度以降BAM122008)				
授業担当者(所属・職名)	宮崎 剛司(社会福祉学科・講師)	研究室等所在	1号館2階常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 宮崎 剛司)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	看護実践と看護教育の実務経験を踏まえ、人の成長過程と体のしくみ、その破綻(病氣・障がいなど)の考え方を生活と関連させ学びます。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整または研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

人の体の成り立ちやしくみ、さまざまな疾病について、人の成長過程における老化や日常生活との関係を踏まえて理解を深める。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP「1(1)と(2)と(4)と(5)」、「2(1)と(2)と(3)と(4)」に対応する。

到達目標

社会福祉職に求められる人の成長・発達過程を理解し、人体の機能・構造と病的状態を関連させて説明できる。

授業全体の内容と概要

人体の構造と生理機能を関連させて学習し、正常と病的状態を比較しながら代表的な疾患や障害について理解する。特に将来致命的となる疾患や注目されている疾患については予防対策も含めて講義を行ない、福祉に必要な知識を身につける。また、ICFの基本的な考え方やリハビリテーションの概念についても学習する。

授業の方法

講義形式。テキストの活用を中心とし、板書や配布資料を適宜使い解説を行う。また、確認のため小試験を課題とし、添削後、返却し解答・解説を行いフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

遅刻しないこと。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

社会福祉士国家試験受験資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は11回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	0%	0%	20%	10%	10%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
人の成長・発達過程や体の成り立ち・しくみの理解	人の成長・発達過程や体の成り立ち・しくみについて非常に理解できた。	人の成長・発達過程や体の成り立ち・しくみについて概ね理解できた。	人の成長・発達過程、人体について部分的に理解できた。	人の成長・発達、人体について助言により部分的に理解できた。	助言しても理解できなかった。
各疾病、障がいの概要	各疾病・障がいの概要を人体の機能・構造と関連させて詳しく説明できた。	各疾病・障がいの概要を人体の機能・構造と関連させて概ね説明できた。	各疾病・障がいの概要、人体の機能・構造を部分的に説明できた。	各疾病、障がいの概要を助言により説明できた。	助言しても説明できなかった。
疾病予防や健康のとらえ方、ICFの基本的考え方	疾病予防や健康のとらえ方、ICFの基本的考え方を詳細に説明できた。	疾病予防や健康のとらえ方、ICFの基本的考え方を概ね説明できた。	疾病予防や健康のとらえ方、ICFについて部分的に説明できた。	疾病予防や健康のとらえ方、ICFの基本的考え方を助言により説明できた。	助言しても説明できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	医学概論 (科目ナンバリング: BAM112008/2023年度以降BAM122008)				
授業担当者(所属・職名)	宮崎 剛司(社会福祉学科・講師)	研究室等所在	1号館2階常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 宮崎 剛司)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 看護実践と看護教育の実務経験を踏まえ、人の成長過程と体のしくみ、その破綻(病氣・障がいなど)の考え方を生活と関連させ学びます。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『最新社会福祉士養成講座1 医学概論』	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規	2021	978-4-8058-8231-3	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 医学と福祉について	事前に教科書全体に目を通しておく(90分)	当日の授業で行ったことをまとめておく(90分)
2	ライフステージにおける心身の変化と健康課題	教科書の第一章について事前に読んでおく(90分)	当日の授業で行ったことをまとめておく(90分)
3	ライフステージにおける心身の変化と健康課題	教科書の第一章について事前に読んでおく(90分)	当日の授業で行ったことをまとめておく(90分)
4	ライフステージにおける心身の変化と健康課題	教科書の第一章について事前に読んでおく(90分)	配布資料と理解しておく(90分)
5	身体構造と心身機能	教科書の第三章について事前に読んでおく(90分)	当日の授業で行ったことをまとめておく(90分)
6	身体構造と心身機能	教科書の第四章について事前に読んでおく(90分)	当日の授業で行ったことをまとめておく(90分)
7	身体構造と心身機能	教科書の第五章について事前に読んでおく(90分)	当日の授業で行ったことをまとめておく(90分)
8	前半のまとめと学習到達度の確認テスト	前半の授業・資料・ノートを見直しテストに臨むこと(90分)	問題を見直し自己採点しておく(90分)
9	疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション	教科書の第六章について事前に読んでおく(90分)	当日の授業で行ったことをまとめておく(90分)
10	疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション	教科書の第六章について事前に読んでおく(90分)	配布資料と理解しておく(90分)
11	疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション	教科書の第六章について事前に読んでおく(90分)	当日の授業で行ったことをまとめておく(90分)
12	健康および疾病の捉え方	教科書の第六章について事前に読んでおく(90分)	当日の授業で行ったことをまとめておく(90分)
13	健康および疾病の捉え方	教科書の第二章について事前に読んでおく(90分)	当日の授業で行ったことをまとめておく(90分)
14	公衆衛生	教科書の第七章について事前に読んでおく(90分)	当日の授業で行ったことをまとめておく(90分)
15	総括と今後の課題 授業改善アンケート実施	これまで授業で行ったことを振り返り準備しておく(90分)	医療と福祉の課題に今後取り組んでいく(90分)
16	定期試験60分後終了後、残り30分間で解説する。	講義を通して質問事項をまとめておくこと(90分)	試験及び解説を受けて講義全体の理解を深めること(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・4年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	<b>カウンセリング論 (M)</b> (科目ナンバリング: CLP123062, CLP423081, CLP523088)				
授業担当者(所属・職名)	蝦名 美穂 (社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	未定		
単位数	2 (単位認定責任者: 蝦名 美穂)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	臨床心理士・公認心理師の資格を持ち、教育領域、福祉領域、司法・矯正領域、産業領域での臨床経験を踏まえて講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

「カウンセリング」とは何かについて基礎理論、技法などを中心に解説を行う。その上で、ロールプレイを通して日常行われている「友人同士の相談」と「カウンセリング」の違いについて体験し、理解を深めていく。この授業を通して、各個人が自己理解を深めるきっかけとなることを期待する。

授業の位置づけ

経済学部DPの(2)、(4)に対応

到達目標

カウンセリングのなりたち、基礎理論、技法について理解する。  
の難しさについて体験する。 ロールプレイを通して、人の話を聴くこと

授業全体の内容と概要

カウンセリングとは何かについて、これまでの歴史、基本的な原理や理論、技法について解説する。講義の後半では、ロールプレイの中、学びを深める。

授業の方法

授業では、教科書や配布資料等を使いながら、カウンセリングの技法を学んでいく(グループワーク、ロールプレイ、ディスカッション含む)。  
授業の終わりに質問や感想(リアクションシート)を提出する。質問は随時受け付ける。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

授業の進行を妨害するような行為、他の受講者の迷惑となる行為を慎む。  
不測の事態が起きた際にはオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は星槎道都大学学生便覧に準ずる。  
レポート、授業態度等、授業の終わりに提出する感想等(リアクションシート)を評価の対象とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	50%	0%	0%	40%	10%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解	授業で学んだ内容を理解し、カウンセリングの応答技法をスムーズに使うことができた。	授業で学んだ内容を理解し、カウンセリングの応答技法を概ね使うことができた。	授業で学んだ内容を理解し、カウンセリングの応答技法を一定程度使うことができた。	授業で学んだ内容を理解し、カウンセリングの応答技法を部分的に使うことができた。	授業で学んだ内容を理解し、カウンセリングの応答技法を部分的にも使うことができなかった。
知識の応用	カウンセリングの基本を踏まえて、やり取りの中で起こっていることについて気づき、言葉にすることができた。	カウンセリングの基本を踏まえて、やり取りの中で起こっていることの意味について気がつくことでできた。	カウンセリングの基本を踏まえて、やり取りの中で起こっていることに気がつくことができた。	カウンセリングの基本を踏まえて、やり取りの中で起こっていることに部分的に気がつくことができた。	カウンセリングの基本を踏まえて、やり取りの中で起こっていることに全く気がつくことができなかった。
授業に主体的に取り組む態度(リアクションシート含む)	授業内容に関心をもち、自身の授業態度について客観的に振り返ることができた。且つ、授業内容を振り返る感想だけでなく、疑問点を明確にすることができ、自分なりの考えを述べられた。	授業内容に関心をもち、自身の授業態度について客観的に振り返ることができた。且つ、授業内容を振り返る感想を述べ、疑問点を明確にすることができた。	授業内容に関心をもち、自身の授業態度について客観的に振り返ることができた。且つ、授業内容を振り返る感想を述べられた。	授業内容を振り返り感想を述べられた。	左記の内容が何一つすることができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・4年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	<b>カウンセリング論 (M)</b> (科目ナンバリング: CLP123062, CLP423081, CLP523088)				
授業担当者(所属・職名)	蝦名 美穂 (社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	未定		
単位数	2 (単位認定責任者: 蝦名 美穂)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	臨床心理士・公認心理師の資格を持ち、教育領域、福祉領域、司法・矯正領域、産業領域での臨床経験を踏まえて講義を行う。		

教科書・参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『やさしく学ぶカウンセリング26にレッスン』	長尾 博	金子書房	2008	978-4-7608-3609-3	
2						
3						
4						
5						

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『新・カウンセリングの話』	平木典子	朝日新聞出版	2020	978-4-02-263099-5	
2						
3						
4						
5						

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバスの説明 カウンセリング	カウンセリングについて調べる (90分)	授業で学ぶ内容について振り返る (90分)
2	カウンセリングの諸理論	教科書を事前に読んでおくこと (90分)	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する (90分)
3	カウンセリングの諸理論	教科書を事前に読んでおくこと (90分)	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する (90分)
4	カウンセリングを始める前に、セッティング、守秘義務など	教科書を事前に読んでおくこと (90分)	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する (90分)
5	カウンセリングの中での話を「きく」とは?	教科書を事前に読んでおくこと (90分)	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する (90分)
6	カウンセリングの中での「話す」とは?	教科書を事前に読んでおくこと (90分)	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する (90分)
7	信頼関係 (ラポール) 形成について	教科書を事前に読んでおくこと (90分)	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する (90分)
8	応答技法について	教科書を事前に読んでおくこと (90分)	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する (90分)
9	カウンセリングの限界について	教科書を事前に読んでおくこと (90分)	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する (90分)
10	ロールプレイ	教科書を事前に読んでおくこと (90分)	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する (90分)
11	ロールプレイ	教科書を事前に読んでおくこと (90分)	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する (90分)
12	ロールプレイ	教科書を事前に読んでおくこと (90分)	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する (90分)
13	ロールプレイ	教科書を事前に読んでおくこと (90分)	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する (90分)
14	ロールプレイ	教科書を事前に読んでおくこと (90分)	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する (90分)
15	エンカウンターグループを体験する	教科書を事前に読んでおくこと (90分)	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する (90分)
16	レポート作成についての説明。質疑応答。授業改善アンケートの実施。	レポート作成についての準備・疑問点の整理 (90分)	レポート作成 (90分)

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	加(ン)セリ(ン)グ論(S) (科目ナンバリング: CLP123062, CLP423081, CLP523088)				
授業担当者(所属・職名)	蝦名 美穂(社会福祉学科・専任講師)		研究室等所在	未定	
単位数	2	(単位認定責任者: 蝦名 美穂)	CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	臨床心理士・公認心理師の資格を持ち、教育領域、福祉領域、司法・矯正領域、産業領域での臨床経験を踏まえて講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

「カウンセリング」とは何についてを基礎理論、技法などを中心に解説を行う。その上で、ロールプレイを通して日常行われている「友人同士の相談」と「カウンセリング」の違いについて体験し、理解を深めていく。この授業を通して、各個人が自己理解を深めるきっかけとなることを期待する。

授業の位置づけ

社会福祉学部のDP(1)、(2)、(3)、(4)、(5)に対応する

到達目標

カウンセリングのなりたち、基礎理論、技法について理解する。ロールプレイを通して、人の話を聴くことの難しさについて体験する。

授業全体の内容と概要

カウンセリングとは何かについて、これまでの歴史、基本的な原理や理論、技法について解説する。講義の後半では、ロールプレイの中、学びを深める。

授業の方法

授業では、教科書や配布資料等を使いながら、カウンセリングの技法を学んでいく(グループワーク、ロールプレイ、ディスカッション含む)。授業の終わりに質問や感想(リアクションシート)を提出する。質問は随時受け付ける。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

授業の進行を妨害するような行為、他の受講者の迷惑となる行為を慎む。不測の事態が起きた際にはオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は星槎道都大学学生便覧に準ずる。レポート、授業態度等、授業の終わりに提出する感想等(リアクションシート)を評価の対象とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	50%	0%	0%	40%	10%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解	授業で学んだ内容を理解し、カウンセリングの応答技法をスムーズに使うことができた。	授業で学んだ内容を理解し、カウンセリングの応答技法を概ね使うことができた。	授業で学んだ内容を理解し、カウンセリングの応答技法を一定程度使うことができた。	授業で学んだ内容を理解し、カウンセリングの応答技法を部分的に使うことができた。	授業で学んだ内容を理解し、カウンセリングの応答技法を部分的にも使うことができなかった。
知識の応用・実践	カウンセリングの基本を踏まえて、やり取りの中で起こっていることについて気づき、言葉にすることができた。	カウンセリングの基本を踏まえて、やり取りの中で起こっていることの意味について気がつくことでできた。	カウンセリングの基本を踏まえて、やり取りの中で起こっていることに気がつくことができた。	カウンセリングの基本を踏まえて、やり取りの中で起こっていることに部分的に気がつくことができた。	カウンセリングの基本を踏まえて、やり取りの中で起こっていることに全く気がつくことができなかった。
授業に主体的に取り組む態度(リアクションシート含む)	授業内容に関心をもち、自身の授業態度について客観的に振り返ることができた。且つ、授業内容を振り返る感想だけでなく、疑問点を明確にすることができ、自分なりの考えを述べられた。	授業内容に関心をもち、自身の授業態度について客観的に振り返ることができた。且つ、授業内容を振り返る感想を述べ、疑問点を明確にすることができた。	授業内容に関心をもち、自身の授業態度について客観的に振り返ることができた。且つ、授業内容を振り返る感想を述べられた。	授業内容を振り返り感想を述べられた。	左記の内容が何一つすることができなかった。





基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ソーシャルワークの基盤と専門 (科目ナンバリング: SWS111001, SWS421077, SWS521084)				
授業担当者(所属・職名)	櫻井 美帆子(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	1号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者: 櫻井 美帆子)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	現場での実務経験から得た事例を用いて、ソーシャルワークに関する理解を深めていく。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけについて理解する。  
 ソーシャルワークの基盤となる考え方とその形成過程について理解する。  
 ソーシャルワークの価値規範と倫理について理解する。

授業の位置づけ

経営学科のDP(2)(4)に対応する。

到達目標

社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけについて理解することができる。  
 ソーシャルワークの基盤となる考え方とその形成過程について理解することができる。  
 ソーシャルワークの価値規範と倫理について理解することができる。

授業全体の内容と概要

社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけについて学ぶ。  
 ソーシャルワークの基盤となる考え方とその形成過程について学ぶ。  
 ソーシャルワークの価値規範と倫理について学ぶ。  
 「SDG 3. すべての人に健康と福祉を」の関連授業

授業の方法

教科書に沿って講義形式で展開をする。講義の際に随時質問をするので答えること。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

30分以上の遅刻は欠席とする。  
 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

10回以上の出席が無ければ成績評価の対象としない。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
50%	0%	0%	20%	30%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけについて理解ができる。	法が設立した背景を含めて理解できる。	概要の要点を押さえて理解できる。	助言により理解できる。	助言があれば一部理解できる。	助言があっても理解できない。
ソーシャルワークの定義について理解できる。	事例をあげながら説明ができる。	要点を押さえて説明ができる。	助言により理解できる。	助言があれば一部理解できる。	助言があっても理解できない。
ソーシャルワークの形成過程について理解できる。	当時の社会情勢も含めて理解ができる。	概要の要点を押さえて理解できる。	助言により理解できる。	助言があれば一部理解できる。	助言があっても理解できない。
ソーシャルワークの価値と倫理について理解できる。	事例をあげながら説明ができる。	要点を押さえて説明ができる。	助言により理解できる。	助言があれば一部理解できる。	助言があっても理解できない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ソーシャルワークの基盤と専門 (科目ナンバリング: SWS111001, SWS421077, SWS521084)				
授業担当者(所属・職名)	櫻井 美帆子(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	1号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者: 櫻井 美帆子)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	現場での実務経験から得た事例を用いて、ソーシャルワークに関する理解を深めていく。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『最新社会福祉士養成講座精神保健福祉士養成講座11 ソーシャルワークの基盤と専門職』共編	日本ソ・シャルワ・ク教育学校	中央法規出版	2021年	9784805882412	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 ソーシャルワークとは何か	教科書の目次と関心のある部分に目を通す(90分)	ノートを整理する。(90分)
2	現代社会におけるソーシャルワークの意義 ソーシャルワーク実践の領域	今回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。(90分)	ノートを整理する。(90分)
3	ソーシャルワーカーと資格制度 ソーシャルワークの定義	今回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。(90分)	ノートを整理する。(90分)
4	ソーシャルワークの定義	今回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。(90分)	ノートを整理する。(90分)
5	ソーシャルワークの構成要素	今回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。(90分)	ノートを整理する。(90分)
6	ソーシャルワークの形成過程	今回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。(90分)	ノートを整理する。(90分)
7	ソーシャルワークの形成過程	今回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。(90分)	ノートを整理する。(90分)
8	中間テスト	1回から7回の復習をする。(90分)	試験の自己採点(90分)
9	ソーシャルワークの価値	今回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。(90分)	ノートを整理する。(90分)
10	ソーシャルワークの実践原理と原則	今回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。(90分)	ノートを整理する。(90分)
11	ソーシャルワークの倫理	今回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。(90分)	ノートを整理する。(90分)
12	ソーシャルワーカーの倫理的ジレンマ	今回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。(90分)	ノートを整理する。(90分)
13	ソーシャルワーク固有の視点と機能	今回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。(90分)	ノートを整理する。(90分)
14	社会福祉士・精神保健福祉士制度の現状と課題	今回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。(90分)	ノートを整理する。(90分)
15	まとめ	1回から14回までの授業内容の質問点をまとめる。(90分)	ノートを整理する。(90分)
16	定期試験(60分)、終了後、解説による試験のフィードバック(30分)を行う。授業改善アンケートの実施。	全体の復習。(90分)	試験で間違えた部分を復習する。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	ソーシャルワークの基盤と専門 (科目ナンバリング: SWS111001, SWS421077, SWS521084)				
授業担当者(所属・職名)	櫻井 美帆子(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	1号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者: 櫻井 美帆子)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	現場での実務経験から得た事例を用いて、ソーシャルワークに関する理解を深めていく。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけについて理解する。  
 ソーシャルワークの基盤となる考え方とその形成過程について理解する。  
 ソーシャルワークの価値規範と倫理について理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP(1)と(2)と(3)に対応する。

到達目標

社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけについて理解することができる。  
 ソーシャルワークの基盤となる考え方とその形成過程について理解することができる。  
 ソーシャルワークの価値規範と倫理について理解することができる。

授業全体の内容と概要

社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけについて学ぶ。  
 ソーシャルワークの基盤となる考え方とその形成過程について学ぶ。  
 ソーシャルワークの価値規範と倫理について学ぶ。  
 「SDG 3. すべての人に健康と福祉を」の関連授業

授業の方法

教科書に沿って講義形式で展開をする。講義の際に随時質問をするので答えること。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

30分以上の遅刻は欠席とする。  
 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

10回以上の出席が無ければ成績評価の対象としない。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
50%	0%	0%	20%	30%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけについて理解ができる。	法が設立した背景を含めて理解できる。	概要の要点を押さえて理解できる。	助言により理解できる。	助言があれば一部理解できる。	助言があっても理解できない。
ソーシャルワークの定義について理解できる。	事例をあげながら説明ができる。	要点を押さえて説明ができる。	助言により理解できる。	助言があれば一部理解できる。	助言があっても理解できない。
ソーシャルワークの形成過程について理解できる。	当時の社会情勢も含めて理解ができる。	概要の要点を押さえて理解できる。	助言により理解できる。	助言があれば一部理解できる。	助言があっても理解できない。
ソーシャルワークの価値と倫理について理解できる。	事例をあげながら説明ができる。	要点を押さえて説明ができる。	助言により理解できる。	助言があれば一部理解できる。	助言があっても理解できない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	ソーシャルワークの基盤と専門 (科目ナンバリング: SWS111001, SWS421077, SWS521084)				
授業担当者(所属・職名)	櫻井 美帆子(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	1号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者: 櫻井 美帆子)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	現場での実務経験から得た事例を用いて、ソーシャルワークに関する理解を深めていく。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『最新社会福祉士養成講座精神保健福祉士養成講座11 ソーシャルワークの基盤と専門職』共編	日本ソ・シャルワ・ク教育学校	中央法規出版	2021年	9784805882412	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 ソーシャルワークとは何か	教科書の目次と関心のある部分に目を通す(90分)	ノートを整理する。(90分)
2	現代社会におけるソーシャルワークの意義 ソーシャルワーク実践の領域	今回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。(90分)	ノートを整理する。(90分)
3	ソーシャルワーカーと資格制度 ソーシャルワークの定義	今回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。(90分)	ノートを整理する。(90分)
4	ソーシャルワークの定義	今回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。(90分)	ノートを整理する。(90分)
5	ソーシャルワークの構成要素	今回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。(90分)	ノートを整理する。(90分)
6	ソーシャルワークの形成過程	今回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。(90分)	ノートを整理する。(90分)
7	ソーシャルワークの形成過程	今回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。(90分)	ノートを整理する。(90分)
8	中間テスト	1回から7回の復習をする。(90分)	試験の自己採点(90分)
9	ソーシャルワークの価値	今回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。(90分)	ノートを整理する。(90分)
10	ソーシャルワークの実践原理と原則	今回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。(90分)	ノートを整理する。(90分)
11	ソーシャルワークの倫理	今回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。(90分)	ノートを整理する。(90分)
12	ソーシャルワーカーの倫理的ジレンマ	今回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。(90分)	ノートを整理する。(90分)
13	ソーシャルワーク固有の視点と機能	今回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。(90分)	ノートを整理する。(90分)
14	社会福祉士・精神保健福祉士制度の現状と課題	今回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。(90分)	ノートを整理する。(90分)
15	まとめ	1回から14回までの授業内容の質問点をまとめる。(90分)	ノートを整理する。(90分)
16	定期試験(60分)、終了後、解説による試験のフィードバック(30分)を行う。授業改善アンケートの実施。	全体の復習。(90分)	試験で間違えた部分を復習する。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	福祉サービスの組織と経 (科目ナンバリング: SWS112015, SWS422080, SWS522087/20 ) 23年度以降SWS122015				
授業担当者(所属・職名)	大島 康雄 (社会福祉学科・准教授)		研究室等所在	1号館2階	
単位数	2 (単位認定責任者: 大島 康雄)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	独立型社会福祉士事務所を営んでいる教員が準市場における、社会福祉士のビジネスモデルを提示していきます。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

福祉サービスでは組織論や経営論が必要になっている背景を理解する。将来、社会福祉領域で活躍する時に必要な知識であるため、組織論、リーダーシップ、経営論などを理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP(1)(2)(4)に対応する。

到達目標

リーダーシップ論、組織論、経営論など説明できる。  
福祉組織の課題を具体的に述べることができる。

授業全体の内容と概要

福祉サービスに係る種々の組織や団体について理解し、組織のマネジメントに関する基礎理論、多様な知識にもとづくマネジメント論の観点から経営戦略のあり方「SDGs 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業では教科書と板書を活用しながら知識を獲得していきます(プレゼンテーション・グループワーク・ディスカッション含む)。また、確認テストを時間内に実施し、フィードバックとして回収後、回答の解説を行う。ICT活用(双方向型授業・自主学習支援など、Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う)。

アクティブラーニングの実施方法

<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL
<input type="checkbox"/>	模範授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業
<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

社会福祉士国家試験受験資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は10回以上の出席が必要。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
50%	0%	0%	30%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
授業に参加し、教科書や板書、確認テストを受けている。	15回以上授業に参加し、積極的に学習をできた。	14回以上授業に参加し、積極的に学習をできた。	13回以上授業に参加し、積極的に学習をできた。	12~10回以上授業に参加し、積極的に学習ができた。	9回以下しか授業しておらず、消極的な学習しかできなかった。
確認テストの内容を理解し、定期試験の成績が60点以上である。	確認テストを受けて、定期試験の成績が100~90点獲得できた。	確認テストを受けて、定期試験の成績が89~80点以上獲得できた。	確認テストを受けて、定期試験の成績が79~70点以上獲得できた。	確認テストを受けて、定期試験の成績が69~60点以上獲得できた。	確認テストをある程度受け、定期試験の成績が59点以下しか取れなかった。
教科書、資料の内容を理解するため事前学習を行い、授業内で質問や自分の意見をプレゼンテーションする。	事前学習を行い、授業中に5回以上質問や意見を述べることができた。	事前学習を行い、授業中に4回質問や意見を述べることができた。	事前学習を行い、授業中に3回質問や意見を述べることができた。	事前学習を行い、授業中に2回質問や意見を述べることができた。	事前学習や質問、意見などを答えることが出来なかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	福祉サービスの組織と経営 (科目ナンバリング: SWS112015, SWS422080, SWS522087/20 ) 23年度以降SWS122015				
授業担当者(所属・職名)	大島 康雄(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 大島 康雄)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	独立型社会福祉士事務所を営んでいる教員が準市場における、社会福祉士のビジネスモデルを提示していきます。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『福祉サービスの組織と経営』	社会福祉士養成講座編集委員会	中央法規	2017年	978-4-8058-5431-0	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明、福祉サービスにおけるマネジメント。授業改善アンケート結果反映の説明	事前に教科書を確認(90分)	ノートを整理し、質問事項を考える(90分)
2	福祉サービスに係る組織・団体(1)法人とは	事前に教科書を確認(90分)	ノートを整理し、質問事項を考える(90分)
3	福祉サービスに係る組織・団体(2)社会福祉法人	事前に教科書を確認(90分)	ノートを整理し、質問事項を考える(90分)
4	福祉サービスに係る組織・団体(3)医療法人	事前に教科書を確認(90分)	ノートを整理し、質問事項を考える(90分)
5	福祉サービスに係る組織・団体(4)NPO法人その他	事前に教科書を確認(90分)	ノートを整理し、質問事項を考える(90分)
6	組織のマネジメントに関連する基礎理論(1)マネジメントの本質	事前に教科書を確認(90分)	ノートを整理し、質問事項を考える(90分)
7	組織のマネジメントに関連する基礎理論(2)組織のあり方	事前に教科書を確認(90分)	ノートを整理し、質問事項を考える(90分)
8	組織のマネジメントに関連する基礎理論(3)意思決定論	事前に教科書を確認(90分)	ノートを整理し、質問事項を考える(90分)
9	組織のマネジメントに関連する基礎理論(4)リーダーシップ論	事前に教科書を確認(90分)	ノートを整理し、質問事項を考える(90分)
10	経営戦略の構築(1)サービスマネジメント	事前に教科書を確認(90分)	ノートを整理し、質問事項を考える(90分)
11	経営戦略の構築(2)リスクマネジメント	事前に教科書を確認(90分)	ノートを整理し、質問事項を考える(90分)
12	経営戦略の構築(3)ヒューマンリソースマネジメント【人材採用】	事前に教科書を確認(90分)	ノートを整理し、質問事項を考える(90分)
13	経営戦略の構築(4)ヒューマンリソースマネジメント【能力開発】	事前に教科書を確認(90分)	ノートを整理し、質問事項を考える(90分)
14	経営戦略の構築(5)ヒューマンリソースマネジメント【評価処遇】	事前に教科書を確認(90分)	ノートを整理し、質問事項を考える(90分)
15	経営戦略の構築(6)会計・財務マネジメント【会計基準】	事前に教科書を確認(90分)	ノートを整理し、質問事項を考える(90分)
16	テスト及び試験問題の解説。授業改善アンケートの実施。	確認テストの学習(90分)	テストの復習(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	中小企業論 (科目ナンバリング: MAN413012, MAN523037, 2023年度以降MAN423012)				
授業担当者(所属・職名)	石山 玄幸(経営学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 石山 玄幸)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	経営コンサルタント会社の代表として、200社以上の中小企業の経営指導をしてきた経験を生かして、タイムリーな事例を活用した講義を展開する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照のこと。				

概要

履修目標

本講義の対象学年は1年生であることから、受講学生が中小企業論を理解するために、受講方法やノートの取り方を含めて、専門科目の基礎を学ぶことを目的としている。

授業の位置づけ

経営学部のDP(1)、(2)、(3)に対応する。

到達目標

本講義の達成目標は、企業という組織を理解している。中小企業の特徴について述べるができる。中小企業の問題点を述べるができる。中小企業における現状の問題解決法について自分の視点から述べるができる。これからの中小企業について自分の視点から述べるができる。

授業全体の内容と概要

本講義は、日本の中小企業における基礎的な考察を中心に講義を進める。具体的には、中小企業の経営、経営革新、下請け構造、労働、金融などにポイントを絞り、事例考察などを織り交ぜたカリキュラム構成にしている。但し、学生の理解度に応じて、カリキュラムは、適宜、変更する場合がある。

授業の方法

本講義は、パワーポイント及び配布物資料を進める。1枚のパワーポイントを提示して、一連の解説が終了した後、一定の時間、学生がノートを書く時間を取る。ノートが書ききれない場合は、スマホでの写真撮影を認める。講義の最後に本日のフィードバックとして、講義レポートを実施し、レポートを提出した学生を出席扱いとする。また、講義を進めるにあたり、アクティブラーニングを活用し、グループワークやディスカッションを行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

本講義では、講義ノートの作成を義務付ける。講義の際、筆記用具やノートを持参しない者は受講を認めない。評価方法の「その他」10%については、講義ノートの評価とする。尚、不足の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(商業)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
90%	0%	0%	0%	0%	10%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
中小企業論に係るレポート・試験に対応した文章力	講義で学んだ以上の内容を含み、論理性の優れた文章を書いていた。	講義で学んだ内容を理解した上で、自分の言葉で論理的な文章を書いていた。	講義で学んだ内容を理解した上で、自分の言葉で論理を述べていた。	講義で学んだ内容が書かれていた。	読み手に内容が伝わらなかった。
中小企業の特徴について	中小企業の定義を理解した上で、講義で学んだ考え方を活用して、大企業との比較の中で、中小企業の特徴を述べる事ができた。	中小企業の定義を理解した上で、講義で学んだ中小企業の特徴を3つ以上述べる事ができた。	中小企業の定義を理解した上で、講義で学んだ中小企業の特徴を最低1つでも述べる事ができた。	最低限、中小企業の定義を理解していた。	そもそも中小企業とは何かを理解していなかった。
中小企業の課題について	講義で学んだ手法を活用して、中小企業の課題について、業種別に課題を述べる事ができた。	講義で学んだ手法を活用して、中小企業の課題を3つ以上述べる事ができた。	講義の内容から、中小企業の課題を3つ以上述べる事ができた。	最低限、中小企業の課題を1つでも述べる事ができた。	そもそも中小企業の課題を見つけれなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	中小企業論 (科目ナンバリング: MAN413012, MAN523037, 2023年度以降MAN423012)				
授業担当者(所属・職名)	石山 玄幸(経営学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 石山 玄幸)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	経営コンサルタント会社の代表として、200社以上の中小企業の経営指導をしてきた経験を生かして、タイムリーな事例を活用した講義を展開する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『現代中小企業論(増補版)』	高田亮爾/上野弘/村杜隆/前田啓一編著	同友館	2011年	9784496047589	
2	『21世紀中小企業論(第4版):多様性と可能性を探る』	渡辺幸男/黒瀬直宏/向山 雅夫	有斐閣アルマ	2022年	9784641221956	
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	「中小企業論」ガイダンス、シラバスの説明(講義全体の概要、講義のやり方、評価方法など)、授業改善アンケート結果反映の説明	必ずシラバスを読んでから、初回ガイダンスを受講すること。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
2	企業の基本 会社とは?企業活動とは?	中小企業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	定期試験に向けて、これまでの講義レポートを見返し準備すること。(90分)
3	中小企業の定義 なぜ企業規模で分けるのか?	中小企業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	定期試験に向けて、これまでの講義レポートを見返し準備すること。(90分)
4	中小企業の研究動向 学術研究とは?	中小企業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	定期試験に向けて、これまでの講義レポートを見返し準備すること。(90分)
5	中小企業の経営問題 経営とは?	中小企業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	定期試験に向けて、これまでの講義レポートを見返し準備すること。(90分)
6	中小企業の経営問題 事例考察	中小企業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	定期試験に向けて、これまでの講義レポートを見返し準備すること。(90分)
7	中小企業の経営革新 経営革新とは?	中小企業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	定期試験に向けて、これまでの講義レポートを見返し(90分)準備すること。
8	中小企業の経営革新 事例考察	中小企業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	定期試験に向けて、これまでの講義レポートを見返し準備すること。(90分)
9	中小企業と下請けの関係 下請けとは?	中小企業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	定期試験に向けて、これまでの講義レポートを見返し準備すること。(90分)
10	中小企業と労働者 賃金とは?	中小企業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	定期試験に向けて、これまでの講義レポートを見返し準備すること。(90分)
11	中小企業と金融 財務諸表とは?	中小企業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	定期試験に向けて、これまでの講義レポートを見返し準備すること。(90分)
12	中小企業と金融 事例考察	中小企業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	定期試験に向けて、これまでの講義レポートを見返し準備すること。(90分)
13	地域経済と地場産業	中小企業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	定期試験に向けて、これまでの講義レポートを見返し準備すること。(90分)
14	中小企業と産業連関構造 経済効果とは?	中小企業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	定期試験に向けて、これまでの講義レポートを見返し準備すること。(90分)
15	まとめ 試験対策、授業改善アンケートの実施	中小企業に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	定期試験に向けて、これまでの講義レポートを見返し準備すること。(90分)
16	定期試験とフィードバック	定期試験に向けて準備をする(90分)	試験のフィードバックを受けて中小企業論を総括する(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	立体構成 (科目ナンバリング: AEA211012)				
授業担当者(所属・職名)	梅田 力(デザイン学科・准教授)	研究室等所在	アトリエ棟 2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 梅田 力)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照				

概要

履修目標

立体の構成原理を活用し、構造的にも安定した美しい作品を制作することが出来る。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP(1)(3)(5)に対応する。

到達目標

立体の基本的な構成原理を活用し、作品を制作することが出来る。

授業全体の内容と概要

授業毎に設定された課題を基に、立体作品の制作を行いながら実践的に立体の構成原理を学ぶ。また、作品の見せ方、発表の仕方学ぶ。

授業の方法

スライドを使って課題の説明を行なった後、各自作品制作を行う。作品完成後、作品評価及び講評を行う。学生は各自で画像を撮影して保存する。最終的に保存した画像を編集し、ポートフォリオを作成し提出する。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

制作した作品は毎回撮影して保存し、最終的にはポートフォリオにまとめて提出すること。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(美術・工芸)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

20回以上の出席がない場合は評価の対象としない。ポートフォリオが提出されない場合は評価の対象としない。評価は作品点(40%)、ポートフォリオ点(30%)、及び主体的に学ぶ姿勢「平常点」(30%)の基準で行う。講義の前中で課題を説明するため、30分以上の遅刻は出席として認めない。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	70%	0%	30%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
立体の基本的な特性の理解(知識・理解)	作品が自立し、構造的にも安定している。また、デザイン原理を理解し、上手く活用しており、美しい造形である。	作品が自立し、構造的にも安定している。また、デザイン原理を理解し、活用している。	作品が自立し、構造的にも安定している。また、デザイン原理を活用しようとして試みている。	作品が自立し、構造的にも安定している。	作品が自立せず、立体として成立していない。
編集と発表の能力(思考力・表現力・判断力等)	制作した作品・スケッチ・文章等を秩序立てて編集し、美しくデザインされたポートフォリオを作成した。	制作した作品・スケッチ・文章等を秩序立てて編集し、ポートフォリオを作成した。	制作した作品に加え、スケッチや文章等も取り入れたポートフォリオを作成した。	制作した作品を収めたポートフォリオを作成した。	制作した作品を収めずポートフォリオを作成しなかった。
主体的に学習に取り組む態度(主体性・多様性・協働性)	課題を予習・復習をした。挑戦的な計画をし、制作を行う事が出来た。また課題を超えて制作を行なった。	課題の予習・復習をした。挑戦的な計画をし、制作を行う事が出来た。	課題の予習または復習をした。自ら計画を立て、制作を行う事が出来た。	授業毎の課題を受け、計画的に制作を行う事が出来た。	授業毎の課題を受けて計画的に制作を行う事が出来なかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	立体構成 (科目ナンバリング: AEA211012)				
授業担当者(所属・職名)	梅田 力(デザイン学科・准教授)	研究室等所在	アトリエ棟2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 梅田 力)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『美の構成学』 パウハウスからフラクタルまで	三井秀樹	中公新書	1996	4121012968	
2						
3						
4						
5						

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション シラバスの説明、授業アンケート結果反映の説明	シラバスをよく読んでおくこと(45分)	オリエンテーションを振り返り内容を理解する事(45分)
2	立体構成とは何か	立体構成という言葉について調べてくる事(45分)	ポートフォリオ作成(45分)
3	立体構成基礎1 四角形	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事(45分)	ポートフォリオ作成(45分)
4	立体構成基礎1 四角形	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事(45分)	ポートフォリオ作成(45分)
5	立体構成基礎2 三角形	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事(45分)	ポートフォリオ作成(45分)
6	立体構成基礎2 三角形	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事(45分)	ポートフォリオ作成(45分)
7	立体構成基礎3 円形	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事(45分)	ポートフォリオ作成(45分)
8	立体構成基礎3 円形	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事(45分)	ポートフォリオ作成(45分)
9	立体構成基礎4 不定形	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事(45分)	ポートフォリオ作成(45分)
10	立体構成基礎4 不定形	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事(45分)	ポートフォリオ作成(45分)
11	紙の加工法1 切る・組み合わせる	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事(45分)	ポートフォリオ作成(45分)
12	紙の加工法1 切る・組み立てる	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事(45分)	ポートフォリオ作成(45分)
13	紙の加工法2 折る・貼る・組み合わせる	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事(45分)	ポートフォリオ作成(45分)
14	紙の加工法2 折る・貼る・組み合わせる	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事(45分)	ポートフォリオ作成(45分)
15	構成原理より1 リビテーション	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事(45分)	ポートフォリオ作成(45分)
16	構成原理より1 リビテーション	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事(45分)	ポートフォリオ作成(45分)

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17	構成原理より2 シンメトリー	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事(45分)	ポートフォリオ作成(45分)
18	構成原理より2 シンメトリー	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事(45分)	ポートフォリオ作成(45分)
19	構成原理より3 アシンメトリー	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事(45分)	ポートフォリオ作成(45分)
20	構成原理より3 アシンメトリー	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事(45分)	ポートフォリオ作成(45分)
21	構成原理より4 アクセント	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事(45分)	ポートフォリオ作成(45分)
22	構成原理より4 アクセント	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事(45分)	ポートフォリオ作成(45分)
23	構成原理より5 ハーモニー	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事(45分)	ポートフォリオ作成(45分)
24	構成原理より7 ハーモニー	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事(45分)	ポートフォリオ作成(45分)
25	構成原理の活用1	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事(45分)	ポートフォリオ作成(45分)
26	構成原理の活用1	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事(45分)	ポートフォリオ作成(45分)
27	構成原理の活用2	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事(45分)	ポートフォリオ作成(45分)
28	構成原理の活用2	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキス等を描いてくる事(45分)	ポートフォリオ作成(45分)
29	ポートフォリオ作成(チュートリアル)	ポートフォリオ作成(45分)	ポートフォリオ作成(45分)
30	ポートフォリオ作成(チュートリアル)	ポートフォリオ作成(45分)	ポートフォリオ作成(45分)
31	講評	講義全体を通して質問したい事項をまとめておくこと(45分)	講評を再考し、理解を深めること(45分)
32	講評、授業改善アンケートの実施	講義全体を通して質問したい事項をまとめておくこと(45分)	講評を再考し、理解を深めること(45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	グラフィックデザイン (科目ナンバリング: DES222022)				
授業担当者(所属・職名)	北嶋 洋一(デザイン学科・教授)	研究室等所在	2号館5階		
単位数	2 (単位認定責任者: 北嶋 洋一)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザインの実務経験と研究実績のある教員が、その経験を基にしてデザインの基礎から応用までを指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

デザインにおけるグラフィックデザインについて正しい認識を持ち、その可能性と将来の展望ができる知識と技術を身につける。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP(1)、(2)、(3)、(5)に対応する。

到達目標

広告、出版、WEB、映像、各種アプリケーションなど、現代の視覚伝達メディアにおけるデザイン制作業務に携わるために必要な知識と技術を身につけることができる。

授業全体の内容と概要

特定の情報を市場に提供する手段として適切なメディアを選択し、それを効果的に運用できるよう企画・設計段階を重視した課題制作を行う。但し、制作内容は単体のメディアコンテンツが中心となる。  
「SDGs9・産業と技術革新の基盤をつくろう」の関連授業。

授業の方法

始めにグラフィックデザインを正しく認識させるためのワークを行う。  
次に単体のメディアによる用途に合わせたバリエーションを制作する実技課題に続く。  
後半ではオリジナルメディア広告企画をプレゼンテーションするためのツール(フリップ又はPowerPoint)を制作し発表する。  
各種メディアや情報形態についての調査・取材は必要に応じて必ず行い企画内で報告させる。  
制作中における技術的な指導は個別に行い、質問については随時対応する。  
授業で用いた教材は全てTeamsのファイル又はクラウドストレージへアップロードし、学生が任意で閲覧できる資料として蓄積する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模範授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

主として商業美術を志向する者のための演習が中心の授業である。  
中でも情報メディアにおけるデザインとビジネスを前提とした内容であるから、そのスタンスがアート系分野とは相反することを理解し、それを前提として履修しなければならない。  
課題の制作はAdobe IllustratorとPhotoshopを用いるので、その基本的な操作を身につけていなければならない。  
授業内でアプリケーションの操作講習などは一切しないということにも留意しなければならない。  
不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は20回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	10%	70%	0%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能 「グラフィックデザインを分野として正しく認識できている」	グラフィックデザインに対する正しい認識を持ち、適切なメディアへ効果的な情報の投下の重要性を認識し、それが可能な知識と技術を身につけた。	グラフィックデザインに対する正しい認識を持ち、適切なメディアへ効果的な情報の投下が必要であることを認識した。	グラフィックデザインに対する正しい認識を持つことはできたが、適切なメディアの選択と情報の処理が不十分であった。	グラフィックデザインに対する正しい認識が曖昧で、メディアと情報の関連性を捉え切れていない。	グラフィックデザインを認識できていない。
思考力・判断力・表現力 「グラフィックデザインの分野としての特性を踏まえた作品制作が行える」	グラフィックデザインの特性を理解し、適切なメディアの選択や表現を行うための技能を基に、完成度の高い作品制作が行えた。	グラフィックデザインの特性を理解し、適切なメディアの選択や表現を行うための技能を作品制作に反映させることができた。	グラフィックデザインの特性を理解したが、メディアの選択や表現について、適切に反映させられていない。	グラフィックデザインの特性を理解しきれておらず、適切なメディアの選択や表現が不十分であった。	グラフィックデザインの特性が理解できず、メディアの選択や表現ができなかった。
主体性・多様性・協働性 「グラフィックデザインの分野としての特性を基にしたメディアの構築を行い、プレゼンテーションを行える」	グラフィックデザインにおける問題解決に対し、積極的に関わり合い、適切なメディアの構築を行い、プレゼンテーションを行った。	グラフィックデザインにおける問題解決に対し、積極的に関わり合い、適切なプレゼンテーションを行った。	グラフィックデザインにおける問題解決に対し、積極的に関わり合ったが、適切なプレゼンテーションには至っていない。	グラフィックデザインにおける問題解決に対し、積極的に関わり合ったが、プレゼンテーションも不完全であった。	グラフィックデザインにおける問題解決ができず、プレゼンテーションが行えなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	グラフィックデザイン (科目ナンバリング: DES222022)				
授業担当者(所属・職名)	北嶋 洋一(デザイン学科・教授)	研究室等所在	2号館5階		
単位数	2 (単位認定責任者: 北嶋 洋一)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザインの実務経験と研究実績のある教員が、その経験を基にしてデザインの基礎から応用までを指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス-シラバス及び授業改善アンケート結果の反映の説明 「伝統的なグラフィックデザインの捉え方」	シラバスを一読しておく・グラフィックデザインの意味を調べておく(45分)	シラバスを一読しておく・グラフィックデザインの意味を調べておく(45分)
2	「伝統的なグラフィックデザインの捉え方」 現行分野と制作工程について	シラバスを一読しておく・グラフィックデザインの意味を調べておく(45分)	分野への理解を深めるためのノート整理(45分)
3	「情報の視覚化」 イラストレーションと写真 -イラストレーションの作画	使用する画材と機材の準備・整理(45分)	課題の継続作業(45分)
4	「情報の視覚化」 イラストレーションの作画	課題の継続作業(45分)	課題の継続作業(45分)
5	「情報の視覚化」 写真撮影実習	課題の継続作業(45分)	課題の継続作業(45分)
6	「情報の視覚化」 写真撮影実習	課題の継続作業(45分)	課題の継続作業(45分)
7	「情報の視覚化」 講評と展開の可能性について	提出データの確認メディアとは何か?予習する(45分)	分野への理解を深めるためのノート整理(45分)
8	様々な情報メディアの特性について	分野への理解を深めるためのノート整理(45分)	分野への理解を深めるためのノート整理(45分)
9	情報メディアデザイン 「パナ-広告デザイン」 企画・立案	事前に課題一覧に目を通す(45分)	課題の選択(45分)
10	情報メディアデザイン 「パナ-広告デザイン」 情報の取捨選択・統合	課題の選択(45分)	課題の選択(45分)
11	情報メディアデザイン 「パナ-広告デザイン」 デザインラフ・フォーマット作成	材料のダウンロード(45分)	デザイン案の作成(45分)
12	情報メディアデザイン 「パナ-広告デザイン」 デザインラフ・フォーマット作成	デザイン案の作成(45分)	デザイン案の作成(45分)
13	情報メディアデザイン 「パナ-広告デザイン」 制作・アップロード	デザイン案の作成(45分)	デザイン案の作成(45分)
14	情報メディアデザイン 「パナ-広告デザイン」 制作・アップロード	デザイン案の作成(45分)	デザイン案の作成(45分)
15	情報メディアデザイン 「パナ-広告デザイン」 制作・アップロード	デザイン案の作成(45分)	デザイン案の作成(45分)
16	情報メディアデザイン 「パナ-広告デザイン」 講評	デザイン案の作成(45分)	アップロードの確認(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17	情報メディアデザイン 「UIデザイン」 企画立案	UIとは何か?(45分)	分野への理解を深めるためのノート整理(45分)
18	情報メディアデザイン 「UIデザイン」 ラフデザイン	分野への理解を深めるためのノート整理(45分)	デザイン案の作成(45分)
19	情報メディアデザイン 「UIデザイン」 ラフデザイン	デザイン案の作成(45分)	デザイン案の作成(45分)
20	情報メディアデザイン 「UIデザイン」 ラフデザイン	デザイン案の作成(45分)	デザイン案の作成(45分)
21	情報メディアデザイン 「UIデザイン」 ラフデザイン	デザイン案の作成(45分)	デザイン案の作成(45分)
22	情報メディアデザイン 「UIデザイン」 制作	決定案の制作(45分)	決定案の制作(45分)
23	情報メディアデザイン 「UIデザイン」 制作	決定案の制作(45分)	決定案の制作(45分)
24	情報メディアデザイン 「UIデザイン」 講評	決定案の制作(45分)	完成データの整理(45分)
25	情報メディアデザイン 「新聞広告デザイン」 課題選択・広告とは何か?	課題一覧に目を通しておくこと(45分)	分野への理解を深めるためのノート整理(45分)
26	情報メディアデザイン 「新聞広告デザイン」 コピーライティング	分野への理解を深めるためのノート整理(45分)	分野への理解を深めるためのノート整理(45分)
27	情報メディアデザイン 「新聞広告デザイン」 コピーライティング	コピーライティングの資料収集(45分)	コピーの試案(45分)
28	情報メディアデザイン 「新聞広告デザイン」 コピーライティング	コピーの試案(45分)	コピーの試案(45分)
29	情報メディアデザイン 「新聞広告デザイン」 コピーライティング	コピーの試案(45分)	コピーの試案(45分)
30	情報メディアデザイン 「新聞広告デザイン」 ラフデザイン	ビジュアルの構想(45分)	ビジュアルの構想(45分)
31	情報メディアデザイン 「新聞広告デザイン」 ラフデザイン	ビジュアルの構想(45分)	ビジュアルの構想(45分)
32	全体講評とグラフィックデザインの展開について 授業改善アンケートの実施	全授業内容の総括(45分)	完成シミュレーション(45分)



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	スポーツ原理 (科目ナンバリング: DMB522054/2023年度以降DMB422113)				
授業担当者(所属・職名)	高井 雅一(経営学科・特任教授)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者: 高井 雅一)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校における勤務経験を活かしてスポーツ原理に関連する諸事項を講義する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等で確認する				

概要

履修目標

スポーツや体育の本質を考え、あるべきスポーツや体育の原理原則を学ぶための科目であり、体育の定義、目的、内容、方法などに関する代表的な見解を学習しながら、私たちの生活の中におけるスポーツの意味や価値を知り、生涯にわたるスポーツ実践者としての基本的な知識を理解することができる。

授業の位置づけ

経営学科のDP(2)(4)に対応する。

到達目標

・スポーツを取り巻く現状や問題点、そして今後生涯スポーツが個人や社会に果たす役割と意義について具体的に述べることができる。

授業全体の内容と概要

・人とスポーツとの多様な関わり方について知るとともに、スポーツの歴史と我が国のスポーツ振興政策の歴史を理解し、これからのスポーツの方向性を把握する。  
・我が国のスポーツの実情と問題点、スポーツが人々にもたらすさまざまな便益や効果について、意見交換しながら自分の意見をまとめ発表する活動を行う。

授業の方法

・各回のテーマに関するプリント等を使用して説明を行う。  
・各回のテーマに基づき必要な事項を講義するとともに、主体的・対話的で深い学びを実現するために、テーマに関連する事項に関して思考・考察、意見交換、発表等の一連の活動を行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

・主体的・対話的な学修を行うため、座席を指定する。  
・講義で配布するプリント類はクリアファイル等に整然と保管し、必要時に参照できるようにすること。  
・講義中、スマホや飲食物等はカバン等に入れておく。但し、指示のあった場合のみ可。  
・20分以上の遅刻は欠席とみなし、遅刻は3回で欠席1回とみなす。  
・不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な出席回数は、11回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
40%	20%	20%	0%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
スポーツの実情と問題点を理解する	現状や問題点を理解し、自分の意見を述べた。	現状や問題点を自分なりに説明できた。	現状や問題点を自分なりに理解できた。	現状や問題点を理解できた。	現状や問題点を理解できなかった。
スポーツのかかわり方について思考・判断できる	多様なかかわり方について思考・判断し、運用できた。	多様なかかわり方について思考・判断し、自分なりに意見を述べた。	多様なかかわり方について考え、これからのスポーツの方向性を思考し判断し、理解できた。	多様なかかわり方について思考・判断できた。	多様なかかわり方について考えることができなかった。
スポーツの果たす役割・意義について回答できる	様々な便益や効果について自分の意見を述べた。	様々な便益や効果について自分なりに説明できた。	様々な便益や効果について理解できた。	様々な便益や効果について多少理解できた。	様々な便益や効果について理解できなかった。



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	<b>スポーツ原理</b> (科目ナンバリング: DMB522054/2023年度以降DMB422113)				
授業担当者(所属・職名)	高井 雅一(経営学科・特任教授)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者: 高井 雅一)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校における勤務経験を活かしてスポーツ原理に関連する諸事項を講義する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『教養としての体育理論』	岡出美則、友添秀則、	大修館	2016		
2	『初めて学ぶ体育・スポーツ哲学』	高橋徹	みらい	2018		
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 なぜ、体育原理を学ぶのか、体育原理はどのような	体育やスポーツであなたが考えることはどんなことか、具体的に考えておく	話し合った課題に関して自分の意見を述べるができるよう準備する。(90分)
2	体育の理念はどのように変わってきたか	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べるができるよう準備する。(90分)
3	体育とスポーツは何が違うか	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べるができるよう準備する。(90分)
4	運動の持つ可能性について 体育における人間形成について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べるができるよう準備する。(90分)
5	体育とフェアプレイについて	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べるができるよう準備する。(90分)
6	体育と身体形成について 身体形成とは何か 身体からみた体育の可能性について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べるができるよう準備する。(90分)
7	体育で競争をどのように位置づけるか	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べるができるよう準備する。(90分)
8	技術指導からみた体育について 体育と指導者について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べるができるよう準備する。(90分)
9	子どもたちからみた体育の存在意義について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べるができるよう準備する。(90分)
10	社会変化と今後の体育について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べるができるよう準備する。(90分)
11	スポーツとグローバル化について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べるができるよう準備する。(90分)
12	スポーツとドーピング、ナショナリズムについて	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べるができるよう準備する。(90分)
13	スポーツとオリビズム、ルールについて	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べるができるよう準備する。(90分)
14	スポーツメディア・コミュニティについて	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。(90分)	話し合った課題に関して自分の意見を述べるができるよう準備する。(90分)
15	スポーツの制度化と暴力について スポーツとジェンダーについて スポーツ種がい者について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。(90分)	講義の内容を総復習する。(90分)
16	定期試験(60分)、終了後、試験の解説(30分)	全講義内容の復習(90分)	本時の学修内容をまとめて提出する。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	プレゼンテーションツール (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 善太郎(建築学科・教授)・伊藤 裕康(建築学科・教授)		研究室等所在	2号館6階	
単位数	1 (単位認定責任者: 佐藤 善太郎)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示板等を参照				

概要

履修目標
------

4年間をとおして建築表現に必要な不可欠なデジタルデバイスによる表現方法を修得する。

授業の位置づけ

建築学科のDP(1)、(2)に対応する。

到達目標

基本的なデジタルプレゼンテーションツールを自在に操れることができる。

授業全体の内容と概要

コンピュータ操作の初歩として、コンピュータOSやその周辺の知識修得とデジカメやスキャナを使用したプレゼンテーションを行う。  
「SDG11、住み続けられるまちづくりを」の関連授業

授業の方法

毎回テキストに沿いながら、担当者のサイトを参照し、そこからデータをダウンロードして課題制作を行う。発表会形式での講評会を実施し、課題提出先は担当者の指定フォルダにアップロードすることにより完結する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

教科書はもちろん、各自USBメモリを携行のこと。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

原則毎回出席すること(単位認定に必要な最低出席回数11回以上)

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	80%	0%	0%	20%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
明確なプレゼンテーションと説明によって自身の計画内容を他者に伝えることができるか。	明快で美しいプレゼンテーションと説明により、計画内容を相手に的確に伝えることができた。	明快で美しいプレゼンテーションと説明により、計画内容を相手に的確に伝えることがほぼできた。	明快で美しいプレゼンテーションと説明により、計画内容を相手に的確に伝えることがある程度以上できた。	明快で美しいプレゼンテーションと説明により、計画内容を相手に的確に伝えることがある程度できた。	明快で美しいプレゼンテーションと説明により、計画内容を相手に的確に伝えることができなかった。
デジタルツールによって自身の計画内容を他者に伝えることができるか。	デジタルツールによって、計画内容を相手に的確に伝えることができた。	デジタルツールによって、計画内容を相手に的確に伝えることがほぼできた。	デジタルツールによって、計画内容を相手に的確に伝えることがある程度以上できた。	デジタルツールによって、計画内容を相手に的確に伝えることがある程度できた。	デジタルツールによって、計画内容を相手に的確に伝えることができなかった。
課題の意図を理解して的確に企画を立案できるか。	課題の意図を理解して的確に企画を立案することができた。	課題の意図を理解して的確に企画を立案することがほぼできた。	課題の意図を理解して的確に企画を立案することがある程度以上できた。	課題の意図を理解して的確に企画を立案することがある程度できた。	課題の意図を理解して的確に企画を立案することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	プレゼンテーションツール (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 善太郎(建築学科・教授)・伊藤 裕康(建築学科・教授)		研究室等所在	2号館6階	
単位数	1 (単位認定責任者: 佐藤 善太郎)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	*今すぐ使えるかんたんPhotoshop Elements 15	技術評論社編集部	技術評論社	2016	9784774185392	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 コンピュータOS, コンピュータデバイス, コンピュータメディア	オリエンテーション時に指示の資料を熟読(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
2	基本操作その1 / 画像の加工	配布資料・テキスト熟読(45分)	当日制作課題のデータ整理(45分)
3	基本操作その2 / 案内図の作成	配布資料・テキスト熟読(45分)	当日制作課題のデータ整理(45分)
4	基本操作その3 / Photoshopの原理	配布資料・テキスト熟読(45分)	当日制作課題のデータ整理(45分)
5	扱う画像の種類と用途	配布資料・テキスト熟読(45分)	当日制作課題のデータ整理(45分)
6	レイヤの概念	配布資料・テキスト熟読(45分)	当日制作課題のデータ整理(45分)
7	画像編集の基礎	配布資料・テキスト熟読(45分)	当日制作課題のデータ整理(45分)
8	画像編集の応用	配布資料・テキスト熟読(45分)	当日制作課題のデータ整理(45分)
9	文字の入力編集	配布資料・テキスト熟読(45分)	当日制作課題のデータ整理(45分)
10	スキャナによる画像取込	配布資料・テキスト熟読(45分)	当日制作課題のデータ整理(45分)
11	パノラマの作成とストリートビュー	配布資料・テキスト熟読(45分)	当日制作課題のデータ整理(45分)
12	クリスマスカードの製作と年賀状の製作	配布資料・テキスト熟読(45分)	当日制作課題のデータ整理(45分)
13	他のソフトとPhotoshopとの連携 / JVI	配布資料・テキスト熟読(45分)	当日制作課題のデータ整理(45分)
14	他のソフトとPhotoshopとの連携 / Vector	配布資料・テキスト熟読(45分)	当日制作課題のデータ整理(45分)
15	マンション広告の作成 授業改善アンケートの実施	配布資料・テキスト熟読(45分)	当日制作課題のデータ整理(45分)
16	講評会	講評会準備(45分)	振り返りレポート作成(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	二級建築士演習 (科目ナンバリング: SEM324068)				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 善太郎(建築学科・教授)・向井 正伸(建築学科・専任講師)		研究室等所在	2号館6階	
単位数	1 (単位認定責任者: 佐藤 善太郎)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	向井 実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	設計事務所に勤めた経験を活かして実践的な授業を展開していく。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

「資格が無ければ食えない」とも言われる建設業界でその根幹である建築士、その中でも大学卒業後すぐに受験可能な2級建築士試験の学科「建築計画」にターゲットを絞り、その傾向と対策を学ぶ。

授業の位置づけ

建築学科のDP(1)、(2)に対応する。

到達目標

提示された建築士の過去問題に対し出題者の意図を探り、試験の決まりごとや回答上の留意点を解説等をもとに理解できる。

授業全体の内容と概要

2級建築士学科試験学科に出題される過去問題の回答・解説について網羅する。  
「SDG11・住み続けられるまちづくりを」の関連授業

授業の方法

テキストや配布資料をもとに、視聴覚資料も交えて過去問を中心とした出題傾向を分析し、確認のために回答した設問の解説を毎回おこなう。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

資格試験対策は、通常授業とはそのアプローチも異なり、そして学習方法もちがう。しかし3年生までの専門科目の集大成と総まとめとして、そして建築士は建築学科出身の学生には選ばれては通れないものなので、覚悟を以って取り組んで欲しい。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	100%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
建築環境工学の用語の定義と環境工学各項目の理解	建築環境工学の用語の定義と環境工学各項目の理解に関する問題をすべて正確に解くことができた。	建築環境工学の用語の定義と環境工学各項目の理解に関する問題を正確に解くことができた。	建築環境工学の用語の定義と環境工学各項目の理解に関する問題をほぼ正確に解くことができた。	建築環境工学の用語の定義と環境工学各項目の理解に関する問題を解くことができた。	建築環境工学の用語の定義と環境工学各項目の理解に関する問題を解くことができなかった。
建築計画の用語の定義と建築計画各項目の理解	建築計画の用語の定義と建築計画各項目の理解に関する問題をすべて正確に解くことができた。	建築計画の用語の定義と建築計画各項目の理解に関する問題を正確に解くことができた。	建築計画の用語の定義と建築計画各項目の理解に関する問題をほぼ正確に解くことができた。	建築計画の用語の定義と建築計画各項目の理解に関する問題を解くことができた。	建築計画の用語の定義と建築計画各項目の理解に関する問題を解くことができなかった。
建築設備の用語の定義と建築設備各項目の理解	建築設備の用語の定義と建築設備各項目の理解に関する問題をすべて正確に解くことができた。	建築設備の用語の定義と建築設備各項目の理解に関する問題を正確に解くことができた。	建築設備の用語の定義と建築設備各項目の理解に関する問題をほぼ正確に解くことができた。	建築設備の用語の定義と建築設備各項目の理解に関する問題を解くことができた。	建築設備の用語の定義と建築設備各項目の理解に関する問題を解くことができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	二級建築士演習 (科目ナンバリング: SEM324068)				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 善太郎(建築学科・教授)・向井 正伸(建築学科・専任講師)		研究室等所在	2号館6階	
単位数	1 (単位認定責任者: 佐藤 善太郎)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	向井 実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 設計事務所に勤めた経験を活かして実践的な授業を展開していく。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『P』適宜配布資料					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明。環境工学 気象・室内環境・屋外気候・換気・通風 授業改善アンケート結果反映の説明	オリエンテーション時に配布された資料の熟読(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
2	環境工学 伝熱・結露・日照・日射	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
3	環境工学 採光・音響・色彩	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
4	環境工学 環境工学融合・用語	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
5	建築計画 独立住宅	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
6	建築計画 集合住宅	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
7	建築計画 商業建築	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
8	建築計画 公共建築	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
9	建築計画 計画一般	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
10	建築計画 都市計画・地域計画	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
11	建築設備 用語・空調調和設備	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
12	建築設備 給水・給湯・排水・衛生設備	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
13	建築設備 電気設備	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
14	建築設備 照明設備 指	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
15	建築設備 消火・防災・設備融合 授業改善アンケートの実施	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
16	実力診断試験・解説	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科（スポーツマネジメントコース）・3		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	生理学（科目ナンバリング：BAM522064/2023年度以降BAM422123）				
授業担当者（所属・職名）	黒川 泰任（経営学科・客員教授）	研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2（単位認定責任者：黒川 泰任）	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	診療に従事する、脳神経外科専門医、脳卒中専門医、病態栄養学会専門医・指導医であり、ヒトの生理、病態につき経験がある。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。				

概要

履修目標	生理学は生物、特にヒトの正常機能を追求する学問の一分野である。ヒトの生物学的機能を再考査し、生体の働きのメカニズムを理解することを目指す。
授業の位置づけ	経営学科のD P（1）、（2）、（5）に対応する。

到達目標	ヒトの身体における正常機能について、理解を深める。
------	---------------------------

授業全体の内容と概要	われわれ、すなわちヒトの身体を、生命という視点から、生き物の最小単位としてその機能の必然性について理解し、生命活動、疾病、運動時などにおける変化につき考察する。
------------	--

授業の方法	板書および配布資料を活用しながら、呼吸、血液、循環、消化と吸収、代謝、排泄、内分泌等の生体維持に関する機能としくみについて、順次、要点を講義、および対話形式ですすめる。また、理解度の確認のため、各講義終了時に小テストを実施し、成績判定に用いる。前回の講義内容を要約を配布するので、復習と定期試験のために参考とすること。
-------	---

アクティブラーニングの実施方法	<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>P B L</td> </tr> <tr> <td>模範授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>〇</td> <td>双方向授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>その他（授業の方法参照）</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	P B L	模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	〇	双方向授業				その他（授業の方法参照）
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	P B L														
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業														
ディスカッション	実験・実習・実技	〇	双方向授業														
			その他（授業の方法参照）														

履修上の注意事項	小テストと講義内容要約が重要なので、欠席しないように。首席は表彰される。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。
----------	--

修学サポート（合理的配慮）	事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
---------------	---

資格指定科目	教職課程（保健体育）必修科目
--------	----------------

評価方法・基準

評価前提条件	単位認定に必要な出席回数は10回以上。定期試験と、各講義終了時の小テストの合計点で目標到達を判断する。
--------	---

評価方法	<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>60%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>40%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	60%	0%	0%	40%	0%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他								
60%	0%	0%	40%	0%	0%								

ルーブリック	<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> <tr> <td>ヒトは生物の、そして動物の一種であることを科学的に理解する</td> <td>討論を元に、生命活動のしくみを科学的に考えられる。</td> <td>生命のしくみについて興味を持ち、理解しようとしている。</td> <td>ヒトの生物としての特徴がわかる。</td> <td>講義の中心テーマを一つは理解できている。</td> <td>講義に参加していない。</td> </tr> <tr> <td>ヒトの正常の生命活動と、機械の働く機序との相同性、相違性を理解する</td> <td>ヒトという生物も、機械も活動のしくみは同じと理解し、説明できる。</td> <td>生物と機械の違いを説明できる。</td> <td>ヒトの生命活動の特徴が、いくつか説明できる。</td> <td>講義の中心テーマを一つは理解できている。</td> <td>講義に参加していない。</td> </tr> <tr> <td>講義態度</td> <td>討論・質疑に参加し、積極的に意見や考えを述べられている。</td> <td>講義や旨の発言に耳を傾け、書き取っていた。</td> <td>板書しており、疑問点や不明点をメモできていた。</td> <td>板書はできている。</td> <td>講義に参加していない。</td> </tr> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	ヒトは生物の、そして動物の一種であることを科学的に理解する	討論を元に、生命活動のしくみを科学的に考えられる。	生命のしくみについて興味を持ち、理解しようとしている。	ヒトの生物としての特徴がわかる。	講義の中心テーマを一つは理解できている。	講義に参加していない。	ヒトの正常の生命活動と、機械の働く機序との相同性、相違性を理解する	ヒトという生物も、機械も活動のしくみは同じと理解し、説明できる。	生物と機械の違いを説明できる。	ヒトの生命活動の特徴が、いくつか説明できる。	講義の中心テーマを一つは理解できている。	講義に参加していない。	講義態度	討論・質疑に参加し、積極的に意見や考えを述べられている。	講義や旨の発言に耳を傾け、書き取っていた。	板書しており、疑問点や不明点をメモできていた。	板書はできている。	講義に参加していない。
評価項目	評価基準																													
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																									
ヒトは生物の、そして動物の一種であることを科学的に理解する	討論を元に、生命活動のしくみを科学的に考えられる。	生命のしくみについて興味を持ち、理解しようとしている。	ヒトの生物としての特徴がわかる。	講義の中心テーマを一つは理解できている。	講義に参加していない。																									
ヒトの正常の生命活動と、機械の働く機序との相同性、相違性を理解する	ヒトという生物も、機械も活動のしくみは同じと理解し、説明できる。	生物と機械の違いを説明できる。	ヒトの生命活動の特徴が、いくつか説明できる。	講義の中心テーマを一つは理解できている。	講義に参加していない。																									
講義態度	討論・質疑に参加し、積極的に意見や考えを述べられている。	講義や旨の発言に耳を傾け、書き取っていた。	板書しており、疑問点や不明点をメモできていた。	板書はできている。	講義に参加していない。																									

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科（スポーツマネジメントコース）・3		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	生理学 (科目ナンバリング: BAM522064/2023年度以降BAM422123)				
授業担当者(所属・職名)	黒川 泰任(経営学科・客員教授)	研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 黒川 泰任)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	診療に従事する、脳神経外科専門医、脳卒中専門医、病態栄養学会専門医・指導医であり、ヒトの生理、病態につき経験がある。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『ぜんぶわかる人体解剖図』	坂井ら	成美堂出版	2017	9784415306193	
2	『はじめの一歩のイラスト生理学 改訂第2版』	照井直人/編	羊土社	2011	9784758120296	
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	授業改善アンケート結果反映の説明 オリエンテーション・シラバスの説明	シラバスを確認しておく(90分)	人の生理について興味ある点を、まとめておく(90分)
2	生き物とは	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておく(90分)	当日講義内容の確認のため小テストを行うが、これを利用して理解を深める(90分)
3	細胞と環境	講義内容は、互いに関連がある。講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく(90分)	当日の講義内容確認は小テストで、前回の確認は、要約を配布する(90分)
4	細胞と循環	講義内容は、互いに関連がある。講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく(90分)	当日の講義内容確認は小テストで、前回の確認は、要約を配布する(90分)
5	呼吸、酸素の恩恵	講義内容は、互いに関連がある。講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく(90分)	当日の講義内容確認は小テストで、前回の確認は、要約を配布する(90分)
6	血液	講義内容は、互いに関連がある。講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく(90分)	当日の講義内容確認は小テストで、前回の確認は、要約を配布する(90分)
7	神経1 中枢神経と末梢神経	講義内容は、互いに関連がある。講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく(90分)	当日の講義内容確認は小テストで、前回の確認は、要約を配布する(90分)
8	神経2 脳の機能局在	講義内容は、互いに関連がある。講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく(90分)	当日の講義内容確認は小テストで、前回の確認は、要約を配布する(90分)
9	神経3 脳の解剖学的特徴	講義内容は、互いに関連がある。講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく(90分)	当日の講義内容確認は小テストで、前回の確認は、要約を配布する(90分)
10	神経と運動	講義内容は、互いに関連がある。講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく(90分)	当日の講義内容確認は小テストで、前回の確認は、要約を配布する(90分)
11	神経とホルモン、下垂体	講義内容は、互いに関連がある。講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく(90分)	当日の講義内容確認は小テストで、前回の確認は、要約を配布する(90分)
12	腎臓	講義内容は、互いに関連がある。講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく(90分)	当日の講義内容確認は小テストで、前回の確認は、要約を配布する(90分)
13	消化器1 消化管	講義内容は、互いに関連がある。講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく(90分)	当日の講義内容確認は小テストで、前回の確認は、要約を配布する(90分)
14	消化器2 肝臓と膵臓	講義内容は、互いに関連がある。講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく(90分)	当日の講義内容確認は小テストで、前回の確認は、要約を配布する(90分)
15	免疫	講義内容は、互いに関連がある。講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく(90分)	当日の講義内容確認は小テストで、前回の確認は、要約を配布する(90分)
16	定期試験 60分の試験終了後、残り30分で解説を行う。 授業改善アンケートの実施	試験準備(90分)	定期試験内容を参考として、ヒトが生きていく仕組みについて、参考になる読書をする(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	プロダクトデザイン (科目ナンバリング: DES222026)				
授業担当者(所属・職名)	林 春生(デザイン学科・教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 林 春生)	CAP制	X		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザイン実務経験40年間を活かしたプロダクトデザイン講義である。		
オフィスアワー	研究室前の掲示板を参照の事				

概要

履修目標

モノ、コト、商品等をデザインするプロダクトデザイナーになる為に必要な知識、技術、プロセスを習得する。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP (1)(3)(5) に対応する。

到達目標

プロダクトデザイナーとしてモノの見方、考え方、問題解決の為のアイデア展開、造形力、表現技術、プレゼンテーション技術を習得する。

授業全体の内容と概要

デザインするテーマをマーケットリサーチし、現状を把握、問題点抽出、アイデア展開、造形、ボスター等、表現方法を考察、可視化しプレゼンテーションして第三者の意見を考察し、自分の力量を認識する。

授業の方法

課題に沿ってマーケットリサーチをグループで行い、現状とモノの潜在価値を把握する。問題点を抽出しアイデアを発想し、デザインして第三者にプレゼンテーションする。ディスカッションをして自分の考察し、デザインの深さを認識する。

アクティブラーニングの実施方法

<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL
<input type="checkbox"/>	模範授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業
<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

積み重ねの授業ですので、欠席するとついていけなくなる。欠席しないように。履修者は鉛筆(ハイユニA3-B4)、PM-PAD A3(マーカー用紙)、コピックマーカー(クールグレイC1-C8,黒)、バスタル用意の事。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は20回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	80%	0%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
モノの本質を捉え、新しい価値を創り出せる。	モノの本質を完璧に捉え、新しい価値を創造出来た。	モノの本質を上手く捉え、今まで以上の価値を創造出来た。	モノの本質を捉え、今まで以上の価値を創造出来た。	モノの本質を捉え、価値を創造出来た。	モノの本質を捉えられず、価値を創造出来なかった。
問題解決のアイデアを出せる。	問題解決のアイデアを完璧に出し、従来の価値以上のものを創造することに繋がられた。	問題解決のアイデアを上手く出し、従来の価値以上のものを創造できた。	問題解決のアイデアを出し、従来の価値以上のものを創造できた。	問題解決のアイデアを幸うじて出し、従来の価値以上のものを発想できた。	問題解決のアイデアが出せない、従来の価値以上のものを作ることが出来なかった。
新デザインを提案することが出来る。	自分のアイデアを完璧に可視化出来て、造形力やアプローチも完璧である。周りを巻き込む力があった。	自分のアイデアを上手に可視化出来て、造形力やアプローチも上手であった。	自分のアイデアを可視化出来て、造形力やアプローチも出来た。	自分のアイデアを幸うじて可視化出来て、造形力やアプローチも幸うじて出来た。	自分のアイデアを可視化出来ず、造形力やアプローチも出来なかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	プロダクトデザイン (科目ナンバリング: DES222026)				
授業担当者(所属・職名)	林 春生(デザイン学科・教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 林 春生)	CAP制	X		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザイン実務経験40年間を活かしたプロダクトデザイン講義である。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明 プロダクトデザインとは デザインテーマ表	プロダクトデザインとは?調べておく、シラバスを読む。(45分)	プロダクトデザインとは?調べておく、シラバスを読む。(45分)
2	マーケットリサーチ 潜在意識探求、問題点抽出	プロダクトデザインとは?調べておく、シラバスを読む。(45分)	プロダクトデザインとは?調べておく、シラバスを読む。(45分)
3	グループに分かれてブレインストーミング	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
4	マーケットチャート作成	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
5	まとめ グループごとに見解を発表	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
6	問題定義から解決アイデアを展開 アイデアスケッチスタート	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
7	アイデアスケッチ 多様な方向でスケッチする	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
8	アイデアスケッチまとめ1	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
9	アイデアスケッチ1プレゼンテーション 第三者の意見を汲む	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
10	アイデアスケッチ2 改良し新しい価値を入れ込む	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
11	アイデアスケッチ2まとめ 第三者に伝えるように	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
12	アイデアスケッチ2プレゼンテーション デザイン審議会	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
13	デザイン方向決定 デザイン作業、最終デザインの検討	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
14	デザイン作業 アイデアスケッチから起こす	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
15	デザイン作業 アイデアの中から気づきを探す	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
16	デザイン作業 コンセプトを決める	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17	デザイン審査 自分で評価を下す。	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
18	デザイン再考 自分で否定して もう一度、再考する。	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
19	デザイン修正 完成度を上げる。	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
20	デザイン完成 確認	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
21	レンダリング 特徴が出ているか?	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
22	レンダリング 構図は良いか	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
23	レンダリング 使用する色味の吟味	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
24	レンダリング 適した手法か?	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
25	レンダリング 完成度をあげる	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
26	レンダリング 細かい調整	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
27	レンダリングを完成させる	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
28	ポスター作成 プレゼンボード作成	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
29	ポスター作成 プレゼンボード作成 第三者に伝えるか	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
30	ポスター作成 プレゼンボード作成 最後のチェック	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
31	プレゼンテーション 第三者の意見をしっかりと聞く。	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
32	総評 授業改善アンケートの実施	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	授業全体を俯瞰して、今後の計画を考察する。(45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科（スポーツマネジメントコース）・3		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	衛生学及び公衆衛生学（科目ナンバリング：SOM522065/2023年度以降SOM422125）				
授業担当者（所属・職名）	宮崎 剛司（社会福祉学科・講師）	研究室等所在	1号館2階常勤講師室		
単位数	2（単位認定責任者：宮崎 剛司）	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	保健師として従事した経験から、衛生学を主に感染や健康被害などから集団全体における予防・健康増進について学びます。		
オフィスアワー	研究室前の掲示板等を参照				

概要

履修目標

健康管理および疾病予防の実践につなげる衛生学、公衆衛生の取り組みの現状について、国民衛生の動向や健康日本21から現在の日本人の健康状態について理解し、その後生活習慣病や感染症などの疾病の原因そして予防方法、また環境要因と健康の関連性などについて理解を深める。

授業の位置づけ

経営学科のDP（1）と（2）と（3）と（4）に対応する。

到達目標

健康を保持・増進するための具体的な支援として、健康と環境の両側面から理解を深める。健康な生活と疾病予防についての衛生及び公衆衛生の地域保健の具体的な取り組みについて理解する。

授業全体の内容と概要

各ライフステージにおける特徴的な健康問題および対策の現状について、衛生統計、地域保健の取り組みの現状や事例を通して理解を確かなものにする。

授業の方法

各ライフステージにおける健康問題の現状等は主として統計資料及びパワーポイントを用いて説明し、加えて視聴覚メディア、具体的な取り組み事例を提示して、学生自身の健康問題の予防及び改善に関する考えについてグループワークとプレゼンテーションを行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

遅刻は講義開始後10分までとし、その時間以降の受講は欠席扱いとする。なお、私的都合による3回以上の欠席は単位を認定しない。公欠及び病欠は大学で認められているものに準ずることとし、その場合は欠席課題を提出する。不測の事態にはオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（保健体育）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な出席回数は、11回以上。復習を中心に毎回の授業内容を自分で応用できるようにする。授業時間と同様の復習および次回の授業に向けた予習時間を確保するようにする。また、各ライフステージにおける健康問題の現状と課題、行政の取り組みに関するレポートを計2回提出する。なお、毎回、次の学習内容に関わる予習課題を提示するので、予習課題を調べて提出する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	50%	30%	0%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
健康管理および疾病予防の実践につなげる衛生学、公衆衛生の取り組みの意義、目的について理解できている。	疾病及び健康課題の変遷から衛生学及び公衆衛生学の歴史と現状を踏まえ、健康課題の改善、取り組み取組みに関する資料を整理、解釈できていた。	疾病及び健康課題の現状と衛生学及び公衆衛生学の取組みを関連づけて説明できていた。	衛生学及び公衆衛生学の意義、目的について説明できていた。	衛生学及び公衆衛生学の取組みの現状について列挙できていた。	衛生学及び公衆衛生学の取組みの現状について列挙できていなかった。
各ライフステージにおける健康課題について理解できている。	各ライフステージに特徴的な健康課題の変遷及び現状について資料を解釈し、主体と環境の両側面から健康課題の改善、予防について自分の考えを伝えることができていた。	各ライフステージに特徴的な健康課題の現状について資料を整理し、健康課題の改善、予防について自分の考えを伝えることができていた。	各ライフステージに特徴的な健康課題の現状について資料を整理できていた。	健康課題の現状について列挙できていた。	健康課題の現状について列挙できていなかった。
地域ごとに特徴的な健康課題の現状について理解できている。	地域ごとに異なる健康課題の特徴について資料を基に自分の考えを整理し、主体と環境の両側面から健康課題の改善、予防について自分の考えを伝えることができていた。	地域ごとに異なる特徴的な健康課題の現状について資料を整理し、健康課題の改善、予防について自分の考えを伝えることができていた。	地域ごとの健康課題の特徴について資料を基に整理できていた。	地域に特徴的な健康課題について列挙できていた。	各々が抱えている健康課題について列挙できていなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科（スポーツマネジメントコース）・3		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	衛生学及び公衆衛生学（科目ナンバリング：SOM522065/2023年度以降SOM422125）				
授業担当者（所属・職名）	宮崎 剛司（社会福祉学科・講師）	研究室等所在	1号館2階常勤講師室		
単位数	2（単位認定責任者：宮崎 剛司）	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	保健師として従事した経験から、衛生学を主に感染や健康被害などから集団全体における予防・健康増進について学びます。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『シンプル衛生公衆衛生学 2022』	辻一郎、小山洋	南光堂	2022	978-4-524-23156-0	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『図説 国民衛生の動向 2022/2023』	一般財団法人厚生労働統計協会	一般財団法人 厚生労働統計協会	2022	978-4-87511-872-5	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 オリエンテーション、日本における健康問題の現状	シラバスを熟読し、本講義について理解しておくこと。（90分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
2	公衆衛生学序論 - 公衆衛生の目的と内容 -	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
3	公衆衛生学序論 - 疫学の方法・調査方法 -	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
4	疾病予防と健康管理（ ）母子保健の現状と取組み	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
5	疾病予防と健康管理（ ）：学校保健の現状と取組み	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
6	疾病予防と健康管理（ ）：成人・老人保健の現状と取組み	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
7	疾病予防と健康管理（ ）：産業保健の現状と取組み	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
8	病予防と健康管理（ ）：感染症と現状の予防	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
9	環境保健（ ）環境因子による健康影響と評価	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
10	環境保健（ ）健康を守り育てるための環境条件	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
11	老人保健福祉・地域保健と衛生行政	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
12	老人保健福祉・地域保健と衛生行政	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
13	介護保険制度の現状と課題	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
14	精神保健、保健医療の制度と法規	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
15	国際保健：各国における健康課題の現状と取組み	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
16	まとめ 授業改善アンケートの実施	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	講義全体をふりかえり、まとめを行うこと。（90分）

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	二級建築士演習 (科目ナンバリング: SEM324070)				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 善太郎(建築学科・教授)・向井 正伸(建築学科・専任講師)		研究室等所在	2号館6階	
単位数	1 (単位認定責任者: 佐藤 善太郎)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	向井 正伸(建築学科・専任講師)実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	設計事務所に勤めた経験を活かして実践的な授業を展開していく。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

「資格が無ければ食えない」とも言われる建設業界でその根幹である建築士、その中でも大学卒業後すぐに受験可能な2級建築士試験の学科「建築構造」にターゲットを絞り、その傾向と対策を学ぶ。

授業の位置づけ

建築学科のDP(1)、(2)に対応する。

到達目標

提示された建築士の過去問題に対し出題者の意図を探り、試験の決まりごとや回答上の留意点を解説等をもとに理解できる。

授業全体の内容と概要

2級建築士学科試験学科に出題される過去問題の回答・解説について網羅する。「SDG11・住み続けられるまちづくりを」の関連授業

授業の方法

テキストや配布資料をもとに、視聴覚資料も交えて過去問を中心とした出題傾向を分析し、確認のために回答した設問の解説を毎回おこなう。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

資格試験対策は、通常授業とはそのアプローチも異なり、そして学習方法もちがう。しかし3年生までの専門科目の集大成と総まとめとして、そして建築士は建築学科出身の学生には選ばれては通れないものなので、覚悟を以って取り組んで欲しい。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

原則毎回出席すること(最低出席回数11回以上)

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	0%	100%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
構造力学の用語の定義と構造力学の解法の理解	構造力学の用語の定義と構造力学の解法の理解に関する問題をすべて正確に解くことができた。	構造力学の用語の定義と構造力学の解法の理解に関する問題を正確に解くことができた。	構造力学の用語の定義と構造力学の解法の理解に関する問題をほぼ正確に解くことができた。	構造力学の用語の定義と構造力学の解法の理解に関する問題を解くことができた。	構造力学の用語の定義と構造力学の解法の理解に関する問題を解くことができなかった。
各種構造、工法の用語の定義と各種構造、工法の性状理解	各種構造、工法の用語の定義と各種構造、工法に関する問題をすべて正確に解くことができた。	各種構造、工法の用語の定義と各種構造、工法に関する問題を正確に解くことができた。	各種構造、工法の用語の定義と各種構造、工法に関する問題をほぼ正確に解くことができた。	各種構造、工法の用語の定義と各種構造、工法に関する問題を解くことができた。	各種構造、工法の用語の定義と各種構造、工法に関する問題を解くことができなかった。
各種建築材料の用語の定義と各種建築材料の性質理解	各種建築材料の用語の定義と各種建築材料の性質理解に関する問題をすべて正確に解くことができた。	各種建築材料の用語の定義と各種建築材料の性質理解に関する問題を正確に解くことができた。	各種建築材料の用語の定義と各種建築材料の性質理解に関する問題をほぼ正確に解くことができた。	各種建築材料の用語の定義と各種建築材料の性質理解に関する問題を解くことができた。	各種建築材料の用語の定義と各種建築材料の性質理解に関する問題を解くことができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	二級建築士演習 (科目ナンバリング: SEM324070)				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 善太郎(建築学科・教授)・向井 正伸(建築学科・専任講師)		研究室等所在	2号館6階	
単位数	1 (単位認定責任者: 佐藤 善太郎)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	向井 正伸(建築学科・専任講師)実務経験あり 左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 設計事務所に勤めた経験を活かして実践的な授業を展開していく。				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明。静定構造物・反力・応力 授業改善アンケート結果反映の説明	オリエンテーション時に配布された資料の熟読(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
2	静定ラーメン・静定トラス	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
3	断面の性質	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
4	応力度と許容応力度	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
5	座屈・変形	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
6	地震力	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
7	風圧力	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
8	荷重・外力融合	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
9	地盤・基礎構造	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
10	木構造 耐力壁・接合法	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
11	R C造 構造設計・各部の設計	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
12	S造 構造設計・接合部	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
13	その他構造 壁式鉄筋コンクリート構造・補強コンクリートブロック造・組積造	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
14	建築材料 木材・セメント・骨材・コンクリート	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
15	建築材料 金属・ガラス・材料融合 授業改善アンケートの実施	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
16	実力診断試験・解説	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	『専門科目』	対象学科・配当	『経営学科・3年』		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	『必修』
科目名称	体育史 (科目ナンバリング: SPS522061/2023年度以降SPS422116)				
授業担当者(所属・職名)	『尾西則昭(社会福祉学科・特任教授)』	研究室等所在	『1号館2階』		
単位数	2 (単位認定責任者: 『尾西則昭』)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

近代体育に、スポーツの特徴とその成立過程を学び、ヨーロッパの近代体育の成立・展開過程を踏まえて、日本の近代体育の成立・展開過程についての認識を深め、体育の特徴と相違点について理解する。

授業の位置づけ

経営学科のDP(1)(2)(4)(5)に対応する。

到達目標

- ・我が国ならびに欧米における学校体育出現について理解している。
- ・時代背景や因果関係をおさえながら体育・スポーツの発展・展開について具体例を示しながら説明できる。
- ・近代オリンピック復興の思想について説明できる。
- ・オリンピック・ムーブメントの概念と内容について説明できる。

授業全体の内容と概要

体育・スポーツの歴史について、主に日本や欧米諸国の通史を概説する。また、体育・スポーツと関連のある歴史にも触れ、広範な知識を身に付ける。  
『SDG3: すべての人に健康と福祉を』の関連授業科目。

授業の方法

- ・資料に基づき、講義とパワーポイントによる解説を中心としながら授業を進める。
- ・毎時間、学修した内容を確認するためのミニレポートを課す。
- ・パワーポイントで1人1回課題を発表する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
○	模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
○	ディスカッション	実験・実習・実技	○	双方向授業
				その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

- ・積極的に取り組むことを期待します。
- ・20分以上の遅刻は欠席とみなします。
- ・中間テストを行います。
- ・授業中の飲食および携帯電話の使用は厳禁。
- ・災害等不測の事態によりオンラインで授業する場合もある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数13回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70%	0%	0%	20%	10%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
体育およびスポーツに対する概念理解	体育・スポーツについての概念について深く理解できる。	体育・スポーツについての概念についておおむね理解できる。	体育・スポーツについての概念について理解できる。	体育・スポーツについての概念について多少理解できる。	体育・スポーツについての概念について理解できない。
オリンピックの歴史と定義と理解	オリンピックの歴史について知識を深く理解できる。	オリンピックの歴史について知識をおおむね理解できる。	オリンピックの歴史について知識を理解できる。	オリンピックの歴史について知識を多少理解できる。	オリンピックの歴史について知識を理解できない。
スポーツ競技の歴史の知識と理解	各スポーツ競技の歴史について深く理解できる。	各スポーツ競技の歴史についておおむね理解できる。	各スポーツ競技の歴史について理解できる。	各スポーツ競技の歴史について多少理解できる。	各スポーツ競技の歴史について理解できない。



基本情報

科目分類区分	『専門科目』	対象学科・配当	『経営学科・3年』		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	『必修』
科目名称	体育史 (科目ナンバリング:SPS522061/2023年度以降SPS422116)				
授業担当者(所属・職名)	『尾西則昭(社会福祉学科・特任教授)』	研究室等所在	『1号館2階』		
単位数	2 (単位認定責任者:『尾西則昭』)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『体育史講義』	岸野雄三	大修館書店	1984年	978-4-469-26101-1	
2	『体育・スポーツ史概論』	木村吉次	市村出版	2001年	978-4-902109-39-9	
3	『資料配布』					
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス「シラバス説明」 「授業改善アンケート結果反映の説明」	事前にシラバスを読んで確認する。 (90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (90分)
2	体育・スポーツの歴史を学ぶ意義	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (90分)
3	競技の歴史調査	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (90分)
4	競技の歴史調査	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (90分)
5	競技の歴史調査	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (90分)
6	競技の歴史調査	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (90分)
7	競技の歴史発表	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (90分)
8	競技の歴史発表	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (90分)
9	古代オリンピックと近代オリンピック	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (90分)
10	オリンピックの歴史	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (90分)
11	オリンピックの歴史	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (90分)
12	我が国における体育・スポーツ	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (90分)
13	女性とスポーツ	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (90分)
14	スポーツとメディア	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (90分)
15	各県のスポーツ史 「授業改善アンケートの実施」	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。 (90分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (90分)
16	まとめ	ノートに記載された内容を復習し、理解する。 (90分)	解説の内容を確認する。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	プロダクトデザイン (科目ナンバリング: DES223028)				
授業担当者(所属・職名)	林 春生(デザイン学科・教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 林 春生)	CAP制	X		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザイン実務経験40年間を活かしたプロダクトデザイン講義です。		
オフィスアワー	研究室前の掲示板参照				

概要

履修目標

モノ、コト、商品をデザインする、プロダクトデザイナーになる為に必要な知識、技術、人間力を習得する。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP (1) (3) (5) に対応する。

到達目標

プロダクトデザイナーとしてモノの見方、考え方、問題解決のためのアイデア展開、造形力、表現技術、プレゼンテーション技術、デザイナーとしての人間力を習得する。

授業全体の内容と概要

デザインするテーマをマーケットリサーチし、現状を把握、問題点抽出、アイデア展開、造形、ポスター等、表現方法を考察、プレゼンテーションして第三者の意見を考察し、自分の力量を認識する。

授業の方法

課題に沿ってマーケットリサーチをグループでしてモノの潜在価値を把握する。問題点を抽出しアイデアを発想し、デザインして第三者にプレゼンテーションする。ディスカッションをして自分の考察し、デザインの深さを認識する。

アクティブラーニングの実施方法

<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL
<input type="checkbox"/>	模擬授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業
<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

授業は積み重ねの学習となる為、欠席しないようすること。  
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は20回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	80%	0%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
モノの本質を捉え、新しい価値を創り出せる。	モノの本質を完璧に捉え、今まで以上の価値を完璧に創造出来た。	モノの本質を上手に捉え、今まで以上の価値を高められた。	モノの本質を捉え、今まで以上の価値を出せた。	モノの本質を幸うして捉え、今まで以上の価値を出せた。	モノの本質を捉えられない、今まで以上の価値を出せなかった。
問題解決のアイデアを出せる。	問題解決のアイデアを完璧に出せる。従来の価値以上のものを創造出来た。	自分のアイデアを上手く具現化出来て、造形力やアプローチも上手であった。	自分のアイデアを具現化出来て、造形力やアプローチも出来た。	自分のアイデアを幸うして具現化出来て、造形力やアプローチも幸うして出来た。	自分のアイデアを具現化出来ない、造形力やアプローチも出来なかった。
新デザインを提案出来る	自分のアイデアを完璧に具現化出来て、造形力やアプローチも完璧であった。	自分のアイデアを上手く具現化出来て、造形力やアプローチも上手であった。	自分のアイデアを具現化出来て、造形力やアプローチも出来た。	自分のアイデアを幸うして具現化出来て、造形力やアプローチも幸うして出来た。	自分のアイデアを具現化出来ない、造形力やアプローチも出来なかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	プロダクトデザイン (科目ナンバリング: DES223028)				
授業担当者(所属・職名)	林 春生(デザイン学科・教授)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 林 春生)	CAP制	X		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザイン実務経験40年間を活かしたプロダクトデザイン講義です。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明 プロダクトデザインとは デザインテーマ表	プロダクトデザインとは?調べておく、シラバスを読む。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
2	マーケットリサーチ 潜在意識探求、問題点抽出	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
3	グループに分かれてブレインストーミング	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
4	マーケットチャート作成	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
5	まとめ グループごとに見解を発表	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
6	問題定義から解決アイデアを展開 アイデアスケッチスタート	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
7	アイデアスケッチ	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
8	アイデアスケッチまとめ1	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
9	アイデアスケッチ1プレゼンテーション	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
10	アイデアスケッチ2	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
11	アイデアスケッチ2まとめ	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
12	アイデアスケッチ2プレゼンテーション デザイン審議会	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
13	デザイン方向決定 デザイン作業	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
14	デザイン作業 コンセプト確認	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
15	デザイン作業 造形確認	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
16	デザイン作業 プレゼンの方法を考える	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17	デザイン審査	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
18	デザイン再考 第三者の意見を汲む	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
19	デザイン修正	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
20	デザイン修正 自分の意志は反映されているか確認	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
21	レンダリング 構図を考える	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
22	レンダリング 商品の特徴が出ているか	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
23	レンダリング 効果的な表現か	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
24	レンダリング 色味、色彩構成確認	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
25	レンダリング 第三者に伝わるか	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
26	レンダリングフィニッシュに向ける	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
27	レンダリング完成させる	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
28	ポスター作成 プレゼンボード作成	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
29	ポスター作成 プレゼンボード作成 レイアウト等考察	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
30	ポスター作成 プレゼンボード作成 見せ方を考える	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
31	プレゼンテーション	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	世の中の製品を良く調べておく。(45分)
32	総評 授業改善アンケートの実施	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	授業全体を俯瞰して、今後の計画を考察する。(45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	学校保健 (科目ナンバリング: AHS522063/2023年度以降AHS422118)				
授業担当者(所属・職名)	天野 雅斗(経営学科・専任講師)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 天野 雅斗)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

学校保健活動を構成する「保健管理」と「保健教育」の二大領域とこれらの円滑な運営のための保健組織活動について、それぞれに含まれる「健康管理・環境管理」、「保健学習・保健指導」の具体的な活動内容と法的背景、またこれを支える組織・体系等について学習・理解する。

授業の位置づけ

経営学科のDP(2)(3)(4)に対応する。

到達目標

児童、生徒の健康問題の解決、改善に関わる学校保健活動について、具体的な取り組みについて理解し、学校教育活動の実践との繋がりを理解する。

授業全体の内容及概要

児童、生徒の健康問題の現状、改善、解決に向けた学校保健の取り組みについて、実態把握、学校における児童、生徒の具体的な例をもとに討議をまじえ、学校保健に関する知識を身につける。

授業の方法

児童、生徒の健康問題の現状等については主としてパワーポイントを用いて説明し、加えて視聴覚メディア、具体的事例の提示、アンケート調査結果から学生自身の考えについてグループワークを行い理解を深める。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

遅刻は講義開始後20分までとし、その時間以降の受講は欠席扱いとする。公欠及び病欠は大学で認められているものに準ずることとし、その場合は欠席課題を提出する。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(保健体育)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な出席回数は、13回以上。  
復習を中心に毎回の授業内容を自分で応用できるようにする。授業時間と同様の復習および次回の授業に向けた予習時間を確保するようにする。毎回、小テストを実施し理解度を評価する。次回の学習内容に関わる予習課題を提示するのでしっかり取り組むこと。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
30%	0%	40%	0%	30%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にいるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
学校保健活動の領域構成について理解できている。	学校における子どもの安全、健康問題の現状と現状を踏まえ、健康問題の予防、改善の取組みについて「保健教育」「保健管理」「組織活動」の学校保健3領域と関連づけて具体的な活動内容例も含めて説明できている。	学校における子どもの安全、健康問題の現状と取組みについて「保健教育」「保健管理」「組織活動」の学校保健3領域と関連づけて具体的な活動内容例を列挙しながら説明できている。	学校における子どもの安全、健康問題の現状と取組みについて「保健教育」「保健管理」「組織活動」の各領域ごとに列挙できている。	学校における子どもの安全、健康問題の現状について列挙できている。	学校における子どもの安全、健康問題の現状について列挙できていなかった。
学校保健活動に係る法的根拠と具体的な活動について理解できている。	教育基本法、学校教育法、学校保健安全法の歴史的変遷を踏まえ、子どもの安全、健康にかかわる学校保健活動の法的根拠を整理し、具体的な活動内容について各法と学校保健活動の3領域を関連づけながら説明できている。	教育基本法、学校教育法、学校保健安全法に記されている内容を基に、子どもの安全、健康にかかわる学校保健活動について各法との関わりを整理できている。	学校保健安全法と学校における子どもの安全、健康にかかわる学校保健活動を関連づけて整理できている。	学校保健安全法における子どもの安全、健康にかかわる学校保健活動について列挙できている。	子どもの安全、健康にかかわる学校保健活動の根拠となる関連法規、具体的な学校保健活動について列挙できていなかった。
子どもの安全、健康問題の予防、改善につなげるための個別ならびに集団に対する具体的な支援について理解できている。	子どもの発達特徴を踏まえ、校種ごとに特徴的な安全、健康問題を関連づけながら整理し、予防、改善につなげるための具体的な個別、集団保健指導について自分の考えやアイデアを根拠を持って相手に伝えることができていた。	子どもの発達特徴を踏まえ、校種ごとに特徴的な安全、健康問題を関連づけながら整理し、予防、改善につなげるための具体的な個別、集団保健指導について自分の考えをまとめることができていた。	校種ごとに特徴的な安全、健康問題の把握と予防、改善に向けた取り組みについて、主として個別保健指導の観点から自分の考えをまとめることができていた。	校種ごとに特徴的な安全、健康問題の把握と予防、改善に向けた取り組みの現状について列挙できている。	校種ごとに特徴的な安全、健康問題の把握と予防、改善に向けた取り組みの現状について列挙できていなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	学校保健 (科目ナンバリング: AHS522063/2023年度以降AHS422118)				
授業担当者(所属・職名)	天野 雅斗(経営学科・専任講師)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 天野 雅斗)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『学校保健ハンドブック 第7次改訂』	教員養成系大学保健協議会	株式会社ぎょうせい	2019	9784324105771	
2	『新版 学校保健 チームとしての学校で取り組むヘルスプロモーション』	徳山美智子ほか	東山書房	2019	9784827815702	
3	『学校保健』	門田新一朗、大津一義	大学教育出版	2016	9784864294102	
4	『学校保健統計調査』	文部科学省	双葉レイアウト	2019	9784990813048	
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス、シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明、学校保健の意義	シラバスを熟読し、本講義について理解しておくこと。(90分)	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。(90分)
2	学校保健の仕組み(担い手、組織活動、計画、行政)	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(90分)	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。(90分)
3	健康の考え方、学校保健の歴史と課題	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(90分)	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。(90分)
4	育成すべき保健の学力とその学習の進め方	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(90分)	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。(90分)
5	保健の担当教員として求められる力量形成	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(90分)	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。(90分)
6	学校の教育活動全体を通して行う健康に関する指導	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(90分)	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。(90分)
7	学校における性教育	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(90分)	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。(90分)
8	喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(90分)	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。(90分)
9	食育、がん教育	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(90分)	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。(90分)
10	児童生徒の発育発達、疾病・異常、感染症	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(90分)	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。(90分)
11	精神の健康、児童生徒の自殺、いじめ問題	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(90分)	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。(90分)
12	児童生徒の健康状態の把握と指導	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(90分)	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。(90分)
13	障害のある児童生徒への健康上の支援	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(90分)	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。(90分)
14	学校環境衛生、学校安全	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(90分)	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。(90分)
15	応急手当 授業改善アンケートの実施	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。(90分)	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。(90分)
16	定期試験	教科書等を活用し、試験内容に関連する事項について事前に復習しておく。(90分)	講義全体をふりかえり、まとめを行うこと。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

## 基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	建築積算 (科目ナンバリング: BSM324030)				
授業担当者(所属・職名)	佐々木 哲之(建築学科・特任教授)	研究室等所在	1号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者: 佐々木 哲之)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	建築設計事務所に勤務していたころ、設計物件に対する積算業務を行っていた。		
オフィスアワー	研究室前の掲示板等を参照				

## 概要

履修目標
建築積算は建築物を造るために必要な費用を算出し、かつ予測することにある。近年の建築をめぐる社会経済情勢の変化が激しい中、建築物のコスト管理はますます重要になっている。そこで国土交通省大臣官房官庁普通部監修の「建築数量積算基準」、建築工事内訳書標準書式」に基づく積算数量の正確な計算方法を習得する。
授業の位置づけ
建築学科のDP(1),(2)に対応する。

到達目標
建築投資のコスト面を支える建築積算の意義を知り、建築生産の中で、数量の算出がいかに重要な役割を担っているかを理解できる。さらに、建築数量積算基準を習得し建築資材などの数量算出と積算ができる。

授業全体の内容と概要
建築工事の各工法の理解度を高め、使用材料の数量積算を行う。現場で使われている道具、材料など細部にわたりプロジェクターなどにより説明を行う。建築産業を支える建築積算の意義と役割並びに建築工事費の構成を学ぶ。

授業の方法
テキストに加えて、プロジェクターによる画像、図表で解説するので、ノートに講義内容と資料を整理すること。また各単元ごとに演習課題出題し、提出してもらう。課題返却後、それを解説する。

アクティブラーニングの実施方法			
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
講義にはテキスト、ノート、電卓は必ず持参し、講義内容と資料を整理すること。4回目以降は演習課題を実施し、課題提出の評価配分は高いので遅刻、欠席には注意すること。 30分以上の遅刻は欠席とする。また、遅刻3回で欠席1回とみなすので注意すること。 不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
「建築士試験受験資格課程」選択科目

## 評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	0%	40%	0%	0%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
建築積算に関わる基礎的知識について	知識を十分に習得しており、それを応用でき、説明・解説ができた。	知識を十分に習得しており、それを応用できた。	知識を十分に習得していた。	基礎的な知識を理解できていた。	基礎的な知識が不足していた。
土工事・地業工事の数量積算に関する知識や計算について	知識を十分に習得して計算ができた。さらにそれを応用でき、説明・解説ができた。	知識を十分に習得して計算ができた。さらにそれを応用できた。	知識を習得して計算ができた。さらにそれを十分ではないが応用できた。	知識を習得して計算ができた。	知識が不足し計算ができなかった。
躯体工事の数量積算に関する知識や計算について	知識を十分に習得して計算ができた。さらにそれを応用でき、説明・解説ができた。	知識を十分に習得して計算ができた。さらにそれを応用できた。	知識を習得して計算ができた。さらにそれを十分ではないが応用できた。	知識を習得して計算ができた。	知識が不足し計算ができなかった。
仕上げ工事の数量積算に関する知識や計算について	知識を十分に習得して計算ができた。さらにそれを応用でき、説明・解説ができた。	知識を十分に習得して計算ができた。さらにそれを応用できた。	知識を習得して計算ができた。さらにそれを十分ではないが応用できた。	知識を習得して計算ができた。	知識が不足し計算ができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	建築積算 (科目ナンバリング: BSM324030)				
授業担当者(所属・職名)	佐々木 哲之(建築学科・特任教授)	研究室等所在	1号館4階		
単位数	2 (単位認定責任者: 佐々木 哲之)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 建築設計事務所に勤務していたころ、設計物件に対する積算業務を行っていた。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『基準にもとづく建築積算入門』	赤堀弘	彰国社	2013	978-4-395-00921-3	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『建築数量積算基準・同解説』	日本建築積算協会	建築コスト管理システム研究所	2017	4-8028-8979-8	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 建築産業界を支える建築積算の意義と役割	シラバスにより次回の部分を予習すること(90分)	授業内容を復習すること(90分)
2	コストプランニング, コストコントロール, 施工発注方式・請負契約	次回の授業範囲を予習すること(90分)	授業内容を復習し, 特に専門用語を確認すること(90分)
3	建築工事費の構成	次回の授業範囲を予習すること(90分)	授業内容を復習し, 特に専門用語を確認すること(90分)
4	積算数量: 設計数量, 所要数量, 計画数量	次回の授業範囲を予習すること(90分)	授業内容を復習し, 特に専門用語を確認すること(90分)
5	建築数量積算基準 1 土工・地業の数量積算	次回の授業範囲を予習すること(90分)	授業内容を復習し, 特に専門用語を確認すること(90分)
6	建築数量積算基準 2 躯体の定義と区分, 計測・計算の共通事項	次回の授業範囲を予習すること(90分)	授業内容を復習し, 特に専門用語を確認すること(90分)
7	建築数量積算基準 3 コンクリート・型枠の計測・計算	次回の授業範囲を予習すること(90分)	授業内容を復習し, 特に専門用語を確認すること(90分)
8	建築数量積算基準 4 コンクリート・型枠の計測・計算	次回の授業範囲を予習すること(90分)	授業内容を復習し, 特に専門用語を確認すること(90分)
9	建築数量積算基準 5 鉄筋の数量積	次回の授業範囲を予習すること(90分)	授業内容を復習し, 特に専門用語を確認すること(90分)
10	建築数量積算基準 6 鉄骨の数量積	次回の授業範囲を予習すること(90分)	授業内容を復習し, 特に専門用語を確認すること(90分)
11	建築数量積算基準 7 仕上げの定義と区分, 計測・計算の共通事項	次回の授業範囲を予習すること(90分)	授業内容を復習し, 特に専門用語を確認すること(90分)
12	建築数量積算基準 8 仕上げ各部分の計測・計算	次回の授業範囲を予習すること(90分)	授業内容を復習し, 特に専門用語を確認すること(90分)
13	市場単価と分掛り単価	次回の授業範囲を予習すること(90分)	授業内容を復習し, 特に専門用語を確認すること(90分)
14	科目別構成比と部分別構成比	次回の授業範囲を予習すること(90分)	授業内容を復習し, 特に専門用語を確認すること(90分)
15	事例分析: 部分別数量と躯体の数量分析 授業改善アンケートの実施	次回の授業範囲を予習すること(90分)	授業内容を復習し, 特に専門用語を確認すること(90分)
16	定期試験(60分)及び解説(30分)	これまでの授業範囲を見直し予習すること(90分)	試験内容を振り返り, 特に専門用語を復習すること(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	イラスト漫画概論 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	竹内 美帆(デザイン学科・専任講師)	研究室等所在	未定		
単位数	2 (単位認定責任者: 竹内 美帆)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	マンガミュージアムでの勤務や、公的なメディア芸術関連事業に関わった経験をもとに、イラストやマンガに関わる表現や文化について講義する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

<p><b>履修目標</b></p> <p>社会や文化におけるイラスト・マンガ表現の意義や歴史、これまで問われてきたことを学び、知識や多様な視点を身に着ける。イラストやマンガをめぐる様々な現象や事象、歴史を考へることを通して、私たちがそれらの文化とどのように関わっているかを考え、当たり前だと思っていた文化を捉えなおし、語文化や社会について多様な視点から考える力を養う。</p>
<p><b>授業の位置づけ</b></p> <p>デザイン学科のD P (1) (2) (4)に対応する。</p>

<p><b>到達目標</b></p> <p>現代社会におけるメディアとしてのマンガやアニメに関わる知識を身に着け理解する。芸術・文化についての興味や関心、批判的思考を養う。自分の考えを根拠づけ明確に他者に表現する力を身につける。</p>
--

<p><b>授業全体の内容と概要</b></p> <p>これまでイラストやマンガ表現に関して問われてきたさまざまなトピックを考へることを通して、作品とその社会的位置づけについて多様な視点から考へる力を養い、自身の制作に生かす。</p>
---

<p><b>授業の方法</b></p> <p>講義形式で、パワーポイントやレジュメ、視聴覚メディア等を使って実施する。授業内のトピックについてグループワークやディスカッションも取り入れる。授業で使用する資料はTeams等の学習支援システムを活用して配布、回収するほか、学生の不明点・質問は、チャット形式などの支援システムで迅速に回答する。</p>
---

<p><b>アクティブラーニングの実施方法</b></p> <table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>○</td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>P B L</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td>○</td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		P B L	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業	○	ディスカッション	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		P B L															
模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業															
○	ディスカッション	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)															

<p><b>履修上の注意事項</b></p> <p>事前学習として、授業内で取り上げるテーマについて事前に書籍やインターネット等で予習し、事後学習として取り上げたテーマを掘り下げて調べると、より理解が深まる。授業内で提示するマンガ作品について可能な限り事前に読むか、授業で取り上げた後に読むと理解度が高まる。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。</p>
---

<p><b>修学サポート(合理的配慮)</b></p> <p>事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。</p>
--

<p><b>資格指定科目</b></p>
----------------------

評価方法・基準

<p><b>評価前提条件</b></p> <p>単位認定に必要な最低出席回数は10回以上。</p>												
<p><b>評価方法</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0%</td> <td>30%</td> <td>0%</td> <td>30%</td> <td>40%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	30%	0%	30%	40%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	30%	0%	30%	40%	0%							

<p><b>ルーブリック</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>授業内容の理解</td> <td>授業で得た用語や概念の理解を通して、社会や文化に対する深い洞察力をもって自分独自のテーマを考へてきた。</td> <td>授業で得た用語や概念の理解を通して、自分独自のテーマを考へてきた。</td> <td>授業で得た用語や概念の理解を通して、授業で示された範囲のテーマを考へてきた。</td> <td>授業で得た用語や概念が理解できた。</td> <td>授業内で使われた用語や概念の理解が不十分だった。</td> </tr> <tr> <td>批判的思考力・視点の多様性</td> <td>対象に対する、さらに自分なりの新しい視点や考へを生み出すことができた。</td> <td>授業で取り上げた内容を超えて、作品に対して多様な視点から考へることができた。</td> <td>授業で取り上げた内容に基づき、多様な視点から作品を考へることができた。</td> <td>授業で取り上げた内容に基づき、作品に対する多様な視点があることを理解できた。</td> <td>当初の意見から意見を広げたり視点を多様化させることができなかった。</td> </tr> <tr> <td>論理・文章表現力</td> <td>自身の観点から、深い洞察をもって論考を書くことができた。</td> <td>自身の観点から、充分に考へられた内容の論考を書くことができた。</td> <td>自身の観点はまだ不十分だが、充分に考へられた内容の論考を書くことができた。</td> <td>課題に応じた内容・形式の論考を書くことができた。</td> <td>課題に応じた内容・形式の論考を書くことができなかった。</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	授業内容の理解	授業で得た用語や概念の理解を通して、社会や文化に対する深い洞察力をもって自分独自のテーマを考へてきた。	授業で得た用語や概念の理解を通して、自分独自のテーマを考へてきた。	授業で得た用語や概念の理解を通して、授業で示された範囲のテーマを考へてきた。	授業で得た用語や概念が理解できた。	授業内で使われた用語や概念の理解が不十分だった。	批判的思考力・視点の多様性	対象に対する、さらに自分なりの新しい視点や考へを生み出すことができた。	授業で取り上げた内容を超えて、作品に対して多様な視点から考へることができた。	授業で取り上げた内容に基づき、多様な視点から作品を考へることができた。	授業で取り上げた内容に基づき、作品に対する多様な視点があることを理解できた。	当初の意見から意見を広げたり視点を多様化させることができなかった。	論理・文章表現力	自身の観点から、深い洞察をもって論考を書くことができた。	自身の観点から、充分に考へられた内容の論考を書くことができた。	自身の観点はまだ不十分だが、充分に考へられた内容の論考を書くことができた。	課題に応じた内容・形式の論考を書くことができた。	課題に応じた内容・形式の論考を書くことができなかった。												
評価項目		評価基準																																							
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																																				
授業内容の理解	授業で得た用語や概念の理解を通して、社会や文化に対する深い洞察力をもって自分独自のテーマを考へてきた。	授業で得た用語や概念の理解を通して、自分独自のテーマを考へてきた。	授業で得た用語や概念の理解を通して、授業で示された範囲のテーマを考へてきた。	授業で得た用語や概念が理解できた。	授業内で使われた用語や概念の理解が不十分だった。																																				
批判的思考力・視点の多様性	対象に対する、さらに自分なりの新しい視点や考へを生み出すことができた。	授業で取り上げた内容を超えて、作品に対して多様な視点から考へることができた。	授業で取り上げた内容に基づき、多様な視点から作品を考へることができた。	授業で取り上げた内容に基づき、作品に対する多様な視点があることを理解できた。	当初の意見から意見を広げたり視点を多様化させることができなかった。																																				
論理・文章表現力	自身の観点から、深い洞察をもって論考を書くことができた。	自身の観点から、充分に考へられた内容の論考を書くことができた。	自身の観点はまだ不十分だが、充分に考へられた内容の論考を書くことができた。	課題に応じた内容・形式の論考を書くことができた。	課題に応じた内容・形式の論考を書くことができなかった。																																				

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	イラスト漫画概論 (科目ナンバリング: )				
授業担当者(所属・職名)	竹内 美帆(デザイン学科・専任講師)	研究室等所在	未定		
単位数	2 (単位認定責任者: 竹内 美帆)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	マンガミュージアムでの勤務や、公的なメディア芸術関連事業に関わった経験をもとに、イラストやマンガに関わる表現や文化について講義する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『日本イラストレーション史』	美術手帖編集部	美術出版社	2010	978-4568430691	
2	『女性マンガ研究 欧米・日本・アジアをつなぐ MANGA』	大城房美編	青弓社	2015	978-4787233868	
3	『マンガ文化 55のキーワード』	竹内オサム、西原麻里編	ミネルヴァ書房	2016	978-4623075409	
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 授業のオリエンテーション 表現・メディア文化として捉えるイラスト・マンガ	シラバスを読んでおく(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(90分)
2	文化としてのマンガ・イラスト(1)グローバル化する日本の「キャラ」文化	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(90分)
3	文化としてのマンガ・イラスト(2)複製芸術としてのイラスト・マンガ 日本の雑誌文化	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(90分)
4	イラスト表現の位置づけ(1)世界のポスター文化から見たイラスト文化	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(90分)
5	イラスト表現の位置づけ(2)日本のイラストレーション史	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(90分)
6	性別文化としてのマンガ(1)「少女」という言説 少女雑誌	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(90分)
7	性別文化としてのマンガ(2)少女マンガの革新性 竹宮恵子『風と木の詩』(1976)	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(90分)
8	マンガとミュージアム(1)マンガミュージアムとは何か?	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(90分)
9	マンガとミュージアム(2)マンガミュージアムの役割	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(90分)
10	マンガとミュージアム(3)マンガ・アーカイブの意義 海外のマンガ展	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(90分)
11	震災とマンガ(1)「少女マンガ」と現実の社会問題 寺本ちづ子『デザイナー』(2012)、森屋望都『なのは』	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(90分)
12	震災とマンガ(2)他メディアとの比較 しりあがり寿『あの日からのマンガ』(2011)、竜田一人『いちえふ』(2014)	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(90分)
13	新型コロナとマンガ(1)感染症とマンガ 朱戸アオ『リウーを待ちながら』(2017)	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(90分)
14	新型コロナとマンガ(2)コロナ以降のマンガ文化	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(90分)
15	まとめ	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく(90分)	配布プリントを読み、授業内容を復習する(90分)
16	期末レポートの解説 授業改善アンケート実施	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく(90分)	これまでの授業内容を復習する(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	施工管理技士演習 (科目ナンバリング: SEM324059)				
授業担当者(所属・職名)	小笠原 健(建築学科・専任講師)	研究室等所在	2号館6階		
単位数	1 (単位認定責任者: 小笠原 健)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

二級建築施工管理技士学科試験の合格に必要な知識を修得し、学科試験に合格できる学力を修得する。

授業の位置づけ

建築学科のDP(1)(2)に対応する科目。

到達目標

国家資格である「二級建築施工管理技士」の学科試験合格できる学力を備えることができる。

授業全体の内容と概要

使用テキストに沿って「二級建築施工管理技士学科試験」項目の講義および演習問題の実施・解説を行い、建築施工管理について修得する。

授業の方法

授業は配布する各章の過去問題をテスト形式で実施し、次回にその解説を行う。事前学習と各章の小テストの解説によって理解を深める。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は11回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
100%	0%	0%	0%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
二級建築施工管理技士の学科試験に必要な知識を修得できる。	二級建築施工管理技士(学科)試験の合格に必要な知識を修得できていた。	二級建築施工管理技士(学科)試験の合格に必要な知識をおおむね修得できていた。	二級建築施工管理技士(学科)試験の合格に必要な知識を最低限修得できていた。	二級建築施工管理技士(学科)試験の合格に向けて取り組み意志があった。	二級建築施工管理技士(学科)試験の合格に必要な知識を修得できていなかった、または、取り組む意志がなかった。
共生社会の実現ならびに貢献できる人材として、建築の基礎力を養うことができる。	建築が社会で果たす役割を理解し、基礎力を修得できていた。	建築が社会で果たす役割を理解し、ある程度の基礎力を修得できていた。	建築が社会で果たす役割を理解し、最低限の基礎力を修得できていた。	建築が社会で果たす役割を理解していた。	建築が社会で果たす役割を理解していなかった。
建築技術者としての問題意識を持ち、その問題解決の意識を持つことができる。	建築についての問題意識を持ち、問題解決に向き合うことができた。	建築についての問題意識を持ち、ある程度問題解決に向き合うことができた。	建築についての問題意識を持ち、どのような問題が存在しているかを理解していた。	建築についての問題意識を持ち、問題解決の必要性を理解していた。	建築についての問題意識を持たなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	施工管理技士演習 (科目ナンバリング: SEM324059)				
授業担当者(所属・職名)	小笠原 健(建築学科・専任講師)	研究室等所在	2号館6階		
単位数	1 (単位認定責任者: 小笠原 健)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	*令和4年度 2級建築施工管理技士学科テキスト		建築資料研究社	2022		
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 授業の進め方について説明 授業改善アンケート結果に関する説明(小笠原)	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する(45分)	授業内容を整理して、復習する(45分)
2	施工管理法 - 問題・解説(品質管理・安全管理)	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する(45分)	授業内容を整理して、復習する(45分)
3	躯体工事 - 問題(地盤調査・仮設工事・土工事・山留工事・基礎工事)	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する(45分)	授業内容を整理して、復習する(45分)
4	躯体工事 - 解説(地盤調査・仮設工事・土工事・山留工事・基礎工事)	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する(45分)	授業内容を整理して、復習する(45分)
5	躯体工事 - 問題(鉄筋工事・型枠工事・コンクリート工事)	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する(45分)	授業内容を整理して、復習する(45分)
6	躯体工事 - 解説(鉄筋工事・型枠工事・コンクリート工事)	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する(45分)	授業内容を整理して、復習する(45分)
7	躯体工事 - 問題(鉄骨工事・その他工事・建設機械・器具)	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する(45分)	授業内容を整理して、復習する(45分)
8	躯体工事 - 解説(鉄骨工事・その他工事・建設機械・器具)	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する(45分)	授業内容を整理して、復習する(45分)
9	仕上げ工事 - 問題(防水工事・シーリング・屋根工事・左官工事・塗装工事・吹き付け工事)	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する(45分)	授業内容を整理して、復習する(45分)
10	仕上げ工事 - 解説(防水工事・シーリング・屋根工事・左官工事・塗装工事・吹き付け工事)	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する(45分)	授業内容を整理して、復習する(45分)
11	仕上げ工事 - 問題(張り石工事・タイル工事・ガラス・建具工事・カーテンウォール工事・木工事・金属工事)	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する(45分)	授業内容を整理して、復習する(45分)
12	仕上げ工事 - 解説(張り石工事・タイル工事・ガラス・建具工事・カーテンウォール工事・木工事・金属工事)	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する(45分)	授業内容を整理して、復習する(45分)
13	仕上げ工事 - 問題(内装工事・その他仕上げ工事・ALCパネル工事)	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する(45分)	授業内容を整理して、復習する(45分)
14	仕上げ工事 - 解説(内装工事・その他仕上げ工事・ALCパネル工事)	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する(45分)	授業内容を整理して、復習する(45分)
15	定期試験	授業内容全体について資料を整理して、定期試験に備える(45分)	定期試験内容を整理して、復習する(45分)
16	定期試験の解説 授業改善アンケートの実施	授業内容全体について資料を整理して、定期試験に備える(45分)	定期試験内容を整理して、復習する(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科（スポーツマネジメントコース）・3		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	器械運動（科目ナンバリング：HSS522070/2023年度以降HSS422127）				
授業担当者（所属・職名）	廣田 修平（経営学科・非常勤講師）	研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	1（単位認定責任者：廣田 修平）	CAP制	×		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。				

概要

履修目標
------

自己の能力に適した課題をもって器械運動を行い、その技能を高め、技がよりよくできるような指導方法を身につけるため、器械運動の基礎技術の習得を目指す。

授業の位置づけ
---------

経営学科のDPの(2)(4)(5)に対応する。

到達目標
------

当該科目の歴史・文化的に形成された意義や独自の技術、ルールを理解し、集団や社会に応じて実践できる力を養う。各種目で修得した技術を発表する能力を養う。

授業全体の内容と概要
------------

器械運動(マット、鉄棒、とび箱)で行われる基本技の技術構造を理解することで、自己の習熟度を高めるとともに、技の指導に関する基本的な知識を得る。また、新たな技を学習することによって「できないものができるようになる」ということの意義を再認識する。

授業の方法
-------

授業は実技中心に行う。安全性を重視しながら基本技術を習得し、出来ない生徒への指導方法や補助方法についても学ぶ。また、レポート課題や中間課題評価や最終課題評価も実施する。中間課題評価や最終課題評価は、マット運動、鉄棒、とび箱の実技を行う。

アクティブラーニングの実施方法
-----------------

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
----------

運動のできる服装(上履き必須)、ピアス・ネックレス等は身に付けないこと、携帯電話は持ち込まないこと。上記のことについて厳守。守れない学生は授業に参加できない。又、授業中の私語、迷惑行為、授業中断等の態度・行為「例えば、授業中に寝る・授業に関係のない行為、協働生に欠ける・授業に集中できない」このような学生は場合によっては退席させ、その時間の授業は欠席とみなします。トイレは授業前に済ませること。やむをえず退席を希望の場合は許可を得ること。許可なく授業途中の退席は欠席とみなす。点呼時に着席していない場合は遅刻とみなす。遅刻2回で一回の欠席とみなす。10分以上の遅刻は欠席とみなす。但し、バスや列車が原因で遅れる場合は遅延証明書を提出すること。中間課題評価や各種目の最終課題評価は必ず受講すること。受講できない学生は、評価の対象となりません。課題提出を課された場合は期日厳守。病気等の場合、診断書等を提出すること。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合があります。

修学サポート(合理的配慮)
---------------

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目
--------

教職課程(保健体育)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件
--------

授業回数の11回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。遅刻は15分以上で欠席とみなす。遅刻2回で欠席1回とみなす。授業に対する意欲・態度・技術の上達等を総合的に判断する。

評価方法
------

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
40%	0%	0%	30%	20%	10%

ルーブリック
--------

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
器械運動の基礎技術の習得	器械運動の基礎技術が優れたレベルで一通り身に付いた。	器械運動の基礎技術が、十分なレベルで一通り身に付いた。	器械運動の基礎技術が、自己の能力に適したレベルで身に付いた。	器械運動の基礎技術が、最低限度身に付いた。	器械運動の基礎技術が身に付かなかった。
技術習得に向けた思考力と実践力	技術習得の過程で、自ら試行錯誤し、実践できていた。また、周囲の学生に対しても自らの考えを助言や指導という形で表現できていた。	技術習得の過程で、自ら試行錯誤し、実践できていた。	技術習得の過程で、考え方や問題解決に対する努力が見られた。	技術習得の過程で、考え方や解決に対する努力は認められるが、なかなか定着していなかった。	取り組みにおける考え方や努力が不十分であった。
授業に対する主体的な実践への取り組み	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら授業に積極的に取り組む。余った時間をさらなる研究・理解に振り分け、実践力のある指導者としての自覚が出来上がりつつあった。	授業中の質問が多く、与えられた問題解決への相談も常にみられ、実践力を身に付けるための努力が窺えた。	不明点を質問するなど前向きな姿勢が窺えた。	不明点を質問したりすることは少ないなど、積極性に乏しく受動的であった。	自分から進んで授業に参加する姿勢が見られなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科（スポーツマネジメントコース）・3		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	器械運動（科目ナンバリング：HSS522070/2023年度以降HSS422127）				
授業担当者（所属・職名）	廣田 修平（経営学科・非常勤講師）	研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	1（単位認定責任者：廣田 修平）	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『マット運動』	金子明友	大修館書店	1982		
2	『鉄棒運動』	金子明友	大修館書店	1984		
3	『教師のための運動学』	金子明友ほか	大修館書店	1996		
4	『中学校学習指導要領解説 保健体育編』	文部科学省	東山書房	2017		
5	『高等学校学習指導要領解説 保健体育編』	文部科学省	東山書房	2018		

授業計画

各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間			
回	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス・シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 授業全体の概要と授業のねらいを理解する。	シラバスを読んでおくこと（45分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（45分）
2	マット運動 接転技群「前転」系の学習 ・マット運動の前転（開脚前転含む）に必要な基本技術を理解し、その技術を身につける。	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（45分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（45分）
3	マット運動 接転技群「前転」系の学習 ・マット運動の「前転」系の発展技である「伸膝前転」や「側立前転」に必要な基本技術を理解し、その技術を身につける。	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（45分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（45分）
4	マット運動 接転技群「後転」系の学習 ・マット運動の後転に必要な基本技術を理解し、その技術を身につける。	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（45分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（45分）
5	マット運動 接転技群「後転」系の学習 ・マット運動の「後転」系の発展技である「伸膝後転」や「後転側立」に必要な基本技術を理解し、その技術を身につける。	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（45分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（45分）
6	マット運動 「倒立」及び「側方倒立回転」の学習 ・マット運動の「倒立」及び「側方倒立回転」に必要な基本技術を理解し、その技術を身につける。	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（45分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（45分）
7	基本技の評価と教員採用模擬試験の練習 ・教員採用模擬試験を通して基本技術の確認を行う	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（45分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（45分）
8	基本技の評価と教員採用模擬試験の練習 ・教員採用模擬試験を通して基本技術の確認を行う	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（45分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（45分）
9	鉄棒運動 後方支持回転技群「後方支持回転」の学習 ・鉄棒運動の後方支持回転に必要な基本技術を理解し、その技術を身につける。	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（45分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（45分）
10	鉄棒運動 前方支持回転技群「前方支持回転」の学習 ・鉄棒運動の前方支持回転に必要な基本技術を理解し、その技術を身につける。	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（45分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（45分）
11	鉄棒運動 懸垂振動技の学習 ・鉄棒運動の懸垂振動技に必要な基本技術を理解し、その技術を身につける。	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（45分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（45分）
12	マット運動 発展技「前方倒立回転とび」 鉄棒運動 発展技「け上がり」の学習 ・マット運動「前方倒立回転とび」及び鉄棒運動「け上がり」の学習	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（45分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（45分）
13	マット運動 発展技「前方倒立回転とび」 鉄棒運動 発展技「け上がり」の学習 ・マット運動「前方倒立回転とび」及び鉄棒運動「け上がり」の学習	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（45分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（45分）
14	とび箱運動 切り返し系運動の学習 ・「開脚とび」などの切り返し系運動の基礎技能獲得と指導方法学習	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（45分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（45分）
15	とび箱運動 回転系運動の学習 ・「台上前転」などの回転系運動の基礎技能獲得と指導方法学習	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（45分）	講義全体をふりかえり、まとめておくこと（45分）
16	最終まとめ、フィードバック 授業改善アンケートの実施	講義全体を通して質問事項を整理しておくこと（90分）	解説・フィードバックを受けて学習内容の理解を深めること（90分）

各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間			
回	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科（スポーツマネジメントコース）・1		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	体づくり運動（科目ナンバリング：HSS522069/2023年度以降HSS422114）				
授業担当者（所属・職名）	廣田 修平（経営学科・非常勤講師）	研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	1（単位認定責任者：廣田 修平）	CAP制	×		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。				

概要

履修目標

自己の体に関心を持ち、体づくりにはどのような運動が効果的であるかを理解し、指導実践できるようにする。

授業の位置づけ

経営学科のDPの(2)(4)(5)に対応する。

到達目標

学校教育において「体づくり運動」が導入された経緯と必要性、その目的・教育の方法を理解する。

授業全体の内容と概要

自己の体を動かしながら、身体について考え、その働きを学習する。また、仲間と交流したりするための手軽な運動や規律的な運動を学習する。

授業の方法

授業は実技を中心に行い、学習内容の課題をグループごとに実施・発表する。中間課題評価は、体づくりの基礎技術を見る。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

運動のできる服装（上履き必須）、ピアス・ネックレス等は身に付けないこと、携帯電話は持ち込まないこと。上記のことについて厳守。守れない学生は授業に参加できない。又、授業中の私語、迷惑行為、授業中断等の態度・行為「例えば、授業中に寝る・授業に関係のない行為、協働生に欠ける・授業に集中できない」このような学生は場合によっては退席させ、その時間の授業は欠席とみなします。トイレは授業前に済ませること。やむをえず退席を希望の場合は許可を得ること。許可なく授業途中の退席は欠席とみなす。点呼時に着席していない場合は遅刻とみなす。遅刻2回で一回の欠席とみなす。10分以上の遅刻は欠席とみなす。但し、バスや列車が原因で遅れる場合は遅延証明書を提出すること。中間課題評価は必ず受講すること。受講できない学生は、評価の対象となりません。課題提出を課された場合は期日厳守。病欠等の場合、診断書等を提出すること。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合があります。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、大学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（保健体育）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

11回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。授業に対する意欲・態度・技術の上達等を総合的に判定する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	20%	30%	40%	10%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
体づくり運動についての理解・認識	体づくり運動の目的や必要性を十分に理解し、授業で登場した運動や指導について具体的に結び付けることができた。	体づくり運動の目的や必要性を理解し、授業で登場した運動や指導について具体的に結び付けることができた。	体づくり運動の目的や必要性を理解し、授業で行った運動と結び付けることができた。	体づくり運動の目的や必要性は理解することができた。	体づくり運動の目的や必要性を理解することができなかった。
自分や他者の体への意識と運動の実施	自分や他者の体への意識を向けることができ、運動の効果を考え、効果的に運動や指導を実践することができた。	自分や他者の体への意識を向けることができ、運動の効果を考え、指示された運動の効果を考えながら運動を試みていた。	自分や他者の体への意識を向けることができ、指示された運動の効果を考える努力が窺えた。	指示された運動をとりあえず実施していた。	自分や他者の体への意識を向けることはなく、運動の実施もできなかった。
授業に対する主体的な実践への取り組み	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら授業に取り組む、余った時間をさらなる研究・理解に振り分け、実践力のある指導者としての自覚が出来上がりつつあった。	授業中の質問が多く、与えられた問題解決への相談も常にみられ、実践力を身に付けるための努力が窺えた。	不明点を質問するなど前向きな姿勢が窺えた。	不明点を質問したりすることは少ないなど、積極性不足な姿勢であった。	自分から進んで授業に参加する姿勢が見られなかった。



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科（スポーツマネジメントコース）・1		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	体づくり運動（科目ナンバリング：HSS522069/2023年度以降HSS422114）				
授業担当者（所属・職名）	廣田 修平（経営学科・非常勤講師）	研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	1（単位認定責任者：廣田 修平）	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『中学校学習指導要領解説 保健体育編』	文部科学省	東山書房	2017		
2	『高等学校学習指導要領解説 保健体育編 体育編』	文部科学省	東山書房	2018		
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『体づくり運動-授業の考え方と進め方-改訂版』		東洋館出版社	2013		
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 ・体づくり運動とは何か	シラバスを読んでおくこと（45分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（45分）
2	体ほくしの運動 ・基礎運動 「柔軟体操、ストレッチング」	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（45分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（45分）
3	体ほくしの運動 ・基礎運動 「ペアグループでの柔軟体操、ストレッチ」	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（45分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（45分）
4	体ほくしの運動 ・一人での発育発達の見点を取り入れた各運動（歩走、跳）	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（45分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（45分）
5	体ほくしの運動 ・複数での発育発達の見点を取り入れた各運動（歩走、跳）	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（45分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（45分）
6	体ほくしの運動 ・器具を使用した各運動（ボール、フープ、ナフ、機、シャトル等）	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（45分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（45分）
7	体力を高める運動 ・柔軟性向上の運動（ストレッチングの基本）	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（45分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（45分）
8	体力を高める運動 ・筋力向上の運動（自体重負荷）	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（45分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（45分）
9	体力を高める運動 ・巧みさ向上の運動	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（45分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（45分）
10	体力を高める運動 ・持久力向上の運動	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（45分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（45分）
11	体力を高める運動 ・パワー向上の運動（ウェイトトレーニングの基本）	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（45分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（45分）
12	体力を高める運動 ・総合的体力向上の運動（レベテーション、サーキット）	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（45分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（45分）
13	体力を高める運動 ・空中感覚を養うための運動（トランポリン）	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（45分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（45分）
14	模擬授業（指導者として）	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（45分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（45分）
15	模擬授業（指導者として）	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（45分）	講義全体をふりかえり、まとめておくこと（45分）
16	課題に対する解説・フィードバック 授業改善アンケートの実施	講義全体を通して質問事項を整理しておくこと（90分）	解説・フィードバックを受けて学習内容の理解を深めること（90分）

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	
科目名称	アクションプログラム (科目ナンバリング: IRE324078)				
授業担当者(所属・職名)			研究室等所在		
単位数	1 (単位認定責任者: )	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー					

概要

履修目標					
授業の位置づけ					
到達目標					
授業全体の内容と概要					
授業の方法					
アクティブラーニングの実施方法	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	P B L	
	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	
	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)	
履修上の注意事項					

修学サポート(合理的配慮)	
資格指定科目	

評価方法・基準

評価前提条件						
評価方法	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	
科目名称	アクションプログラム (科目ナンバリング: IRE324078)				
授業担当者(所属・職名)			研究室等所在		
単位数	1 (単位認定責任者: )	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・4年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	北海道産業史 (M) (科目ナンバリング: ECH122136, ECH422039, ECP522041)				
授業担当者 (所属・職名)	石山 玄幸 (経営学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 石山 玄幸)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照のこと。				

概要

履修目標

本講義は、学生が北海道における産業の歴史の変遷について学ぶことを目的としている。北海道は明治政府によって計画的に開拓された土地であり、開拓者の苦勞や各産業の発展過程、各産業の特徴について理解することをねらいとしている。

授業の位置づけ

経営学科のDP(1)、(2)、(3)に対応する。

到達目標

本講義修了時の達成目標は以下の通り。北海道の産業における歴史の変遷の概要を自分の言葉で述べる事ができる。北海道における各産業の特徴を自分の言葉で述べる事ができる。北海道における各産業の課題を自分の言葉で述べる事ができる。

授業全体の内容と概要

本講義は、原則1回の講義で1つの産業の歴史、特徴、課題等を網羅的に学ぶが、1次産業(農業、酪農業、漁業、林業)については、政府による保護政策や農協という特有の組織があることから、詳しく解説する。また、講義回数を重ねて行く中で、他産業と比較分析を交えながら、各産業の特徴をより深く理解する。

授業の方法

本講義は、パワーポイント及び配布物資料で進める。1枚のパワーポイントを提示して、一連の解説が終了した後、一定の時間、学生がノートを書く時間を取る。ノートが書ききれない場合は、スマホでの写真撮影を認める。講義の最後に本日のフィードバックとして、講義レポートを実施し、レポートを提出した学生を出席扱いとする。また、本講義では、アクティブラーニングを活用し、グループワークやディスカッションを行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

本講義は4年生を対象としていることから、受講マナーを守れる学生のみ受講を認める。マナーの守れない学生は履修中止を勧告する場合がある。尚、不足の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
85%	15%	0%	0%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
レポート・試験に対応した文章表現力	講義で学んだ内容を自分の言葉で要約ができ、かつ自分の意見もある。	講義で学んだ内容を自分の言葉で要約できている。	講義で学んだ内容が書かれている。	最低限、読み手に内容が伝わる。	読み手に内容が伝わらない。
北海道における産業別の歴史と特徴について	講義で学んだ北海道における産業別の歴史と特徴をそれぞれ自分の言葉で3つ以上述べる事ができる。	講義で学んだ北海道における産業別の歴史と特徴をそれぞれ3つ以上述べる事ができる。	講義で学んだ北海道における産業別の歴史と特徴を述べる事ができる。	最低限、講義で学んだ北海道全体の歴史を理解している。	北海道の歴史を全く理解していない。
課題解決策の提案力	北海道産業史の課題を3つ以上述べる事ができ、かつその課題に対して具体的な精度の高い解決策を提案できる。	北海道産業史の課題を3つ以上述べる事ができ、かつその課題に対して解決策を提案できる。	北海道産業史の課題を3つ以上述べる事ができる。	北海道産業史の課題を最低1つ述べる事ができる。	そもそも北海道産業史の課題を見つけない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・4年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	北海道産業史 (M) (科目ナンバリング: ECH122136, ECH422039, ECP522041)				
授業担当者(所属・職名)	石山 玄幸 (経営学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 石山 玄幸)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『北海道産業史』	大沼盛男	北海道大学図書刊行会	2002年	9784832963313	絶版のため中古でしか購入できない
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	「北海道産業史」ガイダンス シラバスの説明 (講義の進め方, 評価方法など)	必ずシラバスを読んでから, 初回ガイダンスを受講すること。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
2	北海道産業と北海道開拓のはじまり	北海道の歴史に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
3	北海道産業の歴史的区分	北海道の歴史に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
4	北海道における農業と酪農の歴史の変遷	北海道の歴史に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
5	北海道における林業と漁業の歴史の変遷	北海道の歴史に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
6	北海道における食品工業の歴史の変遷	北海道の歴史に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
7	北海道における石炭業の歴史の変遷	北海道の歴史に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
8	北海道における製造業の歴史の変遷	北海道の歴史に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
9	北海道における製造業の歴史の変遷	北海道の歴史に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
10	北海道における建設業の歴史の変遷	北海道の歴史に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
11	北海道における交通・運輸業の歴史の変遷	北海道の歴史に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
12	北海道における卸・小売業の歴史の変遷	北海道の歴史に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
13	北海道における観光・ホテル業の歴史の変遷	北海道の歴史に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
14	北海道におけるIT産業の歴史の変遷	北海道の歴史に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
15	まとめ 試験対策 授業改善アンケート実施	定期試験に向けて, これまでの講義レポートを見直し準備すること。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
16	定期試験とフィードバック	定期試験に向けて準備をしてくること。(90分)	フィードバックを受けて, 北海道産業史を総括すること。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	北海道産業史 (S) (科目ナンバリング: ECH122136, ECH422039, ECP522041)				
授業担当者(所属・職名)	石山 玄幸 (経営学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 石山 玄幸)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照のこと。				

概要

履修目標

本講義は、学生が北海道における産業の歴史の変遷について学ぶことを目的としている。北海道は明治政府によって計画的に開拓された土地であり、開拓者の苦勞や各産業の発展過程、各産業の特徴について理解することをねらいとしている。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP(3)、(5)に対応する。

到達目標

本講義修了時の達成目標は以下の通り。北海道の産業における歴史の変遷の概要を自分の言葉で述べる事ができる。北海道における各産業の特徴を自分の言葉で述べる事ができる。北海道における各産業の課題を自分の言葉で述べる事ができる。

授業全体の内容と概要

本講義は、原則1回の講義で1つの産業の歴史、特徴、課題等を網羅的に学ぶが、1次産業(農業、酪農業、漁業、林業)については、政府による保護政策や農協という特有の組織があることから、詳しく解説する。また、講義回数を重ねて行く中で、他産業と比較分析を交えながら、各産業の特徴をより深く理解する。

授業の方法

本講義は、パワーポイント及び配布物資料で進める。1枚のパワーポイントを提示して、一連の解説が終了した後、一定の時間、学生がノートを書く時間を取る。ノートが書ききれない場合は、スマホでの写真撮影を認める。講義の最後に本日のフィードバックとして、講義レポートを実施し、レポートを提出した学生を出席扱いとする。また、本講義ではアクティブラーニングを活用して、グループワークやディスカッションを行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

本講義は4年生を対象としていることから、受講マナーを守れる学生のみ受講を認める。マナーの守れない学生は履修中止を勧告する場合がある。尚、不足の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(地歴公民)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
85%	15%	0%	0%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
北海道産業史に係るレポート・試験に対応した文章表現力	講義で学んだ内容を自分の言葉で要約ができ、かつ自分の意見もある。	講義で学んだ内容を自分の言葉で要約できている。	講義で学んだ内容が書かれている。	最低限、読み手に内容が伝わる。	読み手に内容が伝わらない。
北海道における産業別の歴史と特徴について	講義で学んだ北海道における産業別の歴史と特徴をそれぞれ自分の言葉で3つ以上述べる事ができる。	講義で学んだ北海道における産業別の歴史と特徴をそれぞれ3つ以上述べる事ができる。	講義で学んだ北海道における産業別の歴史と特徴を述べる事ができる。	最低限、講義で学んだ北海道全体の歴史を理解している。	北海道の歴史を全く理解していない。
課題解決策の提案力	北海道産業史の課題を3つ以上述べる事ができ、かつその課題に対して具体的に精度の高い解決策を提案できる。	北海道産業史の課題を3つ以上述べる事ができ、かつその課題に対して解決策を提案できる。	北海道産業史の課題を3つ以上述べる事ができる。	北海道産業史の課題を最低1つ述べる事ができる。	そもそも北海道産業史の課題を見つけない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	北海道産業史(S) (科目ナンバリング: ECH122136, ECH422039, ECP522041)				
授業担当者(所属・職名)	石山 玄幸(経営学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 石山 玄幸)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『北海道産業史』	大沼盛男	北海道大学図書刊行会	2002年	9784832963313	絶版のため中古でしか購入できない
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	「北海道産業史」ガイダンス 講義の進め方, 評価方法などを説明	必ずシラバスを読んでから, 初回ガイダンスを受講すること。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
2	北海道産業と北海道開拓のはじまり	北海道の歴史に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
3	北海道産業の歴史的区分	北海道の歴史に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
4	北海道における農業と酪農の歴史の変遷	北海道の歴史に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
5	北海道における林業と漁業の歴史の変遷	北海道の歴史に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
6	北海道における食品工業の歴史の変遷	北海道の歴史に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
7	北海道における石炭業の歴史の変遷	北海道の歴史に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
8	北海道における製造業の歴史の変遷	北海道の歴史に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
9	北海道における製造業の歴史の変遷	北海道の歴史に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
10	北海道における建設業の歴史の変遷	北海道の歴史に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
11	北海道における交通・運輸業の歴史の変遷	北海道の歴史に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
12	北海道における卸・小売業の歴史の変遷	北海道の歴史に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
13	北海道における観光・ホテル業の歴史の変遷	北海道の歴史に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
14	北海道におけるIT産業の歴史の変遷	北海道の歴史に関する新聞記事やインターネットの記事を読むこと。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
15	まとめ 試験対策 授業改善アンケート実施	定期試験に向けて, これまでの講義レポートを見直し準備すること。(90分)	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。(90分)
16	定期試験とフィードバック	定期試験に向けた対策をしていくこと。(90分)	フィードバックを受けて, 北海道産業史を総括すること。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	CG技法研究 (3年) (科目ナンバリング: PIP223036)				
授業担当者(所属・職名)	北嶋 洋一(デザイン学科・准教授)	研究室等所在	2号館5階		
単位数	2 (単位認定責任者: 北嶋 洋一)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

デザインに於ける3DCG技術の習得。モデリング、シェーディング、レンダリング、アニメーション、シミュレーションを網羅し、制作のための基礎を身につけるためのアクティブラーニングである。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP(1)、(2)、(3)、(5)に対応する。

到達目標

ビジュアル制作に於ける表現の幅を広げるための、3DCGアプリケーション(Maya)の基本操作を身に付ける。「自らが学ぶ力」と「汎用的能力」を養うことで、実践力と社会性の伴った専門性を身に付ける。

授業全体の内容と概要

3DCGの制作工程を理解した後、モデリング-レンダリングの基礎、アニメーションの基礎について、アプリケーション(Maya)の基本操作を含めて系統的に学ぶための教材が配信される。これを基にして、受講者各自が、「体験」、「調査」、「発見」、「課題解決」などの学習を能動的に行う。

授業の方法

専門講師によるオンデマンドでの講義と実技指導の配信を教材として、受講生各自が主体的に学ぶ。受講生は指定されたアプリケーション(Maya)を用いることが可能な環境と、オンデマンドの受信が可能な環境の構築を事前に行う。操作講習から課題制作まで、全てを自学自習の形式で行う内容であり、環境の整備以外は全て教員の手を借りない自己解決を常とする。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模範授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

受講者はオンデマンドの受信から課題の制作まで事前事後の学習を含む全授業内容でコンピュータを用いることになるので、自身のコンピュータを持ち込めることが望ましい。さらに、受講者はコンピュータとアプリケーションに関する知識と技術に習熟しており、トラブルには自己対応が可能でなければならない。3DCGはデザインに於ける表現分野の一つであるが、自らの制作活動に於いてその表現技法を必要とする者のための内容である。習う授業ではなく自学自習を原則とした授業であり、基本操作から課題制作まで自主的に積極的に取り組む姿勢が重要である。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、大学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は10回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	60%	0%	20%	20%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能 「3DCGをデザインの表現分野として正しく認識できている」	3DCGアプリケーション(Maya)の基本操作と、その表現特性を90%以上理解し、可能性をシミュレーションできた。	3DCGアプリケーション(Maya)の基本操作と、その表現特性を80%以上理解していた。	3DCGアプリケーション(Maya)の基本操作と、その表現特性を70%以上理解していた。	3DCGアプリケーション(Maya)の基本操作と、その表現特性を60%以上理解していた。	3DCGアプリケーション(Maya)の基本操作と、その表現特性の理解が60%未満であった。
思考力・表現力・判断力 「デザインの志向に基づき、3DCGを用いた作品制作が行える」	3DCGアプリケーション(Maya)を適切に操作し、その特性を効果的に用いた完成度の高い作品制作が行えた。	3DCGアプリケーション(Maya)を適切に操作し、その特性を用いた完成度の高い作品制作が行えた。	3DCGアプリケーション(Maya)を操作して、その特性を用いた作品制作が行えた。	3DCGアプリケーション(Maya)を操作し、作品制作が行えた。	3DCGアプリケーション(Maya)の操作が不十分であり、作品制作には至らなかった。
主体性・多様性・協調性 「3DCGの基本操作から課題制作までの流れを通して、主体的に学ぶ姿勢が身に着いている」	与えられた教材の習得と課題提出を90%以上完了している。授業の内容を十分に理解しており、今後の制作活動に於いて自主的に応用することが可能な姿勢を身に付けていた。	与えられた教材の習得と課題提出を80%以上完了している。授業の内容を理解しており、今後の制作活動に於いて自主的に応用することが可能な姿勢を身に付けていた。	与えられた教材の習得と課題提出を70%以上完了している。授業の内容を理解しており、今後の制作活動に於いて自主的に応用することが可能な姿勢を身に付けていた。	与えられた教材の習得と課題提出を60%以上完了している。授業の内容を理解しているが、今後の制作活動に於いて自主的に応用する意思は育っていなかった。	与えられた教材の習得と課題提出が60%未満である。授業の内容理解が不十分であり、今後の制作活動に向けて自主的に学び応用しようとする意思を持っていなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	CG技法研究 (3年) (科目ナンバリング: PIP223036)				
授業担当者(所属・職名)	北嶋 洋一 (デザイン学科・准教授)	研究室等所在	2号館5階		
単位数	2 (単位認定責任者: 北嶋 洋一)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	ガイダンス - シラバス及び授業改善アンケート結果 反映の説明 教材と受講環境の確認	シラバスの確認 (90分)	受講環境整備 (90分)
2	第1章 3DCGのワークフローと基本操作	第1章の講義内容を確認しておく (90分)	課題制作の継続 (90分)
3	第1章 3DCGのワークフローと基本操作	課題制作の継続 (90分)	課題制作の継続 (90分)
4	第1章 3DCGのワークフローと基本操作	課題制作の継続 (90分)	課題制作の継続 (90分)
5	第1章 3DCGのワークフローと基本操作	課題制作の継続 (90分)	課題の完成 (90分)
6	第2章 基本操作とモデリング基礎	第2章の講義内容を確認しておく (90分)	課題制作の継続 (90分)
7	第2章 基本操作とモデリング基礎	課題制作の継続 (90分)	課題制作の継続 (90分)
8	第2章 基本操作とモデリング基礎	課題制作の継続 (90分)	課題制作の継続 (90分)
9	第2章 基本操作とモデリング基礎	課題制作の継続 (90分)	課題制作の継続 (90分)
10	第2章 基本操作とモデリング基礎	課題制作の継続 (90分)	課題の完成 (90分)
11	第3章 シェーディング・UV・基礎	第3章の講義内容を確認しておく (90分)	課題制作の継続 (90分)
12	第3章 シェーディング・UV・基礎	課題制作の継続 (90分)	課題制作の継続 (90分)
13	第3章 シェーディング・UV・基礎	課題制作の継続 (90分)	課題制作の継続 (90分)
14	第3章 シェーディング・UV・基礎	課題制作の継続 (90分)	課題制作の継続 (90分)
15	第3章 シェーディング・UV・基礎	課題制作の継続 (90分)	課題の完成 (90分)
16	各章課題の確認 CG技法研究 のガイダンス 授業改善アンケートの実施	各章課題の最終確認 (90分)	CG技法研究 のシラバス確認 (90分)

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	CG技法研究 (4年) (科目ナンバリング: PIP223036)				
授業担当者(所属・職名)	北嶋 洋一(デザイン学科・教授)	研究室等所在	2号館5階		
単位数	2 (単位認定責任者: 北嶋 洋一)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

デザインに於ける3DCG技術の習得。モデリング、シェーディング、レンダリング、アニメーション、シミュレーションを網羅し、制作のための基礎を身につけるためのアクティブラーニングである。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP(1)、(2)、(3)、(5)に対応する。

到達目標

ビジュアル制作に於ける表現の幅を広げるための、3DCGアプリケーション(Maya)の基本操作を身に付ける。「自らが学ぶ力」と「汎用的能力」を養うことで、実践力と社会性の伴った専門性を身に付ける。

授業全体の内容と概要

3DCGの制作工程を理解した後、モデリング-レンダリングの基礎、アニメーションの基礎について、アプリケーション(Maya)の基本操作を含めて系統的に学ぶための教材が配信される。これを基にして、受講者各自が、「体験」、「調査」、「発見」、「課題解決」などの学習を能動的に行う。

授業の方法

専門講師によるオンデマンドでの講義と実技指導の配信を教材として、受講生各自が主体的に学ぶ。受講生は指定されたアプリケーション(Maya)を用いることが可能な環境と、オンデマンドの受信が可能な環境の構築を事前に行う。操作講習から課題制作まで、全てを自学自習の形式で行う内容であり、環境の整備以外は全て教員の手を借りない自己解決を常とする。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模範授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

受講者はオンデマンドの受信から課題の制作まで事前事後の学習を含む全授業内容でコンピュータを用いることになるので、自身のコンピュータを持ち込めることが望ましい。さらに、受講者はコンピュータとアプリケーションに関する知識と技術に習熟しており、トラブルには自己対応が可能でなければならない。3DCGはデザインに於ける表現分野の一つであるが、自らの制作活動に於いてその表現技法を必要とする者のための内容である。習う授業ではなく自学自習を原則とした授業であり、基本操作から課題制作まで自主的に積極的に取り組む姿勢が重要である。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、大学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は10回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	60%	0%	20%	20%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能 「3DCGをデザインの表現分野として正しく認識できている」	3DCGアプリケーション(Maya)の基本操作と、その表現特性を90%以上理解し、可能性をシミュレーションできた。	3DCGアプリケーション(Maya)の基本操作と、その表現特性を80%以上理解していた。	3DCGアプリケーション(Maya)の基本操作と、その表現特性を70%以上理解していた。	3DCGアプリケーション(Maya)の基本操作と、その表現特性を60%以上理解していた。	3DCGアプリケーション(Maya)の基本操作と、その表現特性の理解が60%未満であった。
思考力・表現力・判断力 「デザインの志向に基づき、3DCGを用いた作品制作が行える」	3DCGアプリケーション(Maya)を適切に操作し、その特性を効果的に用いた完成度の高い作品制作が行えた。	3DCGアプリケーション(Maya)を適切に操作し、その特性を用いた完成度の高い作品制作が行えた。	3DCGアプリケーション(Maya)を操作して、その特性を用いた作品制作が行えた。	3DCGアプリケーション(Maya)を操作し、作品制作が行えた。	3DCGアプリケーション(Maya)の操作が不十分であり、作品制作には至らなかった。
主体性・多様性・協調性 「3DCGの基本操作から課題制作までの流れを通して、主体的に学ぶ姿勢が身に着いている」	与えられた教材の習得と課題提出を90%以上完了している。授業の内容を十分に理解しており、今後の制作活動に於いて自主的に応用することが可能な姿勢を身に付けていた。	与えられた教材の習得と課題提出を80%以上完了している。授業の内容を理解しており、今後の制作活動に於いて自主的に応用することが可能な姿勢を身に付けていた。	与えられた教材の習得と課題提出を70%以上完了している。授業の内容を理解しており、今後の制作活動に於いて自主的に応用することが可能な姿勢を身に付けていた。	与えられた教材の習得と課題提出を60%以上完了している。授業の内容を理解しているが、今後の制作活動に於いて自主的に応用する意思は育っていなかった。	与えられた教材の習得と課題提出が60%未満である。授業の内容理解が不十分であり、今後の制作活動に向けて自主的に学び応用しようとする意思を持っていなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	CG技法研究（4年）（科目ナンバリング：PIP223036）				
授業担当者（所属・職名）	北嶋 洋一（デザイン学科・教授）	研究室等所在	2号館5階		
単位数	2（単位認定責任者：北嶋 洋一）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス-シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明 教材と受講環境の確認	シラバスの確認 (90分)	受講環境整備 (90分)
2	第1章 3DCGのワークフローと基本操作	第1章の講義内容を確認しておく (90分)	課題制作の継続 (90分)
3	第1章 3DCGのワークフローと基本操作	課題制作の継続 (90分)	課題制作の継続 (90分)
4	第1章 3DCGのワークフローと基本操作	課題制作の継続 (90分)	課題制作の継続 (90分)
5	第1章 3DCGのワークフローと基本操作	課題制作の継続 (90分)	課題の完成 (90分)
6	第2章 基本操作とモデリング基礎	第2章の講義内容を確認しておく (90分)	課題制作の継続 (90分)
7	第2章 基本操作とモデリング基礎	課題制作の継続 (90分)	課題制作の継続 (90分)
8	第2章 基本操作とモデリング基礎	課題制作の継続 (90分)	課題制作の継続 (90分)
9	第2章 基本操作とモデリング基礎	課題制作の継続 (90分)	課題制作の継続 (90分)
10	第2章 基本操作とモデリング基礎	課題制作の継続 (90分)	課題の完成 (90分)
11	第3章 シェーディング・UV・基礎	第3章の講義内容を確認しておく (90分)	課題制作の継続 (90分)
12	第3章 シェーディング・UV・基礎	課題制作の継続 (90分)	課題制作の継続 (90分)
13	第3章 シェーディング・UV・基礎	課題制作の継続 (90分)	課題制作の継続 (90分)
14	第3章 シェーディング・UV・基礎	課題制作の継続 (90分)	課題制作の継続 (90分)
15	第3章 シェーディング・UV・基礎	課題制作の継続 (90分)	課題の完成 (90分)
16	各章課題の確認 CG技法研究 のガイダンス 授業改善アンケートの実施	各章課題の最終確認 (90分)	CG技法研究 のシラバス確認 (90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	CG技法研究 (3年) (科目ナンバリング: PIP223037)				
授業担当者(所属・職名)	北嶋 洋一(デザイン学科・教授)	研究室等所在	2号館5階		
単位数	2 (単位認定責任者: 北嶋 洋一)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

デザインに於ける3DCG技術の習得。モデリング、シェーディング、レンダリング、アニメーション、シミュレーションを網羅し、制作のための基礎を身につけるためのアクティブラーニングである。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP(1)、(2)、(3)、(5)に対応する。

到達目標

ビジュアル制作に於ける表現の幅を広げるための、3DCGアプリケーション(Maya)の基本操作を身に付ける。「自らが学ぶ力」と「汎用的能力」を養うことで、実践力と社会性の伴った専門性を身に付ける。

授業全体の内容と概要

CG技法研究 で学んだ内容を踏まえた次の段階であり、3DCGのモデリング-レンダリングの基礎、アニメーションの基礎について、アプリケーション(Maya)の基本操作を含めて系統的に学ぶための教材が配信される。これを基にして、受講者各自が、「体験」、「調査」、「発見」、「課題解決」などの学習を能動的に行う。

授業の方法

専門講師によるオンデマンドでの講義と実技指導の配信を教材として、受講生各自が主体的に学ぶ。受講生は指定されたアプリケーション(Maya)を用いることが可能な環境と、オンデマンドの受信が可能な環境の構築を事前に行う。操作講習から課題制作まで、全てを自学自習の形式で行う内容であり、環境の整備以外は全て教員の手を借りない自己解決を常とする。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

CG技法研究 からの連続した内容であり、CG技法研究 を履修した者であることが前提となる。そして自らの制作活動に於いて3DCGの表現技法を必要とする者のための内容である。習う授業ではなく自学自習を原則とした授業であり、基本操作から課題制作まで自主的に積極的に取り進む姿勢が重要である。受講者は、オンデマンドの受信から課題の制作まで、事前事後の学習を含む全授業内容でコンピュータを用いることになるので、自身のコンピュータを持ち込めることが望ましい。さらに、受講者はコンピュータに関する知識と技術に習熟しており、トラブルには自己対応が可能でなければならない。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は10回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	60%	0%	20%	20%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能 「3DCGをデザインの表現分野として正しく認識できている」	3DCGアプリケーション(Maya)の基本操作と、その表現特性を90%以上理解している。	3DCGアプリケーション(Maya)の基本操作と、その表現特性を80%以上理解していた。	3DCGアプリケーション(Maya)の基本操作と、その表現特性を70%以上理解していた。	3DCGアプリケーション(Maya)の基本操作と、その表現特性を60%以上理解していた。	3DCGアプリケーション(Maya)の基本操作と、その表現特性の理解が60%未満であった。
思考力・表現力・判断力 「デザインの志向に基づき、3DCGを用いた作品制作が行える」	3DCGアプリケーション(Maya)を適切に操作し、その特性を効果的に用いた完成度の高い作品制作が行えた。	3DCGアプリケーション(Maya)を適切に操作し、その特性を用いた完成度の高い作品制作が行えた。	3DCGアプリケーション(Maya)を操作して、その特性を用いた作品制作が行えた。	3DCGアプリケーション(Maya)を操作し、作品制作が行えた。	3DCGアプリケーション(Maya)の操作が不十分であり、作品制作には至らなかった。
主体性・多様性・協調性 「3DCGの基本操作から課題制作までの流れを通して、主体的に学ぶ姿勢が身に着いている」	与えられた教材の習得と課題提出を90%以上完了している。授業の内容を十分に理解しており、今後の制作活動に於いて自主的に応用することが可能な姿勢を身に付けていた。	与えられた教材の習得と課題提出を80%以上完了している。授業の内容を理解しており、今後の制作活動に於いて自主的に応用することが可能な姿勢を身に付けていた。	与えられた教材の習得と課題提出を70%以上完了している。授業の内容を理解しており、今後の制作活動に於いて自主的に応用することが可能な姿勢を身に付けていた。	与えられた教材の習得と課題提出を60%以上完了している。授業の内容を理解しているが、今後の制作活動に於いて自主的に応用する意思は育っていなかった。	与えられた教材の習得と課題提出が60%未満であった。授業の内容理解が不十分であり、今後の制作活動に向けて自主的に学び応用しようとする意思を持っていなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	CG技法研究 (3年) (科目ナンバリング: PIP223037)				
授業担当者(所属・職名)	北嶋 洋一(デザイン学科・教授)	研究室等所在	2号館5階		
単位数	2 (単位認定責任者: 北嶋 洋一)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス-シラバス及び授業改善アンケート結果 反映の説明 受講環境の再確認と教材の確認	第1・2・3章の講義内容を復習しておく (90分)	教材と環境の再確認 (90分)
2	第4章 レンダリング基礎	第4章の講義内容を確認しておく (90分)	課題制作の継続 (90分)
3	第4章 レンダリング基礎	課題制作の継続 (90分)	課題制作の継続 (90分)
4	第4章 レンダリング基礎	課題制作の継続 (90分)	課題制作の継続 (90分)
5	第4章 レンダリング基礎	課題制作の継続 (90分)	課題制作の継続 (90分)
6	第4章 レンダリング基礎	課題制作の継続 (90分)	課題の完成 (90分)
7	第5章 アニメーション基礎	第5章の講義内容を確認しておく (90分)	課題制作の継続 (90分)
8	第5章 アニメーション基礎	課題確認と制作 (90分)	課題確認と制作 (90分)
9	第5章 アニメーション基礎	課題制作の継続 (90分)	課題制作の継続 (90分)
10	第5章 アニメーション基礎	課題制作の継続 (90分)	課題制作の継続 (90分)
11	第5章 アニメーション基礎	課題制作の継続 (90分)	課題の完成 (90分)
12	第6章 シミュレーション基礎	第6章の講義内容を確認しておく (90分)	課題制作の継続 (90分)
13	第6章 シミュレーション基礎	課題制作の継続 (90分)	課題制作の継続 (90分)
14	第6章 シミュレーション基礎	課題制作の継続 (90分)	課題制作の継続 (90分)
15	第6章 シミュレーション基礎	課題制作の継続 (90分)	課題の完成 (90分)
16	各章課題の確認-講評 授業改善アンケートの実施	各章課題の最終確認 (90分)	第1-6章の全内容を復習する (90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	CG技法研究（4年）（科目ナンバリング：PIP223037）				
授業担当者（所属・職名）	北嶋 洋一（デザイン学科・教授）	研究室等所在	2号館5階		
単位数	2（単位認定責任者：北嶋 洋一）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

デザインに於ける3DCG技術の習得。モデリング、シェーディング、レンダリング、アニメーション、シミュレーションを網羅し、制作のための基礎を身につけるためのアクティブラーニングである。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP(1)、(2)、(3)、(5)に対応する。

到達目標

ビジュアル制作に於ける表現の幅を広げるための、3DCGアプリケーション(Maya)の基本操作を身に付ける。「自らが学ぶ力」と「汎用的能力」を養うことで、実践力と社会性の伴った専門性を身に付ける。

授業全体の内容と概要

CG技法研究 で学んだ内容を踏まえた次の段階であり、3DCGのモデリング-レンダリングの基礎、アニメーションの基礎について、アプリケーション(Maya)の基本操作を含めて系統的に学ぶための教材が配信される。これを基にして、受講者各自が、「体験」、「調査」、「発見」、「課題解決」などの学習を能動的に行う。

授業の方法

専門講師によるオンデマンドでの講義と実技指導の配信を教材として、受講生各自が主体的に学ぶ。受講生は指定されたアプリケーション(Maya)を用いることが可能な環境と、オンデマンドの受信が可能な環境の構築を事前に行う。操作講習から課題制作まで、全てを自学自習の形式で行う内容であり、環境の整備以外は全て教員の手を借りない自己解決を常とする。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

CG技法研究 からの連続した内容であり、CG技法研究 を履修した者であることが前提となる。そして自らの制作活動に於いて3DCGの表現技法を必要とする者のための内容である。習う授業ではなく自学自習を原則とした授業であり、基本操作から課題制作まで自主的に積極的に取り組む姿勢が重要である。受講者は、オンデマンドの受信から課題の制作まで、事前事後の学習を含む全授業内容でコンピュータを用いることになるので、自身のコンピュータを持ち込めることが望ましい。さらに、受講者はコンピュータに関する知識と技術に習熟しており、トラブルには自己対応が可能でなければならない。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は10回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	60%	0%	20%	20%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能 「3DCGをデザインの表現分野として正しく認識できている」	3DCGアプリケーション(Maya)の基本操作と、その表現特性を90%以上理解している。	3DCGアプリケーション(Maya)の基本操作と、その表現特性を80%以上理解している。	3DCGアプリケーション(Maya)の基本操作と、その表現特性を70%以上理解している。	3DCGアプリケーション(Maya)の基本操作と、その表現特性を60%以上理解している。	3DCGアプリケーション(Maya)の基本操作と、その表現特性の理解が60%未満であった。
思考力・表現力・判断力 「デザインの志向に基づき、3DCGを用いた作品制作が行える」	3DCGアプリケーション(Maya)を適切に操作し、その特性を効果的に用いた完成度の高い作品制作が行えた。	3DCGアプリケーション(Maya)を適切に操作し、その特性を用いた完成度の高い作品制作が行えた。	3DCGアプリケーション(Maya)を操作して、その特性を用いた作品制作が行えた。	3DCGアプリケーション(Maya)を操作し、作品制作が行えた。	3DCGアプリケーション(Maya)の操作が不十分であり、作品制作には至らなかった。
主体性・多様性・協調性 「3DCGの基本操作から課題制作までの流れを通して、主体的に学ぶ姿勢が身に着いている」	与えられた教材の習得と課題提出を90%以上完了している。授業の内容を十分に理解しており、今後の制作活動に於いて自主的に応用することが可能な姿勢を身に付けていた。	与えられた教材の習得と課題提出を80%以上完了している。授業の内容を理解しており、今後の制作活動に於いて自主的に応用することが可能な姿勢を身に付けていた。	与えられた教材の習得と課題提出を70%以上完了している。授業の内容を理解しており、今後の制作活動に於いて自主的に応用することが可能な姿勢を身に付けていた。	与えられた教材の習得と課題提出を60%以上完了している。授業の内容を理解している。授業の内容を理解しているが、今後の制作活動に於いて自主的に応用する意思は育っていなかった。	与えられた教材の習得と課題提出が60%未満であった。授業の内容理解が不十分であり、今後の制作活動に向けて自主的に学び応用しようとする意思を持っていなかった。



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	CG技法研究（4年）（科目ナンバリング：PIP223037）				
授業担当者（所属・職名）	北嶋 洋一（デザイン学科・教授）	研究室等所在	2号館5階		
単位数	2（単位認定責任者：北嶋 洋一）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス-シラバス及び授業改善アンケート結果 反映の説明 受講環境の再確認と教材の確認	第1・2・3章の講義内容を復習しておく (90分)	教材と環境の再確認 (90分)
2	第4章 レンダリング基礎	第4章の講義内容を確認しておく (90分)	課題制作の継続 (90分)
3	第4章 レンダリング基礎	課題制作の継続 (90分)	課題制作の継続 (90分)
4	第4章 レンダリング基礎	課題制作の継続 (90分)	課題制作の継続 (90分)
5	第4章 レンダリング基礎	課題制作の継続 (90分)	課題制作の継続 (90分)
6	第4章 レンダリング基礎	課題制作の継続 (90分)	課題の完成 (90分)
7	第5章 アニメーション基礎	第5章の講義内容を確認しておく (90分)	課題制作の継続 (90分)
8	第5章 アニメーション基礎	課題確認と制作 (90分)	課題確認と制作 (90分)
9	第5章 アニメーション基礎	課題制作の継続 (90分)	課題制作の継続 (90分)
10	第5章 アニメーション基礎	課題制作の継続 (90分)	課題制作の継続 (90分)
11	第5章 アニメーション基礎	課題制作の継続 (90分)	課題の完成 (90分)
12	第6章 シミュレーション基礎	第6章の講義内容を確認しておく (90分)	課題制作の継続 (90分)
13	第6章 シミュレーション基礎	課題制作の継続 (90分)	課題制作の継続 (90分)
14	第6章 シミュレーション基礎	課題制作の継続 (90分)	課題制作の継続 (90分)
15	第6章 シミュレーション基礎	課題制作の継続 (90分)	課題の完成 (90分)
16	各章課題の確認-講評 授業改善アンケートの実施	各章課題の最終確認 (90分)	第1-6章の全内容を復習する (90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・4年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	外国書講読 (科目ナンバリング: CME423071, CME523082)				
授業担当者(所属・職名)	岡島 徳昭(経営学科・特任教授)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 岡島 徳昭)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

<b>履修目標</b>
英字新聞を読み、語彙力をつける。文法、構文を確認し読解力の向上を目指す。

<b>授業の位置づけ</b>
経営学科のDP(2)(4)に対応する。

<b>到達目標</b>
辞書を使い英字新聞を読み、語彙力高め、英文読解に慣れ、外国書講読のための基礎を身につける。

<b>授業全体の内容と概要</b>
毎週「The Japan Times」の中からホットな話題を選び読解の基礎を身につける。英文を読み、発音、イントネーションを確認する。構文、文法の理解を深める。

<b>授業の方法</b>
板書、パワーポイントを用いた授業を展開し、学生参加型授業を目指す。小テスト、定期試験の解説等のフィードバックを行う。

<b>アクティブラーニングの実施方法</b>					
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク		PBL	
模擬授業	ロールプレイ	調査学習		反転授業	
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業		その他(授業の方法参照)	

<b>履修上の注意事項</b>
出席重視、辞書持参 毎週資料を用意する。テキストなし。 不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

<b>修学サポート(合理的配慮)</b>
----------------------

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

<b>資格指定科目</b>

評価方法・基準

<b>評価前提条件</b>
成績評価には10回以上の出席が必要です。

<b>評価方法</b>					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
40%	0%	0%	0%	20%	40%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能(発音・語彙・文法・読解等)	定期試験・小テストの合計で9割以上、文法・語彙に誤りがなく正確に理解している。	定期試験・小テストの合計で8割以上、文法・語彙に誤りがほとんどなく大体理解できる。	定期試験・小テストの合計で7割以上、文法・語彙に若干誤りがあるが理解している。	定期試験・小テストの合計で6割以上、文法・語彙に誤りがあり理解できない部分がある。	定期試験・小テストの合計で6割以下、文法・語彙に誤りが多く理解に問題あり。
思考力・判断力・表現力	表現方法が適切であり誤りがほとんどない。	表現方法はほぼ適切で、小さな誤りが若干ある程度。	誤りがあるが、表現方法において誤解を生じるほどの大きな誤りはない。	表現方法に誤りがあり、自分の意思を伝えることに支障をきたす点がある。	表現方法に誤りがあり、自分の意思が伝わらない。
参加型授業への取り組み姿勢	大いに意欲・関心・興味を持って授業に参加している。クラスでの発表も多く積極的	意欲・関心・興味を持って授業に参加している。クラスでの発表に努め積極的	ある程度意欲・関心・興味を持って授業に参加している。やや積極的	あまり意欲・関心・興味を感じられない。無難に授業を消化している。やや積極性に欠ける。	全く意欲・関心・興味を感じられない。達意・欠席が目立つ。積極性に欠ける。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・4年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	外国書講読 (科目ナンバリング: CME423071, CME523082)				
授業担当者(所属・職名)	岡島 徳昭(経営学科・特任教授)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 岡島 徳昭)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	The Japan Times(英字新聞) a					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	授業の進め方, 採点に関する事, その他授業に関するガイダンス(シラバスの説明) 経済面からの話題(1)	シラバスを読むこと。(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
2	政治面からの話題(1) 単語小テスト(1)	リーディングアサインメント及び語彙の学習(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
3	社会面からの話題(1)	リーディングアサインメント及び語彙の学習(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
4	スポーツ面からの話題(1) 単語小テスト(2)	リーディングアサインメント及び語彙の学習(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
5	芸能面からの話題(1)	リーディングアサインメント及び語彙の学習(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
6	経済面からの話題(2) 単語小テスト(3)	リーディングアサインメント及び語彙の学習(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
7	政治面からの話題(2)	リーディングアサインメント及び語彙の学習(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
8	社会面からの話題(2) 単語小テスト(4)	リーディングアサインメント及び語彙の学習(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
9	スポーツ面からの話題(2)	リーディングアサインメント及び語彙の学習(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
10	芸能面からの話題(2) 単語小テスト(5)	リーディングアサインメント及び語彙の学習(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
11	経済面からの話題(3)	リーディングアサインメント及び語彙の学習(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
12	政治面からの話題(3) 単語小テスト(6)	リーディングアサインメント及び語彙の学習(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
13	社会面からの話題(3)	リーディングアサインメント及び語彙の学習(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
14	スポーツ面からの話題(3)	リーディングアサインメント及び語彙の学習(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
15	芸能面からの話題(3) 単語小テスト(7)	リーディングアサインメント及び語彙の学習(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)
16	総合評価, 定期試験60分, 解説30分 授業改善アンケートの実施	リーディングアサインメント及び語彙の学習(90分)	授業中に学んだことを復習。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	球技 (バスケットボール) (科目ナンバリング: HSS522073/2023年度以降HSS422119)				
授業担当者(所属・職名)	天野 雅斗(経営学科・専任講師)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者: 天野 雅斗)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、バレーボール教材を活用した教育方法について指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示板等を参照				

概要

履修目標
学校教育においてバスケットボールを教材を扱うのに相応しい、態度・能力・指向性のある人材を目指す。そのため、授業において履修者自身のバスケットボールの上達はもちろんのこと、他者との関わり方や実施環境への配慮といった要素についても留意できるようにする。

授業の位置づけ
経営学科のDP(2)(4)(5)に対応する。

到達目標
まずはバスケットボールの基礎技術を履修者自身が習得する。競技の特性やルールを学び理解するとともに、ゲームの作戦・攻防におけるチーム内の役割を理解する。健康・安全に留意でき、適切な授業目標を設定し、達成させられるような教員としての指導能力を身につける。

授業全体の内容と概要
バスケットボールの基礎技術の習得及びゲームを中心に授業を進める。

授業の方法
基礎的練習およびゲーム等の中で、まずは履修者自身がバスケットボールの基礎技術の習得・上達することを目標の中心に据えて授業を展開していく。その過程の中で、他者からの、また他者に対する指導や助言を経て、履修者自身による指導や授業実施へと結びつけられるようにする。

アクティブラーニングの実施方法					
プレゼンテーション	○	グループワーク	フィールドワーク		PBL
模範授業		ロールプレイ	調査学習		反転授業
ディスカッション	○	実験・実習・実技	双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
実技科目のため、運動できる服装および履内履きを用意すること。その他注意事項及び詳細に関しては、オリエンテーションで説明する。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
教職課程(保健体育)選択科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な出席回数は、11回以上。授業に対する意欲・態度・技術の上達等を総合的に判定する。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
30%	0%	0%	0%	60%	10%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
バスケットボールの技術習得	バスケットボールの技術が高い水準で身に付き、ゲーム等、複合的な場面で十分発揮することができた。	バスケットボールの技術が高い水準で身に付き、練習ム等、複合的な場面で十分発揮することができた。	バスケットボールの技術が身に付いており、発揮できる場面もあった。	バスケットボールの技術が最低限度のレベルで身に付いている。	バスケットボールの技術が身に付かなかった。
役割の認識およびその展開	チームやグループにおいて、戦術的な提案や技術指導に関わる発言が、主体的にできた。	チームやグループにおいて、戦術的な提案や技術指導に関わる発言が出来る場面があった。	チームやグループにおける、戦術や技術についての発言に対し、自己の役割を認識した上で、意見を述べることができた。	チームやグループにおける役割や、戦術的な自己の働きを認識することができた。	チームや練習のグループ・スアにおいて、役割を発揮することができなかった。
他者との主体的なコミュニケーション	他の履修者に対して、提案やアドバイスといった、主体的なコミュニケーションを常にとることができた。	他の履修者に対して、提案やアドバイスといった、主体的なコミュニケーションを十分にとることができた。	他の履修者に対して、提案やアドバイスといった、主体的なコミュニケーションを自らとることがあった。	他の履修者とコミュニケーションがとれた。	他の履修者と十分なコミュニケーションがとれなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	球技 (バスケッホール) (科目ナンバリング: HSS522073/2023年度以降HSS422119)				
授業担当者(所属・職名)	天野 雅斗 (経営学科・専任講師)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者: 天野 雅斗)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、バレーボール教材を活用した教育方法について指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『ステップアップ高校スポーツ2021』	大修館書店編集部	大修館			
2	『ステップアップ中学体育2023』	大修館書店編集部	大修館			
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 ガイダンス、レクリエーション 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスの確認 (45分)	ガイダンス内容の理解(45分)
2	バスケットボールの構造把握・スキルチェック	基本技術の確認(45分)	学習内容の復習(45分)
3	基本技術 ドリブルシュート	基本技術の確認(45分)	学習内容の復習(45分)
4	基本技術 ジャンプシュート	基本技術の確認(45分)	学習内容の復習(45分)
5	基本技術 パス・コンビネーション	基本技術の確認(45分)	学習内容の復習(45分)
6	オフェンス 1対1での攻め方	習得した技術の確認(45分)	学習内容の復習(45分)
7	オフェンス アウトナンバー	習得した技術の確認(45分)	学習内容の復習(45分)
8	ディフェンス マンツーマンディフェンス	習得した技術の確認(45分)	学習内容の復習(45分)
9	ディフェンス ゾーンディフェンス	習得した技術の確認(45分)	学習内容の復習(45分)
10	戦術練習 ハーフコートでの攻防	基本戦術の確認(45分)	学習内容の復習(45分)
11	戦術練習 オールコートでの5体5	基本戦術の確認(45分)	学習内容の復習(45分)
12	ゲームにおける展開・戦術の組み立て	ゲーム展開の確認(45分)	学習内容の復習(45分)
13	課題練習、ゲーム形式	ゲーム展開の確認(45分)	学習内容の復習(45分)
14	課題練習、ゲーム形式	ゲーム展開の確認(45分)	試験課題の確認(45分)
15	実技試験	試験課題の確認(45分)	試験の出来の振り返り(45分)
16	まとめ 授業改善アンケートの実施	授業全体の振り返り(45分)	身に付いた事の確認(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	<b>エディトリアルデザイン</b> (科目ナンバリング: DES222024)				
授業担当者(所属・職名)	梅田 真紀(デザイン学科・非常勤講師)	研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 梅田 真紀)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	フリーランスのグラフィックデザイナーとしての実務経験を元に、エディトリアルデザイン制作を指導する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。				

概要

履修目標

エディトリアルデザインにおける基礎的な知識・技術を修得し、紙面全体の構成を考えて編集して、効果的なデザインを行うことができる。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP(1)に対応する。

到達目標

エディトリアルデザインの基礎的な知識・技術を理解し、制作することができる。

授業全体の内容と概要

印刷物の制作を通して、エディトリアルデザインに必要な知識・技術の修得を目指す。

授業の方法

授業は、制作過程の進捗状況についてチュートリアルを行った後、パワーポイント及び配布物資料等で次の工程の説明をする。  
Adobe Illustrator、InDesign、Photoshopを使用する。  
制作物は、各自で印刷すること。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

出席を重視し、制作過程の提出物、および完成作品において評価する。  
授業内で提示された課題は次の授業までに仕上げてくること。  
第1C室のパソコンおよびソフトウェアを使用することを基本としているが、私物のノートパソコン・タブレットを持参しても良い。  
不足の事態の際にオンライン授業を実施する可能性がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	70%	0%	30%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
デザインにおける基礎的な知識・技術	デザインに関する基礎的な知識・技術を理解し、それらに基づいて効果的なデザインができた。	デザインに関する基礎的な知識・技術を理解し、それらに基づいて効果的なデザインができた。	デザインに関する基礎的な知識・技術を理解し、それらに基づいて効果的なデザインができた。	デザインに関する基礎的な知識・技術を理解し、それらに基づいて効果的なデザインができた。	デザインに関する基礎的な知識・技術を理解できず、課題ができなかった。
構成力・編集力	文字・図・写真などを整理して配置し、美しく効果的な紙面を構成・編集できた。	文字・図・写真などを整理して配置し、美しく効果的な紙面を構成できた。	文字・図・写真などを整理して配置し、美しく効果的な紙面を作ることができた。	文字・図・写真などを整理して配置できた。	情報を文字・図・写真などに整理することができなかった。
制作過程と完成作品	デザインコンセプトに沿って、読み手のことを考慮しながら各過程で検討を重ねて、印刷・製本までを美しく仕上げた。	デザインコンセプトに沿って、各過程で検討を重ねて、印刷・製本までを美しく仕上げることができた。	デザインコンセプトに沿って、各過程で努力し、印刷・製本まで仕上げることもできた。	アイデアに基づいて、作品を完成させた。	作品が完成しなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	エディトリアルデザイン (科目ナンバリング: DES222024)				
授業担当者(所属・職名)	梅田 真紀(デザイン学科・非常勤講師)	研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 梅田 真紀)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	フリーランスのグラフィックデザイナーとしての実務経験を元に、エディトリアルデザイン制作を指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明エディトリアルデザインとは	シラバスを読んでおくこと(90分)	授業をふりかえり理解を深めておくこと(90分)
2	小冊子制作1 課題について	身の周りのエディトリアルデザインを観察する(90分)	課題について構想をまとめる(90分)
3	小冊子制作2 ラフ制作	課題について構想をまとめる(90分)	ラフ制作を進める(90分)
4	小冊子制作3 ページネーション(ページ割り)	ラフを仕上げる(90分)	ページ割りを進める(90分)
5	小冊子制作4 ページネーション(ページ割り)	ページ割りを進める(90分)	ページ割りを仕上げる(90分)
6	小冊子制作5 イラストレーション制作	イラストレーションの準備をする(90分)	イラストレーションを進める(90分)
7	小冊子制作6 イラストレーション制作	イラストレーションを進める(90分)	イラストレーションを進める(90分)
8	小冊子制作7 イラストレーション制作	イラストレーションを進める(90分)	イラストレーションを仕上げる(90分)
9	小冊子制作8 タイポグラフィ・レイアウト・配色	デザインエレメントについて構想する(90分)	デザインエレメントについて検討する(90分)
10	小冊子制作9 タイポグラフィ・レイアウト・配色	デザインエレメントについて検討する(90分)	デザインエレメントについて検討する(90分)
11	小冊子制作10 表紙	表紙制作の準備をする(90分)	表紙制作を進める(90分)
12	小冊子制作11 表紙	表紙制作を進める(90分)	表紙を仕上げる(90分)
13	小冊子制作12 試し刷り	試し刷りの準備をする(90分)	ブラッシュアップに取り組む(90分)
14	小冊子制作13 ブラッシュアップ	ブラッシュアップに取り組む(90分)	データを完成させる(90分)
15	小冊子制作14 印刷・製本	印刷の準備をする(90分)	講評に向けて準備をする(90分)
16	講評 課題に対する解説・フィードバック 授業改善アンケートの実施	講義全体を通して質問事項をまとめておくこと(90分)	講評・フィードバックをふりかえり講義全体の理解を深めること(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	球技 (バレーボール) (科目ナンバリング: HSS522074/2023年度以降HSS422120)				
授業担当者(所属・職名)	天野 雅斗(経営学科・専任講師)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者: 天野 雅斗)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、バレーボール教材を活用した教育方法について指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示板等を参照				

概要

履修目標

学校教育においてバレーボール教材を扱うのに相応しい、態度・能力・嗜好性のある人材を目指す。授業において履修者自身のバレーボールの上達はもちろんのこと、他者との関わり方や実施環境への配慮といった要素についても留意できるようにする。

授業の位置づけ

経営学部経営学科のDP(2)(4)(5)に対応する科目

到達目標

まずはバレーボールの基礎技術を履修者全員が習得する。競技の特性やルールを学び理解するとともに、ゲームの作戦・攻防におけるチーム内の役割を理解する。健康・安全に留意でき、適切な授業目標を設定し、達成させられるような教員としての指導能力を身につける。

授業全体の内容と概要

バレーボールの基礎技術の習得及びゲームを中心に授業を進める。

授業の方法

基礎的練習およびゲーム等の中で、まずは履修者自身がバレーボールの基礎技術の習得・上達することを目標の中心に据えて授業を展開していく。その過程の中で、他者からの、また他者に対する指導や助言を経て、履修者自身による指導や授業実施へと結びつけられるようにする。

アクティブラーニングの実施方法

<input type="radio"/>	プレゼンテーション	<input type="radio"/>	グループワーク	<input type="radio"/>	フィールドワーク	<input type="radio"/>	PBL
<input type="radio"/>	模範授業	<input type="radio"/>	ロールプレイ	<input type="radio"/>	調査学習	<input type="radio"/>	反転授業
<input type="radio"/>	ディスカッション	<input type="radio"/>	実験・実習・実技	<input type="radio"/>	双方向授業	<input type="radio"/>	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

実技科目のため、運動できる服装および屋内履きを用意すること。その他注意事項および詳細に関しては、オリエンテーションで説明する。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(保健体育)選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、13回以上。授業に対する意欲・態度・技術の上達等を総合的に判定する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
30%	0%	0%	0%	60%	10%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
バレーボールの技術習得	バレーボールの技術が高い水準で身につき、ゲーム等の複合的な場面で十分発揮することができた。	バレーボールの技術が高い水準で身につき、練習といった基本的な場面で十分発揮することができた。	バレーボールの技術が身についており、発揮できる場面もあった。	バレーボールの技術が最悪程度のレベルで身についている。	バレーボールの技術が身につかなかった。
役割の認識およびその展開	チームやグループにおいて、戦術的な提案や技術指導に関わる発言が主体的にできた。	チームやグループにおいて、戦術的な提案や技術指導に関わる発言ができた。	チームやグループにおける戦術や技術についての発言に対し、自己の役割を認識した上で、意見を述べることができた。	チームやグループにおける役割や、戦術的な自己の働きを認識することができた。	チームや練習のグループ・スアにおいて、役割を発揮することができなかった。
他者との主体的なコミュニケーション	他の履修者に対して、提案やアドバイスといった、主体的なコミュニケーションを常にとることができた。	他の履修者に対して、提案やアドバイスといった、主体的なコミュニケーションを十分にとることができた。	他の履修者に対して、提案やアドバイスといった、主体的なコミュニケーションを自らとることがあった。	他の履修者とコミュニケーションがとれた。	他の履修者と十分なコミュニケーションがとれなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	球技 (バレーボール) (科目ナンバリング: HSS522074/2023年度以降HSS422120)				
授業担当者(所属・職名)	天野 雅斗(経営学科・専任講師)	研究室等所在	2号館7階		
単位数	1 (単位認定責任者: 天野 雅斗)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、バレーボール教材を活用した教育方法について指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『ステップアップ高校スポーツ2021』	大修館書店編集部	大修館書店	2021		
2	『ステップアップ中学体育2023』	大修館書店編集部	大修館書店	2021		
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明、ガイダンス、レクリエーション 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスの確認(45分)	ガイダンス内容の理解(45分)
2	バレーボールの構造把握、スキルチェック	基本技術の確認(45分)	学習内容の復習(45分)
3	基本技術 オーバーハンドバスの習得・指導	基本技術の確認(45分)	学習内容の復習(45分)
4	基本技術 アンダーハンドバスの習得・指導	基本技術の確認(45分)	学習内容の復習(45分)
5	基本技術 ボールヒット(サーブ)の習得・指導	基本技術の確認(45分)	学習内容の復習(45分)
6	基本技術 スパイクの習得・指導	基本技術の確認(45分)	学習内容の復習(45分)
7	応用技術 実践的な場面におけるオーバーハンドバスの活用について	習得した技術の確認(45分)	学習内容の復習(45分)
8	応用技術 アンダーハンドバスにおけるレセプション・ディグの実際	習得した技術の確認(45分)	学習内容の復習(45分)
9	応用技術 ブロックの習得・指導、ディフェンスにおけるチーム戦術の提示	基本戦術の確認(45分)	学習内容の復習(45分)
10	バレーボールにおける複合的練習 オフェンス(コンビネーション攻撃)	基本戦術の確認(45分)	学習内容の復習(45分)
11	バレーボールにおける複合的練習(トータルディフェンス)	基本戦術の確認(45分)	学習内容の復習(45分)
12	ゲームにおける展開・戦術の組み方	ゲーム展開の確認(45分)	学習内容の復習(45分)
13	課題練習、ゲーム形式	ゲーム展開の確認(45分)	学習内容の復習(45分)
14	課題練習、ゲーム形式	ゲーム展開の確認(45分)	試験課題の確認(45分)
15	実技試験	試験課題の確認(45分)	試験の出来の振り返り(45分)
16	まとめ 授業改善アンケートの実施	授業全体の振り返り(45分)	身についたことの確認(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	<b>エディトリアルデザイン</b> (科目ナンバリング: DES222025)				
授業担当者(所属・職名)	梅田 真紀(デザイン学科・非常勤講師)	研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 梅田 真紀)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	フリーランスのグラフィックデザイナーとしての実務経験を元に、エディトリアルデザイン制作を指導する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。				

概要

履修目標

エディトリアルデザインにおける基礎的な知識・技術を修得し、編集内容の考察を深め、視覚的效果に配慮してデザインを行うことができる。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP(1)(5)に対応する。

到達目標

エディトリアルデザインの基礎的な知識・技術を理解し、制作することができる。

授業全体の内容と概要

印刷物の制作を通して、エディトリアルデザインに必要な知識・技術の修得を目指す。

授業の方法

授業は、制作過程の進捗状況についてチュートリアルを行った後、パワーポイント及び配布物資料等で次の工程の説明をする。  
Adobe Illustrator、InDesign、Photoshopを使用する。  
制作物は、各自で印刷すること。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

出席を重視し、制作過程の提出物および完成作品において評価する。  
授業内で提示された課題は次の授業までに仕上げてくること。  
「エディトリアルデザイン」を履修・修得していることが望ましい。  
第1C室のパソコンおよびソフトウェアを使用することを基本としているが、私物のノートパソコンおよびタブレットを持参しても良い。  
不足の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	70%	0%	30%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
デザインにおける基礎的な知識・技術	デザインの基礎的な知識・技術を理解し、それらに基づいて効果的なデザインができた。	デザインの基礎的な知識・技術を理解し、それらに基づいて効果的なデザインができた。	デザインの基礎的な知識・技術を理解し、それらに基づいて制作できた。	デザインの基礎的な知識・技術を理解し、課題に取り組んだ。	デザインの基礎的な知識・技術を理解できず、課題ができなかった。
構成力・編集力	文字・図・写真などを整理して配置し、美しく効果的な紙面を構成・編集できた。	文字・図・写真などを整理して配置し、美しく効果的な紙面を構成できた。	文字・図・写真などを整理して配置し、分かりやすい紙面を作ることができた。	文字・図・写真などを整理して配置できた。	情報を文字・図・写真などに整理することができなかった。
制作過程と完成作品	デザインコンセプトに沿って、読み手のことを考慮しながら各過程で検討を重ねて、印刷・製本までを美しく仕上げた。	デザインコンセプトに沿って、各過程で検討を重ねて、印刷・製本までを美しく仕上げることができた。	デザインコンセプトに沿って、各過程で努力し、印刷・製本まで仕上げるのができた。	アイデアに基づいて、作品を完成させた。	作品が完成しなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	エディトリアルデザイン (科目ナンバリング: DES222025)				
授業担当者(所属・職名)	梅田 真紀(デザイン学科・非常勤講師)	研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 梅田 真紀)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり 左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	フリーランスのグラフィックデザイナーとしての実務経験を元に、エディトリアルデザイン制作を指導する。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明 エディトリアルデザイン制作について	シラバスを読んでおくこと(90分)	授業をふりかえり理解を深めておくこと(90分)
2	冊子制作1 課題について	エディトリアルデザインについて理解を深める(90分)	課題について構想をまとめる(90分)
3	冊子制作2 アイデア・コンセプト	課題について構想をまとめる(90分)	課題について構想をまとめる(90分)
4	冊子制作3 サイズ・ページネーション	サイズ・ページネーションを検討する(90分)	サイズ・ページネーションを検討する(90分)
5	冊子制作4 デザインコンセプト	デザインコンセプトを検討する(90分)	デザインコンセプトを検討する(90分)
6	冊子制作5 サムネイル	デザインコンセプトを決定する(90分)	サムネイルを仕上げる(90分)
7	冊子制作6 取材	取材の準備をする(90分)	取材を行う(90分)
8	冊子制作7 インタビューの文字起こし	取材を行う(90分)	文字起こしを仕上げる(90分)
9	冊子制作8 写真加工	写真の準備をする(90分)	写真加工を仕上げる(90分)
10	冊子制作9 タイポグラフィ・レイアウト・配色	デザインエレメントについて構想する(90分)	デザインエレメントについて検討する(90分)
11	冊子制作10 タイポグラフィ・レイアウト・配色	デザインエレメントについて検討する(90分)	デザインエレメントについて検討する(90分)
12	冊子制作11 表紙	表紙制作の準備をする(90分)	表紙制作を進める(90分)
13	冊子制作12 試し刷り	表紙を仕上げる(90分)	ブラッシュアップに取り組む(90分)
14	冊子制作13 ブラッシュアップ	ブラッシュアップに取り組む(90分)	データを完成させる(90分)
15	冊子制作14 印刷・製本	印刷の準備をする(90分)	講評に向けて準備をする(90分)
16	講評 課題に対する解説・フィードバック 授業改善アンケートの実施	講義全体を通して質問事項をまとめておくこと(90分)	講評・フィードバックをふりかえり講義全体の理解を深めること(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	球技（ソフトボール）（科目ナンバリング：HSS522076/2023年度以降HSS422122）				
授業担当者（所属・職名）	米野 宏（経営学科・准教授）		研究室等所在	1号館3階	
単位数	1	（単位認定責任者：米野 宏）	CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	本授業の実務経験は5年以上となる。また、中学・高等学校の教員免許更新講習においてソフトボールの講習を担当した経験も活かし授業を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示板等を参照				

概要

履修目標
ソフトボールの基礎からゲームに至るまでの技術や方法を実践し、競技特性やルールを学ぶ。また、中学・高等学校の体育実技に於いて、健康・安全に留意できる指導能力を身に付ける。

授業の位置づけ
経営学科のDP(4)(5)に対応する。

到達目標
ソフトボールの基本技術や練習方法を学び、自主的にゲームが運営できるように導く。また、ゲームを通じてルールや審判法を習得する。

授業全体の内容と概要
前半は、ソフトボールの歴史や競技の特性を概説するとともに、攻撃や守備の基本動作の理論と練習方法を習得し、徐々に応用技術や実践的練習方法へと展開する。後半は試合形式の練習やゲームの中でルールや審判法も学ぶ。また、少人数での特殊なゲームも体験する。

授業の方法
ソフトボールの実技及びゲームは、野球場で行う。雨天時は、基本的に室内練習場で行うが、ビデオ視聴を利用する場合は、教室で実施する。授業内での準備運動では不十分な場合は、早めに到着し、自主的に実施してください。基本技術の習得には個人差が生じます。未熟な技術を自覚できた場合は、熟練者に手伝ってもらい、技術の向上に努めてください。

アクティブラーニングの実施方法																					
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模範授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>○</td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他（授業の方法参照）</td> </tr> </table>	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL															
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業															
ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）															

履修上の注意事項
ソフトボールまたは野球のユニホームを着用するのが望ましいが、屋外での運動にふさわしい物であれば構わない。金具の付いたスパイクシューズは危険なので使用禁止。ジョギングシューズで構わない。グローブは数に限りがあるので、できるだけ個人で用意するのが望ましい。不測の事態の際にオンライン授業を実施する可能性がある。

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目
教職課程（保健体育）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件												
単位認定に必要な出席回数は、11回以上。												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>30%</td> <td>60%</td> <td>10%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	0%	0%	30%	60%	10%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	0%	0%	30%	60%	10%							

ルーブリック																													
<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> <tr> <td>ルールや審判法の理解</td> <td>ルールや審判法を熟知し、競技の特性や歴史的な知識も備わった。</td> <td>ルールや審判法を熟知し、試合を進行させることができた。</td> <td>ルールや審判法をある程度は知っていて、試合を進行させることができた。</td> <td>ルールや審判法をある程度は知っているが、周りのアドバイスを受けながら試合を進行させることができた。</td> <td>ルールや審判法をほとんど理解していなかった。</td> </tr> <tr> <td>守備の基本技術と動きの理解</td> <td>送球と捕球の基本動作に正確性とスピードがあり、理想的な動きを理解し、模範的な動きを示すことができた。</td> <td>送球と捕球の基本動作に正確性とスピードがあり、理想的な動きを理解した。</td> <td>送球と捕球の基本動作にやや正確性とスピードに欠けるが模範となる動きを理解できた。</td> <td>基本動作にやや正確性とスピードに欠けるが正しい動きは理解できた。</td> <td>基本動作の正しい動きを理解できなかった。</td> </tr> <tr> <td>打撃の基本技術と攻撃の理解</td> <td>打基本動作に十分な正確性と強さがあり、理想的な動きを理解し、模範的な動きを示すことができた。</td> <td>打基本動作に正確性と強さがあり、理想的な動きを理解できた。</td> <td>基本動作にやや正確性とスピードに欠けるが模範となる動きを理解できた。</td> <td>基本動作にやや正確性とスピードに欠けるが正しい動きは理解できた。</td> <td>基本動作の正しい動きを理解できなかった。</td> </tr> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	ルールや審判法の理解	ルールや審判法を熟知し、競技の特性や歴史的な知識も備わった。	ルールや審判法を熟知し、試合を進行させることができた。	ルールや審判法をある程度は知っていて、試合を進行させることができた。	ルールや審判法をある程度は知っているが、周りのアドバイスを受けながら試合を進行させることができた。	ルールや審判法をほとんど理解していなかった。	守備の基本技術と動きの理解	送球と捕球の基本動作に正確性とスピードがあり、理想的な動きを理解し、模範的な動きを示すことができた。	送球と捕球の基本動作に正確性とスピードがあり、理想的な動きを理解した。	送球と捕球の基本動作にやや正確性とスピードに欠けるが模範となる動きを理解できた。	基本動作にやや正確性とスピードに欠けるが正しい動きは理解できた。	基本動作の正しい動きを理解できなかった。	打撃の基本技術と攻撃の理解	打基本動作に十分な正確性と強さがあり、理想的な動きを理解し、模範的な動きを示すことができた。	打基本動作に正確性と強さがあり、理想的な動きを理解できた。	基本動作にやや正確性とスピードに欠けるが模範となる動きを理解できた。	基本動作にやや正確性とスピードに欠けるが正しい動きは理解できた。	基本動作の正しい動きを理解できなかった。
評価項目		評価基準																											
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
ルールや審判法の理解	ルールや審判法を熟知し、競技の特性や歴史的な知識も備わった。	ルールや審判法を熟知し、試合を進行させることができた。	ルールや審判法をある程度は知っていて、試合を進行させることができた。	ルールや審判法をある程度は知っているが、周りのアドバイスを受けながら試合を進行させることができた。	ルールや審判法をほとんど理解していなかった。																								
守備の基本技術と動きの理解	送球と捕球の基本動作に正確性とスピードがあり、理想的な動きを理解し、模範的な動きを示すことができた。	送球と捕球の基本動作に正確性とスピードがあり、理想的な動きを理解した。	送球と捕球の基本動作にやや正確性とスピードに欠けるが模範となる動きを理解できた。	基本動作にやや正確性とスピードに欠けるが正しい動きは理解できた。	基本動作の正しい動きを理解できなかった。																								
打撃の基本技術と攻撃の理解	打基本動作に十分な正確性と強さがあり、理想的な動きを理解し、模範的な動きを示すことができた。	打基本動作に正確性と強さがあり、理想的な動きを理解できた。	基本動作にやや正確性とスピードに欠けるが模範となる動きを理解できた。	基本動作にやや正確性とスピードに欠けるが正しい動きは理解できた。	基本動作の正しい動きを理解できなかった。																								

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	球技（ソフトボール）（科目ナンバリング：HSS522076/2023年度以降HSS422122）				
授業担当者（所属・職名）	米野 宏（経営学科・准教授）	研究室等所在	1号館3階		
単位数	1（単位認定責任者：米野 宏）	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	本授業の実務経験は5年以上となる。また、中学・高等学校の教員免許更新講習においてソフトボールの講習を担当した経験も活かし授業を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス（シラバスの説明） （授業改善アンケート結果反映の説明） ソフトボールの歴史	シラバスを読んで確認する。（45分）	資料は保管し、ノートで確認する。（45分）
2	基本技術（送球・捕球）	シラバスを確認し、準備をする。（45分）	技術の未熟なところは個人的に練習する。（45分）
3	基本技術（ゴロ捕球・飛球の捕球）	シラバスを確認し、準備をする。（45分）	技術の未熟なところは個人的に練習する。（45分）
4	基本技術（打撃）	シラバスを確認し、準備をする。（45分）	技術の未熟なところは個人的に練習する。（45分）
5	応用技術（攻撃・守備・走塁）	シラバスを確認し、準備をする。（45分）	技術の未熟なところは個人的に練習する。（45分）
6	戦術に関する理解と実践（攻撃、走塁）	シラバスを確認し、準備をする。（45分）	技術の未熟なところは個人的に練習する。（45分）
7	戦術に関する理解と実践（守備）	シラバスを確認し、準備をする。（45分）	技術の未熟なところは個人的に練習する。（45分）
8	審判法とゲームの進行（実技テスト兼ねる）	シラバスを確認し、準備をする。（45分）	技術の未熟なところは個人的に練習する。（45分）
9	審判法とゲームの進行（実技テスト兼ねる）	シラバスを確認し、準備をする。（45分）	技術の未熟なところは個人的に練習する。（45分）
10	審判法とゲームの進行（実技テスト兼ねる）	シラバスを確認し、準備をする。（45分）	技術の未熟なところは個人的に練習する。（45分）
11	審判法とゲームの進行（実技テスト兼ねる）	シラバスを確認し、準備をする。（45分）	技術の未熟なところは個人的に練習する。（45分）
12	多人数での実戦練習とゲームの工夫（10人制のゲーム）	シラバスを確認し、準備をする。（45分）	技術の未熟なところは個人的に練習する。（45分）
13	多人数での実戦練習とゲームの工夫（10人制のゲーム）	シラバスを確認し、準備をする。（45分）	技術の未熟なところは個人的に練習する。（45分）
14	少人数での実戦練習とゲームの工夫（6人制のゲーム）	シラバスを確認し、準備をする。（45分）	技術の未熟なところは個人的に練習する。（45分）
15	少人数での実戦練習とゲームの工夫（6人制のゲーム）	シラバスを確認し、準備をする。（45分）	技術の未熟なところは個人的に練習する。（45分）
16	ふりかえり、達成度のチェック （授業改善アンケートの実施回）	シラバスを確認し、準備をする。（45分）	学んだことを再確認する。（45分）

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	球技 (サッカー) (科目ナンバリング: HSS522078/2023年度以降HSS422129)				
授業担当者 (所属・職名)	木島 敦 (経営学科・非常勤講師) 小助川 真木 (経営学科・非常勤講師)	研究室等所在	1号館1階非常勤講師室又はスポーツ課		
単位数	1 (単位認定責任者: 木島 敦)	CAP制	×		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	サッカー指導に関する経験・業績を有する教員が、その経験を基に実践的な授業を行う。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等又はスポーツ課で対応。				

概要

履修目標
------

基本からゲームに至るまでの技術や方法を実践し、自らの技術向上のみならず作戦を生かした攻防を展開しゲームが出来るようにする。

授業の位置づけ

経営学科のDP(4)(5)に対応する。

到達目標

競技の特性やルールを学び理解するとともに、練習場などの安全を確かめ、健康・安全に留意できる教員としての指導能力をつける。

授業全体の内容と概要

サッカーの基礎技術の習得及びゲームを中心に授業を進める。

授業の方法

実技を中心とし競技の特性を生かしたグループワークから課題解決(模擬授業を含む)、確認テスト等により深くサッカー理解を深める。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
○	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

服装はトレーニングウェア等を着用。  
グラウンドでの実技はアップシューズで行う。  
雨天の場合は体育館で行う。  
不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合があります。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(保健体育)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	30%	20%	50%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
基本技術の理解と習得。ドリブル・パス・シュート・ヘディング・ボールコントロール	試合形式の中で高いレベルで正確にできた。	試合形式の中でおおむね正確にできた。	技術練習の中では一定の達成していた。	技術練習の中では達成していた。	技術練習の中でも達成していなかった。
個人戦術に関する理解と実践。守備・攻撃	試合形式の中でも高いレベルで理解できていた。	試合形式の中でもおおむね理解できていた。	導入練習の中ではおおむね理解できていた。	導入練習の中では一定の理解できていた。	導入練習の中でも理解できていなかった。
指導の実践	設定と導入が目標を越えたレベルを達成できた。	設定と導入が目標レベルをおおむね達成できた。	設定と導入が目標レベルを一定の達成できた。	設定と導入が理解できていた。	目標レベルを達成できていなかった。



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	球技（サッカー）（科目ナンバリング：HSS522078/2023年度以降HSS422129）				
授業担当者（所属・職名）	木島 敦（経営学科・非常勤講師） 小助川 真木（経営学科・非常勤講師）	研究室等所在	1号館1階非常勤講師室又はスポーツ課		
単位数	1（単位認定責任者：木島 敦）	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	サッカー指導に関する経験・業績を有する教員が、その経験を基に実践的な授業を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスの説明 サッカーガイダンス 授業の進め方	シラバスの確認（45分）	シラバスの再確認（45分）
2	基本技術の理解と習得 ドリブル・パス	試合映像確認（45分）	ドリブル・パスの練習（45分）
3	基本技術の理解と習得 シュート・ヘディング	試合映像の確認（45分）	シュート・ヘディングの練習（45分）
4	基本技術の理解と習得 ボールコントロール	試合映像の確認（45分）	ボールコントロールの練習（45分）
5	基本技術の確認	ドリブル・パス・ヘディングシュートボールコントロールの練習（45分）	試合映像の確認（45分）
6	応用技術の理解と習得	基本技術の確認練習（45分）	応用技術の確認練習（45分）
7	戦術に関する理解と実践 守備における基本と原則	試合映像の確認（45分）	試合映像による守備における基本と原則の確認（45分）
8	戦術に関する理解と実践 攻撃における基本と原則	試合映像の確認（45分）	試合映像による攻撃における基本と原則の確認（45分）
9	戦術に関する理解と実践 攻撃における戦術	試合映像の確認（45分）	試合映像による守備・攻撃における戦術の確認（45分）
10	レフリングとチーム運営	試合映像の確認（45分）	試合映像によるレフリングとチーム運営の確認（45分）
11	試合形式によるレフリーの実践	試合映像の確認（45分）	試合映像によるレフリーの確認（45分）
12	試合形式による基本・応用・戦術の理解と実践・守備	試合映像の確認（45分）	試合映像の確認（45分）
13	試合形式による基本・応用・戦術の理解と実践・攻撃	試合映像の確認（45分）	試合映像の確認（45分）
14	試合形式による基本・応用・戦術の理解と実践・守備と攻撃	試合映像の確認（45分）	試合映像の確認（45分）
15	試合	試合映像の確認（45分）	試合映像の確認（45分）
16	実技試験 フィードバック 授業改善アンケートの実施	基本・応用のトレーニング（45分）	試合映像の確認（45分）

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	人的資源管理論 (科目ナンバリング: MAN413013, MAN523038/2023年度以降, MAN423013)				
授業担当者(所属・職名)	信濃 吉彦(経営学科・教授)	研究室等所在	2号館6階		
単位数	2 (単位認定責任者: 信濃 吉彦)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等で確認すること				

概要

<b>履修目標</b>
経営学の基礎として人的資源管理とは何なのか。経営資源における「ヒト」の項目に関する理解を深める。

<b>授業の位置づけ</b>
経営学科のDPの(1)(2)(3)(4)に対応。

<b>到達目標</b>
経営学の基礎的知識である人的資源に関する様々な知識を身に付ける。

<b>授業全体の内容と概要</b>
教科書を中心に理解すべき内容と記憶すべき内容を分けて修得して欲しい。ハンドアウトを多用する。

<b>授業の方法</b>
テキストを用いての講義に加え、PCを活用した課題なども実施する。

<b>アクティブラーニングの実施方法</b>																					
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>○</td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション	グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業	ロールプレイ	○	調査学習		反転授業	○	ディスカッション	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション	グループワーク		フィールドワーク		PBL															
	模擬授業	ロールプレイ	○	調査学習		反転授業															
○	ディスカッション	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)															

<b>履修上の注意事項</b>
学習を妨げる行為(私語等)は厳禁とする。出席および授業参加度を重視する。教科書を持参しない学生に関しては、期限を切って用意できなかった場合、評価対象から除外する。各自の責任において履修中止を行うこと。ハンドアウト・講義・教科書の内容はホワイトボードにまとめてノートに記載すること。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、修学サポートを実施するので、必ず事前に相談に来て欲しい。
---

<b>資格指定科目</b>
教職課程(商業)選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は10回以上(出席数は自身で管理すること)。12回以上の出席を標準とする。加えて、指定課題の提出・ノートチェックを受けることを単位要件とする。特段の理由がない限りリモートの授業は行わない。個人向けのリモート授業は本科目には存在しない。対面出席できない場合は、欠席とする。20分までを遅刻としそれ以上遅れた場合及び15分以上上述中退した場合は、欠席とする。

<b>評価方法</b>

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	0%	20%	0%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	経営システムや構造に関する基礎的な知識を具体的な事例に当てはめ、日常に活かすことができる。	経営システムや構造に関する基礎的な知識を具体的な事例に当てはめ、日常に活かすことができる。	経営システムや構造に関する基礎的な知識と事例を理解している。	経営システムや構造に関する基礎的な知識を理解している。	経営システムや構造に関する基礎的な知識を理解していない。
思考力・判断力・表現力	組織構造・組織行動・人的資源管理の知識を具体的な事例に当てはめ、日常に活かすことができる。	組織構造・組織行動・人的資源管理の知識を具体的な事例に当てはめ、日常に活かすことができる。	組織構造・組織行動・人的資源管理の知識と事例を理解している。	組織構造・組織行動・人的資源管理の知識を理解している。	組織構造・組織行動・人的資源管理の知識を理解していない。
主体性	組織・人的資源管理を活かす活動に関して、知識の蓄積や活動準備を終え自身のキャリアプランに当てはめ、活用することができる。	組織・人的資源管理を活かす活動、知識の蓄積や準備について、自身のキャリアプランに当てはめ、活用することができる。	組織・人的資源管理を活かす活動、知識の備蓄、事例を理解している。	組織・人的資源管理を活かす活動、知識の備蓄やキャリアを理解している。	組織論・人的資源管理論を活かした関連活動を理解していない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	人的資源管理論 (科目ナンバリング: MAN413013, MAN523038/2023年度以降 MAN423013)				
授業担当者(所属・職名)	信濃 吉彦(経営学科・教授)	研究室等所在	2号館6階		
単位数	2 (単位認定責任者: 信濃 吉彦)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『1からの人的資源管理』	西村孝史・島貫晋行・西岡由美	視学舎・中央経済グループパブリック	2022	9784502407017	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	イントロダクション(人的資源管理とは) シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読んでおくこと(90分)	講義内での指定課題に取り組むこと(90分)
2	人的資源管理とは何か	テキストの該当箇所を一読すること(90分)	講義内での指定課題に取り組むこと(90分)
3	組織構造と職場マネジメント	テキストの該当箇所を一読すること(90分)	講義内での指定課題に取り組むこと(90分)
4	日本の経営の成り立ち	テキストの該当箇所を一読すること(90分)	講義内での指定課題に取り組むこと(90分)
5	社員区分制度と格付け制度	テキストの該当箇所を一読すること(90分)	講義内での指定課題に取り組むこと(90分)
6	人的資源確保 採用と定着	テキストの該当箇所を一読すること(90分)	講義内での指定課題に取り組むこと(90分)
7	人的資源確保 評価	テキストの該当箇所を一読すること(90分)	講義内での指定課題に取り組むこと(90分)
8	人的資源確保 配置と異動	テキストの該当箇所を一読すること(90分)	講義内での指定課題に取り組むこと(90分)
9	人的資源確保 育成とキャリア	テキストの該当箇所を一読すること(90分)	講義内での指定課題に取り組むこと(90分)
10	人的資源確保 報酬管理	テキストの該当箇所を一読すること(90分)	講義内での指定課題に取り組むこと(90分)
11	人的資源管理 退職管理と雇用調整	テキストの該当箇所を一読すること(90分)	講義内での指定課題に取り組むこと(90分)
12	人的資源管理 労働時間管理	テキストの該当箇所を一読すること(90分)	講義内での指定課題に取り組むこと(90分)
13	労働環境 健康管理と安全衛生	テキストの該当箇所を一読すること(90分)	講義内での指定課題に取り組むこと(90分)
14	ダイバーシティと労働多様性 ノートチェック指導	テキストの該当箇所を一読すること(90分)	講義内での指定課題に取り組むこと(90分)
15	まとめ(期末試験に向けて) 授業改善アンケートの実施	テキストの該当箇所を熟読すること(90分)	試験勉強に取り組むこと(90分)
16	試験(60分)と総括(30分)	試験勉強に取り組むこと(90分)	各自で科目総括を行うこと(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	人的資源管理論 (SP) (科目ナンバリング: MAN413013, MAN523038/2023年度以降, MAN423013)				
授業担当者 (所属・職名)	信濃 吉彦 (経営学科・教授)	研究室等所在	2号館6階		
単位数	2 (単位認定責任者: 信濃 吉彦)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等で確認すること				

概要

<b>履修目標</b>
経営学の基礎として人的資源管理とは何なのか。経営資源における「ヒト」の項目に関する理解を深める。

<b>授業の位置づけ</b>
経営学科のDPの(1)(2)(3)(4)に対応。

<b>到達目標</b>
経営学の基礎的知識である人的資源に関する様々な知識を身に付ける。

<b>授業全体の内容と概要</b>
教科書を中心に理解すべき内容と記憶すべき内容を分けて修得して欲しい。ハンドアウトを多用する。

<b>授業の方法</b>
テキストを用いての講義に加え、PCを活用した課題なども実施する。

<b>アクティブラーニングの実施方法</b>					
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業
					その他(授業の方法参照)

<b>履修上の注意事項</b>
学習を妨げる行為(私語等)は厳禁とする。出席および授業参加度を重視する。教科書を持参しない学生に関しては、期限を切って用意できなかった場合、評価対象から除外する。各自の責任において履修中止を行うこと。ハンドアウト・講義・教科書の内容はホワイトボードにまとめてノートに記載すること。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

<b>修学サポート(合理的配慮)</b>
----------------------

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、修学サポートを実施するので、必ず事前に相談に来て欲しい。

<b>資格指定科目</b>
教職課程(商業)選択科目

評価方法・基準

<b>評価前提条件</b>
単位認定に必要な最低出席回数は10回以上(出席数は自身で管理すること)。12回以上の出席を標準とする。加えて、指定課題の提出・ノートチェックを受けることを単位要件とする。特段の理由がない限りリモートの授業は行わない。個人向けのリモート授業は本科目には存在しない。対面出席できない場合は、欠席とする。20分までを遅刻としてそれ以上遅れた場合及び15分以上上述中退した場合は、欠席とする。

<b>評価方法</b>					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	0%	20%	0%	20%	0%

<b>ルーブリック</b>					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

知識・技能	経営システムや構造に関する基礎的な知識を具体的な事例に当てはめ、日常に活かすことができる。	経営システムや構造に関する基礎的な知識を具体的な事例に当てはめ、日常に活かすことができる。	経営システムや構造に関する基礎的な知識と事例を理解している。	経営システムや構造に関する基礎的な知識を理解している。	経営システムや構造に関する基礎的な知識を理解していない。
思考力・判断力・表現力	組織構造・組織行動・人的資源管理の知識を具体的な事例に当てはめ、日常に活かすことができる。	組織構造・組織行動・人的資源管理の知識を具体的な事例に当てはめ、日常に活かすことができる。	組織構造・組織行動・人的資源管理の知識と事例を理解している。	組織構造・組織行動・人的資源管理の知識を理解している。	組織構造・組織行動・人的資源管理の知識を理解していない。
主体性	組織・人的資源管理を活かす活動に関して、知識の蓄積や活動準備を終え自身のキャリアプランに当てはめ、活用することができる。	組織・人的資源管理を活かす活動、知識の蓄積や準備について、自身のキャリアプランに当てはめ、活用することができる。	組織・人的資源管理を活かす活動、知識の蓄積、事例を理解している。	組織・人的資源管理を活かす活動、知識の蓄積やキャリアを理解している。	組織論・人的資源管理論を活かした関連活動を理解していない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	人的資源管理論 (SP) (科目ナンバリング: MAN413013, MAN523038/2023年度以降 MAN423013)				
授業担当者(所属・職名)	信濃 吉彦(経営学科・教授)	研究室等所在	2号館6階		
単位数	2 (単位認定責任者: 信濃 吉彦)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1	『1からの人的資源管理』	西村孝史・島貫晋行・西岡由美	視学舎・中央経済グループパブリッ	2022	9784502407017	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	イントロダクション(人的資源管理とは) シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読んでおくこと(90分)	講義内での指定課題に取り組むこと(90分)
2	人的資源管理とは何か	テキストの該当箇所を一読すること(90分)	講義内での指定課題に取り組むこと(90分)
3	組織構造と職場マネジメント	テキストの該当箇所を一読すること(90分)	講義内での指定課題に取り組むこと(90分)
4	日本の経営の成り立ち	テキストの該当箇所を一読すること(90分)	講義内での指定課題に取り組むこと(90分)
5	社員区分制度と格付け制度	テキストの該当箇所を一読すること(90分)	講義内での指定課題に取り組むこと(90分)
6	人的資源確保 採用と定着	テキストの該当箇所を一読すること(90分)	講義内での指定課題に取り組むこと(90分)
7	人的資源確保 評価	テキストの該当箇所を一読すること(90分)	講義内での指定課題に取り組むこと(90分)
8	人的資源確保 配置と異動	テキストの該当箇所を一読すること(90分)	講義内での指定課題に取り組むこと(90分)
9	人的資源確保 育成とキャリア	テキストの該当箇所を一読すること(90分)	講義内での指定課題に取り組むこと(90分)
10	人的資源確保 報酬管理	テキストの該当箇所を一読すること(90分)	講義内での指定課題に取り組むこと(90分)
11	人的資源管理 退職管理と雇用調整	テキストの該当箇所を一読すること(90分)	講義内での指定課題に取り組むこと(90分)
12	人的資源管理 労働時間管理	テキストの該当箇所を一読すること(90分)	講義内での指定課題に取り組むこと(90分)
13	労働環境 健康管理と安全衛生	テキストの該当箇所を一読すること(90分)	講義内での指定課題に取り組むこと(90分)
14	ダイバーシティと労働多様性 ノートチェック指導	テキストの該当箇所を一読すること(90分)	講義内での指定課題に取り組むこと(90分)
15	まとめ(期末試験に向けて) 授業改善アンケートの実施	テキストの該当箇所を熟読すること(90分)	試験勉強に取り組むこと(90分)
16	試験(60分)と総括(30分)	試験勉強に取り組むこと(90分)	各自で科目総括を行うこと(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	社会的養護 (科目ナンバリング: CHS122071)				
授業担当者(所属・職名)	杉本 大輔(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 杉本 大輔)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照すること				

概要

履修目標

以下について理解することで、児童福祉施設における援助者としての保育士の役割や援助のあり方について必要なことは何かを考える。  
 現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について理解する。  
 子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解する。  
 社会的養護の制度や実施体系等について理解する。  
 社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解する。  
 社会的養護の現状と課題について理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP(1)(2)(5)に対応する

到達目標

現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について理解することができる。  
 子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解することができる。  
 社会的養護の制度や実施体系等について理解することができる。  
 社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解することができる。  
 社会的養護の現状と課題について理解することができる。

授業全体の内容と概要

現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について学ぶ。  
 子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について学ぶ。  
 社会的養護の制度や実施体系等について学ぶ。  
 社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について学ぶ。  
 社会的養護の現状と課題について学ぶ。

授業の方法

授業は、配布資料を活用しながら説明を行う。講義中、テーマを提示し思考・考察、小グループによる意見交換・討論、発表の場面を設定する。毎回、講義開始時に前回の講義に関する質問事項や理解不足に対する点に対してフィードバックを行う。レポートについても解説によるフィードバックを行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

次回の講義でフィードバックを行うので、受講カードにその日の講義の理解についての記述を求める。子どもの健やかな成長とより良い育ちを支える保育士に必要な事柄を理解するとともに、自らの将来のあるべき保育士像を構築しながら受講することを求める。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

保育士養成課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	70%	0%	0%	30%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について	現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について、理解を深めた。	現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について、ほぼ理解を深めた。	現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について、やや理解を深めた。	現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について、理解することができた。	現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について、理解することができなかった。
子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について	子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について、理解を深めた。	子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について、ほぼ理解を深めた。	子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について、やや理解を深めた。	子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について、理解することができた。	子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について、理解することができなかった。
社会的養護の制度や実施体系等について	社会的養護の制度や実施体系等について、理解を深めた。	社会的養護の制度や実施体系等について、ほぼ理解を深めた。	社会的養護の制度や実施体系等について、やや理解を深めた。	社会的養護の制度や実施体系等について、理解することができた。	社会的養護の制度や実施体系等について、理解することができなかった。
社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について	社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について、理解を深めた。	社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について、ほぼ理解を深めた。	社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について、やや理解を深めた。	社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について、理解することができた。	社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について、理解することができなかった。
社会的養護の現状と課題について	社会的養護の現状と課題について、理解を深めた。	社会的養護の現状と課題について、ほぼ理解を深めた。	社会的養護の現状と課題について、やや理解を深めた。	社会的養護の現状と課題について、理解することができた。	社会的養護の現状と課題について、理解することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	社会的養護 (科目ナンバリング: CHS122071)				
授業担当者(所属・職名)	杉本 大輔(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 杉本 大輔)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス(シラバス確認を含む)、現代社会における社会的養護の意義(社会的養護の理念と概念)、授業改善アンケート結果反映の説明	社会的養護とは(90分)	ノート整理、疑問点の解消(90分)
2	社会的養護の歴史の変遷	社会的養護の歴史の変遷(90分)	ノート整理、疑問点の解消(90分)
3	社会的養護の基本 子どもの人権擁護と社会的養護	子どもの権利擁護(90分)	ノート整理、疑問点の解消(90分)
4	社会的養護の基本 社会的養護の基本原則	社会的養護の基本原則(90分)	ノート整理、疑問点の解消(90分)
5	社会的養護の基本 社会的養護における保育士等の倫理と責務	保育士等の倫理と責務(90分)	ノート整理、疑問点の解消(90分)
6	社会的養護の制度と法体系	社会的養護の法体系(90分)	ノート整理、疑問点の解消(90分)
7	社会的養護の仕組みと実施体系	社会的養護の実施体系(90分)	ノート整理、疑問点の解消(90分)
8	社会的養護の対象	社会的養護の対象(90分)	ノート整理、疑問点の解消(90分)
9	家庭養護と施設養護	家庭養護と施設養護(90分)	ノート整理、疑問点の解消(90分)
10	社会的養護に関わる専門職	社会的養護に関わる専門職(90分)	ノート整理、疑問点の解消(90分)
11	社会的養護の現状と課題 社会的養護に関する社会的状況	社会的養護に関する社会的状況(90分)	ノート整理、疑問点の解消、レポート作成(90分)
12	社会的養護の現状と課題 施設等の運営管理	施設等の運営管理(90分)	ノート整理、疑問点の解消、レポート作成(90分)
13	社会的養護の現状と課題 被措置児童等の虐待防止	被措置児童等の虐待防止(90分)	ノート整理、疑問点の解消(90分)
14	社会的養護の現状と課題 社会的養護と地域福祉	地域福祉とは(90分)	ノート整理、疑問点の解消(90分)
15	まとめ(事例研究)授業改善アンケートの実施	文献学習(90分)	ノート整理、疑問点の解消(90分)
16	課題(レポート)に対する解説を行いフィードバックする	文献学習(90分)	文献学習(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	子どもの食と栄養 (科目ナンバリング: EHS122075)				
授業担当者(所属・職名)	湯浅 頼佳(社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 湯浅 頼佳)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示板などを参照				

概要

履修目標

- 健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を学ぶ。
- 子どもの発育・発達と食生活の関連について理解を深める。
- 食育の基本とその内容及び食育のための環境を地域社会・文化とのかかわりの中で理解する。
- 家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について学ぶ。
- 特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP(2)(5)に対応する。

到達目標

小児期の栄養と食生活は生涯にわたる健康と生活の基礎であり小児期から成人にいたる一貫した食生活の意義を理解し、また、保育との関連の中で小児に適切な食事が提供できることの意義と保育における食生活が心の健康にも影響すること、食生活が家族の健康や生活地域との密接な関係があること、食生活を通じて生活全般や環境の望ましい姿を理解する。

授業全体の内容と概要

小児期の成長・発達は、最も著しい時期である。とくに小児期の栄養は、生涯を通じての健康の基盤を確立するためにも重要である。小児期の身体発育や運動機能・精神的発達などを十分に理解し、適正な栄養のあり方を学び、実習を行う。  
「SDGs3.すべての人に健康と福祉を」の関連科目。

授業の方法

授業は板書を中心に、パワーポイントや視聴覚教材(DVD・ブルーレイ)も取り入れながら講義形式で行う。調理実習も行うので必要に応じてグループワークやグループ学習も実施し、その都度発生した疑問・質問などにはフィードバックとして解説を行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○ ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

- 実習を含む科目(グループで実習)なので欠席は極力さけること。単位認定に必要な出席回数は11回以上とする。
- 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

保育士養成課程

評価方法・基準

評価前提条件

定期試験、レポート、出席、その他(授業態度、平常点(活動状況、表等))を上表の基準で評価する。単位認定に必要な出席回数は11回以上とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
80%	5%	0%	0%	10%	5%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能(理解力)	食生活の意義や栄養に関する基本的知識を十分に理解できた。	食生活の意義や栄養に関する基本的知識を概ね理解できた。	食生活の意義や栄養に関する基本的知識を理解できた。	食生活の意義や栄養に関する基本的知識を多少理解できた。	食生活の意義や栄養に関する基本的知識を理解できなかった。
汎用的機能(思考力)	子どもの発育・発達と食生活の関連について十分に理解し深く考察できた。	子どもの発育・発達と食生活の関連について理解し概ね考察できた。	子どもの発育・発達と食生活の関連について十分に理解し考察できた。	子どもの発育・発達と食生活の関連について十分に理解し多少考察できた。	子どもの発育・発達と食生活の関連について考察できなかった。
態度・志向性(意欲)	授業を休まず出席できた。(16回)	授業を概ね休まず出席できた。(15回)	授業を休むことがあるが出席できた。(14-13回)	授業を休みがちだが出席できた。(12-11回)	評価前提条件を満たす事ができなかった。(10-0回)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	子どもの食と栄養 (科目ナンバリング: EHS122075)				
授業担当者(所属・職名)	湯浅 頼佳(社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 湯浅 頼佳)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『子どもの食生活 第6版 栄養・食育・保育』	上田玲子	ななみ書房	2022	9784903355986	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス及びシラバスの説明と授業改善アンケート結果反映の説明	子どもの食生活に関係した話題を調べる(90分)	シラバスの確認をする。毎回授業後にノート整理を含めた復習を行う事(90分)
2	子どもの健康と食生活の意義・子どもの心身の健康と食生活・子どもの食生活の現状と課題	教科書の学習内容部分を数回読んでおく事(90分)	毎回授業後にノート整理を含めた復習を行う(90分)
3	栄養に関する基本的知識(1)栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能	教科書の学習内容部分を数回読んでおく事(90分)	毎回授業後にノート整理を含めた復習を行う(90分)
4	栄養に関する基本的知識(2)食事摂取基準と献立作成・調理の基本	教科書の学習内容部分を数回読んでおく事(90分)	毎回授業後にノート整理を含めた復習を行う(90分)
5	子どもの発育・発達と食生活(1)乳児期の授乳・離乳の意義と食生活	教科書の学習内容部分を数回読んでおく事(90分)	毎回授業後にノート整理を含めた復習を行う(90分)
6	子どもの発育・発達と食生活(2)幼児期の心身の発達と食生活	教科書の学習内容部分を数回読んでおく事(90分)	毎回授業後にノート整理を含めた復習を行う(90分)
7	子どもの発育・発達と食生活(3)学童期の心身の発達と食生活・生涯発達と食生活	教科書の学習内容部分を数回読んでおく事(90分)	毎回授業後にノート整理を含めた復習を行う(90分)
8	食育の基本と内容(1)食育における養護と教育の一体性	教科書の学習内容部分を数回読んでおく事(90分)	毎回授業後にノート整理を含めた復習を行う(90分)
9	食育の基本と内容(2)食育の内容と計画及び評価・食育のための環境	教科書の学習内容部分を数回読んでおく事(90分)	毎回授業後にノート整理を含めた復習を行う(90分)
10	食育の基本と内容(3)地域の関係機関や職員間の連携・食生活指導及び食を通じた保護者への支援	教科書の学習内容部分を数回読んでおく事(90分)	毎回授業後にノート整理を含めた復習を行う(90分)
11	家庭や児童福祉施設における食事と栄養	教科書の学習内容部分を数回読んでおく事(90分)	毎回授業後にノート整理を含めた復習を行う(90分)
12	特別な配慮を要する子どもの食と栄養	教科書の学習内容部分を数回読んでおく事(90分)	毎回授業後にノート整理を含めた復習を行う(90分)
13	調理実習(1)	調理実習に必要な要件について調べておく事(90分)	うまく行かなかった点や反省点を次回に繋げる様考える(90分)
14	調理実習(2)	調理実習に必要な要件について調べておく事(90分)	調理実習についてレポートを作成する(90分)
15	まとめ	子どもの栄養について理解したことをまとめる(90分)	受講後の考察をレポートにまとめる(90分)
16	授業改善アンケートの実施及び定期試験実施 60分の試験終了後、残りの30分で解説を行います。	試験準備(90分)	試験のふりかえり(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	子ども家庭支援論 (科目ナンバリング: CHS122076)				
授業担当者(所属・職名)	杉本 大輔(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 杉本 大輔)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示板等を参照すること				

概要

履修目標

現代家族が抱える諸課題、個々の機能、家族と社会の関係性の形成、家族政策を理解したうえで、効果的な子育て支援方法とは何か、を理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP(1)(2)(3)に対応する

到達目標

家族支援の意義と役割、家庭生活を取り巻く社会的状況、子育て家庭への支援体制、家族形態の多様化と、それに対応した支援方法を学習し、学生各自の身近な地域社会における家庭支援の方法を模索し、現状に即した支援方法を考察し、構築する。

授業全体の内容と概要

家族についての概念、家族変動、現代家族の課題など、家族社会学の基本的概念を学習したうえで、子育て支援ネットワークの事例及び家族システム理論について講義を行う。

授業の方法

各時間ごとに、教員が講義プリントを配布し、それに基づいて講義を行う。配布プリントの内容を教員が説明し、重要事項は黒板に板書する。課題等は特に設定しないが、乳児保育の復習をしておくことが望ましい。学生の要望には可能な限り対応するが、教育上好ましくないと思われる要望には応えられない。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

主体的・積極的な参加を望む。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

保育士養成課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位取得の最低出席回数10回をクリアすること。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
80%	0%	0%	0%	0%	20%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
明治時代以降の、家族の構造・機能変動について理解する。	明治時代からの家族の構造・機能変動について、事例を家族社会学の諸理論を用いて説明できた。	明治時代からの家族の構造・機能変動について、概略を説明できた。	明治時代からの家族の構造・機能変動について、事例を用いて説明できた。	明治時代からの家族の構造・機能変動についての概略を説明できた。	左記の内容が何一つできていなかった。
現代日本における子育てが家族が抱える課題について理解する。	子育てが家族が抱える諸課題と児童虐待発生の関係性を、関係法規と家族社会学理論及びシステム理論を用いて説明できた。	子育てが家族が抱える諸課題と児童虐待発生の関係性を、関係法規を交えて説明できた。	子育てが家族が抱える諸課題と児童虐待発生の関係性について説明できた。	子育てが家族が抱える諸課題の概略を説明できた。	左記の内容が何一つできていなかった。
子育ての課題を抱えた家族の支援方法について理解する。	地域ネットワーク構築の方法論を、ネットワーク構築理論を用いて説明でき、且つ事例を用いて説明でき、さらに事例に用いられた支援方法の課題を説明できた。	地域ネットワーク構築の方法論を、ネットワーク構築理論を用いて説明でき、且つ、事例を用いて解説できた。	地域ネットワーク構築の方法論を、ネットワーク構築理論を用いて説明できた。	地域ネットワーク構築の方法論の概略を説明できた。	左記の内容が何一つできていなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	子ども家庭支援論 (科目ナンバリング: CHS122076)				
授業担当者(所属・職名)	杉本 大輔(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 杉本 大輔)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス シラバスの説明(授業改善アンケート結果反映の説明)	乳児保育復習(90分)	配布プリントの読み込み(90分)
2	家族支援の意義と役割1 家族の意義と機能	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの読み込み(90分)
3	家族支援の意義と役割2 家族支援の必要性	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの読み込み(90分)
4	家族支援の意義と役割3 保育士が行う家族支援の原理	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの読み込み(90分)
5	家族生活を取り巻く社会的状況1 現代社会における人間関係の変化	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの読み込み(90分)
6	家族生活を取り巻く社会的状況2 地域社会の変容と家族支援	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの読み込み(90分)
7	家族生活を取り巻く社会的状況3 男女共同参画社会とワークライフバランス	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの読み込み(90分)
8	子育て家族への支援体制1 子育て家族の福祉を図るための社会資源	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの読み込み(90分)
9	子育て家族への支援体制2 子育て支援施設・次世代育成支援施設の推進	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの読み込み(90分)
10	多様な支援の展開と関係機関との連携1 子育て支援サービスの概要	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの読み込み(90分)
11	多様な支援の展開と関係機関との連携2 保育所入所児童の家庭への支援	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの読み込み(90分)
12	多様な支援の展開と関係機関との連携3 地域の子育て家族への支援	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの読み込み(90分)
13	多様な支援の展開と関係機関との連携4 要保護児童及びその家族に関する支援	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの読み込み(90分)
14	多様な支援の展開と関係機関との連携5 子育て支援における関係機関との連携	前回プリントの読み込み(90分)	配布プリントの読み込み(90分)
15	多様な支援の展開と関係機関との連携6 子育て支援サービスの課題(授業改善アンケートの実施)	前回プリントの読み込み(90分)	講義全体の総復習(90分)
16	定期試験(60分の試験終了後、残りの30分で解説を行います)	講義全体の総復習(90分)	自己総括(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	工芸実習（オムニバ）（科目ナンバリング：AEA222072）				
授業担当者（所属・職名）	梅田 力（デザイン学科・准教授）中島 義博（デザイン学科・非常勤講師）三	研究室等所在	2号館8階		
単位数	2（単位認定責任者：三上 いずみ）	CAP制	×		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標
<p>（金属）：金属（鋳金）の特性を活かした美しい作品を制作することが出来る。</p> <p>（染色）：広大な染色の世界の一端としての型染めを知る。技法の特質と道具、材料の名称、使用方法を知る。型の連続によるデザインの可能性を知る。</p> <p>（テキスタイルデザイン）：身の回りにあふれるテキスタイルデザインを知り、知識を深める。スクリーンプリント技法を学ぶ。</p>

授業の位置づけ
デザイン学科のDP（1）（3）（5）に対応する。

到達目標
<p>（金属）：金属（鋳金）の特性を理解して作品を制作することが出来る。</p> <p>（染色）：型染めの歴史と特性を知り説明できる。型染めの道具、材料の使用方法和技法の基礎を知り制作ができる。型染め特有のデザインの方法を知り実践できる。</p> <p>（テキスタイルデザイン）：身の回りにあふれるテキスタイルデザインを知る。スクリーンプリント技法を体験する。</p>

授業全体の内容と概要
<p>（金属）では、「鋳金」を行う。道具の名称や使用方法を実践を通じて学ぶ。制作した作品はポスター（プレゼンテーションボード）にまとめて提出する。</p> <p>（染色）では、型染めの歴史と技法を学び、自身のデザインで制作に取り組み授業である。オムニバの少ない授業時間であるが型彫から水元までの型染め全行程を体験する。</p> <p>（テキスタイルデザイン）では、身の回りにあふれるテキスタイルデザインに注目し、オリジナルのデザインを考える。スクリーンプリント技法を学び、実践する。テキスタイル小作品を制作し、発表・展示を行う。</p> <p>「SDG12、つくる責任 つかう責任」の関連授業。</p>

授業の方法
<p>（金属）スライドを使って課題の説明を行なった後、各自作品制作を行う。作品完成後、作品評価及び講評を行う。学生は各自で画像を撮影して保存する。最終的に保存した画像を編集し、ポスターを作成し提出する。</p> <p>（染色）板書、作例によって歴史と作業の基礎を学び、各自の構想による原画をもとに型染めの制作を行う実技科目である。完成作品の発表を行う機会を設け講評をする。ここで学ぶ型染めは四方送りの技法である。</p> <p>（テキスタイルデザイン）授業は板書・パワーポイント・資料配布・実演等の方法で説明する。授業後に説明用動画はTeam s に保存するので振り返りが可能。課題は添削、講評にてフィードバックする。</p>

アクティブラーニングの実施方法					
プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	P B L
模擬授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項
<p>（金属）制作した作品は撮影して保存し、最終的にはポスターにまとめて提出すること。</p> <p>（染色）限られた時間の中で工程数が多いので遅刻、欠席は極力避けることが肝要である。</p> <p>染料と水を使う作業なので対応する服装を心がける。</p> <p>（テキスタイルデザイン）授業開始から30分間で作業の説明を行うので遅刻しないこと。作業計画のスケジュールは変更できないので必ず出席すること。簡単なレポート提出あり。</p> <p>不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。</p>

修学サポート（合理的配慮）
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
教職課程（美術・工芸）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件												
オムニバスの各講座につき、それぞれ8割以上の出席をすること。各講座で課される作品等を全て完成させ、期限内に提出をすること。												
評価方法												
<table border="1"> <thead> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>70%</td> <td>0%</td> <td>30%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	0%	70%	0%	30%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	0%	70%	0%	30%	0%							

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
工芸作品の基本的な特性の理解	工芸における道具の使い方を理解し、技法の特性を活用して美しい作品を制作した。	工芸における道具の使い方を理解し、技法の特性を活用して作品を制作した。	工芸における道具の使い方を理解し、作品を制作した。	工芸技法を使って作品を制作した。	工芸技法を使って作品を制作できなかった。
表現力	課題の意図を理解して制作テーマに活かし、作品に十分に表現することができた。	課題の意図を理解して制作テーマに活かし、作品に表現することができた。	課題の意図を受け止め、制作テーマを決定し、作品に表現することができた。	制作テーマを考え、作品に表現することができた。	制作テーマを考え、作品に表現することができなかった。
主体的に学習に取り組む態度	綿密な制作計画を立て、十分な準備をして、高度で丁寧な制作を行った。	制作計画を立て、十分な準備をして、丁寧な制作を行った。	制作計画を立て、適度な準備をして、順調な制作を行った。	制作計画を立て、計画通りに制作を行った。	制作計画を立て、計画通りに制作を行えなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	工芸実習（オムニバ）（科目ナンバリング：AEA222072）				
授業担当者（所属・職名）	梅田 力（デザイン学科・准教授）中島 義博（デザイン学科・非常勤講師）三	研究室等所在	2号館8階		
単位数	2（単位認定責任者：三上 いずみ）	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間			
回	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション(梅田・中島・三上) シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスをよく読んでおくこと(45分)	オリエンテーションを振り返り、内容を理解する事(45分)
2	(梅田) 鋸金について	課題に関連するドローイングを描いてくる事(45分)	ポスター作成(45分)
3	(梅田) アイスブーン デザイン案(鋸金)	課題に関連するドローイングを描いてくる事(45分)	ポスター作成(45分)
4	(梅田) アイスブーン デザイン案(鋸金)	課題に関連するドローイングを描いてくる事(45分)	ポスター作成(45分)
5	(梅田) アイスブーン (鋸金)	課題に関連するドローイングを描いてくる事(45分)	ポスター作成(45分)
6	(梅田) アイスブーン (鋸金)	課題に関連するドローイングを描いてくる事(45分)	ポスター作成(45分)
7	(梅田) アイスブーン (鋸金)仕上げ	課題に関連するドローイングを描いてくる事(45分)	ポスター作成(45分)
8	(梅田) アイスブーン (鋸金)仕上げ	課題に関連するドローイングを描いてくる事(45分)	ポスター作成(45分)
9	(梅田) ポスターセッション (講評)	事前に質問したい事をまとめておく(45分)	講評を再考し、理解を深めること(45分)
10	(梅田) ポスターセッション (講評)	事前に質問したい事をまとめておく(45分)	講評を再考し、理解を深めること(45分)
11	(中島) 型染めの歴史、特性、技法の説明	シラバスをよく読んでおくこと(45分)	課題を理解し、準備を進める事(45分)
12	(中島) 型の図案作成	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
13	(中島) 型の図案作成	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
14	(中島) 型彫り 洋型紙に図案を彫る	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
15	(中島) 型彫り	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
16	(中島) 型彫り 糊を作り生地に着く	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)

各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間			
回	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	(中島) 染色 色糊を作り、型の上から引く	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
18	(中島) 染色	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
19	(中島) 蒸し、水元、定着	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
20	(中島) 完成作品発表・講評	事前に質問したい事をまとめておく(45分)	作品を持ち帰り、鑑賞、使用、反省すること(45分)
21	(三上) テキスタイルデザインとスクリーンプリント技法についての説明	シラバスを読んでどんな作品を作るか考えておくこと(45分)	課題を理解し、準備を進める事(45分)
22	(三上) 作業計画を立てる	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
23	(三上) ラフデザイン	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
24	(三上) ラフデザイン	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
25	(三上) 版下作成	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
26	(三上) 版下作成	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
27	(三上) 製版	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
28	(三上) 刷り	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
29	(三上) 落版・掃除	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
30	(三上) 定着・仕上げ	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
31	(梅田・中島・三上) 展示・発表・講評	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと(45分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
32	(梅田・中島・三上) まとめ 授業改善アンケートの実施	事前に質問したい事をまとめておく(45分)	講評を受けて今後の制作に活かす(45分)



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	肢体不自由者の心理・ (科目ナンバリング：SNE122105)				
授業担当者(所属・職名)	坂上 俊樹(社会福祉学科・非常勤教員)		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室	
単位数	2	(単位認定責任者：坂上 俊樹)	CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験有り	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験を活かして、今日的な教育課題(肢体不自由者の心理・生理・病理)について指導する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。				

概要

履修目標

共生社会創造のための授業として肢体不自由教育を効果的に行うために必要な心理や病理・行動特性等の基本的な知識を理解して、指導上の配慮事項等の基礎知識を得る。

授業の位置づけ

社会福祉学科DP(2)(4)(5)に対応する。

到達目標

肢体不自由児の心理や行動特性、指導上の配慮事項等について具体的に述べることができる。

授業全体の内容と概要

「一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育」の基本的理念を押さえ、肢体不自由児の身体的・心理的な特性を事例や視覚教材を活用しながら構成する。「SDGs4・質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業は、パワーポイント及び配布資料で実施し、パワーポイントにて説明した後、配布資料の記述部分に書き込んだり、質疑応答の時間を設けて基礎知識の定着を図る。また、DVDを視聴し具体的な実践場面を確認し、レポートにまとめ知識の進化を図る。なお、グループワーク発表、レポートにはコメントにてフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

・肢体不自由児の身体的・心理的な特性に応じた指導を行うにはどうしたらよいかを考えながら、必要な知識を積極的に学が姿勢で臨むこと。また、実践事例のDVD教材視聴直後に事例に基づくレポート提出を求めるので、授業を欠席することのないよう留意すること。  
・不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

・事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。  
・講義中の録音・録画・撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。

資格指定科目

教職課程(特別支援)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は10回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	20%	0%	0%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
肢体不自由児者の心理・生理・病理の理解	肢体不自由児者の心理・生理・病理の理解について、学修した知識・技能を基礎に、更に学修を深めることができた。	肢体不自由児者の心理・生理・病理について、必要な知識・技能を理解することができた。	肢体不自由児者の心理・生理・病理について、一定程度の理解ができた。	肢体不自由児者の心理・生理・病理について、一部理解することができた。	肢体不自由児者の心理・生理・病理について、理解ができなかった。
肢体不自由児者の心理整理・病理についての思考・判断・表現	肢体不自由児者の心理・生理・病理について、積極的に思考・判断し、自ら表現を工夫して活動することができた。	肢体不自由児者の心理・生理・病理について、思考・判断し、自ら表現することができた。	肢体不自由児者の心理・生理・病理について、思考活動に取組み、表現しようとすることができた。	肢体不自由児者の心理・生理・病理について、思考できた。	肢体不自由児者の心理・生理・病理にかかわる、思考・判断・表現についての必要な取組ができなかった。
授業への参加態度・姿勢	授業にとっても積極的に参加することができた。	授業に積極的に参加することができた。	授業に関心をもって参加することができた。	授業へいくらか関心をもって参加できた。	授業への積極的な参加ができなかった。



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	肢体不自由者の心理・ (科目ナンバリング: SNE122105)				
授業担当者(所属・職名)	坂上 俊樹(社会福祉学科・非常勤教員)	研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 坂上 俊樹)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験有り	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験を活かして、今日的な教育課題(肢体不自由者の心理・生理・病理)について指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『特別支援教育の基礎・基本2020』	国立特別支援教育総合研究所	ジヤース教育新社	2020年	978-4-86371-548-6	
2					0	
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『P 肢体不自由児の医療・療育・教育 改訂3版』	篠田達明	金芳堂	2015年	978-4-7653-1628-6	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション - 授業改善アンケート結果反映の説明とシラバスの説明、肢体不自由者の心理・生理・病理の概要	シラバスを確認しておくこと(90分)	配付資料に基づいて、年間の授業内容の見直しを立てる(90分)
2	肢体不自由者の概念と疾患	指定した教科書の「特別支援教育の対象」を事前に読んでおくこと(90分)	配付資料に基づき復習しておくこと(90分)
3	脳性まひの起因と症状(1)	指定した教科書の「脳性まひとは」を事前に読んでおくこと(90分)	配付資料に基づき復習しておくこと(90分)
4	脳性まひの起因と症状(2)	指定した教科書の「脳性まひ」を事前に読んでおくこと(90分)	配付資料に基づき復習しておくこと(90分)
5	二分脊椎の起因と症状	指定した教科書の「二分脊椎」を事前に読んでおくこと(90分)	配付資料に基づき復習しておくこと(90分)
6	筋ジストロフィーの起因と症状	指定した教科書の「筋ジストロフィー」を事前に読んでおくこと(90分)	配付資料に基づき復習しておくこと(90分)
7	ベルテス病の起因と症状	「ベルテス病」について事前に調べておくこと(90分)	配付資料に基づき復習しておくこと(90分)
8	肢体不自由の特性を呈するその他の障害	指定した教科書の「医学的側面から見た肢体不自由」を事前に読んでおくこと(90分)	配付資料に基づき復習しておくこと(90分)
9	重症心身障害	配布した資料に基づき事前に調べること(90分)	配付資料に基づき復習しておくこと(90分)
10	障害に対する医療的対応	指定した教科書の「医学的側面からの把握」を事前に読んでおくこと(90分)	配付資料に基づき復習しておくこと(90分)
11	DVDの視聴及びレポート作成	事前に配布したDVDの資料を読んでおくこと(90分)	DVD視聴時に取ったメモに基づき整理しておくこと(90分)
12	生涯学習と医療・社会福祉	指定した教科書の「幼児児童生徒への対応」を事前に読んでおくこと(90分)	配付資料に基づき復習しておくこと(90分)
13	肢体不自由者の心理的特性	指定した教科書の「心理学的・教育的側面からみた肢体不自由」を事前に読んでおくこと(90分)	配付資料に基づき復習しておくこと(90分)
14	肢体不自由者の療育上特に留意すべき事項	指定した教科書の「肢体不自由とは」を事前に読んでおくこと(90分)	配付資料に基づき復習しておくこと(90分)
15	「授業改善アンケート」の実施 バリアフリーとまとめ	配布した資料に基づき「バリアフリー」について調べておくこと(90分)	配付資料に基づき復習しておくこと(90分)
16	定期試験(60分の試験終了後、残りの30分で解説する。)	指定した教科書や講義内容について整理しておくこと(90分)	試験の結果を見直す(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	子どもの保健 (科目ナンバリング: SOM122074)				
授業担当者(所属・職名)	宮崎 剛司(社会福祉学科・講師)	研究室等所在	1号館2階常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 宮崎 剛司)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	看護実践、看護教育の実務経験あり。人の生命誕生から成長過程を学び、社会の構成員としての子どもを健全に育む意義・保育の役割を説明する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標
子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解し、子どもの身体発育や生理機能及び運動機能並びに精神機能の発達と保健について学ぶ。また、子どもに多い疾病とその予防法及び適切な対応について理解を深める。

授業の位置づけ
社会福祉学科のDP(1)と(2)と(3)と(4)と(5)に対応する。

到達目標
子どもの健康と保健の意義を理解し、子どもの発育・発達及び子どもの疾病と保育について説明できる。

授業全体の内容と概要
子どもの保健の意義、子どもの健康と心身機能、発育・発達と保健及び子どもに多い疾病と予防について学習する。

授業の方法
講義形式、板書やテキストを活用し、子どもを取り巻く社会問題や背景と関連付けて解説を行う。また、まとめや確認のために小試験やレポート(2回)を課題とし、検索後返却し、解答・解説を行いフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法						
プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業	○	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
保育士養成課程

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要となる最低出席回数は11回以上					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	10%	0%	20%	10%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
子どもの保健の意義	子どもの特徴や健康と生命の安全、心身の健やかな育ちを関連させ非常によく理解できた。	子どもの特徴や健康と生命の安全、心身の健やかな育ちを関連させ概ね理解できた。	子どもの特徴や健康、生命の安全や心身の健やかな育ちについて部分的に理解できた。	子どもの特徴や健康、生命の安全、心身の健やかな育ちについて助言により理解できた。	助言しても理解できなかった。
子どもの発育・発達	子どもの発育・発達の原則を列挙し、心身機能、生理・運動機能、社会性の発達過程を詳しく説明できた。	子どもの発育・発達の原則を列挙し、心身機能、生理・運動機能、社会性の発達過程を概ね説明できた。	子どもの発育・発達の原則、心身機能、生理・運動機能、社会性について部分的に説明できた。	子どもの発育・発達の原則、心身機能、生理・運動機能、社会性について助言により説明できた。	助言しても説明できなかった。
子どもに多い疾病	子どもの健康状態の把握方法を学び、子どもに多い病気を列挙し、その病気の特徴や症状・対応について詳しく説明できた。	子どもの健康状態の把握方法を学び、子どもに多い病気を列挙し、その病気の特征や症状・対応について概ね説明できた。	子どもの健康状態の把握方法を学び、子どもに多い病気の対応について部分的に説明できた。	子どもの健康、子どもに多い病気について助言により説明できた。	助言しても説明できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	子どもの保健 (科目ナンバリング: SOM122074)				
授業担当者(所属・職名)	宮崎 剛司(社会福祉学科・講師)	研究室等所在	1号館2階常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 宮崎 剛司)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	看護実践、看護教育の実務経験あり。人の生命誕生から成長過程を学び、社会の構成員としての子どもを健全に育む意義・保育の役割を説明する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『授業の中で随時案内する』					
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『新・基本保育シリーズ16 子どもの健康と安全』	編集: 大西文子	中山書店	2019	978-4521747774	
2	『新・基本保育シリーズ11 子どもの保健』	児童育成協会/松田博雄	中央法規	2019	978-4805857915	
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明、ガイダンス 授業改善アンケート結果反映の説明 子どもの健康と保健の意義(1)	事前に教科書全体に目をとっておく(90分)	当日の授業で行ったことをまとめておく(90分)
2	子どもの健康と保健の意義(2) 健康の概念と健康指標	教科書の「子どもの保健の意義」について事前に読んでおくこと(90分)	当日の授業で行ったことをまとめておく(90分)
3	子どもの健康と保健の意義(3) 子どもの健康に関する現状と課題	教科書の「子どもの保健の意義」について事前に読んでおくこと(90分)	当日の授業で行ったことをまとめておく(90分)
4	子どもの健康と保健の意義(4) 地域における保健活動と児童虐待防止	教科書の「子どもの保健の意義」について事前に読んでおくこと(90分)	授業終了時に出す課題についてレポート作成すること(90分)
5	子どもの発育・発達と保健(1) ヒトの成り立ちと身体発育	教科書の「子どもの発育・発達」について事前に読んでおくこと(90分)	返却レポートを見直し子どもの保健の意義を再確認する(90分)
6	子どもの発育・発達と保健(2) 生理機能の発達と保健	教科書の「子どもの発育・発達」について事前に読んでおくこと(90分)	当日の授業で行ったことを復習しておくこと(90分)
7	子どもの発育・発達と保健(3) 子どもの運動機能の発達と保健	教科書の「子どもの発育・発達」について事前に読んでおくこと(90分)	小テストを行うので前半の授業の復習を欠かさぬこと(90分)
8	前半の総括と学習到達度の確認テスト	前半の授業・ノートを見直しテストに臨むこと(90分)	確認テスト問題を見直し自己採点しておく(90分)
9	子どもの精神機能の発達と保健	教科書の「子どもの精神機能の発達」について事前に読んでおくこと(90分)	当日の授業で行ったことを復習しておくこと(90分)
10	子どもの健康状態の把握(1) 健康観察と健康状態把握	教科書の「子どもの健康状態の把握」について事前に読んでおくこと(90分)	当日の授業で行ったことを復習しておくこと(90分)
11	子どもの健康状態の把握(2) 発育・発達の把握と保護者	教科書の「子どもの健康状態の把握」について事前に読んでおくこと(90分)	当日の授業で行ったことを復習しておくこと(90分)
12	子どもの疾病と保育(1) 子どもの疾病の特徴	教科書の「子どもの疾病と保育」について事前に読んでおくこと(90分)	当日の授業で行ったことを復習しておくこと(90分)
13	子どもの疾病と保育(2) 子どもの発達と疾病	教科書の「子どもの疾病と保育」について事前に読んでおくこと(90分)	授業終了時に出す課題について復習すること(90分)
14	子どもの疾病と保育(3) 子どもの疾病の予防と適切な対応	教科書の「子どもの疾病の予防と対応」について事前に読んでおくこと(90分)	授業終了時に出す課題についてレポート作成すること(90分)
15	総括と子どもの保健の課題 授業改善アンケート実施	これまで授業で行ったことを振り返り準備しておくこと(90分)	返却レポート結果を見直し子どもの保健の課題に今後も取り組んでいくこと(90分)
16	定期試験60分の終了後残りの時間で解説	定期試験の準備をすること(90分)	試験の振り返りを行うこと(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	子育て支援 (科目ナンバリング: CHS122095)				
授業担当者(所属・職名)	杉本 大輔(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 杉本 大輔)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードなどを参照すること				

概要

<p><b>履修目標</b></p> <p>以下について理解し、事例研究やロールプレイ等を通して自己覚知を行う。          保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援(保育相談支援)について、その特性と展開について理解する。          保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術について理解する。</p>
--

<p><b>授業の位置づけ</b></p> <p>社会福祉学科のDP(1)(2)(5)に対応する</p>
--

<p><b>到達目標</b></p> <p>保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援(保育相談支援)について、その特性と展開について理解することができる。          保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術について理解することができる。</p>
--

<p><b>授業全体の内容と概要</b></p> <p>保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援(保育相談支援)について、その特性と展開を具体的に学ぶ。          保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に学ぶ。</p>
--

<p><b>授業の方法</b></p> <p>授業は、演習テーマに基づき思考・考察・意見交換・討論・発表等の一連の活動を行う。小グループでの話し合い、事例分析・ロールプレイング等に基づく各自の感想、意見、振り返りを毎回述べてもらう。グループ発表、個人発表等に対してコメントを述べフィードバックを行う。レポートについても解説によるフィードバックを行う。</p>
---

<b>アクティブラーニングの実施方法</b>					
プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
模擬授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	その他(授業の方法参照)

<p><b>履修上の注意事項</b></p> <p>演習テーマに基づき小グループでの話し合い、ロールプレイング等を行うので主体的に参加して欲しい。専門職としての自己を成長させるための時間として活用して欲しい。そのためにも「準備学習」については、示したテーマに係るこれまでの学びを踏まえて整理すること。「事後学習」については、その日取り組んだ演習内容を記録し専門職を目指す者としての自己覚知を重視すること。          不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。</p>
--

<p><b>修学サポート(合理的配慮)</b></p> <p>事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。</p>
<p><b>資格指定科目</b></p> <p>保育士養成課程科目</p>

<p><b>評価方法・基準</b></p> <p><b>評価前提条件</b></p> <p>単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。</p>												
<p><b>評価方法</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0%</td> <td>30%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>70%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	30%	0%	0%	70%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	30%	0%	0%	70%	0%							

<b>ルーブリック</b>					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
保育相談支援の特性について	保育相談支援の特性について、理解を深めた。	保育相談支援の特性について、ほぼ理解を深めた。	保育相談支援の特性について、やや理解を深めた。	保育相談支援の特性について、理解することができた。	保育相談支援の特性について、理解することができなかった。
保育相談支援の展開について	保育相談支援の展開について、理解を深めた。	保育相談支援の展開について、ほぼ理解を深めた。	保育相談支援の展開について、やや理解を深めた。	保育相談支援の展開について、理解することができた。	保育相談支援の展開について、理解することができなかった。
保育士の行う子育て支援の内容について	保育士の行う子育て支援の内容について、理解を深めた。	保育士の行う子育て支援の内容について、ほぼ理解を深めた。	保育士の行う子育て支援の内容について、やや理解を深めた。	保育士の行う子育て支援の内容について、理解することができた。	保育士の行う子育て支援の内容について、理解することができなかった。
保育士の行う子育て支援の方法及び技術について	保育士の行う子育て支援の方法及び技術について、理解を深めた。	保育士の行う子育て支援の方法及び技術について、ほぼ理解を深めた。	保育士の行う子育て支援の方法及び技術について、やや理解を深めた。	保育士の行う子育て支援の方法及び技術について、理解することができた。	保育士の行う子育て支援の方法及び技術について、理解することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	子育て支援 (科目ナンバリング: CHS122095)				
授業担当者(所属・職名)	杉本 大輔(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 杉本 大輔)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス(シラバス確認を含む)、子育て支援の特性、子どもの保育とともに行う保護者の支援 授業改善アンケート結果反映の説明	保護者の支援について(45分)	演習の記録と自己覚知(45分)
2	子育て支援の特性、日常的・継続的な関わりを通じた保護者との相互理解と信頼関係の形成	信頼関係の形成について(45分)	演習の記録と自己覚知(45分)
3	子育て支援の特性、保護者や家庭の抱える支援のニーズへの気づきと多面的な理解	多面的な理解について(45分)	演習の記録と自己覚知(45分)
4	子育て支援の特性、子ども・保護者が多様な他者と関わる機会や場の提供	多様な機会や場の提供について(45分)	演習の記録と自己覚知(45分)
5	子育て支援の展開、子ども及び保護者の状況・状態の把握	クライアントの状況・状態の把握について(45分)	演習の記録と自己覚知(45分)
6	子育て支援の展開、支援計画と環境の構成	支援計画について(45分)	演習の記録と自己覚知(45分)
7	子育て支援の展開、支援の実践・記録・評価・カンファレンス及び職員間の連携・協働	職員間の連携・協働について(45分)	演習の記録と自己覚知(45分)
8	子育て支援の展開、社会資源の活用と自治体・関係機関や専門職との連携・協働	社会資源の活用について(45分)	演習の記録と自己覚知(45分)
9	子育て支援とその実際(内容・方法・技術) 保育所等における支援	保育所等における支援(45分)	演習の記録と自己覚知(45分)
10	子育て支援とその実際(内容・方法・技術) 地域の子育て家庭に対する支援	地域の子育て家庭に対する支援(45分)	演習の記録と自己覚知(45分)
11	子育て支援とその実際(内容・方法・技術) 障害のある子ども及びその家庭に対する支援	障害のある子ども家庭に対する支援(45分)	レポート作成(45分)
12	子育て支援とその実際(内容・方法・技術) 特別な配慮を要する子ども家庭に対する支援	特別な配慮を要する子ども家庭に対する支援(45分)	レポート作成(90分)
13	子育て支援とその実際(内容・方法・技術) 子ども虐待の予防と対応	子ども虐待の予防と対応(90分)	演習の記録と自己覚知(45分)
14	子育て支援とその実際(内容・方法・技術) 要保護児童等の家庭に対する支援	要保護児童等の家庭に対する支援(45分)	演習の記録と自己覚知(45分)
15	子育て支援とその実際(内容・方法・技術) 多様な支援ニーズを抱える子育て家庭(授業改善アンケートの実施)	多様な支援ニーズを抱える子育て家庭(45分)	事例研究(45分)
16	課題(レポート)に対する解説を行いフィードバックする	事例研究(45分)	事例研究(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	保育内容演習（健康）（科目ナンバリング：CHS122078）				
授業担当者（所属・職名）	宮崎 剛司（社会福祉学科・講師）	研究室等所在	1号館2階常勤講師室		
単位数	1（単位認定責任者：宮崎 剛司）	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	看護実践、看護教育の実務経験あり。子どもの観察を行い、健やかな子どもについて理解を深め、健康を考えた生活習慣と活動（遊び）について演習する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

養護と教育にかかわる保育内容が、それぞれに関連性を持つことを理解し、総合的に保育を展開していくための知識、技術、判断力を養う。また、子どもの発達を保育内容の領域を通して捉え、子ども理解を深めながら「健康」について具体的に学ぶ。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP(1)と(2)と(3)と(4)と(5)対応する。

到達目標

健康な子どもを捉える視点を学び子どもの観察を行い、健康を考えた生活・生活習慣について説明できる。領域「健康」のねらいにつながる具体的な活動（健康につながる遊び）を提案できる。

授業全体の内容と概要

保育内容の各領域を関連させて学ぶことにより、子どもの発達促進、健康生活・活動、安全な生活のための支援方法など健康について具体的に学ぶ。また、子どもの健康と健康を守る力を育むことの必要性を総合的に検討し理解を深める。

授業の方法

講義と実習形式。参考図書や配布資料を活用、実施前に基本学習事項、事前課題への取り組み方を提示する。テーマについて説明後、グループワークや課題解決学習の発表・実施、その後レポート提出(2回)を行う。その都度、コメントを返す。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業	○	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

保育士養成課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は6回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	40%	40%	0%	10%	10%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
健康な子どもを捉える視点	子どもの健康把握の視点を学び、生活の中の子どもを観察。その観察結果を非常によくまとめ発表できた。	子どもの健康把握の視点を学び、生活の中の子どもを観察。その観察結果を概ねまとめ発表できた。	子どもの健康把握の視点が子どもの観察を行い部分的にまとめることができた。	子どもの健康把握の視点で子どもの観察を行い助言によりまとめることができた。	助言してもまとめることができなかった。
子どもの健康を考えた生活・生活習慣	子どもの健康的な生活と生活習慣獲得過程を項目別に整理し詳しく説明することができた。	子どもの健康的な生活と生活習慣獲得過程を項目別に整理し概ね説明することができた。	子どもの健康的な生活と生活習慣について部分的に整理し説明することができた。	子どもの健康的な生活と生活習慣について、部分的に説明することができた。	助言しても説明できなかった。
領域「健康」のねらいにつながる具体的な活動	領域「健康」のねらいにつながる具体的な活動を討議し、非情に良い提案・発表ができた。	領域「健康」のねらいにつながる具体的な活動を討議し、提案・発表ができた。	領域「健康」のねらいにつながる具体的な活動を討議し、一部を提案・発表できた。	領域「健康」のねらいにつながる具体的な活動を助言により提案できた。	助言しても提案できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	保育内容演習（健康）（科目ナンバリング：CHS122078）				
授業担当者（所属・職名）	宮崎 剛司（社会福祉学科・講師）	研究室等所在	1号館2階常勤講師室		
単位数	1（単位認定責任者：宮崎 剛司）	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 看護実践、看護教育の実務経験あり。子どもの観察を行い、健やかな子どもについて理解を深め、健康を考えた生活習慣と活動（遊び）について演習する。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	*指定はしないが授業の中で随時案内する。					
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	*保育内容「健康」、「子どもの保健」など。					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス、シラバス説明、授業改善アンケート結果反映の説明。 健康の概念と健やかな子ども、子どもの成長・発達	履修を終えている「保育内容」の概要を理解しておく（90分）	授業で行った課題について調べておく（90分）
2	健康の概念と健やかな子ども 子どもの成長・発達・特徴（子どもの観察）	調べた課題の討議・発表の準備をしておく（90分）	授業で出された課題について要領に沿って調べ、レポート作成する（90分）
3	子どもの健康生活と習慣（生理的欲求と習慣）	討議・発表準備のため十分に予習して授業に臨む（90分）	返されたコメントや他の評価を参考に自己課題を見直し追加修正しておく（90分）
4	子どもの健康生活と習慣（基本的な生活習慣の形成）	指定した参考図書と配布資料を読んでおく（90分）	当日の授業で行った課題について調べ、ノートにまとめておく（90分）
5	健康的な活動と環境構成（健康的な遊びの計画）	指定した参考図書・配布資料を読んでおく（90分）	授業で出された課題について要領に沿って調べ、レポート作成する（90分）
6	健康的な活動と環境構成（健康的な遊びの指導）	発表・実施準備のため十分に予習して授業に臨む（90分）	返されたコメントや他の評価を参考に自己課題を見直し整理しておく（90分）
7	事故防止と安全指導	指定した参考図書・配布資料を読んでおく（90分）	授業で行った課題について調べておく（90分）
8	提出レポート・課題について解説、フィードバックし総括 授業改善アンケートの実施	これまで授業で行ったことを振り返り、準備しておく（90分）	子どもの健康問題や保育課題に今後とも取り組んでいく（90分）
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	保育内容演習（環境）（科目ナンバリング：CHS122080）				
授業担当者（所属・職名）	佐藤 慶知（社会福祉学科・非常勤講師）	研究室等所在	1号館1階非常勤講師控室		
単位数	1（単位認定責任者：佐藤 慶知）	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	保育現場における実践経験を活かし、保育内容の各領域の関連を講義する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。				

概要

履修目標

この科目は、以下の2つを授業の目的とする。  
 1. 養護と教育にかかわる保育の内容が、それぞれに関連性を持ち、総合的に保育を展開していくための知識、技術、判断力を習得する。  
 2. 子どもの発達を「環境」の領域の観点から捉え、子ども理解を深めながら保育内容について具体的に学ぶ。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP(1)(2)(4)に対応する。

到達目標

1. 保育を展開していくための方法や技術、援助、関わりについて具体的に理解する。
2. 保育所保育指針に示す乳児保育の3つの視点や保育における領域「環境」について理解する。

授業全体の内容と概要

保育における子どもの生活や遊びを総合的に捉え、保育を展開していくための方法や技術、援助の関わりについて具体的に学ぶ。保育所保育指針に示す乳児保育の3つの視点や保育における領域「環境」について学修する。

授業の方法

授業は、板書とグループ学習を取り入れ、質疑応答の時間を設定する。  
 課題やレポートには必ずコメントを記入し、フィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

課題の内容及と提出方法及び課題・平常点の評価方法は、授業時間に説明する。  
 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

保育士養成課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は6回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	30%	20%	0%	50%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
領域「環境」に対する知識・技能（何を知っているか、何ができるか）	領域「環境」について基礎的な知識を深く理解できた。	領域「環境」について基礎的な知識をおおむね理解できた。	領域「環境」について基礎的な知識を理解できた。	領域「環境」について基礎的な知識を多少理解できた。	領域「環境」について基礎的な知識を深理解することができなかった。
思考力・判断力・表現力等（知っていること、できることをどう使うか）	保育の基本を踏まえた保育内容「環境」の展開について十分に考察できた。	保育の基本を踏まえた保育内容「環境」の展開についておおむね考察できた。	保育の基本を踏まえた保育内容「環境」の展開について考察できた。	保育の基本を踏まえた保育内容「環境」の展開について多少考察できた。	保育の基本を踏まえた保育内容「環境」の展開について考察することができなかった。
主体的に取り組む態度（どのように関わるか）	環境を通じた保育について理解したことをわかりやすく説明できた。	環境を通じた保育について理解したことをおおむね説明できた。	環境を通じた保育について理解したことを説明できた。	環境を通じた保育について理解したことを多少説明できた。	環境を通じた保育について理解したことを説明することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	保育内容演習（環境）（科目ナンバリング：CHS122080）				
授業担当者（所属・職名）	佐藤 慶知（社会福祉学科・非常勤講師）	研究室等所在	1号館1階非常勤講師控室		
単位数	1（単位認定責任者：佐藤 慶知）	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	保育現場における実践経験を活かし、保育内容の各領域の関連を講義する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『保育所保育指針』	厚生労働省	ブレーベル館	2018/3	9784577814482	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明 保育指針における養護と教育のねらいと内容の理解	保育指針の第一章を事前に読むこと（90分）。	1回目の授業で理解した点を整理する（90分）。
2	保育指針における環境の領域のねらいと内容、保育者の関わりについて	保育指針の「環境」の領域を事前に読むこと（90分）。	2回目の授業で理解した点を整理する（90分）。
3	環境教育の重要性と留意点、環境設定する際のポイント 保育の現場での危機管理、安全管理について	自信が考える環境の重要性についてメモにまとめておくこと（90分）	3回目の授業で理解した点を整理する（90分）。 4回目の課題を作成する（90分）。
4	子どもの自主性、主体性を引き出す魅力的な環境とは。 環境教育における保育者の役割と重要性について	保育指針における第二章 乳児保育を事前読むこと（90分）。	4回目の授業で理解した点を整理する（90分）。
5	乳児保育における環境の重要性、安全衛生管理について	保育指針における乳児保育及び衛生安全管理を事前読むこと（90分）	5回目の授業で理解した点を整理する（90分）。
6	理想の保育環境を考える 物的環境 自然環境	保育における物的環境について事前学習しておく（90分）。	6回目の授業で理解した点を整理する（90分）。
7	理想の保育環境を考える 人的環境（保育者の資質、専門性）	保育における人的環境について事前に学習しておくこと（90分）。	7回目の授業で理解した点を整理する（90分）。
8	まとめ 環境を通じた保育とは レポートの作成 授業改善アンケートの実施	これまでの授業内容を確認しておく（90分）。	授業の目的の達成度を自己評価する（90分）。
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	保育内容演習（言葉）（科目ナンバリング：CHS122081）				
授業担当者（所属・職名）	吉江 幸子（社会福祉学科・教授）	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1（単位認定責任者：吉江 幸子）	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	保育現場における実践経験を活かし、領域「言葉」と保育内容の関連を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

この科目は、以下の2つを授業の目的とする。  
 1. 養護と教育にかかわる保育の内容が、それぞれに関連性を持ち、総合的に保育を展開していくための知識技術、判断力を習得する。  
 2. 子どもの発達を「言葉」の領域から捉え、子ども理解を深めながら保育内容について具体的に学ぶ。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP(1)(3)(4)に対応する。

到達目標

「言葉」の領域を学ぶことにより、子ども理解を深めながら保育内容を理解し、具体的に述べる。

授業全体の内容と概要

保育における領域「言葉」を学修する。「SDG4. 質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業は、板書とパワーポイント、グループ学習を取り入れ、意見を出し合う場を多く設定する。  
 最後に「言葉」「表現」に関するまとめとして発表を行い、お互いに評価しあう。  
 なお、レポートや課題・作品提出の際にはコメントをつけてフィードバックする。  
 Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

課題の内容及提出方法及び課題・平常点の評価は加点方式とし、授業時間に説明する。  
 遅刻の場合、入室はできるが20分以上の遅刻は欠席扱いとする。  
 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

保育士養成課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は6回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	20%	50%	0%	30%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
領域「言葉」に関する知識・技能（何を知っているか、何ができるか）	領域「言葉」の側面から具体的な援助技術を深く理解できた。	領域「言葉」の側面から具体的な援助技術をおおむね理解できた。	領域「言葉」の側面から具体的な援助技術を理解できた。	領域「言葉」の側面から具体的な援助技術をやや理解できた。	領域「言葉」の側面から具体的な援助技術を理解できなかった。
領域を意識した「言葉」に関する思考力・判断力・表現力等（知っていること、できることをどう使うか）	総合的な保育内容の展開について十分に考察できた。	総合的な保育内容の展開についておおむね考察できた。	総合的な保育内容の展開について考察できた。	総合的な保育内容の展開についてやや考察できた。	総合的な保育内容の展開について考察できなかった。
主体的に取り組む態度（どのように関わるか）	総合的な保育内容の展開について学修したことをわかりやすく説明できた。	総合的な保育内容の展開について学修したことをおおむね説明できた。	総合的な保育内容の展開について学修したことを説明できた。	総合的な保育内容の展開について学修したことをやや説明できた。	総合的な保育内容の展開について学修したことを説明することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	保育内容演習（言葉）（科目ナンバリング：CHS122081）				
授業担当者（所属・職名）	吉江 幸子（社会福祉学科・教授）	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1（単位認定責任者：吉江 幸子）	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 保育現場における実践経験を活かし、領域「言葉」と保育内容の関連を指導する。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『保育者のための言語表現技術』	古橋和夫	南文書林	2019	9784893473493	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 授業改善アンケートの結果反映の 子どもの言葉と育ち	指定した教科書を事前に読むこと（90分）。	1回目の授業で理解した点を整理する（90分）。
2	保育所保育指針における「言葉」の理解 乳幼児期の言葉の発達	指針「言葉」を事前学習しておく（90分）。	2回目の授業で理解した点を整理する（90分）。
3	子どものことばと保育者-どう捉え、どう関わるか。	環境保育について事前学習しておく（90分）。	3回目の授業で理解した点を整理する（90分）。
4	うたや触れ合いを楽しむ（わらべうた、うた遊び）	言葉について事前学習しておく（90分）。	4回目の授業で理解した点を整理する（90分）。
5	絵や劇、物語とことばの豊かな世界を楽しむ（児童文化財）	発達過程を理解しておく（90分）。	5回目の授業で理解した点を整理する（90分）。
6	絵や劇、物語とことばの豊かな世界を楽しむ（児童文化財）	発達過程について事前学習しておく（90分）。	授業終了時に示す課題を作成する（90分）。
7	絵や劇、物語とことばの豊かな世界を楽しむ（児童文化財）	ここまでで学んだことを整理しておく（90分）。	7回目の授業で理解した点を整理する（90分）。
8	特別な配慮が必要な子どもの関わり 提出されたレポートの評価と解説をフィードバック 授業改善アンケートの実施	「言葉」の意義を事前学習しておく（90分）。	これまでの授業で理解した点を整理する（90分）。
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	保育内容演習（表現）（科目ナンバリング：CHS122082）				
授業担当者（所属・職名）	吉江 幸子（社会福祉学科・教授）	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1（単位認定責任者：吉江 幸子）	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	保育現場における実践経験を活かし、領域「表現」と保育内容の関連を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

この科目は、以下の2つを授業の目的とする。  
 1. 養護と教育にかかわる保育の内容が、それぞれに関連性を持ち、総合的に保育を展開していくための知識技術、判断力を習得する。  
 2. 子どもの発達を「表現」の領域から捉え、子ども理解を深めながら保育内容について具体的に学ぶ。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP(1)(3)(4)に対応する。

到達目標

「表現」の領域を学ぶことにより、子ども理解を深めながら保育内容を理解し、具体的に述べる。

授業全体の内容と概要

保育における領域「表現」を学修する。「SDG4. 質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業は、板書とパワーポイント、グループ学習を取り入れ、意見を出し合う場を多く設定する。  
 最後に「表現」に関するまとめとして発表を行い、お互いに評価しあう。  
 なお、レポートや課題・作品提出の際にはコメントをつけてフィードバックする。  
 Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	P B L
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

課題の内容及提出方法及び課題・平常点の評価は加減方式とし、授業時間に説明する。  
 遅刻の場合、入室はできるが20分以上の遅刻は欠席扱いとする。  
 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

保育士養成課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は6回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	20%	50%	0%	30%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
領域「表現」に関する知識・技能（何を知っているか、何ができるか）	領域「表現」の側面から具体的な援助技術を深く理解できた。	領域「表現」の側面から具体的な援助技術をおおむね理解できた。	領域「表現」の側面から具体的な援助技術を理解できた。	領域「表現」の側面から具体的な援助技術をやや理解できた。	領域「表現」の側面から具体的な援助技術を理解できなかった。
思考力判断力表現力等（知っていること、できること、どう使うか）	総合的な保育内容の展開について十分に考察できた。	総合的な保育内容の展開についておおむね考察できた。	総合的な保育内容の展開について考察できた。	総合的な保育内容の展開についてやや考察できた。	総合的な保育内容の展開について考察することができなかった。
主体的に取り組む態度（どのように関わるか）	総合的な保育内容の展開について学修したことをわかりやすく説明できた。	総合的な保育内容の展開について学修したことをおおむね説明できた。	総合的な保育内容の展開について学修したことを説明できた。	総合的な保育内容の展開について学修したことをやや説明できた。	総合的な保育内容の展開について学修したことを説明することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	保育内容演習（表現）（科目ナンバリング：CHS122082）				
授業担当者（所属・職名）	吉江 幸子（社会福祉学科・教授）	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1（単位認定責任者：吉江 幸子）	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 保育現場における実践経験を活かし、領域「表現」と保育内容の関連を指導する。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『保育者のための言語表現の技術』	古橋和夫	南文書林	2019	9784893473493	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 乳幼児の表現の発達	指定した教科書を事前に読むこと（90分）。	1回目の授業で理解した点を整理する（90分）。
2	保育における領域「表現」	指針「表現」を事前学習しておく（90分）。	2回目の授業で理解した点を整理する（90分）。
3	子どもの表現が生まれる源泉	環境保育について事前学習しておく（90分）。	3回目の授業で理解した点を整理する（90分）。
4	表現の基礎としてのこころから	表現の基礎について事前学習しておく（90分）。	4回目の授業で理解した点を整理する（90分）。
5	遊びにおける子どもの多様な表現	発達過程を理解しておく（90分）。	5回目の授業で理解した点を整理する（90分）。
6	表現された子どもの世界	保育の障害環境について事前学習しておく（90分）。	授業終了時に示す課題を作成する（90分）。
7	子どもの表現と保育者の援助	ここまで学んだことを整理しておく（90分）。	7回目の授業で理解した点を整理する（90分）。
8	子どもの表現が育つ環境 提出されたレポートの評価と解説をフィードバック 授業改善アンケートの実施	「表現」の意義を事前学習しておく（90分）。	8回目の授業で理解した点を整理する（90分）。
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	福祉行財政と福祉計画 (科目ナンバリング: SWS112018, SWS423087, SWS523098)				
授業担当者(所属・職名)	小早川 俊哉(社会福祉学部・教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 小早川俊哉)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

福祉行政、福祉財政および福祉計画、それぞれの主体と目的はもちろん、方法と課題についても理解できるようになる。世界情勢や日本の社会構造の変化が、社会サービス・システムの構造的変化に大きく関連し、我々の生活に影響を与えることを理解する。

授業の位置づけ

経営学科のDPの(2)と(3)に対応する。

到達目標

福祉行政の主体と目的を理解する。  
福祉財政の主体と現状を理解する。  
福祉計画の根拠法・主体・目的・方法を理解する。  
大学の授業としての論理的考察を意識する。

授業全体の内容と概要

国、都道府県、市町村および行政組織・団体の福祉的役割、その裏付けとなる財政のあり方と計画の目的・意義を学ぶことから、マクロ的視点での社会サービス・システムの変遷意義を理解する。  
「SDs3、すべての人に健康と福祉を」の関連授業

授業の方法

ポイントを記したレジュメ(プリント)を配布する。開始5~10分は、前回の復習を口頭質問形式で行う。その後は、パワーポイントを使用して、配布済みレジュメの空き行間に重要事項をメモする形の講義形式をとる。理解度の確認のため随時問いかけをさせてもらう。質問には随時対応する。復習を兼ねて、授業中のメモやテキストなどを参考にノートにまとめることを推奨する。  
中間試験(論述)を採点后返す際、解答の仕方など個別に指導する。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業	○	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

これまでに修得した他の授業との関わりに注意する。  
授業中の積極性は、授業終了時に名前を呼んでの出席確認を行うことで判定する。  
遅刻3回で欠席1回とみなす。  
不測の事態の際にオンライン授業を実施する可能性がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。  
その他、個別案件は要相談。

資格指定科目

社会福祉主事任用資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は10回以上。  
積極的な授業参加(発言する、質問する、回答する、メモを取る、など)を平常点とする。  
論述の中間試験と定期試験、平常点の総計で単位認定を行う。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
50%	0%	0%	25%	25%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にいるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
福祉行政の理解	市町村の役割と相互の関係を理解するだけでなく、その課題に気付き、対応策を説明できた。	国、都道府県、市町村の役割と相互の関係を説明できた。	国、都道府県、市町村の役割と相互の関係を説明できた。	国、都道府県、市町村の役割を理解した。	国、都道府県、市町村の役割を理解できなかった。
福祉財政の理解	福祉財政と所得再分配を関連付けて説明することができた。	福祉財政全体として、財源と支出の課題を説明できた。	国、都道府県、市町村の財政状況を理解するとともに、その財源と支出を説明できた。	国、都道府県、市町村の財政状況を理解できた。	国、都道府県、市町村の財政状況を理解できなかった。
福祉計画の理解	現実の地域福祉に福祉計画がどのような役割を担っているかを説明できた。	地域福祉計画と他の福祉計画に整合性が必要な理由を説明できた。	国の方針、都道府県計画と市町村計画の相互関連を説明できた。	個々の福祉計画の主体と目的を理解できた。	個々の福祉計画の主体と目的を理解できなかった。



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	福祉行財政と福祉計画 (科目ナンバリング: SWS112018, SWS423087, SWS523098)				
授業担当者(所属・職名)	小早川 俊哉(社会福祉学部・教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 小早川俊哉)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション(シラバスの説明を含む)、授業改善アンケート結果反映の説明 制度改正と行財政のイメージ	シラバスの読み込みと制度改革を調べてくる(90分)	用語の整理とメモ等をノートにまとめる(90分)
2	祉行政の実施体制(1) 統治機構、行政と法規	参考となるテキストを読み本授業のイメージを持つようにする(90分)	用語の整理とメモ等をノートにまとめる(90分)
3	福祉行政の実施体制(2) 国、都道府県、市町村の役割	参考となるテキストを読み本授業のイメージを持つようにする(90分)	用語の整理とメモ等をノートにまとめる(90分)
4	福祉行政の実施体制(3) 組織・団体と専門職の役割	参考となるテキストを読み本授業のイメージを持つようにする(90分)	用語の整理とメモ等をノートにまとめる(90分)
5	福祉財政(1) 税と社会保険料および所得再分配	参考となるテキストを読み本授業のイメージを持つようにする(90分)	用語の整理とメモ等をノートにまとめる(90分)
6	福祉財政(2) 国家財政(社会保障財政)、地方公共団体の財政	参考となるテキストを読み本授業のイメージを持つようにする(90分)	用語の整理とメモ等をノートにまとめる(90分)
7	福祉財政(3) 国民負担率、給付付き税額控除等	参考となるテキストを読み本授業のイメージを持つようにする(90分)	今回のノートをまとめるとともに中間試験のため直しを行う(90分)
8	福祉行財政の振り返りと中間試験	中間試験の準備をする(90分)	自身の解答を振り返る(90分)
9	中間試験結果からの個別課題とアドバイス 福祉計画の意義と目的	参考となるテキストを読み本授業のイメージを持つようにする(90分)	今回のノートをまとめるとともに自身の課題克服の方法を考える(90分)
10	福祉計画の主体と方法	参考となるテキストを読み本授業のイメージを持つようにする(90分)	用語の整理とメモ等をノートにまとめる(90分)
11	福祉計画の実際(1) 高齢者保健福祉、介護保険	参考となるテキストを読み本授業のイメージを持つようにする(90分)	用語の整理とメモ等をノートにまとめる(90分)
12	福祉計画の実際(2) 障害者福祉、保健医療	参考となるテキストを読み本授業のイメージを持つようにする(90分)	用語の整理とメモ等をノートにまとめる(90分)
13	福祉計画の実際(3) 子ども家庭福祉、次世代育成、男女共同参画・DV	参考となるテキストを読み本授業のイメージを持つようにする(90分)	用語の整理とメモ等をノートにまとめる(90分)
14	福祉計画の実際(4) 地域福祉計画、その他	参考となるテキストを読み本授業のイメージを持つようにする(90分)	用語の整理とメモ等をノートにまとめる(90分)
15	まとめとして振り返りと新たな動き	市町村総合計画と福祉計画の関係を確認する(90分)	定期試験に向け自身のノートの最終チェックを行う(90分)
16	定期試験(60分の試験終了後、試験のポイント解説) 授業改善アンケートの実施	定期試験の準備をする(90分)	試験の振り返り(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	福祉行財政と福祉計画 (科目ナンバリング: SWS112018, SWS423087, SWS523098)				
授業担当者(所属・職名)	小早川俊哉(社会福祉学部・教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 小早川俊哉)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示板等を参照				

概要

履修目標

福祉行政、福祉財政および福祉計画、それぞれの主体と目的はもちろんで、方法と課題についても理解できるようになる。世界情勢や日本の社会構造の変化が、社会サービス・システムの構造的変化に大きく関連し、我々の生活に影響を与えることを理解できるようになる。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP(1),(2),(3)と(5)に対応する。

到達目標

福祉行政の主体と目的を理解できる。  
 福祉財政の主体と現状を理解できる。  
 福祉計画の根拠法・主体・目的・方法を理解できる。  
 大学の授業としての論理的考察および、社会福祉士・精神保健福祉士国家試験共通科目での出題傾向をも把握できる。

授業全体の内容と概要

国、都道府県、市町村および行政組織・団体の福祉的役割、その裏付けとなる財政のあり方と計画の目的・意義を学ぶことから、マクロ的視点での社会サービス・システムの変遷要因を理解する。  
 「SDs3、すべての人に健康と福祉を」の関連授業

授業の方法

ポイントを記したレジュメ(プリント)を配布する。開始5-10分は、前回の復習を口頭質問形式で行う。その後は、パワーポイントを使用し、配布済みレジュメに従い空行間に重要・理解した事項をメモする形の講義形式をとる。理解度の確認のため随時問いかけをさせてもらう。質問には随時対応する。復習を兼ねて、授業中のメモをテキストなどを参考にノートにまとめることを推奨する。  
 中間試験(論述)を採点后返す際、解答の仕方など個別に指導する。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業	○	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

これまでに修得した他の授業との関わりに注意する。  
 授業中の積極性は、授業終了時に名前を呼んでの出席確認を行うことで判定する。  
 遅刻3回で欠席1回とみなす。  
 不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。その他、個別事業については要相談。

資格指定科目

社会福祉士国家試験受験資格課程、精神保健福祉士国家試験受験資格課程、保育士養成課程、スクール(学校)ソーシャルワーカー資格課程、子育て支援ソーシャルワーカー資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。  
 積極的な授業参加(発言する、質問する、回答する、メモを取る、など)を平常点とする。  
 論述の中間試験と定期試験、平常点の総計で単位認定を行う。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
50%	0%	0%	25%	25%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
福祉行政の理解	国、都道府県、市町村の役割と相互の関係を理解するだけでなく、その課題に気付き対応策を説明できた。	国、都道府県、市町村の役割と相互の関係を理解するだけでなく、その課題を説明することができた。	国、都道府県、市町村の役割と相互の関係を説明することができた。	国、都道府県、市町村の役割を理解することができた。	国、都道府県、市町村の役割を理解することができなかった。
福祉財政の理解	福祉財政と所得再分配を関連付けて説明することができた。	福祉財政全体として、財源と支出の課題を説明することができた。	国、都道府県、市町村の財政状況を理解するとともにその財源と支出を説明することができた。	国、都道府県、市町村の財政状況を理解することができた。	国、都道府県、市町村の財政状況を理解することができなかった。
福祉計画の理解	現実の地域福祉に福祉計画がどの様な役割を担っているかを説明することができた。	地域福祉計画と他の福祉計画に整合性が必要な理由を説明することができた。	国の方針、都道府県計画と市町村計画の相互関連を説明することができた。	個々の福祉計画の主体と目的を理解することができた。	個々の福祉計画の主体と目的を理解することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	福祉行財政と福祉計画 (科目ナンバリング: SWS112018, SWS423087, SWS523098)				
授業担当者(所属・職名)	小早川俊哉(社会福祉学部・教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 小早川俊哉)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション(授業改善アンケート結果反映の説明、シラバスの説明を含む)、制度改正と行財政のイメージング	シラバスの読み込みと制度改革を調べてくる(90分)	用語の整理とメモ等をノートにまとめる(90分)
2	福祉行政の実施体制(1) 統治機構、行政と法規	参考となるテキストを読み本授業のイメージを持つようにする(90分)	用語の整理とメモ等をノートにまとめる(90分)
3	福祉行政の実施体制(2) 国、都道府県、市町村の役割	参考となるテキストを読み本授業のイメージを持つようにする(90分)	用語の整理とメモ等をノートにまとめる(90分)
4	福祉行政の実施体制(3) 組織・団体と専門職の役割	参考となるテキストを読み本授業のイメージを持つようにする(90分)	用語の整理とメモ等をノートにまとめる(90分)
5	福祉財政(1) 税と社会保険料および所得再分配	参考となるテキストを読み本授業のイメージを持つようにする(90分)	用語の整理とメモ等をノートにまとめる(90分)
6	福祉財政(2) 国家財政(社会保障財政)、地方公共団体の財政	参考となるテキストを読み本授業のイメージを持つようにする(90分)	用語の整理とメモ等をノートにまとめる(90分)
7	福祉財政(3) 国民負担率、給付付き税額控除等	参考となるテキストを読み本授業のイメージを持つようにする(90分)	中間試験のため見直しを行う(90分)
8	祉行財政の振り返りと中間試験	自身の解答を振り返る(90分)	自身の解答を振り返る(90分)
9	中間試験結果からの個別課題とアドバイス 福祉計画の意義と目的	参考となるテキストを読み本授業のイメージを持つようにする(90分)	自身の課題克服の方法を考える(90分)
10	福祉計画の主体と方法	参考となるテキストを読み本授業のイメージを持つようにする(90分)	用語の整理とメモ等をノートにまとめる(90分)
11	福祉計画の実際(1) 高齢者保健福祉、介護保険	参考となるテキストを読み本授業のイメージを持つようにする(90分)	用語の整理とメモ等をノートにまとめる(90分)
12	祉計画の実際(2) 障害者福祉、保健医療	参考となるテキストを読み本授業のイメージを持つようにする(90分)	用語の整理とメモ等をノートにまとめる(90分)
13	福祉計画の実際(3) 子ども家庭福祉、次世代育成、男女共同参画・DV	参考となるテキストを読み本授業のイメージを持つようにする(90分)	用語の整理とメモ等をノートにまとめる(90分)
14	福祉計画の実際(4) 地域福祉計画、その他	参考となるテキストを読み本授業のイメージを持つようにする(90分)	用語の整理とメモ等をノートにまとめる(90分)
15	まとめとして振り返りと新たな動き(授業改善アンケートの実施)	市町村総合計画と福祉計画の関係を確認する(90分)	自身のノートの最終チェックを行う(90分)
16	定期試験(60分の試験終了後、試験のポイントを解説)	定期試験の準備をする(90分)	試験の振り返り(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	音楽表現 (科目ナンバリング: CHS123085)				
授業担当者(所属・職名)	小黑 万里子(社会福祉学科・非常勤講師)	研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	1 (単位認定責任者: 小黑 万里子)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等に対応。				

概要

履修目標

保育士として弾き歌い、伴奏付、ピアノ奏法等「音楽表現」の学習を更に深める。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP(3)(4)(5)に対応する。

到達目標

子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識、技術を実践的に習得することができる。

授業全体の内容と概要

個人のレベルを重視して、現場で役立つ力を身につけられるようピアノ、歌、弾き歌い、手遊び等の実技をレッスンする。「SDGs4. 質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

ピアノ、歌唱等実技課題の確認評価を適宜行い、実技課題の学習確認と合わせてレッスンする。教科書や板書を用いて説明し、実技を通した実践形式で行う。質問や相談等は随時対応する。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

ピアノ、歌唱等実技課題の確認評価を適宜行い、実技課題の学習確認と合わせて採点する。  
災害等本測の事態によりオンラインで授業する場合もある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

保育士養成課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、10以上。実技による試験。毎回の課題に対する取り組みの態度。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	0%	0%	30%	10%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
福祉・保育における関心、意欲及び授業態度	子どもの遊びを豊かにする音楽表現の必要性を深く理解できた。	子どもの遊びを豊かにする音楽表現の必要性をおおむね理解できた。	子どもの遊びを豊かにする音楽表現の必要性を理解できた。	子どもの遊びを豊かにする音楽表現の必要性を多少理解できた。	子どもの遊びを豊かにする音楽表現の必要性を理解することができた。
音楽の基礎知識と理解	音楽の基礎的な知識を十分に理解できた。	音楽の基礎的な知識をおおむね理解できた。	音楽の基礎的な知識を理解できた。	音楽の基礎的な知識を多少理解できた。	音楽の基礎的な知識を理解することができた。
音楽表現における技術と演習	保育の環境構成を展開するための音楽的技術を十分に修得できた。	保育の環境構成を展開するための音楽的技術をおおむね修得できた。	保育の環境構成を展開するための音楽的技術を修得できた。	保育の環境構成を展開するための音楽的技術を多少修得できた。	保育の環境構成を展開するための音楽的技術を修得することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	音楽表現 (科目ナンバリング: CHS123085)				
授業担当者(所属・職名)	小黑 万里子(社会福祉学科・非常勤講師)	研究室等所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	1 (単位認定責任者: 小黑 万里子)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスの説明 長音階の構成と運指	シラバスを確認すること(45分)	教科書を読んでおくこと(45分)
2	メジャーコード	メジャーコードを調べる(45分)	視唱力を充実させる(45分)
3	初見視唱力をより充実させる	メジャーコードを調べる(45分)	視唱力を充実させる(45分)
4	短音階の構成と運指	表現方法をイメージする(45分)	曲と表現を研究する(45分)
5	個々に応じた曲を与え、よい表現をめざす	表現方法をイメージする(45分)	曲と表現を研究する(45分)
6	マイナーコード	マイナーコードを調べる(45分)	視唱力を高めること(45分)
7	マイナーコードとマイナーセブンスコード	マイナーセブンスコードを理解すること(45分)	アンサンブルの練習(45分)
8	前時の学習を深める	和音を調べること(45分)	和音アレンジについて調べること(45分)
9	片手練習からアレンジ	民謡や子守歌を調べておく(45分)	民謡や子守歌を調べておく(45分)
10	各国の民謡、子守歌を歌う	民謡や子守歌を調べておく(45分)	民謡や子守歌を調べておく(45分)
11	両手練習(メロディーと伴奏)	伊達の歌曲を聞いておく(45分)	伊達の歌曲を聞いておく(45分)
12	伴奏付けと簡単なアレンジの基本	アレンジの基本を理解しておくこと(45分)	日本の歌曲の詩を理解する(45分)
13	各拍子の理解と実践	各拍子を調べておくこと(45分)	初見視唱ができるように工夫すること(45分)
14	初見視唱で、いろいろな子供の歌	各拍子を調べておくこと(45分)	初見視唱ができるように工夫すること(45分)
15	弾き歌いのレパートリーを増やす	弾き歌いできる曲を練習しておくこと(45分)	弾き歌いによる表現力を高めること(45分)
16	定期試験(実技)を実施後、解説を行う。 授業改善アンケートの実施	実技試験の準備をしておくこと(45分)	解説・フィードバックを受けて講義全体をふりかえること(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	乳児保育 (科目ナンバリング: CHS122089)				
授業担当者(所属・職名)	吉江 幸子(社会福祉学科・教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 吉江 幸子)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	保育現場での実務経験のある教員が、実際の保育現場の事例等を通じて、3歳未満児の心身諸機能の発達など乳児保育について講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標
------

乳児(3歳未満児)期は人間形成の基礎づくりの時期であることを知り、乳児保育の大切さを理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP(1)(3)に対応する。

到達目標

3歳未満児の心身諸機能の発達など、乳児保育の知識が身につく。

授業全体の内容と概要

3歳未満児の保育について、心身の発達にそって諸機能の発達と健康と安全の基本を理解する。  
SDG4「質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

講義を中心とした授業を行っていく中で、実際の保育現場の事例をあげ、子どもや保護者、保育者の様子をイメージしながら、一人ひとり学生の考える場となるように授業を進めていく。質問については随時対応する。レポートは解説し、フィードバックする。Microsoft Teams/Formsの諸機能を活用し、意見交換、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL
<input type="checkbox"/>	模範授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業
<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

遅刻した場合、入室はできるが20分以上の遅刻は欠席となる。  
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

保育士養成課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
80%	0%	0%	0%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
乳児保育の基礎的知識・技能(何を知っているか、何ができるか)	乳児保育について基礎的な知識を深く理解できた。	乳児保育について基礎的な知識をおおむね理解できた。	乳児保育について基礎的な知識を理解できた。	乳児保育について基礎的な知識を多少理解できた。	乳児保育について基礎的な知識を理解できなかった。
思考力・判断力・表現力等(知っていること、できることをどう使うか)	乳児保育の基本を踏まえた保育内容の展開について十分に考察できた。	乳児保育の基本を踏まえた保育内容の展開についておおむね考察できた。	乳児保育の基本を踏まえた保育内容の展開について考察できた。	乳児保育の基本を踏まえた保育内容の展開について多少考察できた。	乳児保育の基本を踏まえた保育内容の展開について考察できなかった。
主体的に取り組む態度(どのように関わるか)	3歳未満児保育の多様な展開について理解したことをわかりやすく説明できた。	3歳未満児保育の多様な展開について理解したことをおおむね説明できた。	3歳未満児保育の多様な展開について理解したことを説明できた。	3歳未満児保育の多様な展開について理解したことを多少説明できた。	3歳未満児保育の多様な展開について理解したことを説明できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	乳児保育 (科目ナンバリング: CHS122089)				
授業担当者(所属・職名)	吉江 幸子(社会福祉学科・教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 吉江 幸子)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	保育現場での実務経験のある教員が、実際の保育現場の事例等を通じて、3歳未満児の心身諸機能の発達など乳児保育について講義を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『はじめて学ぶ乳児保育』	志村聡子	同文書院	2019	9784810314731	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						授業内で適宜紹介
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 乳児保育の意義・目的と歴史の変遷 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読んでおくこと(90分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと(90分)
2	乳児保育の役割と機能	教科書を読み、学習しておくこと(90分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと(90分)
3	乳児保育における養護及び教育	教科書を読み、学習しておくこと(90分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと(90分)
4	乳児保育及び子育て家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題	教科書を読み、学習しておくこと(90分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと(90分)
5	保育所における乳児保育	教科書を読み、学習しておくこと(90分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと(90分)
6	保育所以外の児童福祉施設(乳児院等)における乳児保育	教科書を読み、学習しておくこと(90分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと(90分)
7	家庭的保育等における乳児保育	教科書を読み、学習しておくこと(90分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと(90分)
8	3歳未満児とその過程を取り巻く環境と子育て支援の場	教科書を読み、学習しておくこと(90分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと(90分)
9	3歳未満児の生活と環境	教科書を読み、学習しておくこと(90分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと(90分)
10	3歳未満児の遊びと環境	教科書を読み、学習しておくこと(90分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと(90分)
11	3歳以上児の保育に移行する時期の保育	教科書を読み、学習しておくこと(90分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと(90分)
12	3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育士等による援助や関わり	教科書を読み、学習しておくこと(90分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと(90分)
13	3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育における配慮	教科書を読み、学習しておくこと(90分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと(90分)
14	乳児保育における計画・記録・評価とその意義	教科書を読み、学習しておくこと(90分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと(90分)
15	乳児保育における職員間及び保護者や自治体等関係機関との連携・協働、まとめ	教科書を読み、学習しておくこと(90分)	講義内容の理解を深め、復習しておくこと(90分)
16	定期試験(解説およびフィードバック) 授業改善アンケートの実施	講義全体をとおして質問など整理しておくこと(90分)	解説を受け、講義全体をふりかえること(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			



基本情報

科目分類区分	専門	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ソーシャルワークの理論と方法 (科目ナンバリング: SWS123021)				
授業担当者(所属・職名)	大島康雄(社会福祉学科・准教授)		研究室等所在	1号館2階	
単位数	2	(単位認定責任者: 大島 康雄)	CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	現場の実務経験から得た事例等を用いて、福祉に対する理解を深めていく。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

実践的な、包括的、総合的なソーシャルワークの知識と技術を理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP(1)(2)(3)に対応する科目。

到達目標

実践的な、包括的、総合的なソーシャルワークの知識と技術の基本について理解する。

授業全体の内容と概要

ソーシャルワーカーとして、複雑化、多様化する問題に対応するための理論と方法、および、連携や協働をする人や機関との間で構築する関係について学ぶ。  
「SDGs3. すべての人に健康と福祉を」の関連授業

授業の方法

教科書に沿って、講義形式で展開していく。授業内で小試験(中間試験)を行い、その中から60点分定期試験に出題する。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	○ 双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

30分以上の遅刻は欠席とする。  
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

社会福祉士国家試験受験資格課程科目である。

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
50%	0%	0%	30%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
総合的、包括的なソーシャルワークの意義について理解できる	事例を用いながら説明できた。	基本的な考えかたを説明できた。	基本的な考えかたを理解できた。	助言があれば理解できた。	助言があっても理解できなかった。
ソーシャルワーカーとクライアントの援助関係について理解できる。	援助対象の特性に留意した知識と技術を説明できた。	原則的な考えかたと技術について説明できた。	原則的な考えかたと技術について理解できた。	助言があれば理解できた。	助言があっても理解できなかった。
ソーシャルワークにおけるネットワークについて理解できる。	ミクロ、メソ、マクロ各々の特性に留意しながら事例を用いて説明できた。	基本的な意義、方法を説明できた。	基本的な意義、方法を理解できた。	助言があれば理解できた。	助言があっても理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ソーシャルワークの理論と方法 (科目ナンバリング: SWS123021)				
授業担当者(所属・職名)	大島康雄(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 大島 康雄)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	現場の実務経験から得た事例等を用いて、福祉に対する理解を深めていく。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『ソーシャルワークの理論と方法 社会専門』	日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規	2021	978-4-80588249-8	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明 今日のソーシャルワークの対象	新聞やインターネットでソーシャルワークの対象と 考えられる記事をスクラップする。(90分)	授業内容をノートに整理する。(90分)
2	複雑化、多様化した生活問題への対応	授業該当部分の教科書を読む。(90分)	授業内容をノートに整理する。(90分)
3	家族支援におけるソーシャルワーク	授業該当部分の教科書を読む。(90分)	授業内容をノートに整理する。(90分)
4	地域支援におけるソーシャルワーク	授業該当部分の教科書を読む。(90分)	授業内容をノートに整理する。(90分)
5	非常時、災害時のソーシャルワーク	授業該当部分の教科書を読む。(90分)	授業内容をノートに整理する。(90分)
6	地域包括ケアシステムとソーシャルワーク	授業該当部分の教科書を読む。(90分)	授業内容をノートに整理する。(90分)
7	中間試験	1回から6回の内容を復習する。(90分)	授業(90分)
8	中間試験解説 ソーシャルワークにおける援助関係形成の意義	授業該当部分の教科書を読む。(90分)	授業内容をノートに整理する。(90分)
9	援助関係形成方法と留意点	授業該当部分の教科書を読む。(90分)	授業内容をノートに整理する。(90分)
10	ネットワーキングの意義	授業該当部分の教科書を読む。(90分)	授業内容をノートに整理する。(90分)
11	ネットワーキングの方法と留意点	授業該当部分の教科書を読む。(90分)	授業内容をノートに整理する。(90分)
12	コーディネーションの意義	授業該当部分の教科書を読む。(90分)	授業内容をノートに整理する。(90分)
13	コーディネーションの方法と留意点	授業該当部分の教科書を読む。(90分)	授業内容をノートに整理する。(90分)
14	まとめ	1回から14回の復習し、理解が不十分な点をあ げる。(90分)	授業内容をノートに整理する。(90分)
15	定期試験	1回から14回の復習をする。(90分)	試験の自己採点をする。(90分)
16	定期試験解説 授業改善アンケートの実施	全体を振り返り、質問事項を整理する。(90分)	試験の不正解部分を復習する。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ソーシャルワークの理論と方法 (科目ナンバリング: SWS123022)				
授業担当者(所属・職名)	大島康雄(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 大島 康雄)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	現場の実務経験から得た事例等を用いて、福祉に関する理解を深めていく。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

包括的、総合的なソーシャルワーク実践を効果的かつ効率的に行うために必要な知識と技術を理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP(1)(2)(3)に対応する科目。

到達目標

実践的なソーシャルワーク実践に必要な知識と技術を具体的に理解できる。

授業全体の内容と概要

ソーシャルワーカーとして、複雑化、多様化する問題に対応するための理論と方法、および関連する技法について学ぶ。  
「SDGs3. すべての人に健康と福祉を」の関連授業。

授業の方法

教科書に沿って、講義形式で展開していく。授業内で小試験(中間試験)を行い、その中から60点分定期試験に出題する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

30分以上の欠席は遅刻とする。  
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

社会福祉士国家試験受験資格課程科目である。

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
50%	0%	0%	30%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
社会資源の活用、調整、開発について実践方法を理解できる。	実践モデルを提示しながら説明できた。	基本的な考え方と実践に必要な技術を説明できた。	基本的な考え方と実践に必要な技術を理解できた。	助言があれば理解できた。	助言があっても理解できなかった。
事例研究を行い、会議形式でプレゼンテーションができる。	ソーシャルワークの視点に則った発言と議論ができた。	第三者にも理解できる内容の発言と議論ができた。	第三者にも理解できる内容の発言ができた。	助言があればできた。	助言があってもできなかった。
ソーシャルワークの関連技法について理解できる。	各技法について、ソーシャルワーク実践に活用する場合の特徴を加えて説明できた。	各技法の説明ができた。	各技法の理解ができた。	助言があれば理解できた。	助言があっても理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ソーシャルワークの理論と方法 (科目ナンバリング: SWS123022)				
授業担当者(所属・職名)	大島康雄(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 大島 康雄)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	現場の実務経験から得た事例等を用いて、福祉に関する理解を深めていく。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『ソーシャルワークの理論と方法 社会専門』	日本ソーシャルワーカー教育学校連盟	中央法規	2021	978-4-8058-8249-8	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明 ソーシャルワーク実践と社会資源	ソーシャルワークの理論と方法(専門)1のノートを読み返す。	授業内容をノートに整理する。(90分)
2	社会資源の種類と活用方法 社会資源の調整方法	授業該当部分の教科書を読む。(90分)	授業内容をノートに整理する。(90分)
3	社会資源の開発 ソーシャルアクションの意義、目的	授業該当部分の教科書を読む。(90分)	授業内容をノートに整理する。(90分)
4	ソーシャルアクションの方法	授業該当部分の教科書を読む。(90分)	授業内容をノートに整理する。(90分)
5	カンファレンスの種類と意義、目的 カンファレンスの方法	授業該当部分の教科書を読む。(90分)	授業内容をノートに整理する。(90分)
6	マイクロ、メソ、マクロの会議	授業該当部分の教科書を読む。(90分)	授業内容をノートに整理する。(90分)
7	中間試験	1回から6回の内容を復習する。(90分)	試験を自己採点する。(90分)
8	中間試験解説 事例分析の意義、目的	授業該当部分の教科書を読む。(90分)	試験の不正解部分を復習する。授業内容をノートに整理する。(90分)
9	事例分析	授業該当部分の教科書を読む。(90分)	授業内容をノートに整理する。(90分)
10	事例分析 プレゼンテーション	授業該当部分の教科書を読む。(90分)	授業内容をノートに整理する。(90分)
11	交渉の種類と原則 ネゴシエーションの方法	授業該当部分の教科書を読む。(90分)	授業内容をノートに整理する。(90分)
12	コンフリクトのとらえ方と対処方法	授業該当部分の教科書を読む。(90分)	授業内容をノートに整理する。(90分)
13	ファシリテーションの意義、目的 ファシリテーションの方法	授業該当部分の教科書を読む。(90分)	授業内容をノートに整理する。(90分)
14	ソーシャルマーケティング 今後の課題	授業該当部分の教科書を読む。(90分)	授業内容をノートに整理する。(90分)
15	試験	1回から14回の復習をする。(90分)	試験の自己採点をする。(90分)
16	試験解説 授業改善アンケートの実施	全体を振り返り、質問事項を整理する。(90分)	試験の不正解部分を復習する。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	ソーシャルワーク演習(専門) (科目ナンバリング: SWS122026)				
授業担当者(所属・職名)	杉本 大輔(社会福祉学科・准教授)・ 櫻井 美帆子(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 杉本 大輔)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	ソーシャルワーク、ケアワークの実務経験者が、実践現場における相談業務、介護業務の事例を参考に講義を展開する。		
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照すること				

概要

履修目標

ソーシャルワーカーとしての姿勢(自己理解、他者理解、倫理観等)と相談業務の基本的技法(コミュニケーション、面接技法、記録技法、ケースカンファレンス、実践評価)をディスカッション、ロールプレイ、DVD鑑賞等を通して体得する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP(1)(2)(3)(4)(5)に対応する。

到達目標

様々な援助技術(スキル)を習得することや技法の統合のための理解を深めることができるようになる。また、次年度の相談援助実習に向けて、積極的な討議参加や自己表現ができる。

授業全体の内容と概要

個人・家族、グループ、地域社会への支援をイメージし、ロールプレイ等の学習を通じて、面接や記録などの技法の実際を学ぶ。

授業の方法

3～4つのグループ(1グループ20名以内)に分かれて、テキストの事例を実際にロールプレイしたり、小グループに分かれてディスカッションを行う。その中で教員のスーパービジョンを受け、自己の振り返りを行い、自己覚知を促す。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

この科目の単位を取得できなかった場合、次年度の相談援助実習及び保育実習を履修できないので注意すること。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

社会福祉士国家試験受験資格課程、精神保健福祉士国家試験受験資格課程、保育士養成課程、スクール(学校)ソーシャルワーカー資格課程、子育て支援ソーシャルワーカー資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数20回以上をクリアすること。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	30%	0%	0%	0%	70%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ソーシャルワークにおける自己理解、他者理解の重要性を理解する。	自己覚知の概念、自己開示の実践、他者理解における実践理論を言語で説明できた。	自己覚知の概念、他者理解における実践理論を言語で明確に説明できた。	自己覚知の概念、自己開示の実践を言語で明確に説明できた。	自己覚知の概念を言語で明確に理解できた。	左記の専門用語を一つも説明できなかった。
ソーシャルワークにおける面接技法を理解する。	ソーシャルワーク面接の一連のプロセスと重要タームをマイクロカウンセリング技法の用語を用いて説明できた。	ソーシャルワーク面接の一連のプロセスの重要タームを説明できた。	ソーシャルワーク面接の一連のプロセスを説明できた。	面接における身体技法を実践できた。	左記の専門ターム及び実践技法を一つも説明及び実践できなかった。
ソーシャルワークにおけるアセスメント、プランニング、ケースカンファレンス、モニタリング、評価について理解する。	アセスメント、プランニング、ケースカンファレンス、モニタリング、評価について明確に言語で説明できる、且つ各々の矢張り区割りをロールプレイングで実践できた。	アセスメント、プランニング、ケースカンファレンス、モニタリング、評価における各々の役割をロールプレイングで実践できた。	アセスメント、プランニング、ケースカンファレンス、評価、モニタリングの理論と重要性を言語で明確に説明できた。	アセスメント、プランニング、ケースカンファレンス、モニタリング、評価の重要性を説明できた。	左記の用語の説明およびロールプレイング実践を一つもできなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	ソーシャルワーク演習(専門) (科目ナンバリング: SWS122026)				
授業担当者(所属・職名)	杉本 大輔(社会福祉学科・准教授)・ 櫻井 美帆子(社会福祉学科・准教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 杉本 大輔)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	ソーシャルワーク、ケアワークの実務経験者が、実践現場における相談業務、介護業務の事例を参考に講義を展開する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『ソーシャルワーク演習ワークブック』	相澤謙治 植戸貴子	(株)みらい	2013年	978-4-86015-123-2	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション(グループ分け 自己紹介) シラバスの説明	1年時の関連科目の復習(90分)	自己の言動の振り返り(90分)
2	演習に向けての準備(自己紹介 アイスブレイキング)	1年時の関連科目の復習(90分)	自己の言動の振り返り(90分)
3	自己理解1「自己概念を学ぶ」	テキストの読み込み(90分)	自己の言動の振り返り(90分)
4	自己理解2「自身のルーツ 家族関係を知る」	テキストの読み込み(90分)	自己の言動の振り返り(90分)
5	自己開示と他者理解1「自己開示」	テキストの読み込み(90分)	自己の言動の振り返り(90分)
6	自己開示と他者理解2「共感について」	テキストの読み込み(90分)	自己の言動の振り返り(90分)
7	自己開示と他者理解3「価値観の違い」	テキストの読み込み(90分)	自己の言動の振り返り(90分)
8	コミュニケーション1「コミュニケーションの基本」	テキストの読み込み(90分)	自己の言動の振り返り(90分)
9	コミュニケーション2「言語的コミュニケーション」	テキストの読み込み(90分)	自己の言動の振り返り(90分)
10	コミュニケーション3「非言語的コミュニケーション」	テキストの読み込み(90分)	自己の言動の振り返り(90分)
11	ソーシャルワークの価値と倫理1「価値とは何か」	テキストの読み込み(90分)	自己の言動の振り返り(90分)
12	ソーシャルワークの価値と倫理2「倫理とは何か」	テキストの読み込み(90分)	自己の言動の振り返り(90分)
13	面接技法1「面接の意義」	テキストの読み込み(90分)	DVD鑑賞による面接技法ポイントのまとめ(90分)
14	面接技法2「面接の基本」	テキストの読み込み(90分)	DVD鑑賞による面接技法ポイントのまとめ(90分)
15	記録技法1「面接場面での記録」	テキストの読み込み(90分)	記録技法のまとめ(90分)
16	記録技法2「ケース記録」	テキストの読み込み(90分)	記録技法のまとめ(90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17	アセスメント1「アセスメントの意義」	テキストの読み込み(90分)	アセスメントのまとめ(90分)
18	アセスメント2「利用者の背景を知る」	テキストの読み込み(90分)	アセスメントのまとめ(90分)
19	アセスメント3「事例によるロールプレイ」	テキストの読み込み(90分)	ロールプレイ中の自己の言動の振り返り(90分)
20	プランニング「アセスメントからの支援計画作成」	テキストの読み込み(90分)	ロールプレイ中の自己の言動の振り返り(90分)
21	ケースカンファレンスの方法	テキストの読み込み(90分)	ケースカンファレンスのポイントのまとめ(90分)
22	模擬ケースカンファレンス	テキストの読み込み(90分)	ケースカンファレンスのポイントのまとめ(90分)
23	評価と効果測定1「利用者の満足度」	テキストの読み込み(90分)	効果測定技法のまとめ(90分)
24	評価と効果測定2「支援内容の評価」	テキストの読み込み(90分)	効果測定技法のまとめ(90分)
25	コミュニティワーク1「地域ニーズの把握」	テキストの読み込み(90分)	地域診断のまとめ(90分)
26	コミュニティワーク2「北広島市の福祉課題明確化」	テキストの読み込み(90分)	地域診断のまとめ(90分)
27	コミュニティワーク3「課題解決への方法」	テキストの読み込み(90分)	地域支援方法のまとめ(90分)
28	コミュニティワーク4「広報誌の作成」	テキストの読み込み(90分)	地域支援方法のまとめ(90分)
29	支援事例を用いたロールプレイング1	テキストの読み込み(90分)	演習を通しての自己覚知について文章化(90分)
30	支援事例を用いたロールプレイング2	テキストの読み込み(90分)	演習を通しての自己覚知について文章化(90分)
31	事例研究へのイントロダクション	テキストの読み込み(90分)	自己総括(90分)
32	相談援助演習 総括	テキストの読み込み(90分)	自己総括(90分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	ソーシャルワーク実習指導 (科目ナンバリング：SWS122030)				
授業担当者(所属・職名)	小早川 俊哉(社会福祉学科・教授)・ 上原 正希(社会福祉学科・教授)・杉	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者：小早川 俊哉)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	ソーシャルワーク、ケアワークの実務経験がある教員が実践現場の具体的事例を踏まえながら事前・事中・事後の実習指導を行う。		
オフィスアワー	各教員の研究室前のボードなどを参照すること				

概要

履修目標

ソーシャルワーク各領域(高齢、障がい、児童、地域、行政)の現場実習を通じて、ソーシャルワーク各領域における利用者理解、現場理解、職種理解、他職種・他機関との連携、地域における共生、今後の社会福祉行政の課題について学ぶ。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP(1)(2)(3)(4)(5)に対応する。

到達目標

専門知識、相談援助技術及び関連知識を実際に活用し、福祉ニーズを抱える人々に対する相談援助業務に必要な資質、技術、倫理、課題把握能力など、総合的なジェネリックソーシャルワークに対応できる能力を習得する。相談援助実習の事前訪問を含め、個別の実習計画を作成する。

授業全体の内容と概要

2年次において「相談援助実習指導」及び「相談援助演習」の単位を修得し、実習生としてふさわしい態度と意欲のある学生(面接を行う)に対し、「相談援助実習指導」及び「相談援助実習」は開講される。「相談援助実習指導」と「相談援助実習」は3つの授業に分かれているが、一体のものと理解すべきである。「相談援助実習指導」は事前指導、「相談援助実習」は現場実習、「相談援助実習指導」は事後学習と考える。

授業の方法

高齢、障がい、児童、地域、行政の各々の実習領域に分かれて授業を展開する。授業内容は担当教員に一任されているが、各領域の職場・職種・ソーシャルワークについての事例・法規・制度が中心となり、使用する教材は各教員が用意する。年間を通しての課題として実習終了後のレポート提出、報告書の提出課題を義務付ける。学生の要望・課題には、可能な範囲で随時対応する。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業	○	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

各領域実習担当教員の指示を厳守すること。  
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

社会福祉士国家試験受験資格課程、精神保健福祉士国家試験受験資格課程、スクール(学校)ソーシャルワーク資格課程、子育て支援ソーシャルワーカー資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	30%	0%	0%	30%	40%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
事前学習における各領域の利用者理解ができている。	実習領域の利用者の特性を説明でき、個々の利用者の自己実現に必要なSWの視点と連携について説明できる。	実習領域の利用者の特性を説明でき、個々の利用者の自己実現の視点を説明できる。	実習領域の利用者の特性について説明でき、且つ、それに必要なSWの視点を説明できる。	実習領域の利用者の特性について説明できる。	左記の内容が何一つできていない。
事前学習における実習領域の関係法規と制度の特徴が理解できている。	実習領域の関連法規と制度の特徴を説明でき、且つ、地域行政との関連をも説明できる。	実習領域の関連法規の特徴及び関連制度について説明できる。	実習領域の関連法規と制度の関係を説明できる。	実習領域の関連法規を説明できる。	左記の内容が何一つできていない。
実習領域における具体的ソーシャルワーク技法を理解している。	実習領域におけるソーシャルワークの具体的技法を説明でき、それを実習中にどのように活用するかを説明でき、且つ、自分の実習計画に昇華できる。	実習領域におけるソーシャルワークの具体的技法(面接、記録、コミュニケーション、他職種連携、地域連携)が説明できる。	実習領域におけるソーシャルワークの具体的技法を説明でき、それを実習中にどのように活用するかを説明できる。	実習領域におけるソーシャルワーク技法のうち、利用者と具体的にしかかわる技法を説明できる。	左記の内容が何一つできていない。



基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	ソーシャルワーク実習指導 (科目ナンバリング: SWS122030)				
授業担当者(所属・職名)	小早川 俊哉(社会福祉学科・教授)・ 上原 正希(社会福祉学科・教授)・杉	研究室等所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 小早川 俊哉)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	ソーシャルワーク、ケアワークの実務経験がある教員が実践現場の具体的事例を踏まえながら事前・事中・事後の実習指導を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明と事前学習(利用者理解)	2年時の講義の復習(90分)	配布プリントの読み込み(90分)
2	事前学習(利用者理解)	前回プリントの読み込み(90分)	前回プリントの読み込み(90分)
3	事前学習(利用者理解)	前回プリントの読み込み(90分)	前回プリントの読み込み(90分)
4	事前学習(関連法規・制度理解)	前回プリントの読み込み(90分)	前回プリントの読み込み(90分)
5	事前学習(関連法規・制度理解)	前回プリントの読み込み(90分)	前回プリントの読み込み(90分)
6	事前学習(関連法規・制度理解)	前回プリントの読み込み(90分)	前回プリントの読み込み(90分)
7	事前学習(ソーシャルワーク技法)	前回プリントの読み込み(90分)	前回プリントの読み込み(90分)
8	事前学習(ソーシャルワーク技法)	前回プリントの読み込み(90分)	前回プリントの読み込み(90分)
9	事前学習(ソーシャルワーク技法)	前回プリントの読み込み(90分)	前回プリントの読み込み(90分)
10	事前学習(他職種・他機関連携)	前回プリントの読み込み(90分)	前回プリントの読み込み(90分)
11	事前学習(他職種・他機関連携)	前回プリントの読み込み(90分)	前回プリントの読み込み(90分)
12	事前学習(他職種・他機関連携)	前回プリントの読み込み(90分)	前回プリントの読み込み(90分)
13	事前学習(地域連携)	前回プリントの読み込み(90分)	前回プリントの読み込み(90分)
14	事前学習(地域連携)	前回プリントの読み込み(90分)	前回プリントの読み込み(90分)
15	事前学習(地域連携)	前回プリントの読み込み(90分)	前回プリントの読み込み(90分)
16	実習計画作成と修正	前回プリントの読み込み(90分)	前回プリントの読み込み(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	社会福祉特講 (科目ナンバリング: SWS122141)				
授業担当者(所属・職名)	小早川 俊哉(社会福祉学科・教授)、 上原 正希(社会福祉学科・教授) 杉本		研究室等所在	1号館2階	
単位数	1	(単位認定責任者: 小早川 俊哉)	CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	実際に受験を行った教員が過去問をベースに指導を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標
------

社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験に合格できる力を身に着けるため受験対策をする。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP(1)(2)(5)に対応する。

到達目標

過去3年間の過去問の8割程が正解できる。

授業全体の内容と概要

科目ごとに過去問を行い、解答の解説を行います。また、問題毎に説明ができるまで、取り組んでもらう。「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

過去問を回答してもらい、頻出分野を解説します。板書や資料などを用いて学習を進めていきます。質問や疑問点などは解説を行い、そのつど対応します。ICT活用(双方向型授業・自主学習支援など)、Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

受験科目になるため、基本的には毎回出席をしてもらう必要があります。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合があります。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

社会福祉士国家試験受験資格課程  
精神保健福祉士国家試験受験資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は12回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	25%	25%	50%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
授業に出席し、科目ごとに問題を解説することができ	15回以上出席し、共通科目の問題を5科目以上解説することができた。	15回以上出席し、共通科目の問題を4科目解説することができた。	14回出席し、共通科目の問題を3科目解説することができた。	13回出席し、共通科目の問題を2科目解説することができた。	12回以下の出席しかできなかった。
社会福祉士・精神保健福祉士国家試験の第34回、35回の共通科目を8割以上の点数で回答できる。	第34、35回の共通科目の点数が8割以上できた。	第34、35回の共通科目の点数が7割できた。	35、35回の共通科目の点数が6割できた。	第34、35回の共通科目の点数が5割できた。	第34、35回の共通科目の点数が4割以下しかできなかった。
第35回の共通科目の解説が行える。	11科目の解説を行うことができた。	9-10科目の解説を行うことができた。	7-8目の解説を行うことができた。	5-6科目の解説が行うことができた。	解説を行うことができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	社会福祉特講 (科目ナンバリング: SWS122141)				
授業担当者(所属・職名)	小早川 俊哉(社会福祉学科・教授)、 上原 正希(社会福祉学科・教授)杉本		研究室等所在	1号館2階	
単位数	1	(単位認定責任者: 小早川 俊哉)	CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 実際に受験を行った教員が過去問をベースに指導を行う。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション、シラバスの説明。	過去問の学習(90分)	過去問の振り返り、解説(90分)
2	過去問の学習方法	過去問の学習(90分)	過去問の振り返り、解説(90分)
3	人体の構想と機能及び疾病	過去問の学習(90分)	過去問の振り返り、解説(90分)
4	心理学理論と心理的支援	過去問の学習(90分)	過去問の振り返り、解説(90分)
5	社会理論と社会システム	過去問の学習(90分)	過去問の振り返り、解説(90分)
6	現代社会と福祉	過去問の学習(90分)	過去問の振り返り、解説(90分)
7	地域福祉の理論と方法	過去問の学習(90分)	過去問の振り返り、解説(90分)
8	福祉行政と福祉計画	過去問の学習(90分)	過去問の振り返り、解説(90分)
9	社会保障	過去問の学習(90分)	過去問の振り返り、解説(90分)
10	中間テスト	中間テストに向けた学習(90分)	過去問の振り返り、解説(90分)
11	障害者に対する支援と障害者自立支援制度	過去問の学習(90分)	過去問の振り返り、解説(90分)
12	低所得者に対する支援と生活保護制度	過去問の学習(90分)	過去問の振り返り、解説(90分)
13	保健医療サービス	過去問の学習(90分)	過去問の振り返り、解説(90分)
14	権利擁護と成年後見制度	過去問の学習(90分)	過去問の振り返り、解説(90分)
15	第34回共通科目のテスト	第34回の予習(90分)	過去問の振り返り、解説(90分)
16	各科目の解説	解説のロールプレイ(90分)	過去問の振り返り、解説(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			